

甲府城下町遺跡 XX

—都市計画道路和戸町竜王線整備事業に伴う発掘調査（Ⅰ・Ⅱ・相生工区）—

2020

甲 府 市
甲府市教育委員会
昭和測量株式会社

序

甲府市は、500年前の中世から現代まで山梨県の政治、経済、文化の中心として栄えていますが、その礎を築いたのは、まさに武田信虎が永正十六年（1519）甲府市街地北側の相川扇状地に武田氏館を築いたことにはじまります。

武田氏滅亡後の16世紀末には、豊臣家の五奉行の一人である浅野長政と幸長親子により、東国では数少ない総石垣の甲府城と、三重の堀と土塁に囲まれた甲府城下町が築かれ、現代に続く街のアウトラインが整備されます。

17世紀以降甲府は、徳川一門、柳沢氏、甲府勤番が治める幕府の要害の地でした。江戸から歌川広重などの文人墨客や、歌舞伎役者の市川団十郎も訪づれ、江戸文化が流入し栄えました。

本報告書は、平成29年度から30年度にかけて都市計画道路和戸町竜王線整備事業に伴い本調査が行われた、甲府市中央4丁目の本調査の結果です。特に調査区は三の堀内の「上連雀町」として、近くには五街道の一つの甲州道中が通る本陣・旅籠がおかれていた柳町に近接する町人地でした。

調査では商家の建物跡、甲府上水、火災の痕跡や、大量の陶磁器、木製品、金属製品が検出されています。また、甲州金も2点出土するなど、甲府城下町の経済力と文化水準を物語る重要な遺構・遺物であります。

今回の調査成果が、甲府城下町の調査研究の重要な資料となるとともに、今後のまちづくりの一助となるものと考えられます。

末筆となりましたが、このような貴重な遺跡発掘調査が実施できましたのも、ひとえに地域住人のご理解、ご協力の賜物であるとともに、発掘調査及び整理作業に従事された皆様方のご努力の結果であります。ここに感謝申し上げる次第であります。今後ともご支援・ご協力をお願い申し上げます。

令和2年2月

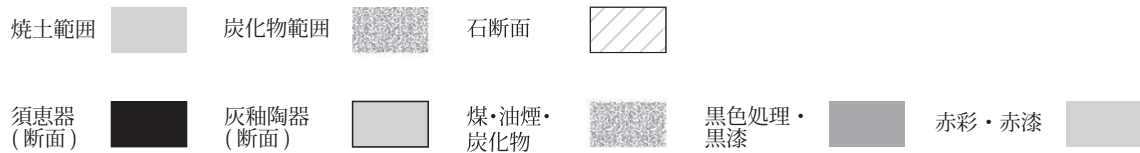
甲府市教育委員会
教育長 小林 仁

例 言

1. 本報告書は、山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は都市計画道路和戸町竜王線整備事業に伴う発掘調査であり、甲府市教育委員会が主体となり、業務委託を受けた昭和測量株式会社が実施した。
3. 各発掘調査及び整理・報告書刊行業務の業務委託契約期間は以下の通りである。
 - 甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅰ区)発掘調査及び整理作業業務
平成29年1月30日～平成30年3月20日
 - 甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅱ区②-2他相生工区)発掘調査及び整理作業業務
平成30年3月13日～平成31年3月25日
 - 甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅰ区①～⑧、Ⅱ区②-2、③～⑦、相生工区地点)整理報告業務
平成31年3月6日～令和2年2月28日
4. 本書の執筆は、第1章第1節を志村憲一(甲府市教育委員会)、第7章2節を新津健(昭和測量株式会社顧問)、その他の章及び編集作業を萩野谷主税(昭和測量株式会社)が行った。第6章には自然科学分析の成果を掲載した。
5. 木製品保存処理・金属製品保存処理は公益財団法人山梨文化財研究所に委託した。自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに委託した。
6. 陶磁器類については東京大学埋蔵文化財調査室堀内秀樹氏の指導を受けた。木製品の墨書については甲府市教育委員会金子誠司氏が判読を行った。
7. 遺構平面図のXY座標値は平面直角座標系(世界測地系)第Ⅷ系の値である。方位記号は方眼北を示している。遺構断面図の数値は標高である。座標値、標高の単位はメートルである。
8. 発掘調査および遺物の整理においては以下の諸機関、諸氏よりご教示、ご配慮を賜った。記して感謝申し上げます。
公益財団法人山梨文化財研究所 株式会社パレオ・ラボ 山梨県立博物館 多治見市教育委員会文化財保護センター 北川洋 堀内秀樹 金子誠司 中村賢太郎 佐々木由香 山本華 黒沼保子 野口真利江 バンダリスダルシャン 畑大介 望月秀和 西海真紀 福田恵子 岩井美和 各務嘉洋
(順不同、敬称略)
9. 本調査における図面・写真・遺物はすべて甲府市教育委員会で保管している。

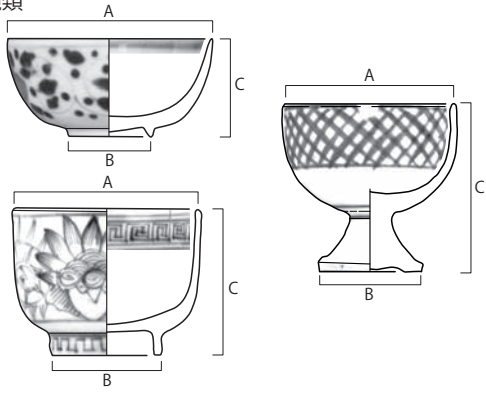
凡例

1. 遺構・遺物の挿図縮尺は、原則として各図に表示した。
2. 遺構平面図の方位は、原則として各図に表示した。方位記号は方眼北を示している。
3. 遺構全体図および遺構平面図のX・Y数値は、世界測地系の平面直角座標系第Ⅷ系に基づく座標数値で、単位はメートルである。
4. 断面図・土層図中の数値は、海拔高度（T.P.）を示す。
5. 土層・遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいた。
6. 遺物番号は報告書を通して連番で付した。挿図・写真図版・遺物分布図・観察表および本文中の番号はそれぞれ対応している。
7. 遺構平面図における一点鎖線は攪乱、破線はサブトレンチ・試掘坑・推定線である。
8. 遺構挿図・遺物挿図で使用したトーンの凡例は以下の通りである。

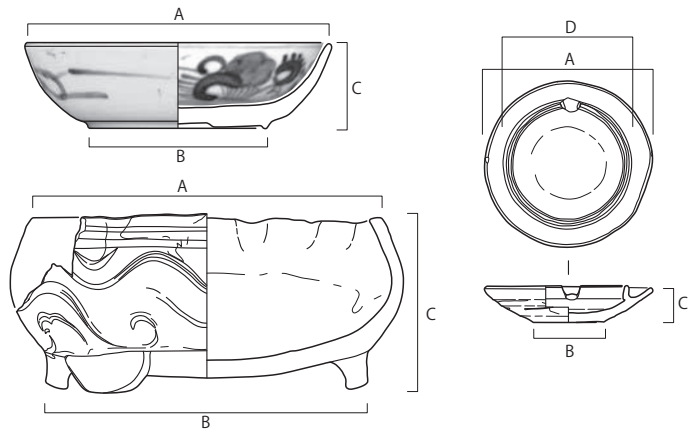


9. 陶磁器類の分類等については、『内藤町遺跡』（新宿区内藤町遺跡調査会ほか 1992）・『甲府城下町遺跡（甲府駅周辺土地区画整理事業地内43街区）』（山梨県埋蔵文化財センター 2004）を基準としている。また遺物の年代については下記の文献を参考とした。
江戸遺跡研究会編 2001『図説 江戸考古学研究事典』柏書房
大橋康二 1989『考古学ライブラリー 55 肥前陶磁』ニュー・サイエンス社
瀬戸市歴史民俗資料館編 1987『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要Ⅵ』
瀬戸市歴史民俗資料館編 1988『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要Ⅶ』
瀬戸市歴史民俗資料館編 1989『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要Ⅷ』
長佐古信也 1993『『受付き灯明皿』にみる生産と流通—受皿の型式分類と量的把握を通して—』
『東京都埋蔵文化財センター 研究論集Ⅻ』東京都埋蔵文化財センター
畑中英二 2006「近世の信楽焼」『江戸時代のやきもの—生産と流通—』
瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
服部郁 1994「近世瀬戸窯における磁器生産の開始と展開」『研究紀要 第2輯』
瀬戸市埋蔵文化財センター
藤澤良祐 2006「瀬戸・美濃登窯製品の生産と流通」『江戸時代のやきもの—生産と流通—』
瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
森村健一 2006「江戸時代のやきもの—17・18・19世紀にみる大阪・京・堺の生産・流通・消費形態—」
『江戸時代のやきもの—生産と流通—』瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
10. 各遺物の計測値は計測部位 A～D を必要に応じて定め、遺物計測位置の凡例（1）・（2）に示した。

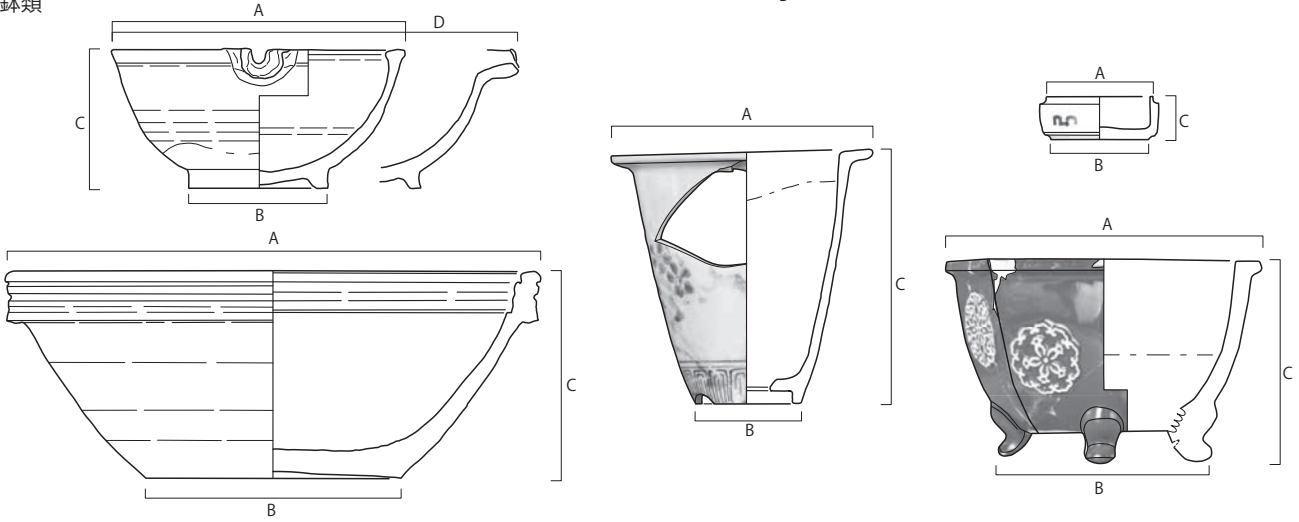
碗類



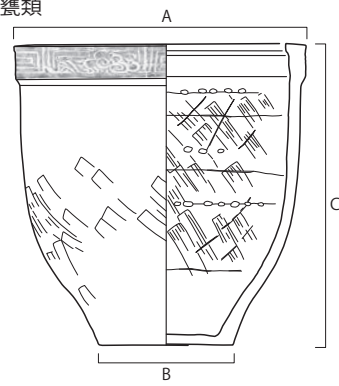
皿類



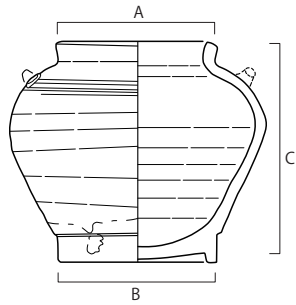
鉢類



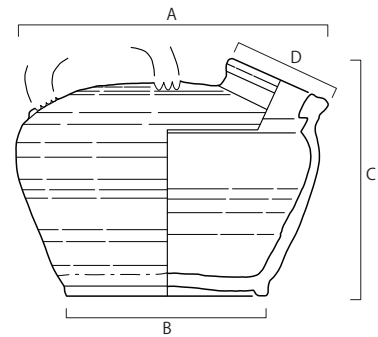
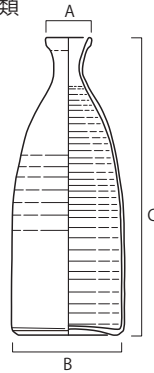
甕類



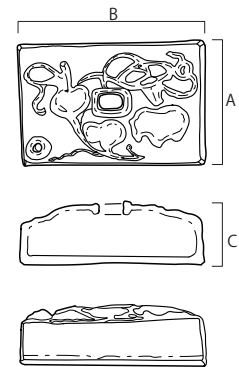
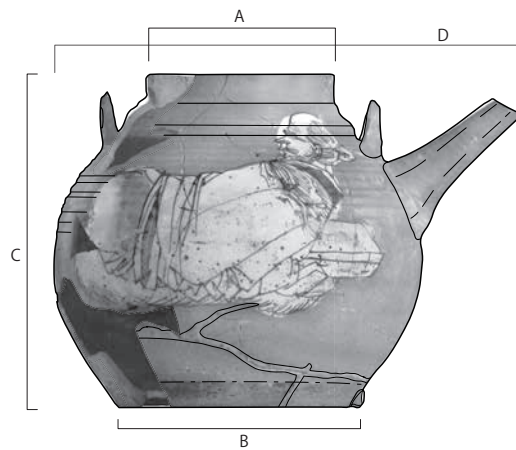
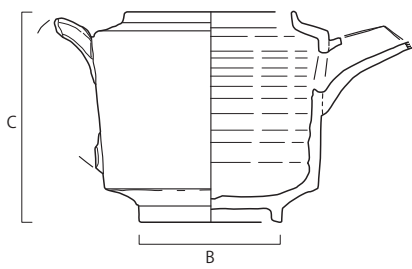
壺類



瓶類

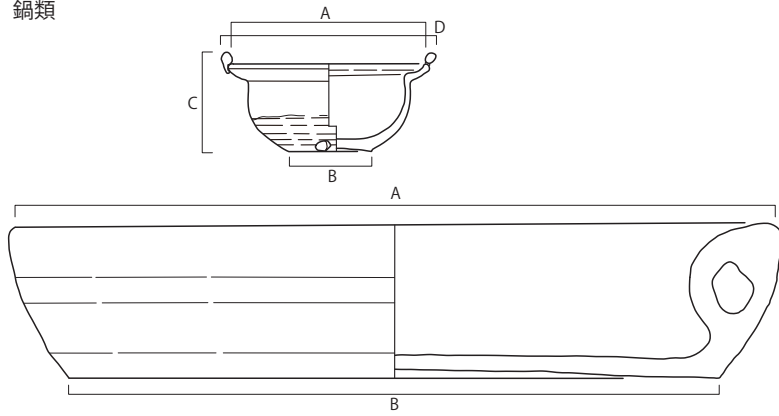


水注類

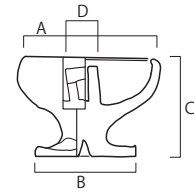


遺物計測位置の凡例(1)

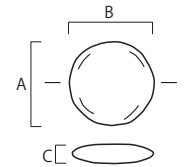
鍋類



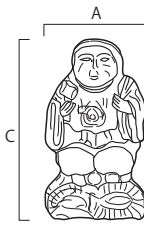
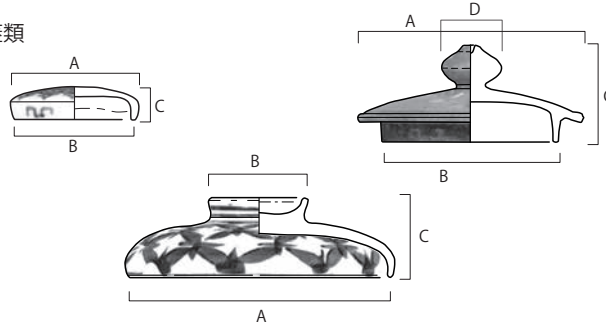
乗燭類



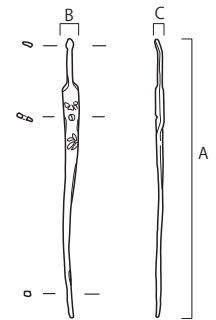
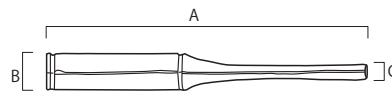
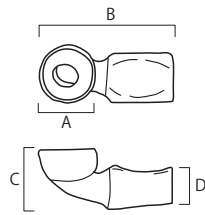
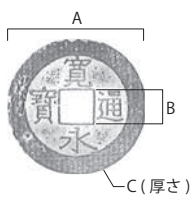
土製品類



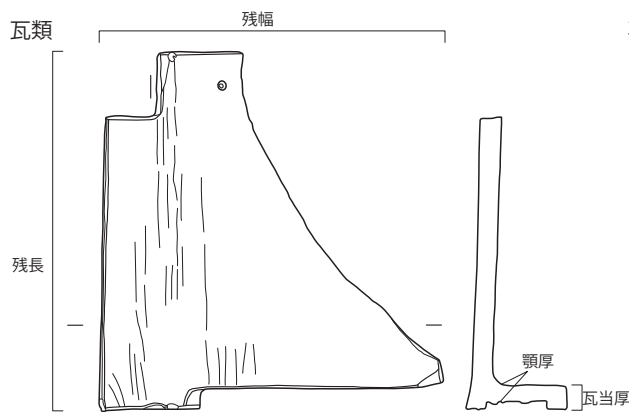
蓋類



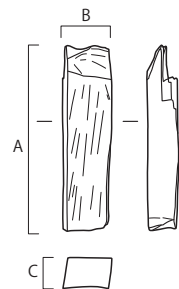
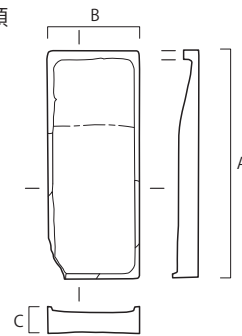
金属製品類



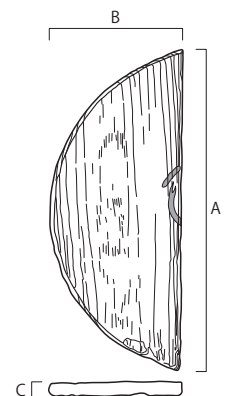
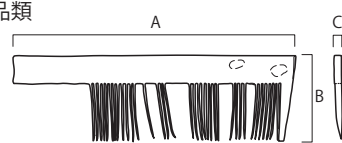
瓦類



石製品類



木製品類



本文目次

序	
例言	
凡例	
第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3節 調査地点の歴史的環境	5
第3章 調査の方法と基本層序	9
第1節 調査の方法	9
第2節 基本層序	11
第4章 I工区の調査	14
第1節 遺構と遺物	14
第1項 I-①区	14
第2項 I-②区	17
第3項 I-③区	19
第4項 I-④区	21
第5項 I-⑤区	22
第6項 I-⑥区	25
第7項 I-⑦区	30
第8項 I-⑧区	34
第5章 II工区及び相生工区の調査	167
第1節 遺構と遺物	167
第1項 II-A 地点	167
第2項 II-B 地点	177
第3項 II-C 地点	180
第4項 II-D 地点	186
第5項 相生工区	188
第6章 自然科学分析	455
第1節 甲府城下町遺跡(中央4丁目I工区)出土木製品と樹皮素材の樹種同定	455
第2節 甲府城下町遺跡(中央4丁目地点)の花粉分析	459
第3節 甲府城下町遺跡(中央4丁目地点)の寄生虫卵分析	462
第4節 甲府城下町遺跡(中央4丁目I工区)から出土した大型植物遺体	464
第5節 甲府城下町遺跡(中央4丁目I工区)から出土した昆虫化石	473
第6節 甲府城下町遺跡(中央4丁目I工区)出土の動物遺体	489
第7節 甲府城下町遺跡(中央4丁目I工区)より出土した金属製品の蛍光X線分析	494
第8節 放射性炭素年代測定	496

第9節	甲府城下町遺跡出土木製品の樹種同定	505
第10節	甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅱ工区)出土の動物遺体	508
第11節	甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅱ・相生工区)から出土した大型植物遺体	513
第12節	甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅱ・相生工区)から出土した昆虫化石	523
第7章	総括	529
第1節	遺構の変遷	529
第2節	甲府城下町遺跡：遺構・遺物における二三の所見	534

写真図版

表目次

表1	周辺の遺跡	7	表9	Ⅱ・相生工区遺構観察表(SP)	195
表2	I工区遺構観察表(SP)	37	表10	Ⅱ・相生工区遺構一覧表	196
表3	I工区遺構一覧表	38	表11	Ⅱ・相生工区遺物観察表(陶磁器・土器・他)	408
表4	I工区遺物観察表(陶磁器・土器・他)	150	表12	Ⅱ・相生工区遺物観察表(瓦)	451
表5	I工区遺物観察表(木製品)	164	表13	Ⅱ・相生工区遺物観察表(木製品)	452
表6	I工区遺物観察表(石製品)	165	表14	Ⅱ・相生工区遺物観察表(石製品)	453
表7	I工区遺物観察表(金属製品)	165	表15	Ⅱ・相生工区遺物観察表(金属製品)	454
表8	I工区遺物観察表(銭貨)	166	表16	Ⅱ・相生工区遺物観察表(銭貨)	454

挿図目次

第1図	遺跡の位置・周辺の遺跡分布図	6	第21図	I-③区(2)	58
第2図	調査区位置図	8	第22図	I-③区(3)	59
第3図	グリッド配置図	12	第23図	I-③区(4)	60
第4図	基本層序(1)	12	第24図	I-③区(5)	61
第5図	基本層序(2)	13	第25図	I-④区(1)	62
第6図	I-①・②区 全体図	41・42	第26図	I-④区(2)	63
第7図	I-③・④・⑤区 全体図	43・44	第27図	I-④区(3)	64
第8図	I-⑥区 全体図	45	第28図	I-⑤区(1)	65
第9図	I-⑦区 全体図	46	第29図	I-⑤区(2)	66
第10図	I-⑧-A・B・C区 全体図	47	第30図	I-⑤区(3)	67
第11図	I-①区(1)	48	第31図	I-⑤区(4)	68
第12図	I-①区(2)	49	第32図	I-⑤区(5)	69
第13図	I-①区(3)	50	第33図	I-⑥区(1)	70
第14図	I-①区(4)	51	第34図	I-⑥区(2)	71
第15図	I-①区(5)	52	第35図	I-⑥区(3)	72
第16図	I-②区(1)	53	第36図	I-⑥区(4)	73
第17図	I-②区(2)	54	第37図	I-⑥区(5)	74
第18図	I-②区(3)	55	第38図	I-⑥区(6)	75
第19図	I-②区(4)	56	第39図	I-⑥区(7)	76
第20図	I-③区(1)	57	第40図	I-⑥区(8)	77

第 41 图	I - ⑥区 (9)	78	第 82 图	⑥区出土遺物 (1)	119
第 42 图	I - ⑥区 (10)	79	第 83 图	⑥区出土遺物 (2)	120
第 43 图	I - ⑥区 (11)	80	第 84 图	⑥区出土遺物 (3)	121
第 44 图	I - ⑦区 (1)	81	第 85 图	⑥区出土遺物 (4)	122
第 45 图	I - ⑦区 (2)	82	第 86 图	⑥区出土遺物 (5)	123
第 46 图	I - ⑦区 (3)	83	第 87 图	⑥区出土遺物 (6)	124
第 47 图	I - ⑦区 (4)	84	第 88 图	⑥区出土遺物 (7)	125
第 48 图	I - ⑦区 (5)	85	第 89 图	⑦区出土遺物 (1)	126
第 49 图	I - ⑦区 (6)	86	第 90 图	⑦区出土遺物 (2)	127
第 50 图	I - ⑦区 (7)	87	第 91 图	⑦区出土遺物 (3)	128
第 51 图	I - ⑦区 (8)	88	第 92 图	⑦区出土遺物 (4)	129
第 52 图	I - ⑦区 (9)	89	第 93 图	⑦区出土遺物 (5)	130
第 53 图	I - ⑧区 (1)	90	第 94 图	⑦区出土遺物 (6)	131
第 54 图	I - ⑧区 (2)	91	第 95 图	⑦区出土遺物 (7)	132
第 55 图	I - ⑧区 (3)	92	第 96 图	⑦区出土遺物 (8)	133
第 56 图	I - ⑧区 (4)	93	第 97 图	⑦区出土遺物 (9)	134
第 57 图	①区出土遺物 (1)	94	第 98 图	⑦区出土遺物 (10)	135
第 58 图	①区出土遺物 (2)	95	第 99 图	⑦区出土遺物 (11)	136
第 59 图	①区出土遺物 (3)	96	第 100 图	⑦区出土遺物 (12)	137
第 60 图	①区出土遺物 (4)	97	第 101 图	⑦区出土遺物 (13)	138
第 61 图	①区出土遺物 (5)	98	第 102 图	⑦区出土遺物 (14)	139
第 62 图	②区出土遺物 (1)	99	第 103 图	⑦区出土遺物 (15)	140
第 63 图	②区出土遺物 (2)	100	第 104 图	⑦区出土遺物 (16)	141
第 64 图	②区出土遺物 (3)	101	第 105 图	⑦区出土遺物 (17)	142
第 65 图	②区出土遺物 (4)	102	第 106 图	⑦区出土遺物 (18)	143
第 66 图	③区出土遺物 (1)	103	第 107 图	⑦区出土遺物 (19)	144
第 67 图	③区出土遺物 (2)	104	第 108 图	⑧区出土遺物 (1)	145
第 68 图	③区出土遺物 (3)	105	第 109 图	⑧区出土遺物 (2)	146
第 69 图	③区出土遺物 (4)	106	第 110 图	⑧区出土遺物 (3)	147
第 70 图	③区出土遺物 (5)	107	第 111 图	⑧区出土遺物 (4)	148
第 71 图	③区出土遺物 (6)	108	第 112 图	⑧区出土遺物 (5)	149
第 72 图	④区出土遺物 (1)	109	第 113 图	II - A · B 地点 全体图 (上層)	199 · 200
第 73 图	④区出土遺物 (2)	110	第 114 图	II - A · B 地点 全体图 (下層)	201 · 202
第 74 图	⑤区出土遺物 (1)	111	第 115 图	II - C 地点 全体图 (上層)	203 · 204
第 75 图	⑤区出土遺物 (2)	112	第 116 图	II - C 地点 全体图 (下層)	205 · 206
第 76 图	⑤区出土遺物 (3)	113	第 117 图	II - D 地点 全体图 (上層)	207
第 77 图	⑤区出土遺物 (4)	114	第 118 图	II - D 地点 全体图 (下層)	208
第 78 图	⑤区出土遺物 (5)	115	第 119 图	相生工区 全体图 (上層)	209 · 210
第 79 图	⑤区出土遺物 (6)	116	第 120 图	相生工区 全体图 (中層)	211 · 212
第 80 图	⑤区出土遺物 (7)	117	第 121 图	相生工区 全体图 (下層)	213 · 214
第 81 图	⑤区出土遺物 (8)	118	第 122 图	A 地点 (1)	215

第 123 图	A 地点 (2)	216	第 164 图	相生工区 (1)	257
第 124 图	A 地点 (3)	217	第 165 图	相生工区 (2)	258
第 125 图	A 地点 (4)	218	第 166 图	相生工区 (3)	259
第 126 图	A 地点 (5)	219	第 167 图	相生工区 (4)	260
第 127 图	A 地点 (6)	220	第 168 图	相生工区 (5)	261
第 128 图	A 地点 (7)	221	第 169 图	相生工区 (6)	262
第 129 图	A 地点 (8)	222	第 170 图	相生工区 (7)	263
第 130 图	A 地点 (9)	223	第 171 图	相生工区 (8)	264
第 131 图	A 地点 (10)	224	第 172 图	相生工区 (9)	265
第 132 图	A 地点 (11)	225	第 173 图	相生工区 (10)	266
第 133 图	A 地点 (12)	226	第 174 图	相生工区 (11)	267
第 134 图	A 地点 (13)	227	第 175 图	相生工区 (12)	268
第 135 图	A 地点 (14)	228	第 176 图	相生工区 (13)	269
第 136 图	A 地点 (15)	229	第 177 图	相生工区 (14)	270
第 137 图	A 地点 (16)	230	第 178 图	A 地点出土遺物 (1)	271
第 138 图	A 地点 (17)	231	第 179 图	A 地点出土遺物 (2)	272
第 139 图	A 地点 (18)	232	第 180 图	A 地点出土遺物 (3)	273
第 140 图	A 地点 (19)	233	第 181 图	A 地点出土遺物 (4)	274
第 141 图	A 地点 (20)	234	第 182 图	A 地点出土遺物 (5)	275
第 142 图	A 地点 (21)	235	第 183 图	A 地点出土遺物 (6)	276
第 143 图	A 地点 (22)	236	第 184 图	A 地点出土遺物 (7)	277
第 144 图	B 地点 (1)	237	第 185 图	A 地点出土遺物 (8)	278
第 145 图	B 地点 (2)	238	第 186 图	A 地点出土遺物 (9)	279
第 146 图	B 地点 (3)	239	第 187 图	A 地点出土遺物 (10)	280
第 147 图	B 地点 (4)	240	第 188 图	A 地点出土遺物 (11)	281
第 148 图	B 地点 (5)	241	第 189 图	A 地点出土遺物 (12)	282
第 149 图	B 地点 (6)	242	第 190 图	A 地点出土遺物 (13)	283
第 150 图	C 地点 (1)	243	第 191 图	A 地点出土遺物 (14)	284
第 151 图	C 地点 (2)	244	第 192 图	A 地点出土遺物 (15)	285
第 152 图	C 地点 (3)	245	第 193 图	A 地点出土遺物 (16)	286
第 153 图	C 地点 (4)	246	第 194 图	A 地点出土遺物 (17)	287
第 154 图	C 地点 (5)	247	第 195 图	A 地点出土遺物 (18)	288
第 155 图	C 地点 (6)	248	第 196 图	A 地点出土遺物 (19)	289
第 156 图	C 地点 (7)	249	第 197 图	A 地点出土遺物 (20)	290
第 157 图	C 地点 (8)	250	第 198 图	A 地点出土遺物 (21)	291
第 158 图	C 地点 (9)	251	第 199 图	A 地点出土遺物 (22)	292
第 159 图	C 地点 (10)	252	第 200 图	A 地点出土遺物 (23)	293
第 160 图	C 地点 (11)	253	第 201 图	A 地点出土遺物 (24)	294
第 161 图	D 地点 (1)	254	第 202 图	A 地点出土遺物 (25)	295
第 162 图	D 地点 (2)	255	第 203 图	A 地点出土遺物 (26)	296
第 163 图	D 地点 (3)	256	第 204 图	A 地点出土遺物 (27)	297

第 205 图	A 地点出土遺物 (28)	·····	298	第 246 图	D 地点出土遺物 (2)	·····	339
第 206 图	A 地点出土遺物 (29)	·····	299	第 247 图	D 地点出土遺物 (3)	·····	340
第 207 图	A 地点出土遺物 (30)	·····	300	第 248 图	D 地点出土遺物 (4)	·····	341
第 208 图	A 地点出土遺物 (31)	·····	301	第 249 图	D 地点出土遺物 (5)	·····	342
第 209 图	A 地点出土遺物 (32)	·····	302	第 250 图	D 地点出土遺物 (6)	·····	343
第 210 图	A 地点出土遺物 (33)	·····	303	第 251 图	D 地点出土遺物 (7)	·····	344
第 211 图	B 地点出土遺物 (1)	·····	304	第 252 图	D 地点出土遺物 (8)	·····	345
第 212 图	B 地点出土遺物 (2)	·····	305	第 253 图	D 地点出土遺物 (9)	·····	346
第 213 图	B 地点出土遺物 (3)	·····	306	第 254 图	D 地点出土遺物 (10)	·····	347
第 214 图	B 地点出土遺物 (4)	·····	307	第 255 图	D 地点出土遺物 (11)	·····	348
第 215 图	B 地点出土遺物 (5)	·····	308	第 256 图	D 地点出土遺物 (12)	·····	349
第 216 图	B 地点出土遺物 (6)	·····	309	第 257 图	D 地点出土遺物 (13)	·····	350
第 217 图	C 地点出土遺物 (1)	·····	310	第 258 图	D 地点出土遺物 (14)	·····	351
第 218 图	C 地点出土遺物 (2)	·····	311	第 259 图	D 地点出土遺物 (15)	·····	352
第 219 图	C 地点出土遺物 (3)	·····	312	第 260 图	D 地点出土遺物 (16)	·····	353
第 220 图	C 地点出土遺物 (4)	·····	313	第 261 图	D 地点出土遺物 (17)	·····	354
第 221 图	C 地点出土遺物 (5)	·····	314	第 262 图	相生工区出土遺物 (1)	·····	355
第 222 图	C 地点出土遺物 (6)	·····	315	第 263 图	相生工区出土遺物 (2)	·····	356
第 223 图	C 地点出土遺物 (7)	·····	316	第 264 图	相生工区出土遺物 (3)	·····	357
第 224 图	C 地点出土遺物 (8)	·····	317	第 265 图	相生工区出土遺物 (4)	·····	358
第 225 图	C 地点出土遺物 (9)	·····	318	第 266 图	相生工区出土遺物 (5)	·····	359
第 226 图	C 地点出土遺物 (10)	·····	319	第 267 图	相生工区出土遺物 (6)	·····	360
第 227 图	C 地点出土遺物 (11)	·····	320	第 268 图	相生工区出土遺物 (7)	·····	361
第 228 图	C 地点出土遺物 (12)	·····	321	第 269 图	相生工区出土遺物 (8)	·····	362
第 229 图	C 地点出土遺物 (13)	·····	322	第 270 图	相生工区出土遺物 (9)	·····	363
第 230 图	C 地点出土遺物 (14)	·····	323	第 271 图	相生工区出土遺物 (10)	·····	364
第 231 图	C 地点出土遺物 (15)	·····	324	第 272 图	相生工区出土遺物 (11)	·····	365
第 232 图	C 地点出土遺物 (16)	·····	325	第 273 图	相生工区出土遺物 (12)	·····	366
第 233 图	C 地点出土遺物 (17)	·····	326	第 274 图	相生工区出土遺物 (13)	·····	367
第 234 图	C 地点出土遺物 (18)	·····	327	第 275 图	相生工区出土遺物 (14)	·····	368
第 235 图	C 地点出土遺物 (19)	·····	328	第 276 图	相生工区出土遺物 (15)	·····	369
第 236 图	C 地点出土遺物 (20)	·····	329	第 277 图	相生工区出土遺物 (16)	·····	370
第 237 图	C 地点出土遺物 (21)	·····	330	第 278 图	相生工区出土遺物 (17)	·····	371
第 238 图	C 地点出土遺物 (22)	·····	331	第 279 图	相生工区出土遺物 (18)	·····	372
第 239 图	C 地点出土遺物 (23)	·····	332	第 280 图	相生工区出土遺物 (19)	·····	373
第 240 图	C 地点出土遺物 (24)	·····	333	第 281 图	相生工区出土遺物 (20)	·····	374
第 241 图	C 地点出土遺物 (25)	·····	334	第 282 图	相生工区出土遺物 (21)	·····	375
第 242 图	C 地点出土遺物 (26)	·····	335	第 283 图	相生工区出土遺物 (22)	·····	376
第 243 图	C 地点出土遺物 (27)	·····	336	第 284 图	相生工区出土遺物 (23)	·····	377
第 244 图	C 地点出土遺物 (28)	·····	337	第 285 图	相生工区出土遺物 (24)	·····	378
第 245 图	D 地点出土遺物 (1)	·····	338	第 286 图	相生工区出土遺物 (25)	·····	379

第 287 图	相生工区出土遺物 (26)	·····	380
第 288 图	相生工区出土遺物 (27)	·····	381
第 289 图	相生工区出土遺物 (28)	·····	382
第 290 图	相生工区出土遺物 (29)	·····	383
第 291 图	相生工区出土遺物 (30)	·····	384
第 292 图	相生工区出土遺物 (31)	·····	385
第 293 图	相生工区出土遺物 (32)	·····	386
第 294 图	相生工区出土遺物 (33)	·····	387
第 295 图	相生工区出土遺物 (34)	·····	388
第 296 图	相生工区出土遺物 (35)	·····	389
第 297 图	相生工区出土遺物 (36)	·····	390
第 298 图	相生工区出土遺物 (37)	·····	391
第 299 图	相生工区出土遺物 (38)	·····	392
第 300 图	相生工区出土遺物 (39)	·····	393
第 301 图	相生工区出土遺物 (40)	·····	394
第 302 图	相生工区出土遺物 (41)	·····	395
第 303 图	相生工区出土遺物 (42)	·····	396
第 304 图	相生工区出土遺物 (43)	·····	397
第 305 图	相生工区出土遺物 (44)	·····	398
第 306 图	相生工区出土遺物 (45)	·····	399
第 307 图	相生工区出土遺物 (46)	·····	400
第 308 图	相生工区出土遺物 (47)	·····	401
第 309 图	相生工区出土遺物 (48)	·····	402
第 310 图	相生工区出土遺物 (49)	·····	403
第 311 图	相生工区出土遺物 (50)	·····	404
第 312 图	相生工区出土遺物 (51)	·····	405
第 313 图	相生工区出土遺物 (52)	·····	406
第 314 图	相生工区出土遺物 (53)	·····	407

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

都市計画道路和戸町竜王線整備事業に伴い、平成28年2月22日付け建発第2608号で甲府市長から文化財保護法第94条第1項に基づく埋蔵文化財発掘通知が山梨県教育委員会宛に提出された。それに対して、山梨県教育委員会から平成28年3月2日付け教学文第3664号で周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等についての通知に基づき、試掘・確認調査が実施することとなった。

試掘調査は平成28年3月15日から17日、同年4月18日から20日にかけて、道路建設予定地の甲府市中央4丁目地内の6,700㎡を対象として、16箇所約132㎡を実施した。

調査の結果、近世から近代にかけての遺構・遺物が確認された。関係部局と協議を行い、I工区8地点、II工区8地点、相生工区を対象に本調査を実施することとなり、本調査は、甲府市教育委員会が事業の執行委任を受け、発掘調査予算の執行にあたった。調査に関しては、甲府市教育委員会生涯学習文化課が主体となって、指名競争入札により昭和測量株式会社に業務委託し、I工区8地点は平成29年1月30日から平成30年3月20日の期間実施した。II工区4地点及び相生工区は平成30年3月13日から平成31年3月25日の期間実施した。また整理作業及び報告書作成業務に関しては、平成31年3月6日から令和2年2月28日まで上記業者に業務委託を行い実施した。

第2節 調査の経過

〈I工区の調査〉

調査地点は①～⑧区の計8カ所、調査面積は計975㎡を測る。本調査は都市計画道路和戸町竜王線整備事業に伴う調査であり、甲府市教育委員会と甲府市都市整備課の協議により、調査対象地の東側から調査を進め、発掘作業終了後に順次工事作業を行うこととなった。以下に調査経過の概略を記す。

発掘作業

平成29年

1月30日(月) 本調査業務委託契約

2月20日(月) 0.25㎡バックホウによる①・②区の表土掘削を開始。

2月22日(水) 発掘作業員による①・②区の掘削調査を開始。

4月4日(火) ①区の調査完了。

4月12日(水) ①区の埋戻し及び0.45㎡バックホウによる④・⑤区の表土掘削を開始。

4月13日(木) ②区の調査完了。

4月14日(金) ②区の埋戻し及びバックホウによる③区の表土掘削を開始。

発掘作業員による④・⑤区の掘削作業を開始。

4月17日(月) 発掘作業員による③区の掘削作業を開始。

5月9日(火) ④区の調査完了。

5月12日(金) ③区の調査完了。

5月15日(月) ③区の埋戻し及び⑧区アスファルト舗装部分のカッター入れを行う。

5月16日(火) 0.25㎡バックホウによる⑧区の表土掘削を開始。

5月23日(火) 発掘作業員による⑧区の掘削作業を開始。

6月16日(金) ⑧区の調査完了。⑧区の埋戻しを行う。

6月19日(月) 0.25㎡バックホウによる⑦区の表土掘削を開始。

6月23日(金) ⑤区の調査完了。⑤区の埋戻し及び⑥区の表土掘削を開始。

- 6月27日(火) 発掘作業員による⑥・⑦区の掘削作業を開始。
- 8月19日(土) ⑥区の調査完了。
- 8月21日(月) ⑥区の埋戻しを行う。
- 8月30日(水) ⑦区の調査完了。
- 8月31日(木) ⑦区の埋戻し及び撤収作業を行う。

整理作業

遺物の水洗・注記作業を平成29年4月26日から10月30日まで行う。並行して、接合・復元と作業を進め、遺物実測とトレース作業を平成29年10月26日から平成30年2月22日まで行った。遺物写真撮影は平成29年12月4日から平成30年2月13日まで行った。現場の調査写真や遺構図に関しても並行して作業を進め、平成30年2月22日までに整理やパソコンによるトレース作業を終了した。自然科学分析については、土壌分析及び出土動植物の同定を株式会社パレオ・ラボに依頼した。その後、遺物観察表及び本文、挿図、図版の編集を3月20日までに整理作業を完了した。

Ⅱ工区及び相生工区の調査

調査面積は計932.91㎡を測る。調査地点をA～D及び相生工区の5地点に設定し、調査を進めた。Ⅰ工区と同様に、甲府市教育委員会と甲府市都市整備課の協議により、調査対象地の東側から調査を進め、発掘作業終了後に順次工事作業を行うこととなった。以下に調査経過の概略を記す。

平成30年

- 3月13日(火) 本調査業務委託契約
- 4月18日(水) 仮設ハウス・仮設トイレの搬入を行う。
- 4月19日(木) 0.45㎡バックホウによるA地点の表土掘削を開始。
- 4月20日(金) 発掘作業員による掘削作業を開始。
- 7月21日(土) 0.25㎡バックホウによるB地点の表土掘削を開始。
- 7月23日(月) 発掘作業員によるB地点の掘削作業を開始。
- 8月31日(金) A地点の調査完了。埋戻しを開始。
- 9月3日(月) Ⅱ工区西側及び南側の道路沿いにフェンスを設置した。
- 9月5日(水) 台風の影響によりA地点が完全に水没したため、埋戻しを一時中断する。
0.25㎡バックホウによるC地点の表土掘削を開始。
- 9月7日(金) A地点の排水作業と並行して、一部埋戻しを再開する。
作業員によるC地点の掘削作業を開始。
- 9月19日(水) A地点の埋戻し完了。
- 9月28日(金) 山梨県立大学の吉田均氏ほか学生2名が現場見学に来場する。
B地点で出土した上水の木樋を中心に出土状況及び構造の説明を行った。
- 10月3日(水) B地点の調査完了。B地点の埋戻しを行う。
- 11月19日(月) C地点の調査完了。C地点の埋戻しを行う。
- 11月20日(火) 0.25㎡バックホウによるD地点の表土掘削を開始。
- 11月21日(水) 発掘作業員によるD地点の掘削作業を開始。
- 12月7日(金) D地点の調査完了。埋戻しを行う。
- 12月19日(水) Ⅱ工区のフェンスの撤去及び相生工区へのフェンスの設置を行なった。
- 12月25日(火) 0.18㎡バックホウによる相生工区の表土掘削を開始。
- 12月26日(水) 発掘作業員による相生工区の掘削作業を開始。

平成 31 年

3 月 5 日（火） 相生工区の調査完了。

3 月 6 日（水） 相生工区の埋戻し開始。

3 月 12 日（火） フェンスの撤去及び撤収作業を行う。

3 月 13 日（水） 出土した巨石及び木材の搬出及び処分を行う。

3 月 14 日（木） 仮設ハウス・仮設トイレの回送を行う。

3 月 15 日（金） 出土したコンクリートガラの搬出及び処分、バックホウの回送を行う。

現場における作業はすべて完了した。

基礎整理作業として、遺物の水洗・注記作業を発掘調査と並行して、平成 31 年 3 月 23 日まで行った。

〈整理・報告書刊行〉

Ⅱ・相生工区の整理及び報告書刊行業務は、平成 31 年 3 月 13 日から令和 2 年 2 月 28 日の期間で行った。遺物の接合・復元と作業を及び、遺物実測とトレース作業を令和元年 12 月 20 日まで行った。遺物写真撮影は平成 31 年 4 月 22 日から令和元年 12 月 2 日まで行った。現場の調査写真や遺構図に関しても並行して作業を進め、令和 2 年 1 月 11 日までに整理やパソコンによるトレース作業を終了した。出土した陶磁器類については、堀内秀樹氏（東京大学埋蔵文化財調査室）の指導を受けた。出土木製品・金属製品の保存処理については、公益財団法人山梨文化財研究所に依頼した。自然科学分析については、土壌分析及び出土動植物の同定を株式会社パレオ・ラボに依頼した。その後、遺物観察表及び本文、挿図、図版の編集を令和 2 年 2 月 28 日までに報告書を刊行した。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境（第1図）

甲府城下町遺跡は、甲府盆地北縁部に位置し、甲府市北部の山地から南流する相川によって形成された扇状地の扇端部にあたる。相川は奥秩父山塊に続く太良峠に水源を持ち、荒川と合流して甲府盆地をさらに南流し、秩父山地甲武信ヶ岳（標高 2,475m）を水源とする笛吹川と合流する。城下町は西側に相川、南側に荒川、北東側に愛宕山縁辺部を東流する藤川に囲まれた範囲に立地している。愛宕山（標高 423m）から西南方向には、甲府城が築かれた一条小山（標高 304m）が連なっている。調査地点は甲府市中央四丁目に所在する。甲府城下町遺跡の扇状地斜面は、標高 260～300m を測るが、調査地点の標高は現況高 260.8 m～262.5 m である。

第2節 歴史的環境（第1・2図、第1表）

〈原始・古代〉

この時期の遺跡については、散布地と位置付けられている遺跡が多く、不明な点が多い。扇状地及び沖積地という自然地形のため集落遺跡が発見されにくいことや、周辺河川の流路の変移、中近世における様々な土地改変が要因として挙げられる。縄文時代では、諸磯 a 式土器が出土した宝町遺跡（第1図 32）や、縄文土器とともに大量の黒曜石の剥片が出土した大手遺跡（第1図 16）、荒川南岸に位置する上石田遺跡（第1図 43）がある。塩部遺跡（第1図 30）や朝気遺跡（第1図 55）では弥生時代から平安時代の住居跡が検出されている。特に塩部遺跡では古墳時代前期の方形周溝墓も検出されている。またウマ・ウシの歯、多数の木製品が出土している。

〈中世〉

武田信虎が永正 16 年（1519）に、それまで武田氏が拠点としていた石和から躑躅ヶ崎へ居館を移し、城下町を整備した。これが武田氏館跡及び武田城下町遺跡（第1図 15）である。城下町整備は館の建設と並行して進められ、永正 16 年から大永末年までに八幡宮・御崎明神・南宮明神・大神宮・大泉寺・誓願寺・清水寺・信立寺・尊体寺・上条の地藏堂・荒神堂等の多数の社寺が創建・移設されている。武田城下町の北半は武家屋敷地が広がり、南半には商職人が職掌別に居住していた。武田城下町の南縁部は近世の甲府城下町と重なっている。

甲府城築城以前的一条小山には、平安時代後期に存在を確認できる一条郷と、その領主であった一条忠頼の居館があった。元暦元年（1184）に、源頼朝により謀殺された一条忠頼の菩提を弔うため、その夫人が居館を尼寺とした。さらに正和元年（1312）に、曾孫の一条時信が遊行上人二世他阿真教に帰依し、稲久山一条道場一蓮寺に改めた。その後一条小山には、大永 4 年（1524）に武田氏館防備のための砦が建設されたと『高白斎記』にある。武田氏滅亡後、甲府城築城に伴い、一蓮寺は現在の甲府市太田町に移転した。

〈近世〉

天正 10 年（1582）の武田氏滅亡後、甲斐は織田信長領となり城代に河尻秀隆を配したが、同年 6 月には本能寺の変が起き、天正 18 年（1590）まで徳川家康の支配となり、城代に平岩親吉を配した。この頃に甲府城の築城を家康が計画し、親吉に命じたと考えられている。天正 18 年の小田原の役を境に、家康が関東に移封とされ、その後、羽柴秀勝、加藤光泰、浅野長政・幸長ら豊臣系大名が治めた。甲府城跡の発掘調査では、多量の浅野家家紋瓦とともに豊臣家の家紋瓦が出土し、また豊臣系城郭の特徴である野面積み石垣から、浅野時代には建物に瓦を葺くまで築城が進んでいたとみられ、関東の徳川牽制の為に築城が大きく進んだとみられる。関ヶ原の戦いの後、徳川が甲斐を再領し、慶長 6 年（1601）に城代として再度平岩親吉が配され、甲府城の築城を受け継ぎ完成させたといわれる。

慶長 8 年（1603）に家康の九男徳川義直の領地となるが城代として平岩親吉がそのまま在国した。慶長 12 年（1607）に義直は尾張清洲、親吉は尾張犬山へ移封となり、その後は幕府直轄領として武川十二騎が城番としておかれた。元和 2 年（1616）から寛永 9 年（1632）まで、二代将軍徳川秀忠の三男徳川忠長の支配となるが、引き続き武川十二騎が城番としておかれた。忠長の改易後、寛永 10 年（1633）に武田氏の遺臣である伊丹康勝が城番となり、寛永 13 年（1636）から 1 年交代の旗本による城番制となる。寛文元年（1661）に三代将軍徳川家光の三男で甲府宰相と呼ばれた徳川綱重が甲府藩を立藩し、初代甲府藩主となった。延宝 6 年（1678）に綱重の子徳川綱豊が跡を継ぎ、後に綱豊は六代将軍家宣となった。宝永元年（1704）、五代将軍徳川綱吉の側用人を務めた柳沢吉保が甲府藩主となり、甲府城の大改修や城下町の再整備を行っている。宝永 6 年（1709）に吉保の子の吉里が跡を継ぎ、翌年には甲府城に入り、歴代甲府藩主の中で唯一の在城藩主となった。

享保 9 年（1724）に八代将軍徳川吉宗が行った享保の改革により、吉里は大和郡山に移封となる。甲斐国は幕府直轄領となり、幕末まで甲府勤番が設置される。甲府勤番制は甲府城の警護と城下の行政を目的とし、甲府勤番支配 2 名を任命し、それぞれの配下に勤番士 100 名、与力 10 騎、同心 50 名が配属する。これにより江戸から甲府に勤番とその家族が一斉に移住することとなった。

〈幕末・近代〉

慶応 2 年（1866）、甲府勤番支配が廃止され、甲府城代が設置されたが、慶応 3 年（1867）に徳川慶喜による大政奉還後、翌年の 3 月に新政府軍が甲府城に入り開城となった。同年 6 月甲斐鎮撫府が置かれ、甲斐府、甲府県を経て、明治 4 年に山梨県が成立した。甲府城は明治 7 年（1874）に廃城となり、山梨県令藤村紫朗の施策により内城のみを残し、二の堀、三の堀を埋め立て払い下げとなって、都市整備が進み市街地化した。また国の施策である殖産興業の一環として、明治 7 年（1874）に勸業製糸場、明治 9 年（1876）には勸業試験場が設置され、葡萄栽培やワインの醸造が実施された。明治 36 年（1903）に甲府停車場が開業し、東京から甲府までの道のりを汽車で約 6 時間の速さで結んだ。

第 3 節 調査地点の歴史的環境

調査が行われた地点は、甲府城下町下府中 23 町のうち上連雀町（連雀町一丁目）と柳町四丁目にあたる。下府中は甲府城の二の堀と三の堀に囲まれた町人地で、東西 6 条、南北 4 条の街路が走り、碁盤目状街区が規則的に並ぶ都市構造を有している。この街区の中に柳町、八日町、三日町、魚町、連雀町、伊勢町、近習町、鍛冶町、桶町、工町、穴山町が開かれた。五街道の一つである甲州道中が下府中の中心を通り、街道沿いの八日町には各種商店が並び、一丁目と二丁目の境には高札場があった。甲州街道は八日町から柳町を通り、柳町三・四丁目と上連雀町の交差点を西に曲がり、二の堀の南側に沿って、片羽町に入る。柳町は甲州街道の宿駅として多くの旅籠の他、問屋場があった。連雀町は上連雀町と下連雀町に分かれており、調査地点は上連雀町にあたる。『裏見寒話』（1752 年）には「柳町とともに旅籠屋多し」と記載されている。『諸国道中商人鏡』（1827 年）によると柳町四丁目では荒物問屋、萬塗物師、瀬戸物問屋が、上連雀町では茶問屋、瀬戸物・紙問屋が紹介されている。

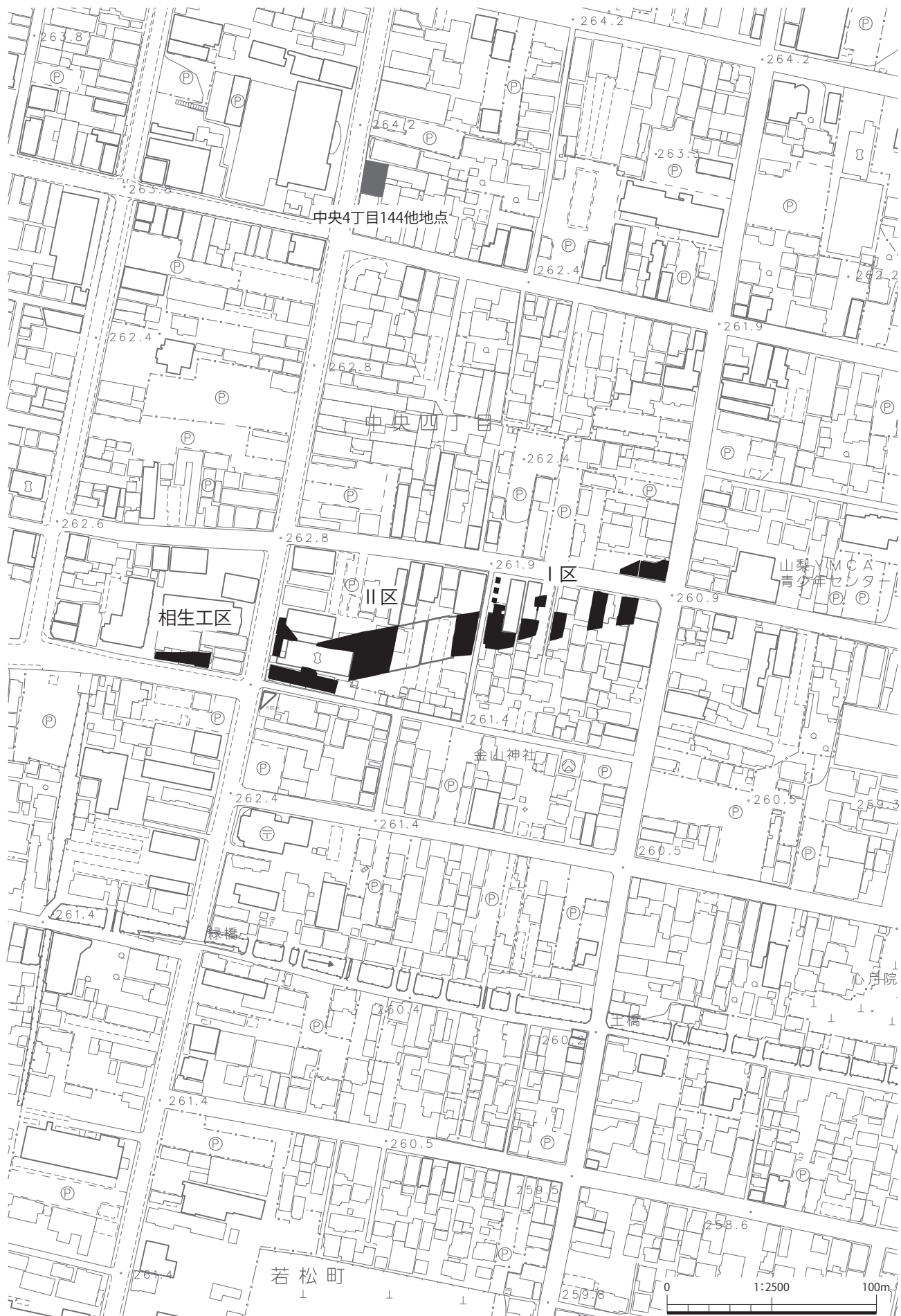


第1図 遺跡の位置・周辺の遺跡分布図

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代	種別
1	甲府城下町遺跡	近世	集落跡
2	甲府城跡	近世	城館跡
3	八幡東遺跡	弥生・古墳	散布地
4	湯村山5号墳	古墳時代	古墳
5	湯村山4号墳	古墳時代	古墳
6	湯村山3号墳	古墳時代	古墳
7	湯村山2号墳	古墳時代	古墳
8	湯村山1号墳	古墳時代	古墳
9	万寿森古墳	古墳時代	古墳
10	和田無名墳	古墳時代	古墳
11	緑ヶ丘二丁目遺跡	古墳～平安	古墳
12	緑ヶ丘一丁目遺跡	古墳時代	散布地
13	向田B遺跡		散布地
14	長閑遺跡	中世	包蔵地
15	武田城下町遺跡	中世	集落跡
16	大手下遺跡	縄文時代	散布地
17	永慶寺跡	中世	寺院跡
18	岩窪C遺跡	古墳時代	散布地
19	中道東遺跡	近世	散布地
20	中道西遺跡	古墳時代	散布地
21	岩窪遺跡	奈良・平安・中世	包蔵地
22	山梨大学遺跡	奈良・平安	包蔵地
23	コツ塚古墳	古墳時代	古墳
24	八幡神社遺跡	縄文時代	散布地
25	二ツ塚2号墳	古墳時代	古墳
26	二ツ塚1号墳	古墳時代	古墳
27	二ツ塚3号墳	古墳時代	古墳
28	大笠山水の元遺跡	古墳時代～	散布地
29	新紺屋小学校遺跡	近世	散布地
30	塩部遺跡	弥生～平安	包蔵地
31	富士見遺跡	古墳・平安	散布地
32	宝町遺跡	縄文・平安	包蔵地
33	寿町遺跡	古墳時代～	包蔵地
34	御崎田遺跡	平安時代	散布地
35	亥ノ兎遺跡	平安時代～	散布地
36	地蔵北遺跡	古墳～平安	散布地
37	大六天遺跡	平安時代～	散布地
38	宮裏遺跡	平安時代～	散布地
39	銀杏之木遺跡	平安～近世	散布地
40	東光寺遺跡	平安時代～	散布地
41	宮の前遺跡	縄文時代	散布地
42	上石田B遺跡	平安時代	散布地
43	上石田遺跡	縄文時代	集落跡
44	上河原遺跡	平安時代～	散布地
45	渋沢遺跡	平安時代～	散布地
46	大北河原遺跡	平安時代	散布地

番号	遺跡名	時代	種別
47	久保北河原遺跡	平安時代	散布地
48	渋沢遺跡	平安時代～	散布地
49	秋山氏館跡	中世	城館跡
50	千松院遺跡	中世～	散布地
51	太田町遺跡	古墳時代～	散布地
52	青沼遺跡	古墳時代	包蔵地
53	青沼三丁目遺跡	中世～	散布地
54	湯田一丁目遺跡	古墳時代	散布地
55	朝氣遺跡	縄文～平安	集落跡
56	伊勢町遺跡	古墳時代	包蔵地
57	食糧工場遺跡	縄文・弥生	包蔵地
58	幸町A遺跡	弥生時代	包蔵地
59	木俣遺跡	近世	散布地
60	般舟院跡	中世	寺院跡
61	幸町B遺跡	古墳時代	散布地
62	住吉天神遺跡	古墳～平安	散布地
63	南口町A遺跡	平安時代	散布地
64	南口町B遺跡	平安時代	散布地
65	里吉天神遺跡	古墳～平安	散布地
66	家之前遺跡	平安時代	散布地
67	字前A遺跡	古墳時代	散布地
68	十丁遺跡	古墳時代	散布地
69	十丁B遺跡	古墳時代	散布地
70	字前B遺跡	古墳時代	散布地
71	北桜遺跡	平安時代	散布地
72	野村遺跡	古墳～平安	散布地
73	青葉町遺跡	平安時代	散布地
74	二又遺跡	古墳時代	包蔵地
75	宮田遺跡	弥生・平安	散布地
76	上ノ木遺跡	古墳～平安	散布地
77	明石西河原遺跡	平安時代	散布地
78	上町天神遺跡	古墳～平安	散布地
79	大土井遺跡	平安時代	散布地
80	土尻遺跡	中世	散布地
81	小宮氏館跡	中世	城館跡



第2図 調査区位置図

第3章 調査の方法と基本層序

第1節 調査の方法

平成29年度にⅠ区、平成30年度にⅡ区及び相生工区の調査を行った。Ⅰ区の調査は平成29年1月30日から8月31日まで発掘作業を行い、整理作業を平成30年3月20日まで行った。Ⅱ区の調査は平成30年3月13日から平成31年3月18日まで発掘作業を行い、基礎整理作業を平成31年3月25日まで行った。調査報告書の作成は平成31年3月6日から令和2年2月28日まで行った。

現地発掘作業は、重機による表土除去後、人力による遺構の精査、掘削を行い、発見した遺構遺物の記録を行った。遺構の計測および土層断面・遺物出土状況図の写真測量は、CUBIC社製トータルステーションシステム電子平板「遺構くん」およびAgisoft社製「PhotoScan Professional」を使用した。写真測量ではポール撮影による写真を使用した。「遺構くん」、「PhotoScan Professional」により作成した図面および補正した写真測量写真からadobe社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」を使用して全体図、個別図、土層断面図を作成した。遺物包含層及び遺構から出土した遺物は順に番号を付して、トータルステーションシステムを使用して位置を計測し取り上げを行った。小破片については一括出土遺物として取り上げた。遺構・遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。

整理作業は出土遺物の水洗、注記、接合、実測遺物の選定、実測、トレース、写真撮影、図版作成、調査報告書編集、版下データ作成を行った。遺物の実測は手実測と写真実測を併用し、手実測の図面はデジタルトレースを行った。トレースから調査報告書の版下データ作成まではadobe社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」、「InDesignCC」を使用してデジタルデータで行った。遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。

使用システム

トータルステーション：TOPCON SOKKIA CX-105
電子平板 Panasonic TOUGHBOOK CF-19
遺構実測支援ソフト CUBIC社「遺構くん」電子平板対応
写真測量ソフト Agisoft社「PhotoScan Professional」
デザインソフト adobe社「illustratorCC」
写真ソフト adobe社「PhotoshopCC」
編集ソフト adobe社「InDesignCC」

【調査体制】

平成29年度発掘調査

〈調査担当者〉

志村憲一(甲府市教育委員会)

萩野谷主税・山路恭之助(昭和測量株式会社 文化財調査課)

〈発掘調査参加〉

浅川晃一 岩崎誠至 小野修一 奥平義久 影山三亀次 河西元彦 河西町男 岸本美苗 小池幹子
河野次雄 齊藤里美 阪本國廣 菅沼芳治 武井みち子 筒井聡 広瀬ありさ 箭本公幸 渡辺智之
渡辺三男

〈整理作業参加者〉

今福ともみ 上島光子 尾川正美 小澤美幸 小宮山みや子 齊藤里美 佐野香織 牧野麻里
三木一恵

平成 30 年度発掘調査

〈調査担当者〉

志村憲一・平塚洋一(甲府市教育委員会)
萩野谷主税(昭和測量株式会社 文化財調査課)

〈調査補助員〉

浅川晃一(昭和測量株式会社 文化財調査課)

〈発掘調査参加者〉

青柳正史 長田秋文 小澤美幸 影山三亀次 北野礼子 土屋常子 筒井聡 出井光 内藤敏夫
中澤保 原田隆邦 藤巻浩太郎 松本榮一 望月一正 横内光夫

〈整理作業参加者〉

青柳正史 浅川悠起子 朝倉仁恵 尾川正美 長田秋文 小澤美幸 垣内律子 北野礼子
栗田かず子 小宮山みや子 齊藤里美 佐野香織 千葉美奈 土屋常子 内藤敏夫 中澤保
原田隆邦 広瀬ありさ 藤原由香 藤巻浩太郎 松本榮一 渡辺麗子

平成 31 年度整理報告業務

〈調査担当者〉

志村憲一・平塚洋一(甲府市教育委員会)
萩野谷主税(昭和測量株式会社 文化財調査課)

〈調査補助員〉

浅川晃一(昭和測量株式会社 文化財調査課)

〈整理作業参加者〉

浅川悠起子 朝倉仁恵 今福ともみ 尾川正美 小澤美幸 垣内律子 栗田かず子 小宮山みや子
齊藤里美 佐野香織 千葉美奈 広瀬ありさ 藤原由香 藤巻浩太郎 三木一恵 渡辺麗子

第2節 基本層序（第3・4・5図）

基本層序はI - ②区 (E44 グリット北壁)、I - ⑤区 (I36 グリット西壁)、I - ⑦区 (I30 グリット西壁)、II - A 地点 (I 23 グリット北壁)、II - C 地点 (N13 グリット南壁)、相生工区 (L4・5 グリット南壁) の5 地点で観察を行った。

I 区及びII 区の現況地盤は西側から東側に向かって標高が高くなり、I - ①区東端の標高は約 260.8 m、II 区 C 地点西端の標高は約 262.5 mを測り、約 1.7 mの標高差がある。遊亀通りを挟み西側はやや低くなり、相生工区西端の標高は約 262.3 mを測り、II - C 地点と相生工区では約 0.2 mの標高差がある。

I - ②区では標高約 260.7 mで甲府空襲による戦災焼土層が確認された(3層)。5層が甲府空襲以前の生活面、6層及び7層が近世の堆積土と考えられる。8層はオリーブ黒色シルト層の地山層である。

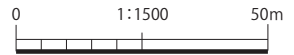
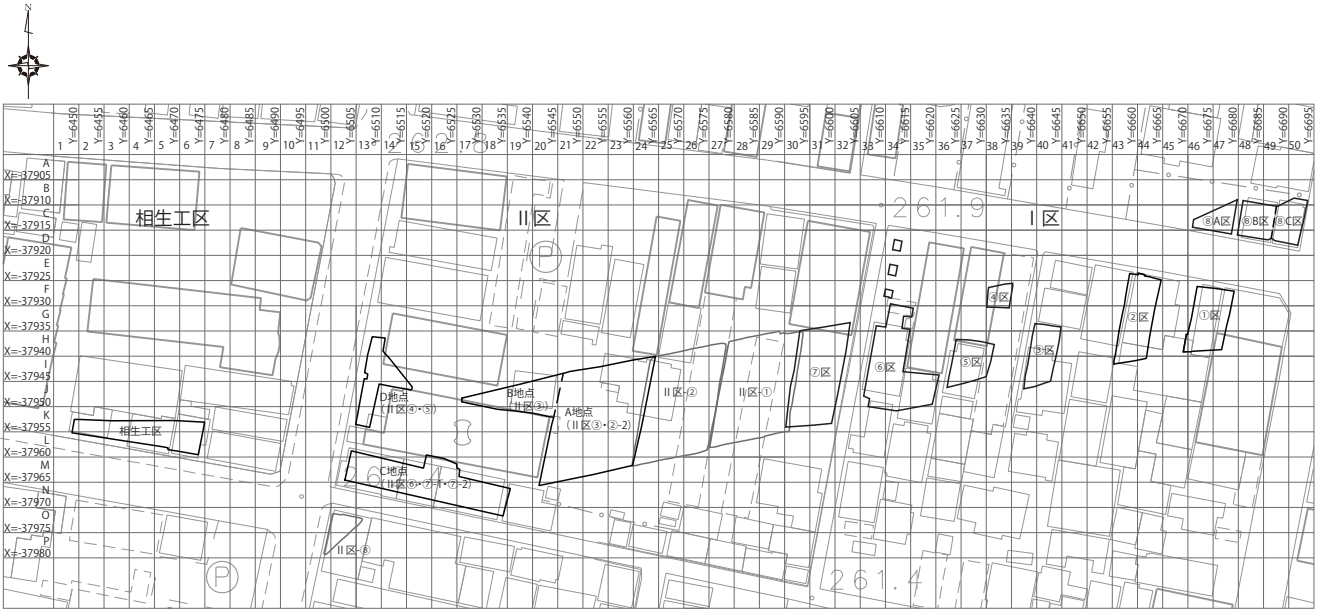
I - ⑤区では2層から戦災に伴う焼土を廃棄した攪乱が検出されており、近代の造成土と考えられる。3層から5層は近世の堆積土と考えられる。3層は多量の焼土ブロック・炭化物が混じり、5層からは近世の遺物を含む焼土廃棄土坑が検出されている。近世段階の火災被害毎に整地し造成した層と考えられる。6層は黒色シルトの地山層である。

I - ⑦区では標高約 261.6 mで甲府空襲による戦災焼土層が確認された(2層)。4層が甲府空襲以前の生活面、5層が近世の堆積土、6層が黒褐色シルトの地山層である。

II - A 地点では標高約 262.0 mで甲府空襲による戦災焼土層が確認された(2層)。3層が甲府空襲以前の生活面と考えられる。4層には陶製の土管が埋設されており、5層は近代の生活面と考えられる。6層は近世の堆積土である。7層から9層まで黒褐色砂質シルトが堆積しているが、8、9層では遺構・遺物は確認されなかった。10層は黒褐色シルトの地山層である。

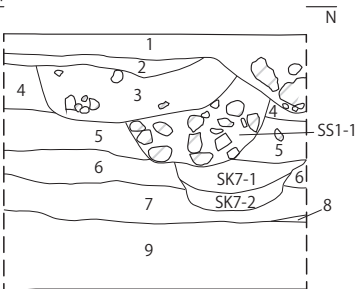
II - C 地点では標高約 262.4 mで甲府空襲による戦災焼土層が確認された(2層)。6層では炭化物が帯状に堆積し、11層、12層、14層では焼土ブロック、炭化物ブロックが多量に混じる層が見られ、近世段階に複数回の火災及び災害後の整地が行われたと考えられる。26層は暗褐色シルトが堆積し、この層から下層からは遺構・遺物は確認されなかった。29層はオリーブ黒色シルトの地山層である。

相生工区では標高約 262.3 mで甲府空襲による戦災層が確認された(2層)。4層の直下では近代の陶磁器や瓦を廃棄した土坑(相生-SK1)が検出されている。11層の下層から江戸時代後期の陶磁器を廃棄した土坑(相生-SK11)が検出されており、5層から11層は幕末から近代の遺物包含層である。12層及び13層は黒褐色シルトが堆積し、下層より暗灰黄色粗粒砂が厚く堆積し、調査区の南北を横断する蛇行した溝(相生-NR1)が検出された。甲府城下町の北東に流れる藤川は、甲府城下建設以前は真っ直ぐに南流し、その一部が甲府城二の堀の一部に利用されていたことが分かっている。相生工区は柳町四丁目の西側の街区、二の堀の東側に位置しており、旧藤川の流路の一部である可能性が考えられる。



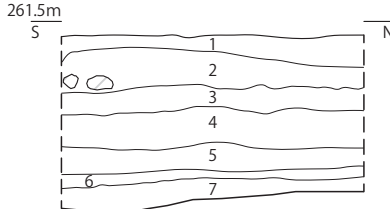
第3図 グリッド配置図

I-⑦区
261.8m



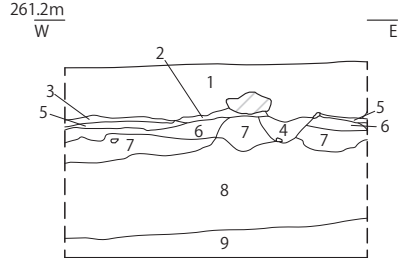
- 1 表土・碎石層
 - 2 戦災焼土層
 - 3 黒褐色(10YR3/2)砂 径4~7cmの礫
黒色(10YR2/1)シルトブロック・焼土粒・炭化物ブロック・白色粒が混じる 縮まりあり
 - 4 黒褐色(10YR3/2)砂 径4~7cmの礫
黒色(10YR2/1)シルトブロック・焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり
 - 5 暗褐色(10YR3/4)砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりあり
 - 6 黒褐色(10YR3/2)シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
 - 7 6層に似るが泥岩粒を6層より多く含む
 - 8 黒褐色(10YR3/1)シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が微量に混じる。
 - 9 黒色(7.5Y2/1)シルト 炭化物が極微量に混じる
- SK7-1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
黄褐色砂・焼土粒・炭化物・径1cmの礫が混じる 縮まりゆるい
- SK7-2 黒色(10YR2/1)シルト 黄褐色砂が斑に混じる
炭化物が混じる 縮まりゆるい
- SS1-1 黒褐色(10YR3/2)シルト
径4~5cmの河原石・径8~10cmの割石を詰める

I-⑤区
261.5m

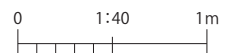


- 1 表土・碎石層
- 2 にぶい黄褐色(10YR5/3)砂
焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりあり
- 3 黒褐色(10YR2/2)砂
焼土ブロック・炭化物が多量に混じる 縮まりあり
- 4 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
焼土粒・炭化物が多量に混じる 縮まりあり
- 5 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりあり
- 6 黒色(10YR2/1)シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 7 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト
炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 縮まりあり

I-②区
261.2m

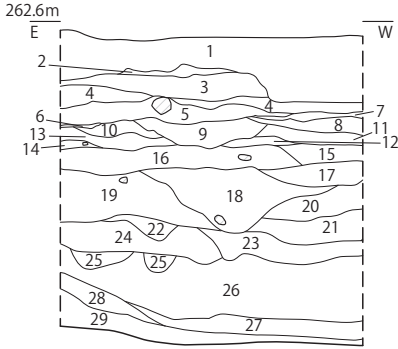


- 1 表土・碎石層
- 2 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒・炭化物が混じる 縮まりあり 現代の造成土
- 3 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる 下層に炭化物が帯状に堆積する 縮まりあり 戦災焼土層
- 4 黒褐色(10YR3/2)砂に褐色(10YR4/4)砂が斑に混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりあり
- 5 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 縮まりあり
- 6 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒・炭化物が混じる 白色粒が微量に混じる 縮まりあり
- 7 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 焼土粒・炭化物が混じる 白色粒が微量に混じる 縮まりあり
- 8 オリーブ黒色(10Y3/1)シルト
炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる
- 9 黒色(10Y2/1)シルト 泥岩粒・白色粒が極微量に混じる



第4図 基本層序(1)

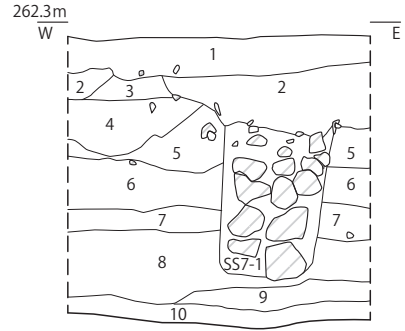
II-C地点



C地点調査区南壁(基本層序)

- | | |
|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 1 砕石層 | 16 黒褐色(10YR3/2) 砂質シルト
焼土粒・炭化物・砂利が微量に混じる 縮まりあり |
| 2 戦災焼土層 | 17 黒褐色(10YR2/3) 砂質シルト
焼土粒・炭化物が多量に混じる 縮まりゆるい |
| 3 黒褐色(10YR3/2) 砂
焼土粒・炭化物・砂利・瓦片が多量に混じる
縮まりあり | 18 暗褐色(10YR3/3) 砂
焼土粒・炭化物・砂利が混じる 縮まりあり |
| 4 にぶい黄褐色(10YR5/4) 粗砂粒 | 19 暗褐色(10YR3/3) 砂
炭化物・焼土粒・砂利が混じる 縮まりあり |
| 5 黒褐色(10YR2/3) 砂
焼土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる
縮まりゆるい | 20 暗褐色(10YR3/3) 砂質シルト
焼土粒・炭化物・砂利が混じる 縮まりあり |
| 6 炭化物が帯状に堆積する | 21 暗褐色(10YR3/3) 砂に黒褐色(10YR3/1) シルトブロックが混じる |
| 7 暗褐色(10YR3/3) 砂
焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり | 22 黒褐色(2.5Y3/2) 砂質シルトに褐色(10YR3/4) 砂が混じる
炭化物が多量に混じる 縮まりゆるい |
| 8 黒褐色(10YR2/3) 砂
焼土粒・炭化物・砂利が混じる 縮まりあり | 23 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 砂
炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり |
| 9 黒褐色(10YR2/3) 砂
焼土粒・炭化物が多量に混じる 縮まりあり | 24 暗褐色(10YR3/4) 砂
炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり |
| 10 黒褐色(10YR2/3) 砂に褐色(10YR4/4) 砂が混じる
焼土粒・炭化物が混じる 縮まりあり | 25 暗褐色(10YR3/4) 砂に黒褐色(10YR3/2) シルトが混じる
炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい |
| 11 黒褐色(10YR2/3) 砂
焼土ブロック・炭化物ブロックが多量に混じる
縮まりあり | 26 暗褐色(10YR3/4) 砂質シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり |
| 12 黒褐色(10YR3/2) 砂
焼土ブロック・炭化物ブロックが多量に混じる
縮まりあり | 27 黒褐色(10YR3/2) 砂質シルトに暗褐色(10YR3/4) 砂が混じる
炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい |
| 13 黒褐色(10YR2/3) 砂
焼土粒・炭化物が混じる 縮まりあり | 28 にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい |
| 14 暗褐色(10YR3/3) 砂
焼土ブロック・炭化物が多量に混じる 縮まりあり | 29 オリーブ黒色(7.5Y3/1) シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる |
| 15 黒褐色(10YR3/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が混じる | |

II-A地点

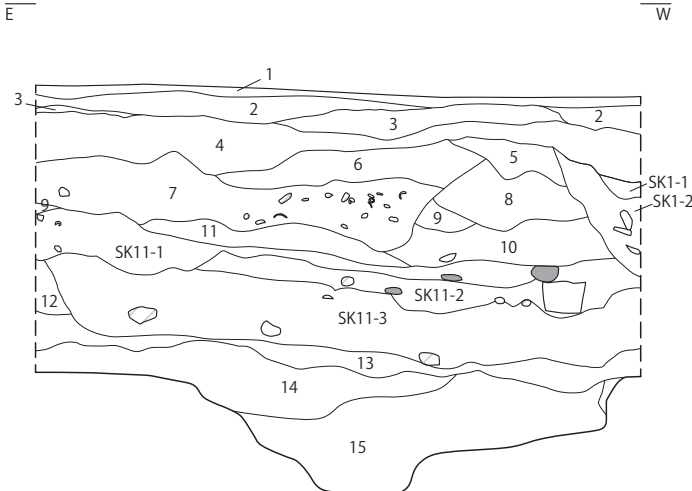


II-A地点基本層序

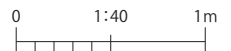
- 1 表土
 - 2 黒褐色(7.5YR3/2) 砂 焼土ブロック・炭化物が多量に混じる 戦災由来の焼土か
 - 3 黒褐色(10YR3/2) 砂 焼土ブロック・炭化物・径1cmの小石・コンクリート片が混じる 縮まりあり 近～現代の造成土
 - 4 黒褐色(10YR2/3) 砂ににぶい黄褐色(10YR7/3) 砂が混じる 焼土粒・炭化物・白色粒が多量に混じる 陶製の土管が埋設されている
 - 5 黒褐色(10YR2/3) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる
 - 6 暗褐色(10YR3/3) 砂質シルト 炭化物が微量に混じる 泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
 - 7 黒褐色(10YR3/2) シルト 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 縮まりあり
 - 8 黒褐色(10YR3/2) 砂質シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
 - 9 黒褐色(10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
 - 10 オリーブ黒色(5Y3/1) シルト 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- SS7-1 黒褐色(10YR3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる 径10～15cmの石を詰める

相生工区(2)

262.7m



- 1 表土・砕石層
 - 2 戦災焼土層
 - 3 黄褐色(2.5Y5/4) 砂 焼土粒・炭化物・砂利が極微量に混じる 縮まりあり
 - 4 黒褐色(10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物・砂利が混じる 縮まりあり
 - 5 黒褐色(10YR2/2) シルトに黒褐色(10YR2/3) 砂が混じる 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 縮まりゆるい
 - 6 黒褐色(10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 縮まりゆるい
 - 7 黒褐色(10YR2/2) 砂 炭化物が多量に混じる 焼土粒・白色粒が混じる 縮まりゆるい
 - 8 黒褐色(10YR3/2) 砂に黒褐色(10YR3/1) シルトブロックが混じる 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり
 - 9 黒褐色(10YR3/2) 砂質シルトに砂が混じる 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
 - 10 黒褐色(10YR3/2) 砂 炭化物が混じる 泥岩粒が極微量に混じる 縮まりあり
 - 11 黄褐色(2.5Y5/3) 砂に黒褐色(10YR3/1) シルトブロックが混じる 炭化物・白色粒が混じる 泥岩粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
 - 12 黒褐色(2.5Y3/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
 - 13 黒褐色(2.5Y3/1) シルトに砂利が混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
 - 14 暗灰黄色(2.5Y4/2) 粗粒砂
 - 15 灰黄褐色(10YR4/2) 粗粒砂
- SK1-1 黒褐色(10YR2/3) 砂に黒色(10YR2/1) シルト・褐色(10YR4/4) 砂が混じる 焼土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- SK1-2 黒褐色(10YR2/3) 砂に黒色(10YR2/1) シルト・褐色(10YR4/4) 砂が混じる 焼土粒・炭化物が混じる 瓦片・木片が多量に堆積する 縮まりゆるい
- SK11-1 黒褐色(10YR3/1) シルトに黄褐色(2.5Y5/3) 砂が混じる 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる
- SK11-2 黒褐色(10YR3/1) シルト 炭化物が微量に混じる 泥岩粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- SK11-3 黒色(10YR2/1) 砂質シルト 木片が多量に堆積する 炭化物・砂利が微量に混じる 縮まりゆるい



第5図 基本層序(2)

第4章 I工区の調査

第1節 遺構と遺物

第1項 I-①区(第6図)

土坑

①-SK1(第11図)

F46 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 2.42 m、短軸 2.34 m、深さ 24cmを測る。多量の焼土、炭化物が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した土坑であると考えられる。切り合いでは①-SP1 より古く、時期は近世と考えられる。

①-SK2(第12図)

G46 グリッドに位置する。56cm×52cmの範囲に焙烙の破片が散乱しており、焙烙を据え置いていた状況が考えられる。時期は近世と推測される。

①-SK3(第12図)

H46 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.49 m、短軸 0.39 m、深さ 42cmを測る。瀬戸美濃系の猪口が出土している。時期は出土遺物より 19 世紀と考えられる。

①-SK4(第12図)

H46 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.7 m、短軸 0.63 m、深さ 42cmを測る。桶が埋設されており、桶の内部から漆椀が出土した。切り合いでは①-SS1 により古い。便槽遺構の可能性はある。時期は近世と推測される。

①-SK5(第12図)

G46 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.07 m、短軸 0.9 m、深さ 14cmを測る。西側に開く弧状に石が配置され、内面は被熱し、灰、焼土粒、炭化物が堆積している。カマドあるいは炉跡と考えられる。切り合いでは①-SK6 より新しい。時期は不明である。

①-SK6(第12図)

G46 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.75 m、短軸 0.71 m、深さ 5cmを測る。被熱し、灰、炭化物が堆積している。切り合いでは①-SK5 より古い。時期は不明である。

①-SK7(第12図)

H46 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.72 m、短軸 0.64 m、深さ 9cmを測る。切り合いでは①-SP12 より古い。時期は不明である。

①-SK8(第11図)

F47 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 1.09 m、短軸 0.46 m、深さ 22cmを測る。桶の底板、側板が出土し、桶が埋設されていた可能性がある。肥前系の半球形碗が出土している。切り合いでは①-SS1 より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀中葉～19 世紀初頭と考えられる。

①-SK9(第11図)

F46 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.68 m、短軸 0.34 m、深さ 17cmを測る。西側の大半にカクランを受けている。時期は不明である。

①-SK10(第12図)

H45 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.57 m、短軸 0.5 m、深さ 25cmを測る。磁器の碗・陶器の甬瓶が出土している。時期は出土遺物より近世と考えられる。

①-SK11(第13図)

G46 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 2.62 m、短軸 0.42 m、深さ 22cmを測る。西側の大半にカクランを受けている。多量の焼土、炭化物が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した土坑

であると考えられる。切り合いでは①-SS1より古い。時期は近世と推測される。

①-SK12(第13図)

H46グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.35m、短軸0.32m、深さ20cmを測る。多量の焼土粒、炭化物が堆積している。時期は不明である。

①-SK13(第12図)

H46グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.86m、短軸0.84m、深さ27cmを測る。桶が埋設されており、桶の内部より肥前系の磁器碗が出土している。便槽遺構の可能性はある。時期は出土遺物より近世と考えられる。

①-SK14(第13図)

H46グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.59m、短軸0.23m、深さ22cmを測る。桶が埋設されている。便槽遺構の可能性はある。時期は近世と推測される。

①-SK16(第13図)

G46グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.95m、短軸0.44m、深さ70cmを測る。内面は被熱し、灰、焼土が多量に堆積する。カマドあるいは炉跡と考えられる。時期は不明である。

①-SK19(第13図)

G・H46グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.96m、短軸0.88m、深さ11cmを測る。内面は被熱し、焼土、炭化物を含む土が堆積しており、カマド跡と考えられる。時期は不明である。

①-SX1(第12図)

H45・46グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.57m、短軸0.55m、深さ34cmを測る。甕が埋設されており、便槽遺構の可能性はある。時期は近代と推測される。

石列

①-SS1(第15図)

F47～H46・47グリッドに位置する石列で、①区を南北方向に横断し、両端は調査区外へと延びる。軸方向はN-11°-Eを指す。カクランにより上層の石積みが崩れている。北側と南側で石の積み方が異なる。北側は径12～14cmの木杭を打ち込み、その上に枕木を渡した後、胴木を架ける。その後68×48×34cmの四角錐状の石を積む。石の平面は東を向いている。南側は直接胴木を設置し、その上に石を積んでいる。②区②-SS1と同様の構造をしている。周辺からは幕末から明治にかけての遺物が出土しており、近代まで使用されていた土地境の石列であると考えられる。

①-SS2(第15図)

F47グリッドに位置する石列で、南北方向に35×32×23cm程度の石が並ぶ。軸方向はN-9°-Eを指す。

①-SS4(第15図)

H45・46グリッドに位置する。東西方向に延びる石列で、両端は調査区外へと延びる。軸方向はN-169°-Wを指す。径6cmの胴木の上に52×20×26cmの四角錐状の石を積む。石の平面は南に向ける。切り合いは①-SS5より新しい。近代の土地境の石列であると考えられる。

礎石・柱列

①-SK17・①-SP1・①-SP3・①-SP5・①-SS3(第13・14・15図)

①区中央部で検出した。北から①-SP1・①-SS3・①-SP3・①-SP5・①-SK17の5基が並ぶ。軸方向はN-8°-Eで①-SP2・①-SP8・①-SP6・①-SK15とほぼ平行に並ぶ。それぞれの間隔は約3.2～4.6mを測る。切り合いから時期は近代と推測される。

① -SK17(第13図)

H46 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.53 m、短軸 0.5 mを測る。32 × 16 × 13cmの扁平な石が埋設されており、礎石の可能性はある。石の下層では植物繊維が多量に混じった土が続き、腐食した打ち込み杭の痕跡であると考えられる。

① -SP1(第14図)

F46 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.78 m、短軸 0.79 m、深さ 46cmを測る。径 12cmの木杭を3本打ち込み、その上に 40 × 32 × 17cmの平らな石を置いて礎石としている。礎石の周囲には径 10 ～ 20cmの根石を充填している。切り合いでは① -SK1 より新しい。

① -SP3(第14図)

G46 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.74 m、短軸 0.71 m、深さ 10cmを測る。径 13cmの木杭を3本打ち込み、その上に 40 × 32 × 17cmの平らな石を置いて礎石としている。礎石の周囲に径 10 ～ 20cm大の根石を充填している。

① -SP5(第14図)

H46 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.68 m、短軸 0.66 m、深さ 22cmを測る。42 × 22 × 24cmの平らな石を置き、礎石としている。周囲に径 8 ～ 16cmの根石を充填する。

① -SS3(第15図)

G46 グリッドに位置する石列で、① -SP3 を挟んで南北方向に 35 × 32 × 23cm程度の方形の石が並んでいる。

① -SK15・① -SP2・① -SP8・① -SP6(第12・14図)

①区西側で検出した。北から① -SP2、① -SP8、① -SP6、① -SK15 の4基が並ぶ。軸方向はN - 9° - Eで① -SP2・① -SP8・① -SP6・① -SK15 とほぼ平行に並ぶ。それぞれの間隔は約 1.8 ～ 3.2 mを測り、平行に並ぶ① -SP3・① -SP5・① -SK17 との間隔は約 1.8 ～ 1.9 mを測る。時期は近代と推測される。

① -SK15(第12図)

H46 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.53 m、短軸 0.5 m、深さ 20cmを測る。40 × 28 × 12cmの平らな石が埋設されており、礎石の可能性はある。

① -SP2(第14図)

G46 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.71 m、短軸 0.7 m、深さ 40cmを測る。径 13cmの木杭を3本打ち込み、周囲に径 10 ～ 16cmの根石を充填する。礎石は検出されなかった。

① -SP6(第14図)

G・H46 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.61 m、短軸 0.56 m、深さ 22cmを測る。46 × 22 × 21 cmの平らな石を置いて礎石としている。礎石の周囲に径 8 ～ 10cmの根石を充填している。

① -SP8(第14図)

G46 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.48 m、短軸 0.45 m、深さ 6cmを測る。径 14cmの木杭が3本打ち込まれている。

集石土坑

① -SP7(第12図)

H46 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.71 m、短軸 0.81 m、深さ 35cmを測る。径 10 ～ 16cmの礫が充填されている。時期は不明である。

① -SS5(第12図)

H46 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.62 m、短軸 0.57 m、深さ 38cmを測る。径 5 ～ 10cmの礫が充填されている。切り合いは① -SS4 より古い。時期は不明である。

第2項 I - ②区(第6図)

土坑

②-SK1(第16図)

F43・44～G43・44 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.08 m、短軸 1.25 m、深さ 20cmを測る。南側はカクランを受けている。多量の焼土、炭化物が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した土坑であると考えられる。19世紀中葉から後葉にかけての磁器、陶器が出土している。切り合いは②-SK10、②-SK11より新しい。時期は出土遺物より19世紀中葉から後葉と考えられる。

②-SK2(第16図)

G44 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.84 m、短軸 0.66 m、深さ 15cmを測る。多量の焼土、炭化物が堆積している。時期は不明である。

②-SK3(第16図)

H44 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.8 m、短軸 0.72 m、深さ 18cmを測る。磁器の蓋が出土している。時期は出土遺物より近世と考えられる。

②-SK4(第16図)

H43 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.96 m、短軸 0.42 m、深さ 14cmを測る。南側はカクランを受けている。時期は不明である。

②-SK8(第16図)

H43・44 グリッドに位置する。平面形は円形で、長軸 0.86 m、短軸 0.79 m、深さ 14cmを測る。切り合いは②-SK9より新しい。時期は不明である。

②-SK9(第16図)

H43 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.09 m、短軸 0.84 m、深さ 14cmを測る。切り合いは②-SK8より古い。時期は不明である。

②-SK10(第16図)

F・G44 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.92 m、短軸 0.79 m、深さ 22cmを測る。径 19cmの木杭を6本打ち込み、北側に 46×44×10cm、南側に 52×46×14cmの平らな石を置き礎石としている。礎石の周囲には径 12～18cmの根石を充填している。瀬戸美濃系の磁器碗が出土しているが構築時の混入と考えられる。切り合いは②-SK1より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より19世紀と考えられる。

②-SK11(第16図)

G43 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられ、長軸 1.58 m、短軸 0.52 m、深さ 30cmを測る。径 10～23cmの木杭を6本打ち込み、北側に 51×49×14cmの板石を置き、その上に 58×44×10cmの板石をのせる。南側には 42×40×12cmの板石を置き、その上に 56×46×10cm、44×38×10cmの板石をのせて礎石としている。礎石の周囲には径 10～14cmの根石を充填した痕跡が認められ、②-SK10と同様の構造をしている。切り合いは②-SK1・②-SS1より古い。時期は19世紀と推測される。

②-SK13(第17図)

H・I43 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.86 m、短軸 0.79 m、深さ 12cmを測る。桶の底板が出土し、桶が埋設されていたと考えられる。西側の大部分を②-SS1により切られており、切り合いは②-SS1・②-SX1より古い。時期は近世のものと推測される。

②-SX1(第17図)

I43 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.75 m、短軸 0.6 m、深さ 42cmを測る。甕が埋設されており、便槽遺構の可能性もある。切り合いは②-SK12・②-SK13より新しい。時期は近代と推測される。

木組み遺構

②-SK12(第18図)

H・I43 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.51 m、短軸 1.48 m、深さ 56cmを測る。中心には径 20 cmの柱が据えられており、柱の上下 2 か所に直行するホゾ穴をあけ、それぞれに角材を貫通させている。角材の上には井桁状に複数本の角材を配置している。何らかの建造物の基礎と推測される。切り合いは②-SX1・②-SP6・②-SP7 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

石列

②-SS1(第19図)

E43～I43 グリッドに位置する石列で、②区を南北方向に横断し、両端は調査区外へと延びる。N-12°-Eを指す。北側と南側で石の積み方が異なる。北側は径 12～14cmの木杭を打ち込み、その上に枕木を渡した後、胴木を架ける。その上に 83×44×32cmの四角錐状の石を積む。南側は直接胴木を 3 本並べ、その上に 62×44×28cmの四角錐状の石を積んでいる。石の平面は西を向いている。①区①-SS1と同様の構造をしている。幕末から明治の磁器、陶器、ガラス製品が出土しており、近代まで使用されていた土地境の石列であると考えられる。

礎石・柱列

②-SP2・②-SP3・②-SP5(第17図)

②区東側で検出した。北から②-SP2・②-SP3・②-SP5の3基が並ぶ。軸方向はN-9°-Eを指す。それぞれの間隔は約 2.7～2.8 mを測る。②-SK11・②-SP4 とほぼ平行に並ぶ。時代は近代と推測される。

②-SP2(第17図)

G44 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.73 m、短軸 0.66 m、深さ 34cmを測る。径 14cmの木杭を 3 本打ち込み、その上に 49×49×16cmの平らな石を置き、礎石としている。礎石の周囲には径 10～12cmの根石を充填している。西側には②-SK10・②-SK11の礎石がE-10°-Sの軸線上に位置している。それぞれの間隔は約 1.8 mを測る。古い礎石(柱)を再利用している可能性がある。

②-SP3(第17図)

G44 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.71 m、短軸 0.62 mを測る。径 14cmの木杭を 3 本打ち込み、その上に 51×50×19cmの平らな石を置き、礎石としている。礎石の周囲には径 10～12cmの根石を充填している。

②-SP5(第17図)

H44 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.46 m、短軸 0.44 mを測る。径 12cmの木杭を 3 本打ち込み、その上に 52×36×13cmの平らな石を置き、礎石としている。礎石の周囲には 10～14cmの根石を充填している。北側はカクランを受けている。

②-SK11・②-SP4(第16・17図)

②区西側で検出した。②-SK11・②-SP4の2基が並ぶ。②-SK11が1つの土坑内に2か所の礎石を据えており、②-SP4と形態に差異が認められる。軸方向はN-9°-Eを指す。②-SK11の南側の礎石と②-SP4の礎石との間隔は約 3.7 mを測る。

②-SP4(第17図)

G・H43 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.76 m、短軸 0.76 m、深さ 21cmを測る。径 14cmの木杭を 3 本打ち込み、その上に 56×42×13cmの平らな石を置き、礎石とする。礎石の周囲に径 10～12cmの根石を充填している。

集石土坑

② -SS2(第 17 図)

H43 グリッドに位置する。平面は円形で長軸 0.49 m、短軸 0.45 m、深さ 16cmを測る。径 8～9cmの礫が充填されている。時期は不明である。

第 3 項 I - ③区 (第 7 図)

土坑

③ -SK1(第 20 図)

H・I40 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.6 m、短軸 0.8 m、深さ 14cmを測る。北側の大部分が試掘トレンチにより切られている。キセルの吸口が出土している。切り合いは③ -SK4 より新しく、③ -SD1 より古い。時期は不明である。

③ -SK2(第 20 図)

H40 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.75 m、短軸 0.3 m、深さ 26cmを測る。切り合いは③ -SD3 より新しい。時期は不明である。

③ -SK3(第 20 図)

H40 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.0 m、短軸 0.96 m、深さ 44cmを測る。時期は不明である。

③ -SK4(第 20 図)

H40 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 0.8m、短軸残存長 0.7m、深さ 5cmを測る。木片が散乱し、19 世紀中葉頃の陶磁器・土製品が出土している。切り合い関係は③ -SK1 より古く、③ -SK13 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

③ -SK5(第 21 図)

I39・40 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられ長軸 3.09 m、短軸 2.56 m、深さ 9cmを測る。多量の焼土、炭化物が堆積していた。土器の灯明皿が出土している。切り合いは③ -SK12・③ -SK15・③ -SE1 より新しく、③ -SK4・③ -SD1 より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より近世と考えられる。

③ -SK6(第 21 図)

H40 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.48 m、短軸 0.29 m、深さ 14cmを測る。時期は不明である。

③ -SK7(第 21 図)

G40 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.65 m、短軸 0.25 m、深さ 23cmを測る。底には幅 10cmのホゾ穴の開いた長方形の部材が置かれ、20～30cmの石に囲まれていた。遺構の時期・性格は不明である。

③ -SK8(第 22 図)

J39 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.4 m、短軸 0.31 m、深さ 30cmを測る。時期は不明である。

③ -SK9(第 21 図)

G・H40 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.07 m、短軸 1.31 m、深さ 30cmを測る。多量の焼土、炭化物が堆積しており火災等で発生したゴミを投棄した土坑であると考えられる。19 世紀中葉から後葉にかけての磁器、陶器が出土している。切り合いは③ -SS2・③ -SX1 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 19 世紀中葉から後葉と考えられる。

③ -SK12(第 21 図)

I40 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.5m、短軸 0.8m、深さ 10cmを測る。瀬戸美濃系の柳茶碗が出土している。切り合いは③ -SK5 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より近世と考えられる。

③ -SK13(第 20 図)

I40 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.88 m、短軸残存長 1.73 m、深さ 20cmを測る。桶の底板

などが散乱している。切り合いは③-SK5より新しく、③-SK4より古い。木杭が4本打ち込まれているが、桶の底板を切る。木杭の周辺はカクランを受けており、木杭は現代のものと考えられる。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

③-SK14(第22図)

I39グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.42m、短軸0.3m、深さ22cmを測る。径8cmの木杭が打ち込まれている。時期は不明である。

③-SK15(第21図)

I40グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.46m、短軸0.3m、深さ13cmを測る。切り合いは③-SK5より古い。時期は近世と推測される。

③-SX1(第22図)

G・H40グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸2.55m、短軸2.04m、深さ2.8mを測る。暗灰黄色シルトが斑に混ざった黒色シルトが堆積していた。磁器の皿が出土している。切り合いは③-SD3より新しく、③-SK9・③-SS1より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より近世と考えられる。

礎石・柱列

③-SS1・③-SS2(第23図)

③区北側で検出した。西から③-SS1・③-SS2の2基が並ぶ。軸方向はE-5°-Sを指す。約1.8mの間隔を測る。時期は切り合い関係より近代と推測される。

③-SS1(第23図)

G・H40グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.69m、短軸0.66m、深さ39cmを測る。径12cmの木杭を2本打ち込み、木杭の径12～16cmの根石を充填する。礎石は検出されなかった。切り合いでは③-SX1より新しい。

③-SS2(第23図)

G・H40グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.82m、短軸0.66m、深さ39cmを測る。径13～21cmの木杭を3本打ち込み、木杭の周囲に径12～18cmの根石を充填する。礎石は検出されなかった。切り合いでは③-SK9より古い。

集石土坑(SK)

③-SK10(第22図)

I39グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.62m、短軸0.43m、深さ21cmを測る。径10～20cmの礫が充填されている。時期は不明である。

③-SK11(第22図)

I39グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.66m、短軸0.43m、深さ21cmを測る。径10～16cmの礫が充填されている。時期は不明である。

井戸

③-SE1(第23図)

I・J40グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸1.44m、短軸0.88m、深さ2.6mを測る。石組の井戸で開口部の径は44cmを測る。構築材の一部に石臼を転用していた。切り合いは③-SK5より古い。時期は近世と考えられる。

③-SE2(第23図)

H39・40グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸1.3m、短軸1.28m、深さ1.4mを測る。桶が埋設さ

れ、北西と南に竹製の管が接続されている。桶内部より近代の磁器、ビール瓶、歯ブラシ等が出土している。近代に廃絶されたと考えられる。

溝

③-SD1(第24図)

H39・40～J39グリッドに位置する。③区の南北方向に走る。北側は③-SE2と接続し、南側は調査区外へと延びる。幅24cm、深さ45cmを測る。軸方向はN-9°-Eを指す。竹樋が埋設されており、③-SE2の埋桶に接続していた。上水施設と考えられる。切り合いは③-SD4より新しい。時期は近代と考えられる。

③-SD2(第24図)

H39・40グリッドに位置する。3区の東西方向に走る。西側は調査区外へと延びる。幅40cm、深さ4cmを測る。切り合いは③-SD3より新しい。軸方向はE-9°-Sを指す。時期は近代と推測される。

③-SD3(第24図)

H40グリッドに位置する。③区の北西から南東方向に走る。北側は③-SX1により切られ、南側は調査区外へと延びる。幅31cm、深さ38cmを測る。軸方向はE-44°-Sを指す。竹樋を埋設した痕跡が残り、木製の土台が出土している。切り合いは③-SK2・③-SX1・③-SD2より古い。時期は切り合い関係より近世と推測される。

③-SD4(第24図)

I39・40グリッドに位置する。3区の東西方向に走り、両端は調査区外へと延びる。幅19cm、深さ11cmを測る。軸方向はE-3°-Sを指す。竹樋が埋設されており、上水施設と考えられる。切り合いは③-SK4・③-SD2より古い。時期は切り合い関係より近世と推測される。

第4項 I-④区(第7図)

土坑

④-SK1(第25図)

F38グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.62m、短軸0.24m、深さ15cmを測る。32×22×15cmの平らな石を埋設する。礎石と考えられる。寛永通宝が出土している。切り合いは④-SD1より新しい。時期は不明である。

④-SK3(第27図)

F38グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長1.3m、短軸残存長1.1m、深さ22cmを測る。切り合いは④-SP1より古い。時期は不明である。

④-SK4(第25図)

F38グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.55m、短軸0.54m、深さ16cmを測る。肥前系京焼風陶器が出土している。切り合いは④-SK8より古い。時期は出土遺物より17世紀中葉から18世紀後葉と考えられる。

④-SK5(第25図)

F38グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.55m、短軸0.54m、深さ16cmを測る。桶が埋設されており、桶内部から陶磁器が出土している。切り合いは④-SD1より新しい。時期は出土遺物より近世と考えられる。

④-SK7(第25図)

F38グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.33m、短軸0.24m、深さ21cmを測る。切り合いは④-SS1より古い。時期は不明である。

④-SK8(第25図)

F38グリッドに位置する。平面形は円形で長軸1.12m、短軸0.77m、深さ28cmを測る。青灰色シルトが混じる黒色シルトが堆積している。切り合いは④-SK4より新しい。時期は不明である。

石列

④ -SS1(第 27 図)

④区中央部で検出した。③区を南北方向に横断し、両端は調査区外へと延びる。軸方向はN-11°-Eを指す。径 8cmの胴木の上に 26 × 25 × 20cmの方形の石を積む。石の平面は西に向けている。石積の下層から 17 世紀～明治初頭にかけての磁器、陶器が散乱していた。切り合いは④ -SK7・④ -SP3・④ -SP4・④ -SD1 より古い。近世から明治に至るまで使用されていた土地境の石列であると考えられる。

礎石・柱列

④ -SP1・④ -SP2・④ -SS3(第 25・27 図)

④区中央部で検出した。北から④ -SP1・④ -SS3・④ -SP2 の 3 基が並ぶ。軸方向はN-11°-Eを指す。時期は不明である。

④ -SP1(第 25・27 図)

F38 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.89 m、短軸 0.78 m、深さ 57cmを測る。径 20～40cmの方形の石を埋設する。

④ -SP2(第 25・27 図)

F38 グリッドに位置する。平面は円形で長軸 0.68 m、短軸 0.67 m、深さ 20cmを測る。径 14～40cmの平たい石を埋設する。

④ -SS3(第 27 図)

F38 グリッドに位置する。径 20～40cmの石が据えられている。礎石の可能性はある。

集石土坑

④ -SS2(第 27 図)

F38 グリッドに位置する。長軸 1 m、短軸 0.7 mの円形の範囲に径 4～20cmの礫が密集して広がっている。時期・性格は不明である。

溝

④ -SD1(第 26 図)

F38 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.2 m、短軸 1.72 m、深さ 39cmを測る。切り合いは④ -SK1・④ -SK5・④ -SP1・④ -SS1・④ -SS2 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

第 5 項 I - ⑤区(第 7 図)

土坑

⑤ -SK1(第 28 図)

H36・37～I36・37 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 3.3 m、短軸 2.54 m、深さ 27cmを測る。多量の焼土、炭化物が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した土坑であると考えられる。近世の陶磁器が出土している。切り合いは⑤ -SK8・⑤ -SP2 より新しく、⑤ -SD1 より古い。時期は近世と考えられる。

⑤ -SK2(第 29 図)

I36 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.57 m、短軸 0.42 m、深さ 18cmを測る。切り合いは⑤ -SK3 より新しく、⑤ -SP1・⑤ -SD1 より古い。時期は不明である。

⑤ -SK3(第 29 図)

I36・37 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 3.62 m、短軸 2.32 m、深さ 50cmを測る。多量の焼土、炭化物が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した土坑であると考えられる。18 世紀の陶磁器が出土

している。切り合いは⑤-SK2・⑤-SK6・⑤-SP1・⑤-SD1・⑤-SD3より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より18世紀中葉から後葉と考えられる。

⑤-SK4(第29図)

I37グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.65m、短軸0.5m、深さ57cmを測る。時期は不明である。

⑤-SK5(第29図)

I37グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.52m、短軸0.5m、深さ19cmを測る。下層に炭化物が堆積している。時期は不明である。

⑤-SK6(第29図)

I・J36グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.43m、短軸0.25m、深さ12cmを測る。切り合いは⑤-SK3より新しい。時期は不明である。

⑤-SK7(第29図)

I37グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.3m、短軸0.29m、深さ3cmを測る。時期は不明である。

⑤-SK8(第29図)

I37グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.4m、短軸0.36m、深さ10cmを測る。時期は不明である。

⑤-SK9(第29図)

I37グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.39m、短軸0.3m、深さ14cmを測る。時期は不明である。

⑤-SK12(第29図)

I37グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.56m、短軸0.44mを測る。土坑内に桶の底板が残存していた。桶を埋設していた可能性がある。志野の小皿が出土している。切り合いは⑤-SS1より古い。時期は17世紀と考えられる。

⑤-SK13(第30図)

H・I37グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.42m、短軸0.25m、深さ30cmを測る。時期は不明である。

⑤-SK14(第30図)

I37グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.67m、短軸0.6m、深さ1cmを測る。切り合いは⑤-SD4より新しい。時期は不明である。

⑤-SK15(第29図)

I37グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.66m、短軸0.78m、深さ25cmを測る。桶が埋設されている。便槽遺構の可能性がある。切り合いは⑤-SS1より古い。時期は近世と考えられる。

⑤-SK16(第31図)

I37グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長1.3m、短軸残存長0.85m、深さ35cmを測る。切り合いは④-SS1より古く、④-SD1より新しい。時期は近世と考えられる。

⑤-SK17(第30図)

H37グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.71m、短軸0.66m、深さ12cmを測る。切り合いは⑤-SS1より古い。時期は不明である。

⑤-SK18(第30図)

H37グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.53m、短軸0.4m、深さ21cmを測る。切り合いは⑤-SD1・⑤-SS1より古い。時期は不明である。

木組み遺構

⑤-SX1(第31図)

I37・38グリッドに位置する。上下2か所に直行するホゾ穴をあけ、角材を貫通させる。上段の角材の上に家屋の転用材及び円柱状の木材を密に並べている。何らかの構造物の基礎である可能性が考えられる。切り

合いは⑤-SP6・⑤-SS1より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

石列

⑤-SS1・⑤-SS2(第32図)

⑤区東側より検出した。⑤区を南北方向に横断し、両端は調査区外へと延びる。⑤-SS1と⑤-SS2は石積み
の平面を向け合い、間に溝を形成している。軸方向は⑤-SS1がN-13°-E、⑤-SS2がN-12°-Eを指す。
④区の石列④-SS1とは軸方向がややずれる。⑤-SS1は径12cmの胴木を2本並べ、その上に70×40×26
cmの四角錐状の石を積む。隙間に径9～12cmの根石を充填している。⑤-SS2は径14cmの胴木を据え、その
上に32×28×22cmの四角錐状の石を積む。隙間に径10～12cmの根石を充填している。幕末から明治に
かけての磁器、陶器、石製品が出土しており、近世から近代に至るまで使用されていた土地境の石列であると
考えられる。

礎石・柱列

⑤-SP5・⑤-SP6(第30図)

⑤区東側より検出した。北から⑤-SP5・⑤-SP6の2基が並ぶ。軸方向はN-11°-Eを指す。約3.5mの間
隔を測る。④区の柱列④-SP1・④-SP2と同軸上に位置している。時期は不明である。

⑤-SP5(第30図)

H38グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.84m、短軸0.65m、深さ60cmを測る。径10～20cm
の礫を充填し、その上に52×42×19cmの平らな石を置き礎石としている。切り合いは⑤-SS2より古い。

⑤-SP6(第30図)

I37グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.77m、短軸0.69m、深さ52cmを測る。径10～30cmの
礫を充填し、その上に51×48×19cmの平らな石を置き礎石としている。切り合いは⑤-SS2・⑤-SX1より古い。

建物基礎

⑤-SD1(第32図)

⑤区をL字状に囲っている。南端は調査区外へと延び、東端は⑤-SS1により切られている。北側はカクラン
を受ける。幅0.92m、深さ1.0mを測る。径14cmの胴木を3本並べ、土の層と礫層が互層状に堆積している。
複数回作り替えを行っていた可能性がある。肥前系の猪口、京・信楽系の灯明受皿が下層より出土している。
切り合いは⑤-SK1・⑤-SK2・⑤-SK3・⑤-SS1より古い。西の辺の軸方向はN-12°-Eを指す。時期は出
土遺物と切り合い関係から近世から近代まで、作り変えを繰り返しながら使用されていた建物の基礎である可
能性が考えられる。

溝

⑤-SD3(第29図)

I36・37グリッドに位置する。幅40cm、深さ12cmを測る。軸方向はほぼ北を向き、わずかに西に振れる。切
り合いは⑤-SK3より新しい。時期は不明である。

⑤-SD4(第31図)

I37・38グリッドに位置する。竹樋を埋設しており、木製の土台を通り、くの字に曲がっている。南端と東
端は調査区外へと延びる。上水施設と考えられ、③区の③-SD4と接続する可能性がある。切り合いは⑤
-SK14・⑤-SS1・⑤-SS2より古い。西側の辺の軸方向はN-17°-Eを指す。

第6項 I - ⑥区(第8図)

土坑

⑥-SK2(第33図)

I33 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.23 m、短軸 0.76 m、深さ 40cmを測る。多量の焼土、炭化物が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した土坑であると考えられる。磁器の碗、皿、蓋などが出土している。切り合いは⑥-SK38 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉から後葉と考えられる。

⑥-SK3(第33図)

J34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.78 m、短軸 0.7 m、深さ 13cmを測る。切り合いは⑥-SK40 より新しく、⑥-SP1 より古い。時期は不明である。

⑥-SK4(第33図)

J35 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 1.03 m、短軸 0.25 m、深さ 28cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK5(第33図)

J35 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.48 m、短軸 0.47 m、深さは 37cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK6(第33図)

I34・35、J34・35 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.32 m、短軸 1.25 m、深さ 37cmを測る。肥前系の磁器の碗、蓋が出土している。下層より柱材や板材の残骸が多量に出土しているが、下層の⑥-SK17 に投棄されたものが出土していると推測される。切り合いは⑥-SK17 より新しい。時期は出土遺物から 18 世紀中葉から 19 世紀初頭と考えられる。

⑥-SK7(第33図)

J34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1 m、短軸 0.93 m、深さ 23cmを測る。土坑の中央からやや東よりに木杭が打ち込まれており、樹皮が散乱していた。切り合いは⑥-SS7 より古い。時期は不明である。

⑥-SK10(第33図)

J35 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.17 m、短軸 1.03 m、深さ 29cmを測る。切り合いは⑥-SS6 より古い。時期は不明である。

⑥-SK11(第33図)

I・J35 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.73 m、短軸 0.7 m、深さ 37cmを測る。坑底に 37 × 30 × 14cmの平らな石を埋設している。礎石の可能性はある。時期は不明である。

⑥-SK12(第33図)

J35 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.98 m、短軸 0.96 m、深さ 14cmを測る。切り合いは⑥-SS9 より古い。時期は不明である。

⑥-SK13(第34図)

J33 グリッドに位置する。平面形は方形と思われる、長軸 2.29 m、短軸 1.89 m、深さ 46cmを測る。多量の柱材、板材の残骸、礫が投棄されており、ゴミ処理用の土坑と考えられる。肥前系の磁器碗、土器の灯明皿が出土している。切り合いは⑥-SK39 より古く、⑥-SK9・⑥-SK18・⑥-SS2 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

⑥-SK14(第34図)

H・I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.82 m、短軸 0.76 m、深さ 27cmを測る。甕が埋設されており、便槽遺構の可能性はある。切り合いは⑥-SK52・⑥-SS1 より新しい。時期は近代と考えられる。

⑥-SK15(第34図)

J33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.77 m、短軸 0.73 m、深さ 22cmを測る。切り合いは⑥-SE1 より古い。時期は不明である。

⑥ -SK16(第 34 図)

J33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.04 m、短軸 0.64 m、深さ 40cmを測る。切り合いは⑥ -SE1 より古い。時期は不明である。

⑥ -SK17(第 35 図)

I34・35 ～ J34・35 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 3.29 m、短軸 1.88 m、深さ 81cmを測る。多量の柱材、板材の残骸が投棄されており、ゴミ処理用の土坑と考えられる。肥前系の磁器碗が出土している。切り合いは⑥ -SK6・⑥ -SS1 より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

⑥ -SK18(第 42・43 図)

J33 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.32m、短軸残存長 0.26m、深さ 10cmを測る。土坑内には多量の磁器片が堆積していた。切り合い関係は⑥ -SS2 より古く、⑥ -SK13 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉から後葉と考えられる。

⑥ -SK19(第 35 図)

J34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.89 m、短軸 0.73 m、深さ 42cmを測る。桶が入れ子状に埋設されている。桶内には多量の焼土、炭化物が堆積していた。⑥ -SK20・⑥ -SK21・⑥ -SK48 と同軸上 (N - 12° - E) に位置する。便槽遺構の可能性ある。切り合いは⑥ -SS1・⑥ -SS2 より古い。時期は近世と推測される。

⑥ -SK20(第 35 図)

J34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.99 m、短軸 0.7 m、深さ 27cmを測る。桶が埋設されており、桶内には多量の焼土、炭化物が堆積していた。便槽遺構の可能性ある。切り合いは⑥ -SK34 より新しく、⑥ -SK21・⑥ -SS1・⑥ -SS2 より古い。時期は近世と推測される。

⑥ -SK21(第 35 図)

J34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.63 m、短軸 0.33 m、深さ 28cmを測る。桶が埋設されており、桶内には小石、炭化物が堆積していた。便槽遺構の可能性ある。切り合いは⑥ -SK34・⑥ -SK20 より新しく、⑥ -SS1・⑥ -SS2 より古い。時期は近世と推測される。

⑥ -SK23(第 36 図)

I33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.42 m、短軸 0.35 m、深さ 13cmを測る。切り合いは⑥ -SK31 より新しい。時期は不明である。

⑥ -SK24(第 36 図)

I33 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.38 m、短軸 0.37 m、深さ 8cmを測る。時期は不明である。

⑥ -SK25(第 36 図)

H33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.46 m、短軸 0.45 m、深さ 12cmを測る。時期は不明である。

⑥ -SK26(第 36 図)

G・H34 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.72 m、短軸 0.7 m、深さ 21cmを測る。切り合いは⑥ -SS12 より古い。時期は不明である。

⑥ -SK27(第 36 図)

J33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.29 m、短軸 0.29 m、深さ 9cmを測る。時期は不明である。

⑥ -SK28(第 36 図)

J34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.59 m、短軸 0.56 m、深さ 8cmを測る。時期は不明である。

⑥ -SK29(第 36 図)

J33・34 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.45 m、短軸 0.33 m、深さ 28cmを測る。時期は不明である。

⑥ -SK30(第 36 図)

H34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.44 m、短軸 0.43 m、深さ 15cmを測る。切り合いは⑥ -SK45 より新しい。時期は不明である。

⑥ -SK31(第 36 図)

I33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.38 m、短軸 0.28 m、深さ 7cmを測る。切り合いは⑥ -SK23 より古い。時期は不明である。

⑥ -SK32(第 36 図)

I33 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.5 m、短軸 0.85 m、深さ 26cmを測る。切り合いは⑥ -SK36・⑥ -SS2 より古い。時期不明である。

⑥ -SK33(第 37 図)

K34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.1 m、短軸 0.49 m、深さ 15cmを測る。切り合いは⑥ -SS2・⑥ -SS3 より古い。時期は不明である。

⑥ -SK34(第 37 図)

J34 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.09 m、短軸 1.79 m、深さ 29cmを測る。多量の木片、小礫が投棄され、植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑と考えられる。切り合いは⑥ -SK20・⑥ -SK21・⑥ -SP2・⑥ -SP23・⑥ -SS1・⑥ -SS2 より古い。時期は近世と推測される。

⑥ -SK35(第 37 図)

J33 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 0.87 m、短軸 0.33 m、深さ 33cmを測る。切り合いは⑥ -SP4 より古い。時期は不明である。

⑥ -SK36(第 36 図)

I33 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.52 m、短軸 0.72 m、深さ 26cmを測る。柱材、板材の残骸が投棄されている。ゴミ処理用の土坑の可能性はある。切り合いは⑥ -SK32 より新しく、⑥ -SP10・⑥ -SP31・⑥ -SS2 より古い。時期は近世と推測される。

⑥ -SK37(第 37 図)

J34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.2 m、短軸 1.15 m、深さ 31cmを測る。多量の木片が投棄され、植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑と考えられる。切り合いは⑥ -SP1・⑥ -SS1・⑥ -SS2・⑥ -SS3 より古い。時期は近世と推測される。

⑥ -SK38(第 37 図)

I33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.42 m、短軸 0.3 m、深さ 2cmを測る。切り合いは⑥ -SK2 より古い。時期は不明である。

⑥ -SK39(第 37 図)

J33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.53 m、短軸 0.47 m、深さ 18cmを測る。径 6～8cmの礫を充填し、その上に 30×30×15cmの平らな石を置いている。礎石の可能性はある。切り合いは⑥ -SK13・⑥ -SS2 より古い。時期は不明である。

⑥ -SK40(第 37 図)

J34 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.49 m、短軸 0.48 m、深さ 19cmを測る。切り合いは⑥ -SK3・⑥ -SP1 より古い。時期は不明である。

⑥ -SK41(第 37 図)

I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.36 m、短軸 0.32 m、深さ 38cmを測る。時期は不明である。

⑥ -SK42(第 38 図)

I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.23 m、短軸 0.19 m、深さ 11cmを測る。時期は不明である。

⑥ -SK43(第 38 図)

I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.18 m、短軸 0.17 m、深さ 6cmを測る。時期は不明である。

⑥ -SK44(第 38 図)

H33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.52 m、短軸 0.5 m、深さ 9cmを測る。時期は不明である。

⑥ -SK45(第 38 図)

H34 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.31 m、短軸 1.28 m、深さ 62cmを測る。下層に植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑であった可能性がある。陶器の播鉢が出土している。切り合いは⑥ -SK30 より古い。時期は近世と推測される。

⑥ -SK46(第 38 図)

H33 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.98 m、短軸 0.8 m、深さ 95cmを測る。切り合いは⑥ -SS10 より新しい。時期は近代と考えられる。

⑥ -SK47(第 37 図)

I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.62 m、短軸 0.6 m、深さ 17cmを測る。時期は不明である。

⑥ -SK48(第 38 図)

I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.76 m、短軸 0.74 m、深さ 23cmを測る。桶が埋設されている。便槽遺構の可能性がある。切り合いは⑥ -SS1 より古い。時期は近世と推測される。

⑥ -SK49(第 37 図)

I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.34 m、短軸 0.32 m、深さ 27cmを測る。時期は不明である。

⑥ -SK50(第 38 図)

H33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.3 m、短軸 0.28 m、深さ 30cmを測る。切り合いは⑥ -SP32 より古い。時期は不明である。

⑥ -SK51(第 38 図)

I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.46 m、短軸 0.44 m、深さ 10cmを測る。時期は不明である。

⑥ -SK52(第 38 図)

H・I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.82 m、短軸 0.78 m、深さ 36cmを測る。覆土に礫、木片が混じる。埋め桶の痕跡と推測される。切り合いは⑥ -SK53 より新しく、⑥ -SK14・⑥ -SS1 より古い。時期は近世と推測される。

⑥ -SK53(第 38 図)

H34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.52 m、短軸 0.5 m、深さ 23cmを測る。覆土に礫、木片が混じる。埋め桶の痕跡と推測される。土器の灯明皿が出土している。切り合いは⑥ -SK52・⑥ -SS1 より古い。時期は近世と推測される。

⑥ -SK54(第 38 図)

H34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.66 m、短軸 0.64 m、深さ 23cmを測る。覆土に多量の礫、木片が混じる。埋め桶の痕跡と推測される。切り合いは⑥ -SS1 より古い。時期は近世と考えられる。

⑥ -SK55(第 39 図)

H34 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.33 m、短軸 0.8 m、深さ 8cmを測る。切り合いは⑥ -SK56 より新しい。時期は不明である。

⑥ -SK56(第 39 図)

H34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 2.29 m、短軸 2.28 m、深さ 1.14 mを測る。多量の植物繊維が堆積していた。ゴミ処理用の土坑であったと推測される。肥前系京焼風陶器、土器の灯明皿が出土している。切り合いは⑥ -SK55・⑥ -SS1 より古い。時期は出土遺物から 17 世紀中葉から 18 世紀後葉と考えられる。

⑥ -SK57 (第 39 図)

H34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.52 m、短軸 0.5 m、深さ 14cmを測る。切り合いは SS1 より古い。時期は近世と考えられる。

⑥ -SK58 (第 39 図)

H34 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.32 m、短軸 0.28 m、深さ 7cmを測る。切り合いは⑥ -SS1 より古い。時期は不明である。

⑥ -SK59(第 39 図)

H34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.52 m、短軸 0.52 m、深さ 7cmを測る。切り合いは⑥ -SS1 より古い。時期は不明である。

⑥ -SX3(第 39 図)

H33 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.48 m、短軸 0.79 m、深さ 73cmを測る。時期は不明である。

⑥ -SX4(第 39 図)

H33・34 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.32 m、短軸 0.44 m、深さ 98cmを測る。時期は不明である。

石列

⑥ -SS1(第 42・43 図)

⑥区中央部より検出した。⑥区の中央部を南北方向に横断し、両端は調査区外へと延びる。2列の石積が石の平面を向け合い、間に溝を形成している。軸方向はN-11°-Eを指す。この軸方向は現在の土地区画とも合致している。胴木 3本並べているが、両側の2本は径10～12cmの丸太で、中央の1本は建物の梁材を転用している。胴木の上には40×30×28cmの四角錐状の石を積む。隙間には径10～12cmの根石を充填している。西側の列は小形の石を積んでいる。明治期の磁器の碗、陶器、土器が出土している。切り合いは⑥ -SK19・⑥ -SK20・⑥ -SK21・⑥ -SK37・⑥ -SK48・⑥ -SK52・⑥ -DK53・⑥ -SK54・⑥ -SK56・⑥ -SK57・⑥ -SK58・⑥ -SK59・⑥ -SS3より新しく、⑥ -SK14より古い。近代から現代に至るまで使用されていた土地境の石列であると考えられる。

礎石・柱列

⑥ -SS4・⑥ -SS5・⑥ -SS6・⑥ -SS7・⑥ -SS8・⑥ -SS9(第 42・43 図)

J34・35 グリッドで検出した。径10～20cmの石を集めて置いている。簡易的な礎石の可能性がある。切り合いは⑥ -SK7・⑥ -SK10・⑥ -SK12・⑥ -SK17より新しい。時期は近代と推測される。

⑥ -SS11・⑥ -SS12(第 42・43 図)

G33・34、H34 グリッドで検出した。幅24～26cmの方形の石を置き、周囲を径10cm前後の石で囲っている。切り合いは⑥ -SK26・⑥ -SD2より新しい。時期は近代と推測される。

建物基礎

⑥ -SS2(第 42・43 図)

I33・34～J33・34 グリッドで検出した。コの字状に⑥区の南側を囲う。南端は調査区外へと延び、東端は⑥ -SS1により切られている。幅62cm、深さ60cmを測る。径12～20cmの胴木を2本並べ、その上に径15～20cmの礫を敷き詰める。また1～1.3m前後の間隔で板石を配置している。建物の基礎か。径12～20cmの胴木を2本並べ、その上に径15～20cmの礫を敷き詰める。また1～1.3m前後の間隔で板石を配置している。建物の基礎と考えられる。西の辺の軸方向はN-12°-Eを指す。18世紀中葉から後葉の磁器の碗・段重・蓋・仏飯器が出土しているが、構築時の混入と考えられる。切り合いは⑥ -SK13・⑥ -SK18・⑥ -SK19・⑥ -SK20・⑥ -SK21・⑥ -SK32・⑥ -SK33・⑥ -SK36・⑥ -SK37・⑥ -SK39・⑥ -SS3より新しく、⑥ -SS1より古い。

時期は近代と推測される。

⑥-SS3(第42・43図)

J33・34 グリッドで検出した。L字状に曲がり、南端は調査区外へと延び、東端は⑥-SS1・⑥-SS2により切られている。西側はカクランを受ける。幅100cm、深さ34cmを測る。底に幅20～30cmの板石を敷き、礫、土を充填しその上にもう一段、板石を積んでいる。建物の基礎と考えられる。切り合いは⑥-SK21・⑥-SK33より新しく、⑥-SS1・⑥-SS2より古い。時期は近代と推測される。

⑥-SS10(第42・43図)

H・I33 グリッドで検出した。コの字状に曲がり、西端は調査区外へと延びる。幅62cm、深さ32cmを測る。径10～16cmの礫を充填している。建物の基礎と考えられる。土器の灯明皿、石臼が出土している。切り合いは⑥-SK44より新しく、⑥-SK46より古い。西の辺の軸方向はN-11°-Eを指す。時期は近代と推測される。

⑥-SD2(第42・43図)

G33 グリッドに位置する。L字状に曲り、西端と北端は調査区外へと延びる。幅47cm、深さ7cmを測る。切り合いは⑥-SP36より新しく、⑥-SS11より古い。建物の基礎の痕跡と考えられる。東の辺の軸方向はN-12°-Eを指す。時期は不明である。

集石土坑

⑥-SP1(第40図)

J34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.47m、短軸0.47m、深さ9cmを測る。径8～10cmの礫を充填する。切り合いは⑥-SK3・⑥-SK37・⑥-SK40より新しい。時期は不明である。

⑥-SP2(第40図)

J34 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.56m、短軸0.54m、深さ14cmを測る。径10～20cmの礫を充填する。切り合いは⑥-SK34・⑥-SP23より新しい。時期は不明である。

⑥-SE1(第34図)

J33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸1.22m、短軸1.17mを測る。上層は径10cmの石が詰められており、下層には88×74cmの巨石が埋設されていた。当初井戸として掘削を進めたが、用途不明の集積土坑であった。切り合いは⑥-SK15・⑥-SK16より新しい。時期は不明である。

溝

⑥-SD1(第42・43図)

J33 グリッドに位置する。幅0.46m、深さ17cmを測る。切り合いは⑥-SK9より新しく、⑥-SE1より古い。時期は不明である。

第7項 I-⑦区(第9図)

土坑

⑦-SK1(第44図)

H32 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸2.06m、短軸1.12m、深さ1.66mを測る。多量の木片、植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑の可能性が。肥前系の磁器、堺・明石系の播鉢が出土している。切り合いは⑦-SK21より新しい。時期は出土遺物より18世紀中葉から19世紀初頭と考えられる。

⑦-SK2(第45図)

K31 グリッドに位置する。トレンチ内で検出したため、平面形は不明である。桶が埋設されている。時期は不明である。

⑦ -SK3(第 45 図)

K31 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 1.0 m、短軸 0.5 m、深さ 1.2 mを測る。桶が埋設されていた。時期は不明である。

⑦ -SK4(第 44 図)

H30 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.32 m、短軸 0.3 m、深さ 19cmを測る。桶が埋設されていた。時期は不明である。

⑦ -SK5(第 44 図)

H30 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.22 m、短軸 0.19 m、深さ 72cmを測る。時期は不明である。

⑦ -SK6(第 44 図)

I32 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.42 m、短軸 0.37 m、深さ 56cmを測る。底に径 19cmの平たい石が置かれていた。簡易的な礎石の可能性もある。近代の磁器碗が出土している。時期は出土遺物から近代と考えられる。

⑦ -SK7(第 46 図)

I30 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.92 m、短軸 0.67 m、深さ 40cmを測る。切り合いは⑦ -SS1 より古い。時期は出土遺物から近世と考えられる。

⑦ -SK8(第 46 図)

I30 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.94 m、短軸 0.76 m、深さ 28cmを測る。桶が埋設されている。桶内部には小石、焼土、炭化物が堆積していた。便槽遺構の可能性もある。切り合いは⑦ -SS1 より古い。時期は近世と推測される。

⑦ -SK9(第 46 図)

I31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.0 m、短軸 0.78 m、深さ 18cmを測る。切り合いは⑦ -SK13 を切る。時期は不明である。

⑦ -SK10(第 46 図)

I31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.34 m、短軸 1.02 m、深さ 9cmを測る。切り合いは⑦ -SK11・⑦ -SK34・⑦ -SK35 より古い。時期は近世と考えられる。

⑦ -SK11(第 46 図)

I31・32 グリッドに位置している。平面形は不整形で長軸 1.06 m、短軸 0.73 m、深さ 14cmを測る。肥前系の青磁染付碗、京・信楽系の灰釉灯明受皿が出土している。切り合いは⑦ -SK10・⑦ -SK35 より新しい。時期は出土遺物から 18 世紀中葉から 19 世紀初頭と考えられる。

⑦ -SK12(第 46 図)

H32 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 1.34m、短軸 1.12m、深さ 35cmを測る。覆土には多量の樹皮が混ざっていた。ゴミ処理用の土坑の可能性もある。肥前系の磁器皿が出土している。時期は 18 世紀と考えられる。

⑦ -SK13(第 46 図)

I31 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.39 m、短軸 0.28 m、深さ 19cmを測る。切り合いは⑦ -SK9 より古い。時期は不明である。

⑦ -SK14(第 47 図)

I32 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.44 m、短軸 0.39 m、深さ 52cmを測る。時期は不明である。

⑦ -SK15(第 47 図)

H31・32 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 2.84 m、短軸 1.39 m、深さ 58cmを測る。小石、木片、植物繊維が多量に堆積している。ゴミ処理用の土坑と考えられる。肥前系の磁器とともに瀬戸美濃系の磁器が出土している。切り合いは⑦ -SK17 より新しい。時期は出土遺物から 19 世紀前葉と考えられる。

⑦-SK16(第47図)

H31 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.34 m、短軸 0.74 m、深さ 22cmを測る。礫、木片、炭化物が堆積している。ゴミ処理用の土坑の可能性ある。陶器の碗、蓋が出土している。時期は近世と推測される。

⑦-SK17(第47図)

H・I32 グリッドに位置している。平面形は不整形で長軸 2.04 m、短軸 1.46 m、深さ 98cmを測る。大量の木片、板材が投棄されている。ゴミ処理用の土坑と考えられる肥前系の磁器、瀬戸美濃系の陶器が出土している。切り合いは⑦-SK15 より古い。時期は出土遺物より 18 世紀と考えられる。

⑦-SK18(第47図)

I31 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.6 m、短軸 0.54 m、深さ 9cmを測る。時期は不明である。

⑦-SK19(第48図)

I31 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.56 m、短軸 1.24 m、深さ 42cmを測る。下層に礫、炭化物、植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑の可能性ある。漆椀、土器の灯明皿が出土している。切り合いは⑦-SK20 より古い。時期は近世と考えられる。

⑦-SK20(第48図)

I31 グリッドに位置する。平面形は不整形で、長軸 1.02 m、短軸 0.88 m、深さ 26cmを測る。切り合いは⑦-SK19 より新しい。時期は不明である。

⑦-SK21(第44図)

H32 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.15 m、短軸 0.74 m、深さ 57cmを測る。石臼が出土している。切り合いは⑦-SK1 より古い。時期は不明である。

⑦-SK22・⑦-SK37(第49図)

J・K30 グリッドに位置する。平面形は不整形で北側の⑦-SK37 と繋がり、L 字状となる。西側は調査区外へと延びる。深さ 1.24 mを測り、多量の礫、炭化物、植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑と考えられる。19 世紀中葉から後葉の陶磁器が出土している。継続的なゴミ捨て場として使用されていた可能性がある。

⑦-SK23(第49図)

K30 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。深さ 1.28 mを測る。多量の植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑と考えられる。19 世紀中葉から後葉の陶磁器が出土している。

⑦-SK24(第45図)

J・K31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 5.84 m、短軸 3.32 m、深さ 24cmを測る。多量の焼土ブロック、炭化物が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した土坑と考えられる。19 世紀中葉から後葉の陶磁器が出土している。切り合いは⑦-SK38・⑦-SK40・⑦-SP22・⑦-SP23 より新しく、⑦-SK25・⑦-SK33・⑦-SK40 より古い。

⑦-SK25(第48図)

J31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.86 m、短軸 0.64 m、深さ 8cmを測る。切り合いは⑦-SK24・⑦-SK40・⑦-SP22 より新しい。時期は不明である。

⑦-SK31(第48図)

J31 グリッドに位置し、平面形は方形で長軸 0.79 m、短軸 0.46 m、深さ 14cmを測る。時期は不明である。

⑦-SK32(第49図)

J30 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 2.42 m、短軸 0.92 m、深さ 1.36 mを測る。多量の礫、植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑と考えられる。19 世紀前葉から中葉の陶磁器が出土している。継続的なゴミ捨て場として使用されていた可能性がある。

⑦-SK33(第48図)

J31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.78 m、短軸 0.74 m、深さ 12cmを測る。切り合いは⑦

-SK24より新しい。時期は不明である。

⑦-SK34(第46図)

I31グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.42 m、短軸0.39 m、深さ40cmを測る。径14cmの木杭が打ち込まれている。切り合いは⑦-SK10より新しい。時期は不明である。

⑦-SK35(第46図)

I32グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.56 m、短軸0.41 m、深さ42cmを測る。切り合いは⑦-SK10・⑦-SK39より新しく、⑦-SK11より古い。時期は不明である。

⑦-SK36(第49図)

I・J30グリッドに位置する。平面形は方形で長軸2.68 m、短軸2.4 m、深さ1.44 mを測る。多量の植物繊維が堆積している。切り合いは⑦-SK27・⑦-SK28・⑦-SK30・⑦-SK37より新しい。19世紀中葉から後葉の陶磁器が出土している。継続的なゴミ捨て場として使用されていた可能性がある。

⑦-SK38(第45図)

J31グリッドに位置する。平面形は方形で長軸3 m、短軸0.56 m、深さ40cmを測る。切り合いは⑦-SK24より古い。時期は不明である。

⑦-SK39(第46図)

I32グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.4 m、短軸0.38 mを測る。切り合いは⑦-SK35より古い。時期は不明である。

⑦-SK40(第45図)

J・K31グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸1.36 m、短軸0.88 m、深さ40cmを測る。桶が埋設されている。切り合いは⑦-SK24・⑦-SK25・⑦-SP22より古い。時期は近世と推測される。

礎石・柱列

⑦-SK27・⑦-SK28・⑦-SK29・⑦-SK30(第48図)

⑦区西側より検出した。北西から時計回りに⑦-SK27・⑦-SK28・⑦-SK29・⑦-SK30の4基が方形に並ぶ。軸方向はN-11°-Eを指す。東西、南北の間隔は約1.8 mを測る。切り合いは⑦-SK36・⑦-SK37より新しい。時期は近代と推測される。

⑦-SK27(第48図)

I30グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.63 m、短軸0.58 m、深さ14cmを測る。中心に径12～14cmの木杭を3本打ち込み、径10～14cmの礫を充填する。切り合いは⑦-SK36より新しい。

⑦-SK28(第48図)

I31グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.55 m、短軸0.49 m、深さ28cmを測る。中心に径10～14cmの木杭を3本打ち込む。径6～12cmの礫を充填する。

⑦-SK29(第48図)

J30グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.57 m、短軸0.52 m、深さ31cmを測る。中心に径10～12cmの木杭を3本打ち込み、その上に50×45×20cmの平らな石を置く。周囲に径8～12cmの礫を充填する。切り合いは⑦-SK29より新しい。

⑦-SK30(第48図)

J30グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.7 m、短軸0.52 m、深さ19cmを測る。中心に径10～14cmの木杭を3本打ち込み、その上に40×32×24cmの平らな石を置く。周囲に径2～8cmの礫を充填する。切り合いは⑦-SK36・⑦-SK37より新しい。

建物基礎

⑦-SS1(第51図)

H30・31～J30・31 グリッドに位置する。幅約70cm、深さ約60cmの溝がコの字状に曲がる。西端は調査区外へと延びる。溝の内部には径4～10cmの礫を充填している。南と東の2辺には径12～16cmの木杭が3本1組となって、4か所に打ち込まれている。建物の基礎と考えられる。東の辺の軸方向はN-11°-Eを指す。切り合いは⑦-SK7・⑦-SK8より新しい。時期は近代と推測される。

⑦-SS2(第51図)

H30・31 グリッドに位置する。幅約80cm、深さ約76cmの溝がL字状に曲がる。北端と西端は調査区外へと延びる。溝の内部には径4～1cmの礫が充填されている。建物の基礎と考えられる。東の辺の軸方向はN-12°-Eを指す。切り合いは戦災焼土層を切っている。時期は現代と推測される。

⑦-SS5(第52図)

J31 グリッドに位置する。1.5m×0.8mの範囲に径6～20cmの礫が密に広がる。建物の基礎の可能性はある。時期は不明である。

⑦-SS6(第52図)

I・J31 グリッドに位置する。2.6×1mの範囲に径6～20cmの礫が密に広がる。建物の基礎の可能性はある。時期は不明である。

⑦-SS7(第52図)

J30・31 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸1.15m、短軸5.6m、深さ26cmを測る。径10～40cmの石を並べて埋設する。建物の基礎の可能性はある。時期不明である。

集石土坑

⑦-SK26(第48図)

J30 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.38m、短軸0.36m、深さ12cmを測る。径6～16cmの礫を充填する。切り合いは⑦-SK32より新しい。時期は不明である。

⑦-SS8(第52図)

J31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.34m、短軸0.28m、深さ10cmを測る。径10～16cmの礫が充填されている。時期・性格は不明である。

⑦-SS9(第52図)

J31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.16m、短軸0.13m、深さ8cmを測る。径10～16cmの礫が充填されている。時期・性格は不明である。

⑦-SS10(第52図)

J31 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.34m、短軸0.26m、深さ4cmを測る。径8～16cmの礫が充填されている。時期・性格は不明である。

第8項 I-⑧区(第10図)

⑧-A区

土坑

⑧-A-SK1(第53図)

C46 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.43m、短軸0.31m、深さ14cmを測る。土坑内は被熱し、灰・焼土・炭化物が堆積する。土坑の南側には焼土・炭化物が広がる。カマドもしくは炉跡の可能性はある。時期は不明である。

⑧-A-SK2(第54図)

C47 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.5 m、短軸 0.49 m、深さ 16cmを測る。東側はカクランを受けている。径 10～18cmの礫が充填されている。時期は不明である。

石列

⑧-A-SS1(第 54 図)

C47 グリッドに位置する。⑧-A 区を南北に横断し、両端は調査区外へと延びる。2 列の石列が石の平面を向け合い、間に溝を形成している。軸方向はN-10°-Eを指す。①区の石列①-SS1 とほぼ同軸状に位置する。東側の石列は径 12～14cmの木杭を打ち込み、その上に枕木を渡した後、径 11～14cmの胴木を架ける。その上に 50×38×30cmの四角錐状の石を積み、隙間に径 10～15cmの根石を充填している。対して西側は胴木を置かず、直接石を積んでいる。石の形も様々で整っていない。近代の磁器の紅皿、瓶が出土している。時期は出土遺物より近代と考えられる。

礎石

⑧-A-SK3(第 53 図)

C46 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 0.9 m、短軸 0.52 m、深さ 64cmを測る。上層はカクランを受けている。径 14～26cmの石を埋設している。礎石と考えられる。切り合いは⑧-A-SD1 より新しい。時期は不明である。

溝

⑧-A-SD1(第 53 図)

C46 グリッドに位置する。⑧-A 区を南北方向に横断する。幅 29cm、深さ 9cmを測る。軸方向はN-10°-Eを測る。切り合いは⑧-A-SK3 より古い。時期は不明である。

⑧-B 区

土坑

⑧-B-SK7(第 55 図)

C48 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.64 m、短軸 0.6 m、深さ 8cmを測る。焼土、炭化物が堆積していた。土器の灯明皿が出土している。時期は近世と推測される。

⑧-B-SK9(第 55 図)

C48 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.64 m、短軸 0.56 m、深さ 12cmを測る。径 6～12cmの礫を充填している。時期は不明である。

石列

⑧-B-SS1(第 55 図)

⑧-B 区と⑧-C 区の境より検出した。⑧区を南北方向に横断する。軸方向はN-12°-Eを指す。幅 5cmの溝に径 14～20cmの礫を並べる。時期は不明である。

礎石・柱列

⑧-B-SK1・⑧-B-SK2・⑧-B-SK3・⑧-B-SK4(第 55 図)

⑧-B 区より検出した。北から⑧-B-SK4・⑧-B-SK3・⑧-B-SK2・⑧-B-SK1 の 4 基が並ぶ。軸方向はN-9°-Eを測る。西側に並ぶ⑧-B-SK5・⑧-B-SK6 と並行に並ぶ。間隔は約 1.8 mを測る。時期は不明である。

⑧-B-SK1(第 55 図)

D48 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられ。長軸 0.84 m、短軸 0.56 m を測る。⑧ -B-SK5 との間隔は約 1.8m を測る。

⑧ -B-SK2(第 55 図)

C48 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.84 m、短軸 0.8 m、深さ 22cm を測る。中心に径 12 ～ 13 cm の木杭を 3 本打ち込み、その上に 30 × 28 × 10cm の平らな石を乗せる。周囲に径 10 ～ 12cm の礫を充填する。

⑧ -B-SK3(第 55 図)

C48 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.8 m、短軸 0.68 m、深さ 18cm を測る。中心に径 12 ～ 14 cm の木杭を 3 本打ち込み、その上に 46 × 28 × 12cm の平らな石を乗せる。周囲に径 8 ～ 16cm の礫を充填する。

⑧ -B-SK6 との間隔は約 1.8 m を測る。

⑧ -B-SK4(第 55 図)

C48 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.76 m、短軸 0.68 m、深さ 18cm を測る。中心に径 12 ～ 13 cm の木杭を 3 本打ち込み、周囲に径 12 ～ 15cm の礫を充填する。

⑧ -B-SK5・⑧ -B-SK6(第 55 図)

⑧ -B 区より検出した。北から⑧ -B-SK6・⑧ -B-SK5 の 2 基が並ぶ。軸方向は N - 9° - E を測る。東側に並ぶ⑧ -B-SK1・⑧ -B-SK2・⑧ -B-SK3・⑧ -B-SK4 と並行に並ぶ。間隔は約 3.6 m を測る。時期は不明である。

⑧ -B-SK5(第 55 図)

D48 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.6 m、短軸 0.4 m、深さ 64cm を測る。径 10cm の木杭を打ち込み、その上に幅 30cm の平らな石を乗せる。周囲に径 8 ～ 14cm の礫を充填する。⑧ -B-SK1 との間隔は約 1.8 m を測る。

⑧ -B-SK6(第 55 図)

C48 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.8 m、短軸 0.74 m、深さ 30cm を測る。中心に径 12 ～ 13 cm の木杭を 3 本打ち込み、その上に 40 × 34 × 14cm の平らな石を乗せる。周囲に径 10 ～ 16cm の礫を充填する。⑧ -B-SK3 との間隔は約 1.8 m を測る。

⑧ -C 区

土坑

⑧ -C-SK1(第 56 図)

B50 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 0.8 m、短軸 0.42 m を測る。19 世紀中葉から後葉の磁器が出土している。

⑧ -C-SK2(第 56 図)

C50 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 2.9 m、短軸 1.1 m、深さ 51cm を測る。砂が堆積していた。時期は不明である。

礎石

⑧ -C-SS2 ～ 4・⑧ -C-SS6・⑧ -C-SS7(第 56 図)

⑧ -C 区の中央部で検出した。北から⑧ -C-SS4・⑧ -C-SS3・⑧ -C-SS2 の 3 基が並ぶ。幅 31 ～ 44cm の平らな石を置く。軸方向は N - 11° - E を指す。間隔は約 1.8 ～ 3.7 m を測る。東側の石列⑧ -C-SS6・⑧ -C-SS7 と平行に並ぶ。間隔は約 1.6 m を測る。簡易的な礎石の可能性はある。時期は近代と推測する。

⑧ -C-SS5・⑧ -C-SS8(第 56 図)

⑧ -C 区の東側で検出した。西から⑧ -C-SS5・⑧ -C-SS8 の 2 基が並ぶ。軸方向は E - 21° - S を指す。⑧ -C-SS5 は幅 45cm の平らな石を置き、周囲を径 8 ～ 12cm の礫で固める。⑧ -C-SS8 は幅 36cm の石を置く。間隔は

約 1.2 m を測る。簡易的な礎石の可能性はある。時期は近代と推測する。

集石土坑

⑧ -C-SS1(第 56 図)

C・D49 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 3.3 m、短軸 0.8 m、深さ 51cm を測る。径 10 ～ 20cm の礫が充填されている。幕末から明治の陶磁器が出土している。

第 2 表 I 工区遺構観察表 (SP)

〈 〉 は残存値である。

調査区	グリッド	遺構名	形態	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
①	F46	SP1	方形	78	79	46
①	G46	SP2	方形	71	70	40
①	G46	SP3	方形	74	71	29
①	F46	SP4	円形か	38	〈11〉	22
①	H46	SP5	円形	68	66	22
①	G・H46	SP6	方形	61	56	12
①	H46	SP 7	円形	71	81	35
①	G46	SP8	方形	48	45	6
①	欠番	SP9	—	—	—	—
①	H46	SP10	円形	20	20	19
①	H46	SP11	円形	〈41〉	40	24
①	G46	SP12	円形	19	16	12
①	H46	SP13	円形	41	36	43
①	H46	SP14	円形	16	16	12
①	欠番	SP15	—	—	—	—
①	H46	SP16	円形	34	33	15
②	G44	SP1	円形	53	49	11
②	G44	SP2	方形	73	〈66〉	34
②	G44	SP3	方形	71	62	—
②	G・H43	SP4	方形	76	76	21
②	H44	SP5	方形	〈46〉	〈44〉	—
②	H43	SP6	不整形	29	24	16
②	H43	SP7	円形	22	20	10
③	I40	SP1	円形	16	11	5
③	I40	SP2	円形	29	19	13
③	欠番	SP3	—	—	—	—
③	I40	SP4	円形	21	20	19
③	I・J39	SP5	円形	19	16	14
④	F38	SP1	方形	89	78	57
④	F38	SP2	円形	68	67	20
④	F38	SP3	円形	42	32	9
④	F38	SP4	不整形	28	20	14
⑤	I36	SP1	円形	17	16	7
⑤	H37	SP2	円形	24	21	8
⑤	欠番	SP3	—	—	—	—
⑤	欠番	SP4	—	—	—	—
⑤	H38	SP5	不整形	84	65	60
⑤	I37	SP6	不整形	77	69	52
⑤	I37	SP7	円形	18	16	6
⑤	I37	SP8	円形	28	24	7
⑤	欠番	SP9	—	—	—	—
⑤	欠番	SP10	—	—	—	—
⑤	I37	SP11	円形	15	11	18
⑤	I37	SP12	円形	16	14	10
⑤	I37	SP13	円形	22	22	30
⑤	I37	SP14	円形	20	17	4
⑤	欠番	SP15	—	—	—	—
⑤	欠番	SP16	—	—	—	—
⑤	欠番	SP17	—	—	—	—
⑤	I37	SP18	円形	22	13	6
⑤	欠番	SP19	—	—	—	—
⑤	欠番	SP20	—	—	—	—
⑤	欠番	SP21	—	—	—	—
⑤	欠番	SP22	—	—	—	—
⑤	I37	SP23	不整形	20	16	9
⑥	J34	SP1	円形	47	47	9
⑥	J34	SP2	不整形	56	54	14
⑥	J33	SP3	円形	20	18	51
⑥	J33	SP4	不整形	12	11	15
⑥	J33	SP5	円形	28	26	20
⑥	J35	SP6	円形	19	19	24
⑥	J33	SP7	円形	26	26	28

〈 〉 は残存値である。

調査区	グリッド	遺構名	形態	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
⑥	J34	SP8	円形	27	23	30
⑥	J33	SP9	円形	18	17	15
⑥	I33	SP10	不整形	28	22	32
⑥	J33	SP11	円形	28	27	27
⑥	J33	SP12	円形	30	29	22
⑥	欠番	SP13	—	—	—	—
⑥	J33	SP14	不整形	38	30	44
⑥	J35	SP15	円形	25	21	10
⑥	J35	SP16	円形	16	14	12
⑥	欠番	SP17	—	—	—	—
⑥	J33	SP18	円形	39	33	52
⑥	J33	SP19	円形	24	24	20
⑥	J33・34	SP20	円形	27	26	21
⑥	J33・34	SP21	円形	26	24	6
⑥	欠番	SP22	—	—	—	—
⑥	J34	SP23	円形	29	28	8
⑥	H33	SP24	円形	23	19	14
⑥	H33	SP25	円形	20	18	12
⑥	H33	SP26	円形	18	16	6
⑥	H34	SP27	円形	18	17	5
⑥	H33	SP28	円形	14	13	15
⑥	I33	SP29	不整形	17	16	10
⑥	H33	SP30	円形	24	22	29
⑥	I33	SP31	不整形	22	21	12
⑥	H33	SP32	円形	22	19	7
⑥	J34	SP33	円形	26	25	18
⑥	I34	SP34	円形	21	20	37
⑥	欠番	SP35	—	—	—	—
⑥	G・H33	SP36	円形	18	18	13
⑥	欠番	SP37	—	—	—	—
⑥	H33	SP38	不整形	14	12	5
⑥	I34	SP39	円形	29	25	10
⑥	I34	SP40	円形	14	12	24
⑥	H34	SP41	不整形	22	18	9
⑥	H34	SP42	円形	22	21	26
⑦	H31	SP1	不整形	31	23	14
⑦	H31	SP2	円形	24	24	32
⑦	I31	SP3	円形	22	22	10
⑦	H31	SP4	円形	20	20	22
⑦	I30	SP5	方形	26	24	47
⑦	I31	SP6	円形	14	12	2
⑦	I31	SP7	円形	18	19	16
⑦	I30	SP8	円形	16	16	15
⑦	I31	SP9	円形	28	24	12
⑦	I31	SP10	円形	33	27	34
⑦	H31	SP11	不整形	20	18	16
⑦	I31	SP12	不整形	14	11	26
⑦	I31	SP13	不整形	20	18	17
⑦	I31	SP14	円形	22	22	20
⑦	H31	SP15	円形	18	16	40
⑦	H31	SP16	円形	11	11	8
⑦	I30	SP17	円形	22	20	3
⑦	I31	SP18	円形	34	32	40
⑦	I31	SP19	円形	26	24	46
⑦	K31	SP20	円形	32	28	16
⑦	K31	SP21	円形	22	20	15
⑦	J31	SP22	不整形	23	22	27
⑦	J31	SP23	不整形	24	20	10
⑧ - A	C47	SP1	円形	54	36	12
⑧ - A	C47	SP2	不整形	28	26	2
⑧ - A	C47	SP3	円形	40	〈12〉	16
⑧ - C	B50	SP1	円形	〈36〉	46	30

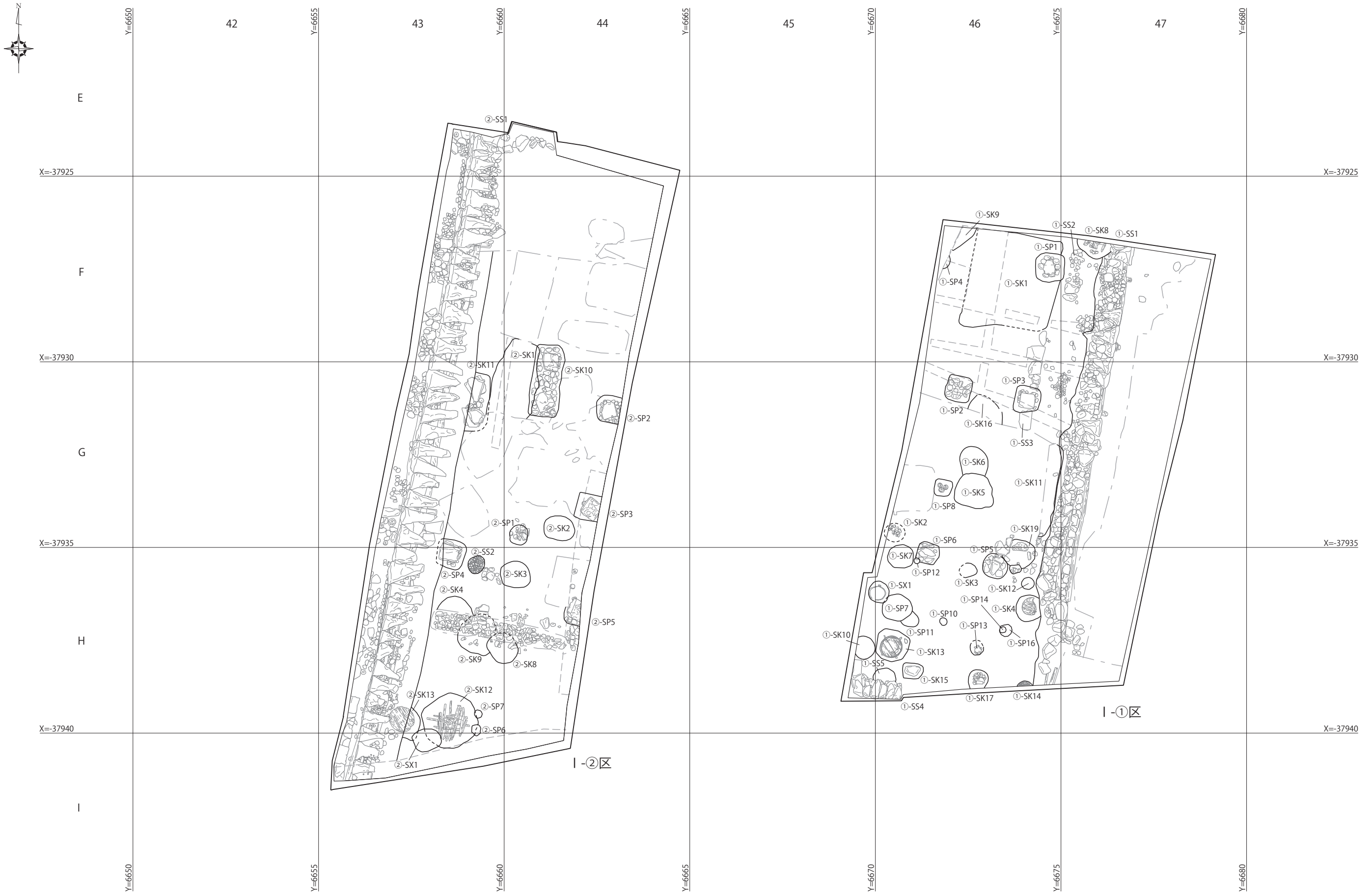
第3表 I 工区遺構一覧表

調査区	グリット	遺構名	形態	時期
①	F46	SK1	方形	近世
①	G46	SK2	不整形	近世
①	H46	SK3	円形	19世紀
①	H46	SK4	円形	近世
①	G46	SK5	不整形	不明
①	G46	SK6	円形	不明
①	G・H46	SK7	円形	不明
①	F47	SK8	円形	18世紀中葉～19世紀初頭
①	F46	SK9	円形か	不明
①	H45	SK10	円形	近世
①	G46	SK11	方形か	近世
①	H46	SK12	円形	不明
①	H46	SK13	不整形	近世
①	H46	SK14	円形	近世
①	H46	SK15	礎石	近代
①	G46	SK16	円形	不明
①	H46	SK17	礎石	近代
①	欠番	SK18	—	—
①	G・H46	SK19	不整形	不明
①	H45・46	SX1	埋蔵	近代
①	F47～H46・47	SS1	石列	近代
①	F47	SS2	石列	不明
①	F・G46	SS3	建物の基礎か	近代
①	H45・46	SS4	石列	近代
①	H45・46	SS5	集石土坑	不明
②	F43・44～G43・44	SK1	不整形	19世紀中葉～後葉
②	G44	SK2	円形	不明
②	H43・44	SK3	円形	近世
②	H43	SK4	円形か	不明
②	欠番	SK5	—	—
②	欠番	SK6	—	—
②	欠番	SK7	—	—
②	H43・44	SK8	円形	不明
②	H43	SK9	円形	不明
②	F・G44	SK10	礎石	19世紀
②	G43	SK11	礎石	19世紀
②	H・I43	SK12	木組み遺構	近世
②	H・I43	SK13	不整形	近世
②	H・I43	SX1	埋蔵	近代
②	E43～I43	SS1	石列	近代
②	H43	SS2	集石土坑	不明
③	H・I40	SK1	不整形	不明
③	H40	SK2	不整形	不明
③	H40	SK3	円形	不明
③	H40	SK4	不整形	19世紀中葉
③	I39・40	SK5	円形か	近世
③	H40	SK6	不整形	不明
③	G40	SK7	円形か	不明
③	J39	SK8	円形	不明
③	G・H40	SK9	不整形	19世紀中葉～後葉
③	I39	SK10	集石土坑	不明
③	I39	SK11	集石土坑	不明
③	I39・40	SK12	不整形	近世
③	I40	SK13	不整形	近世
③	I39	SK14	円形	不明
③	I40	SK15	円形	近世
③	G・H40	SX1	円形か	近世
③	I・J40	SE1	井戸	近世
③	H39・40	SE2	上水井戸	近代
③	G・H40	SS1	根石・杭	近代
③	G・H40	SS2	根石・杭	近代
③	H39・40～J39	SD1	竹樋	近代
③	H39・40	SD2	溝	近代
③	H40	SD3	竹樋	近世
③	I39・40	SD4	竹樋	近世
④	F38	SK1	円形か	不明
④	欠番	SK2	—	—

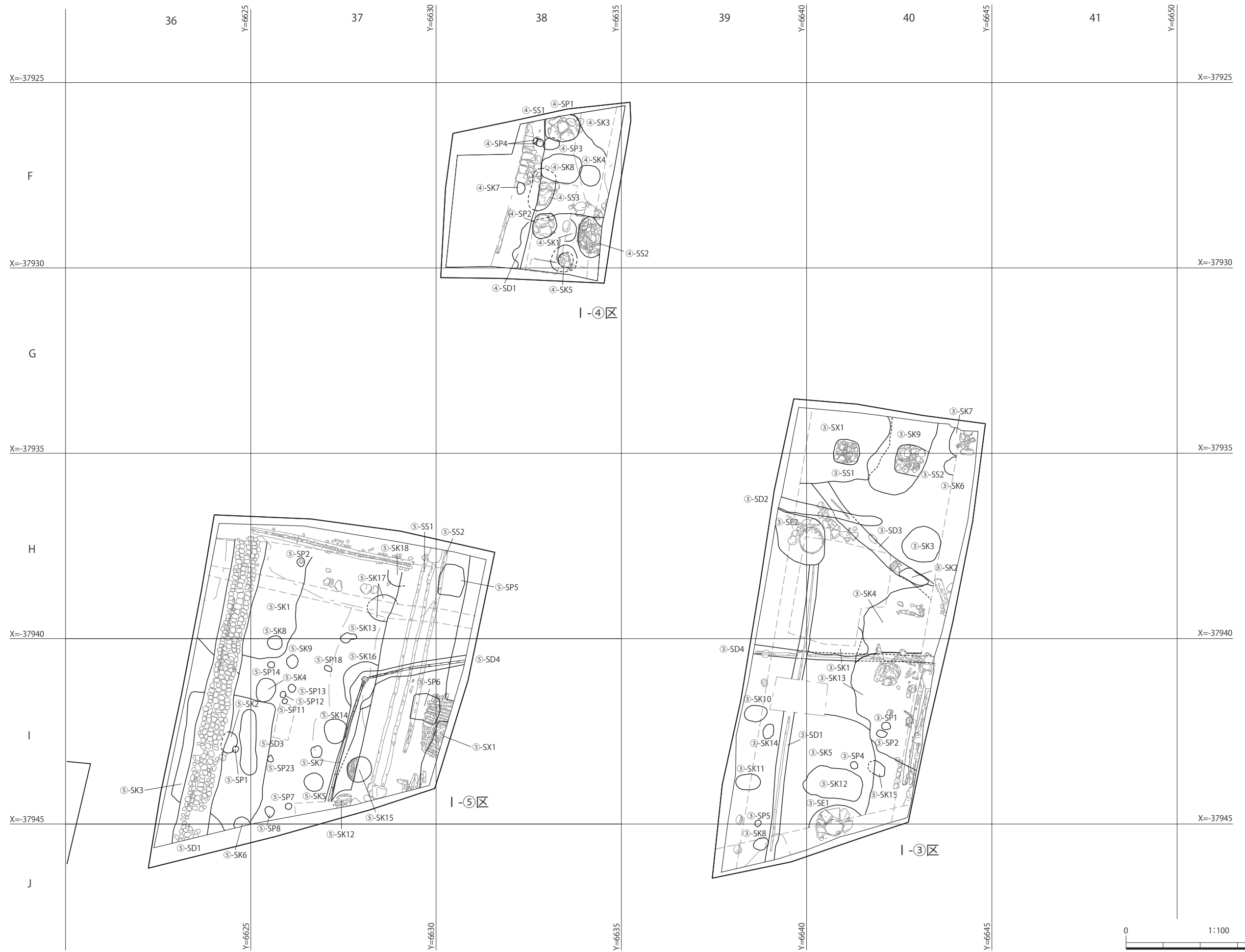
調査区	グリット	遺構名	形態	時期
④	F38	SK3	円形か	不明
④	F38	SK4	円形	17世紀中葉～18世紀後葉
④	F38	SK5	円形	近世
④	欠番	SK6	—	—
④	F38	SK7	円形	不明
④	F38	SK8	円形	不明
④	F38	SS1	石列	近代
④	F38	SS2	集石土坑	不明
④	F38	SS3	礎石	不明
④	F38	SD1	溝	近世
⑤	H36・37～I36・37	SK1	不整形	近世
⑤	I36	SK2	円形	不明
⑤	I36・37	SK3	不整形	18世紀中葉～後葉
⑤	I37	SK4	円形	不明
⑤	I37	SK5	円形	不明
⑤	I・J36	SK6	円形か	不明
⑤	I37	SK7	不整形	不明
⑤	H・I37	SK8	円形	不明
⑤	I37	SK9	円形	不明
⑤	欠番	SK10	—	—
⑤		SK11	—	近世
⑤	I37	SK12	円形か	17世紀
⑤	H・I37	SK13	不整形	不明
⑤	I37	SK14	円形	不明
⑤	I37	SK15	円形か	近世
⑤	I37	SK16	不整形	近世
⑤	H37	SK17	円形	不明
⑤	H37	SK18	円形か	不明
⑤	I37・38	SX1	木組	近世
⑤	H・I37	SS1	石列	近代
⑤	H・I37～H38	SS2	石列	近代
⑤	H36・37～J36	SD1	建物の基礎	近代
⑤	欠番	SD2	—	—
⑤	I36・37	SD3	溝	不明
⑤	I37・38	SD4	竹樋	近世
⑥	欠番	SK1	—	—
⑥	I33	SK2	方形	19世紀中葉～後葉
⑥	J34	SK3	円形	不明
⑥	J35	SK4	方形か	不明
⑥	J35	SK5	円形	不明
⑥	I34・35～J34・35	SK6	方形	18世紀中葉～19世紀初頭
⑥	J34	SK7	円形	不明
⑥	欠番	SK8	—	—
⑥	欠番	SK9	—	—
⑥	J35	SK10	円形	不明
⑥	I・J35	SK11	礎石	不明
⑥	J35	SK12	不整形	不明
⑥	J33	SK13	方形か	18世紀
⑥	H・I34	SK14	埋蔵	近代
⑥	J33	SK15	円形	不明
⑥	J33	SK16	円形	不明
⑥	I34・35～J34・35	SK17	方形	18世紀
⑥	J33	SK18	円形か	19世紀中葉～後葉
⑥	J34	SK19	円形	近世
⑥	J34	SK20	円形	近世
⑥	J34	SK21	円形	近世
⑥	欠番	SK22	—	—
⑥	I33	SK23	円形	不明
⑥	I33	SK24	不整形	不明
⑥	H33	SK25	円形	不明
⑥	G・H34	SK26	不整形	不明
⑥	J33	SK27	円形	不明
⑥	J34	SK28	円形	不明
⑥	J33・34	SK29	不整形	不明
⑥	H34	SK30	円形	不明

調査区	グリット	遺構名	形態	時期
⑥	I33	SK31	円形	不明
⑥	I33	SK32	方形	不明
⑥	K34	SK33	円形	不明
⑥	J34	SK34	不整形	近世
⑥	J33	SK35	方形か	不明
⑥	I33	SK36	不整形	近世
⑥	J34	SK37	円形	近世
⑥	I33	SK38	円形	不明
⑥	J33	SK39	円形	不明
⑥	J34	SK40	方形	不明
⑥	I34	SK41	円形	不明
⑥	I34	SK42	円形	不明
⑥	I34	SK43	円形	不明
⑥	H33	SK44	円形	不明
⑥	H34	SK45	不整形	近世
⑥	H33	SK46	不整形	近代
⑥	I34	SK47	円形	不明
⑥	I34	SK48	円形	近世
⑥	I34	SK49	円形	不明
⑥	H33	SK50	円形	不明
⑥	I34	SK51	円形	不明
⑥	H・I34	SK52	円形	近世
⑥	H34	SK53	円形	近世
⑥	H34	SK54	円形	近世
⑥	H34	SK55	不整形	不明
⑥	H34	SK56	円形	17世紀中葉～18世紀後葉
⑥	H34	SK57	円形	近世
⑥	H34	SK58	不整形	不明
⑥	H34	SK59	円形	不明
⑥	欠番	SX1	-	-
⑥	欠番	SX2	-	-
⑥	H33	SX3	方形	不明
⑥	H33・34	SX4	方形	不明
⑥	J33	SE1	集石土坑	不明
⑥	G34～K34・G34・H35	SS1	石列	近代
⑥	I33・34～J33・34	SS2	建物の基礎	近代
⑥	J33・34	SS3	建物の基礎	近代
⑥	J35	SS4	礎石	近代
⑥	J35	SS5	礎石	近代
⑥	J35	SS6	礎石	近代
⑥	J34	SS7	礎石	近代
⑥	J34	SS8	礎石	近代
⑥	J35	SS9	礎石	近代
⑥	H・I33	SS10	建物の基礎	近代
⑥	G33	SS11	礎石	近代
⑥	G・H34	SS12	礎石	近代
⑥	J33	SD1	溝	不明
⑥	G33	SD2	建物の基礎か	不明
⑦	H32	SK1	方形	18世紀中葉～19世紀初頭
⑦	K31	SK2	不明	不明
⑦	K31	SK3	円形	不明
⑦	H30	SK4	円形	不明
⑦	H30	SK5	円形	不明
⑦	I32	SK6	円形	近代
⑦	I30	SK7	円形	近世
⑦	I30	SK8	円形	近世
⑦	I31	SK9	不整形	不明
⑦	I31	SK10	不整形	近世
⑦	I31・32	SK11	不整形	18世紀中葉～19世紀初頭
⑦	H32	SK12	楕円形	18世紀
⑦	I31	SK13	円形	不明
⑦	I32	SK14	不整形	不明
⑦	H31・32～I31・32	SK15	方形	19世紀前葉
⑦	H31	SK16	円形	近世

調査区	グリット	遺構名	形態	時期
⑦	H・I32	SK17	不整形	18世紀
⑦	I31	SK18	円形	不明
⑦	I31	SK19	方形	近世
⑦	I31	SK20	不整形	不明
⑦	H32	SK21	不整形	不明
⑦	J・K30	SK22	不整形	19世紀中葉～後葉
⑦	K30	SK23	方形	19世紀中葉～後葉
⑦	J・K31	SK24	不整形	19世紀中葉～後葉
⑦	J31	SK25	不整形	不明
⑦	J30	SK26	集石土坑	不明
⑦	I30	SK27	根石・杭	近代
⑦	I30・31	SK28	根石・杭	近代
⑦	J30	SK29	礎石	近代
⑦	J30	SK30	礎石	近・現代
⑦	J31	SK31	方形	不明
⑦	I・J30	SK32	方形	19世紀中葉
⑦	J31	SK33	不整形	不明
⑦	I31	SK34	不整形	不明
⑦	I32	SK35	不整形	不明
⑦	I・J30	SK36	方形	19世紀中葉～後葉
⑦	J30・31	SK37	不整形	19世紀中葉～後葉
⑦	J31	SK38	方形	不明
⑦	I32	SK39	不整形	不明
⑦	J・K31	SK40	不整形	近世
⑦	H30・31～I30・31	SS1	建物の基礎	近代
⑦	H30・31	SS2	建物の基礎	現代
⑦	欠番	SS3	-	-
⑦	欠番	SS4	-	-
⑦	J31	SS5	建物の基礎か	不明
⑦	I・J31	SS6	建物の基礎か	不明
⑦	J30・31	SS7	建物の基礎か	不明
⑦	J31	SS8	集石土坑	不明
⑦	J31	SS9	集石土坑	不明
⑦	J31	SS10	集石土坑	不明
⑧-A	C46	SK1	円形	不明
⑧-A	C47	SK2	不整形	不明
⑧-A	C46	SK3	礎石	不明
⑧-A	C47	SS1	石列	近代
⑧-A	C46	SD1	溝	不明
⑧-B	D48	SK1	礎石	不明
⑧-B	C48	SK2	礎石	不明
⑧-B	C48	SK3	礎石	不明
⑧-B	C48	SK4	根石・杭	不明
⑧-B	D48	SK5	根石・杭	不明
⑧-B	C19	SK6	礎石	不明
⑧-B	C48	SK7	不整形	近世
⑧-B	C48・49	SK9	不整形	不明
⑧-B	C48・49～D48・49	SS1	石列	不明
⑧-C	C21	SK1	方形	19世紀中葉～後葉
⑧-C	C50	SK2	方形	不明
⑧-C	C・D49	SS1	集石土坑	近代
⑧-C	D49	SS2	礎石	近代
⑧-C	C49・50	SS3	礎石	近代
⑧-C	C50	SS4	礎石	近代
⑧-C	C50	SS5	礎石	近代
⑧-C	C50	SS6	礎石	近代
⑧-C	C50	SS7	礎石	近代
⑧-C	C50	SS8	礎石	近代



第6图 I-①·②区 全体图



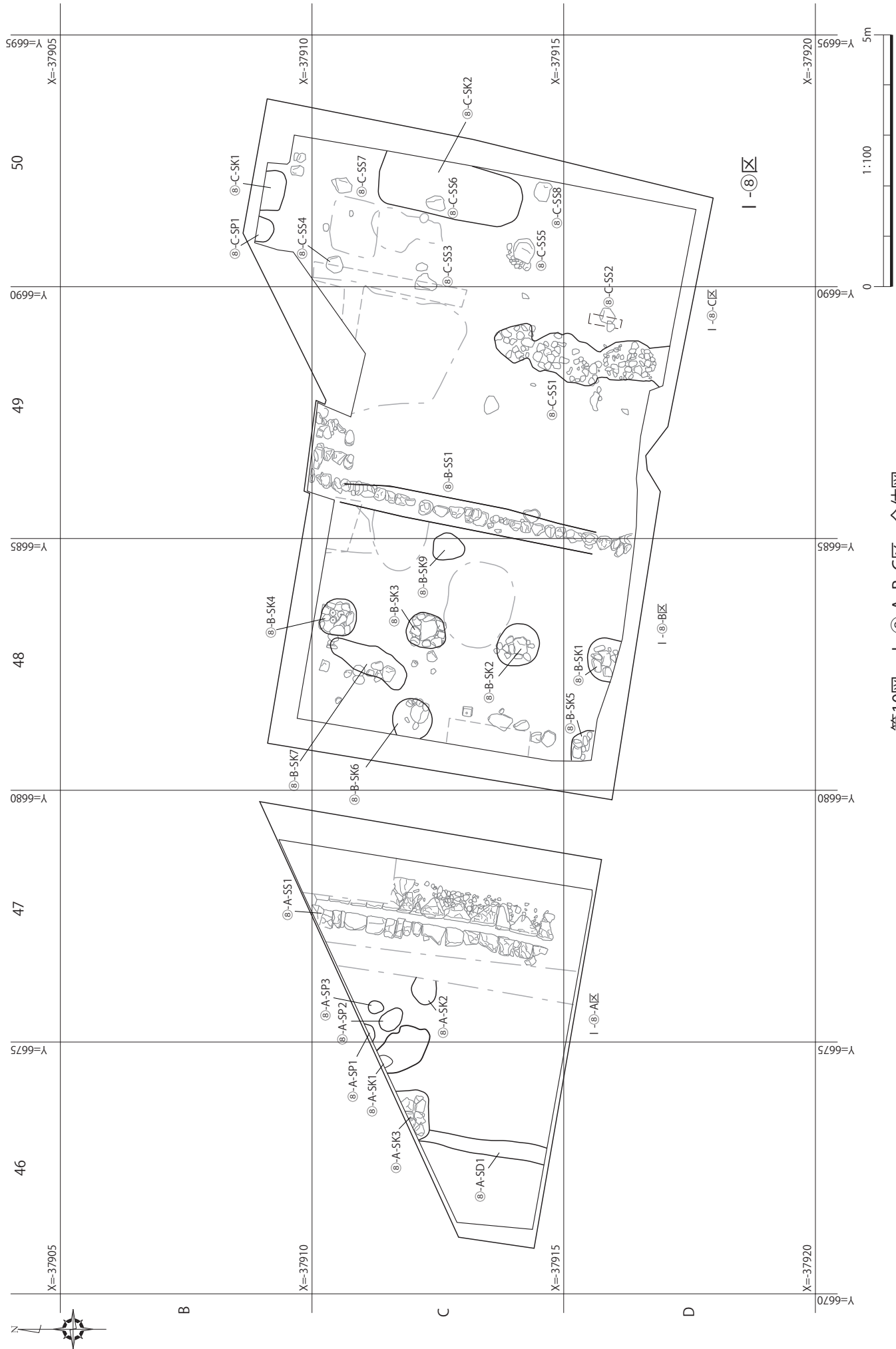
第7图 I-(3)·(4)·(5)区 全体图



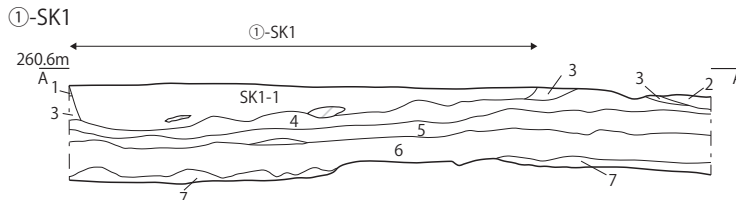
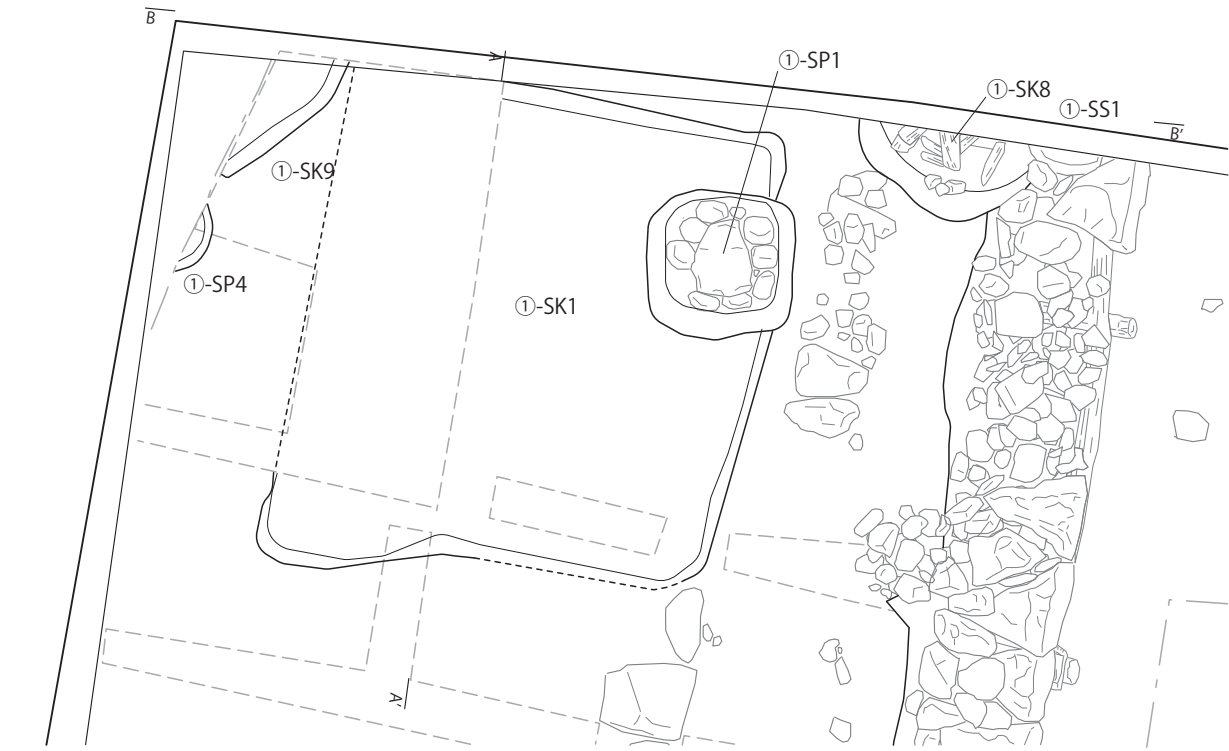
第8図 I-⑥区 全体図



第9图 I-7区 全体图



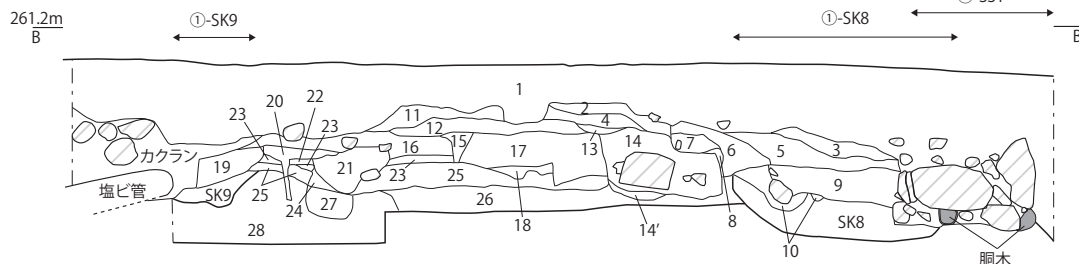
第10图 I-⑧-A·B·C区 全体图



- 1 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒・炭化物が混じる
- 2 黒褐色(2.5Y2/1)シルトに(10YR3/3)砂質シルトが混じる 灰が混じる 泥岩粒が微量に混じる
- 3 褐色(10YR4/4)粗粒砂 締まりあり
- 4 黒褐色(10YR3/2)シルト 泥岩粒が微量に混じる
- 5 黒褐色(10YR3/1)シルト 泥岩粒が微量に混じる
- 6 黒色(7.5YR2/1)シルト 泥岩粒が微量に混じる
- 7 黒色(7.5YR2/1)シルト

①-SK1
SK1-1 黒褐色(10YR2/3)砂 径2cmの焼土ブロック・径4cmの炭化物が多量に混じる

①-SK9・SK8・SS1

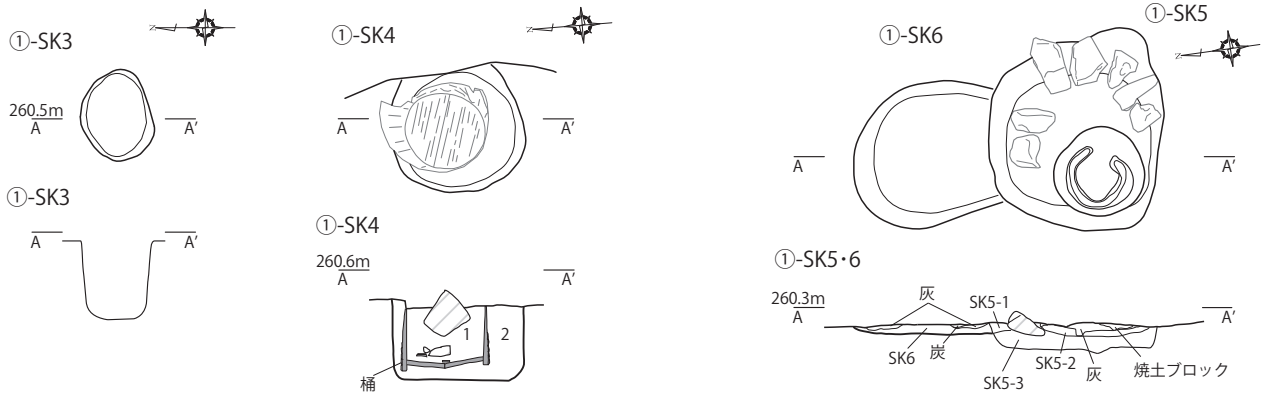


- 1 表土
- 2 黒褐色(10YR3/2)砂 径2mmの焼土粒・炭化物が30%混じる 締まりあり
- 3 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒・炭化物が10%混じる 締まりあり
- 4 2層に似るが炭化物が多量に混じる 締まりあり
- 5 黒褐色(10YR2/2)砂 径2mmの焼土粒・炭化物が20%混じる 締まりあり
- 6 黒褐色(10YR2/2)シルト 径5mmの焼土粒・炭化物が20%混じる 締まりあり
- 7 黒褐色(10YR2/3)砂 径2cmの焼土ブロック・径2mmの炭化物が多量に混じる 締まりあり
- 8 焼土ブロック
- 9 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 径5mmの焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
- 10 黒褐色(10YR2/2)シルト
- 11 黒褐色(10YR2/3)砂 径2cmの焼土ブロック・径2mmの炭化物・小礫が多量に混じる 締まりあり
- 12 黒褐色(10YR2/3)砂 径2cmの焼土ブロック・径2mmの炭化物が多量に混じる 締まりあり
- 13 黒褐色(10YR3/1)砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 14 黒褐色(10YR3/2)砂 径2cmの焼土ブロック・炭化物が10%混じる 締まりあり
- 14' 14層に赤黒色(2.5YR1.7/1)シルトが混じる
- 15 黒褐色(10YR2/2)砂 径2cmの焼土ブロック・炭化物が30%混じる 締まりあり
- 16 黒色(10YR2/1)砂 径2cmの焼土ブロック・径2mmの炭化物が多量に混じる 締まりあり
- 17 黒褐色(10YR2/3)砂 径5mmの焼土粒・炭化物が20%混じる 小礫が微量に混じる 締まりあり
- 18 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土ブロックが多量に混じる
- 19 黒褐色(10YR3/1)砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる 小礫が混じる 締まりあり
- 20 黒色(10YR2/1)砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる 小礫が混じる 締まりあり
- 21 黒褐色(10YR3/1)砂 径10cmの礫が多量に混じる 締まりあり
- 22 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土ブロックが多量に混じる
- 23 黒褐色(10YR3/2)シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 24 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 焼土粒・炭化物・小礫が微量に混じる
- 25 鈍い黄褐色(10YR4/3)砂 白色粒子が微量に混じる 締まりあり
- 26 赤黒色(2.5YR1.7/1)シルト 泥岩粒が微量に混じる
- 27 黒色(N2/0)シルト 砂・炭化物・泥岩粒が微量に混じる
- 28 黒色(N2/0)シルト

①-SK8
SK8 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 径5mmの焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりゆるい
①-SK9
SK9 黒色(10YR2/1)砂質シルト 焼土粒・炭化物・小礫が混じる 締まりゆるい



第11図 I-①区(1)



①-SK4

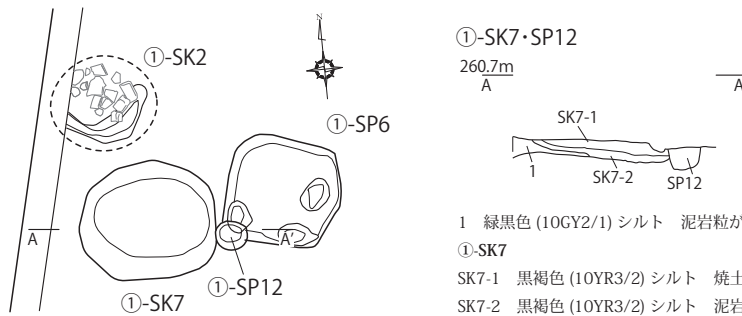
- 1 黒色 (2.5Y2/1) 砂に暗褐色 (10YR3/4) 砂が微量に混じる
- 2 オリーブ黒色 (5GY2/1) シルト 泥岩粒が微量に混じる

①-SK5

- SK5-1 暗褐色(10YR3/3)砂 焼土粒・炭化物が混じる
- SK5-2 暗褐色(7.5YR3/4)砂 焼土粒・炭化物が混じる
- SK5-3 SK5-3層が焼き縮まる

①-SK6

- SK6 暗褐色(5YR3/4)砂質シルト 縮まりあり



①-SK7・SP12

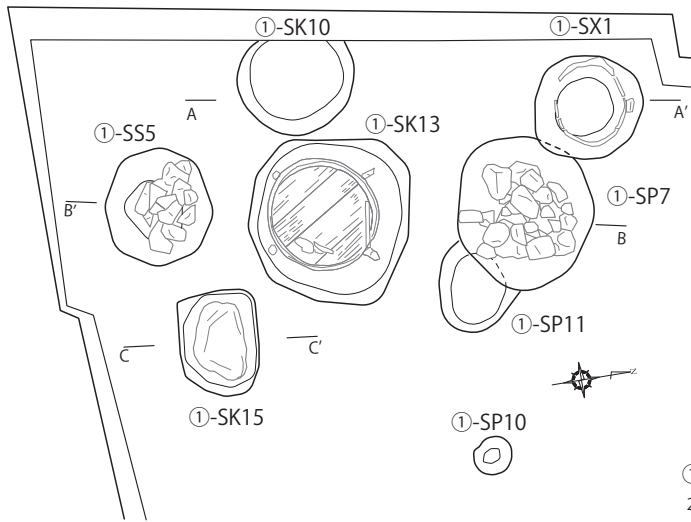
- 1 緑黒色 (10GY2/1) シルト 泥岩粒が微量に混じる
- SK7-1 黒褐色 (10YR3/2) シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- SK7-2 黒褐色 (10YR3/2) シルト 泥岩粒が微量に混じる

①-SK7

- SK7-1 黒褐色 (10YR3/2) シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- SK7-2 黒褐色 (10YR3/2) シルト 泥岩粒が微量に混じる

①-SP12

- SP12 黒褐色 (10YR3/2) シルトにオリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂が混じる 焼土粒・炭化物が混じる

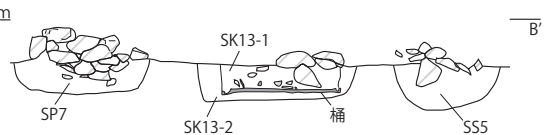
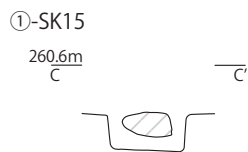


①-SK10・SX1

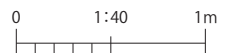
- SK10-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 径 3 cmの小礫が混じる
- SK10-2 黒褐色シルト (10YR3/1) 径 3 cmの小礫が混じる
- SX1-1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 2 ~ 5 cmの小礫・厚さ 2 cmのレンガが混じる
- SX1-2 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂 炭化物が多量に混じる
- SX1-3 黒褐色 (2.5YR3/2) 砂

①-SP7・SK13・SS5

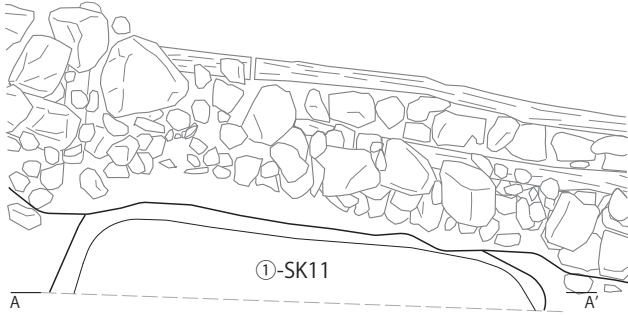
- SP7 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 径 10 ~ 16 cmの礫を充填する 焼土粒・炭化物が混じる
- SK13-1 黒色 (N1.5/0) 砂質シルト 径 5 ~ 20 cmの礫を充填する 焼土粒・炭化物が混じる
- SK13-2 オリーブ黒色 (10Y3/1) シルト 炭化物が混じる
- SS5 黒色 (10Y2/1) 砂質シルト 径 5 ~ 10 cmの礫を充填する 砂・白色粒子が多量に混じる



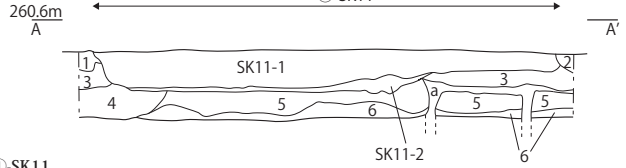
第12図 I-①区(2)



①-SK11



①-SK11



①-SK11

SK11-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径 2～3 cm のレンガブロック・焼土粒・炭化物が多量に混じる

SK11-2 暗褐色 (10YR3/4) 砂と黒褐色 (10YR3/2) 砂が斑に混じる

a 噴砂 褐色 (7.5YR4/6) 粗粒砂 径 1～2 cm の小礫が混じる

1 暗褐色 (10YR3/4) 砂にオリーブ褐色 (2.5Y4/6) 砂が混じる 焼土粒・炭化物が混じる
下層に泥岩粒が微量に混じる

2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 15 cm の礫・焼土粒・炭化物が混じる

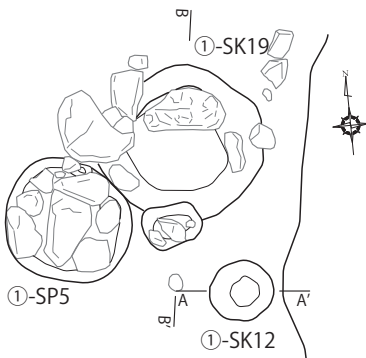
3 暗褐色 (10YR3/4) シルトに褐色 (10YR4/6) 砂が微量に混じる
炭化物・泥岩粒が微量に混じる

4 3層に似るが泥岩粒が混じる

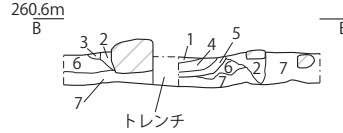
5 緑黑色 (10GY2/1) シルト 泥岩粒が微量に混じる

6 緑黑色 (10GY2/1) シルト

①-SK12・19



①-SK19



①-SK19

1 明黄褐色 (10YR3/4) 砂が混じる 締めりあり

2 黒色 (10YR3/2) 砂質シルトに明黄褐色 (10YR6/6) 砂が混じる 炭化物・焼土粒が混じる 締めりあり

3 2層に似るが焼けた石を含む

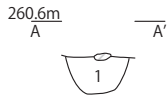
4 灰・焼土粒・炭化物が堆積する 焼き締まる

5 褐色 (7.5YR4/6) 砂 焼き締まる

6 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂 炭化物が微量に混じる

7 オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルトに褐色 (6YR4/6) 砂が混じる 焼土粒・炭化物が混じる

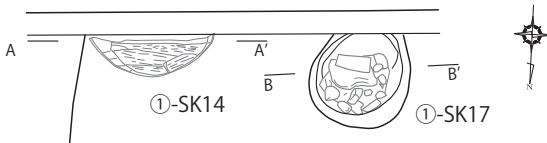
①-SK12



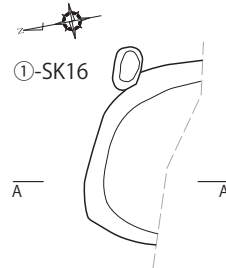
①-SK12

1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる

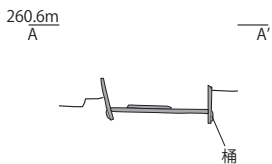
①-SK14・17



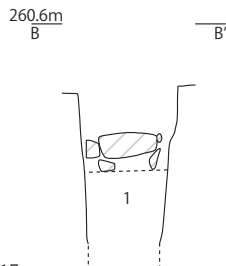
①-SK16



①-SK14



①-SK17



①-SK16

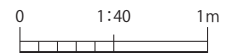


①-SK16

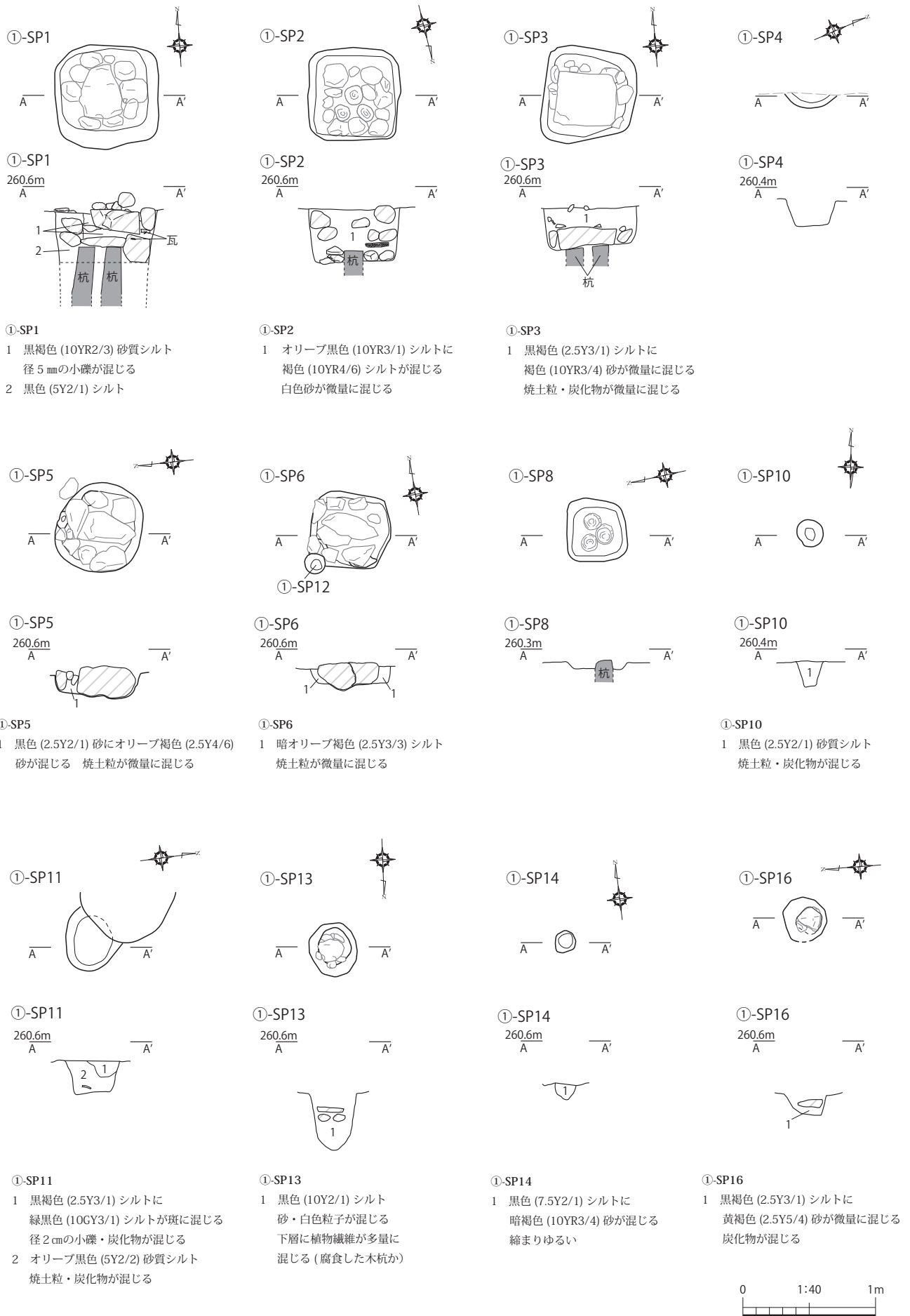
1 黒褐色 (2.5Y2/1) シルトに暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルトが混じる
焼土・灰が多量に混じる 焼き締まる

①-SK17

1 黒色 (10YR1.7/1) シルト
下層に植物繊維が多量に混じる (腐食した木杭か)

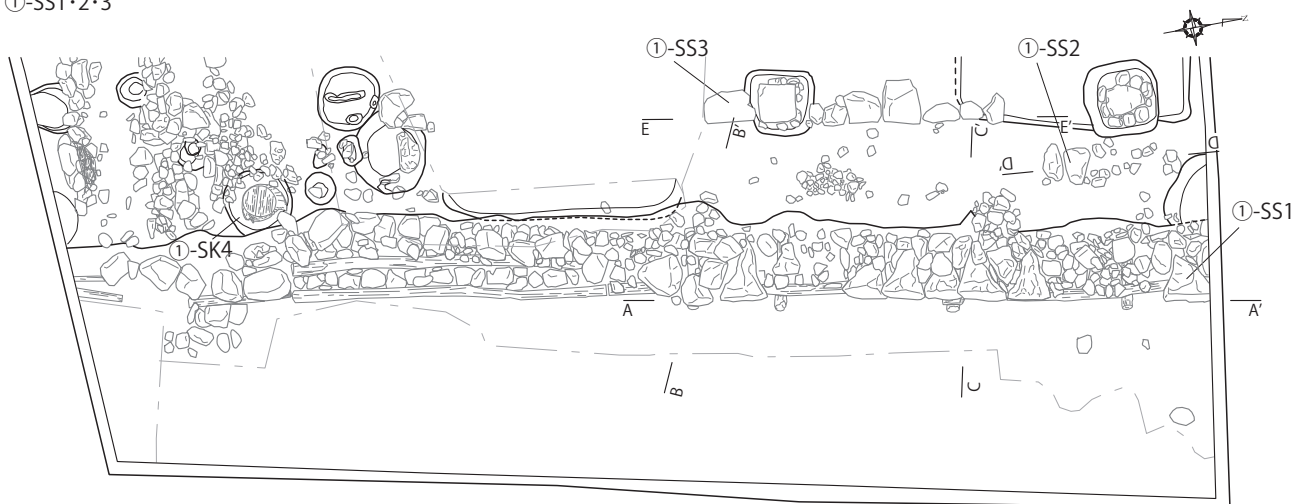


第13図 I-①区(3)



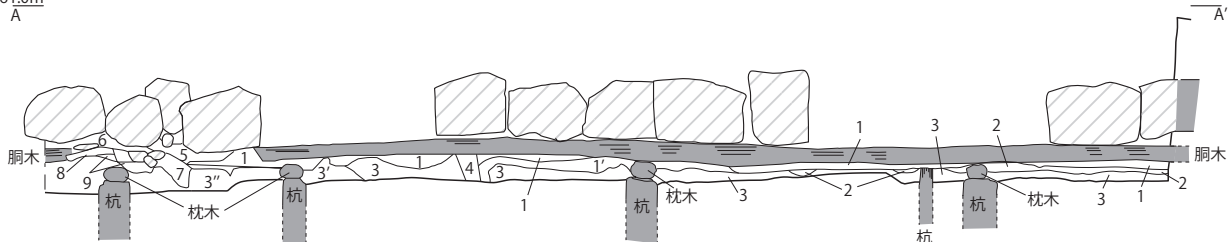
第14図 I-①区(4)

①-SS1・2・3



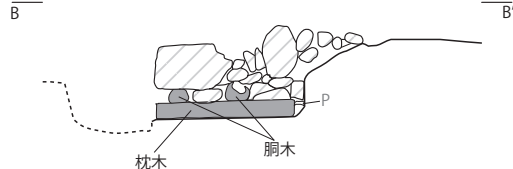
①-SS1

261.0m

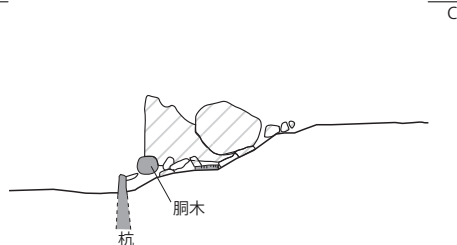


- | | |
|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 1 黒色(10YR2/1)砂質シルト 径3cmの割石・石を詰める 焼土粒・炭化物が微量に混じる | 4 黒褐色(10YR3/1)粗粒砂 |
| 1' 黒褐色(10YR2/2)シルトにぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂が斑に混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる | 5 灰色(5Y4/1)粗粒砂 |
| 2 黒褐色(10YR3/2)粗粒砂にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂が斑に混じる | 6 オリーブ黒色(5Y2/2)細粒砂 |
| 3 黒褐色(2.5Y3/1)シルト 泥岩粒が微量に混じる 締まりあり | 7 暗褐色(10YR3/3)粗粒砂 |
| 3' 3層に似るがやや泥岩粒が多い | 8 黒色(10YR2/1)シルトに褐色(10YR4/6)粗粒砂が40%混じる 径4cmの石が混じる |
| 3'' 黒色(10YR2/1)シルト | 9 黒色(10YR2/2)砂質シルト |

260.7m



261.1m



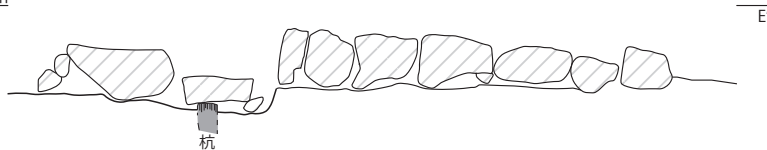
①-SS2

260.7m

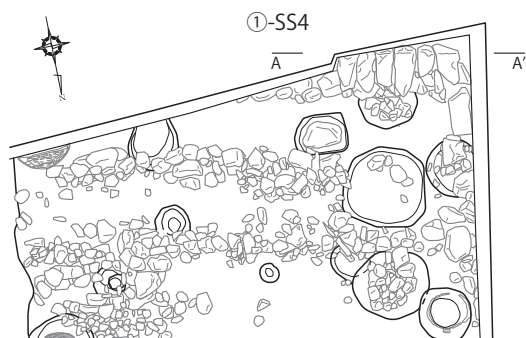


①-SS3

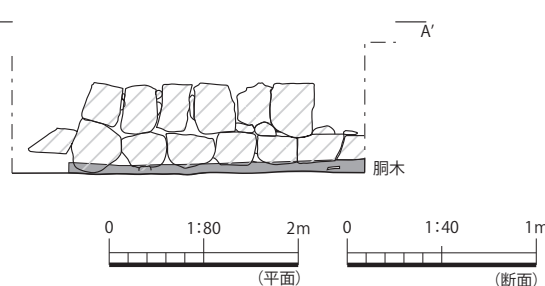
260.7m



①-SS4



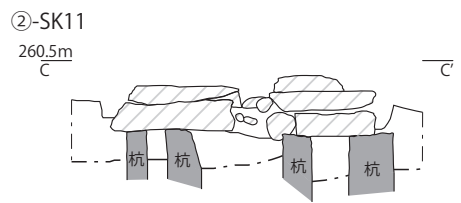
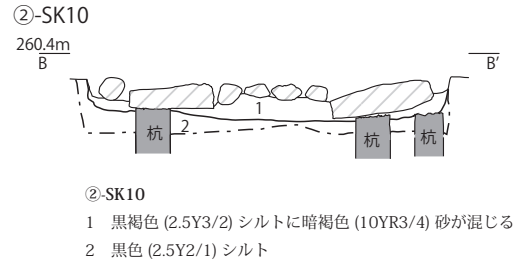
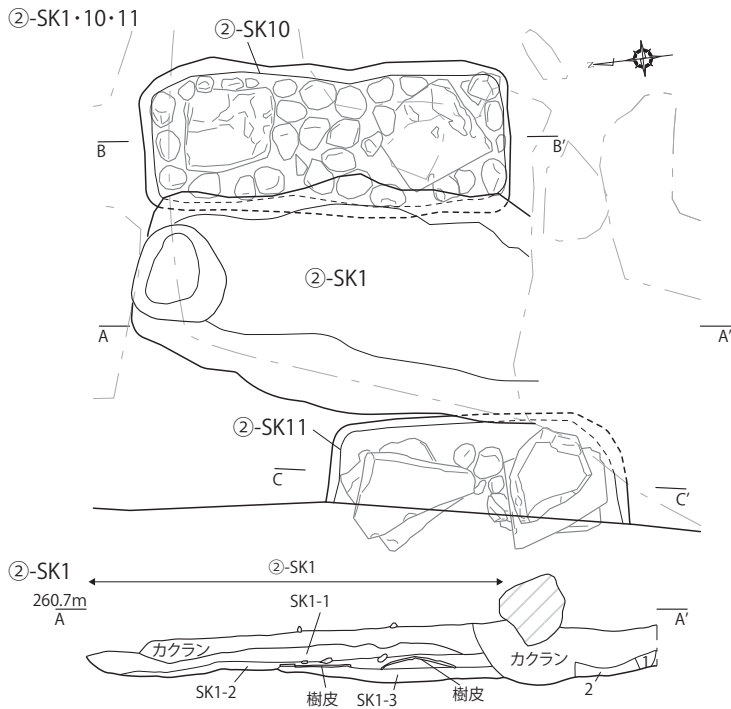
①-SS4



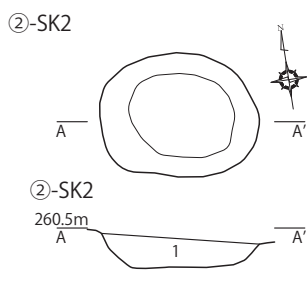
0 1:80 2m
(平面)

0 1:40 1m
(断面)

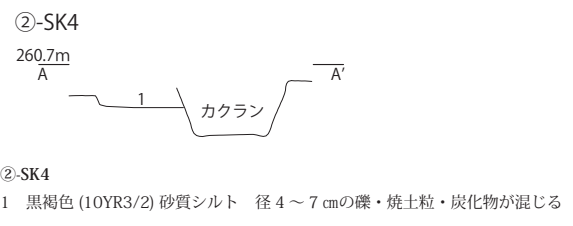
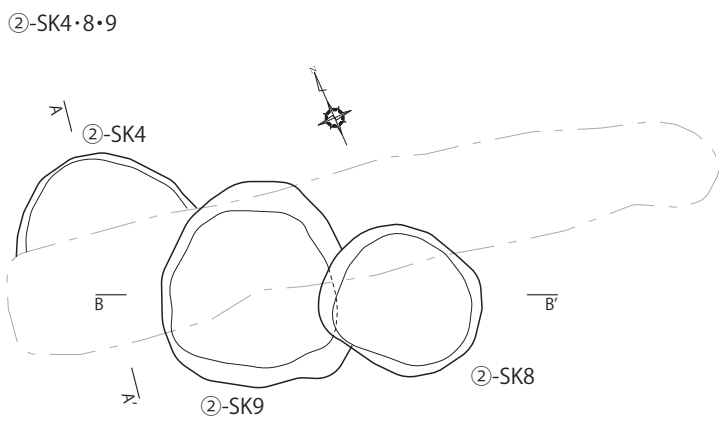
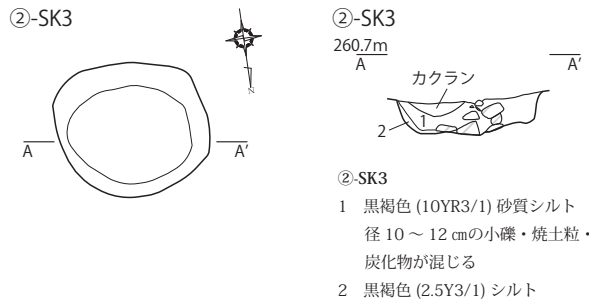
第15図 I-①区(5)



- ②-SK1
SK1-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径 2 cmの小礫・径 1 cmの焼土ブロック・炭化物が混じる
SK1-2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 径 3 cmの小礫が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる
SK1-3 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 径 3 cmの焼土ブロック・炭化物が多量に混じる
1 焼土ブロック
2 黒色 (10YR3/1) シルト 泥岩粒が微量に混じる



- ②-SK2
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり

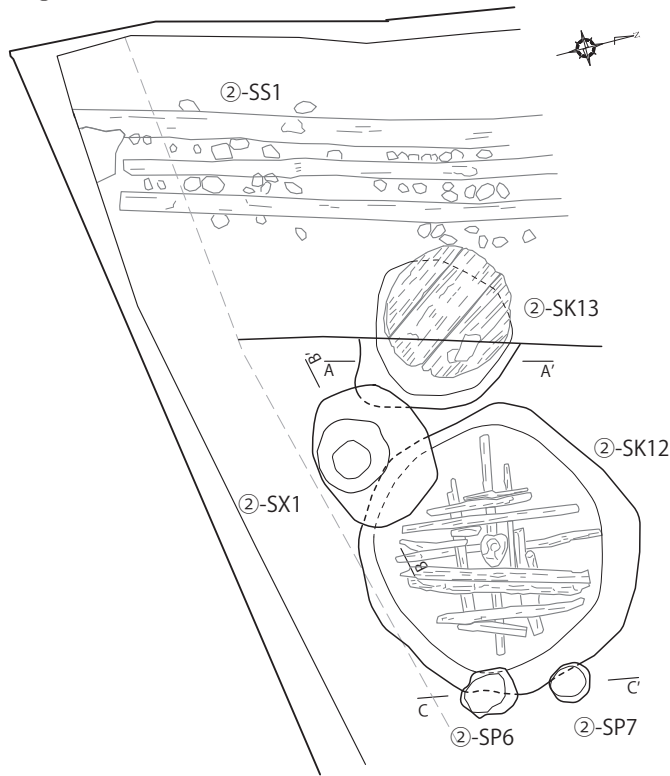


- ②-SK8
SK8 黒褐色 (10YR2/3) シルトに褐色 (10YR4/6) 砂が混じる 径 5 ~ 10 cmの礫・炭化物が混じる
- ②-SK9
SK9-1 黒褐色 (10YR2/3) シルトに黄褐色 (10YR5/8) 砂が混じる 径 5 cmの小礫・炭化物が混じる 締まりゆるい
SK9-2 黒色 (10YR2/1) シルト

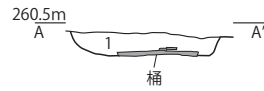


第16図 I-②区(1)

②-SX1・SK12・13・SP6・7



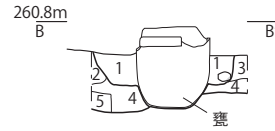
②-SK13



②-SK13

1 黒色 (2.5Y2/1) シルトに暗褐色 (10YR3/3) 砂・褐色 (10YR4/6) 砂が混じる炭化物が混じる

②-SX1



②-SX1

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 径3~4cmの礫が混じる 炭化物が微量に混じる
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 砂が混じる
- 3 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 径2cmの小礫・焼土粒・炭化物が混じる
- 4 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルトに黒色 (N2/0) シルトが斑に混じる炭化物が微量に混じる
- 5 緑黒色 (10GY2/1) シルト

②-SP6・7



②-SP6

SP6 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物が極微量に混じる
下層に黄灰色 (2.5Y4/1) 粗粒砂が溜まる

②-SP7

SP7 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 上層に焼土粒・炭化物が堆積する

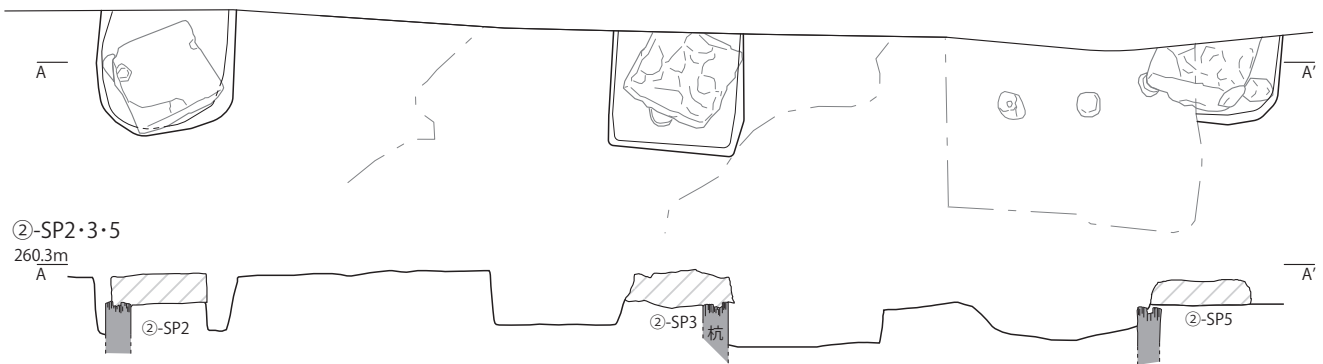
②-SP2・3・5



②-SP2

②-SP3

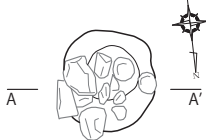
②-SP5



②-SP2・3・5

260.3m
A

②-SP1



②-SP1

260.7m
A



②-SP4

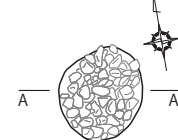


②-SP4

260.4m
A

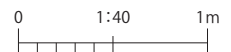


②-SS2

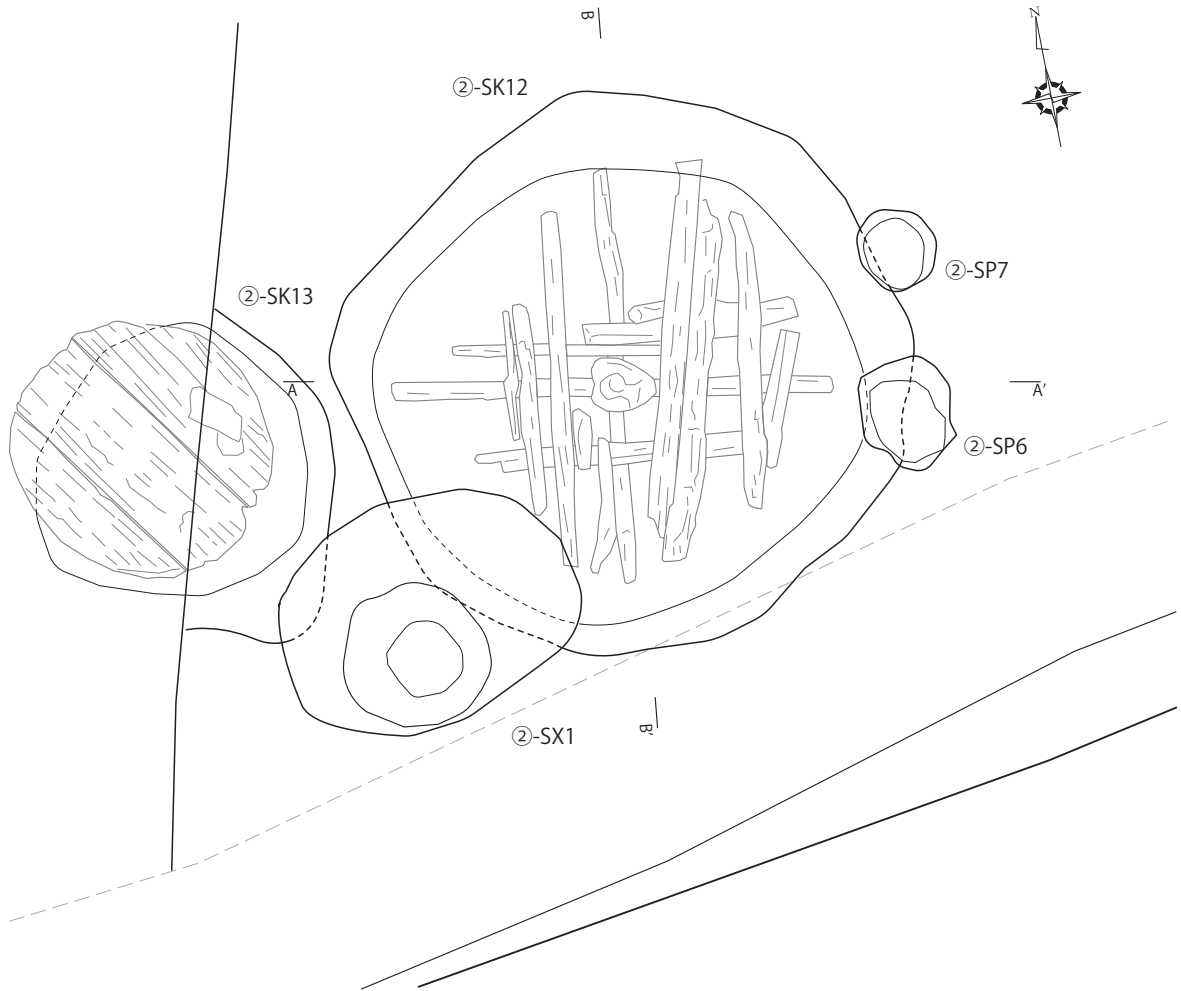


②-SS2

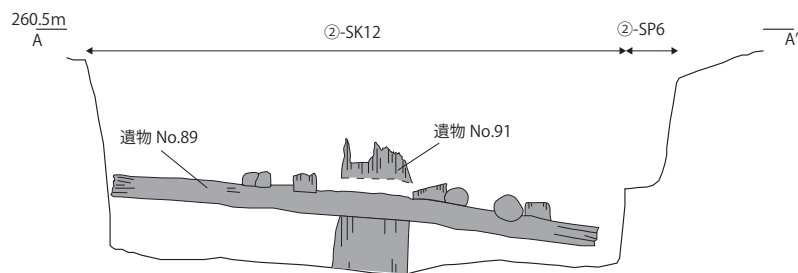
260.7m
A



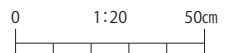
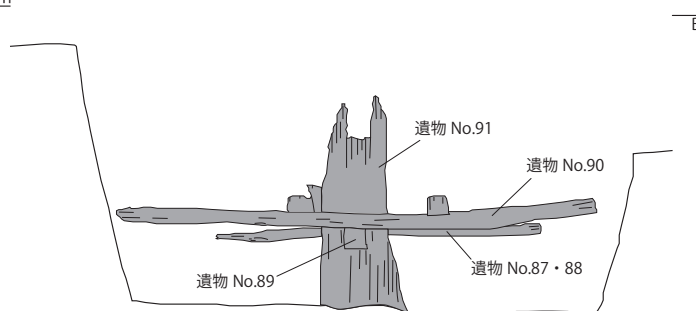
第17図 I-②区(2)



②-SK12・SP6

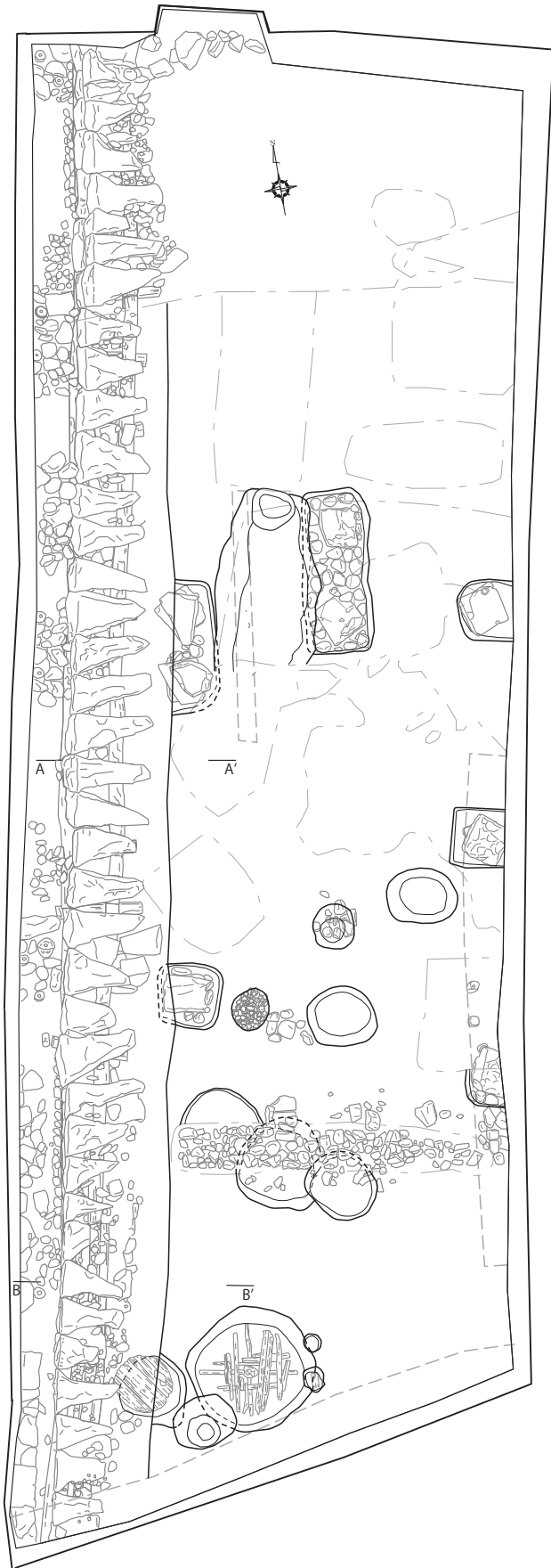


②-SK12
260.5m
B



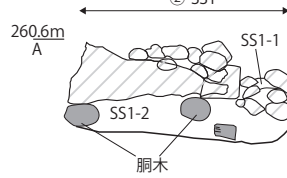
第18図 I-②区(3)

I-②区全景



②-SS1

②-SS1



②-SS1(北側)

SS1-1 暗オリーブ色 (2.5Y3/3) 砂質シルト 細粒砂が混じる

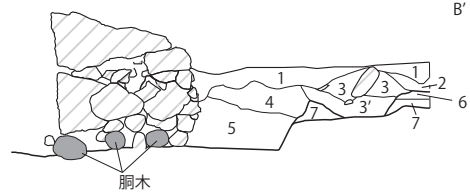
SS1-2 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト 細粒砂が混じる

1 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 径5mmの小礫が混じる
焼土粒・炭化物が微量に混じる

2 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりあり

3 黒色 (2.5Y2/1) シルト 炭化物が極微量に混じる

261.0m
B



②-SS1(南側)

1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径5mmの小礫・焼土粒・炭化物が混じる

2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりあり

3 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒・炭化物が混じる

3' 3層に黒褐色 (2.5Y3/1) シルトが混じる

4 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト 細粒砂が混じる

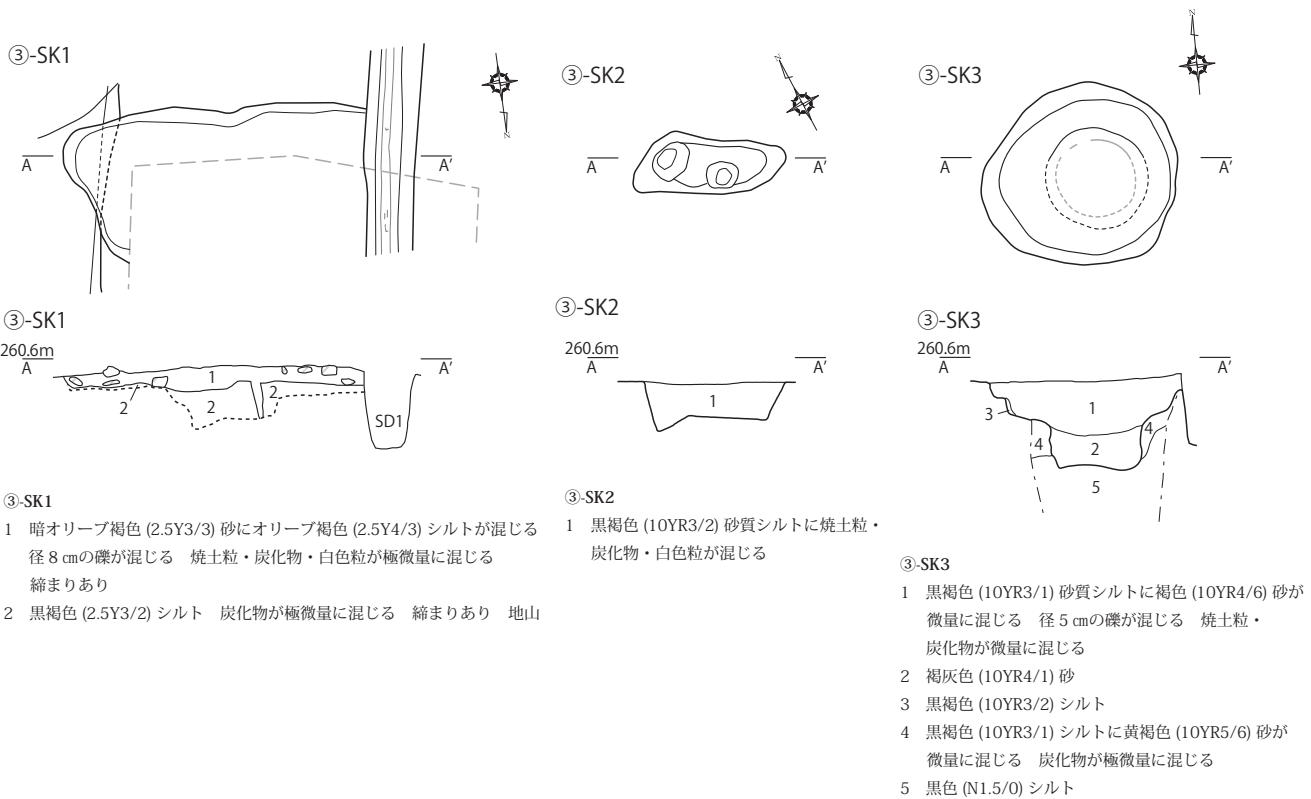
5 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト 細粒砂が混じる

6 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 縮まりあり

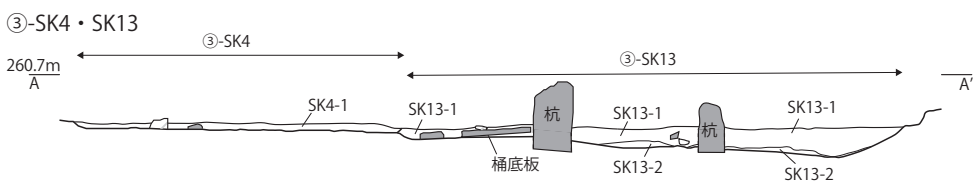
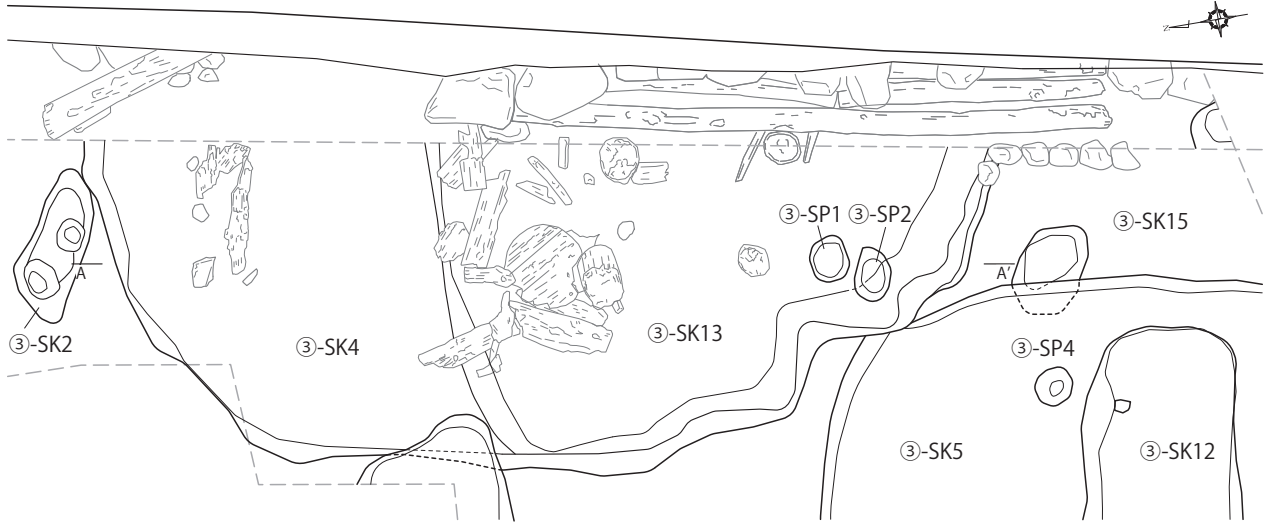
7 黒色 (2.5Y2/1) シルト 炭化物が極微量に混じる



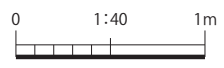
第19図 I-②区(4)



③-SK4・SK13

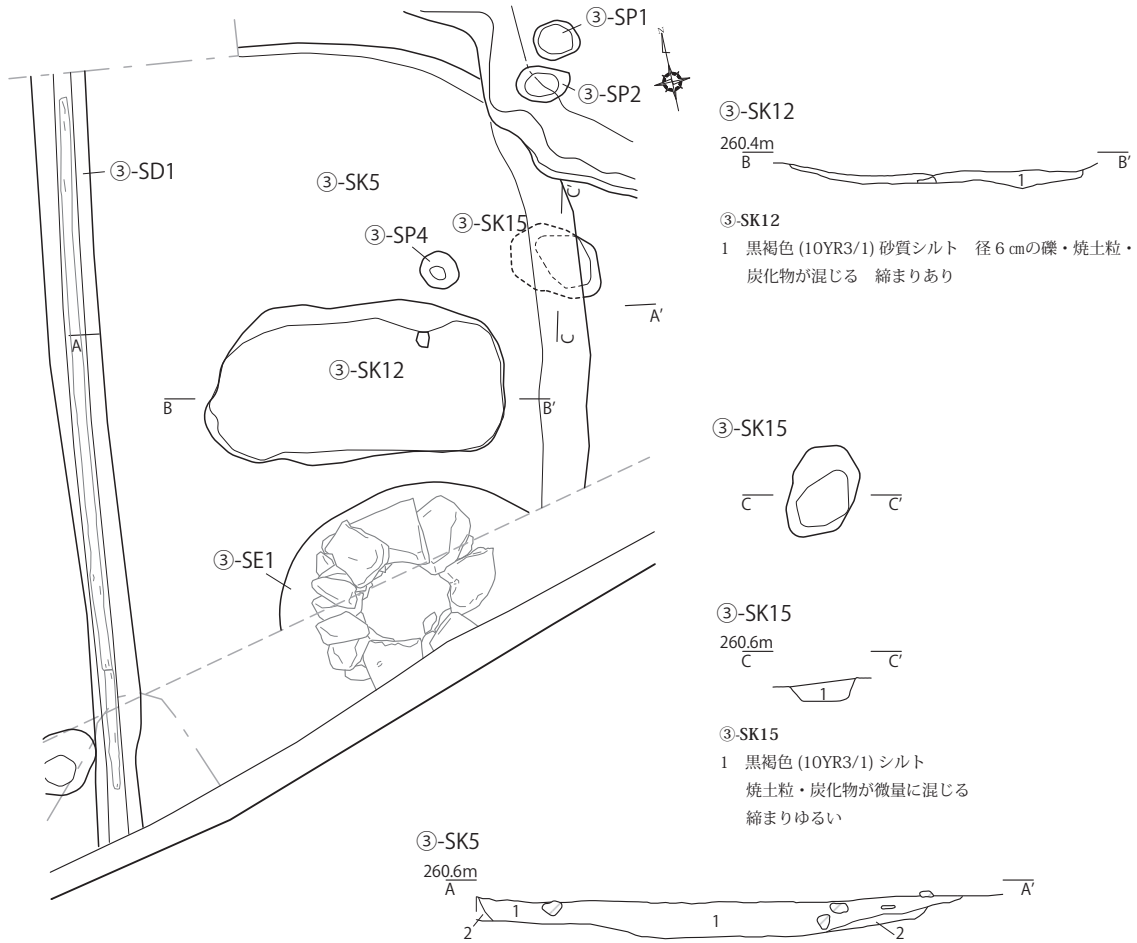


- ③-SK4・SK13**
- SK4-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に黄褐色 (10YR5/6) 砂が混じる 径 3 cm の礫が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- SK13-1 黒色 (10YR2/1) シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- SK13-2 黒色 (7.5Y2/1) シルト 白色粒が極微量に混じる



第20図 I-③区(1)

③-SK5・12・15



③-SK5

260.6m

A

③-SK5

- 1 黒褐色 (7.5YR2/2) 砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる
- 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりあり

③-SK12

260.4m

B

③-SK12

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 径6cmの礫・焼土粒・炭化物が混じる 縮まりあり

③-SK15



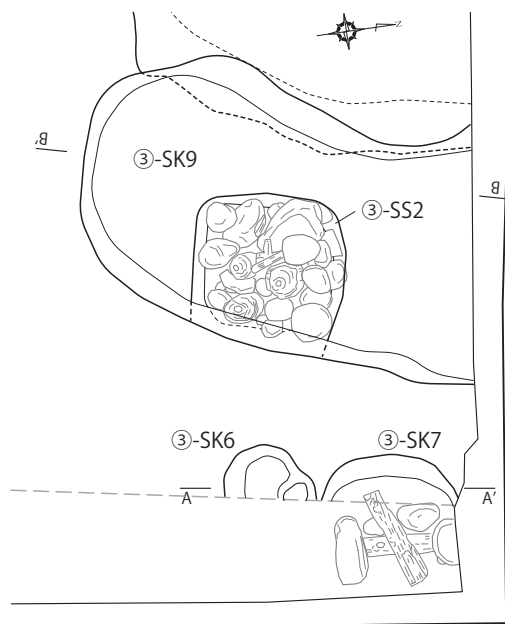
③-SK15

260.6m

C

③-SK15

- 1 黒褐色 (10YR3/1) シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい



③-SK6・7

260.5m

A



③-SK6

- SK6-1 黒褐色 (10YR3/1) シルト 径10cmの礫・砂が混じる
- SK6-2 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト

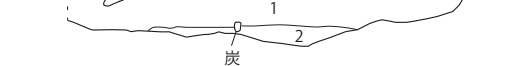
③-SK7

- SK7-1 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂が混じる
- SK7-1 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト

③-SK9

260.5m

B



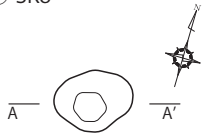
③-SK9

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径2~3cmの焼土ブロック・炭化物を多量に含む
- 2 黒色 (10YR1.7/1) 砂 焼土粒・炭化物を多量に含む



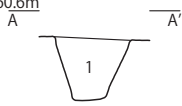
第21図 I-③区(2)

③-SK8



③-SK8

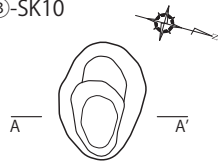
260.6m



③-SK8

- 1 緑黒色 (10GY2/1) シルト
白色粒が極微量に混じる
粘性強い

③-SK10

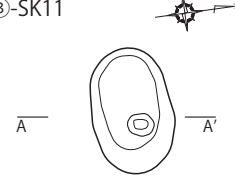


③-SK10

260.6m



③-SK11

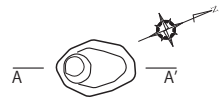


③-SK11

260.7m

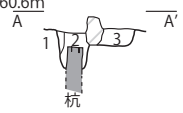


③-SK14



③-SK14

260.6m



③-SK14

- 1 黒褐色 (10YR3/1) シルト 締まりゆるい
- 2 黒褐色 (5YR2/1) 砂質シルト 締まりゆるい
- 3 黒褐色 (10YR3/2) シルト
焼土粒・炭化物が極微量に混じる
締まりあり

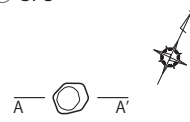
③-SP1・SP2



③-SP4

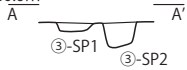


③-SP5



③-SP1・SP2

260.6m



③-SP4

260.7m



③-SP5

260.5m



③-SP1

- SP1 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黒褐色 (10YR3/1) シルト
が混じる 径 2~3 cmの小礫が混じる

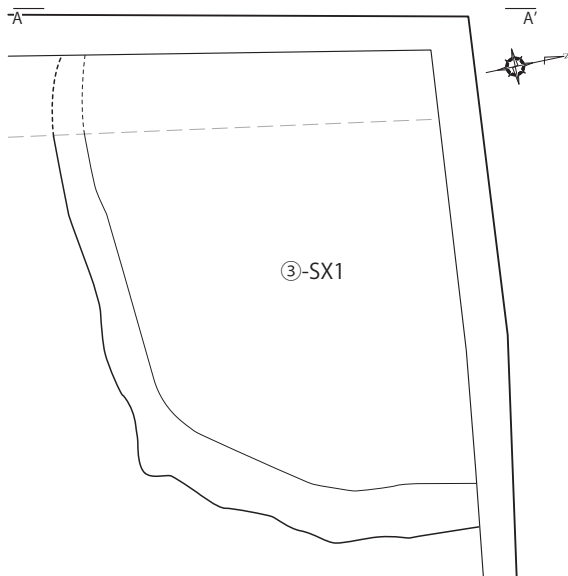
③-SP2

- SP2 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黒褐色 (10YR3/1) シルト
が混じる 焼土粒・炭化物が混じる

③-SP5

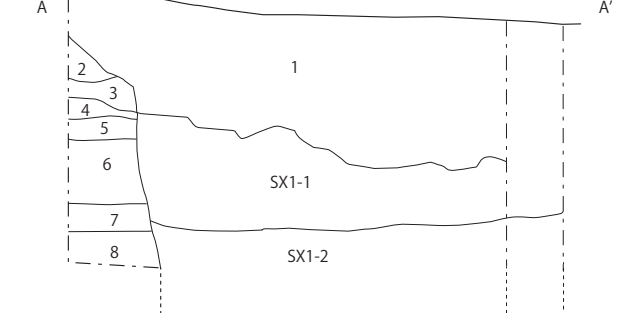
- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト
砂・焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい

③-SX1



③-SX1

261.3m

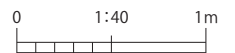


1 表土

- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 3 cmの小礫が多量に混じる 締まりあり
- 4 黒色 (10YR2/1) 砂 焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
- 5 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト 径 10 cmの小礫・焼土粒・炭化物・
白色粒が混じる
- 6 黒褐色 (10YR2/3) シルト
- 7 黒褐色 (2.5Y2/1) シルト 締まりあり 粘性強い
- 8 黒色 (N2/1) シルト

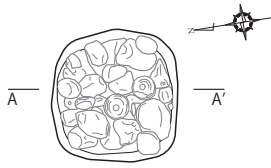
③-SX1

- SX1-1 黒色 (N2/1) シルトに暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルトが混じる 締まりあり 粘性強い
- SX1-2 黒色 (N2/1) シルトに暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルトが斑に混じる

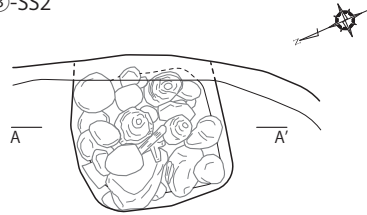


第22図 I-③区(3)

③-SS1



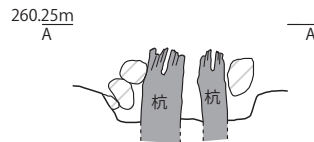
③-SS2



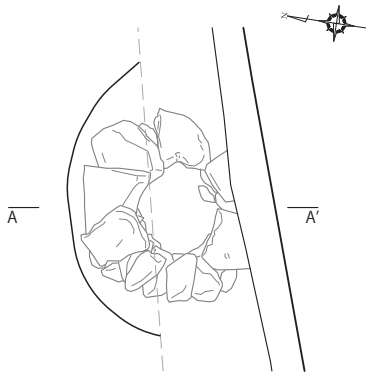
③-SS1



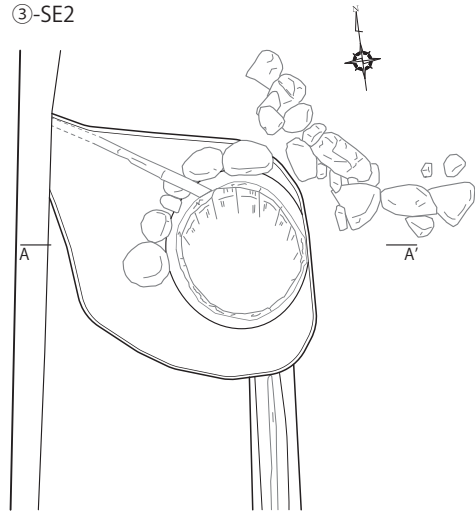
③-SS2



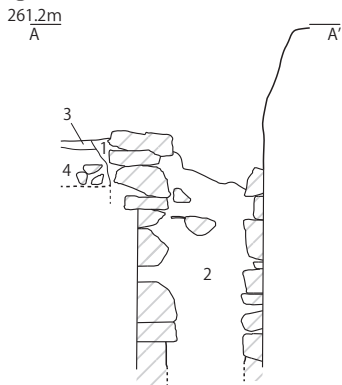
③-SE1



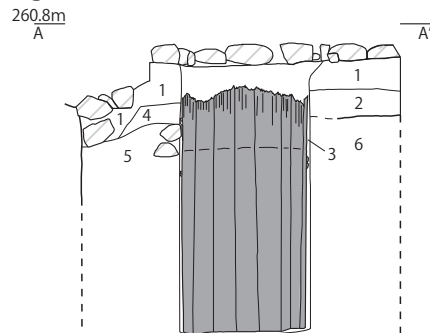
③-SE2



③-SE1



③-SE2



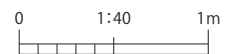
③-SE1

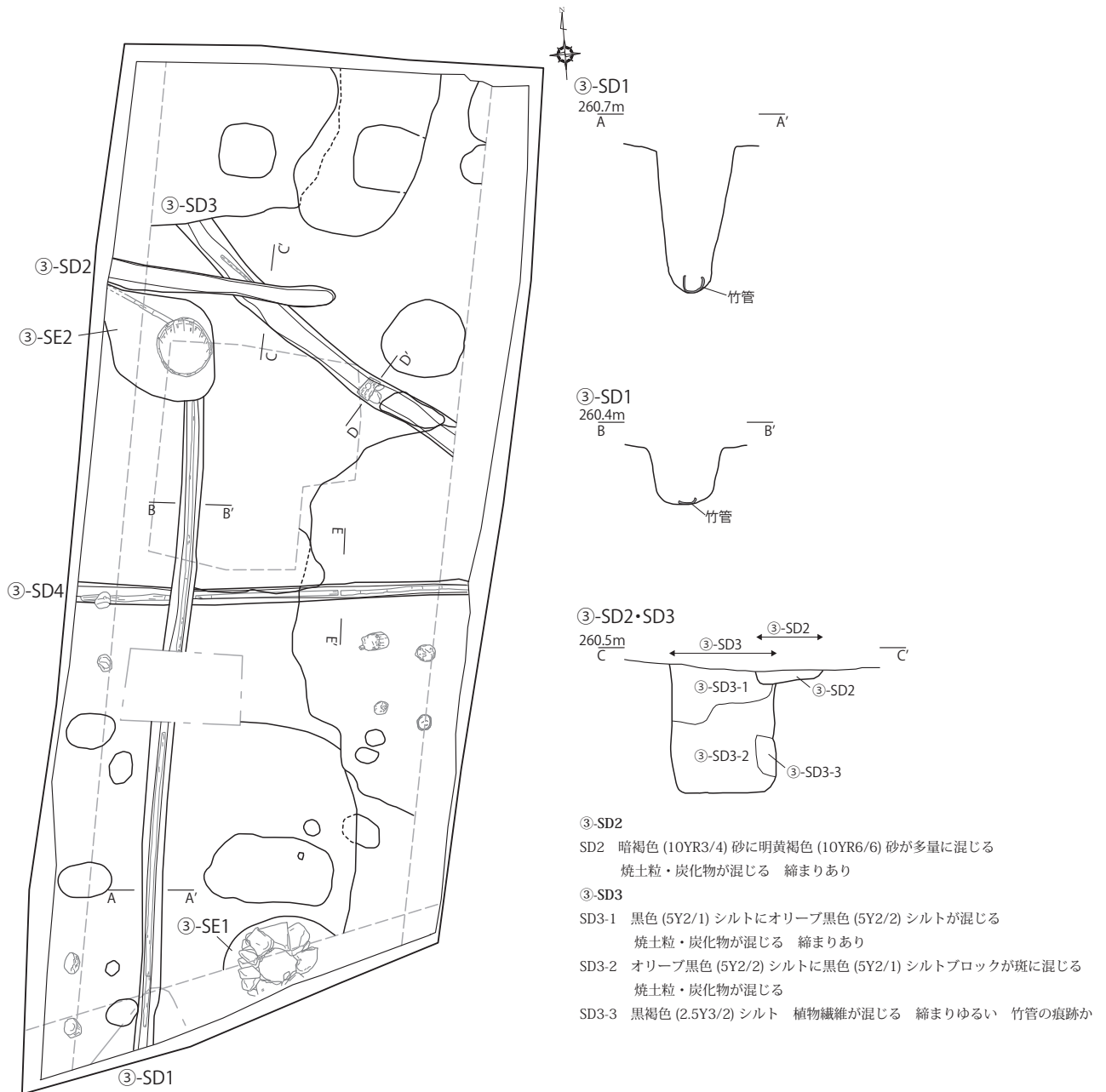
- 1 黒色 (2.5Y2/1) シルト 焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい
- 2 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 3 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が混じる
- 4 3層より焼土粒・炭化物が多量に混じる

③-SE2

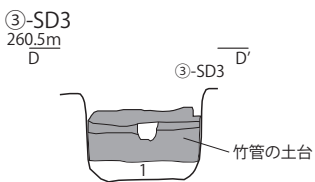
- 1 黒色 (N1.5/0) シルトににぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂が混じる
- 2 黒褐色 (10YR3/2) シルト 白色粒が混じる
- 3 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 締まりゆるい
- 4 黒色 (5Y2/1) シルト
- 5 4層に似るが砂が微量に混じる
- 6 黒色 (7.5Y2/1) シルト

第23図 I-③区(4)





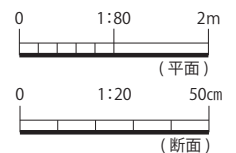
- ③-SD2
SD2 暗褐色 (10YR3/4) 砂に明黄褐色 (10YR6/6) 砂が多量に混じる
焼土粒・炭化物が混じる 縮まりあり
- ③-SD3
SD3-1 黒色 (5Y2/1) シルトにオリブ黒色 (5Y2/2) シルトが混じる
焼土粒・炭化物が混じる 縮まりあり
SD3-2 オリブ黒色 (5Y2/2) シルトに黒色 (5Y2/1) シルトブロックが斑に混じる
焼土粒・炭化物が混じる
SD3-3 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 植物繊維が混じる 縮まりゆるい 竹管の痕跡が



- ③-SD3
1 黒色 (2.5Y2/1) シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる
縮まりゆるい 粘性強い

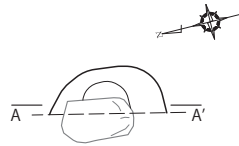


- ③-SD4
1 黒褐色 (10YR3/1) シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる
縮まりゆるい



第24図 I-③区(5)

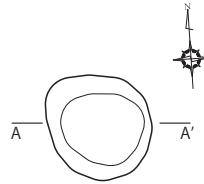
④-SK1



④-SK1



④-SK4



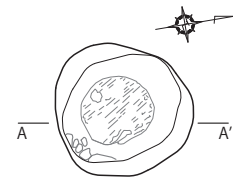
④-SK4



④-SK4

- 1 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質シルト
径 6 ~ 10 cm の礫が混じる
炭化物が極微量に混じる
縮まりあり

④-SK5



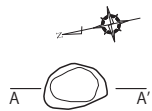
④-SK5



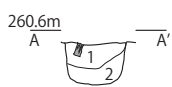
④-SK5

- 1 黒色 (2.5Y2/1) 砂 砂利・焼土粒・炭化物が混じる 縮まりゆるい
2 黒色 (2.5Y2/1) 砂 焼土粒・炭化物が混じる 縮まりゆるい

④-SK7



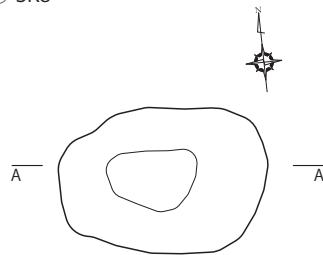
④-SK7



④-SK7

- 1 黒色 (10YR2/1) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる
2 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 焼土粒・白色粒が極微量に混じる

④-SK8



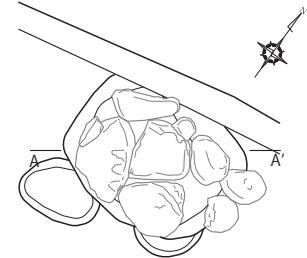
④-SK8



④-SK8

- 1 黒色 (5Y2/1) シルトに青灰色 (5BG5/1) シルトが混じる 縮まりゆるい

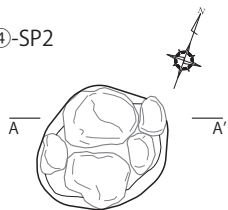
④-SP1



④-SP1



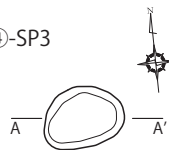
④-SP2



④-SP2



④-SP3



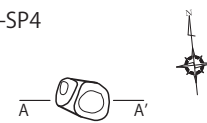
④-SP3



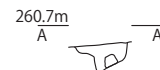
④-SP3

- 1 黒色 (2.5Y2/1) 砂に暗褐色 (10YR3/4) 砂ブロックが混じる 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる

④-SP4

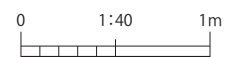


④-SP4



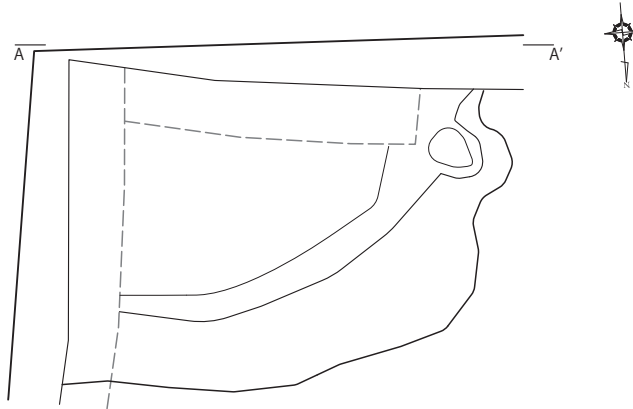
④-SP4

- 1 黒色 (2.5Y2/1) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる

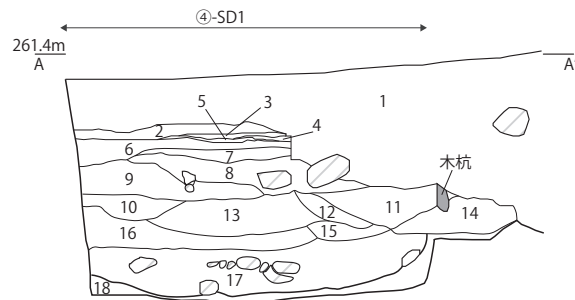


第25図 I-④区(1)

④-SD1

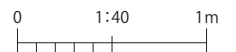


④-SD1

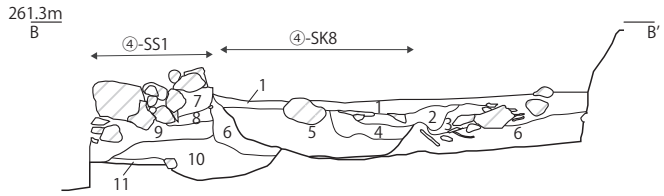
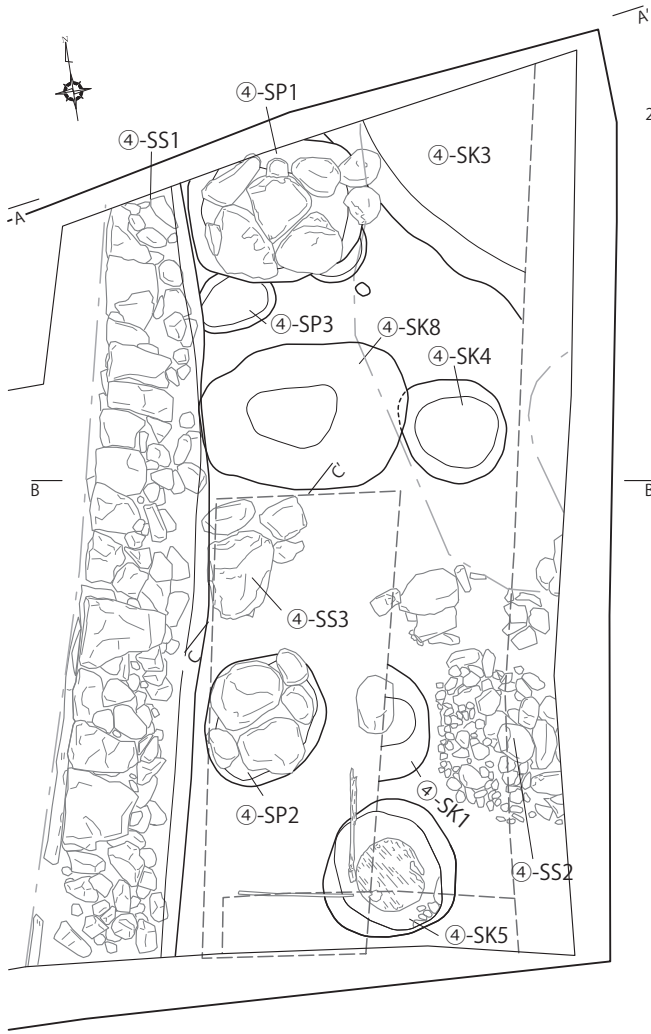


④-SD1

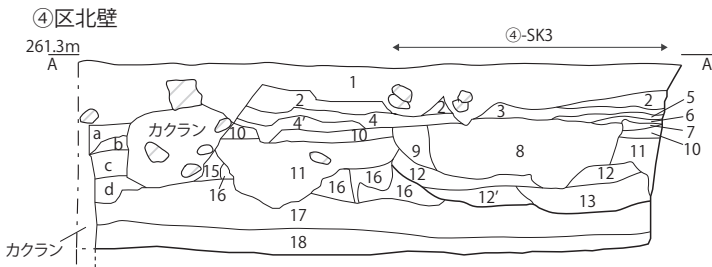
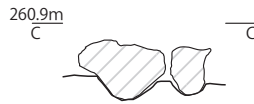
- 1 表土 碎石層
- 2 黒褐色 (10YR2/2) シルト
- 3 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 締まりあり
- 4 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂 締まりあり
- 5 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂 コンクリート片・径3cmの小礫が混じる 締まりあり
- 6 黒褐色 (10YR2/3) 砂 礫が混じる 炭化物が極微量に混じる 締まりあり
- 7 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 8 黒褐色 (10YR2/3) 砂に黄褐色 (10YR5/6) 砂が混じる 炭化物・白色粒が微量に混じる
- 9 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径5～9cmの割石が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 10 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 11 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径5cmの礫・焼土粒・炭化物が多量に混じる
- 12 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 粗粒砂が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 13 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 14 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径5cmの礫・焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 15 径5mmの砂利が溜まる
- 16 SD1 覆土 暗褐色 (10YR3/3) 砂 径5cmの礫が混じる 焼土粒・炭化物が多量に混じる
- 17 SD1 覆土 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 18 黒色 (5Y2/1) シルト 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい



第26図 I-④区(2)

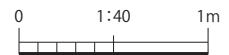


- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 径 5 cmの礫が混じる 締まりあり
- 2 黒色 (2.5Y2/1) シルト 砂が混じる
- 3 黒色 (2.5Y2/1) シルト 泥岩粒が微量に混じる
- 4 SK8 覆土 黒色 (2.5Y2/1) シルトに青灰色 (5BG5/1) シルトが混じる 締まりゆるい
- 5 SK8 覆土 黒色 (5Y2/1) シルト 締まりゆるい
- 6 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- 7 SS1 覆土 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 砂・焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる
- 8 SS1 覆土 黒褐色 (10YR2/2) 砂に褐色 (10YR4/6) 砂が混じる
- 9 SS1 覆土 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 径 5 cmの礫・砂が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 10 黒色 (2.5GY2/1) シルト 砂が混じる 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる
- 11 黒色 (2.5GY2/1) シルト



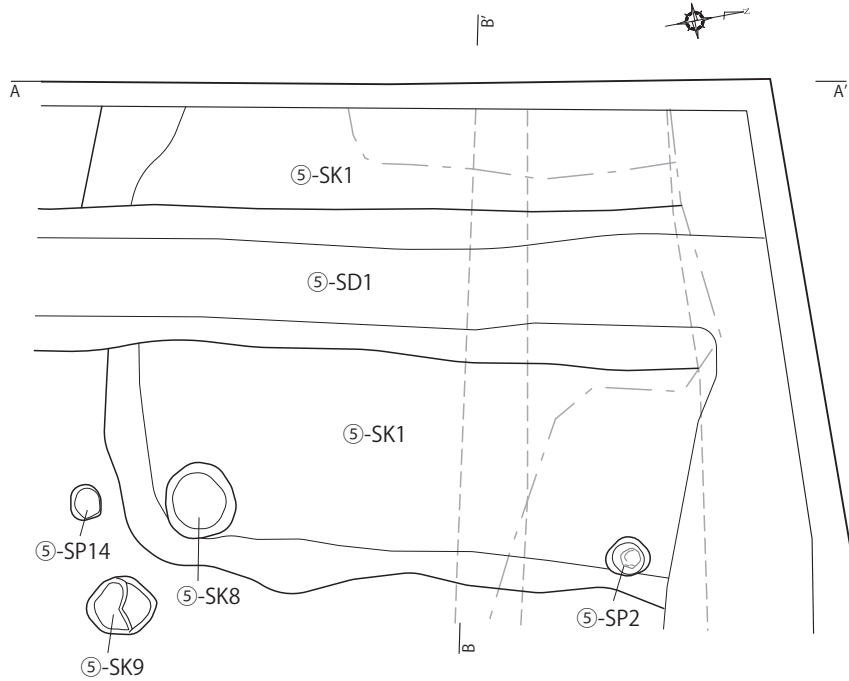
④区北壁

- 1 表土 砕石層
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 レンガ・径 2 cmの小礫・炭化物が混じる 締まりあり
- 3 黒色 (10YR1.7/1) 砂 コンクリート片・焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂 径 3 cmの礫が混じる 締まりあり
- 4' オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂に暗褐色 (10YR3/3) 砂が混じる 炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 5 黒褐色 (10YR3/1) 砂 炭化物・灰が多量に混じる
- 6 黒褐色 (10YR2/3) 砂 礫が混じる 炭化物が極微量に混じる 締まりあり
- 7 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物が極微量に混じる
- 8 割石の集積
- 9 暗褐色 (10YR3/3) 砂に黒色 (10YR2/1) シルトが混じる 焼土粒・炭化物が混じる
- 10 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂・焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 11 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 3 ~ 4 cmの礫が混じる 焼土粒・炭化物が多量に混じる
- 12 SK3 覆土 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 12' SK3 覆土 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粗粒砂 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 13 SK3 覆土 黒褐色 (10YR3/2) シルトに黒褐色 (10YR5/6) 砂が極微量に混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる
- 14 黒褐色 (10YR3/3) 粗粒砂に黒褐色 (10YR3/2) シルトが混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 下層に泥岩粒が微量に混じる
- 15 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる
- 16 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 砂・焼土粒・炭化物・白色粒が混じる
- 16' 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる
- 17 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 砂・炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 18 黒色 (5Y2/1) シルト 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- a SS1 覆土 黒褐色 (10YR2/2) 砂 締まりあり
- b SS1 覆土 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂
- c SS1 覆土 黒褐色 (10YR3/1) 粗粒砂 径 1 cmの小礫が混じる
- d SS1 覆土 黒色 (10YR1.7/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が混じる

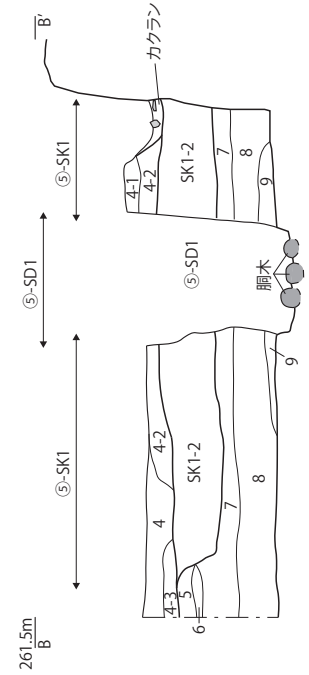


第27図 1-④区(3)

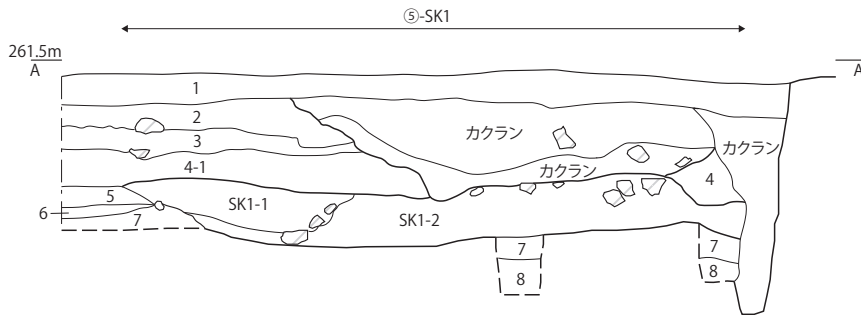
⑤-SK1・SD1



⑤-SK1・SD1



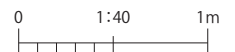
⑤-SK1

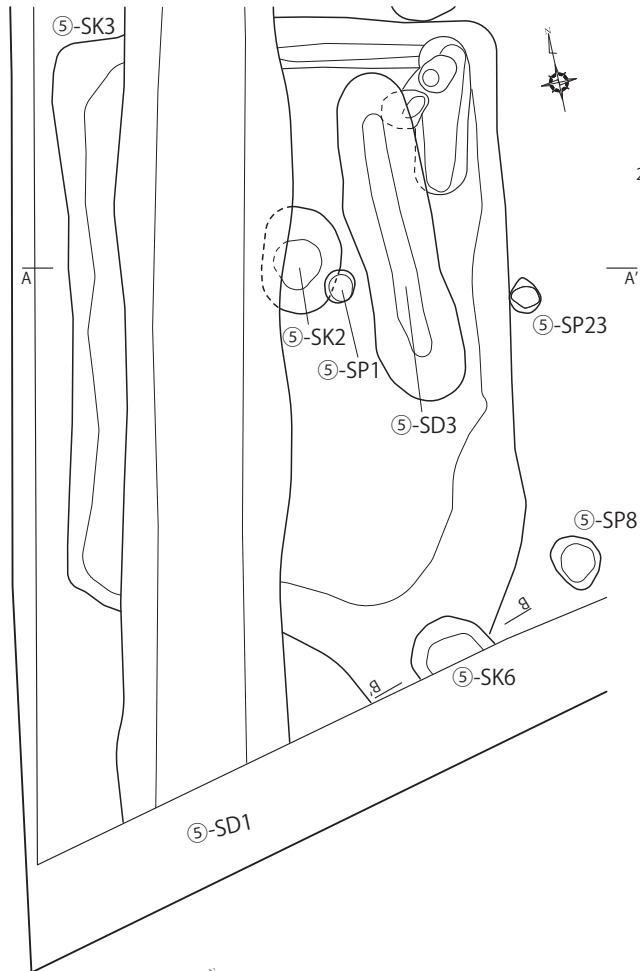


⑤-SK1・SD1

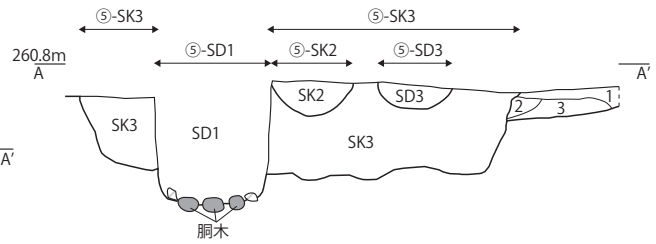
- 1 表土・碎石層
- 2 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり 現代の造成土
- 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 2 cm の焼土ブロック・炭化物が多量に混じる 締まりあり 戦災層
- 4-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
- 4-2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 4-3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる
- 5 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂が混じる 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 6 黒色 (10YR2/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 7 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 泥岩粒が微量に混じる 炭化物が極微量に混じる
- 8 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 砂が混じる 7層より泥岩粒が多い 炭化物が極微量に混じる
- 9 黒色 (2.5Y2/1) シルト 締まりゆるい
- SK1-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径 5 cm の礫・焼土ブロック・炭化物が混じる
- SK1-2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 10 cm の礫・焼土ブロック・炭化物が多量に混じる

第28図 I-⑤区(1)





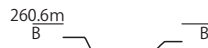
⑤-SK3・SD1・SK2・SD3



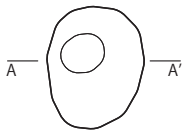
⑤-SK3・SD1・SK2・SD23

- 1 黒褐色 (10YR3/2) シルト 砂・焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり
- 2 黒色 (10YR1.7/1) シルト 縮まりゆるい
- 3 暗褐色 (10YR3/3) シルト 炭化物が極微量に混じる 縮まりゆるい
- SK2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりあり
- SK3 黒褐色 (10YR2/2) 砂 焼土ブロック・炭化物が多量に混じる
下層に炭化物が堆積する 縮まりあり
- SD3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりあり

⑤-SK6

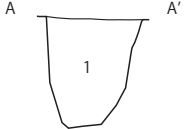


⑤-SK4



⑤-SK4

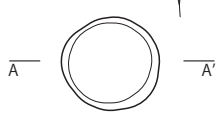
260.8m



⑤-SK4

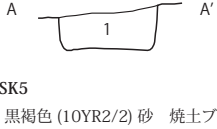
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 径 2 cm の碟・焼土粒・炭化物が混じる

⑤-SK5



⑤-SK5

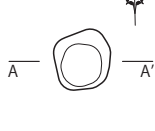
260.7m



⑤-SK5

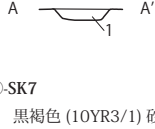
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 焼土ブロックが多量に混じる 下層に炭化物が堆積する

⑤-SK7



⑤-SK7

260.6m



⑤-SK7

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる

⑤-SK8



⑤-SK8

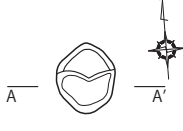
260.6m



⑤-SK8

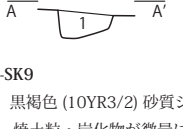
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 3 ~ 6 cm の碟・焼土粒・炭化物が混じる

⑤-SK9



⑤-SK9

260.6m

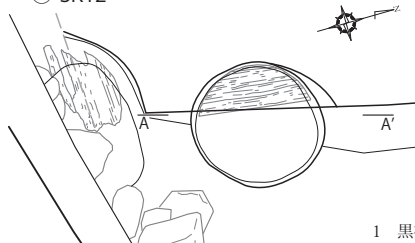


⑤-SK9

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる

⑤-SK12

⑤-SK15



⑤-SK15

260.5m



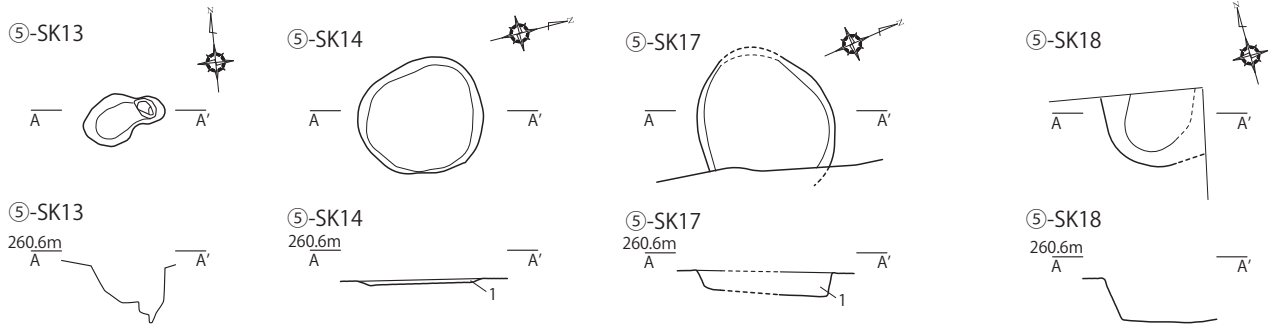
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる
- 2 黒色 (10YR1.7/1) シルト 白色粒が極微量に混じる 縮まりあり

⑤-SK15

- SK15-1 黒色 (10YR2/1) シルトに暗褐色 (10YR3/4) 砂が混じる 縮まりゆるい
- SK15-2 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 焼土ブロック・炭化物が多量に混じる 下層に炭化物が堆積する

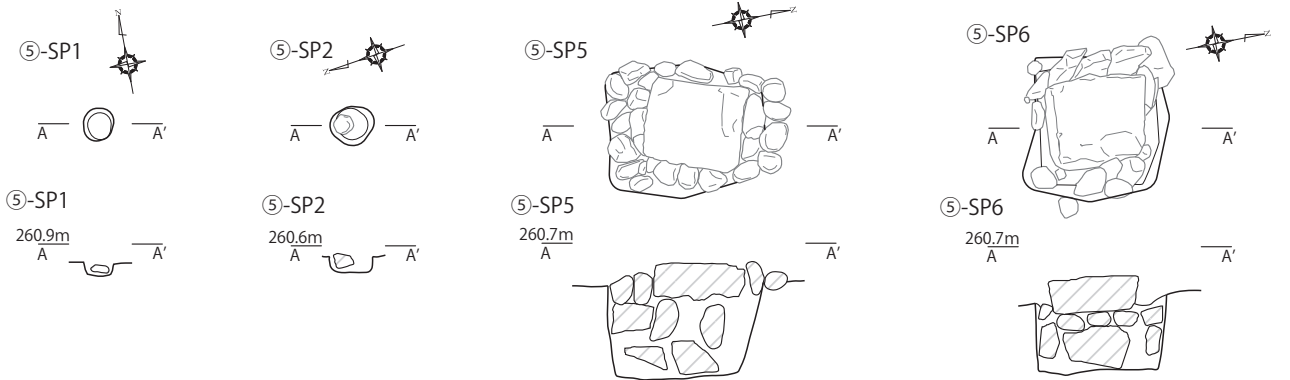
第29図 1-⑤区(2)





⑤-SK14
1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト
炭化物が混じる

⑤-SK17
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 5 ~ 9cm の割石が混じる
焼土粒・炭化物が微量に混じる 締めりあり



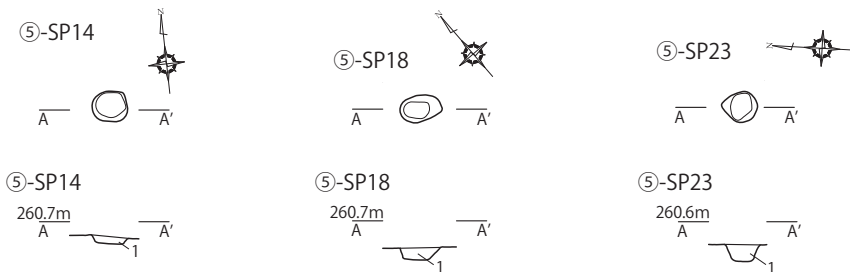
⑤-SP7
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる

⑤-SP8
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
炭化物が微量に混じる

⑤-SP11
SP11 暗褐色 (10YR3/3) 砂
炭化物・白色粒が微量に混じる

⑤-SP12
SP12 黒褐色 (10YR3/2) 砂
焼土粒・炭化物が混じる

⑤-SP13
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
焼土粒・炭化物が混じる



⑤-SP14
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂
炭化物・白色粒が極微量に混じる

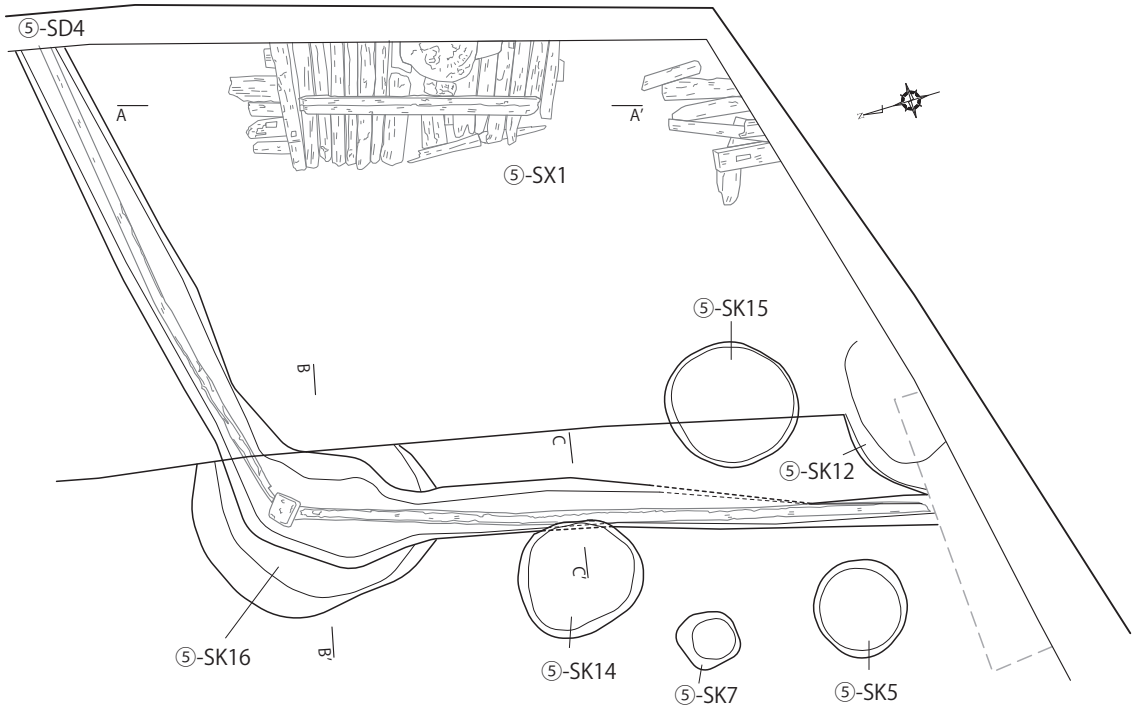
⑤-SP18
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
焼土粒・炭化物が極微量に混じる

⑤-SP23
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト
焼土粒・炭化物・植物繊維が混じる

第30図 I-⑤区(3)

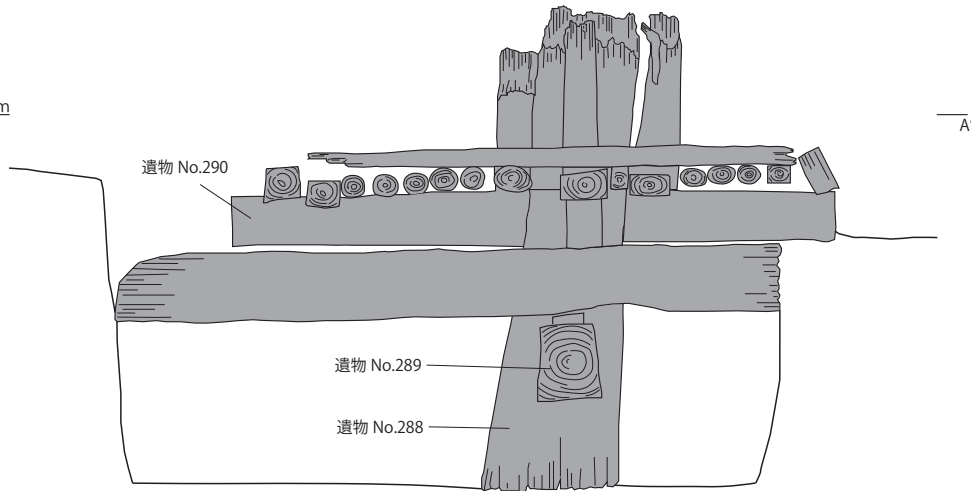


⑤-SX1・SD4



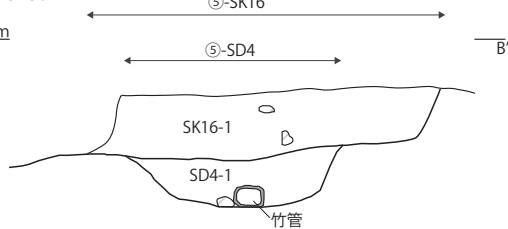
⑤-SX1

260.0m
A



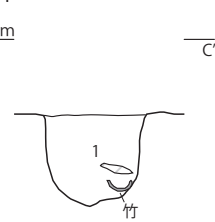
⑤-SK16・SD4

260.6m
B



⑤-SD4

260.6m
C



⑤-SK16・SD4

SK16-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 径 4 cmの石が混じる
焼土粒・炭化物が微量に混じる
SD4-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 砂・炭化物が極微量に混じる
縮まりゆるい

⑤-SD4

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
砂・炭化物が極微量に混じる 縮まりゆるい

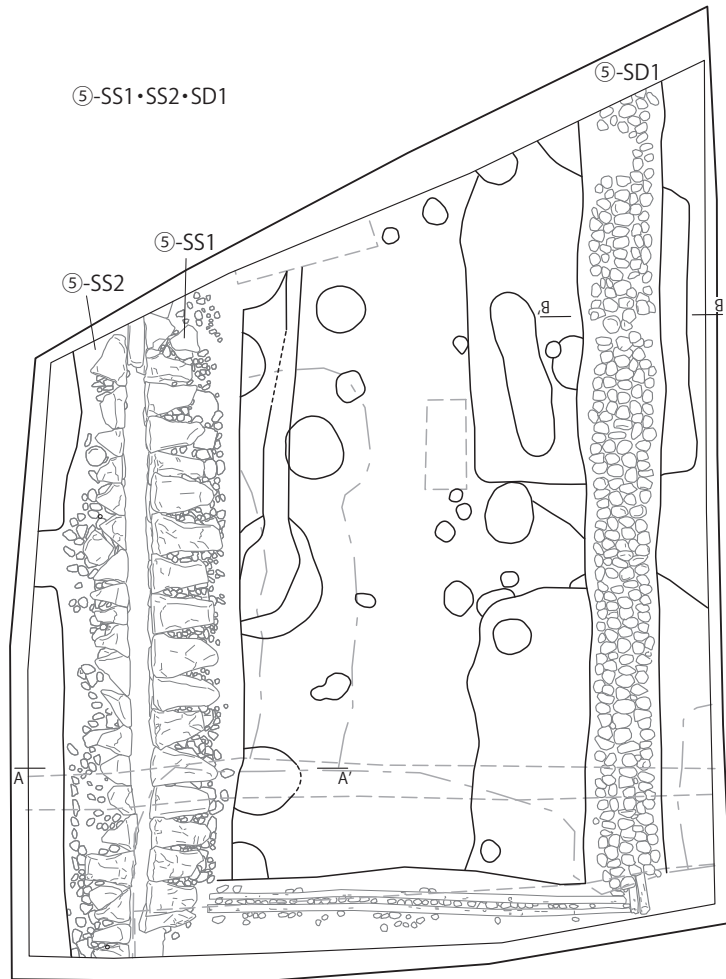
0 1:40 1m

(平面)

0 1:20 50cm

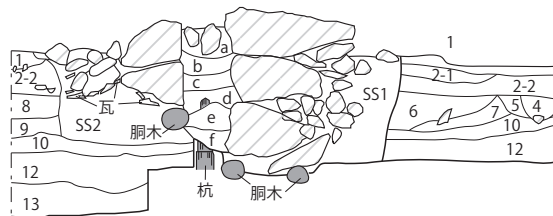
(断面)

第31図 I-⑤区(4)



⑤-SS2・SS1

261.5m
A

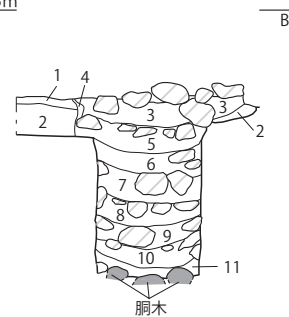


- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
- 2-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 2-2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒が多量に混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が多量に混じる
- 4 黒褐色 (10YR3/1) 砂シルト 砂が混じる 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 5 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径5～9cmの割石が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 6 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 7 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 8 黒褐 (2.5Y3/1) 色シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 9 黒色 (10YR2/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 10 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 泥岩粒が微量に混じる 炭化物が極微量に混じる
- 11 黒色 (2.5Y2/1) シルト 締まりゆるい
- SS1 黒色 (7.5Y2/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりゆるい
- SS2 黒色 (2.5Y2/1) シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる
- a 黒褐色 (10YR2/3) 粗粒砂 径2cmの小礫が混じる
- b 炭化物層
- c 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂 下層に径5cmの割石が混じる 締まりゆるい
- d 黒褐色 (10YR2/2) 砂 樹皮が混じる 締まりゆるい
- e 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- f 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい

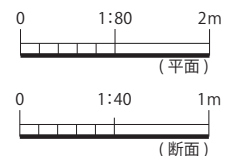
第32図 I-⑤区(5)

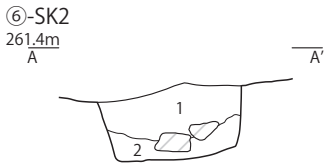
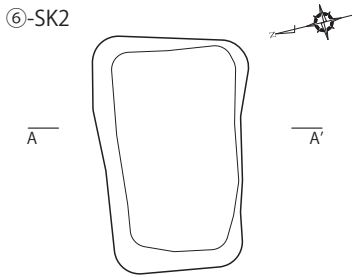
⑤-SD1

261.5m
B

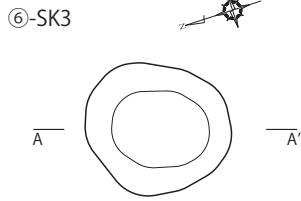


- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径2cmの焼土ブロック・炭化物が多量に混じる 締まりあり 戦災層
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
- 3 SD1 覆土 黒色 (10YR1.7/1) シルト 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 4 SD1 覆土 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 締まりゆるい
- 5 SD1 覆土 黒色 (10YR1.7/1) シルトに黒褐色 (10YR2/3) 砂が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 6 SD1 覆土 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂に黒色 (7.5Y2/1) シルトが混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 7 SD1 覆土 黒色 (10YR1.7/1) シルトに暗褐色 (10YR3/4) 砂が微量に混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 8 SD1 覆土 黒色 (10YR1.7/1) シルトに灰黄褐色 (10YR4/2) 砂が微量に混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 9 SD1 覆土 黒色 (10YR1.7/1) シルト 砂・焼土粒・炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 10 SD1 覆土 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 11 SD1 覆土 黒褐色 (10YR3/1) シルト 焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい

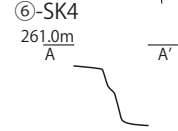
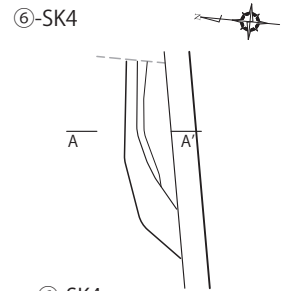




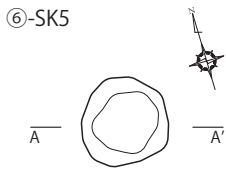
- ⑥-SK2
- 1 極暗褐色 (7.5YR2/3) 粗粒砂
焼土粒・炭化物が多量に混じる
 - 2 黒褐色 (10YR3/2) 粗粒砂 炭化物が混じる



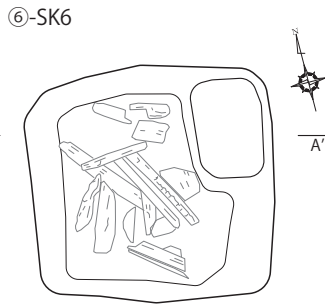
- ⑥-SK3
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂ににぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂
が混じる 焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい
 - 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂 炭化物が微量に混じる
締まりゆるい
 - 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい



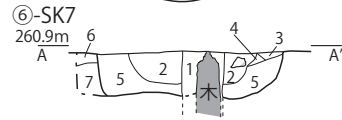
⑥-SK4
261.0m



- ⑥-SK5
- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト
焼土粒・炭化物が微量に混じる

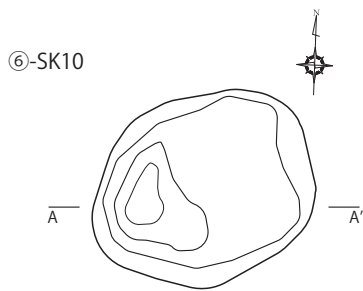


⑥-SK6
260.9m



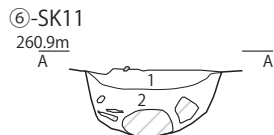
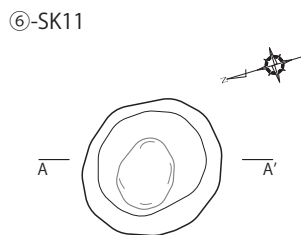
⑥-SK7
260.9m

- ⑥-SK7
- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂 炭化物が微量に混じる
締まりゆるい
 - 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂 径 10 cm の礫・炭化物が混じる
締まりゆるい
 - 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物が混じる
 - 4 黒色 (10YR2/1) シルトブロック 締まりゆるい
 - 5 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物が混じる
下層に植物繊維が広がる 締まりゆるい
 - 6 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物が混じる 締まりあり
 - 7 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 白色粒が微量に混じる
締まりあり



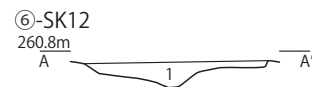
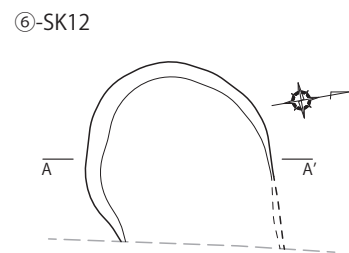
⑥-SK10
260.8m

- ⑥-SK10
- 1 黒色 (10YR2/1) 砂
径 10 cm の石・焼土粒・炭化物が混じる
締まりゆるい



⑥-SK11
260.9m

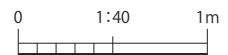
- ⑥-SK11
- 1 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト
径 2 cm の焼土ブロックが多量に混じる
 - 2 黒色 (10YR2/1) シルト 締まりゆるい



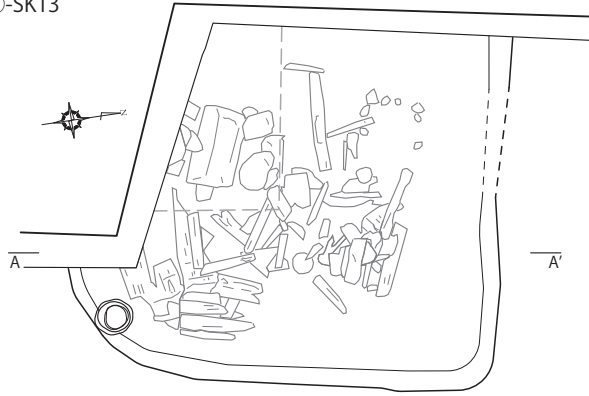
⑥-SK12
260.8m

- ⑥-SK12
- 1 黒色 (10YR2/1) 砂質シルトに灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂
が混じる 炭化物が混じる 締まりゆるい

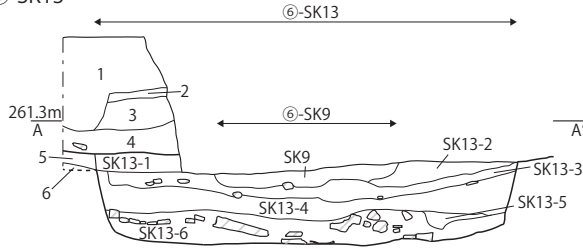
第33図 I-⑥区(1)



⑥-SK13



⑥-SK13



- 1 表土・碎石層
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂 径2～5cmの焼土ブロック・炭化物が多量に混じる 締まりあり
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径3cmの礫・焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 締まりあり
- 6 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 締まりあり

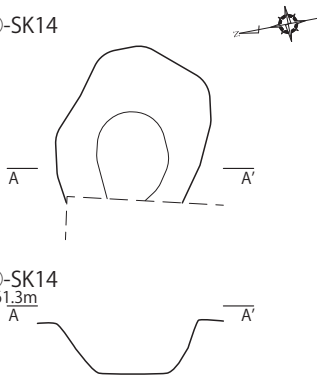
⑥-SK9

- SK9 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒が混じる 締まりあり

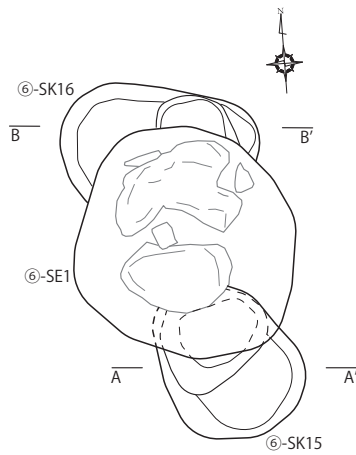
⑥-SK13

- SK13-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- SK13-2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径1cmの小礫・焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- SK13-3 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径6cmの石・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- SK13-4 黒褐色 (10YR2/2) 砂 焼土粒・炭化物が斑に混じる 締まりゆるい
- SK13-5 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- SK13-6 黒褐色 (10YR2/2) 砂 木片が多量に混じる 締まりゆるい

⑥-SK14



⑥-SK16・SK15



⑥-SK16



⑥-SK16

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂に黄褐色 (10YR5/6) 砂が斑に混じる 炭化物が微量に混じる

⑥-SK15



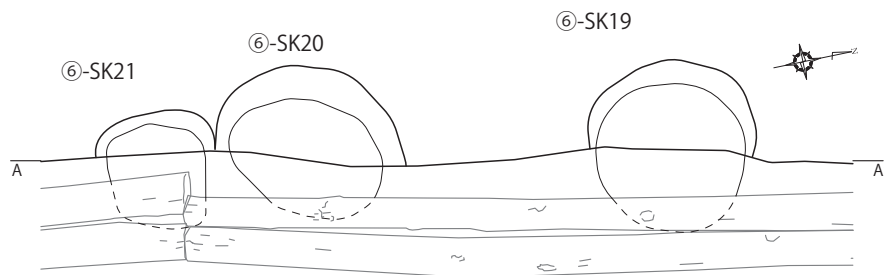
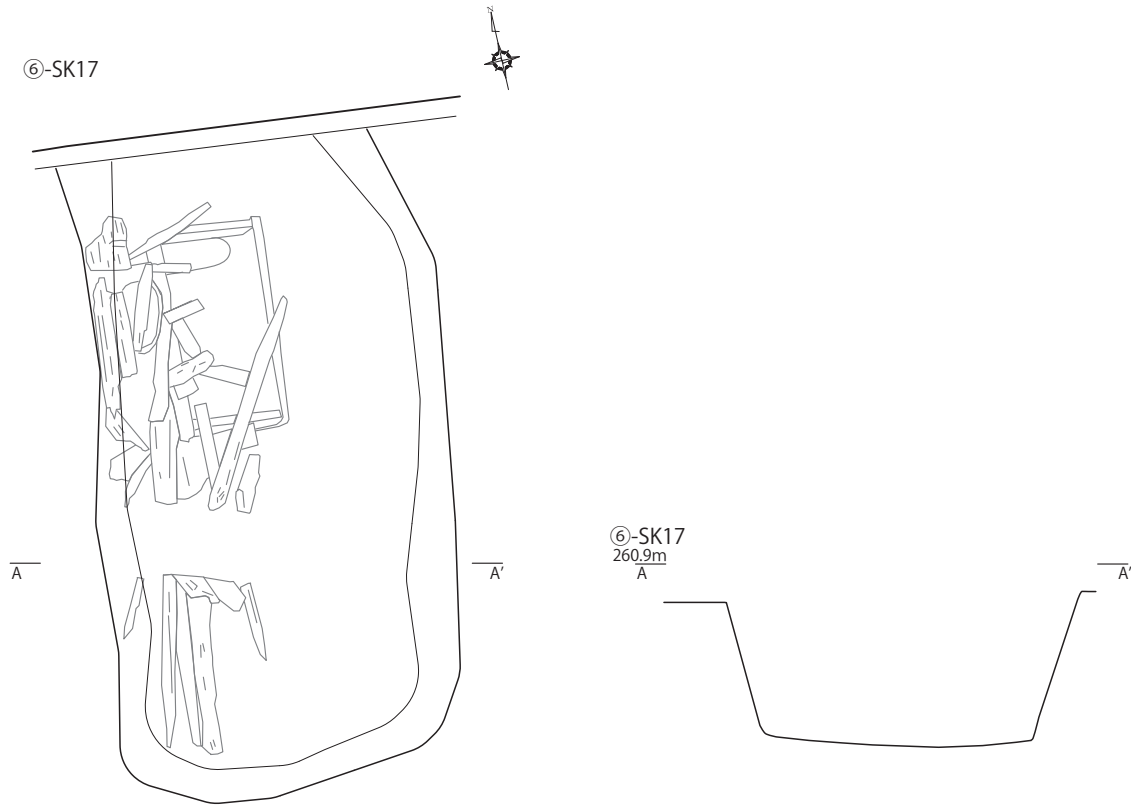
⑥-SK15

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が混じる
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒・炭化物が混じる
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物が混じる 締まりゆるい

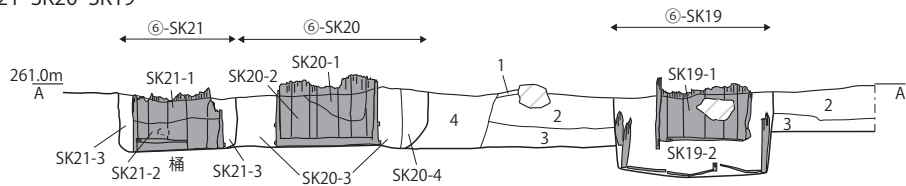
第34図 I-⑥区(2)



⑥-SK17



⑥-SK21・SK20・SK19



- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂 径 5 mm の石が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルトに黒褐色 (10YR3/1) シルトが斑に混じる 径 2 mm の石・焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト 径 1 cm の小礫・白色粒・砂が混じる 締まりゆるい
- 4 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルトに黒色 (10YR1.7/1) シルトが斑に混じる 径 3 mm の石・炭化物が混じる 締まりゆるい 粘性強い

⑥-SK19

- SK19-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
- SK19-2 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・漆喰が混じる 締まりゆるい

⑥-SK20

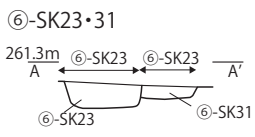
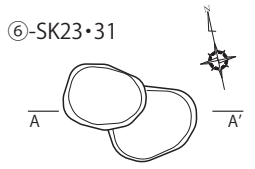
- SK20-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂 径 5 mm の石・焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
- SK20-2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
- SK20-3 黒褐色 (10YR3/1) 砂 径 5 mm の石・炭化物・白色粒が混じる 締まりゆるい
- SK20-4 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 径 3 mm の石・炭化物が混じる 締まりゆるい 粘性強い

⑥-SK21

- SK21-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂 径 5 mm の石・炭化物が混じる 締まりあり
- SK21-2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 5 mm の石・炭化物が混じる 締まりゆるい 下層に灰黄褐色 (10YR4/2) 砂が堆積する
- SK21-3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 径 5 mm の石・炭化物が混じる 締まりゆるい

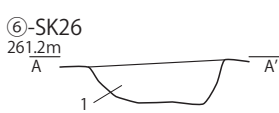
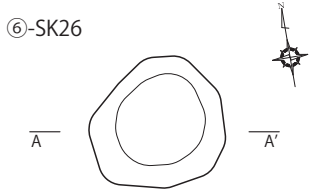
第35図 I-⑥区(3)



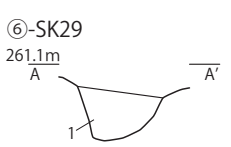
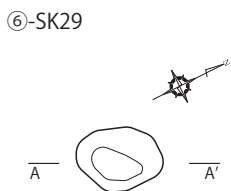


⑥-SK23
SK23 黒褐色 (10YR2/3) 砂
焼土粒・炭化物が混じる

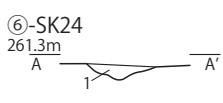
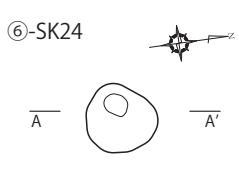
⑥-SK31
SK31 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
炭化物・白色粒が混じる



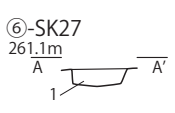
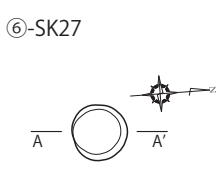
⑥-SK26
1 黒褐色 (10YR3/2) シルト
径 5 cm の礫・焼土粒・
径 1 cm の炭化物ブロックが混じる
縮まりゆるい



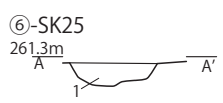
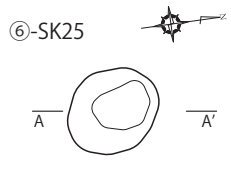
⑥-SK29
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
焼土粒・炭化物が混じる
下層に褐色 (10YR4/4) 粗粒砂が堆積する



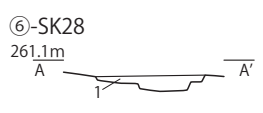
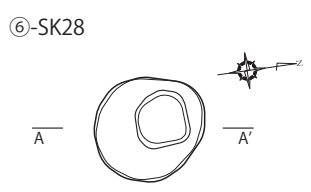
⑥-SK24
1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂に
黒褐色 (10YR2/3) 砂が混じる
炭化物が混じる



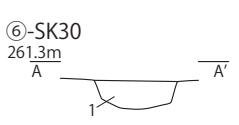
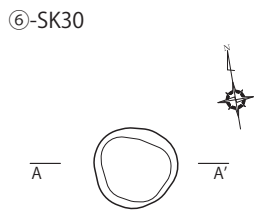
⑥-SK27
1 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂が混じる
炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい



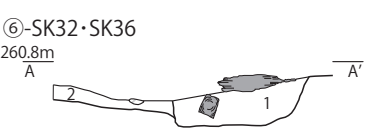
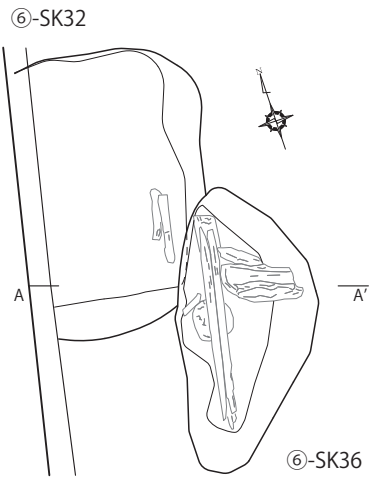
⑥-SK25
1 黒褐色 (10YR2/2) シルト
焼土粒・炭化物が混じる



⑥-SK28
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
焼土粒・炭化物が微量に混じる
縮まりゆるい



⑥-SK30
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
径 1 cm の礫・焼土粒・炭化物が混じる
縮まりあり

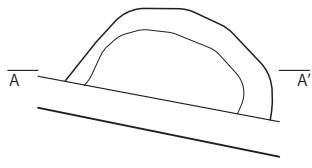


⑥-SK32・SK36
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
炭化物が極微量に混じる
2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト
径 2 mm の石・炭化物が混じる 縮まりゆるい



第36図 Ⅰ-⑥区(4)

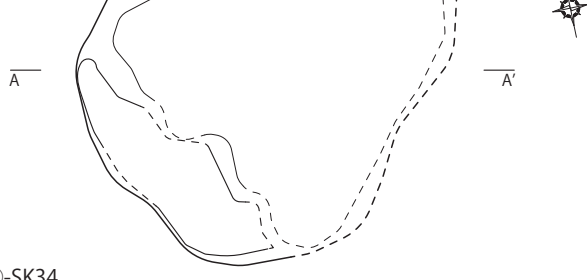
⑥-SK33



⑥-SK33

260.7m

⑥-SK34



⑥-SK34

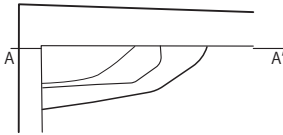
260.8m



⑥-SK34

- 1 黒色 (10YR1.7/1) 砂質シルト 径 2 cmの小礫・植物繊維が混じる 締まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルトににぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂が混じる 締まりゆるい

⑥-SK35

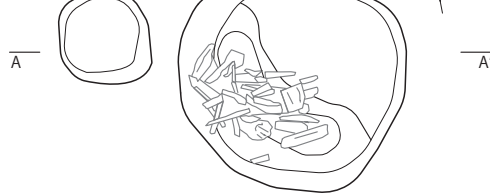


⑥-SK35

261.1m



⑥-SK40



⑥-SK40・SK37

260.8m



- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 2 黒褐色 (7.5Y2/1) シルト

⑥-SK37

SK37 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 植物繊維が多量に混じる 締まりゆるい

⑥-SK40

SK40 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 径 5 cmの礫・炭化物が混じる 締まりゆるい

⑥-SK38



⑥-SK38

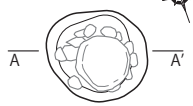
260.8m



⑥-SK38

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
径 1 cmの小礫が混じる
炭化物が斑に混じる
締まりゆるい

⑥-SK39



⑥-SK39

260.7m



⑥-SK41・47・49



⑥-SK41・47・49

261.0m



⑥-SK41

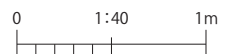
SK41 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 径 1 cmの小礫・焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい

⑥-SK47

SK47 暗褐色 (10YR3/1) 砂質シルトににぶい黄褐色 (2.5Y6/4) 粗粒砂が混じる 径 1 cmの小礫・炭化物が混じる

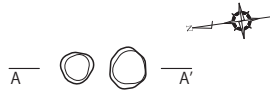
⑥-SK49

SK49 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい

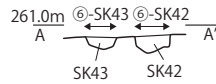


第37図 I-⑥区(5)

⑥-SK43・42



⑥-SK43・42



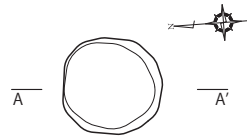
⑥-SK43

SK43 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
径 1 cmの小礫・焼土粒・
炭化物が混じる 縮まりゆるい

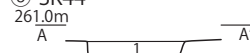
⑥-SK42

SK42 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
径 1 cmの小礫・焼土粒・
炭化物が混じる 縮まりゆるい

⑥-SK44



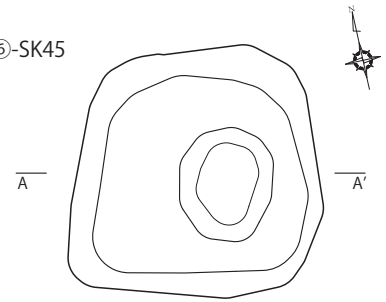
⑥-SK44



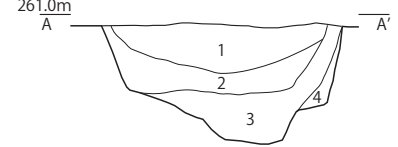
⑥-SK44

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
炭化物が混じる 縮まりゆるい

⑥-SK45



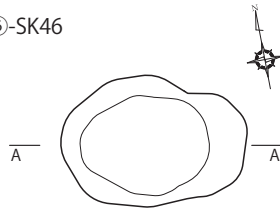
⑥-SK45



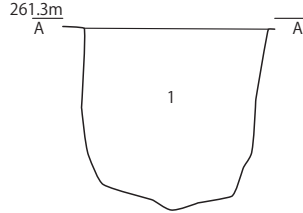
⑥-SK45

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 5 cmの礫・焼土粒・炭化物が混じる 縮まりゆるい
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト 径 1 cmの小礫・砂が混じる 縮まりゆるい
- 3 黒褐色 (10YR3/1) シルト 炭化物・植物繊維・砂が混じる 縮まりゆるい
- 4 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト 縮まりゆるい

⑥-SK46



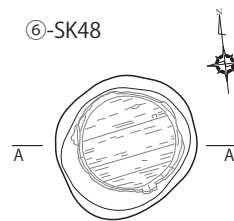
⑥-SK46



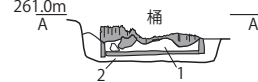
⑥-SK46

1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
径 1 cmの小礫・炭化物が混じる
縮まりゆるい

⑥-SK48



⑥-SK48



⑥-SK48

- 1 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルトに
にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂が混じる
炭化物が微量に混じる
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルトに
にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂が混じる
縮まりゆるい

⑥-SK50



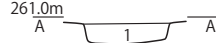
⑥-SK50



⑥-SK51



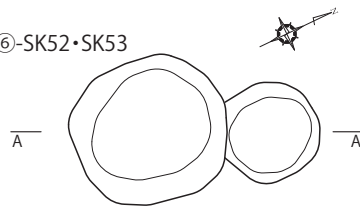
⑥-SK51



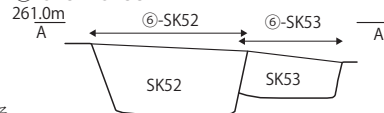
⑥-SK51

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂ににぶい黄褐色 (2.5Y6/1) 砂が混じる
径 1 cmの小礫・焼土粒・炭化物が混じる 縮まりゆるい

⑥-SK52・SK53



⑥-SK52・SK53



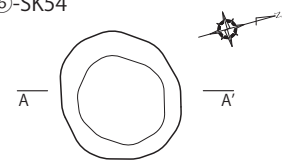
⑥-SK52

SK52 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂にオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂が混じる
径 5 cmの礫・木片が混じる 縮まりゆるい

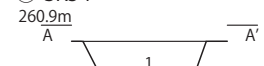
⑥-SK53

SK53 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
径 4 cmの礫・木片が混じる 縮まりゆるい

⑥-SK54



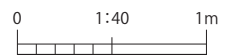
⑥-SK54



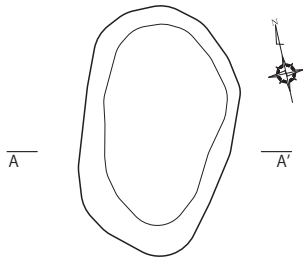
⑥-SK54

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
径 5 cmの礫・木片が多量に混じる
縮まりゆるい 粘性強い

第38図 1-⑥区(6)



⑥-SK55

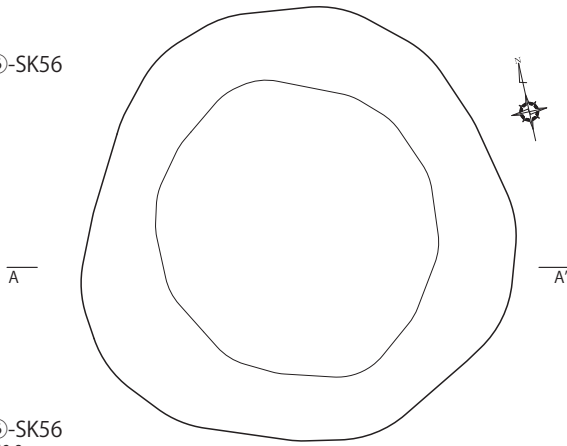


⑥-SK55

260.9m

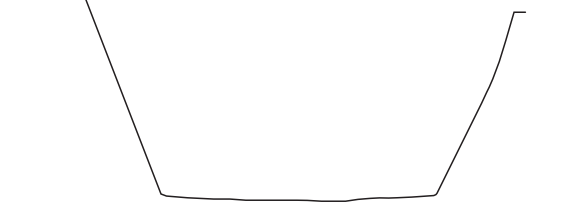


⑥-SK56



⑥-SK56

260.9m

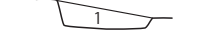


⑥-SK57

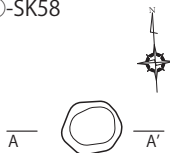


⑥-SK57

260.9m



⑥-SK58

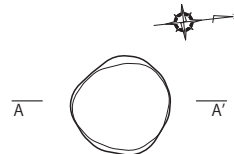


⑥-SK58

260.8m



⑥-SK59



⑥-SK59

260.8m



⑥-SK57

1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
縮まりゆるい 粘性強い

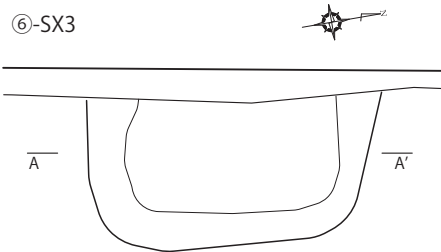
⑥-SK58

1 黒色 (7.5Y2/1) シルトに黒色 (N2/1) シルトが
斑に混じる 縮まりゆるい

⑥-SK59

1 黒色 (7.5Y2/1) シルトに黒色 (N2/1) シルトが
斑に混じる 縮まりゆるい

⑥-SX3

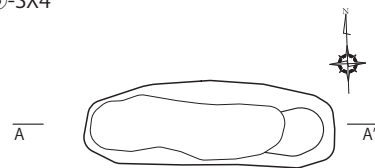


⑥-SX3

261.3m

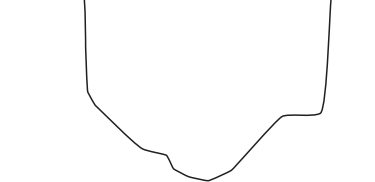


⑥-SX4

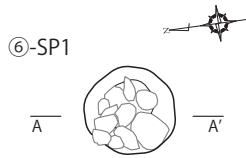


⑥-SX4

261.0m

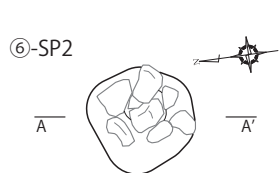


第39図 I-⑥区(7)



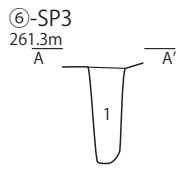
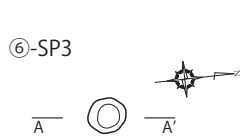
⑥-SP1
261.2m
A A'

⑥-SP1
261.2m
A A'



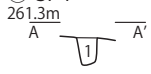
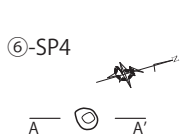
⑥-SP2
261.2m
A A'

⑥-SP2
261.2m
A A'



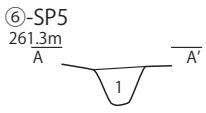
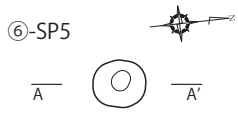
⑥-SP3
261.3m
A A'

⑥-SP3
261.3m
A A'



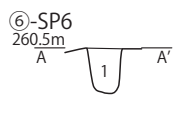
⑥-SP4
261.3m
A A'

⑥-SP4
261.3m
A A'



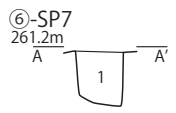
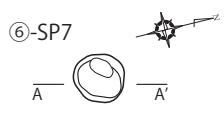
⑥-SP5
261.3m
A A'

⑥-SP5
261.3m
A A'



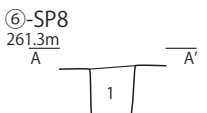
⑥-SP6
260.5m
A A'

⑥-SP6
260.5m
A A'



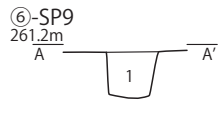
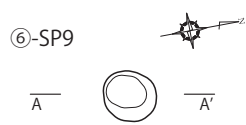
⑥-SP7
261.2m
A A'

⑥-SP7
261.2m
A A'



⑥-SP8
261.3m
A A'

⑥-SP8
261.3m
A A'



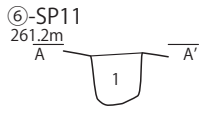
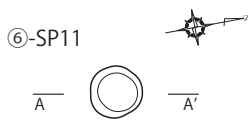
⑥-SP9
261.2m
A A'

⑥-SP9
261.2m
A A'



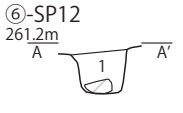
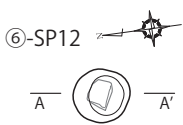
⑥-SP10
261.3m
A A'

⑥-SP10
261.3m
A A'



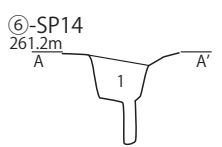
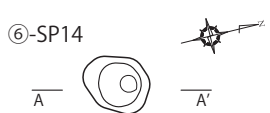
⑥-SP11
261.2m
A A'

⑥-SP11
261.2m
A A'



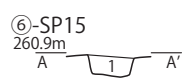
⑥-SP12
261.2m
A A'

⑥-SP12
261.2m
A A'



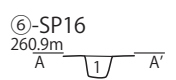
⑥-SP14
261.2m
A A'

⑥-SP14
261.2m
A A'



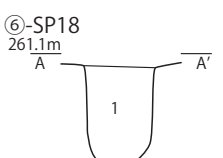
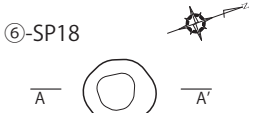
⑥-SP15
260.9m
A A'

⑥-SP15
260.9m
A A'



⑥-SP16
260.9m
A A'

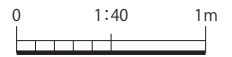
⑥-SP16
260.9m
A A'

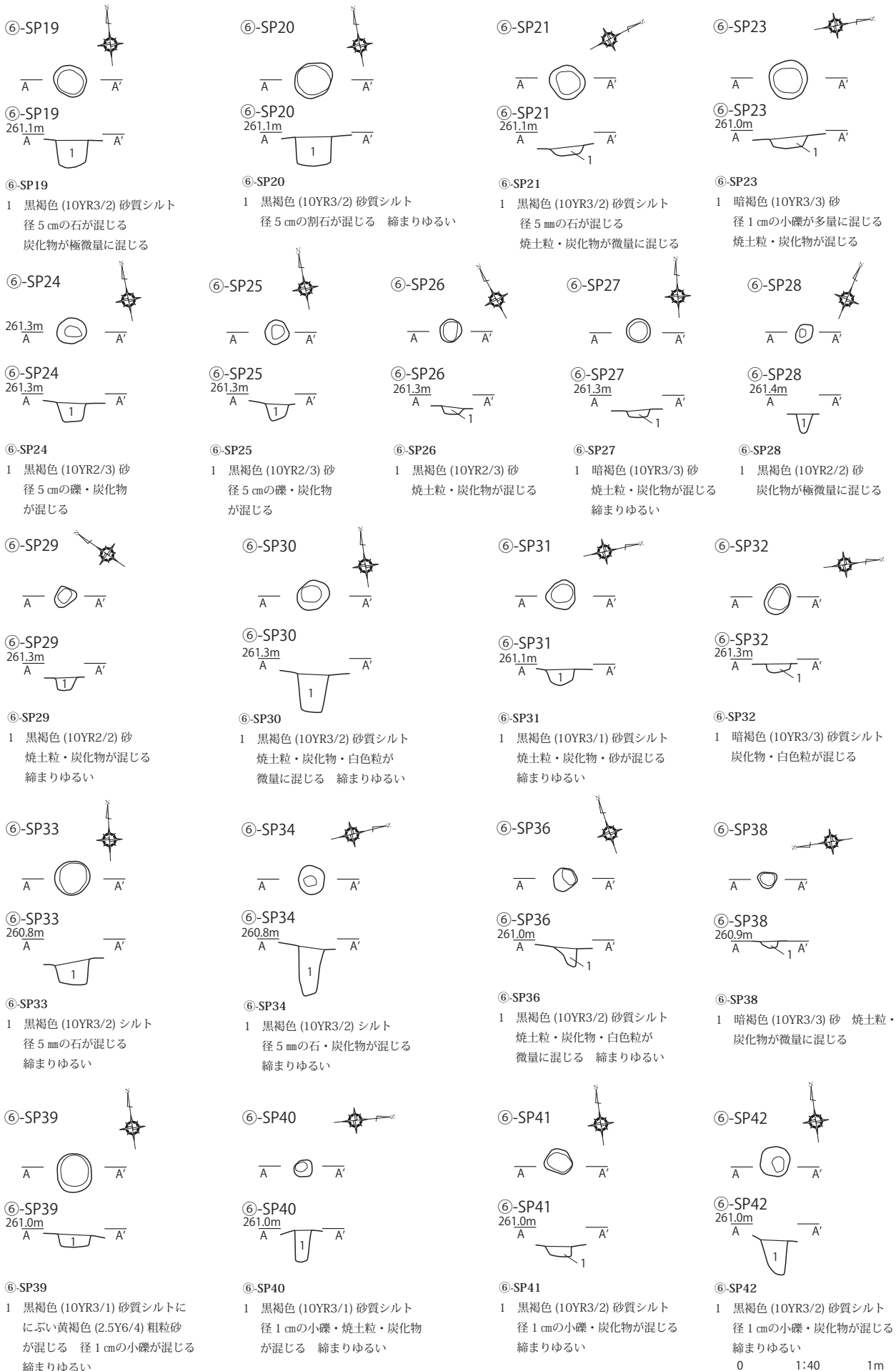


⑥-SP18
261.1m
A A'

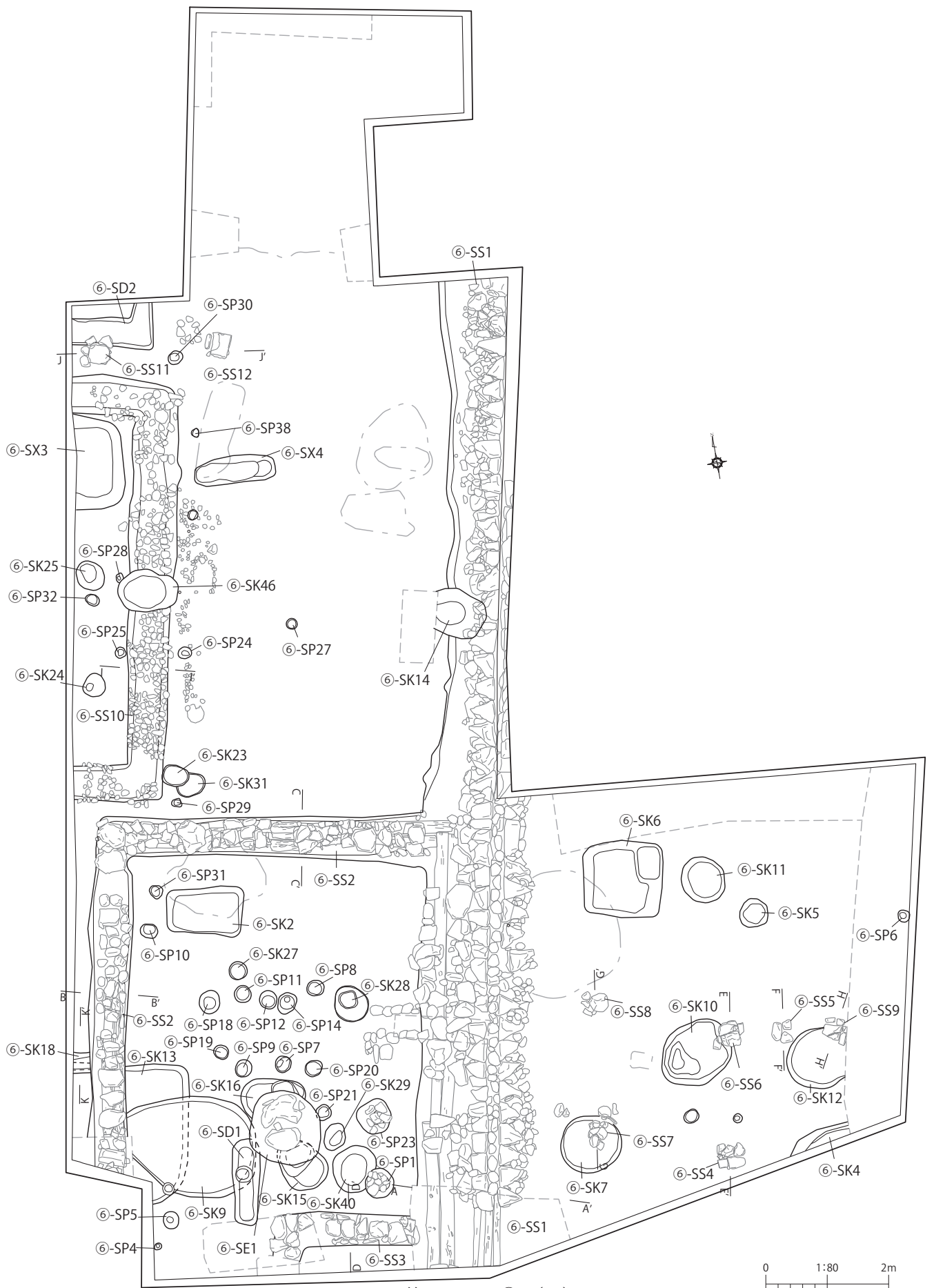
⑥-SP18
261.1m
A A'

第40図 I-⑥区(8)

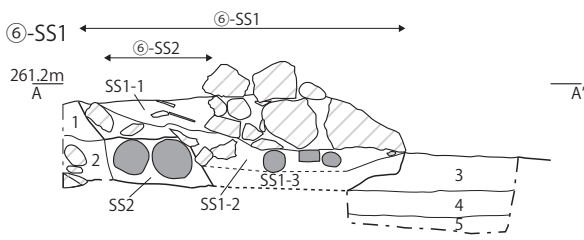




第41図 I-⑥区(9)



第42图 I-⑥区(10)



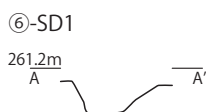
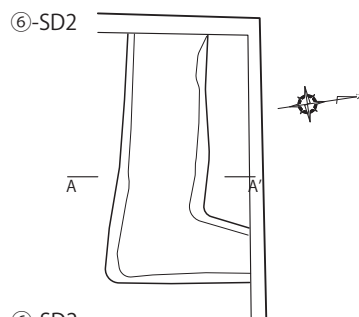
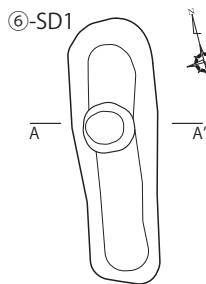
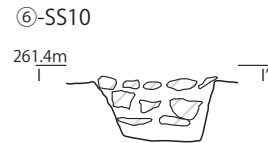
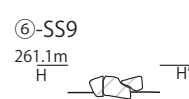
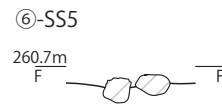
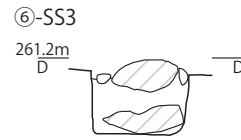
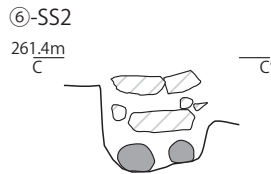
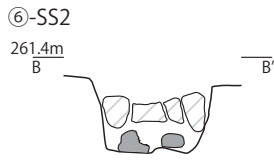
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルトに黒褐色 (10YR3/2) 砂が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルトが斑に混じる
径 5 mm の石・炭化物が混じる 締まりゆるい [SK37 覆土]
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物が極微量に混じる 径 2~3 mm の石が混じる
締まりあり
- 4 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 5 黒色 (2.5Y2/1) シルト

⑥-SS1

- SS1-1 黒褐色 (2.5Y2/1) 砂 径 10 cm の割石が混じる 締まりあり
 SS1-2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
 SS1-3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルトに黒褐色 (10YR3/2) 砂が混じる
 径 1 cm の小礫が混じる

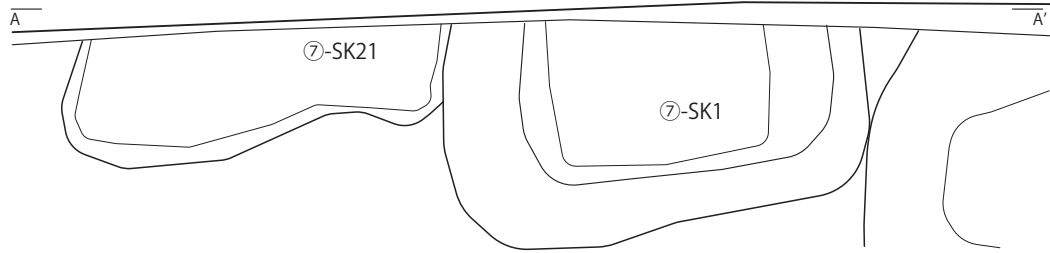
⑥-SS2

- SS2 黒色 (10YR2/1) シルト 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい

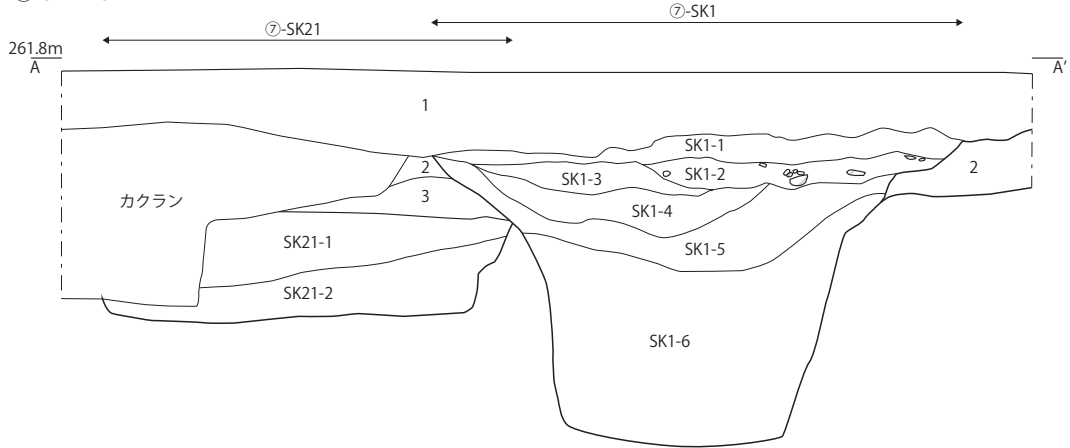


第43図 I-⑥区(11)

⑦-SK21・SK1



⑦-SK21・SK1



1 表土 砕石層

2 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり

3 黒褐色(10YR3/2)砂 径5mmの石・焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり

⑦-SK1

SK1-1 黒褐色(10YR3/2)砂にぶい黄褐色(10YR4/3)砂が斑に混じる 径5mmの石が混じる 締まりあり

SK1-2 径0.5～1cmの小礫が堆積する。

SK1-3 黒褐色(10YR3/2)砂 径5mmの石・焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり

SK1-4 黒褐色(10YR3/2)砂にぶい黄褐色(10YR4/3)砂が混じる 径5mmの石・焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり

SK1-5 黒色(10YR2/1)砂 径5cmの焼土ブロック・炭化物・植物繊維が混じる 締まりゆるい

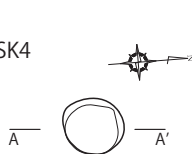
SK1-6 黒色(10YR1.7/1)細粒砂 植物繊維・木材が多量に混じる 締まりゆるい

⑦-SK21

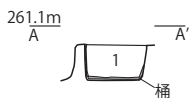
SK21-1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルトに黒色(10YR2/1)シルトブロックが混じる 径1cmの小礫・焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりゆるい

SK21-2 黒色(10YR2/1)シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい

⑦-SK4



⑦-SK4



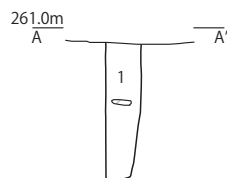
⑦-SK4

1 黒褐色(10YR3/1)シルトに
暗褐色(10YR3/4)粗粒砂が
斑に混じる
締まりゆるい

⑦-SK5



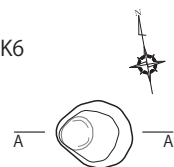
⑦-SK5



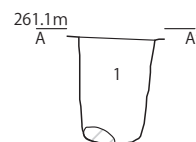
⑦-SK5

1 黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルトに
黒褐色(10YR3/1)砂質シルトが
斑に混じる 炭化物が混じる
締まりゆるい 粘性強い

⑦-SK6



⑦-SK6

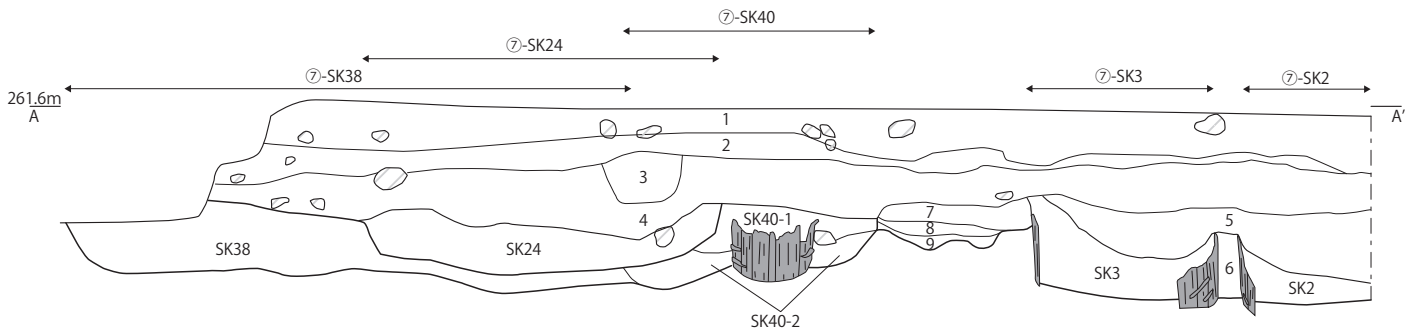
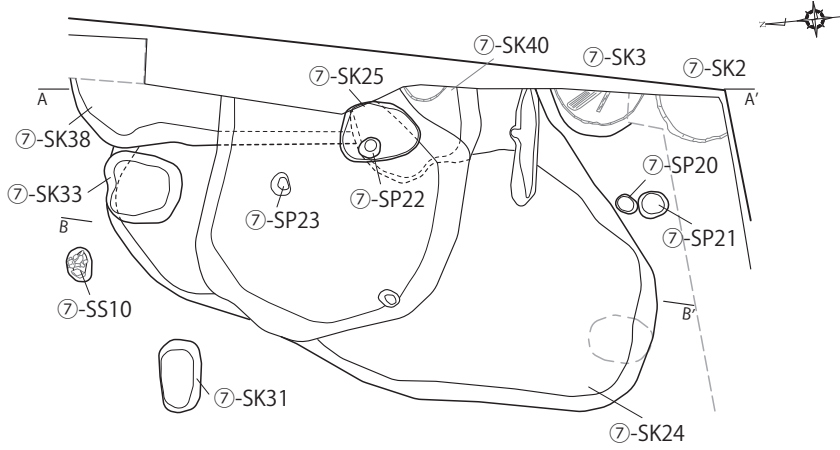


⑦-SK6

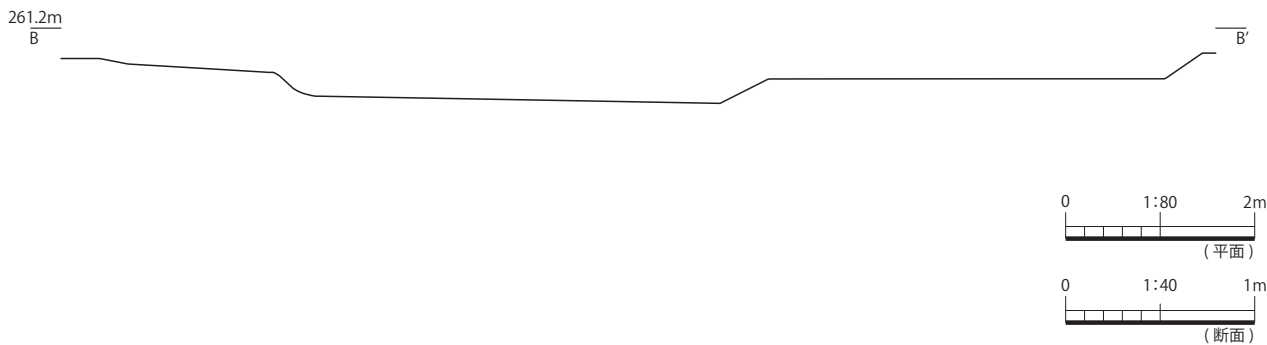
1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
径2cmの小礫・炭化物が混じる
締まりゆるい



第44図 Ⅰ-⑦区(1)

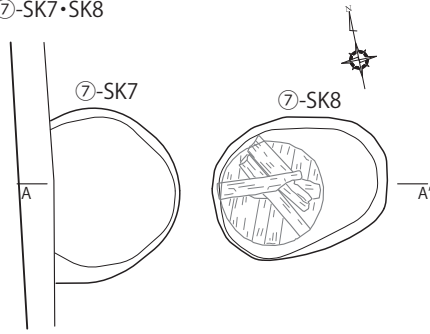


- 1 表土 碎石層
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 1 cmの小礫が混じる 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
- 3 暗褐色 (10YR3/3) シルト 焼土粒・炭化物が多量に混じる
- 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 径 10 cmの礫・径 1 cmの焼土ブロック・炭化物が混じる 締まりあり
- 5 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂にオリーブ褐色 (2.5YR4/4) 砂が混じる 炭化物が斑に混じる
- 6 黒褐色 (2.5Y3/2) シルトに黄褐色 (2.5Y5/6) 砂が混じる 焼土粒・炭化物が混じる
- 7 黒褐色 (10YR2/3) 砂に暗褐色 (10YR3/3) 砂が混じる 炭化物が斑に混じる 締まりあり
- 8 黒褐色 (10YR2/3) シルトに黄褐色 (10YR5/8) 砂が混じる 炭化物が混じる 締まりゆるい
- 9 黒褐色 (10YR3/1) シルト 炭化物が混じる 締まりゆるい
- ⑦-SK2
SK2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂に黄褐色 (10YR5/8) 砂が混じる 炭化物が多量に混じる 締まりゆるい
- ⑦-SK3
SK3 黒色 (10YR2/1) シルトに黄褐色 (10YR5/8) 砂が斑に混じる 炭化物が多量に混じる 締まりゆるい
- ⑦-SK24
SK24 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 3 cmの焼土ブロック・炭化物を多量に含む
- ⑦-SK38
SK38 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルトに黒色 (10YR4/6) 砂が混じる 径 1 cmの石・炭化物が混じる
- ⑦-SK40
SK40-1 黒色 (10YR2/1) シルト 径 5 mmの石・炭化物が混じる
SK40-2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物が混じる 締まりゆるい

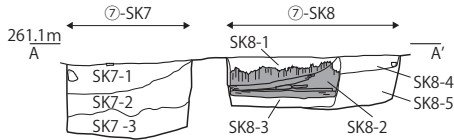


第45図 1-⑦区(2)

⑦-SK7・SK8



⑦-SK7・SK8



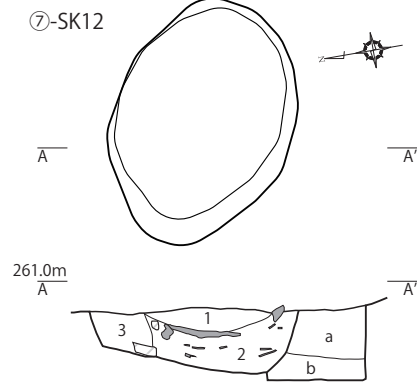
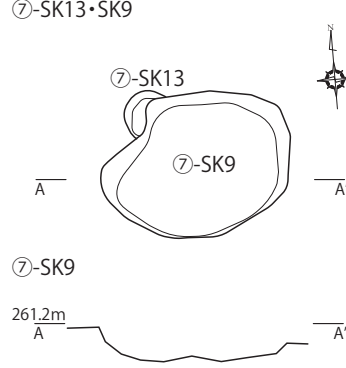
⑦-SK7

- SK7-1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルトにふい黄褐色(10YR4/2)砂が混じる
径1cmの石・焼土粒・炭化物が混じる 縮まりゆるい
- SK7-2 褐灰色(10YR4/1)シルトに黒色(10YR2/1)シルトにふい黄褐色(10YR4/2)砂が
斑に混じる
- SK7-3 黒褐色(10YR3/1)シルトに砂が混じる 縮まりゆるい

⑦-SK8

- SK8-1 黒褐色(10YR3/2)シルトにオリーブ褐色(2.5Y4/4)砂が斑に混じる
径5mmの石・径1cmの焼土ブロック・炭化物ブロックが混じる 縮まりゆるい
- SK8-2 オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂 炭化物が混じる 縮まりゆるい
- SK8-3 黒褐色(7.5Y2/1)砂質シルト 径5mmの石が混じる 縮まりゆるい
- SK8-4 暗褐色(10YR3/3)砂 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる
- SK8-5 黒褐色(10YR3/1)シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる

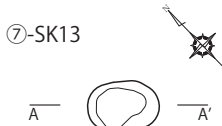
⑦-SK13・SK9



⑦-SK12

- 1 10YR3/1黒褐色シルト 樹皮が多量に混じる
径1cmの石・炭化物が混じる 縮まりゆるい
- 2 5Y2//1黒色砂 樹皮が多量に混じる 縮まりゆるい
- 3 2.5Y3/1黒褐色シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- a 10YR3/1黒褐色シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- b 10YR2/1黒褐色シルト 泥岩粒が極微量に混じる 縮まりゆるい

⑦-SK13

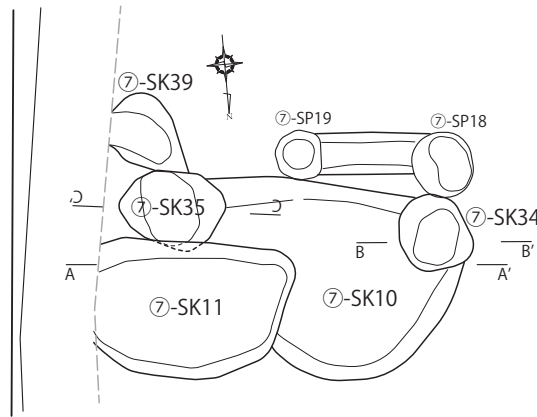


⑦-SK13

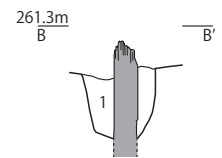


⑦-SK13

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルトに
暗褐色(2.5Y4/2)シルトが混じる
焼土粒・炭化物が混じる 縮まりゆるい



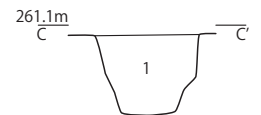
⑦-SK34



⑦-SK34

- 1 黒褐色(2.5Y3/2)シルト
炭化物が極微量に混じる
縮まりゆるい

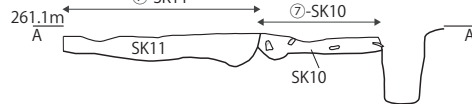
⑦-SK35



⑦-SK35

- 1 黒褐色(2.5Y3/2)シルト
径10cmの石が混じる
炭化物が極微量に混じる
縮まりゆるい 粘性強い

⑦-SK11・10



⑦-SK11

- SK11 黒褐色(2.5Y3/2)シルト 径5cmの礫・焼土粒・
炭化物・植物繊維が混じる

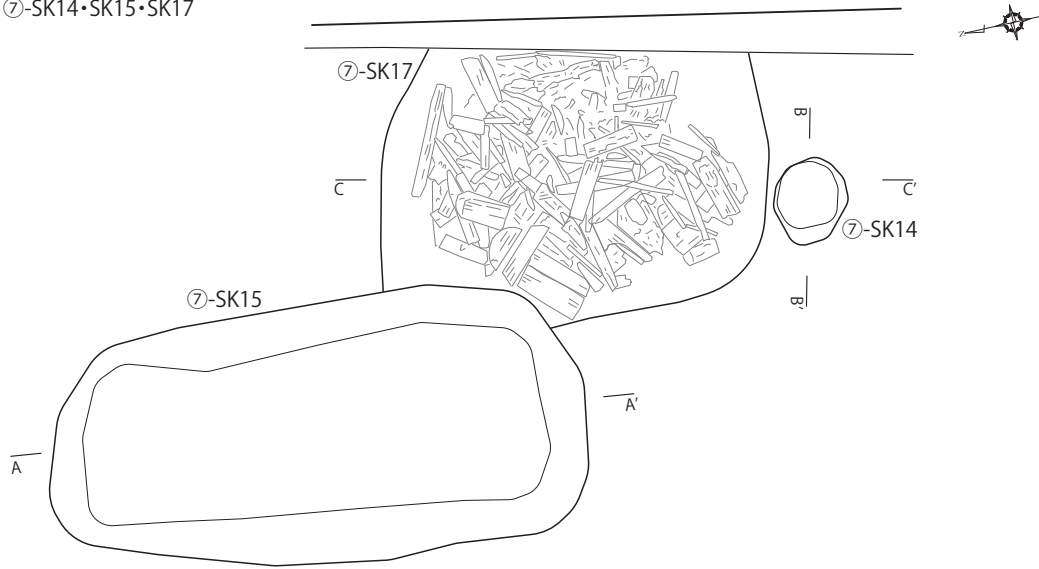
⑦-SK10

- SK10 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 径5cmの割石・
焼土粒・炭化物・植物繊維が混じる

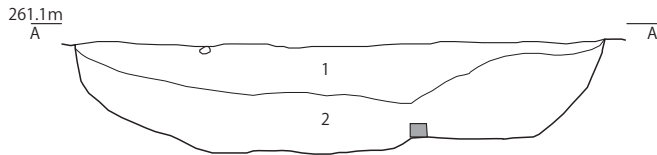


第46図 Ⅰ-⑦区(3)

⑦-SK14・SK15・SK17



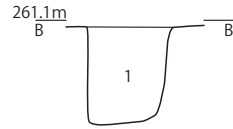
⑦-SK15



⑦-SK15

- 1 黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルトにオリブ褐色(2.5Y4/3)砂が混じる 径5cmの石が混じる 炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい
- 2 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト 木片・植物繊維が多量に混じる 縮まりゆるい

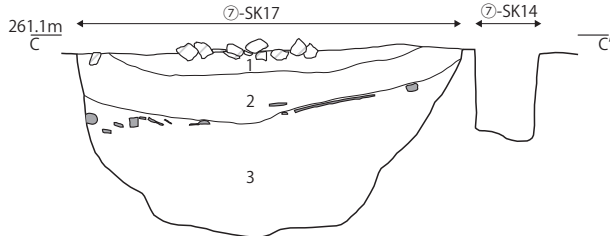
⑦-SK14



⑦-SK14

- 1 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト 径1cmの小礫・炭化物が混じる 縮まりゆるい

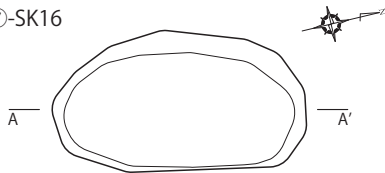
⑦-SK17・SK14



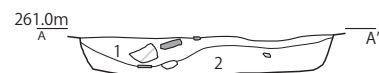
⑦-SK17・SK14

- 1 黒褐色(2.5Y3/2)砂 径1cmの小礫・炭化物が混じる
- 2 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径5mmの石・炭化物が混じる 縮まりゆるい
- 3 2層に似るが木片・植物繊維を多量に含む 縮まりゆるい

⑦-SK16



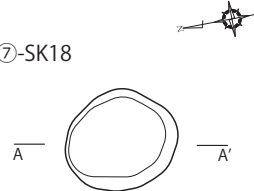
⑦-SK16



⑦-SK16

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂 径5cmの礫・木片・炭化物が混じる
- 2 オリブ褐色(5YR3/1)シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりゆるい

⑦-SK18

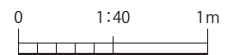


⑦-SK18

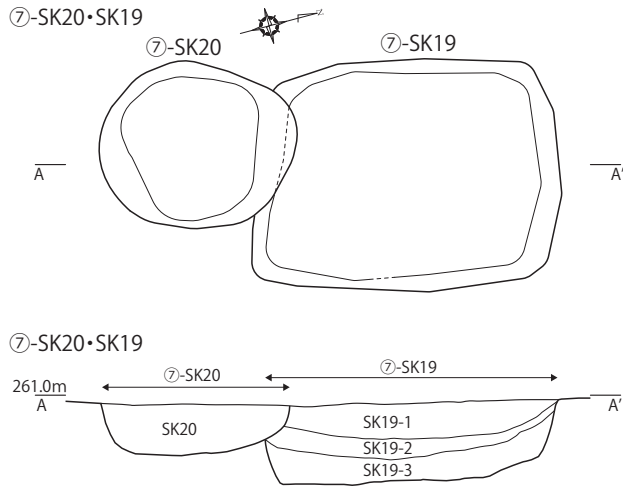


⑦-SK18

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりゆるい



第47図 I-⑦区(4)



⑦-SK19

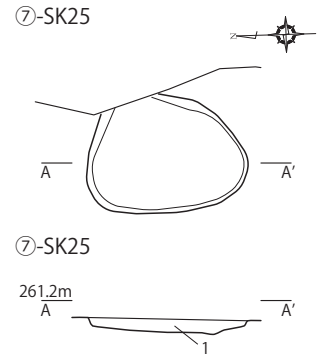
SK19-1 暗褐色(10YR3/3)砂に暗褐色(10YR3/3)砂質シルトが混じる 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい

SK19-2 オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂質シルト 炭化物が混じる 締まりゆるい

SK19-3 黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルト 径1cmの小礫・炭化物・植物繊維が混じる 締まりゆるい

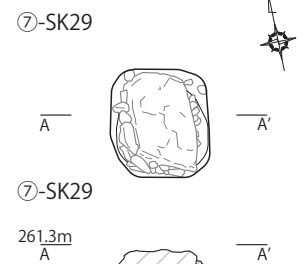
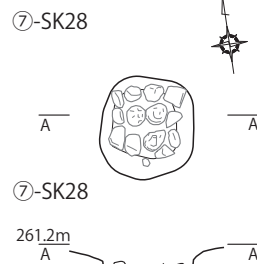
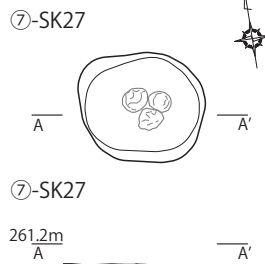
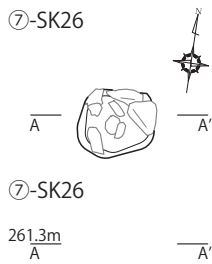
⑦-SK20

SK20 暗褐色(10YR3/3)砂 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい



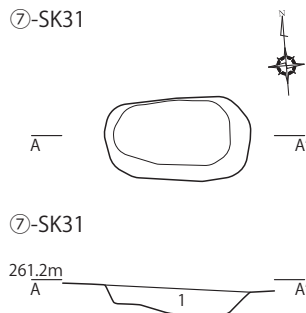
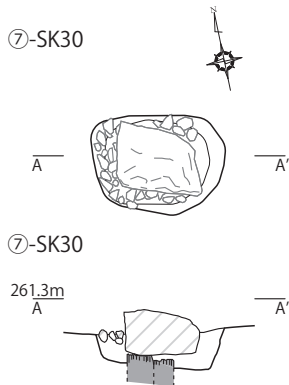
⑦-SK25

1 極暗褐色(7.5YR2/3)砂質シルト 炭化物が微量に混じる



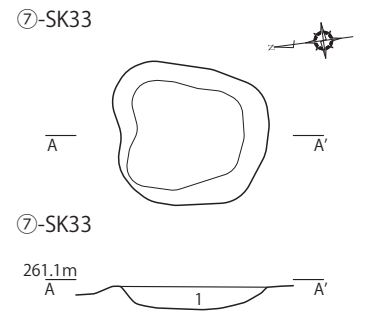
⑦-SK27

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 径5~10cmの礫・炭化物が混じる



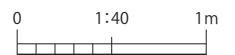
⑦-SK31

1 黒褐色(10YR2/2)砂 径1cmの小礫・焼土ブロック・炭化物が混じる 締まりゆるい

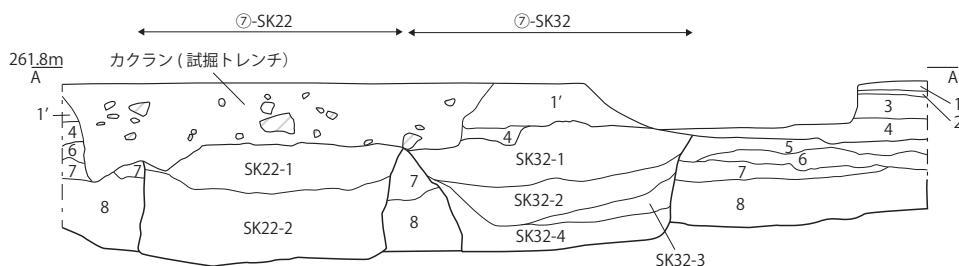
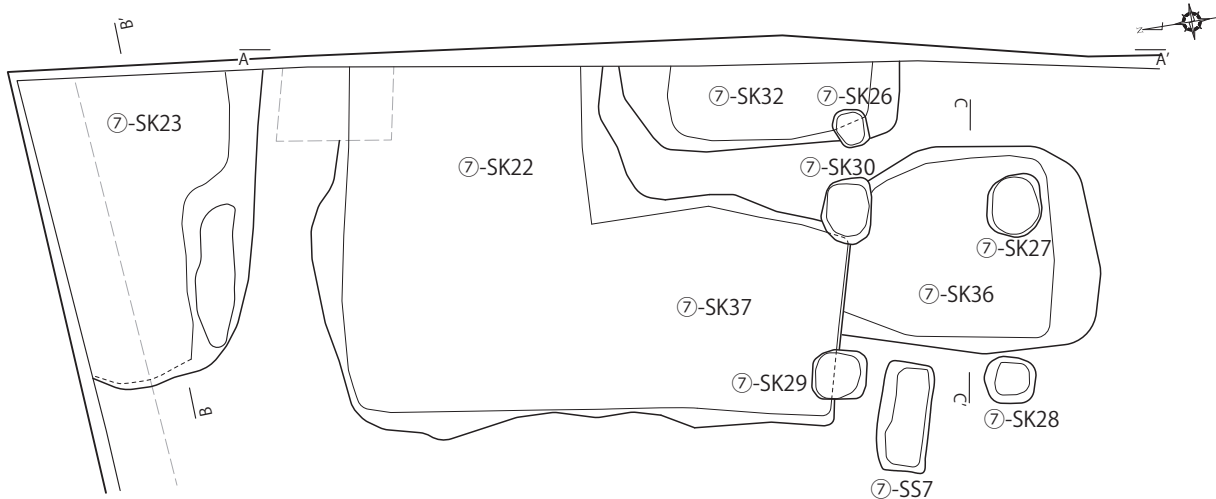


⑦-SK33

1 黒色(2.5Y2/1)シルト 締まりゆるい

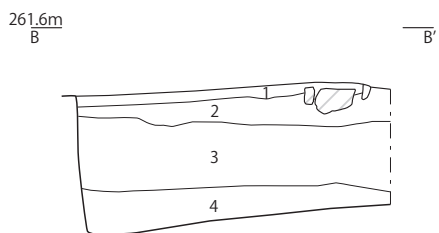


第48図 I-⑦区(5)



- 1 表土 碎石層
 - 1' 表土
 - 2 焼土層 径2cmの炭化物ブロックが混じる
 - 3 黒褐色(10YR3/2)砂に黒色シルトブロックが混じる 径4~7cmの礫・焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
 - 4 暗褐色(10YR3/4)砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
 - 5 黒褐色(10YR3/2)シルトに褐色砂が斑に混じる 炭化物・白色粒子が極微量に混じる 締まりあり
 - 6 5層に似るが褐色砂を5層より多く含む
 - 7 黒褐色(10YR3/1)シルトに褐色砂・炭化物・白色粒が微量に混じる
 - 8 黒色シルトに炭化物が極微量に混じる
- ⑦-SK22
- SK22-1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径2~3cmの礫・焼土粒・径1cmの炭化物ブロックが混じる
 - SK22-2 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径2cmの礫が微量に混じる 植物繊維が多量に混じる 締まりゆるい
- ⑦-SK32
- SK32-1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径2~3cmの小礫・焼土粒・径1cmの炭化物ブロックが混じる
 - SK32-2 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径2cmの小礫が混じる 植物繊維が多量に混じる 締まりゆるい
 - SK32-3 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト 植物繊維が混じる 締まりゆるい 粘性強い
 - SK32-4 SK32-3層に似るが帯状に炭化物が沈殿する 締まりゆるい

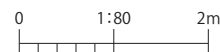
⑦-SK23



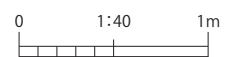
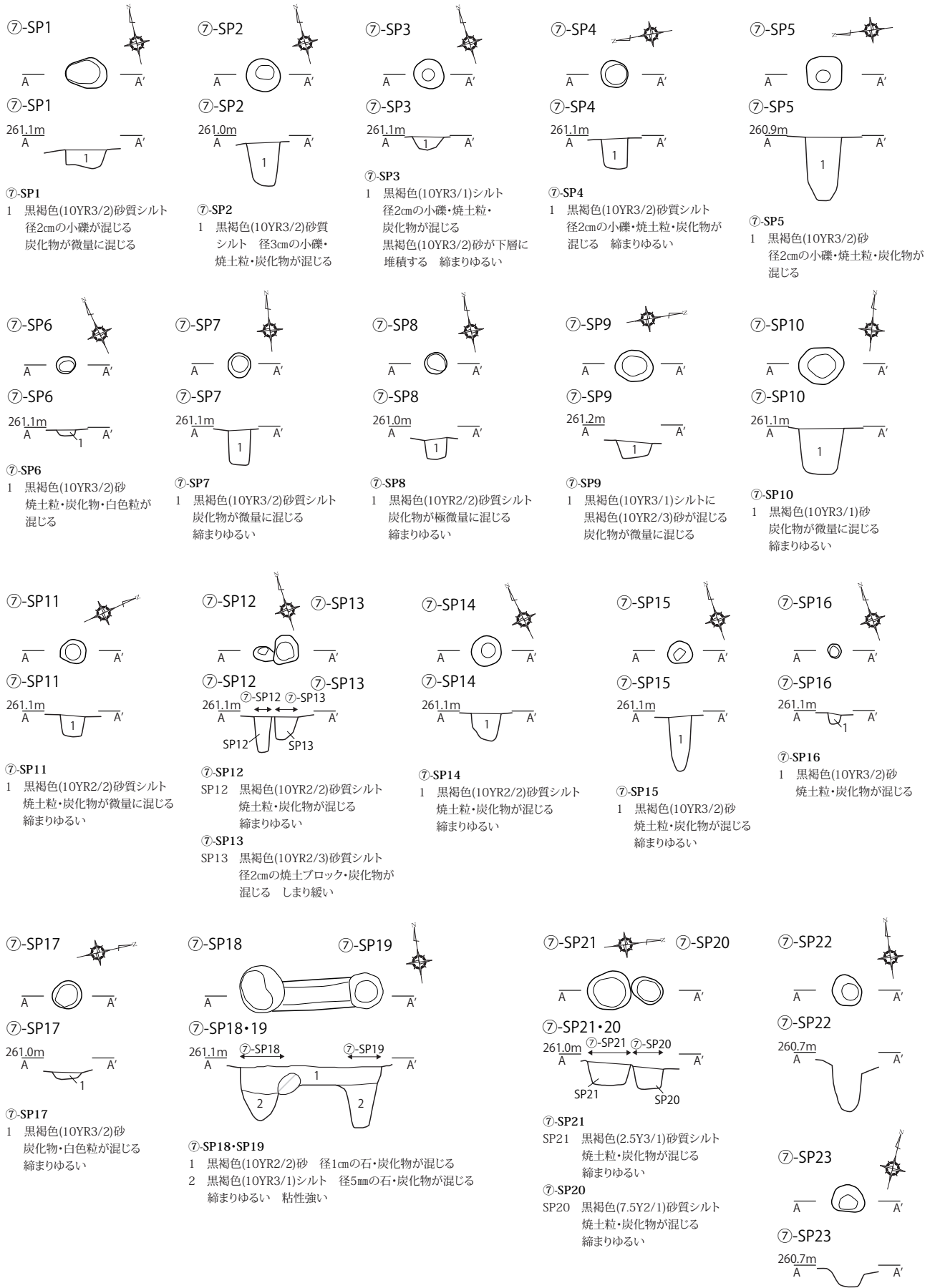
⑦-SK23

- 1 黒褐色(2.5Y3/2)砂に褐色(10YR4/4)砂が斑に混じる 径1cmの小礫・炭化物が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色(2.5Y3/2)砂 径1cmの小礫・炭化物が混じる 締まりあり
- 3 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルトににぶい黄褐色(10YR5/3)砂が混じる 植物繊維が多量に混じる 締まりゆるい 粘性強い
- 4 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルトににぶい黄褐色(10YR5/3)砂が混じる 植物繊維が混じる 締まりゆるい 粘性強い

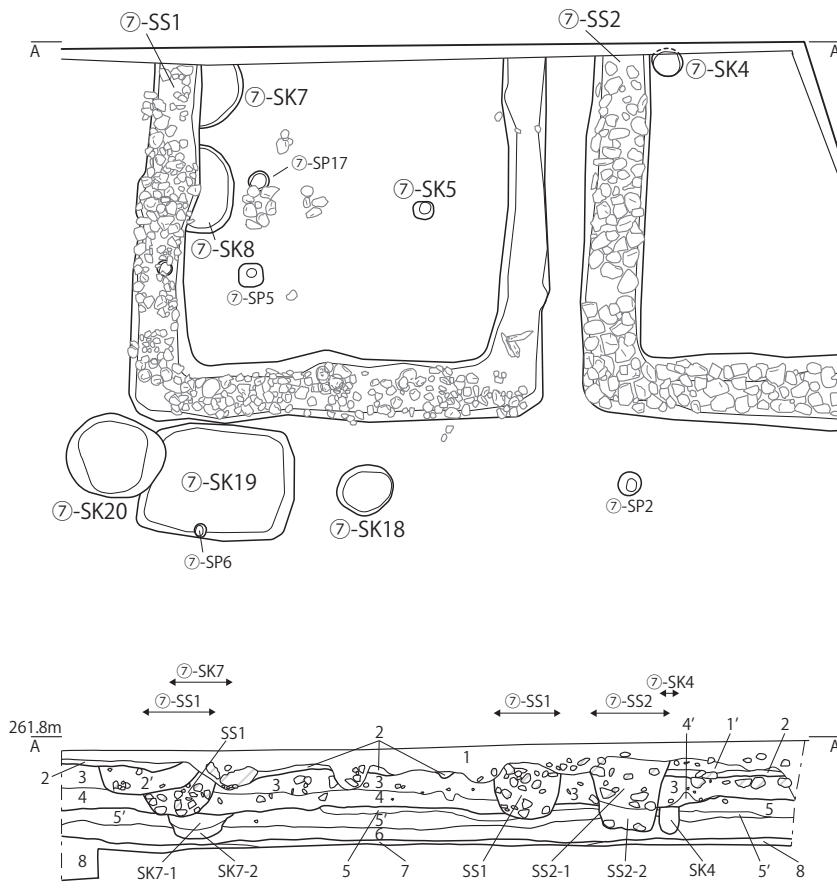
⑦-SK36



第49図 I-⑦区(6)



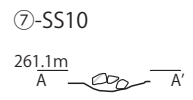
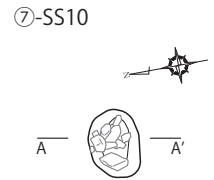
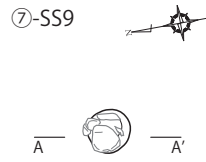
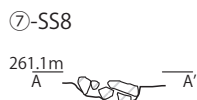
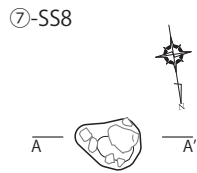
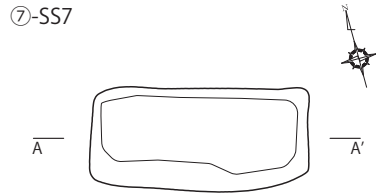
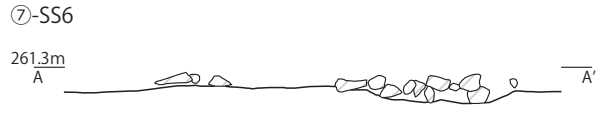
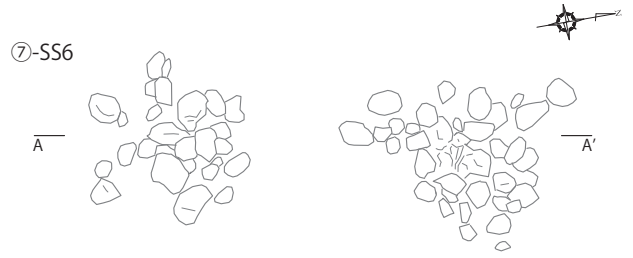
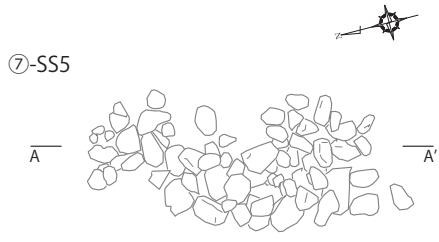
第50図 I-⑦区(7)



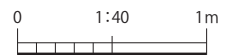
- 1 表土 碎石層
- 1' 表土
- 2 焼土層 径 2 cm の炭化物ブロックが混じる
- 2' 2層に似るが径 2 cm の礫・焼土粒・炭化物が混じる 縮まりあり
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黒色シルトブロックが混じる 径 4~7 cm の礫・焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり
- 4 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりあり
- 4' 黒色 (10YR2/1) シルト 炭化物・白色粒が混じる 下層に暗褐色 (10YR3/4) 粗粒砂が堆積する
- 5 黒色 (10YR3/1) シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりあり
- 5' 黒褐色 (10YR3/2) シルトに褐色砂が斑に混じる 炭化物・白色粒子が極微量に混じる 縮まりあり
- 6 5層に似るが褐色砂を5層より多く含む
- 7 黒褐色 (10YR3/1) シルトに褐色砂・炭化物・白色粒が微量に混じる
- 8 黒色 (7.5Y/2/1) シルト 炭化物が極微量に混じる
- ⑦-SS1
- SS1 黒褐色 (10YR3/2) シルト 径 8~10 cm の割石・径 4~5 cm の石が混じる 縮まりあり
- ⑦-SS2
- SS2-1 黒褐色 (10YR2/3) シルト 径 15 cm の割石・径 4~5 cm の石・焼土粒・炭化物が混じる 縮まりあり
- SS2-2 黒色 (10YR3/1) シルト 径 4~5 cm の石・焼土粒・炭化物が混じる 縮まりあり
- ⑦-SK4
- SK4 黒褐色 (10YR3/1) シルトに暗褐色 (10YR3/4) 粗粒砂が斑に混じる 縮まりゆるい

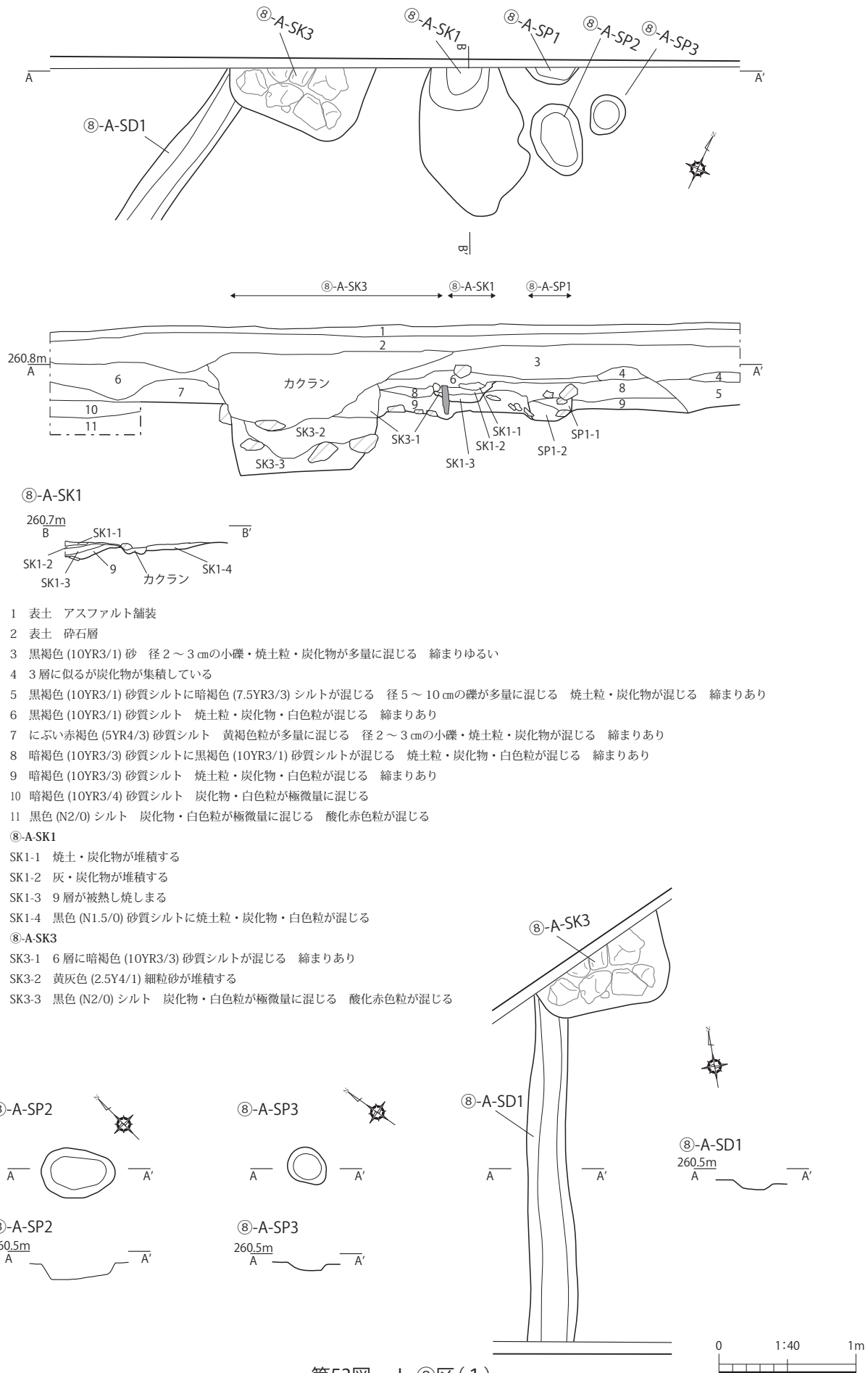


第51図 I-⑦区(8)

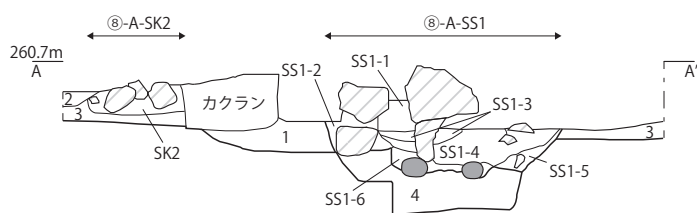
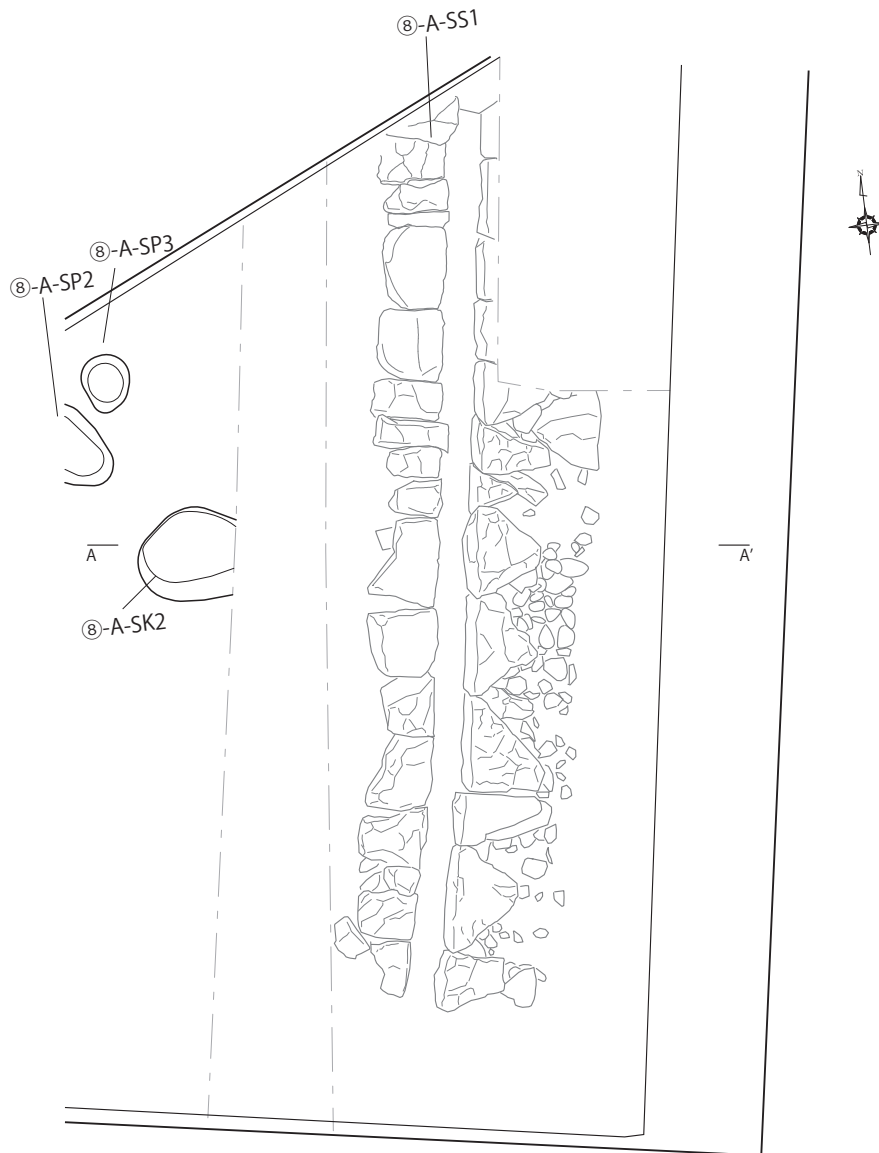


第52图 I-⑦区(9)





第53図 Ⅰ-⑧区(1)



- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂 径 2～3 cmの小礫・焼土粒・炭化物が多量に混じる 縮まりゆるい
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルトに黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルトが混じる 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり
- 4 黒色 (N2/0) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 酸化赤色粒が混じる

⑧-A-SK2

SK2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる

⑧-A-SS1

SS1-1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 黄褐色粒・炭化物・白色粒が混じる 粘性強い

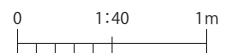
SS1-2 黒褐色 (10YR3/1) 砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる

SS1-3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強い

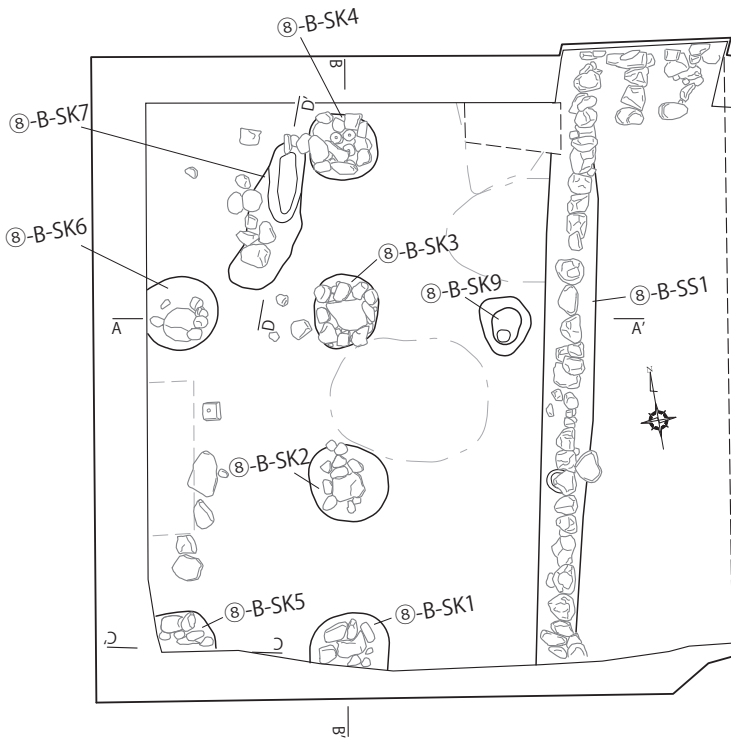
SS1-4 黒褐色 (10YR3/1) 砂 径 10～12 cmの礫が多量に混じる

SS1-5 黒褐色 (10YR3/1) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる

SS1-6 黒色 (10YR2/1) シルト 白色粒が極微量に混じる

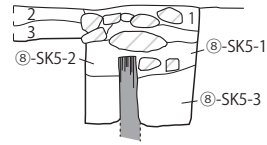


第54図 I-⑧区(2)



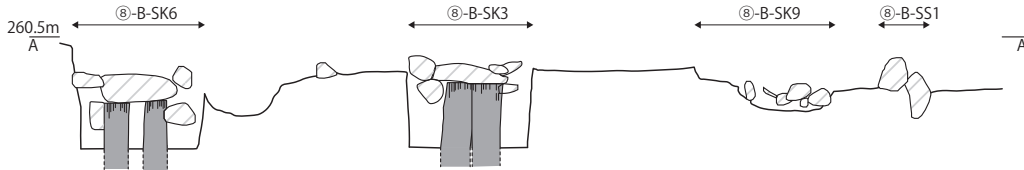
⑧-B-SK5

260.9m
C

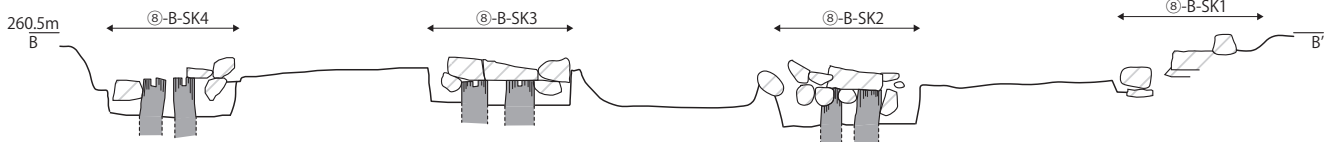


- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
 - 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルトに黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルトが混じる
焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
 - 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- ⑧-B-SK5
- SK5-1 暗灰色 (N3/0) シルトに黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルトが混じる
焼土粒・炭化物・白色粒が混じる
 - SK5-2 暗灰色 (N3/0) シルト 微量の炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
 - SK5-3 黒色 (N2/0) シルト 酸化赤色粒が混じる

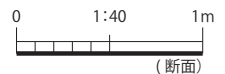
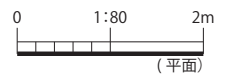
⑧-B-SK6・3・9、⑧-C-SS1



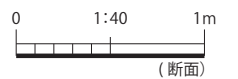
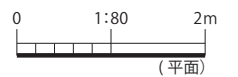
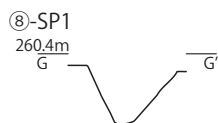
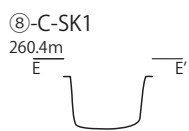
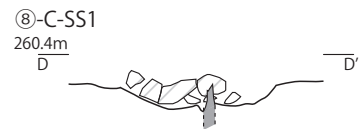
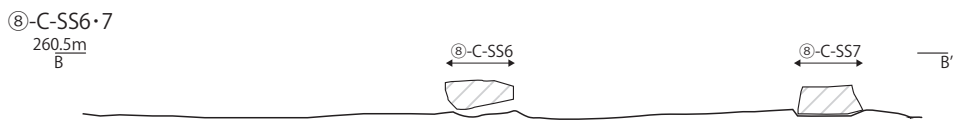
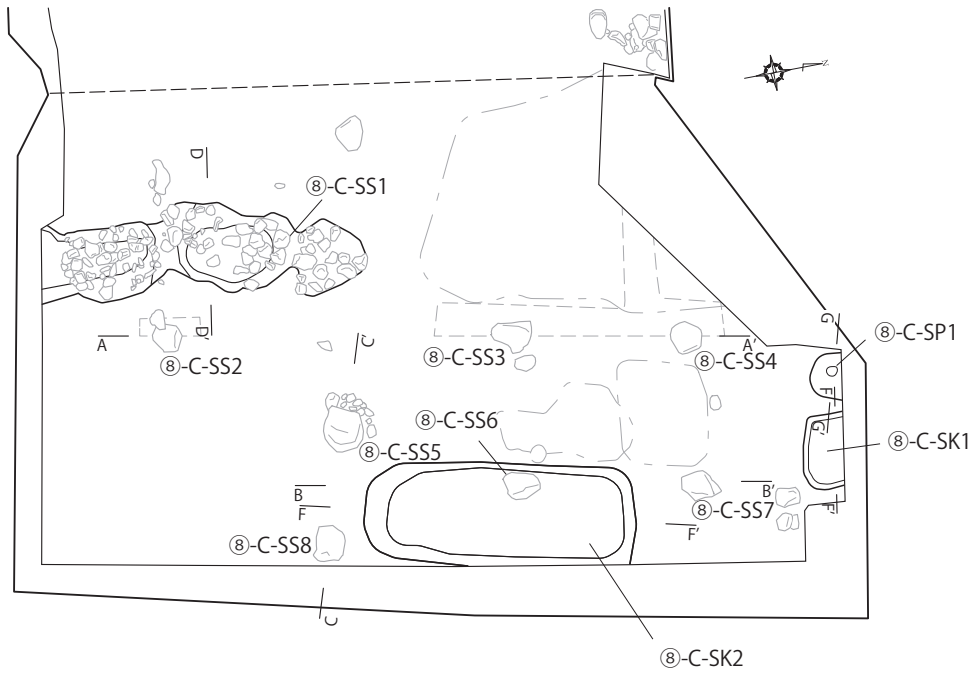
⑧-B-SK4・3・2



⑧-B-SK7

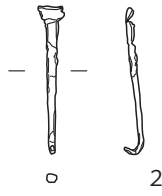
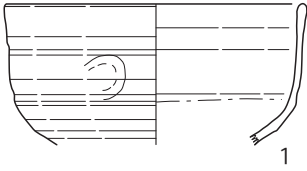


第55図 I-⑧区(3)



第56图 I-⑧区(4)

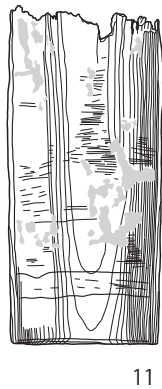
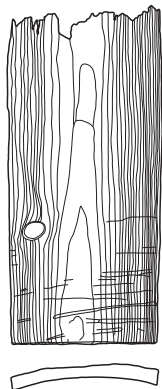
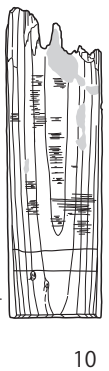
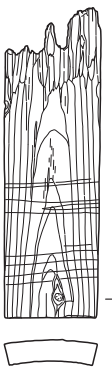
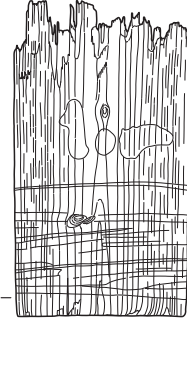
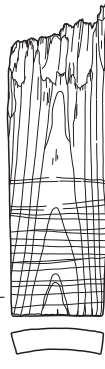
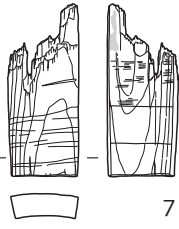
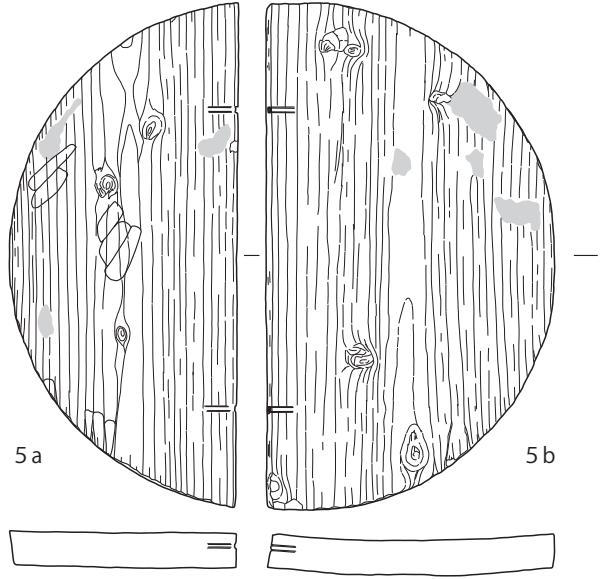
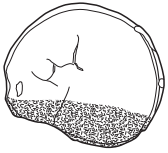
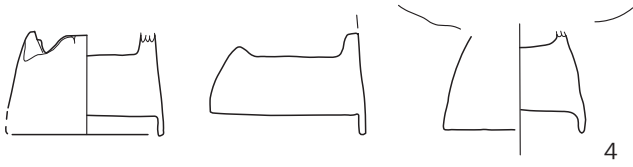
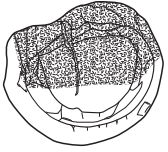
①-SK1



①-SK3



①-SK4



0 1:2 5cm

(2)

0 1:6 20cm

(5)

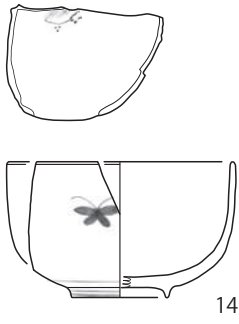
0 1:8 20cm

(6~13)

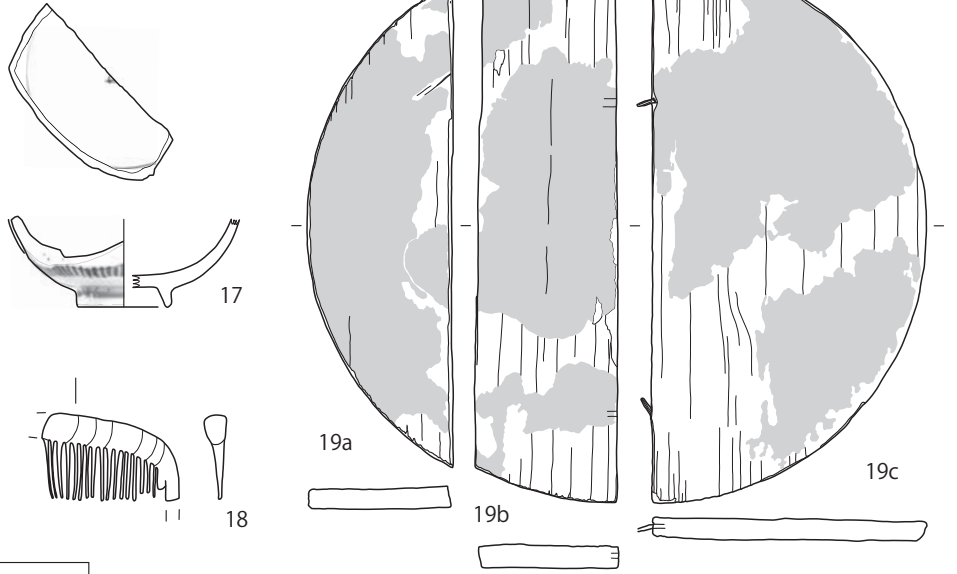
0 1:3 10cm

第57图 ①区出土遺物(1)

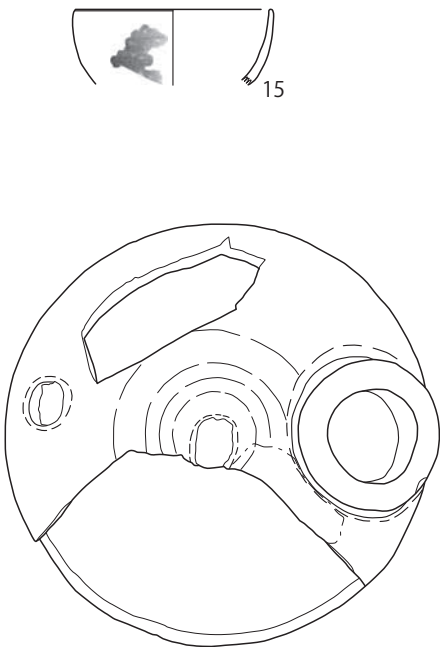
①-SK8



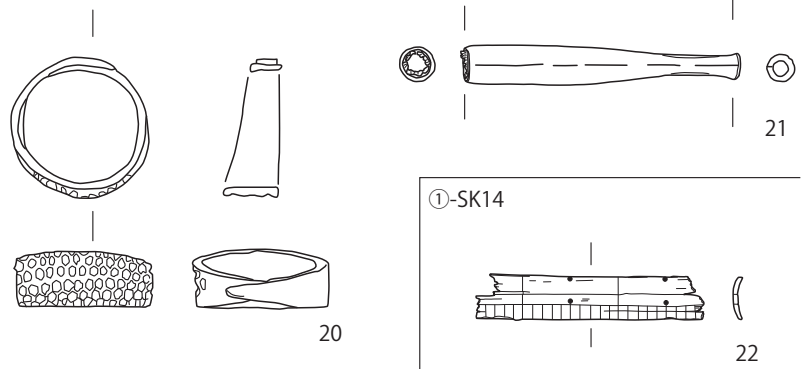
①-SK13



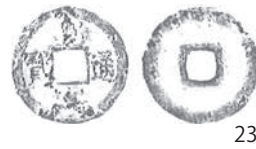
①-SK10



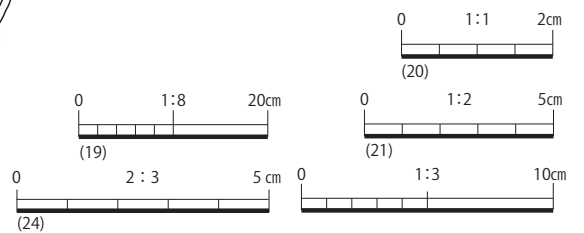
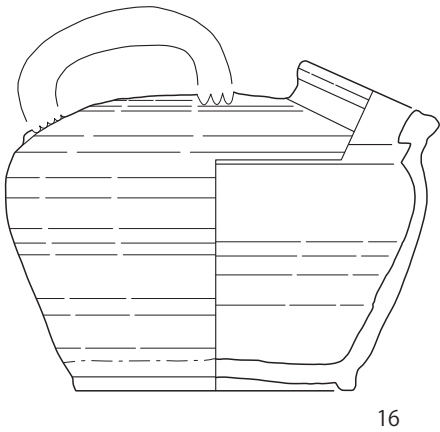
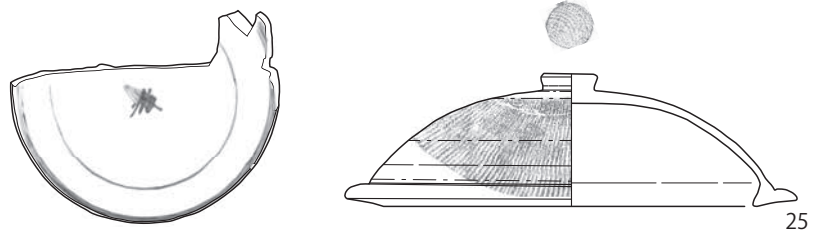
①-SK14



①-SP4

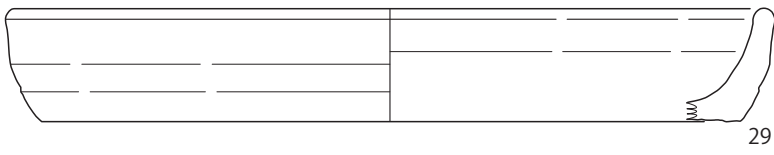
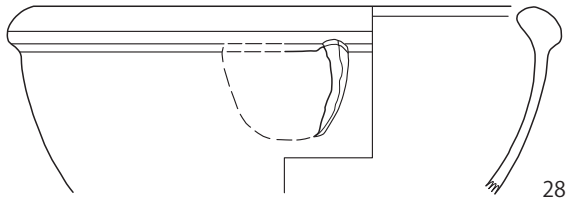
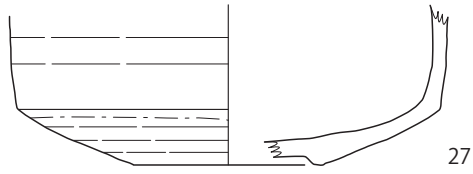
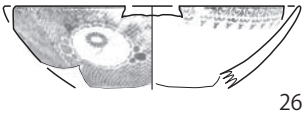


①-SP14

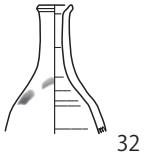


第 58 图 ①区出土遺物 (2)

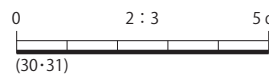
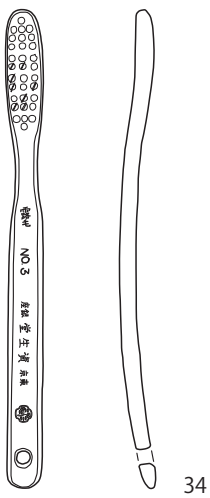
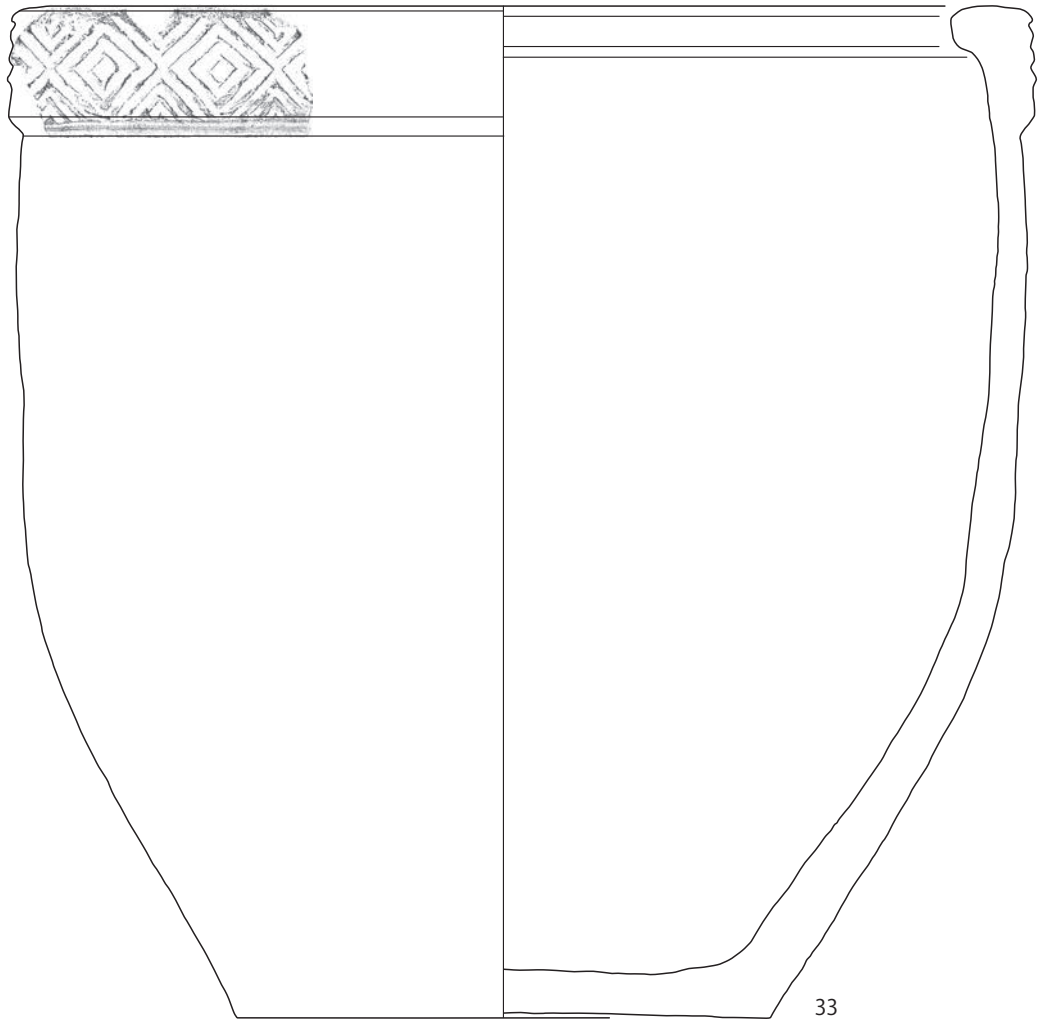
①-SS1



①-SS5

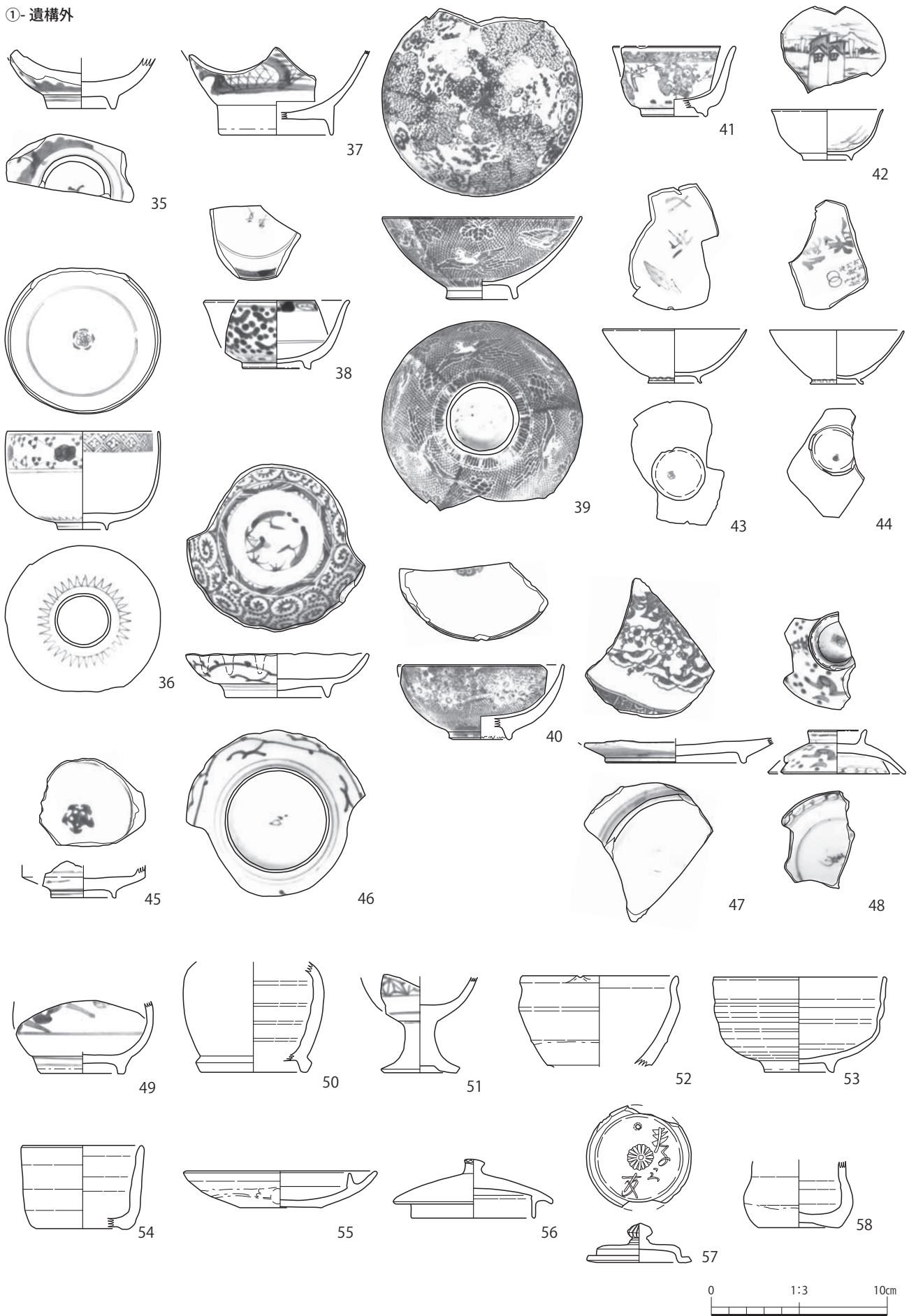


①-SX1



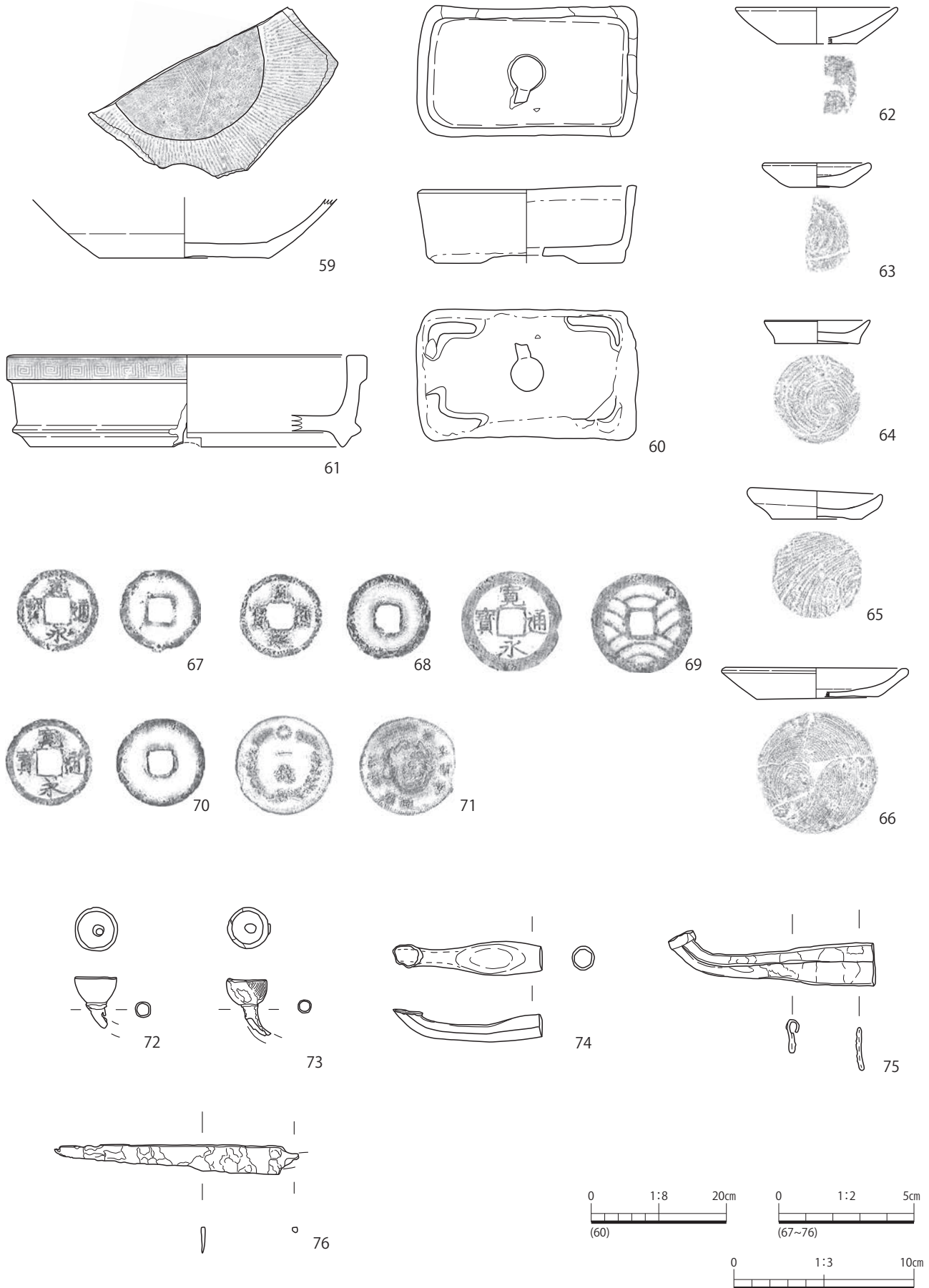
第 59 图 ①区出土遺物 (3)

①-遺構外



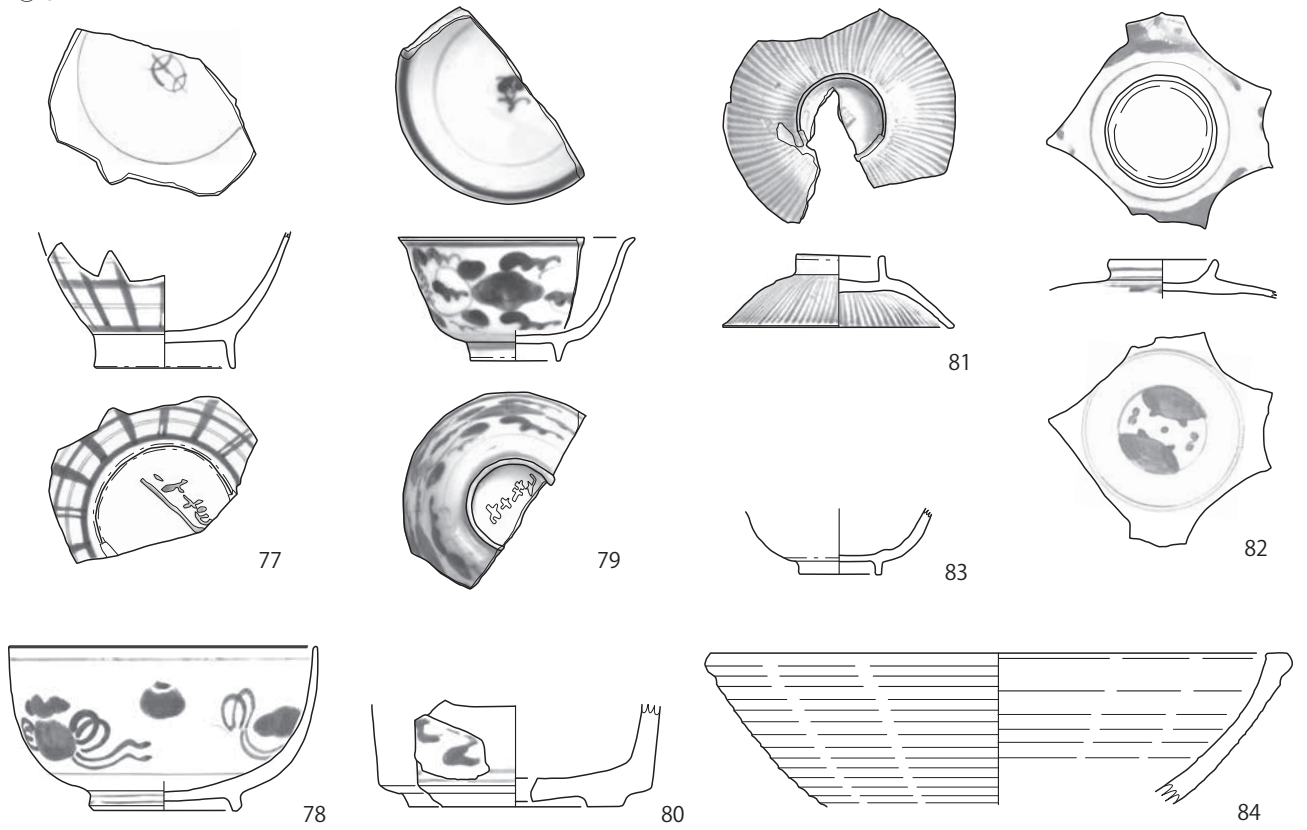
第60图 ①区出土遺物(4)

①-遺構外

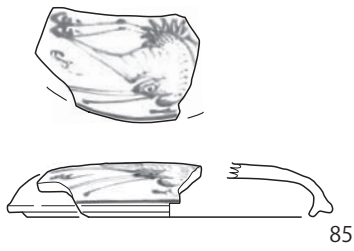


第61図 ①区出土遺物(5)

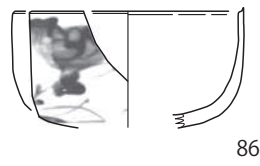
②-SK1



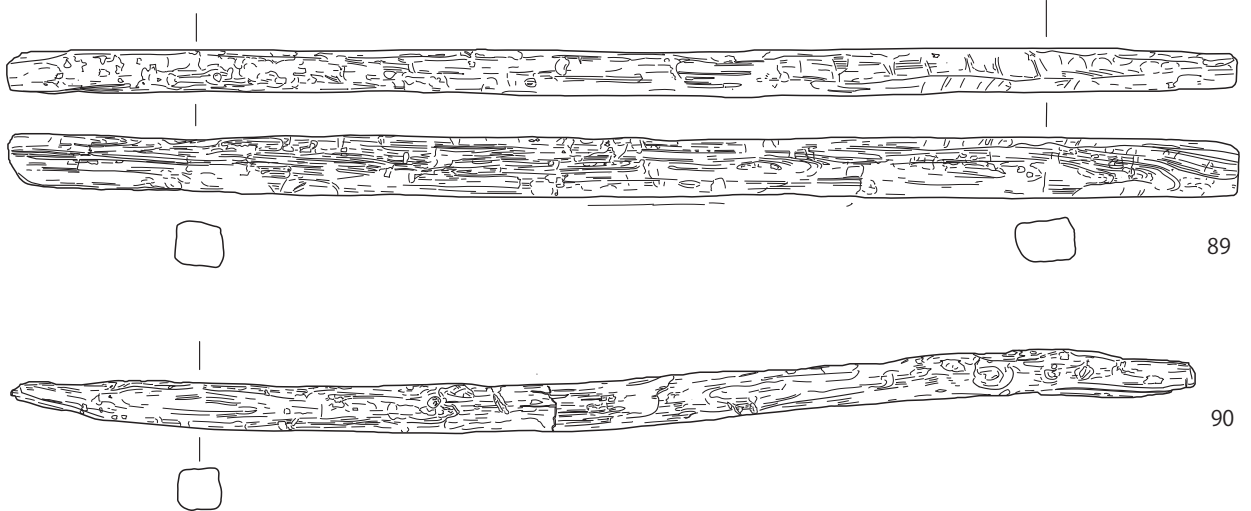
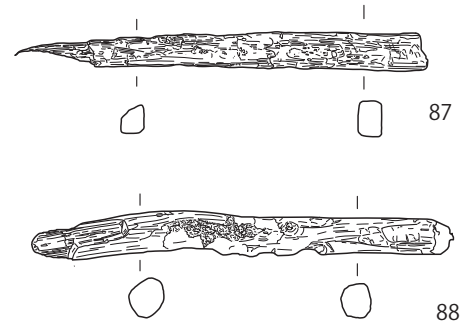
②-SK3



②-SK10

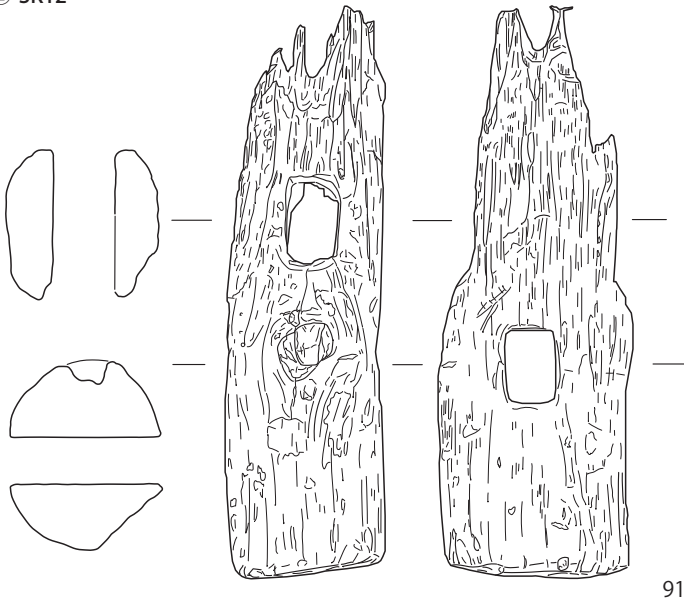


②-SK12



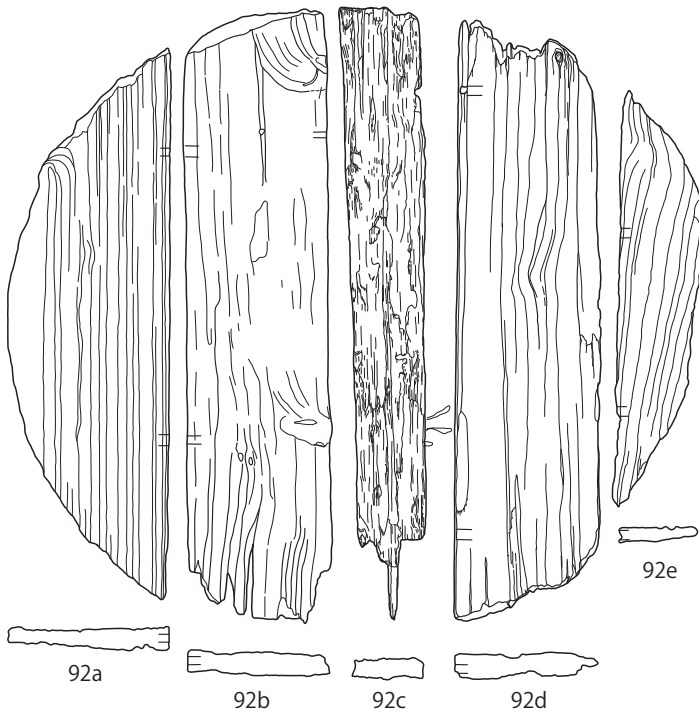
第 62 图 ②区出土遺物 (1)

②-SK12



91

②-SK13



92e

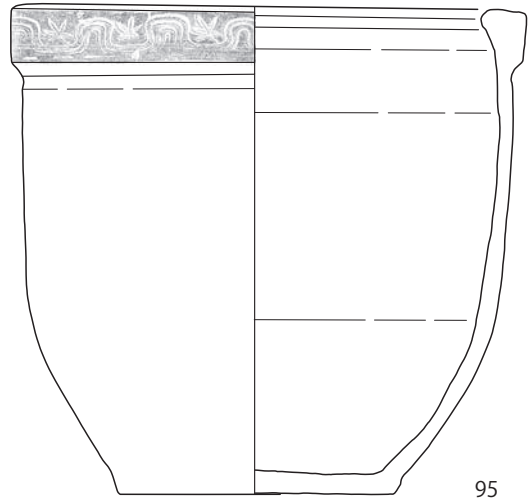
92a

92b

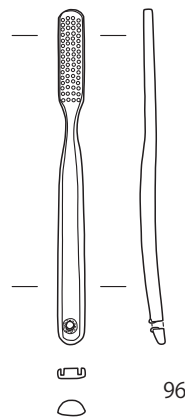
92c

92d

②-SX1

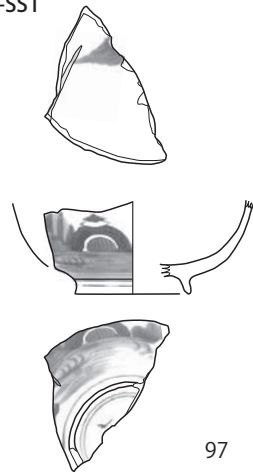


95

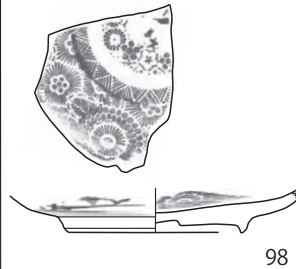


96

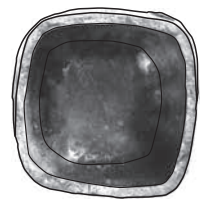
②-SS1



97



98

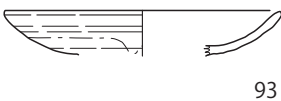


99

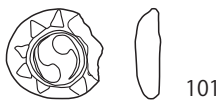


100

②-SP6



93



101

②-SD1



94



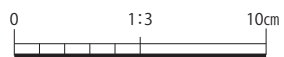
(91-92)



(94)

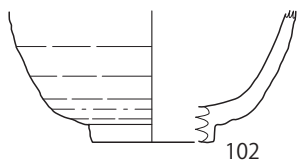


(95)



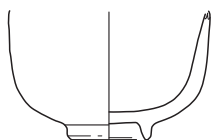
第 63 图 ②区出土遺物 (2)

②-SS2



102

②-SS4



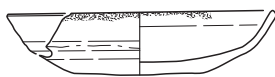
103



112



115

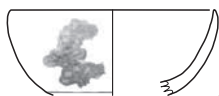


117

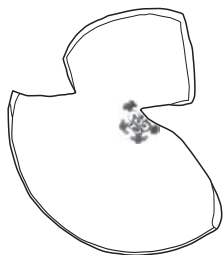


118

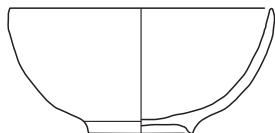
②-遺構外



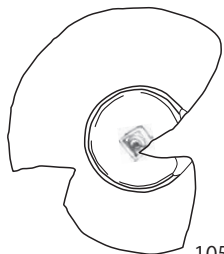
104



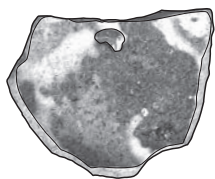
105



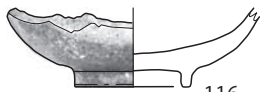
106



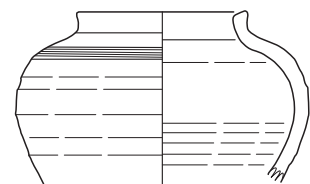
113



116



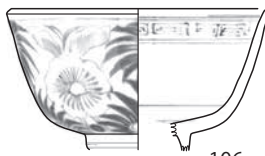
119



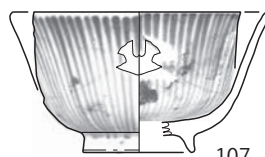
121



109



110



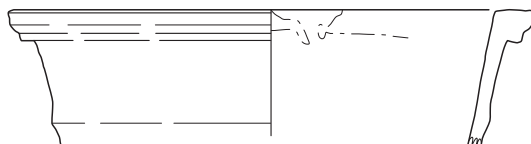
111



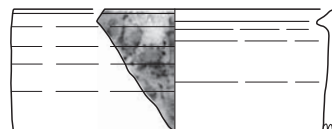
114



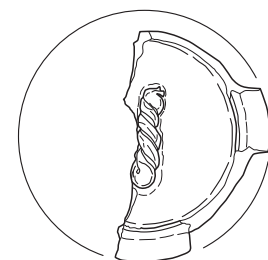
120



0 1:3 10cm



122



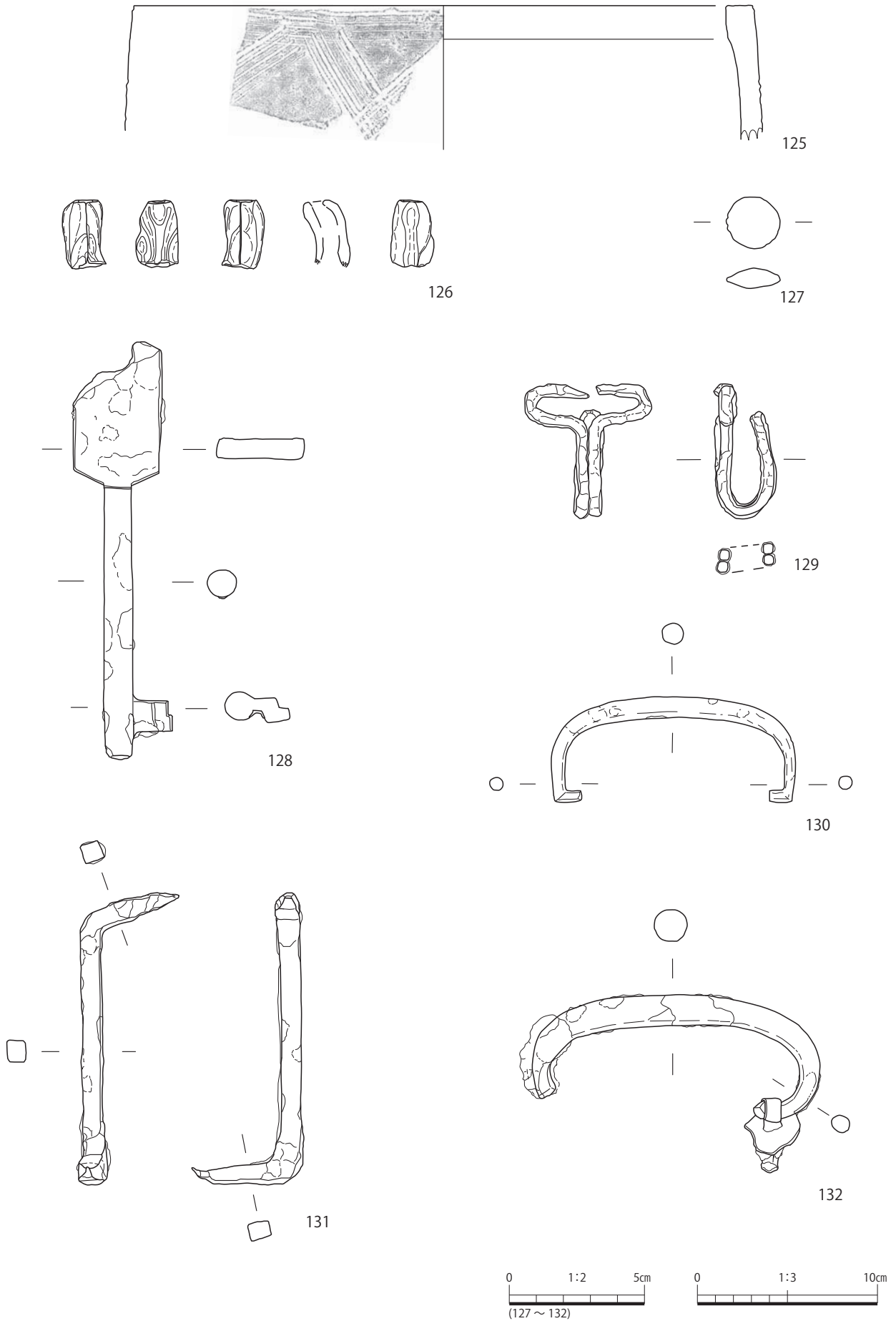
123



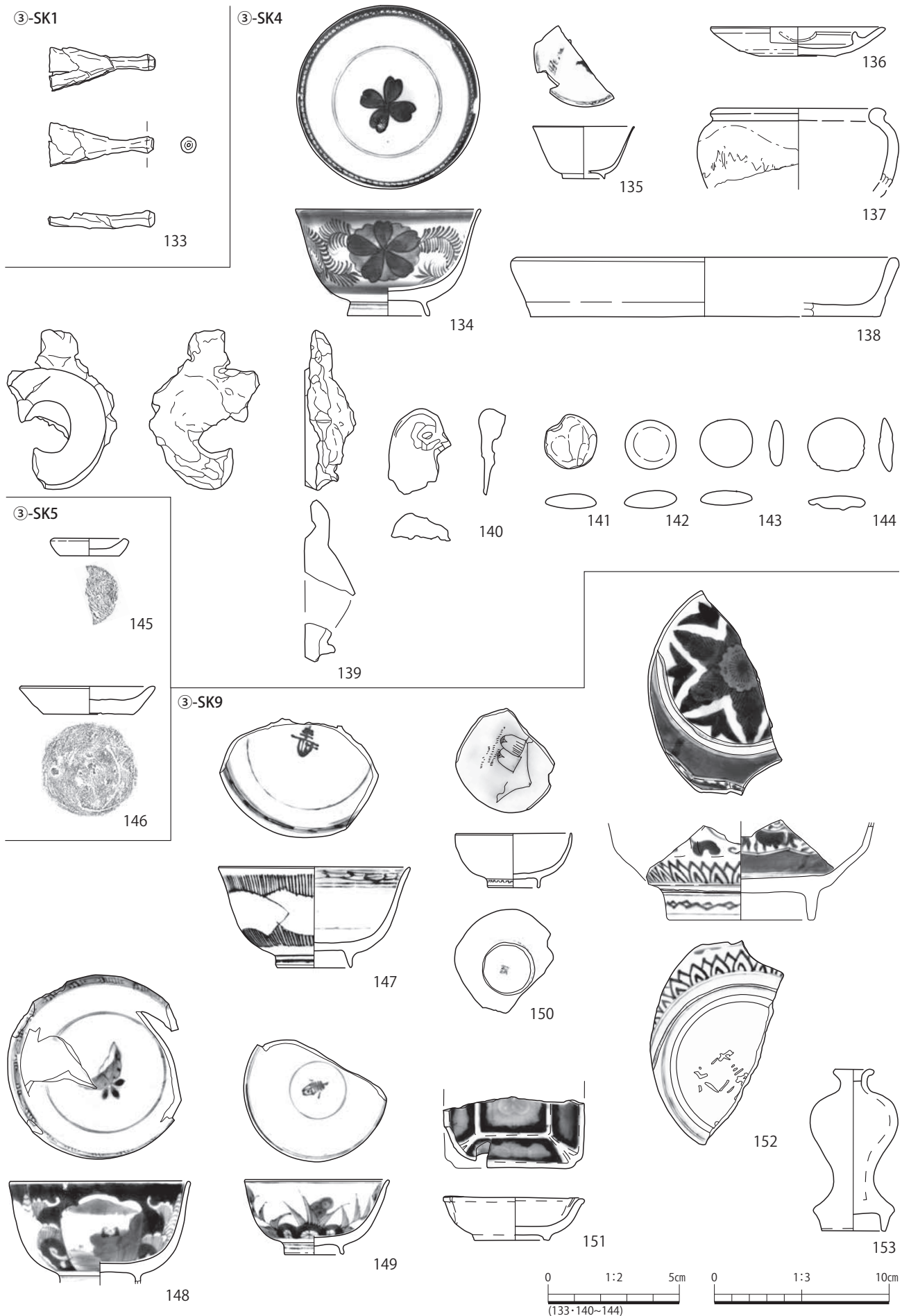
124

第 64 图 ②区出土遺物 (3)

②- 遺構外

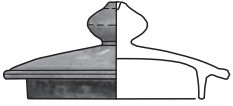
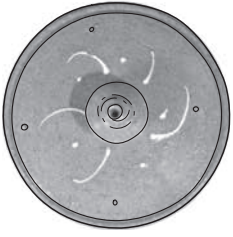


第 65 図 ②区出土遺物 (4)



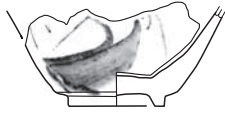
第 66 图 ③区出土遺物 (1)

③-SK9



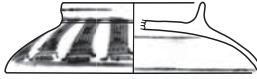
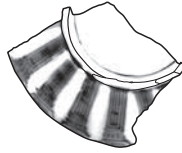
154

③-SK12



155

③-SK13



156

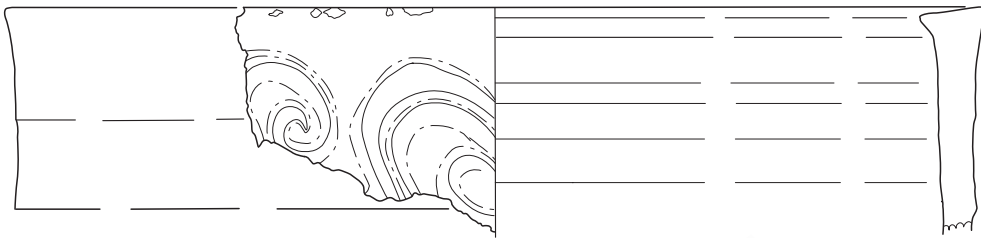
③-SE1



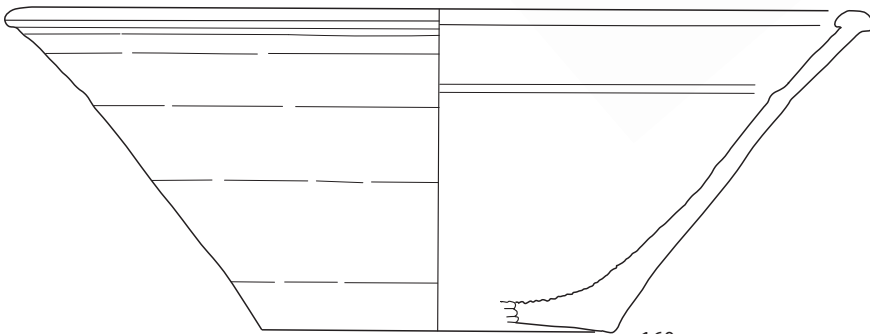
157



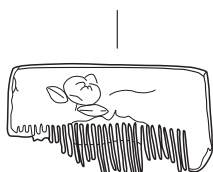
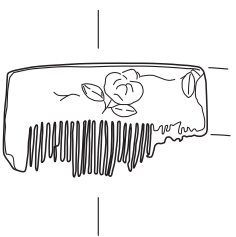
158



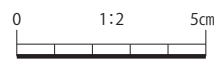
159



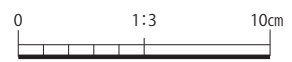
160



161

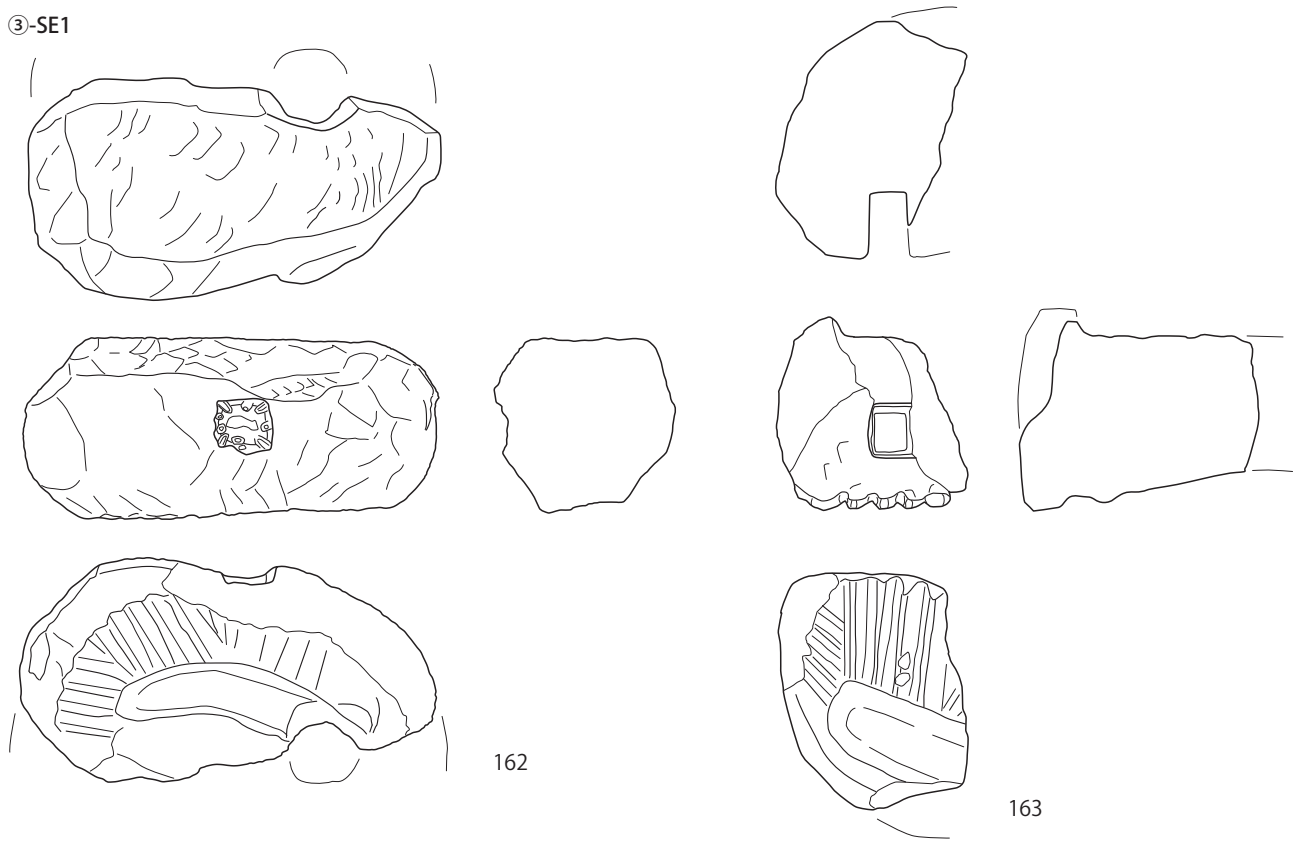


(161)

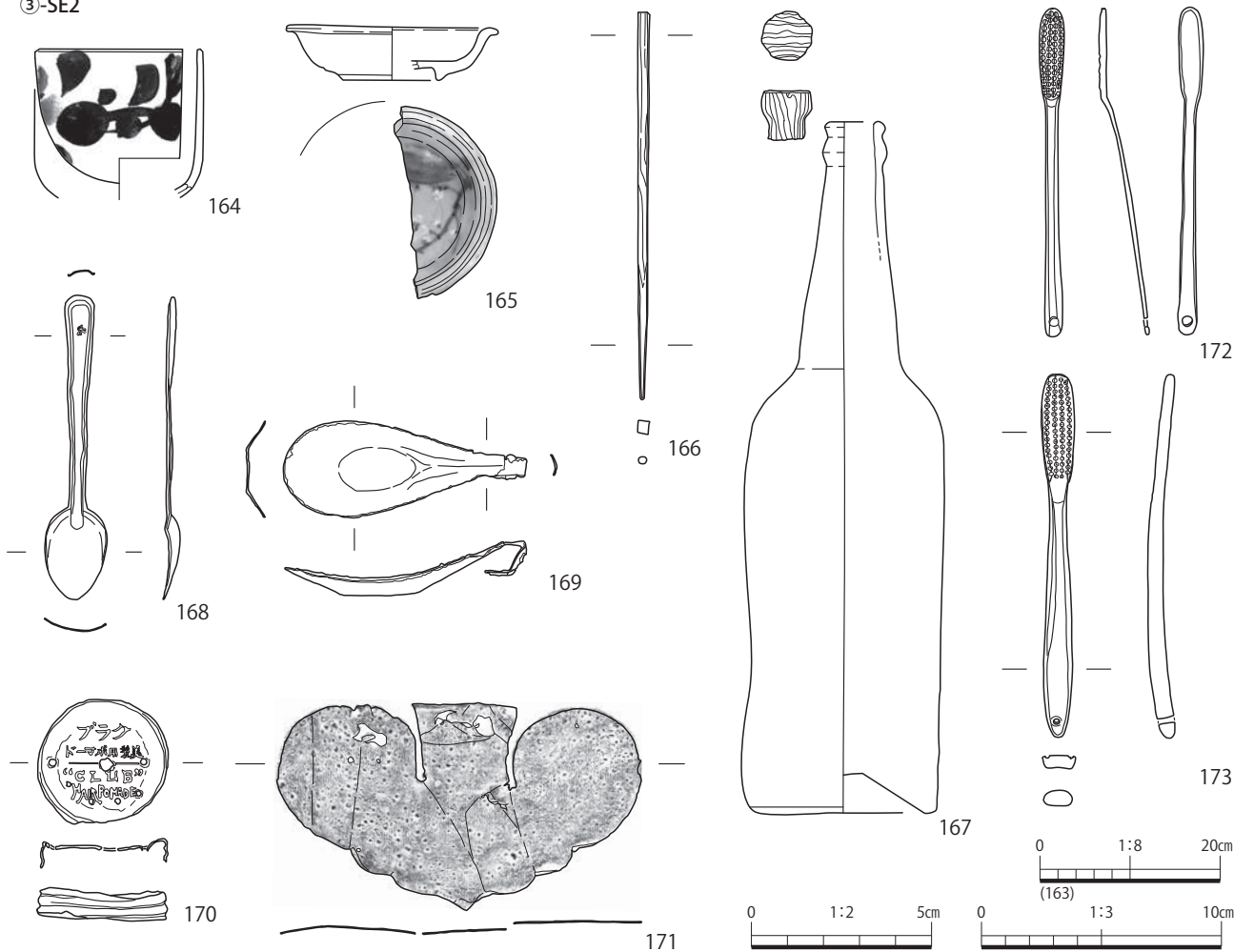


第 67 图 ③区出土遺物 (2)

③-SE1

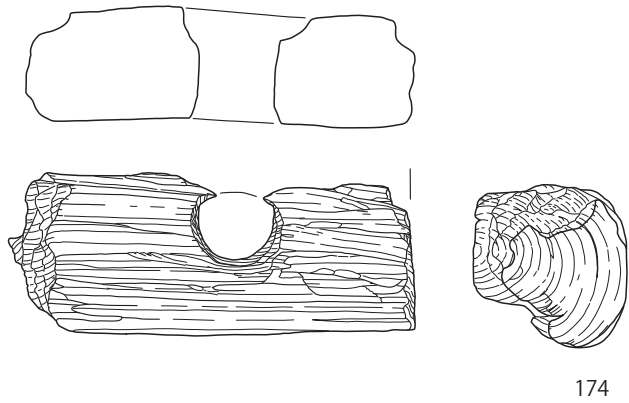


③-SE2



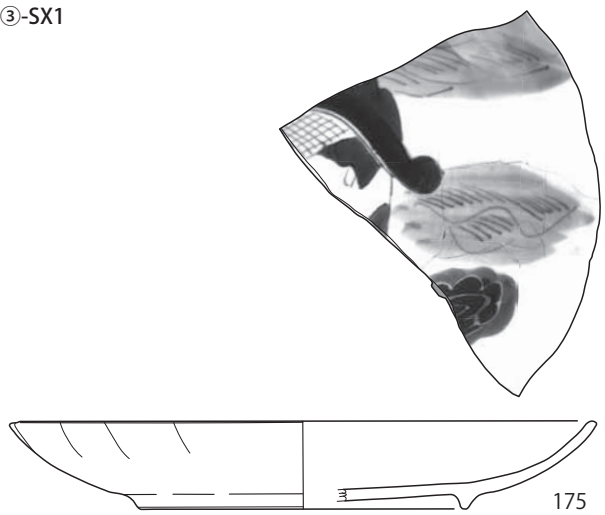
第 68 図 ③区出土遺物 (3)

③-SD3



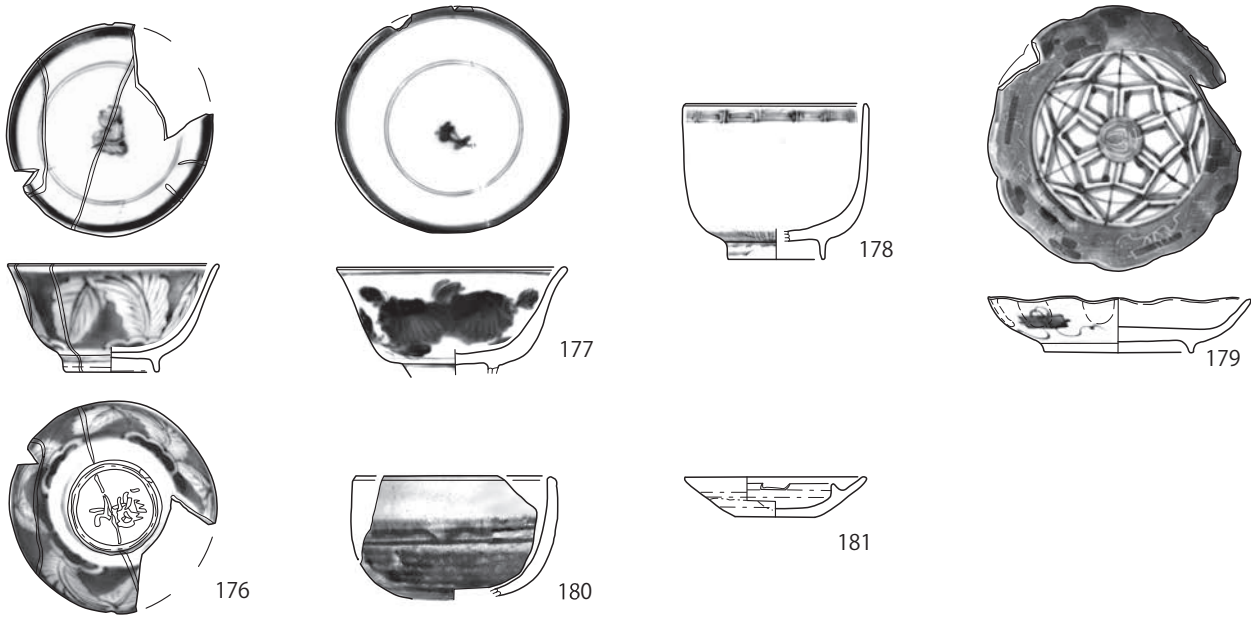
174

③-SX1



175

③- 遺構外



176

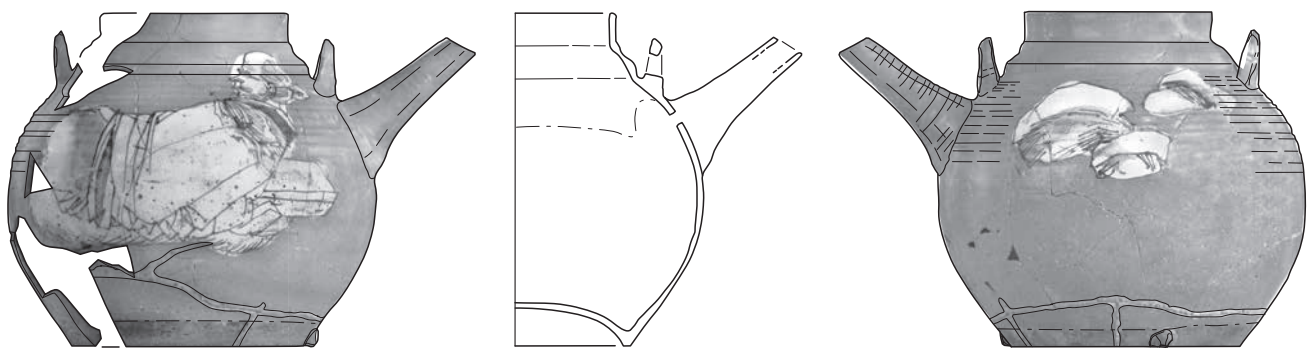
177

178

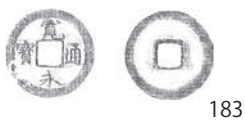
179

180

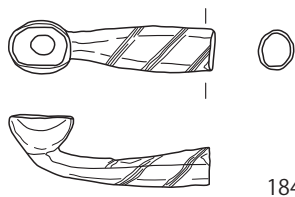
181



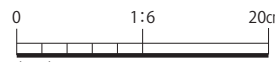
182



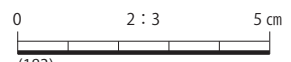
183



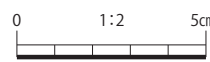
184



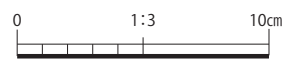
(174)



(183)

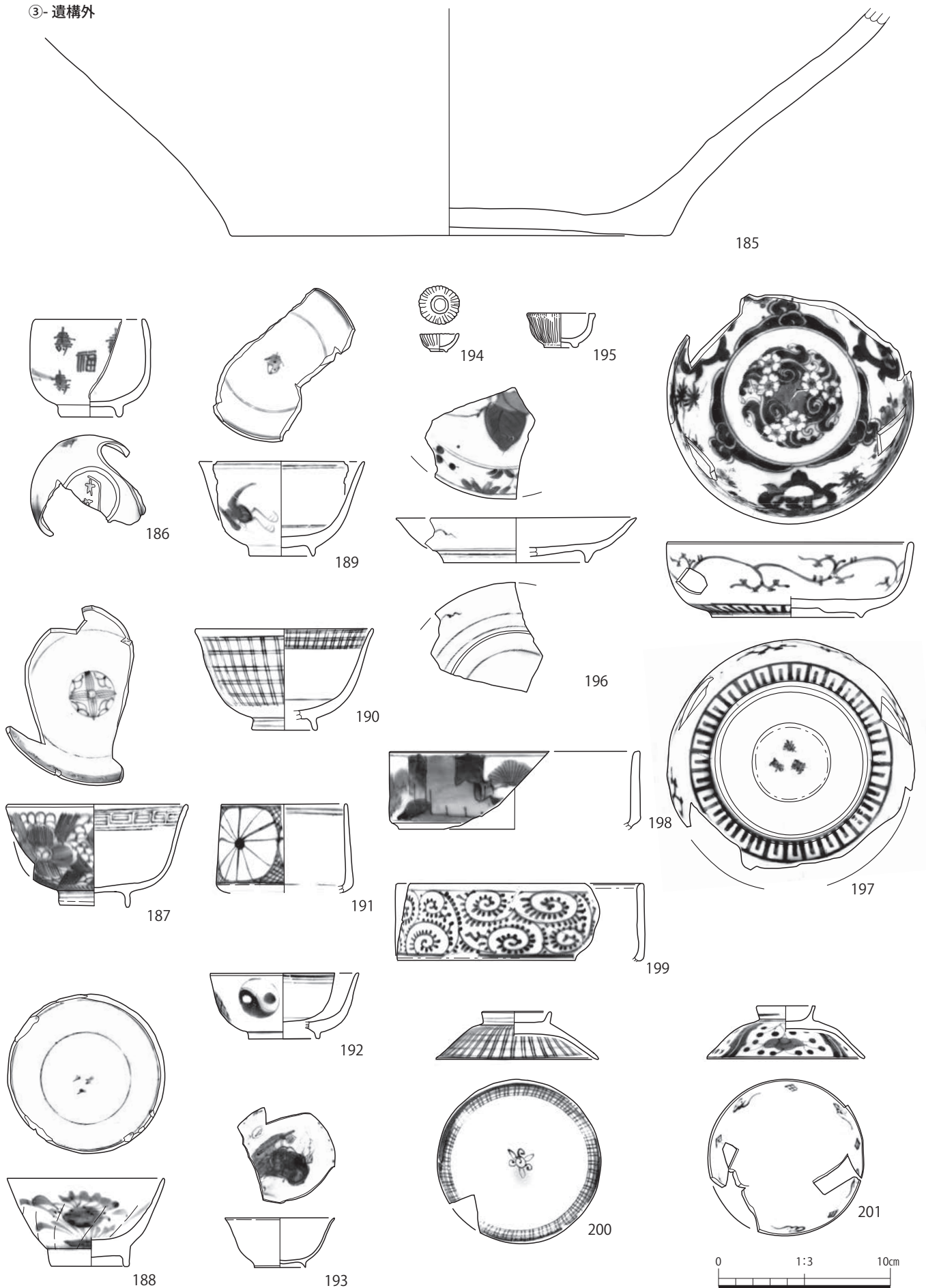


(184)



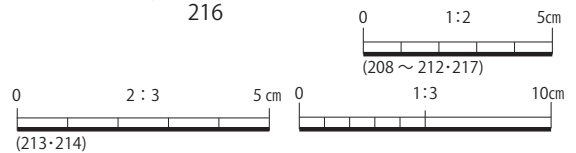
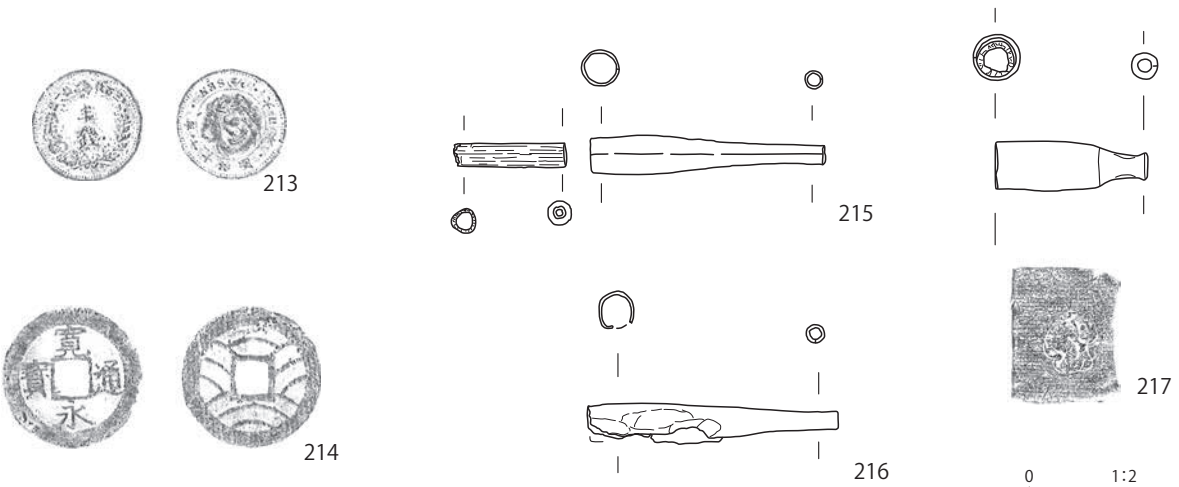
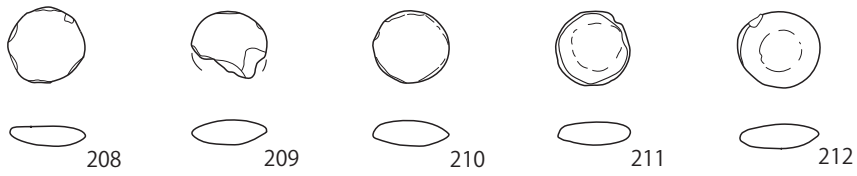
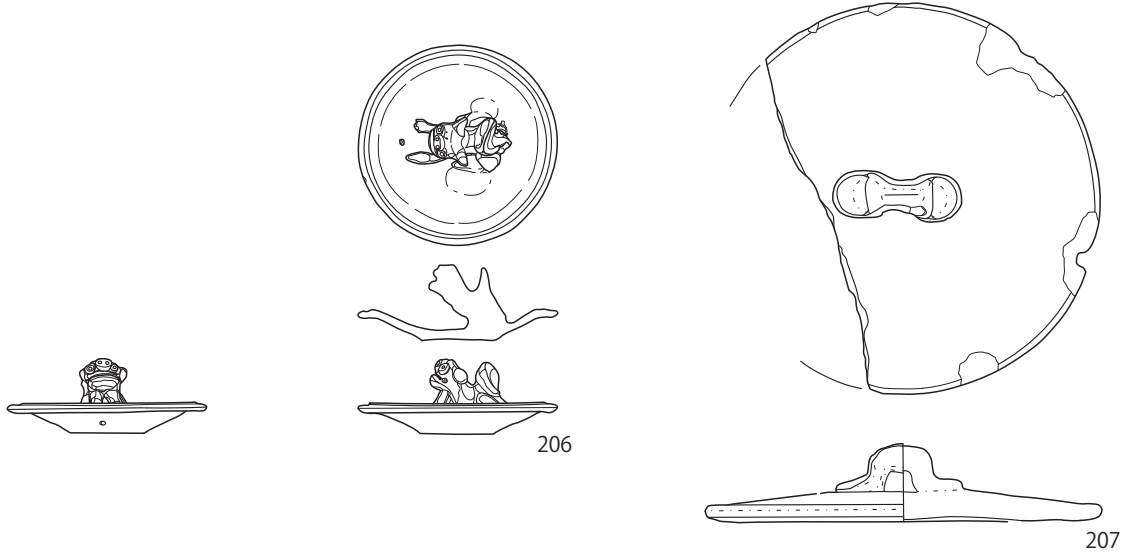
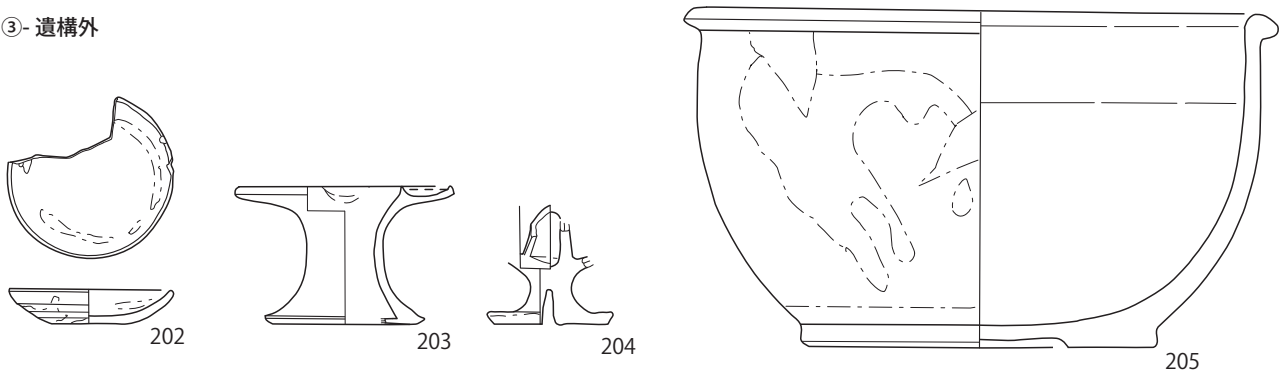
第 69 图 ③区出土遺物 (4)

③- 遺構外

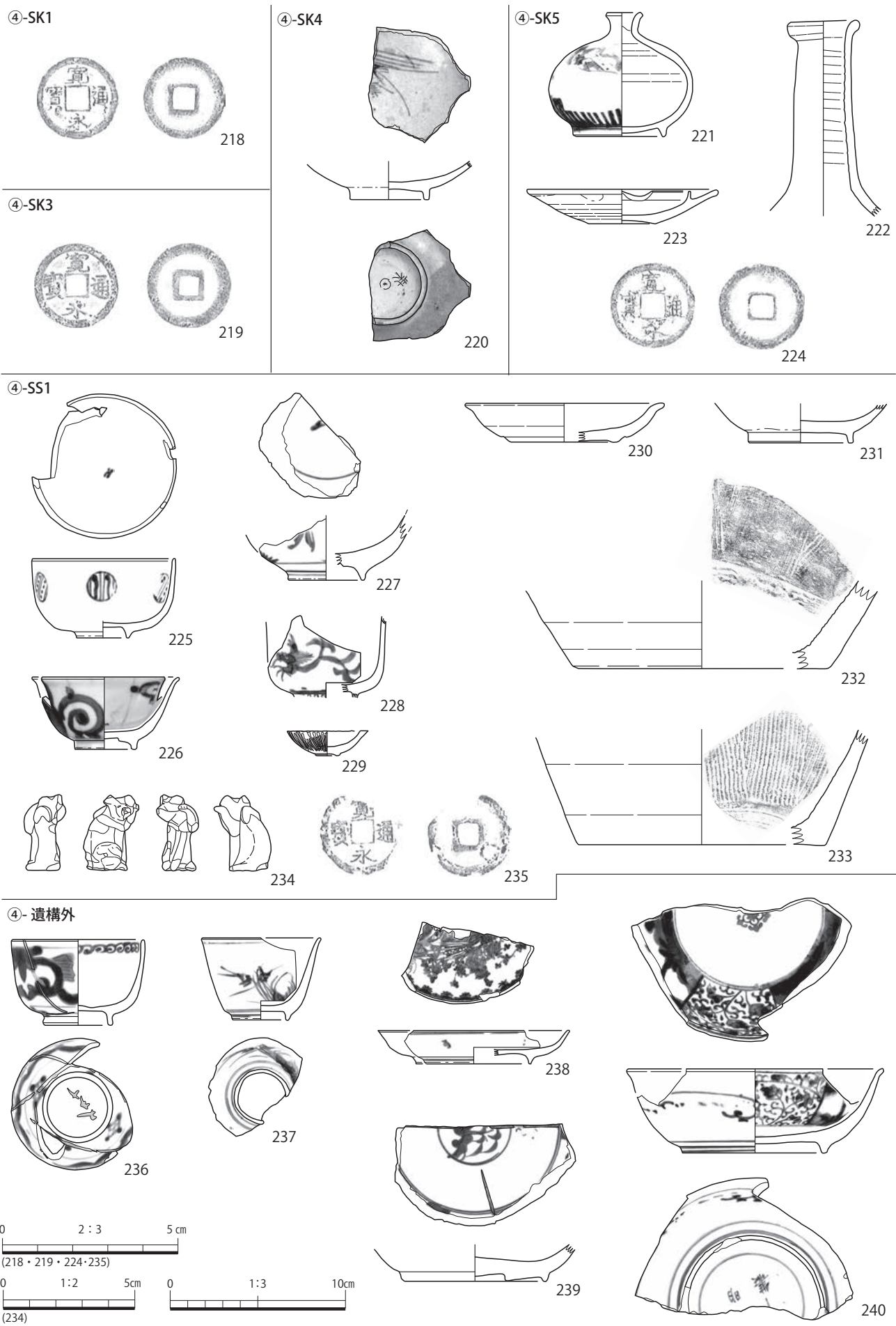


第 70 图 ③区出土遺物 (5)

③- 遺構外

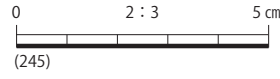
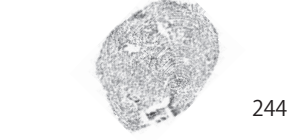
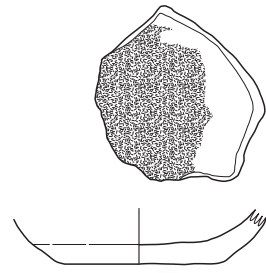
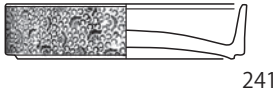


第71図 ③区出土遺物(6)



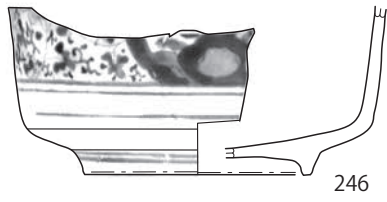
第72図 ④区出土遺物(1)

④- 遺構外

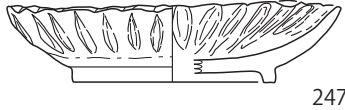


第 73 図 ④区出土遺物 (2)

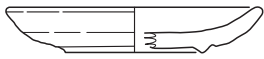
⑤-SK1



246

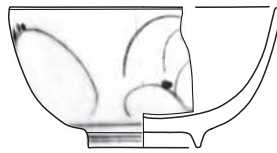


247

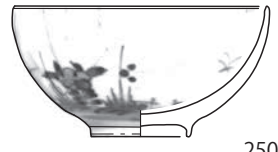


248

⑤-SK3



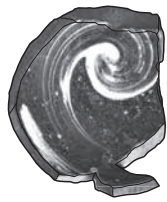
249



250



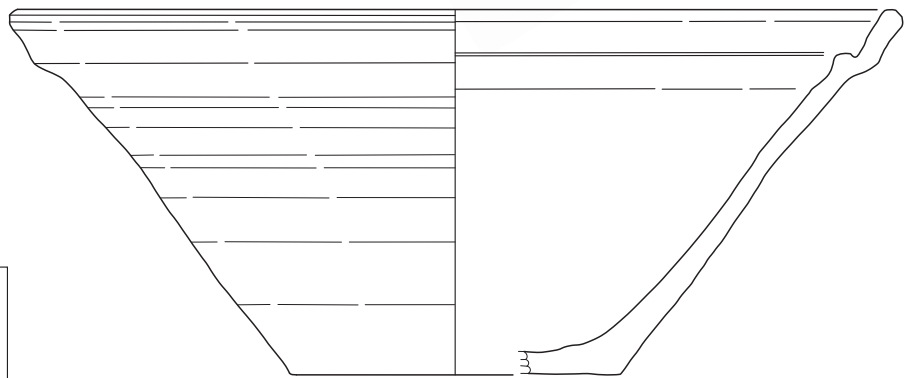
251



252



254



253

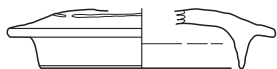
⑤-SK4



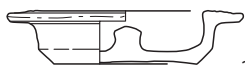
255



⑤-SK11



256

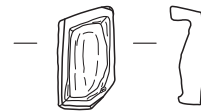


257

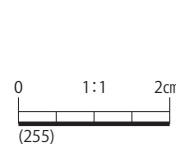
⑤-SK12



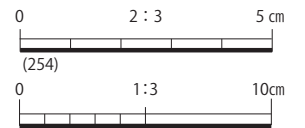
258



259



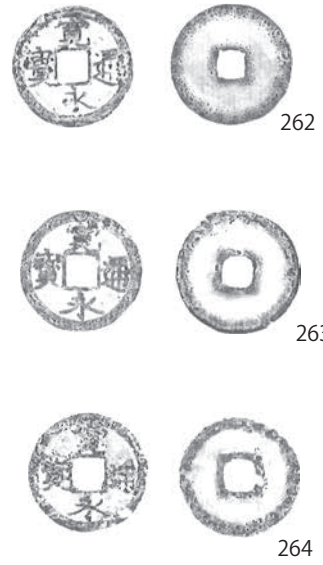
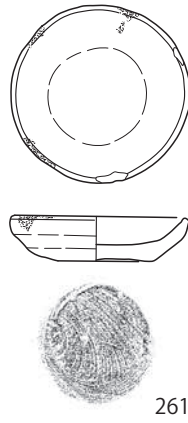
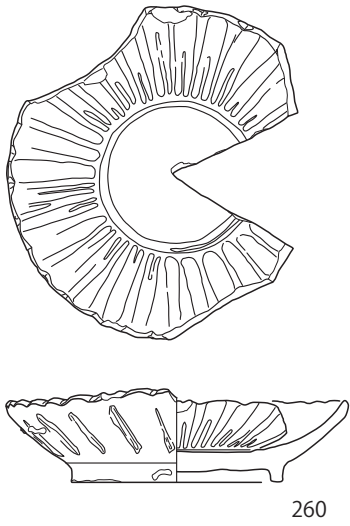
(255)



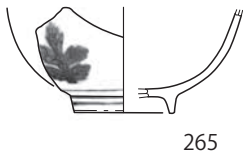
(254)

第 74 图 ⑤区出土遺物 (1)

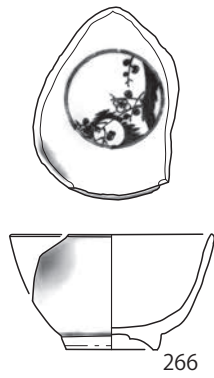
⑤-SK16



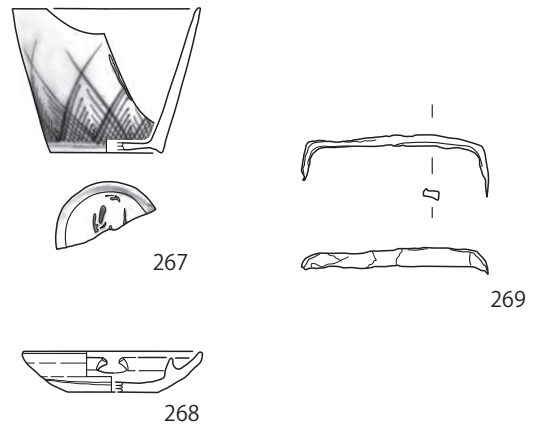
⑤-SP5



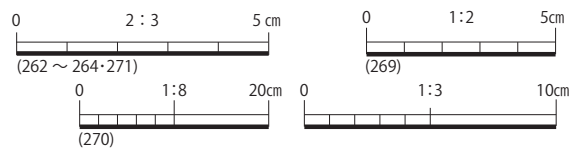
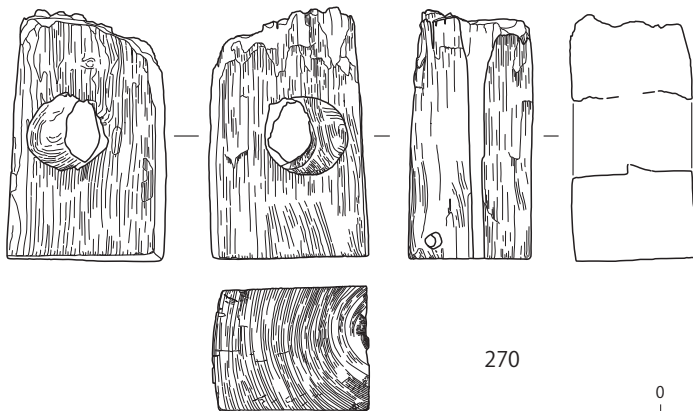
⑤-SP6



⑤-SD1

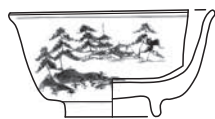


⑤-SD4

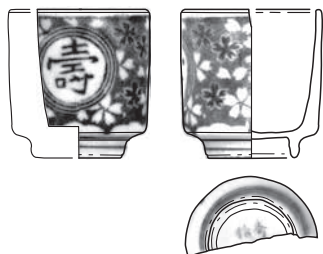


第75图 ⑤区出土遺物(2)

⑤SS1



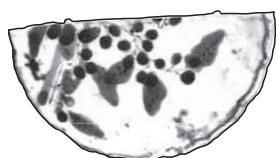
272



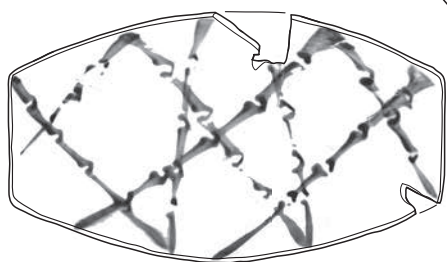
273



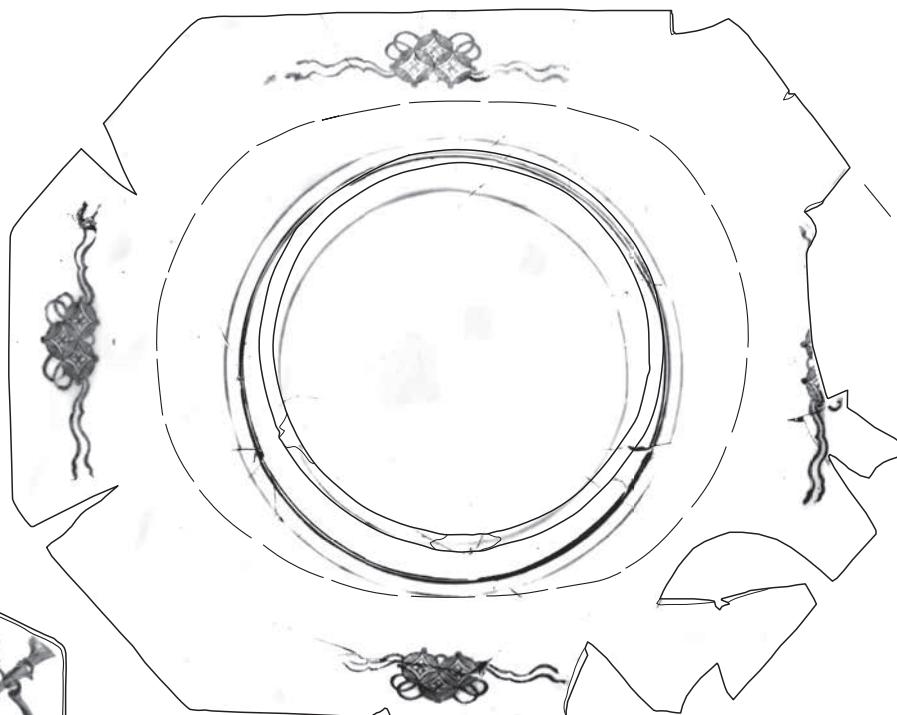
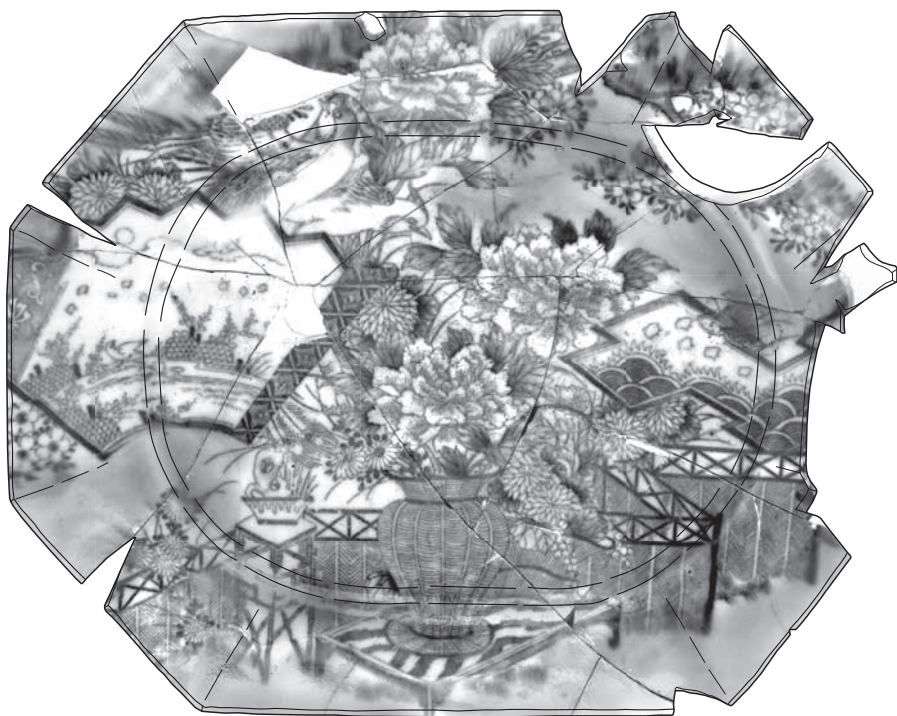
274



275



276

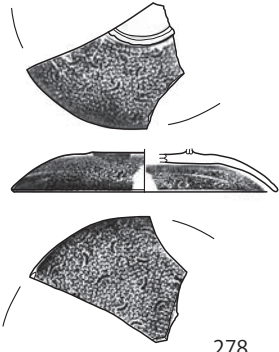


277



第76图 ⑤区出土遺物(3)

⑤-SS1



278



280



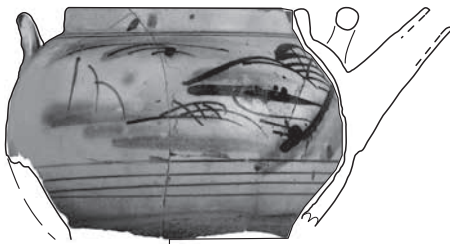
279



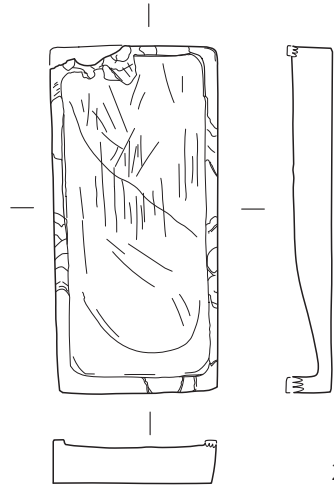
281



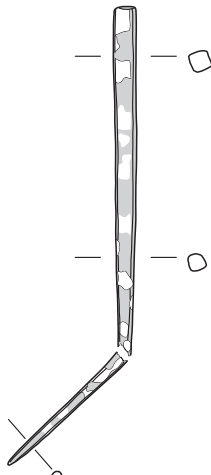
282



283

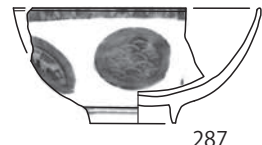
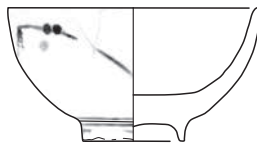


284



285

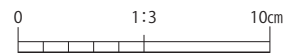
⑤-SS2



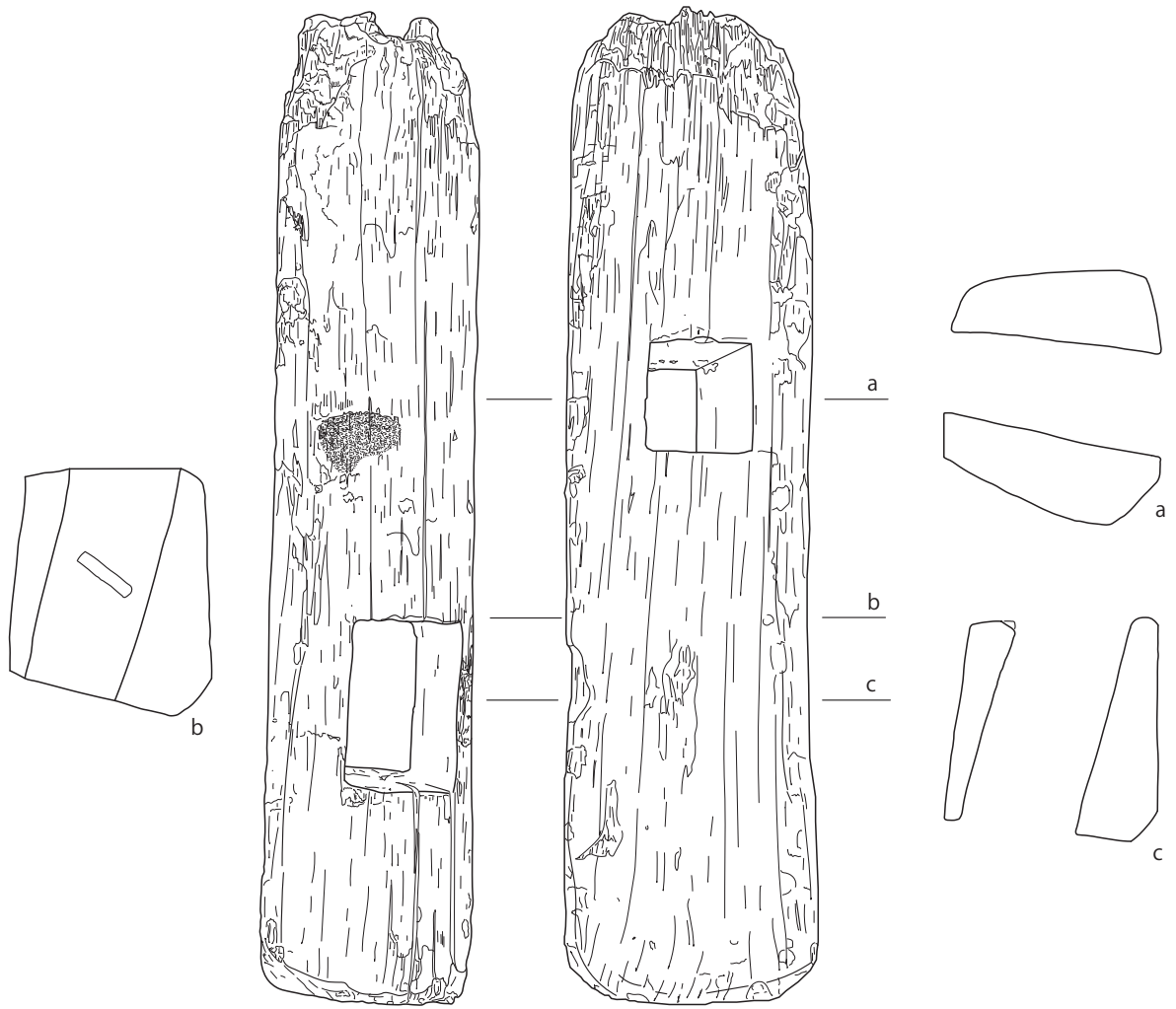
287



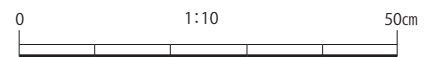
286



第77图 ⑤区出土遺物(4)



288

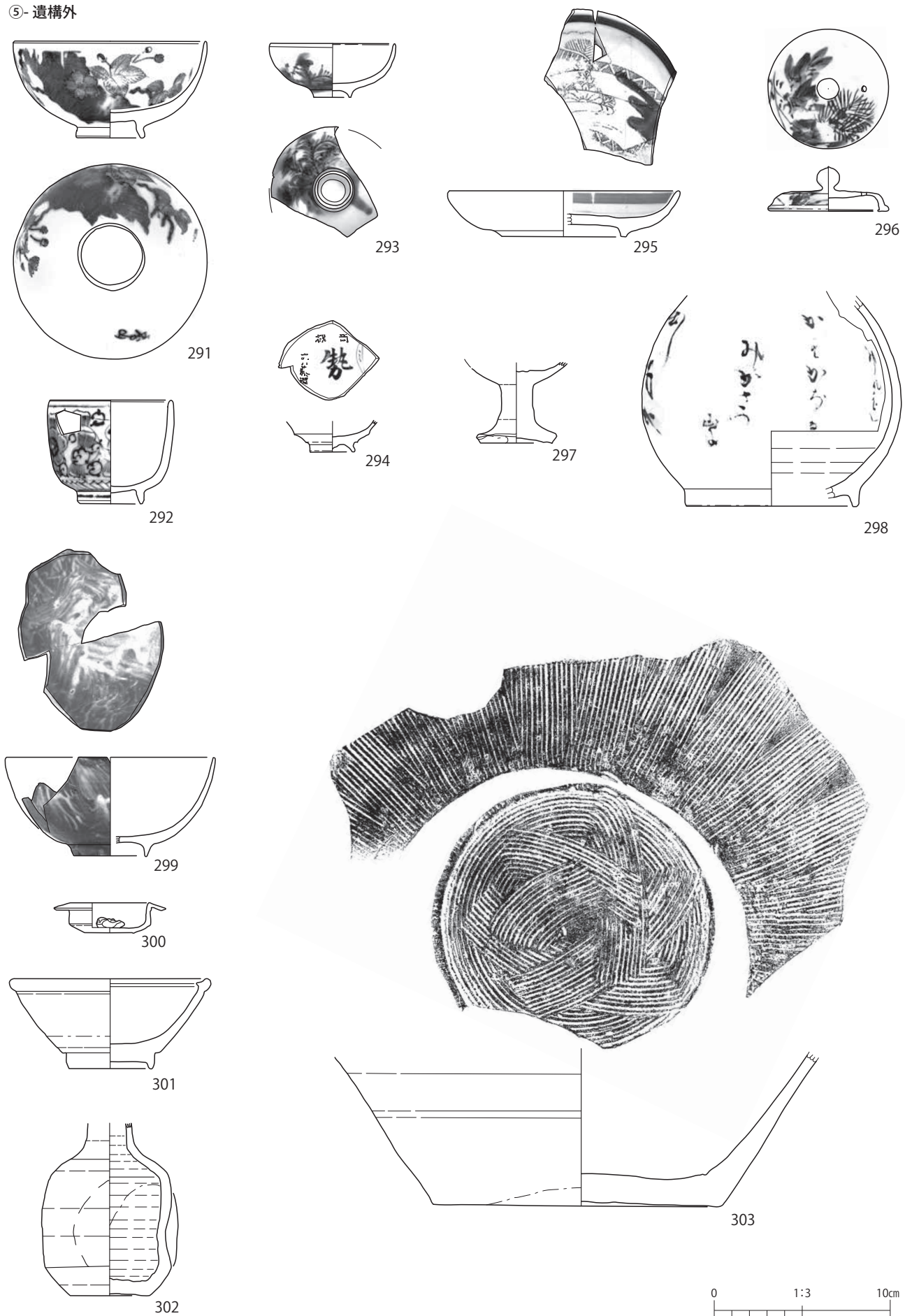


第 78 图 ⑤区出土遺物 (5)



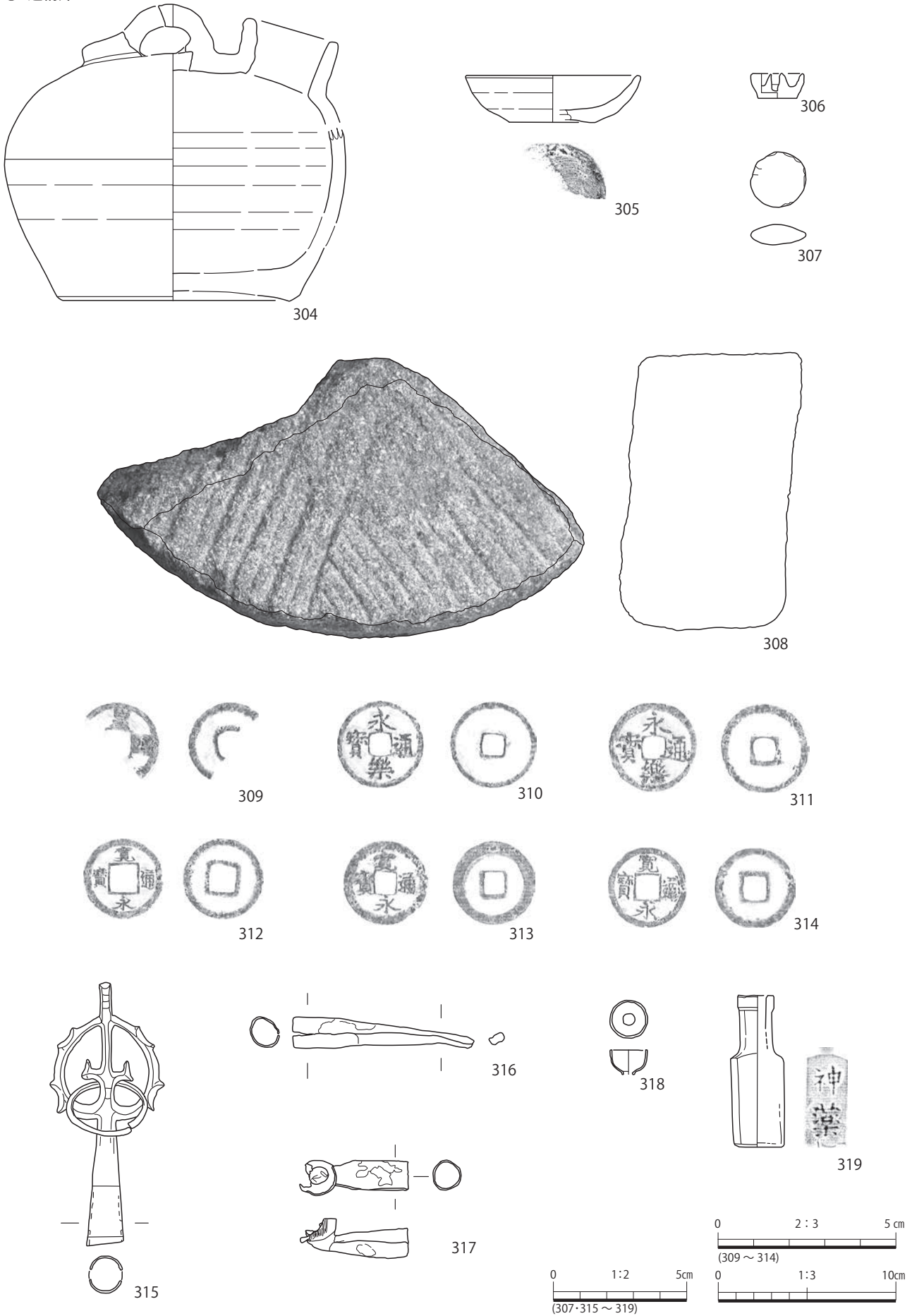
第79图 ⑤区出土遺物(6)

⑤- 遺構外



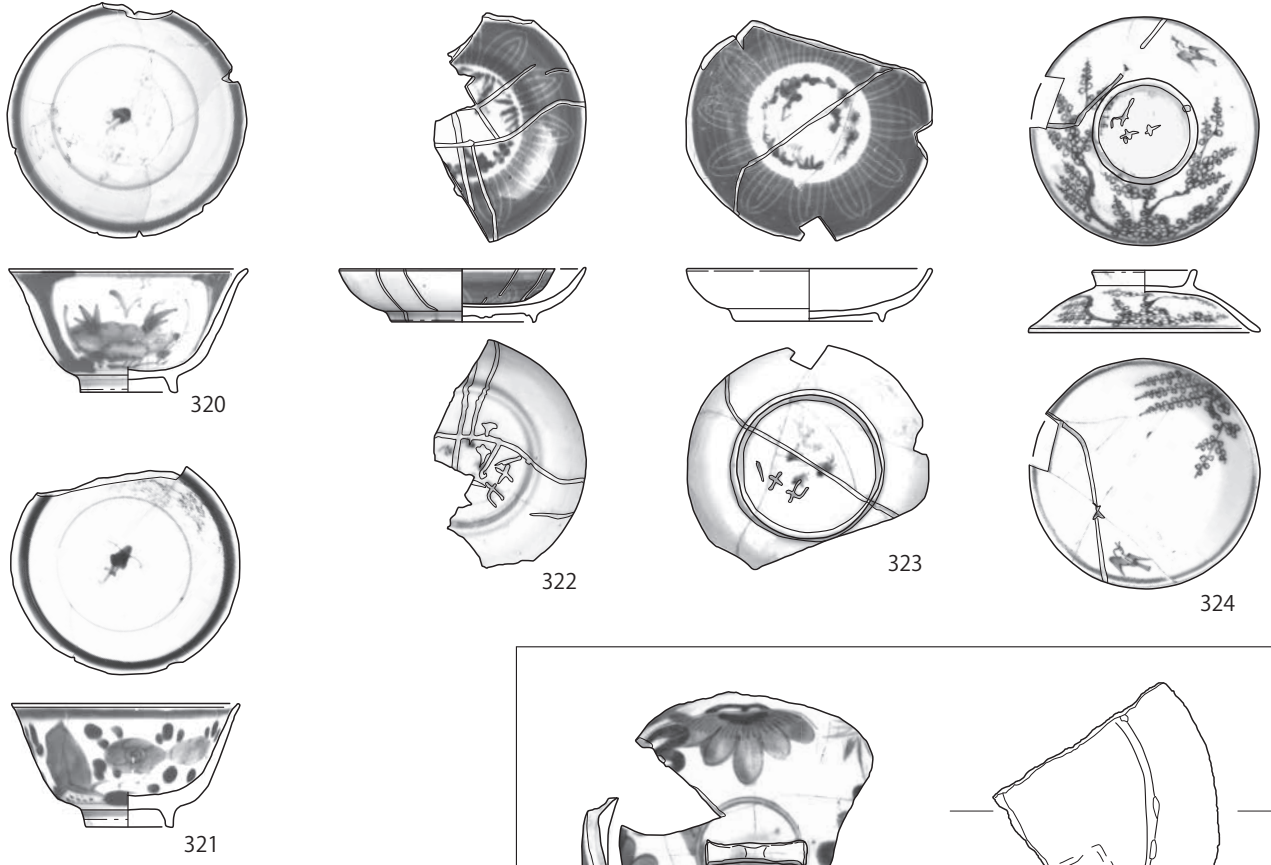
第 80 图 ⑤区出土遺物 (7)

⑤- 遺構外

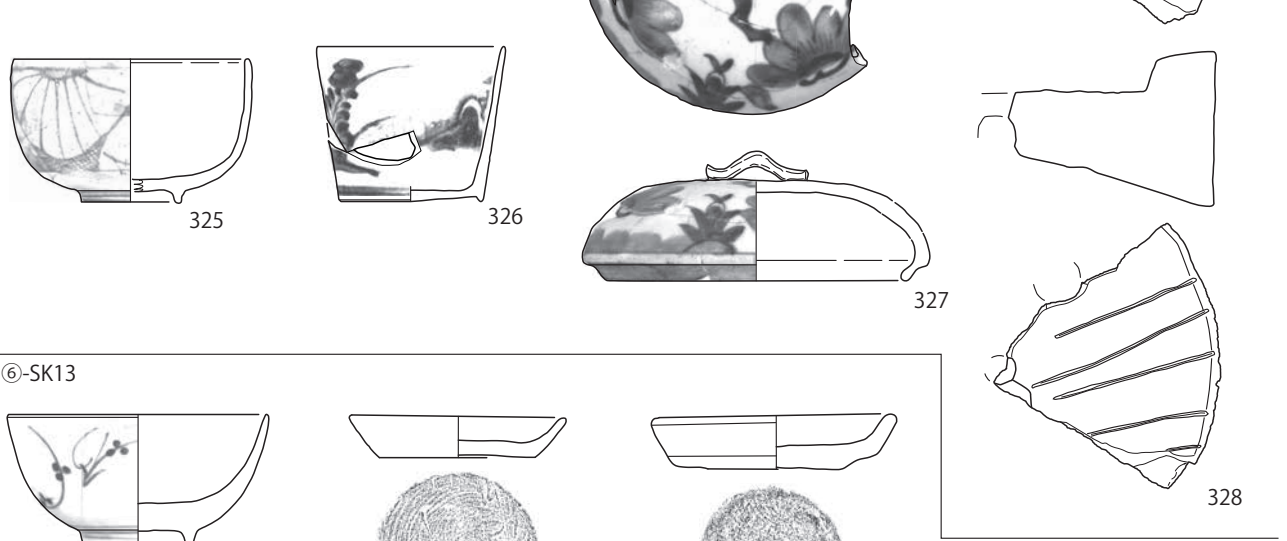


第 81 図 ⑤区出土遺物 (8)

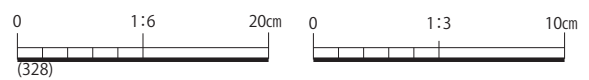
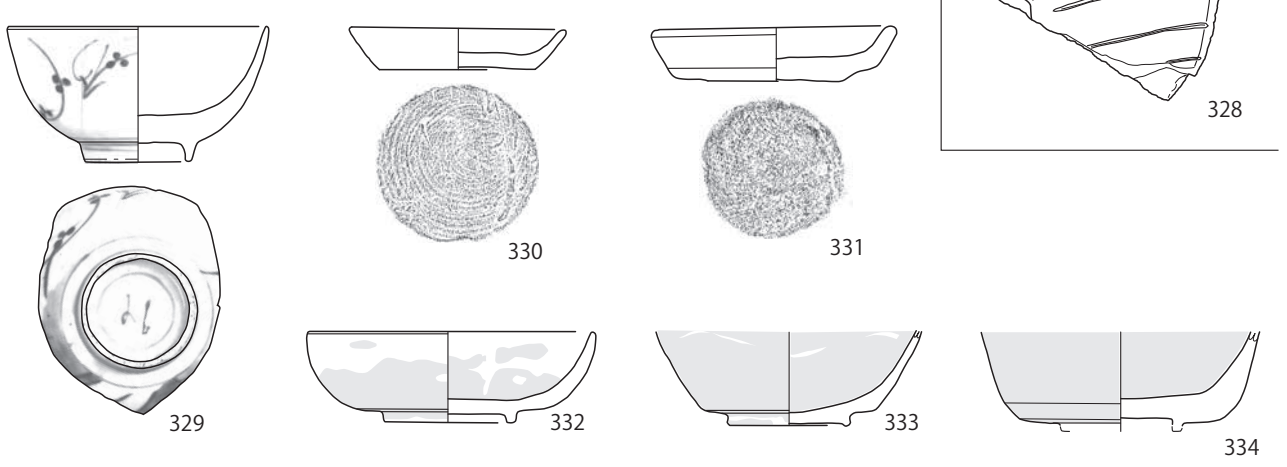
⑥-SK2



⑥-SK6

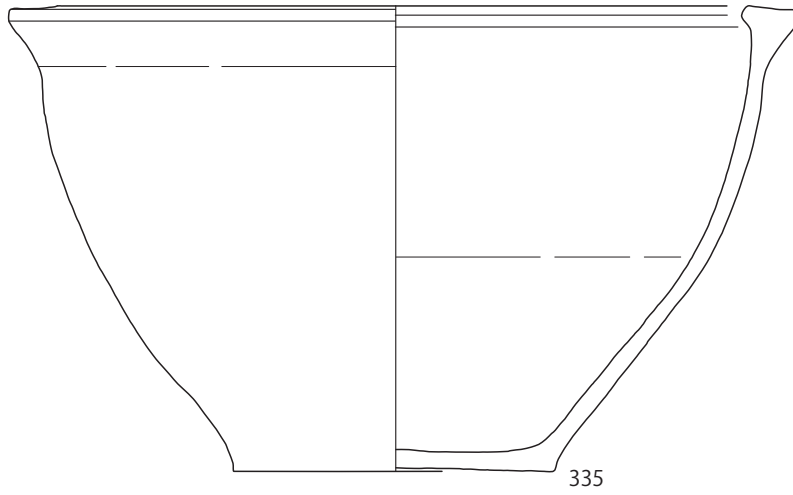


⑥-SK13

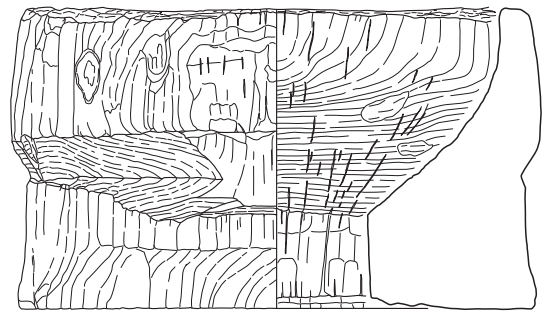
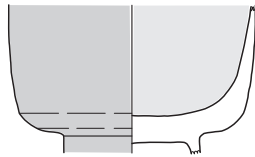
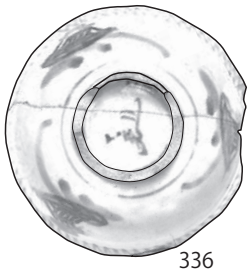
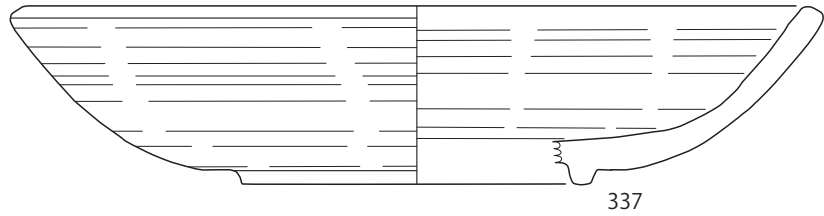
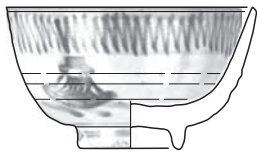


第 82 图 ⑥区出土遺物 (1)

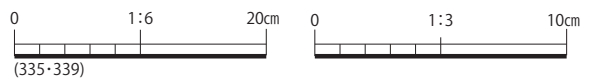
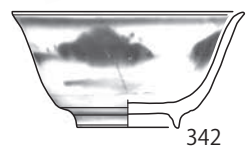
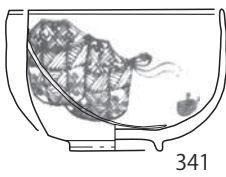
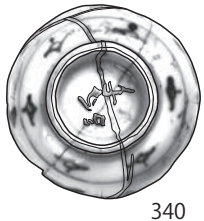
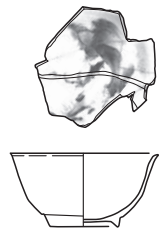
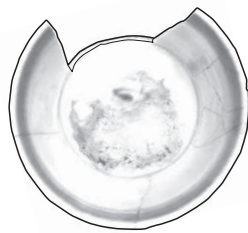
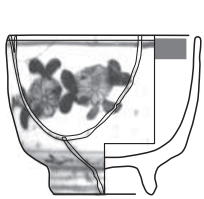
⑥-SK14



⑥-SK17

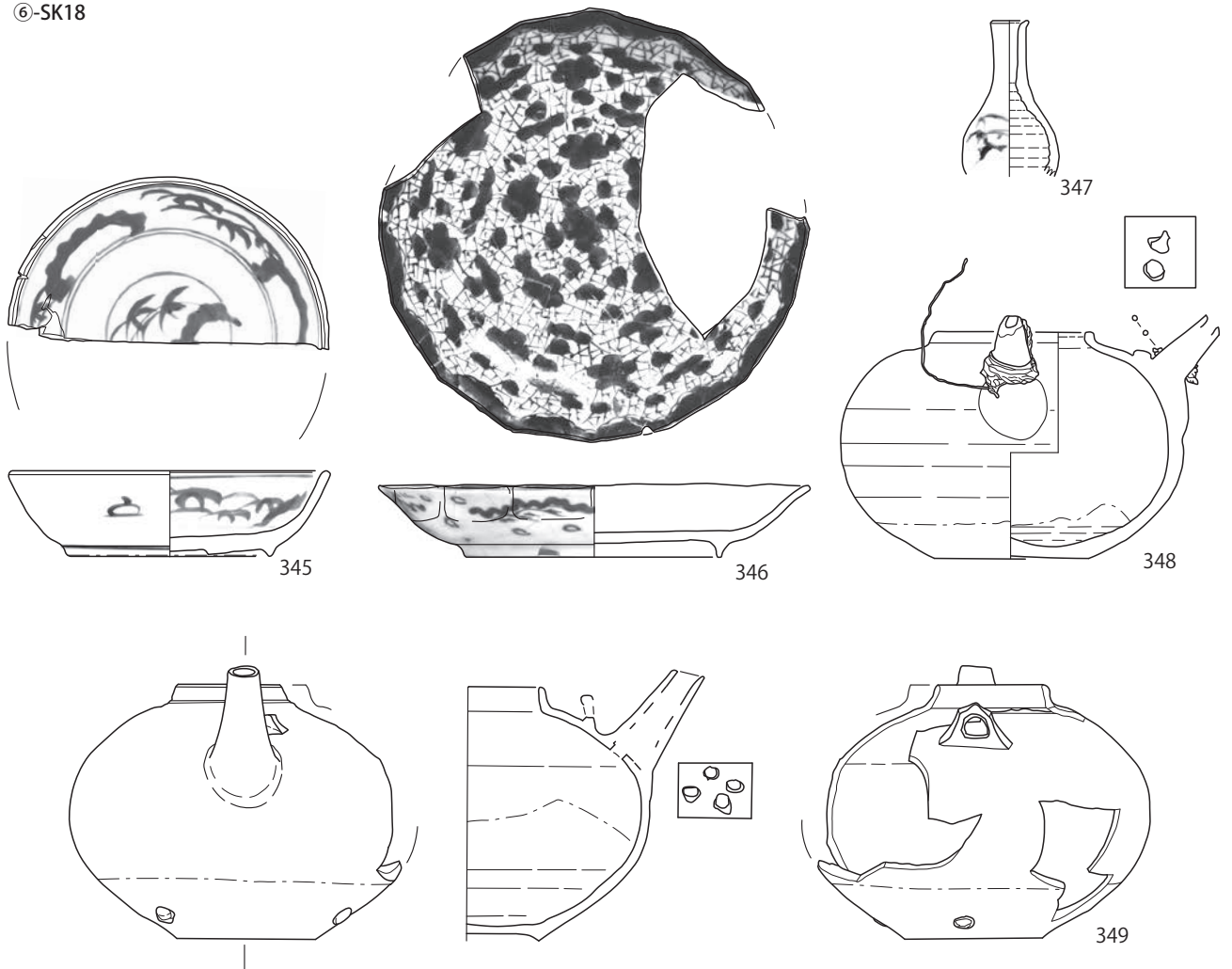


⑥-SK18

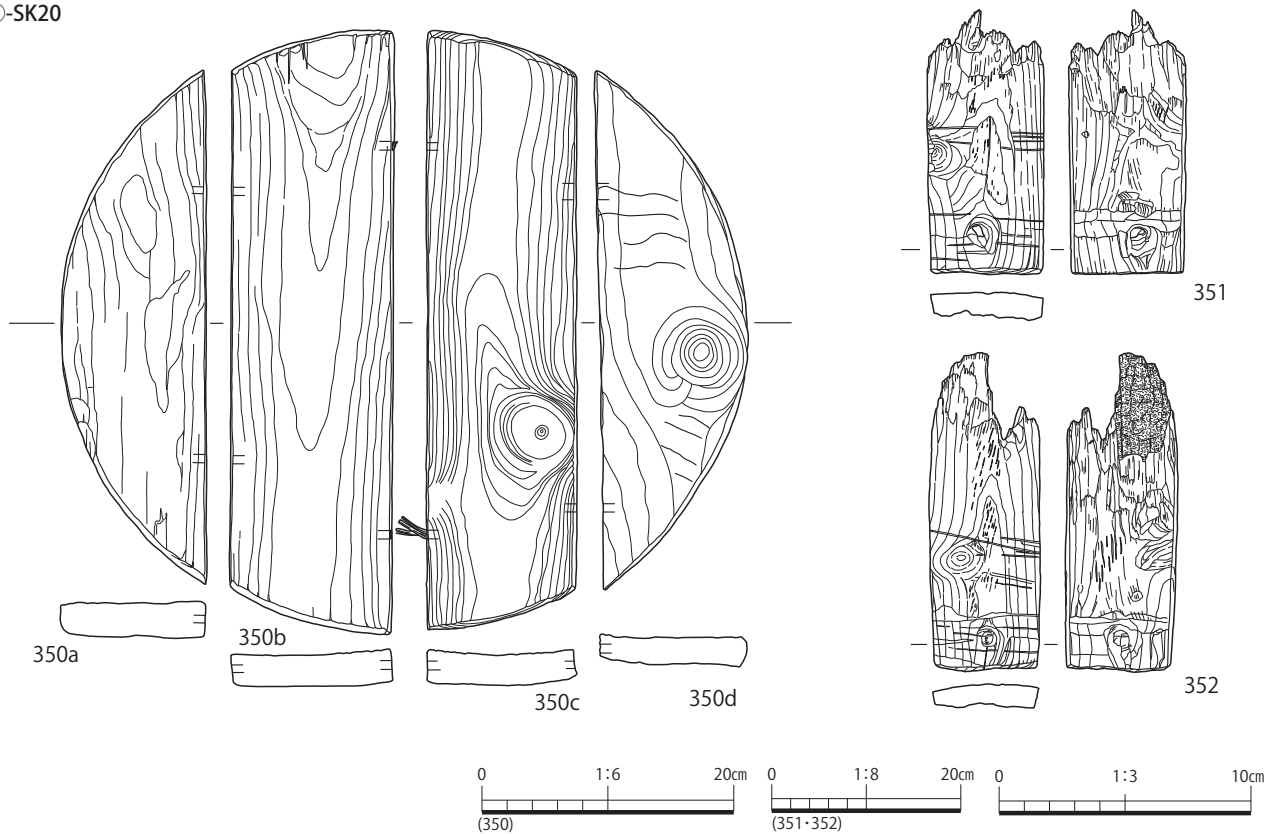


第 83 图 ⑥区出土遺物 (2)

⑥-SK18

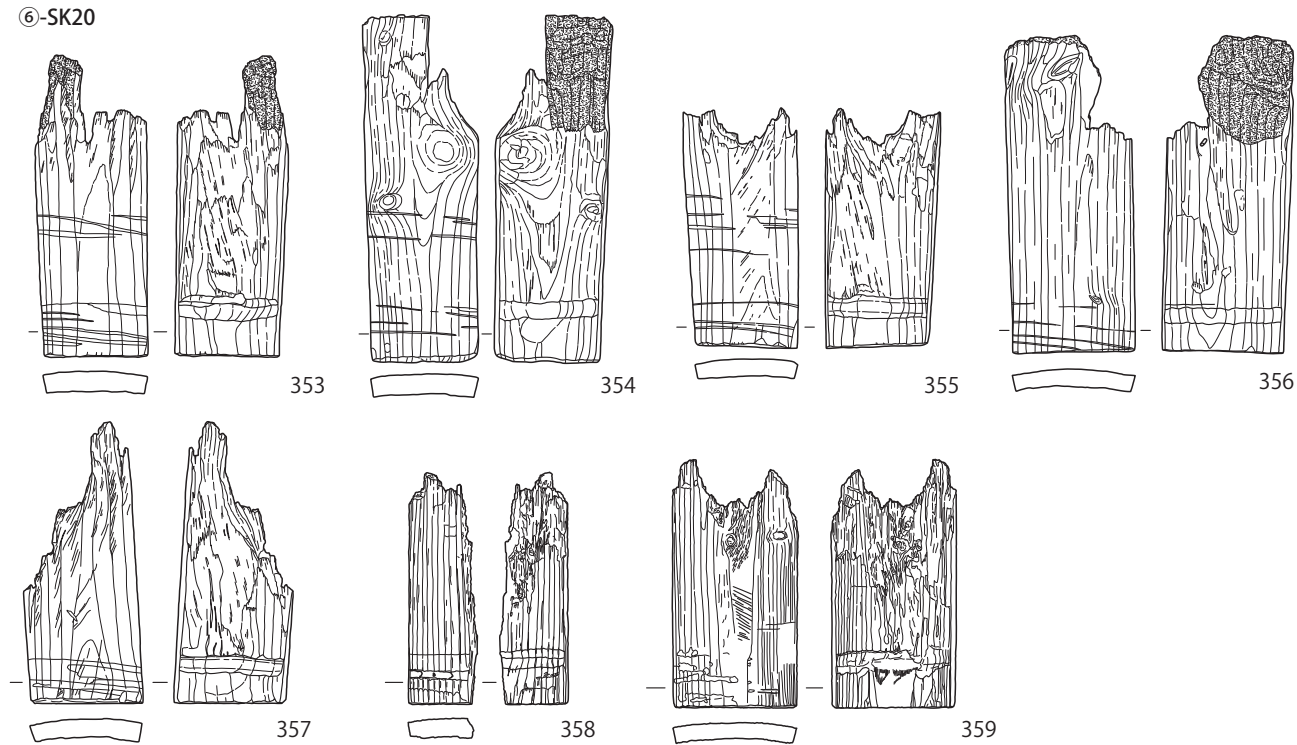


⑥-SK20

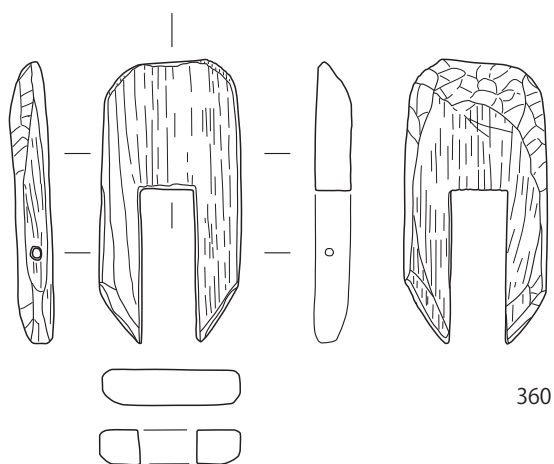


第84图 ⑥区出土遺物(3)

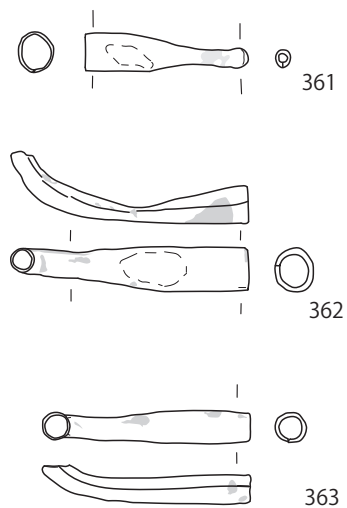
⑥-SK20



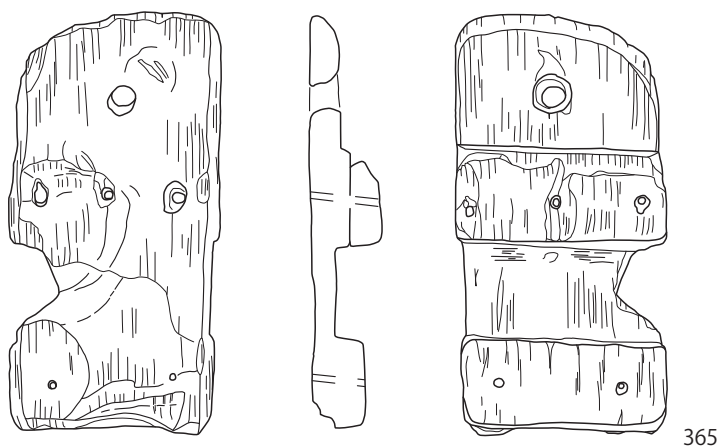
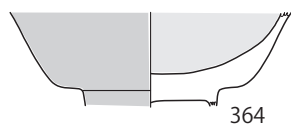
⑥-SK22



⑥-SK34

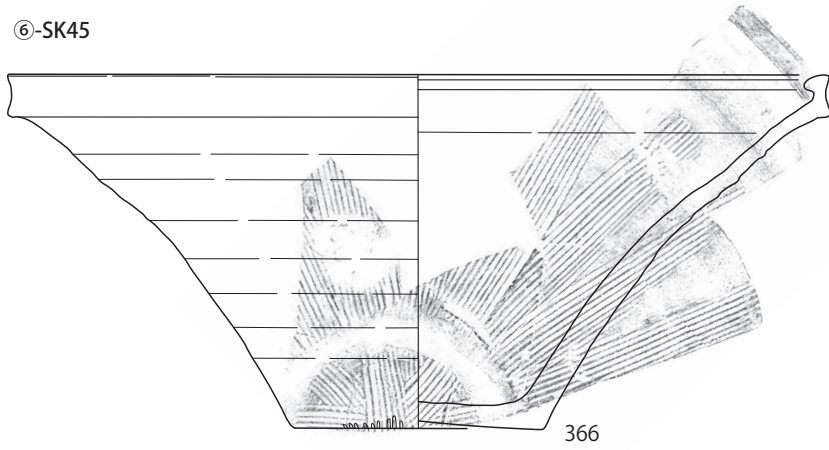


⑥-SK37



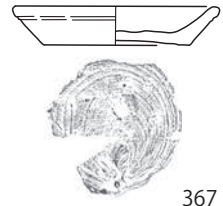
第 85 图 ⑥区出土遗物 (4)

⑥-SK45



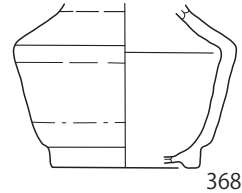
366

⑥-SK53



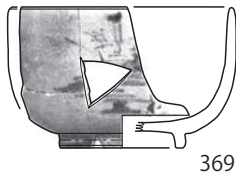
367

⑥-SK54

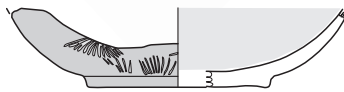


368

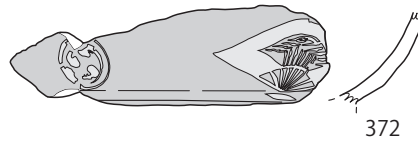
⑥-SK56



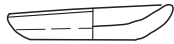
369



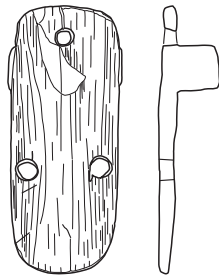
371



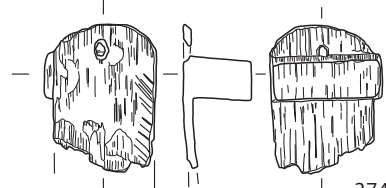
372



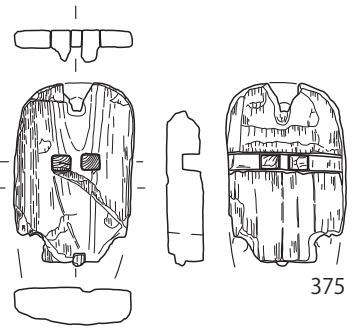
370



373



374



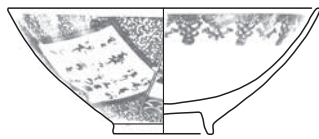
375

⑥-SS1

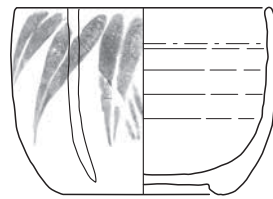
⑥-SK57



376



377



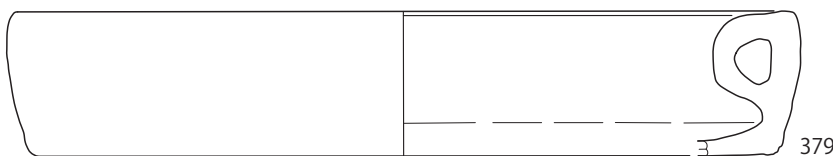
378



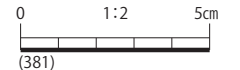
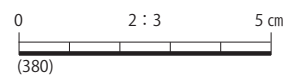
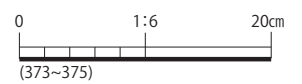
380



381

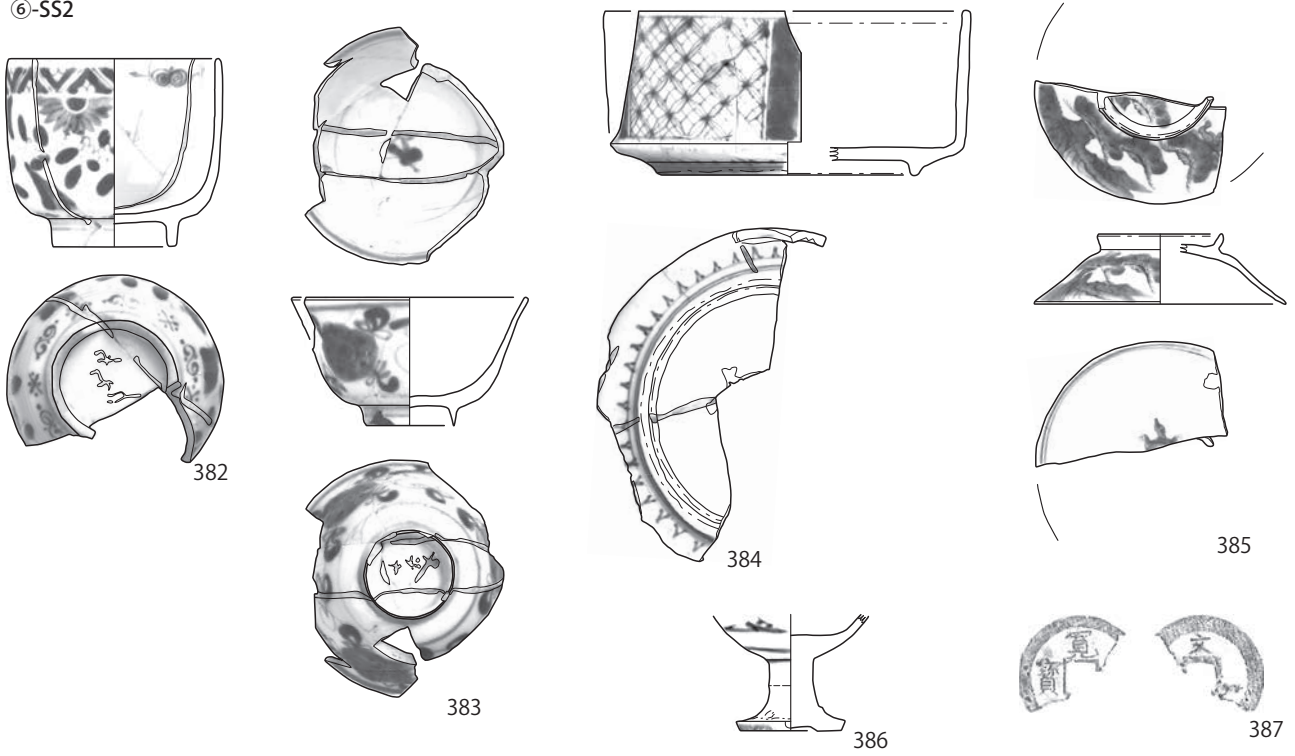


379

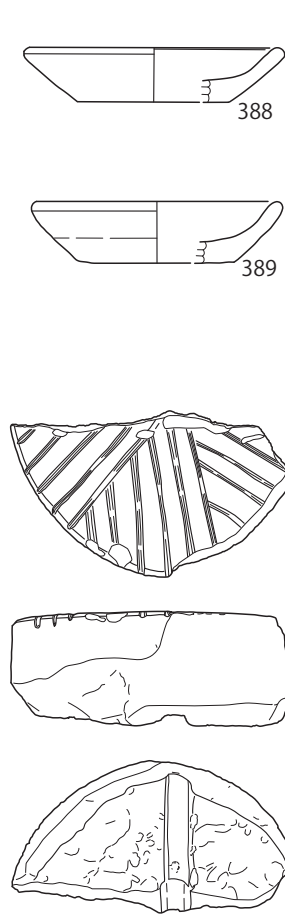


第 86 图 ⑥区出土遺物 (5)

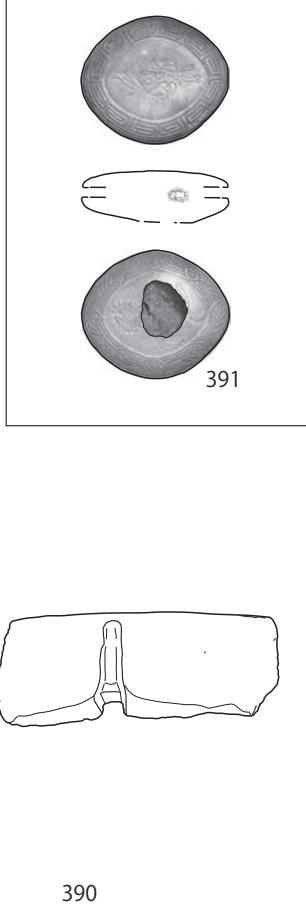
⑥-SS2



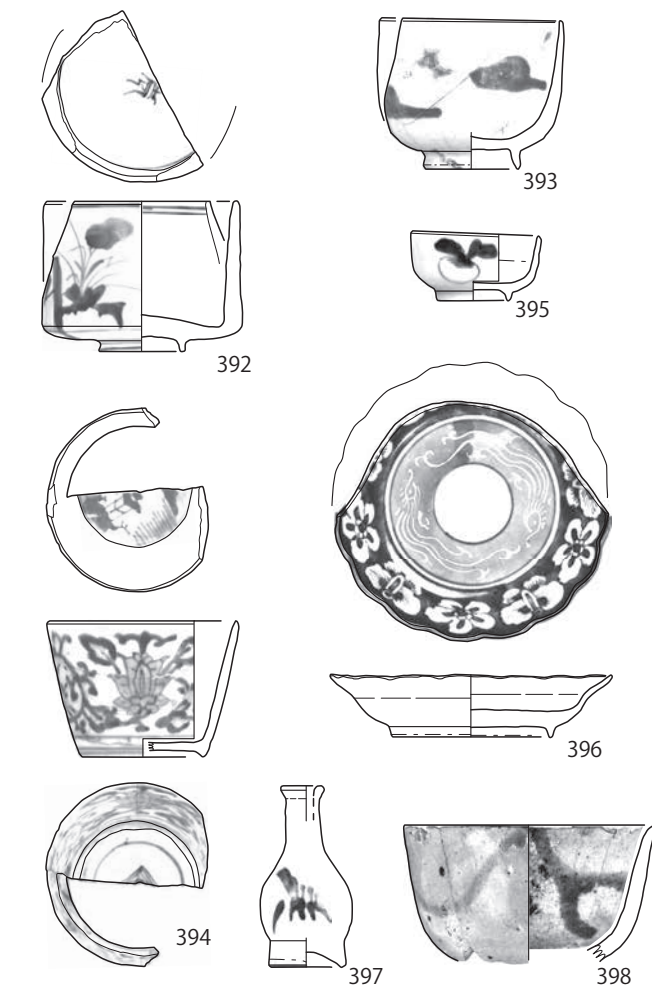
⑥-SS10



⑥-SX4

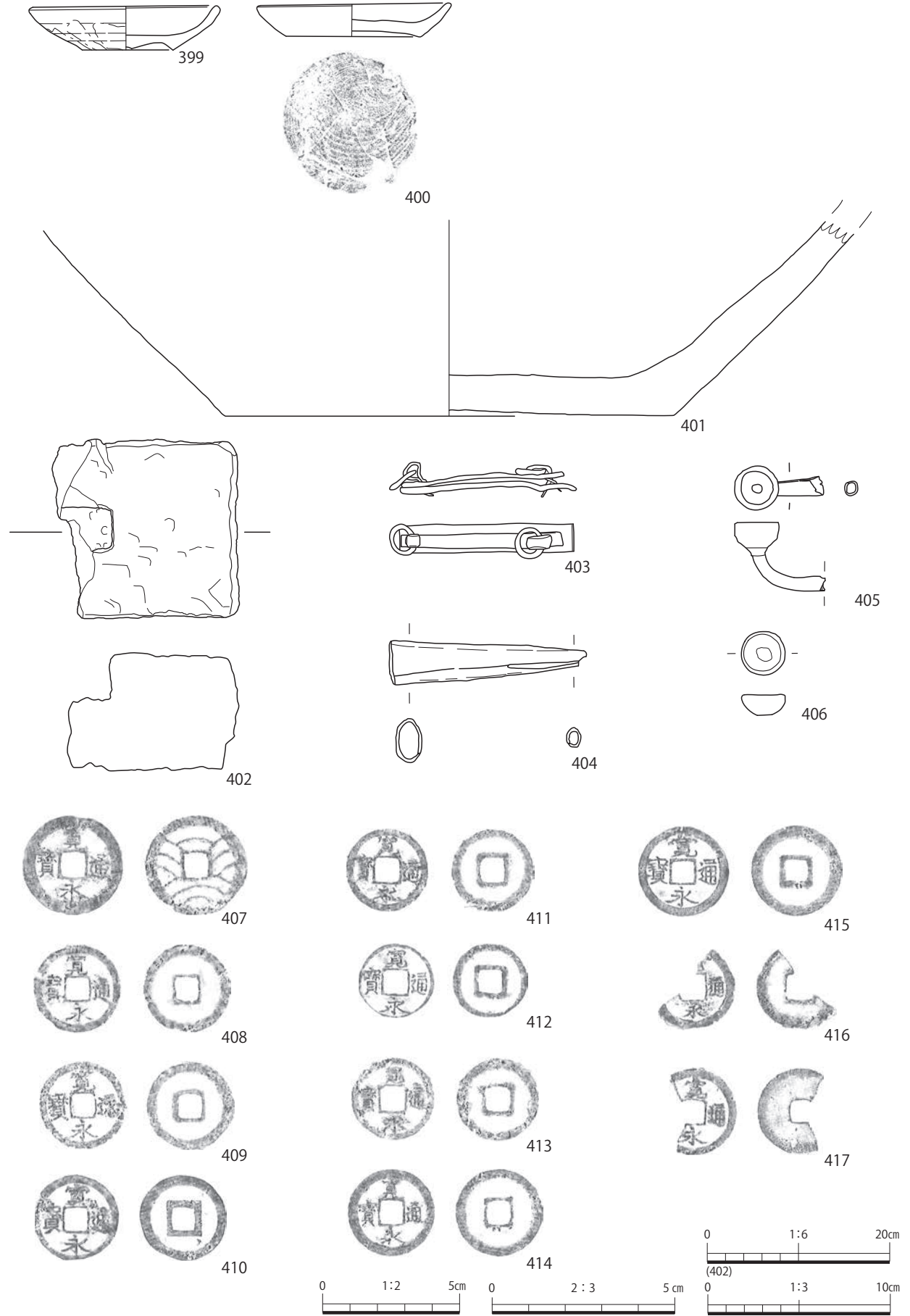


⑥-遺構外

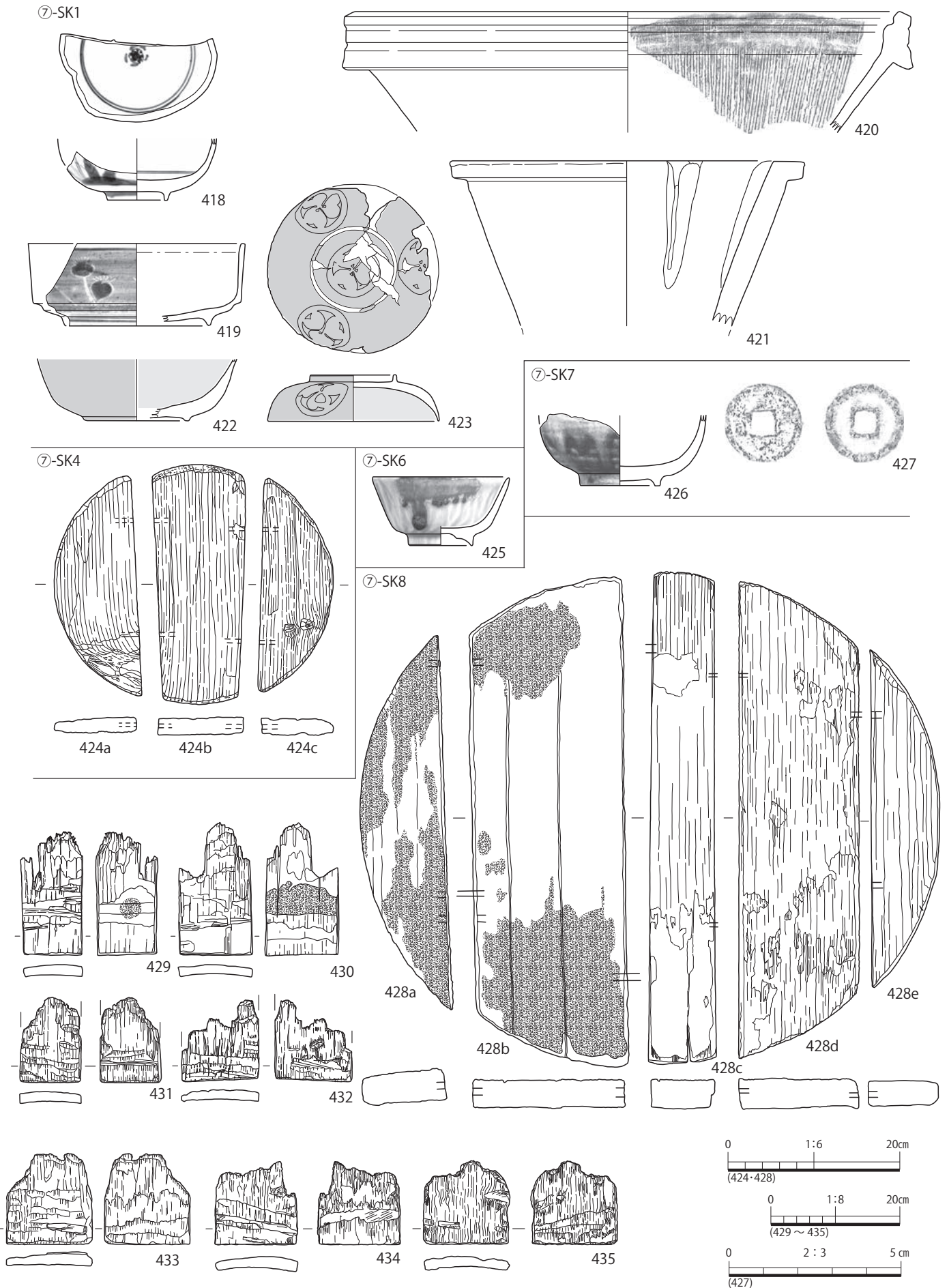


第 87 图 ⑥区出土遺物 (6)

⑥- 遺構外

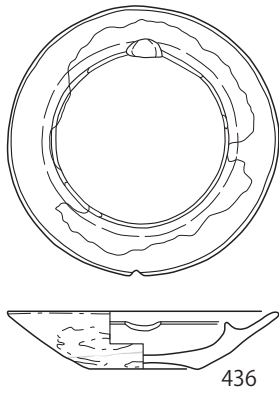


第 88 图 ⑥区出土遺物 (7)

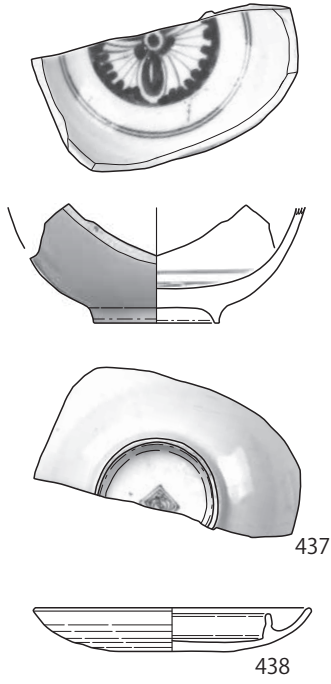


第 89 图 ⑦区出土遺物 (1)

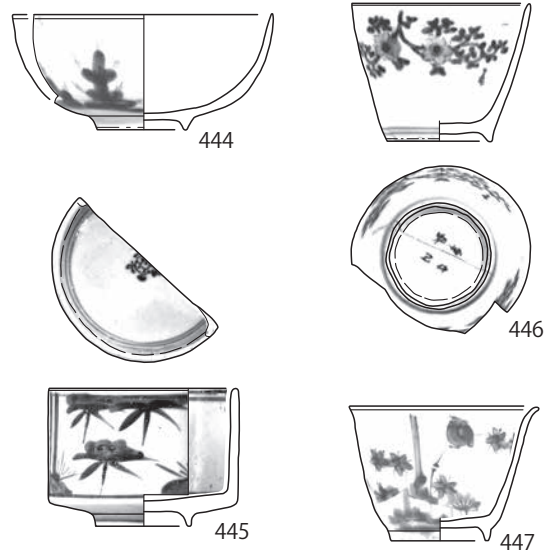
⑦-SK10



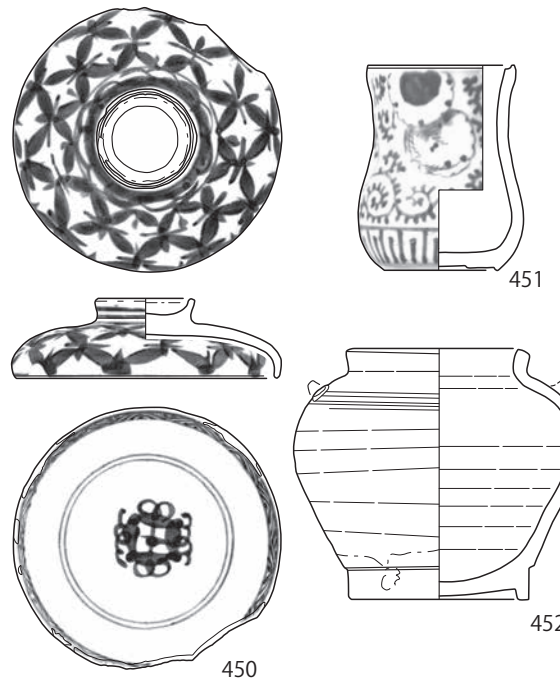
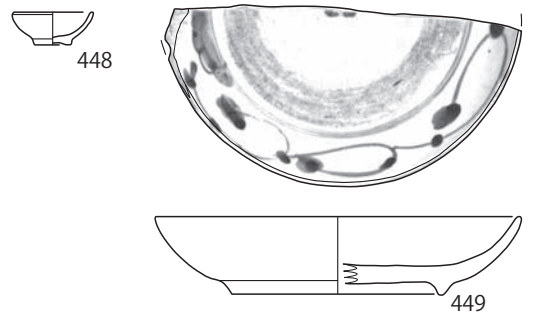
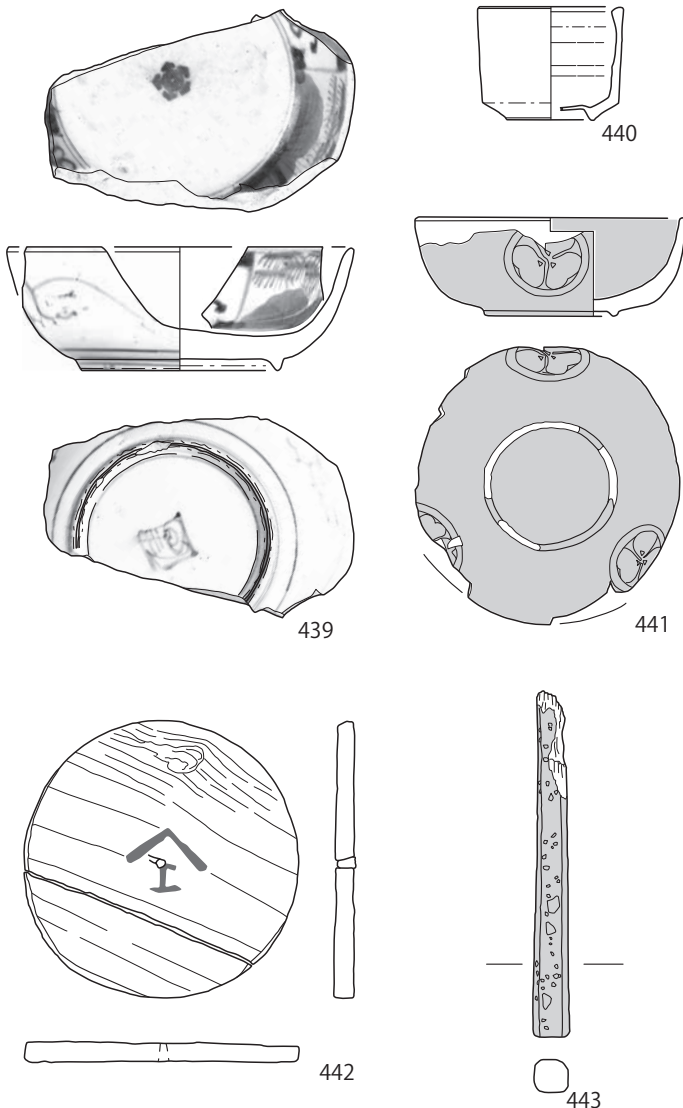
⑦-SK11



⑦-SK15

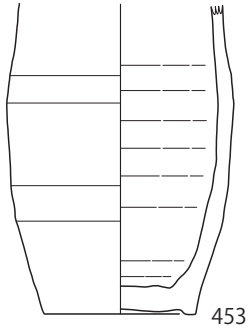


⑦-SK12

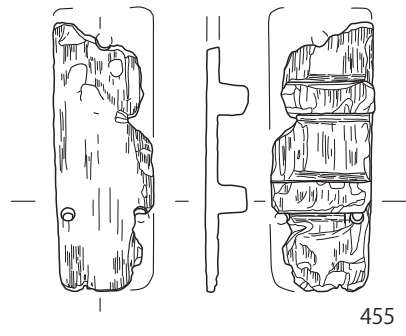


第90图 ⑦区出土遺物(2)

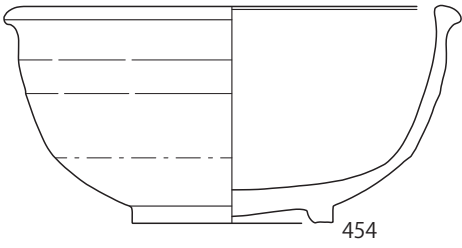
⑦-SK15



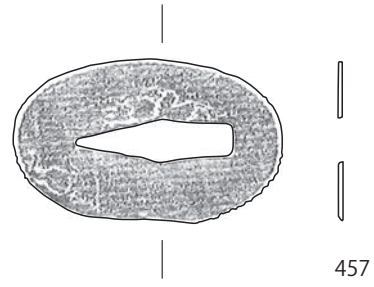
453



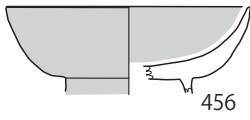
455



454

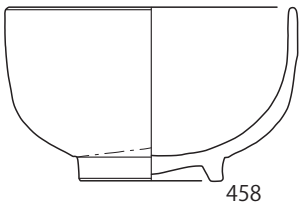


457

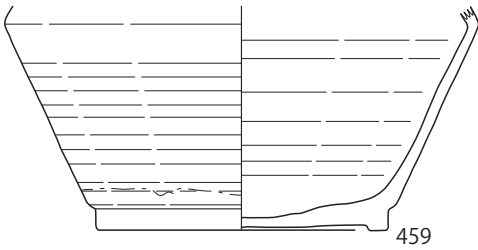


456

⑦-SK16

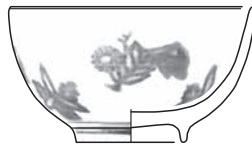


458

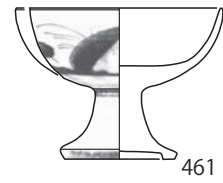


459

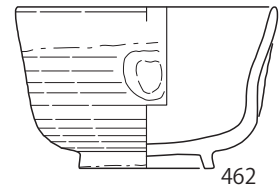
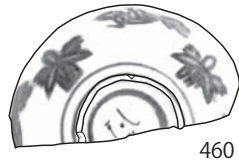
⑦-SK17



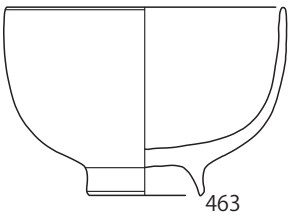
460



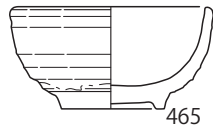
461



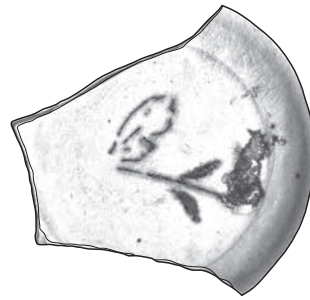
462



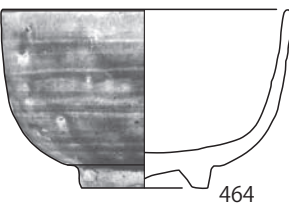
463



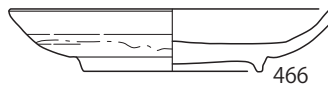
465



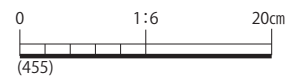
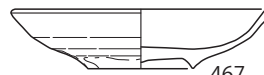
466



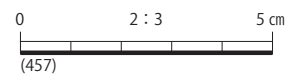
464



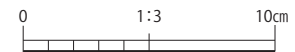
467



(455)

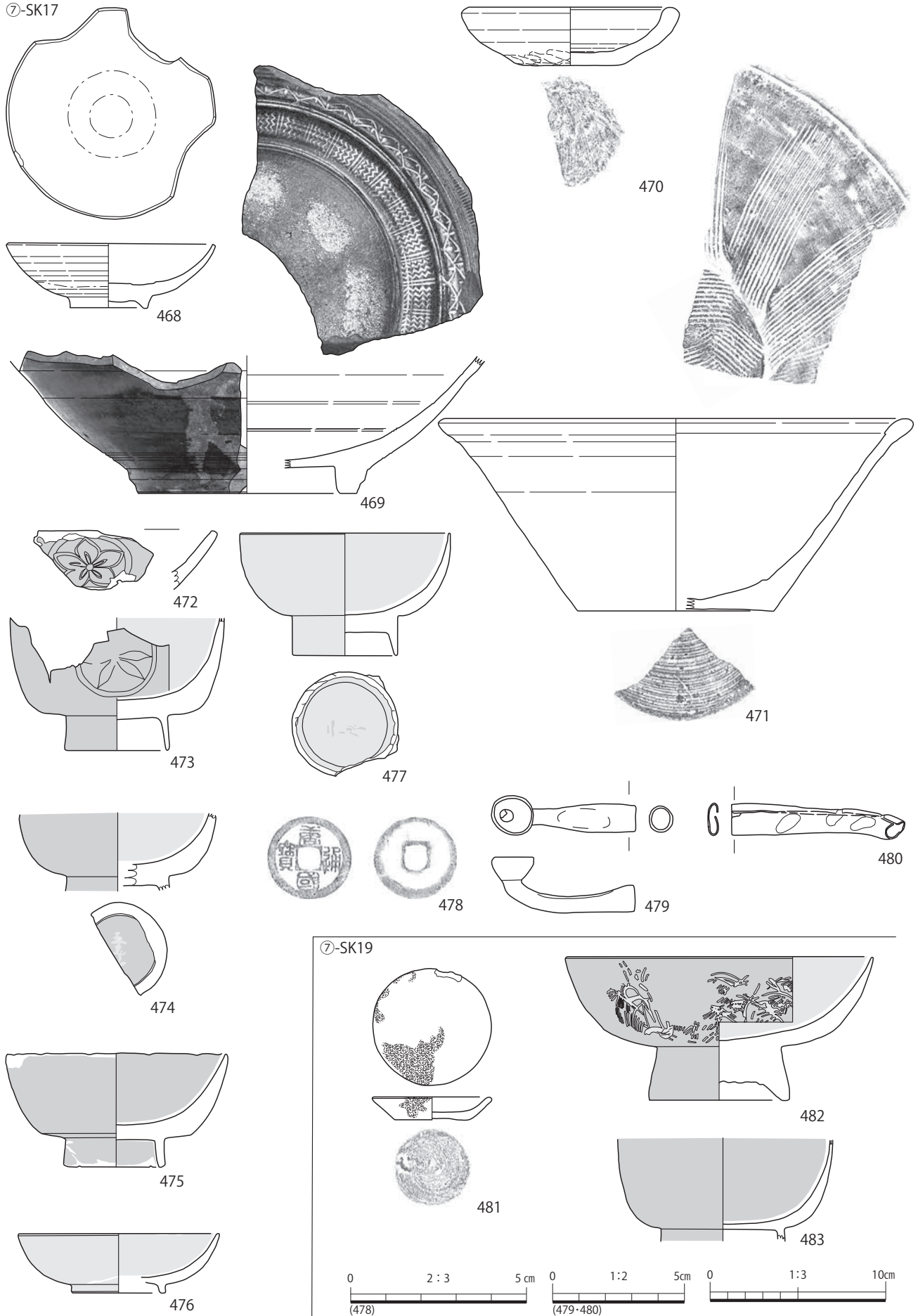


(457)



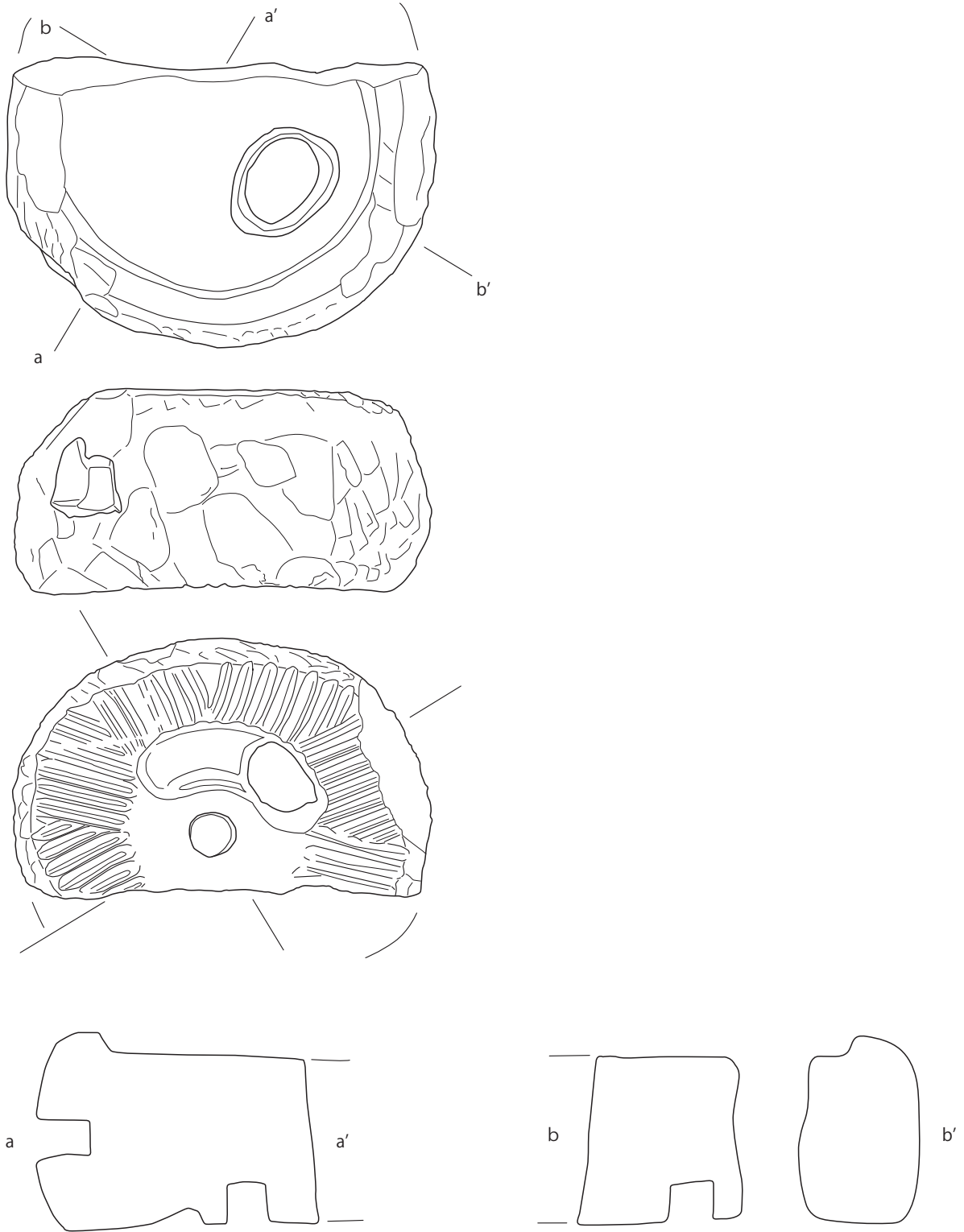
第 91 图 ⑦区出土遺物 (3)

⑦-SK17

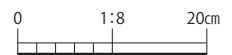


第 92 图 ⑦区出土遗物 (4)

⑦-SK21

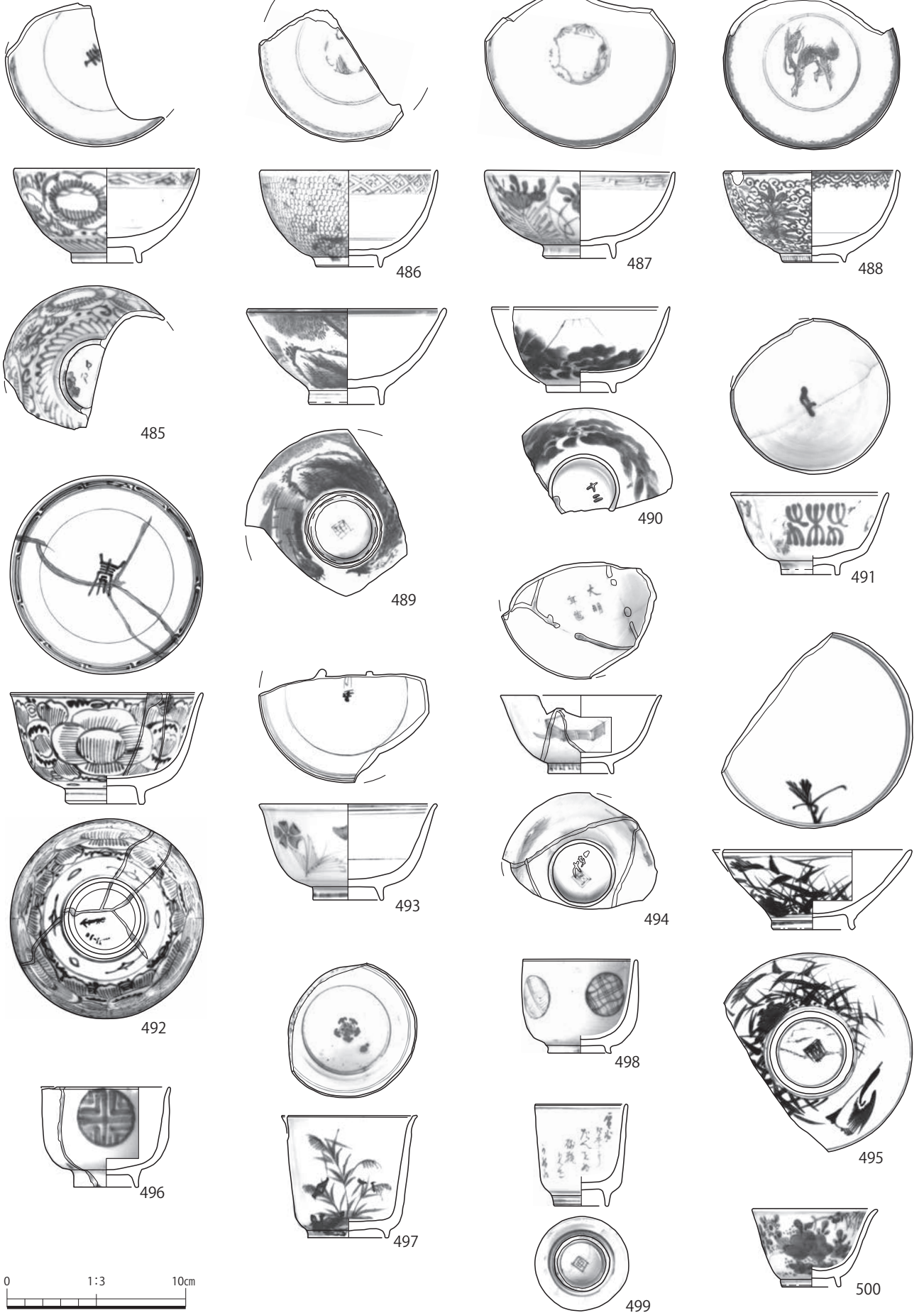


484

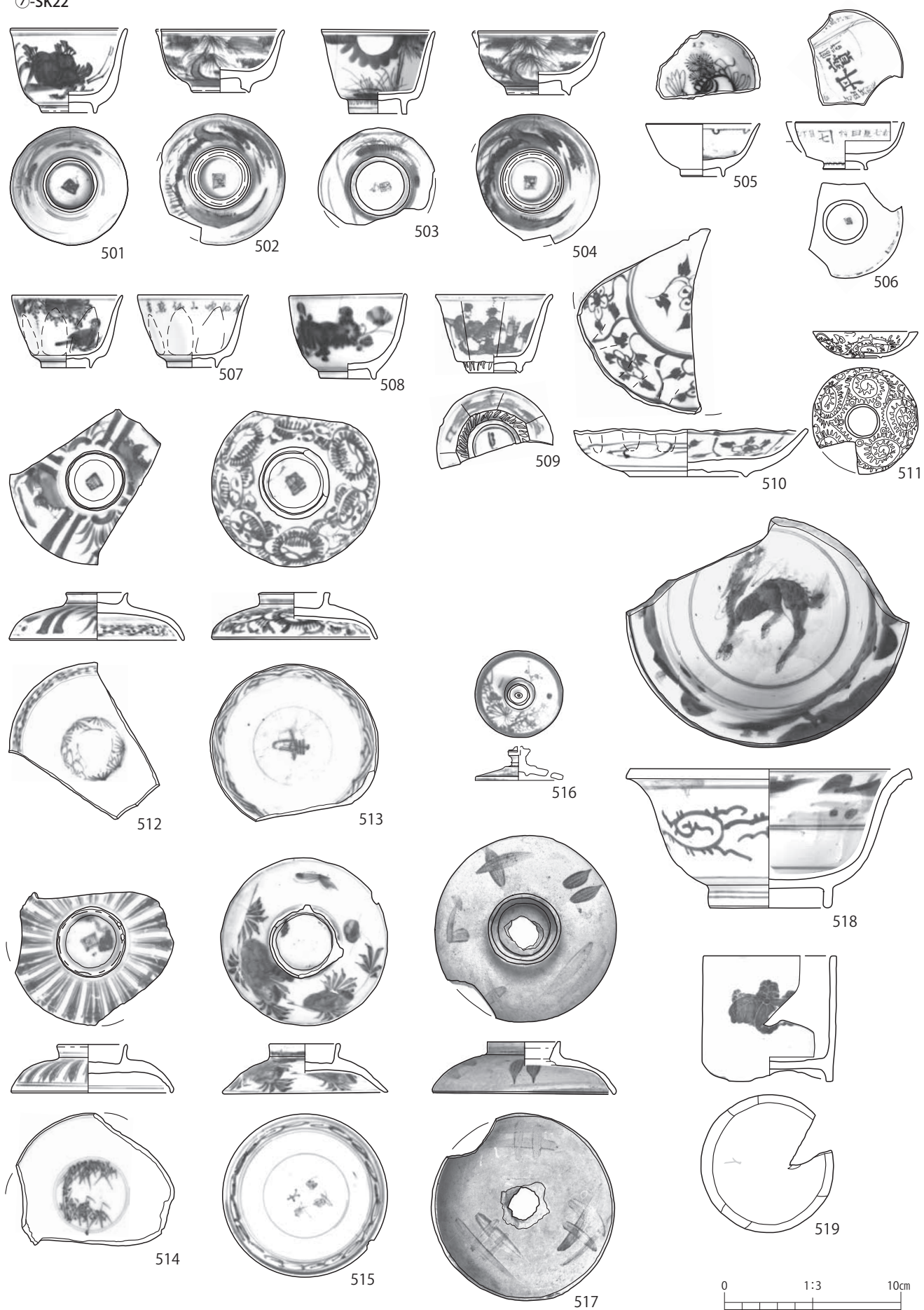


第93图 ⑦区出土遺物(5)

⑦-SK22

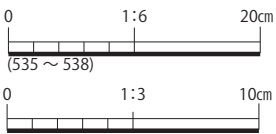
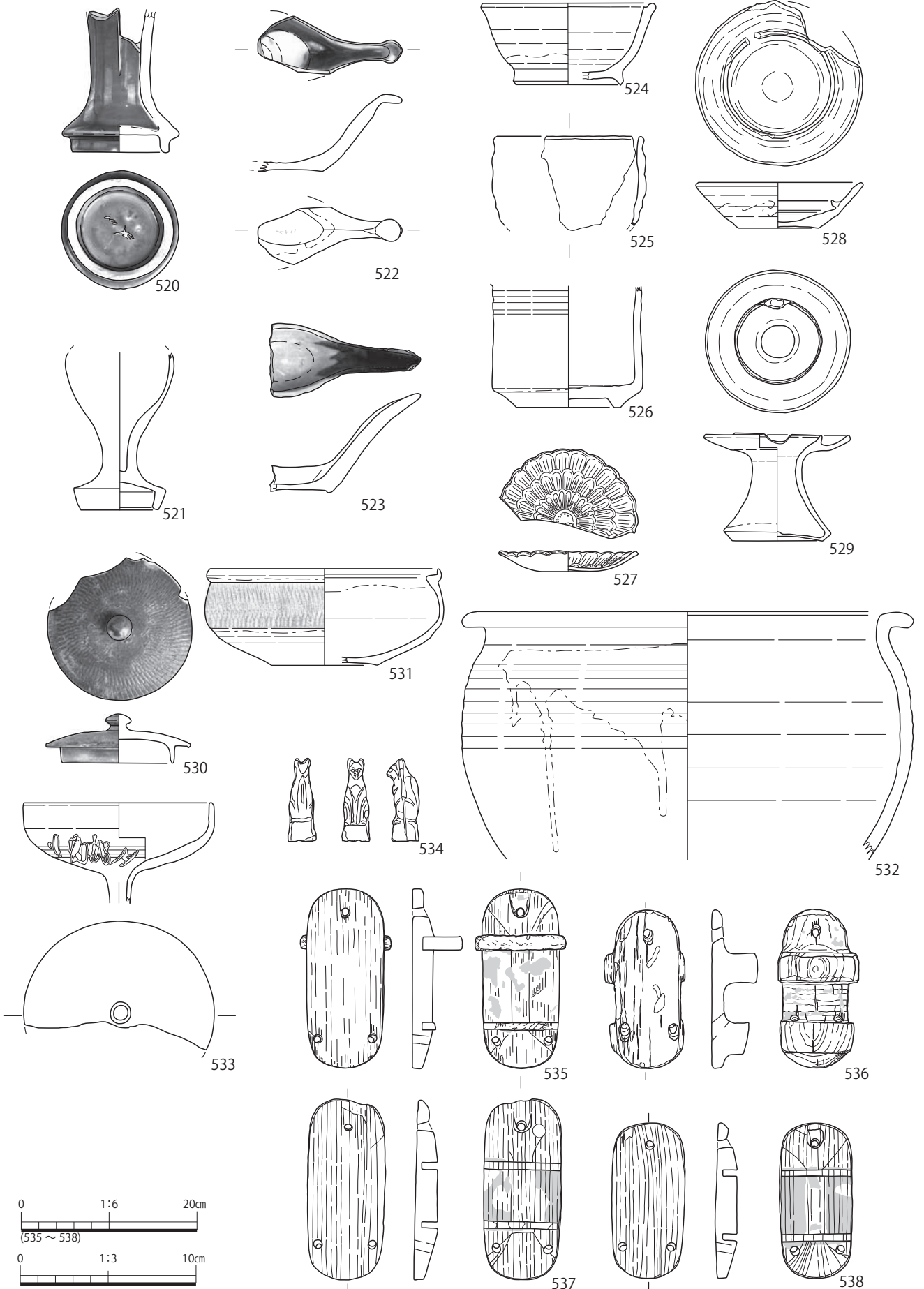


第94图 ⑦区出土遺物(6)



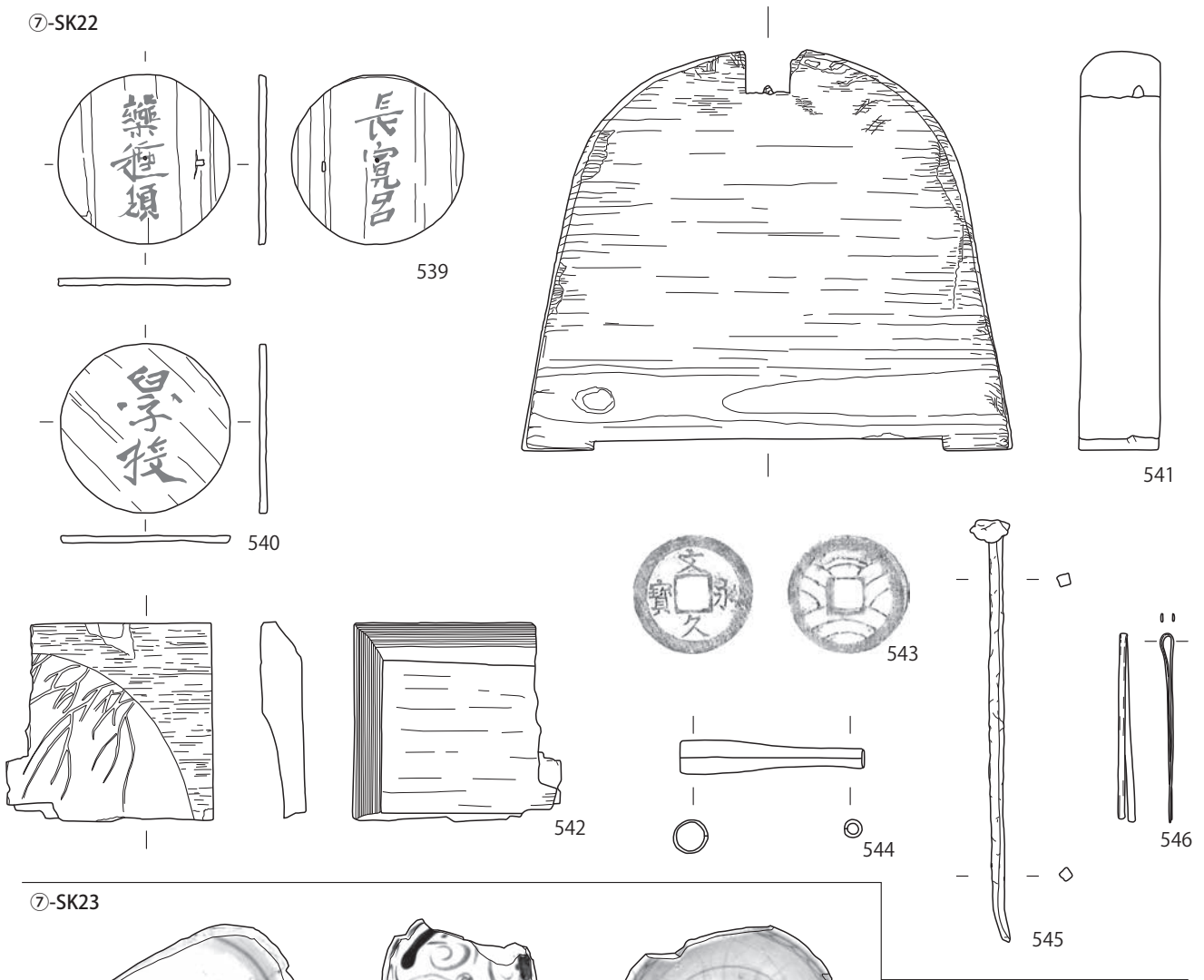
第 95 图 ⑦区出土遗物 (7)

⑦-SK22

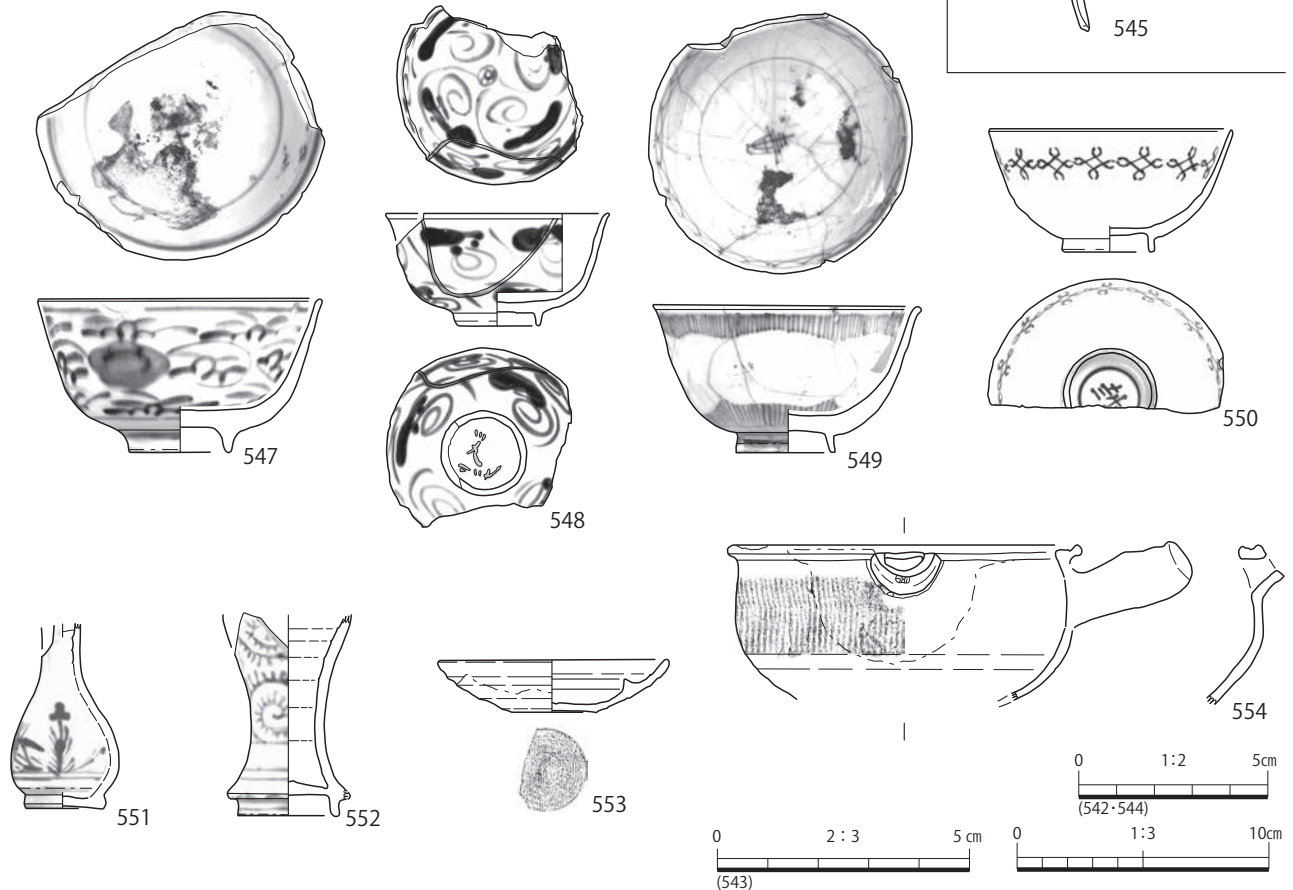


第 96 图 ⑦区出土遺物 (8)

⑦-SK22

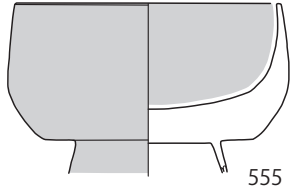


⑦-SK23

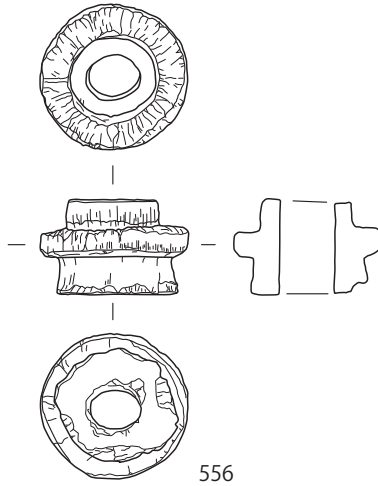


第97图 ⑦区出土遺物(9)

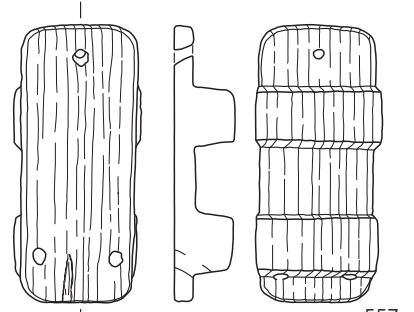
⑦-SK23



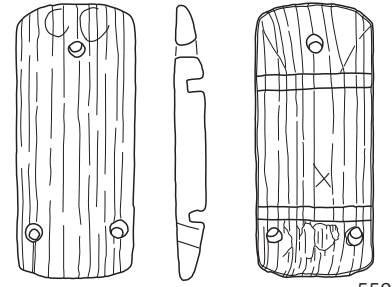
555



556

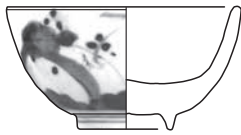


557

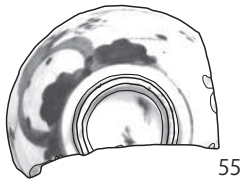
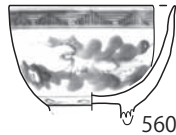


558

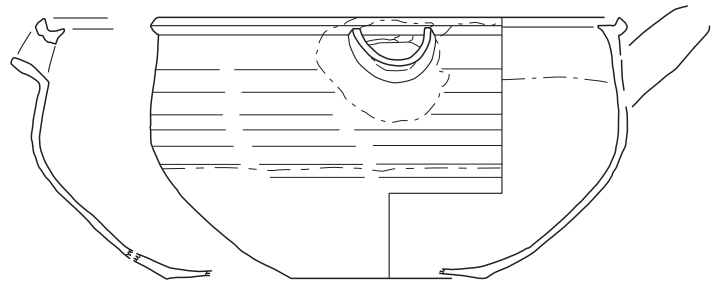
⑦-SK24



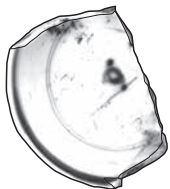
560



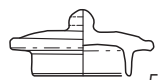
559



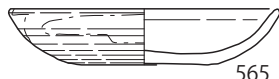
563



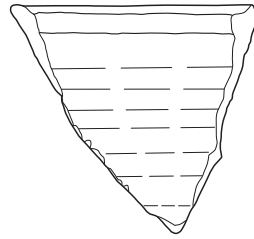
561



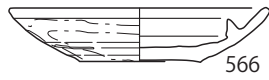
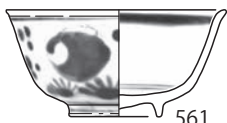
564



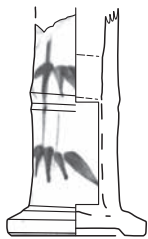
565



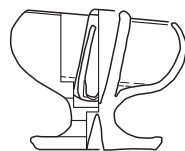
568



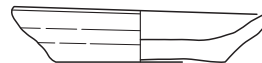
566



562



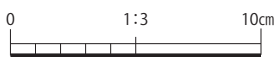
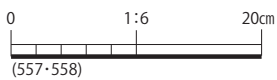
567



569

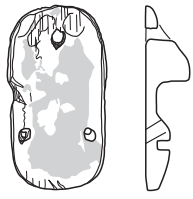


570



第 98 图 ⑦区出土遺物 (10)

⑦-SK24



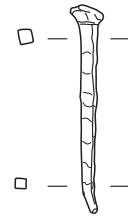
571



572

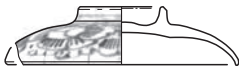
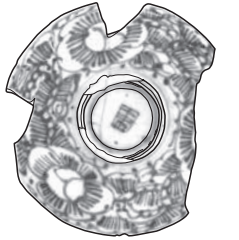


573



574

⑦-SK29

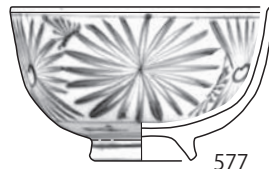
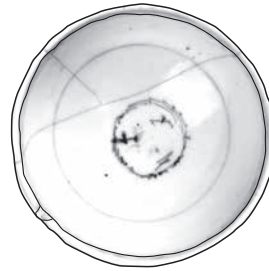


575

⑦-SK32



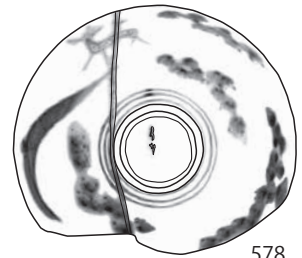
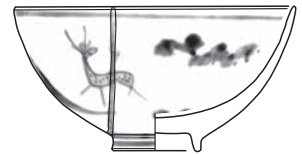
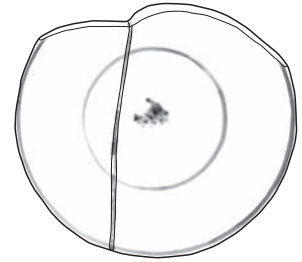
576



577



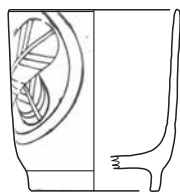
579



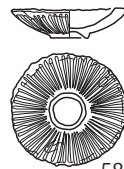
578



580



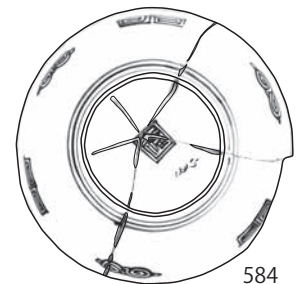
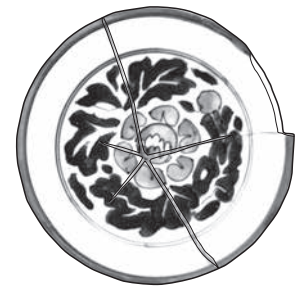
581



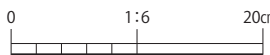
582



583



584



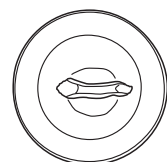
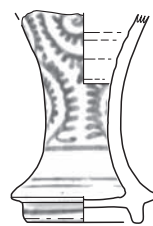
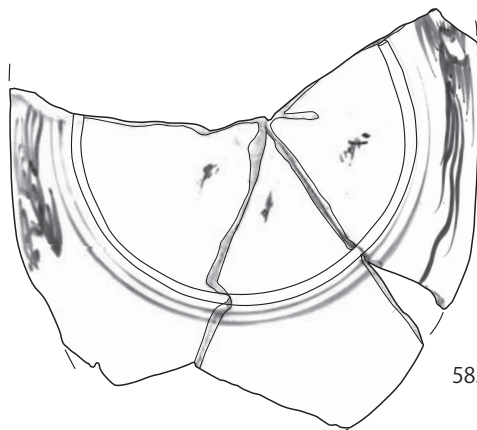
(571)
(574)



(572-573)

第 99 图 ⑦区出土遗物 (11)

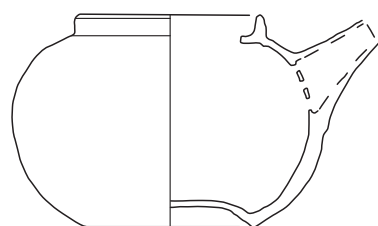
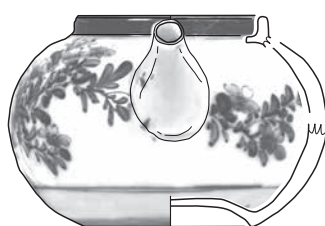
⑦-SK32



587

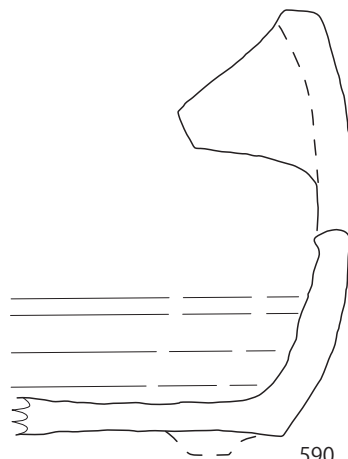
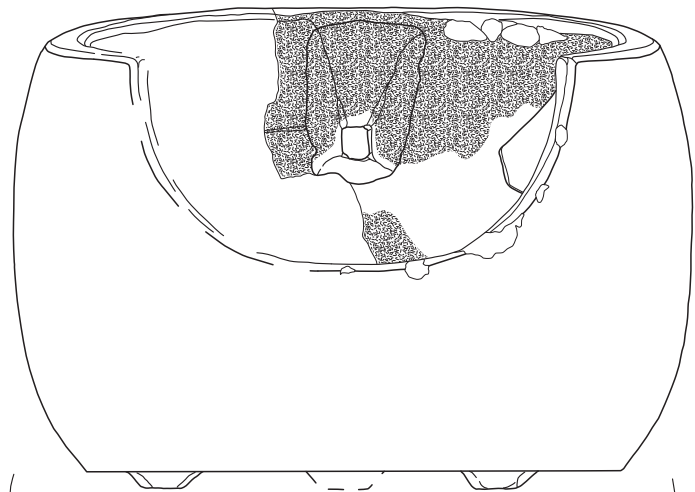
589

586

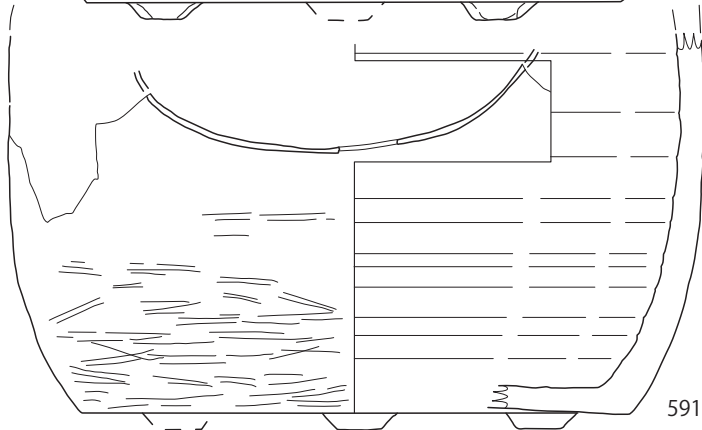


588

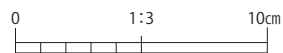
585



590

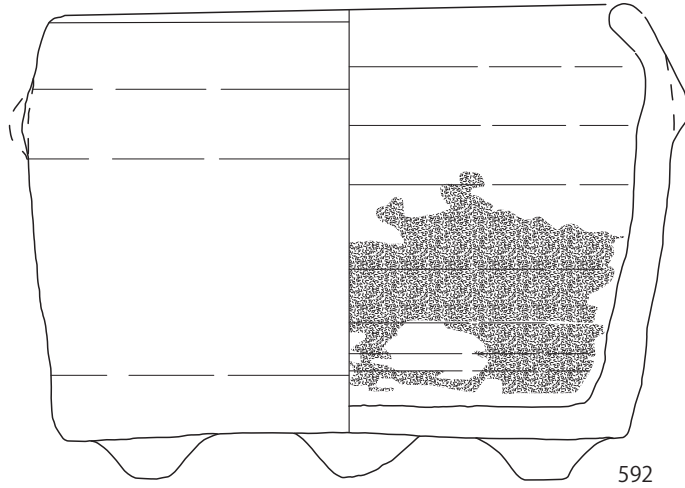


591

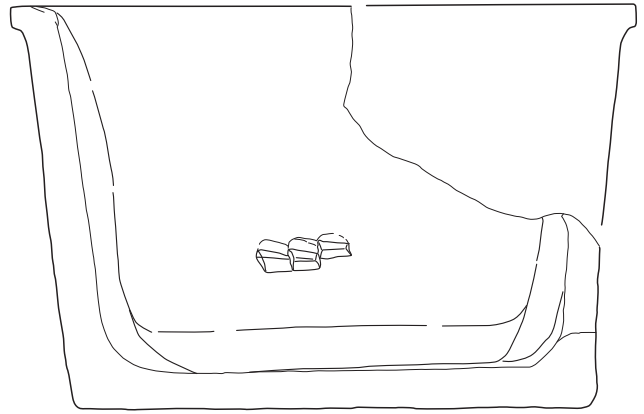
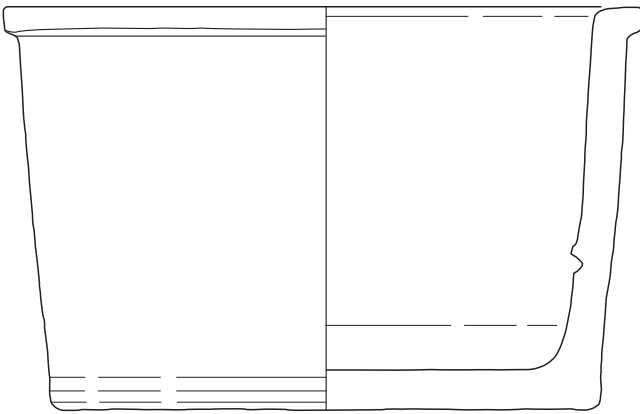


第 100 图 ⑦区出土遺物 (12)

⑦-SK32



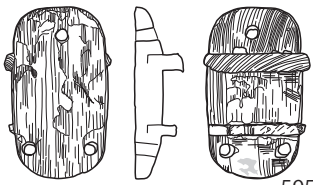
592



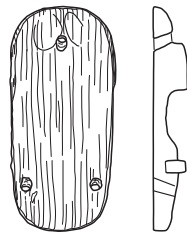
593



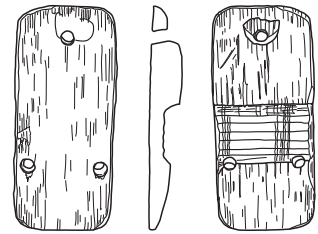
594



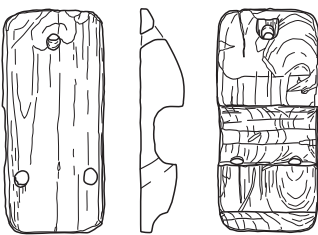
595



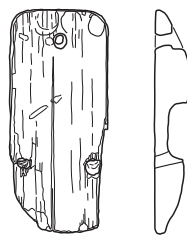
596



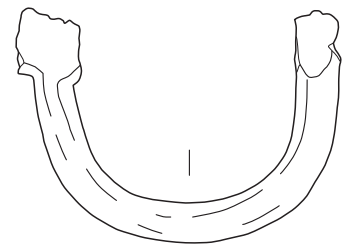
597



598



599



603



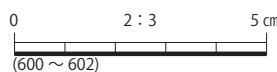
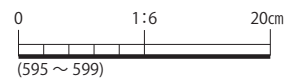
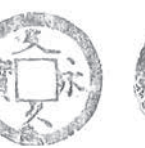
600



601

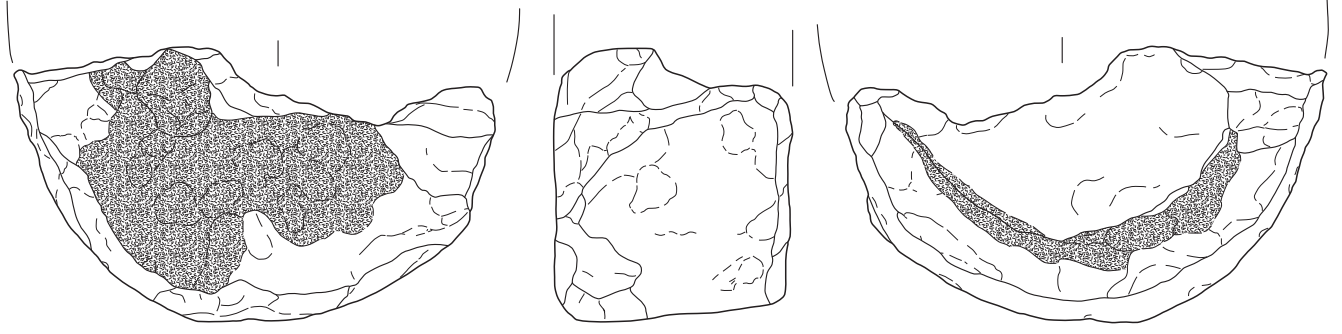


602



第101图 ⑦区出土遺物 (13)

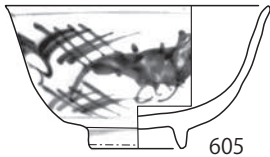
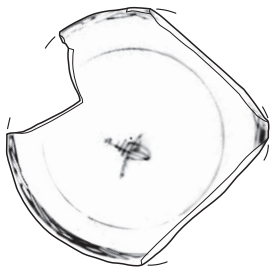
⑦-SK35



⑦-SK36



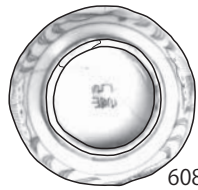
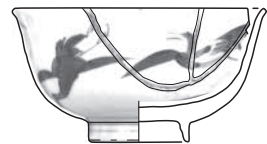
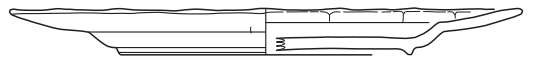
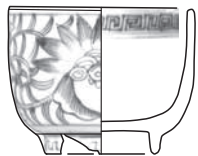
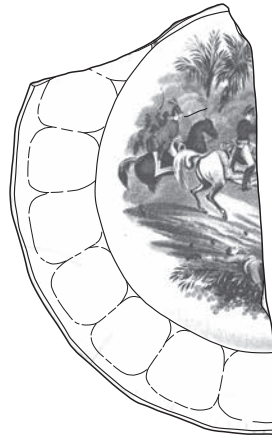
604



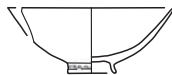
605



607



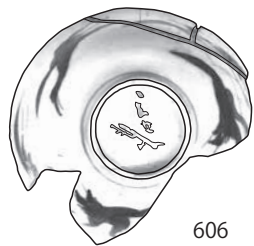
608



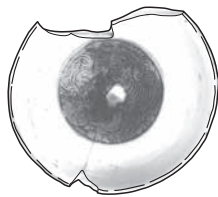
610



612



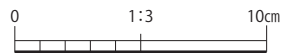
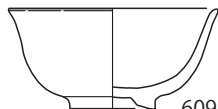
606



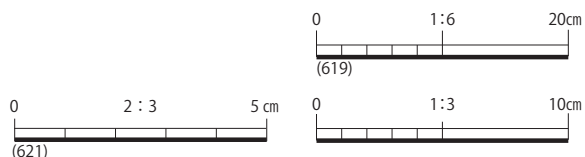
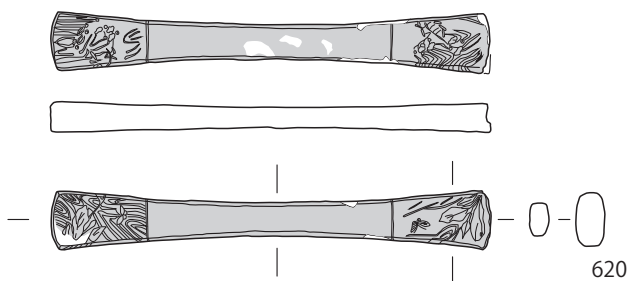
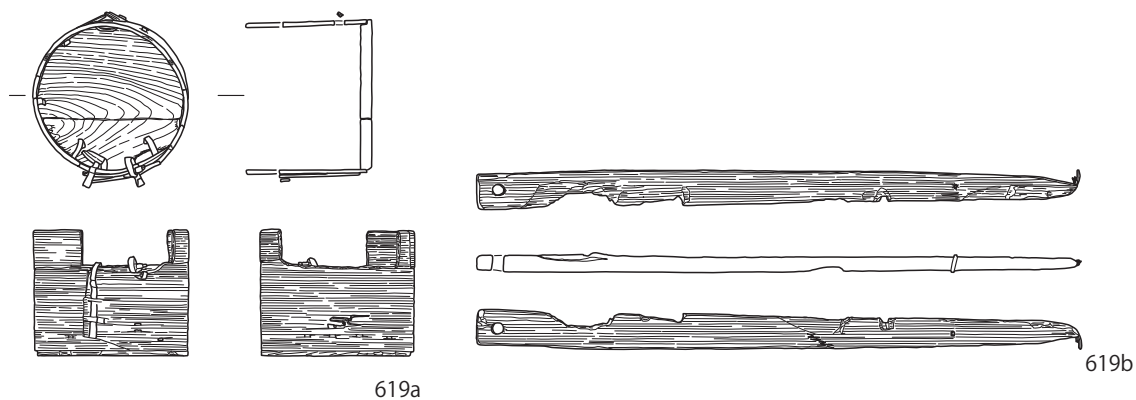
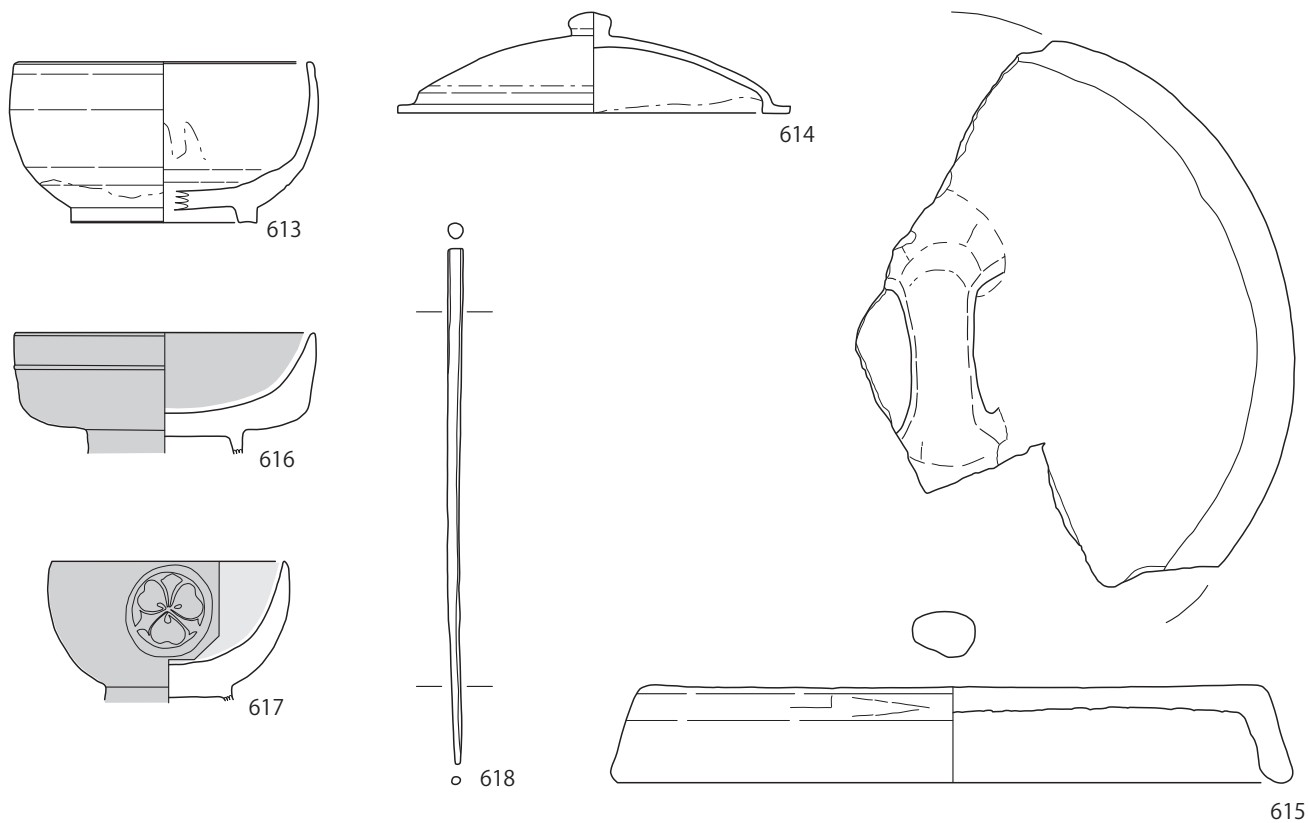
609



611

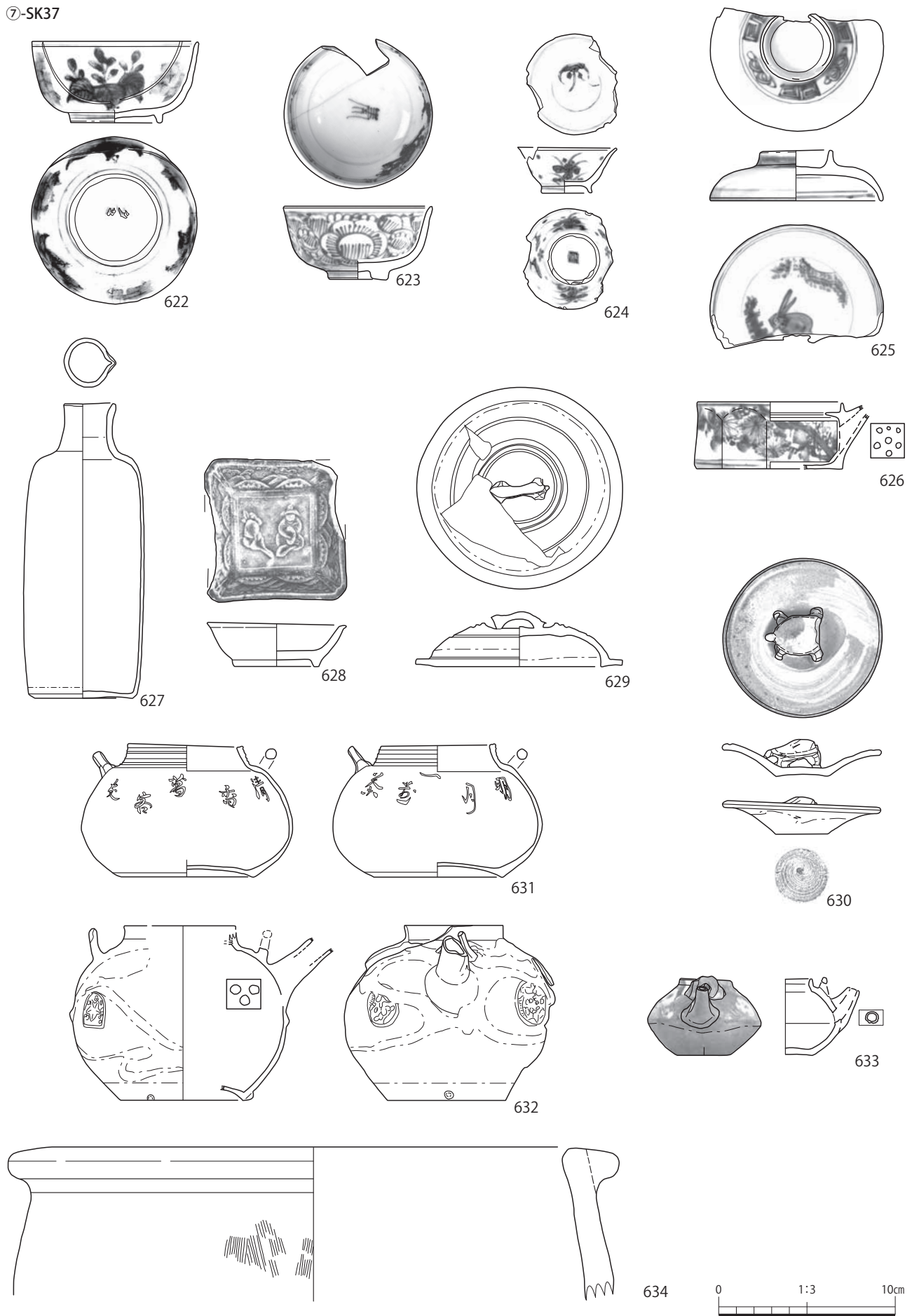


第 102 图 ⑦区出土遺物 (14)



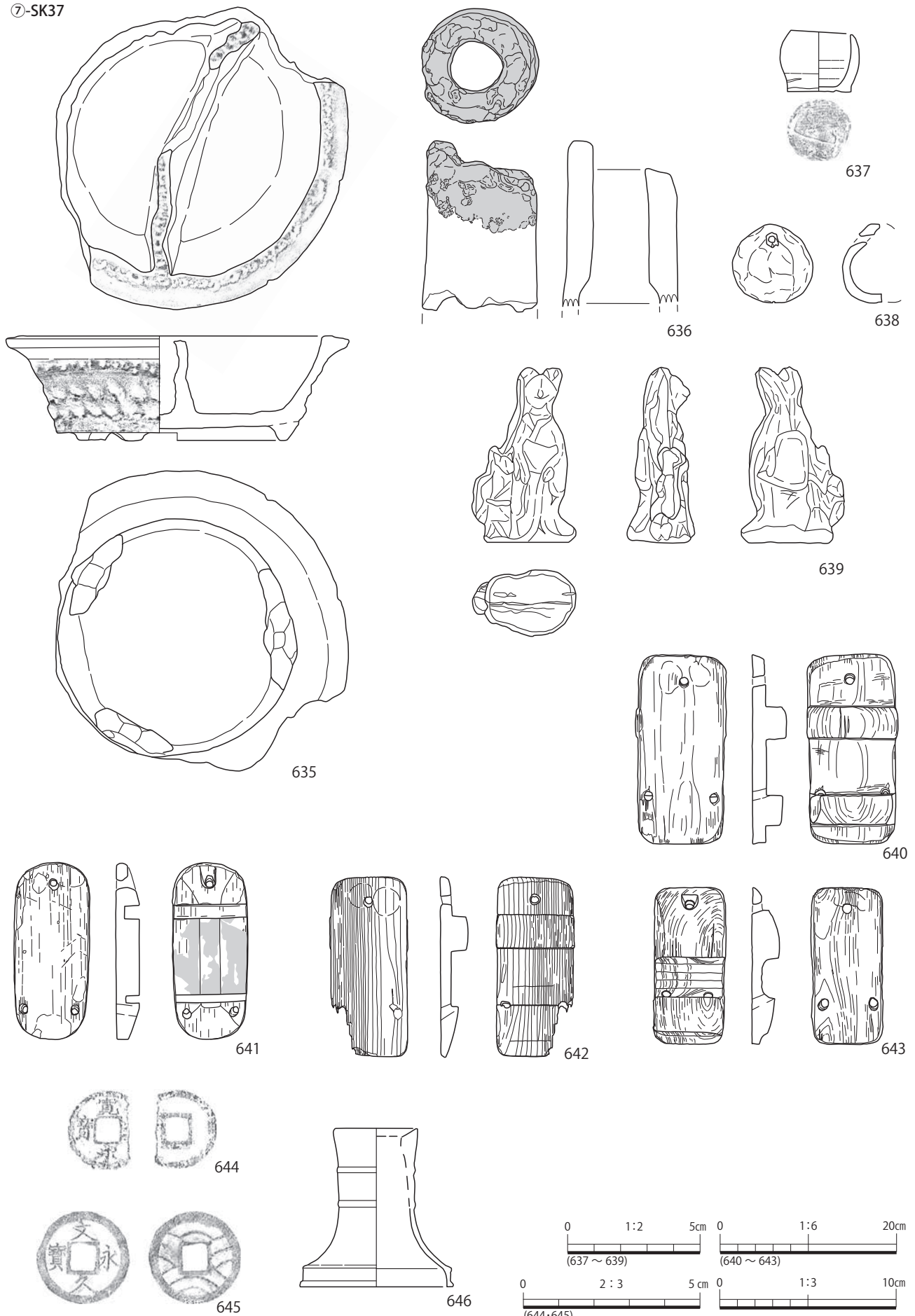
第103图 ⑦区出土遺物 (15)

⑦-SK37



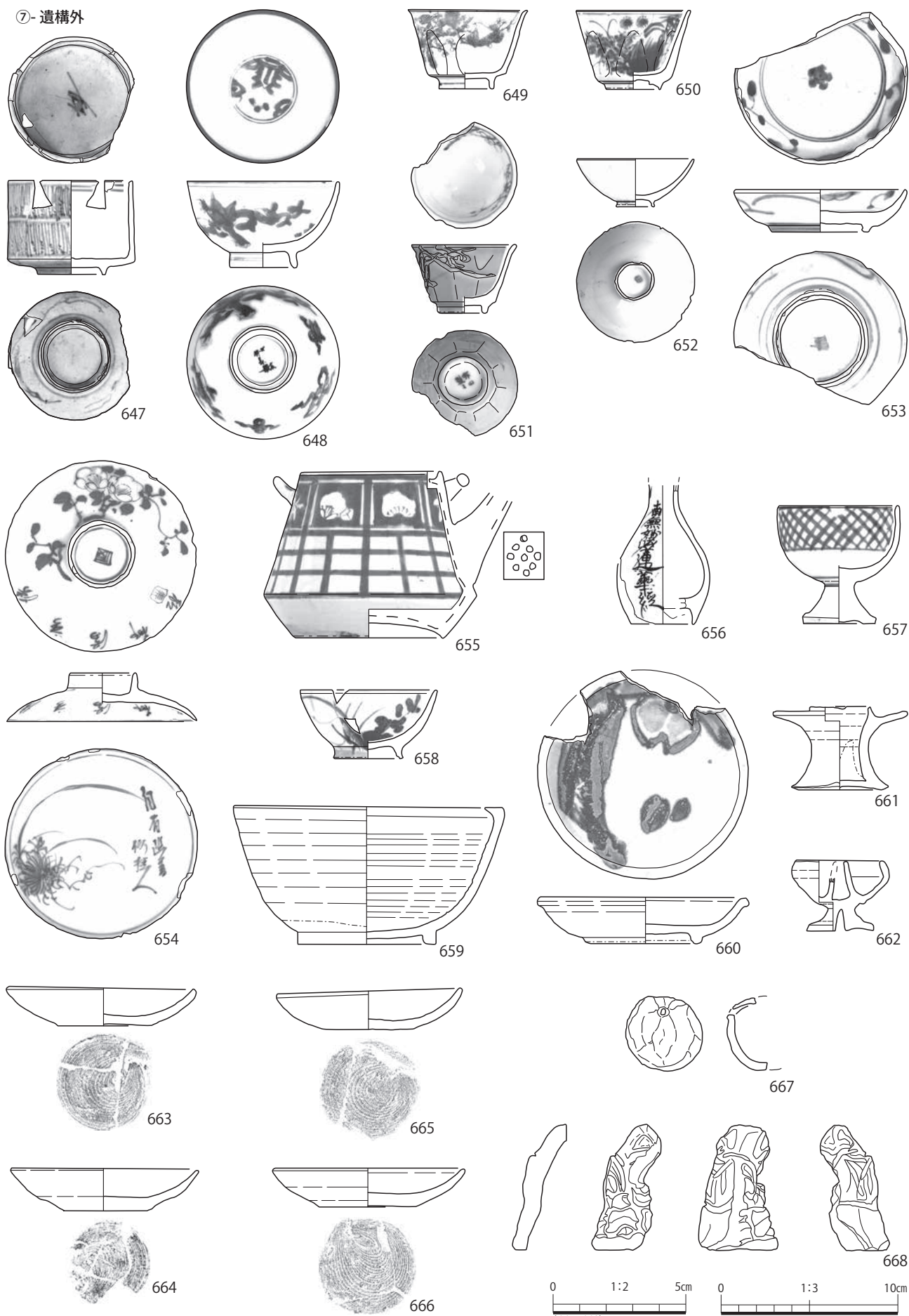
第 104 图 ⑦区出土遺物 (16)

⑦-SK37



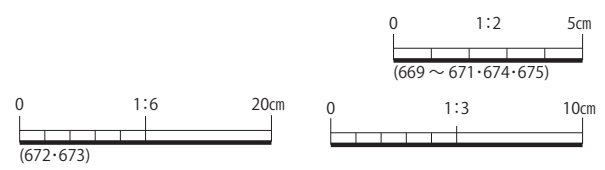
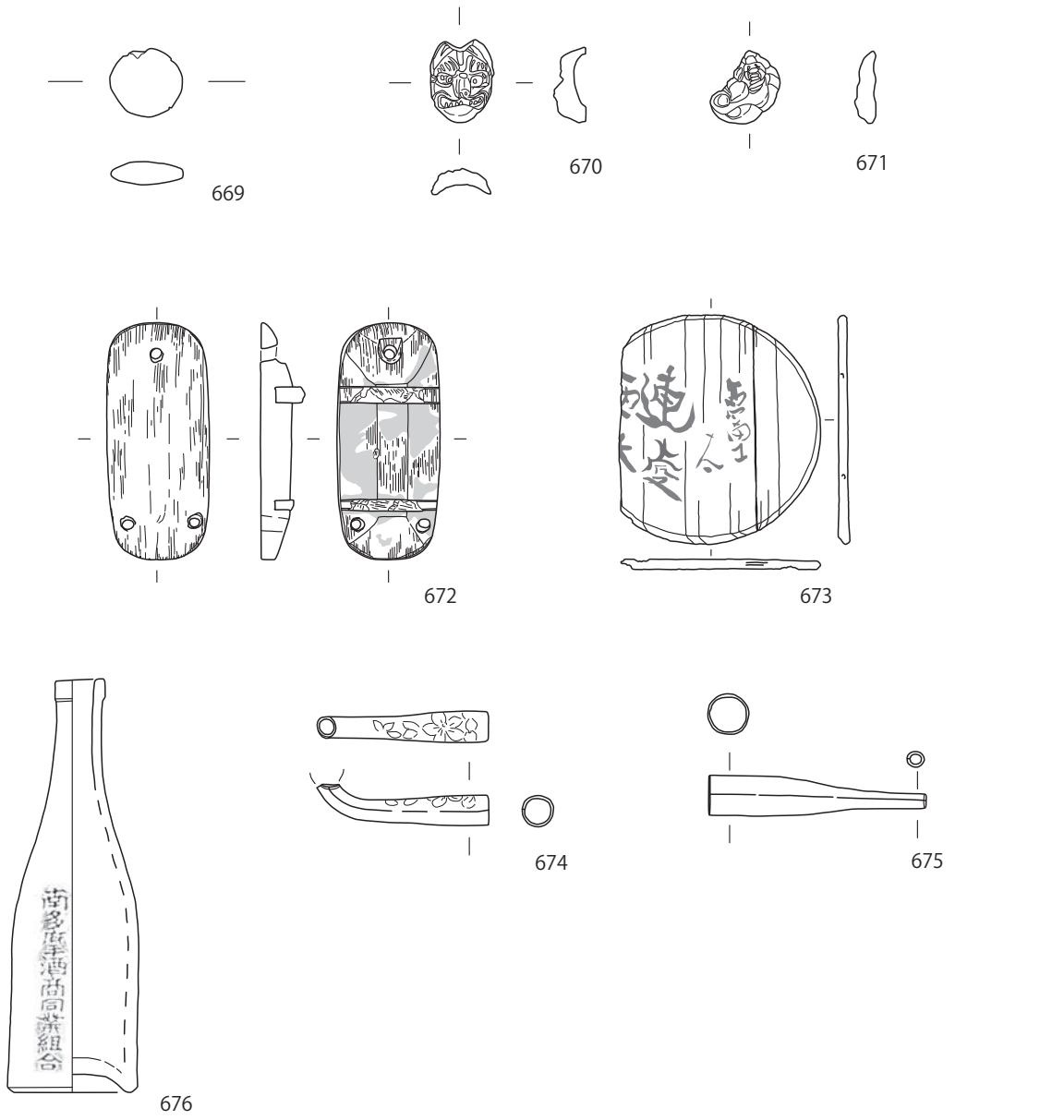
第105图 ⑦区出土遺物 (17)

⑦-遺構外



第106図 ⑦区出土遺物 (18)

⑦- 遺構外



第 107 图 ⑦区出土遺物 (19)

⑧-A-SK1

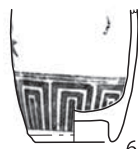


677

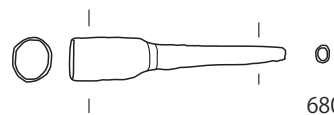
⑧-A-SS1



678

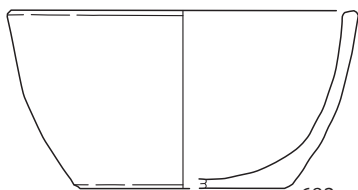
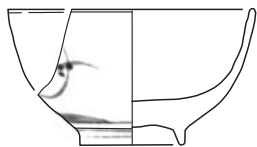


679



680

⑧-A-遺構外



682



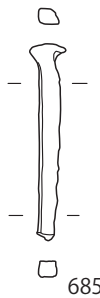
681



683



684



685



686



687



688



689



690



691



692



693



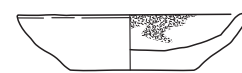
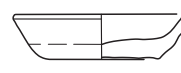
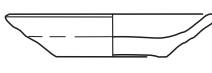
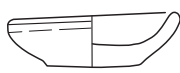
694

⑧-B-SK1



695

⑧-B-SK7



696



697

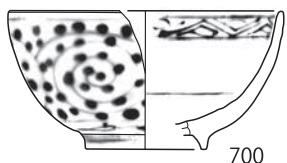
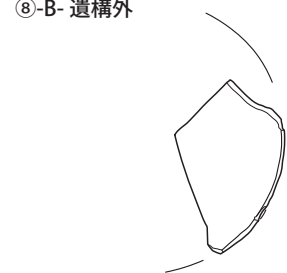


698

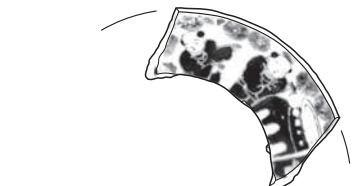


699

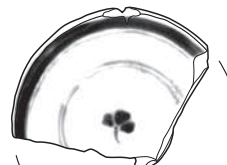
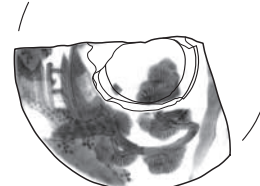
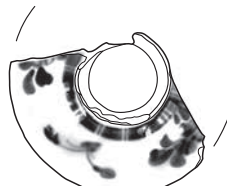
⑧-B-遺構外



700



701



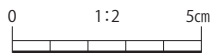
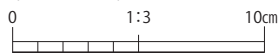
702



703



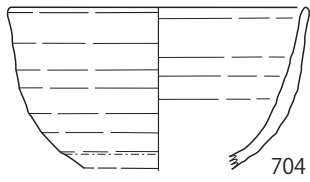
(677-686-695)



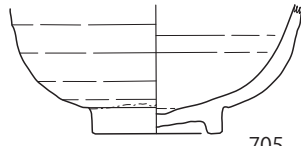
(680-685)

第 108 图 ⑧区出土遺物 (1)

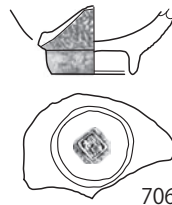
⑧-B- 遺構外



704



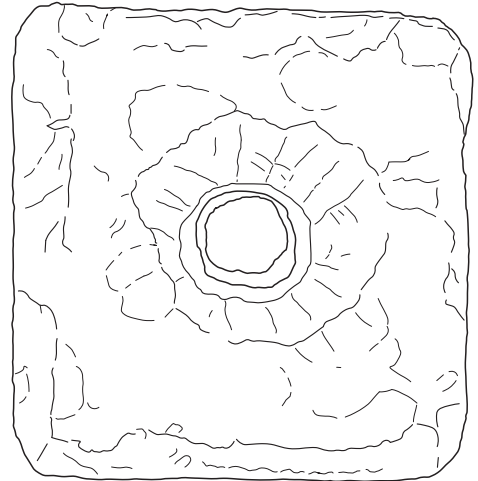
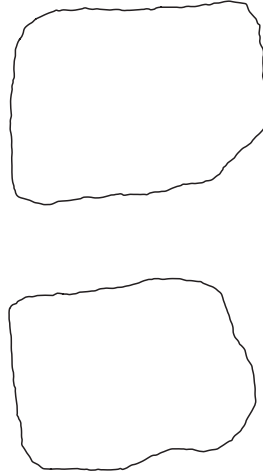
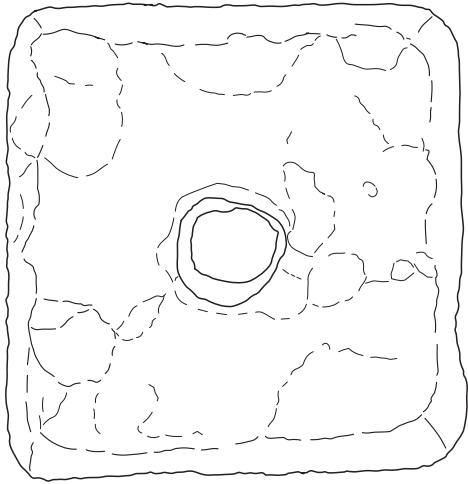
705



706



707



708



709



710



711



712



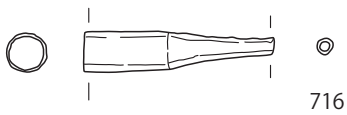
713



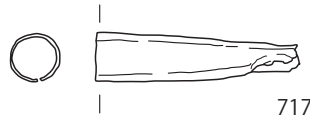
714



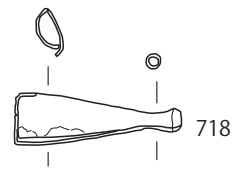
715



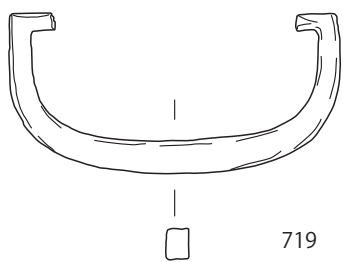
716



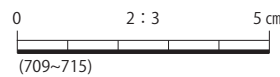
717



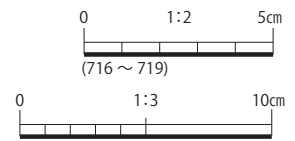
718



719



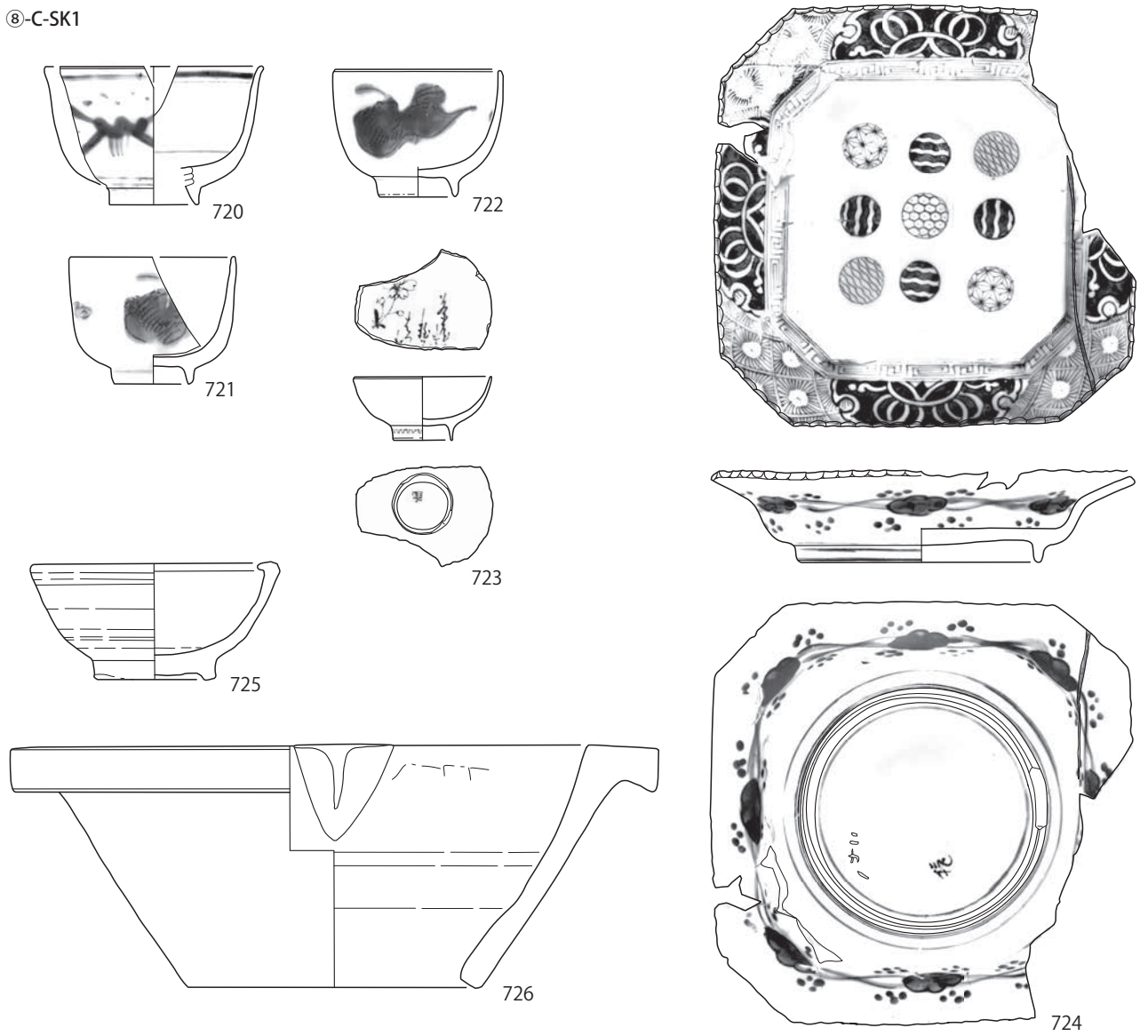
(709~715)



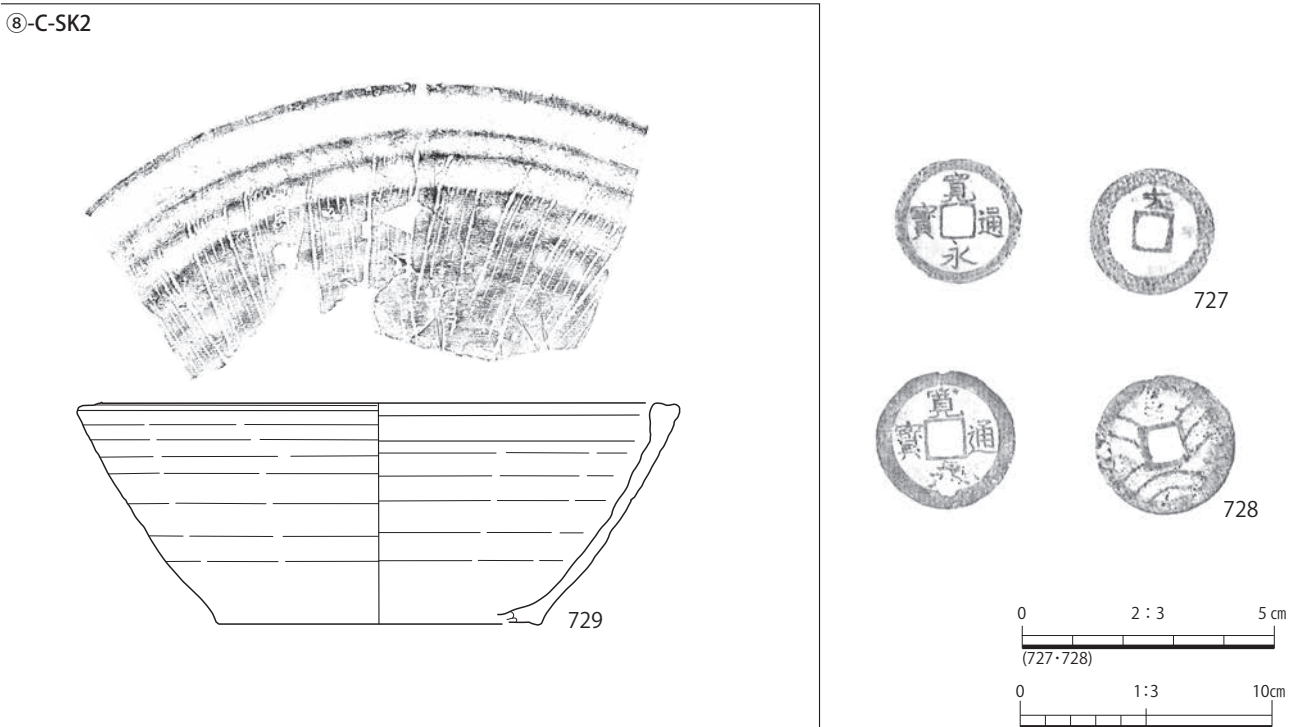
(716~719)

第 109 图 ⑧区出土遺物 (2)

⑧-C-SK1

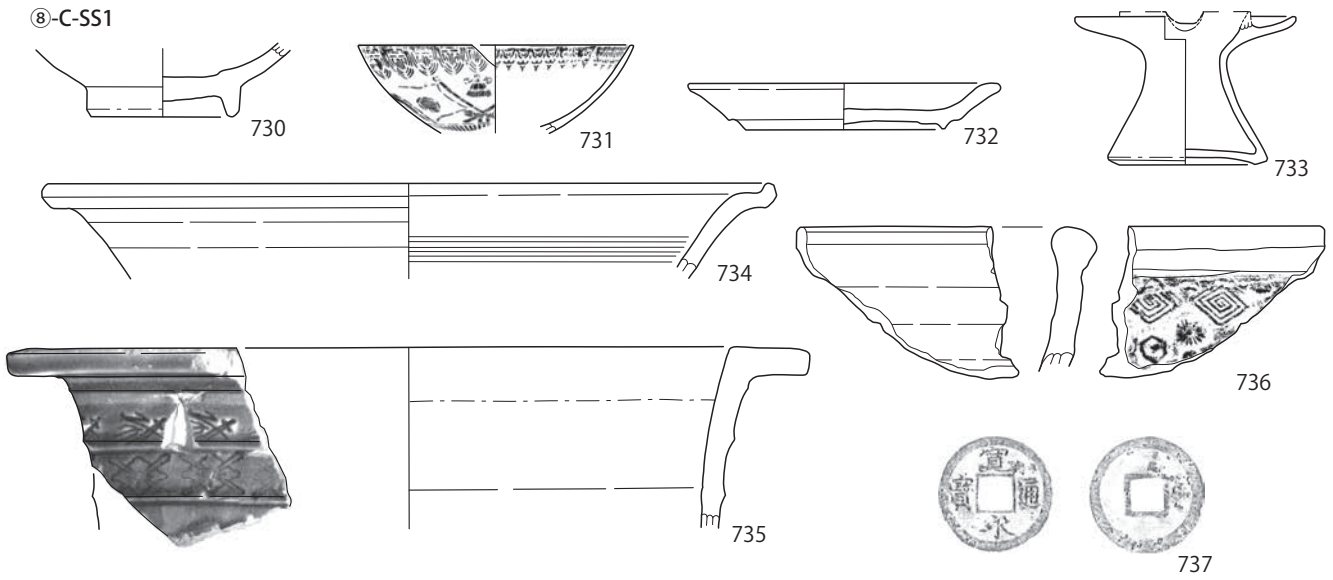


⑧-C-SK2

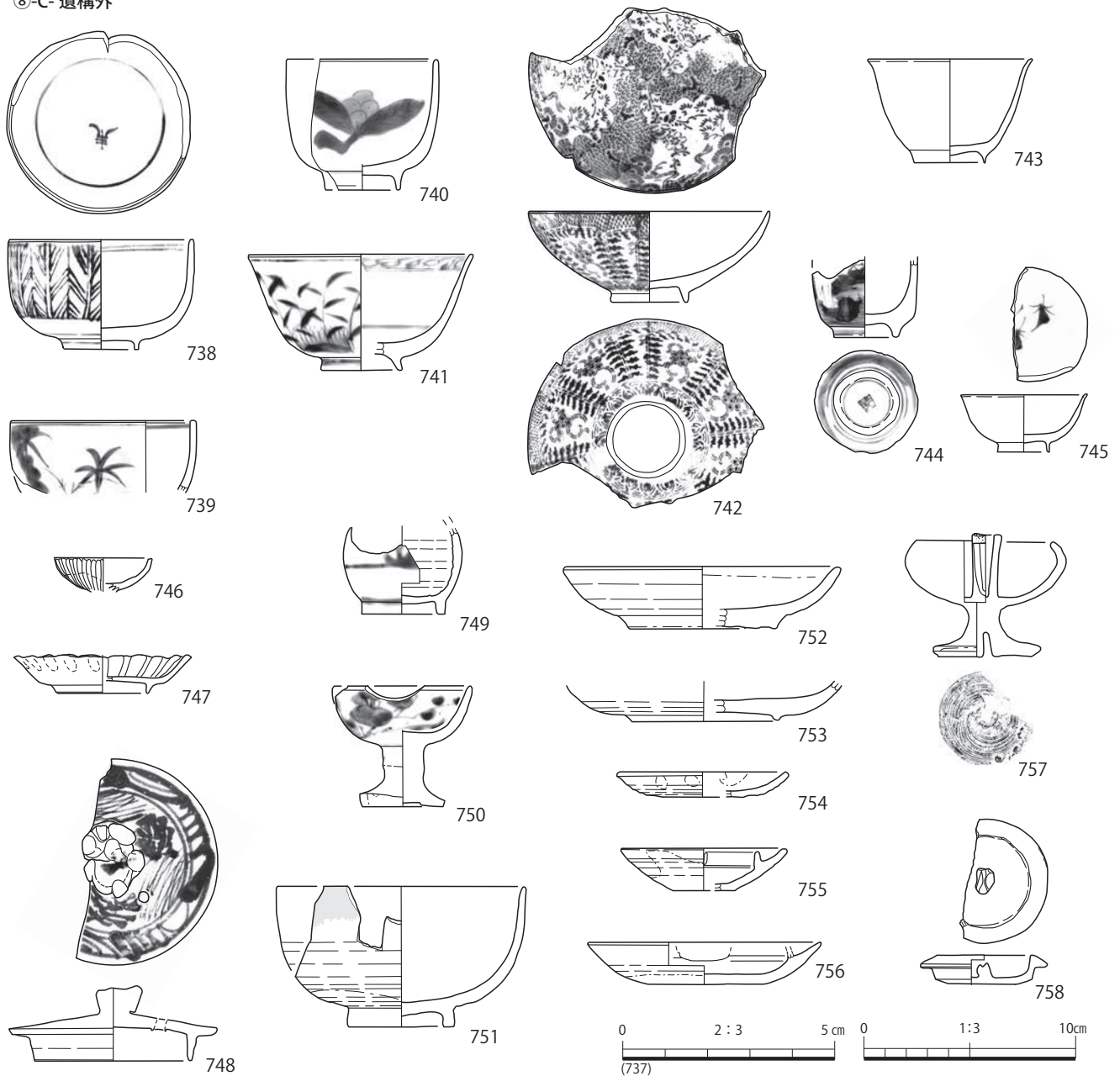


第110図 ⑧区出土遺物(3)

⑧-C-SS1

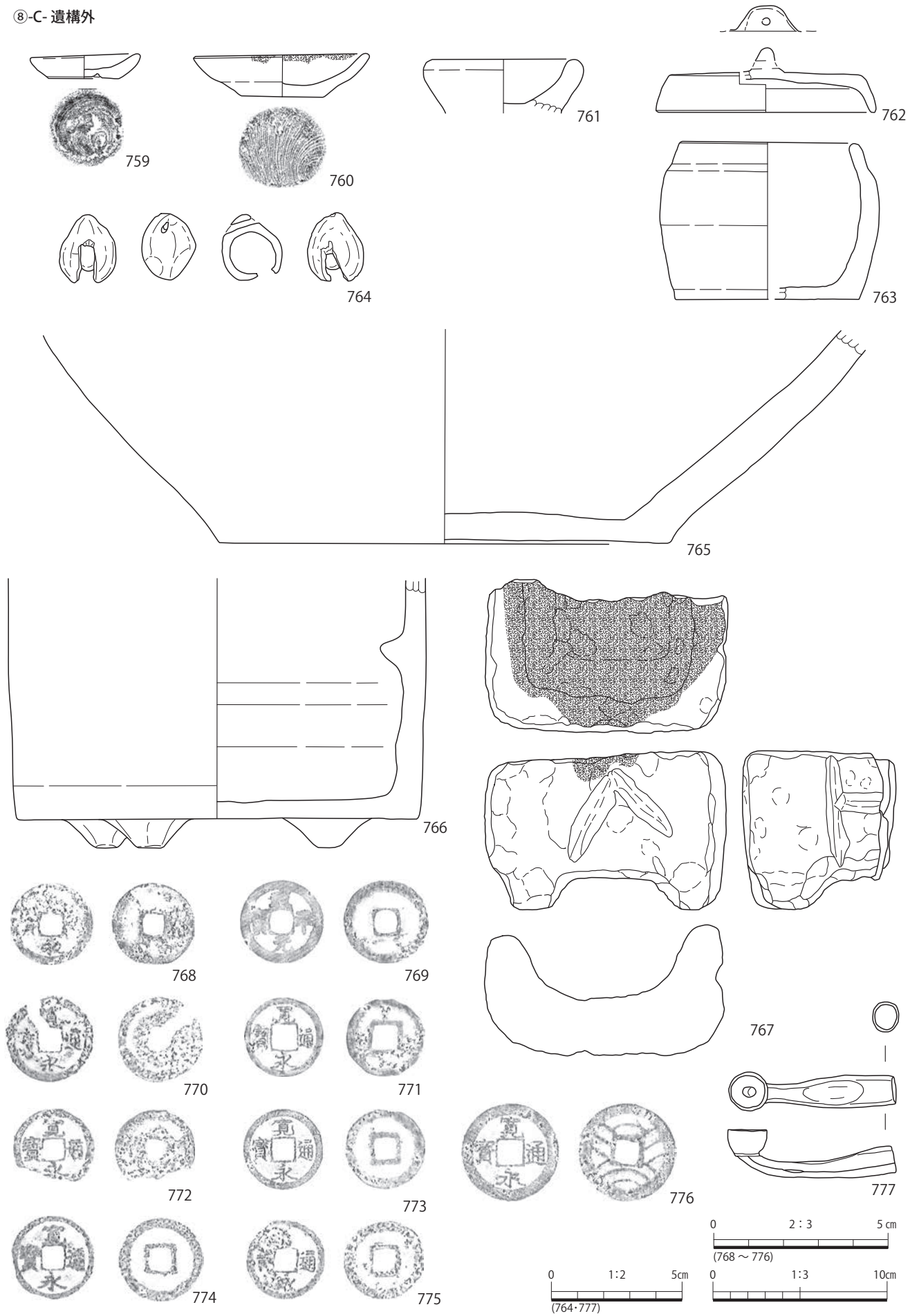


⑧-C-遺構外



第 111 图 ⑧区出土遺物 (4)

⑧-C- 遺構外



第 112 图 ⑧区出土遺物 (5)

第4表 I工区遺物観察表(陶磁器・土器・他)

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・裝飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1	①	SK1	陶器	中碗	轆轤拳骨形分	(12.0)	—	(5.6)	—	轆轤成形		外面に指頭圧痕あり	鉄釉・灰釉	褐(7.5YR4/3)・にぶい黄褐(10YR7/3)	密	灰白(5Y7/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
3	①	SK3	磁器	猪口	桶形	(6.0)	3.3	4.3	—	轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀初頭
14	①	SK8	磁器	中碗	半球形	(9.0)	(3.8)	5.4	—	轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	
15	①	SK10	磁器	小碗	丸形	(8.0)	—	(3.0)	—	轆轤成形	染付・コンニャク印判	やや薄手	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末
16	①	SK10	陶器	浅瓶	肩部皿手	17.2	11.1	(13.1)	6.0	轆轤成形		肩部に轆轤状の把手、欠損あり	灰釉・ウソフ	オリーブ(5Y6/8)	密	灰白(5Y7/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
17	①	SK13	磁器	碗	丸形	—	(3.8)	(3.5)	—	轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	
24	①	SP14	磁器	中碗	丸形	(10.6)	(3.8)	5.6	—	轆轤成形	染付	見込みに「壽」のくずし字あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀～幕末
25	①	SP14	陶器	蓋	平形	18.0	14.5	5.3	2.1	轆轤成形	刷毛目	つまみ部に浄土系切り	灰釉	灰(5Y6/1)	細砂粒含む	赤(10R5/6)	白色粒・黒色粒	良好		
26	①	SS1	磁器	中碗	平形	(11.7)	—	(3.3)	—	轆轤成形	染付・型紙摺		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治10年代
27	①	SS1	陶器	鉢	鉢	—	(7.6)	(6.4)	—	轆轤成形			透明釉	浅黄(5Y7/3)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
28	①	SS1	陶器	片口	口縁部下注口丸形	20.0	—	7.4	—	轆轤成形		口縁部玉縁(大)	灰釉	灰オリーブ(5Y5/2)	細砂粒含む	灰(5Y6/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
29	①	SS1	土器	焙烙		(30.2)	(27.7)	4.5	—	轆轤成形		底平坦	無釉		細砂粒含む	石英・白色粒・黒色粒・金色塵母	良好	在地系		
32	①	SS5	磁器	小瓶	端反碗形	1.4	—	(5.1)	—	轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好		
33	①	5X1	土器	大甕	寸筒形	(36.5)	21.2	40.2	—	紐造り		輪槽み痕・御所裏・内面付着物あり	無釉		細砂粒含む	長石・赤色粒・金色塵母	良好	在地系		
34	①	5X1	日用品	歯ブラシ		12.7	1.0	0.5	—	轆轤成形	染付	セルロイド製・穴の中に針金のような金属あり・「東京眞生堂銀座NO.3露毛」	透明釉		緻密	透明黄色			近代	
35	①	連構外	磁器	碗	丸形	—	(3.9)	(2.9)	—	轆轤成形	染付	くらわんか碗	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀
36	①	連構外	磁器	小碗	半球形	(8.6)	2.8	5.6	—	轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初頭
37	①	連構外	磁器	碗	広東形	—	(6.5)	(4.8)	—	轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好		
38	①	連構外	磁器	小碗	端反形	(8.1)	(3.9)	3.9	—	轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
39	①	連構外	磁器	中碗	平形	11.2	3.6	4.7	—	轆轤成形	染付・型紙摺		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治10年代
40	①	連構外	磁器	中碗	丸形	(9.3)	(3.2)	4.3	—	轆轤成形	染付・型紙摺		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治10年代
41	①	連構外	磁器	小碗	端反形	(7.0)	(3.6)	(4.0)	—	轆轤成形	染付・御所裏写	蛇の目凹形高台	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治20年代～大正
42	①	連構外	磁器	薄手酒杯	端反形	(6.3)	2.8	2.9	—	轆轤成形	上絵付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
43	①	連構外	磁器	薄手酒杯	平形	(8.1)	3.0	3.1	—	轆轤成形	上絵付(金彩)・染付	御高台・「尾張型」	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
44	①	連構外	磁器	薄手酒杯	平形	(7.6)	(3.0)	3.1	—	轆轤成形	上絵付・染付	御高台・「尾張型」	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
45	①	連構外	磁器	碗	半筒形	—	(3.7)	(1.8)	—	轆轤成形	染付・コンニャク印判		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀
46	①	連構外	磁器	小皿	丸形	(10.3)	6.0	2.5	—	型打成形	染付	輪花	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	
47	①	連構外	磁器	皿	丸形	—	(8.0)	(1.4)	—	轆轤成形	染付・御所裏写		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
48	①	連構外	磁器	蓋	平形	(7.8)	(3.3)	2.5	—	轆轤成形	染付	碗の蓋	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
49	①	連構外	磁器	瓶	瓶	—	4.7	(4.1)	—	轆轤成形	染付	内面無釉	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	
50	①	連構外	磁器	瓶	瓶	—	(6.0)	(6.3)	—	轆轤成形			青磁釉	明オリーブ灰(5GY7/1)	緻密	白	黒色粒	良好		
51	①	連構外	磁器	仏飯器	台底輪高台	—	4.5	(5.4)	—	轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	
52	①	連構外	陶器	小碗	天目形	(8.8)	—	(5.2)	—	轆轤成形		口縁部缺り込みあり・天目茶碗	鉄釉	黒褐(7.5YR2/2)	粗砂粒含む	浅黄緑(7.5YR8/4)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
53	①	連構外	陶器	中碗	轆轤拳骨形分	(9.8)	4.0	5.4	—	轆轤成形			鉄釉	暗赤褐(5YR3/4)	密	褐灰(10YR5/1)	赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
54	①	連構外	陶器	猪口か		6.8	5.3	4.8	—	轆轤成形			長石釉	灰白(5Y8/1)	粗砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)	赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
55	①	連構外	陶器	灯明受皿		11.0	4.6	2.1	7.8	轆轤成形		受け高が血縁より低い・受け断面三角形	鉄釉	明赤褐(2.5YR3/3)	密	灰白(2.5Y7/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
56	①	連構外	陶器	蓋	蓋	(9.0)	(7.0)	3.4	1.2	轆轤成形		土瓶の蓋	緑釉	緑	密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
57	①	連構外	陶器	蓋	蓋	6.0	5.2	2.2	1.4	轆轤成形		急須の蓋	鉄釉	褐灰(5YR4/1)	密	褐灰(5YR5/1)	白色粒	良好	滑石系	19世紀
58	①	連構外	陶器	瓶	瓶	—	4.6	(3.8)	—	轆轤成形		内面無釉	鉄釉	灰白(5Y8/2)	粗砂粒含む	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀

*法量()は復元実測値()は現存値である。

*法量()は還元表別値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
59	①	遺構外	石器	擂鉢	楕円形	—	(9.5)	3.4		無釉	断面に漆継ぎの痕跡か	無釉	粗砂粒含む	粗(10YR5/6)	白色粒・黒色粒	良好	明・明石系	19世紀		
60	①	遺構外	陶器	榎木鉢	長方形	12.1	11.0	4.3		灰釉		灰釉	密	灰白(2.5Y8/2)	赤色粒	良好	瀬戸美濃系分	19世紀		
61	①	遺構外	陶器	中鉢	楕円形	(20.0)	(17.4)	5.1		鉄釉	内外面にターール・スス付着	鉄釉	粗砂粒含む	赤黒(5R17/1)	長石・赤色粒	良好	19世紀			
62	①	遺構外	土器	灯明皿	無高台平形	(9.0)	(4.5)	2.0		無釉	底部回転糸切り	無釉	粗砂粒含む	長石・赤色粒	良好	在地系	19世紀			
63	①	遺構外	土器	灯明皿	無高台平形	(6.0)	(3.2)	1.4		無釉	底部回転糸切り	無釉	粗砂粒含む	長石・石英・赤色粒・金色雲母	良好	在地系	19世紀			
64	①	遺構外	土器	灯明皿	無高台平形	(5.8)	4.8	1.3		無釉	底部回転糸切り	無釉	細砂粒含む	長石・石英・赤色粒・金色雲母	良好	在地系	19世紀			
65	①	遺構外	土器	灯明皿	無高台平形	7.4	5.0	1.8		無釉	底部回転糸切り	無釉	粗砂粒含む	赤色粒・白色粒・黒色粒・黒色雲母	良好		19世紀			
66	①	遺構外	土器	灯明皿	無高台平形	10.2	6.8	1.8		無釉	底部回転糸切り	無釉	粗砂粒含む	長石・石英・赤色粒・金色雲母	良好	在地系	19世紀			
77	②	SK1	磁器	碗	広東形	—	(5.6)	(5.4)		染付	やや薄手・焼継ぎ痕あり・焼継印「ヨ十六」	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀前半		
78	②	SK1	磁器	蓋物	腰球形	12.1	5.7	6.55		染付	口縁内面無釉	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系			
79	②	SK1	磁器	中碗	端反形	(9.4)	3.6	4.9		染付	焼継ぎ痕あり・焼継印「ヌキ十七」	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉		
80	②	SK1	磁器	榎木鉢	楕円形	—	(8.5)	(4.0)		染付	底部に孔あり・底部に磁器破片付着・底部の角や高台部、断面部分が摩耗しており、磁石として利用された可能性あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系			
81	②	SK1	磁器	蓋	楕円形	9.2	3.5	2.9		染付	碗の蓋	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀		
82	②	SK1	磁器	蓋	楕円形	—	4.4	(1.5)		染付	碗の蓋	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系			
83	②	SK1	陶器	碗	楕円形	—	3.3	(2.6)		染付	肥前系京焼陶器	灰釉	密	灰白(5Y7/2)	黒色粒	良好	肥前系			
84	②	SK1	陶器	中鉢小	楕円形	(22.8)	—	(6.0)		染付	口縁部に砂付着・蓋物の蓋	灰釉	粗砂粒含む	灰白(5Y8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀		
85	②	SK10	磁器	蓋	楕円形	(13.0)	(11.0)	(2.1)	—	染付	口縁部に砂付着・蓋物の蓋	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系			
86	②	SK10	磁器	中碗	楕円形	(9.1)	—	(4.6)		染付	見込みに輪トチン痕	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀		
93	②	SP6	陶器	灯明皿	無高台平形	(10.9)	—	(1.8)		染付	見込みに輪トチン痕	鉄釉	密	灰白(5Y8/6)	赤色粒・白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀		
95	②	SK1	土器	大甕	付脚形	35.7	21.8	39.0			輪積み痕・使用痕	無釉	密	無	赤色粒・白色粒・黒色粒	良好		19世紀		
96	②	SK1	日用品	桶ブラシ	楕円形	13.3	1.0	0.6			骨角製・金属の輪がはめ込まれている									
97	②	SS1	磁器	碗	楕円形	—	(4.6)	(3.6)		染付	焼継ぎ痕あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀以降		
98	②	SS1	磁器	皿	楕円形	(6.9)	(6.9)	(1.7)		染付・型絵	蛇の目凹形高台	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治10年代以降		
99	②	SS1	磁器	小皿	丸形	(10.6)	(6.1)	2.2		染付・銅板転写		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀		
100	②	SS1	陶器	花生か	楕円形	—	6.0	(7.0)		鉄絵	長石釉に鉄絵で梅花文を描く・長石釉上には灰釉がけ施し・底部に指頸状痕・龍蹄成形後に方形に加工したか	灰釉	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好		19世紀		
101	②	SS1	ガラス製品	玩具	球形	3.6	(3.8)	0.9			気泡を含む・中心に「二ツ巴文」	透明釉	密	無	透明水色			19世紀		
102	②	SS2	陶器	碗	楕円形	—	(4.8)	(5.2)				灰釉	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好		19世紀		
103	②	SS4	磁器	碗	筒丸形	—	(3.1)	(5.1)			高台内に陶器番号あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	美濃系	近代		
104	②	遺構外	磁器	小碗	丸形	(8.1)	—	(3.4)		染付・コニヤク印判	くちわ丸か輪・やや薄手	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末		
105	②	遺構外	磁器	中碗	浅半球形	(10.4)	4.1	5.0		青磁絵付	高台内に二重方形枠内の渦巻・見込みに手描きの崩れた五弁花文	青磁釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀		
106	②	遺構外	磁器	中碗	端反形	(10.4)	—	(5.6)		染付	端反弱い	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀後葉		
107	②	遺構外	磁器	中碗	端反形	(10.2)	(4.4)	5.6		染付	端反弱い	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀後葉		
108	②	遺構外	磁器	小碗	端反形	(8.4)	(3.6)	(4.0)		染付・銅板転写		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀		
109	②	遺構外	磁器	猪口か	筒形	(5.1)	4.0	8.7				赤色釉・白色釉	緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀		
110	②	遺構外	磁器	小碗	端反形	(6.2)	(3.0)	3.5		染付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀後葉		
111	②	遺構外	磁器	薄手酒杯	丸形	(5.7)	2.3	3.4		上絵付	筒高台・尾張製	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀		

*法量()は復元美測値、〈 〉は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	結付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
112	②	遺構外	磁器	蓋	—	10.6	2.5	—	4.5	龍鱗成形	青磁染付	碗の蓋	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
113	②	遺構外	磁器	小瓶	瓶正形	1.8	—	—	—	龍鱗成形	染付	口縁無裝飾	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
114	②	遺構外	磁器	人形	狐	2.7	4.4	—	—	型押し成形			透明釉	灰白	緻密	黒色粒	良好			
115	②	遺構外	陶器	碗	—	—	5.3	—	2.9	龍鱗成形		費入あり	透明釉	淡黄(2.5Y8/3)	密					
116	②	遺構外	陶器	碗	—	—	—	—	—	龍鱗成形			灰釉・ウノフ	灰白(2.5Y8/2)	密					
117	②	遺構外	陶器	灯明皿	無高台平形	10.4	5.0	2.5	—	龍鱗成形		底部回転へず削り・口縁部にス付着	鉄釉	赤黒(2.5YR2/1)	細砂粒含む	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
118	②	遺構外	陶器	灯明皿	無高台平形	6.2	2.6	1.3	—	龍鱗成形		底部回転へず削り・口縁部にス付着	鉄釉	灰白(7.5Y8/2)	密					
119	②	遺構外	陶器	小壺	—	6.7	—	—	6.8	龍鱗成形			灰釉	灰白(10YR8/2)	細砂粒含む		良好			
120	②	遺構外	陶器	中鉢	—	20.9	—	—	5.4	龍鱗成形		費入あり	緑釉・外)緑釉・内)にふい赤	灰白(2.5Y8/2)	密					
121	②	遺構外	陶器	瓶	—	—	9.0	—	11.5	龍鱗成形			鉄釉	赤褐(5YR4/6)	密					
122	②	遺構外	陶器	香炉	半筒形	—	—	—	4.8	龍鱗成形			灰釉	灰白(5Y8/1)	密					
123	②	遺構外	陶器	蓋	—	10.0	5.0	2.2	4.0	龍鱗成形			緑釉・ウノフ	オリブ黒(10Y3/2)	細砂粒含む		良好			
124	②	遺構外	陶器	香炉	半筒形	—	—	—	4.7	龍鱗成形		三足付き	灰釉	灰白(7.5Y8/1)	密	赤色粒・黒色粒	良好			
125	②	遺構外	土器	大甕	—	34.4	—	—	7.4	紐造り		仰所置か	無釉		粗砂粒含む	白色粒・金色雲母	良好	在地系		
126	②	遺構外	土製品	人形	狐	2.3	2.3	—	3.8	型合わせ成形			無釉		細砂粒含む	黒色粒・金色雲母	良好	在地系		
127	②	遺構外	土製品	碁石	—	2.0	1.9	—	0.7	手捏り成形			無釉		細砂粒含む	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
134	③	SK4	磁器	中碗	碗反形	10.6	4.7	—	6.1	龍鱗成形	染付		透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
135	③	SK4	磁器	薄手酒杯	碗反形	5.6	2.4	—	3.0	龍鱗成形	上絵付		透明釉	白	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
136	③	SK4	陶器	灯明燈皿	油溝半月状	10.0	4.4	—	6.4	龍鱗成形		底部回転へず削り	灰釉	明オリブ灰(2.5GY7/1)	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
137	③	SK4	陶器	壺	—	10.0	—	—	4.5	龍鱗成形			鉄釉	赤褐(5YR4/6)	粗砂粒含む	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
138	③	SK4	土器	焙烙	—	21.7	20.0	—	3.4	龍鱗成形		底平坦	無釉		粗砂粒含む	長石・赤色粒・黒色粒・金色雲母	良好	在地系		
139	③	SK4	土製品	羽口	—	9.2	6.3	—	2.9	龍鱗成形		溶解物(スラグ)付着・先端部分	無釉		砂染含む	白色粒・黒色粒	良好			
140	③	SK4	土製品	人形	鳥	2.4	1.0	—	3.2	型押し成形			無釉		細砂粒含む	黒色粒・金色雲母	良好	在地系		
141	③	SK4	土製品	碁石	—	2.1	2.0	—	0.6	手捏り成形			無釉		細砂粒含む	黒色粒	良好			
142	③	SK4	土製品	碁石	—	1.9	2.0	—	0.7	手捏り成形			無釉		細砂粒含む	赤色粒・黒色粒	良好			
143	③	SK4	土製品	碁石	—	1.8	2.0	—	0.5	手捏り成形			無釉		細砂粒含む	赤色粒・黒色粒・金色雲母	良好	在地系		
144	③	SK4	土製品	碁石	—	2.1	2.1	—	0.5	手捏り成形			無釉		細砂粒含む	赤色粒・黒色粒・金色雲母	良好	在地系		
145	③	SK5	土器	灯明皿	無高台平形	4.4	3.4	—	1.0	龍鱗成形		底部回転糸切り痕	無釉		粗砂粒含む	白色粒・黒色粒	良好	在地系		
146	③	SK5	土器	灯明皿	無高台平形	7.2	5.2	—	1.6	龍鱗成形		底部回転糸切り痕	無釉		粗砂粒含む	赤色粒・黒色粒・金色雲母	良好	在地系		
147	③	SK9	磁器	中碗	碗反形	11.0	4.2	—	5.8	龍鱗成形	染付		透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
148	③	SK9	磁器	中碗	碗反形	10.3	—	—	5.9	龍鱗成形	染付	端反弱い	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
149	③	SK9	磁器	小碗	碗反形	8.2	3.4	—	4.3	龍鱗成形	染付	端反弱い	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
150	③	SK9	磁器	薄手酒杯	丸形	6.6	3.0	—	3.1	龍鱗成形	染付・上絵付		透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
151	③	SK9	磁器	小皿	方形	7.5	4.3	—	2.6	型打ち成形	染付・型押文様		透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀～20世紀	
152	③	SK9	磁器	鉢	—	—	—	—	5.6	龍鱗成形	染付	縦置き痕あり	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		

* 量値 () は復元表別値、〈 〉 は現存値である。

報告書番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	量値 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
153	③	SK9	磁器	神選徳利	瓶子形	2.3	(3.7)	9.3		甌成形		腰輪高台	珽瑠璃釉	靑灰 (SPB3/1)	緻密	灰白 (5Y8/1)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後葉～19世紀中葉
154	③	SK9	陶器	蓋	杉形	9.0	7.0	3.9	2.4	甌成形		重ね焼き蓋	透明釉	灰白 (10Y7/1)	密	浅黄緑 (10Y8/4)		良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉～19世紀中葉
155	③	SK12	陶器	中碗	杉形	—	3.8	(4.0)		甌成形	鉄絵	柳茶碗・削り出し高台・高台内無軸	灰釉	灰白 (10Y7/1)	密	灰白 (5Y7/1)		良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉～19世紀中葉
156	③	SK13	磁器	蓋	蓋	(10.1)	(5.6)	2.8		甌成形	染付	碗の蓋	透明釉	白	緻密	白		良好		
157	③	SE1	磁器	小皿	楕圓形	—	(2.6)	(4.8)		甌成形	染付	輪高台	透明釉	白	緻密	白		良好		
158	③	SE1	陶器	水滴	豆腐形	4.8	7.3	2.5		型押成形			灰釉	灰白 (7.5Y8/1)	密	灰白 (7.5Y8/1)		良好		
159	③	SE1	陶器	水鉢	水鉢	(3.89)	—	(9.1)		甌成形	欄刻・流水状文	灰釉後縁線・鉄袖掛流し	灰釉・鉄袖・緑釉	浅黄 (5Y7/3)・オリープ (2.5Y4/6)	粗砂粒含む	灰白 (2.5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
160	③	SE1	陶器	指鉢	口縁玉縁形	(3.38)	(14.0)	12.8		甌成形			鉄釉	赤褐 (5YR4/6)	細砂粒含む	にふい黄緑 (10YR7/2)	赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
164	③	SE2	陶器	小碗	筒丸形	(7.0)	—	(6.2)		甌成形	下絵付		青磁釉	灰白 (10Y7/1)	緻密	灰白 (2.5Y8/2)		良好	瀬戸美濃系	近代
165	③	SE2	磁器	小皿	折縁形	(8.8)	(4.0)	2.2		甌成形	鉄絵		青磁釉	灰白 (10Y7/1)	緻密	灰白 (7.5Y7/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	近代
167	③	SE2	ガラス製品	ビール瓶	ビール瓶	2.5	7.8	28.8		甌成形		コルク付き (径2.1・長さ2.1cm)・口縁部形状は大冠仕様・コルク栓は再利用時のものか・側面に接合痕・器壁に気泡を含む・大日本麦酒株式会社醸造 (1906～1949) エビス	青磁釉	灰白 (10Y7/1)	緻密					20世紀前葉
172	③	SE2	日用品	歯ブラシ	歯ブラシ	13.6	1.0	0.3		甌成形		セルロイド製	鉄釉	赤褐 (2.5YR4/8)				良好		近代
173	③	SE2	日用品	歯ブラシ	歯ブラシ	15.1	1.3	0.7		甌成形		骨角製	鉄釉	白				良好		近代
175	③	SK1	磁器	中皿	丸形	(23.0)	(13.0)	3.5		甌成形	染付	輪花	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
177	③	連携外	磁器	中碗	端反形	(8.4)	(3.7)	4.3		甌成形	染付	焼疵ざ痕あり	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
178	③	連携外	磁器	小碗	端反形	9.1	—	(4.3)		甌成形	染付		透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
179	③	連携外	磁器	小皿	筒丸形	(7.2)	(3.8)	2.2		甌成形	染付		透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
180	③	連携外	陶器	小碗	丸形	10.4	6.0	2.2		型打成形	染付	輪花	鉄釉	白	緻密		良好			
181	③	連携外	陶器	灯明受皿	油清切立状	(7.6)	—	(4.8)		甌成形		腰筋線・灰袖・鉄袖掛け分け	鉄釉	灰白 (5Y7/2)・極暗褐 (7.5YR2/3)	細砂粒含む	灰白 (5Y7/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
182	③	連携外	陶器	土瓶	丸形	7.2	3.2	1.6	4.6	甌成形	下絵付	底部回転へり削り・仕切高が皿の縁より低い	鉄釉	靑赤褐 (5YR3/3)	密	にふい黄緑 (10YR7/3)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
185	③	連携外	土器	大甕	大甕	—	25.6	(13.2)		紐造り		便所兼・内面に付着物あり	無釉		細砂粒含む	にふい褐 (7.5YR5/4)	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色塵母	良好	在地系	
186	③	連携外	磁器	小碗	筒丸形	(6.4)	(3.5)	5.7		甌成形	染付	焼疵ざ痕あり・焼継印あり	透明釉	白	緻密		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
187	③	連携外	磁器	中碗	端反形	(10.5)	(4.0)	5.9		甌成形	染付	脚区弱し	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
188	③	連携外	磁器	中碗	広真形	9.2	4.5	5.1		甌成形	染付	底部に螺旋状の削りを施す・やや厚手	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
189	③	連携外	磁器	中碗	端反形	9.6	3.8	5.5		甌成形	染付	口縁に向かってやや内径する	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀後葉	
190	③	連携外	磁器	中碗	端反形	(10.4)	(3.8)	5.9		甌成形	染付		透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
191	③	連携外	磁器	小碗	半筒形	(7.4)	—	(5.2)		甌成形	染付		透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀初葉	
192	③	連携外	磁器	小碗	端反形	8.6	4.1	3.8		甌成形	染付		透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀後葉	
193	③	連携外	磁器	菓子酒杯	端反形	(6.4)	3.0	2.9		甌成形	上絵付		透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥前系		
194	③	連携外	磁器	瓶猪口	瓶花形	(4.0)	(2.0)	2.0		型打成形			白磁釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥前系		
195	③	連携外	磁器	紅猪口	瓶花形	(4.0)	(2.0)	2.0		型打成形			白磁釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥前系		
196	③	連携外	磁器	五寸皿	丸形	(14.0)	(8.4)	2.6		甌成形	染付	流め	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥前系		
197	③	連携外	磁器	段重	腰張形	(14.3)	8.7	4.4		甌成形	染付	蛇の目凹形高台・底部に鉄あり「富貴草」	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥前系		
198	③	連携外	磁器	段重	高台版重	(14.6)	—	(4.6)		甌成形	染付		透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥前系		
199	③	連携外	磁器	段重	高台版重	(14.2)	—	(4.6)		甌成形	染付		透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥前系		
200	③	連携外	磁器	蓋	蓋	9.5	4.0	2.8		甌成形	染付	碗の蓋	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥前系		
201	③	連携外	磁器	蓋	蓋	9.2	(3.4)	3.1		甌成形	染付	碗の蓋	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
202	③	連携外	陶器	灯明皿	無高台平形	6.4	3.0	1.4		甌成形	染付	底部回転へり削り・見込みに輪トチン痕あり	鉄釉	褐 (10YR4/4)	細砂粒含む	褐 (7.5YR6/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
203	③	連携外	陶器	灯明受皿	立方形	(8.5)	6.3	5.5	4.6	甌成形	染付	油漬半月状	鉄釉	灰白 (5Y8/2)	密	灰白 (2.5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
204	③	連携外	陶器	乗漕	台付たんこ形	—	4.4	(4.7)	2.0	甌成形	染付	底部回転承切り痕・底部に輪穴を穿つ	鉄釉	極暗褐 (7.5YR2/3)	密	灰白 (2.5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
205	③	連携外	陶器	線鉢	口縁玉縁形	22.4	13.8	13.4		甌成形		灰釉施釉後・縁割かけ流し	灰釉	靑オリープ灰 (2.5G4/1)	細砂粒含む	脚底 (N3)	白色粒	良好	瀬戸美濃系	
206	③	連携外	陶器	蓋	蓋	8.0	3.0	3.0	4.1	甌成形		つまみ部に動物 (獅子・狛犬)・急須の蓋	白磁釉	灰黄 (2.5Y7/2)	細砂粒含む	灰黄 (2.5Y7/2)	白色粒	良好		

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	結付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
207	③	遺構外	陶器	蓋	無高台平形	(15.7)	—	3.1	5.0	繻織成形			灰白(5Y8/1)		細砂粒含む	灰白(5Y7/2)	白色粒・黒色粒	良好		
208	③	遺構外	土製品	碁石		2.0	2.0	0.6		手捏ね成形			無釉		細砂粒含む	檀(5Y6/6)	黒色粒・金色雲母	良好	在地系	
209	③	遺構外	土製品	碁石		1.8	2.0	0.7		手捏ね成形			無釉		細砂粒含む	檀(5Y6/6)	黒色粒・金色雲母	良好	在地系	
210	③	遺構外	土製品	碁石		1.9	2.0	0.7		手捏ね成形			無釉		細砂粒含む	檀(5Y6/6)	黒色粒・金色雲母	良好	在地系	
211	③	遺構外	土製品	碁石		2.0	2.0	0.6		手捏ね成形			無釉		細砂粒含む	檀(5Y6/6)	黒色粒	良好		
212	③	遺構外	土製品	碁石		2.1	2.2	0.6		手捏ね成形			無釉		細砂粒含む	檀(5Y6/6)	黒色粒	良好		
220	④	SK4	陶器	小皿	丸形	—	(4.5)	(2.2)		繻織成形	呉須絵	肥前系京焼風陶器・高台中心に円刻、「棠」の印銘・椀園山水文	灰油	浅黄(5Y7/3)	細砂粒含む	灰白(7.5Y8/1)	黒色粒	良好	肥前系	17世紀中葉～18世紀後葉
221	④	SK5	磁器	髪油壺	脚丸形	1.9	5.2	7.1		繻織成形	染付	無着	透明釉	白	緻密	黒色粒	黒色粒	良好	肥前系	
222	④	SK5	磁器	中瓶	脚筒形	4.1	—	(11.2)		繻織成形	染付		透明釉	白	緻密	黒色粒	黒色粒	良好	肥前系	
223	④	SK5	陶器	灯明受皿	流溝半月状	(10.7)	3.8	(2.1)	7.8	繻織成形		底面回転へ字削り・貫入あり	灰油	灰白(5Y7/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好	京・信楽系	
225	④	SS1	磁器	小碗	半球形	8.1	3.0	4.5		繻織成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初頭
226	④	SS1	磁器	小碗	端反形	(8.3)	3.5	4.1		繻織成形	唐磁染付	蛇の目凹形高台	青磁釉	明緑灰(7.5Y8/3)	緻密	黒色粒	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	黒末～明治初
227	④	SS1	磁器	碗	脚筒形	—	(4.4)	(3.7)		繻織成形	染付	厚手	透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀以降
228	④	SS1	磁器	碗	筒丸形	—	—	(4.6)		繻織成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉
229	④	SS1	磁器	紅頸口	菊花形	4.6	1.4	1.4		型打ち成形		志野	白磁釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	肥前系	
230	④	SS1	陶器	小皿	端反形	(11.2)	(6.2)	2.2		繻織成形			長石釉	灰白(7.5Y8/1)	粗砂粒含む	灰白(7.5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀前葉
231	④	SS1	陶器	中碗	腰張形	—	6.0	(2.3)		繻織成形		肥前系京焼風陶器	灰油	灰オリーブ(5Y6/2)	細砂粒含む	赤黄(5Y8/3)	赤色粒・黒色粒	良好	肥前系	17世紀中葉～18世紀後葉
232	④	SS1	陶器	擂鉢	擂鉢	—	(14.1)	(5.0)		繻織成形		内面は磨減している	鉄釉	黒褐(7.5Y8/3)	粗砂粒含む	赤黄(5Y8/3)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
233	④	SS1	陶器	擂鉢	擂鉢	—	(14.2)	(6.6)		繻織成形			鉄釉	赤褐(5Y8/4)	粗砂粒含む	赤黄(5Y8/3)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
234	④	SS1	陶器	人形	犬	1.5	2.2	2.9		型合わせ成形			鉄釉	暗褐(7.5Y8/3)	粗砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
236	④	遺構外	磁器	小碗	筒丸形	(7.4)	(3.8)	4.9		繻織成形	染付	焼締ぎ痕あり・焼線印あり	透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉
237	④	遺構外	磁器	小碗	端反形	(6.8)	3.1	4.7		繻織成形	染付	高台内に銘あり「明治造」	透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治
238	④	遺構外	磁器	小皿	丸形	(10.9)	(6.6)	1.9		繻織成形	染付・磨痕転写		透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治20年代～大正
239	④	遺構外	磁器	皿	丸形	—	(8.3)	(2.1)		繻織成形	染付	蛇の目凹形高台・焼締ぎ痕あり・厚手	透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
240	④	遺構外	磁器	五寸皿	端反形	(14.5)	(8.2)	4.8		繻織成形	染付・コンニャク印判	高台内に銘あり「〇明〇製」	透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～後半
241	④	遺構外	磁器	段重	高台盤重丸	9.6	8.6	2.2		繻織成形	染付・型擦磨		透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	肥前系	明治10年代以降
242	④	遺構外	陶器	灯明受皿	円筒形	(12.1)	(6.0)	(2.0)	9.4	繻織成形		底面回転へ字削り・仕切高1.0CM受けの高さより高い・スス付着	鉄釉	にふい赤褐(5Y8/4)	細砂粒含む	黒灰(10Y8/6)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
243	④	遺構外	陶器	大鉢	円筒形	(30.5)	(28.8)	(11.3)		繻織成形		貫入あり・脚付き	緑釉	明緑灰(10Y7/1)	粗砂粒含む	灰白(10Y8/2)	白色粒	良好		
244	④	遺構外	土器	灯明皿	無高台平形	—	(6.0)	(2.2)		繻織成形		底面回転糸切り痕・見込部スス付着	無釉		粗砂粒含む	にふい糖(7.5Y8/4)	赤色粒・白色粒・金色雲母	良好	在地系	
246	⑤	SK1	磁器	鉢	腰張形	—	(9.0)	(6.7)		繻織成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	肥前系	
247	⑤	SK1	陶器	小皿	菊花形	(13.2)	(8.0)	(3.0)		型打ち成形			灰油	浅黄(5Y7/3)	密	灰白(5Y7/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
248	⑤	SK1	陶器	小皿	小皿	(9.8)	(5.0)	2.0		繻織成形		襷熱を受け釉が溶けている	灰油	灰白(N8/0)	細砂粒含む	暗オリーブ灰(2.5Y7/1)	黒色粒	良好		
249	⑤	SK3	磁器	中碗	丸形	(10.6)	4.5	5.6		繻織成形	染付	くらわんか碗	透明釉	灰白(10Y7/1)	緻密	黒色粒	黒色粒	良好	肥前系	18世紀
250	⑤	SK3	磁器	浅半球形	中碗	(10.0)	4.0	5.2		繻織成形	染付	彈手	透明釉	灰白(10Y7/1)	緻密	黒色粒	黒色粒	良好	肥前系	18世紀
251	⑤	SK3	陶器	中碗	腰張形	(10.7)	(5.0)	8.1		繻織成形	染付	半磁半陶	長石釉	灰白(10Y7/1)	密	黒色粒	黒色粒	良好	肥前系	
252	⑤	SK3	陶器	碗	碗	—	(4.6)	(4.2)		繻織成形	刷毛目	刷毛目碗	灰油	オリーブ黒(10Y3/1)	密	黒色粒	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀前葉
253	⑤	SK3	陶器	擂鉢	口縁折縁形	(35.0)	(13.2)	(14.5)		繻織成形		底面回転糸切り痕	鉄釉	暗赤褐(5Y8/3)	粗砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系	
256	⑤	SK11	陶器	蓋	蓋	10.6	(8.0)	(2.4)	—	繻織成形		土瓶の蓋・外面に重ねて焼いた痕跡あり	灰油	オリーブ灰(10Y5/2)	粗砂粒含む	灰褐(5Y8/4/2)	白色粒	良好		
257	⑤	SK11	陶器	蓋	蓋	(9.4)	(5.6)	2.1	1.1	繻織成形		土瓶の蓋	鉄釉	黒(10Y1/7/1)	密	灰褐(7.5Y8/4/2)	白色粒	良好		
258	⑤	SK12	陶器	小皿	丸形	(9.6)	(5.5)	1.8		繻織成形		志野・襷熱を受け変色している	長石釉	黄灰(2.5Y4/1)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀前葉
259	⑤	SK12	土製品	玩具	碗	4.1	2.2	1.2		手捏ね成形			無釉		密	赤黄(5Y8/4)	赤色粒	良好		
260	⑤	SK16	陶器	小皿	菊花形	(13.2)	8.4	3.7		型打ち成形			灰油		密	灰(10Y7/1)	赤色粒・白色粒	良好	瀬戸美濃系	
261	⑤	SK16	土器	灯明皿	無高台平形	7.0	3.7	1.8		繻織成形		底面回転糸切り痕・スス付着	無釉		細砂粒含む	にふい糖(7.5Y8/6/3)	赤色粒・白色粒	良好	在地系	
265	⑤	SP5	磁器	碗	丸形	—	(4.0)	(4.2)		繻織成形	染付・コンニャク印判	やや理手	透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末

*法量()は復元表別値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
266	⑤	SP6	磁器	小碗	丸形	(8.0)	3.7	4.6		繻織成形	染付・銅板転写・縁繪	碗の目凹形蓋台	透明釉	繻織	緻密	白	良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降	
267	⑤	SD1	磁器	楕円形	楕円形	(7.4)	(4.4)	5.7		繻織成形	染付	焼成時に重ねた痕跡あり	透明釉	繻織	緻密	黒色粒	良好	肥前系		
268	⑤	SD1	陶器	灯明受皿	油清半月状	(7.0)	(3.6)	1.6	4.6	繻織成形			灰釉	密	灰白(2.5Y7/1)	黒色粒	良好	信楽系		
272	⑤	SS1	磁器	小碗	楕円形	8.2	3.7	4.2		繻織成形	染付・銅板転写		透明釉	繻織	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	大正～戦前	
273	⑤	SS1	磁器	小碗	筒形	(5.6)	(3.6)	5.9		繻織成形	染付・銅板転写		透明釉・ 青色釉	繻織	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降	
274	⑤	SS1	磁器	小坏	端形	5.4	2.2	3.0		型打成形		透明釉・釉薬を施す	透明釉	繻織	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
275	⑤	SS1	磁器	中皿	丸形	10.6	6.1	1.8		繻織成形	染付	輪花	透明釉	繻織	白		良好	瀬戸美濃系		
276	⑤	SS1	磁器	小皿	丸形	17.3	11.5	2.3		型打成形	染付		透明釉	繻織	白		良好	瀬戸美濃系		
277	⑤	SS1	磁器	大皿	八角形	(6.5)	16.0	4.5		型打成形	青磁染付・銅板転写		透明釉	繻織	白	黒色粒	良好	肥前系	明治20年代以降	
278	⑤	SS1	磁器	蓋	丸形	(10.6)	(3.8)	(1.7)		繻織成形	染付・型繪	碗の蓋	透明釉	繻織	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治10年代以降	
279	⑤	SS1	磁器	小瓶	球重形	—	3.2	(3.9)		繻織成形	染付	無高台・底面に墨書あり「のし 依木」	透明釉	繻織	白		良好	瀬戸美濃系		
280	⑤	SS1	磁器	紅瀬口	菊花形	2.7	1.2	1.4		型打成形		内面に緑色・黄色塗料が残る・深め	透明釉	繻織	白		良好	瀬戸美濃系		
281	⑤	SS1	磁器	紅瀬口	方形	3.0	1.8	1.0		型打成形		内面に赤色・緑色塗料が残る	透明釉	繻織	白		良好	瀬戸美濃系		
282	⑤	SS1	陶器	大瓶	高田徳利形	2.6	8.0	22.9		繻織成形		文字徳利	灰釉	密	灰白(N7/0)		良好	瀬戸美濃系		
283	⑤	SS1	陶器	土瓶	丸形	9.6	—	9.0	17.8	繻織成形	絵塗	くらわんか碗	灰釉	密	灰白(2.5Y8/2)		良好	瀬戸美濃系		
286	⑤	SS2	磁器	中碗	丸形	(10.0)	(4.1)	5.3		繻織成形	染付		透明釉	繻織	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
287	⑤	SS2	磁器	中碗	丸形	(9.8)	3.4	4.6		繻織成形	染付・銅板転写・縁繪		透明釉	繻織	白		良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降	
291	⑤	遺構外	磁器	中碗	浅半球形	10.9	3.9	5.5		繻織成形	染付・銅板転写		透明釉	繻織	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治20年代～大正	
292	⑤	遺構外	磁器	小碗	筒丸形	(7.0)	(3.7)	(5.9)		繻織成形	染付		透明釉	繻織	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
293	⑤	遺構外	磁器	小碗	浅半球形	(7.0)	2.1	3.1		繻織成形	染付		透明釉	繻織	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
294	⑤	遺構外	磁器	薄手酒杯	—	(2.6)	(1.8)			繻織成形	染付	見込みに磁あり「寶蔵酒店」	透明釉	繻織	白		良好	瀬戸美濃系		
295	⑤	遺構外	磁器	小皿	丸形	(13.0)	(7.0)	2.5		繻織成形	染付・総付		透明釉	繻織	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
296	⑤	遺構外	磁器	蓋	丸形	6.8	5.1	2.5	1.2	繻織成形	染付・総付	急須の蓋	透明釉	繻織	白		良好	肥前系		
297	⑤	遺構外	磁器	仏飯器	台座高台	—	(4.1)	(4.6)		繻織成形			透明釉	繻織	白	黒色粒	良好	肥前系		
298	⑤	遺構外	磁器	中瓶	球重形	—	(9.8)	(12.0)		繻織成形	染付	輪高台	透明釉	繻織	白	黒色粒	良好	肥前系		
299	⑤	遺構外	陶器	中碗	丸形	(11.8)	4.2	5.6		繻織成形	刷毛目		透明釉	繻織	黒濁(2.5Y3/2)		良好	肥前系		
300	⑤	遺構外	陶器	蓋	丸形	(6.4)	2.9	1.7	1.6	繻織成形		土瓶の蓋	鉄釉	繻織	密			良好	瀬戸美濃系	17世紀末～18世紀前半
301	⑤	遺構外	陶器	片口か	平形	(11.3)	4.7	5.1		繻織成形			灰釉	繻織	密	黒色粒・黒 白色粒	良好	瀬戸美濃系		
302	⑤	遺構外	陶器	中瓶	ベコカン形	—	4.5	(9.8)		繻織成形			鉄釉	密	黒濁(7.5YR4/2)		良好	瀬戸美濃系		
303	⑤	遺構外	陶器	搦鉢	—	—	16.4	(8.8)		繻織成形			鉄釉	粗砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	長石・黒色 粒	良好	瀬戸美濃系		
304	⑤	遺構外	陶器	浅瓶	上部紐手	19.2	12.7	16.6	(5.4)	繻織成形			鉄釉	細砂粒含む	白		良好	瀬戸美濃系		
305	⑤	遺構外	土器	灯明皿	無高台平形	(9.8)	(4.8)	2.7		繻織成形		底部回転糸切り痕	無釉	密		長石・赤色 粒・金色雲 母	良好	在地系		
306	⑤	遺構外	土器	兼漣	たんごろ形	2.8	2.2	1.4	0.7	繻織成形		底部回転糸切り痕・小型半筒形	無釉	密			良好	在地系		
307	⑤	遺構外	土製品	碁石	—	2.1	2.1	0.8		手捏ね成形			無釉	密			良好	在地系		
319	⑤	遺構外	ガラス製品	小瓶	いかり筒形	1.4	(1.9)	5.7				薬瓶・体部に「神楽」の文字・器壁内に氣泡を多量に含 む	無釉	密			良好	在地系		
320	⑥	SK2	磁器	中碗	端形	9.5	3.9	4.9		繻織成形	染付	端反弱い	透明釉	繻織	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
321	⑥	SK2	磁器	中碗	端形	9.0	3.5	4.9		繻織成形	染付		透明釉	繻織	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
322	⑥	SK2	磁器	小皿	丸形	(9.7)	(5.7)	2.0		繻織成形	染付	焼成時・底面に焼線あり「ノ十七」の文字あり・底 部に磁あり「O化年製」	透明釉	繻織	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀	
323	⑥	SK2	磁器	小皿	丸形	(9.7)	(5.8)	2.1		繻織成形	染付	焼成時・底面に焼線あり「O化年製」	透明釉	繻織	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀	
324	⑥	SK2	磁器	蓋	丸形	9.0	4.1	2.5		繻織成形	染付	碗の蓋・焼成時・底面に焼線あり「O化年製」	透明釉	繻織	白		良好	肥前系		
325	⑥	SK6	磁器	中碗	半球形	(9.3)	(4.0)	5.7		繻織成形	染付	被熱し表面が浮いた様に荒れている・見込みに手描き菱 形五弁文	透明釉	繻織	白		良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初 頭	
326	⑥	SK6	磁器	楕円形	筒形	(7.4)	(5.6)	6.2		繻織成形	染付	縁輪高台・被熱し表面が溶けた様に荒れている	透明釉	繻織	白		良好	肥前系		
327	⑥	SK6	磁器	蓋	丸形	13.8	(12.0)	(5.2)	4.0	繻織成形	染付	蓋物の蓋	透明釉	繻織	白	黒色粒	良好	肥前系		
329	⑥	SK13	磁器	中碗	丸形	(10.2)	4.2	5.4		繻織成形	染付	くらわんか碗・厚手	透明釉	繻織	白	黒色粒	良好	肥前系		

*:法量()は還元美測値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
330	⑥	SK13	土器	灯明皿	無高台平形	8.5	6.2	1.6		甃織成形		底部回転糸切り痕	無釉		細砂粒含む	にぶい糖 (5YR6/4)	赤色粒・白 色粒・黒色 粒・金色雲 母	良好 在地系		
331	⑥	SK13	土器	灯明皿	無高台平形	9.8	5.5	2.2		甃織成形		底部回転糸切り痕・全体にスス付着	無釉		粗砂粒含む	にぶい赤褐 (5YR5/3)	赤色粒・白 色粒・黒色 粒・金色雲 母	良好 在地系		
333	⑥	SK14	土器	大甕	口縁断面T字形	(55.1)	25.7	37.0		紐造り		仰所甕	無釉		粗砂粒含む	にぶい糖 (7.5YR6/4)	赤色粒・白 色粒・黒色 粒・金色雲 母	良好		
336	⑥	SK17	磁器	中碗	丸形	9.9	(4.0)	5.6		甃織成形	染付	くらわんか碗・厚手	透明釉		緻密	白	良好	肥前系	18世紀	
340	⑥	SK18	磁器	小碗	筒丸形	7.5	4.3	6.3		甃織成形	染付	焼継ぎ痕あり・焼継印あり	透明釉		緻密	白	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
341	⑥	SK18	磁器	小碗	半球形	8.5	3.7	5.6		甃織成形	染付	焼継ぎ痕あり	透明釉		緻密	白	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初 頭	
342	⑥	SK18	磁器	中碗	端反形	9.1	4.0	4.6		甃織成形	染付		透明釉		緻密	白	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
343	⑥	SK18	磁器	中碗	端反形	(9.0)	3.8	5.1		甃織成形	染付		透明釉		緻密	白	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
344	⑥	SK18	磁器	盥手酒杯	端反形	(5.8)	2.7	2.9		甃織成形	染付	焼継ぎ痕あり・焼継印あり	透明釉		緻密	白	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
345	⑥	SK18	磁器	小皿	丸形	(13.5)	(8.6)	3.6		甃織成形	染付	蛇の目凹形高台	透明釉		緻密	白	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
346	⑥	SK18	磁器	中皿	丸形	18.0	10.8	3.0		型打ち成形	染付	輪花	透明釉		緻密	白	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
347	⑥	SK18	磁器	小瓶	端反球皿形	1.6	—	(6.6)		甃織成形	染付		透明釉		緻密	白	良好	肥前系	18世紀後葉	
348	⑥	SK18	陶器	土瓶	丸形	(6.5)	(6.4)	10.3	16.0	甃織成形		注ぎ口頸部に銚金を巻く・内面に付着物あり	鉄釉		細砂粒含む		黒色粒	良好		
349	⑥	SK18	陶器	土瓶	丸形	(5.5)	5.9	11.5	17.4	甃織成形			灰釉		細砂粒含む	灰白(2.5Y7/1)	黒色粒	良好		
366	⑥	SK45	陶器	擂鉢	口縁玉縁形	(32.6)	(10.0)	14.0		甃織成形			鉄釉		密	灰白(5Y7/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
367	⑥	SK53	土器	灯明皿	無高台平形	(8.2)	(5.8)	1.6		甃織成形		底部回転糸切り痕	無釉		粗砂粒含む	にぶい赤褐 (5YR5/3)	赤色粒・白 色粒・黒色 粒・金色雲 母	良好 在地系		
368	⑥	SK54	陶器	小壺	厚筒形	—	(6.0)	(6.5)		甃織成形			灰釉		細砂粒含む	灰白(7.5Y8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀中葉～18世紀後 葉
369	⑥	SK56	陶器	中碗	腰瓶形	8.9	5.0	5.6		甃織成形	呉須絵	肥前系焔風陶器・山水文	灰釉		細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好	肥前系	
370	⑥	SK56	土器	灯明皿	無高台平形	6.5	4.2	1.4		甃織成形		底部回転糸切り痕	無釉		粗砂粒含む	にぶい黄褐 (10YR7/2)	赤色粒・金 色雲母	良好 在地系		
376	⑥	SK57	陶器	小皿	平形	—	(5.8)	(1.1)		甃織成形		高台内に輪・チン痕あり・火窯か	灰釉		粗砂粒含む	灰白(2.5Y7/1)	長石	良好	瀬戸美濃系	
377	⑥	551	磁器	中碗	平形	12.4	4.0	5.0		甃織成形	染付・銅板転写		透明釉		緻密	白	良好	瀬戸美濃系	明治20年代～大正	
378	⑥	551	陶器	火入れ	変形	9.9	6.2	7.4		甃織成形	絵付	底部に墨書あり	灰釉		緻密	にぶい黄褐 (10YR6/3)		良好		
379	⑥	551	土器	焙烙	有耳	(31.0)	(29.4)	5.8		甃織成形		底平坦・外面全体にスス付着	無釉		粗砂粒含む	にぶい褐 (7.5YR3/6)	赤色粒・白 色粒・金色 雲母	良好 在地系		
382	⑥	552	磁器	小碗	筒丸形	(8.3)	4.8	7.5		甃織成形	染付	焼継ぎ痕あり・焼継印あり	透明釉		緻密	白	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
383	⑥	552	磁器	中碗	端反形	(9.2)	3.5	5.1		甃織成形	染付	焼継ぎ痕あり・焼継印あり	透明釉		緻密	白	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
384	⑥	552	磁器	蓋	半筒形	(14.5)	(10.0)	6.5		甃織成形	染付	焼継ぎ痕あり	透明釉		緻密	白	良好	肥前系		
385	⑥	552	磁器	蓋	筒形	(10.0)	(4.8)	2.8		甃織成形	染付	碗の蓋	透明釉		緻密	白	良好	肥前系		
386	⑥	552	磁器	仏飯器	台底輪高台	—	4.0	(4.6)		甃織成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	
388	⑥	5510	土器	灯明皿	無高台平形	(9.9)	(6.0)	2.2		甃織成形		底部回転糸切り痕	無釉		粗砂粒含む	糖(7.5YR6/6)	長石・石英・ 金色雲母	良好 在地系		
389	⑥	5510	土器	灯明皿	無高台平形	(9.6)	(6.2)	2.5		甃織成形		底部回転糸切り痕	無釉		粗砂粒含む	にぶい黄褐 (10YR6/3)	長石・石英	良好 在地系		
391	⑥	5X4	土製品	根付	楕円形	5.8	5.0	2.1		型押成形	型押文様		無釉		密	灰黄褐 (10YR5/2)		良好		
392	⑥	連構外	磁器	小碗	半筒形	(7.6)	(3.4)	6.0		甃織成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初
393	⑥	連構外	磁器	小碗	筒丸形	7.0	3.8	6.0		甃織成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉
394	⑥	連構外	磁器	猪口	楕円形	(7.5)	(4.8)	5.4		甃織成形	染付	底部に渦福	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	
395	⑥	連構外	磁器	小杯	腰張形	5.0	2.9	2.8		甃織成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	
396	⑥	連構外	磁器	小皿	折縁形	(11.2)	6.3	2.5		型打ち成形	染付	輪花	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	

*法量()は復元表別値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
397	⑥	遺構外	磁器	小瓶	端反縁直形	1.7	2.8	7.2		染付		透明釉 吹釉・ ウノフ 釉	白	白	胎土色調		良好	推定産地	推定生産年代	
398	⑥	遺構外	陶器	中碗	丸形	(10.0)	—	5.4		鉄絵	内面にスス付着・一部にウノフ釉を施す	無釉	黒褐(7.5YR2/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
399	⑥	遺構外	陶器	灯明皿	クリ底平形	10.4	5.0	2.4				無釉	黒褐(7.5YR2/2)	細砂粒含む	褐灰(7.5YR5/1)	赤色粒・白 色粒・黒色 粒・金色塵 母	良好	瀬戸美濃系		
400	⑥	遺構外	土器	灯明皿	無高台平形	10.2	7.4	1.9			底部回転糸切り痕・内外共に被熱する	無釉		細砂粒含む	明赤褐 (2.5YR5/6)		良好	在地系		
401	⑥	遺構外	土器	大甕		—	24.5	<10.7>			便所糞・外面にスス付着	無釉		細砂粒含む	黄褐 (7.5YR8/8)・内) 灰白(5Y8/2)		良好		18世紀中葉～19世紀初 頭	
418	⑦	SK1	磁器	碗	半球形	—	3.5	<3.6>		染付・コンニャク印判	くらわんか碗・見込五弁花文	透明釉		緻密	白		良好	肥前系		
419	⑦	SK1	磁器	段重	腰部括弧有り	(12.6)	(8.5)	4.8		染付		透明釉		緻密	白		良好	肥前系		
420	⑦	SK1	磁器	播鉢	口縁外帯三段	31.7	—	<7.1>			口縁内凸帯小	無釉		細砂粒含む	晒赤褐 (7.5YR3/2)		良好	堺・明石系		
421	⑦	SK1	土製品	七厘		(20.6)	—	<9.6>				無釉		粗砂粒含む	赤褐(2.5YR4/6)色粒・金色 塵母		良好	在地系		
425	⑦	SK6	磁器	小碗	平形	8.0	3.7	4.0			蛇の目凹形高台・縁袖縁後縁流し	緑釉・ 鉄釉	明緑灰(10GY7/1)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)		良好			
426	⑦	SK7	陶器	中碗	腰形	—	4.6	<4.1>			腰筋線・灰袖・鉄袖掛け分け	鉄釉・ 灰釉	明緑灰(10GY7/1)	粗砂粒含む	灰赤(2.5Y7/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
436	⑦	SK10	陶器	灯明受皿	油清半月状	10.8	4.1	2.3	7.0		底部回転へつ削り・内面に汚れ・金属粒子付着	鉄釉	明緑灰(10GY7/1)	粗砂粒含む	灰白(5Y8/1)		良好	京・信楽系	18世紀中葉～19世紀初 頭	
437	⑦	SK11	磁器	碗	半球形	—	(4.9)	4.6		青磁染付	底部に湯福	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
438	⑦	SK11	陶器	灯明受皿		(10.8)	4.2	1.7	7.8			鉄釉		細砂粒含む	灰(№6)		良好	瀬戸美濃系		
439	⑦	SK12	磁器	五寸皿	丸形	(13.6)	(7.6)	4.9		染付・コンニャク印判	見込五弁花文・底部方形縁内に湯福	透明釉		緻密	灰(№6)		良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
440	⑦	SK12	陶器	鉢形容器	半高香炉形	(5.6)	(3.4)	4.5				鉄釉		細砂粒含む	灰白(5Y7/2)		良好			
444	⑦	SK15	磁器	中碗	浅半球形	(10.3)	3.6	4.6		染付		透明釉		緻密	白		良好	肥前系	18世紀	
445	⑦	SK15	磁器	小碗	半筒形	7.6	3.8	5.5		染付	見込手描き五弁花	透明釉		緻密	白		良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初	
446	⑦	SK15	磁器	猪口	桶形	7.1	4.2	5.5		染付	腰輪高台・底部に鋭角「大明年製」	透明釉		緻密	白		良好	肥前系		
447	⑦	SK15	磁器	小杯	罐反形	7.5	3.9	5.3		染付	腰輪高台・底部に鋭角「大明年製」	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀	
448	⑦	SK15	磁器	紅頸口	平形	3.1	1.5	1.3				白磁釉		緻密	白		良好			
449	⑦	SK15	磁器	五寸皿	丸形	(14.5)	(8.4)	3.1		染付・コンニャク印判	見込に輪壳・見込五弁花文	透明釉		緻密	白		良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
450	⑦	SK15	磁器	蓋	筒形	10.5	3.9	3.2		染付	塑料碗の蓋	透明釉		緻密	白		良好	肥前系	18世紀中葉～後葉	
451	⑦	SK15	磁器	蓋物	口縁強軸	(5.8)	4.6	8.1		染付	蛇の目凹形高台	透明釉		緻密	白		良好	肥前系		
452	⑦	SK15	陶器	小壺	双耳瀬戸壺形	7.2	7.1	10.0		染付	双耳壺	黄釉	明黄褐(2.5Y6/6)	細砂粒含む	淡黄(2.5Y8/3)		良好	瀬戸美濃系		
453	⑦	SK15	陶器	中瓶		—	6.0	12.3			内面汚れ付着・内外面一部吹釉	鉄釉		細砂粒含む	灰白(5Y7/1)	白色粒	良好			
454	⑦	SK15	陶器	縁鉢	口縁玉縁形	(18.1)	8.0	8.6			見込にトナリ痕3ヶ所・吹釉袖後縁袖を掛ける	吹釉・ 鉄釉	灰白(5Y7/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)		良好	瀬戸美濃系		
458	⑦	SK16	陶器	中碗	丸形	(11.2)	5.6	6.9			削り出し高台	鉄釉	灰白(5Y7/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y7/1)		良好			
459	⑦	SK16	陶器	蓋	丸形	—	11.6	(8.9)			削り出し高台	鉄釉	灰白(5Y7/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y7/1)		良好			
460	⑦	SK17	磁器	中碗	丸形	(9.6)	(4.4)	5.4		染付・コンニャク印判	くらわんか碗	透明釉		緻密	白		良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
461	⑦	SK17	磁器	仏飯器	台底輪高台	(8.2)	4.3	6.0		染付	輪高台	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
462	⑦	SK17	陶器	中碗	腰形	(10.3)	(5.4)	6.4			腰筋線・鉄・灰袖掛け分け	吹釉・ 鉄釉	灰白(10YR7/2)・晒褐 (7.5YR3/4)	粗砂粒含む	灰(№7)		良好			
463	⑦	SK17	陶器	中碗	丸形	(11.0)	4.4	7.5			灰袖碗	鉄釉	灰白(5Y8/1)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)		良好			
464	⑦	SK17	陶器	中碗	丸形	(11.2)	5.0	<7.1>			削り出し高台・尾呂茶碗	鉄釉・ ウノフ 釉	灰白(2.5Y8/2)	粗砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
465	⑦	SK17	陶器	小碗	丸形	(8.0)	4.1	(4.1)			削り出し高台	鉄釉	灰白(2.5Y7/3)	粗砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒 色粒	良好	瀬戸美濃系		
466	⑦	SK17	陶器	小皿	丸形	(12.9)	7.1	2.5		鉄絵・型紙摺	淵絵皿	鉄釉	灰白(2.5Y7/1)	粗砂粒含む	灰白(2.5Y7/1)		良好	瀬戸美濃系		
467	⑦	SK17	陶器	小皿	丸形	(10.3)	4.2	2.4			底部削り出し・内面及び外縁部に鉄釉を掛ける	鉄釉	黒(5YR1.7/1)	粗砂粒含む	オリーブ黄 (5Y6/3)		良好	瀬戸美濃系		

*:法量()は複元美測値、〈 〉は現存値である。

報告書番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	捺付・裝飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
468	⑦	SK17	陶器	小皿	丸形	(11.9)	4.4	3.7		龍鱗成形	輪赤血	特微・備考	灰釉・緑釉	灰白(10YR8/1)・オリブ灰(2.5YG5/1)	細砂粒含む	灰白(10YR8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
469	⑦	SK17	陶器	中鉢	浅丸形	—	(12.4)	(7.5)		龍鱗成形	三島手・目跡あり		鉄釉	暗赤灰(10R3/1)	粗砂粒含む	赤(10YR5/6)	長石・石英・金色雲母	良好	肥前系	18世紀前半
470	⑦	SK17	土器	灯明皿	無高台平形	(11.5)	(5.4)	3.3		龍鱗成形	外面下半に指頭瓦痕あり・内面成熟・底部にハケメ		無釉		粗砂粒含む	灰白(7.5Y7/1)	長石・石英・金色雲母	良好	在地系	
471	⑦	SK17	陶器	甗鉢	口縁玉縁形	(27.0)	(11.2)	11.0		龍鱗成形	底部回転糸切り痕		鉄釉	にぶい赤褐(5YR4/4)	粗砂粒含む	濃黄(2.5Y8/3)	長石・黒色粒・金色雲母	良好	瀬戸美濃系	
481	⑦	SK19	土器	灯明皿	無高台平形	6.6	4.2	1.3		龍鱗成形	底部回転糸切り痕・スス付着		無釉		粗砂粒含む	にぶい黄緑(10YR7/2)	長石・黒色粒・金色雲母	良好	在地系	
485	⑦	SK22	磁器	中碗	丸形	(10.4)	(4.0)	5.3		龍鱗成形	捺付	焼継ぎ痕あり・高台内に焼継ぎ痕あり	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
486	⑦	SK22	磁器	中碗	丸形	(10.0)	(3.6)	5.4		龍鱗成形	捺付		透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
487	⑦	SK22	磁器	中碗	丸形	(10.6)	4.1	4.9		龍鱗成形	捺付	歪みあり	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
488	⑦	SK22	磁器	中碗	丸形	9.8	3.5	5.2		龍鱗成形	捺付	高台内に方形枠内に「甲」	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
489	⑦	SK22	磁器	中碗	平形	(11.0)	4.2	5.3		龍鱗成形	捺付	高台内に方形枠内に「甲」	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀後半
490	⑦	SK22	磁器	中碗	丸形	(9.9)	3.9	4.8		龍鱗成形	捺付	焼継ぎ痕あり・焼継印「十二」	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
491	⑦	SK22	磁器	小碗	碗反形	8.8	3.4	4.6		龍鱗成形	捺付・縁繕	端反弱し	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀後半
492	⑦	SK22	磁器	中碗	碗反形	10.8	4.4	6.2		龍鱗成形	捺付	端反弱し・焼継ぎ痕あり・焼継印あり(2重積)	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後半
493	⑦	SK22	磁器	中碗	端反形	10.0	4.0	5.4		龍鱗成形	捺付		透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀後半
494	⑦	SK22	磁器	薄手酒杯	碗反形	8.8	3.7	4.4		龍鱗成形	捺付	焼継ぎ痕あり・見込に数あり「大明年造」	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
495	⑦	SK22	磁器	中碗	平形	11.1	4.7	4.5		龍鱗成形	捺付		透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀後半
496	⑦	SK22	磁器	小碗	碗丸形	7.2	3.6	5.6		龍鱗成形	捺付	口縁弱く外反する・焼継ぎ痕あり	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後半
497	⑦	SK22	磁器	小碗	筒形	7.6	4.6	6.9		龍鱗成形	捺付	見込部に手摺五弁花・口縁弱く外反する	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
498	⑦	SK22	磁器	小碗	碗丸形	6.5	(3.5)	5.2		龍鱗成形	捺付	わずかに歪みあり	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後半
499	⑦	SK22	磁器	小鉢	筒形	(5.0)	3.0	5.7		龍鱗成形	捺付	高台内に方形枠内に「甲」	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
500	⑦	SK22	磁器	小碗	碗反形	7.1	3.3	4.4		龍鱗成形	捺付	端反弱し	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
501	⑦	SK22	磁器	小碗	碗反形	6.6	3.1	4.8		龍鱗成形	捺付	端反弱し	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
502	⑦	SK22	磁器	小碗	端反形	7.2	3.4	3.6		龍鱗成形	捺付	端反弱し	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
503	⑦	SK22	磁器	小碗	碗反形	6.5	3.3	4.7		龍鱗成形	捺付	端反弱し	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
504	⑦	SK22	磁器	小碗	碗反形	7.4	3.6	3.6		龍鱗成形	捺付	端反弱し	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
505	⑦	SK22	磁器	薄手酒杯	碗反形	(6.4)	(2.4)	3.0		龍鱗成形	捺付・上縁付		透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
506	⑦	SK22	磁器	薄手酒杯	丸形	(6.6)	2.5	2.7		龍鱗成形	捺付・上縁付		透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
507	⑦	SK22	磁器	小碗	碗反形	6.3	2.9	4.1		龍鱗成形	捺付		透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
508	⑦	SK22	磁器	小碗	筒丸形	6.7	3.2	4.8		龍鱗成形	捺付		透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後半
509	⑦	SK22	磁器	小碗	碗反形	(6.6)	(3.0)	4.4		龍鱗成形	捺付		透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
510	⑦	SK22	磁器	小皿	丸形	(13.3)	(6.7)	2.7		型押成形	輪花・蛇の目凹形高台		透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
511	⑦	SK22	磁器	紅箱口	胡唐草形	6.0	2.0	1.5		型押文様	碗の蓋・内面 松竹梅・外面草花と風景		白磁釉		緻密	灰白(N8/)		良好	瀬戸美濃系	19世紀
512	⑦	SK22	磁器	蓋	蓋	(9.9)	3.4	2.7		龍鱗成形	捺付		透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
513	⑦	SK22	磁器	蓋	蓋	9.4	4.0	2.6		龍鱗成形	捺付	碗の蓋・見込みに「壽」・高台内に方形枠内に変形文字	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
514	⑦	SK22	磁器	蓋	蓋	(9.2)	4.0	2.7		龍鱗成形	捺付	碗の蓋・見込みに「大明年製」・文様 花と蝶	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
515	⑦	SK22	磁器	蓋	蓋	9.4	(4.0)	2.8		龍鱗成形	捺付		透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
516	⑦	SK22	磁器	蓋	蓋	5.0	4.4	1.9	1.3	龍鱗成形	捺付		透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
517	⑦	SK22	磁器	蓋	蓋	10.4	4.1	(2.9)		龍鱗成形	捺付		透明釉		緻密	灰白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
518	⑦	SK22	磁器	中鉢	短干形	(15.7)	7.0	(7.9)		龍鱗成形	捺付		透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
519	⑦	SK22	磁器	火入れ	筒形	—	5.5	(8.1)		龍鱗成形	捺付	底部「イ」墨書	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
520	⑦	SK22	磁器	神酒徳利	瓶子形	—	(4.5)	(9.0)		龍鱗成形	捺付	輪台・焼継ぎ痕あり・底部に焼継印あり・内面無釉	瑠璃釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
521	⑦	SK22	磁器	神酒徳利	瓶子形	—	(4.5)	(9.0)		龍鱗成形	捺付	輪台・焼継ぎ痕あり・底部に焼継印あり・内面無釉	瑠璃釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
522	⑦	SK22	磁器	散り運華	小型	8.2	3.3	4.4		型押成形	捺付	焼継印あり「イナニ」	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
523	⑦	SK22	磁器	散り運華	小型	(8.5)	(4.2)	8.6		型押成形	捺付		透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
524	⑦	SK22	陶器	小鉢	丸形	(9.8)	(6.0)	4.6		龍鱗成形	捺付		透明釉		緻密	灰白(5Y8/2)		良好	瀬戸美濃系	19世紀
525	⑦	SK22	陶器	小碗	丸形	(8.6)	—	(5.1)		龍鱗成形	捺付		透明釉		緻密	灰白(2.5Y7/1)		良好	瀬戸美濃系	19世紀
526	⑦	SK22	陶器	鉢形容器	半筒香形	—	6.0	(6.9)		龍鱗成形	捺付	底部無釉	透明釉		緻密	灰白(5Y7/2)		良好	瀬戸美濃系	19世紀
527	⑦	SK22	陶器	小皿	筒形	(8.0)	(3.2)	1.2		型押成形	捺付		透明釉		緻密	赤(10YR5/6)		良好	瀬戸美濃系	19世紀
528	⑦	SK22	陶器	灯明受皿	碗反形	9.5	5.6	2.6	6.2	龍鱗成形	捺付	底部回転糸切り痕・外面の一部と底部にスス付着	鉄釉		緻密	灰白(5Y7/1)		良好	瀬戸美濃系	19世紀
529	⑦	SK22	陶器	灯明受皿	拉形	8.1	4.2	6.1	5.0	龍鱗成形	捺付	底部回転糸切り痕・外面の一部と底部にスス付着	鉄釉		緻密	灰白(10YR8/1)		良好	京・信楽系	19世紀
530	⑦	SK22	陶器	蓋	蓋	8.2	6.3	2.8	1.4	龍鱗成形	捺付	土瓶の蓋	鉄釉		緻密	内面 浅黄緑(10YR8/3)		良好	瀬戸美濃系	19世紀

*法量()は物元表別値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)			成形技法	絵付・裝飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C											
531	⑦	SK22	陶器	行平	胎丸形	13.0	6.0	5.5	無釉成形	ハケメ		鉄釉	明赤褐 (5YR3/2)	細砂粒含む	明赤褐 (2.5YR5/6)	良好			
532	⑦	SK22	陶器	中腹	胎丸形	25.6	—	〈14.1〉	無釉成形			鉄釉	明赤褐 (5YR3/6)	細砂粒含む	灰白 (7.5Y8/1)	良好			
533	⑦	SK22	陶器	漏斗	胎丸形	10.7	〈1.2〉	〈5.7〉	無釉成形			鉄釉	明赤褐 (5YR5/6)～褐 (7.5YR4/4)	細砂粒含む	灰白 (2.5Y8/2)	良好			
534	⑦	SK22	土製品	人形	胎丸形	1.6	1.8	4.7	泥合わせ成形			無釉	外・褐 (10R5/4)・内・青赤褐 (10R4/2)	細砂粒含む	灰白 (5Y7/1)	良好			
547	⑦	SK23	磁器	中碗	胎丸形	11.2	4.1	6.1	無釉成形	染付	端反弱い	透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀中葉～後葉	
549	⑦	SK23	磁器	中碗	胎丸形	8.8	3.4	4.4	無釉成形	染付・線繪	端反弱い	透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀中葉～後葉	
549	⑦	SK23	磁器	中碗	胎丸形	10.6	3.9	5.8	無釉成形	染付	端反弱い	透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀中葉～後葉	
550	⑦	SK23	磁器	中碗	胎丸形	9.6	3.6	4.9	無釉成形	染付		透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀	
551	⑦	SK23	磁器	小瓶	胎丸形	—	3.1	7.3	無釉成形	染付	無高台	透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀	
552	⑦	SK23	磁器	神酒徳利	胎丸形	—	4.1	〈8.0〉	無釉成形	染付	無高台	透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀	
553	⑦	SK23	陶器	灯明受皿	胎丸形	9.0	3.3	〈2.1〉	5.8	無釉成形	底部回転へり削り	灰釉	外・褐 (10R5/4)・内・青赤褐 (10R4/2)	細砂粒含む	灰白 (5Y7/1)	良好			
554	⑦	SK23	陶器	行平	胎丸形無足	14.0	—	〈6.3〉	無釉成形			鉄釉	外・褐 (10R5/4)・内・青赤褐 (10R4/2)	細砂粒含む		良好			
559	⑦	SK24	磁器	中碗	胎丸形	9.2	3.8	4.9	無釉成形	染付	くらわんか瀬・器壁厚い	透明釉	白	緻密	灰白 (N8)	良好		18世紀	
560	⑦	SK24	磁器	小碗	胎丸形	6.6	—	〈4.3〉	無釉成形	染付		透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀	
561	⑦	SK24	磁器	小碗	胎丸形	8.8	3.7	4.3	無釉成形	染付	端反弱い	透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀後葉	
562	⑦	SK24	磁器	線香筒	胎丸形	—	5.5	〈9.1〉	無釉成形	染付		透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀	
563	⑦	SK24	陶器	行平	胎丸形無足	18.4	〈7.8〉	10.4	無釉成形			鉄釉	オリーブ黒 (7.5Y3/2)・灰褐 (5YR4/2)	細砂粒含む	灰白 (5Y7/1)	良好			
564	⑦	SK24	陶器	蓋	胎丸形	5.8	3.9	2.6	1.0	無釉成形		鉄釉	暗褐 (7.5YR3/3)	細砂粒含む	灰白 (5Y7/1)	良好			
565	⑦	SK24	陶器	灯明皿	胎丸形	10.6	5.0	2.2	無釉成形		底部回転へり削り	鉄釉	暗褐 (7.5YR3/4)	細砂粒含む	灰白 (5Y8/1)	良好			
566	⑦	SK24	陶器	灯明受皿	胎丸形	10.4	4.8	2.1	7.0	無釉成形	底部回転へり削り	鉄釉	暗赤褐 (5YR3/4)	細砂粒含む	灰白 (5Y8/1)	良好			
567	⑦	SK24	陶器	兼焼	胎丸形	5.8	〈4.7〉	5.6	1.2	無釉成形	底部回転へり削り・底面輪孔あり	鉄釉	暗赤褐 (5YR3/3)	細砂粒含む	灰白 (5Y8/1)	良好			
568	⑦	SK24	陶器	水鉢	胎丸形	—	—	〈9.3〉	無釉成形	彫刻・流水状文		灰釉	灰白 (10Y7/2)	細砂粒含む	灰白 (7.5Y7/1)	良好			
569	⑦	SK24	土器	灯明皿	胎丸形無足	10.1	6.7	2.2	無釉成形		底部回転糸切り痕	無釉	灰白 (10Y7/2)	粗砂粒含む	灰白 (7.5Y7/1)	良好			
575	⑦	SK29	磁器	蓋	胎丸形	9.3	〈3.5〉	2.3	無釉成形	染付	碗の蓋・見込に銘あり「大化年制」	透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀	
576	⑦	SK32	磁器	中碗	胎丸形	8.5	—	〈5.3〉	無釉成形	染付・色絵	焼裂ぎ痕あり	透明釉	白	緻密	白	良好		18世紀中葉～19世紀初	
577	⑦	SK32	磁器	中碗	胎丸形	10.4	4.2	6.1	無釉成形	染付	端反弱い	透明釉	白	緻密	白	良好		18世紀中葉～後葉	
578	⑦	SK32	磁器	中碗	胎丸形	11.2	3.5	5.7	無釉成形	染付	端反弱い	透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀	
579	⑦	SK32	磁器	小碗	胎丸形	8.0	3.4	3.7	無釉成形	青磁染付・色絵	蛇の目凹形溝合・底部無軸	青磁釉	外・甲線灰 (10G8/1)・中白	緻密	白	良好			
580	⑦	SK32	磁器	小碗	胎丸形	6.5	2.9	4.2	無釉成形	染付		透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀中葉	
581	⑦	SK32	磁器	小碗	胎丸形	6.7	〈5.0〉	7.2	無釉成形	上絵付		透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀中葉	
582	⑦	SK32	磁器	紅箱口	胎丸形	4.6	1.5	1.1	型打成形			白磁釉	白	緻密	灰白 (7.5Y8/1)	良好			
583	⑦	SK32	磁器	小皿	胎丸形	9.4	5.0	2.3	型押文様			白磁釉	白	緻密	白	良好			
584	⑦	SK32	磁器	小鉢	胎丸形	10.7	5.7	3.0	無釉成形	染付	焼裂ぎ痕あり・焼印「ウ五一」・高台内に二重方形枠内に「福」	透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀前葉～中葉	
585	⑦	SK32	磁器	中皿	胎丸形	18.5	13.6	3.6	無釉成形	染付	端反弱い	透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀	
586	⑦	SK32	磁器	蓋	胎丸形	9.1	〈3.2〉	2.7	無釉成形	染付		透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀	
587	⑦	SK32	磁器	神酒徳利	胎丸形	—	4.7	8.3	無釉成形	染付	無高台	透明釉	白	緻密	灰白 (7.5Y7/1)	良好		18世紀後葉～19世紀中	
588	⑦	SK32	磁器	急須	胎丸形	7.5	6.6	8.4	14.6	無釉成形	染付	透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀	
589	⑦	SK32	陶器	蓋	胎丸形	6.1	3.4	1.6	3.0	無釉成形	底部回転糸切り痕・土瓶の蓋	灰釉	灰白 (7.5YR8/2)	細砂粒含む	灰白 (7.5YR8/2)	良好			
590	⑦	SK32	土器	煙炉	胎丸形	21.8	〈2.1〉	19.0	無釉成形	口縁部窓・口縁内瓶掛・外面ミガキ・黒色処理・内面ス入付着・三足か		無釉	細砂粒含む	灰黄 (2.5Y7/2)	良好				
591	⑦	SK32	土器	煙炉	胎丸形	—	21.7	〈15.7〉	無釉成形	口縁部窓・外面ミガキ・黒色処理・内面ス入付着・三足か		無釉	細砂粒含む	灰白 (10Y7/1)	良好				
592	⑦	SK32	土器	火消し壺	胎丸形	22.5	22.3	18.9	無釉成形	内面ス入付着・外面削落痕しい・三足		無釉	細砂粒含む	灰白 (N7)	良好				
593	⑦	SK32	土器	炬燵(炉)	胎丸形	25.1	20.9	16.0	無釉成形	全体にス入付着		無釉	細砂粒含む	黒 (7.5Y2/1)・にふい褐 (7.5Y6/3)	良好				
605	⑦	SK36	磁器	中碗	胎丸形	10.4	3.8	5.7	無釉成形	染付	端反弱い	透明釉	白	緻密	白	良好		19世紀中葉～後葉	

*:法量()は復元美測値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	捺付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D										
606	⑦	SK36	磁器	中碗	端反形	9.8	4.0	6.3		襷織成形	染付	端反弱い・襷織ぎ種あり・襷織印あり	透明釉	緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉
607	⑦	SK36	磁器	中碗	丸形	9.8	3.3	4.5		襷織成形	染付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
608	⑦	SK36	磁器	小碗	筒丸形	7.2	4.6	5.9		襷織成形	染付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉
609	⑦	SK36	磁器	小碗	端反形	8.3	3.4	4.0		襷織成形	染付・駒柄転写・縁綷	蛇の目凹形高台	透明釉	緻密	白		良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降
610	⑦	SK36	磁器	薄手酒杯	平形	(6.6)	1.9	2.6		襷織成形	染付・上絵付	御高台・「尾張製」・見込に「開化亭」の文字	透明釉	緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
611	⑦	SK36	磁器	小皿	八角形	8.3	4.0	2.6		型打成形	染付・型押文様		透明釉	緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
612	⑦	SK36	磁器	中皿	折縁形	(20.4)	(11.6)	1.8		襷織成形	印面		透明釉	密	灰白 (5Y8/1)		良好		近代
613	⑦	SK36	陶器	中碗	丸形	(11.4)	(7.2)	6.4		襷織成形			鉄釉・ 灰釉・ ウノフ ウノフ 釉	細砂粒含む		黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
614	⑦	SK36	陶器	蓋		15.5	13.4	4.0	1.7	襷織成形		土鍋の蓋	鉄釉・ ウノフ 釉	細砂粒含む		白色粒	良好		
615	⑦	SK36	土器	蓋		(24.2)	(26.3)	(6.8)		襷織成形		火消し蓋の蓋か	無釉			赤色粒・白 色粒・金色 雲母	良好		
622	⑦	SK37	磁器	蓋物	腰皿形	9.4	5.2	4.6		襷織成形	染付	襷織印「夕五」	透明釉	緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
623	⑦	SK37	磁器	中碗	端反形	8.3	3.2	4.2		襷織成形	染付	端反弱い・蛇の目凹形高台・墨付無釉	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉
624	⑦	SK37	磁器	小杯	端反形	5.6	3.0	2.5		襷織成形	染付		透明釉	緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
625	⑦	SK37	磁器	蓋	丸形	(9.7)	(4.1)	2.8		襷織成形	染付・縁綷	所の蓋	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
626	⑦	SK37	磁器	小水注	多角形	8.1	8.2	3.8	9.8	襷織成形	染付		透明釉	緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
627	⑦	SK37	磁器	燗德利	筒口形	2.8	6.2	16.7		襷織成形			白磁釉	緻密	灰白 (7.5Y8/1)		良好		
628	⑦	SK37	陶器	小皿	方形	7.9	4.8	2.4		型打成形	型押文様		鉄釉	細砂粒含む			良好	瀬戸美濃系	
629	⑦	SK37	陶器	蓋		11.7	9.0	3.1	3.1	襷織成形		土鍋の蓋	鉄釉	細砂粒含む			良好	瀬戸美濃系	
630	⑦	SK37	陶器	蓋		9.0	3.0	2.1	3.0	襷織成形	削毛目	急須の蓋・底部回転糸切り痕・竜形把手	灰釉・ 鉄釉	細砂粒含む			良好		
631	⑦	SK37	陶器	土瓶	丸形	6.6	7.5	7.5	—	襷織成形			透明釉	細砂粒含む			良好		
632	⑦	SK37	陶器	土瓶	丸形	6.0	7.0	9.9	13.8	襷織成形		スス付着	鉄釉・ 長石釉	細砂粒含む			良好	瀬戸美濃系	
633	⑦	SK37	陶器	玩具	土瓶	3.0	3.0	4.4	7.4	襷織成形			鉄釉	細砂粒含む		赤色粒・白 色粒	良好		
634	⑦	SK37	土器	火鉢か		(29.0)	—	—		襷織成形	ハケメ	内面スス付着	無釉	粗砂粒含む		石英・赤色 粒・白色粒・ 黒色粒・黒 色雲母	良好		
635	⑦	SK37	土器	仕切り籠	端反盤形	16.6	13.6	5.9		襷織成形		三足貼り付け・仕切り貼り付け・口縁部及び仕切り部の一部に煤付着	無釉	粗砂粒含む		赤色粒・白 色粒・金色 雲母	良好	在地系	
636	⑦	SK37	土製品	羽口	平形	(9.7)	6.5	1.5		粘土増量き上げ		酒器物付蓋(スラグ)	無釉	細砂粒含む		長石	良好		
637	⑦	SK37	土器	玩具	火消し蓋	2.3	2.4	2.4		襷織成形		底部回転糸切り痕	無釉	細砂粒含む		黒色粒	良好		
638	⑦	SK37	土製品	土鈴		3.0	3.0	0.3		手捏ね成形			無釉	細砂粒含む		黒色粒	良好		
639	⑦	SK37	土製品	人形	狐	3.9	2.5	6.6		型合わせ成形			無釉	細砂粒含む			良好		
647	⑦	連携外	磁器	小碗	半筒形	(7.0)	3.8	5.3		襷織成形	染付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初
648	⑦	連携外	磁器	小碗	丸形	8.6	3.8	4.9		襷織成形	染付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
649	⑦	連携外	磁器	小碗	端反形	6.7	3.1	4.5		襷織成形	染付・駒柄転写	端反弱い	透明釉	緻密	白		良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降
650	⑦	連携外	磁器	小碗	端反形	6.5	3.1	4.5		襷織成形	染付	端反弱い・蛇の目凹形高台	透明釉	緻密	白		良好	肥前系	19世紀中葉
651	⑦	連携外	磁器	小碗	端反形	6.0	2.8	3.9		襷織成形	青磁染付	端反弱い	透明釉	緻密	白		良好	肥前系	
652	⑦	連携外	磁器	薄手酒杯	平形	6.7	2.2	2.7		襷織成形	染付	御高台・「尾張製」	透明釉	緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀
653	⑦	連携外	磁器	小皿	丸形	(9.6)	(5.4)	2.4		襷織成形	染付・コンヤク印判		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末

*法量()は物元表別値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
654	⑦	遺構外	磁器	蓋	無蓋成形	10.8	3.8	2.7		青磁染付・縁錆	柄の蓋	透明釉	外) 明緑灰 (10GY8/1)	緻密	白	白		良好		
655	⑦	遺構外	磁器	土瓶	彫元形	7.9	8.3	9.35	14.0	染付		透明釉		緻密	白		黒色粒	良好	肥前系	
656	⑦	遺構外	磁器	小瓶	棟重形	—	3.6	(7.9)		色絵	『南庫抄』運蓮様・の末文字	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
657	⑦	遺構外	磁器	仏飯器	台座輪高台	(6.6)	4.0	6.7		染付	蛇の目凹形高台	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
658	⑦	遺構外	陶器	小碗	丸形	7.7	3.9	3.9		染付・縁錆	高台部に割突痕・染付の草文に鉄軸の文様	鉄釉	明オリープ灰 (5GY7/1)	細砂粒含む	にぶい黄緑 (10YR7/3)			良好		
659	⑦	遺構外	陶器	小鉢	丸形	15.2	7.8	7.8				灰釉・ ウノフ 釉	灰オリープ (5YR5/3)	粗砂粒含む	白	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
660	⑦	遺構外	陶器	小皿	端反形	11.5	6.5	2.6				灰釉・ 鉄釉	灰白 (7.5Y7/2)・にぶい赤 褐 (2.5YR4/4)	細砂粒含む	灰白 (N7/0)			良好	瀬戸美濃系	
661	⑦	遺構外	陶器	灯明受皿	立鼓形	(7.6)	4.7	4.7	3.4		底部凹転へり削り・半月状切欠・底部無軸	鉄釉	灰黄 (2.5Y6/2)	細砂粒含む	灰白 (2.5Y7/1)	黒色粒		良好	茶・信楽系	
662	⑦	遺構外	陶器	乗燭	台付たこころ形	4.8	3.8	4.0	0.7		底部凹転あり	無軸	明赤褐 (5YR5/6)	密	にぶい緑 (5YR7/4)			良好	瀬戸美濃系	
663	⑦	遺構外	土器	かわらけ		10.5	5.3	2.7			底部凹転系切り痕・内面に付着物あり	無軸		密	にぶい緑 (5YR7/4)			良好		
664	⑦	遺構外	土器	かわらけ		10.6	4.7	2.3			底部凹転系切り痕・内面に付着物あり	無軸		細砂粒含む	明赤褐 (5YR5/6)	赤色粒・白 色粒	良好			
665	⑦	遺構外	土器	かわらけ		10.4	5.0	2.3			底部凹転系切り痕・内面に付着物あり	無軸		粗砂粒含む	にぶい緑 (5YR6/6)	赤色粒・白 色粒・金色 塵母	良好	在地系		
666	⑦	遺構外	土器	かわらけ		10.7	5.5	2.2			底部凹転系切り痕・内面に付着物あり	無軸		細砂粒含む	赤色粒・金 色塵母		良好	在地系		
667	⑦	遺構外	土製品	土鈴	手捏ね成形	2.8	2.9	1.5				無軸		細砂粒含む	にぶい緑 (7.5YR7/4)		良好			
668	⑦	遺構外	土製品	人形	七福神	2.6	2.95	4.7				無軸		細砂粒含む	にぶい緑 (5YR6/4)		良好			
669	⑦	遺構外	土製品	碁石	型押し成形	2.0	2.1	0.7				無軸		細砂粒含む	にぶい緑 (5YR6/6)		良好			
670	⑦	遺構外	土製品	泥面子	型押し成形	2.4	1.8	0.9				無軸		密	にぶい緑 (7.5YR6/6)		良好			
671	⑦	遺構外	土製品	泥面子	動物	2.1	2.0	0.6				無軸		細砂粒含む	にぶい緑 (7.5YR5/3)		良好			
672	⑦	遺構外	ガラス製品	中瓶	無肩	2.1	5.0	17.8			歪みあり・器蓋に気泡を含む・側面に接合痕・「南多摩 酒商同業組合」国税庁のターファイリに明治42年 (1909)10月21日に発行された定款の記録あり				緑色				近代	
678	⑧-A	551	磁器	瓶猪口	端反形	4.3	2.0	2.0				透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	近代	
679	⑧-A	551	磁器	小瓶	棟重形	—	3.1	(5.2)		染付・銅板転写		透明釉		緻密	灰白 (5Y7/1)	黒色粒	良好	肥前系	明治20年以降	
681	⑧-A	遺構外	磁器	中碗	丸形	(9.8)	4.2	5.4		染付	くらわんか流・高台部に砂付着・厚手	透明釉		緻密	灰白 (N8/)	白色粒・黒 色粒	良好	肥前系	18世紀	
682	⑧-A	遺構外	磁器	中鉢	丸形	(13.8)	(8.2)	7.1				透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
683	⑧-A	遺構外	陶器	小皿	クリ底平形	(10.0)	5.0	2.2				灰釉	オリープ黄 (7.5Y6/3)	密	黄灰 (2.5Y6/1)	白色粒・黒 色粒	良好	瀬戸美濃系		
684	⑧-A	遺構外	陶器	小皿	クリ底平形	(10.0)	(5.8)	2.4			口縁部がわずかに外反する	鉄釉	暗褐 (7.5YR3/3)	密	灰白 (2.5Y8/1)	長石・石英・ 赤色粒・白 色粒・黒色 粒・金色塵 母	良好	瀬戸美濃系		
696	⑧-B	SK7	土器	灯明皿	無高台平形	6.7	3.8	2.2			底部凹転系切り痕・歪みあり	無軸		粗砂粒含む	にぶい緑 (5YR6/4)		良好	在地系		
697	⑧-B	SK7	土器	灯明皿	無高台平形	(8.4)	4.4	1.7			底部凹転系切り痕	無軸		粗砂粒含む	灰黄褐 (10YR5/2)	赤色粒・白 色粒・黒色 粒・金色塵 母	良好	在地系		
698	⑧-B	SK7	土器	灯明皿	無高台平形	7.0	4.4	1.8			底部凹転系切り痕	無軸		粗砂粒含む	外) にぶい緑 (5YR6/4・内) にぶい緑 (5YR6/6)	赤色粒・白 色粒・黒色 粒・金色塵 母	良好	在地系		

*:法量()は復元実測値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	結付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	袖調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
699	⑧-B	SK7	土器	灯明皿	無高台平形	9.0	5.0	2.2		甌壺成形		底面回転糸切り痕・灯明皿に使用・口縁にススの付着	無釉		粗砂粒含む	にふい黄澄 (10YR7/3)	長石・赤色 粒・白色粒・ 黒色粒・金 色雲母	良好 在地系		
700	⑧-B	遺構外	磁器	中碗	丸形	(11.0)	(4.8)	(5.5)		甌壺成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	19世紀	
701	⑧-B	遺構外	磁器	小皿	丸形	(13.2)	—	(2.6)		甌壺成形	染付・動物絵写		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	明治20年以降	
702	⑧-B	遺構外	磁器	蓋	丸形	(9.0)	(3.8)	2.2		甌壺成形	染付	碗の蓋	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	19世紀	
703	⑧-B	遺構外	磁器	蓋	丸形	(10.1)	(4.2)	3.0		甌壺成形	染付	碗の蓋	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系		
704	⑧-B	遺構外	陶器	中碗	丸形	(11.8)	—	(6.5)		甌壺成形			鉄釉	通暗褐色(7.5YR2/3)	密	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系		
705	⑧-B	遺構外	陶器	碗		—	5.0	(5.1)		甌壺成形			鉄釉	通褐色(7.5YR3/4)	密	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系		
706	⑧-B	遺構外	陶器	小杯分		—	(3.2)	(2.6)		甌壺成形		底部に「相馬」の文字	鉄釉	灰白(7.5Y2/1)	密	灰白(2.5Y7/1)		良好		
707	⑧-B	遺構外	土器	灯明皿	無高台平形	6.5	4.8	2.0		甌壺成形		底面回転糸切り痕	無釉		粗砂粒含む	内) 橙 (2.5YR6/8)・ 外) 明赤褐 (2.5YR5/6)	赤色粒・白 色粒・黒色 粒・金色雲 母	良好 在地系		
720	⑧-C	SK1	磁器	中碗	碗反形	(9.8)	(4.0)	6.2		甌壺成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
721	⑧-C	SK1	磁器	小碗	筒丸形	7.2	3.4	5.7		甌壺成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
722	⑧-C	SK1	磁器	小碗	筒丸形	7.3	3.6	5.7		甌壺成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
723	⑧-C	SK1	磁器	彈手酒杯	丸形	(6.2)	2.7	2.9		甌壺成形	染付・上絵付	輪高台(薄く高い)	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	19世紀	
724	⑧-C	SK1	磁器	中皿	八角形	18.9	10.8	4.1		型打成形	染付	焼結ぎ痕あり・底部に「乾」の略字あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	19世紀	
725	⑧-C	SK1	陶器	片口分	平形	11.0	5.5	5.2		甌壺成形			灰釉	浅黄(5Y7/3)	密	灰白(5Y8/1)	黒色粒・黒 色粒	良好 瀬戸美濃系		
726	⑧-C	SK1	土器	七厘五徳分		(28.9)	(13.0)	10.8		甌壺成形		内面に指頭圧痕あり	無釉		粗砂粒含む	にふい橙 (5YR6/4)	白色粒・金 色雲母	良好 在地系		
729	⑧-C	SK2	陶器	擂鉢	口縁内帯	(23.9)	(13.0)	8.8		甌壺成形			無釉		粗砂粒含む	糖(5YR6/6)	長石・石英・ 白色粒	良好	丹波系か	
730	⑧-C	SS1	磁器	碗	平形	—	5.6	—	(3.5)	甌壺成形	染付・型紙摺	見込にケズリ込みあり	青磁釉	明緑灰(7.5GY7/1)	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系		
731	⑧-C	SS1	磁器	中碗	平形	(10.9)	—	(3.5)		甌壺成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	明治10年代以降	
732	⑧-C	SS1	陶器	小皿	平形	(12.4)	(7.9)	(1.9)		甌壺成形		貫入あり・志野	長石釉	灰白(7.5Y7/1)	緻密	灰白(2.5Y7/1)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	17世紀前葉	
733	⑧-C	SS1	陶器	灯明受皿	立筒形	(8.8)	6.3	(5.9)	(5.0)	甌壺成形		油漕半月状	灰釉		密	密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好 京・信濃系	
734	⑧-C	SS1	陶器	大鉢	大鉢	(28.7)	—	(3.8)		甌壺成形		透明釉筋跡・内面に線軸掛け流し	透明釉		密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好		
735	⑧-C	SS1	陶器	大鉢	大鉢	(31.8)	—	(7.2)		甌壺成形			緑釉		密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好		
736	⑧-C	SS1	土器	火鉢分		—	—	(6.0)		甌壺成形		口縁玉縁状・口縁外面下部にヘラケズリ	無釉		密	にふい橙 (7.5Y5/3)	赤色粒・白 色粒・黒色 粒	良好		
738	⑧-C	遺構外	磁器	小碗	半球形	(8.6)	3.5	5.2		甌壺成形	染付	高台部分に砂付着・見込に削じた「壽」の文字	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀中葉～19世紀初 頭	
739	⑧-C	遺構外	磁器	小碗	半球形	(8.8)	—	(3.4)		甌壺成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀中葉～19世紀初 頭	
740	⑧-C	遺構外	磁器	小碗	筒丸形	(7.2)	3.5	6.2		甌壺成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
741	⑧-C	遺構外	磁器	中碗	碗反形	(10.6)	(3.9)	5.5		甌壺成形	染付		透明釉	明緑灰(10GY8/1)	緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
742	⑧-C	遺構外	磁器	中碗	平形	(11.4)	3.6	4.3		甌壺成形	染付・型紙摺		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	明治10年代以降	
743	⑧-C	遺構外	磁器	小杯	碗反形	(7.7)	3.4	4.9		甌壺成形			透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	19世紀	
744	⑧-C	遺構外	磁器	小杯	筒形	—	3.0	(3.8)		甌壺成形	染付		透明釉		緻密	灰白(5Y7/1)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	19世紀	
745	⑧-C	遺構外	磁器	彈手酒杯	碗反形	(6.0)	2.5	2.7		甌壺成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系		
746	⑧-C	遺構外	磁器	紅猪口	筒花形	(4.6)	—	1.6		型打成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系		
747	⑧-C	遺構外	磁器	小皿	筒花形	(8.3)	(4.4)	1.8		型打成形		貼付高台・底部に布目線跡あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系		
748	⑧-C	遺構外	陶器	蓋	丸形	9.8	(7.4)	3.6	2.1	甌壺成形	染付	土瓶の蓋	透明釉		密	灰白(5Y7/2)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系		
749	⑧-C	遺構外	磁器	小皿	特殊形	—	(3.9)	(4.15)		甌壺成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系		
750	⑧-C	遺構外	磁器	仏飯器	台座輪高台	(6.5)	(3.8)	5.7		甌壺成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系		
751	⑧-C	遺構外	陶器	中碗	丸形	(11.7)	(5.0)	6.6		甌壺成形		外面体部上部灰軸掛け流し・尾呂茶碗	鉄釉・ 灰釉・ ウノフ 軸	縞(10YR4/4)	密	灰白(2.5Y8/2)		良好 瀬戸美濃系		
752	⑧-C	遺構外	陶器	中皿	平形	(13.0)	(6.9)	2.9		甌壺成形		口縁部内側に鉄軸を施す・志野	鉄釉		密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	17世紀前葉	

*法量()は還元表別値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・裝飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
753	⑧-C	遺構外	陶器	皿									長石釉	灰白(5Y8/1)	密	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀前半
754	⑧-C	遺構外	陶器	灯明皿	無高台平形	(7.8)	(3.8)	1.2		甃織成形		底部に釉の流れた痕あり・芯野	鉄釉	褐(7.5YR4/6)	密	褐灰(10YR6/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
755	⑧-C	遺構外	陶器	灯明受皿	油溝切立状か	7.8	(3.0)	2.0	5.0	甃織成形		底部回転へず削り・見込部と底部にトコズ痕有り	鉄釉	褐(5YR6/6)	密	灰(N7)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
756	⑧-C	遺構外	陶器	灯明受皿	油溝切立状か	(11.0)	(5.5)	2.0	—	甃織成形		底部回転へず削り・仕切部が口縁より低い	鉄釉	にぶい赤褐(5YR5/4)	密	糠(7.5YR7/6)	赤色粒・白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
757	⑧-C	遺構外	陶器	乗燭	台付たんごろ形	6.5	4.4	5.8	1.4	甃織成形		底部回転糸切り痕・底部開口あり	鉄釉	にぶい赤褐(5YR4/3)	密	灰白(2.5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好		
758	⑧-C	遺構外	陶器	蓋		(6.0)	(3.2)	(1.4)	0.6	甃織成形		土瓶の蓋	鉄釉	筒灰(N3)	密	灰(N7)	赤色粒・白色粒	良好		
759	⑧-C	遺構外	土器	灯明皿	無高台平形	6.2	4.0	1.4		甃織成形		底部回転糸切り痕	無釉		粗砂粒含む	にぶい黄褐(10YR6/3)	赤色粒・黒色粒・黒色塵粒・金色塵母	良好	在地系	
760	⑧-C	遺構外	土器	灯明皿	無高台平形	9.8	4.7	2.5		甃織成形		底部回転糸切り痕・口縁部にスス付着・灯明皿として使用	無釉		粗砂粒含む	にぶい黄褐(10YR6/3)	赤色粒・白色粒・黒色粒・黒色塵粒・金色塵母・黒色塵母	良好	在地系	
761	⑧-C	遺構外	土器	灯明皿	無高台平形	(8.5)	—	(3.1)		甃織成形		内外面ナテ	無釉		粗砂粒含む	にぶい褐(7.5YR6/3)	長石・白色粒・金色塵母	やや不良	在地系	
762	⑧-C	遺構外	土器	蓋		(11.0)	(12.6)	3.7	3.5	甃織成形		消し蓋の蓋・スス付着	無釉		粗砂粒含む	にぶい褐(7.5YR5/3)	白色粒・金色塵母	良好	在地系	
763	⑧-C	遺構外	土器	火消し蓋	口縁内湾形	10.3	10.5	9.1		甃織成形		内面、外面下半スス付着	無釉		粗砂粒含む	にぶい褐(7.5YR5/3)	赤色粒・白色粒・金色塵母	良好	在地系	
764	⑧-C	遺構外	土製品	土鈴		2.6	2.1	2.1		手捏ね成形			無釉		密	糠(5YR6/6)	赤色粒・黒色粒	良好		
765	⑧-C	遺構外	土器	大甕		—	26.0	(12.3)		紐造り		内面に付着物あり・便所甕	無釉		密	糠(5YR7/8)	赤色粒・白色粒	良好		
766	⑧-C	遺構外	土器	火鉢	円筒形	—	(23.1)	(15.5)		甃織成形		内面に突起あり	無釉		粗砂粒含む	にぶい褐(7.5YR6/4)	赤色粒・白色粒・金色塵母	良好	在地系	

第5表 I工区遺物観察表(木製品)

*法量()は復元実測値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種類	法量 (cm)			備考
				A	B	C	
4	① SK4	柄	—	〈6.4〉	4.1	内外面朱漆塗り・被熱している	
5a	① SK4	柄	40.2	18.1	3.0	付着物あり・木釘穴2ヶ所あり	
5b	① SK4	柄	40.4	22.8	3.4	付着物あり・木釘穴2ヶ所あり	
6	① SK4	柄	〈36.5〉	15.0	3.4	内面に底板の痕跡あり・外面に髹の痕跡あり・付着物あり	
7	① SK4	柄	〈18.3〉	7.1	2.6	内面に底板の痕跡あり・外面に髹の痕跡あり・付着物あり	
8	① SK4	柄	〈33.1〉	9.8	2.7	内面に底板の痕跡あり・外面に髹の痕跡あり・付着物あり	
9	① SK4	柄	〈33.5〉	18.1	4.0	内面に底板の痕跡あり・外面に髹の痕跡あり・付着物あり	
10	① SK4	柄	〈32.9〉	9.8	2.7	内面に底板の痕跡あり・外面に髹の痕跡あり・付着物あり	
11	① SK4	柄	〈35.9〉	16.4	2.7	内面に底板の痕跡あり・外面に髹の痕跡あり・付着物あり	
12	① SK4	柄	〈38.0〉	8.2	2.3	内面に底板の痕跡あり・外面に髹の痕跡あり・付着物あり	
13	① SK4	柄	〈37.2〉	16.4	2.5	内面に底板の痕跡あり・外面に髹の痕跡あり・付着物あり	
18	① SK13	柄	〈5.4〉	3.5	0.9	付着物あり	
19a	① SK13	柄	51.2	15.0	2.5	付着物あり	
19 b	① SK13	柄	58.1	14.8	2.5	付着物あり・木釘穴2ヶ所あり	
19c	① SK13	柄	58.2	30.6	2.5	付着物あり・木釘穴3ヶ所あり	
22	① SK14	ものさし	9.0	1.8	0.2	くじら尻か	
87	② SK12	部材	〈43.0〉	3.8	3.0	②-SK12の構築材・サンプルNo.M8	
88	② SK12	部材	〈44.7〉	4.2	3.6	②-SK12の構築材・サンプルNo.M9	
89	② SK12	部材	129.7	6.3	4.7	②-SK12の構築材・サンプルNo.M13	
90	② SK12	部材	29.8	4.6	4.3	②-SK12の構築材・サンプルNo.M15	
91	② SK12	部材	59.4	20.0	16.0	②-SK12の構築材・サンプルNo.M17・貫通するホソ穴が上下2ヶ所・ホソ穴の軸方向は置 交している	
92a	② SK13	柄	58.4	17.3	2.5	木釘穴2ヶ所あり	
92b	② SK13	柄	65.0	15.5	2.5	木釘穴3ヶ所あり	
92c	② SK13	柄	64.9	9.2	2.2		
92d	② SK13	柄	63.7	15.5	2.7	木釘穴2ヶ所あり	
92e	② SK13	柄	44.1	9.8	1.7	木釘穴2ヶ所あり	
161	③ SE1	柄	5.4	2.9	0.5		
166	③ SE2	箸	16.2	0.5	0.5		
174	③ SD3	継手	12.9	3.21	13.0	竹樋の継手	
270	⑤ SD4	継手	26.6	16.6	12.8	竹樋の継手	
285	⑤ S51	箸	20.2	0.9	0.9	黒漆塗り	
288	⑤ SK1	部材	132.5	34.0	29.5	⑤-基礎1の構築材・サンプルNo.M190・ホソ穴が2ヶ所貫通する・ホソ穴には板状のく さびが打ち込まれている	
289	⑤ SK1	部材	195.7	20.4	12.0	⑤-基礎1の構築材・サンプルNo.M192・貫通しないホソ穴4ヶ所あり	
290	⑤ SK1	部材	159.0	15.0	10.9	⑤-基礎1の構築材・サンプルNo.M201	
332	⑥ SK13	柄	〈11.3〉	5.2	3.6	内外面朱漆塗り	
333	⑥ SK13	柄	—	〈4.9〉	〈3.8〉	内外面朱漆塗り	
334	⑥ SK13	柄	—	〈4.4〉	〈3.8〉	内外面朱漆塗り	
337	⑥ SK17	鉢	〈31.2〉	〈13.8〉	〈7.05〉		
338	⑥ SK17	鉢	〈9.8〉	5.4	〈5.9〉	外面朱漆塗り・内面黒漆塗り・高台内に朱書きあり「仕入」	
339	⑥ SK17	白	40.0	41.0	23.8		
350a	⑥ SK20	柄	40.8	11.5	2.9	木釘穴2ヶ所あり	
350 b	⑥ SK20	柄	47.9	13.0	2.6	木釘穴4ヶ所あり	
350 c	⑥ SK20	柄	47.6	14.5	2.8	木釘穴1ヶ所あり	
350 d	⑥ SK20	柄	41.2	12.2	2.6	木釘穴2ヶ所あり	
351	⑥ SK20	柄	〈28.0〉	12.4	3.0	外面に髹の痕跡あり	
352	⑥ SK20	柄	〈33.8〉	11.3	2.5	外面に髹の痕跡あり・被熱している	
353	⑥ SK20	柄	〈32.0〉	12.0	2.4	外面に髹の痕跡あり・被熱している	
354	⑥ SK20	柄	〈36.9〉	11.4	2.5	外面に髹の痕跡あり・被熱している	
355	⑥ SK20	柄	〈25.4〉	11.2	2.1	外面に髹の痕跡あり	
356	⑥ SK20	柄	〈33.7〉	13.9	2.4	外面に髹の痕跡あり・被熱している	
357	⑥ SK20	柄	〈29.9〉	12.7	2.4	外面に髹の痕跡あり	
358	⑥ SK20	柄	〈24.6〉	7.3	2.1	付着物あり	
359	⑥ SK20	柄	〈26.3〉	13.4	1.7	付着物あり	

*法量()は復元実測値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種類	法量 (cm)			備考
				A	B	C	
360	⑥ SK22	部材	11.2	5.5	1.4	木釘穴1ヶ所あり	
364	⑥ SK37	柄	—	〈5.2〉	〈3.7〉	外面黒漆塗り・内面朱漆塗り	
365	⑥ SK37	下駄	16.3	8.4	2.8	曲の部分に板を当て補強している	
371	⑥ SK36	柄	—	〈7.2〉	〈3.2〉	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・外面に朱漆で文様を描く	
372	⑥ SK56	柄	—	—	〈3.7〉	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・外面に朱漆で文様を描く	
373	⑥ SK56	下駄	21.2	9.0	4.5	削り出し曲	
374	⑥ SK56	下駄	11.4	8.9	5.4		
375	⑥ SK56	下駄	14.5	9.3	2.9		
402	⑦ SK1	柄	—	〈6.0〉	〈3.6〉	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り	
423	⑦ SK1	蓋	9.9	5.0	2.7	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・「丸」に片喰」の家紋	
424a	⑦ SK4	柄	25.6	10.2	1.9	木釘穴2ヶ所あり	
424b	⑦ SK4	柄	28.0	10.9	2.1	木釘穴4ヶ所あり	
424c	⑦ SK4	柄	24.9	8.8	1.9	木釘穴2ヶ所あり	
428a	⑦ SK8	柄	43.7	10.7	4.2	木釘穴3ヶ所あり・被熱している	
428 b	⑦ SK8	柄	57.2	〈21.7〉	3.4	木釘2ヶ所残存・被熱している	
428 c	⑦ SK8	柄	57.3	7.85	3.3	木釘穴3ヶ所あり	
428 d	⑦ SK8	柄	55.5	14.0	3.6	木釘1ヶ所残存	
428e	⑦ SK8	柄	〈39.4〉	〈8.0〉	2.9	木釘穴2ヶ所あり	
429	⑦ SK8	柄	〈19.2〉	9.6	1.7	内面に付着物あり	
430	⑦ SK8	柄	〈20.6〉	11.2	1.4	内面に付着物あり	
431	⑦ SK8	柄	〈13.2〉	9.5	1.5		
432	⑦ SK8	柄	〈12.2〉	12.0	1.5		
433	⑦ SK8	柄	〈14.2〉	13.3	2.1	捕残存	
434	⑦ SK8	柄	〈12.9〉	12.9	1.8		
435	⑦ SK8	柄	〈13.0〉	13.5	1.7		
441	⑦ SK12	柄	10.6	5.3	3.9	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・「丸」に片喰」の家紋	
442	⑦ SK1	蓋	9.2	0.9	0.8	黒漆塗り・中心に孔あり	
443	⑦ SK12	箸	—	—	—	黒漆塗り	
455	⑦ SK15	下駄	〈21.0〉	7.7	3.3	駒下駄・表面に指の痕跡あり	
456	⑦ SK15	柄	〈9.6〉	〈5.0〉	〈3.4〉	内外面朱漆塗り・蓋みあり	
472	⑦ SK17	柄	—	—	〈3.3〉	外面朱漆塗り・内面朱漆塗り・「木田柿」の家紋	
473	⑦ SK17	柄	—	〈6.0〉	〈7.3〉	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・外面に文様あり	
474	⑦ SK17	柄	〈11.1〉	〈5.9〉	〈4.4〉	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・高台内に朱書きあり	
475	⑦ SK17	柄	〈12.4〉	〈5.8〉	6.5	内外面朱漆塗り・蓋みあり	
476	⑦ SK17	柄	11.4	5.4	3.4	内外面朱漆塗り	
477	⑦ SK17	柄	〈12.0〉	6.0	〈7.0〉	内外面朱漆塗り・高台内に朱書き「二ノ月」	
482	⑦ SK19	柄	〈17.4〉	〈8.0〉	〈8.2〉	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・外面に朱漆で文様を描く	
483	⑦ SK19	柄	〈12.2〉	〈7.1〉	〈5.8〉	黒漆塗り	
535	⑦ SK22	下駄	20.4	10.3	5.7	駒下駄・底面に黒漆を塗った痕跡あり・両側に差し歯・曲左側やや減る	
537	⑦ SK22	下駄	20.4	8.7	2.5	駒下駄・裏面に黒漆を塗った痕跡あり	
538	⑦ SK22	下駄	17.6	8.3	2.4	駒下駄・裏面に黒漆を塗った痕跡あり	
539	⑦ SK22	蓋	7.4	7.5	0.3	黒書「菓種親」[取寛呂]・中心に孔あり・樹皮(桜の皮)の帯が付属	
540	⑦ SK22	蓋	7.4	7.4	0.3	黒書「学校」	
541	⑦ SK22	部材	17.5	21.4	3.6		
555	⑦ SK23	柄	〈10.5〉	〈6.4〉	〈6.8〉	内外面朱漆塗り・蓋みあり	
556	⑦ SK23	傘の先端か	5.8	5.9	3.8		
557	⑦ SK23	下駄	22.1	10.1	4.8	駒下駄	
558	⑦ SK23	下駄	21.7	9.4	2.4	駒下駄・表面に指の痕跡あり	
571	⑦ SK24	下駄	14.6	7.9	3.5	千両下駄・表面に黒漆塗り・指の痕跡あり	
594	⑦ SK32	蓋か	〈9.6〉	—	〈1.8〉	内外面黒漆塗り・外面に「丸」に違い矢」の家紋あり	
595	⑦ SK32	下駄	13.5	8.4	3.8	駒下駄・裏面に黒漆を塗った痕跡あり	
596	⑦ SK32	下駄	17.7	8.3	2.7	千両下駄・表面に指の痕跡あり	
597	⑦ SK32	下駄	17.8	8.0	2.5	表面に指の痕跡あり	

第7表 I工区遺物観察表(金属製品)

報告書 番号	調査区	出土地点	種類	部位	法量 (cm)				備考
					A	B	C	D	
2	1	SK1	釘		3.9	0.7	0.2		
20	1	SK13	指めき		1.8	0.8	0.1		内部に煙管残存
21	1	SK13	煙管	吸口	7.3	0.9	0.6		
72	1	遺構外	煙管	雁首	1.5	—	<1.9>		
73	1	遺構外	煙管	雁首	1.5	—	<2.1>		火口部外面にハケ目状の文様
74	1	遺構外	煙管	雁首	—	(5.5)	—	0.9	
75	1	遺構外	煙管	雁首	—	7.6	—	1.6	
76	1	遺構外	刀子		9.1	1.1	0.2		
128	2	遺構外	鍵		15.5	3.6	1.0		
129	2	遺構外	掛け金具		5.0	4.7	0.4		
130	2	遺構外	引き手金具		9.0	3.9	0.8		
131	2	遺構外	鏡		10.8	4.1	0.7		
132	2	遺構外	引き手金具		11.1	6.5	1.2		
133	3	SK1	煙管	吸口	4.0	1.7	0.6		
168	3	SE2	匙		12.7	2.6	0.1		アルミ製
169	3	SE2	運筆		10.1	4.0	2.2		ホーロー製か
170	3	SE2	化粧品蓋		3.6	0.8	0.1		クラブ 美髪用ポマード "CLUB" HAIR-POMADE
171	3	SE2	飾り金具		8.6	15.2	0.03		
184	3	脚木1	煙管	雁首	1.6	5.3	1.95	1.1	体部にラセン状の毛彫り
215	3	遺構外	煙管	吸口	6.2	0.95	0.5		内部に煙管残存
216	3	遺構外	煙管	吸口	6.6	—	0.5		
217	3	遺構外	煙管	吸口	4.0	1.2	0.7		
255	5	SK4	煙管	火皿	1.3	1.5	1.0		内部に煙管残存・外面に毛彫り
269	5	SD1	鏡		5.0	1.6	0.2		
315	5	遺構外	網杖		9.9	4.3	1.4		
316	5	遺構外	煙管	吸口	6.8	1.1	0.3		
317	5	遺構外	煙管	雁首	—	4.1	1.5	1.1	火口部にハケ目状の毛彫り
318	5	遺構外	煙管	火皿	1.4	1.4	0.9		
361	6	SK34	煙管	吸口	4.3	1.0	0.5		一部にメッキ残存
362	6	SK34	煙管	雁首	—	6.3	1.9	1.1	一部にメッキ残存
363	6	SK34	煙管	雁首	—	5.5	1.0	0.8	一部にメッキ残存
381	6	SS1	煙管	吸口	4.3	0.8	0.4		
403	6	遺構外	留め金具		5.0	0.8	1.0		
404	6	遺構外	煙管	吸口	5.4	1.2	0.5		
405	6	遺構外	煙管	雁首	1.6	(3.25)	2.5	(0.5)	
406	6	遺構外	煙管	火皿	1.6	1.6	0.8		
457	7	SK15	刀の鐔		3.5	2.1	0.5		線刻面か
479	7	SK17	煙管	雁首	1.6	5.5	2.1	1.0	
480	7	SK17	煙管	雁首か	—	6.6	—	1.2	
544	7	SK22	煙管	吸口	5.4	1.0	0.5		
545	7	SK22	釘		18.5	1.7	0.6		
546	7	SK22	かんざし?		8.3	0.8	0.1		一部にメッキ残存
574	7	SK24	釘		5.5	0.9	0.4		
603	7	SK32	引き手金具		6.4	4.6	0.4		
646	7	SK37	仏飯器	脚部	2.4	4.3	4.5		
675	7	遺構外	煙管	雁首	—	4.9	1.2	0.9	一部にメッキ残存
676	7	遺構外	煙管	吸口	6.3	1.2	0.5		一部にメッキ残存
680	8A	SS1	煙管	吸口	5.7	1.2	0.5		
685	8A	遺構外	釘		5.2	0.95	0.4		
716	8B	遺構外	煙管	吸口	5.1	1.1	0.5		
717	8B	遺構外	煙管	吸口	5.4	1.2	—		
718	8B	遺構外	煙管	吸口	4.4	1.5	0.4		
719	8B	遺構外	引き手金具		8.8	4.2	0.6		
777	8C	遺構外	煙管	雁首	1.45	6.4	1.9	1.1	

*法量()は復元実測値、< > は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種類	法量 (cm)				備考
				A	B	C	D	
598	⑦	SK32	下駄	17.7	8.1	3.4		
599	⑦	SK32	下駄	17.6	7.7	2.7		表面に指の痕跡あり
616	⑦	SK36	椀	11.9	(6.1)	(4.8)		内外面黒漆塗り
617	⑦	SK36	椀	(9.3)	(5.1)	(3.5)		内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・外面に「丸に剣片喰」の家紋あり
618	⑦	SK36	箸	20.5	0.6	0.6		
619a	⑦	SK36	椀約	12.3	12.3	10.1		
619 b	⑦	SK36	椀約	48.3	2.8	1.3		
620	⑦	SK36	かんざし	17.4	2.3	1.1		黒漆塗り・線刻あり
640	⑦	SK37	下駄	21.4	10.3	3.8		駒下駄・裏面に黒漆を塗った痕跡あり
641	⑦	SK37	下駄	20.0	8.5	2.6		駒下駄・裏面に黒漆を塗った痕跡あり
642	⑦	SK37	下駄	20.5	8.9	3.1		削り出し歯・表面に指の痕跡あり
643	⑦	SK37	下駄	17.7	8.1	3.1		表面に指の痕跡あり
672	⑦	遺構外	下駄	20.3	8.8	2.7		駒下駄・裏面に黒漆を塗った痕跡あり・歯ははめ込み式
673	⑦	遺構外	蓋	19.6	<17.2>	0.8		黒漆あり「西富士」他・竹釘残存

第6表 I工区遺物観察表(石製品)

報告書 番号	調査区	出土地点	種類	法量 (cm)				備考
				A	B	C	D	
162	3	SE1	石臼	43.0	20.8	19.3		上臼・ものくぼり残存・横打込穴残存・井戸の構築材として利用されていた。
163	3	SE1	石臼	25.3	20.1	19.0		上臼・ものくぼり残存・横打込穴残存・井戸の構築材として利用されていた。
259	5	SK12	硯	4.1	2.2	1.2		
284	5	SS1	硯	13.8	6.7	1.7		近代
308	5	遺構外	石臼	(26.3)	(15.9)	10.3		下臼
328	6	SK6	石臼	16.3	17.5	12.3		上臼・芯轆受一部残存・供給口一部残存
390	6	SS10	石臼	28.4	16.3	11.5		下臼
402	6	遺構外	石臼	18.5	17.0	12.9		上臼・横内込穴残存
484	7	SK21	石臼	55.2	34.0	26.0		上臼・ものくぼり残存・芯轆受残存・供給口残存・横打込穴残存
570	7	SK24	硯	12.8	7.7	1.0		
604	7	SK35	火鉢か	19.1	10.9	9.5		スズ付着
708	8B	遺構外	台石	18.9	18.3	10.2		
767	8C	遺構外	火鉢か	(8.9)	13.8	9.0		内面にスズ付着

*法量()は復元実測値、< > は現存値である。

第 8 表 I 工区遺物観察表(銭貨)

*法量()は復元法測値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種類	法量 (cm)			重量 (g)	備考
				A	B	C		
24	1	SP4	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	3.2	
30	1	S51	寛永通寶	2.1	0.7	0.1	1.8	
31	1	S51	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	3.1	
67	1	遺構外	寛永通寶	2.2	0.6	0.1	2.7	
68	1	遺構外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	1.7	
69	1	遺構外	寛永通寶	2.8	0.6	0.1	5.1	背十一波
70	1	遺構外	寛永通寶	2.4	0.7	0.1	2.8	
71	1	遺構外	一銭	2.7	—	0.1	4.7	大日本 明治十年
94	2	SD1	五銭	2.0	—	0.1	4.1	
183	3	跡木1	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	3.8	穿孔有り
213	3	遺構外	半銭	2.2	—	0.1	3.3	大日本 明治十七年
214	3	遺構外	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	4.9	背十一波
218	4	SK1	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.4	
219	4	SK3	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.6	
224	4	SK5	寛永通寶	2.4	0.7	0.1	2.4	
235	4	S51	寛永通寶	〈2.4〉	0.6	0.1	2.4	
245	4	遺構外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.3	穿孔有り
254	5	SK3	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.0	
262	5	SK16	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.2	
263	5	SK16	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.7	
264	5	SK16	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.4	
271	5	SD4	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.3	穿孔有り
309	5	遺構外	□□□□	〈2.3〉	0.6	0.1	1.1	
310	5	遺構外	永楽通寶	2.4	0.6	0.1	2.6	
311	5	遺構外	永楽通寶	2.5	0.6	0.1	2.7	
312	5	遺構外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	3.5	
313	5	遺構外	寛永通寶	2.2	0.6	0.1	2.3	
314	5	遺構外	寛永通寶	2.2	0.6	0.1	2.3	
380	6	S51	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	3.6	背十一波・穿孔有り
387	6	S52	寛永通寶	〈2.5〉	0.6	0.1	1.9	(鑑) 文
407	6	遺構外	寛永通寶	2.7	0.7	0.1	4.3	背十一波・穿孔有り
408	6	遺構外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.3	
409	6	遺構外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.7	
410	6	遺構外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	3.0	
411	6	遺構外	寛永通寶	2.2	0.7	0.1	2.1	
412	6	遺構外	寛永通寶	2.0	0.6	0.1	2.7	
413	6	遺構外	寛永通寶	2.2	0.7	0.1	2.4	
414	6	遺構外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.5	
415	6	遺構外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.9	
416	6	遺構外	寛永通寶	〈2.2〉	0.6	0.1	1.2	
417	6	遺構外	寛永通寶	〈2.3〉	0.6	0.1	1.6	
427	7	SK7	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	3.1	
478	7	SK17	□国通寶	2.3	0.6	0.1	2.9	
543	7	SK22	文久永寶	2.6	0.7	0.1	3.2	背十一波
572	7	SK24	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.1	
573	7	SK24	□永通	〈2.3〉	0.7	0.1	1.4	
600	7	SK32	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	4.0	背十一波
601	7	SK32	文久永寶	2.6	0.7	0.1	3.5	背十一波
602	7	SK32	文久永寶	2.6	0.7	0.1	3.3	背十一波
621	7	SK36	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	6.4	背十一波・穿孔有り
644	7	SK37	寛永通寶	2.6	0.7	0.1	1.6	
645	7	SK37	文久永寶	2.6	0.7	0.1	2.6	背十一波
677	8A	SK1	□□□□	2.3	0.7	0.1	2.9	
686	8	遺構外	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	3.2	(鑑) 文
687	8	遺構外	寛永通寶	2.4	0.5	0.1	3.8	

*法量()は復元法測値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種類	法量 (cm)			重量 (g)	備考
				A	B	C		
688	8	遺構外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.4	
689	8	遺構外	寛永通寶	2.2	0.6	0.1	1.7	
690	8	遺構外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.5	
691	8	遺構外	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	3.8	
692	8	遺構外	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	2.8	
693	8	遺構外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.3	
694	8	遺構外	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	1.9	穿孔有り
695	8B	SK1	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.8	
709	8B	遺構外	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	3.4	(鑑) 文
710	8B	遺構外	元龜通寶	2.3	0.6	0.1	3.6	
711	8B	遺構外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.4	
712	8B	遺構外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.9	
713	8B	遺構外	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	5.1	背十一波
714	8B	遺構外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.8	
715	8B	遺構外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.7	
727	8	SK1	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	3.3	(鑑) 文
728	8	SK1	寛永通寶	2.7	0.6	0.1	4.5	背十一波
737	8C	S51	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	2.1	
768	8C	遺構外	□□□□	2.4	0.6	0.1	2.9	
769	8C	遺構外	□元□寶	2.4	0.6	0.1	2.9	
770	8C	遺構外	寛永通寶	〈2.4〉	0.6	0.1	2.2	
771	8C	遺構外	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	1.9	
772	8C	遺構外	寛永通寶	〈2.3〉	0.6	0.1	2.6	
773	8C	遺構外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.7	
774	8C	遺構外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.5	
775	8C	遺構外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	3.0	
776	8C	遺構外	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	4.6	背十一波

第 5 章 II 工区及び相生工区の調査

第 1 節 遺構と遺物

第 1 項 II -A 地点 (第 113・114 図)

土坑

A-SK1 (第 122 図)

J21・K21 グリッドに位置する。平面形は長方形で長軸 2.58m、短軸 1.23m、深さ 40cm を測る。半筒形の磁器碗、焼継ぎの痕跡がある呉器形の磁器碗や薄手酒杯、油溝を切立状に切る灯明受皿、瀬戸美濃系の播鉢などが出土している。時期は出土遺物から 19 世紀前葉から中葉と考えられる。

A-SK3 (第 122 図)

K23 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.5 m、短軸残存長 0.24m、深さ 68cm を測る。甕が埋設されており、便槽遺構の可能性はある。時期は近代と推測される。

A-SK4 (第 123 図)

I23 グリッドに位置する。平面形は長方形で長軸 1.44 m、短軸 0.68m、深さ 14cm を測る。多量の炭化物、灰が堆積している。陶器の小破片が出土している。切り合いでは A-SS6 より新しい。時期は近代と推測される。

A-SK6 (第 122 図)

J21 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.83m、短軸 0.8m、深さ 20cm を測る。黒褐色の荒い砂が堆積している。磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SK8 (第 124 図)

I22 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.75m、短軸 0.85m、深さ 19cm を測る。焼土ブロック・炭化物ブロックが多量に堆積している。切り合いでは A-SS12 より古い。時期は不明である。

A-SK9 (第 124 図)

J21 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.8m、短軸 0.46m、深さ 7cm を測る。炭化物が多量に堆積する。時期は不明である。

A-SK10 (第 127 図)

I22 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.9m、短軸残存長 0.5m、深さ 30cm を測る。堺・明石系の播鉢が出土している。切り合いは A-SK17 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀と考えられる。

A-SK11 (第 124 図)

J22 グリッドに位置する。平面形は長方形で長軸 0.56m、短軸 0.29m、深さ 22cm を測る。A-SX1 の下層で検出した。時期は不明である。

A-SK12 (第 124 図)

I22 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 0.96m、短軸残存長 0.41m、深さ 5cm を測る。磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SX1 より古い。時期は 19 世紀と考えられる。

A-SK13 (第 124 図)

J21・22 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.7m、短軸 0.79m、深さ 40cm を測る。陶磁器の小破片が出土している。A-SX1 の下層で検出した。時期は不明である。

A-SK15 (第 125 図)

J22・23、K22・23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 3.8m、短軸 3.4m、深さ 1.78m を測る。多量の木片・瓦片が堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。多量の陶磁器が出土しており、瀬戸美濃系の端反碗、筒丸形の湯呑碗、薄手酒杯、紅猪口、灰釉灯明受皿、瓶類、急須、土鍋などがみられる。木製品としては、曲物容器の蓋、櫛払い、墨で文章が書かれた木札が出土している。切り合いは A-SK53・A-SK57・A-SK68・A-SP24 より新しく、A-SS39 より古い。時期は出土遺物から幕末から明治と考えられる。

A-SK16 (第 126 図)

J21・22、K21・22 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 5.35m、短軸 3.15m、深さ 1.32m を測る。多量の焼土・炭化物が堆積しており火災等で発生したゴミを投棄した土坑であると考えられる。出土遺物は少なく、肥前系磁器碗の蓋、七輪、火鉢が出土している。切り合いは A-SS41・A-SS44・A-SS45・A-SS46・A-SS47 より古い。時期は出土遺物より 18 世紀中葉から後葉と考えられる。

A-SK17 (第 127 図)

I22 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 1.26m、短軸残存長 0.75m、深さ 0.54m を測る。土器の小破片が出土している。切り合いは A-SK10・A-SP3・A-SS11 より古い。時期は不明である。

A-SK18 (第 127 図)

I22 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 3.2m、短軸残存長 1.8m、深さ 0.86m を測る。磁器・陶器・土器の小破片が出土している。切り合いは A-SK19・A-SP8・A-SS11・A-SS12・A-SS17 より古い。時期は近世と推測される。

A-SK19 (第 128 図)

I22 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 2.48m、短軸 2.05m、深さ 1.3m を測る。覆土に樹皮、木片が多量に混ざっており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。多量の陶磁器類が出土しており、半筒形の湯呑碗、広東形の大碗、灰釉灯明皿、土鍋などの他、七輪五徳、焼塩壺が出土している。切り合いは A-SK8・A-SP7・A-SS12・A-SS14 より古く、A-SK18 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀初頭と考えられる。

A-SK20 (第 124 図)

J22 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.49m、短軸 0.37m、深さ 7cm を測る。A-SX1 の下層で検出した。時期は不明である。

A-SK21 (第 128 図)

I23・24 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.54m、短軸残存長 1.36m、深さ 30cm を測る。焼継ぎの痕跡がある端反形の磁器碗、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、油溝を半月状に切る灰釉灯明受皿、油溝を切立状に切る鉄釉灯明受皿、焙烙などが出土している。切り合いは A-SS7 より古い。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

A-SK22 (第 129 図)

K21 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.9m、短軸 0.52m を測る。内部に径 22cm の穴が開いており、内部に水が溜まっている。汲み上げ井戸の跡であると考えられる。

A-SK23 (第 129 図)

K21・L21 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 2.29m、短軸 1.85m、深さ 1.0m を測る。覆土に多量の木片が混ざっており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。端反形の磁器碗、薄手酒杯、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、広東形の陶胎染付碗、油溝を切立状に切る鉄釉灯明受皿などが出土している。切り合いは A-SS49・A-SS50 より古く、A-SK26・A-SK47 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

A-SK24 (第 128 図)

I23・24、J23・24 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.72m、短軸 1.6m、深さ 58cm を測る。広東形の磁器碗、薄手酒杯、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、灰釉灯明皿、包丁などが出土している。切り合いは A-SS7 より古く、A-SK49・A-SK56・A-SK63・A-SS30 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀前葉から中葉と考えられる。

A-SK25 (第 130 図)

L21・22 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.12m、短軸 0.8m、深さ 95cm を測る。土坑内部には桶が埋設され、南西に竹樋が接続されている上水井戸である。薄手酒杯、筒丸形の磁器碗、平形の中碗、平面八角形の脚付きの鉢、油溝を切立状の鉄釉灯明受皿などが出土している。切り合いは A-SS1 より古く、

A-SK26 より新しい。時期は出土遺物より近代に廃絶されたと考えられる。

A-SK26 (第 132 図)

L21・22 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長 2.4m、短軸残存長 1.64m、深さ 11cm を測る。半筒形の湯呑碗、広東形の磁器碗、端反形の磁器碗、京焼風陶器碗、鉄釉灯明皿、堺・明石系の播鉢などが出土している。切り合いは A-SK23・A-SK25・A-SS1・A-SS23 より古い。時期は出土遺物より 19 世紀前葉と考えられる。

A-SK27 (第 131 図)

K22・23 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 2.05m、短軸 1.4m、深さ 30cm を測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SP27 より新しい。時期は近世と考えられる。

A-SK28 (第 131 図)

K22・L22 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 1.4m、短軸残存長 1.0m、深さ 10cm を測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK45 より古い。時期は近世と考えられる。

A-SK29 (第 132 図)

K23・24 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.49m、短軸 0.39m、深さ 7cm を測る。筒丸形の磁器碗、端反形の磁器碗、太白手の陶器皿、薄手酒杯、磁器皿、鉄釉灯明皿、灰釉灯明皿、油溝を半月状に切る灰釉灯明受皿、下駄などが出土している。時期は出土遺物より明治と考えられる。

A-SK30 (第 132 図)

L23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.98m、短軸 0.58m、深さ 12cm を測る。切り合いは A-SK65 より新しい。時期は不明である。

A-SK31 (第 132 図)

K23・L23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.34m、短軸 0.28m、深さ 5cm を測る。土器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SK32 (第 132 図)

L23・24 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.43m、短軸 0.23m、深さ 9cm を測る。時期は不明である。

A-SK33 (第 132 図)

L22 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.45m、短軸 0.36m、深さ 15cm を測る。陶器の小破片が出土している。切り合いは A-SK45 より新しい。時期は不明である。

A-SK34 (第 132 図)

L23 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸残存長 0.59m、短軸 0.45m、深さ 7cm を測る。磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SK35 (第 132 図)

J23 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 1.5m、短軸 0.7m、深さ 11cm を測る。陶磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SK36 (第 125 図)

J22 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.34m、短軸 0.34m、深さ 25cm を測る。A-SX1 の下層で検出した。時期は不明である。

A-SK37 (第 132 図)

L22 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.28m、短軸 0.24m、深さ 9cm を測る。端反形の磁器碗、磁器鉢が出土している。時期は出土遺物から 19 世紀中葉と考えられる。

A-SK38 (第 131・137 図)

L22・23、M22・23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 4.7 m、短軸 3.5m、深さ 1.42m を測る。

多量の樹皮、木片が堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。土坑の南東角から埋桶の底板が出土しており、埋桶を切る形でゴミ処理用の廃棄土坑が掘られたと考えられる。多量の陶磁器類が出土しており、端反形の磁器碗、筒丸形の磁器碗、紅猪口、薄手酒杯、仏飯器、油溝を半月状に切る灯明受皿、油溝を切立状に切る灯明受皿、容器付灯明受皿、植木鉢、陶器製小便器、羽口などが出土している。切り合いは A-SS1・A-SS20・A-SS23 より古く、A-SK45・A-SK67 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀後葉と考えられる。

A-SK39 (第 132 図)

L23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.2m、短軸 1.92m、深さ 31cm を測る。筒丸形の磁器碗、仏飯器などが出土している。切り合いは A-SS23 より古く、A-SK45・A-SK65 より新しい。時期は出土遺物より幕末から明治と考えられる。

A-SK40 (第 133 図)

L23 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.5m、短軸 1.4m、深さ 87cm を測る。木片が多量に堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。筒丸形の磁器碗、焼継ぎの痕跡がある猪口、紅猪口、薄手酒杯、爛徳利、鉄釉灯明皿、油溝を半月状に切る鉄釉灯明受皿などが出土している。時期は出土遺物より幕末から明治と考えられる。

A-SK41 (第 134 図)

K23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.04m、短軸 0.98m、深さ 13cm を測る。覆土に炭化物ブロックが多量に混じる。切り合いは A-SS35 より古く、A-SK57・A-SK59・A-SP17 より新しい。時期は近世と推測される。

A-SK42 (第 134 図)

L21 グリッドに位置する。平面形は長方形で長軸 2.53m、短軸 1.62m を測る。土坑南半部に桶を井戸枠とした掘抜き井戸が設置されている。桶の上部には陶製の土管が接続されていた。井戸枠の周囲には丸太がコの字形に配置されており、井戸と同時期に設置されていたと考えられる。井戸内部から汲出しポンプの一部とみられる残骸が出土しており、近代まで使用されていた可能性が推測される。切り合いは A-SS1 より古く、A-SK47 より新しい。

A-SK43 (第 133 図)

K23・24、L23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 4.4m、短軸 3.48m、深さ 1.32m を測る。覆土に樹皮や木片が混ざっており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。筒丸形の磁器碗、端反形の磁器碗、薄手酒杯、灰釉灯明皿、たんころ形の乗燭、土瓶、焙烙、硯、漆碗などが出土している。切り合いは A-SK44 より古く、A-SK45・A-SK57 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

A-SK44 (第 133 図)

K23 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 2.36m、短軸 2.16m、深さ 80cm を測る。径 6cm 程度の杭を打ち込み、その外側に径 10cm 程度の丸太や角材を積んで、方形の囲いを作る。長丸形の磁器杯、端反形の磁器碗、紅猪口、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、灰釉灯明皿、油溝を半月状に切る灰釉灯明受皿、羽口、櫛、包丁などが出土している。切り合いは A-SK43・A-SK57・A-SK60・A-SK68 より新しい。時期は出土遺物より明治時代前半と考えられる。

A-SK45 (第 131・133 図)

K22・23、L22・23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 4.6m、短軸 2.2m、深さ 27cm を測る。筒丸形の磁器碗、丸形の磁器碗などが出土している。切り合いは A-SK33・A-SK38・A-SK39・A-SK43 より古く、A-SK28・A-SP32 より新しい。時期は出土遺物、切り合い関係より 19 世紀と考えられる。

A-SK47 (第 129 図)

K21・L21 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 4.14m、短軸 3.94m、深さ 31cm を測る。丸形の磁器碗、筒丸形の磁器碗、広東形の磁器碗、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、土鍋などが出土している。切り合い

は A-SK22・A-SK23・A-SK42・A-SS1・A-SS48・A-SS49 より古い。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

A-SK49 (第 128 図)

I24・J24 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 3.78m、短軸残存長 2.4m、深さ 28cm を測る。油溝をアーチ状に 2ヶ所切り抜き、鉄錆釉を施す志戸呂系の灯明受皿が出土している。切り合いは A-SK24・A-SS31 より古く、A-SK56 より新しい。時期は出土遺物、切り合い関係より 17 世紀末から 18 世紀前葉と考えられる。

A-SK50 (第 135 図)

J23・24 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.28m、短軸 1.26m、深さ 50cm を測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SS29 より古い。時期は不明である。

A-SK51 (第 135 図)

J22 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.12m、短軸 1.34m、深さ 2cm を測る。磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SK53 (第 135 図)

J22、K22・23 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸 1.84m、短軸残存長 1.76m、深さ 47cm を測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK15 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK56 (第 128 図)

I23・24、J23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 1.96m、短軸残存長 1.36m、深さ 30cm を測る。陶器の小破片が出土している。切り合いは A-SK24・A-SS7 より古く、A-SK63 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK57 (第 135 図)

K23 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長 1.6m、短軸残存長 1.04m、深さ 57cm を測る。瓦片、磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK15・A-SK44・A-SK43 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK58 (第 128 図)

I23・J23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 3.26m、短軸 2.32m、深さ 1.1m を測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SP6・A-SS13・A-SS25・A-SS30・A-SS33・A-SS34 より古く、A-SK63 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK59 (第 135 図)

K23 グリッドに位置する。平面形は長方形で長軸 0.72m、短軸 0.28m、深さ 5cm を測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK41・A-SS35 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK60 (第 135 図)

K23・24 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 2.3m、短軸 1.44m、深さ 32cm を測る。多量の木片が堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。丸形の磁器碗、肥前系京焼風陶器、刷毛目碗、志戸呂系の灯明皿などが出土している。切り合いは A-SK44・A-SS29 より古い。時期は出土遺物より 18 世紀前葉から 18 世紀中葉と考えられる。

A-SK62 (第 130 図)

L21・M21 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.56m、短軸 0.48m、深さ 13cm を測る。切り合いは A-SS1 より古い。時期は不明である。

A-SK63 (第 128 図)

I23・J23 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長 2.8m、短軸残存長 2.2m、深さ 20cm を測る。陶器の小破片が出土している。切り合いは A-SK24・A-SK56・A-SK58・A-SP35・A-SS7・A-SS30

より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK65 (第 136 図)

L23・M23 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長 2.8m、短軸残存長 2.3m、深さ 42cm を測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK30・A-SK38・A-SK39・A-SK67・A-SE1 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK66 (第 130 図)

M21・22 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.54m、短軸 2.2m、深さ 41cm を測る。陶器の小破片が出土している。切り合いは A-SD4 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK67 (第 136 図)

L22、M22・23 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸残存長 8.06m、短軸残存長 2.5m、深さ 1.06m を測る。覆土に樹皮・木片が多量に混ざっており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。土坑の西側には径 62cm の樽が埋められていた。端反形の磁器碗、半筒形の磁器碗、半球形の磁器碗、紅猪口、薄手酒杯、髪油壺、仏花瓶、油溝を切立状に切る鉄釉灯明受皿、油溝を半月状に切る灰釉灯明受皿、容器付きの灯明受皿、天保一分銀を模した土製模造貨などが出土している。切り合いは A-SK38・A-SE1・A-SS1 より古く、A-SK65 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

A-SK68 (第 135 図)

J23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 1.1m、短軸残存長 1.0m、深さ 26cm を測る。切り合いは A-SK15・A-SK44 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SE1 (第 131 図)

L23・M23 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 2.8m、短軸残存長 1.9m、深さ 1.2m を測る。土坑内には径 167cm の桶が埋設されており、当初上水井戸と想定して掘削を進めたが、桶の体部に穴は無く、桶をつなげた様子は見られなかった。桶内部には多量の木片、砂利が堆積していた。最終的には廃棄土坑として利用されたと考えられる。端反形の磁器碗、焼継ぎの痕跡がある磁器皿、鉄釉灯明皿、灰釉灯明皿、油溝を切立状に切る灰釉灯明受皿、容器付き灯明受皿、明治 8 年の刻印がある一銭硬貨などが出土している。切り合いは A-SS1 より古く、A-SK65 より新しい。時期は出土遺物より明治時代と考えられる。

A-SX1 (第 124 図)

I21・22、J21・22 グリッドに位置する。平面形は片袖形で長軸 5.6m、短軸 2.1m、深さ 10cm を測る。土坑内部には炭化した木材や炭化物が堆積しており、床面には柱穴が並んでいることから、建屋が火災を受け、崩落した跡であると考えられる。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK12・A-SP22・A-SS14・A-SS29・B-SK3・B-SK4 より新しい。時期は近代と考えられる。

溝

A-SD2 (第 130 図)

L21・M21 グリッドに位置する。幅 24cm、深さ 30cm を測る。軸方向は N - 36° - E を指す。径 6cm の竹樋が埋設されており、A-SK25 の埋桶、A-SD3 の木樋に接続している。切り合いは A-SS1 より古い。A-SK25 と同様に近代に廃絶されたと考えられる。

A-SD3 (第 130 図)

M21・22 グリッドに位置する。幅 34cm、深さ 30cm を測る。軸方向は W - 29° - N を指す。径 16cm の木樋が埋設されており、A-SD2 の竹樋と接続している。東端は調査区外へ延び、西端はカクランにより破壊されている。木樋は樹皮の残る丸太を削り貫いたもので、上蓋を釘で留めた痕跡はなく、被せているだけであった。東から西に向かって傾斜し、1m で約 6cm の傾斜を測る。切り合いは A-SK66 より新しい。時期は A-SK25・A-SD2 と同様に近代に廃絶されたと考えられる。

石列・礎石・建物基礎

A-SS1 (第 137 図)

A 地点南半部で検出した。間知石や方形の切石の面を向かい合わせて積み上げ、溝を構築している。間知石の下には胴木を並べ、根石や杭で固定している。土地境に敷設された用水路と考えられる。K22・L22 グリッドで 4 回 L 字に曲がり、西端は B-SS1 に繋がる。L21 グリッドで胴木を並べ変えた痕跡が確認できることから、過去に土地境が変更された可能性がある。南の辺の軸方向は W - 15° - N を指す。型紙摺や銅板転写で染付された磁器皿や初期の国産レンガが出土している。切り合いは A-SK23・A-SK26・A-SK42・A-SK47・A-SK62・A-SK67・A-SD3 より新しい。時期は近代と考えられる。

A-SS2 (第 138 図)

J23 グリッドに位置する。長軸 0.9m、短軸 0.6 m、深さ 40cm の土坑内に径 10 ~ 20cm の石を詰める。A-SS5 と並び、礎石の根石部分が残存したのと考えられる。時期は不明である。

A-SS3 (第 138 図)

J23 グリッドに位置する。36 × 30 × 10cm の扁平な石と、その周囲に径 10cm 前後の石が置かれている。A-SS4 と並び、礎石であった可能性が考えられる。周囲からは陶磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SS4 (第 138 図)

J24 グリッドに位置する。24 × 16 × 7cm と 18 × 12 × 7cm の扁平な石を並べる。A-SS3 と並び、礎石であった可能性が考えられる。周囲からは陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SS29 より新しい。時期は不明である。

A-SS5 (第 138 図)

J23 グリッドに位置する。40 × 36 × 19cm の方形の石を埋設している。A-SS2 と並び、礎石と考えられる。陶磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SS6 (第 123 図)

I23・J23 グリッドに位置する。幅 50cm、深さ 50cm の溝の中に径 10cm の石を詰める。軸方向は N - 12° - E を指す。覆土にコンクリート片が混ざっており、近代の擁壁の基礎と考えられる。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK4・A-SS19 より古く、A-SK58・A-SS21・A-SS29・A-SS30・A-SS33・A-SS34・A-SS42 より新しい。時期は近代と考えられる。

A-SS7 (第 123 図)

I23、J23・24 グリッドに位置する。幅 56cm、深さ 54cm の L 字状に曲がる溝の中に、径 10 ~ 15cm の石を詰める。溝の北端と東端は調査区外へと延びる。西の辺の軸方向は N - 12° - E を指す。建物の基礎と考えられる。切り合いは A-SS8 より古く、A-SK21・A-SK24・A-SK56・A-SP19・A-SP35・A-SS42 より新しい。磁器皿、京・信楽系の灰釉灯明皿などが出土しているが構築時に混入と考えられる。時期は近代と考えられる。

A-SS8 (第 123 図)

I23・24 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.76m、短軸 1.44m、深さ 20cm の土坑上に、径 10cm の石が散乱している。切り合いは A-SS7 より新しい。時期は近代以降と考えられる。

A-SS9 (第 122 図)

K23 グリッドに位置する。28 × 16 × 10cm と 22 × 20 × 11cm の方形の石が並ぶ。礎石の可能性はある。切り合いは A-SK3 より新しい。時期は近代と考えられる。

A-SS10 (第 122 図)

K23・24 グリッドに位置する。幅 63cm、深さ 8cm の溝の中に径 10cm の石を詰めている。軸方向は W - 16° - N を指す。東端は調査区外へと延びている。建物の基礎の可能性はある。端反形の磁器碗、平形の磁器碗、薄手酒杯、戸車などが出土している。切り合いは A-SS29 より新しい。時期は近代と考えられる。

A-SS11 (第 124 図)

I22 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.89m、短軸 0.73m、深さ 80cmの土坑に、42 × 40 × 30cmの方形の石を埋設し、その上に径 10 ～ 20cmの石を詰める。A-SS12・A-SS13 と並び、礎石と考えられる。端反形の磁器碗、陶器の植木鉢、行平などが出土しているが、構築時の混入と考えられる。切り合いは A-SK18 より新しい。時期は 19 世紀と考えられる。

A-SS12 (第 124 図)

I22 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.94m、短軸 0.8m、深さ 87cmの土坑に、径 20cmの石を詰める。A-SS11・A-SS13 と並び、礎石と考えられる。磁器の小破片が出土しているが、構築時の混入と考えられる。切り合いは A-SK8・A-SK18・A-SK19 より新しい。時期は 19 世紀と考えられる。

A-SS13 (第 138 図)

I23 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.78m、短軸 0.57m、深さ 74cmの土坑に、径 10 ～ 20cmの石を詰める。A-SS11・A-SS12 と並び、礎石と考えられる。切り合いは A-SS25 より新しい。時期は 19 世紀と考えられる。

A-SS14 (第 138 図)

I22 グリッドに位置する。径 10cmの石がコの字状に並べてある。周辺から陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SX1 より古く、A-SK19 より新しい。遺構の時期と性格は不明である。

A-SS15 (第 138 図)

J22・23 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.58m、短軸 0.48m、深さ 18cmの土坑上に 20 × 20 × 9cmの扁平な石を据える。礎石の可能性ある。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SS25 より新しい。時期は不明である。

A-SS16 (第 138 図)

I22・23 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.5m、短軸 0.48m、深さ 40cmの土坑の覆土に、径 10cmの石が混ざる。礎石の根石部分の可能性ある。磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SS17 (第 138 図)

I22 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.3m、短軸 0.26m、深さ 16cmの土坑上に 20 × 10 × 10cmの板状の石が残存する。礎石であった可能性ある。時期は不明である。

A-SS18 (第 123 図)

I22 グリッドに位置する。20 × 11 × 10cmの方形の石を検出した。礎石の可能性ある。時期は不明である。

A-SS19 (第 123 図)

I23・J23 グリッドに位置する。径 10 ～ 20cmの石が長さ 1.0m、幅 0.28m の範囲で並べてある。軸方向は N - 13° - E を指す。何らかの建造物の基礎の可能性ある。切り合いは A-SS6 より新しい。時期は近代以降と考えられる。

A-SS20 (第 139 図)

L22 グリッドに位置する。径 10cmの石が 2.0 × 1.5m の範囲でコの字状に並べてある。何らかの建造物の基礎の可能性ある。切り合いは A-SK38 より新しい。時期は近代以降と考えられる。

A-SS21 (第 139 図)

J23 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.54m、短軸 0.5m、深さ 34cmの土坑内に、40 × 30 × 17cmの方形の石が埋設されている。礎石と考えられる。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SS6 より古く、A-SK15 より新しい。時期は不明である。

A-SS22 (第 139 図)

I23 グリッドに位置する。32 × 22 × 20cmの楕円形の石を検出した。礎石の可能性ある。時期は不明である。

A-SS23 (第 139 図)

L22・23 グリッドに位置する。幅 92cm、深さ 10cmの溝の中に径 10cmの石を詰める。軸方向は W - 16° - N を指す。何らかの構造物の基礎の可能性はある。切り合いは A-SK26・A-SK38・A-SK39 より新しい。時期は近代以降と考えられる。

A-SS25 (第 125・127・138 図)

I23・J23 グリッドに位置する。幅 60cm、深さ 34cmの溝の中に径 7～10cmの石を詰める。軸方向は N - 10° - E を指す。建物の基礎の可能性はある。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SS13・A-SS15・A-SS26 より古い。時期は切り合い関係より 19 世紀と考えられる。

A-SS26 (第 138 図)

I23 グリッドに位置する。30×24×10cmの楕円形の石を検出した。礎石の可能性はある。切り合いは A-SS25 より新しい。時期は不明である。

A-SS27 (第 139 図)

K23 グリッドに位置する。40×22×19cmの楕円形の石を検出した。礎石の可能性はある。時期は不明である。

A-SS28 (第 139 図)

J23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.78m、短軸 0.72m、深さ 38cmの土坑内に径 10～20cmの石を詰めている。礎石の根石部分の可能性はある。磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SS29 (第 125 図)

I21・22、J21～24、K24 グリッドに位置する。幅 72cm、深さ 30cmのL字状に曲がる溝の中に、径 8～10cmの石を詰める。北の辺の軸方向は W - 13° - N を指す。建物の基礎と考えられる。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK35・A-SS4・A-SS6・A-SS10・A-SX1 より古く、A-SK50・A-SK60・A-SP11・A-SP13・A-SP23・A-SP36・A-SP37・A-SP38・B-SK3・B-SK4 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SS30 (第 125 図)

J23・24 グリッドに位置する。幅 51cm、深さ 20cmの溝に径 8～10cmの石を詰める。軸方向は W - 12° - N を指す。建物の基礎と考えられる。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK24・A-SS6・A-SS9 より古い。時期は切り合い関係より 19 世紀と考えられる。

A-SS31 (第 123 図)

I24 グリッドに位置する。幅 50cm、深さ 52cmの溝に径 10cmの石を詰める。軸方向は N - 10° - E を指す。建物の基礎と考えられる。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK24 より古く、A-SK49 より新しい。時期は切り合い関係より 19 世紀と考えられる。

A-SS32 (第 140 図)

K21・22 グリッドに位置する。径 5～10cmの石が、長さ 5.0m、幅 0.5m の範囲で並べてある。軸方向は W - 13° - N を指す。何らかの構造物の基礎の可能性はある。陶磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SS33 (第 139 図)

I23 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.7m、短軸 0.68m、深さ 30cmを測る。1 辺 10～30cmの石が埋設されている。A-SS34 と並び、礎石の可能性はある。切り合いは A-SS6 より古く、A-SK58 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SS34 (第 139 図)

I23 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.72m、短軸 0.64m、深さ 36cmを測る。1 辺 10～30cmの石が埋設されている。A-SS33 と並び、礎石の可能性はある。切り合いは A-SS6 より古く、A-SK58 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SS35 (第 141 図)

K23 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.52m、短軸 0.5m、深さ 18cmを測る。1 辺 10～40cmの方

形の石が埋設されている。礎石と考えられる。切り合いは A-SK41・A-SK59・A-SP29 より新しい。時期は近世と考えられる。

A-SS37 (第 141 図)

J22 グリッドに位置する。径 4～10cmの割石が 1.5×1.0m の範囲に散乱している。周辺から丸形の磁器碗、見込みに蛇の目釉剥ぎを施した陶器皿、乗燭が出土している。遺構の時期・性格は不明である。

A-SS39 (第 141 図)

J22 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.38m、短軸 0.32m、深さ 25cmを測る。土坑内に径 10～20cmの石を詰める。礎石の根石が残存したのと考えられる。切り合いは A-SK15 より新しい。時期は不明である。

A-SS40 (第 140 図)

J22 グリッドに位置する。径 6～20cmの石が 2.2×0.8m の範囲に散乱している。周辺から陶磁器の小破片が出土している。遺構の時期・性格は不明である。

A-SS41 (第 140 図)

K22 グリッドに位置する。径 2～12cmの石が 2.0×1.6m の範囲に散乱している。周辺から陶磁器の小破片が出土している。遺構の時期・性格は不明である。

A-SS42 (第 139 図)

I23 グリッドに位置する。幅 106cm、深さ 32cmの溝に径 5～10cmの石を詰める。軸方向は W-7°-N を指す。建物の基礎の可能性ある。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK4・A-SS7・A-SS26 より古く、A-SP19・A-SP20・A-SP21 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SS43 (第 140 図)

J22 グリッドに位置する。径 5～10cmの石が 1.6×1.4m の範囲に散乱している。周辺から陶磁器の小破片が出土している。遺構の時期・性格は不明である。

A-SS44 (第 140 図)

K21・22 グリッドに位置する。16×14×5cmと 20×16×8cmの扁平な石が並ぶ。礎石の可能性ある。切り合いは A-SK16 より新しい。時期は不明である。

A-SS45 (第 140 図)

K21 グリッドに位置する。1辺 10～25cmの方形の石が並ぶ。A-SS46・A-SS47 と並び、礎石と考えられる。切り合いは A-SK16 より新しい。時期は不明である。

A-SS46 (第 140 図)

K22 グリッドに位置する。1辺 20～40cmの方形の石が並ぶ。A-SS45・A-SS47 と並び、礎石と考えられる。切り合いは A-SK16 より新しい。時期は不明である。

A-SS47 (第 140 図)

K22 グリッドに位置する。1辺 10～20cmの方形の石が並ぶ。A-SS45・A-SS46 と並び、礎石と考えられる。切り合いは A-SK16 より新しい。時期は不明である。

A-SS48 (第 140 図)

K21 グリッドに位置する。径 10～40cmの石が 1.0×0.8m の範囲に散乱している。周辺から磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK47・A-SS32 より新しい。遺構の時期・性格は不明である。

A-SS49 (第 140 図)

K21 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.8m、短軸 0.7m、深さ 36cmを測る。土坑内に径 10～20cmの石を詰める。礎石の可能性ある。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK23・A-SK47 より新しい。時期は不明である。

A-SS50 (第 129・137 図)

K21 グリッドに位置する。径 10cmの石を長さ 2.0m、幅 0.5m の範囲に並べる。軸方向は W - 15° - N を指す。何らかの構造物の基礎の可能性はある。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SS1 より古く、A-SK23 より新しい。時期は切り合い関係より近代と考えられる。

A-SS51 (第 140 図)

L22 グリッドに位置する。1 辺 10 ~ 25cmの石を並べる。A-SS52 と並び、礎石と考えられる。時期は不明である。

A-SS52 (第 140 図)

L22・23 グリッドに位置する。1 辺 10 ~ 35cmの石を並べる。A-SS51 と並び、礎石と考えられる。切り合いは A-SK45 より新しい。時期は不明である。

第 2 項 II -B 地点 (第 113・114 図)

土坑

B-SK2 (第 144 図)

I21・J21 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 4.12m、短軸残存長 2.4m、深さ 63cmを測る。覆土に焼土粒・木片が混ざっており、火災等で発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。半筒形の磁器碗、広東形の磁器碗、仏飯器、肥前系京焼風陶器、広東形の陶胎染付碗、油溝を半月状に切る灰釉灯明受皿、堺・明石系の播鉢などが出土している。切り合いは B-SK3・B-SK4 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀前葉と考えられる。

B-SK3 (第 144 図)

I21・J21 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.24m、短軸 2.2m、深さ 1.0m を測る。丸形の磁器碗、薄手酒杯、肥前系京焼風陶器、焼塩壺、焙烙などが出土している。切り合いは B-SK2 より古い。時期は出土遺物より 17 世紀末から 18 世紀前葉と考えられる。

B-SK4 (第 144 図)

I21 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 2.6m、短軸残存長 1.5m、深さ 0.9m を測る。覆土に焼土粒・木片が混ざっており、火災等で発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。半筒形の磁器碗、腰鍔碗、肥前系京焼風陶器などが出土している。切り合いは B-SK2 より古い。時期は出土遺物より 18 世紀後葉と考えられる。

B-SK7 (第 145 図)

J20・K20 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.3m、短軸 1.18m、深さ 19cmを測る。陶器の小破片が出土している。切り合いは B-SK12 より新しい。時期は不明である。

B-SK8 (第 145 図)

I20 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.36m、短軸 0.3m、深さ 10cmを測る。磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

B-SK9 (第 145 図)

I20 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.3m、短軸 0.24m、深さ 5cmを測る。時期は不明である。

B-SK10 (第 145 図)

I20・J20 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.3m、短軸 0.2m、深さ 3cmを測る。時期は不明である。

B-SK11 (第 145 図)

J20 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.26m、短軸残存長 0.14m、深さ 10cmを測る。時期は不明である。

B-SK12 (第 145 図)

K20 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.58m、短軸 0.53m、深さ 20cmを測る。土坑内に 36 × 25 × 11cmの扁平な石が埋設されており、礎石の可能性はある。B-SK7 の下層で検出された。時期は不明である。

B-SK13 (第 146 図)

J20 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長 1.0 m、短軸残存長 0.6 m、深さ 22cmを測る。切り合いは B-SK21・B-SS1 より古い。時期は不明である。

B-SK14 (第 146 図)

J19 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 0.61m、短軸 0.53m、深さ 52cmを測る。磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

B-SK15 (第 146 図)

J19・20 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 3.72m、短軸 2.31m、深さ 1.33m を測る。丸形の磁器碗、半筒形の磁器碗、油溝を切立状に切る鉄釉灯明受皿などが出土している。切り合いは B-SS4 より古く、B-SK19・B-SP1・B-SP2 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀前葉と考えられる。

B-SK17 (第 145 図)

J20・21 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.52m、短軸 1.9m、深さ 24cmを測る。磁器の小破片が出土している。切り合いは B-SK2 より古い。時期は切り合い関係から近世と考えられる。

B-SK18 (第 146 図)

K20 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.55m、短軸 0.54m、深さ 20cmを測る。32 × 30 × 12cmの扁平な石が埋設されており、礎石の可能性はある。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは B-SS1 より古く、B-SK21 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

B-SK19 (第 146 図)

J20 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.74m、短軸残存長 0.36m、深さ 29cmを測る。磁器の小破片が出土している。切り合いは B-SK15 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

B-SK20 (第 147 図)

J18 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長 1.48m、短軸残存長 0.85m、深さ 4cm を測る。切り合いは B-SD3 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

B-SK21 (第 146 図)

J20 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸残存長 0.38m、短軸 0.3m、深さ 10cmを測る。径 10cmの小石を詰めており、柱の根石の可能性はある。切り合いは B-SK18 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

B-SK22 (第 146 図)

J20 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.3m、短軸 0.23m、深さ 19cmを測る。径 10cmの小石を詰めており、柱の根石の可能性はある。時期は不明である。

溝**B-SD1 (第 149 図)**

I20・J20・K20 グリッドに位置する。幅 132cm、深さ 70cmを測る。軸方向は N - 13° - E を指し、J20 グリッドで T 字状に分岐している。径 2 ~ 10cmの小石を充填し、径 20cm程度の木杭を 3 本 1 セットとして、1.3 ~ 1.4m 間隔で打ち込んでいる。3 本 1 セットの木杭は J19・K19・I20・J20・K20 グリッドに口の字状に分布しており、建物の不等沈下防止のための捨杭である。B-SD1 の下層には木樋を通した B-SD2 が走っており、地盤強化のため、さらに石を入れて補強したものであると考えられる。陶磁器の小破片が出土している。切り

合いは B-SS1 より古く、B-SD2 より新しい。時期は近代と考えられる。

B-SD2 (第 145 図)

I20・J20・K20 グリッドに位置する。幅 64cm、深さ 146cmを測る。南北方向に延びている。径 20cmの木樋を埋設している。木樋は樹皮の残る丸太を削り貫いたもので、上蓋は洋釘により留められている。北から南に向かって傾斜しており、周囲から集まった雨水などが、木樋を通して現在も流れ続けていた。木樋は近代の捨杭により破壊されている。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは B-SS1・B-SD1 より古い。時期は近代と考えられる。

B-SD3 (第 147 図)

J18 グリッドに位置する。幅 174cm、深さ 66cmを測る。軸方向は N - 21° - E を指す。幅 19cm、高さ 15cm の箱形の木樋が埋設されており、西隣には径 5cmの竹樋が木樋に並行して埋設されている。木樋は凹の字状に削り出した管に蓋板を置き、和釘を打って留めている。北から南に向かって傾斜しており、周囲から集まった雨水などが、木樋を通して現在も流れ続けていた。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは B-SS1・B-SS4 より古く、B-SK20 より新しい。時期は近世と考えられる。

B-SD4 (第 147 図)

J18 グリッドに位置する。幅 54cm、深さ 42cmを測る。軸方向は N - 11° - E を指す。径 20cmの木樋を埋設している。木樋は樹皮の残る丸太を削り貫いたもので、上蓋は洋釘により留められている。北から南に向かって傾斜しており、周囲から集まった雨水などが、木樋を通して現在も流れ続けていた。磁器の小破片が出土している。切り合いは B-SS1・B-SS2 より古い。時期は近代と考えられる。

石列・礎石・基礎

B-SS1 (第 148 図)

B 地点南半部で検出した。間知石や方形の切石を積み上げる。間知石の下には胴木を並べ、根石や杭で固定している。対面の石列はカクランにより無くなっているが、土地境に敷設された用水路の一部と考えられる。東端は A-SS1 に繋がる。K19 グリッドでカクランを受け、一時途切れている。B-SS1 の後方北側には、土地境の石列の一部とみられる B-SS2 や B-SS4 があり、過去に土地境が変更された可能性がある。軸方向は W - 10° - N を指す。切り合いは B-SS6・B-SS7 より古く、B-SK13・B-SK18・B-SK21・B-SP7・B-SS3・B-SD1・B-SD2・B-SD3・B-SD4 より新しい。時期は近代と考えられる。

B-SS2 (第 148 図)

I17・18 グリッドに位置する。間知石を積み上げた土地境の石列である。やや大形の石を使用しており、大きいもので幅 55cm、厚み 30cm、控え長 90cmを測る。間知石の下には胴木を並べ、根石や杭で固定している。I18 グリッドで角を形成し、北に曲がっている。前方南側には B-SS1 があり、土地境が変更された可能性がある。南の辺の軸方向は W - 10° - N を指す。磁器の小破片が出土している。切り合いは B-SS1 より古く、B-SD4 より新しい。時期は切り合い関係より近代と考えられる。

B-SS3 (第 148 図)

J20 グリッドに位置する。40 × 30 × 24cmの方形の石を並べ、後方西側には径 10cmの石が 2.5 × 0.6m の範囲に散乱している。土地境の石列の一部であると考えられる。軸方向は N - 13° - S を指す。切り合いは B-SS1 より古く、B-SK18・B-SP5 より新しい。時期は切り合い関係より近代と考えられる。

B-SS4 (第 148 図)

J18・19 グリッドに位置する。間知石を積み上げた土地境の石列である。間知石の下には胴木を並べ、根石や杭で固定している。J19 グリッドで角を形成し、北に曲がっている。調査区外で B-SS2 と繋がる可能性がある。南の辺の軸方向は W - 11° - N を指す。陶磁器の小片が出土している。切り合いは B-SK15・B-SP6・B-SD3 より新しい。時期は切り合い関係より近代と考えられる。

B-SS5 (第 149 図)

J19 グリッドに位置する。径 10～20cmの石が 1.5×0.6m の範囲で並んでいる。遺構の時期・性格は不明である。

B-SS6 (第 149 図)

J19 グリッドに位置する。径 10cmの木杭を 3 本打ち込み、その上に 70×40×16cmの方形の石を置き、礎石としている。3 本 1 セットの木杭は J19・K19・I20・J20・K20 グリッドに口の字状に分布しており、建物の不等沈下防止用の捨杭で、同時期に打ち込まれたものと考えられる。時期は近代と考えられる。

B-SS7 (第 149 図)

K19 グリッドに位置する。60×40×21cmの楕円形の石を検出した。礎石の可能性はある。切り合いは B-SS1 より新しい。時期は切り合い関係より近代と考えられる。

第 3 項 II -C 地点 (第 115・116 図)**土坑****C-SK1 (第 150 図)**

N17 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 1.24m、短軸残存長 0.86m、深さ 62cmを測る。時期は不明である。

C-SK2 (第 150 図)

N18 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.24m、短軸 0.2m、深さ 8cmを測る。時期は不明である。

C-SK3 (第 150 図)

N17 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.28m、短軸 0.24m、深さ 6cmを測る。時期は不明である。

C-SK4 (第 150 図)

N16・17 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.84m、短軸 0.82m、深さ 23cmを測る。土坑の底から桶の底板の残骸を検出した。桶を埋設した土坑である。半筒形の磁器碗、肥前系京焼風陶器などが出土している。時期は出土遺物より 18 世紀末から 19 世紀と考えられる。

C-SK5 (第 150 図)

N18 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.6m、短軸 0.4m、深さ 37cmを測る。時期は不明である。

C-SK6 (第 150 図)

N18 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.64m、短軸 0.3m、深さ 25cmを測る。時期は不明である。

C-SK7 (第 150 図)

N18 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.4m、短軸 0.3m、深さ 6cmを測る。時期は不明である。

C-SK8 (第 150 図)

N18 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.36m、短軸 0.3m、深さ 6cmを測る。時期は不明である。

C-SK9 (第 150 図)

N17・18 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.3m、短軸 0.8m、深さ 20cmを測る。切り合いは C-SK10・C-SS12 により古い。時期は不明である。

C-SK10 (第 150 図)

N17 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.52m、短軸 0.48m、深さ 22cmを測る。切り合いは C-SK9 より新しい。時期は不明である。

C-SK11 (第 150 図)

N17 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸 1.0m、短軸残存長 0.44m、深さ 6cmを測る。切り合いは C-SK12 より新しい。時期は不明である。

C-SK12 (第 150 図)

N17 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.76m、短軸残存長 0.38m、深さ 16cmを測る。

切り合いは C-SK11 より古い。時期は不明である。

C-SK13 (第 150 図)

O18 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸 0.56m、短軸残存長 0.4m、深さ 18cm を測る。時期は不明である。

C-SK14 (第 150 図)

N18 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.8m、短軸残存長 0.7m、深さ 20cm を測る。時期は不明である。

C-SK16 (第 154 図)

M12 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.72m、短軸残存長 0.2m、深さ 55cm を測る。甲府空襲に由来する焼土ブロック・炭化物が堆積している。時期は近代と考えられる。

C-SK17 (第 151 図)

M12 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.64m、短軸 0.6m、深さ 10cm を測る。甲府空襲に由来する焼土ブロック・炭化物が堆積している。時期は近代と考えられる。

C-SK18 (第 152 図)

N16 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.8m、短軸 1.1m、深さ 34cm を測る。肥前系京焼風陶器、志戸呂系の灯明皿、漆継ぎの痕跡が残る三島手の鉢などが出土している。時期は出土遺物より 18 世紀前葉と考えられる。

C-SK19 (第 151 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.7m、短軸 1.6m、深さ 34cm を測る。土坑内に焼土・炭化物が多量に堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。端反形の磁器碗、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、被熱した陶器の皿、鉢、土瓶などが出土している。切り合いは C-SS2 より古く、C-SK32・C-SK39・C-SP19・C-SP20 より新しい。時期は出土遺物より幕末から明治と考えられる。

C-SK20 (第 151 図)

M14・15、N15 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.4m、短軸 1.0m、深さ 46cm を測る。銅板転写や型紙摺で染付した磁器などが出土している。時期は出土遺物より近代と考えられる。

C-SK21 (第 152 図)

N14・15 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.6m、短軸残存長 1.04m、深さ 48cm を測る。漆継ぎの痕跡がある丸形の磁器碗、高台内に目跡が残る磁器皿、丸形の陶器碗、陶胎染付の皿などが出土している。切り合いは C-SX1 より古い。時期は出土遺物より 18 世紀後葉と考えられる。

C-SK22 (第 159 図)

M15・16 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 2.4m、短軸 2.2m、深さ 2.2m を測る。深さ 1.08m まで、径 5～20cm の石が多量に混ざる。丸形の磁器碗、刷毛目碗、油溝を半月状に切る灰釉灯明受皿などが出土している。切り合いは C-SX2 より古く、C-SE2 より新しい。時期は出土遺物・切り合い関係より 18 世紀後葉と考えられる。

C-SK23 (第 152 図)

N15 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.16m、短軸 0.64m、深さ 8cm を測る。京・信楽系の陶器碗、肥前系の刷毛目碗などが出土している。時期は出土遺物から 17 世紀後葉から 18 世紀前葉と考えられる。

C-SK24 (第 152 図)

M15・16 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.1m、短軸 1.1m、深さ 32cm を測る。時期は不明である。

C-SK25 (第 153 図)

M14・N14 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.8m、短軸 0.64m、深さ 8cm を測る。桶の底板の残骸が出土しており、桶を埋設した土坑である。切り合いは C-SK28 より新しい。時期は近世と考えられる。

C-SK26 (第 152 図)

M15 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸残存長 1.78m、短軸残存長 0.9m、深さ 16cm を測る。切り合いは C-SD2 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

C-SK27 (第 152 図)

M15 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.32m、短軸残存長 0.3m、深さ 24cm を測る。桶が埋設されている。切り合いは C-SD3 より古い。時期は切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

C-SK28 (第 155 図)

M14・N14 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.7m、短軸 0.66m、深さ 20cm を測る。切り合いは C-SK25 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

C-SK29 (第 152 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は不整形で、長軸残存長 1.58m、短軸 0.76m、深さ 32cm を測る。多量の陶磁器を一括廃棄した廃棄土坑と考えられる。時期は出土遺物より 18 世紀第 3 四半期から 19 世紀初頭と考えられる。

C-SK30 (第 153 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 1.08m、短軸残存長 0.36m、深さ 24cm を測る。呉器形の磁器碗、端反形の磁器碗、京・信楽系の灯明皿などが出土している。切り合いは C-SS9 より古く、C-SD5 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

C-SK31 (第 153 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 1.2m、短軸残存長 0.5m、深さ 30cm を測る。覆土に焼土ブロック・炭化物ブロック・瓦片が多量に混じる。火災等で発生したゴミを投棄した廃棄土坑の可能性はある。端反形の磁器碗、寛永通宝などが出土している。切り合いは C-SS2 より古く、C-SK35 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

C-SK32 (第 153 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸 1.2m、短軸残存長 0.74m、深さ 20cm を測る。丸形の磁器碗、尾呂茶碗、油溝をアーチ状に 2ヶ所切り抜き、鉄錆釉を施す志戸呂系の灯明受皿が出土している。切り合いは C-SK19・C-SK39・C-SS2 より古く、C-SP18 より新しい。時期は出土遺物より 18 世紀と考えられる。

C-SK33 (第 153・154 図)

M12・13 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長 2.52m、短軸残存長 1.36m、深さ 80cm を測る。多量の焼土ブロック・炭化物ブロックが堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。丸形の磁器碗、磁器皿、杉形碗、刷毛目碗、油溝を切立状に切る鉄錆釉灯明受皿、土器の灯明皿、硯、寛永通宝などが出土している。切り合いは C-SK17 より古く、C-SK44 より新しい。時期は出土遺物より 18 世紀中葉と考えられる。

C-SK34 (第 153 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.8m、短軸 0.6m、深さ 16cm を測る。切り合いは C-SK40 より新しい。時期は近世と考えられる。

C-SK35 (第 153 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 1.28m、短軸残存長 0.9m、深さ 22cm を測る。丸形の磁器碗、瀬戸美濃系の播鉢、寛永通宝などが出土している。切り合いは C-SK31・C-SS10 より古く、C-SP17 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀後葉から 19 世紀初頭と考えられる。

C-SK36 (第 153 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長 0.5m、短軸残存長 0.28m、深さ 12cm を測る。丸形の磁器碗、磁器皿、磁器の猪口などが出土している。切り合いは C-SK38 より新しい。時期は出土遺物と

切り合い関係より 19 世紀初頭と考えられる。

C-SK37 (第 153 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 1.36m、短軸 0.96m、深さ 26cmを測る。尾呂茶碗、焙烙などが出土している。切り合いは C-SK38・C-SK43・C-SD5 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

C-SK38 (第 153 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸残存長 1.32m、短軸残存長 0.96m、深さ 8cmを測る。半筒形の磁器碗、焼継ぎの痕跡がある半球形の磁器碗、丸形の磁器碗、瀬戸美濃系の香炉などが出土している。切り合いは C-SK36・C-SK37 より古く、C-SP21 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀後葉と考えられる。

C-SK39 (第 153 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸残存長 1.0m、短軸 0.94m、深さ 20cmを測る。切り合いは C-SK19 より古く、C-SK32 より新しい。時期は切り合い関係より 18 世紀から 19 世紀と考えられる。

C-SK40 (第 156 図)

M13・14 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.52m、短軸 1.1m、深さ 46cmを測る。切り合いは C-SK34・C-SP15・C-SS10 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

C-SK42 (第 155 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 0.72m、短軸残存長 0.4m、深さ 40cmを測る。腰鍔碗、陶器の瓶などが出土している。切り合いは C-SE3 より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀中葉から後葉と考えられる。

C-SK43 (第 155 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.28m、短軸残存長 0.15m、深さ 18cmを測る。切り合いは C-SK37 より古い。時期は切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

C-SK44 (第 156 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.52m、短軸 0.48m、深さ 24cmを測る。切り合いは C-SK33 より古い。時期は切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

C-SK45 (第 156 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.5m、短軸 0.66m、深さ 28cmを測る。切り合いは C-SS1・C-SS11 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

C-SK46 (第 156 図)

M12 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.37m、短軸 0.36m、深さ 20cmを測る。土坑内に 24 × 22 × 14cmの石が埋設されており、礎石と考えられる。時期は近世と考えられる。

C-SK47 (第 156 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.8m、短軸 0.25m、深さ 12cmを測る。切り合いは C-SK35・C-SS10 より古く、C-SK48 より新しい。時期は切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

C-SK48 (第 156 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.62m、短軸 0.6m、深さ 48cmを測る。切り合いは C-SK35・C-SK47・C-SS10 より古い。時期は切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

C-SK49 (第 156 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.52m、短軸 0.4m、深さ 58cmを測る。時期は不明である。

C-SK50 (第 156 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.76m、短軸 0.62m、深さ 52cmを測る。時期は不明である。

C-SK51 (第 155 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.45m、短軸残存長 0.28m、深さ 6cmを測る。時期は不明である。

C-SK52 (第 158 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長 0.3m、短軸残存長 0.2m、深さ 13cmを測る。覆土に炭化物が多量に混ざっている。切り合いは C-SP25 より古い。時期は近世と考えられる。

井戸

C-SE2 (第 152 図)

M15 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.2m、短軸残存長 1.06m、深さ 1.02m を測る。土坑内で桶の底板が出土した。土坑の北側には竹樋が埋設されている C-SD3 が走り、C-SE2 の埋桶に接続されていたと考えられる。見込みにコンニャク印判で五弁花を染め付けた磁器皿、油溝をアーチ状に 2ヶ所切り抜き、鉄錆釉を施す志戸呂系の灯明受皿などが出土している。銅板転写で染付を施した磁器皿も出土しているが、これは後世の混入と考えられる。切り合いは C-SK22・C-SS6 より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀中葉と考えられる。

C-SE3 (第 155 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.98m、短軸 0.88m、深さ 70cmを測る。土坑内に径 79cmの桶が埋設されており、桶の底板には径 12cmの穴が開けられ、径 10cmの竹の管が挿入されている。明治期に発達した上総掘りの技術で掘られた掘り抜き井戸である。18 世紀代の陶磁器が出土しているが、掘方から出土したものであり、同時期の遺物が出土している C-SK29 や C-SX4 と隣接していることから、構築時の混入と考えられる。

溝

C-SD2 (第 155 図)

M14・15、N14 グリッドに位置する。幅 52cm、深さ 32cmを測る。軸方向は N - 17° - E を指す。径 6cmの竹樋が埋設されている。北から南に向かって傾斜し、1 mで約 6cmの傾斜を測る。端反形の磁器碗、半筒形の磁器碗、磁器碗の蓋などが出土している。切り合いは C-SK26 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀前葉と考えられる。

C-SD3 (第 152・159 図)

M15 グリッドに位置する。幅 30cm、深さ 28cmを測る。軸方向は N - 13° - E を指す。径 6cmの竹樋が埋設されている。南端は C-SE2 と接続する。切り合いは C-SK23 より新しい。時期は切り合い関係より 18 世紀中葉と考えられる。

C-SD4 (第 158 図)

M13 グリッドに位置する。幅 36cm、深さ 16cmを測る。軸方向は N - 13° - E を指す。切り合いは C-SS4・C-SS9 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

C-SD5 (第 158 図)

M13・14 グリッドに位置する。幅 34cm、深さ 6cmを測る。軸方向は W - 6° - N を指す。切り合いは C-SK30・C-SK37・C-SS9 より古い。時期は近世と考えられる。

石列・礎石・基礎

C-SS1 (第 151 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.88m、短軸 0.78m、深さ 52cmを測る。径 12cmの木杭を

3本打ち込み、その上に36×30×24cmの方形の石を埋設し、径10～30cmの石を詰める。C-SS2・C-SS3・C-SS4・C-SS5・C-SS9と並び、礎石と考えられる。切り合いはC-SK45・C-SS11より新しい。時期は近代と考えられる。

C-SS2 (第151図)

M13グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸0.94m、短軸0.76m、深さ52cmを測る。径15cmの木杭を3本打ち込み、その上に52×32×17cmの方形の石を埋設し、さらに方形の石を積み、周囲に径10～20cmの石を詰める。C-SS1・C-SS3・C-SS4・C-SS5・C-SS9と並び、礎石と考えられる。切り合いはC-SK19・C-SK31・C-SK32より新しい。時期は近代と考えられる。

C-SS3 (第151図)

L13・M13グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸0.85m、短軸残存長0.6m、深さ60cmを測る。径15cmの木杭を3本打ち込み、その上に44×40×30cmの方形の石を埋設し、径10～20cmの石を詰める。C-SS1・C-SS2・C-SS4・C-SS5・C-SS9と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

C-SS4 (第151図)

M13・14グリッドに位置する。平面形は方形で長軸1.08m、短軸残存長0.8m、深さ54cmを測る。径15cmの木杭を3本打ち込み、その上に45×42×22cmの方形の石を埋設し、径10～20cmの石を詰める。C-SS1・C-SS2・C-SS3・C-SS5・C-SS9と並び、礎石と考えられる。切り合いはC-SD4より新しい。時期は近代と考えられる。

C-SS5 (第154図)

M12グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸0.68m、短軸残存長0.5m、深さ66cmを測る。土坑内に径10～20cmの石を詰める。C-SS1・C-SS2・C-SS3・C-SS4・C-SS9と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

C-SS6 (第152図)

M15・N15グリッドに位置する。幅74cm、深さ36cmのL字状の溝に、径15cmの丸太を並べ、その上に径10～20cmの石を積んでいる。西の辺の軸方向はN-15°-Eを指す。建物の基礎と考えられる。切り合いはC-SE2より新しい。時期は不明である。

C-SS7 (第152図)

M15・16、N15・16グリッドに位置する。径10～20cmの石が2.0×1.8mの範囲でL字状に並べてある。何らかの構造物の基礎の可能性が有る。時期は不明である。

C-SS8 (第151図)

M13グリッドに位置する。28×24×18cmの方形の石を検出した。礎石の可能性が有る。時期は不明である。

C-SS9 (第151・153図)

M13グリッドに位置する。平面形は長方形で長軸1.72m、短軸0.96m、深さ50cmを測る。径15cmの木杭を6本打ち込み、その上に1辺25cm程の方形の石を並べ、周囲に径10～20cmの石を詰める。C-SS1・C-SS2・C-SS3・C-SS4・C-SS5と並び、礎石と考えられる。18世紀代の陶磁器類が出土しているが、構築時の混入と考えられる。切り合いはC-SK30・C-SD4・C-SD5より新しい。時期は近代と考えられる。

C-SS10 (第151図)

M12～14グリッドに位置する。5.6×1.2mの範囲に径10～20cmの石が散乱している。東端部では小形の間知石を並べ、溝を作っていた痕跡が残り、用水路と考えられる。軸方向はW-15°-Nを指す。時期は近代と考えられる。

C-SS11 (第153図)

M13グリッドに位置する。平面形は方形で長軸1.2m、短軸1.0m、深さ18cmを測る。土坑内に径10cmの石を詰める。切り合いはC-SS1より古く、C-SK45より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

C-SS12 (第 150 図)

N17 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.6m、短軸 0.5m、深さ 20cmを測る。1 辺 40cmの扁平な石や径 10～20cmの石を詰める。何らかの建造物の基礎と考えられる。時期は近代と考えられる。

その他の遺構

C-SX1 (第 156 図)

N15 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.47m、短軸 0.45m、深さ 11cmを測る。土坑内には多量の陶磁器片が堆積しており、陶磁器を一括廃棄した廃棄土坑と考えられる。銅板転写で染付を施した磁器碗、磁器皿などが出土している。切り合いは C-SK21 より新しい。時期は近代と考えられる。

C-SX2 (第 159・160 図)

M16 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 4.46m、短軸残存長 3.84m、深さ 1.6m を測る土坑内に、太さ 70×40cmの方形心柱と井桁に組まれた地中梁から構成される木組みが埋設されている。木組みに隣接して口径 1.0m の鉄釜が据えられている。大きな荷重に耐える構造を有していることから、梃子の原理を利用した圧搾装置の可能性がある。使用されている木材は梁や柱の転用材とみられるものもあり、樹種同定の結果ではケヤキとクリが使用されている。また暦年較正・ウィグルマッチングの成果では、1802－1827calAD、1821－1839 calAD、1714－1909 calAD と報告されている。切り合いは C-SK22 より新しい。

C-SX4 (第 155 図)

M14・N14 グリッドに位置する。平面形は長方形で長軸残存長 2.8m、短軸 1.7m、深さ 43cmを測る。覆土に炭化物や砂利、木片などが混ざり、土坑上には径 10～20cmの石、木片が散乱していた。廃棄土坑の可能性はある。半筒形の青磁染付碗、油溝を切立状に切る鉄軸灯明受皿、髪油壺、高台内に朱漆で「斤」の文字が書かれた漆塗りの椀、甲州金が出土している。甲州金には「桐紋」・「松木」・「壺朱」の刻印が施されている。切り合いは C-SE3 より古い。時期は出土遺物より 18 世紀後葉と考えられる。

第 4 項 II-D 地点 (第 117・118 図)

土坑

D-SK1 (第 161 図)

K13 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸残存長 0.8m、短軸 0.8m、深さ 80cmを測る。寛永通宝が出土している。時期は出土遺物より近世と考えられる。

D-SK2 (第 162 図)

H13 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.64m、短軸残存長 0.26m、深さ 35cmを測る。時期は不明である。

D-SK3 (第 162 図)

H13・I13 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 4.16m、短軸 1.76m、深さ 45cmを測る。多量の焼土ブロック・炭化物ブロックが堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した廃棄した土坑と考えられる。半筒形の磁器碗、丸形の磁器碗、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、柳茶碗、腰鏝碗、陶胎染付の碗、摺絵皿、甲州金、寛永通宝などが出土している。甲州金には「桐紋」・「松木」・「壺朱」の刻印が施されている。時期は出土遺物より 18 世紀末から 19 世紀初頭と考えられる。

D-SK4 (第 161 図)

J13・K13 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.6m、短軸残存長 2.36m、深さ 65cmを測る。多量の焼土ブロック・炭化物ブロックが堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した廃棄した土坑と考えられる。被熱した磁器碗、磁器皿、練鉢、寛永通宝、雁首銭などが出土している。切り合いは D-SD2 より新しい。時期は出土遺物より 18 世紀後葉と考えられる。

D-SK5 (第 162 図)

H13 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸残存長 0.6m、短軸残存長 0.2m、深さ 8cm を測る。磁器皿、輪禿皿、瀬戸美濃系の播鉢が出土している。時期は出土遺物より 18 世紀後葉と考えられる。

D-SK6 (第 162 図)

I13・14 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸残存長 0.9m、短軸 0.64m、深さ 63cm を測る。呉器形の磁器碗、紅猪口、染付磁器皿、寿文皿などが出土している。時期は出土遺物より幕末から明治と考えられる。

D-SK7 (第 163 図)

J13 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長 1.4m、短軸残存長 1.0m、深さ 17cm を測る。時期は不明である。

D-SK9 (第 163 図)

I14・J14 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長 2.0m、短軸残存長 1.62m、深さ 52cm を測る。木片が多量に堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。丸形の磁器碗、半球形の磁器碗、半球形の陶器碗、灰釉灯明皿、鉄釉灯明皿、瀬戸美濃系の播鉢などが出土している。切り合いは D-SK10・D-SS1 より古い。時期は出土遺物より 18 世紀後葉と考えられる。

D-SK10 (第 163 図)

J14 グリッドに位置する。平面形は方形で、長軸 0.98m、短軸 0.92m、深さ 46cm を測る。径 5～10cm の小石混じりの砂利が堆積している。切り合いは D-SS1 より古く、D-SK9 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

D-SK11 (第 163 図)

I13 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 1.14m、短軸残存長 0.68m、深さ 30cm を測る。土坑内には多量の陶磁器片が堆積しており、陶磁器を一括廃棄した廃棄土坑と考えられる。18 世紀代を中心とした陶磁器が多量に出土している。切り合いは D-SK12・D-SS1 より古い。時期は出土遺物より 18 世紀末と考えられる。

D-SK12 (第 161・163 図)

I13・J13 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長 2.1m、短軸残存長 0.64m、深さ 50cm を測る。土坑内に径 7～10cm の石が詰められており、何らかの構造物の基礎の可能性がある。景德鎮窯の磁器皿、見込みに蛇の目状釉剥ぎを施した磁器皿、腰鏝碗などが出土している。切り合いは D-SK11 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀前葉と考えられる。

D-SK13 (第 162 図)

I13・14 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.2m、短軸 1.0m、深さ 26cm を測る。端反形の磁器碗、磁器の急須などが出土している。切り合いは D-SS1 より古い。時期は出土遺物より幕末から明治と考えられる。

D-SK14 (第 162 図)

I14 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.44m、短軸 0.44m、深さ 45cm を測る。時期は不明である。

溝

D-SD1 (第 161 図)

J13 グリッドに位置する。幅 38cm、深さ 34cm を測る。軸方向は W - 12° - N を指す。時期は不明である。

D-SD2 (第 163 図)

J13 グリッドに位置する。幅 80cm、深さ 44cm を測る。軸方向は W - 37° - N を指し、北に向かってやや蛇行している。溝の両端に石を並べて壁としていた痕跡がある。切り合いは D-SK4 より古い。時期は切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

石列・礎石・基礎

D-SS1 (第 162 図)

I13・14、J13～15 グリッドに位置する。間知石や方形の切石を積み上げる。間知石の下には胴木を並べ、根石や杭で固定している。対面の石列はカクランにより無くなっているが、土地境に敷設された用水路の一部と考えられる。東端は B-SS1 に繋がると考えられる。軸方向は W - 11° - N を指す。18 世紀から 19 世紀の陶磁器が出土しているが、構築時の混入と考えられる。切り合いは D-SK9・D-SK10・D-SK11・D-SK13 より新しい。時期は近代と考えられる。

D-SS2 (第 161 図)

K13 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.8m、短軸 0.6m、深さ 40cm を測る。径 15cm の木杭を 3 本打ち込み、その上に 1 辺 30cm の方形の石を置き、周囲に 1 辺 20cm の板石を詰めて固定している。建物の礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

第 5 項 相生工区 (第 119 ～ 121 図)

土坑

相生-SK1 (第 164 図)

L4 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 2.4m、短軸残存長 1.9m、深さ 53cm を測る。多量の焼土ブロック・炭化物・瓦片が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。近代以降の陶磁器が出土している。切り合い関係は相生-SK11・相生-SK12 より新しい。時期は近代から現代と考えられる。

相生-SK2 (第 176 図)

L6 グリッドに位置する。62 × 45 × 8cm の木製の箱が埋設されていた。平面形は長方形で側面の板は腐食し、ほとんど残っていない。内部には多量の砂が堆積していた。遺構の時期、性格は不明である。

相生-SK3 (第 165 図)

K5 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.76m、短軸残存長 1.7m、深さ 35cm を測る。焼土粒・炭化物とともに多量の瓦片が堆積している。建物解体時に発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。筒丸形の磁器碗、端反形の磁器碗、広東形の磁器碗、紅猪口、油溝を切立状に切る鉄釉灯明受皿、乗燭、播鉢などが出土している。切り合いは相生-SK11 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

相生-SK4 (第 165 図)

K 4 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 2.0m、短軸残存長 1.5m、深さ 94cm を測る。焼土粒・炭化物とともに多量の瓦片が堆積している。建物解体時に発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。端反形の磁器碗、紅猪口、仏飯器、餌猪口などが出土している。切り合いは相生-SK11 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

相生-SK5 (第 165 図)

K4 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 2.2m、短軸残存長 1.0m、深さ 45cm を測る。多量の焼土粒・炭化物・瓦片が堆積している。建物解体時に発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。筒丸形の磁器、呉器形の磁器、水滴などが出土している。切り合いは相生-SK12・相生-NR1 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

相生-SK6 (第 166 図)

K2・3・L2・3 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 4.0m、短軸残存長 1.4m、深さ 60cm を測る。瓦片・木片・径 7 ～ 8cm の石が多量に堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。端反形の磁器碗、筒丸形の磁器碗、半球形の磁器碗、半筒形の磁器碗、丸形の磁器碗、腰鏝碗、鉄釉灯明皿、灰釉灯明皿、油溝を切立状に切る鉄釉灯明皿、乗燭、焼塩壺、焜炉などが出土している。切り合いは相生-SK10・相生 SE1 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

相生 -SK7 (第 166 図)

K2・3 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 6.0m、短軸残存長 1.24m、深さ 1.12m を測る。覆土に木片が多量に混ざっており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。筒丸形の磁器碗、端反形の磁器碗、紅猪口、薄手酒杯、鉄絵皿、灯明皿、乗燭、播鉢、墨で文章が書かれた木札や杭状の木製品等などが出土している。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

相生 -SK8 (第 166・171 図)

L3 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 1.12m、短軸残存長 0.6m、深さ 44cm を測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは相生 -SS17 より古く、相生 -SK12 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

相生 -SK9 (第 169 図)

K1・2 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.8m、短軸 0.8m、深さ 34cm を測る。土坑内より桶の底板が検出されており、桶を埋設した土坑である。半筒形の磁器碗、丸形の磁器碗、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、瀬戸美濃系の播鉢などが出土している。切り合いは相生 -SS10 より古い。時期は出土遺物より 19 世紀前葉と考えられる。

相生 -SK10 (第 167・171 図)

K3・L3 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長 2.5 m、短軸残存長 1.76m、深さ 0.88m を測る。ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。東側に位置する相生 -SK12 と同一の土坑と考えられる。18 世紀から 19 世紀の陶磁器が多量に出土している。切り合いは相生 -SK6 より古く、相生 -SK1 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀末から 19 世紀初頭と考えられる。

相生 -SK11 (第 167・171 図)

K4・5・L4・5 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 4.0m、短軸残存長 3.0m、深さ 90cm を測る。多量の木片が堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。18 世紀から 19 世紀の陶磁器が多量に出土しており、漆継ぎの痕跡や漆のパレットとして使用された痕跡のある磁器碗が出土している。切り合いは相生 -SK1・相生 -SK3・相生 -SK4・相生 -SK12・相生 -SS12・相生 -SS13・相生 -SS14・相生 -SS15 より古く、相生 -NR1 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀末から 19 世紀初頭と考えられる。

相生 -SK12 (第 167・171 図)

K3・4・L3・4 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長 4.0m、短軸残存長 2.6m、深さ 1.12m を測る。多量の木片が堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。西側に位置する相生 -SK10 と同一の土坑と考えられる。18 世紀から 19 世紀の陶磁器が多量に出土しており、墨で文章が書かれた木札も出土している。切り合いは相生 -SK1・相生 -SK5・相生 -SK8・相生 -SP1・相生 -SS8・相生 -SS17 より古く、相生 -NR1 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より、18 世紀末から 19 世紀初頭と考えられる。

相生 -SK13 (第 166 図)

K1 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.76m、短軸残存長 0.68m、深さ 50cm を測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは相生 -SS10 より古い。時期は近世と考えられる。

相生 -SK14 (第 169 図)

K5・L5 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 1.36m、短軸 1.0m、深さ 40cm を測る。半筒形の小碗、丸形の小碗、腰鍔碗、柳茶碗、堺・明石系の播鉢、焼塩壺などが出土している。切り合いは相生 -SK15・相生 -SS7 より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀末から 19 世紀初頭と考えられる。

相生 -SK15 (第 169 図)

L5 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.08m、短軸 1.08m、深さ 1.1m を測る。土坑内部には桶が埋設され、東側に竹樋が接続されている上水井戸である。桶の内部より半球形の磁器碗、土瓶、鋤などが出土している。切り合いは相生 -SS7 より古く、相生 -SK14・相生 -SK28 より新しい。時期は出土遺物と切り合い

関係より幕末から明治と考えられる。

相生-SK16 (第 168・172 図)

K5・6 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.36m、短軸残存長 1.16m、深さ 60cmを測る。筒丸形の磁器碗、半球形の磁器碗、呉器形の磁器碗、馬の目皿、乗燭、墨で文章が書かれた木札などが出土している。切り合いは相生-SS7 より古く、相生-SK17 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 19 世紀中葉と考えられる。

相生-SK17 (第 172 図)

K6 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 1.2m、短軸残存長 0.9m、深さ 1.1m を測る。土坑内部には桶が埋設され、南東側に竹樋が接続されていた痕跡が残る。桶の内部より 18 世紀から 19 世紀の陶磁器が多量に出土している。切り合いは相生-SK16・相生-SS5 より古く、相生-SD3 より新しい。時期は出土遺物より、18 世紀から 19 世紀初頭と考えられる。

相生-SK18 (第 172 図)

K6 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.92m、短軸残存長 0.36m、深さ〇〇cmを測る。磁器の小破片が出土している。切り合いは相生-SS1 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

相生-SK19 (第 168 図)

K6・L6 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.8m、短軸 0.78m、深さ 27cmを測る。半球形の磁器碗、丸形の磁器碗、半筒形の陶胎染付碗、水滴などが出土している。切り合い関係は相生-SD3 より新しい。時期は出土遺物より 18 世紀末と考えられる。

相生-SK20 (第 168 図)

L6 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.92m、短軸 0.76m、深さ 18cmを測る。土坑内に桶の底板が検出されており、桶を埋設した土坑である。丸形の磁器碗が出土している。切り合い関係は相生-SS22 より古く、相生-SK27 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

相生-SK21 (第 168 図)

L5 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.84m、短軸残存長 0.4m、深さ 6cmを測る。切り合いは相生-SS7・相生-SD1 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

相生-SK22 (第 168 図)

L5 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.9m、短軸 0.8m、深さ 17cmを測る。切り合いは相生-SX5 より新しい。時期は不明である。

相生-SK23 (第 168 図)

L6 グリッドに位置する。18×18cmの桶の底板が検出された。切り合いは相生-SS22 より古く、相生-SK27 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

相生-SK24 (第 165 図)

K3 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 0.48m、短軸 0.3m、深さ 6cmを測る。陶磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

相生-SK25 (第 170・171 図)

L5・6 グリッドに位置する。1.8×1.0m の範囲に梁の転用材をコの字状に並べ、内側に杭を打ち、外側には石を詰めて固定している。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは相生-SS1 より古く、相生-SK27 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。遺構の性格は不明である。

相生-SK26 (第 170・171 図)

L5 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.6m、短軸残存長 0.32m、深さ 15cmを測る。相生-SK25 内で検出された。切り合いは相生-SS1 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

相生 -SK27 (第 170 図)

L6 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 3.34m、短軸残存長 1.88m を測る。土坑内に桶を井戸枠とした掘抜き井戸が設置されている。井戸枠の上には梁の転用材を並べて井戸の蓋としている。掘方の上層から、漆継ぎの痕跡がある磁器の瓶や丹波系の播鉢などが出土している。切り合いは相生 -SK2、相生 -SK20、相生 -SK23、相生 -SK25、相生 -SS1、相生 -SS21、相生 -SS22 より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀末と考えられる。

相生 -SK28 (第 169 図)

L5 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.54m、短軸残存長 0.36m、深さ 1.24m を測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは相生 -SK15・相生 -SS7 より古い。時期は切り合い関係より 19 世紀と考えられる。

相生 -SK29 (第 170 図)

K6・L6 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 1.4m、短軸 0.96m、深さ 24cm を測る。丸形の磁器碗、半胴甕などが出土している。切り合いは相生 -SS1・相生 -SS23 より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀末と考えられる。

石列・礎石・基礎

相生 -SS1 (第 172・173・176 図)

K6、L5・6 グリッドに位置する。幅 80cm、深さ 70cm の溝の中に約 1.5m 間隔で 32 × 30 × 54cm の蠟燭石を据えて、径 10 ～ 20cm の石を詰めて固定している。蠟燭石の下には径 10 ～ 15cm の胴木を 3 本並べている。さらに蠟燭石を据えた部分については、胴木の下に径 10cm の木杭を 3 本打ち込み、その上に枕木を置いている。それ以外の部分では胴木の下に径 10cm 前後の石を敷き並べている。L6 グリッドで L 字状に曲がり、西端部は相生 -SS7 と繋がっている。建物の基礎と考えられる。18 世紀中葉から 19 世紀中葉の陶磁器が出土しているが、構築時の混入と考えられる。切り合いは相生 -SK18・相生 -SK25・相生 -SK26・相生 -SK27・相生 -SK29・相生 -SD1 より新しい。時期は近代と考えられる。

相生 -SS2 (第 174 図)

K6 グリッドに位置する。1 辺 10 ～ 20cm の方形の石を置き、周囲に径 10cm の石を置いて固定している。相生 -SS3・相生 -SS4・相生 -SS5・相生 -SS6 と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生 -SS3 (第 174 図)

K6 グリッドに位置する。40 × 30 × 10cm の扁平な石を置き、その下層に 1 辺 10 ～ 20cm の方形の石を積んでいる。相生 -SS2・相生 -SS4・相生 -SS5・相生 -SS6 と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生 -SS4 (第 174 図)

L6 グリッドに位置する。32 × 30 × 28cm の方形の石を置き、その下層に径 20cm の石を積んでいる。相生 -SS2・相生 -SS3・相生 -SS5・相生 -SS6 と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生 -SS5 (第 174 図)

K6 グリッドに位置する。36 × 30 × 11cm の扁平な石を置き、その下層に径 10cm の石を積んでいる。相生 -SS2・相生 -SS3・相生 -SS4・相生 -SS6 と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生 -SS6 (第 174 図)

L5 グリッドに位置する。30 × 30 × 17cm の方形の石を検出した。相生 -SS2・相生 -SS3・相生 -SS4・相生 -SS5 と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生 -SS7 (第 175 図)

K5、L5 グリッドに位置する。間知石を積み上げた土地境の石列である。間知石の下には胴木を並べ、根石や杭で固定している。軸方向は N - 10° - E を指す。南端部東側は相生 -SS1 と繋がっており、建物の基礎

としても機能していたと考えられる。切り合いは相生 -SK15・相生 -SK16・相生 -SK21・相生 -SK25・相生 -SK28・相生 -SD1・相生 -SX1 より新しい。時期は近代と考えられる。

相生 -SS8 (第 164 図)

K4 グリッドに位置する。40 × 40 × 20cmの方形の石を置き、周囲に径 20cmの石を並べて固定している。相生 -SS11・相生 -SS12・相生 -SS13・相生 -SS14・相生 -SS15 と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生 -SS9 (第 169 図)

K1・2、L1・2 グリッドに位置する。幅 50cm、深さ 36cmの溝の中に、径 20cm前後の石を詰める。L2 グリッドでL字状に曲がっているが、北側はカクランを受けて崩れている。建物の基礎と考えられる。南の辺の軸方向はW - 9° - Nを指す。切り合いは相生 -SS10 より古く、相生 -SS26・相生 -SX4 より新しい。時期は近代と考えられる。

相生 -SS10 (第 169 図)

K1・2 グリッドに位置する。30 × 25 × 20cmの小形の間知石を並べ、径 10 ~ 20cmの根石で固定している。軸方向はW - 9° - Nを指す。土地境の石列と考えられる。切り合いは相生 -SK9・相生 -SS9 より新しい。時期は近代と考えられる。

相生 -SS11 (第 164 図)

L4 グリッドに位置する。40 × 20 × 18cmの方形の石を置き、周囲に径 10cmの石を並べて固定している。相生 -SS8・相生 -SS12・相生 -SS13・相生 -SS14・相生 -SS15 と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生 -SS12 (第 164 図)

L5 グリッドに位置する。42 × 40 × 20cmの方形の石を検出した。相生 -SS8・相生 -SS11・相生 -SS13・相生 -SS14・相生 -SS15 と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生 -SS13 (第 164 図)

L5 グリッドに位置する。22 × 20 × 13cmの方形の石を検出した。相生 -SS8・相生 -SS11・相生 -SS12・相生 -SS14・相生 -SS15 と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生 -SS14 (第 164 図)

K4 グリッドに位置する。24 × 24 × 16cmの方形の石を置き、周囲に径 20cmの石を並べて固定している。相生 -SS8・相生 -SS11・相生 -SS12・相生 -SS13・相生 -SS15 と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生 -SS15 (第 164 図)

K4 グリッドに位置する。径 10 ~ 20cmの楕円形の石が積まれている。相生 -SS8・相生 -SS11・相生 -SS12・相生 -SS13・相生 -SS14 と並び、礎石の根石部分が残存したものと考えられる。時期は近代と考えられる。

相生 -SS16 (第 169 図)

L2 グリッドに位置する。1 辺 10 ~ 20cmの方形の石が積まれている。石の下には径 15cmの木杭が 2 本打ち込まれている。礎石と考えられる。切り合いは相生 -SK6 より新しい。時期は近代と考えられる。

相生 -SS17 (第 165 図)

L3 グリッドに位置する。径 10 ~ 20cmの石が積まれている。相生 -SS18 と並び、礎石の根石部分が残存したものと考えられる。切り合いは相生 -SK8・相生 -SK12 より新しい。時期は近代と考えられる。

相生 -SS18 (第 165 図)

K3 グリッドに位置する。径 10 ~ 30cmの石積が 2 基並んで検出された。相生 -SS17 と並び礎石の根石部分が残存したものと考えられる。切り合いは相生 -SK12 より新しい。時期は近代と考えられる。

相生 -SS19 (第 175 図)

L5 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 0.7m、短軸残存長 0.6m、深さ 34cmを測る。30 × 25 × 20cmの方形の石を埋設し、径 10 ～ 20cmの石を詰めて固定している。礎石と考えられる。切り合いは相生 -SX5 より新しい。時期は近世と考えられる。

相生 -SS20 (第 175 図)

L6 グリッドに位置する。30 × 28 × 18cmの方形の石を据え、周囲に 1 辺 30cm程度の方形の石を置いて固定している。礎石と考えられる。時期は近世と考えられる。

相生 -SS21 (第 174 図)

L6 グリッドに位置する。90 × 60cmの範囲に径 10cm前後の石を並べている。軸方向は N - 8° - E を指す。何らかの建造物の基礎の可能性はある。下層に相生 -SS22 が位置している。時期は近代と考えられる。

相生 -SS22 (第 168 図)

L6 グリッドに位置する。60 × 24 × 19cmの長方形の石を据え、周囲に径 10 ～ 20cmの石を詰めて固定している。礎石と考えられる。相生 -SS21 の下層で検出した。切り合いは相生 -SK20 より新しい。時期は近世と考えられる。

相生 -SS23 (第 176 図)

K6 グリッドに位置する。1.9 × 1.2m の範囲に、径 10 ～ 20cmの石を L 字状に並べている。西の辺の軸方向は N - 12° - E を指す。建物の基礎と考えられる。切り合いは相生 -SS1 より古く、相生 -SK29・相生 -SS24・相生 -SS27 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

相生 -SS24 (第 170 図)

K6 グリッドに位置する。44 × 40 × 12cmの扁平な石を据え、その上に 1 辺 10 ～ 20cmの石を積んでいる。礎石と考えられる。切り合い関係は相生 -SS23 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

相生 -SS25 (第 167 図)

K4 グリッドに位置する。32 × 30 × 16cmの方形の石を積み、周囲に径 10 ～ 20cmの石を詰めて固定している。礎石と考えられる。時期は近世と考えられる。

相生 -SS26 (第 166 図)

K2 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 1.04 m、短軸 0.68m、深さ 20cmを測る。土坑内に径 10cm の木杭を 7 本打ち込み、その上に 1 辺 40cm、厚み 10 ～ 15cmの方形の石を並べて置き、その周囲に径 10cm の石を詰めて固定している。礎石と考えられる。時期は近世と考えられる。

相生 -SS27 (第 172 図)

K6 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.44m、短軸残存長 0.3m、深さ 60cmを測る。土坑内に径 10cmの石を詰める。礎石の根石部分が残存したのと考えられる。切り合いは相生 -SS23 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

溝

相生 -SD1 (第 170 図)

L5・6 グリッドに位置する。幅 42cm、深さ 46cmを測る。軸方向は W - 3° - N を指す。径 10cmの竹樋が埋設されている。西端は相生 SK15 の埋桶と接続する。何度か竹樋の付け替えが行われており、L6 グリッドで相生 -SD2、相生 -SD3 と接続し、枡や継手を敷設し流路を曲げていた痕跡がある。切り合い関係は相生 -SS1・相生 -SS7 より古く、相生 -SK21・相生 -SD4 より新しい。時期は幕末から明治と考えられる。

相生 -SD2 (第 170 図)

K6、L6 グリッドに位置する。幅 52cm、深さ 32cmを測る。軸方向は W - 62° - N を指す。径 10cmの竹樋の残骸が残る。北端は相生 -SK17 の埋桶と接続していたと考えられる。南端は相生 -SD1 と繋がり、小形の埋桶を枡として敷設し、流路を曲げていた痕跡がある。切り合いは相生 -SS3 より古く、相生 -SD4 より新しい。時

期は 18 世紀末から 19 世紀初頭と考えられる。

相生 -SD3 (第 170 図)

K6、L6 グリッドに位置する。幅 40cm、深さ 26cm を測る。軸方向は N - 16° - E を指す。径 8cm の竹樋の残骸が残る。南端は相生 -SD1 と繋がり、継手を敷設し、流路を曲げていた痕跡がある。切り合いは相生 -SK16・相生 -SK17・相生 -SK19 より古い。時期は切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

相生 -SD4 (第 170 図)

K6、L6 グリッドに位置する。幅 10cm、深さ 8cm を測る。軸方向は N - 14° - E を指す。切り合いは相生 -SD1・相生 -SD2 より古い。時期は切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

その他の遺構

相生 -SX2 (第 169 図)

K3 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.6m、短軸 0.52m、深さ 30cm を測る。周囲には径 10 ~ 20cm の石が並べられていた。切り合いは相生 -SK7 より新しい。時期は不明である。

相生 -SX4 (第 166 図)

L2 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.64m、短軸残存長 0.52m、深さ 27cm を測る。遺構の時期、性格は不明である。

相生 -SX5 (第 170・171 図)

L5 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 2.0m、短軸残存長 0.8m、深さ 1.3m を測る。土坑の壁際に径 10 ~ 20cm の石が積み上げられている。切り合いは相生 -SK11・相生 -SK22・相生 -SS7・相生 -SS19 より古い。時期は切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

相生 -SE1 (第 167・171 図)

K3・L3 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長 0.76m、短軸残存長 0.64m を測る。掘抜き井戸で、井戸枠は検出されなかった。相生 -SK10 の下層で検出され、相生 -SK10 覆土が流れ込んでおり、18 世紀に廃絶されたものと考えられる。

自然流路 (NR)

相生 -NR1 (第 177 図)

K4、L4・5 グリッドに位置する。幅 1.28 ~ 2.92m、深さ 54 ~ 65cm を測る。調査区の南北を横断し、S 字状に蛇行している。粒の粗い砂が堆積していた。甲府城下町の北東に流れる藤川は、甲府城下建設以前は真っ直ぐに南流し、その一部が甲府城二の堀の一部に利用されていたことが分かっている。相生工区は柳町四丁目の西側の街区、二の堀の東側に位置しており、旧藤川の流路の一部である可能性が考えられる。

遺物集積地 (P)

相生 -P1 (第 169 図)

K3 グリッドに位置する。60 × 40cm の範囲内に、銅板転写や型紙摺で染付をした磁器などが多量に堆積していた。陶磁器を一括廃棄したものと考えられる。

第9表 II・相生工区遺構観察表 (SP)

調査区	グリッド	遺構名	形態	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
A	K21	SP1	円形	17	15	18
A	J21	SP2	円形	33	28	15
A	I22	SP3	円形	37	23	13
A	J21	SP4	円形	18	16	15
A	J21	SP5	円形	34	17	7
A	I23	SP6	円形	20	18	52
A	I22	SP7	円形	21	19	20
A	I22	SP8	円形	42	<20>	20
A	欠番	SP9	—	—	—	—
A	I23	SP10	円形	23	23	25
A	J・K24	SP11	円形	53	53	46
A	J23	SP12	円形	36	31	78
A	J22	SP13	円形	60	56	51
A	J22	SP14	円形	43	33	11
A	J22	SP15	円形	29	27	22
A	K22	SP16	円形	45	37	23
A	K23	SP17	円形	31	31	28
A	欠番	SP18	—	—	—	—
A	I23	SP19	円形	46	44	57
A	I23	SP20	円形	29	27	29
A	I23	SP21	円形	49	46	77
A	I22	SP22	円形	46	43	15
A	J24	SP23	円形	31	25	43
A	J22	SP24	不整形	54	<15>	53
A	K22・23	SP25	円形	26	25	27
A	K23	SP26	円形	16	15	8
A	K22	SP27	円形	17	16	17
A	K22	SP28	円形	14	12	29
A	K23	SP29	円形	17	15	3
A	I22・23	SP30	円形	17	15	36
A	欠番	SP31	—	—	—	—
A	K・L23	SP32	円形	40	<20>	5
A	M21	SP33	円形	26	25	9
A	M22	SP34	円形	26	25	29
A	J23	SP35	円形	32	30	24
A	J・K24	SP36	円形	27	26	65
A	K24	SP37	円形	25	24	22
A	K24	SP38	円形	27	22	25
B	J20	SP1	方形	44	41	27
B	J20	SP2	不整形	54	51	44
B	欠番	SP3	—	—	—	—
B	J20	SP4	円形	22	20	20
B	J・K20	SP5	円形	41	37	43
B	J19	SP6	円形	49	45	23
B	J18	SP7	円形	34	31	17
B	J18	SP8	円形	31	29	37
B	J19	SP9	円形	43	38	34
B	J19	SP10	円形	25	25	15
C	N17	SP1	円形	42	32	48
C	N17	SP2	円形	36	26	18
C	N16	SP3	円形	36	36	25
C	N17・18	SP4	円形	48	34	12
C	N18	SP5	円形	26	20	38
C	N17	SP6	円形	30	28	38
C	N17	SP7	円形	38	32	48
C	N17	SP8	円形	48	38	60
C	N17	SP9	円形	38	30	35
C	N17	SP10	円形	32	30	22
C	N18	SP11	円形	42	38	22
C	N16	SP12	円形	38	37	50
C	N16	SP13	円形	20	34	45
C	M13	SP14	円形	38	34	40
C	M14	SP15	円形	32	30	30
C	M13	SP16	円形	32	30	30

調査区	グリッド	遺構名	形態	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
C	M13	SP17	円形	26	22	23
C	M13	SP18	円形	36	28	40
C	M13	SP19	円形	30	26	72
C	M13	SP20	円形	32	30	26
C	M14	SP21	円形	18	18	32
C	M14	SP22	円形	26	26	32
C	M14	SP23	円形	22	15	22
C	M13	SP24	円形	20	16	45
C	M13	SP25	円形	18	<14>	12
D	J13	SP1	円形	22	18	48
相生	L3	SP1	円形	28	22	6

第 10 表 II・相生工区遺構一覧表

調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
A	J21・K21	SK1	長方形	19世紀前葉～中葉
A	欠番	SK2	—	—
A	K23	SK3	円形か	近代
A	I23	SK4	長方形	近代
A	欠番	SK5	—	—
A	J21	SK6	不整形	不明
A	欠番	SK7	—	—
A	I22	SK8	不整形	不明
A	J21	SK9	不整形	不明
A	I22	SK10	円形か	19世紀
A	J22	SK11	長方形	不明
A	I22	SK12	方形か	19世紀
A	J21・22	SK13	不整形	不明
A	欠番	SK14	—	—
A	J22・23・K22・23	SK15	不整形	幕末～明治
A	J21・22・K22・23	SK16	不整形	18世紀中葉～後葉
A	I22	SK17	円形か	不明
A	I22	SK18	方形か	近世
A	I22	SK19	方形	19世紀初頭
A	J22	SK20	円形	不明
A	I23・24	SK21	不整形	19世紀中葉
A	K21	SK22	不整形	近代
A	K21・22・L21	SK23	方形	19世紀中葉
A	I23・24・J23・24	SK24	不整形	19世紀前葉～中葉
A	L21・22	SK25	不整形	近代
A	L21・22	SK26	方形か	19世紀前葉
A	K22・23	SK27	方形	近世
A	K22・L22	SK28	円形か	近世
A	K23・24	SK29	円形	明治
A	L23	SK30	不整形	不明
A	K23・L23	SK31	不整形	不明
A	L24	SK32	円形か	不明
A	L22	SK33	円形	不明
A	L24	SK34	楕円形	不明
A	J23	SK35	楕円形	不明
A	J22	SK36	円形	不明
A	L22	SK37	円形	19世紀中葉
A	L22・23・M22・23	SK38	不整形	19世紀後葉
A	L23	SK39	不整形	幕末～明治
A	L23	SK40	方形	幕末～明治
A	K23	SK41	不整形	近世
A	L21	SK42	長方形	近代
A	K23・24・L23	SK43	不整形	19世紀中葉
A	K23	SK44	方形	明治前半
A	K22・23・L22・23	SK45	不整形	19世紀
A	欠番	SK46	—	—
A	K21・L21	SK47	不整形	19世紀中葉
A	欠番	SK48	—	—
A	I24・J24	SK49	不整形	17世紀末～18世紀前葉
A	J23・J24	SK50	円形	不明
A	J21・22	SK51	不整形	不明
A	欠番	SK52	—	—
A	J22・K22・23	SK53	楕円形か	近世
A	欠番	SK54	—	—

調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
A	欠番	SK55	—	—
A	I23・24J23	SK56	不整形	近世
A	K23	SK57	円形	近世
A	I23・J23	SK58	不整形	近世
A	K23	SK59	長方形	近世
A	K23・24	SK60	楕円形	18世紀前葉～中葉
A	欠番	SK61	—	—
A	L21・M21	SK62	円形	不明
A	I23・J23	SK63	方形	近世
A	欠番	SK64	—	—
A	L23・M23	SK65	円形か	近世
A	M21・22	SK66	不整形	近世
A	L22・M22・23	SK67	楕円形	19世紀中葉
A	J23	SK68	不整形	近世
A	L23・M23	SE1	円形か	明治時代
A	I21・22・J21・22	SX1	片袖形	近代
A	K21・L21・22・M22・23	SS1	石列	近代
A	J23	SS2	根石か	不明
A	J23	SS3	礎石か	不明
A	J24	SS4	礎石か	不明
A	J23	SS5	礎石	不明
A	I23・J23	SS6	擁壁の基礎	近代
A	I23・J23・24	SS7	建物基礎	近代
A	I28	SS8	集石	近代以降
A	K23	SS9	礎石か	近代
A	I21・J21	SS10	建物基礎か	近代
A	I22	SS11	礎石	19世紀
A	I22	SS12	礎石	19世紀
A	I23	SS13	礎石	19世紀
A	I22	SS14	不明	不明
A	J22・23	SS15	礎石か	不明
A	I22・23	SS16	根石か	不明
A	I22	SS17	礎石か	不明
A	I22	SS18	礎石か	不明
A	I23・J23	SS19	構造物の基礎か	近代以降
A	L22	SS20	構造物の基礎か	近代以降
A	J3	SS21	礎石	不明
A	I23	SS22	礎石か	不明
A	L22・23	SS23	構造物の基礎か	近代以降
A	欠番	SS24	—	—
A	I23・J23	SS25	建物基礎か	19世紀
A	I23	SS26	礎石か	不明
A	K23	SS27	礎石か	不明
A	J23	SS28	根石か	不明
A	I21・22・J21～24・K24	SS29	建物基礎か	近世
A	J23・24	SS30	建物基礎か	19世紀
A	I24	SS31	建物基礎か	19世紀
A	K21・22	SS32	構造物の基礎か	不明
A	I23	SS33	礎石か	近世
A	I23	SS34	礎石か	近世
A	K23	SS35	礎石	近世
A	欠番	SS36	—	—
A	J22	SS37	集石	不明
A	欠番	SS38	—	—
A	J22	SS39	根石か	不明
A	J22	SS40	集石	不明
A	K22	SS41	集石	不明
A	I23	SS42	建物基礎か	近世

調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
A	J22	SS43	集石	不明
A	K21・22	SS44	礎石か	不明
A	K21	SS45	礎石	不明
A	K22	SS46	礎石	不明
A	K22	SS47	礎石	不明
A	K21	SS48	集石	不明
A	K21	SS49	礎石か	不明
A	K21	SS50	建造物の基礎か	近代
A	L22	SS51	礎石	不明
A	L22・23	SS52	礎石	不明
A	欠番	SD1	—	—
A	L21・M21	SD2	竹樋	近代
A	M21・22	SD3	木樋	近代
B	欠番	SK1	—	—
B	I21・J21	SK2	不整形	19世紀前葉
B	I21・J21	SK3	不整形	17～18世紀
B	I21・J21	SK4	方形か	18世紀後葉
B	欠番	SK5	—	—
B	欠番	SK6	—	—
B	J20・K20	SK7	不整形	不明
B	I20	SK8	円形	不明
B	I20	SK9	円形	不明
B	I20・J20	SK10	楕円形	不明
B	J20	SK11	円形か	不明
B	K20	SK12	不整形	不明
B	J19・20	SK13	方形か	不明
B	J19	SK14	不整形	不明
B	J19・20	SK15	不整形	19世紀前葉
B	欠番	SK16	—	—
B	I20・21	SK17	不整形	近世
B	J20・K20	SK18	円形	近世
B	J20	SK19	円形か	近世
B	J18	SK20	円形か	近世
B	J20	SK21	楕円形	近世
B	J20	SK22	円形	不明
B	J17・18・19・ K19・20	SS1	石列	近代
B	I17・18	SS2	石列	近代
B	J20	SS3	石列	近代
B	J18・19	SS4	石列	近代
B	J19	SS5	集石	不明
B	J19	SS6	礎石	近代
B	J19	SS7	礎石か	近代
B	I20・J20・K20	SD1	建物基礎か	近代
B	I20・J20・K20	SD2	木樋	近代
B	J18	SD3	木樋	近世
B	J18	SD4	木樋	近代
C	N17	SK1	円形か	不明
C	N18	SK2	楕円形	不明
C	N17	SK3	円形	不明
C	N16・17	SK4	不整形	18世紀末～19世紀
C	N18	SK5	楕円形	不明
C	N18	SK6	楕円形	不明
C	N18	SK7	楕円形	不明
C	N18	SK8	円形	不明
C	N17・18	SK9	不整形	不明
C	N17	SK10	円形	不明
C	N17	SK11	楕円形か	不明
C	N17	SK12	円形か	不明
C	O18	SK13	楕円形か	不明
C	N18	SK14	不整形	不明
C	欠番	SK15	—	—
C	M12	SK16	円形か	近代

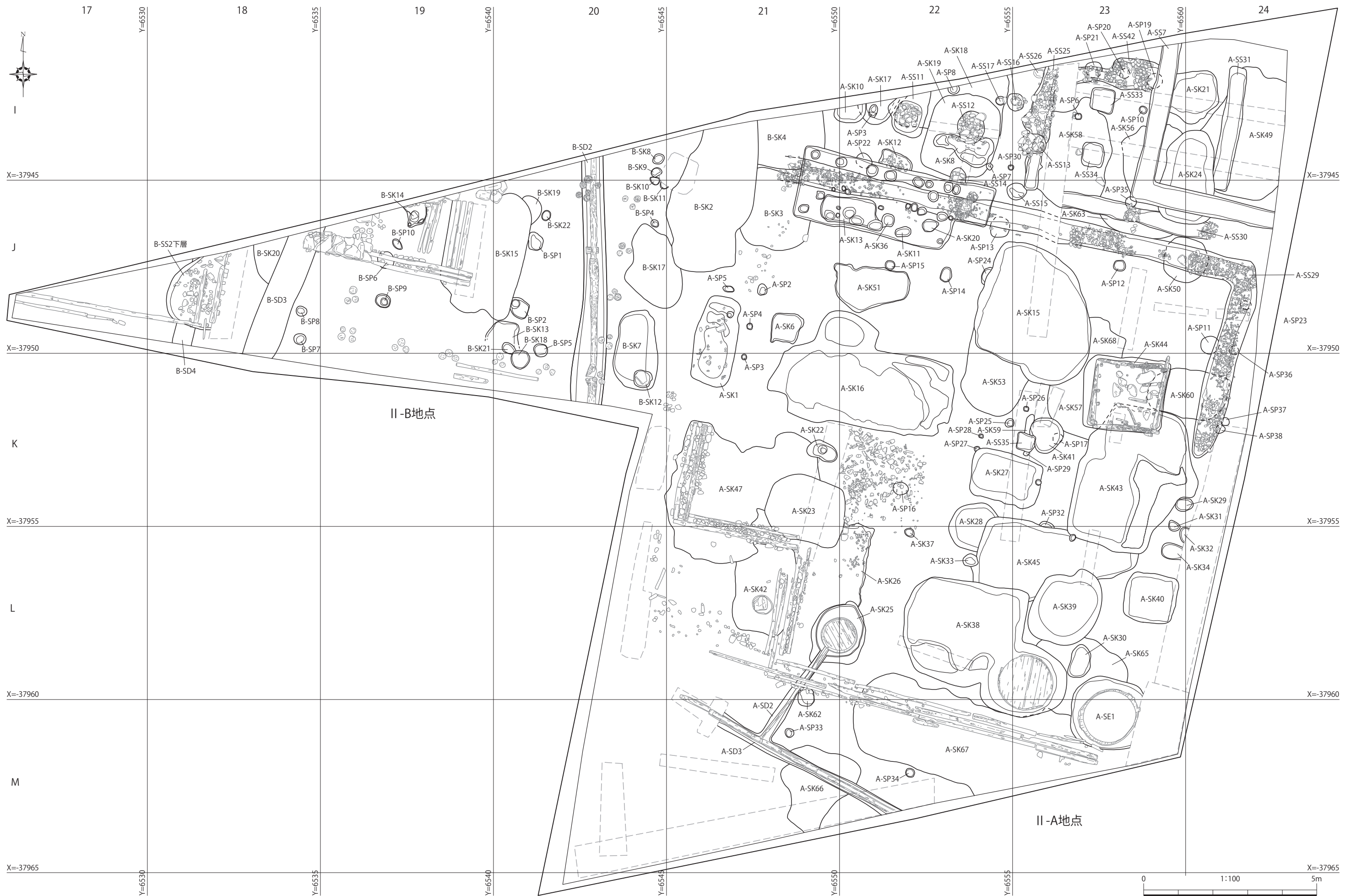
調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
C	M12	SK17	不整形	近代
C	N16	SK18	方形	18世紀前葉
C	M13	SK19	不整形	幕末～明治
C	M14・15・ N14・15	SK20	不整形	近代
C	N14・15	SK21	不整形	18世紀後葉
C	M15・16	SK22	円形	18世紀後葉
C	N15	SK23	不整形	17世紀後葉～ 18世紀前葉
C	M15・16	SK24	円形	不明
C	M14・N14	SK25	楕円形	近世
C	M15	SK26	楕円形か	近世
C	M15	SK27	円形	18世紀
C	M14・N14	SK28	楕円形	近世
C	M14	SK29	不整形	18世紀第3四半 期～19世紀初 頭
C	M13・14	SK30	円形か	19世紀中葉
C	M13	SK31	円形か	19世紀中葉
C	M13	SK32	楕円形か	18世紀
C	M12・13	SK33	方形か	18世紀中葉
C	M14	SK34	楕円形	近世
C	M13	SK35	楕円形	18世紀後葉～ 19世紀初頭
C	M13	SK36	円形か	19世紀初頭
C	M14	SK37	楕円形	18世紀
C	M14	SK38	楕円形か	18世紀後葉
C	M13	SK39	楕円形	18世紀～19世 紀
C	M13・14	SK40	不整形	近世
C	欠番	SK41	—	—
C	M14	SK42	不整形	18世紀中葉～後 葉
C	M14	SK43	円形か	18世紀
C	M13	SK44	円形	18世紀
C	M13	SK45	不整形	近世
C	M12	SK46	不整形	近世
C	M13	SK47	不整形	18世紀
C	M13	SK48	円形	18世紀
C	M13	SK49	楕円形	不明
C	M13	SK50	不整形	不明
C	M14	SK51	円形か	不明
C	M14	SK52	円形か	近世
C	欠番	SE1	—	—
C	M15	SE2	円形	18世紀中葉
C	M14	SE3	円形	近代
C	N15	SX1	円形	近代
C	M16	SX2	不整形	近代
C	欠番	SX3	—	—
C	M14・N14	SX4	長方形	18世紀後葉
C	M13	SS1	礎石	近代
C	M13	SS2	礎石	近代
C	L13・M13	SS3	礎石	近代
C	M13・14	SS4	礎石	近代
C	M12	SS5	礎石	近代
C	M15・N15	SS6	建造物の基礎	不明
C	M15・16・ N15・16	SS7	建造物の基礎か	不明
C	M13	SS8	礎石か	不明
C	M13	SS9	礎石	近代
C	M12～14	SS10	石列	近代
C	M13	SS11	集石	近世

調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
C	N17	SS12	建造物の基礎か	近代
C	欠番	SD1	—	—
C	M14・15・N14	SD2	木樋	19世紀前葉
C	N15	SD3	竹樋	18世紀中葉
C	M13	SD4	溝	近世
C	M13・14	SD5	溝	近世
D	K13	SK1	円形	近世
D	H13	SK2	円形か	不明
D	H13・I13	SK3	不整形	18世紀末～19世紀初頭
D	J13・K13	SK4	不整形	18世紀後葉
D	H13	SK5	楕円形か	18世紀後葉
D	I13・14	SK6	楕円形	幕末～明治
D	J13	SK7	不整形	不明
D	欠番	SK8	—	—
D	I14	SK9	方形か	18世紀後葉
D	J14	SK10	方形	近世
D	I13	SK11	楕円形	18世紀末
D	I13・J13	SK12	方形か	19世紀前葉
D	I13・14	SK13	不整形	幕末～明治
D	I14	SK14	不整形	不明
D	I13・14・J13 ～15	SS1	石列	近代
D	K13	SS2	礎石	近代
D	J13	SD1	溝	不明
D	J13	SD2	溝	18世紀
相生	L4	SK1	方形	近代～現代
相生	L6	SK2	方形	不明
相生	K5	SK3	不整形	19世紀中葉
相生	K4	SK4	方形か	19世紀中葉
相生	K4	SK5	方形か	19世紀中葉
相生	K2・3・L2・3	SK6	方形か	19世紀中葉
相生	K2・K3	SK7	方形か	19世紀中葉
相生	L3	SK8	不整形	近世
相生	K1・2	SK9	円形	19世紀前葉
相生	K3・L3	SK10	方形か	18世紀末～19世紀初頭
相生	K4・5・L4・5	SK11	方形か	18世紀末～19世紀初頭
相生	K3・4・L3・4	SK12	方形か	18世紀末～19世紀初頭
相生	K1	SK13	不整形	近世
相生	K5・L5	SK14	楕円形	18世紀末～19世紀初頭
相生	L5	SK15	円形	幕末～明治
相生	K5・6	SK16	不整形	19世紀中葉
相生	K6	SK17	円形か	18世紀末～19世紀初頭
相生	K6	SK18	円形か	近世
相生	K6・L6	SK19	円形	18世紀末
相生	L6	SK20	楕円形	18世紀
相生	L5	SK21	円形か	近世
相生	L5	SK22	円形	不明
相生	L6	SK23	円形	近世
相生	K3	SK24	楕円形	不明
相生	L5・6	SK25	方形か	近世
相生	L5	SK26	楕円形か	近世
相生	L6	SK27	円形か	18世紀末
相生	L5	SK28	円形か	19世紀
相生	K6・L6	SK29	楕円形	18世紀末
相生	欠番	SX1	—	—
相生	K3	SX2	不整形	不明
相生	欠番	SX3	—	—

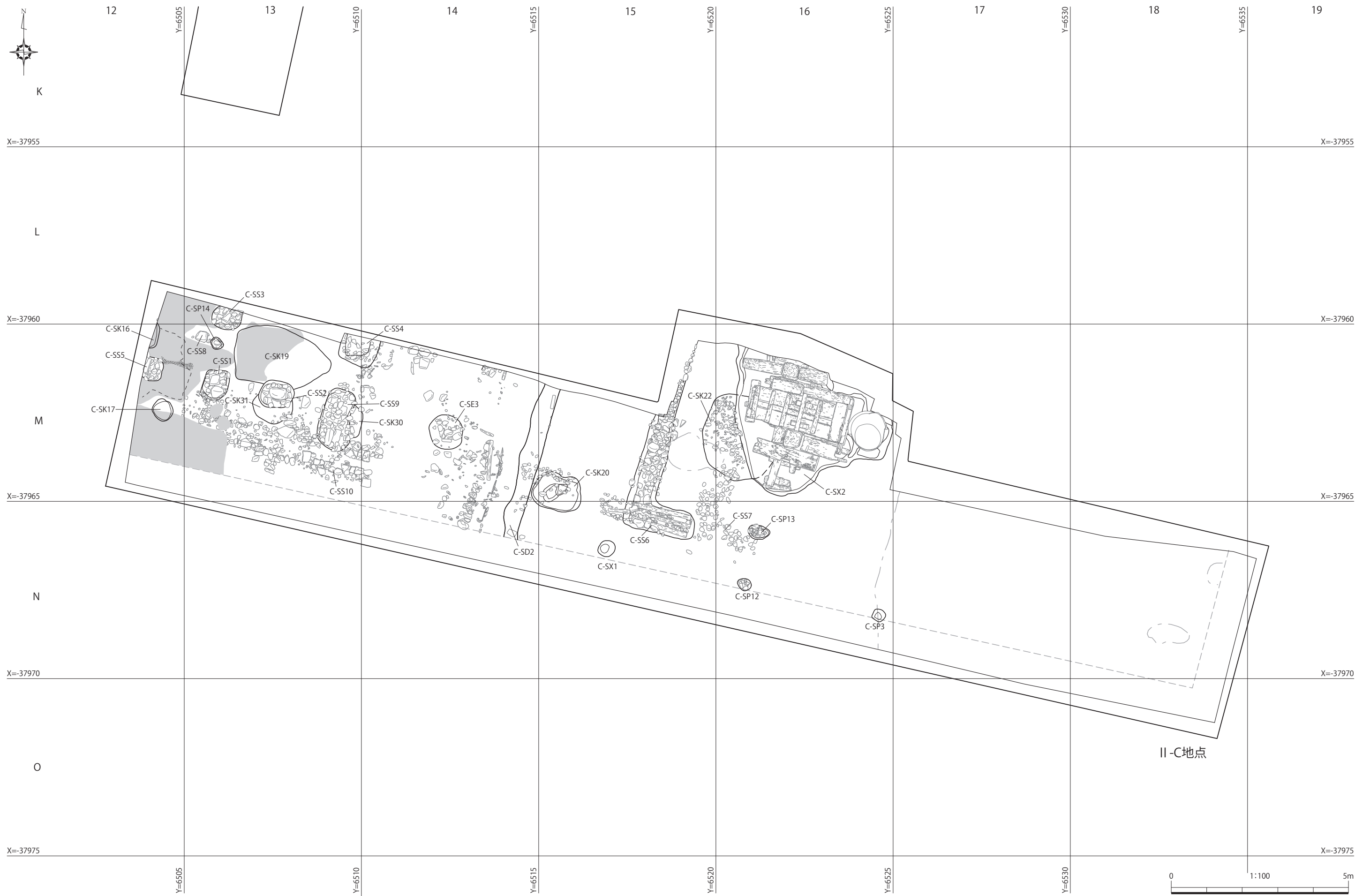
調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
相生	L2	SX4	不整形	不明
相生	L5	SX5	楕円形か	18世紀
相生	K3・L3	SE1	円形	18世紀
相生	K3	P1	遺物集積地	近代
相生	K6・L5・6	SS1	建物基礎	近代
相生	K6	SS2	礎石	近代
相生	K6	SS3	礎石	近代
相生	L6	SS4	礎石	近代
相生	K6	SS5	礎石	近代
相生	L5	SS6	礎石	近代
相生	K5・L5	SS7	石列	近代
相生	K4	SS8	礎石	近代
相生	K1・2・L1・2	SS9	建造物の基礎	近代
相生	K1・2	SS10	石列	近代
相生	L4	SS11	礎石	近代
相生	L5	SS12	礎石	近代
相生	L5	SS13	礎石	近代
相生	K4	SS14	礎石	近代
相生	K4	SS15	礎石	近代
相生	L2	SS16	礎石	近代
相生	L3	SS17	礎石	近代
相生	K3	SS18	礎石	近代
相生	L5	SS19	礎石	近世
相生	L6	SS20	礎石	近世
相生	L6	SS21	建造物の基礎か	近代
相生	L6	SS22	礎石	近世
相生	K6	SS23	建造物の基礎	近世
相生	K6	SS24	礎石	近世
相生	K4	SS25	礎石	近世
相生	K2	SS26	礎石	近世
相生	K6	SS27	円形か	近世
相生	L5・L6	SD1	竹樋	幕末～明治
相生	K6・L6	SD2	竹樋	18世紀末～19世紀初頭
相生	K6・L6	SD3	竹樋	18世紀
相生	K6・L6	SD4	溝	18世紀
相生	K4・L4・5	NR1	自然流路	城下町形成以前



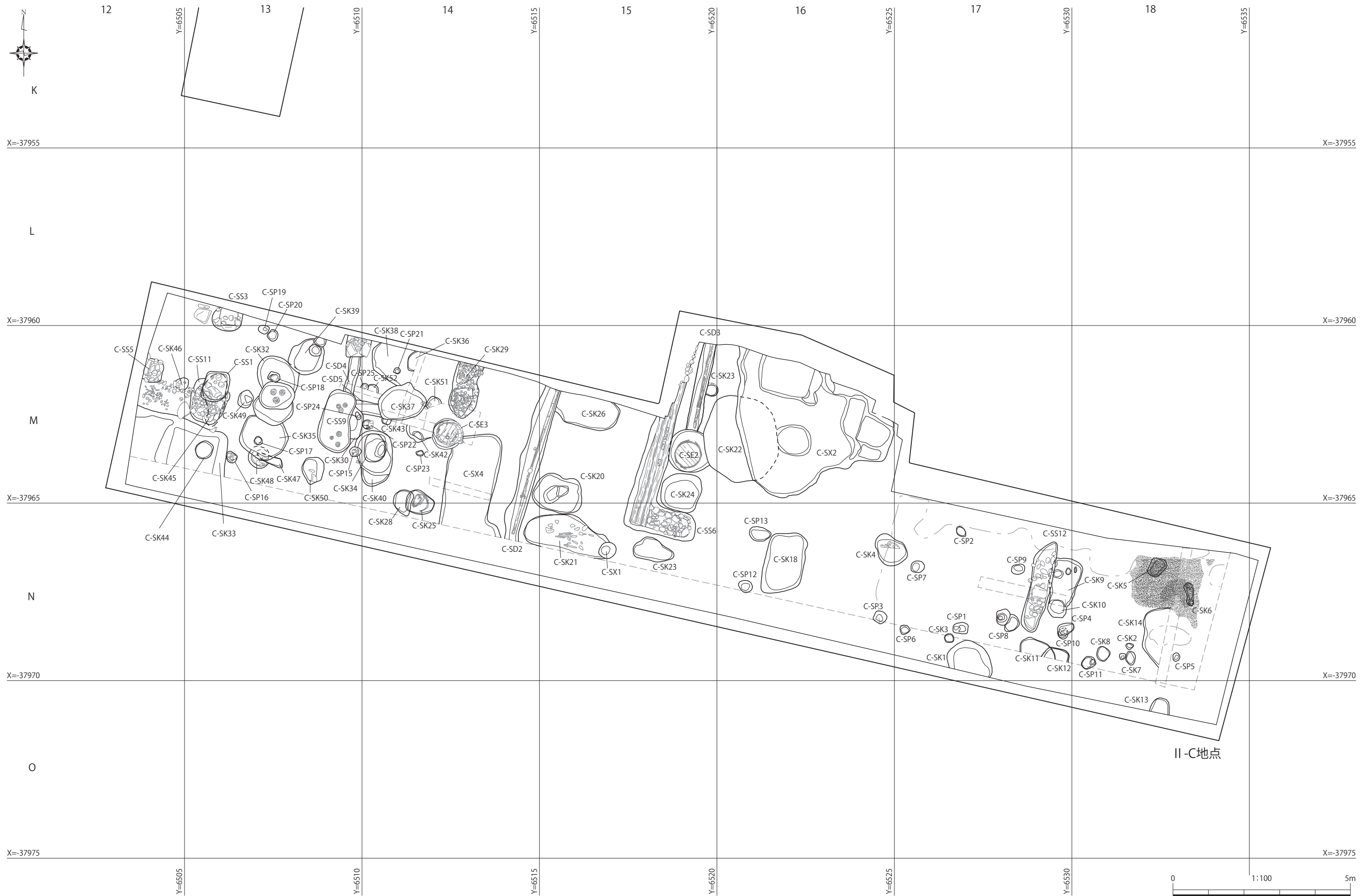
第113图 II-A·B地点 全体图(上層)



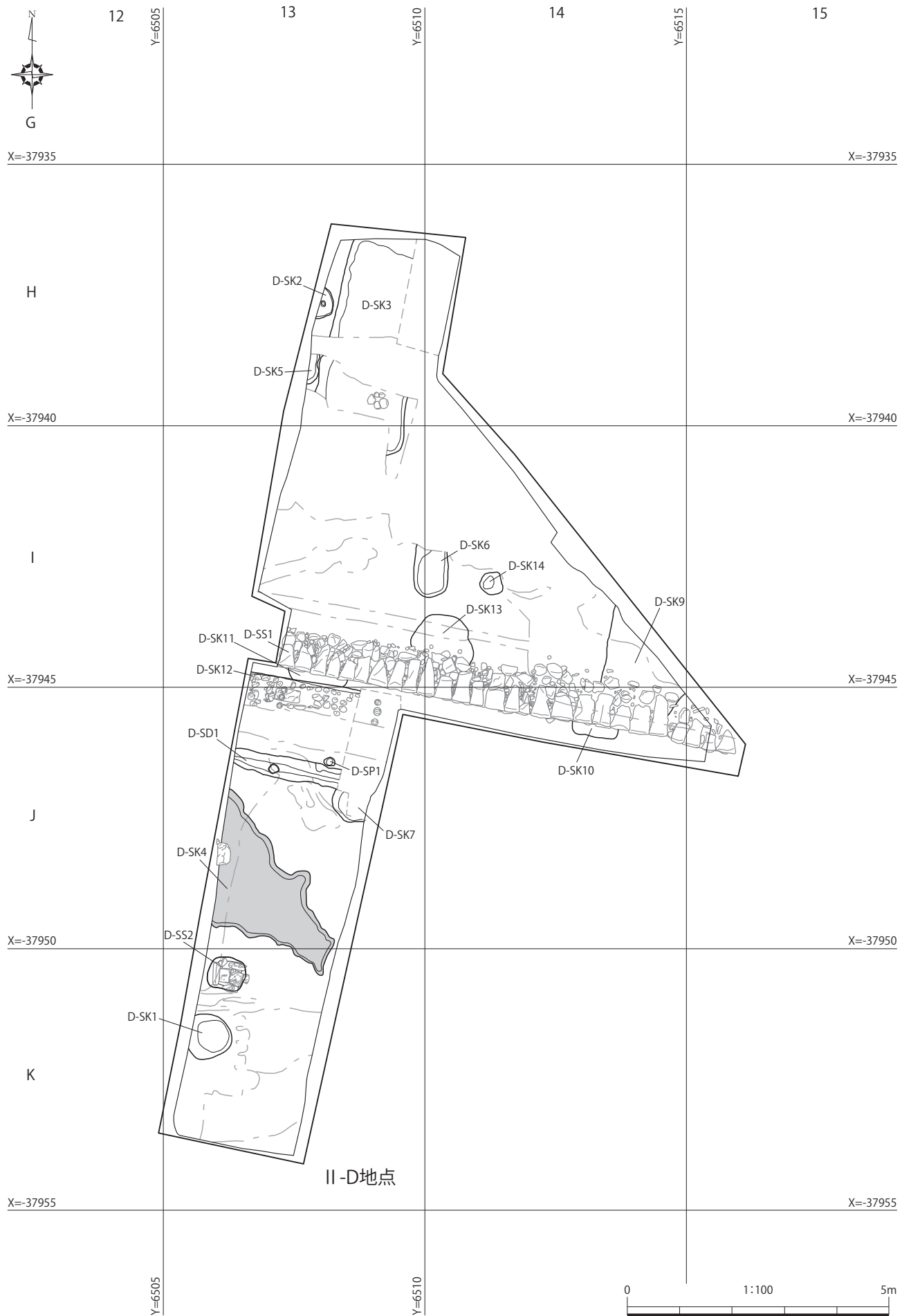
第114图 II-A·B地点 全体图(下層)



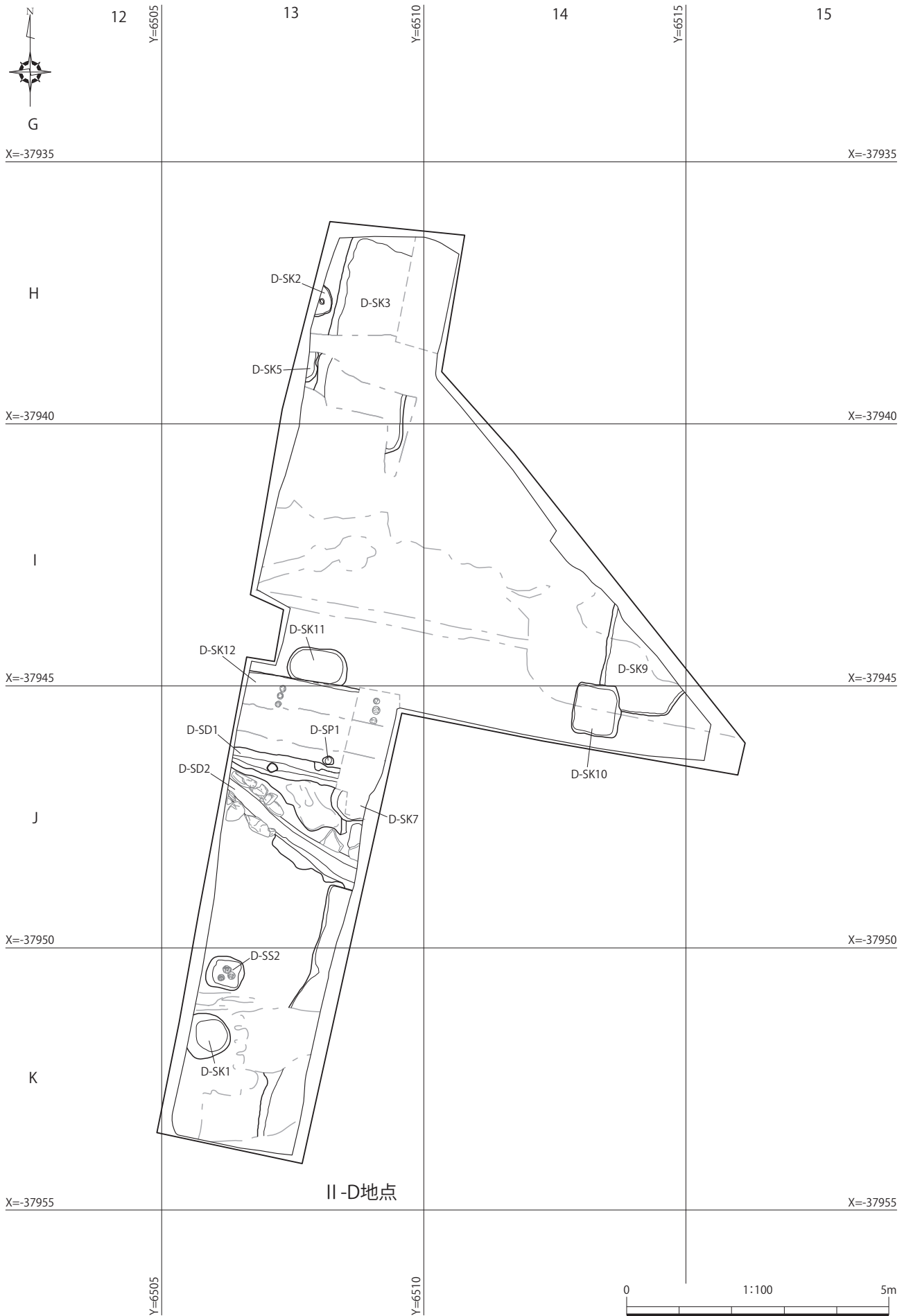
第115图 II-C地点 全体图(上層)



第116图 II-C地点 全体图(下層)



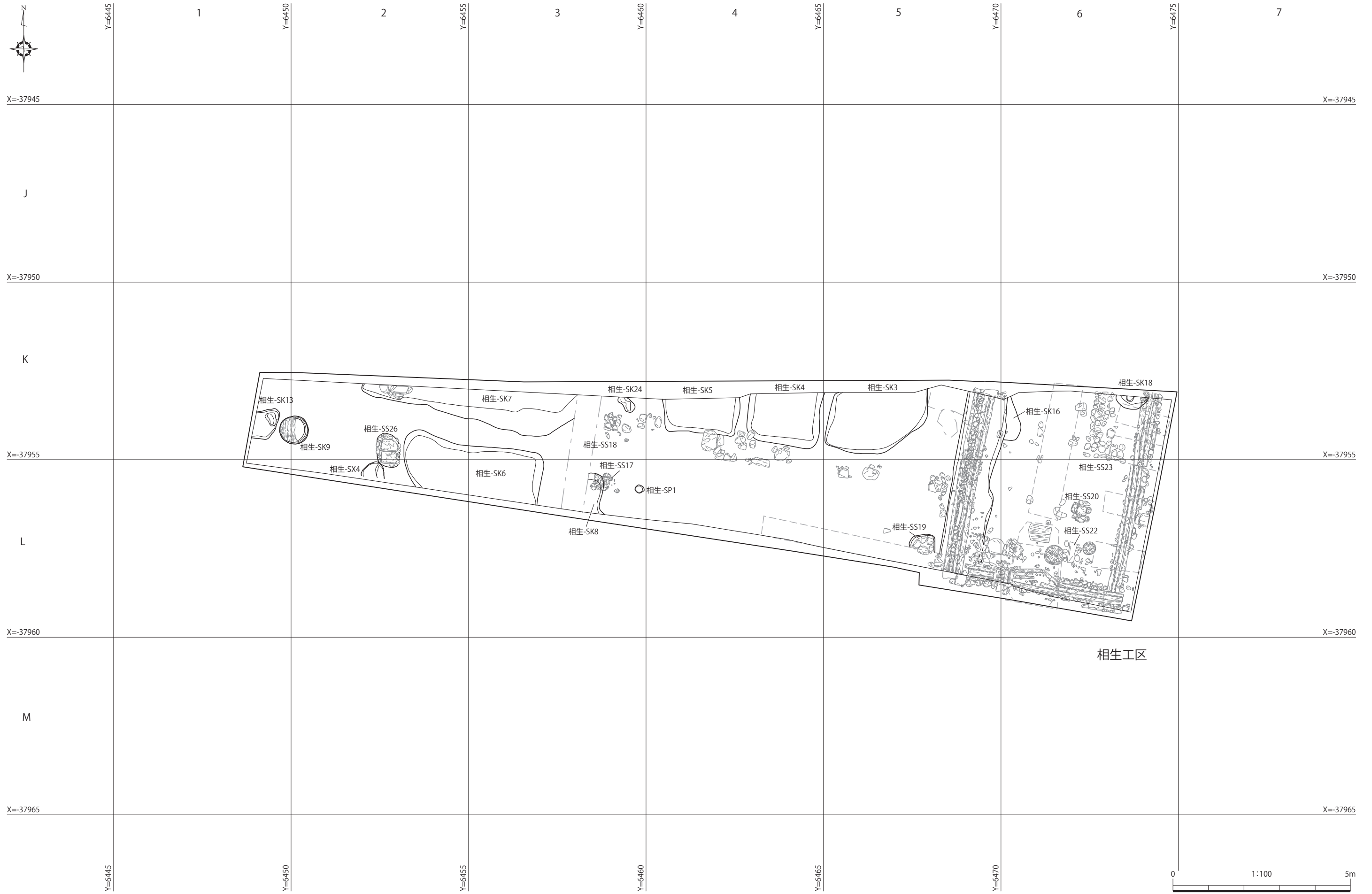
第117图 II-D地点 全体图(上層)



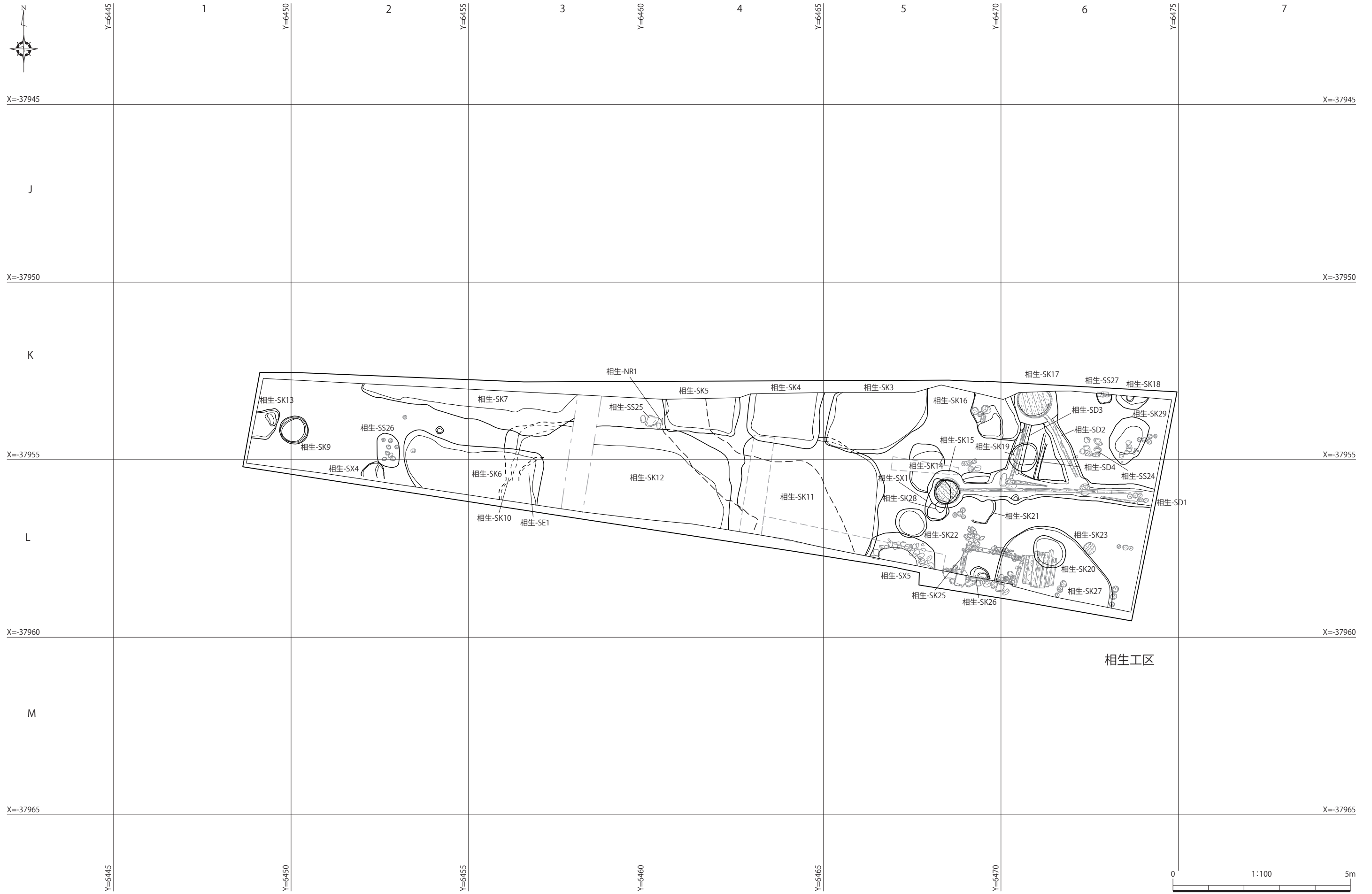
第118図 II-D地点 全体図(下層)



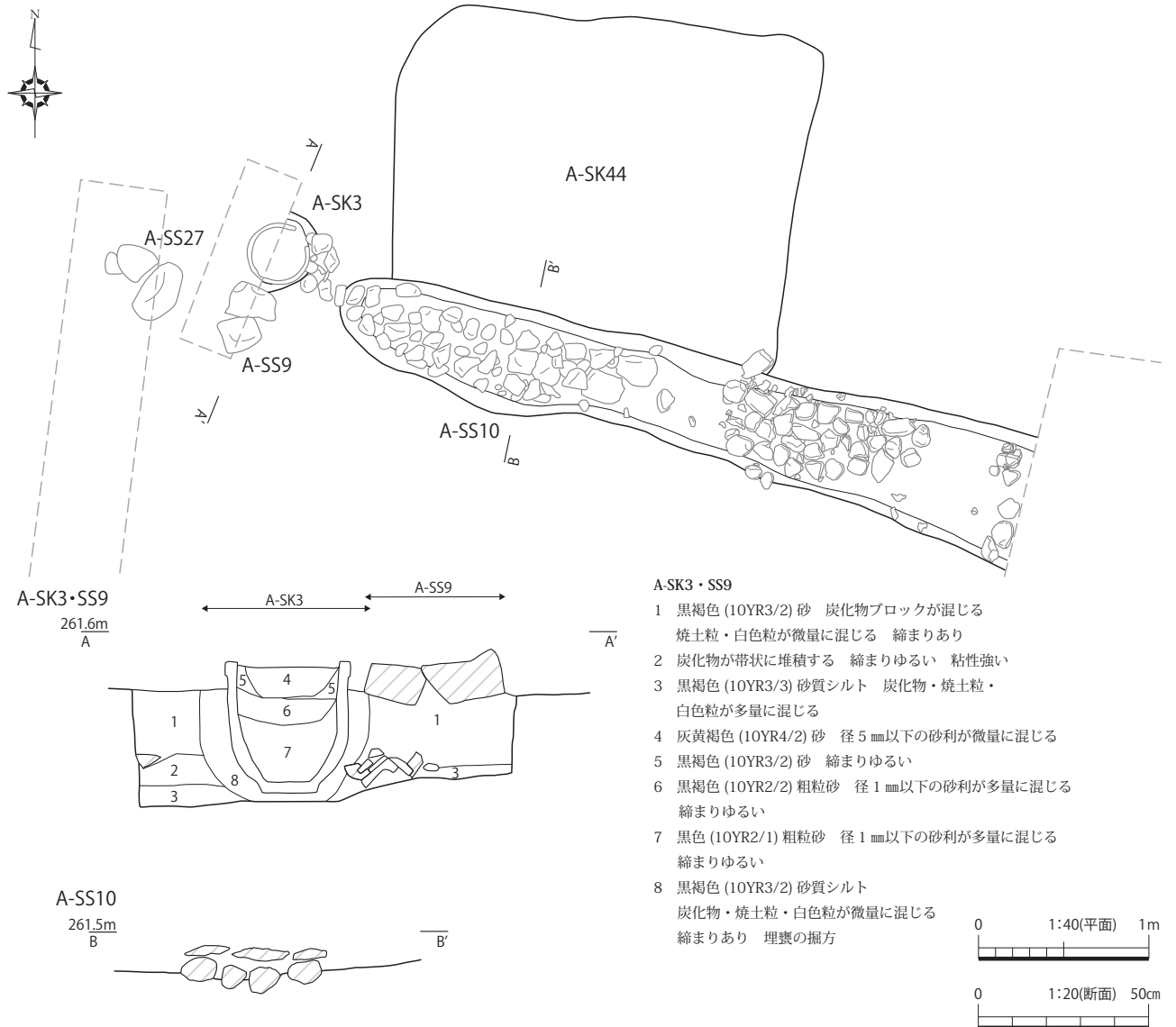
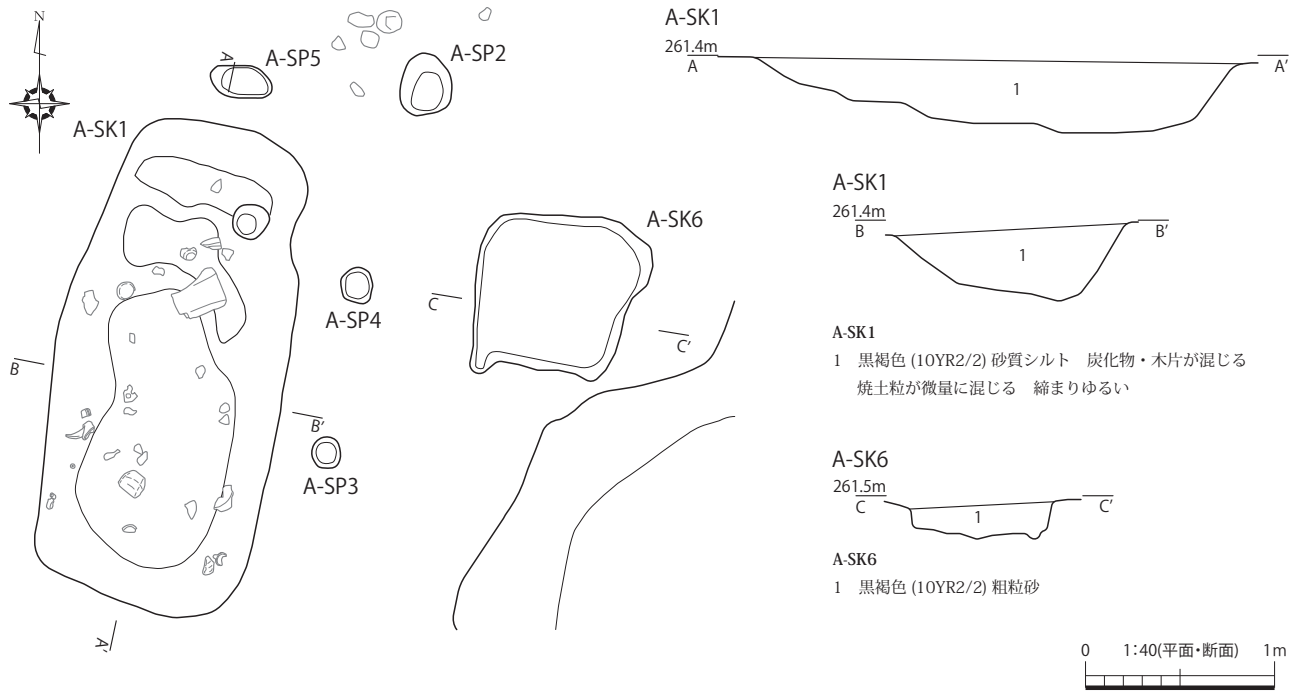
第119图 相生工区 全体图(上層)



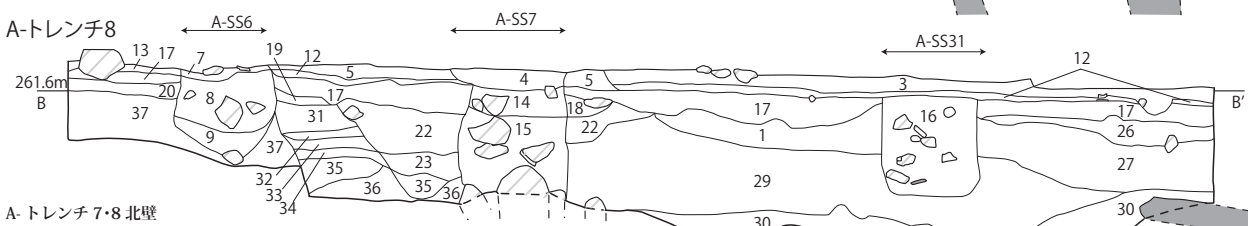
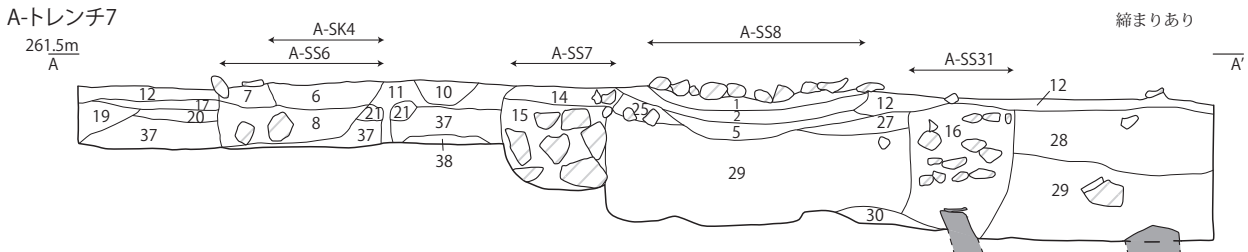
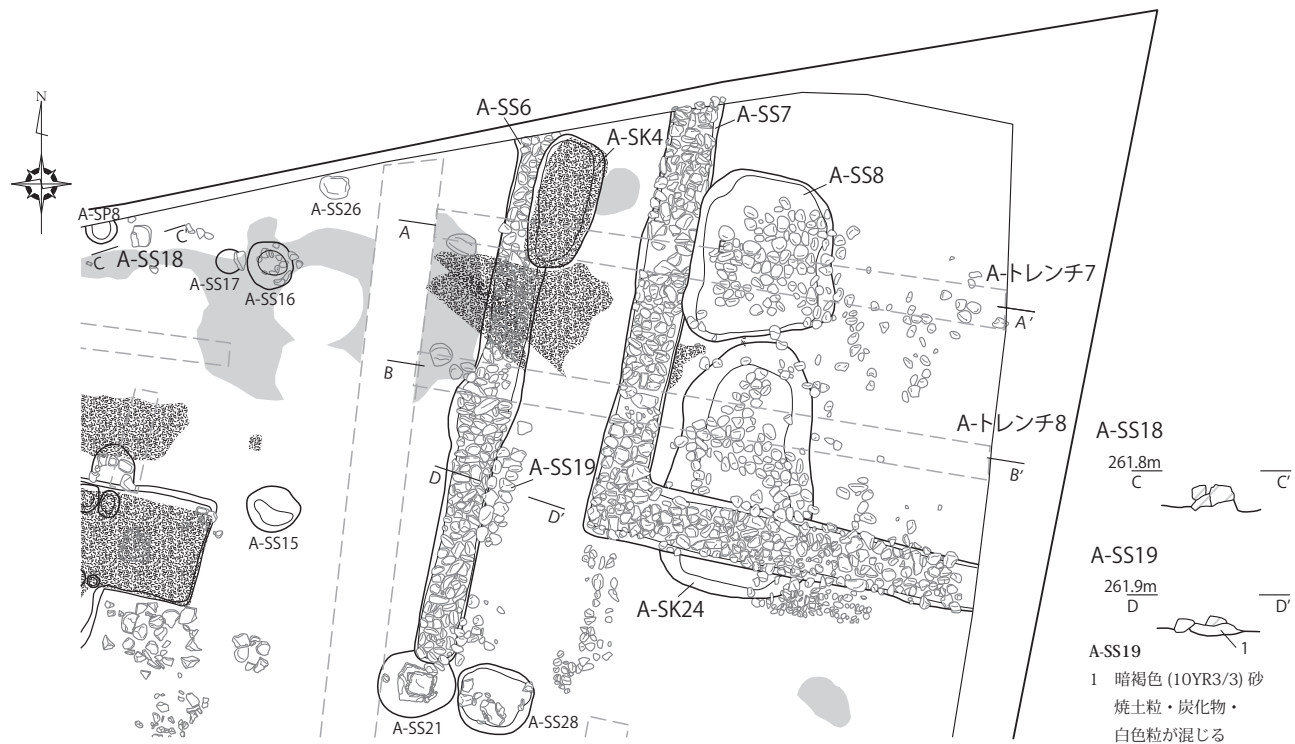
第120图 相生工区 全体图(中層)



第121图 相生工区 全体图(下層)

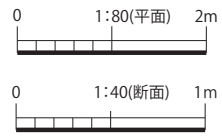


第122図 A地点 (1)

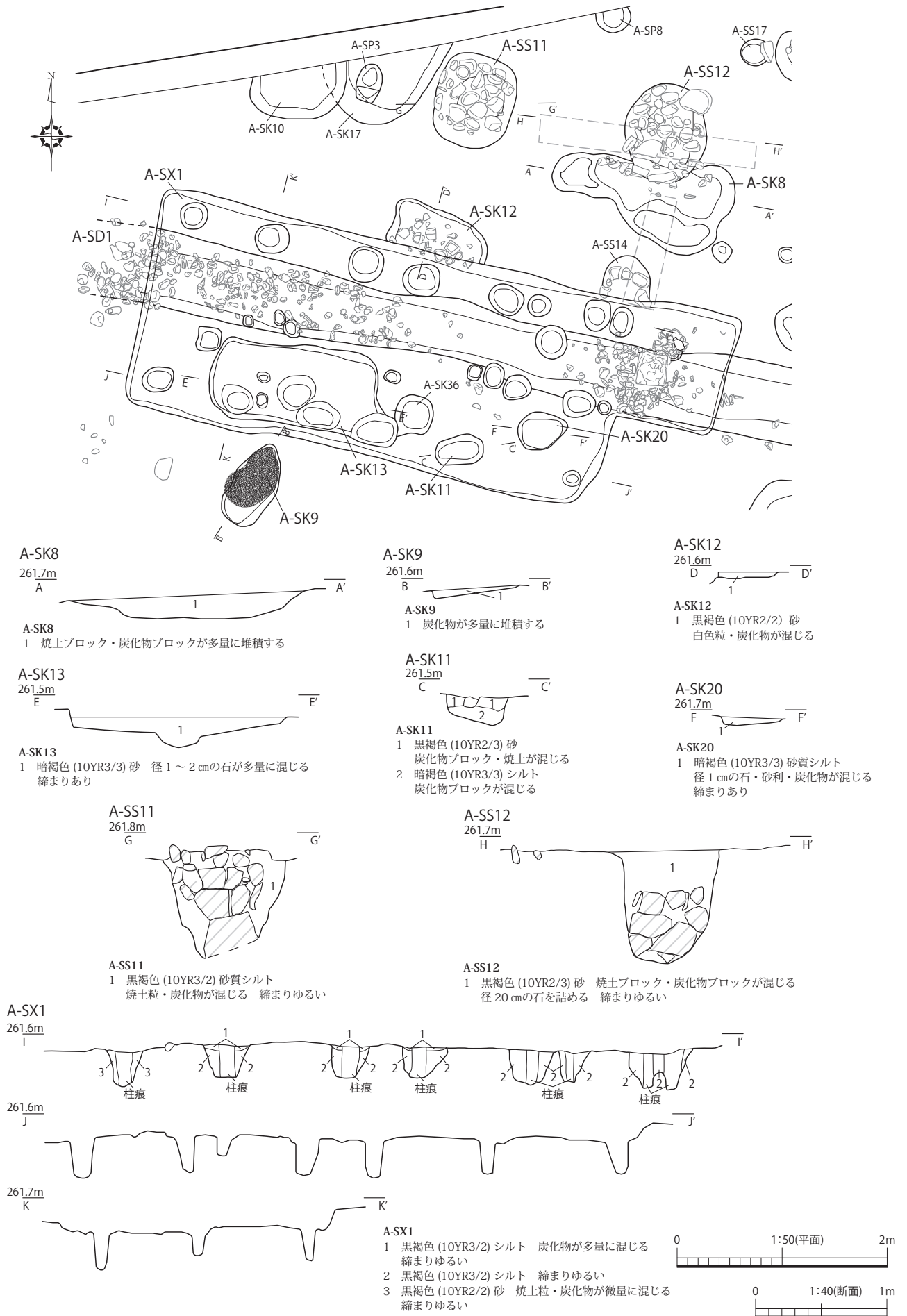


A-トレンチ7・8北壁

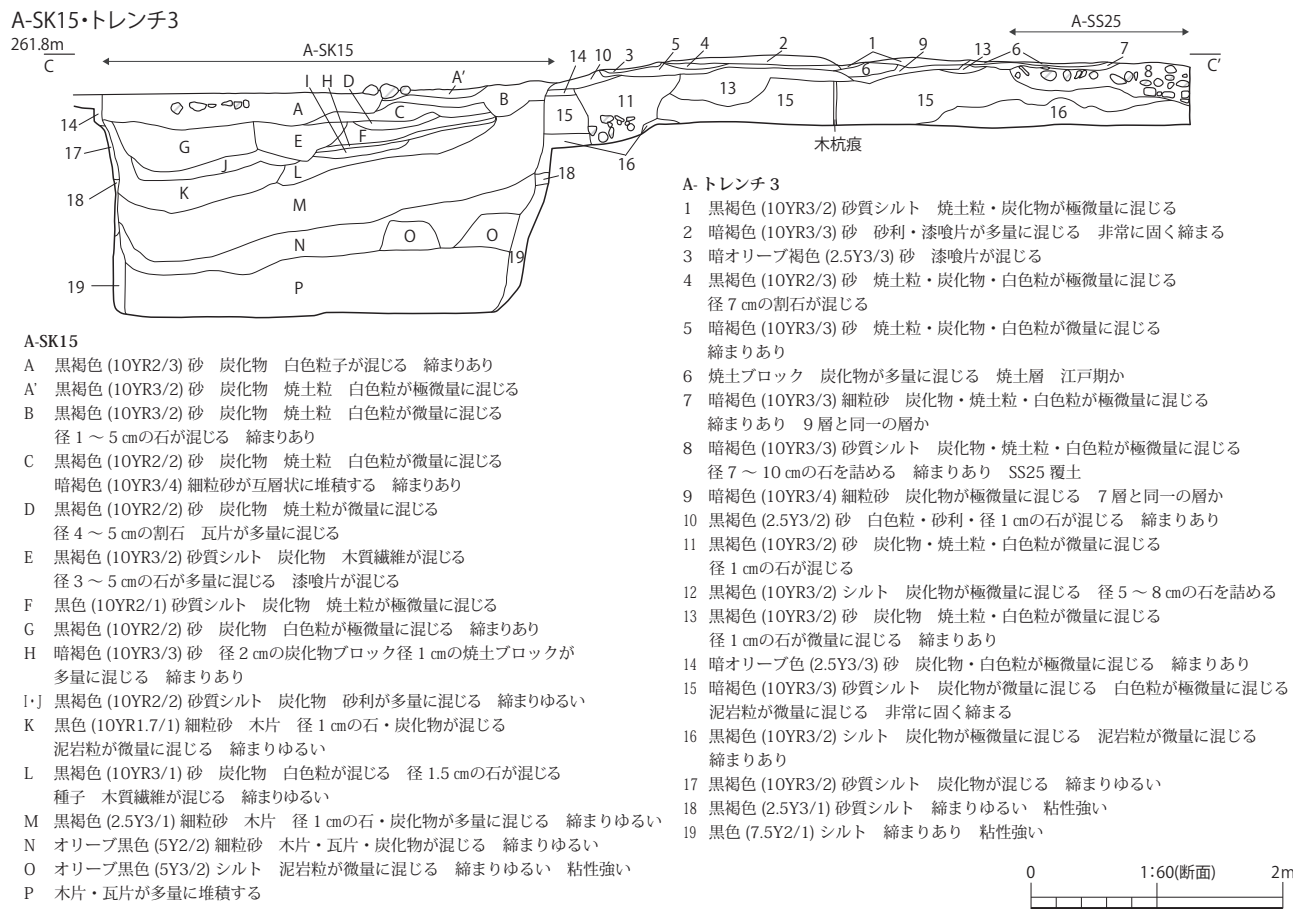
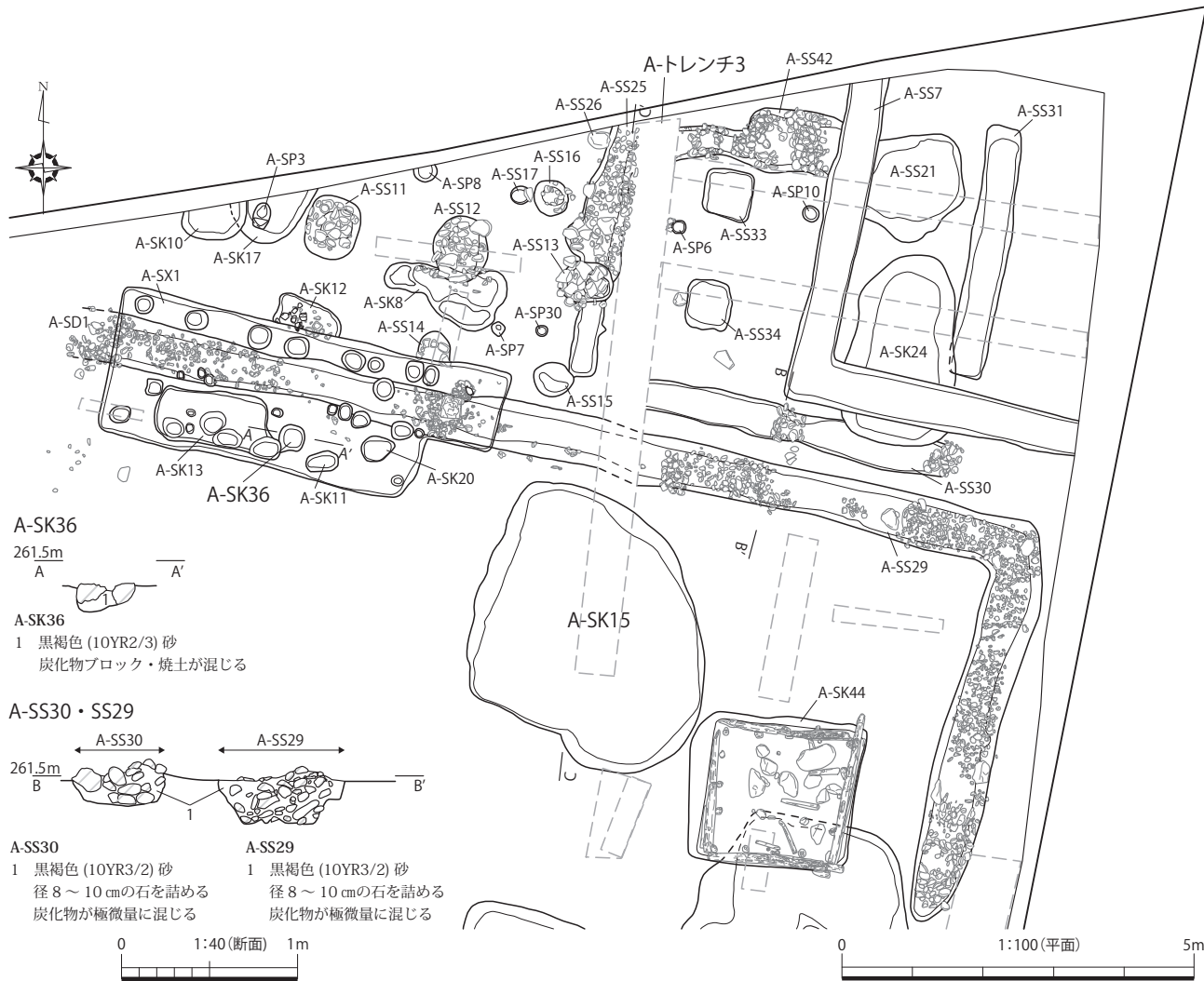
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる
径 10 ~ 15 cm の石を並べる 固く締まる SS8 覆土
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる
縮まりあり SS8 覆土
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる
径 4 ~ 5 cm の石を並べる 縮まりあり SS7 覆土 上層
- 5 焼土層 戦災焼土層か
- 6 にぶい黄橙 (10YR6/4) 細粒砂 炭化物・灰が多量に混じる SK4 覆土
- 7 黒褐色 (10YR3/2) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる
径 10 ~ 20 cm の石を並べる コンクリート片が混じる 縮まりあり SS6 覆土
- 8 黒褐色 (10YR2/2) 砂 コンクリート片が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる
径 10 cm の石を並べる SS6 覆土
- 9 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が多量に混じる
縮まりゆるい SS6 覆土
- 10 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒が多量に混じる 炭化物・石灰が混じる 縮まりあり
- 11 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径 1 cm の炭化物ブロック・焼土粒が混じる 縮まりあり
- 12 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂 焼土粒・炭化物・石灰が混じる 縮まりあり
- 13 黒褐色 (10YR2/2) 砂 焼土粒・炭化物が混じる
- 14 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒・炭化物が混じる 径 4 ~ 5 cm の石を並べる
縮まりあり SS7 覆土
- 15 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる
径 10 ~ 15 cm の石を詰める SS7 覆土
- 16 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 10 cm の石を詰める 焼土粒・炭化物が混じる SS31 覆土
- 17 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・白色粒が微量に混じる 固く締まる
- 18 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 固く締まる
- 19 暗褐色 (10YR3/4) 砂 径 5 cm の石 焼土粒・炭化物が混じる 縮まりあり
- 20 暗褐色 (10YR3/4) 砂 焼土粒・炭化物 径 1 cm の石が混じる 縮まりあり
- 21 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂 焼土粒・白色粒が微量に混じる 縮まりあり
- 22 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が多量に混じる 縮まりゆるい
- 23 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が多量に混じる 縮まりゆるい
- 24 黒褐色 (10YR3/3) シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりあり
- 25 黒褐色 (10YR3/2) シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりあり
- 26 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 焼土粒が多量に混じる 縮まりあり
- 27 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物ブロックが微量に混じる 縮まりゆるい
- 28 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒・炭化物が混じる 縮まりあり
- 29 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりゆるい
- 30 黒褐色 (10YR3/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる
縮まりゆるい 粘性強い
- 31 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物ブロックが多量に混じる
焼土粒・白色粒が微量に混じる 縮まりあり
- 32 炭化物が帯状に堆積する
- 33 暗褐色 (10YR3/4) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 34 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりゆるい
- 35 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりあり
- 36 褐灰色 (10YR4/1) シルトに黒色 (10YR1.7/1) シルトブロックが混じる
砂利が微量に混じる 縮まりゆるい 粘性強い
- 37 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 径 3 cm の炭化物ブロック
焼土粒・白色粒が多量に混じる 縮まりあり
- 38 暗褐色 (10YR3/3) シルト 縮まりあり



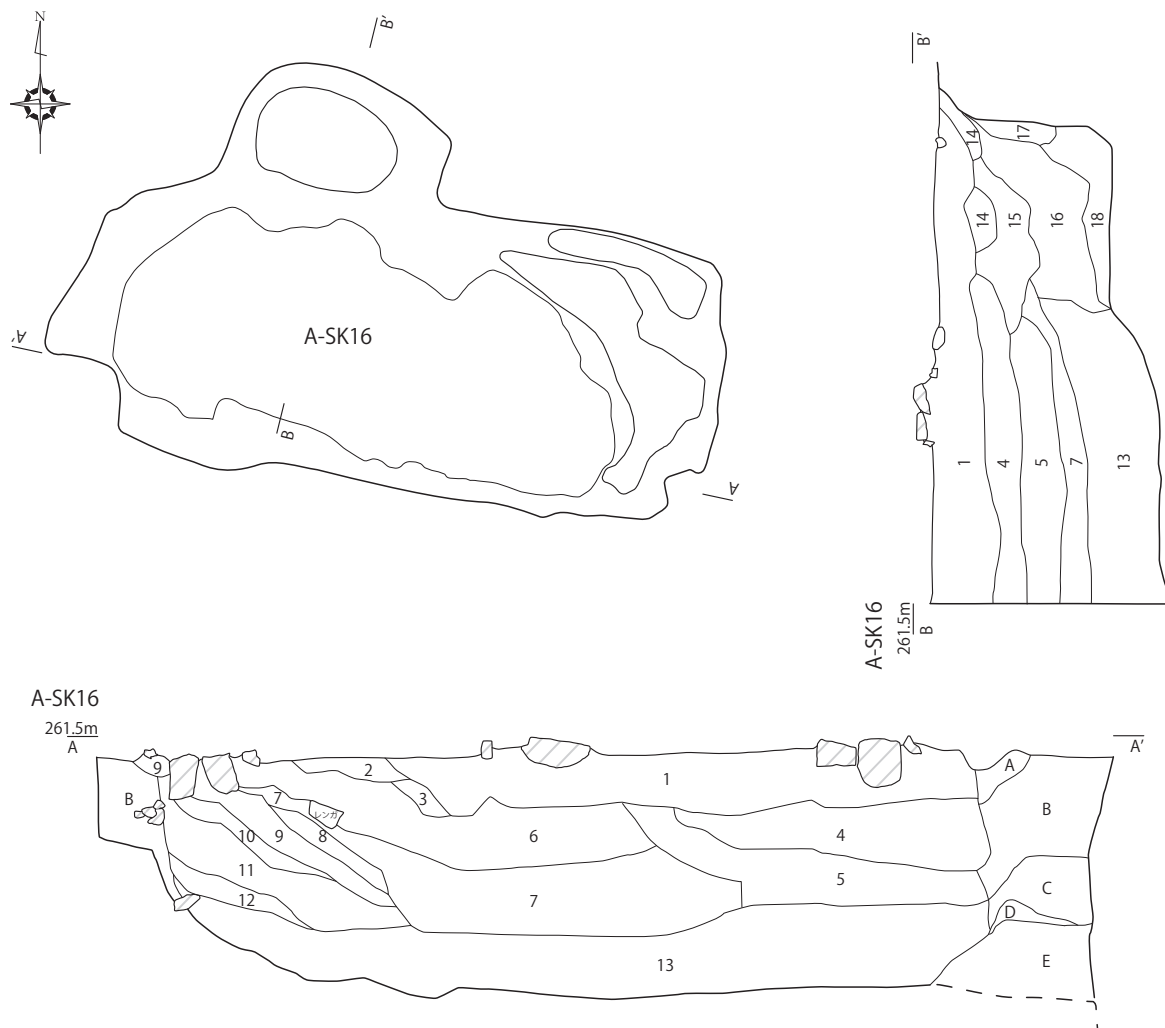
第123図 A地点 (2)



第124図 A地点 (3)

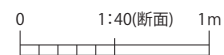
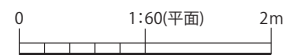


第125図 A地点 (4)

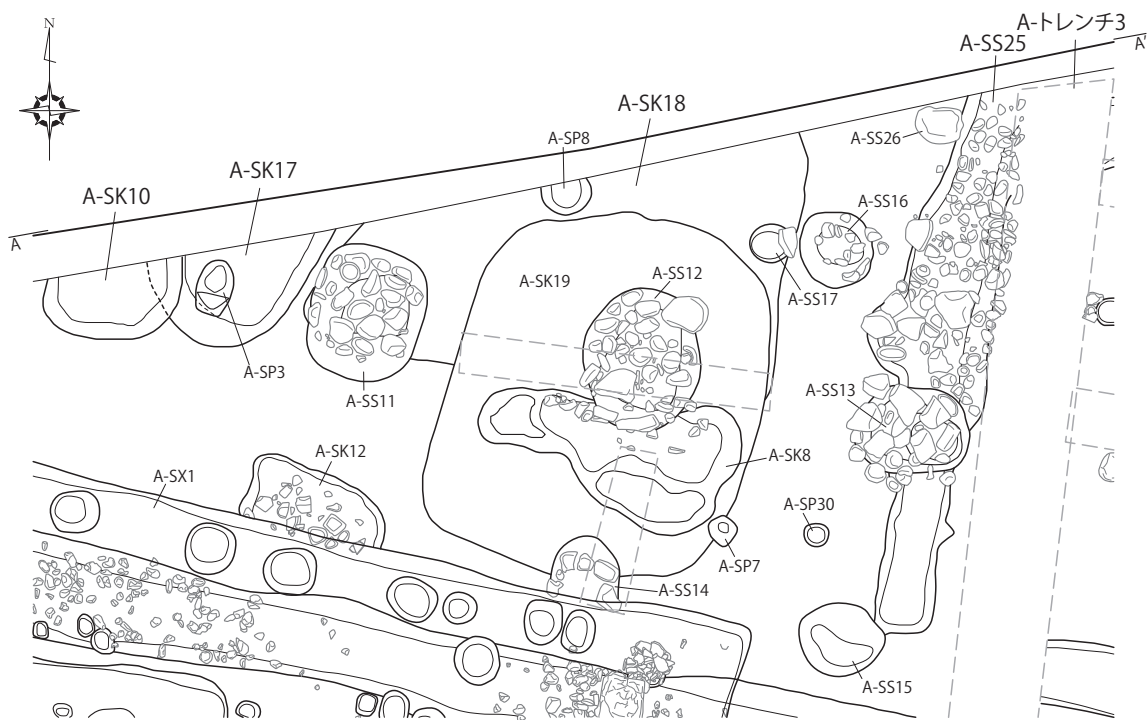


SK16

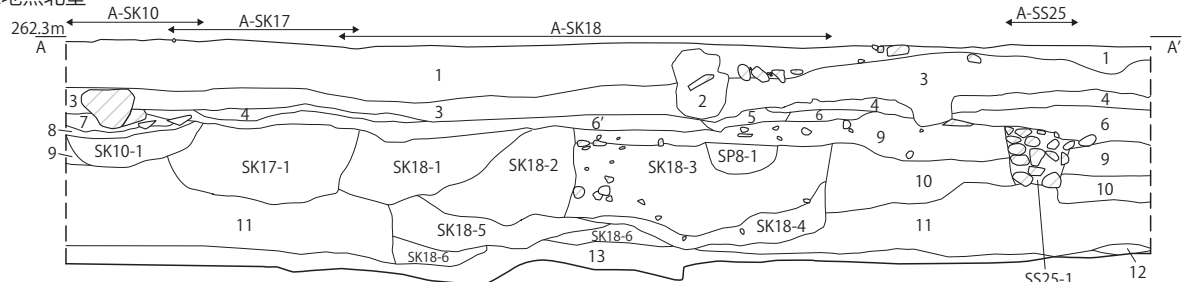
- 1 暗褐色 (7.5YR3/4) 砂 径 1 ~ 2 cm の炭化物ブロック・径 2 cm の焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい
- 2 1 層に黒褐色 (10YR3/2) シルトブロックが斑に混じる 締まりゆるい
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂 径 1 cm の炭化物ブロック 径 2 ~ 3 cm の焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい
- 4 暗褐色 (10YR3/4) 砂に黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルトブロック (径 3 ~ 5 cm) が斑に混じる
径 2 cm の炭化物ブロック 径 1 ~ 3 cm の焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい
- 5 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 1 ~ 2 cm の炭化物ブロック・径 1 ~ 2 cm の焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい
- 6 暗褐色 (7.5YR3/4) 砂 径 1 cm の炭化物ブロック・焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい
- 7 黒褐色 (10YR2/3) 粗粒砂 径 1 cm の炭化物ブロック・径 2 cm の焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい
- 8 暗褐色 (10YR3/4) 砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりゆるい
- 9 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりゆるい
- 10 暗褐色 (7.5YR3/3) 細粒砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりゆるい
- 11 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりゆるい
- 12 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりゆるい
- 13 黒褐色 (10YR3/2) 粗粒砂 径 2 cm の炭化物ブロック・径 2 cm の焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい
- 14 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 15 黒色 (10YR2/1) 砂 レンガ片が多量に混じる
- 16 黒色 (10YR2/1) 砂 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 17 黒色 (5Y2/1) シルト 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 18 炭層 径 1 cm の炭化材片が堆積する
- A 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる 締まりあり
- B 黒褐色 (10YR3/2) シルト 炭化物・砂利が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 締まりあり
- C 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 炭化物・砂利が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 締まりゆるい 粘性強い
- D 黄灰色 (2.5Y4/1) 粗粒砂 泥岩粒が微量に混じる
- E 黒色 (2.5Y2/1) シルト 泥岩粒が微量に混じる 締まりゆるい 粘性強い



第126図 A地点 (5)



A地点北壁



A地点北壁

- 1 表土
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 締まりゆるい
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土ブロック・炭化物・径 1 cmの石・コンクリート片が混じる 締まりあり 近～現代の造成土
- 4 径 1 cmの石・コンクリート片が堆積する
- 5 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 6 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 6' 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 焼土ブロック・炭化物が多量に混じる
- 7 黒褐色 (10YR2/2) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 瓦片が堆積する
- 8 黒褐色 (10YR3/2) 砂
- 9 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 炭化物が微量に混じる 泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 10 黒褐色 (10YR3/2) シルト 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 締まりあり
- 11 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 12 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- 13 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 締まりゆるい

A-SP8

SP8-1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい

A-SK10

SK10-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる

A-SK17

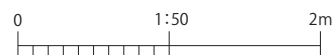
SK17-1 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる

A-SK18

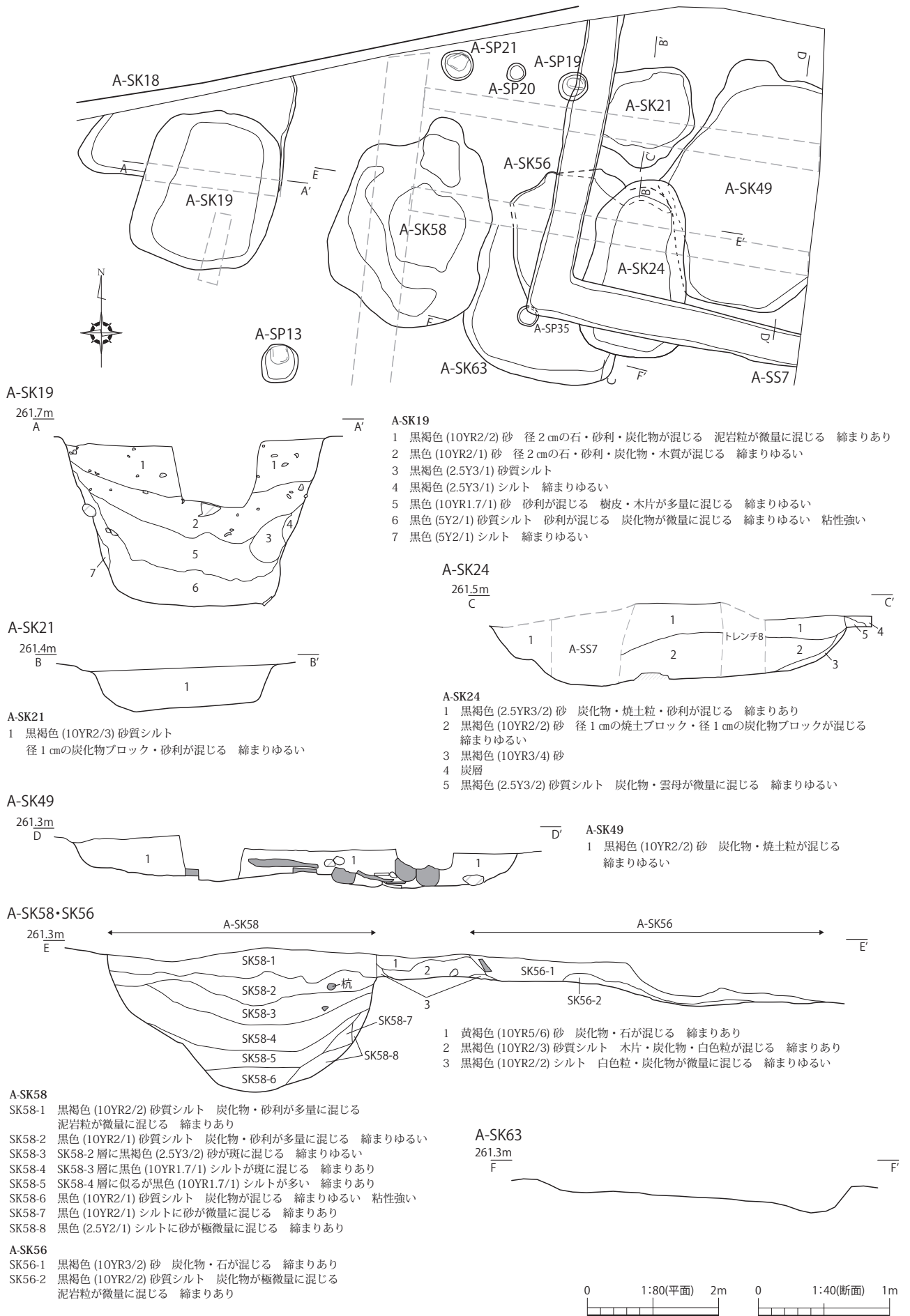
- SK18-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる
- SK18-2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる
- SK18-3 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト 径 10 cmの石が混じる 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる。
- SK18-4 黒褐色 (10YR 3/1) 砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルトが混じる 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- SK18-5 黒色 (10YR2/1) 砂質シルトに暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルトが混じる 炭化物・泥岩粒が極微量に混る 締まりゆるい
- SK18-6 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 締まりゆるい

A-SS25

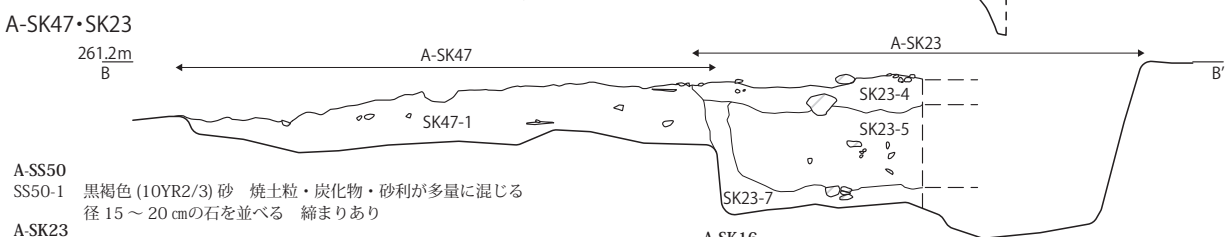
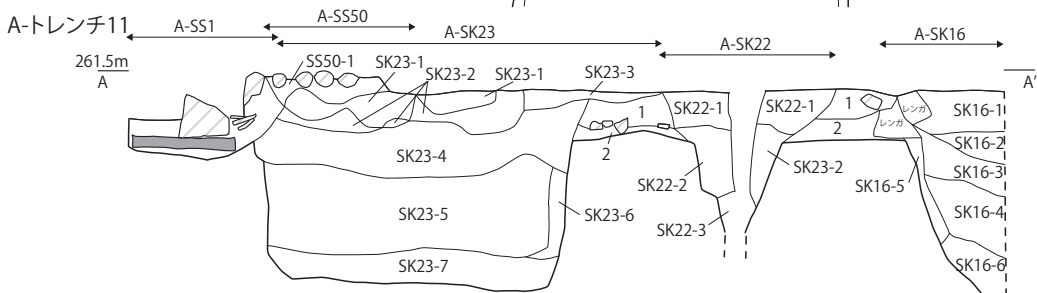
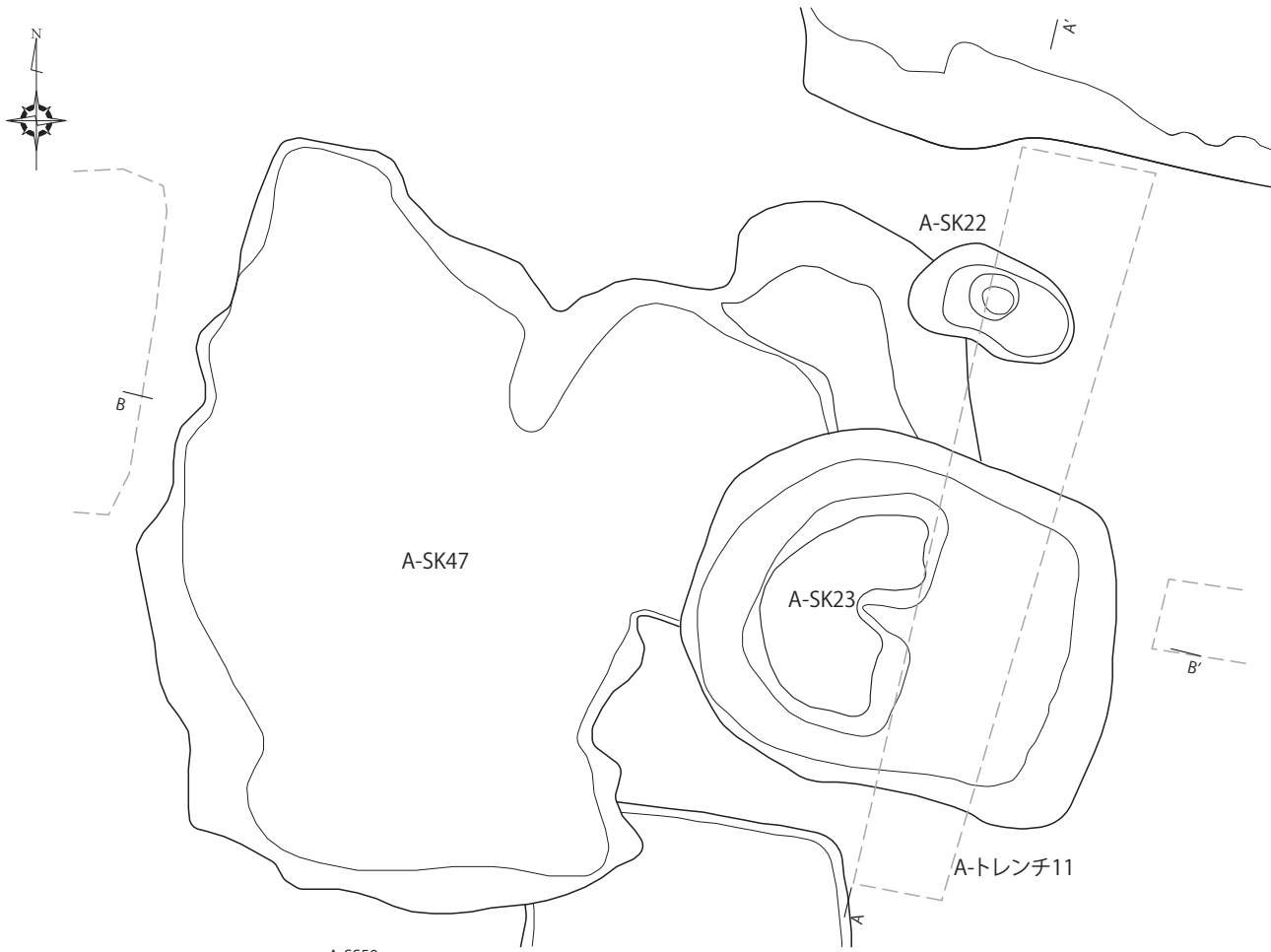
SS25-1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・白色粒が極微量に混じる 径 7～10 cmの石を詰める 締まりあり



第127図 A地点 (6)



第128図 A地点 (7)

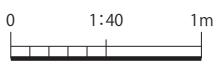


- A-SS50**
 SS50-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物・砂利が多量に混じる 径 15 ~ 20 cmの石を並べる 締まりあり
- A-SK23**
 SK23-1 黒色 (10YR2/1) シルト 泥岩粒が微量に混じる 締まりあり
 SK23-2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が多量に混じる 黒色 (10YR2/1) シルトブロックが混じる 締まりあり
 SK23-3 黒色 (10YR2/1) シルトに黒褐色 (10YR3/2) 砂が混じる 炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 締まりあり
 SK23-4 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 鉄分の集積が見られる 締まりゆるい
 SK23-5 黒色 (10YR2/1) 砂 多量の木片が混じる 締まりゆるい
 SK23-6 褐灰色 (10YR4/1) 粘土 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい 粘性強い
 SK23-7 黒色 (5Y2/1) シルト 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい 粘性強い

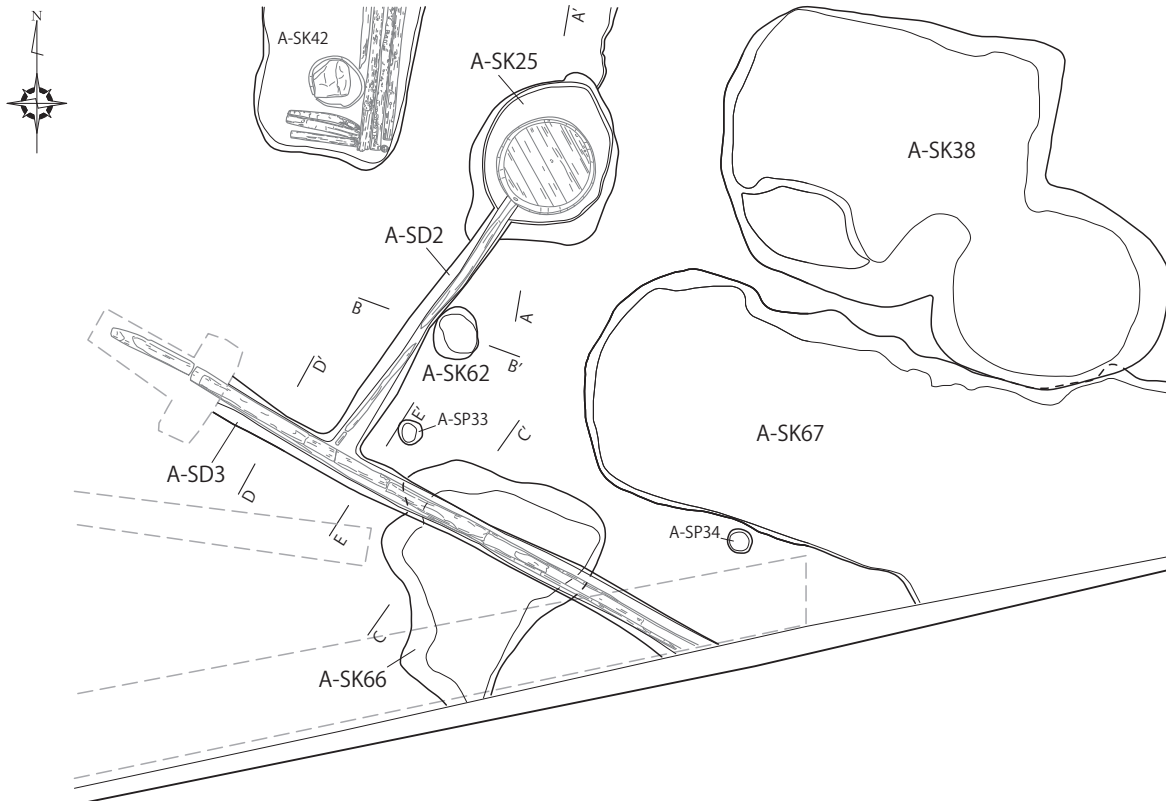
- A-SK16**
 SK16-1 暗褐色 (7.5YR3/4) 砂 径 1 ~ 2 cmの炭化物ブロック・径 2 cmの焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい
 SK16-2 暗褐色 (10YR3/4) 砂に黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルトブロックが斑に混じる 径 2 cmの炭化物ブロック 径 1 ~ 3 cmの焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい
 SK16-3 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 1 ~ 2 cmの炭化物ブロック・径 1 ~ 2 cmの焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい
 SK16-4 黒褐色 (10YR2/3) 粗粒砂 径 1 cmの炭化物ブロック・径 2 cmの焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい
 SK16-5 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 締まりゆるい
 SK16-6 黒褐色 (10YR3/2) 粗粒砂 径 2 cmの炭化物ブロック・径 2 cmの焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい

- A-トレンチ 11**
 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・焼土粒が 多量に混じる 径 3 ~ 9 cmの石を詰める 締まりあり
 2 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 炭化物・砂利が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 締まりあり
 3 黒色 (7.5Y2/1) シルト 締まりあり 粘性強い

- A-SK47**
 SK47-1 黒色 (10YR2/1) 砂 径 5cmの石・木片が多量に混じる 締まりゆるい

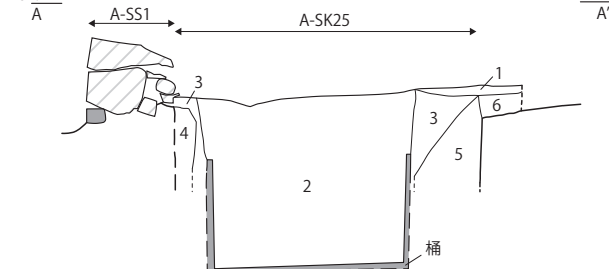


第129図 A地点 (8)



A-SK25

261.7m

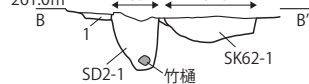


A-SK25

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 砂利が多量に混じる
- 2 黒褐色 (10YR3/3) 砂 径 10 cm の割石が多量に堆積する
- 3 オリーブ黒色 (10YR2/2) 砂質シルト 締まりゆるい
- 4 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 5 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 6 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・砂利が多量に混じる

A-SK62・SD2

261.0m

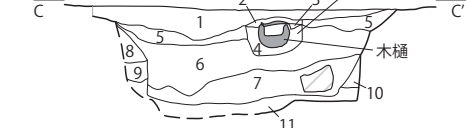


A-SK62・SD2

- SK62-1 黒褐色 (10YR3/2) シルト 砂・石・炭化物が混じる 締まりあり
- SD2-1 灰色 (5Y4/1) 砂質シルト 炭化物・雲母が極微量に混じる 締まりゆるい
- 1 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 雲母が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 締まりあり

A-SK66・SD3

261.0m



A-SK66・SD3

- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 砂利・炭化物が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂に黒色 (2.5Y2/1) シルトが混じる SD3 覆土
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細粒砂 SD3 覆土
- 4 黒色 (5Y2/1) 砂質シルト 雲母・炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい SD4 覆土
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 砂 砂利・炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 6 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 砂利・炭化物が混じる 締まりあり
- 7 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 8 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 9 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 砂利が多量に混じる 締まりあり
- 10 オリーブ黒色 (5Y2/2) シルト 白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 11 黒色 (7.5Y2/1) シルト

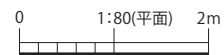
A-SD3

261.1m

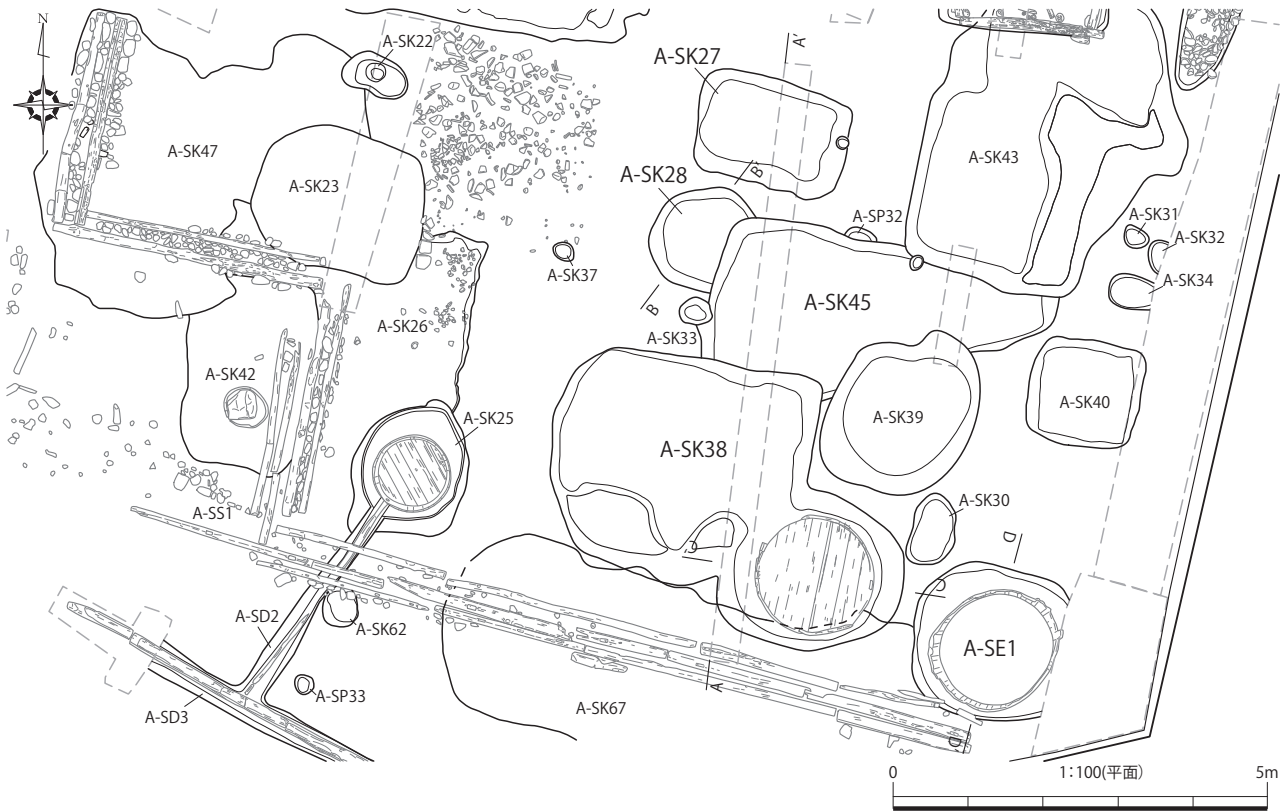


A-SD3

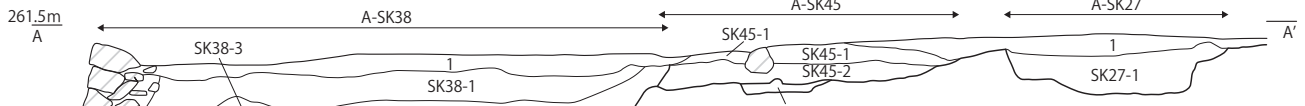
261.1m



第130図 A地点 (9)



A-SK38・SK45・SK27



- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が混じる 縮まりあり
- 2 褐色 (10YR4/4) シルト 炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい

A-SK38

- SK38-1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 縮まりあり
- SK38-2 黒色 (10YR2/1) 砂 木の皮・炭化した種子が多量に堆積する 縮まりゆるい
- SK38-3 黒褐色 (10YR3/1) 砂 炭化物が極微量に混じる 縮まりあり
- SK38-4 黒褐色 (10YR3/1) 砂 炭化した種子が多量に堆積する 瓦片が混じる 縮まりゆるい
- SK38-5 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト 砂利が混じる 縮まりゆるい 粘性強い
- SK38-6 黒色 (5Y2/1) シルト 縮まりあり 粘性強い
- SK38-7 黒褐色 (10YR2/2) 砂 木片が混じる 縮まりゆるい
- SK38-8 黒褐色 (10YR2/2) 砂 多量の木片・樹皮が堆積する 縮まりゆるい
- SK38-9 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂が混じる 縮まりゆるい 粘性強い
- SK38-10 黒色 (10YR1.7/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり

A-SK27

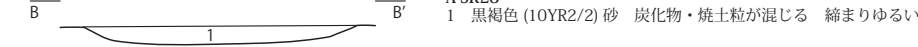
- SK27-1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・砂利が混じる 縮まりゆるい

A-SK45

- SK45-1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が混じる 縮まりゆるい
- SK45-2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が多量に混じる 縮まりゆるい

A-SK28

261.4m

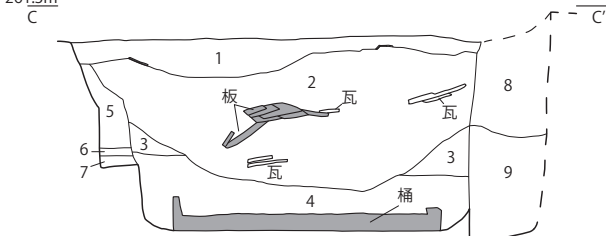


A-SK28

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりゆるい

A-SK38

261.3m

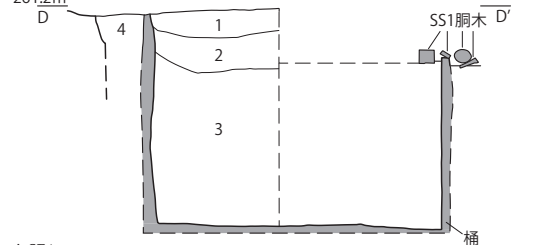


A-SK38

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 砂利・炭化物・木片が多量に混じる 縮まりあり
- 2 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂 桶板片・径 10 cm の石・割石が混じる 縮まりゆるい
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂 縮まりゆるい
- 4 黒色 (5Y2/1) シルト 縮まりゆるい 粘性強い
- 5 黒色 (2.5Y3/1) 砂質シルト 縮まりゆるい 粘性強い
- 6 黒色 (2.5Y2/1) シルト 木片が多量に混じる 縮まりゆるい 粘性強い
- 7 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 縮まりゆるい 粘性強い
- 8 黒褐色 (10YR2/2) 砂 木片が混じる 縮まりゆるい SK38-7 層
- 9 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 砂が混じる 縮まりゆるい 粘性強い SK38-9 層

A-SE1

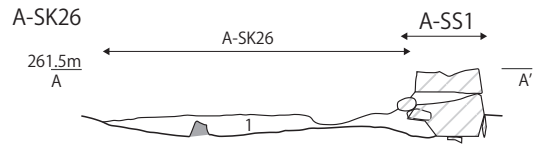
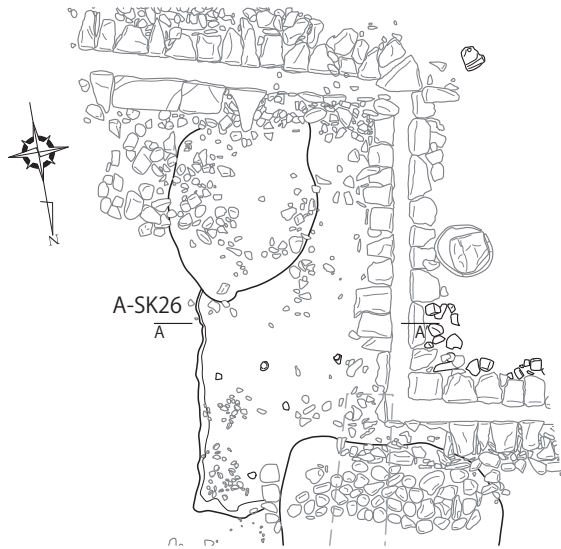
261.2m



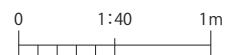
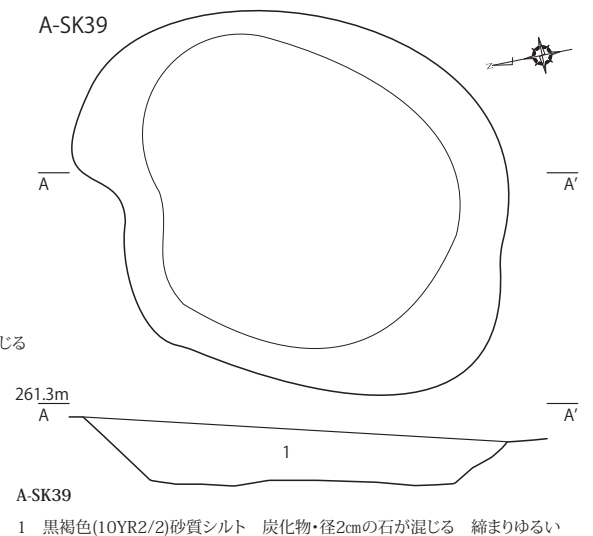
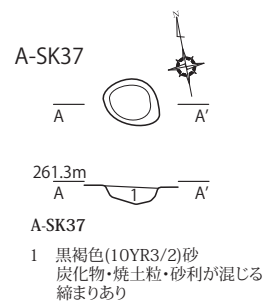
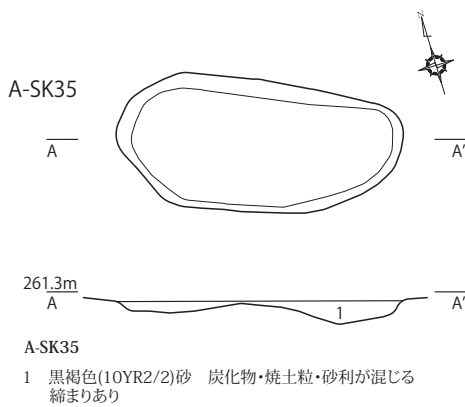
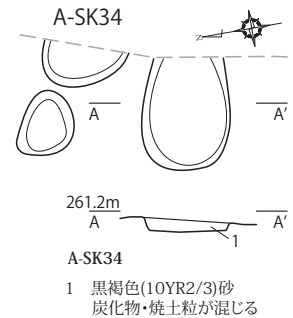
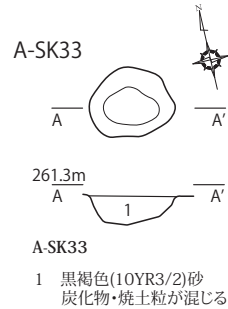
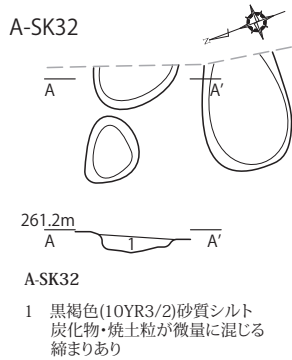
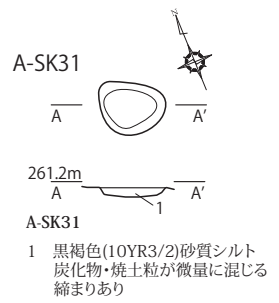
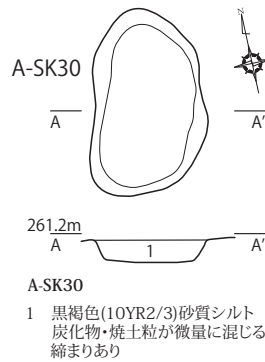
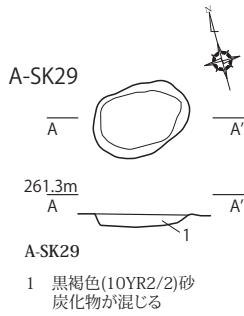
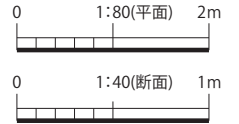
A-SE1

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 砂利・炭化物が極微量に混じる 縮まりあり
- 2 黒色 (10YR2/1) 砂 砂利・木片が微量に混じる 縮まりゆるい
- 3 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂 木片・径 10 cm の石が多量に混じる 縮まりゆるい
- 4 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 砂利が極微量に混じる 縮まりあり

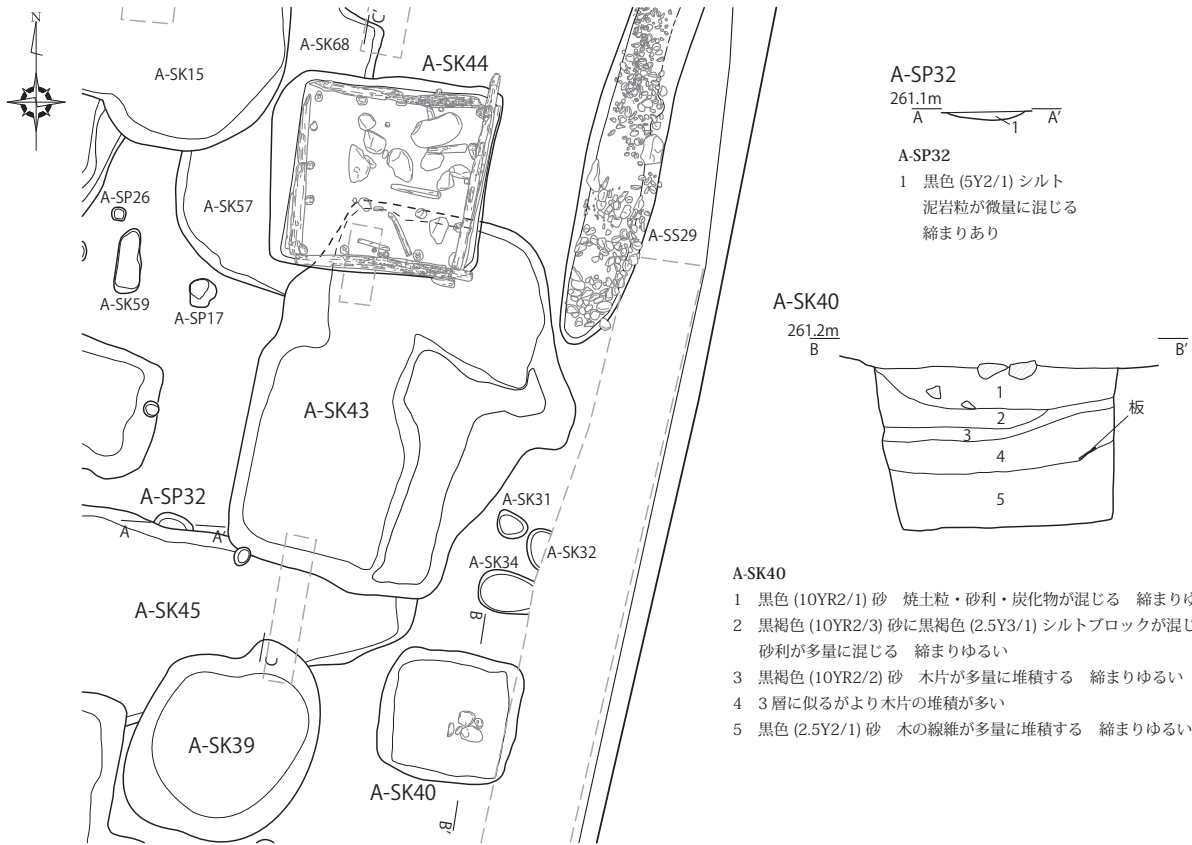
第131図 A地点 (10)



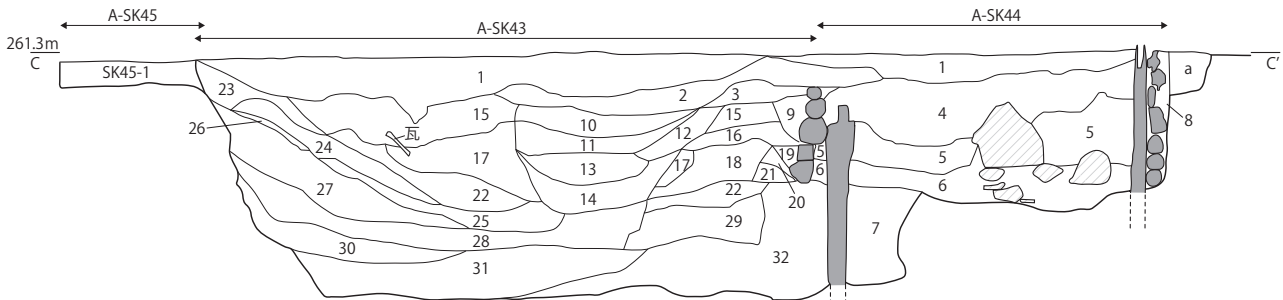
A-SK26
1 黒褐色(10YR2/2)砂 炭化物・砂利が多量に混じる



第132図 A地点 (11)

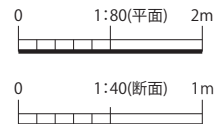


A-SK45・SK43・SK44

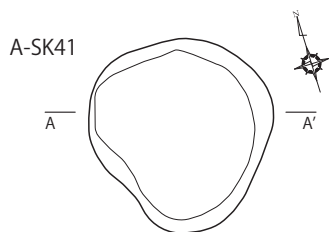


A-SK43・SK44

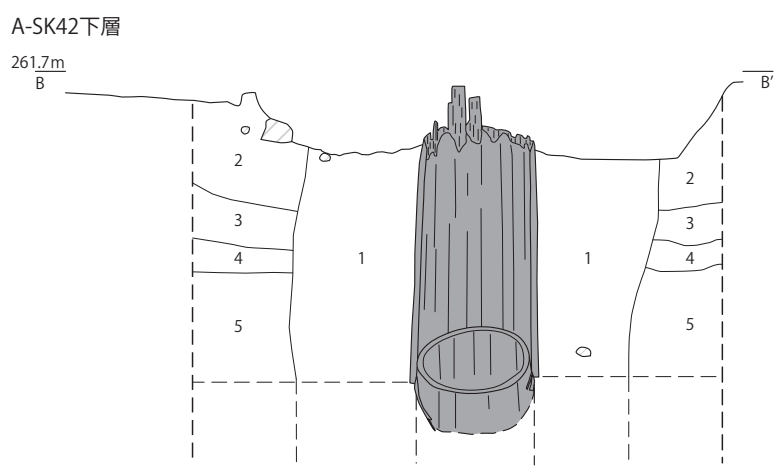
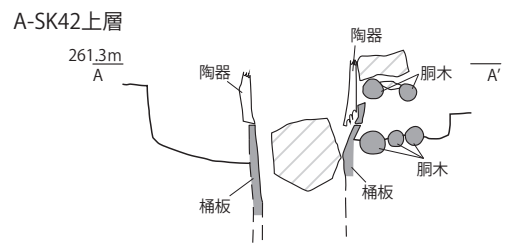
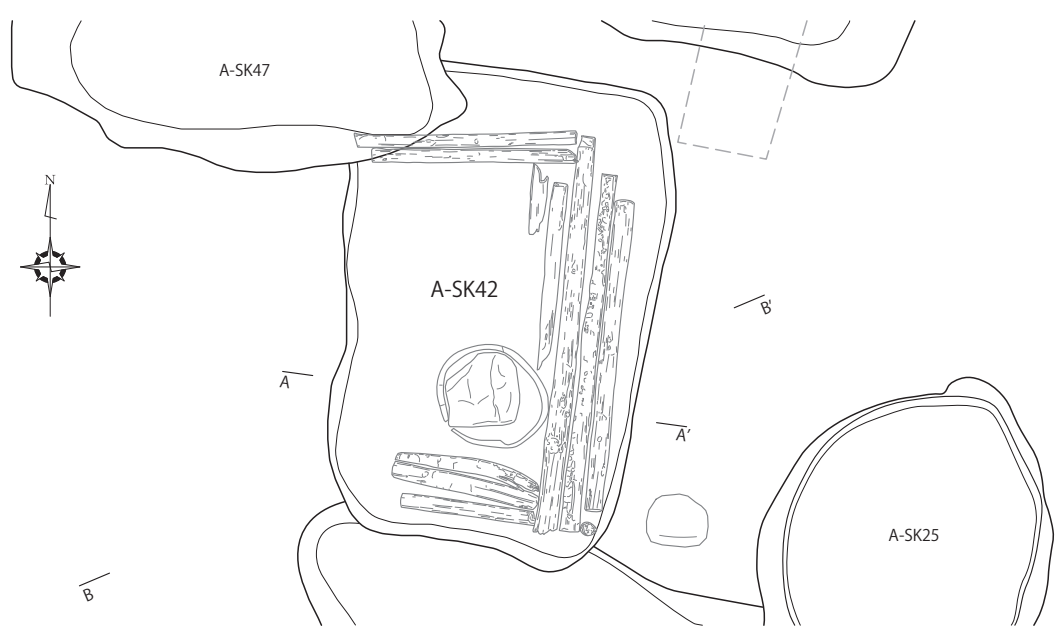
- | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 黒色 (10YR2/1) 砂 炭化物・砂利が混じる 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり</p> <p>2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 1cmの炭化物ブロック・焼土ブロック・砂利が混じる 縮まりあり</p> <p>3 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・砂利が混じる 縮まりあり</p> <p>4 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり</p> <p>5 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・砂利が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり</p> <p>6 黒色 (10YR1.7/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり</p> <p>7 6層に黄褐色 (2.5Y5/4) が斑に混じる</p> <p>8 黒褐色 (10YR3/1) シルト 焼土粒・砂が微量に混じる 縮まりあり</p> <p>9 黒褐色 (2.5YR3/2) 砂 径 1cmの炭化物ブロック・焼土粒・白色粒が多量に混じる 縮まりあり</p> <p>10 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・木片が多量に混じる 泥岩粒が微量に混じる</p> <p>11 炭化物が堆積する</p> <p>12 漆喰片が堆積する</p> <p>13 黒色 (2.5YR2/1) 砂</p> <p>14 黒色 (2.5YR2/1) 砂 木片・漆喰片が多量に混じる 縮まりゆるい</p> <p>15 黒褐色 (10YR2/2) 砂 1cmの炭化物・焼土ブロック・砂利が多量に混じる 縮まりあり</p> <p>16 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 縮まりあり</p> <p>17 黒褐色 (10YR2/1) 砂 炭化物・木片・砂利が微量に混じる 縮まりゆるい</p> <p>18 黒褐色 (10YR2/1) 砂 炭化物・砂利が多量に堆積する 縮まりゆるい</p> | <p>19 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物・砂利が多量に混じる 縮まりあり</p> <p>20 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粗粒砂 縮まりあり</p> <p>21 黒色 (10YR2/1) シルト 砂が混じる 縮まりあり</p> <p>22 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 縮まりあり</p> <p>23 黒褐色 (2.5YR2/2) 砂 炭化物ブロック・焼土ブロック・砂利が多量に混じる</p> <p>24 黒色 (10YR2/1) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい</p> <p>25 炭化物が帯状に堆積する 縮まりゆるい</p> <p>26 黒褐色 (10YR2/2) 砂に暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂ブロックが混じる 縮まりゆるい</p> <p>27 黒色 (10YR2/1) 砂 炭化物・木片・樹皮・径 2cmの石が多量に混じる 縮まりゆるい</p> <p>28 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・樹皮が微量に混じる 縮まりゆるい</p> <p>29 黒色 (7.5Y2/1) シルト 砂が混じる 縮まりあり</p> <p>30 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂・炭化物が混じる 縮まりゆるい 粘性強い</p> <p>31 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 縮まりゆるい 粘性強い</p> <p>32 黒色 (5Y2/1) シルト 縮まりあり</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
- A-SK45**
SK45-1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂 径 1cmの焼土ブロック・炭化物ブロックが多量に混じる
- a 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 1cmの炭化物ブロック・砂利が混じる 縮まりあり



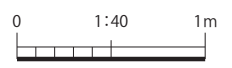
第133図 A地点 (12)



A-SK41
 1 暗褐色(10YR3/4)砂質シルト
 径1cmの炭化物ブロックが多量に混じる
 縮まりあり

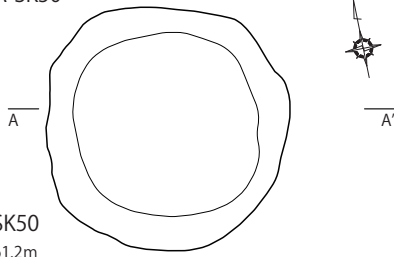


A-SK42
 1 黒色(2.5Y2/1)シルトに黒色(5Y2/1)シルトブロックが斑に混じる
 砂・石が微量に混じる 縮まりゆるい 粘性強い
 2 黒色(2.5Y2/1)シルト 白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
 泥岩粒が微量に混じる
 3 黒色(5Y2/1) 縮まりゆるい 粘性強い
 4 黒色(2.5Y2/1) 3層より縮まりゆるい 粘性強い
 5 黒色(10YR2/1) 縮まりゆるい 粘性強い



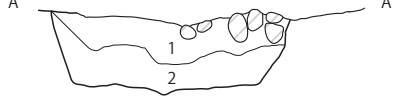
第134図 A地点 (13)

A-SK50



A-SK50

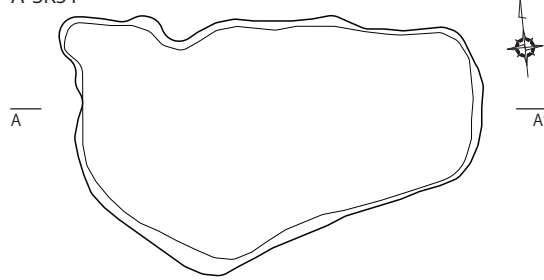
261.2m



A-SK50

- 1 炭層
- 2 オリーブ黒色(5Y3/1)シルト 炭化物ブロックが斑に混じる 縮まりゆるい

A-SK51



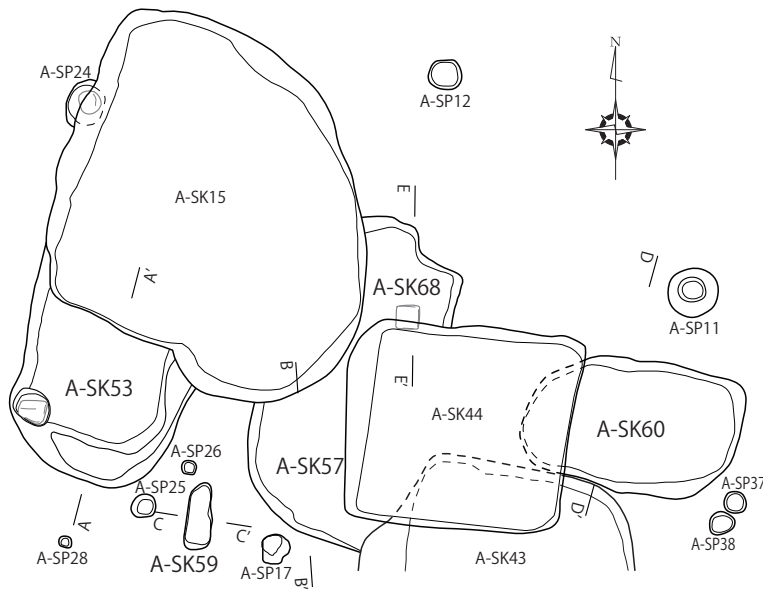
A-SK51

261.2m

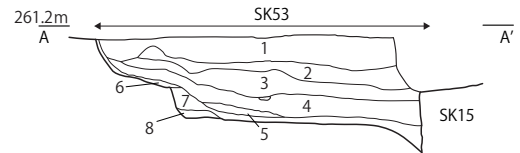


A-SK51

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 炭化物・径1~3cmの石が微量に混じる



A-SK53

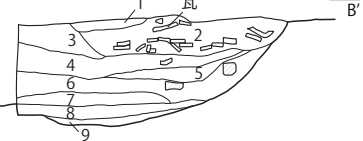


A-SK53

- 1 暗褐色(10YR3/3)砂 砂利が混じる 炭化物・焼土粒が極微量に混じる
- 2 1層に似るが炭化物が帯状に混じる
- 3 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂 炭化物・砂利が混じる 縮まりあり
- 4 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 炭化物・木質・白色粒が混じる 縮まりゆるい
- 5 黒褐色(10YR2/3)細粒砂
- 6 黒褐色(10YR3/2)シルト 砂が混じる 縮まりあり
- 7 黒褐色(10YR3/1)シルト 砂が混じる 縮まりあり
- 8 オリーブ黒色(5Y3/1)シルト 縮まりあり

A-SK57

261.2m

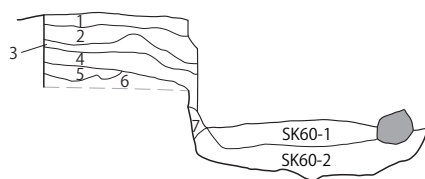


A-SK57

- 1 炭層
- 2 暗褐色(10YR3/3)砂 瓦片・小石・砂利が多量に混じる 縮まりあり
- 3 暗褐色(10YR3/3)砂 砂利・炭化物が混じる 縮まりあり
- 4 暗褐色(10YR3/3)砂 炭化物・木質が混じる 縮まりあり
- 5 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土粒・炭化物・木質が混じる 縮まりゆるい
- 6 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒・炭化物が混じる 鉄分の集積がみられる 縮まりゆるい
- 7 黒褐色(2.5Y3/1)砂 白色粒・炭化物が極微量に混じる
- 8 黒色(2.5Y2/1)シルトに7層が混じる 木片が混じる 縮まりゆるい
- 9 黒色(7.5Y2/1)シルト 縮まりゆるい 粘性強い

A-SK60

261.2m



A-SK60

- SK60-1 黒褐色(10YR2/2)砂 砂利・木片が多量に混じる
- SK60-2 黒色(10YR2/1)シルト 多量の木片が堆積する 縮まりゆるい 粘性強い
- 1 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂 炭化物・砂利が多量に混じる 縮まりあり
- 2 黒褐色(2.5Y3/2)シルト 炭化物が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり
- 3 黒褐色(2.5Y3/2)シルト 砂が混じる 炭化物が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり
- 4 黒褐色(2.5Y3/2)シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり
- 5 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂が4層に混じる
- 6 黒褐色(2.5Y2/1)シルト 雲母・炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい
- 7 黒色(5Y2/1)シルト 白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい 粘性強い

A-SK59

261.2m

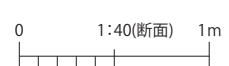
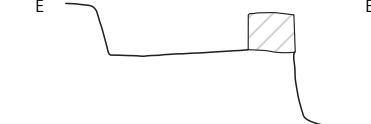


A-SK59

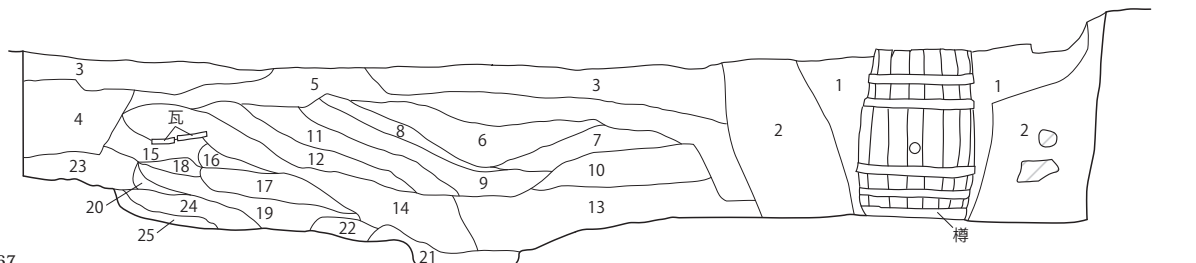
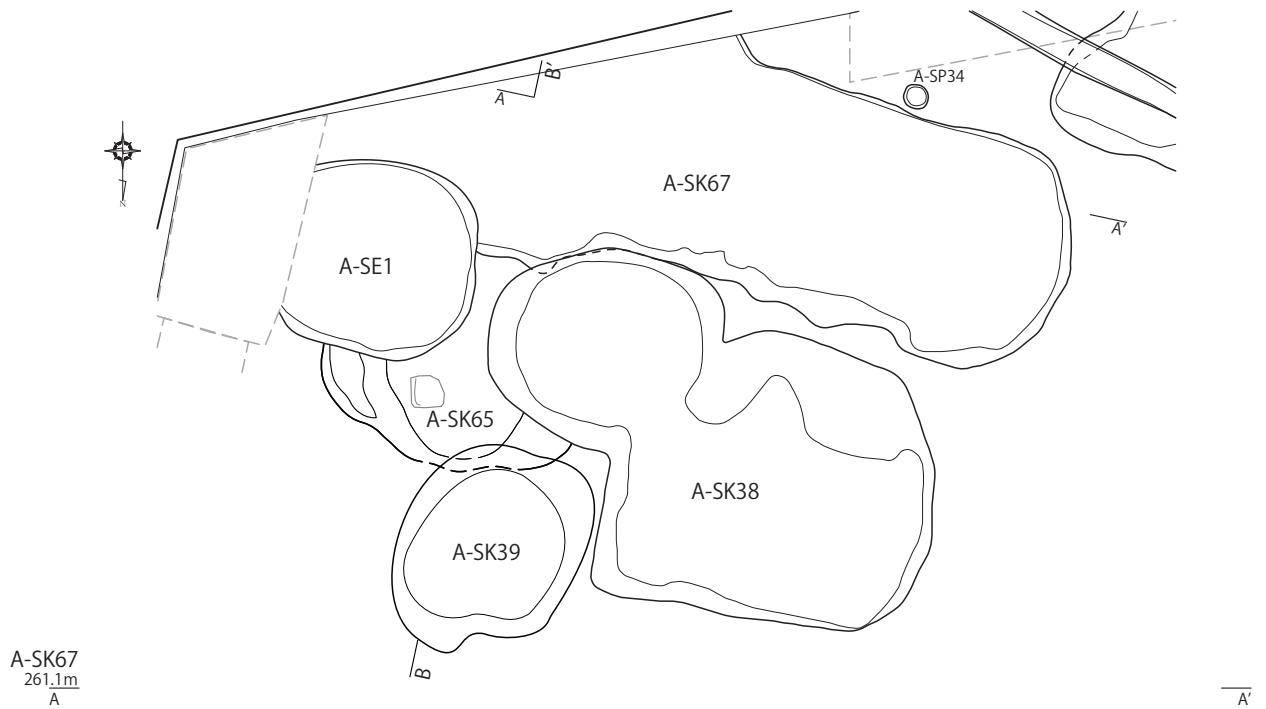
- 1 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂 炭化物が微量に混じる

A-SK68

261.1m

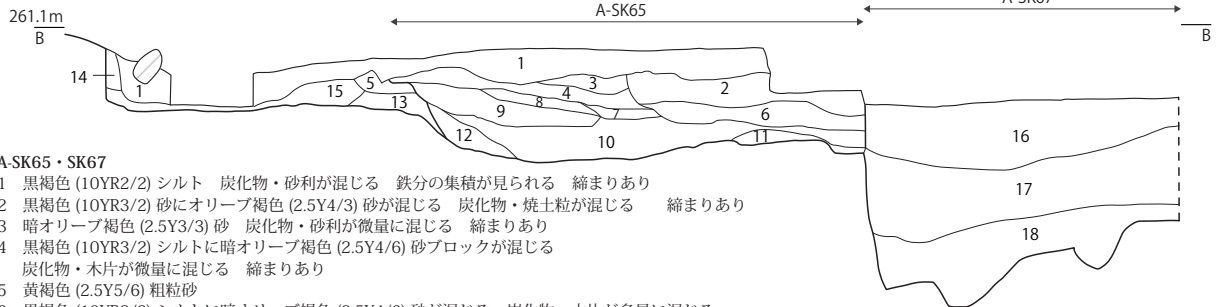


第135図 A地点 (14)



- A-SK67**
- 1 黒色 (10YR2/1) シルト 木の皮・木片が多量に混じる 縮まりゆるい
 - 2 黒色 (2.5Y2/1) シルトに暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂が微量に混じる 炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい 粘性強い
 - 3 黒色 (10YR1.7/1) 砂 木の皮・木片が混じる
 - 4 木の皮が多量に堆積する
 - 5 木の皮が多量に堆積する
 - 6 黒色 (2.5Y2/1) シルトに黒色 (7.5Y2/1) シルトが斑に混じる 黄灰色 (2.5Y5/3) 砂・炭化物が微量に混じる 縮まりあり
 - 7 黒色 (5Y2/1) 砂 砂利・炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい
 - 8 7層に似るが砂利が多い
 - 9 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂 炭化物・砂利が極微量に混じる 縮まりゆるい
 - 10 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 縮まりゆるい
 - 11 10層と同じ
 - 12 炭層
 - 13 黒色 (5Y2/1) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 縮まりゆるい
 - 14 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 縮まりゆるい
 - 15 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 縮まりゆるい
 - 16 黒褐色 (10YR2/2) シルト 炭化物・砂利・泥岩粒が微量に混じる 縮まりゆるい 粘性強い
 - 17 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 炭化物・砂利が混じる 縮まりゆるい 粘性強い
 - 18 17層に黒色 (5Y2/1) シルトが混じる 縮まりゆるい 粘性強い
 - 19 黒色 (5Y2/1) シルト 縮まりあり
 - 20 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
 - 21 黒色 (10Y2/1) シルト 縮まりあり
 - 22 黒色 (7.5Y2/1) シルト 炭化物・砂利が微量に混じる 縮まりゆるい
 - 23 黒色 (7.5Y2/1) 細粒砂 炭化物・白色粒・泥岩粒が微量に混じる 縮まりゆるい
 - 24 黒色 (10Y2/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
 - 25 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粗粒砂に黒色 (10Y2/1) シルトが混じる 縮まりあり

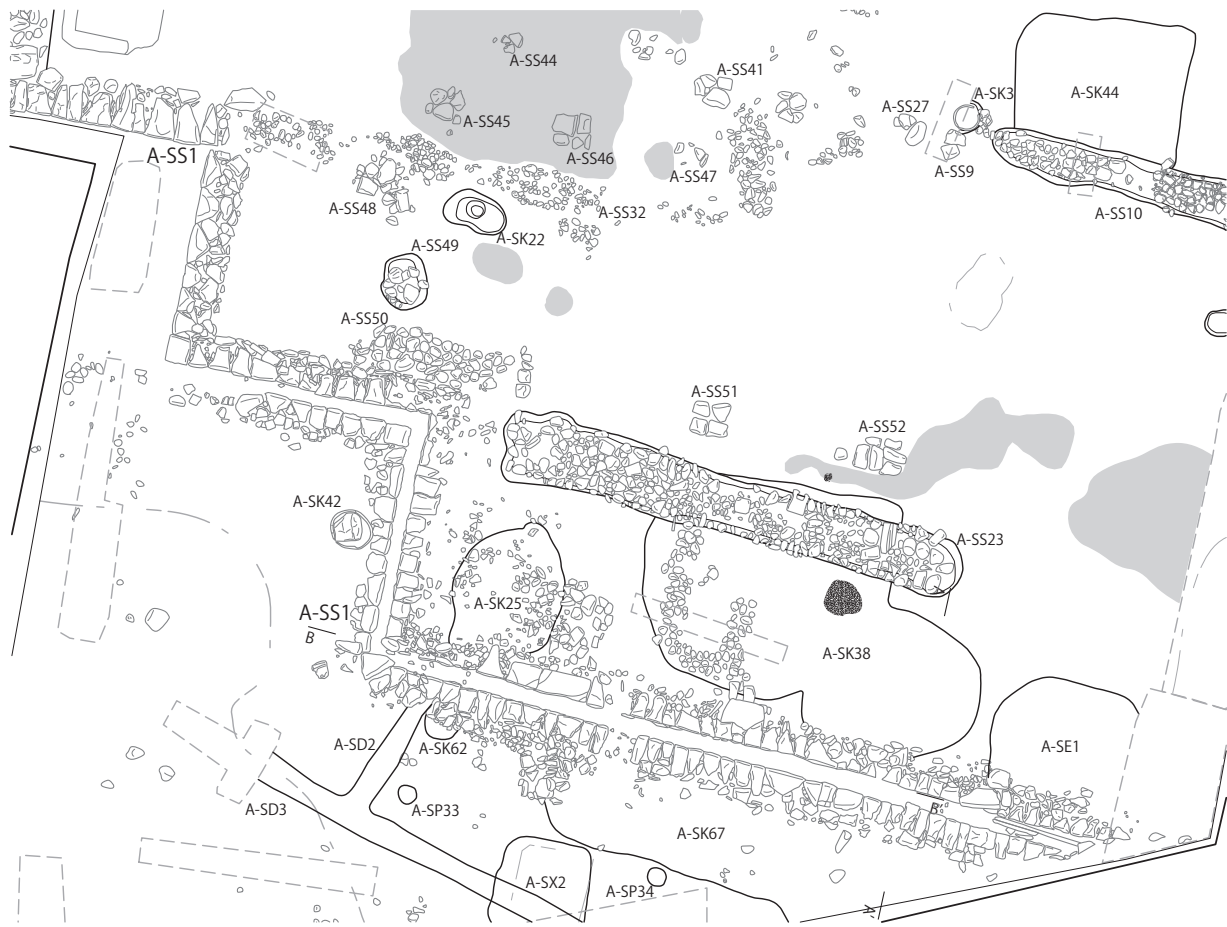
A-SK65・SK67



- A-SK65・SK67**
- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト 炭化物・砂利が混じる 鉄分の集積が見られる 縮まりあり
 - 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂にオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂が混じる 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりあり
 - 3 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 縮まりあり
 - 4 黒褐色 (10YR3/2) シルトに暗オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 砂ブロックが混じる 炭化物・木片が微量に混じる 縮まりあり
 - 5 黄褐色 (2.5Y5/6) 粗粒砂
 - 6 黒褐色 (10YR2/3) シルトに暗オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 砂が混じる 炭化物・木片が多量に混じる
 - 7 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 木の皮が混じる 縮まりゆるい
 - 8 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物が混じる 縮まりあり
 - 9 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土ブロックが混じる 縮まりゆるい
 - 10 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 炭化物が多量に混じる 縮まりゆるい
 - 11 黒色 (7.5Y2/1) シルト 白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
 - 12 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 炭化物・砂利・木片が微量に混じる 縮まりゆるい
 - 13 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 砂・白色粒が多量に混じる 縮まりあり
 - 14 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 炭化物・砂利が混じる 縮まりあり
 - 15 褐色 (10YR4/6) 粗粒砂
 - 16 黒色 (10YR1.7/1) 砂 木の皮・木片が混じる
 - 17 木の皮が多量に堆積する
 - 18 黒色 (7.5Y2/1) 細粒砂 炭化物・白色粒・泥岩粒が微量に混じる 縮まりゆるい

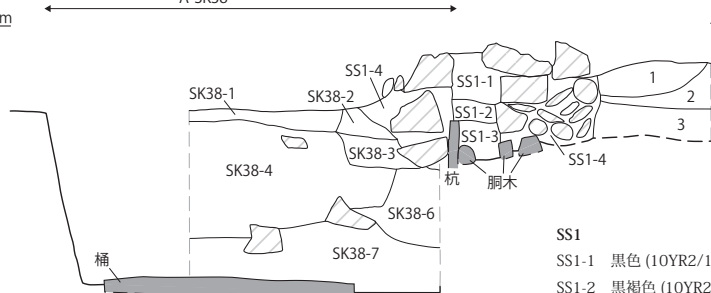


第136図 A地点 (15)



0 1:100(平面) 5m

A-SK38・SS1
 261.6m
 A



- 1 黒褐色 (2.5YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が極微量に混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (2.5YR3/1) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 3 黒色 (10YR1.7/1) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりゆるい

- SS1
- SS1-1 黒色 (10YR2/1) 砂 径 10 ~ 20 cm の石・割石をつめる
- SS1-2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 3 cm の石・瓦片・砂利が混じる 締まりあり
- SS1-3 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗粒砂 砂利が混じる
- SS1-4 黒色 (10YR1.7/1) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりゆるい

- A-SK38
- SK38-1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 砂利・炭化物・木片が多量に混じる 締まりあり
- SK38-2 黒色 (10YR2/1) 砂 炭化物が混じる 締まりゆるい
- SK38-3 黒色 (10YR1.7/1) 砂 炭化物・木片が多量に混じる 締まりゆるい
- SK38-4 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂 桶板片・径 10 cm の石・割石が混じる 締まりゆるい
- SK38-6 黒褐色 (10YR2/2) 砂 多量の木片・樹皮が堆積する 締まりゆるい
- SK38-7 黒色 (5Y2/1) シルト 締まりゆるい 粘性強い

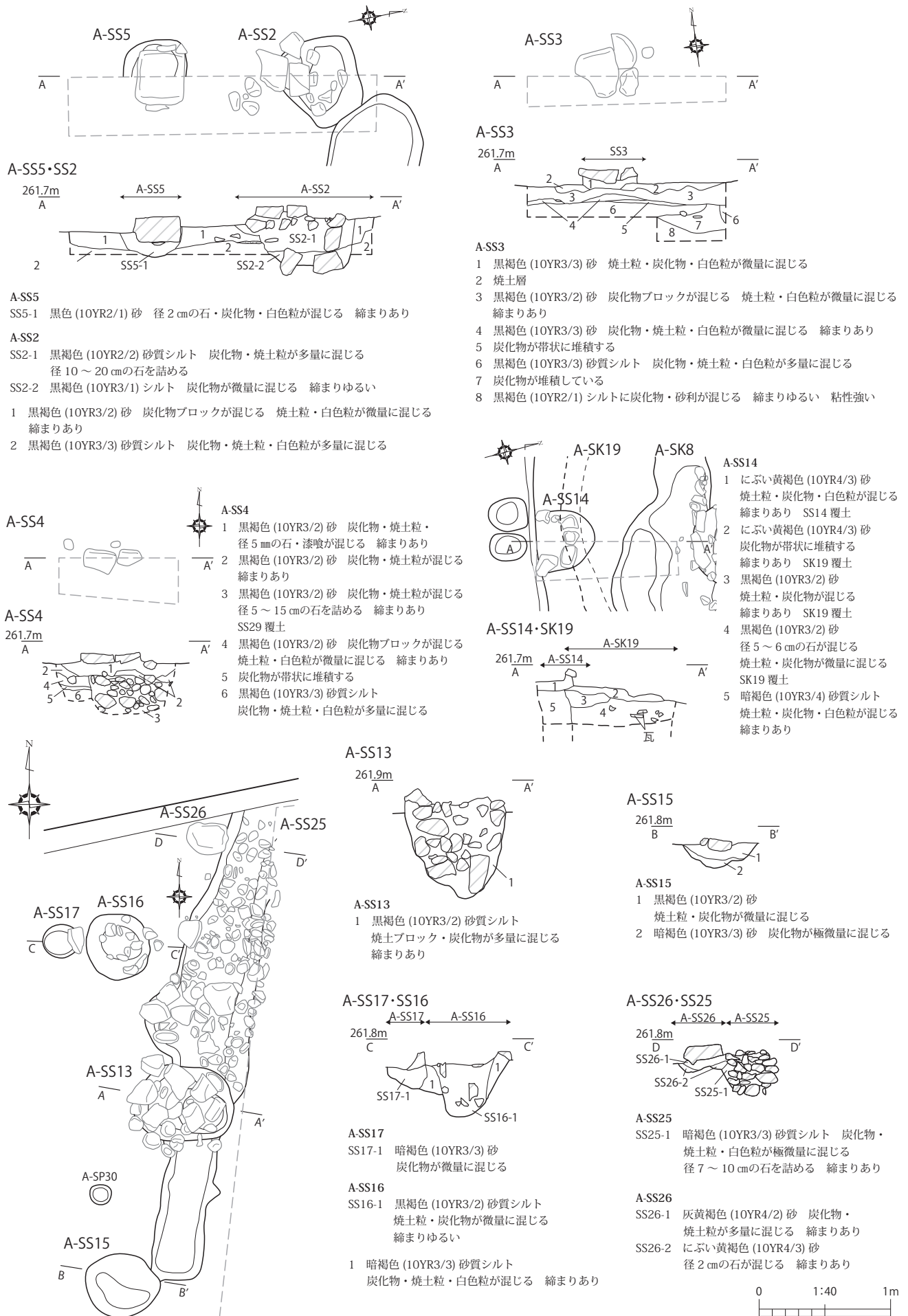
0 1:40(断面) 1m

261.5m
 B

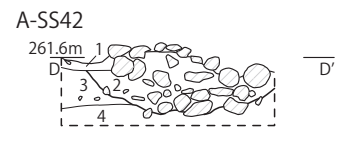
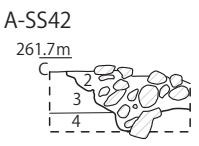
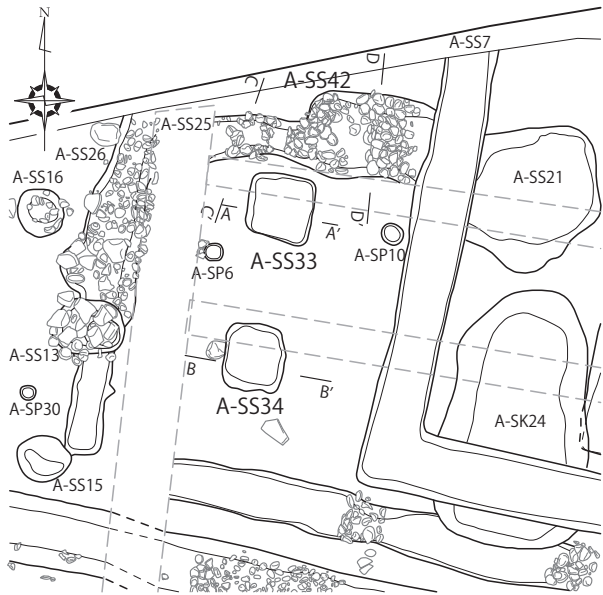
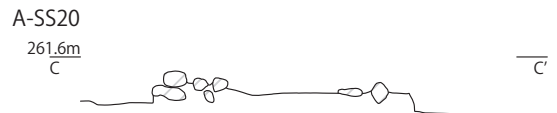
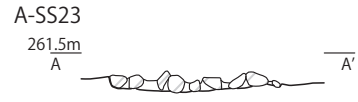


0 1:50(側面) 2m

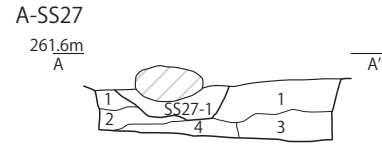
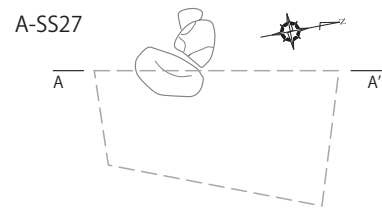
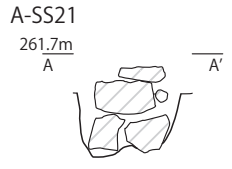
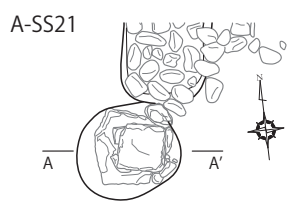
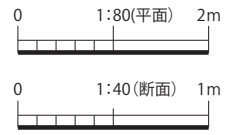
第137図 A地点 (16)



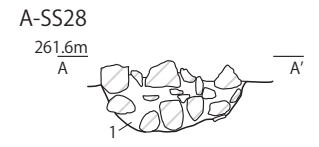
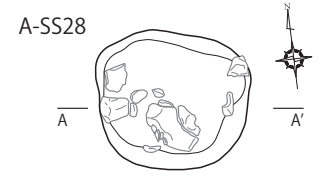
第138図 A地点 (17)



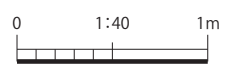
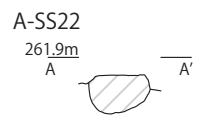
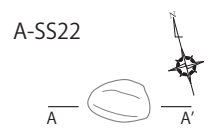
- A-SS42**
- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂 径 1 ~ 1.5 cm の石が混じる 締まりあり
 - 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径 5 ~ 10 cm の石を詰める 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
 - 3 黒褐色 (2.5YR3/2) 砂質シルト 径 2 cm の炭化物ブロック・焼土粒が混じる 締まりあり
 - 4 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 雲母が混じる 締まる



- A-SS27**
- SS27-1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒・炭化物が混じる
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂 径 1 cm の焼土ブロック・径 1 cm の炭化物ブロック・白色粒が多量に混じる 固く締まる
 - 2 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂 炭化物・焼土粒が混じる
 - 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 径 1 cm の炭化物ブロックが混じる
 - 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 締まりあり



- A-SS28**
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりゆるい

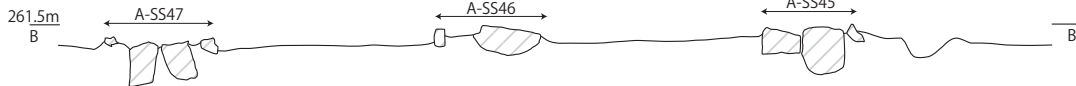


第139図 A地点 (18)



A-SS44
261.5m
A A'

A-SS45・SS46・SS47



A-SS32
261.6m
C C'



A-SS32
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂
炭化物・焼土粒が多量に混じる

A-SS40
261.6m
D D'



A-SS40
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 砂利が混じる
炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい

A-SS41
261.6m
E E'



A-SS41
1 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
2 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 径2cmの焼土ブロック・
径2cmの炭化ブロックが多量に混じる

A-SS43
261.6m
F F'



A-SS43
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 砂利が混じる 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 砂利が混じる 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
3 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 砂利・炭化物微量に混じる 締まりゆるい
4 暗褐色 (10YR3/3) シルト 炭化物が微量に混じる 締まりあり

A-SS48
261.6m
G G'



A-SS48
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 径1~2cmの石・炭化物が混じる
締まりあり
2 暗褐色 (10YR3/3) 砂 径5~8cmの石を詰める 締まりあり

A-SS49
261.5m
H H'



A-SS49
1 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト
炭化物・焼土粒・砂利が混じる
泥岩粒が微量に混じる 締まりゆるい

A-SS51
261.5m
I I'

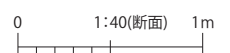
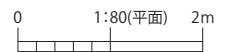


A-SS51
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
白色粒・炭化物・焼土粒が混じる
締まりあり

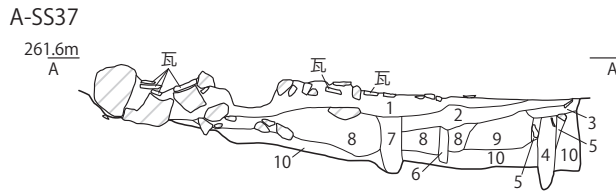
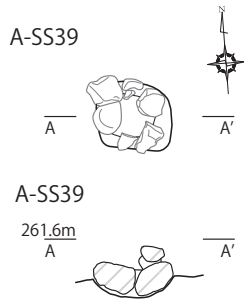
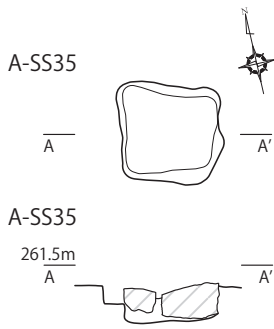
A-SS52
261.4m
J J'



A-SS52
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒・
砂利が混じる 締まりゆるい
2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が
多量に混じる 締まりゆるい

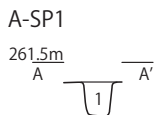
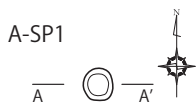


第140図 A地点 (19)



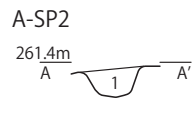
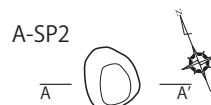
A-SS37

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる
径 4 ~ 10 cm の割石が混じる 縮まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 縮まりあり
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 縮まりあり
- 4 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりゆるい
- 5 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 4 cm の割石が混じる 縮まりあり
- 6 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 炭化物が混じる 泥岩粒が微量に混じる
- 7 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物が混じる 泥岩粒が微量に混じる
- 8 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 縮まりあり
- 9 黒褐色 (10YR3/2) シルト 炭化物が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり
- 10 黒褐色 (10YR2/3) シルト 炭化物が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり



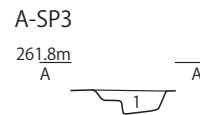
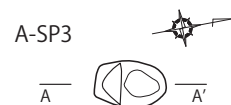
A-SP1

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
炭化物・焼土粒が極微量に混じる
縮まりゆるい



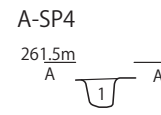
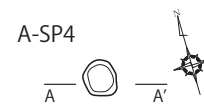
A-SP2

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
炭化物・焼土粒が極微量に混じる
縮まりゆるい



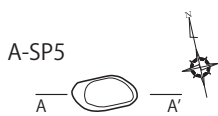
A-SP3

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
炭化物・焼土粒が混じる



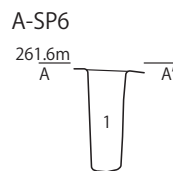
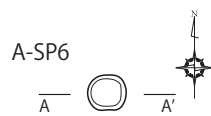
A-SP4

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
焼土粒・白色粒・炭化物が
極微量に混じる



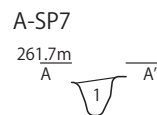
A-SP5

- 1 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粗粒砂
径 3 mm 以下の砂利が多量に堆積する



A-SP6

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂
焼土粒・炭化物が混じる
縮まりゆるい

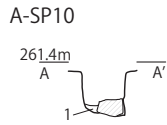


A-SP7

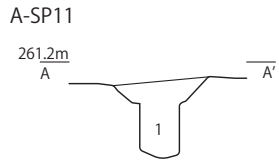
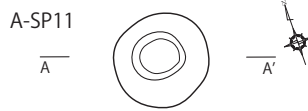
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂
焼土粒・炭化物が微量に混じる



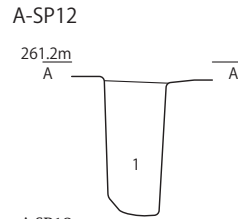
第141図 A地点 (20)



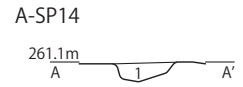
A-SP10
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
焼土粒・炭化物が極微量に混じる
締まりゆるい



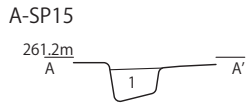
A-SP11
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
炭化物が混じる
泥岩粒が微量に混じる
締まりゆるい



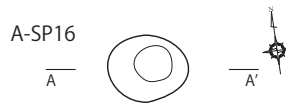
A-SP12
1 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト
炭化物が混じる
泥岩粒が微量に混じる
締まりゆるい 粘性強い



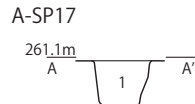
A-SP14
1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト
炭化物・白色粒が微量に混じる



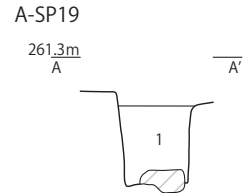
A-SP15
1 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト
炭化物・砂利が微量に混じる
泥岩粒が微量に混じる



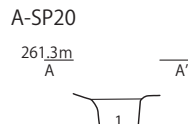
A-SP16
1 黒色 (10YR2/1) 砂
径 10 cmの小石を詰める
炭化物・砂利が微量に混じる



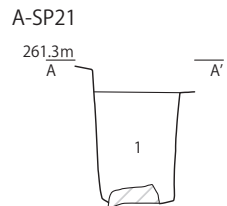
A-SP17
1 黒褐色 (10YR3/2) シルト
炭化物・砂利が混じる
泥岩粒が微量に混じる



A-SP19
1 黒褐色 (10YR3/2) シルト
炭化物が極微量に混じる
泥岩粒が微量に混じる
締まりゆるい



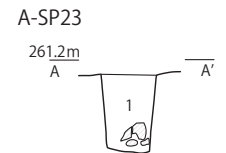
A-SP20
1 黒褐色 (10YR3/2) シルト
炭化物が極微量に混じる
泥岩粒が微量に混じる
締まりゆるい



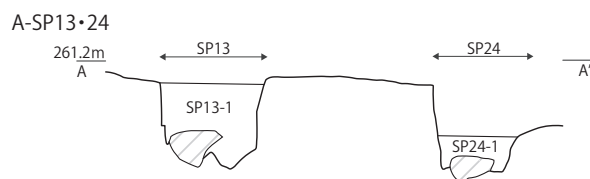
A-SP21
1 黒褐色 (10YR3/2) シルト
炭化物が極微量に混じる
泥岩粒が微量に混じる
締まりゆるい



A-SP22
1 暗褐色 (10YR3/3) シルト
炭化物が極微量に混じる
泥岩粒が微量に混じる
締まりゆるい

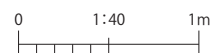


A-SP23
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
炭化物が微量に混じる



A-SP13
SP13-1 黒褐色 (10YR3/1) シルト 炭化物が多量に混じる
泥岩粒が微量に混じる 締まりゆるい 粘性強い

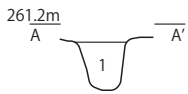
A-SP24
SP24-1 黒褐色 (10YR3/1) シルト 炭化物が混じる
泥岩粒が微量に混じる 締まりゆるい



第142図 A地点 (21)



A-SP25

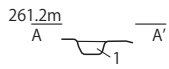


A-SP25

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる

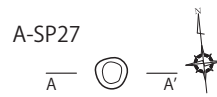


A-SP26

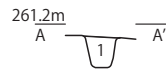


A-SP26

1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂炭化物・石が混じる
縮まりあり



A-SP27

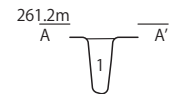


A-SP27

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト炭化物が極微量に混じる
泥岩粒が微量に混じる
縮まりあり

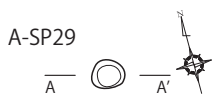


A-SP28

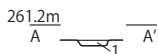


A-SP28

1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト炭化物・石が混じる
泥岩粒が微量に混じる
縮まりあり



A-SP29

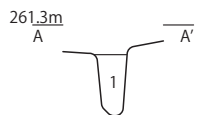


A-SP29

1 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂炭化物・石が混じる
泥岩粒が微量に混じる
縮まりあり

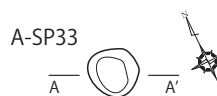


A-SP30

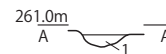


A-SP30

1 黒褐色 (10YR3/2) シルト炭化物が混じる



A-SP33

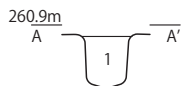


A-SP33

1 黒褐色 (10YR2/2) 砂炭化物・石が微量に混じる
縮まりあり



A-SP34

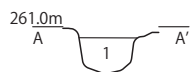


A-SP34

1 黒褐色 (10YR3/1) シルトに黒褐色 (10YR3/2) 砂が混じる
炭化物・石が微量に混じる



A-SP35

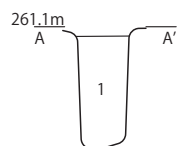


A-SP35

1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト炭化物が極微量に混じる
泥岩粒が微量に混じる

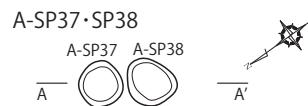


A-SP36

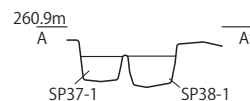


A-SP36

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト炭化物が微量に混じる
縮まりゆるい



A-SP37・38



A-SP37

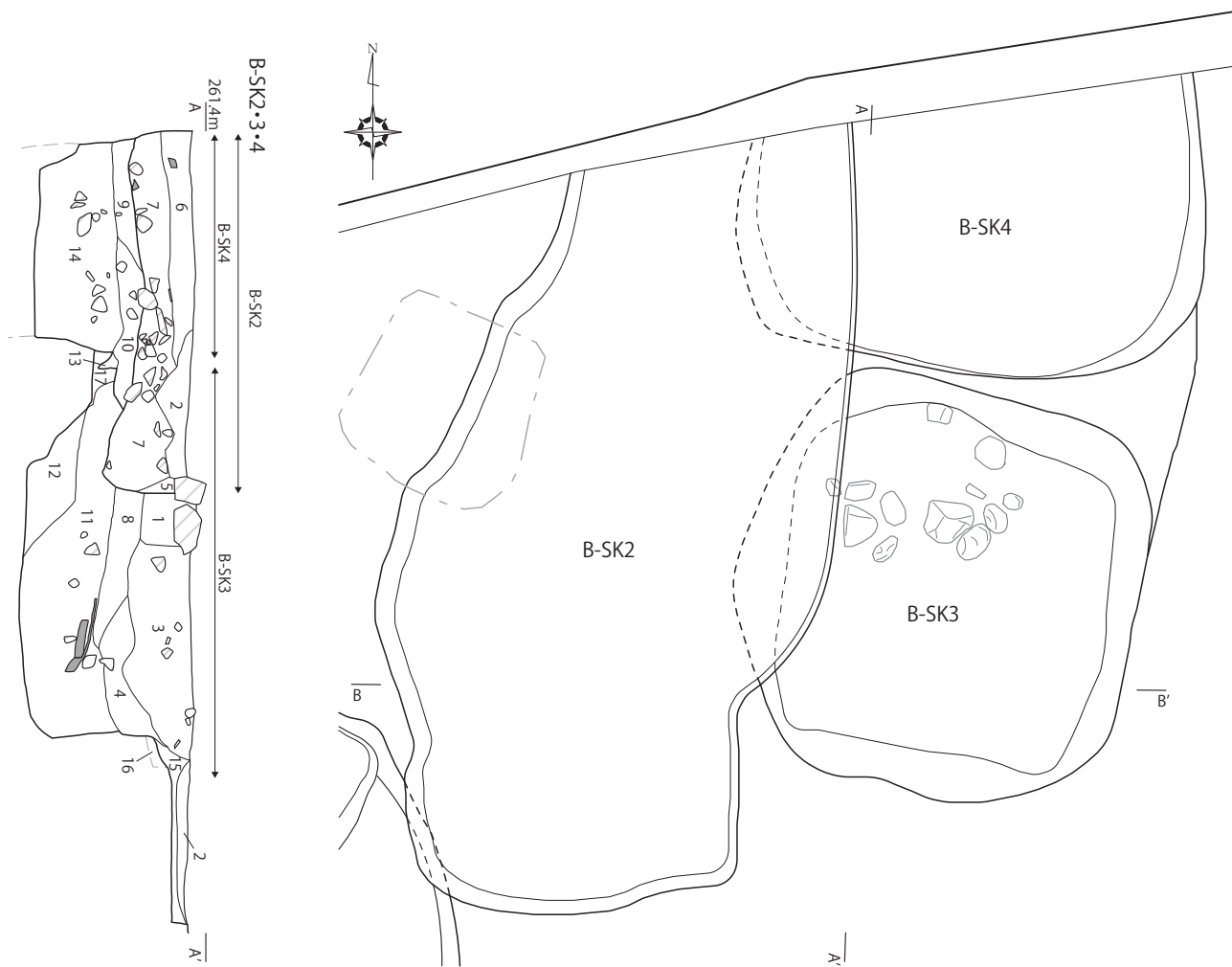
SP37-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト炭化物が微量に混じる
縮まりゆるい

A-SP38

SP38-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト炭化物が微量に混じる
縮まりゆるい



第143図 A地点 (22)



SK2・3・4

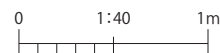
- 1 オリーブ黒色 (5Y2/2) シルトに黒褐色 (2.5Y3/2) 砂が斑に混じる
白色粒・炭化物が混じる 縮まりあり
- 2 暗オリーブ褐色 (2.5YR3/3) 砂 炭化物・焼土粒・白色粒が多量に混じる
- 3 暗褐色 (10YR3/4) シルトに黒褐色 (2.5Y3/1) シルトが斑に混じる
白色粒・炭化物・焼土粒が混じる 縮まりあり
- 4 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・焼土粒が多量に混じる 縮まりゆるい
- 5 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
- 6 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・木片が多量に混じる 縮まりゆるい
- 7 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒・木片・径5~8cmの石が混じる
- 8 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 縮まりゆるい
- 9 黒色 (10YR1.7/1) 砂 炭化物・砂利が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 10 黒色 (10YR1.7/1) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 11 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルトに灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂が微量に混じる
炭化物・白色粒・木片が混じる 縮まりゆるい
- 12 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 白色粒・炭化物が極微量に混じる
縮まりゆるい 粘性強い
- 13 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる
縮まりゆるい
- 14 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 径5~7cmの石が混じる
炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 15 暗褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 縮まりあり
- 16 暗褐色 (10YR3/2) シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
- 17 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい

SK2・3

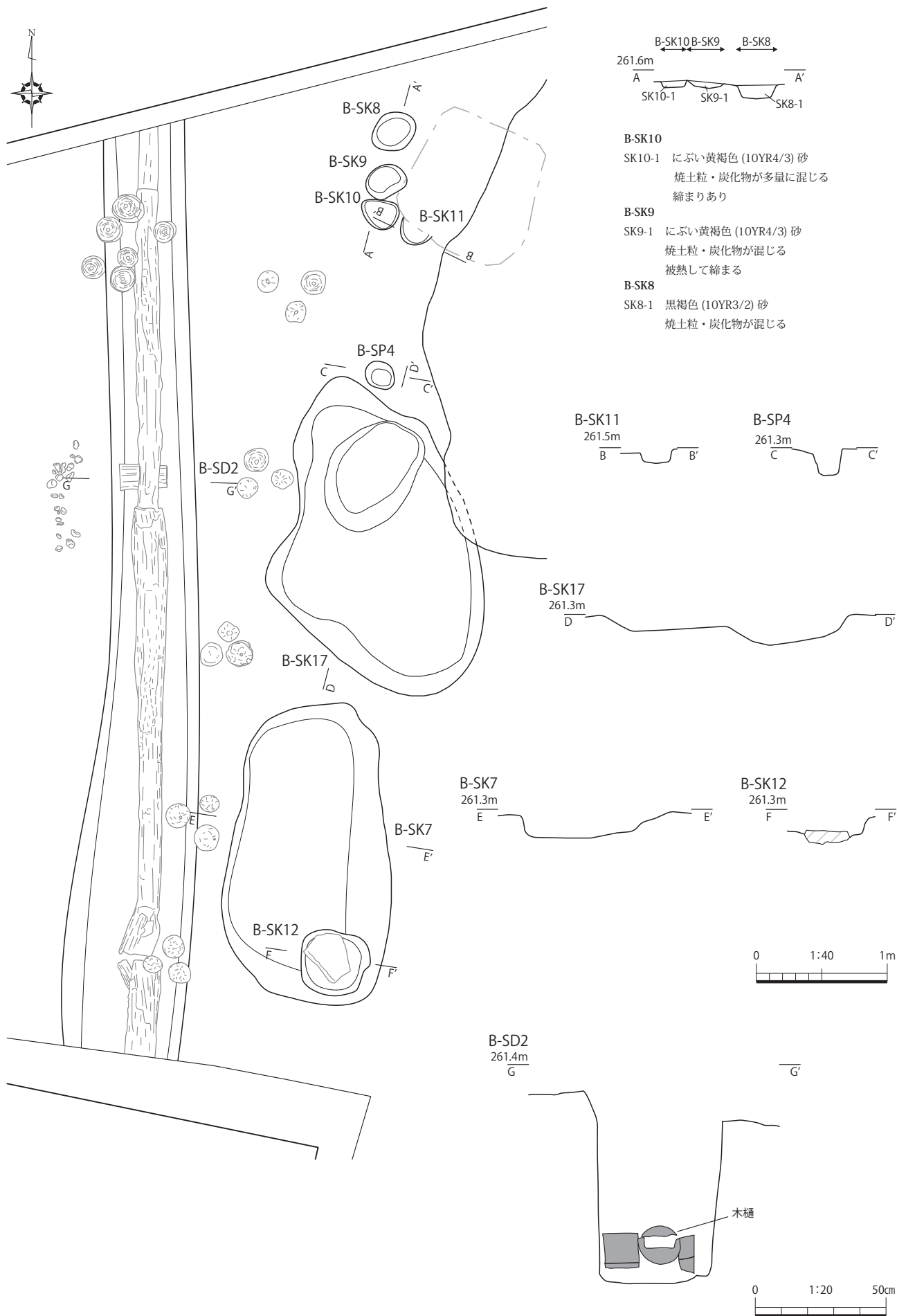
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒・木片が微量に混じる
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりゆるい
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 砂利・炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい
- 4 黒色 (2.5Y2/1) 砂 縮まりゆるい
- 5 暗褐色 (10YR2/3) 砂 木片が混じる 縮まりゆるい
- 6 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 炭化物・木片が混じる 縮まりゆるい
- 7 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト
- 8 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 9 オリーブ黒色 (5Y3/2) シルト 炭化物・砂利が混じる 縮まりゆるい

SK2・3

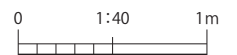
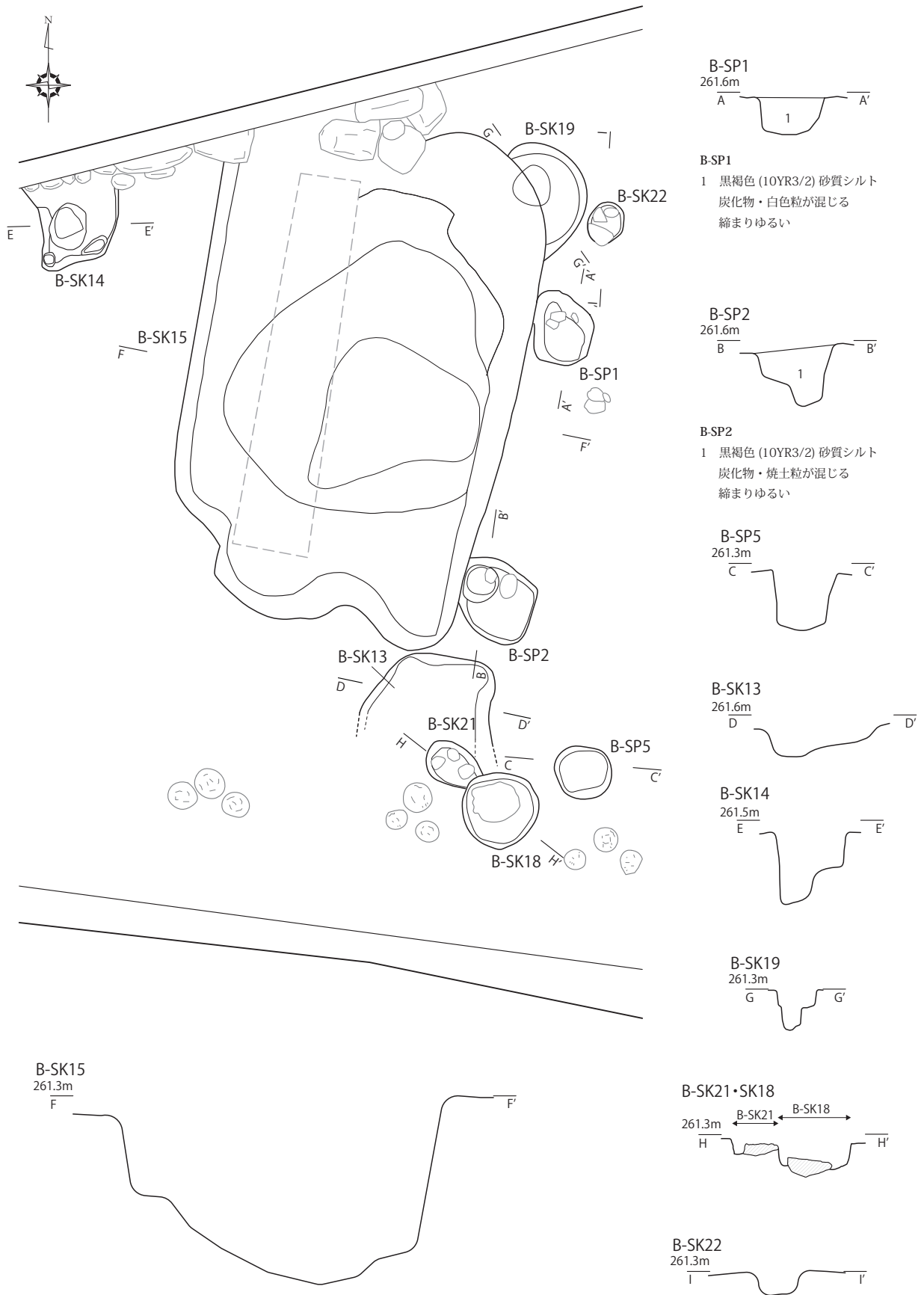
- a 黒色 (10YR2/1) シルトに暗褐色 (10R3/3) 砂質シルトが斑に混じる
焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり
- b 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 炭化物・焼土粒・径2~5cmの石が混じる
縮まりゆるい
- c 黒褐色 (10YR3/2) シルト 縮まりあり



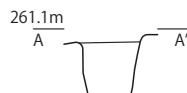
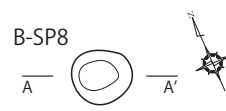
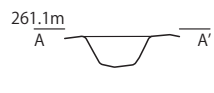
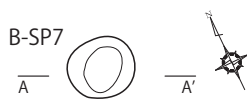
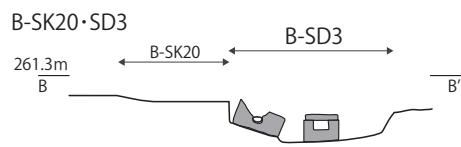
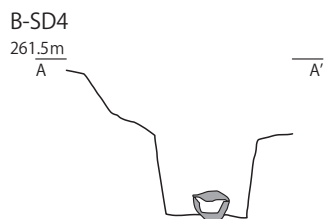
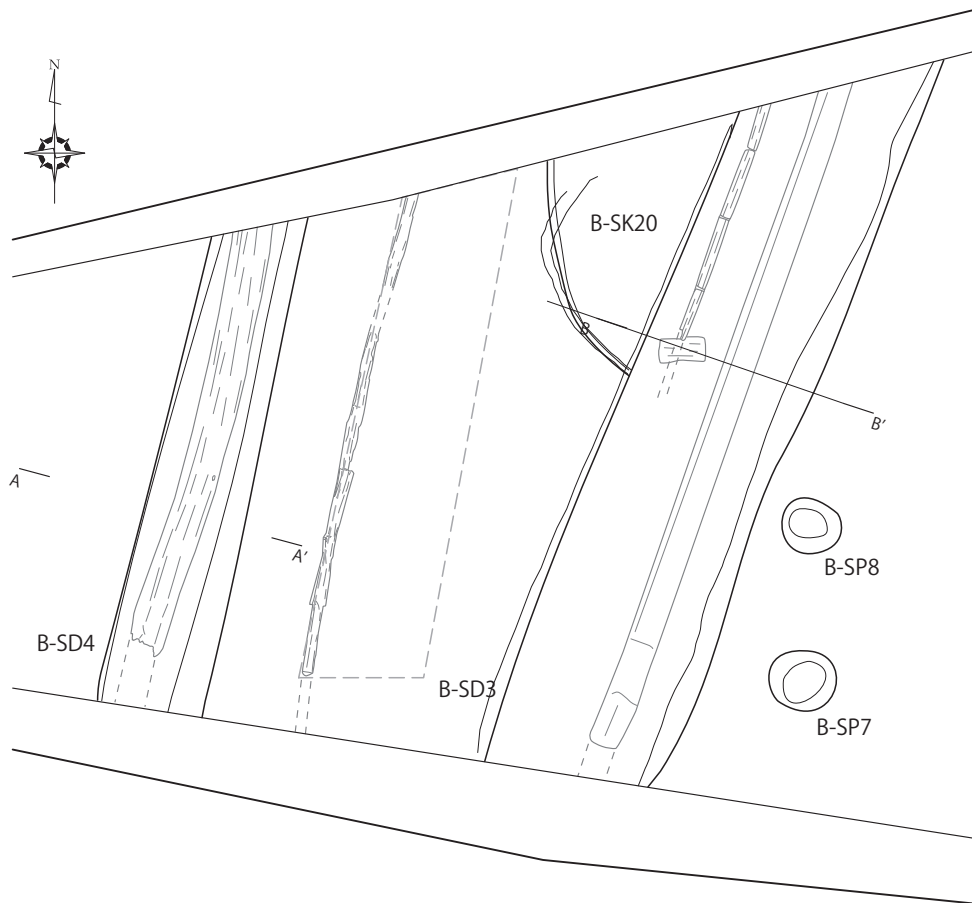
第144図 B地点 (1)



第145図 B地点 (2)



第146図 B地点 (3)

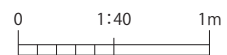


B-SP7
1 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・白色粒が微量に混じる
縮まりゆるい

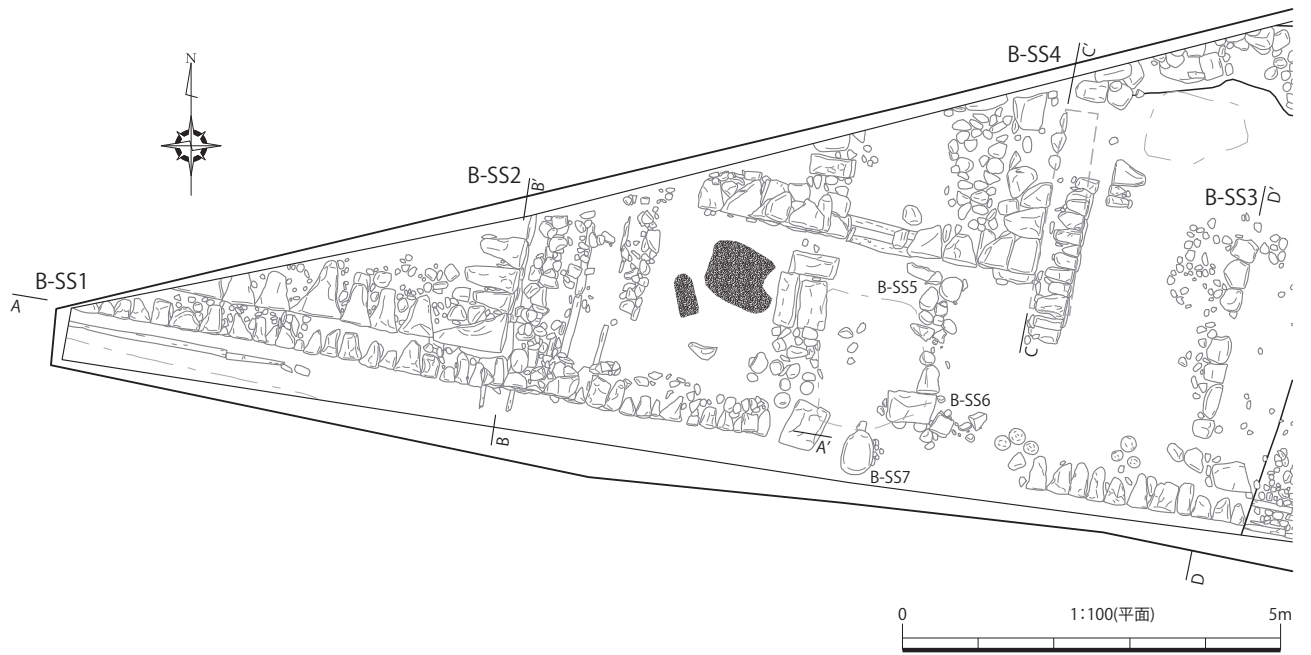
B-SP8
1 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト
炭化物・砂利が混じる
縮まりゆるい 粘性強い

B-SP9
1 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト
炭化物・白色粒が微量に混じる
縮まりゆるい 粘性強い

B-SP10
1 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト
炭化物・白色粒が微量に混じる
縮まりゆるい 粘性強い



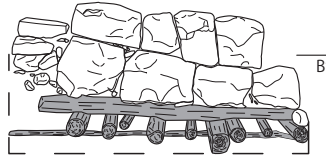
第147図 B地点 (4)



B-SS1
262.3m
A

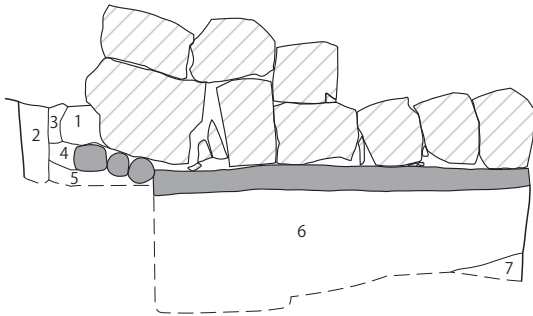


B-SS2
261.7m
B



0 1:60(側面) 2m

B-SS4
262.3m
C

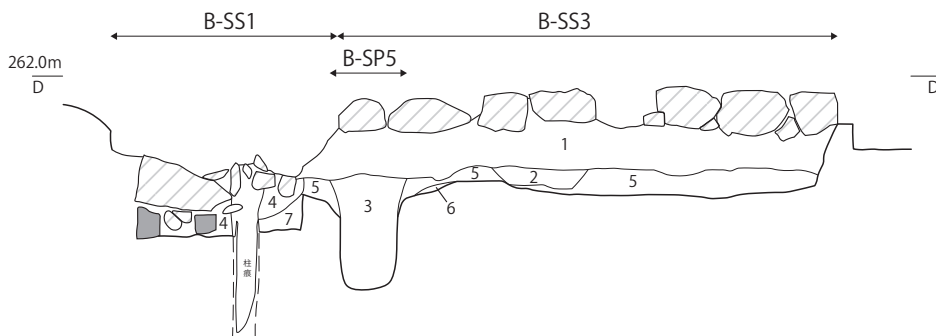


B-SS4

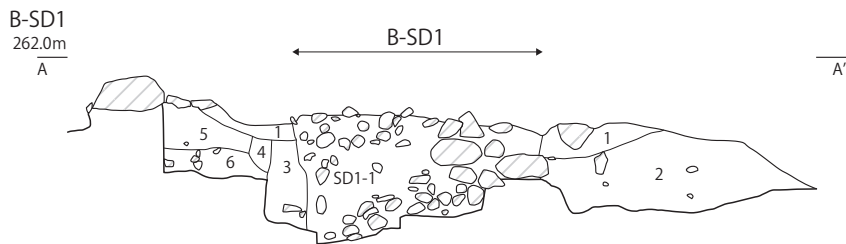
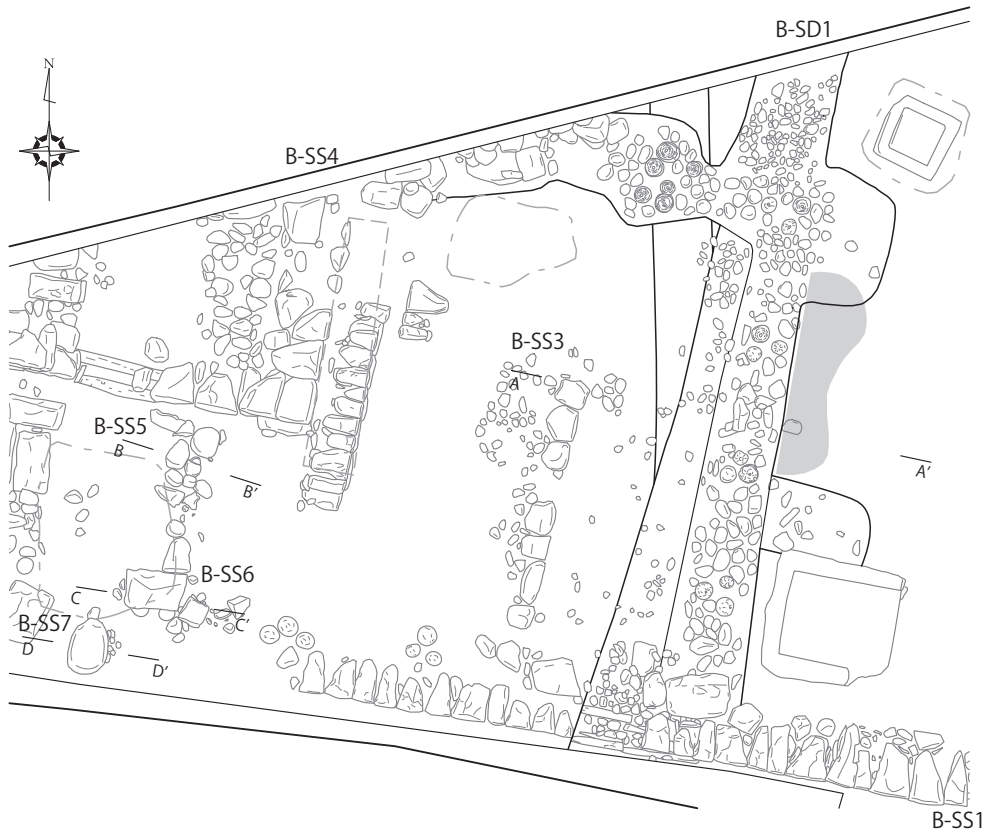
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 砂が斑に混じる
炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 縮まりあり
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる
- 3 1層に似るが暗褐色 (10YR3/4) 砂が多い
- 4 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりゆるい
- 5 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 粘性強い 縮まりゆるい
- 6 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂 径2~5cmの石が混じる 炭化物・白色粒が微量に混じる
縮まりゆるい
- 7 黒色 (7.5Y2/1) シルト 粘性強い 縮まりゆるい

B-SS1・SS3・SP5

- 1 黒褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
炭化物・焼土粒・白色粒・
径2~3cmの石が混じる 縮まりあり
- 2 黒褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
炭化物・焼土粒・白色粒が混じる
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい
- 4 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 縮まりゆるい
- 5 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト
白色粒・炭化物が微量に混じる
径3cmの石が混じる 縮まりあり
- 6 暗褐色 (10YR3/4) シルト
- 7 暗灰色 (N3/0) シルト



第148図 B地点 (5)



B-SD1

SD1-1 黒褐色(10YR2/2)シルト 径2~10cmの石を充填する 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 締まりあり

- 1 褐色(7.5YR4/6)砂 焼土粒・炭化物・砂粒が混じる 被熱し締まる
- 2 黒褐色(10YR2/3)粗粒砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 径2cmの石が混じる 締まりあり
- 3 黒褐色(10YR3/2)シルト 炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 4 黒褐色(10YR3/2)シルト 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 5 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト 炭化物・焼土粒・白色粒・径2~5cmの石が混じる 締まりあり
- 6 暗褐色(10YR3/4)砂質シルト 白色粒・炭化物が微量に混じる 径3cmの石が混じる 締まりあり

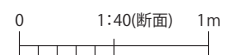
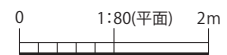
B-SS5
261.7m



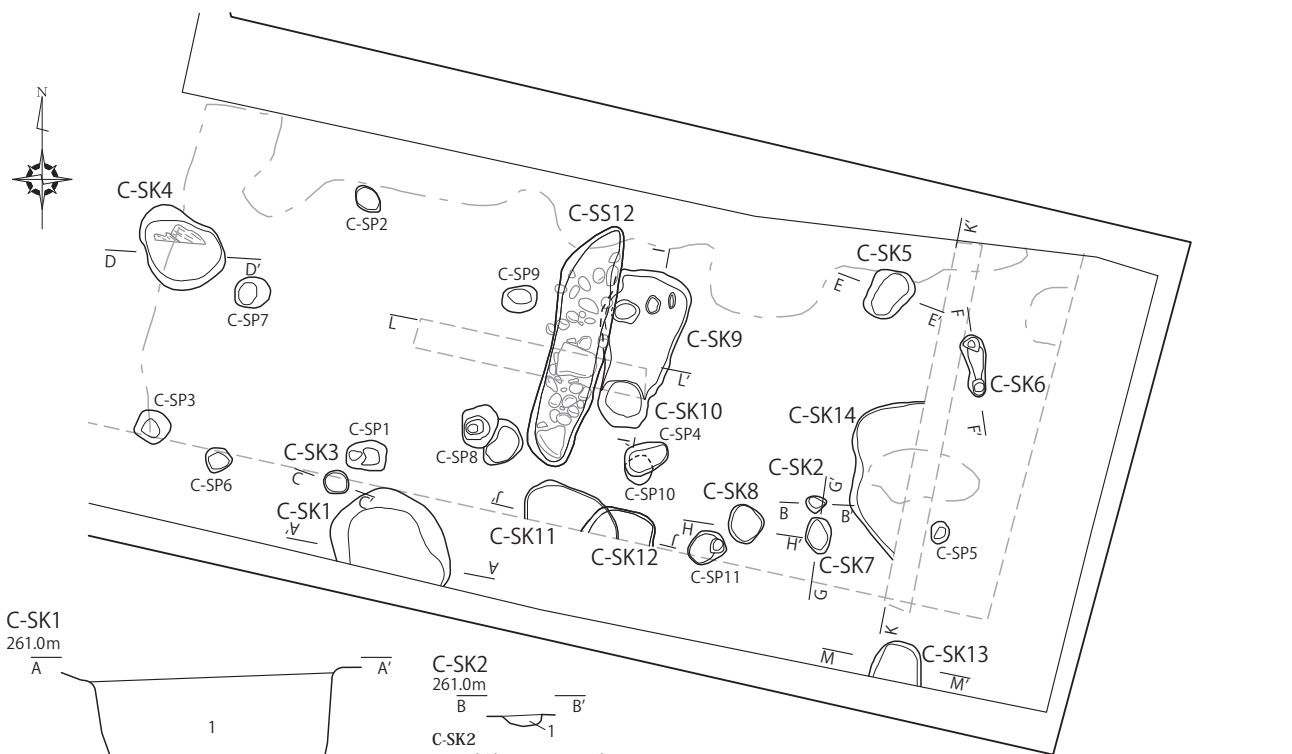
B-SS6
261.7m



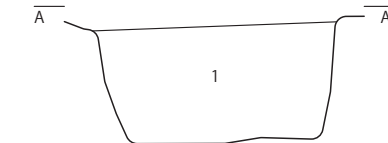
B-SS7
261.6m



第149図 B地点(6)



C-SK1
261.0m



C-SK1
1 黒色 (7.5Y3/1) シルトに黒色 (1.5N) シルトが斑に混じる 縮まりゆるい 粘性強い

C-SK3
261.0m



C-SK3
1 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト
焼土粒・炭化物が混じる
縮まりゆるい

C-SK7
261.0m



C-SK7
1 暗オリーブ褐色 (3.5Y3/3) シルト
砂利・炭化物が混じる
縮まりゆるい

C-SK8
261.0m



C-SK8
1 オリーブ黒 (5Y3/2) シルト
砂利・炭化物が混じる
縮まりゆるい

C-SK2
261.0m



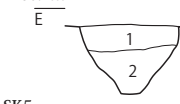
C-SK2
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
炭化物が微量に混じる

C-SK4
260.8m



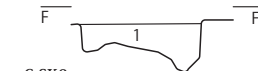
C-SK4
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂
木片・炭化物・砂利が混じる
2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト
白色粒が微量に混じる
3 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルトに
黒色 (7.5Y2/1) シルトブロックが
斑に混じる

C-SK5
260.7m



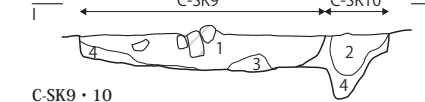
C-SK5
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
炭化物・白色粒が多量に混じる
泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり
2 黒褐色 (2.5YR3/1) 砂質シルト
炭化物・白色粒が微量に混じる

C-SK6
260.9m



C-SK6
1 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト
炭化物が多量に混じる
泥岩粒が微量に混じる
縮まりゆるい

C-SK9・SK10
261.0m

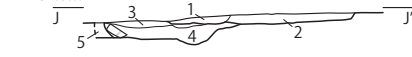


C-SK9・10
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂にオリーブ黒色 (5Y3/1)
シルトブロックが混じる
炭化物・白色粒が混じる 縮まりゆるい
2 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる
3 黒色 (7.5Y2/1) シルト 砂が混じる 縮まりゆるい
4 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる

C-SK13
261.0m

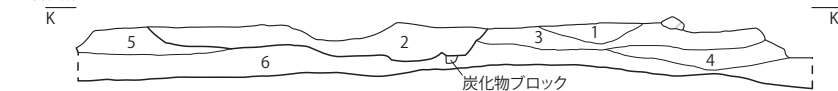


C-SK11・12
261.0m



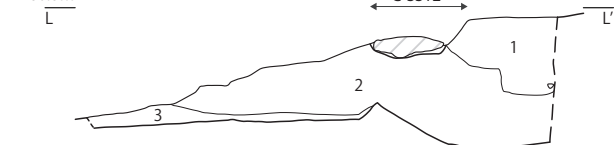
C-SK11・12
1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・白色粒が混じる SK11 覆土
2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
炭化物・白色粒が混じる SK11 覆土
3 炭層 SK12 覆土
4 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 砂が混じる
炭化物が極微量に混じる 縮まりゆるい SK12 覆土
5 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる 地山

C-トレンチ2
260.7m

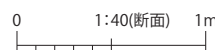
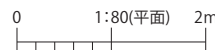


C-トレンチ2
1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト 炭化物・砂利が多量に混じる 縮まりあり
2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト 炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり SK14 覆土
3 炭層
4 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒・雲母が極微量に混じる
5 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 泥岩粒が微量に混じる 炭化物・白色粒・雲母が極微量に混じる 縮まりあり
6 黒色 (5Y2/1) シルト 泥岩粒が微量に混じる 炭化物・白色粒・雲母が極微量に混じる 縮まりあり

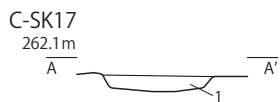
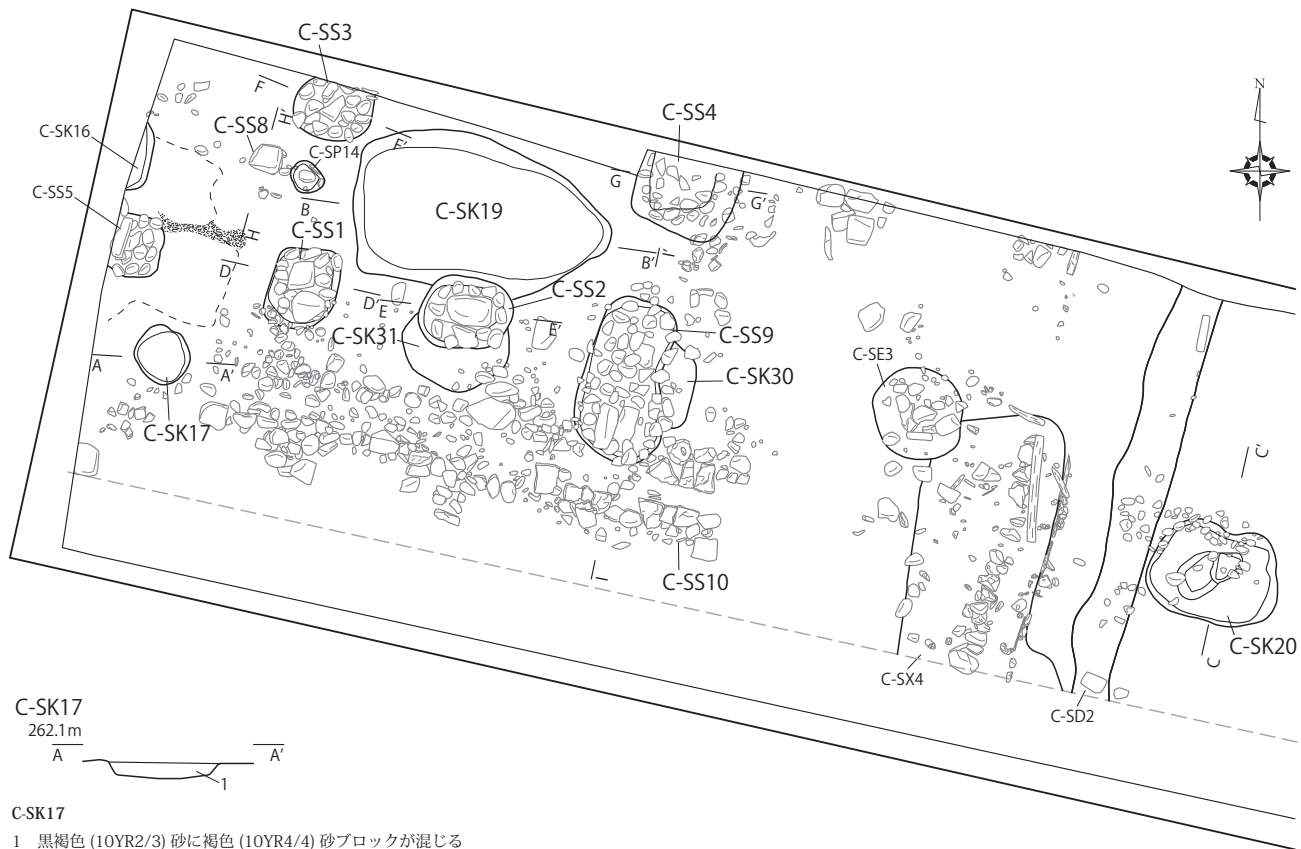
C-トレンチ3
260.6m



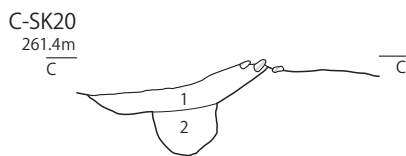
C-トレンチ3
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒が混じる
泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり
2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が混じる
縮まりゆるい
3 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる



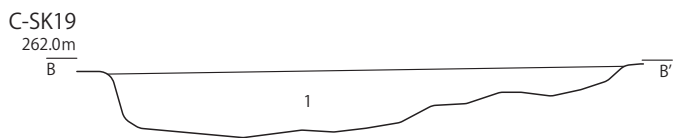
第150図 C地点 (1)



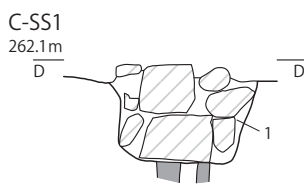
C-SK17
1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂ブロックが混じる
焼土ブロック・炭化物が多量に混じる 縮まりあり



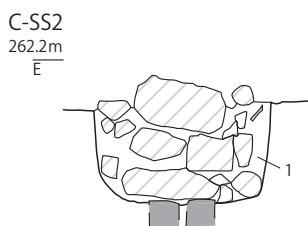
C-SK20
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 砂粒が微量に混じる
炭化物が極微量に混じる
2 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる



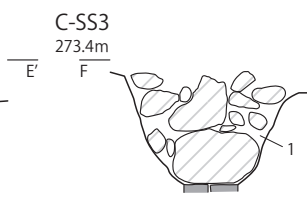
C-SK19
1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土・炭化物が多量に堆積する



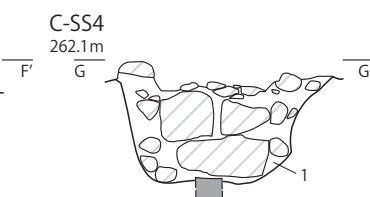
C-SS1
1 褐色 (7.5YR4/3) 砂
炭化物・焼土粒が微量に混じる



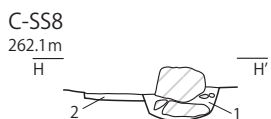
C-SS2
1 褐色 (7.5YR4/3) 砂
炭化物・焼土粒が微量に混じる



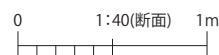
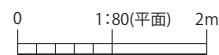
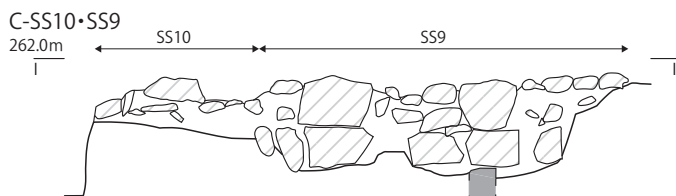
C-SS3
1 暗褐色 (7.5YR3/3) 砂
炭化物・焼土粒が微量に混じる



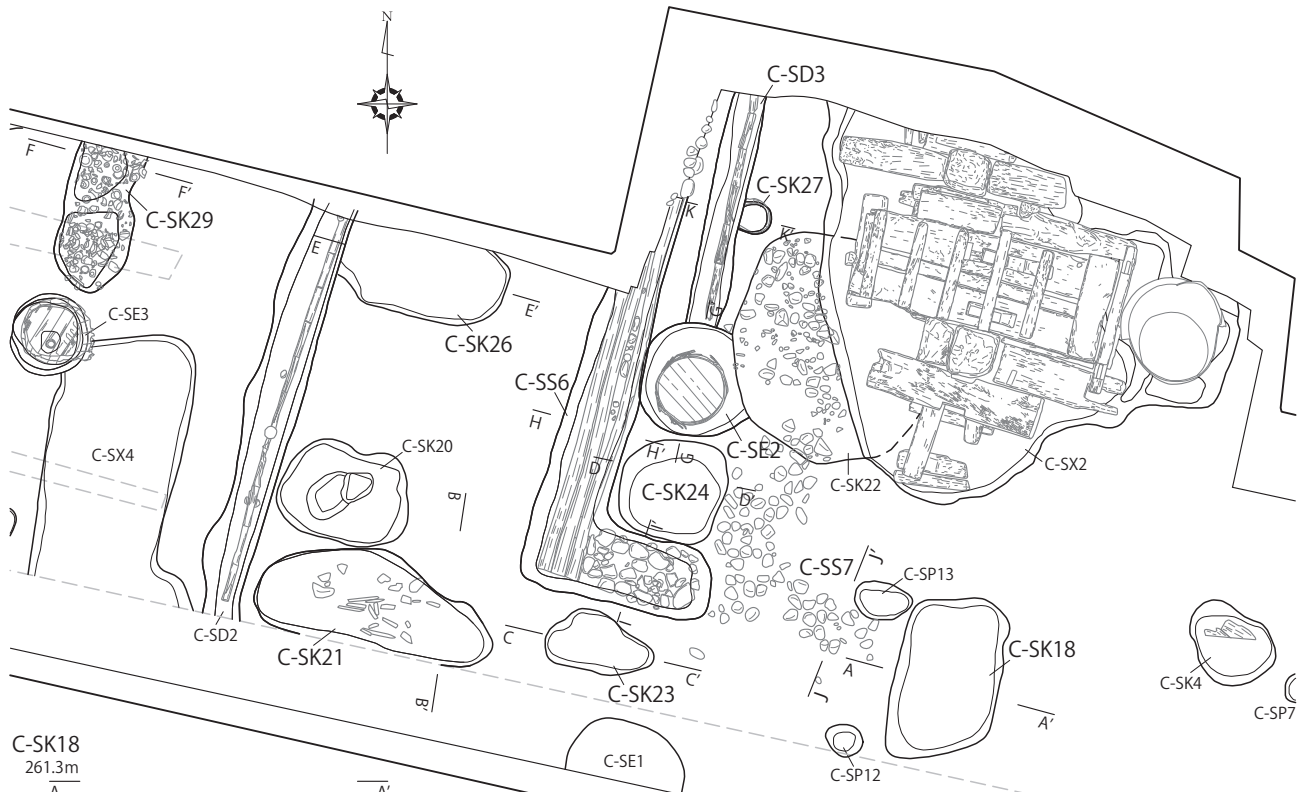
C-SS4
1 暗褐色 (7.5YR3/3) 砂
炭化物・焼土粒が微量に混じる



C-SS8
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂
炭化物・焼土粒が混じる
2 黒褐色 (10YR2/3) 砂
炭化物・焼土粒が多量に混じる



第151図 C地点 (2)



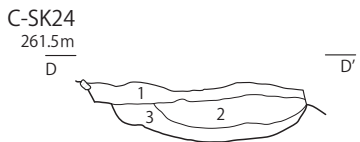
C-SK18
261.3m
A A'

1 黒色 (2.5Y2/1) 砂 木片・石が混じる
縮まりゆるい



C-SK23
261.3m
C C'

1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト
炭化物・砂利が混じる 縮まりゆるい

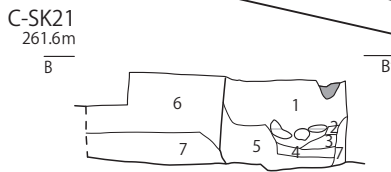


C-SK24
261.5m
D D'

1 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂 炭化粒・白色粒が
微量に混じる 下層に炭化物が帯状に堆積する
縮まりあり

2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂 炭化物・白色粒が
極微量に混じる 縮まりあり

3 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト 炭化物・
白色粒が極微量に混じる 縮まりあり



C-SK21
261.6m
B B'

1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土ブロック・木片が多量に混じる 縮まりゆるい

2 黒褐色 (10YR2/3) 粗粒砂 炭化物・焼土粒が多量に混じる 縮まりゆるい

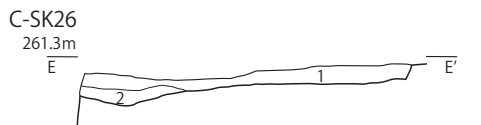
3 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりゆるい

4 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりゆるい

5 黒色 (10YR2/1) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が混じる 縮まりゆるい

6 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂 白色粒が極微量に混じる

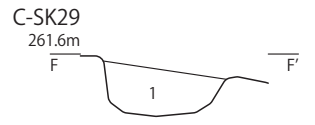
7 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい



C-SK26
261.3m
E E'

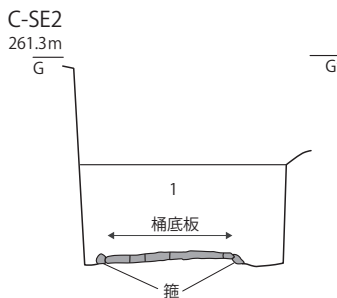
1 オリーブ黒色 (2.5Y3/2) 砂に黒色 (2.5Y2/1) シルトブロックが
斑に混じる 縮まりゆるい

2 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂 縮まりゆるい



C-SK29
261.6m
F F'

1 多量の磁器片・陶器片が堆積する



C-SE2
261.3m
G G'

1 オリーブ黒 (5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・砂利が混じる 縮まりゆるい



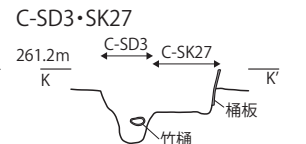
C-SS6
261.3m
I I'



C-SS7
273.4m
J J'

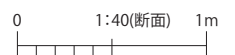
1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂
炭化物・砂利が微量に混じる
縮まりあり

2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂
砂利が微量に混じる 縮まりあり

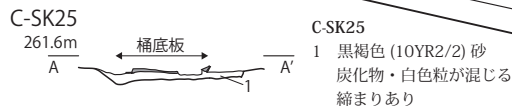
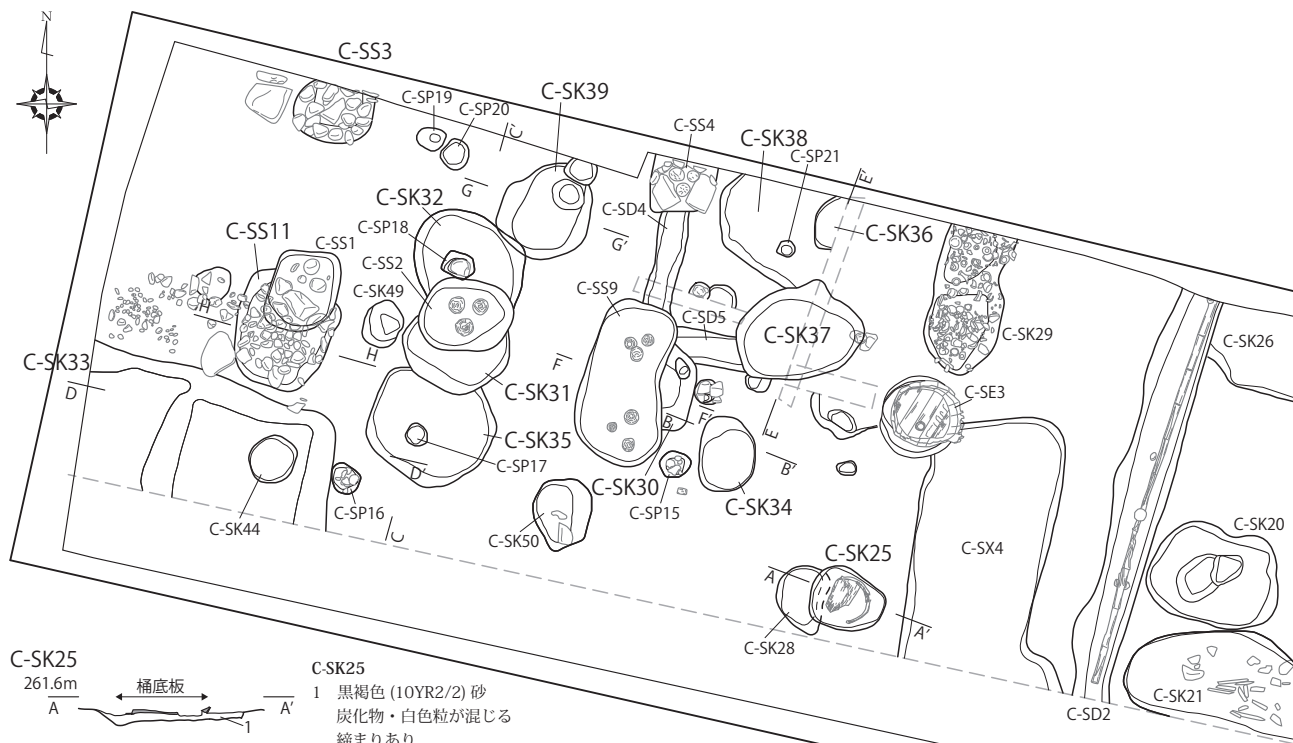


C-SD3・SK27
261.2m
K K'

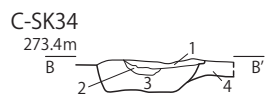
桶底板
竹桶



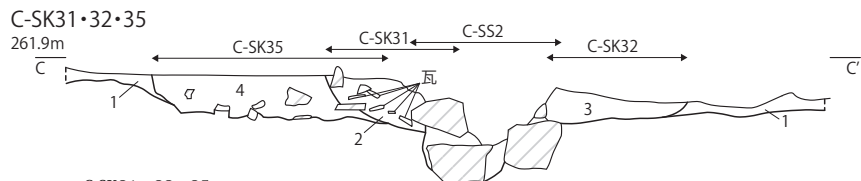
第152図 C地点 (3)



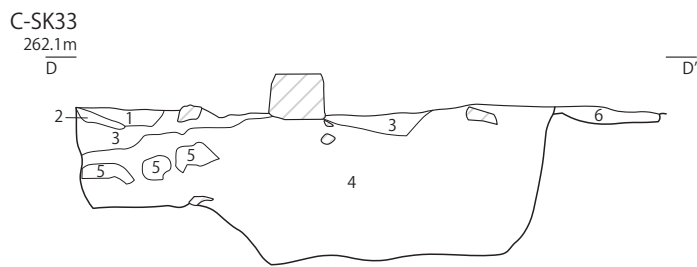
C-SK25
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂
炭化物・白色粒が混じる
締まりあり



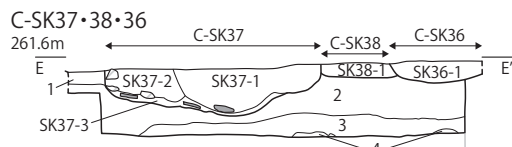
C-SK34
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・砂利・焼土粒が混じる
2 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘土に黒褐色 (10YR3/2) 砂が混じる
締まりゆるい
3 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 粘土 焼土粒・炭が混じる
4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物・砂利が混じる



C-SK31・32・35
1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる 締まりゆるい
2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土ブロック・炭化物ブロックが多量に混じる 締まりゆるい SK31 覆土
3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる 締まりあり SK32 覆土
4 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が混じる 締まりあり SK35 覆土

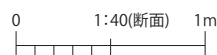
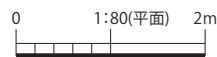


C-SK33
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土ブロックが混じる
締まりゆるい
2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 にぶい黄褐色 (10YR6/3) 砂が混じる
炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
3 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる
4 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物ブロック・焼土ブロックが多量に混じる
5 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる
締まりゆるい
6 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる
締まりゆるい

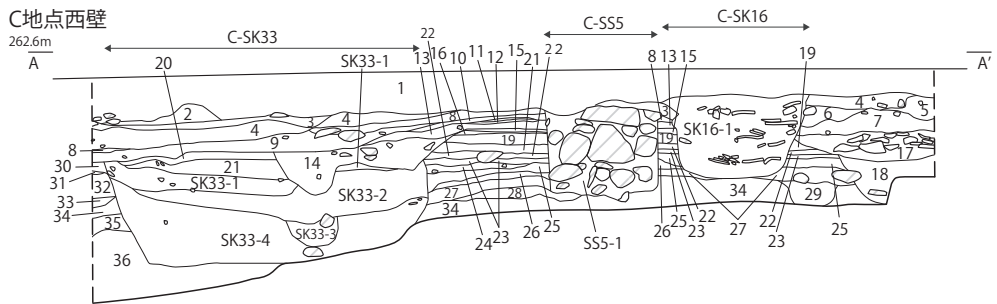
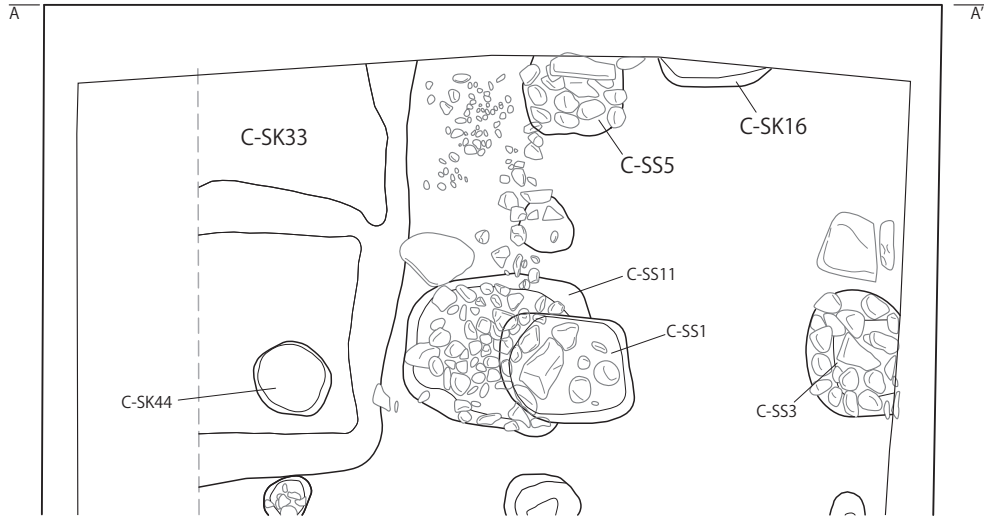


C-SK37
SK37-1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・木片・砂利が混じる
締まりゆるい
SK37-2 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂に黒褐色 (2.5Y3/2) 砂が斑に混じる
炭化物・砂利が微量に混じる
SK37-3 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・木片が混じる
締まりゆるい

C-SK36
SK36-1 黒褐色 (10YR2/2) 砂に黄色 (2.5Y8/8) 砂が混じる
炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
C-SK38
SK38-1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・木片・砂利が混じる
締まりあり
1 褐色 (10YR4/4) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
2 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 白色粒が微量に混じる 締まりあり
3 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粗粒砂
4 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト 締まりゆるい



第153図 C地点 (4)



C地点西壁

- 1 表土・碎石層
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂 縮まりあり
- 3 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粗粒砂
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂にオリブ褐色 (2.5Y4/4) 砂ブロックが混じる
焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり
- 5 炭化物が堆積する
- 6 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる
- 7 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる
- 8 暗褐色砂 (2.5Y3/2) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒・砂利が多量に混じる 縮まりあり
- 9 暗オリブ褐色 (2.5Y3/2) 砂に黒褐色 (10YR3/2) シルトブロックが混じる
焼土ブロック・炭化物ブロックが混じる 縮まりあり
- 10 黒褐色 (10YR3/1) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 11 焼土ブロック・炭化物が帯状に堆積する
- 12 黒色 (10YR2/1) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 13 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土ブロック・炭化物ブロックが多量に混じる 縮まりあり
- 14 黒褐色 (10YR3/1) 砂 焼土ブロック・炭化物ブロックが混じる
- 15 黒褐色 (10YR3/1) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 16 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 17 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土ブロック・炭化物・瓦片が多量に堆積している
- 18 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒・炭化物が混じる
- 19 黒褐色 (10YR3/1) 砂 焼土ブロック・炭化物ブロックが多量に混じる 縮まりあり
- 20 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる
- 21 焼土ブロック・炭化物ブロックが多量に堆積する
- 22 黒褐色 (10YR3/1) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 23 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 24 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 5 cm の石が混じる 焼土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 25 黒褐色 (10YR3/2) 砂に浅黄褐色 (10YR8/4) 砂が混じる
焼土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 26 浅黄褐色 (10YR8/4) 砂 砂利が混じる
- 27 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 28 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黄褐色 (10YR5/6) 砂が混じる 白色粒が極微量に混じる
- 29 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 30 暗褐色砂 (10YR3/3) 砂 炭化物が極微量に混じる 縮まりあり
- 31 炭化物が帯状に堆積する
- 32 暗褐色 (10YR3/3) 砂に黒褐色 (2.5Y3/2) シルトブロックが斑に混じる
炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりあり
- 33 暗オリブ褐色 (2.5Y3/3) 砂に黒褐色 (2.5Y3/1) が斑に混じる 炭化物が微量に混じる 縮まりあり
- 34 暗褐色 (10YR3/4) 砂 砂利が微量に混じる。炭化物・泥岩粒が極微量に混じる
- 35 暗オリブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 36 オリブ黒色 (7.5Y3/1) シルト 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる

C-SK16

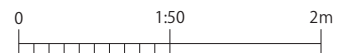
SK16-1 焼土ブロック・炭化物・瓦片が多量に堆積する

C-SK33

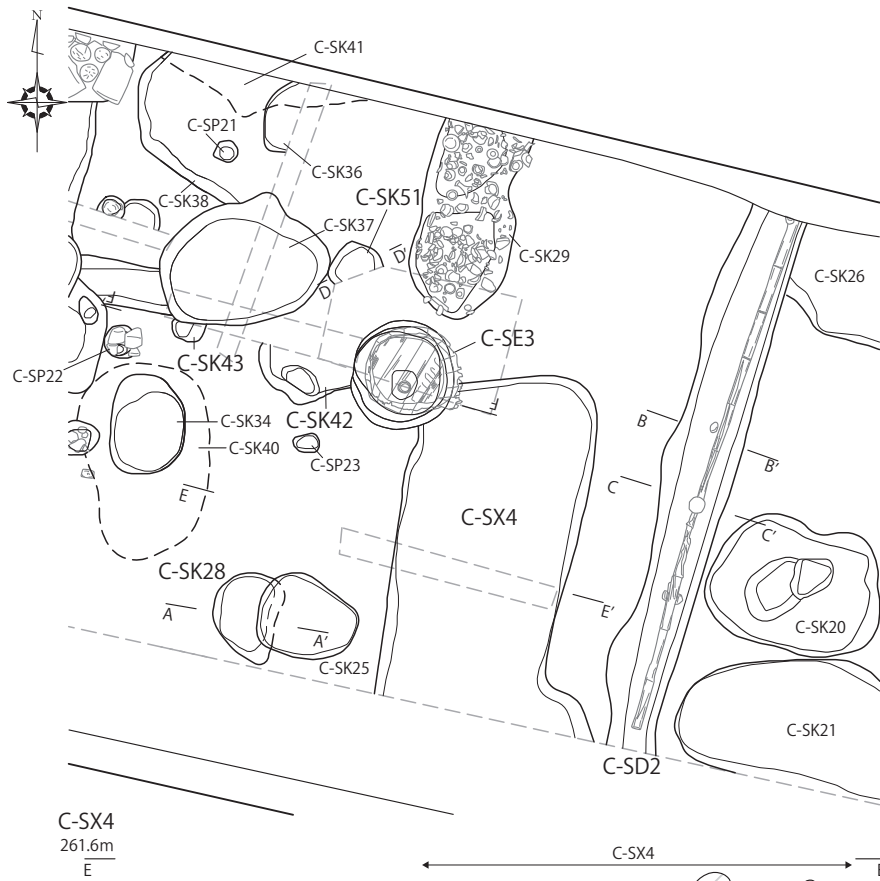
- SK33-1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒・炭化物が混じる 縮まりゆるい
- SK33-2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土ブロック・炭化物ブロックが混じる
- SK33-3 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 10 cm の石・焼土ブロック・炭化物が混じる
- SK33-4 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物ブロック・焼土ブロックが多量に堆積する

C-SS5

SS5-1 褐色砂 (7.5YR4/3) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる



第154図 C地点 (5)



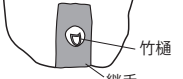
C-SK28
261.5m
A A'

C-SK28
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
炭化物・焼土粒が極微量に混じる
砂利が混じる

C-SD2
261.4m
B B'

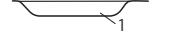


C-SD2
261.3m
C C'



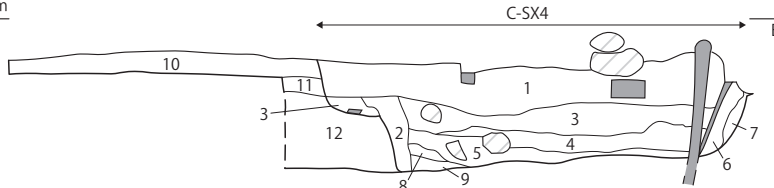
C-SD1
1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂に 黒色 (2.5Y2/1)
シルトブロックが混じる
炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる
締まりゆるい

C-SK51
261.4m
D D'



C-SK51
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
炭化物が極微量に混じる 砂利が混じる

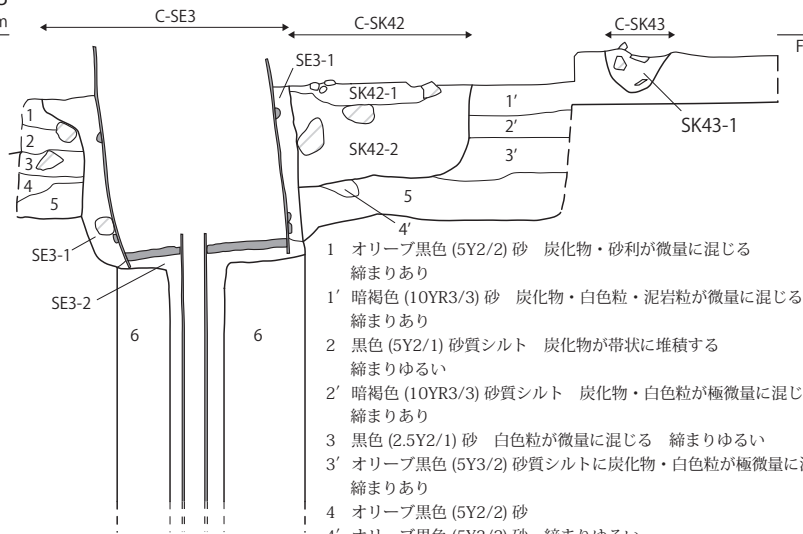
C-SX4
261.6m
E E'



C-SX4

- | | |
|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 1 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂 炭化物・砂利・木片が混じる 締まりあり | 7 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 白色粒が極微量に混じる 締まりあり |
| 2 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり | 8 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 |
| 3 1層に似るが含有物が多い 締まりあり | 9 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト |
| 4 炭層 | 10 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 炭化物・砂利が極微量に混じる |
| 5 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり | 11 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり |
| 6 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂に黒褐色 (2.5Y3/2) 砂が混じる
炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり | 12 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり |

C-SE3
261.6m
F F'



C-SE3

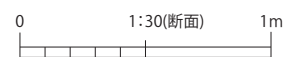
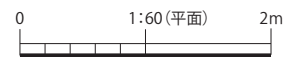
- SE3-1 黒色 (2.5Y2/1) シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる
粘性強い 締まりゆるい
- SE3-2 黒色 (5Y2/1) シルト
上層にオリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂が堆積する
締まりゆるい

C-SK42

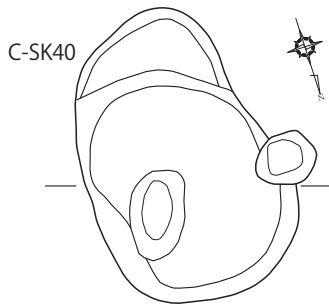
- SK42-1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂
炭化物・白色粒・砂利が微量に混じる
締まりあり
- SK42-2 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・砂利が微量に混じる
締まりゆるい

C-SK43

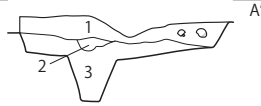
- SK43-1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
炭化物・黄色粒・砂利が混じる
締まりあり



第155図 C地点 (6)



C-SK40
261.6m



C-SK40

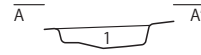
- 1 褐色 (10YR4/4) 砂にふい黄色 (2.5Y6/3) 粘土が斑に混じる 炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり
- 2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂にふい黄色 (2.5Y6/3) 粘土が斑に混じる 縮まりあり
- 3 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト 縮まりあり

C-SK44



C-SK44

261.1m



C-SK44

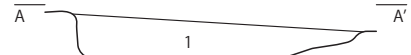
- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりあり

C-SK45



C-SK45

261.4m



C-SK45

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) にオリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルトが斑に混じる 泥岩粒が微量に混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい

C-SK46



C-SK46

261.4m



C-SK46

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黒褐色 (2.5Y3/2) シルトブロックが混じる 炭化物・白色粒が微量に混じる

C-SK48・SK47



C-SK48・SK47

261.4m



C-SK47・SK48

- SK47-1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 泥岩粒が微量に混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい

SK48-1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト

- 炭化物・白色粒・泥岩粒が微量に混じる 縮まりゆるい

SK48-2 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質シルト

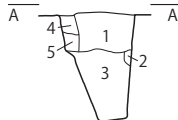
- 炭化物・白色粒が混じる 縮まりゆるい
- 1 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 白色粒が極微量に混じる 縮まりあり

C-SK49



C-SK49

261.4m



C-SK49

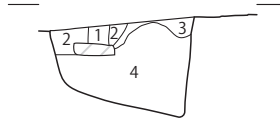
- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・黄色粒・泥岩粒が微量に混じる 縮まりゆるい
- 2 暗褐色 (10YR2/3) 砂 縮まりゆるい
- 3 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 4 褐色 (10YR4/4) 粗粒砂 泥岩粒が微量に混じる 縮まりゆるい
- 5 暗褐色 (10YR3/4) シルト 泥岩粒が微量に混じる 縮まりゆるい

C-SK50



C-SK50

261.4m



C-SK50

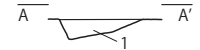
- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂に黒褐色 (2.5Y3/2) シルトブロックが混じる 炭化物・白色粒・泥岩粒が微量に混じる 縮まりゆるい
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂に黒褐色 (2.5Y3/2) シルトブロックが混じる 泥岩粒が微量に混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂に黒褐色 (2.5Y3/2) シルトブロックが斑に混じる 泥岩粒が微量に混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 4 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂に黒褐色 (2.5Y3/1) シルトブロックが斑に混じる 泥岩粒が微量に混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり

C-SX1



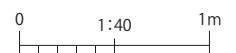
C-SX1

261.7m

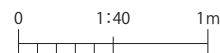
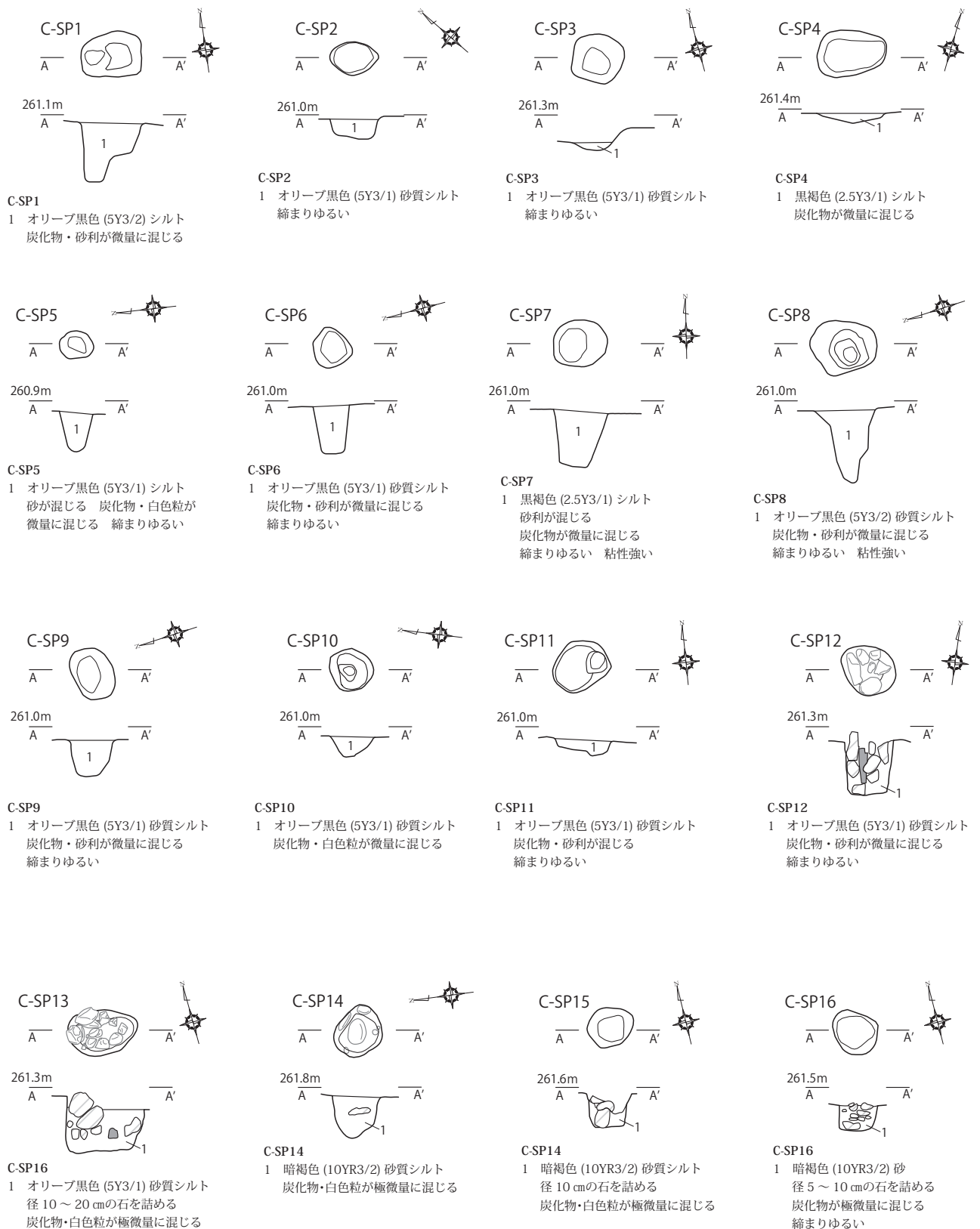


C-SX1

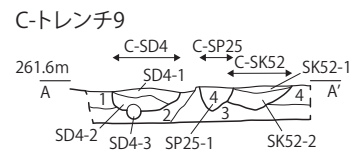
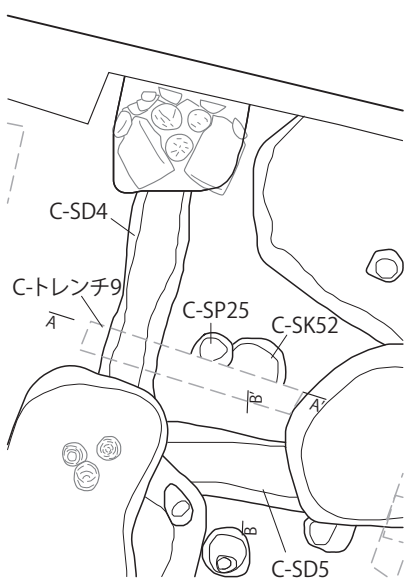
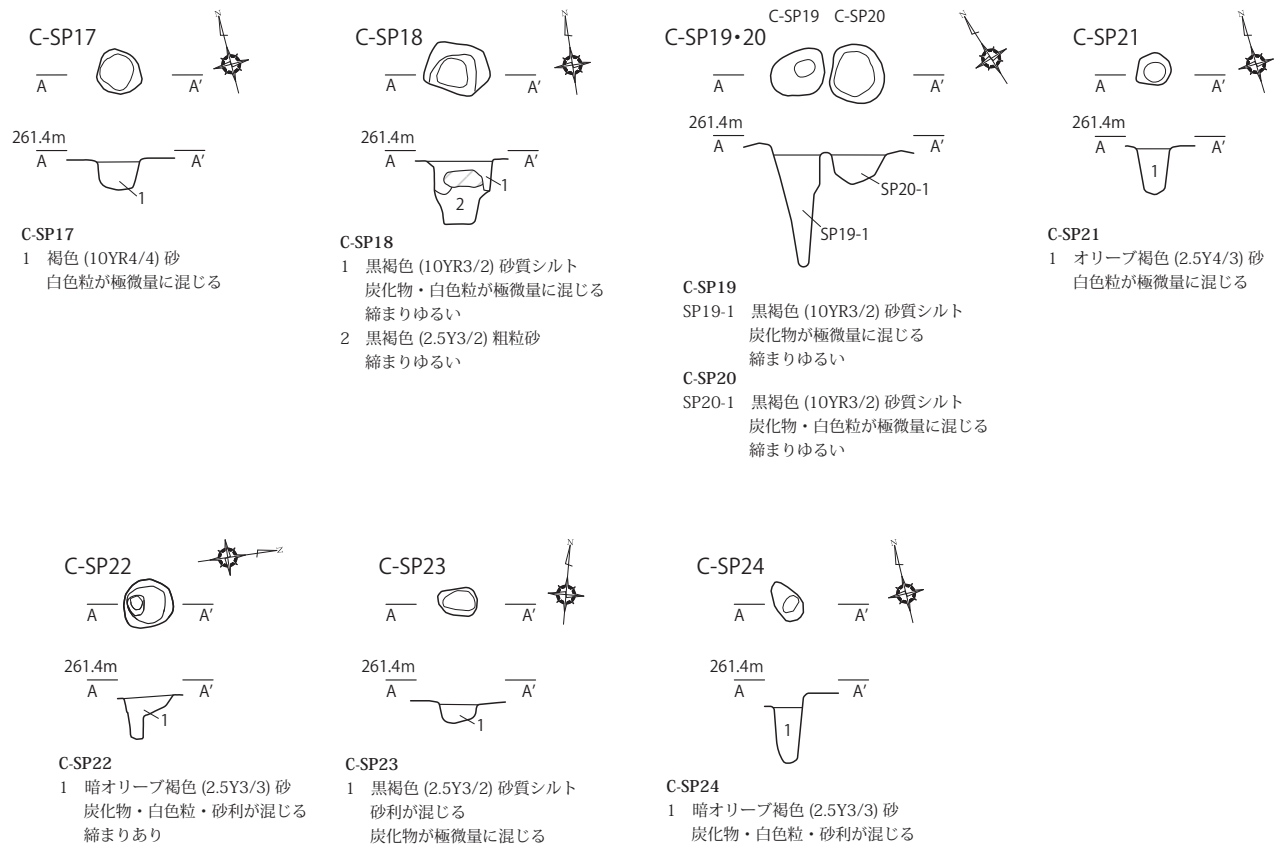
- 1 磁器片が多量に堆積する



第156図 C地点 (7)

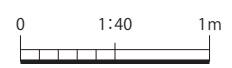


第157図 C地点 (8)

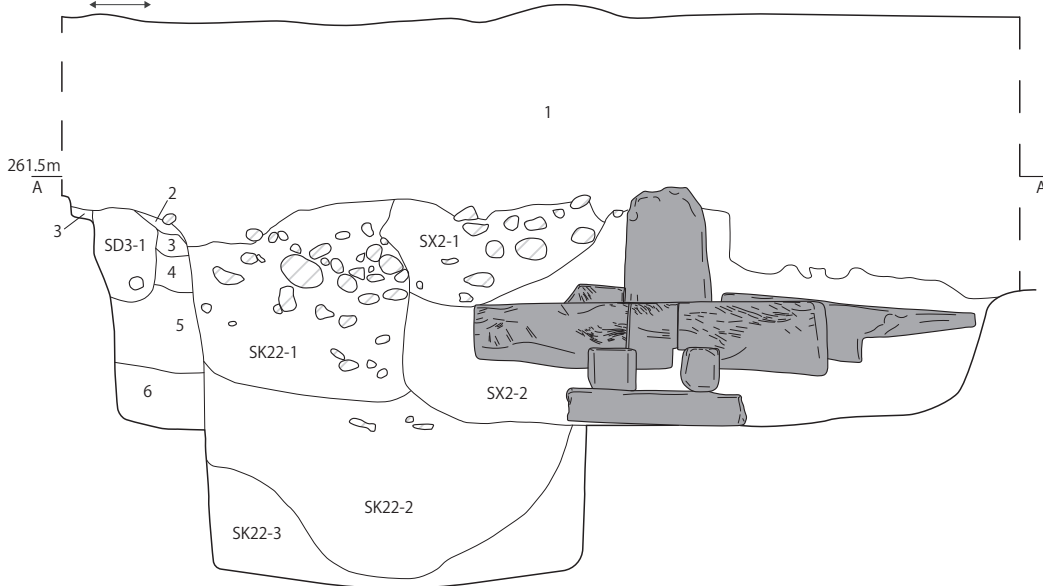
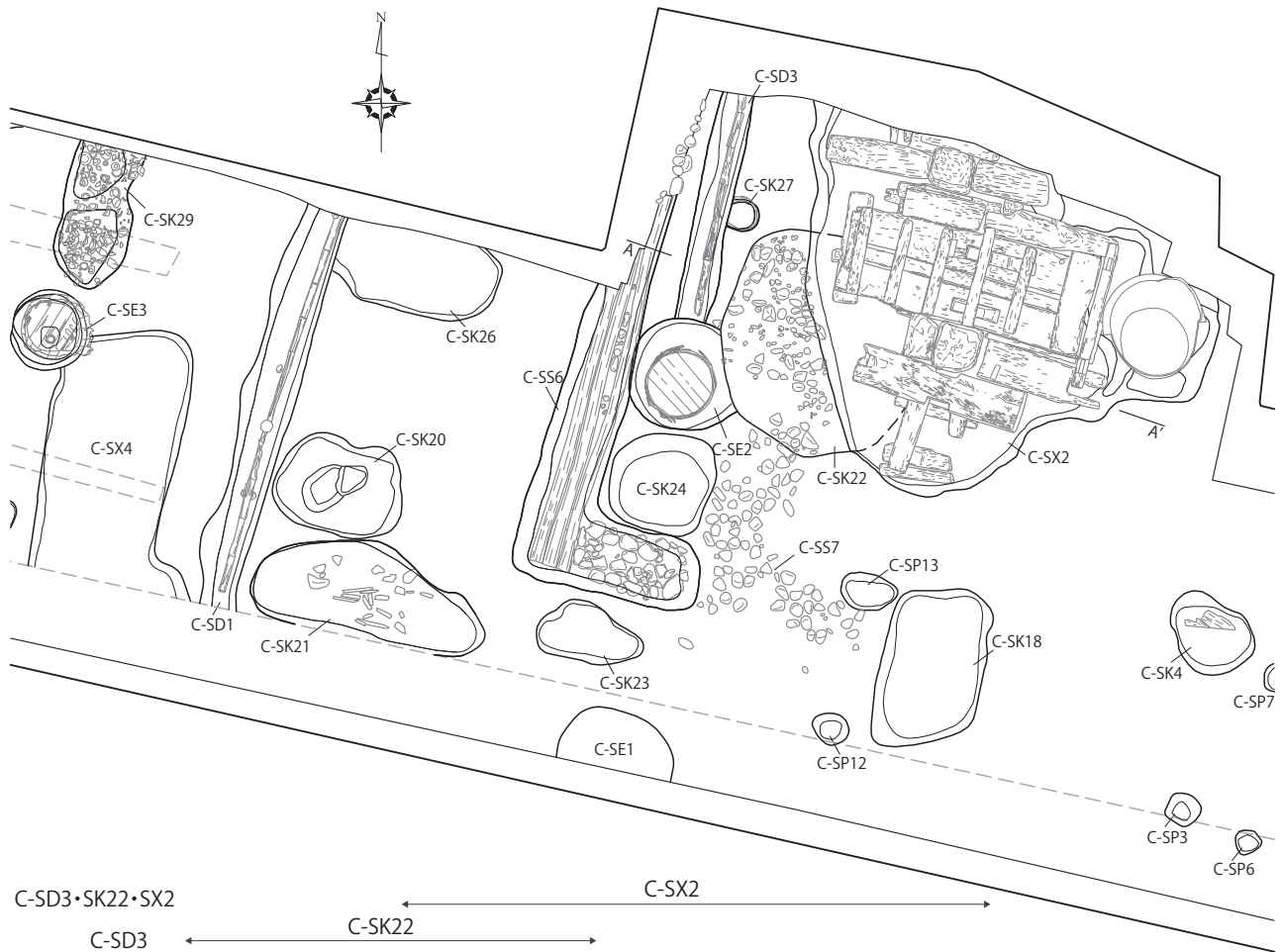


- C-トレンチ9**
- SD4-1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物が多量に混じる
縮まりあり [SD4]
- SD4-2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる
縮まりあり [SD4]
- SD4-3 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト 縮まりゆるい [SD4]
- SP25-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 木杭跡 縮まりゆるい
- SK52-1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物が多量に混じる 縮まりあり
- SK52-2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物が混じる 縮まりあり
- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる
縮まりあり
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる
縮まりあり
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂 白色粒が混じる 縮まりあり
- 4 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 白色粒が極微量に混じる
縮まりあり

- C-SD5**
261.6m
B B'
- C-SD5**
1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂
炭化物・白色粒が微量に混じる
縮まりあり



第158図 C地点 (9)



C-SD3・SK22・SX2

- 1 表土
- 2 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる
- 3 黒褐色(10YR3/1)砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる
- 4 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる
- 5 オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト 白色粒・泥岩粒が極微量に混じる
- 6 黒色(5Y2/1)シルト 白色粒が極微量に混じる

C-SD3

SD3-1 黒色(10YR2/1)砂質シルト 径10cmの竹樋が埋設されている 白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい

C-SK22

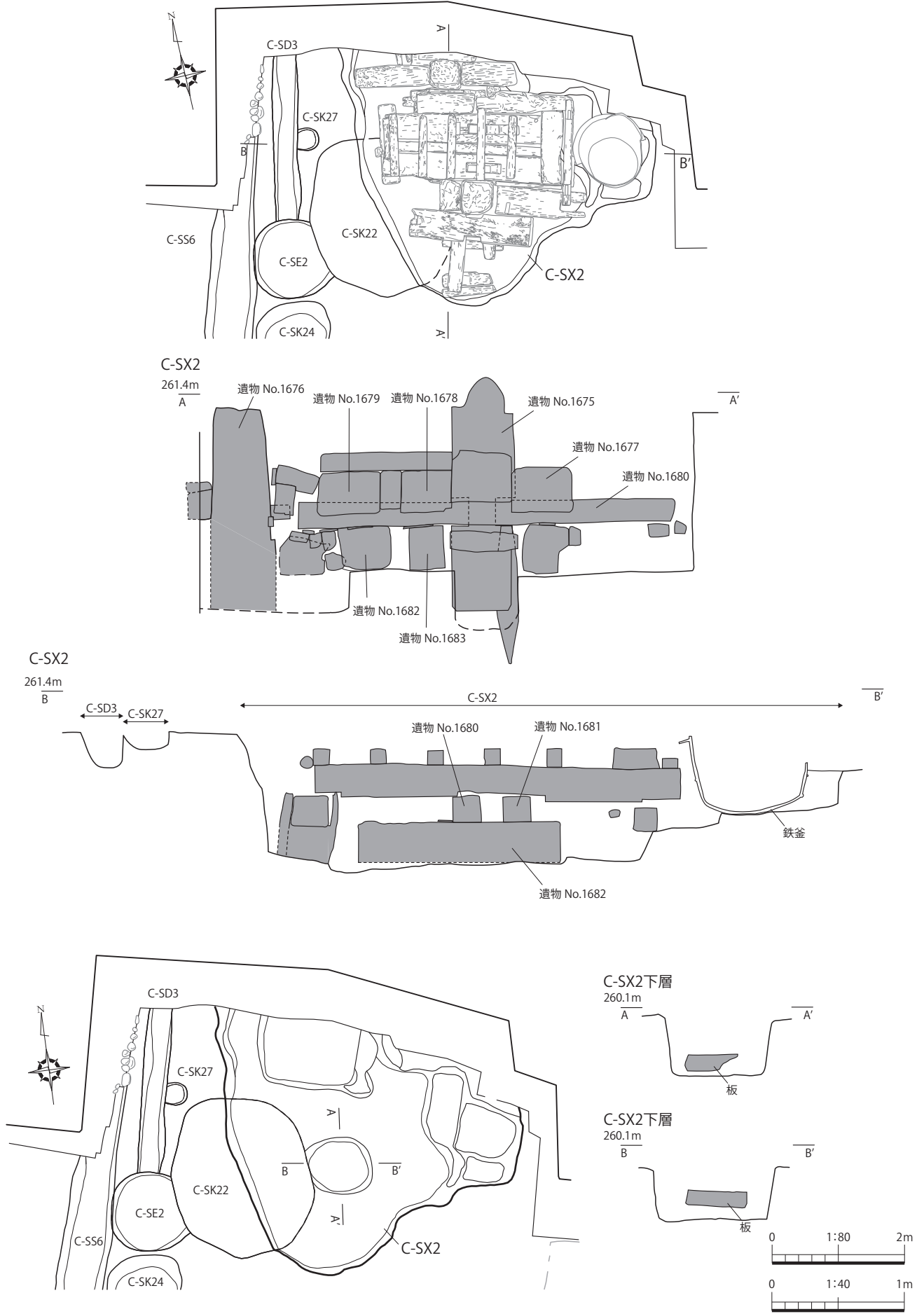
- SK22-1 黒色(5Y2/1)シルトに黒褐色(10YR3/2)砂が混じる 径10~20cmの石が多量に混じる 白色粒・泥岩粒が極微量に混じる 締まりあり
- SK22-2 黒色(5Y2/1)シルトに黒褐色(10YR3/2)砂が混じる 白色粒・泥岩粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- SK22-3 黒色(5Y2/1)シルト 白色粒・泥岩粒が極微量に混じる 締まりゆるい

C-SX2

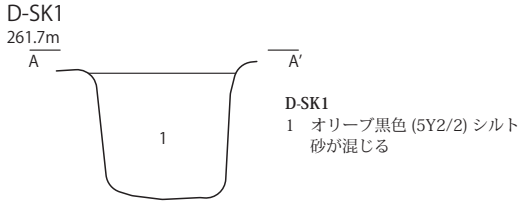
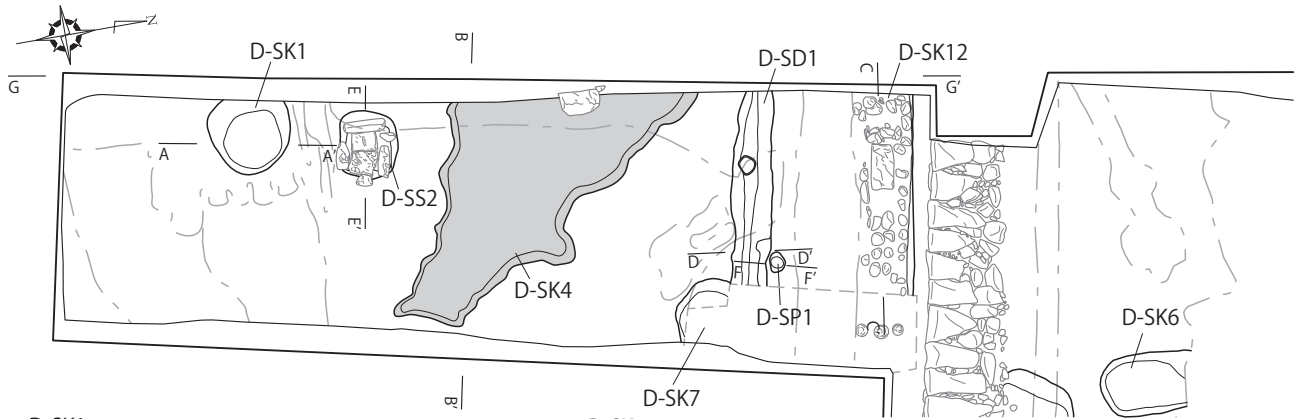
- SX2-1 黒色(5Y2/1)シルトに黒褐色(10YR3/2)砂が混じる 径10~20cmの石が混じる 白色粒・泥岩粒が極微量に混じる 締まりあり
- SX2-2 オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト 白色粒・泥岩粒が極微量に混じる



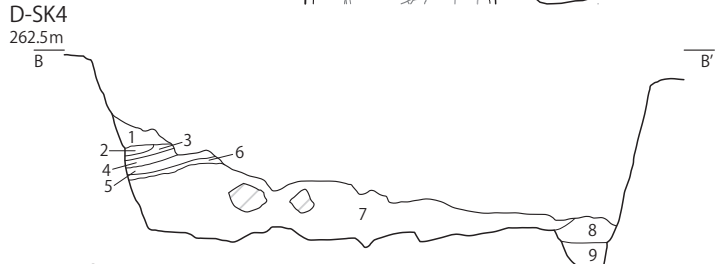
第159図 C地点 (10)



第160図 C地点 (11)



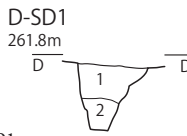
D-SK1
261.7m
1 オリーブ黒色 (5Y2/2) シルト
砂が混じる



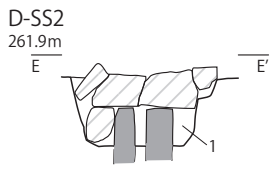
D-SK4
262.5m
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土ブロックが多量に混じる 縮まりあり
2 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・焼土粒が極微量に混じる 縮まりあり
3 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・焼土粒が極微量に混じる 縮まりあり
4 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土ブロックが多量に混じる 縮まりあり
5 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・焼土ブロックが混じる
下層に黒褐色 (10YR2/2) 砂が帯状に堆積する
6 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりあり
7 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土ブロックが多量に堆積する 縮まりあり



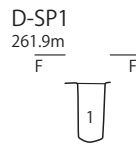
D-SK12
261.9m
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径7~10cmの石をつめる
炭化物・焼土粒が多量に混じる



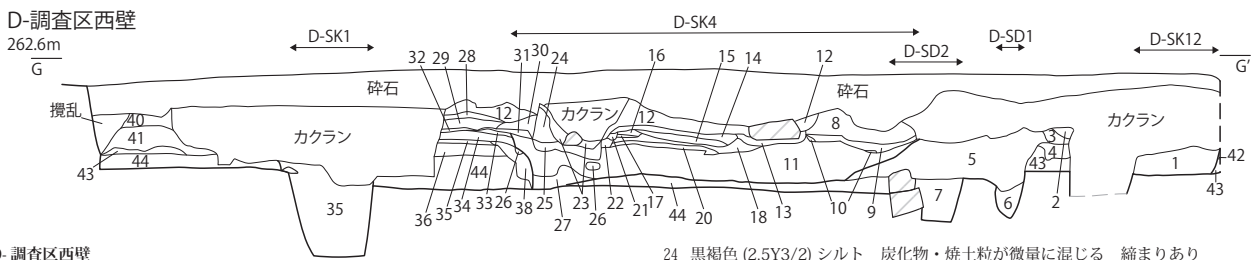
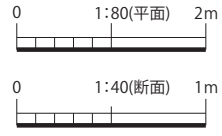
D-SD1
261.8m
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる
縮まりあり
2 オリーブ黒色 (10YR2/2) シルト
炭化物・焼土粒が極微量に混じる
粘性強い 縮まりあり



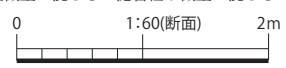
D-SS2
261.9m
1 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・白色粒が微量に混じる



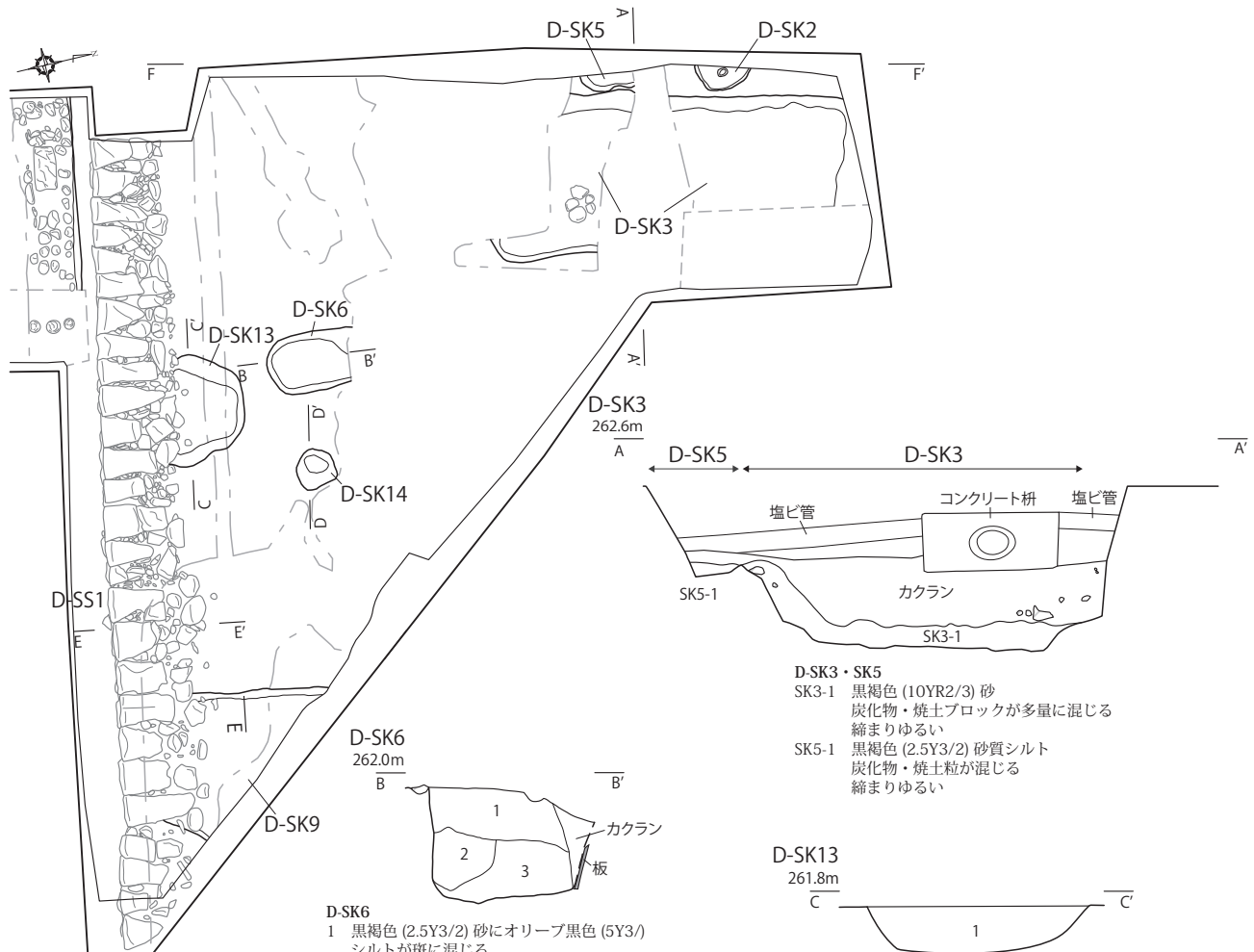
D-SP1
261.9m
1 オリーブ黒色 (5Y3/2) シルトに
暗褐色 (10YR3/3) 砂が混じる
縮まりゆるい 粘性強い



D-調査区西壁
262.6m
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりあり
2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・焼土粒が極微量に混じる 縮まりあり
3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト 縮まりゆるい
4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物が極微量に混じる 縮まりゆるい
5 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
6 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
7 オリーブ黒色 (5Y2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
8 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土ブロックが多量に混じる 縮まりあり
9 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
10 オリーブ黒色 (5Y2/2) シルトブロック 粘性強い 縮まりゆるい
11 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土ブロックが多量に堆積する 縮まりあり
12 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土ブロックが多量に混じる 縮まりあり
13 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりあり
14 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
15 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土ブロックが多量に混じる 縮まりあり
16 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・焼土粒が極微量に混じる 縮まりあり
17 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土ブロックが多量に混じる 縮まりあり
18 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・焼土ブロックが混じる
下層に黒褐色 (10YR2/2) 砂が帯状に堆積する
19 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりあり
20 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりあり
21 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土ブロックが多量に混じる 縮まりあり
22 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
23 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
24 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
25 黒褐色 (2.5Y3/2) シルトに暗褐色 (10YR2/2) 砂が混じる
炭化物・焼土ブロックが微量に混じる 縮まりあり
26 黒褐色 (2.5Y3/2) シルトブロック
27 黒褐色 (2.5Y3/2) シルトに黒褐色 (10YR2/2) 砂が混じる
炭化物・焼土ブロックが混じる 縮まりゆるい
28 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
29 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物が微量に混じる 縮まりあり
30 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
31 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
32 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
33 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 細粒砂
34 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物が極微量に混じる 縮まりあり
35 オリーブ黒色 (5Y2/2) シルト 砂が混じる
36 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト 炭化物が極微量に混じる 縮まりあり
37 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 炭化物が極微量に混じる
泥岩粒が微量に混じる 粘性強い 縮まりゆるい
38 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 炭化物が極微量に混じる
泥岩粒が微量に混じる 粘性強い 縮まりゆるい
39 オリーブ黒色 (5Y3/2) シルト 炭化物・砂利が混じる
40 暗褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物が極微量に混じる 縮まりあり
41 暗褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が極微量に混じる 縮まりあり
42 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 炭化物が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる
43 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 炭化物が極微量に混じる 縮まりゆるい
44 オリーブ黒色 (5Y2/2) シルト 炭化物が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる
粘性強い 縮まりゆるい



第161図 D地点 (1)



D-SK3・SK5
 SK3-1 黒褐色(10YR2/3)砂
 炭化物・焼土ブロックが多量に混じる
 縮まりゆるい
 SK5-1 黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルト
 炭化物・焼土粒が混じる
 縮まりゆるい

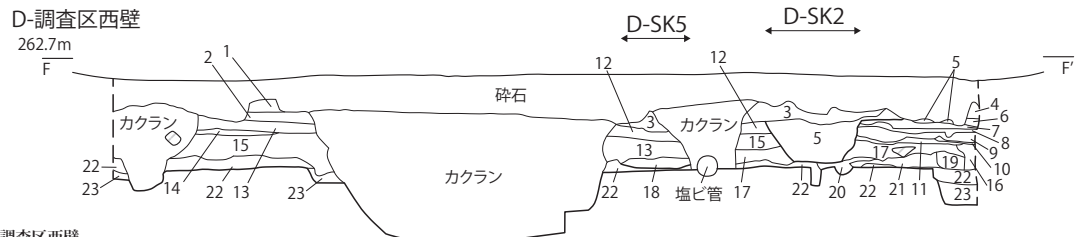
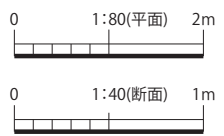
D-SK13
 261.8m
 C
 1 黒褐色(7.5YR3/1)砂質シルト
 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる

D-SK6
 262.0m
 B
 1 黒褐色(2.5Y3/2)砂にオリーブ黒色(5Y3/1)
 シルトが斑に混じる
 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりゆるい
 2 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト
 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりゆるい
 3 2層にオリーブ黒色(5Y3/1)シルトブロックが混じる
 縮まりゆるい

D-SK14
 261.8m
 D
 1

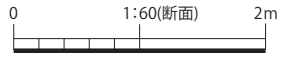
D-SS1
 261.6m
 E
 1 暗褐色(10YR3/2)砂 砂利が混じる 炭化物が微量に混じる 縮まりあり
 2 オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂質シルト 砂利・炭化物が極微量に混じる
 3 オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト 炭化物が極微量に混じる 縮まりゆるい

D-SK14
 1 暗褐色(10YR3/2)砂 炭化物が微量に混じる
 黒褐色(10YR3/2)シルトブロックが斑に混じる
 縮まりあり

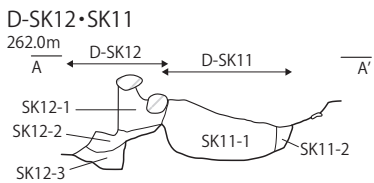
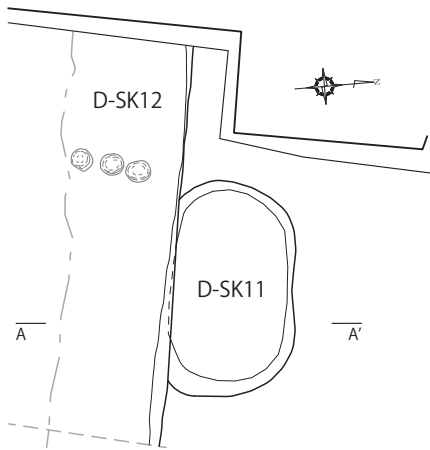
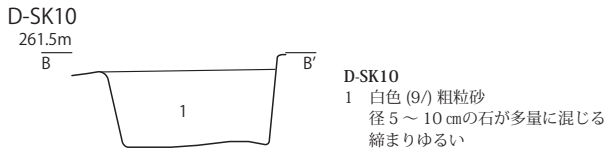
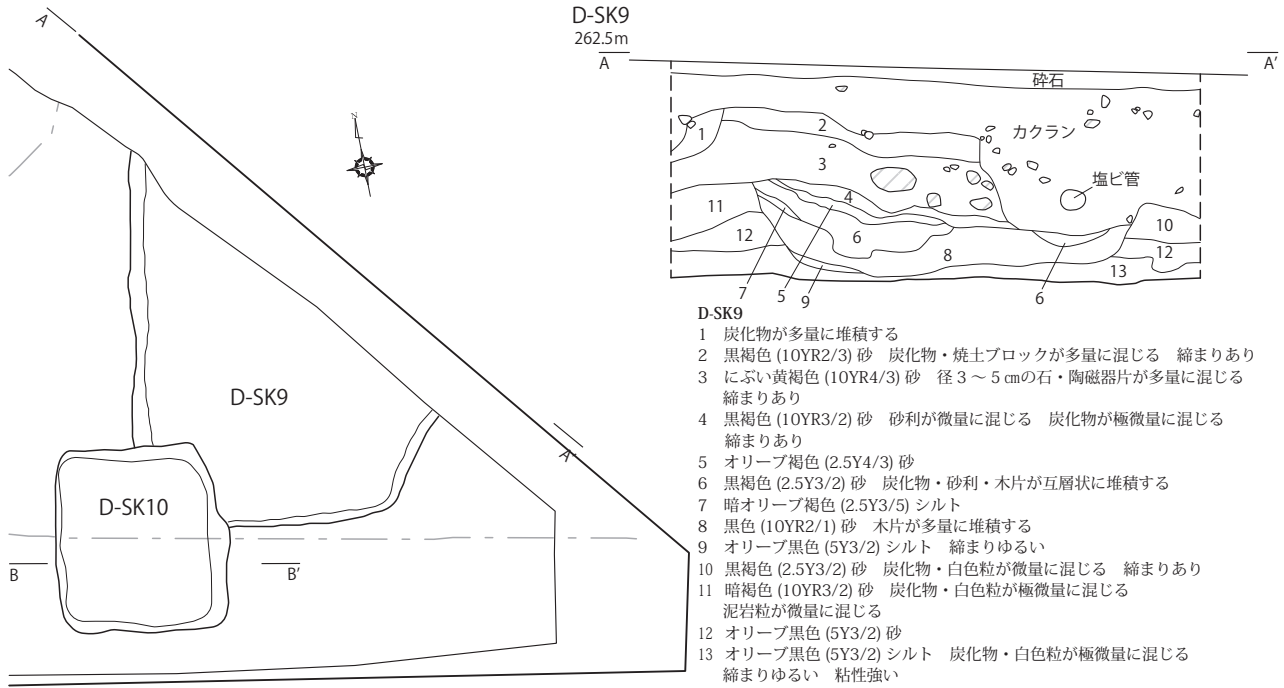


D-調査区西壁
 1 黒色(2.5Y2/1)シルトに暗褐色(10YR3/3)砂が混じる
 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりゆるい
 2 黒色(2.5Y2/1)シルト 縮まりゆるい
 3 黒褐色(10YR3/1)砂 炭化物が極微量に混じる 縮まりあり
 4 にぶい黄褐色(10YR3/2)砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
 5 黒色(2.5Y2/1)シルト 炭化物・砂が混じる 縮まりゆるい
 6 オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
 7 黒褐色(2.5Y3/2)砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
 8 黒褐色(10YR2/2)砂に黒褐色(10YR3/1)シルトブロックが斑に混じる
 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 縮まりあり
 9 黒褐色(10YR3/1)シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる
 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり
 10 暗褐色(10YR3/3)砂 炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる 縮まりあり 遺物包含層
 11 暗褐色(10YR3/3)砂 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりあり
 12 黒褐色(10YR2/3)砂 炭化物・焼土ブロックが帯状に堆積する 縮まりあり

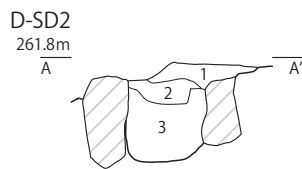
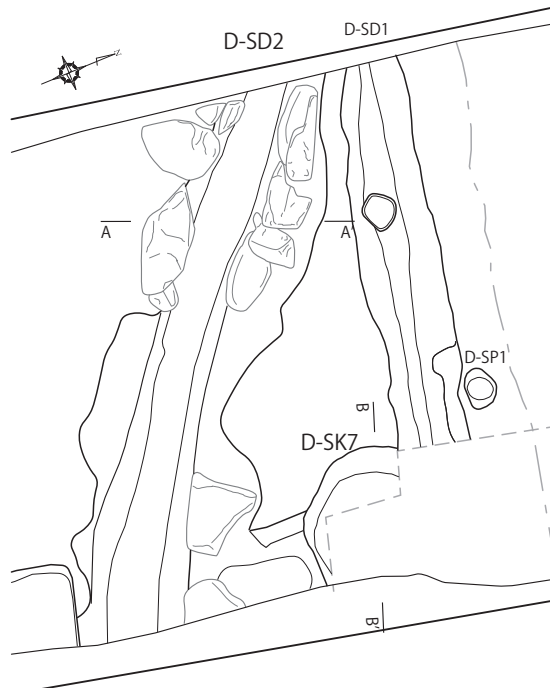
13 黒褐色(2.5Y3/2)シルト 炭化物・焼土ブロックが多量に混じる 縮まりゆるい
 14 黒褐色(10YR2/3)砂 炭化物・焼土粒が帯状に堆積する 縮まりあり
 15 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物・焼土粒が混じる 遺物包含層
 16 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物が微量に混じる 縮まりあり
 17 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 炭化物が微量に混じる
 18 黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりゆるい
 19 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 炭化物・焼土ブロックが微量に混じる
 縮まりゆるい
 20 黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりゆるい
 21 17層に似るが炭化物の含有量が多い
 22 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり
 23 黒褐色(2.5Y3/2)シルト 炭化物が極微量に混じる
 泥岩粒が微量に混じる 粘性強い 縮まりゆるい



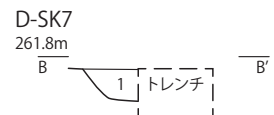
第162図 D地点(2)



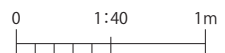
- D-SK11・12**
- SK11-1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 多量の陶磁器片が堆積する
- SK11-2 オリーブ黒色 (5Y3/2) シルト 炭化物・砂利が極微量に混じる 粘性強い 締まりゆるい
- SK12-1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径7~10cmの石を詰める 炭化物・焼土粒が多量に混じる
- SK12-2 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・砂利が極微量に混じる 締まりゆるい
- SK12-3 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト 泥岩粒が微量に混じる



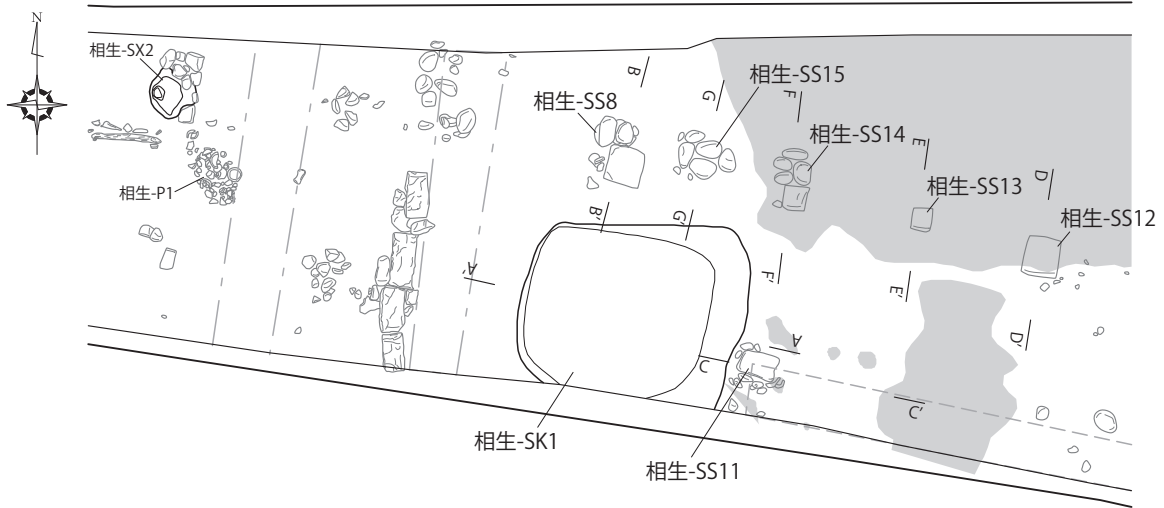
- D-SD2**
- 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が混じる 締まりあり
 - 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂に 黒色 (2.5Y2/1) シルトブロックが混じる 締まりあり
 - オリーブ黒色 (5Y2/2) シルトに 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂が斑に混じる 炭化物が混じる 締まりゆるい



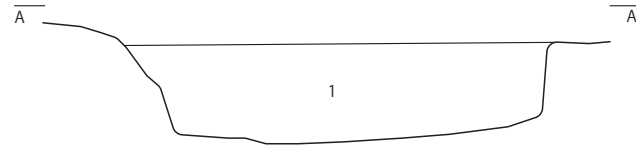
- D-SK7**
- 暗褐色 (10YR3/4) 砂 焼土ブロックが斑に混じる 締まりあり



第163図 D地点 (3)



相生-SK1
262.2m



相生-SK1

- 1 赤褐色 (5YR4/6) 砂 炭化物・焼土ブロックが混じる
瓦片が多量に堆積する 締まりゆるい

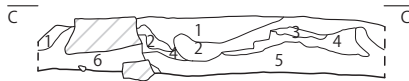
相生-SS8
262.2m



相生-SS8

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる
締まりあり

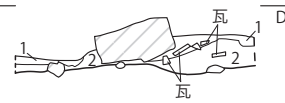
相生-SS11
262.2m



相生-SS11

- 1 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 3 灰白色 (2.5Y8/1) 細粒砂
- 4 褐色 (10YR4/4) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 5 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が極微量に混じる 締まりあり
- 6 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる

相生-SS12
262.2m



相生-SS12

- 1 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂 焼土粒・砂利が微量に混じる
締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる
締まりあり

相生-SS13
262.1m



相生-SS13

- 1 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂 焼土粒・砂利が微量に混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂ににぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂が斑に混じる
炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり

相生-SS14
262.1m



相生-SS14

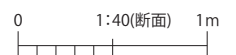
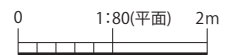
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂ににぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂が斑に混じる
炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる
径 3 cm の石が混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる
締まりあり

相生-SS15
262.0m

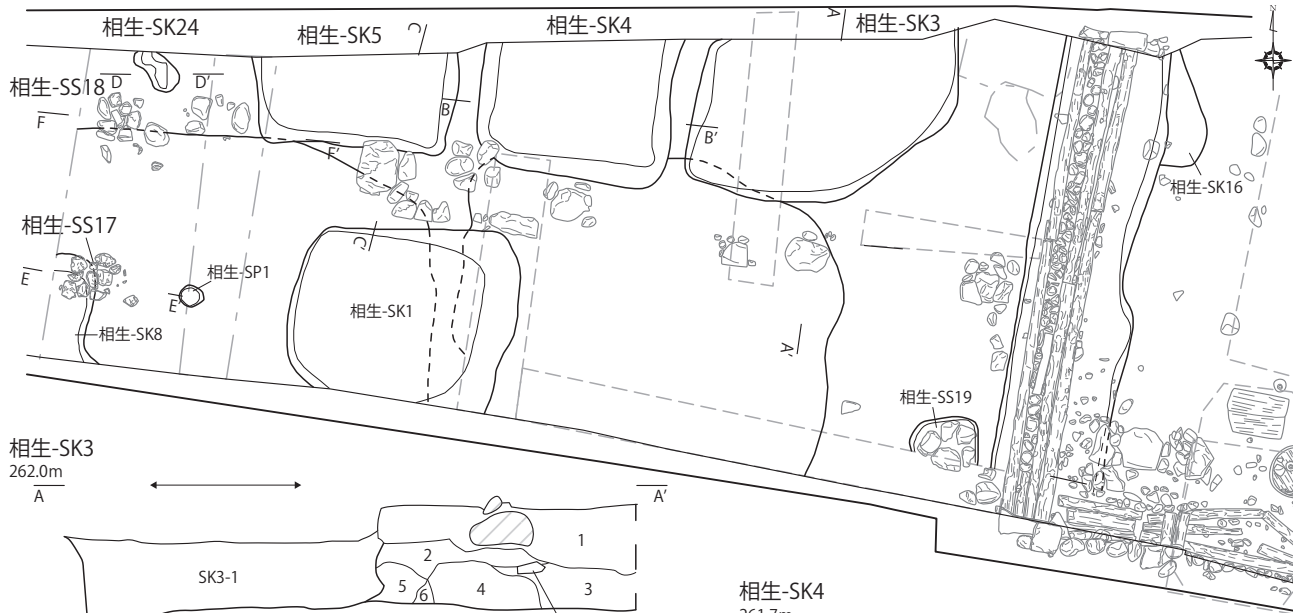


相生-SS15

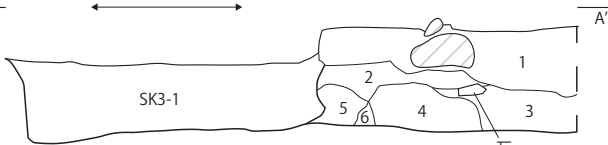
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂に黒色 (10YR2/1) シルトブロックが混じる
炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が多量に混じる
- 4 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 5 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり



第164図 相生工区 (1)



相生-SK3
262.0m



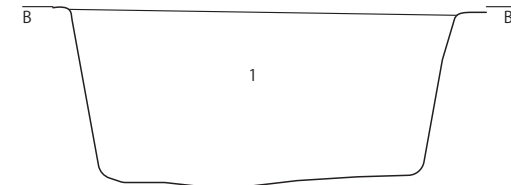
相生-SK3

SK3-1 黒褐色(10YR2/3)砂 炭化物・焼土粒が混じる 瓦片が多量に堆積する 縮まりゆるい

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂に黒褐色(10YR2/3)シルトブロックが混じる 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりゆるい
- 2 黒褐色(10R3/1)砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりゆるい
- 3 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 炭化物・焼土粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 4 黒色(2.5Y2/1)砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 5 黒褐色(2.5Y3/1)シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる
- 6 黒褐色(2.5Y3/1)シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる

相生-SK4

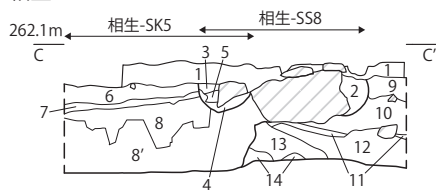
261.7m



相生-SK4

- 1 黒褐色(10YR2/3)砂 炭化物・焼土粒が混じる 瓦片が多量に堆積する 縮まりゆるい

相生-SK5・SS8



相生-SK5・SS8

- 1 暗褐色(10YR3/3)砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
- 2 黒褐色(10YR2/3)砂に黒褐色(10YR2/2)シルトブロックが混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる
- 3 黒色(10YR2/1)シルトに暗褐色(10YR3/3)砂が混じる 縮まりあり
- 4 黒色(10YR2/1)シルト
- 5 2層と同一の層
- 6 黒褐色(10YR2/3)砂に黒色(10YR2/1)シルトブロックが斑に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
- 7 黒色(10YR2/1)シルト 白色粒・焼土粒が微量に混じる
- 8 黒褐色(10YR2/3)砂 炭化物・焼土粒が多量に混じる 下層に瓦片が多量に堆積する 縮まりゆるい
- 8' 多量の瓦片が堆積する
- 9 黒褐色(10YR2/2)シルトに黒褐色(10YR2/3)砂が混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
- 10 黒褐色(10YR2/3)砂 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりあり
- 11 黒色(10YR2/1)シルト
- 12 黒褐色(10YR2/2)砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる
- 13 黒褐色(10YR3/2)シルトに黄褐色(10YR5/7)砂が混じる 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり
- 14 黒色(10YR2/1)シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり

相生-SK24

261.7m

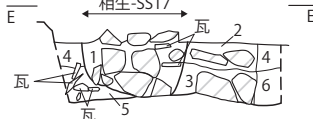


相生-SK24

- 1 暗褐色(10YR3/4)砂 炭化物・砂粒が微量に混じる 縮まりあり

相生-SS17

262.1m

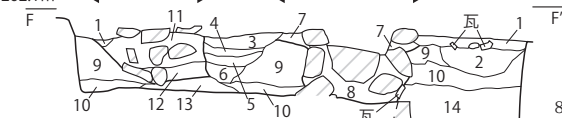


相生-SS17

- 1 黒褐色(10YR2/2)砂 炭化物・白色粒・焼土粒・貝片が混じる 縮まりゆるい
- 2 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 縮まりゆるい
- 3 黒褐色(10YR2/3)砂に暗褐色(10YR3/4)砂ブロックが混じる 炭化物・焼土粒が混じる 縮まりゆるい
- 4 黒褐色(10YR2/3)砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 縮まりあり
- 5 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 瓦片・割石が多量に混じる 縮まりゆるい
- 6 黒褐色(10YR2/3)砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる

相生-SS18

262.1m



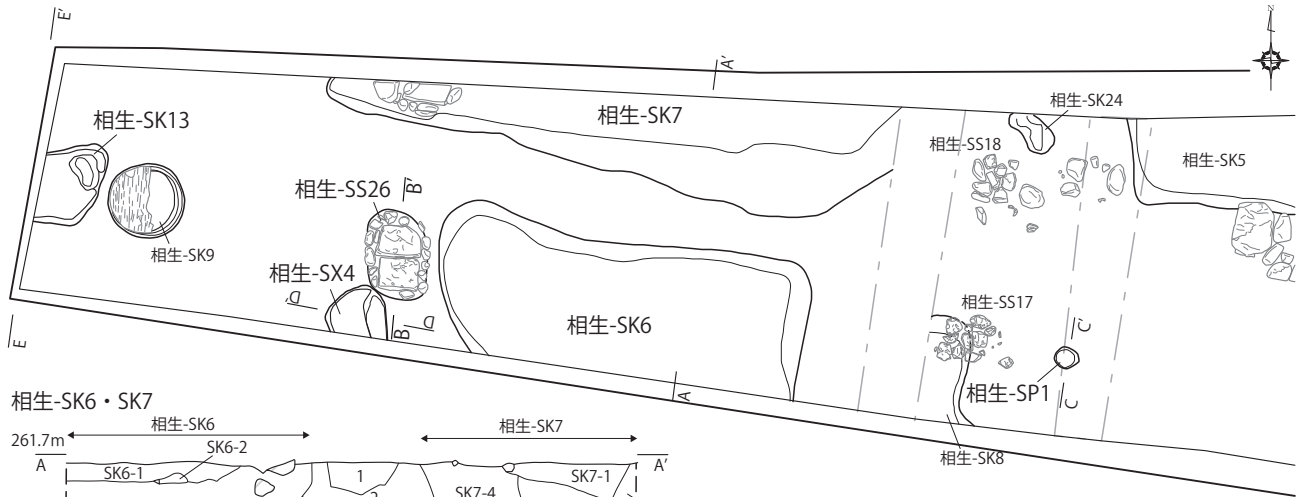
相生-SS18

- 1 褐色(10YR4/4)砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 縮まりあり
- 2 暗褐色(10YR3/4)砂 炭化物・焼土粒が多量に混じる 瓦片が多量に堆積する 縮まりゆるい
- 3 暗褐色(10YR3/3)砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
- 4 黒褐色(10YR2/3)砂に黒褐色(10YR3/1)シルトブロックが混じる 炭化物・焼土粒が混じる
- 5 暗褐色(10YR3/4)砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 貝片が混じる
- 6 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる
- 7 黒色(10YR2/1)シルトに黄褐色(10YR5/6)砂が斑に混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり

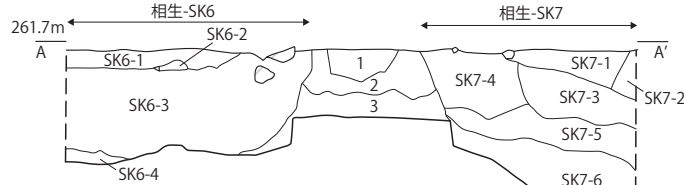
- 8 黒色(10YR2/1)シルトに暗褐色(10YR3/3)砂が混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 9 暗褐色(10YR2/3)砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 縮まりあり
- 10 暗褐色(10YR2/2)砂質シルト 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 縮まりあり
- 11 黒色(10YR2/1)砂に黒褐色(10YR2/3)シルトブロックが混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる
- 12 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり
- 13 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 貝片が混じる 縮まりゆるい
- 14 黒褐色(10YR3/2)シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり



第165図 相生工区(2)



相生-SK6・SK7



相生-SK6

- SK6-1 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい
- SK6-2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物が極微量に混じる 縮まりゆるい
- SK6-3 黒褐色 (10YR2/2) 砂 瓦片・木片・径7~8cmの石が多量に堆積する 縮まりゆるい
- SK6-4 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 砂利が混じる 縮まりゆるい

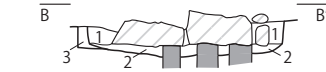
相生-SK7

- SK7-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土ブロックが多量に混じる
- SK7-2 黒褐色 (10YR3/2) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- SK7-3 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒が混じる 泥岩粒が極微量に混じる
- SK7-4 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒・焼土ブロックが混じる 縮まりゆるい
- SK7-5 黒色 (10YR2/1) 砂 木片が混じる 縮まりゆるい
- SK7-6 黒色 (10YR2/1) 砂 木片が多量に混じる 縮まりゆるい

- 1 黒褐色 (10YR3/2) シルトに褐色 (10YR4/4) 砂が斑に混じる 炭化物が微量に混じる 泥岩粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 2 黒褐色 (2.5Y3/2) シルトに暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂が斑に混じる 炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり
- 3 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい

相生-SS26

261.6m



相生-SS26

- 1 黒褐色 (10YR3/1) シルトに暗褐色 (10YR3/3) 砂が混じる 炭化物・砂利が微量に混じる 泥岩粒が極微量に混じる
- 2 黒褐色 (10Y3/2) シルトに暗褐色 (10YR3/4) 砂が混じる 炭化物・白色粒が混じる 泥岩粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 3 黒褐色 (10YR3/2) シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり

相生-SP1

261.6m



相生-SP1

- 1 黒褐色 (2.5Y3/2) シルトに 黒褐色 (10Y2/3) 砂が混じる 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりゆるい

相生-SX4

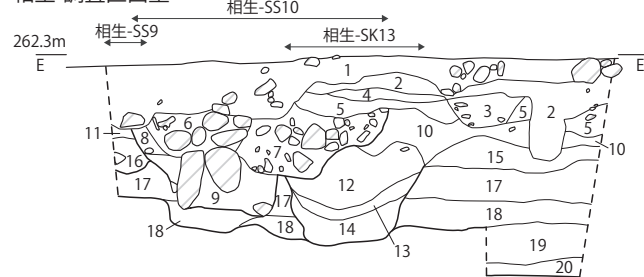
261.6m



相生-SX4

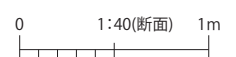
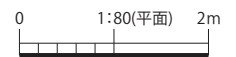
- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト 砂が混じる 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりゆるい

相生-調査区西壁

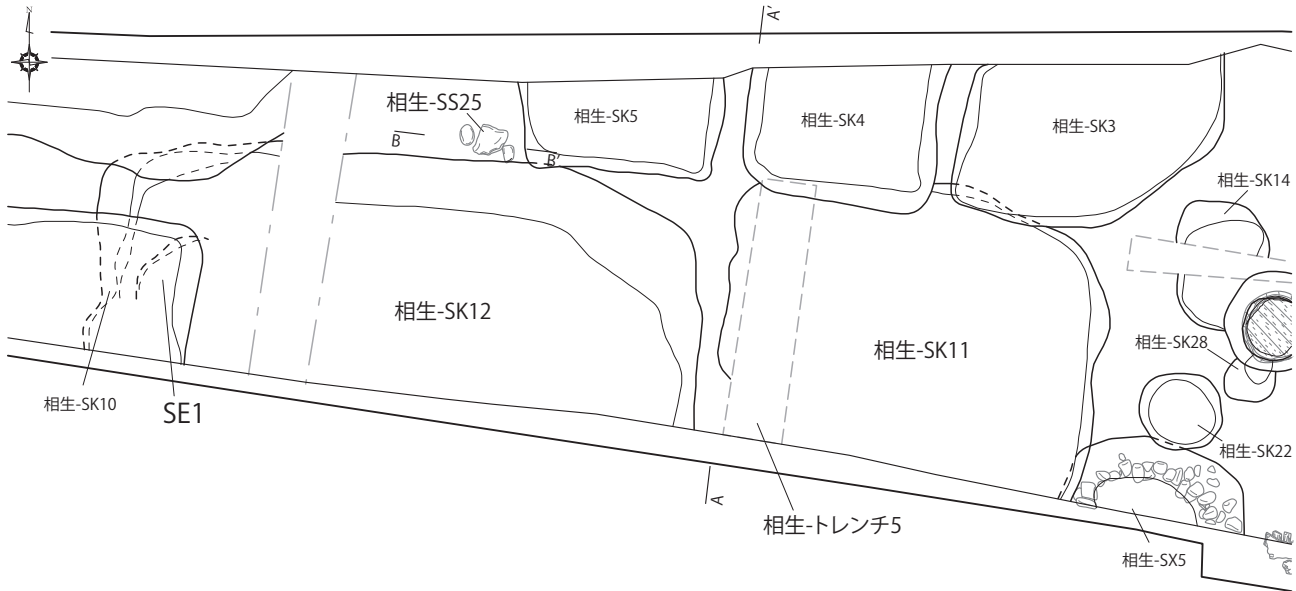


相生-調査区西壁

- 1 表土
- 2 黒褐色 (10YR3/2) シルト 径2cmの石・炭化物・焼土粒・白色粒・砂が混じる 縮まりゆるい
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒・瓦片が混じる
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる
- 5 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる
- 6 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 径5~10cmの石を詰める
- 7 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 径5~10cmの石・割石を詰める
- 8 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる
- 9 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる
- 10 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる
- 11 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 12 暗褐色 (10YR3/3) 砂にふい黄褐色 (10YR4/3) 砂が斑に混じる 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 縮まりゆるい
- 13 黒褐色 (10YR3/1) シルトにふい黄褐色 (10YR4/3) 砂が斑に混じる 炭化物・焼土粒・白色粒が微量に混じる 縮まりゆるい
- 14 黒褐色 (10YR3/2) シルト 砂が混じる 炭化物・焼土粒が極微量に混じる
- 15 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる
- 16 黒褐色 (10YR3/2) シルト 炭化物・焼土粒・白色粒が微量に混じる 径10cmの石を詰める 縮まりゆるい
- 17 黒褐色 (10YR3/1) シルトに暗褐色 (10YR3/3) 砂が混じる 炭化物・白色粒が微量に混じる
- 18 黒褐色 (10YR3/1) シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 19 黒褐色 (10YR3/1) シルトに褐色 (10YR4/4) 粗粒砂が混じる 泥岩粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 20 黒色 (10YR2/1) シルト



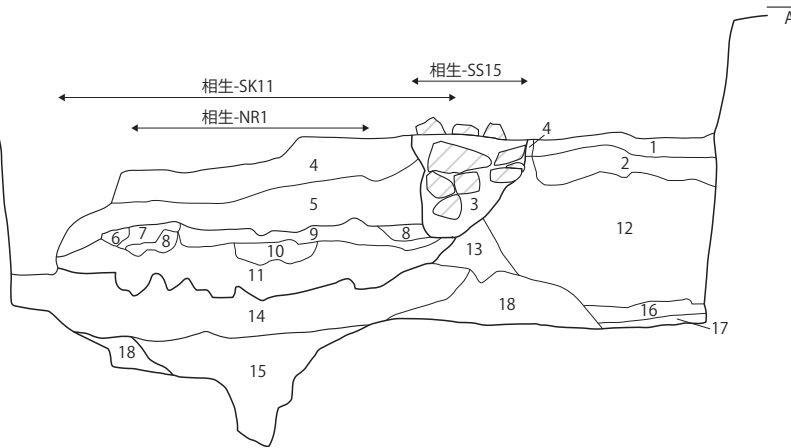
第166図 相生工区 (3)



相生-トレンチ5

262.4m

A



相生-トレンチ5

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が混じる 締まりあり
- 2 1層に褐色 (10YR4/4) 砂が斑に混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる
径 15 cm の石を積む
- 4 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒・径 2 ~ 4 cm の石が混じる
締まりあり
- 5 黒褐色 (10YR3/2) シルト 砂が混じる 炭化物が微量に混じる
泥岩粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- 6 黒褐色 (10YR3/1) シルト 締まりゆるい
- 7 褐色 (10YR4/4) 粗粒砂に黒褐色 (10YR3/1) シルトブロックが混じる
泥岩粒が極微量に混じる
- 8 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗粒砂に黒褐色 (10YR3/1) シルトブロックが混じる
- 9 黒色 (10YR2/1) シルトに灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂が混じる 締まりゆるい

- 10 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂に黒色 (10YR2/1) シルトが混じる
泥岩粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 11 灰黄褐色 (10YR5/2) 細粒砂に黒色 (10YR2/1) シルトブロックが微量に混じる
締まりゆるい
- 12 黒褐色 (10YR3/1) シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる
締まりゆるい
- 13 黒色 (10YR2/1) シルトに灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂が斑に混じる
締まりゆるい
- 14 黒色 (10YR2/1) シルトに灰黄褐色 (10YR5/2) 細粒砂が斑に混じる
炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 15 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂
- 16 黒褐色 (10YR2/2) シルト 締まりゆるい
- 17 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂
- 18 黒色 (2.5Y2/1) シルト 締まりゆるい

相生-SS25

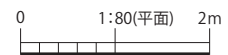
261.7m

B

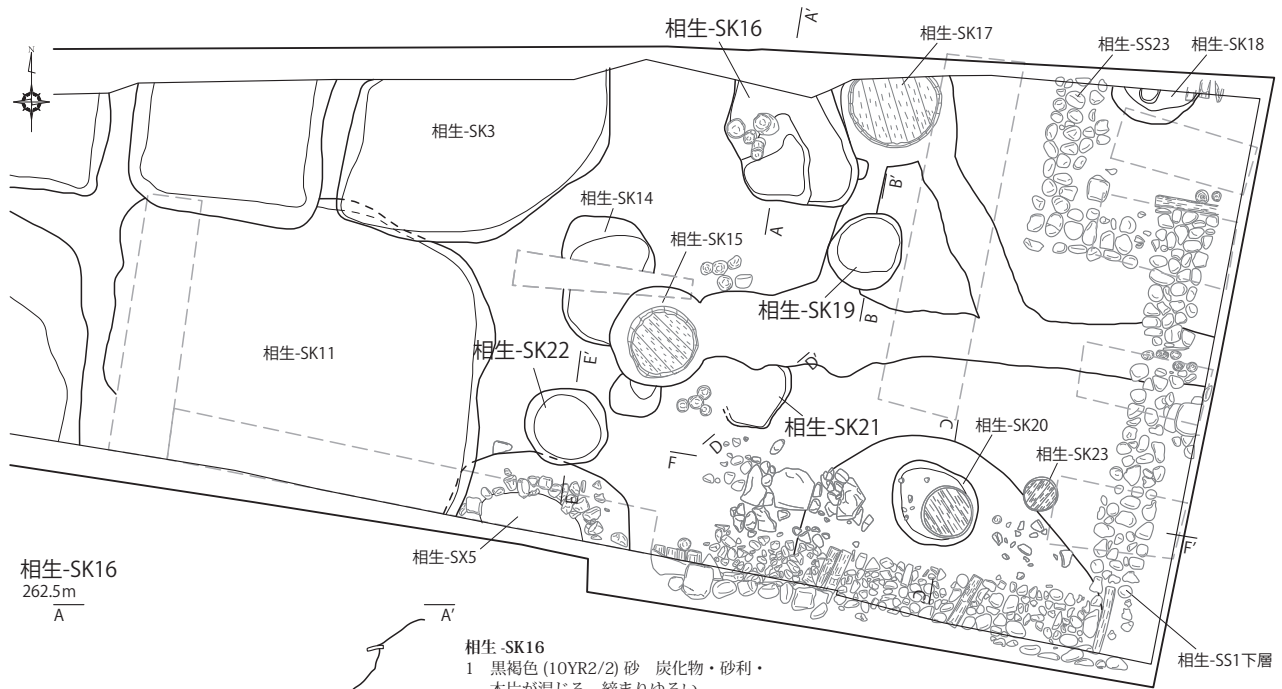


相生-SS25

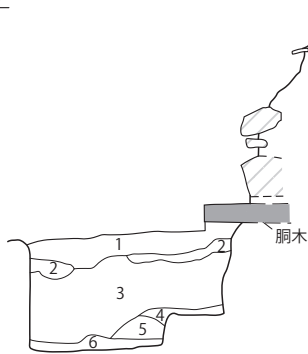
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる
径 10 ~ 20 cm の石を積む
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂
炭化物・白色粒・砂利が微量に混じる
- 3 黒褐色 (10YR2/2) シルト
炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる
締まりあり



第167図 相生工区 (4)

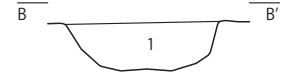


相生-SK16
262.5m
A



- 相生-SK16
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・砂利・木片が混じる 締まりゆるい
 - 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト 炭化物・砂利が極微量に混じる 粘性強い 締まりゆるい
 - 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂 炭化物・砂利・径2~3cmの石・瓦片が混じる 締まりゆるい
 - 4 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 粘性強い 締まりゆるい
 - 5 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粗粒砂 締まりゆるい
 - 6 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト 粘性強い 締まりゆるい

相生-SK19
261.6m
B



- 相生-SK19
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 径5~7cmの石が混じる 炭化物・砂利が極微量に混じる 締まりゆるい

相生-SK20
261.6m
C



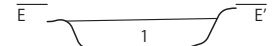
- 相生-SK20
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 径2~3cmの石が混じる 締まりゆるい
 - 2 黒褐色 (10YR2/2) シルト 砂が混じる 黒色 (2.5Y2/1) シルトブロックが斑に混じる 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい
 - 3 黒褐色 (10YR3/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり

相生-SK21
261.5m
D



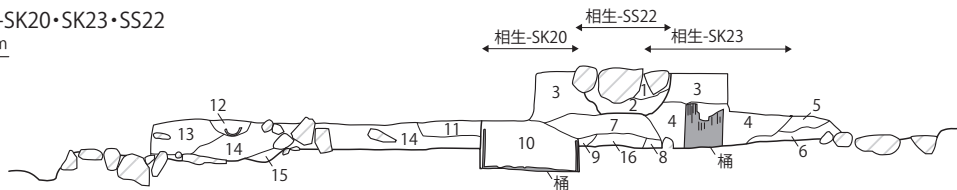
- 相生-SK21
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりあり

相生-SK22
261.4m
E



- 相生-SK22
- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 砂・径5~10cmの石が混じる 締まりゆるい

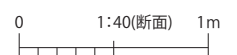
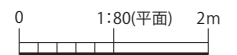
相生-SK20・SK23・SS22
262.0m
F



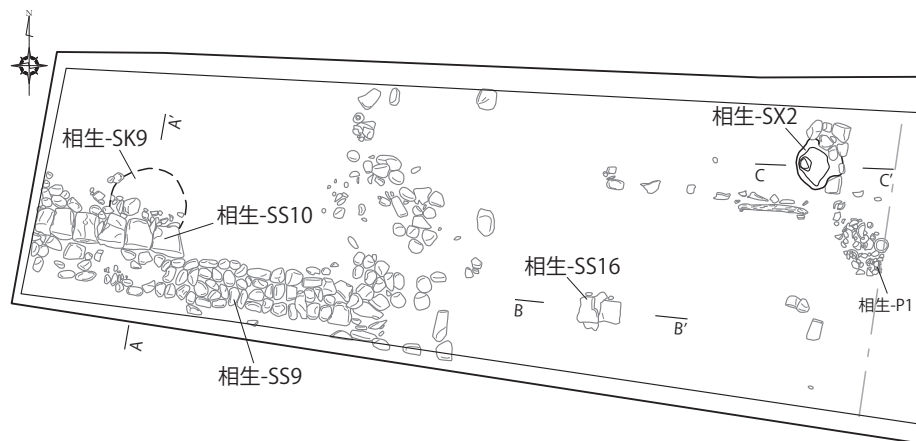
相生-SK20・SS22

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に黄褐色 (2.5Y5/6) 砂が斑に混じる 炭化物・砂利が混じる
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂ににぶい黄褐色 (10YR6/3) 砂が混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黄褐色 (2.5Y5/6) 砂が斑に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・砂利が混じる 締まりゆるい
- 5 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒が混じる
- 6 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 7 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりゆるい
- 8 黄褐色 (2.5Y5/3) 細粒砂

- 9 黒褐色 (10YR3/1) 砂 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 10 黒褐色 (10YR2/2) 砂に黄褐色 (2.5Y5/6) 砂が斑に混じる 炭化物・径1cmの石が微量に混じる 締まりゆるい
- 11 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・砂利が混じる 締まりあり
- 12 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・径5~10cmの石が混じる
- 13 黒褐色 (10YR2/1) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 泥岩粒が極微量に混じる 締まりあり
- 14 黒色 (10YR2/1) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる
- 15 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 締まりゆるい
- 16 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい



第168図 相生工区 (5)



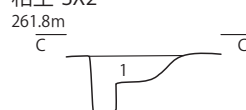
相生-SS16
262.0m



相生-SS16

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
- 3 褐色 (10YR4/4) 細粒砂に黒褐色 (10YR2/3) 砂が斑に混じる炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 瓦片・径 5 cm の石・木片が多量に混じる 締まりゆるい

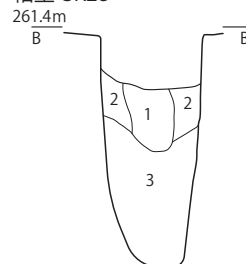
相生-SX2
261.8m



相生-SX2

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に暗褐色 (7.5YR3/4) 砂が混じる炭化物が混じる 締まりゆるい

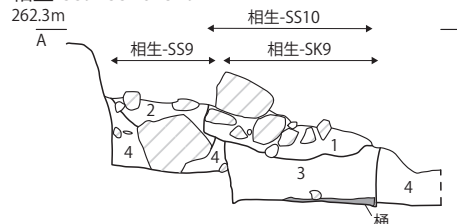
相生-SK28
261.4m



相生-SK28

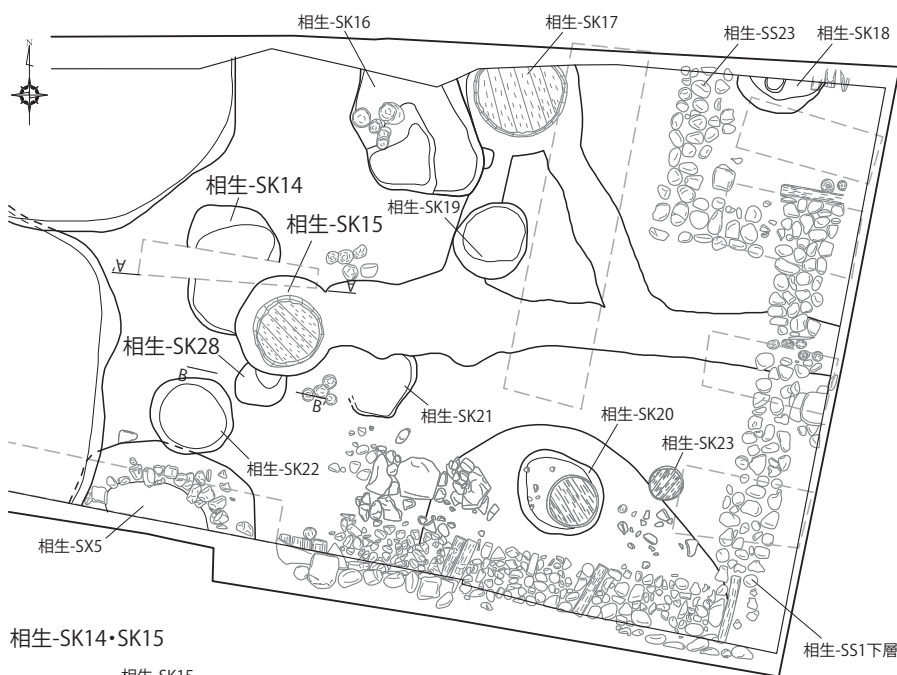
- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂 炭化物・焼土粒・径 2 cm の石が混じる 締まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂が混じる 締まりゆるい 粘性強い
- 3 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂・径 2 cm の石が混じる 締まりゆるい 粘性強い

相生-SS9・SS10・SK9
262.3m

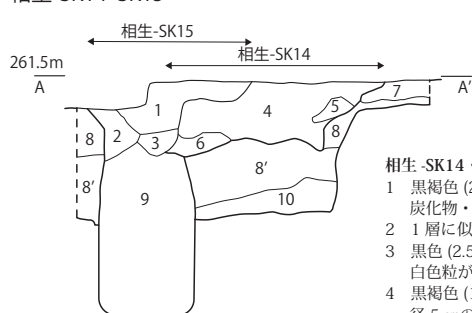


相生-SS10・SS9・SK9

- 1 褐色 (10YR4/4) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 4 黒褐色 (10YR3/2) シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 締まりあり

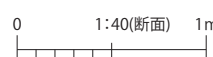
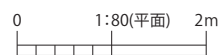


相生-SK14・SK15
261.5m

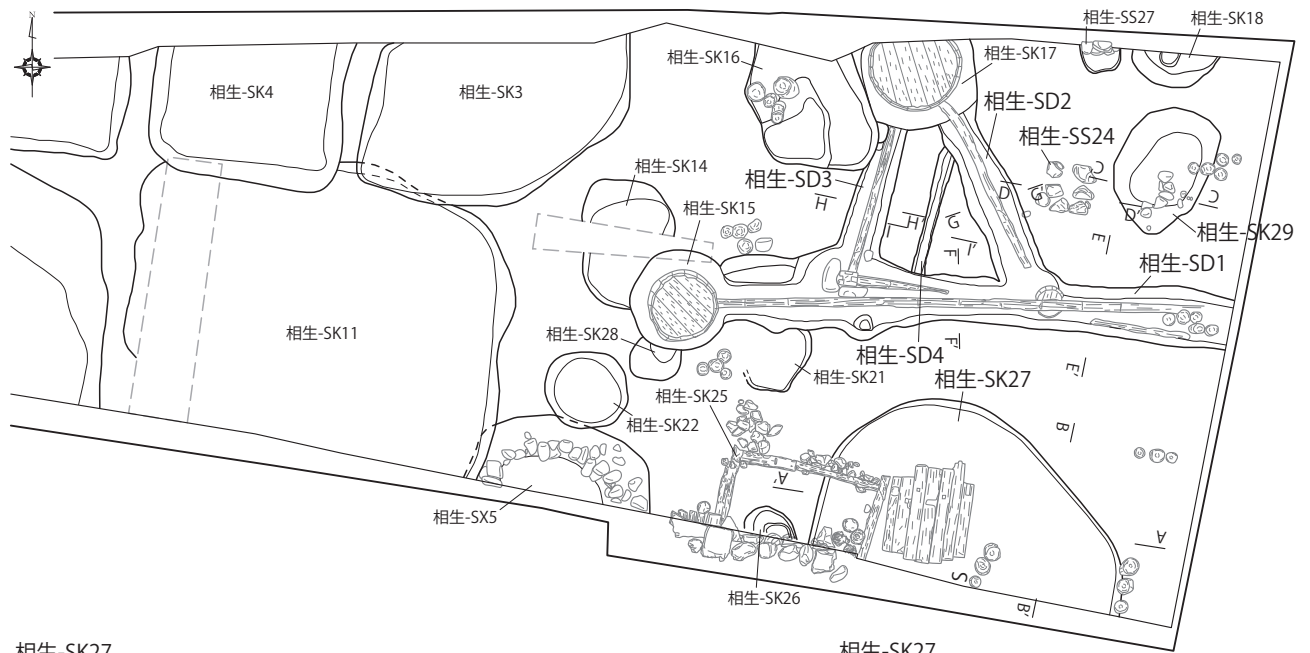


相生-SK14・SK15

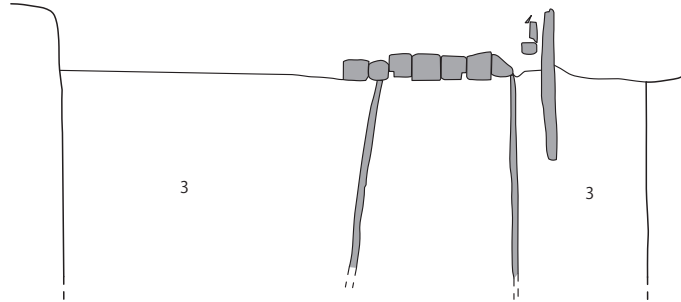
- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 砂が混じる炭化物・白色粒が混じる 締まりゆるい
- 2 1層に似るが砂が多く混じる 締まりゆるい
- 3 黒色 (2.5Y2/1) シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・木片・径 5 cm の石が混じる 締まりゆるい SK14 覆土
- 5 黒褐色 (10YR3/1) シルト 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい SK14 覆土
- 6 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 砂が混じる 締まりゆるい SK14 覆土
- 7 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- 8 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 8' 黒色 (2.5Y2/1) シルト 締まりあり
- 9 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 砂が混じる 粘性強い 締まりゆるい SK15 掘方覆土
- 10 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粗粒砂



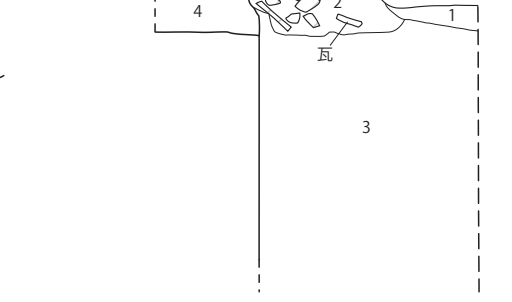
第169図 相生工区 (6)



相生-SK27
261.6m
A



相生-SK27
261.6m
B



相生-SK27

- 1 黒色 (2.5Y2/1) シルトに黒褐色 (2.5Y3/2) 砂が斑に混じる 炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂・10 cmの小礫・瓦片が混じる 炭化物が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) シルトに黒色 (2.5Y2/1) シルト・砂が斑に混じる 粘性強い 縮まりゆるい
- 4 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 砂が混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり

相生-SK29
260.8m
C



相生-SK29

- 1 黒褐色 (10YR3/1) シルトににぶい黄橙色 (10YR6/3) 砂が混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR3/2) シルト 砂が混じる 白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい

相生-SS24
261.9m
D



相生-SS24

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 縮まりゆるい
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる

相生-SD1
261.7m
E



相生-SD1

- 1 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂が混じる 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR2/2) シルト 砂が混じる 径3 cmの石が混じる 炭化物・焼土粒が微量に混じる 泥岩粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 3 黒色 (10YR2/1) シルト 砂が混じる 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 4 黒色 (2.5Y2/1) シルト 粘性強い 縮まりゆるい
- 5 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 縮まりあり

相生-SD1
261.4m
F



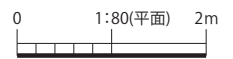
相生-SD3
261.4m
H



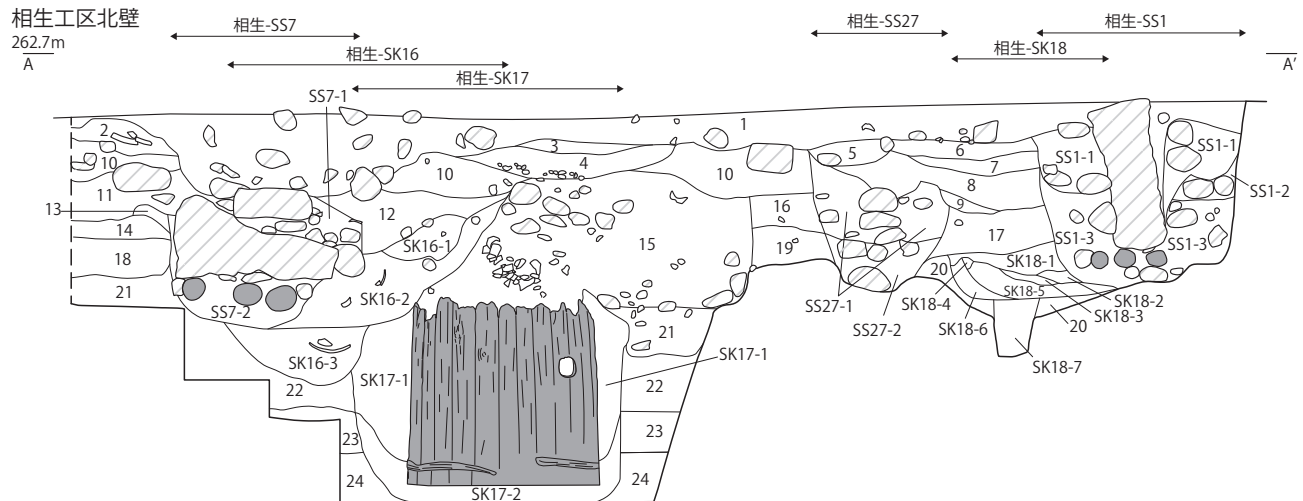
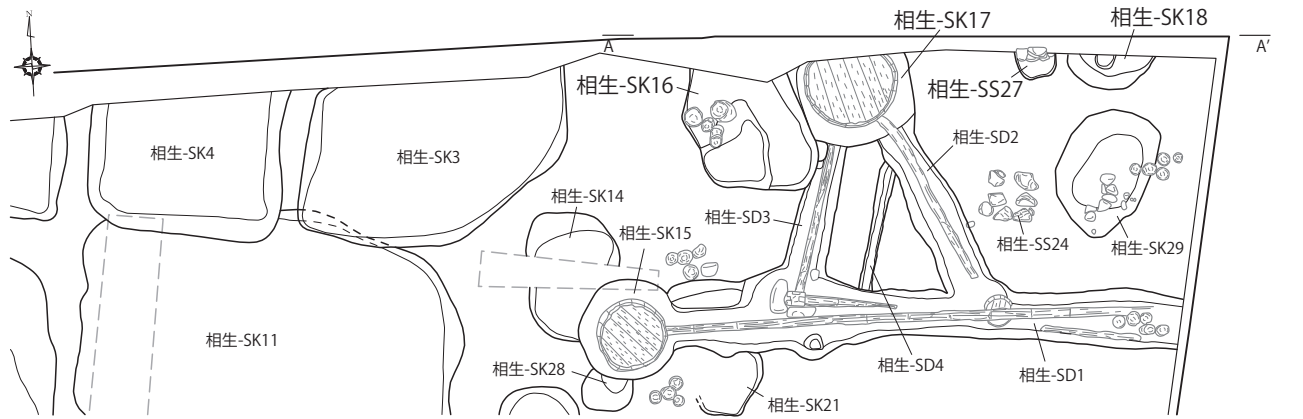
相生-SD2
261.4m
G



相生-SD4
261.4m
I



第170図 相生工区 (7)



相生工区調査区北壁 (東側)

- 1 表土
- 2 戦災焼土層
- 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂とオリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂が互層状に堆積する
炭化物・白色粒が混じる
- 4 径 2～3 cm の小石が堆積する
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる
- 6 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりあり
- 7 炭化物と黄褐色 (2.5Y5/3) 砂が互層状に堆積する 縮まりゆるい
- 8 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 9 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粗粒砂
- 10 黒褐色 (10YR2/2) 砂 に黄褐色 (2.5Y5/4) 砂が混じる
焼土粒・炭化物が混じる 縮まりあり
- 11 黒褐色 (10YR2/3) 砂に黄褐色 (2.5Y5/4) 砂が斑に混じる
焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり
- 12 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黄褐色 (2.5Y5/4) 砂が斑に混じる
焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり
- 13 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 14 暗灰黄 (2.5Y4/2) 砂 径 2～5 cm の小石が混じる
炭化物・白色粒が極微量に混じる
- 15 黒褐色 (10YR3/2) 砂ににぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂が混じる
径 10～15 cm の石・炭化物が混じる 縮まりあり
- 16 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 17 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる
- 18 黒褐色 (2.5Y3/1) シルトににぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂が混じる
炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 19 黒褐色 (10YR2/2) 砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 20 褐色 (10YR4/4) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる
- 21 暗灰黄色 (2.5Y3/1) シルトに黒褐色 (2.5Y3/1) シルトが斑に混じる
焼土粒・炭化物・砂が微量に混じる 縮まりゆるい
- 22 黒褐色 (2.5Y3/1) シルトに砂が混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる
縮まりゆるい
- 23 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 24 黒色 (2.5Y2/1) シルト 縮まりゆるい 粘性強い

相生-SK16

- SK16-1 黒褐色 (2.5Y2/2) 砂に黒褐色 (10YR3/1) シルトブロックが混じる
焼土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- SK16-2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 縮まりゆるい
- SK16-3 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 木片が多量に堆積する 縮まりゆるい

相生-SK17

- SK17-1 黒褐色 (2.5Y3/1) シルトに黒色 (2.5Y2/1) シルトが斑に混じる
砂が混じる 縮まりゆるい
- SK17-2 黒色 (2.5Y2/1) シルトに黒褐色 (2.5Y3/1) シルトが斑に混じる
縮まりゆるい 粘性強い

相生-SK18

- SK18-1 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黒褐色 (10YR3/1) シルトブロックが斑に混じる
焼土粒・炭化物が混じる 縮まりあり
- SK18-2 焼土層
- SK18-3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- SK18-4 焼土層
- SK18-5 炭化物が堆積している
- SK18-6 焼土層
- SK18-7 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト

相生-SS1

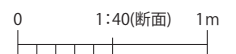
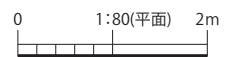
- SS1-1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 10 cm～15 cm の石を詰める
焼土粒・炭化物・砂利が微量に混じる 縮まりゆるい
- SS1-2 暗褐色 (10YR3/3) 砂に褐色 (10YR4/4) シルトブロックが混じる
径 10～15 cm の石を詰める 焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい
- SS1-3 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりあり

相生-SS7

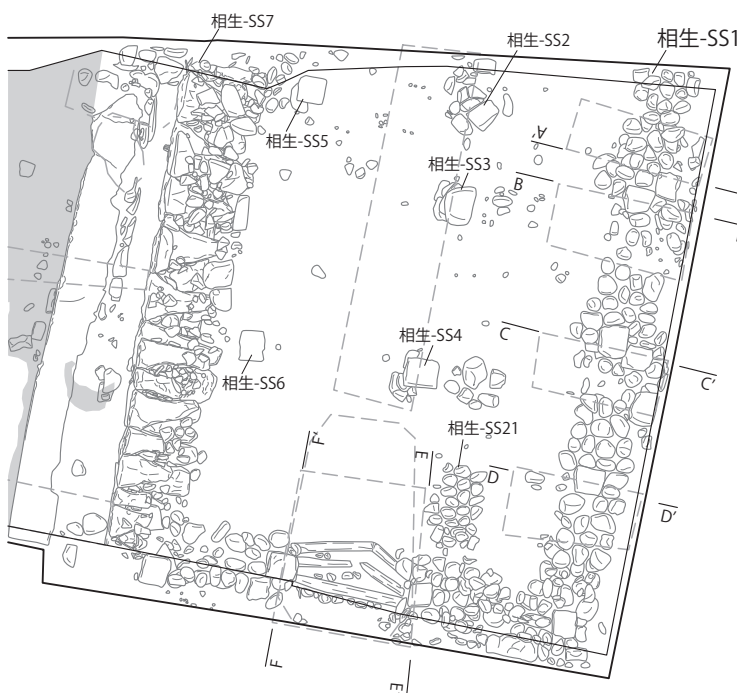
- SS7-1 黒褐色 (2.5Y3/2) シルトに黒褐色 (10YR2/2) 砂が混じる 径 10 cm の石を詰める
炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい 粘性強い
- SS7-2 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 縮まりゆるい 粘性強い

相生-SS27

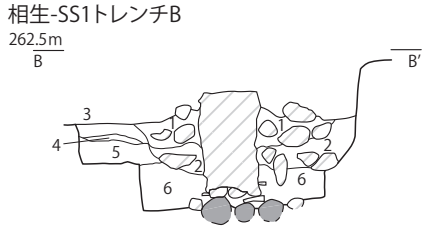
- SS27-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- SS27-2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい



第172図 相生工区 (9)



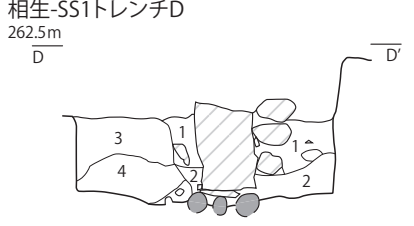
- 相生-SS1 トレンチ A**
262.5m
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が斑に混じる 炭化物・焼土粒が微量に混じる 径 10 ~ 20 cmの石を積む
 - 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物が極微量に混じる 径 10 ~ 20 cmの石を積む
 - 3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 径 5 cmの石が混じる
 - 4 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が斑に混じる 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
 - 5 にぶい黄褐色 (10YR6/3) 粗粒砂
 - 6 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる
 - 7 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物が極微量に混じる



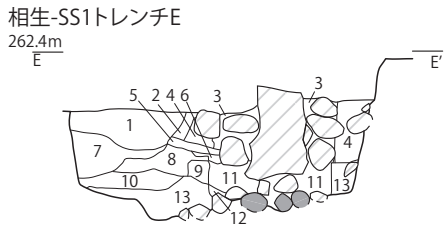
- 相生-SS1 トレンチ B**
262.5m
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が斑に混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 径 10 ~ 20 cmの石を積む
 - 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物が極微量に混じる 径 10 ~ 20 cmの石を積む
 - 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が斑に混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
 - 4 にぶい黄褐色 (10YR6/3) 粗粒砂
 - 5 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる
 - 6 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物が極微量に混じる



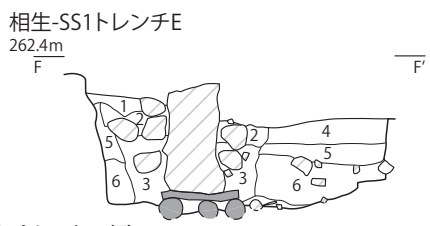
- 相生-SS1 トレンチ C**
262.5m
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が斑に混じる 径 10 ~ 20 cmの石を積む
下層に黄褐色 (2.5Y5/3) 細粒砂が堆積する
 - 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物が極微量に混じる 径 10 ~ 20 cmの石を積む
 - 3 黒色 (2.5Y2/1) シルトに黄褐色 (2.5Y5/3) 細粒砂が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる
 - 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黄褐色 (2.5Y5/3) 砂が斑に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
 - 5 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂 炭化物が微量に混じる
 - 6 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
 - 7 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黄褐色 (2.5Y5/3) 砂が斑に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
 - 8 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物が混じる 泥岩粒が微量に混じる 締まりゆるい 柱跡か
 - 9 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒が混じる 泥岩粒が微量に混じる 締まりあり
 - 10 黒色 (10YR1.7/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりあり



- 相生-SS1 トレンチ D**
262.5m
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が斑に混じる 炭化物・焼土粒が混じる 径 10 ~ 20 cmの石を積む
 - 2 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる
 - 3 黒色 (10YR2/1) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が斑に混じる 炭化物が微量に混じる 締まりあり
 - 4 黒色 (10YR1.7/1) 砂質シルト 炭化物が微量に混じる
 - 5 黒色 (2.5Y2/1) シルト



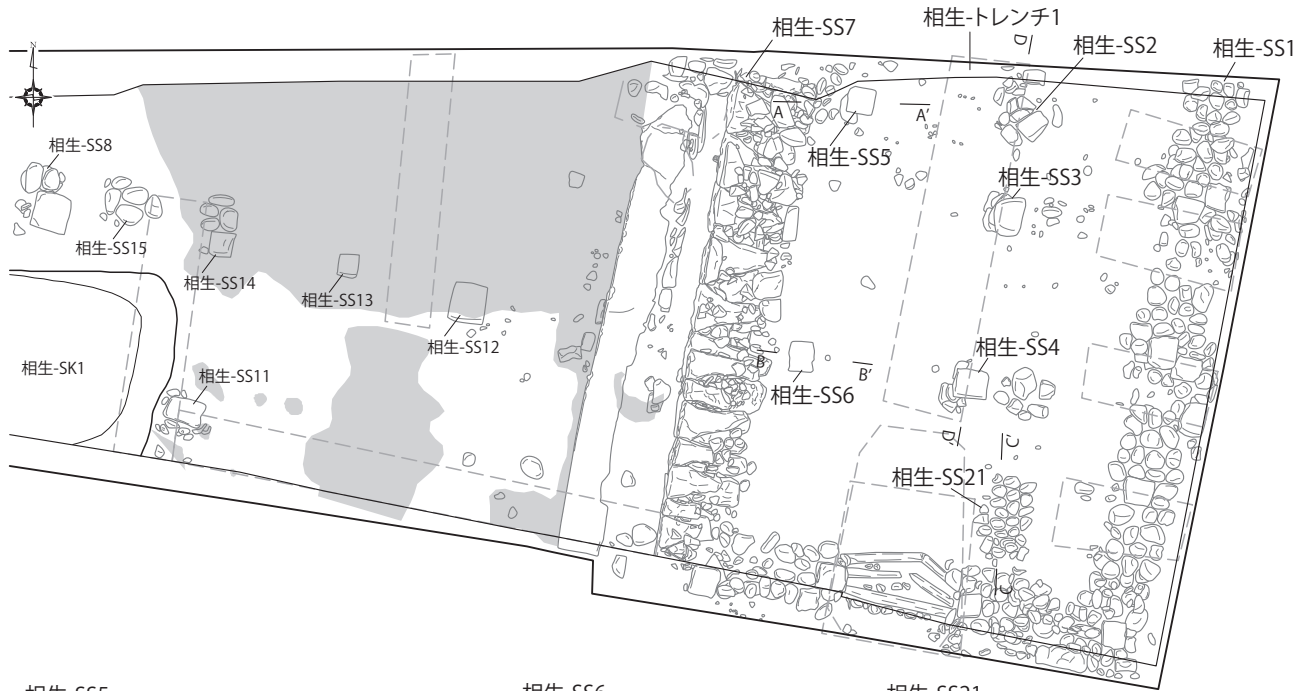
- 相生-SS1 トレンチ E 東面**
262.4m
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
 - 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒が微量に混じる 締まりあり
 - 3 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 径 10 ~ 20 cmの石を積む
 - 4 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
 - 5 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物に互層状に堆積する
 - 6 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
 - 7 1層に似るが炭化物・白色粒・焼土粒が少ない
 - 8 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
 - 9 黒褐色 (10YR3/2) 砂に暗褐色 (10YR3/3) 砂が斑に混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
 - 10 黒色 (2.5Y2/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
 - 11 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる
 - 12 黒色 (2.5Y2/1) シルト
 - 13 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる



- SS1 トレンチ E 西面**
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黄褐色 (2.5Y5/4) 砂が混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
 - 2 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 炭化物が極微量に混じる 径 10 ~ 15 cmの石を積む
 - 3 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が極微量に混じる
 - 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
 - 5 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
 - 6 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる



第173図 相生工区 (10)



相生-SS5
262.2m



相生-SS5 下層

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂に黒褐色 (10YR3/3) 砂ブロックが混じる 炭化物・焼土粒が微量に混じる
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり

相生-SS6
262.2m



相生-SS6

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる 縮まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる

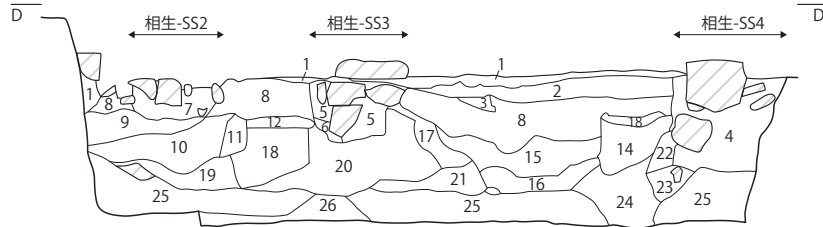
相生-SS21
262.1m



相生-SS21

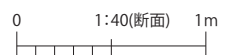
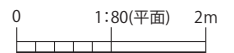
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂が斑に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 縮まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 灰・炭化物・焼土ブロックが帯状に堆積する
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる

相生-トレンチ1
262.5m

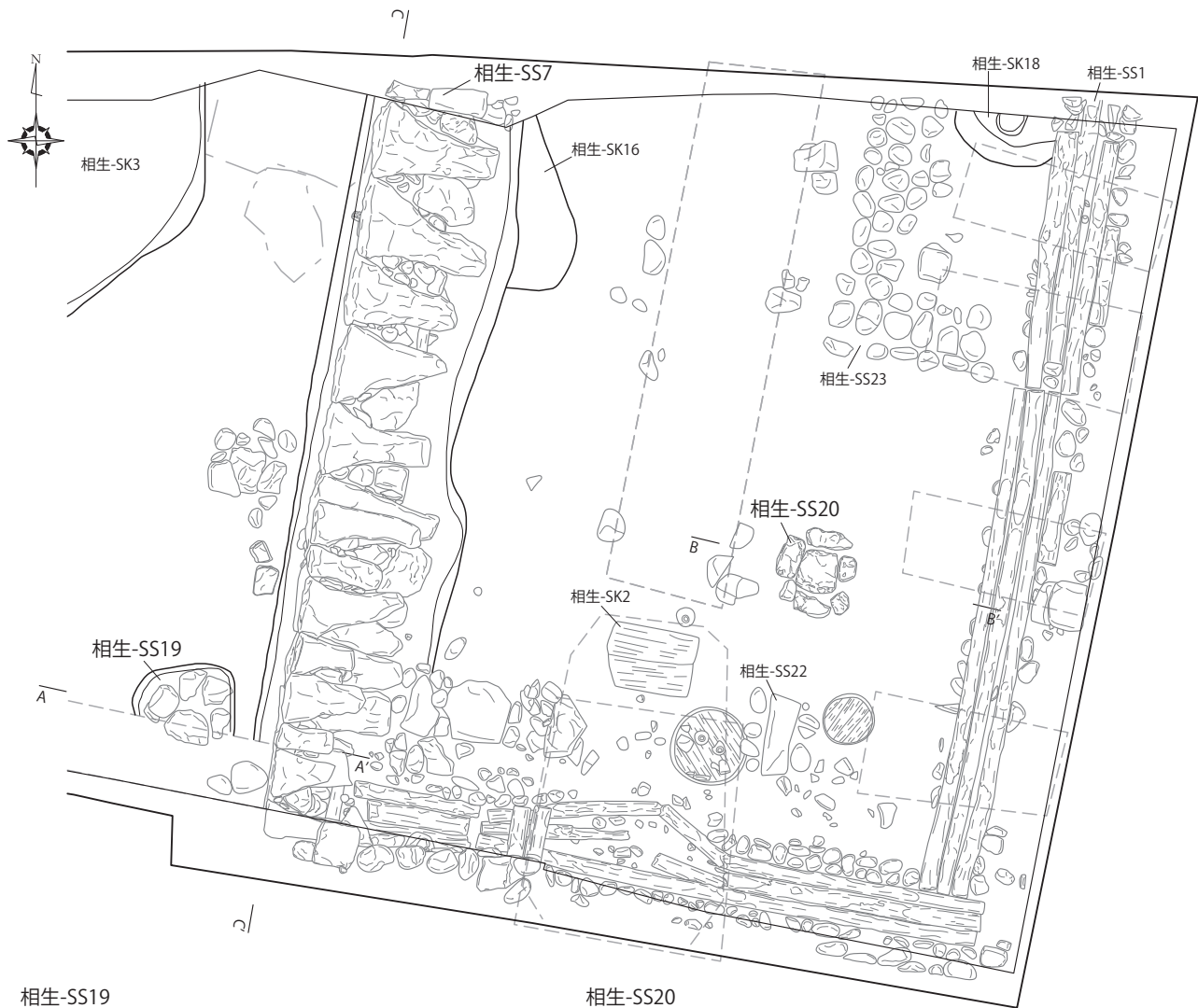


相生-トレンチ1

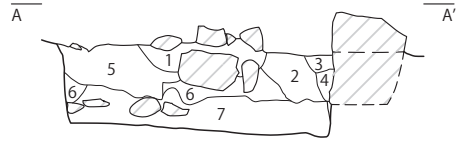
- 1 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂 炭化物・白色粒・漆喰片が混じる 縮まりあり
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂ににぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂が斑に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 縮まりあり
- 3 黒色 (10YR1.7/1) シルト
- 4 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 泥岩粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 5 黒褐色 (10YR3/2) 砂ににぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂が混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 縮まりあり
- 6 黒褐色 (10YR2/2) シルトににぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂が混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 7 暗褐色 (10YR3/3) 砂ににぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂が混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 縮まりあり
- 8 黒褐色 (10YR2/3) 砂ににぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂が斑に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 縮まりあり
- 9 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりあり
- 10 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 縮まりあり
- 11 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 12 暗褐色 (10YR3/3) 砂ににぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂が斑に混じる 炭化物・白色粒が混じる 縮まりあり
- 13 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂に黒褐色 (10YR3/2) 砂ブロックが混じる 白色粒が混じる 縮まりあり
- 14 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる
- 15 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒が混じる 泥岩粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 16 黒褐色 (2.5Y3/2) シルトに黒褐色 (10YR2/3) 砂が混じる 炭化物が混じる
- 17 黒色 (2.5Y2/1) シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 縮まりあり
- 18 黒褐色 (10YR3/2) 砂ににぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂が混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 径2cmの石が混じる 縮まりあり
- 19 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 径2cmの石が混じる
- 20 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒が混じる 径3cmの石が混じる 縮まりあり
- 21 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりあり
- 22 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる
- 23 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい
- 24 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒・焼土粒が極微量に混じる 縮まりゆるい
- 25 黒褐色 (2.5Y3/1) シルトに黒褐色 (10YR2/2) 砂が混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる
- 26 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる



第174図 相生工区 (11)

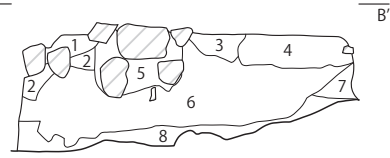


相生-SS19
262.1m



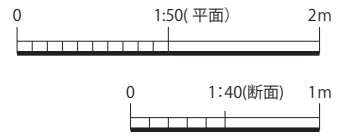
- 相生-SS19
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
 - 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒が混じる 泥岩粒が微量に混じる 締まりあり
 - 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 泥岩粒が微量に混じる
 - 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる
 - 5 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が多量に混じる 泥岩粒が微量に混じる
 - 6 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる
 - 7 黒褐色 (10YR3/1) シルトに黒褐色 (10YR3/2) 砂が混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる

相生-SS20
262.1m

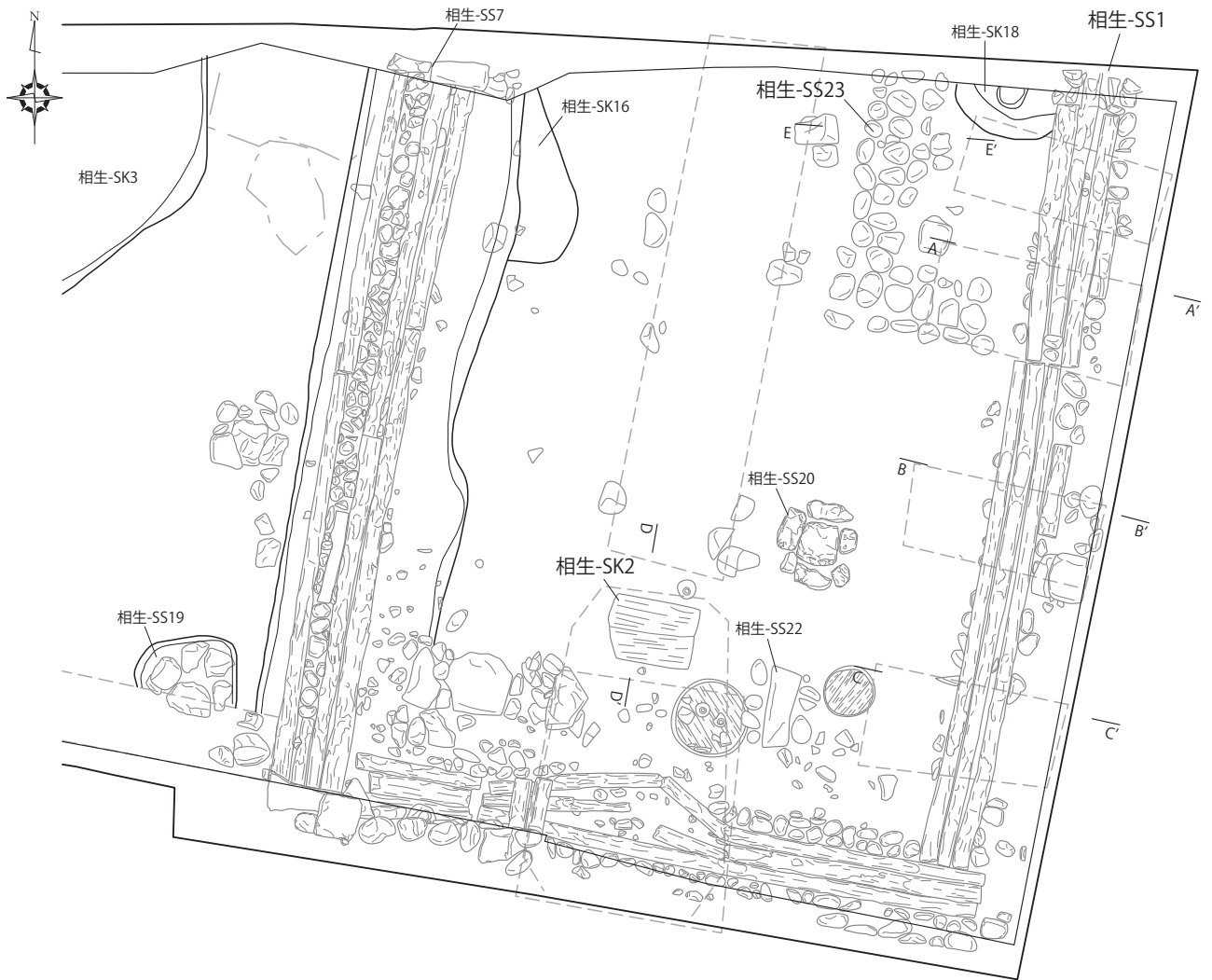


- 相生-SS20
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
 - 2 黒褐色 (10YR2/1) シルトにふい黄褐色 (10YR5/4) 砂が混じる 炭化物が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 締まりゆるい
 - 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・径 1 cm の石が混じる 締まりあり
 - 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・砂利が混じる 泥岩粒が微量に混じる 締まりあり
 - 5 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 1 辺 30 cm 程度の方形の石を積む
 - 6 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる
 - 7 黒褐色 (10YR3/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる

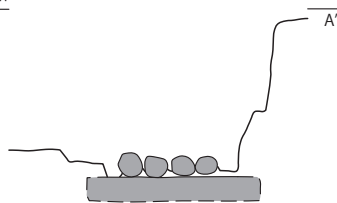
相生-SS7
262.7m



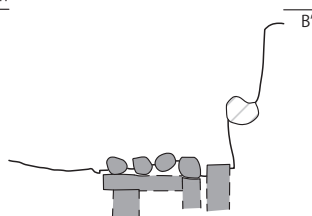
第175図 相生工区 (12)



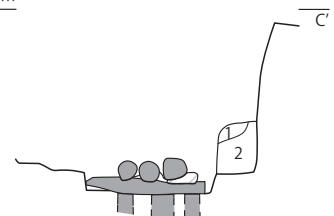
相生-SS1下層
262.5m
A



相生-SS1下層
262.5m
B



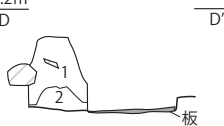
相生-SS1下層
262.5m
C



相生-SS1下層

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・砂利が混じる
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・径 1 cmの石が混じる

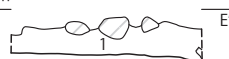
相生-SK2
262.2m
D



相生-SK2

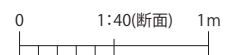
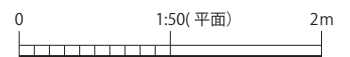
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂に黄褐色 (2.5Y5/4) 砂が斑に混じる
炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黄褐色 (2.5Y5/4) 砂が斑に混じる
炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり

相生-SS23
262.0m
E

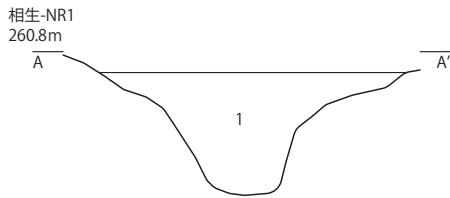
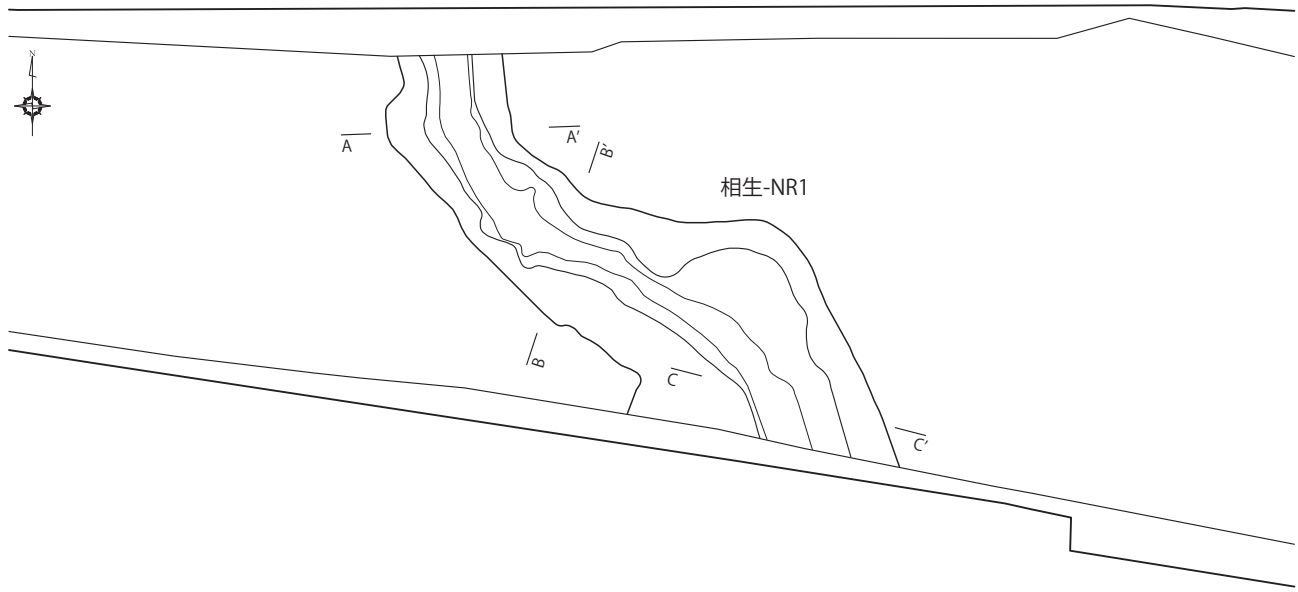


相生-SS23

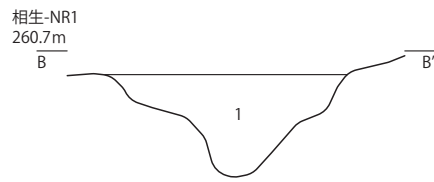
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂
炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる
締まりあり



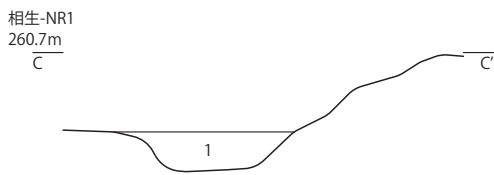
第176図 相生工区 (13)



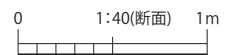
相生-NR1
1 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂



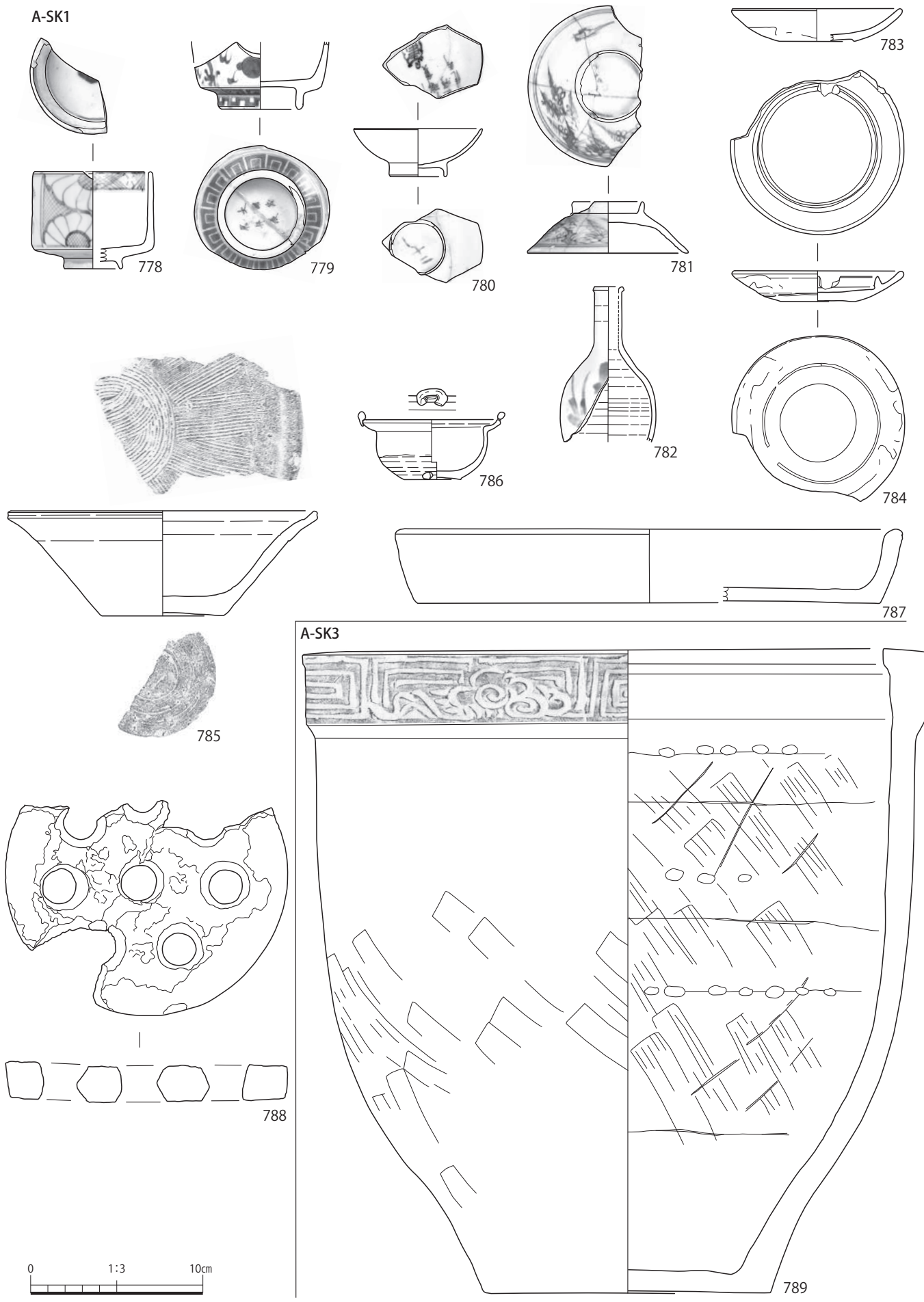
相生-NR1
1 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂



相生-NR1
1 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂

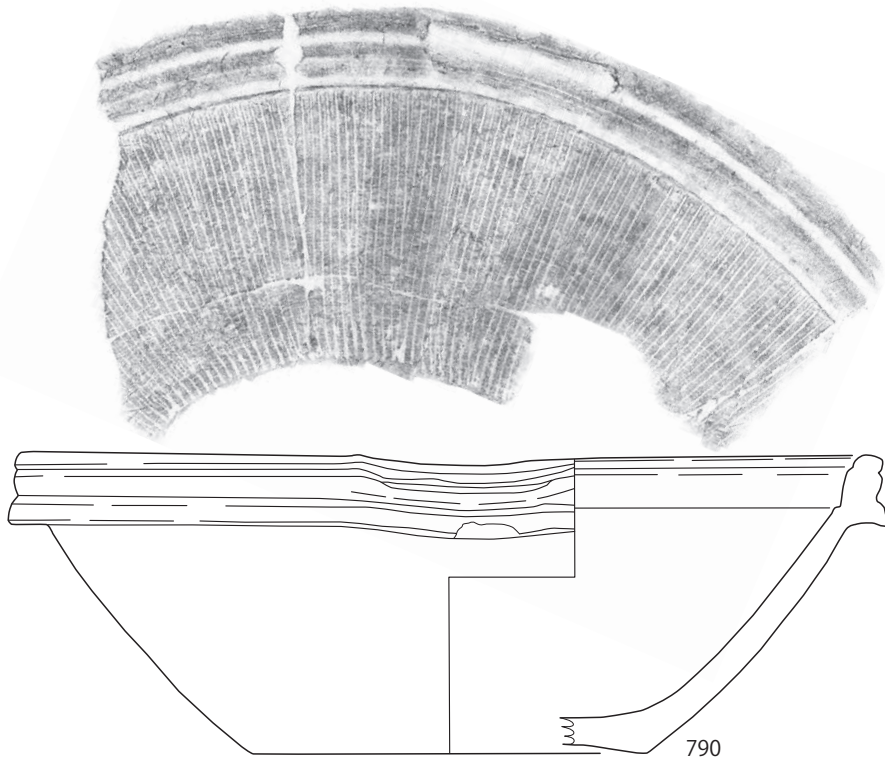


第177图 相生工区 (14)



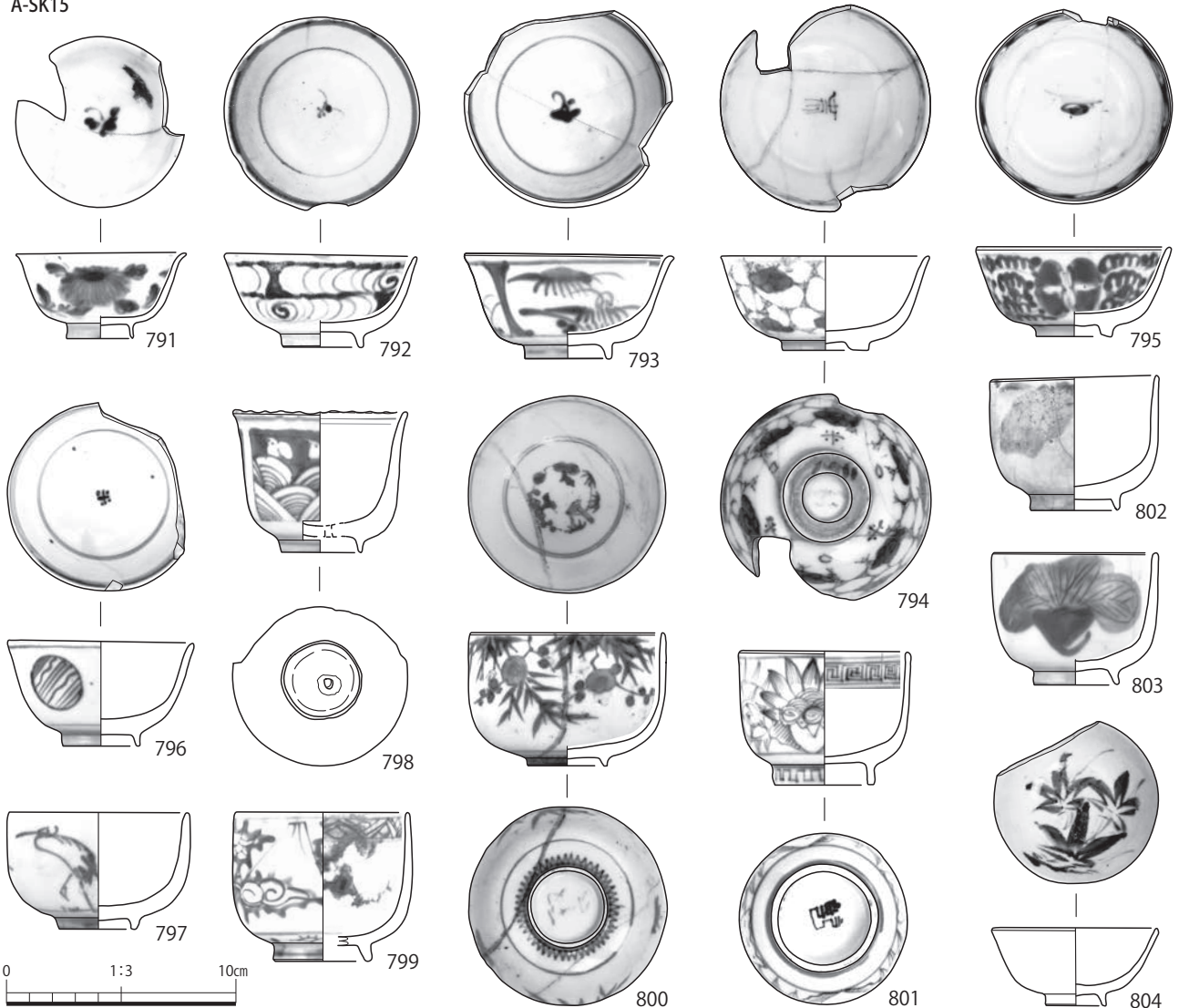
第 178 图 A 地点出土遗物 (1)

A-SK10



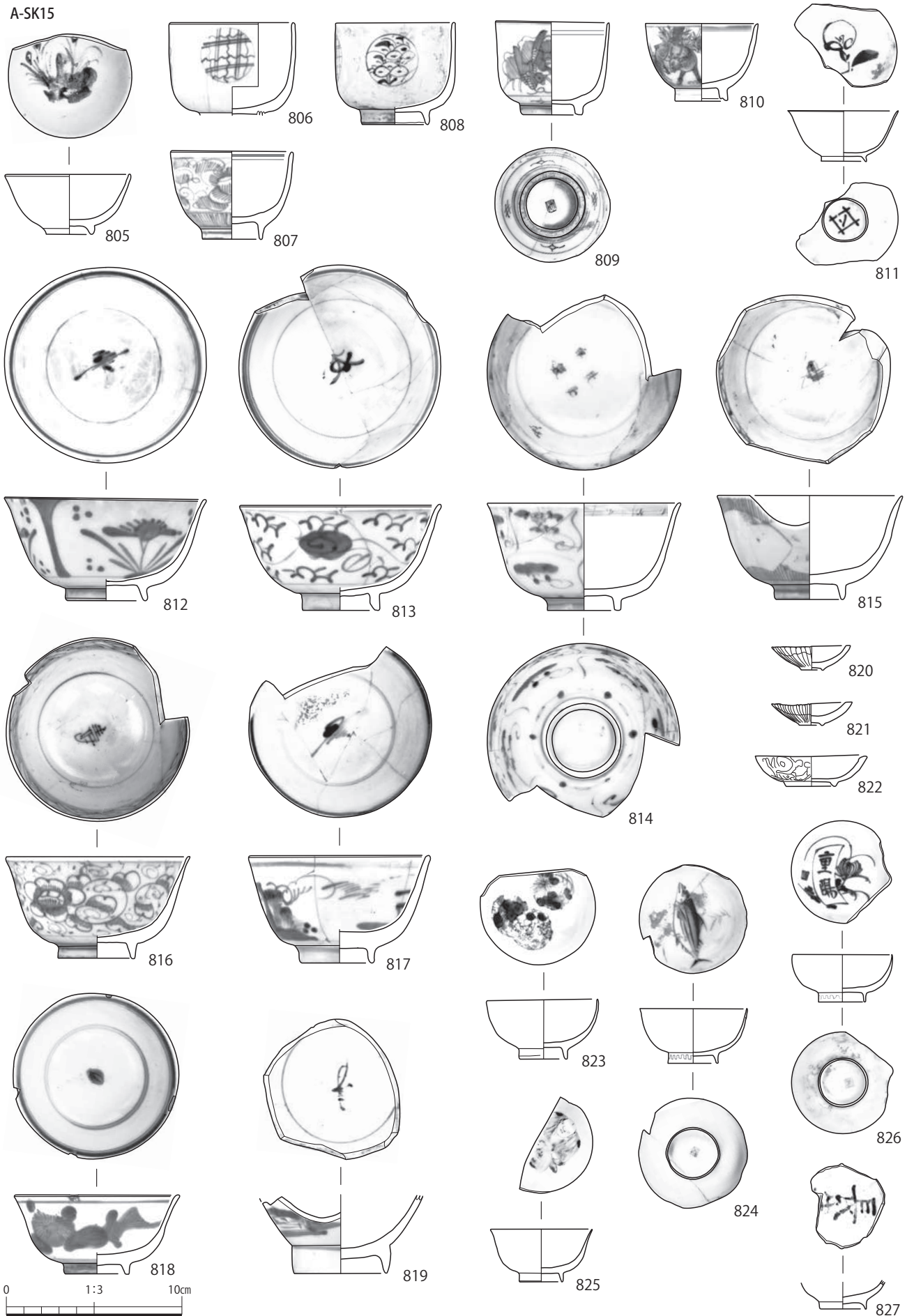
790

A-SK15



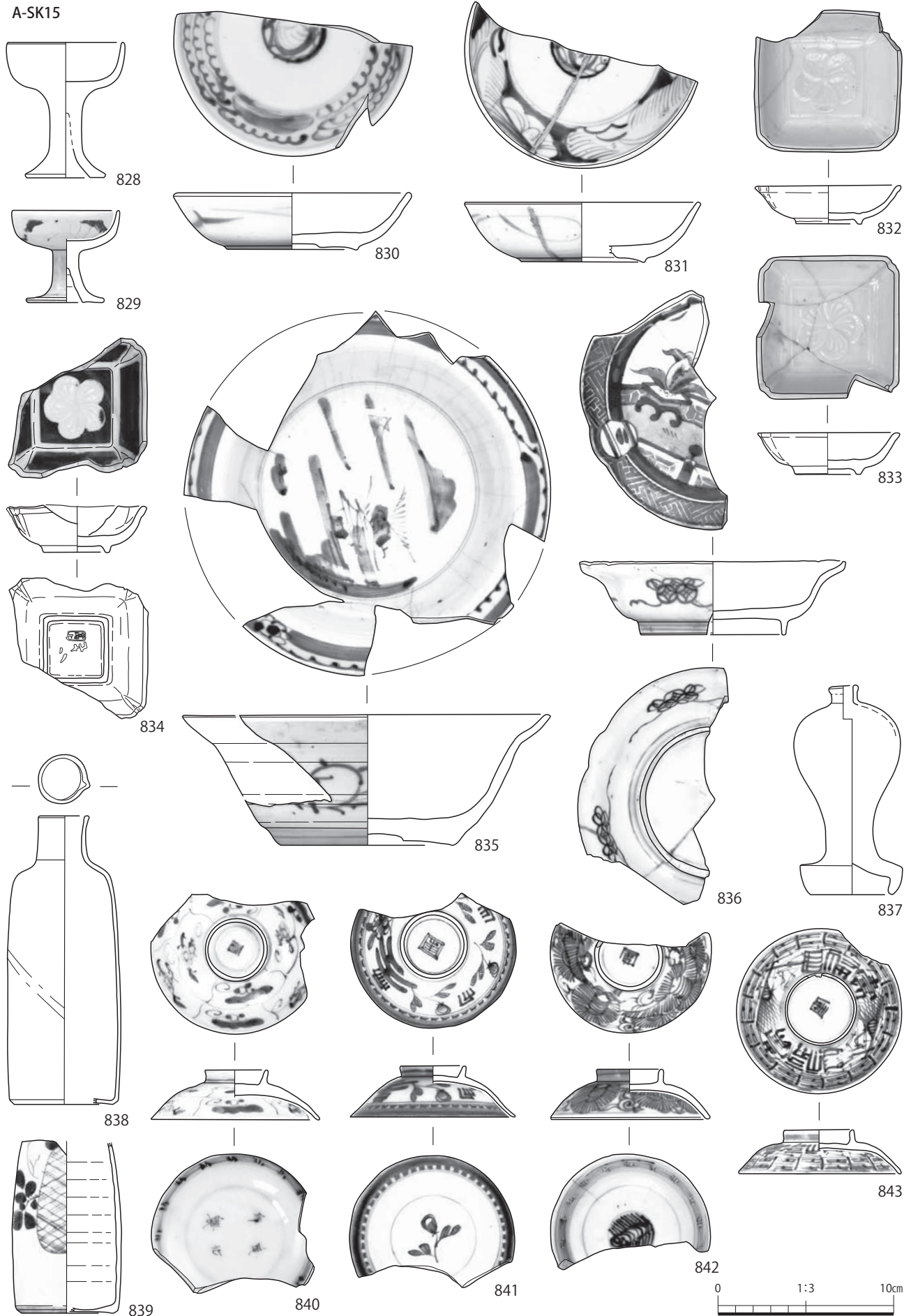
第 179 图 A 地点出土遺物 (2)

A-SK15



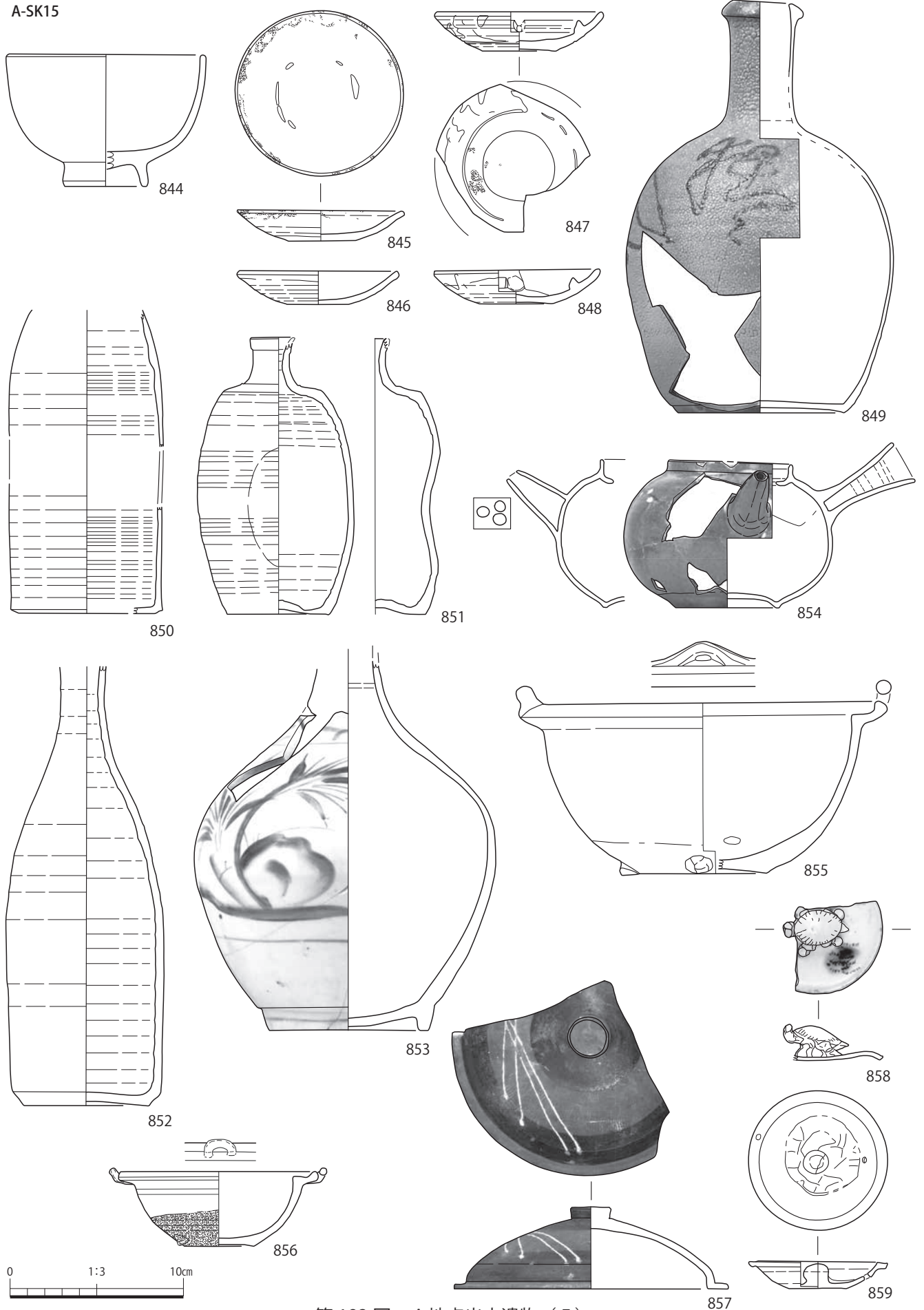
第 180 图 A 地点出土遺物 (3)

A-SK15



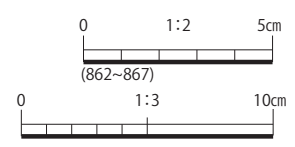
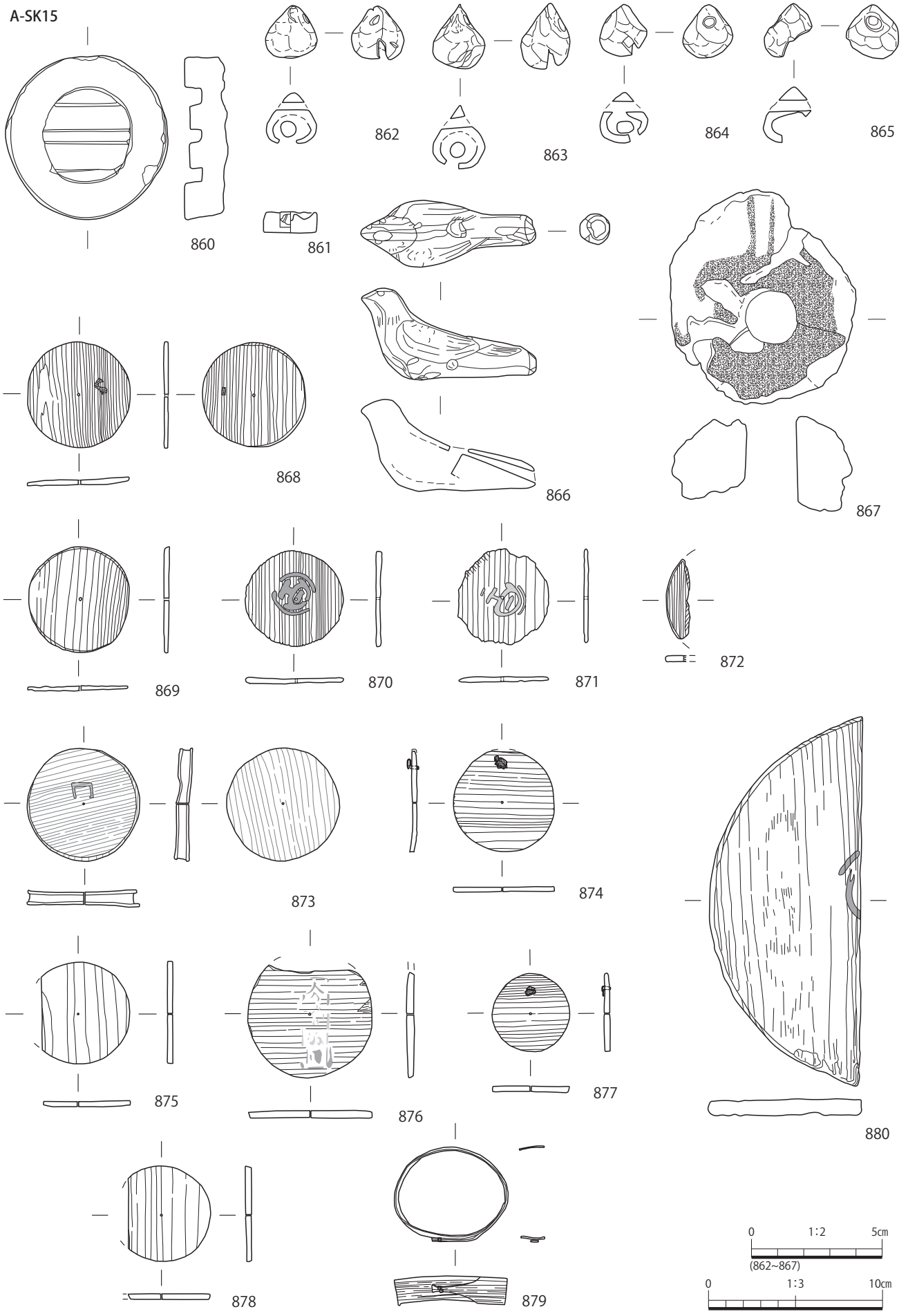
第 181 图 A 地点出土遺物 (4)

A-SK15



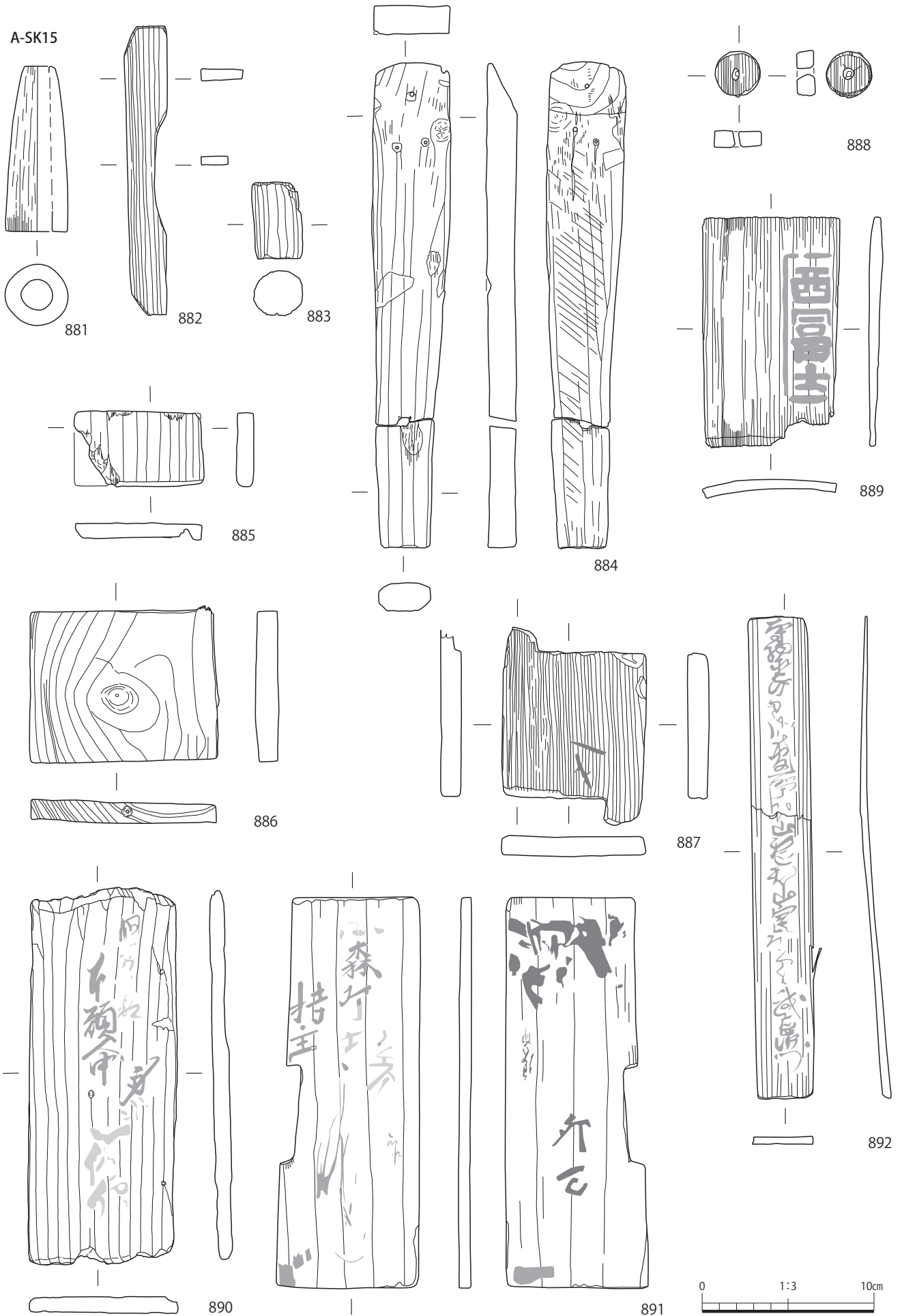
第 182 图 A 地点出土遺物 (5)

A-SK15



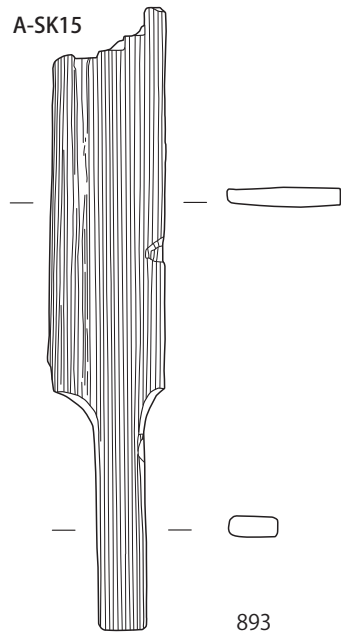
第 183 图 A 地点出土遺物 (6)

A-SK15

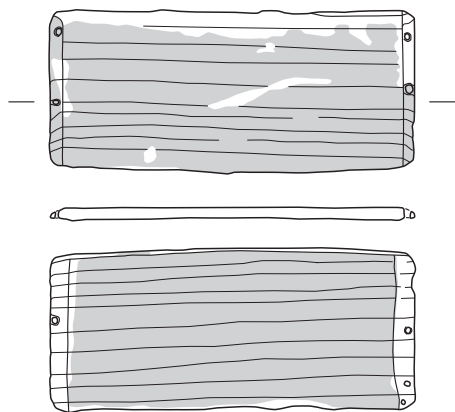


第 184 图 A 地点出土遺物 (7)

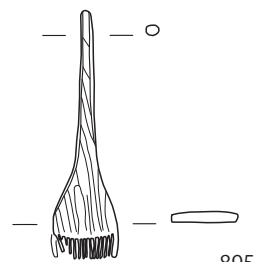
A-SK15



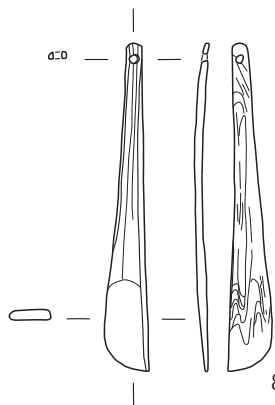
893



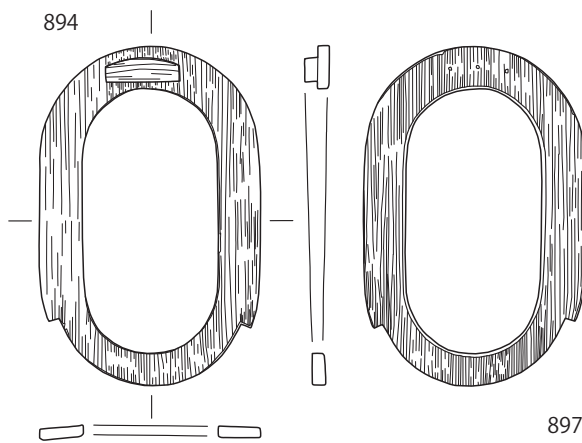
894



895

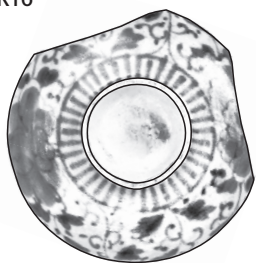


896

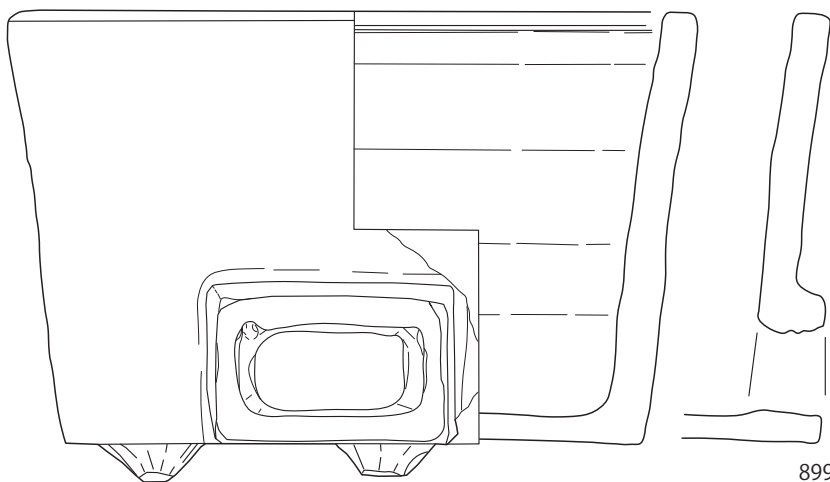
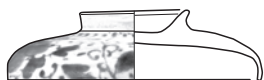


897

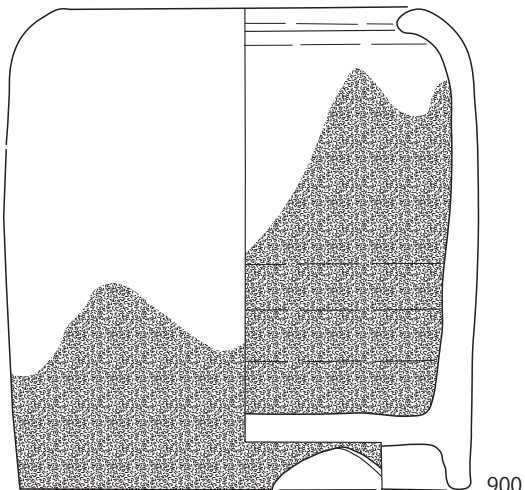
A-SK16



898

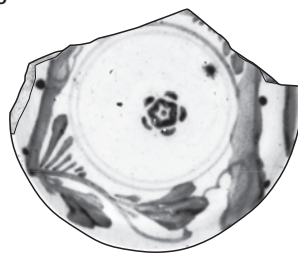


899

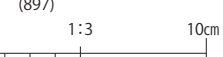
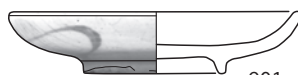


900

A-SK18

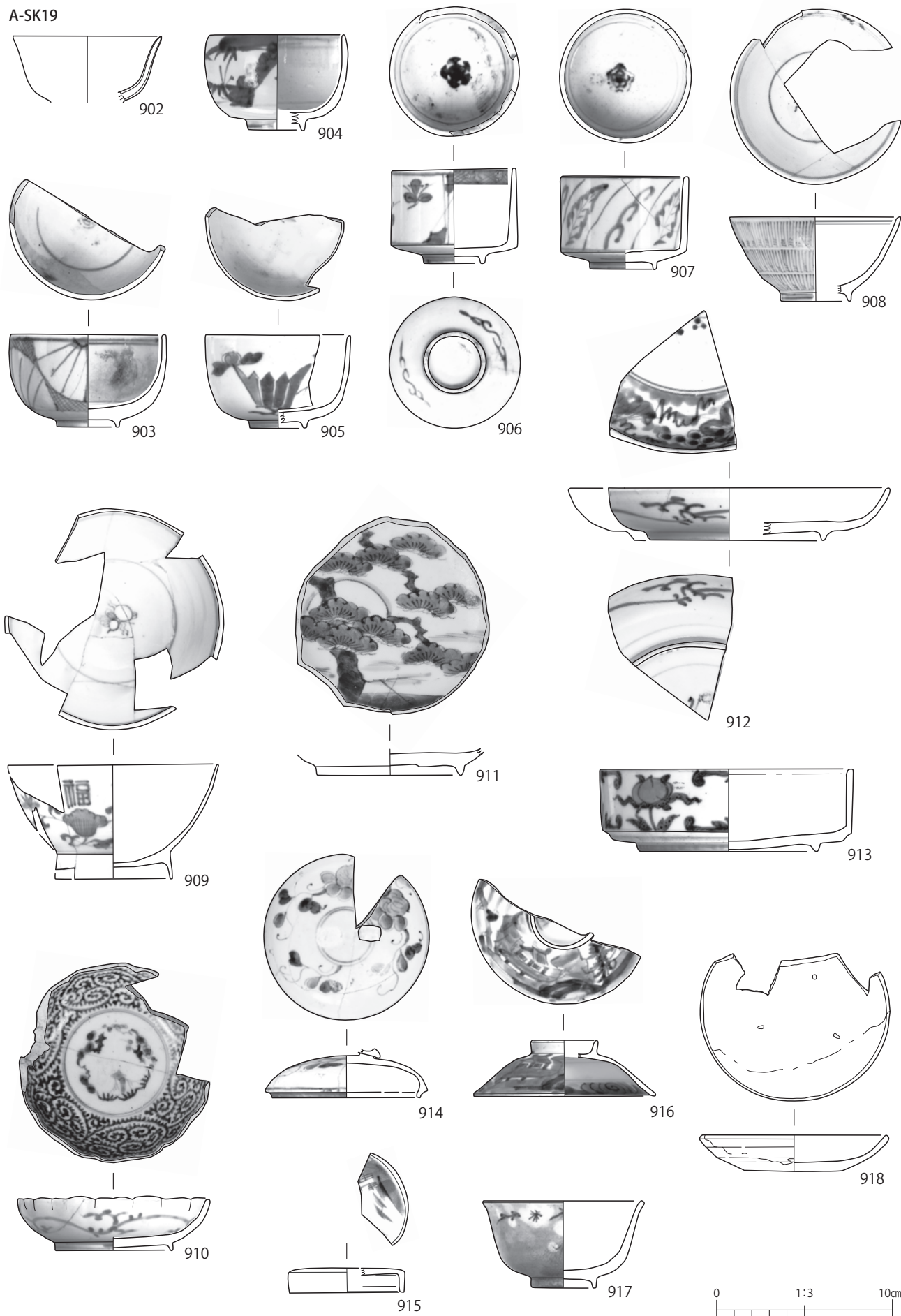


901



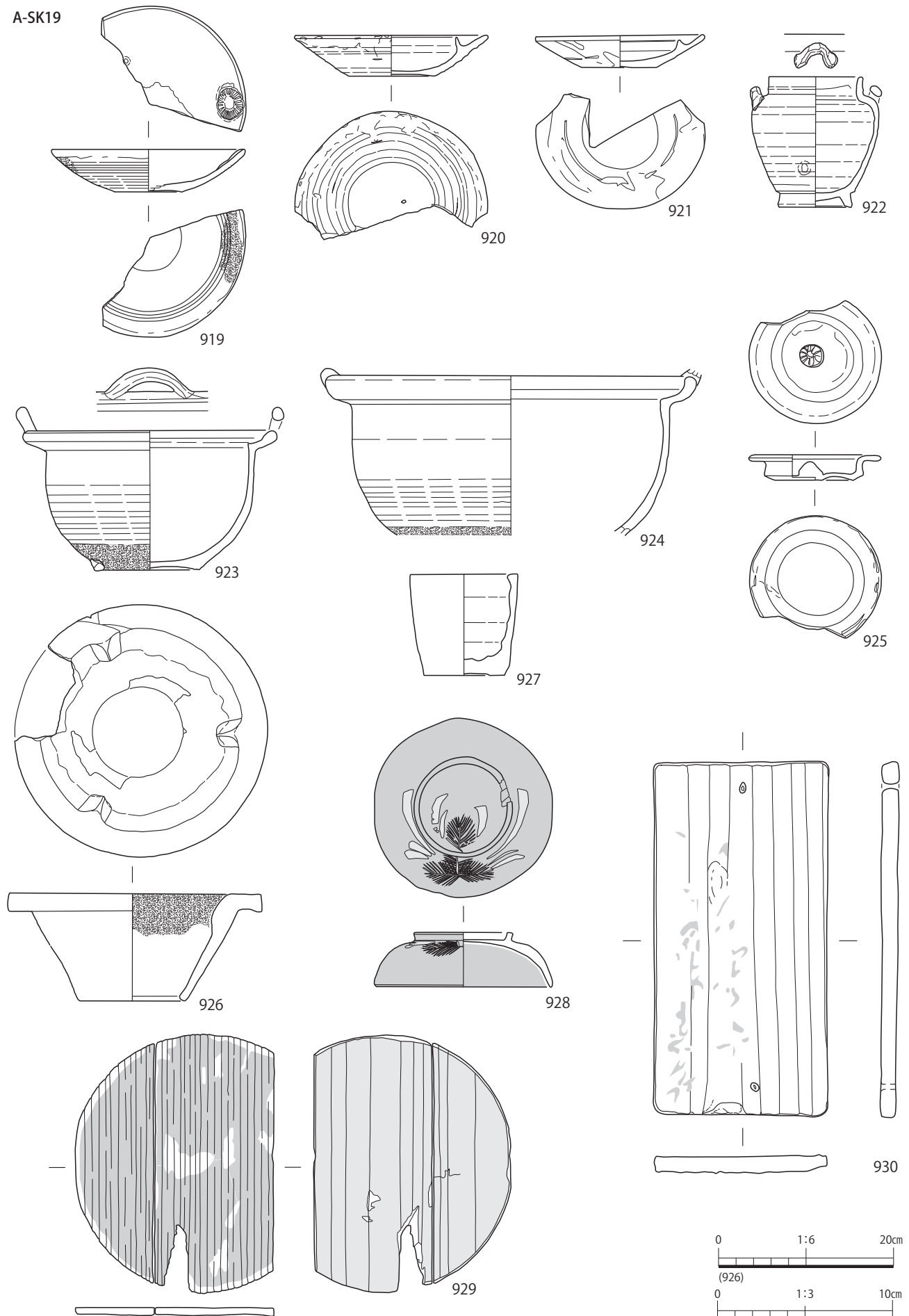
第 185 图 A 地点出土遺物 (8)

A-SK19



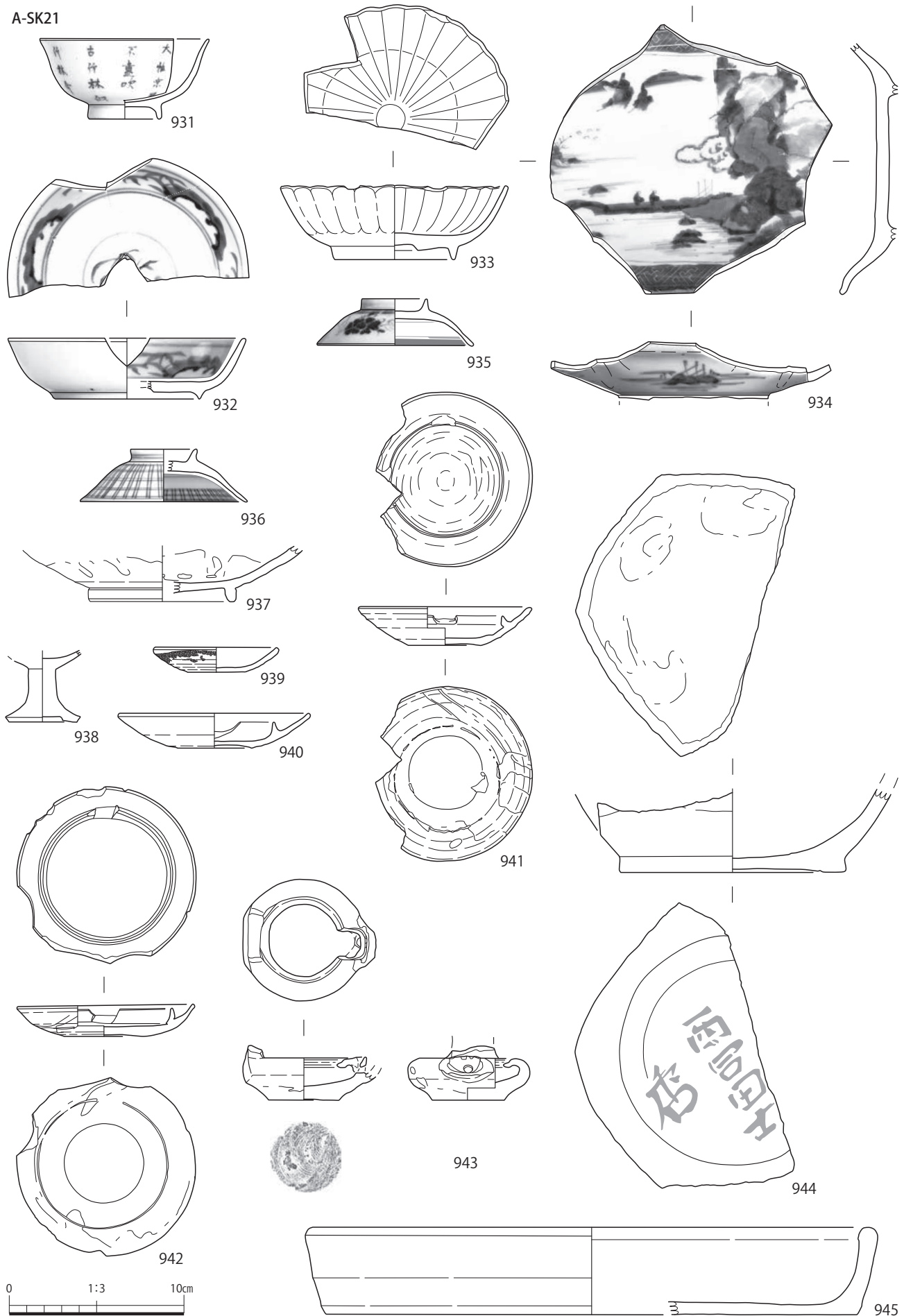
第 186 图 A 地点出土遺物 (9)

A-SK19



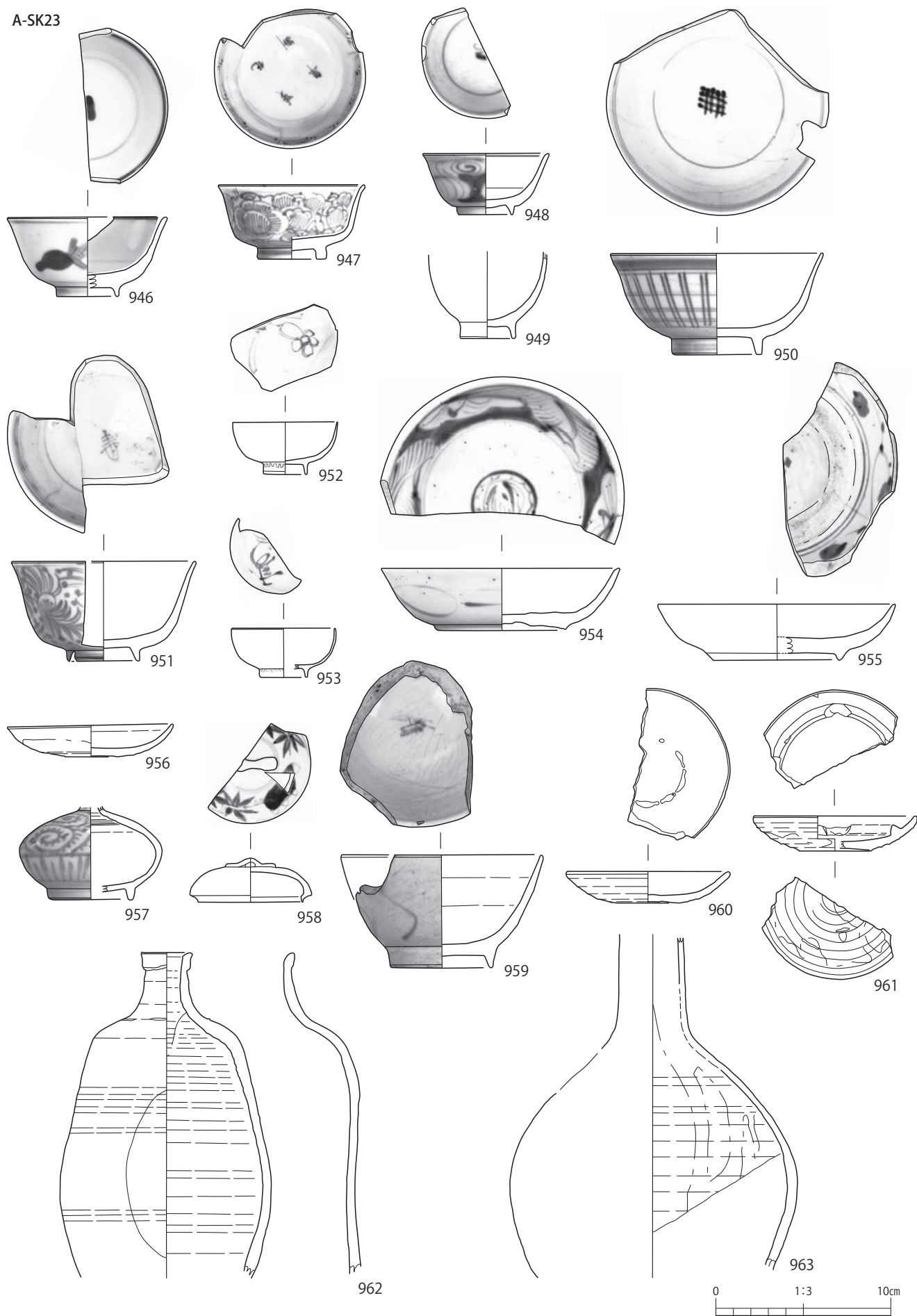
第 187 图 A 地点出土遺物 (10)

A-SK21



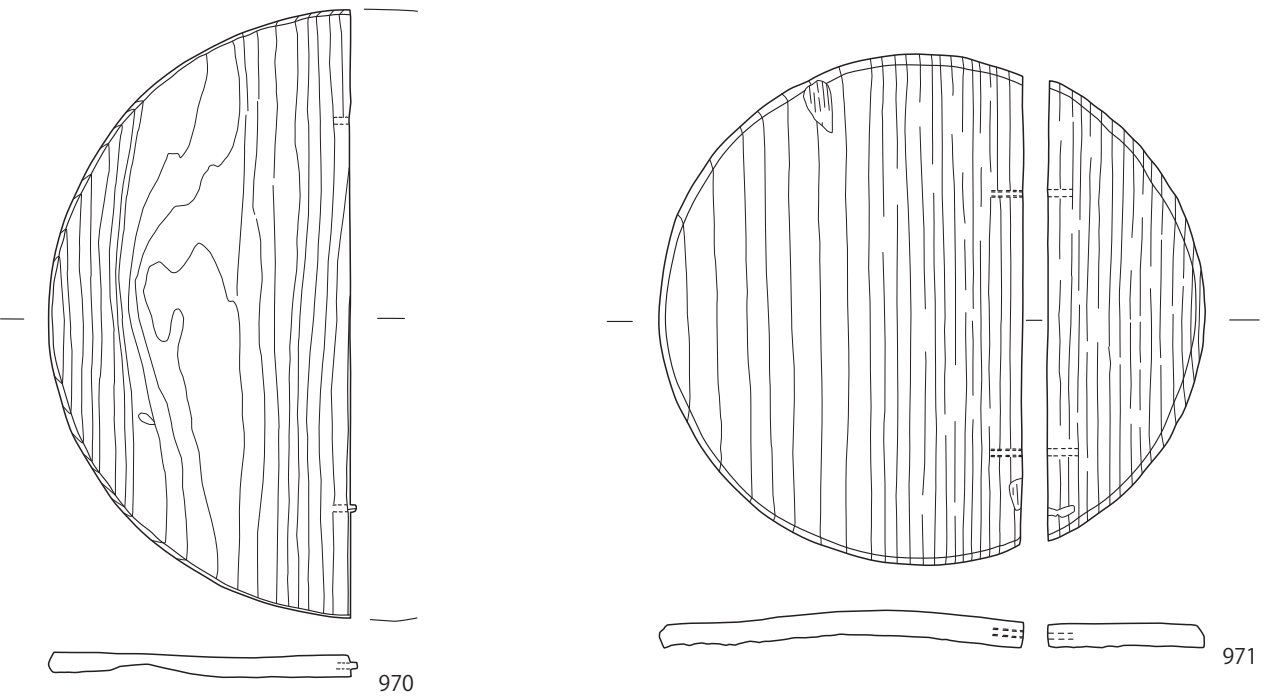
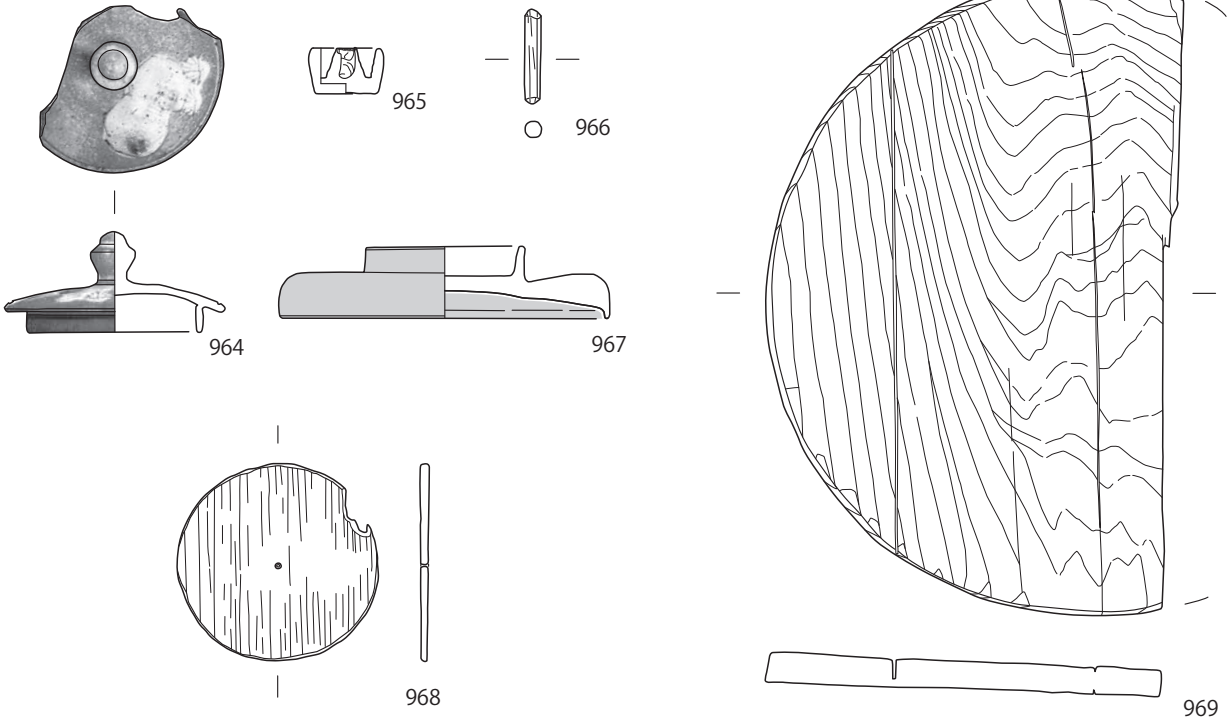
第 188 图 A 地点出土遺物 (11)

A-SK23

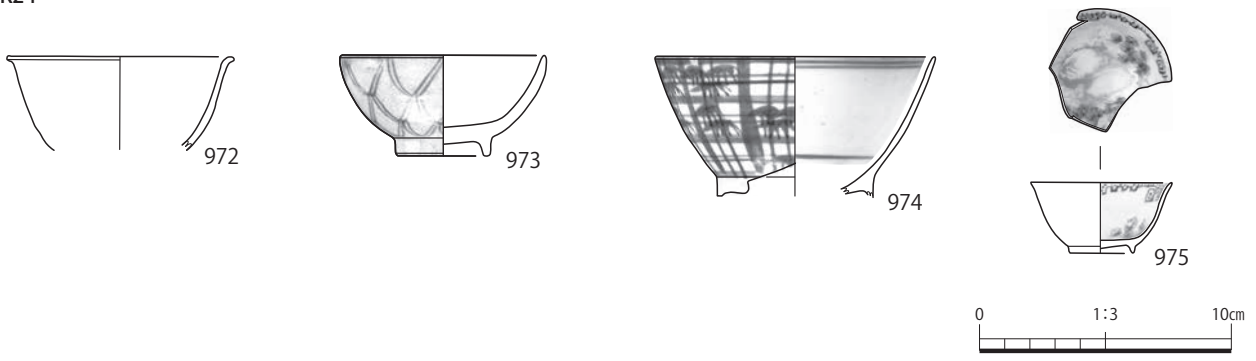


第 189 图 A 地点出土遺物 (12)

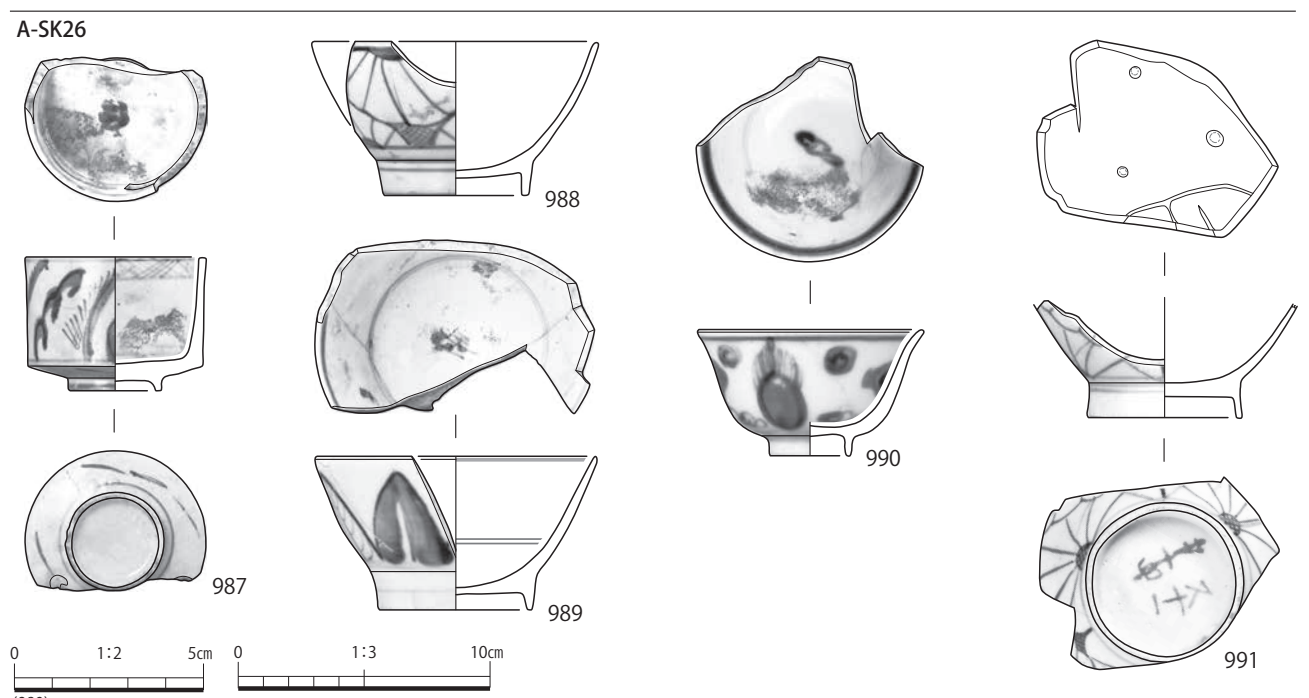
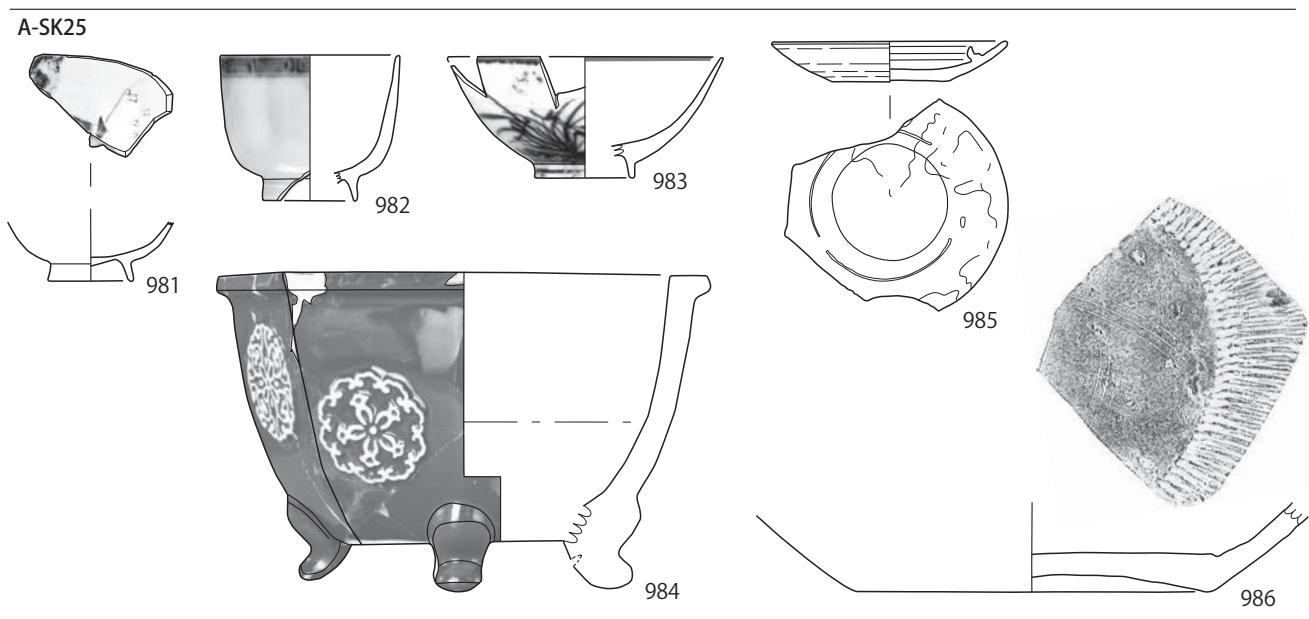
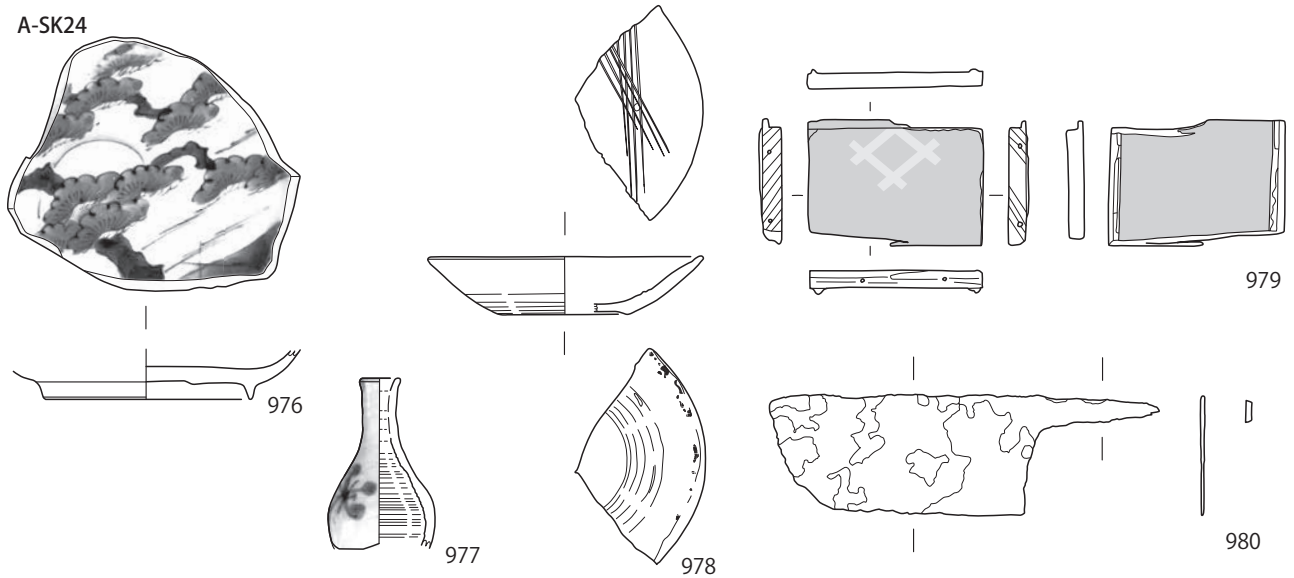
A-SK23



A-SK24

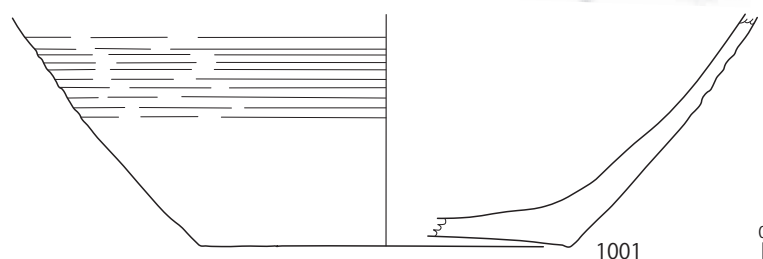
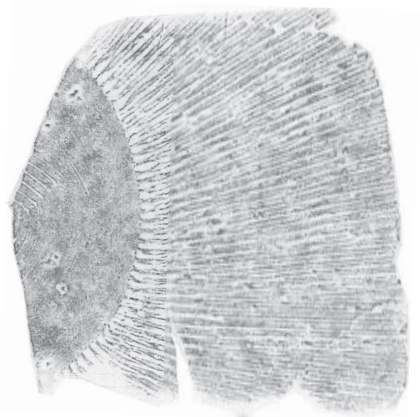
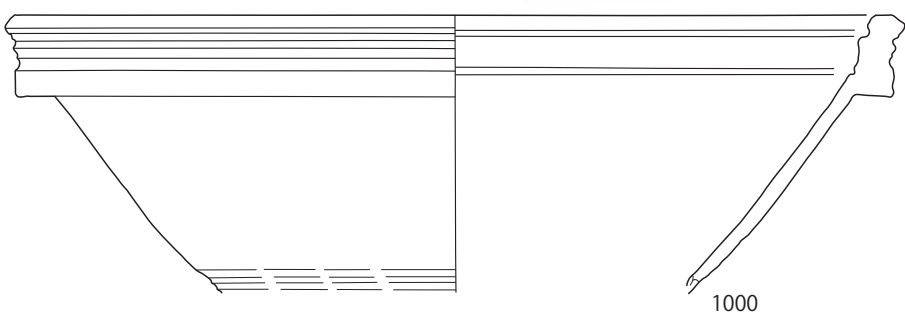
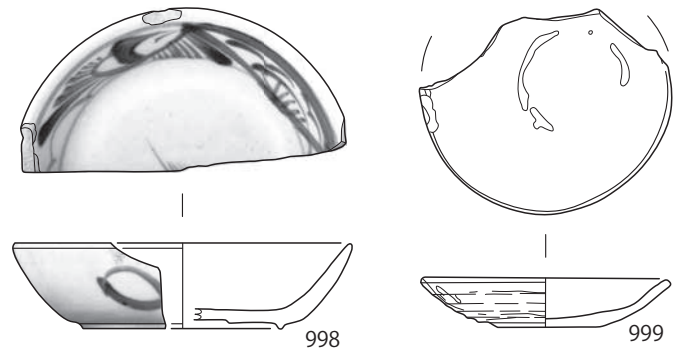
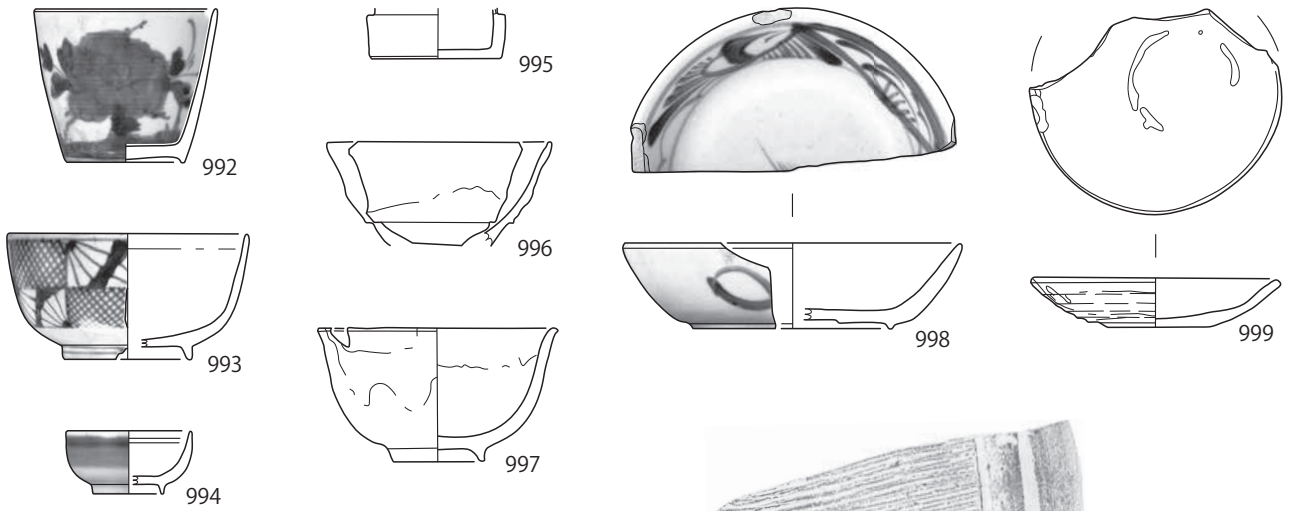


第 190 图 A 地点出土遺物 (13)



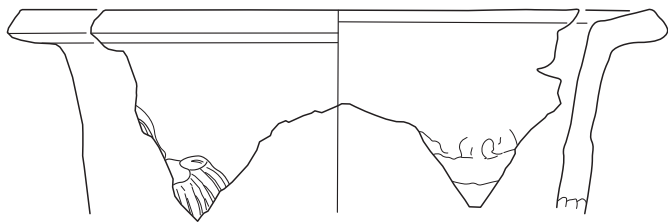
第191图 A地点出土遺物(14)

A-SK26

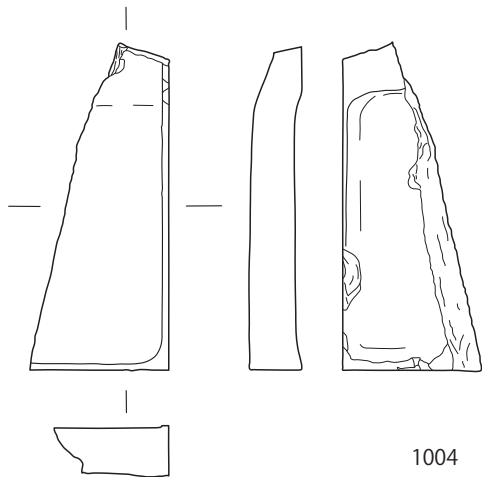


第 192 图 A 地点出土遺物 (15)

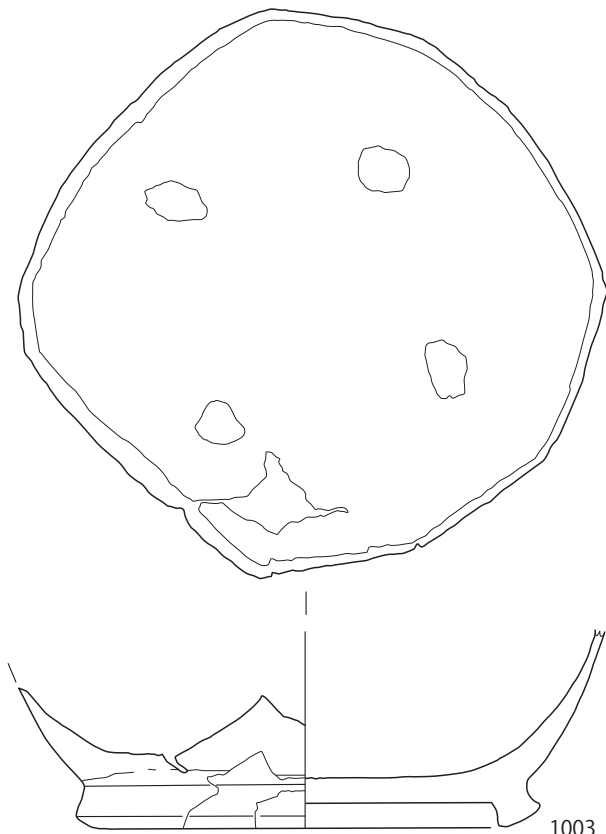
A-SK26



1002



1004



1003

A-SK29



1005



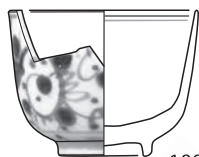
1006



1007



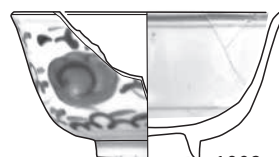
1009



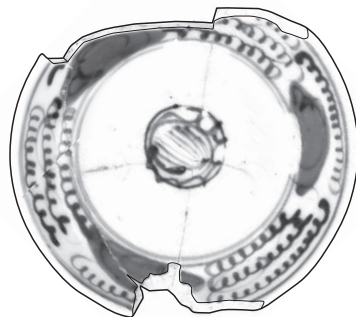
1010



1007



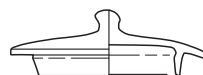
1008



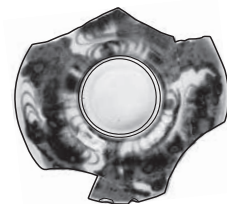
1010



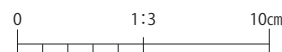
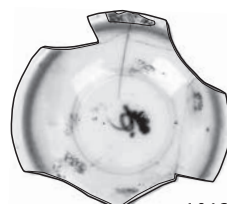
1011



1012

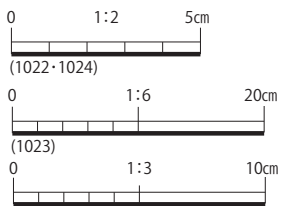
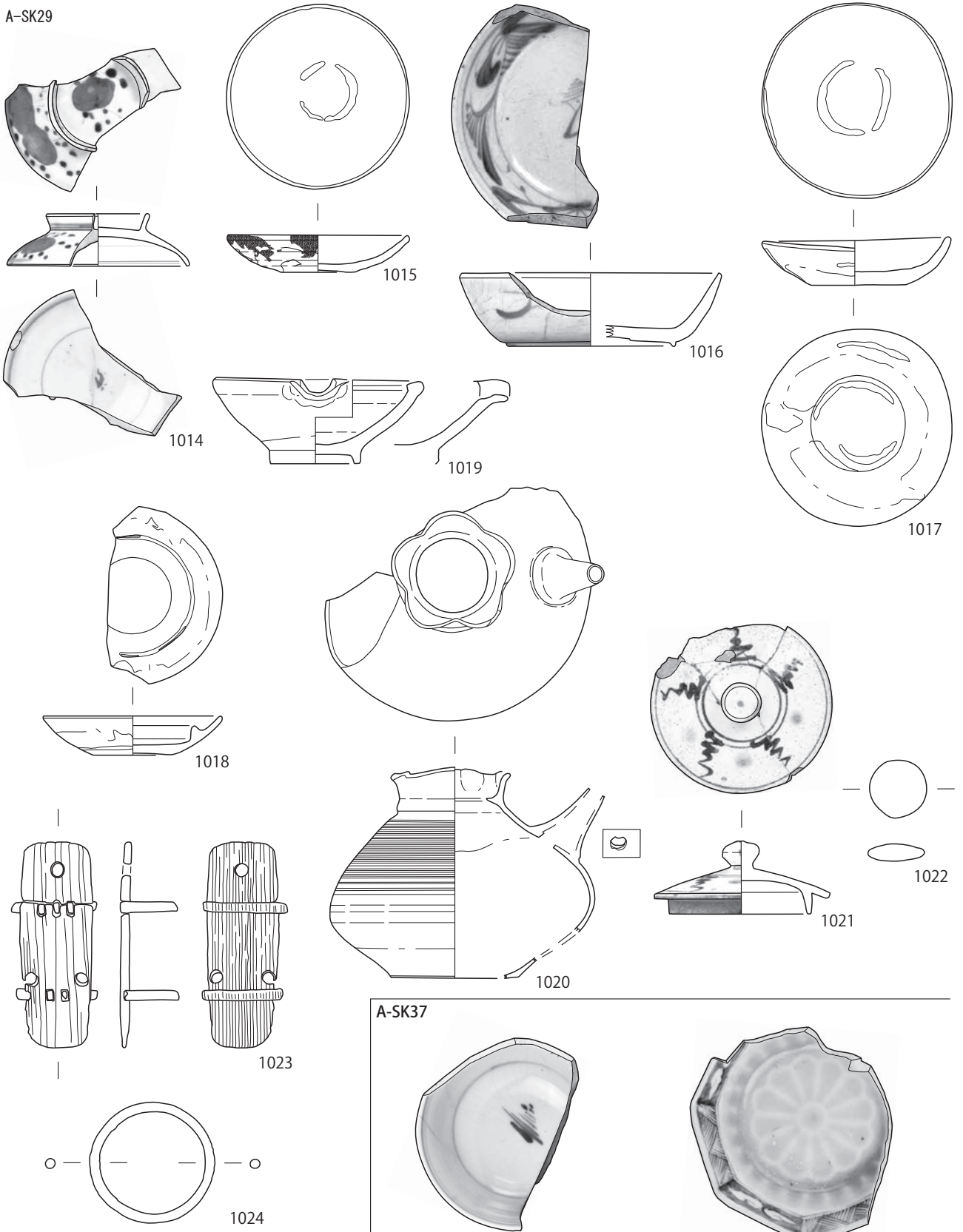


1013

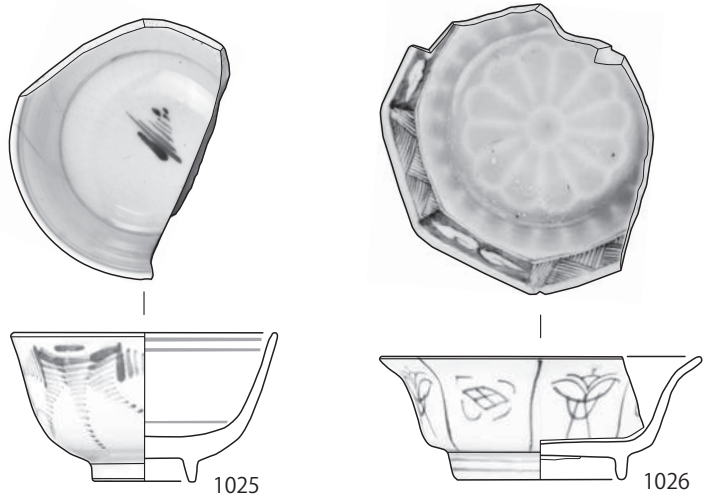


第 193 图 A 地点出土遺物 (16)

A-SK29

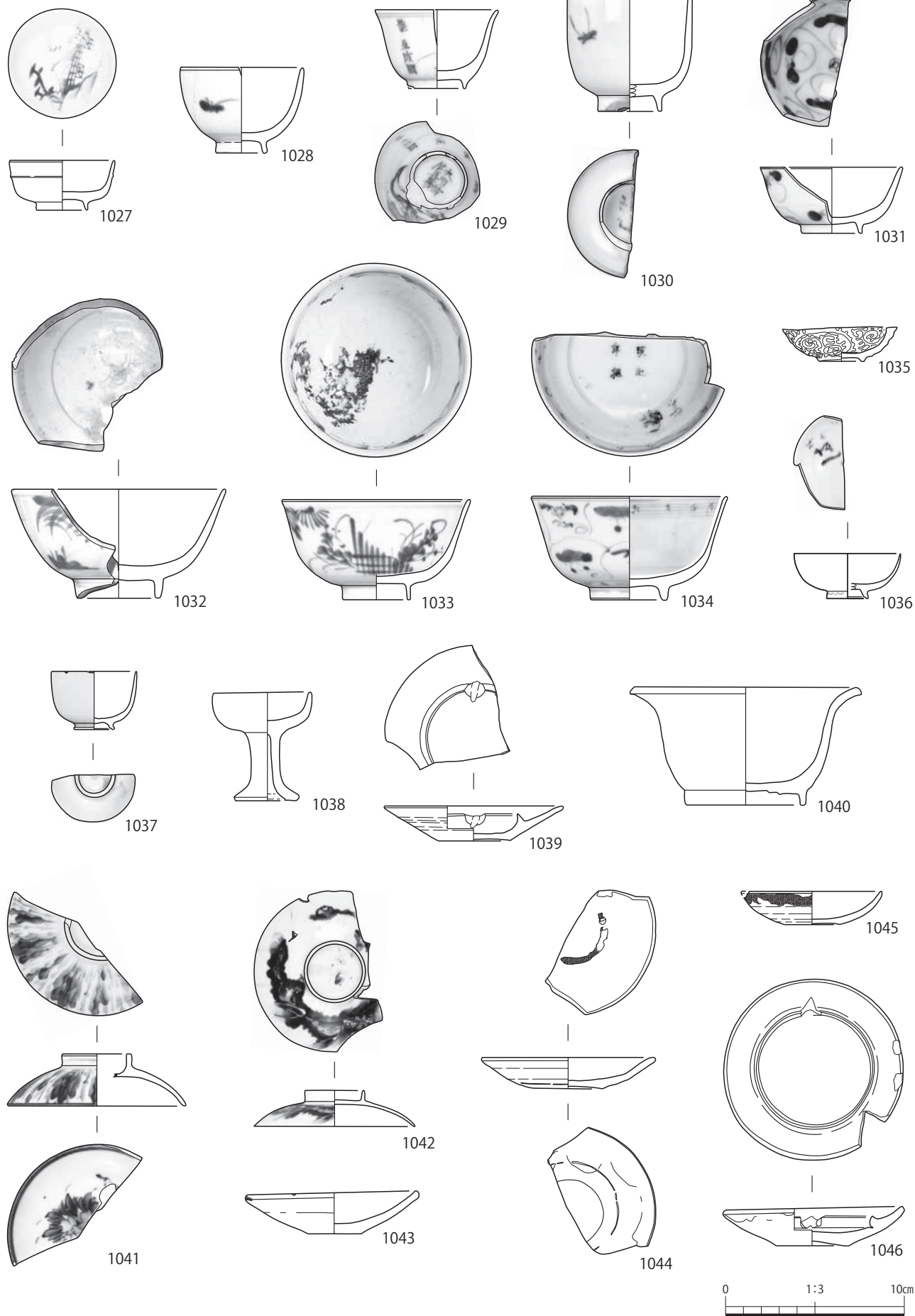


A-SK37



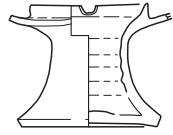
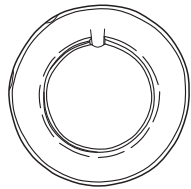
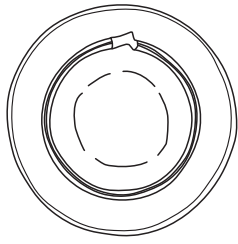
第 194 图 A 地点出土遺物 (17)

A-SK38

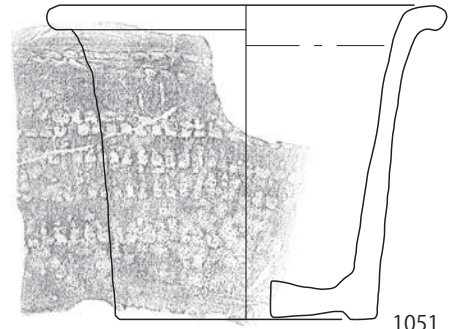


第 195 图 A 地点出土遺物 (18)

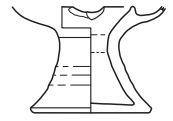
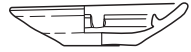
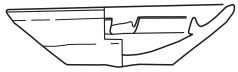
A-SK38



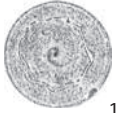
1049



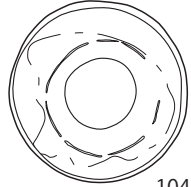
1051



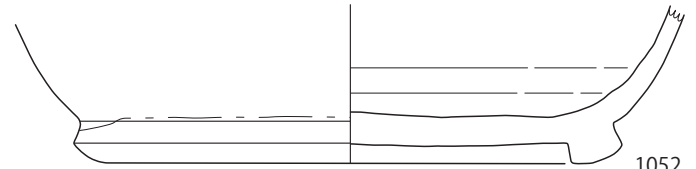
1050



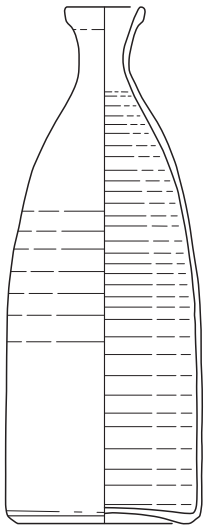
1047



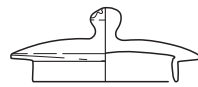
1048



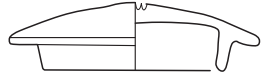
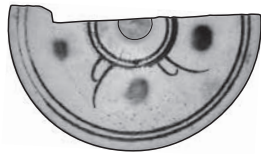
1052



1053



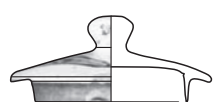
1056



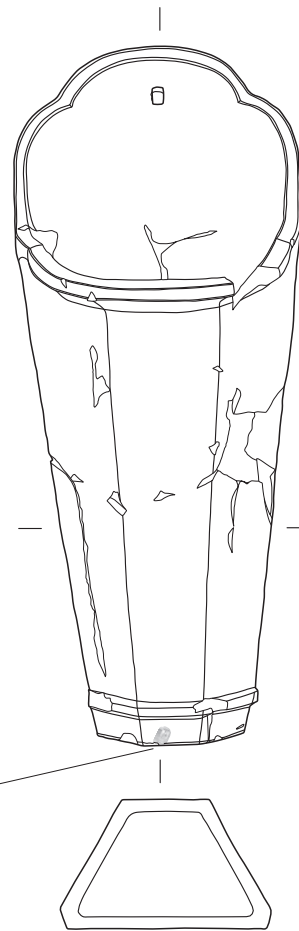
1054



1057



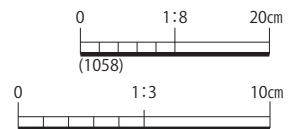
1055



1058



※拓本は原寸大

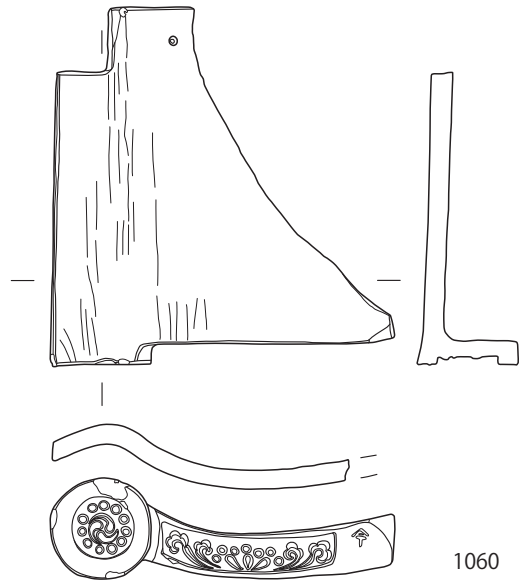


第 196 図 A 地点出土遺物 (19)

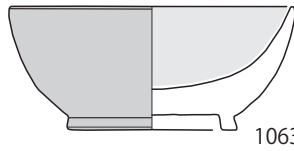
A-SK38



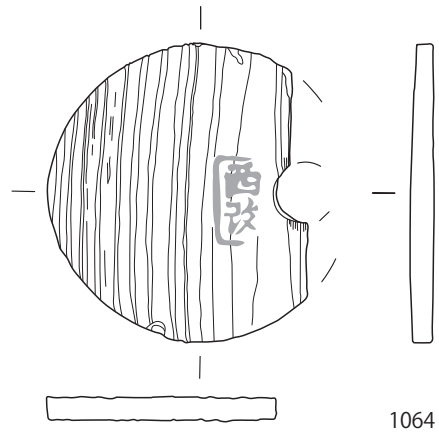
1059



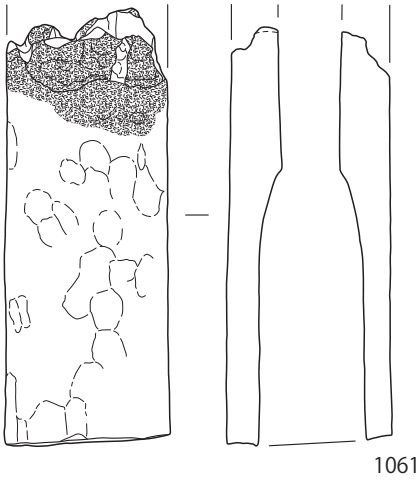
1060



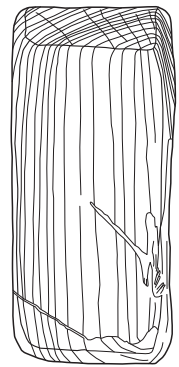
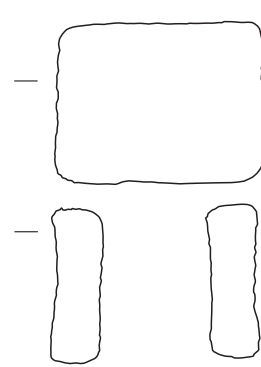
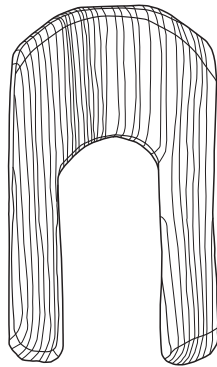
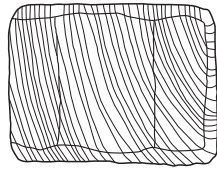
1063



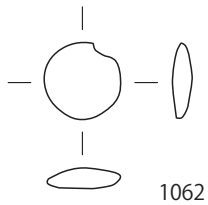
1064



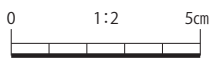
1061



1065



1062



(1062)



(1066)

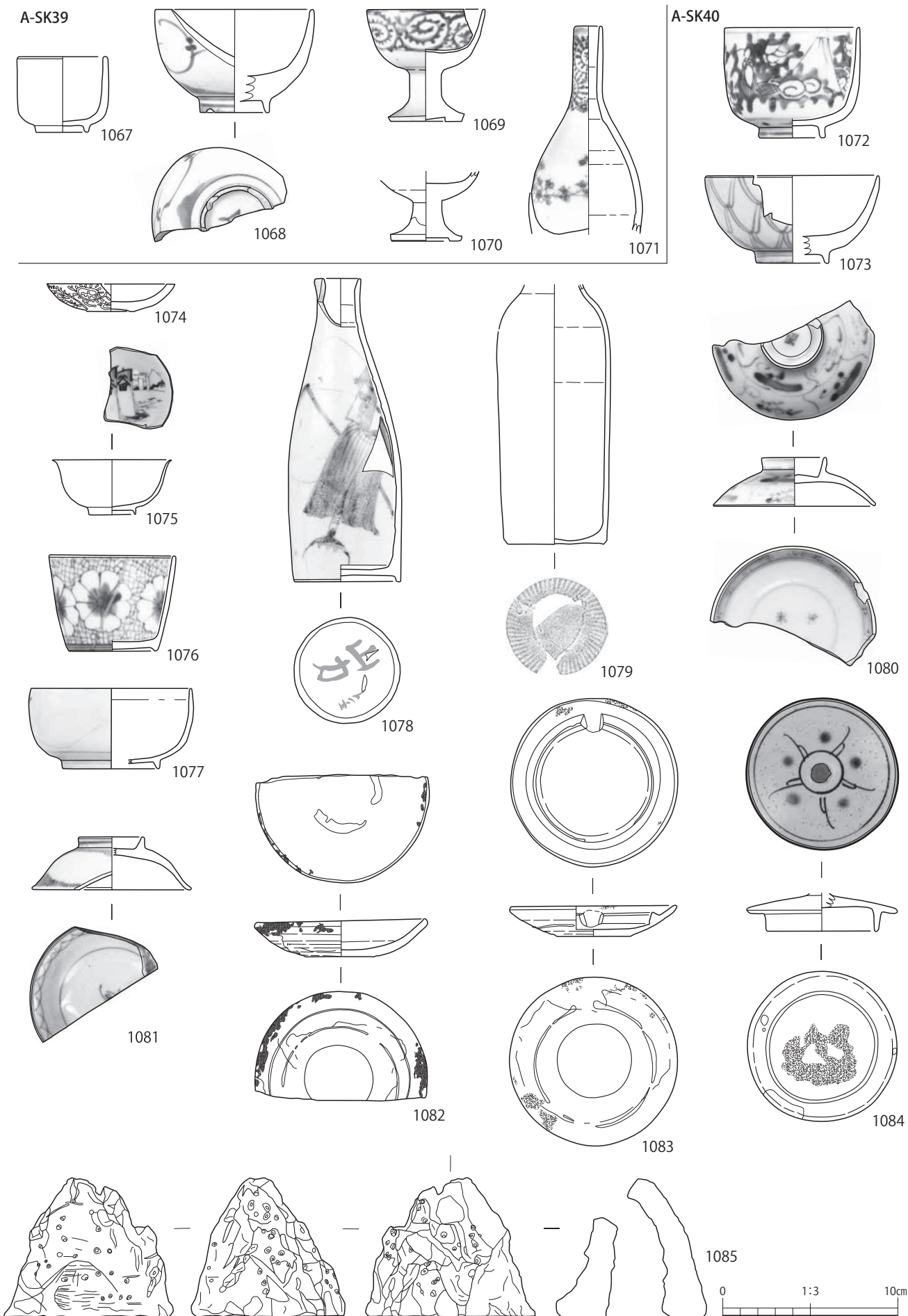


(1059·1060)



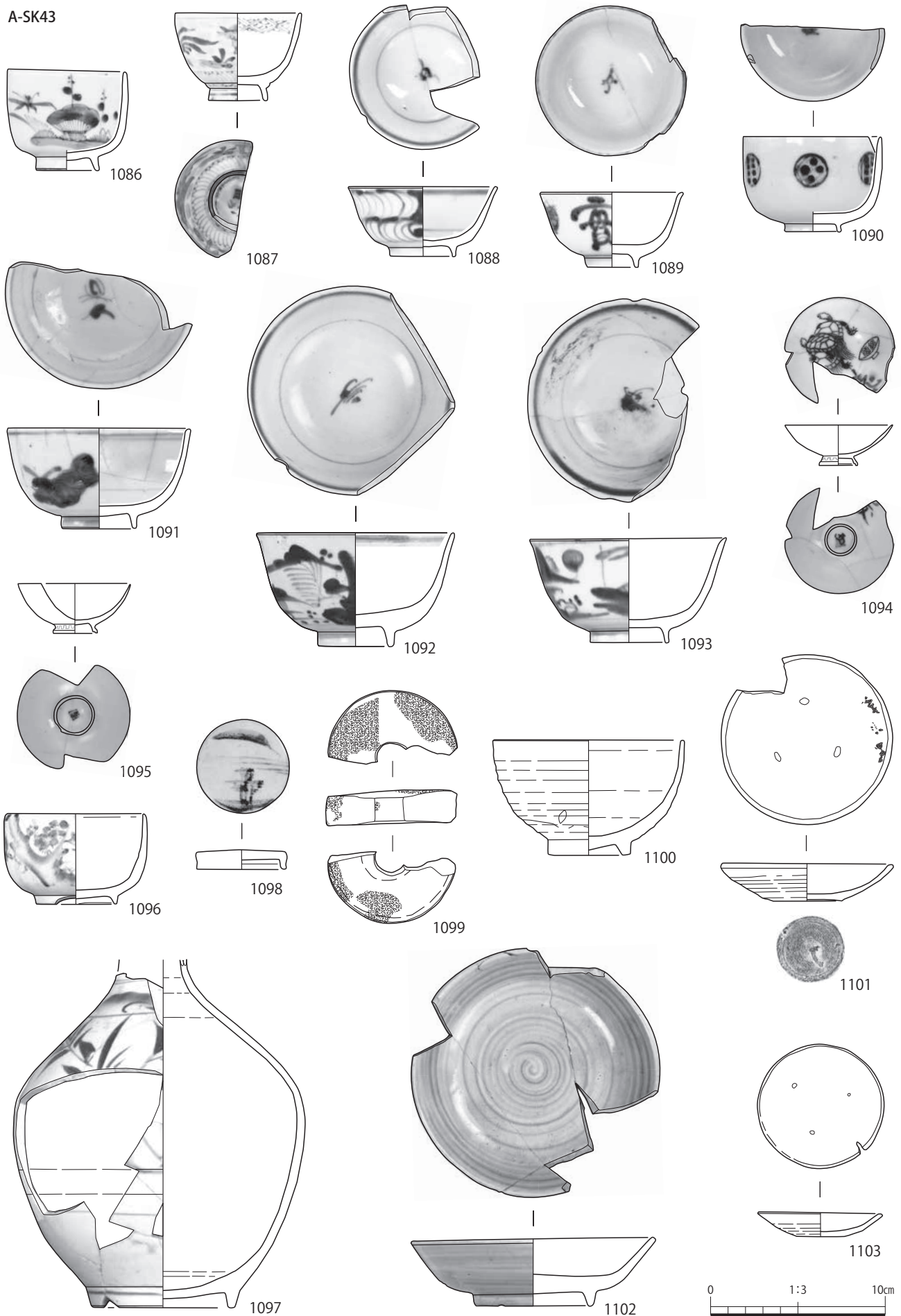
1066

第 197 图 A 地点出土遺物 (20)



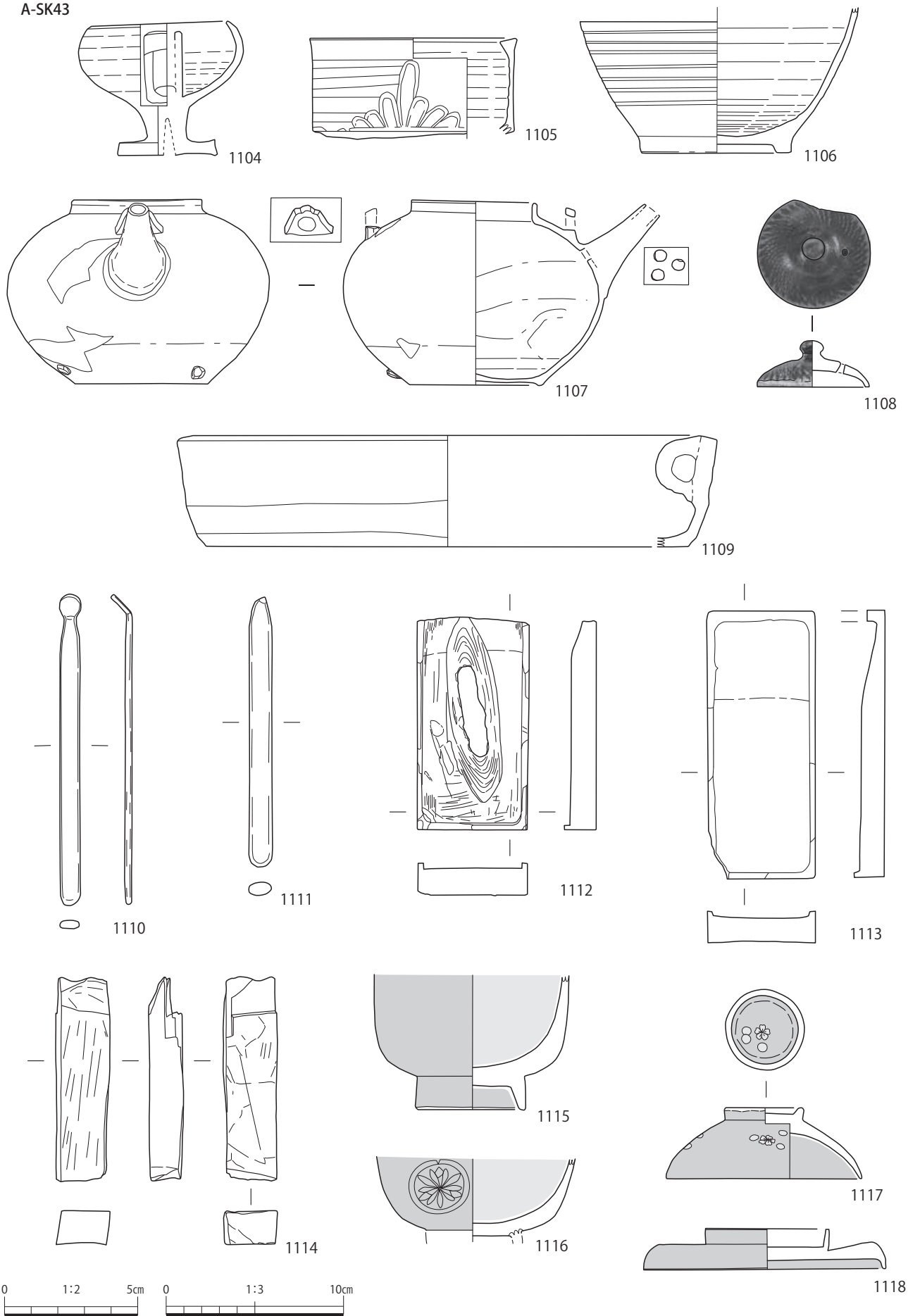
第 198 图 A 地点出土遗物 (21)

A-SK43



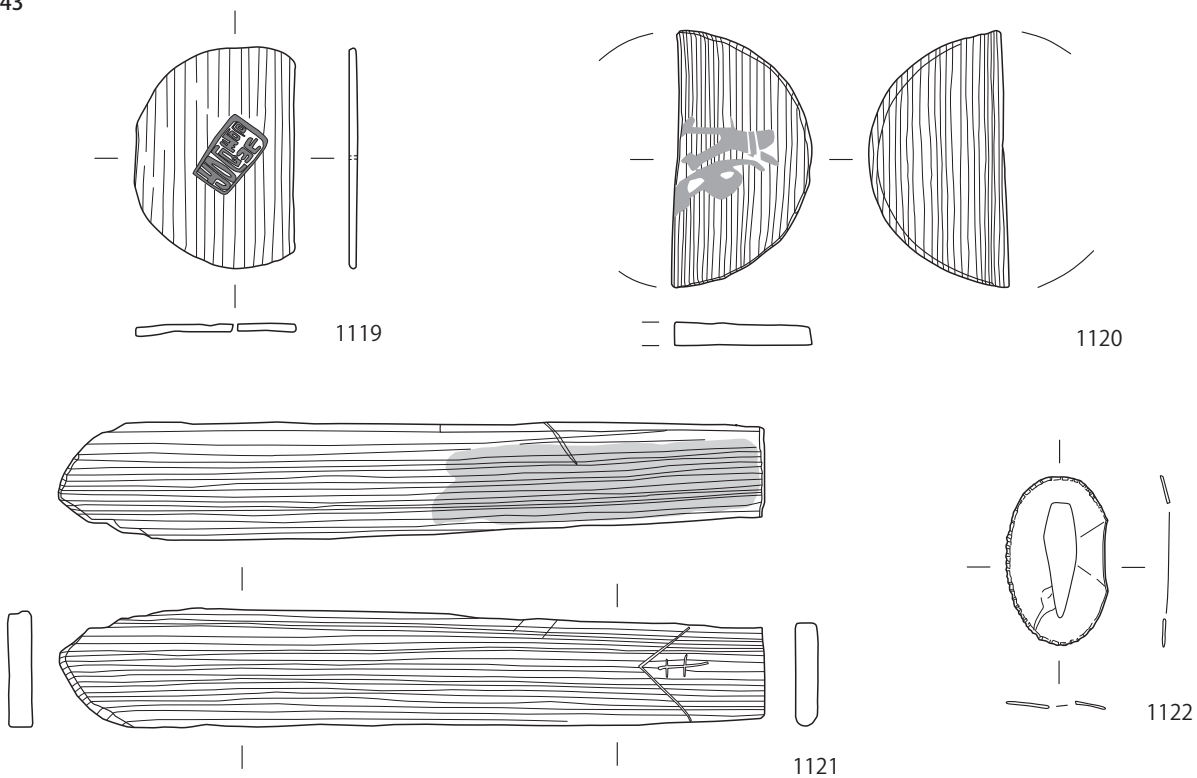
第 199 图 A 地点出土遺物 (22)

A-SK43

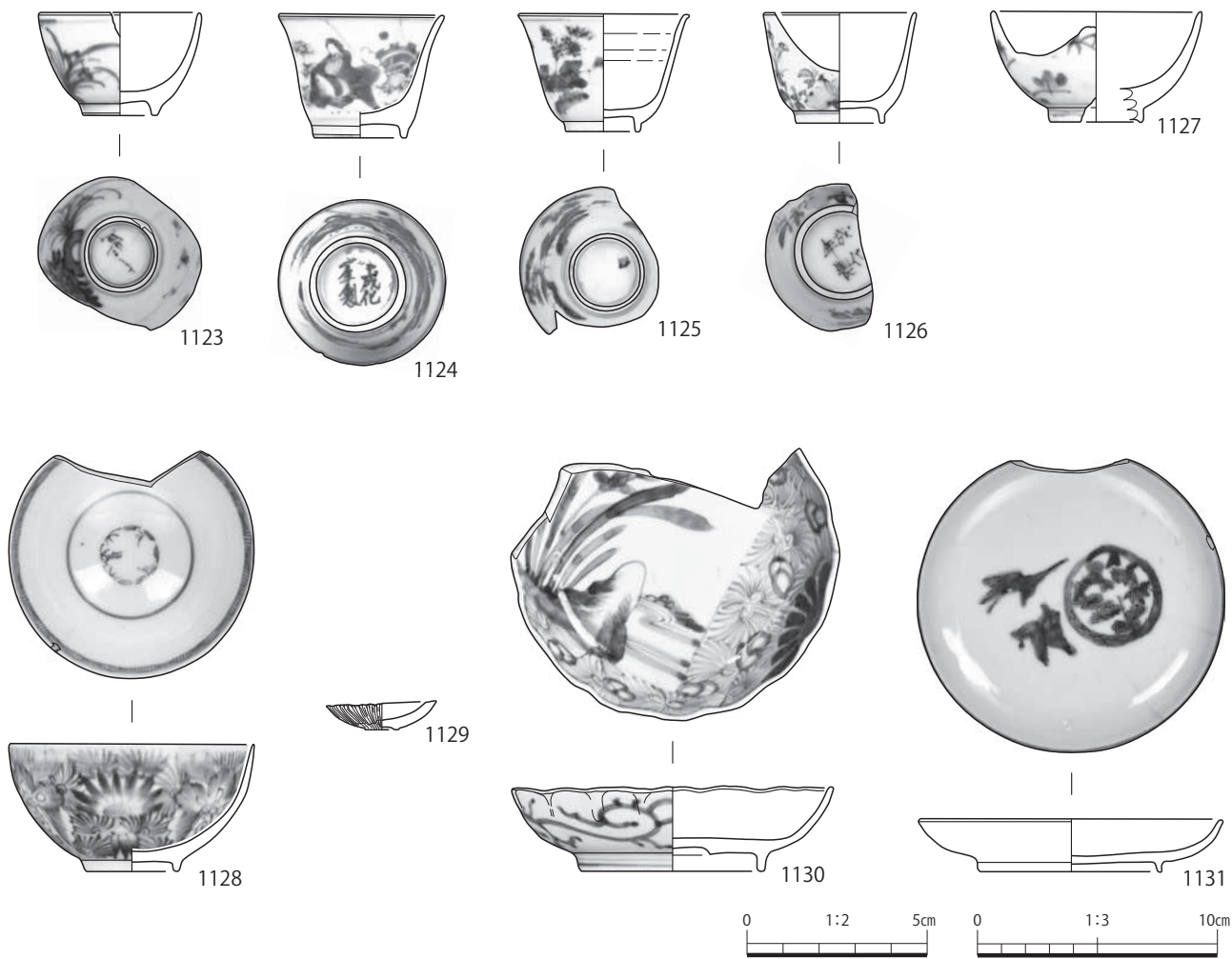


第 200 图 A地点出土遺物 (23)

A-SK43

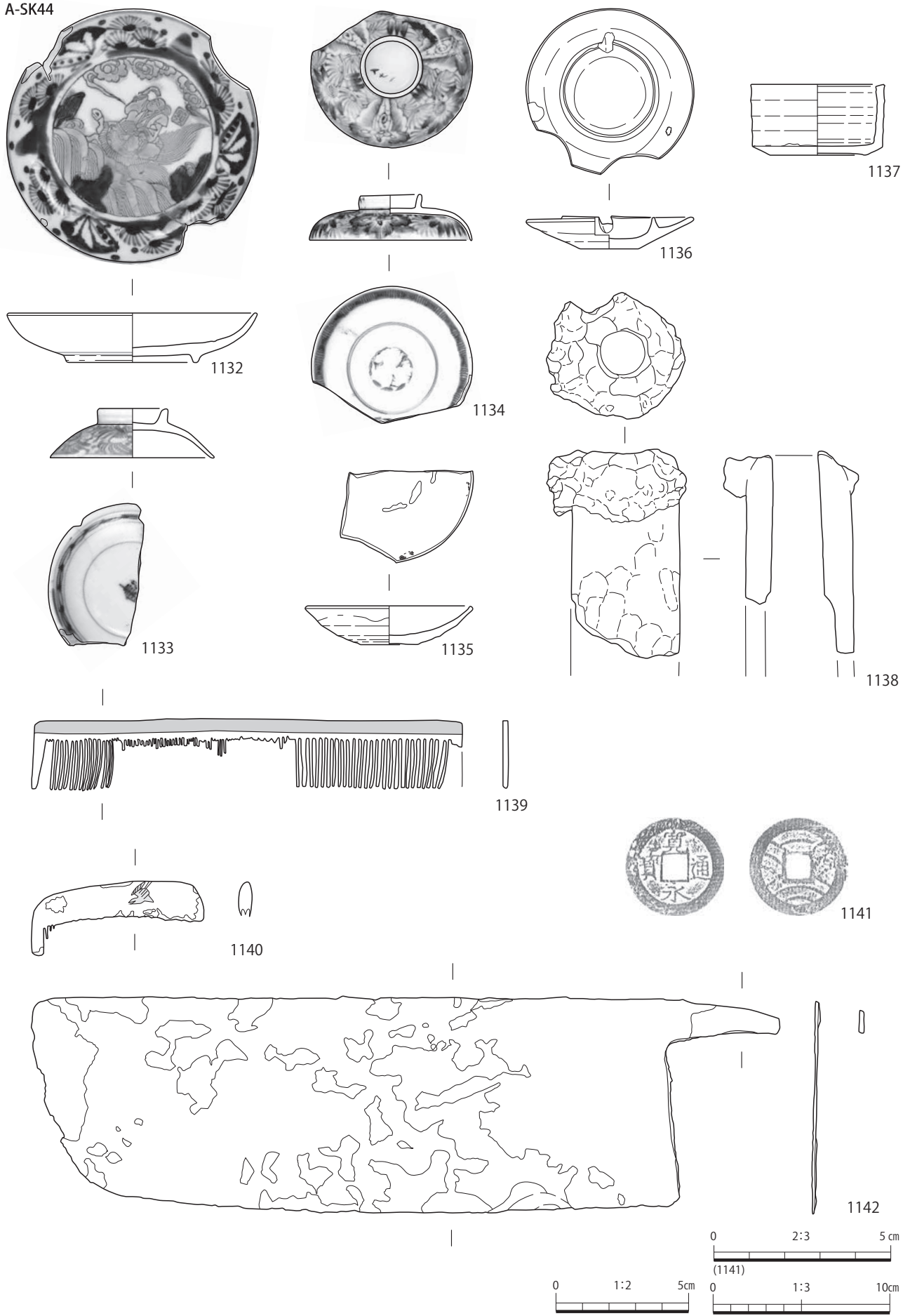


A-SK44



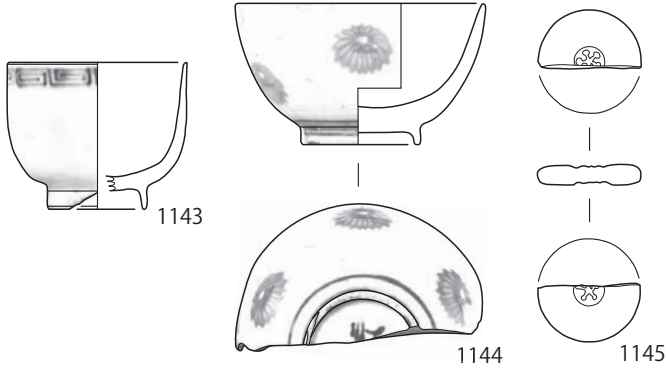
第 201 図 A 地点出土遺物 (24)

A-SK44

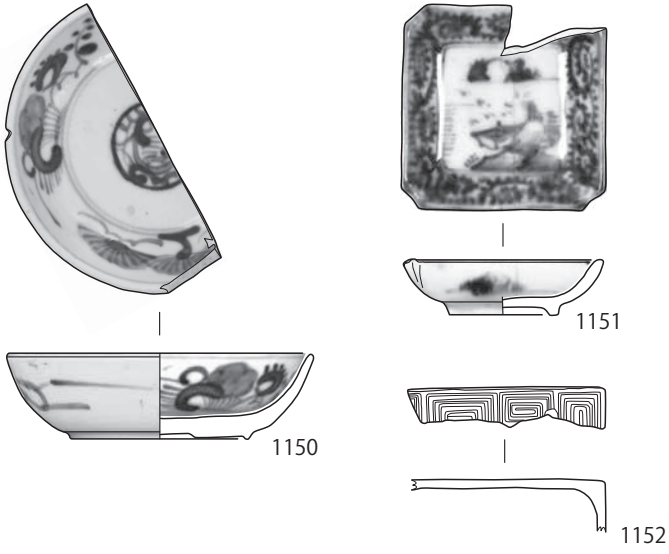
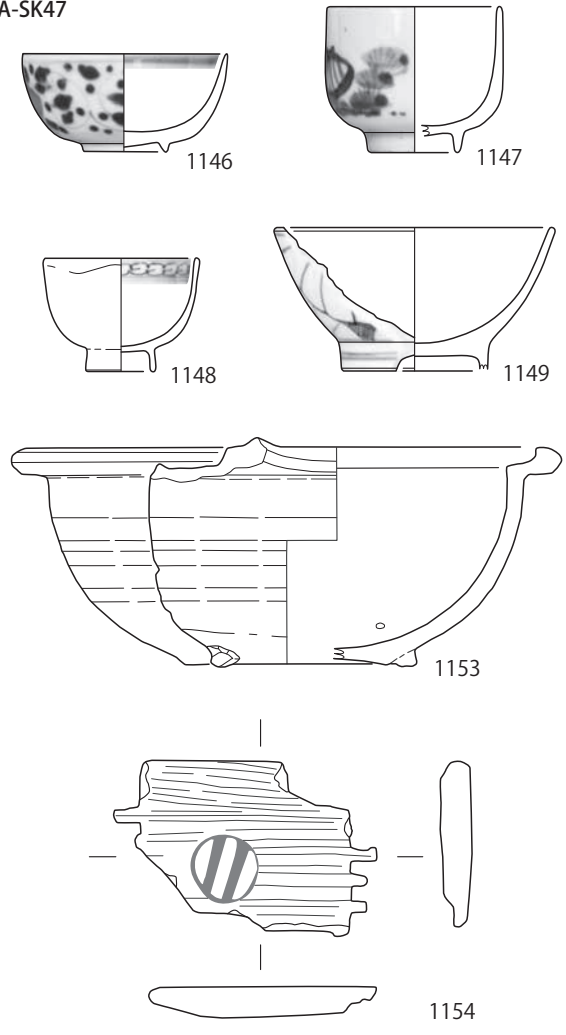


第 202 图 A地点出土遺物 (25)

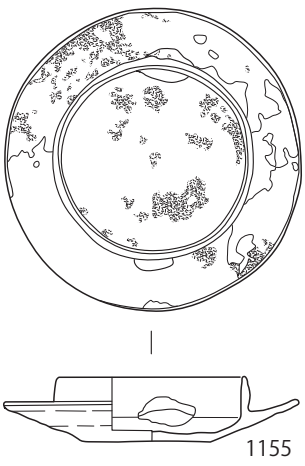
A-SK45



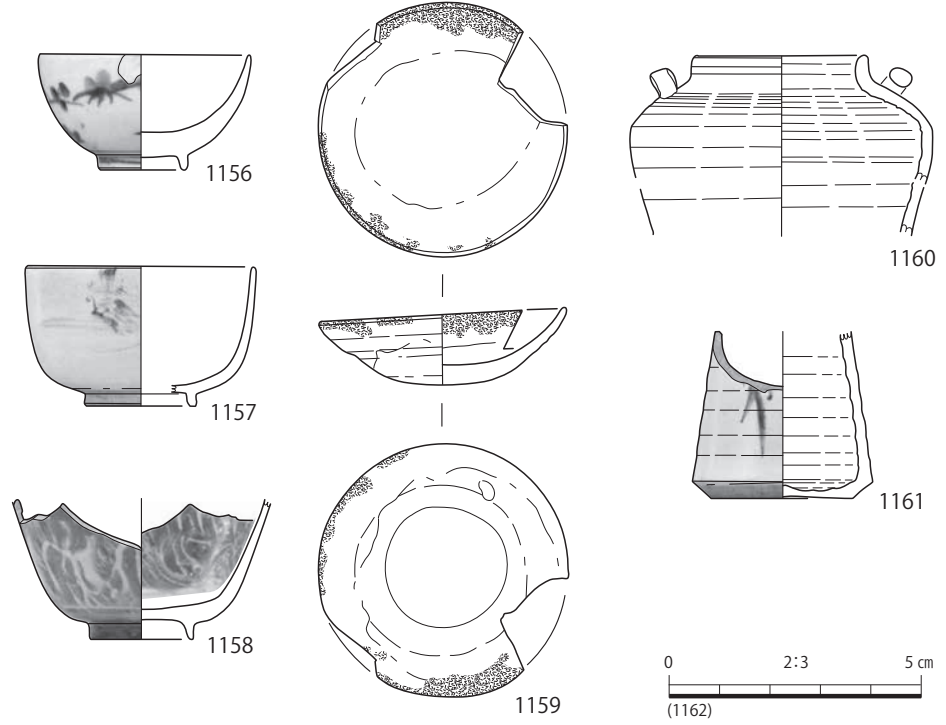
A-SK47



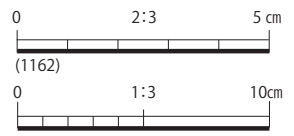
A-SK49



A-SK60

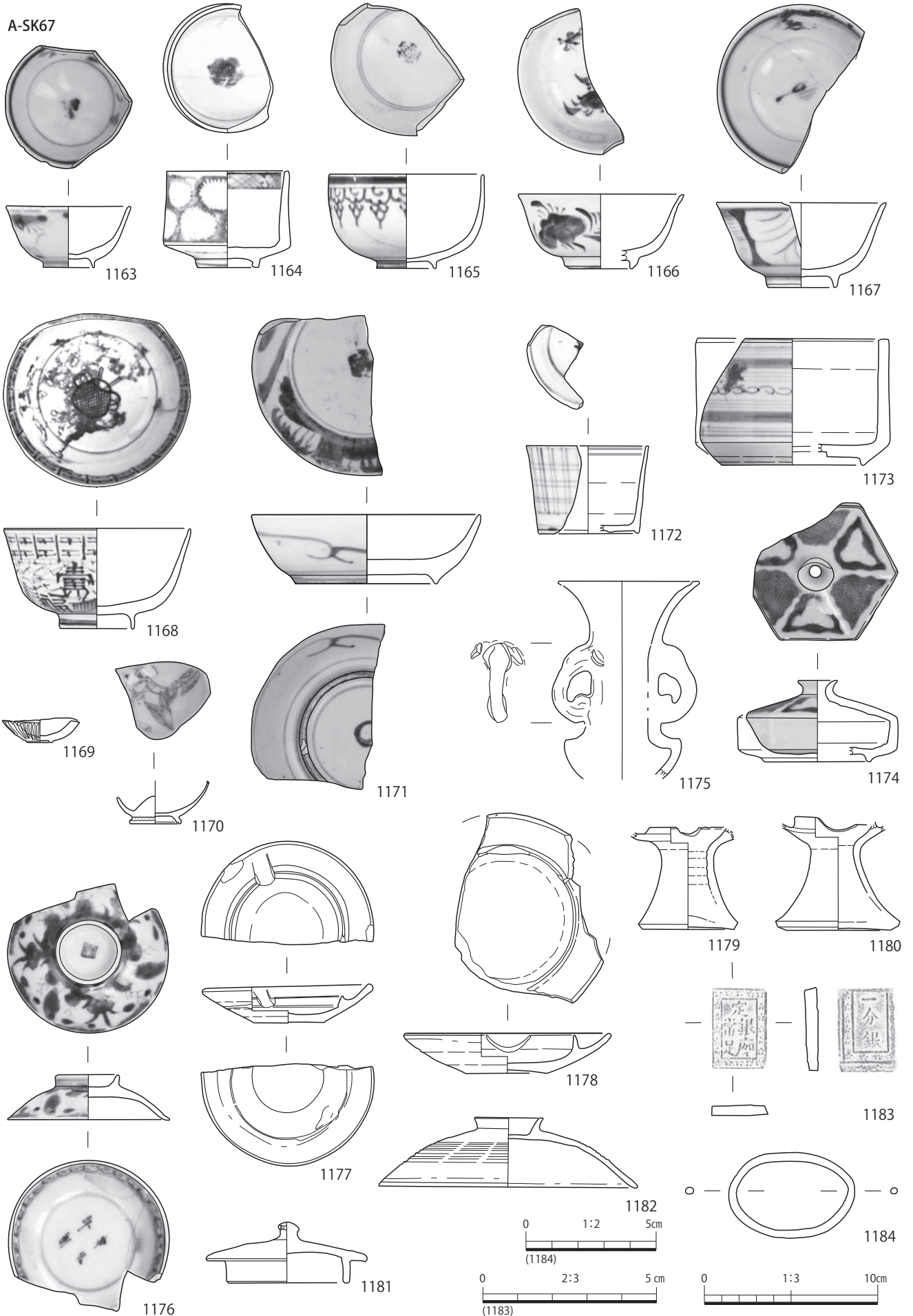


A-SK66



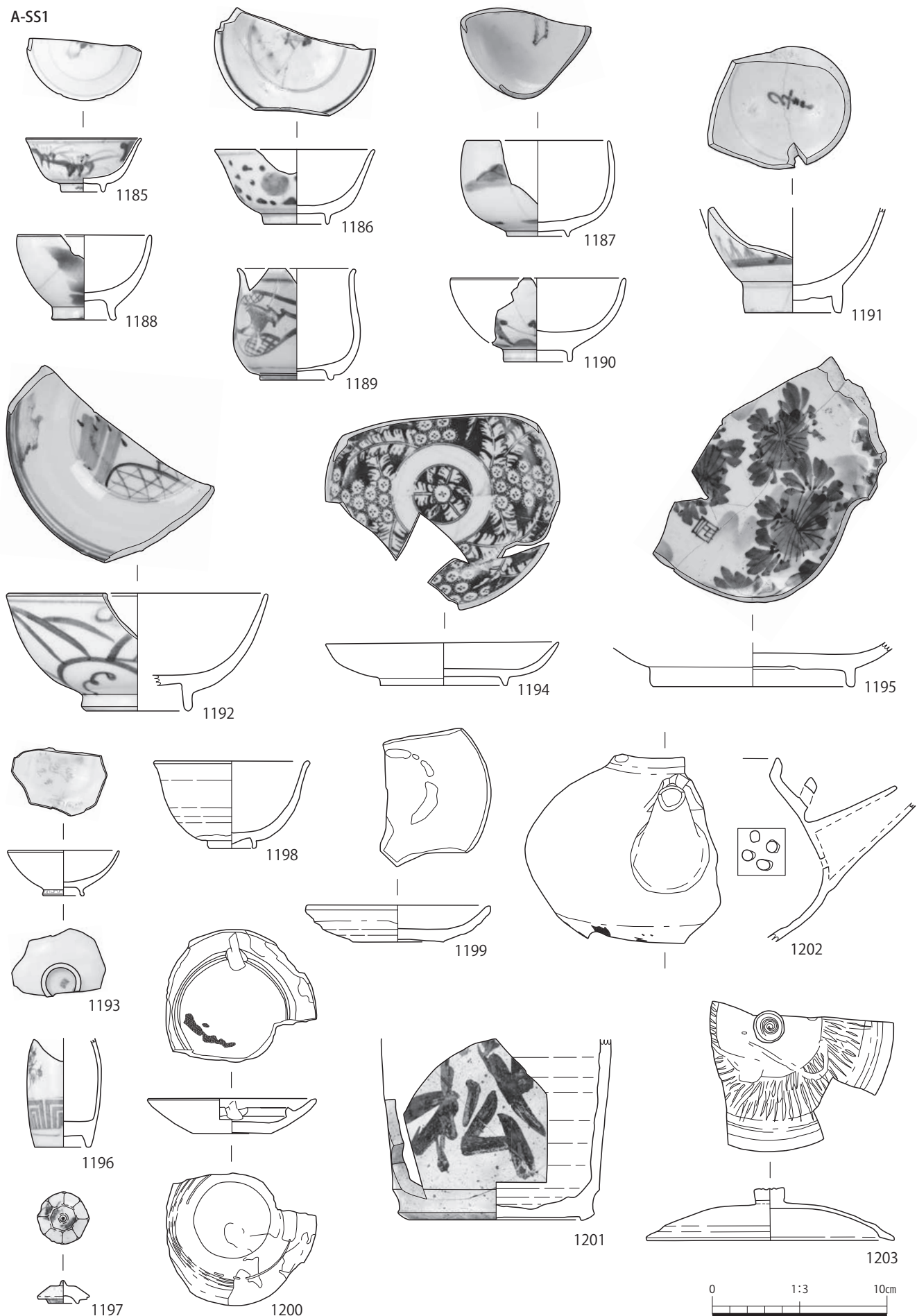
第 203 图 A 地点出土遺物 (26)

A-SK67



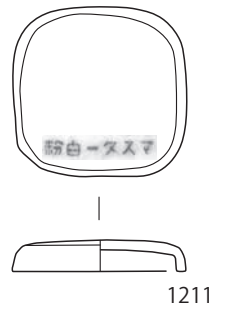
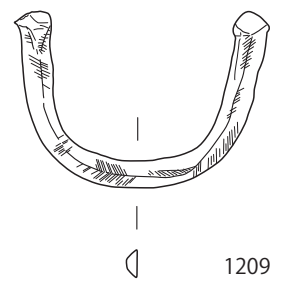
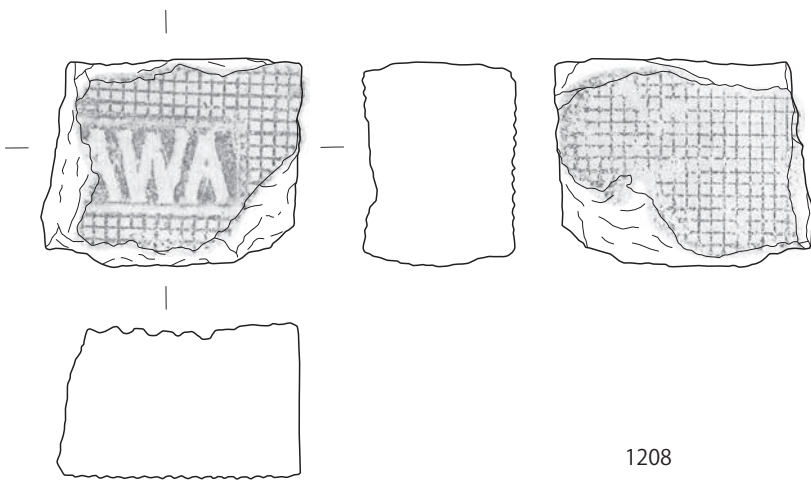
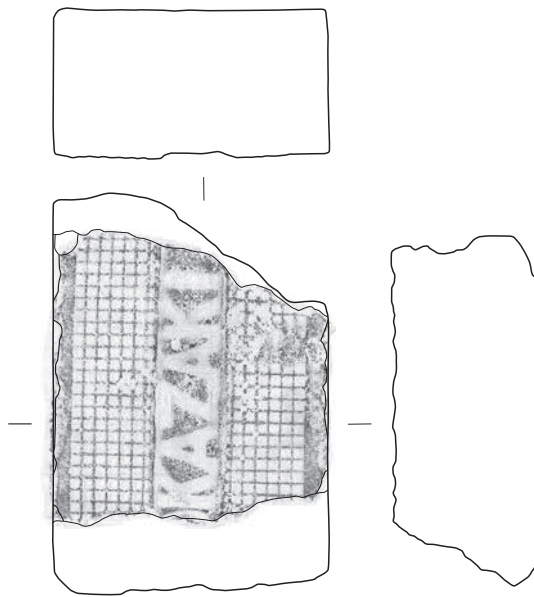
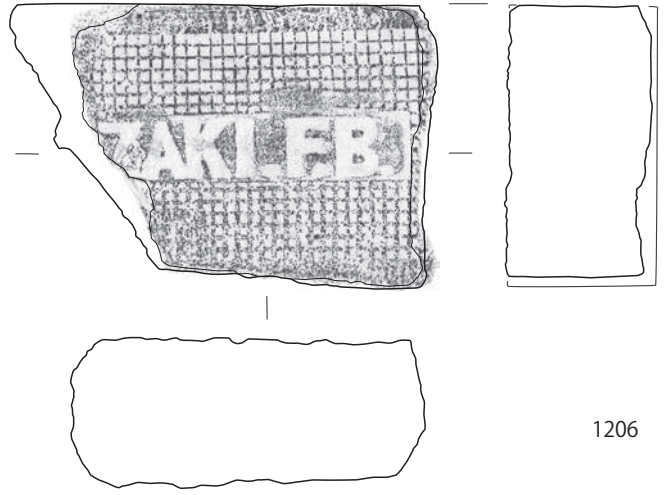
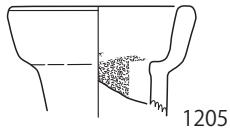
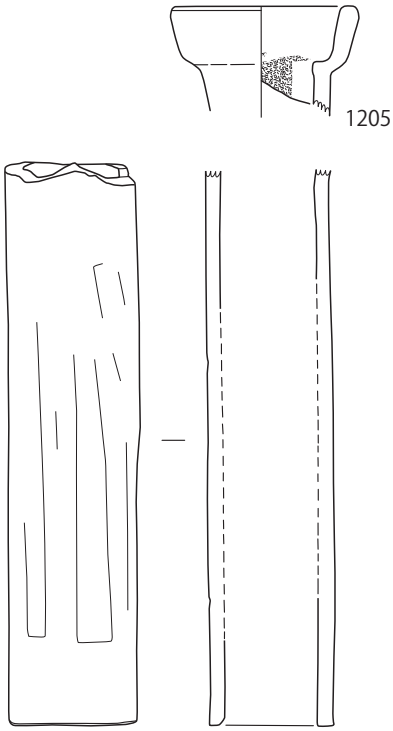
第 204 图 A 地点出土遺物 (27)

A-SS1



第 205 图 A 地点出土遗物 (28)

A-SS1



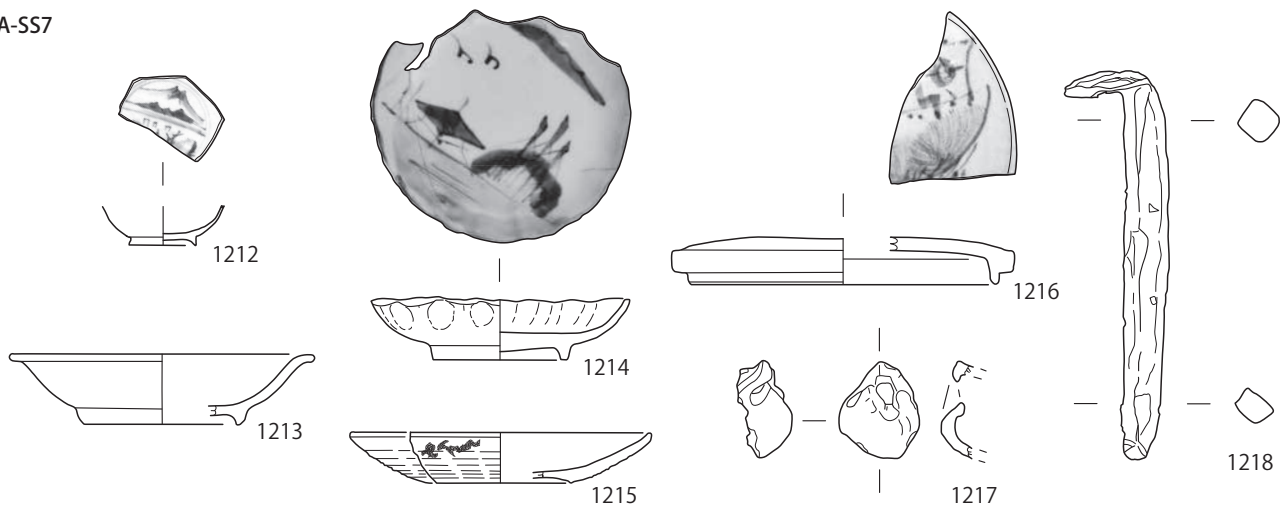
0 1:2 5cm
(1209)

0 1:3 10cm

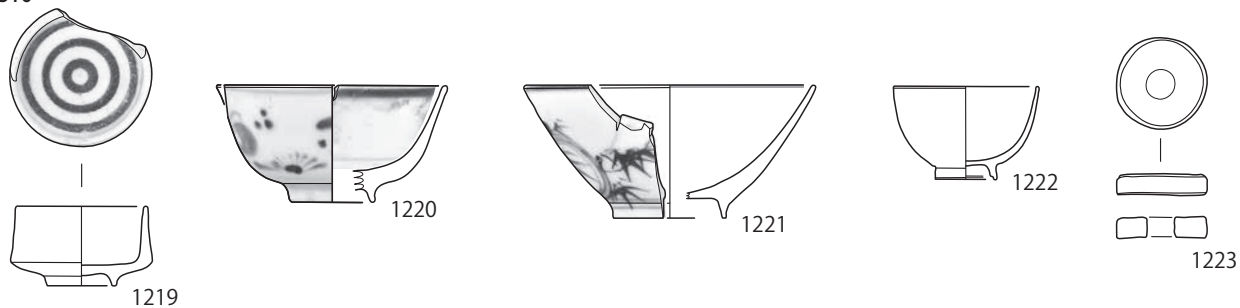
0 1:6 20cm
(1204-1205)

第 206 図 A 地点出土遺物 (29)

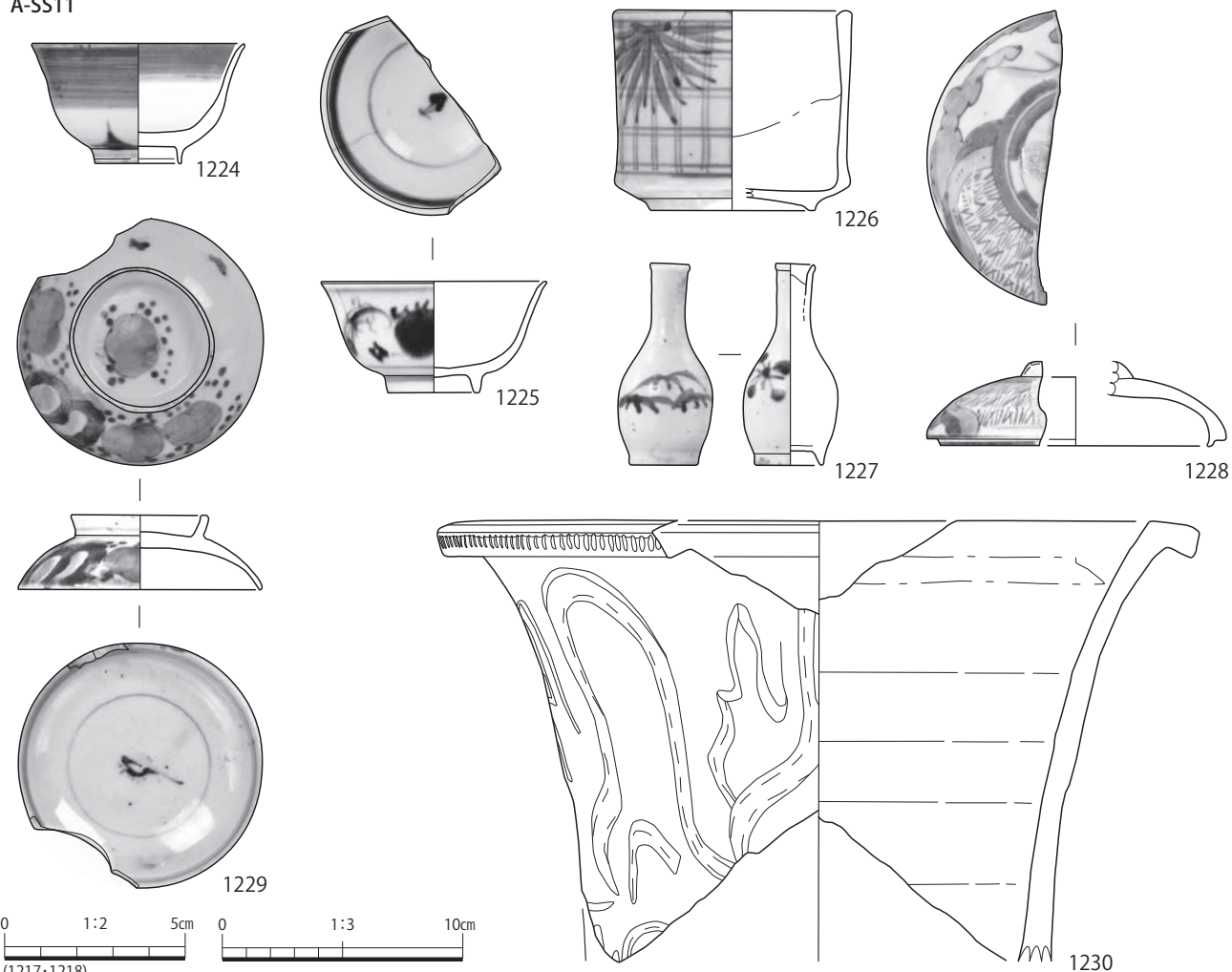
A-SS7



A-SS10

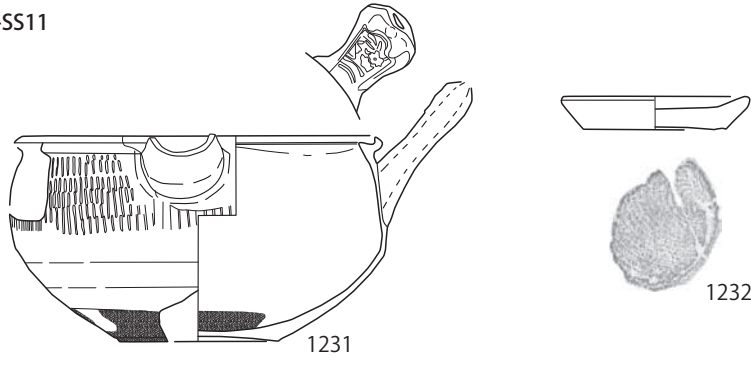


A-SS11

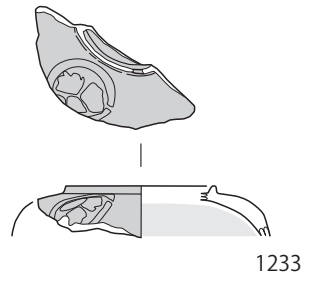


第 207 图 A 地点出土遺物 (30)

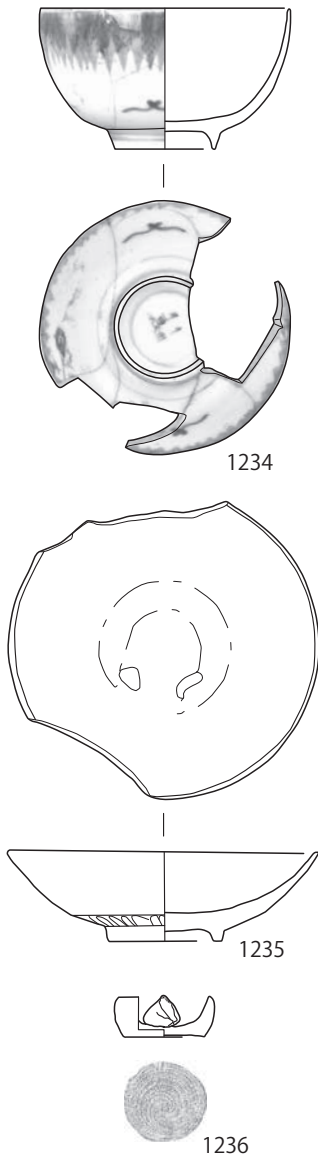
A-SS11



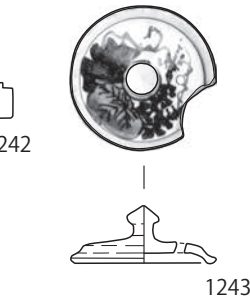
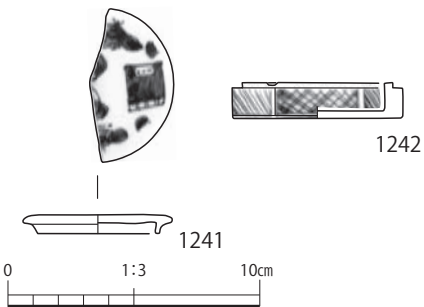
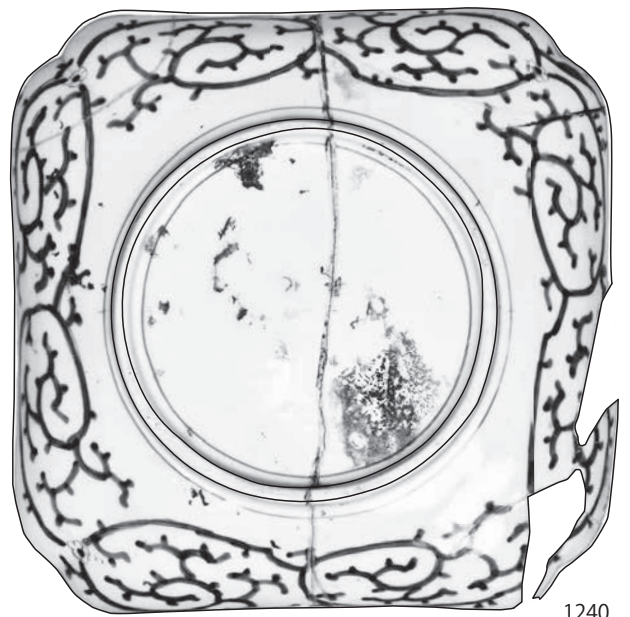
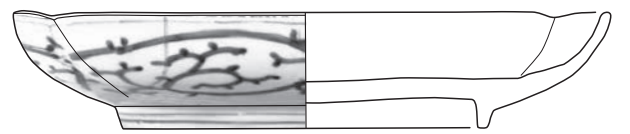
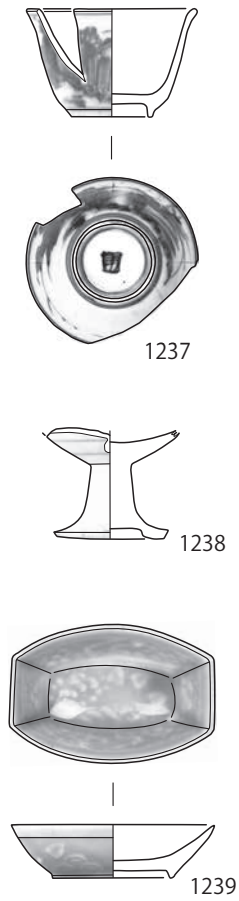
A-SS12



A-SS37



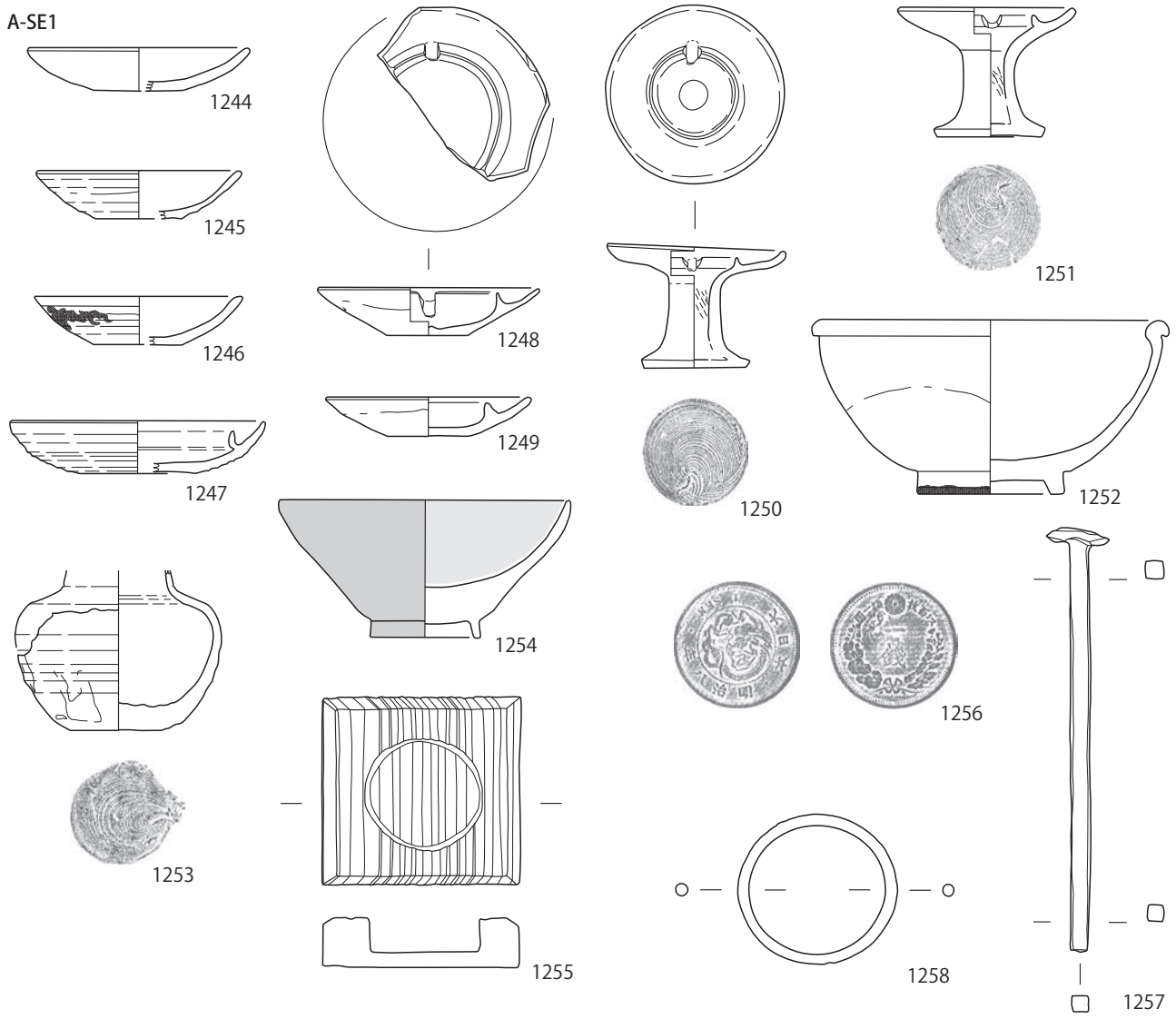
A-SE1



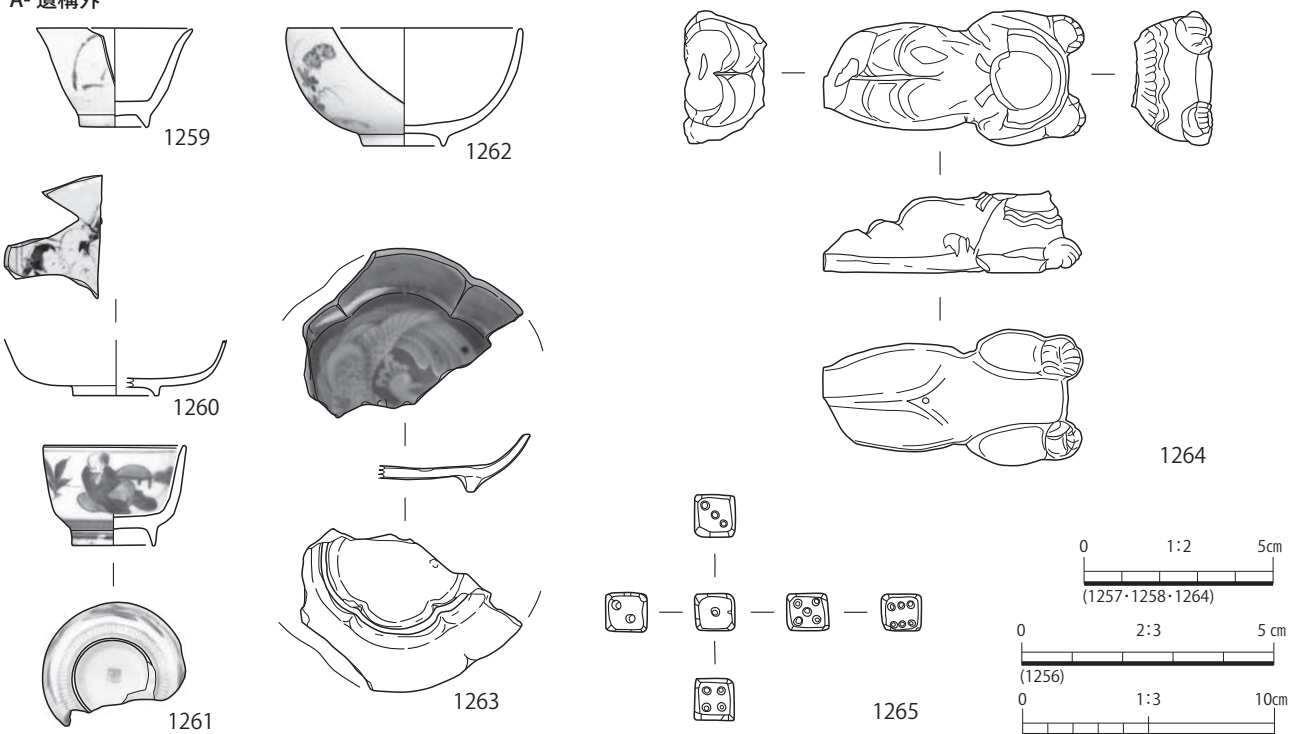
1240

第 208 图 A 地点出土遺物 (31)

A-SE1

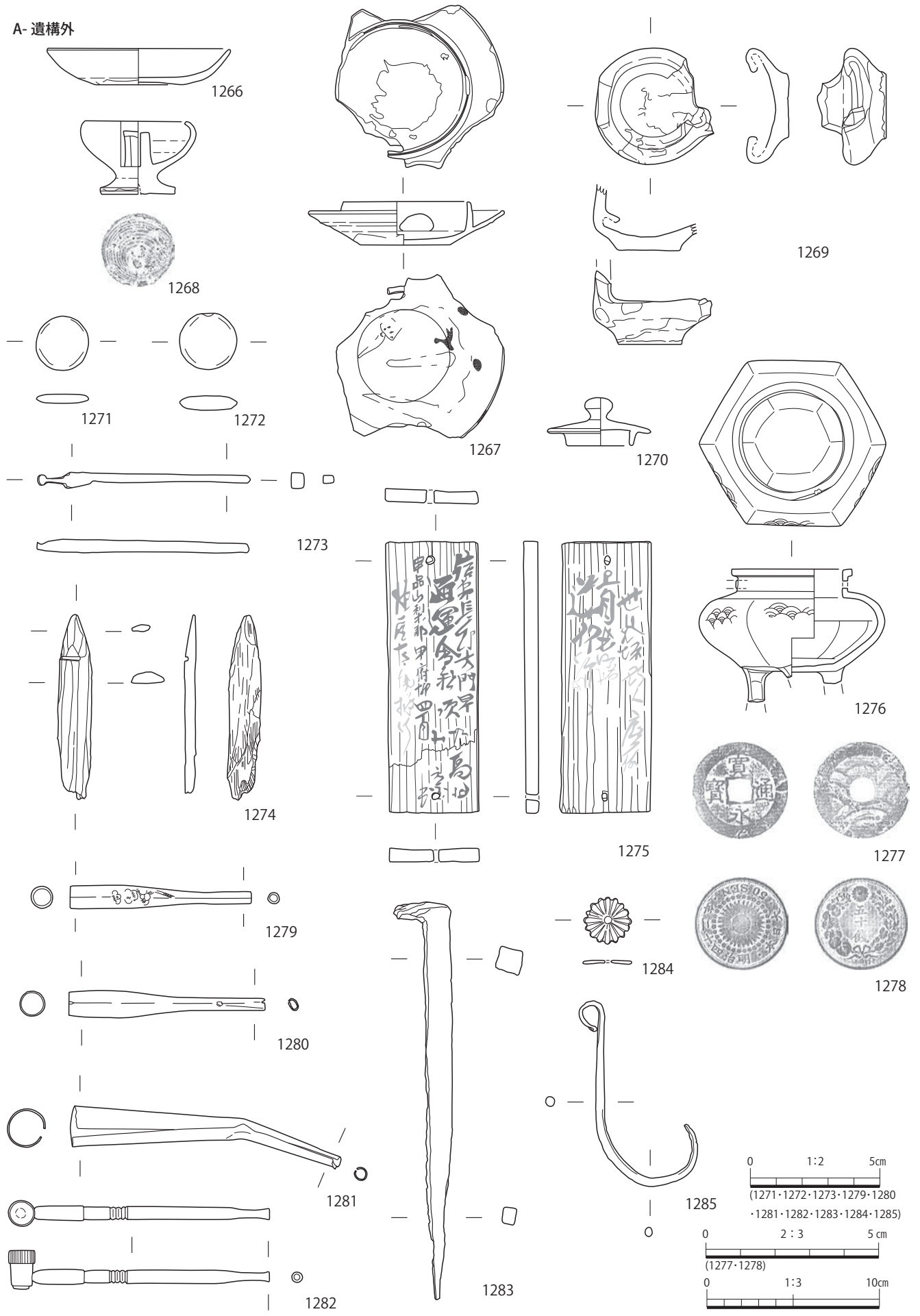


A-遺構外



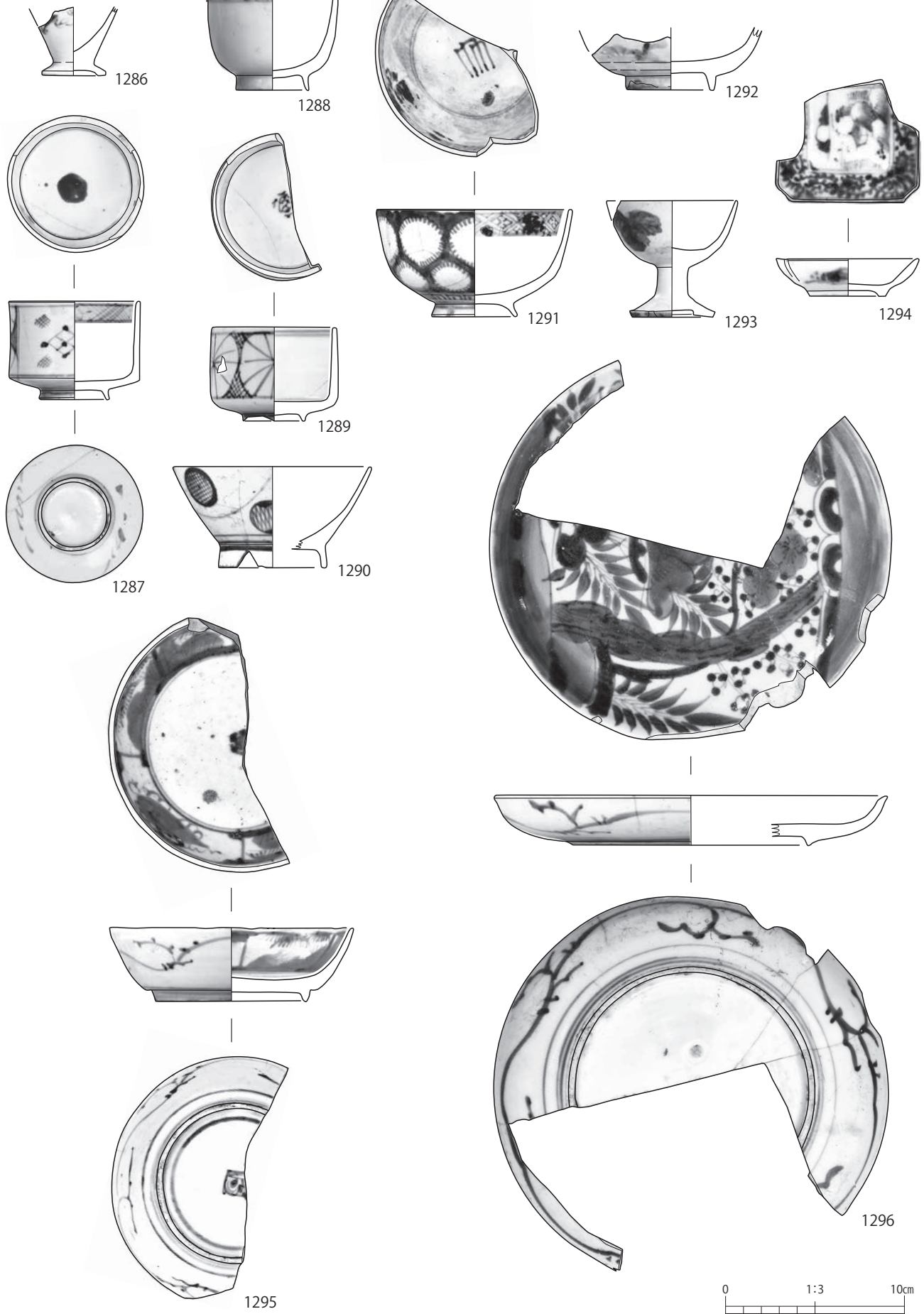
第 209 图 A 地点出土遺物 (32)

A- 遺構外



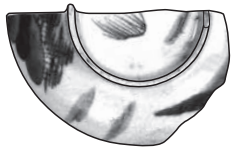
第 210 图 A 地点出土遺物 (33)

B-SK2

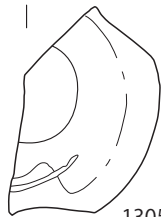
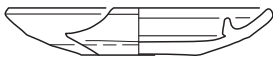
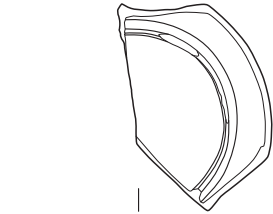


第 211 图 B 地点出土遺物 (1)

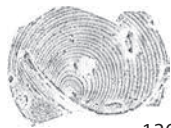
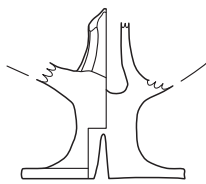
B-SK2



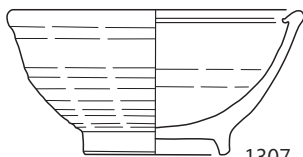
1297



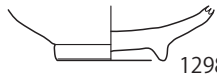
1305



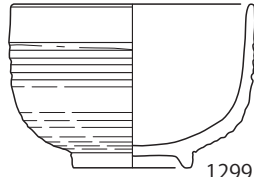
1306



1307



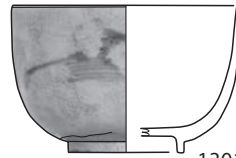
1298



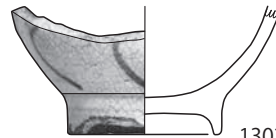
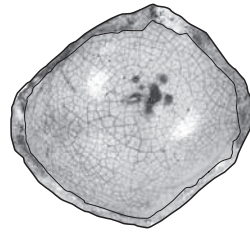
1299



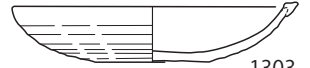
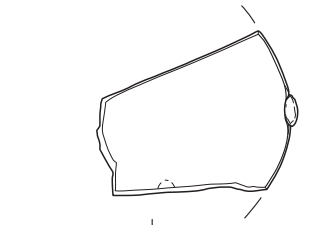
1300



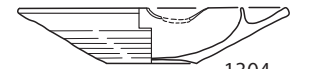
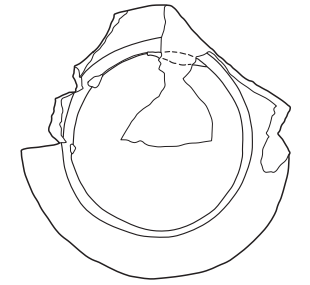
1301



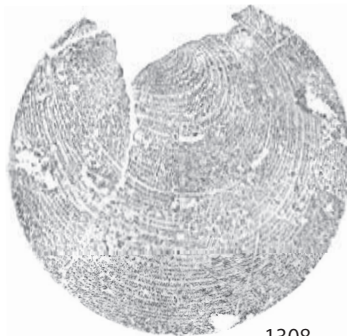
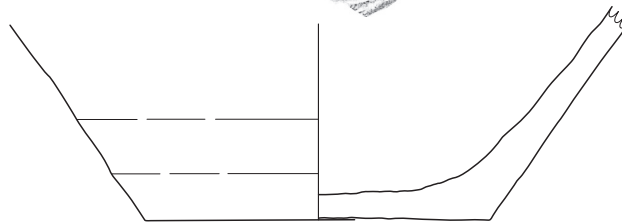
1302



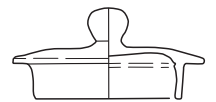
1303



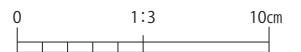
1304



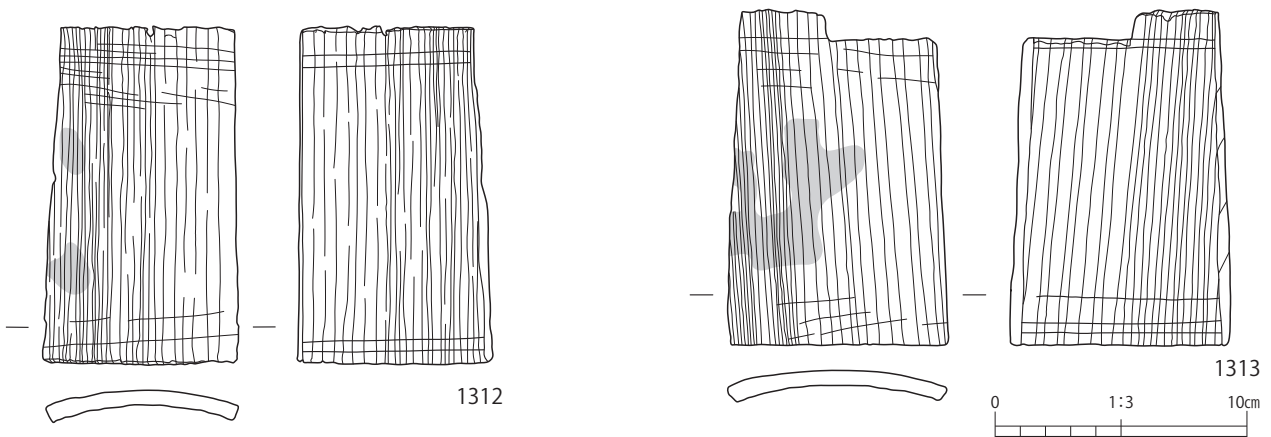
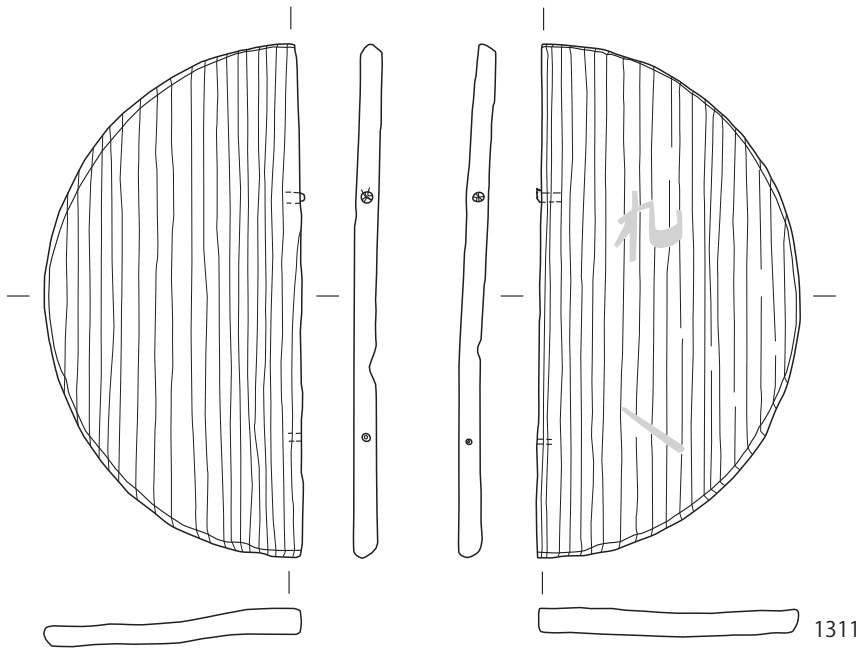
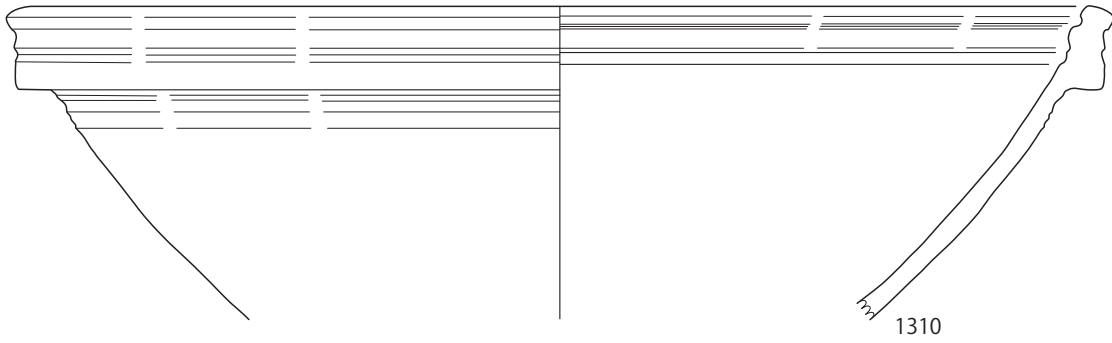
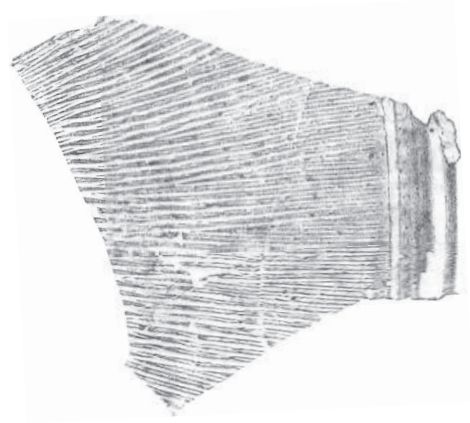
1308



1309

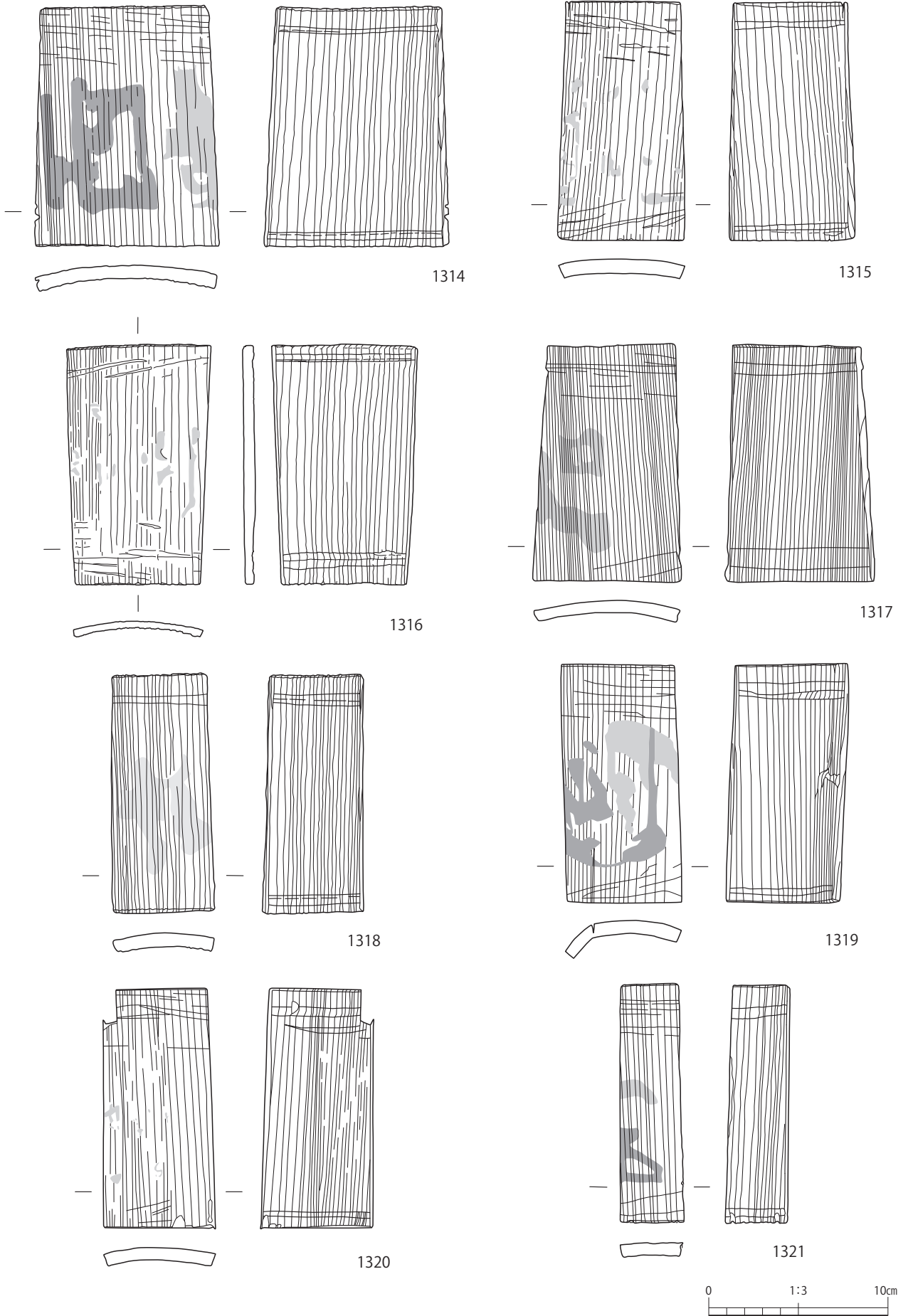


第 212 图 B地点出土遺物 (2)



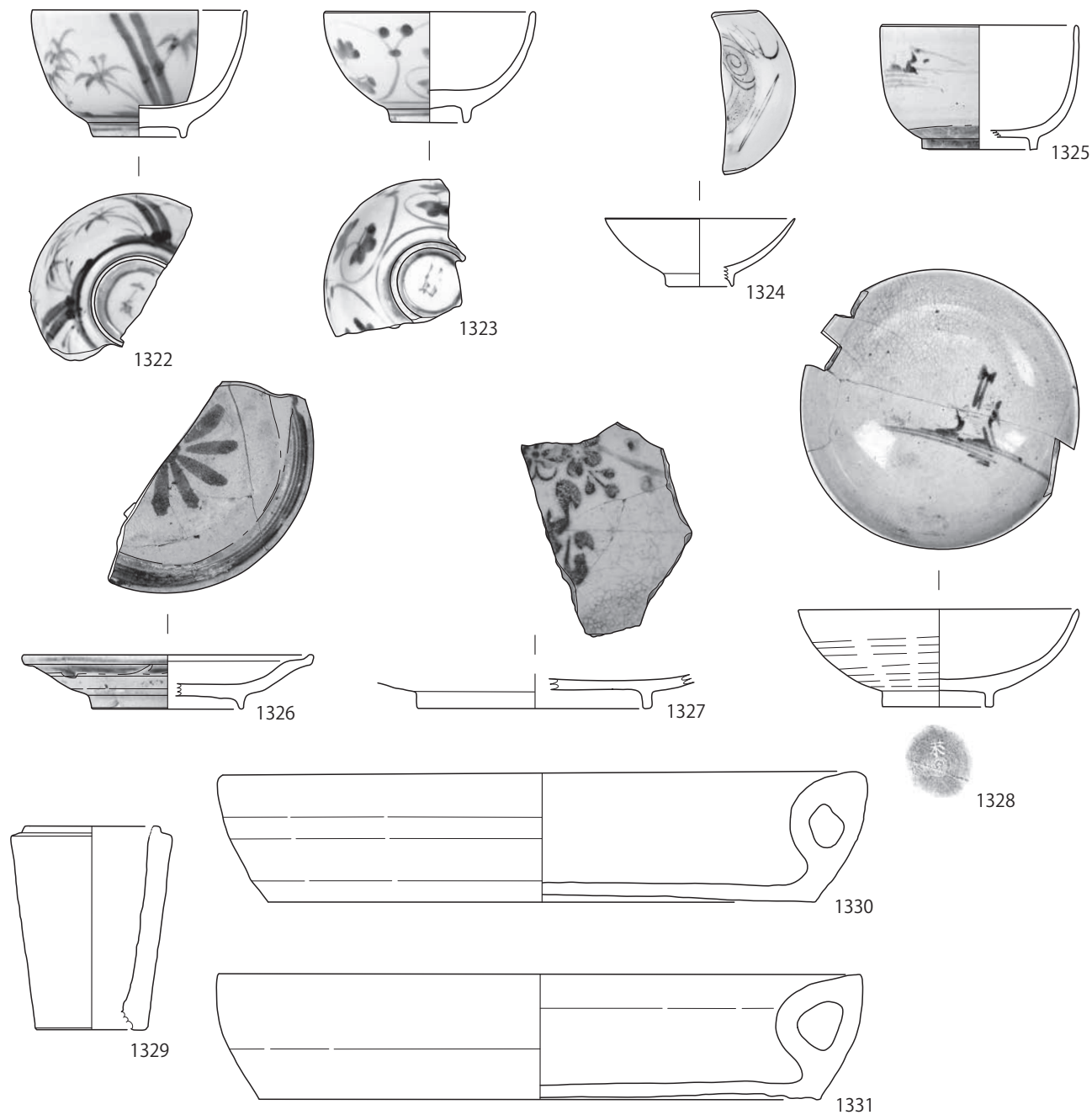
第 213 图 B地点出土遺物 (3)

B-SK2

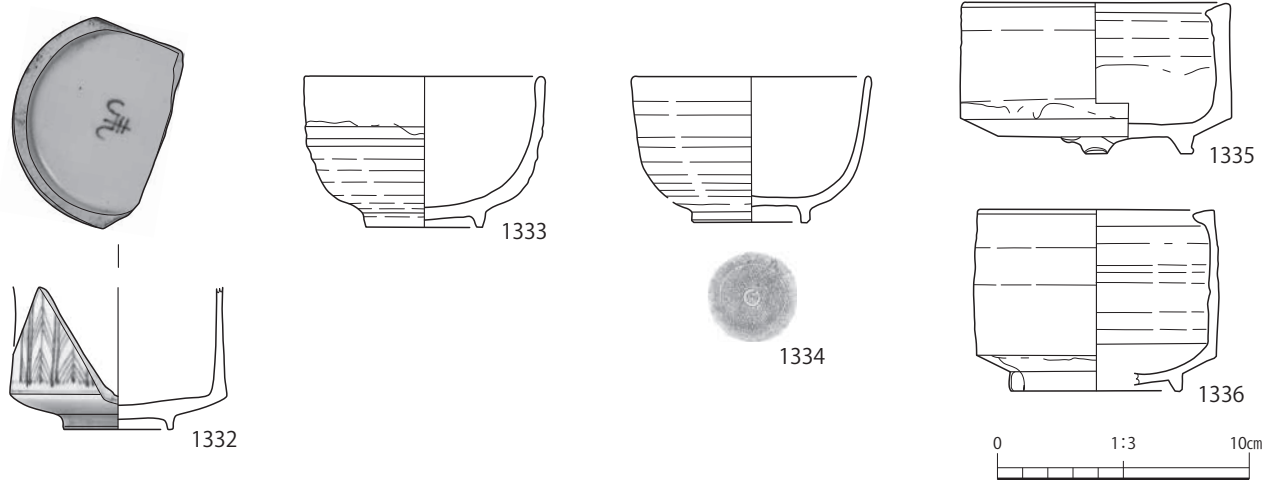


第 214 图 B地点出土遺物 (4)

B-SK3

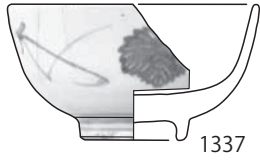


B-SK4



第 215 图 B地点出土遺物 (5)

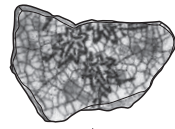
B-SK15



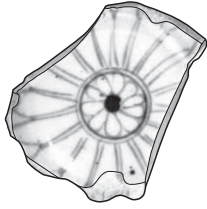
1337



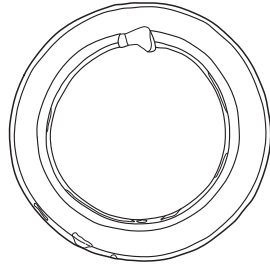
1339



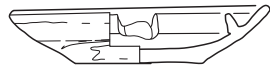
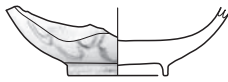
1340



1338



1341



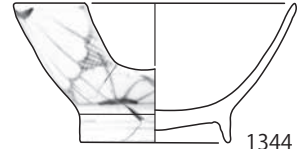
B-SS1



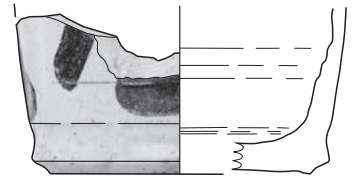
1342



1343



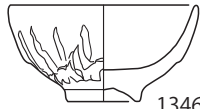
1344



1345



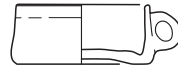
B- 遺構外



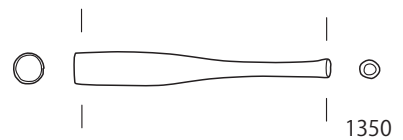
1346



1348



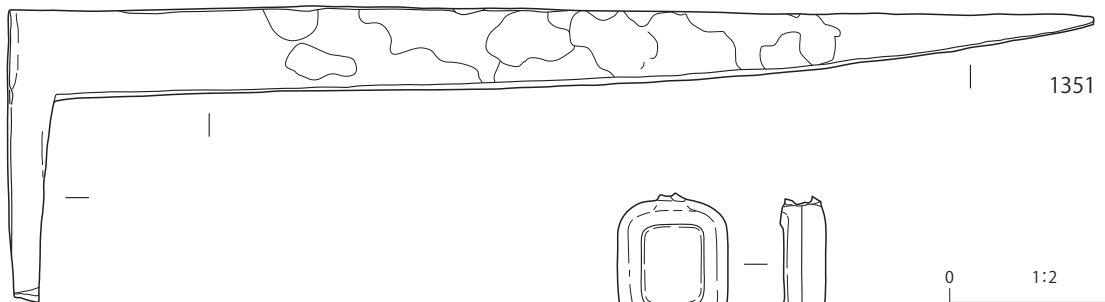
1349



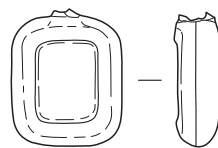
1350



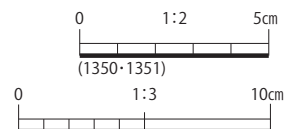
1347



1351

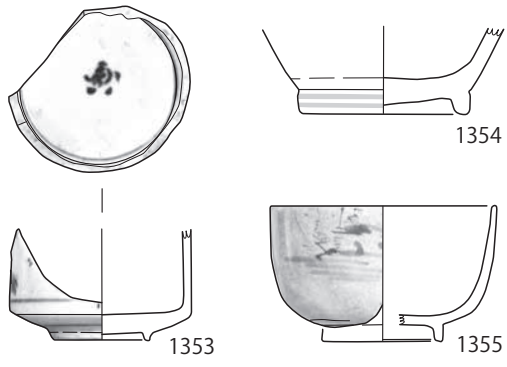


1352

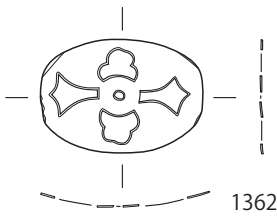
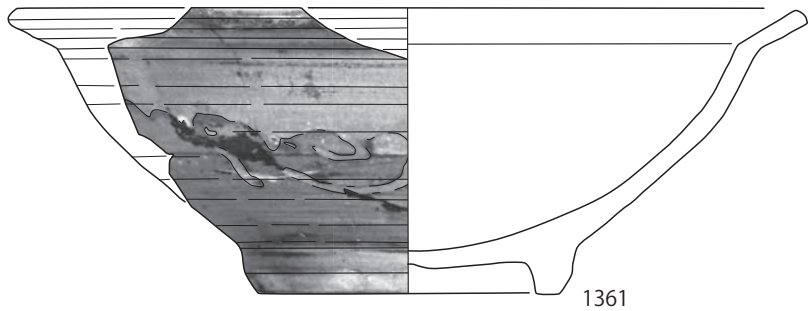
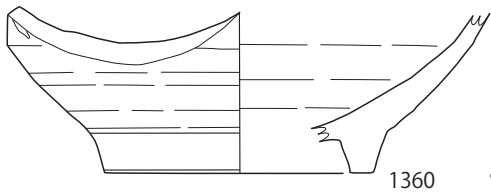
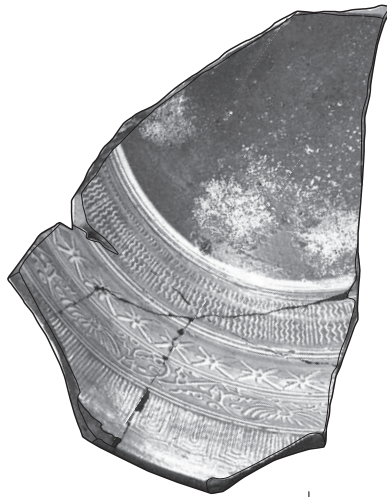
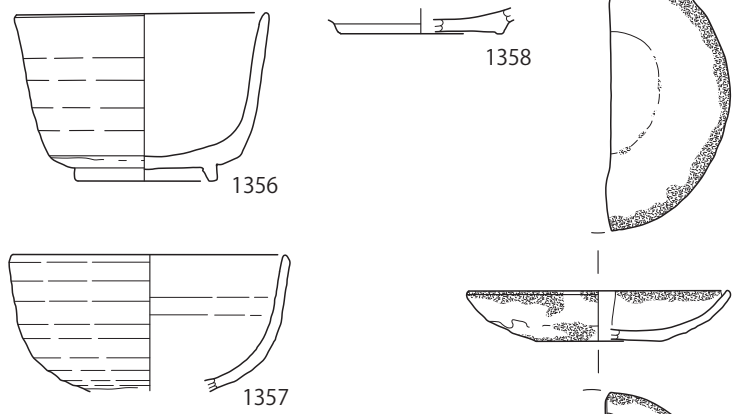


第 216 图 B地点出土遺物 (6)

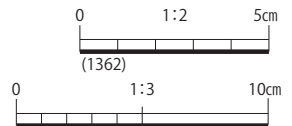
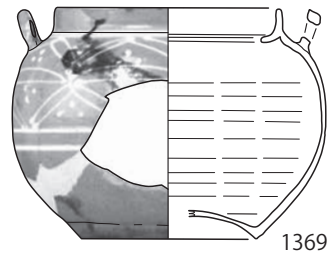
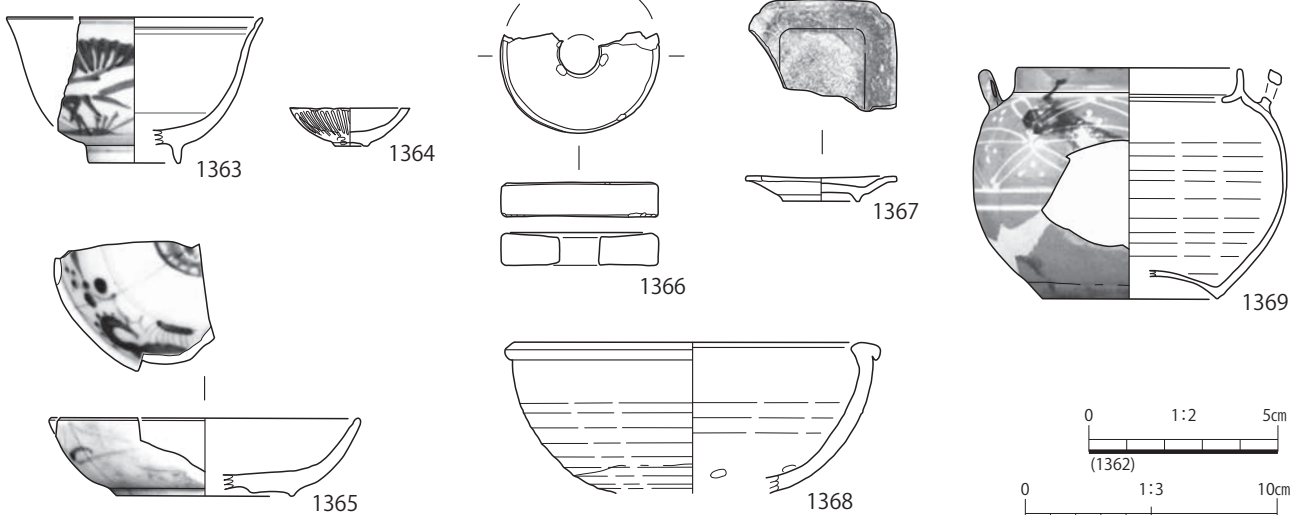
C-SK4



C-SK18

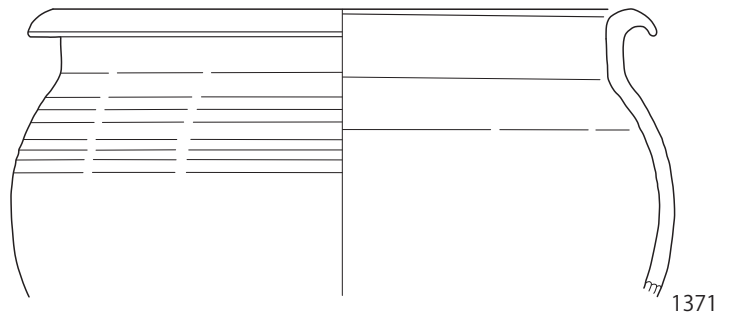
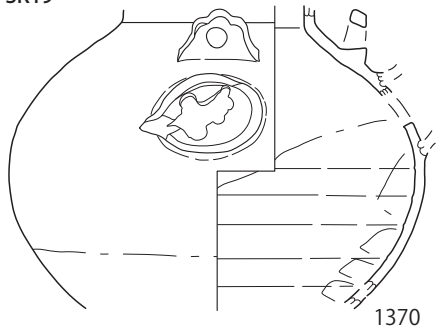


C-SK19

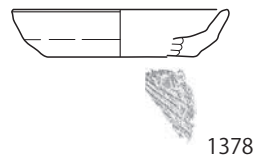
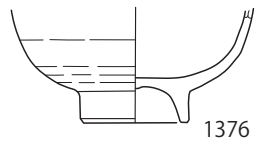
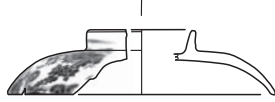
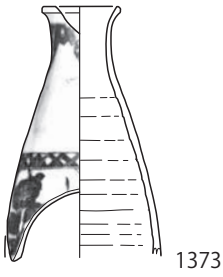
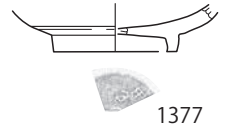
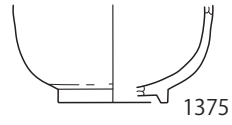
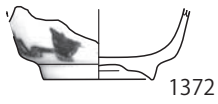


第 217 图 C 地点出土遺物 (1)

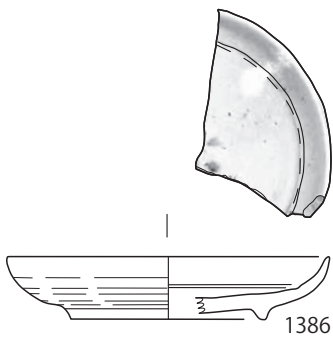
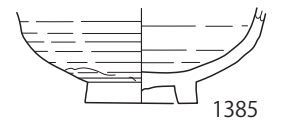
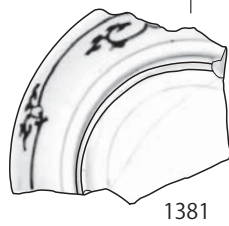
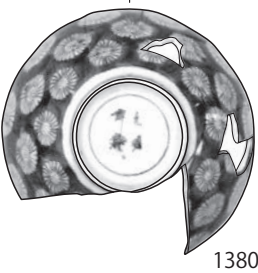
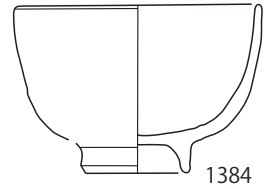
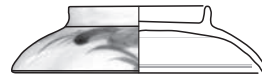
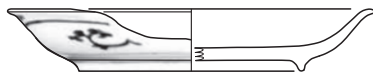
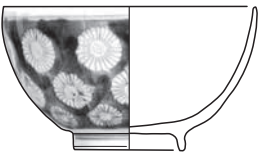
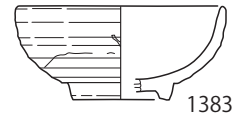
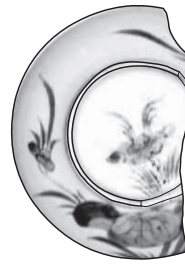
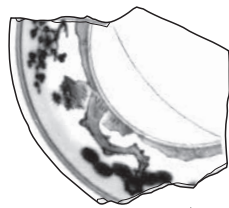
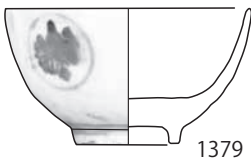
C-SK19



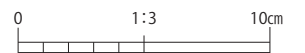
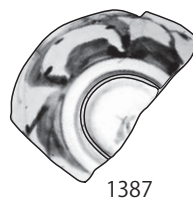
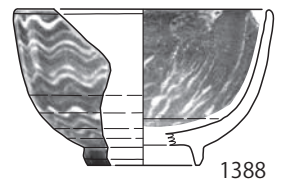
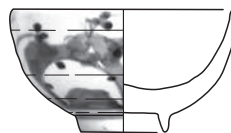
C-SK20



C-SK21

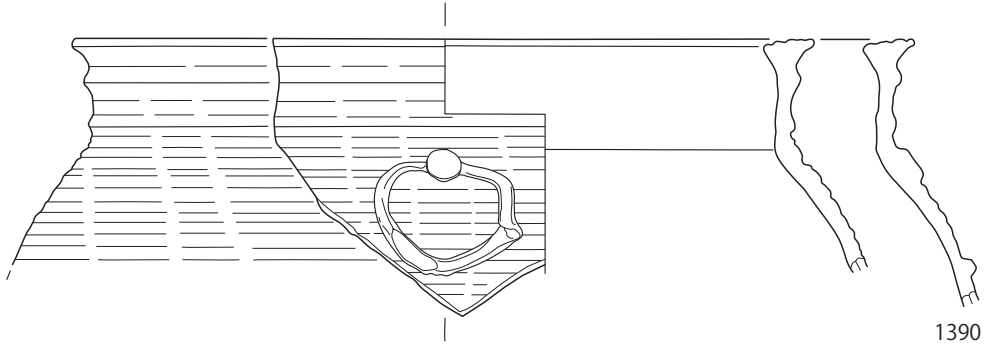
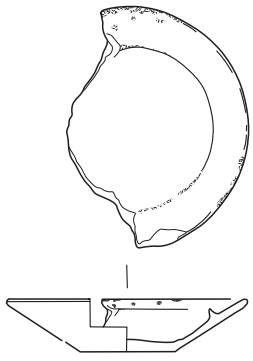


C-SK22



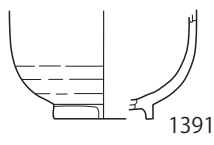
第 218 图 C 地点出土遺物 (2)

C-SK22

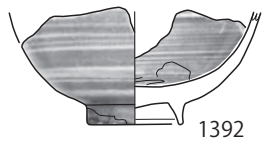


1390

C-SK23



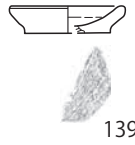
1391



1392



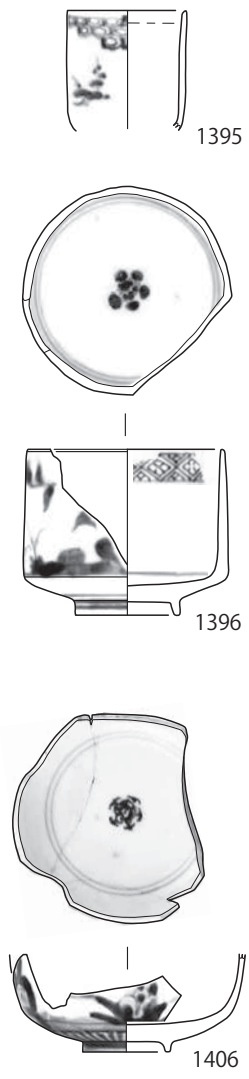
1393



1394

1389

C-SK29



1395

1396

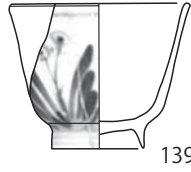
1406



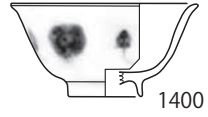
1397



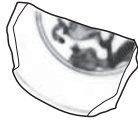
1398



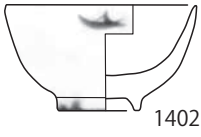
1399



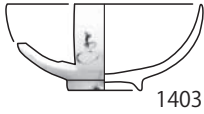
1400



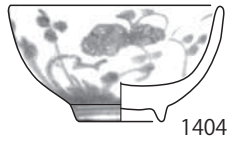
1401



1402



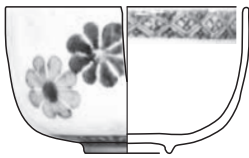
1403



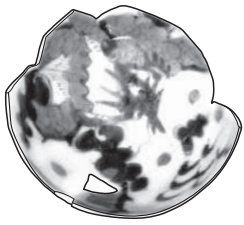
1404



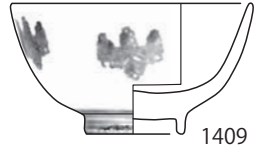
1405



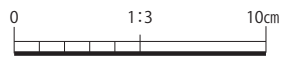
1407



1408

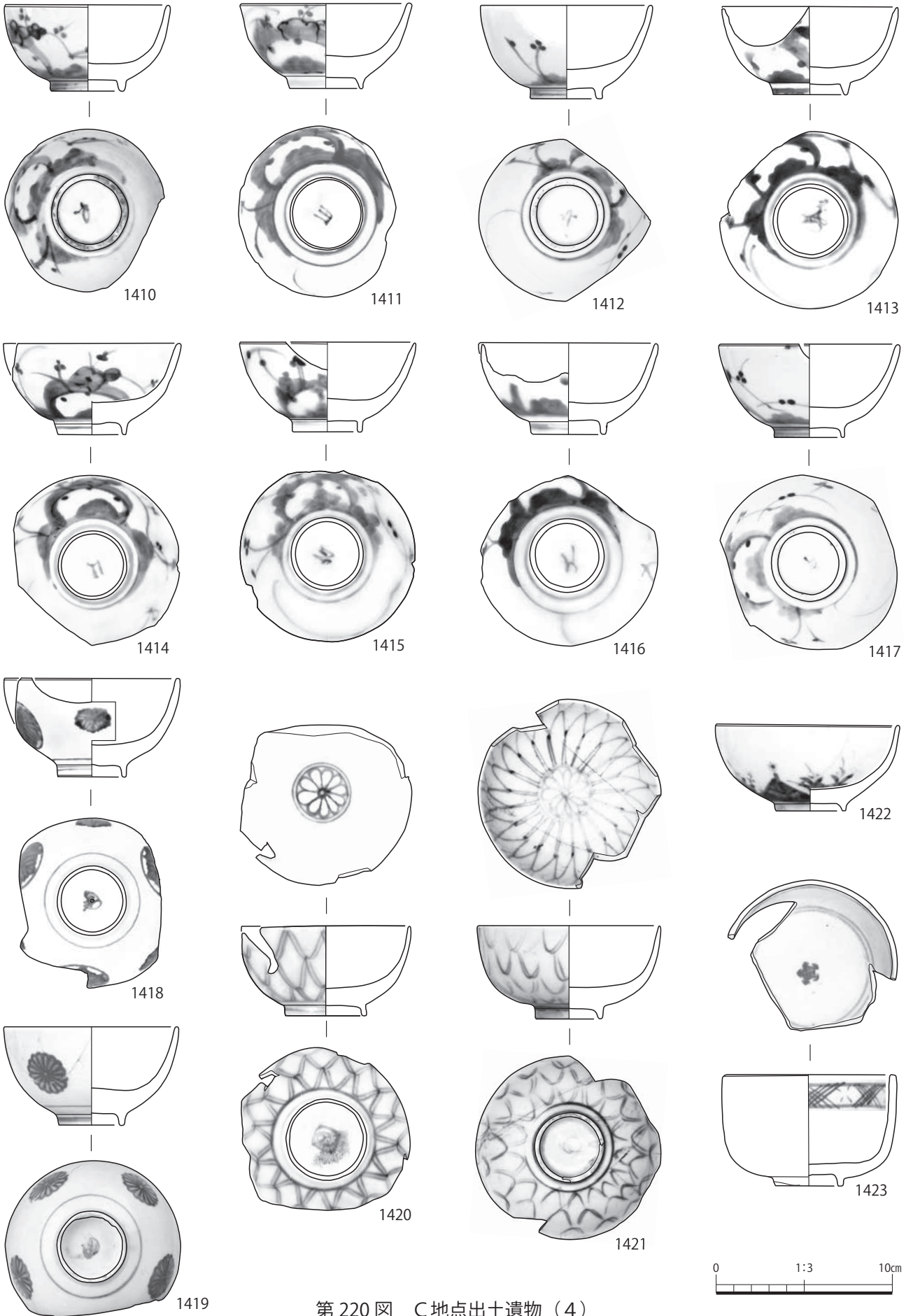


1409



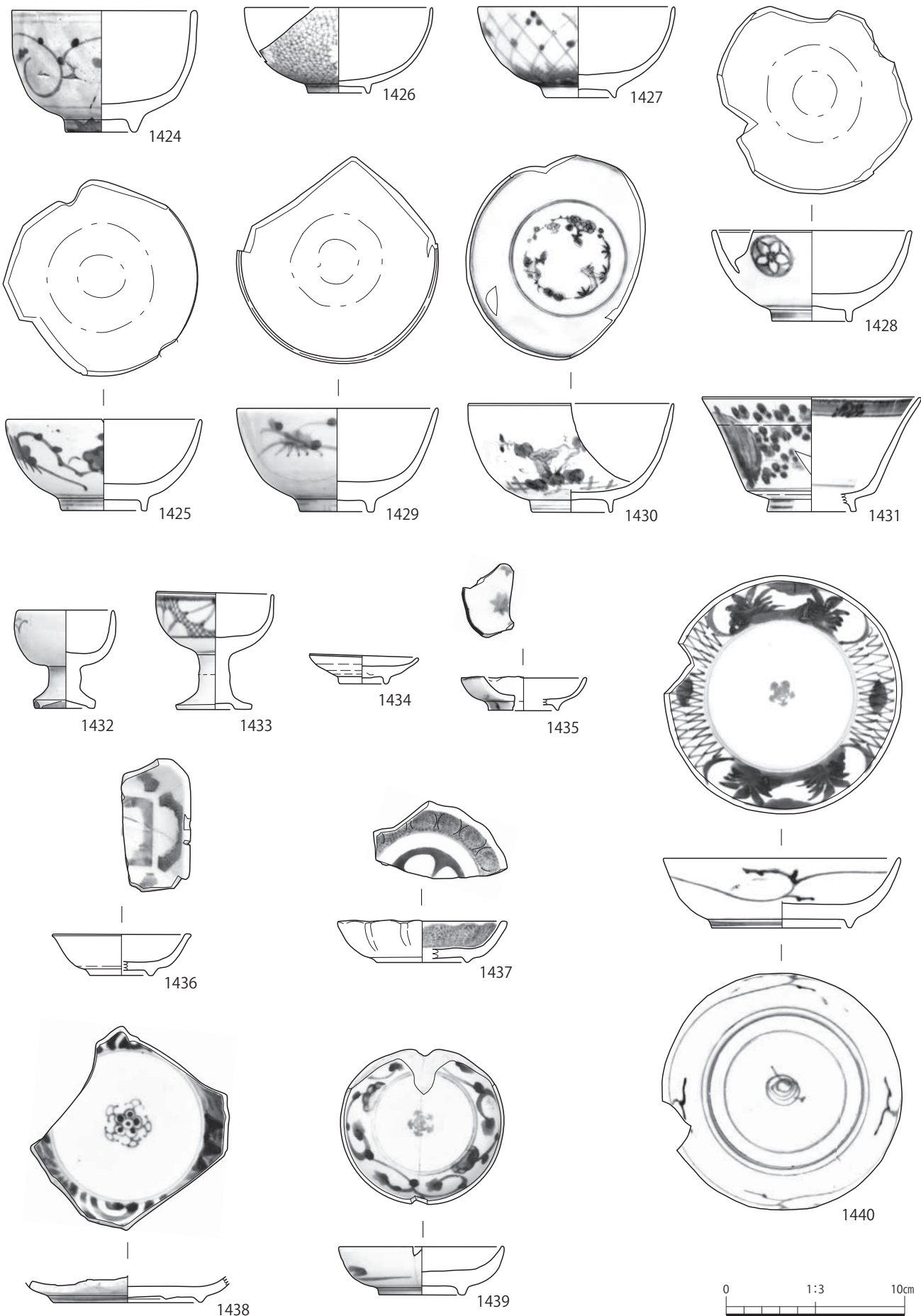
第 219 图 C 地点出土遺物 (3)

C-SK29



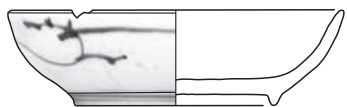
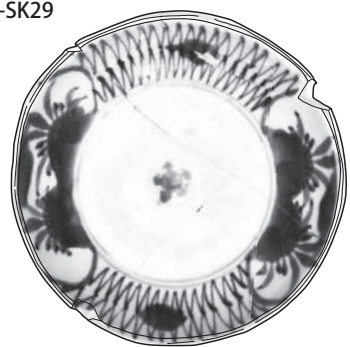
第 220 图 C 地点出土遺物 (4)

C-SK29

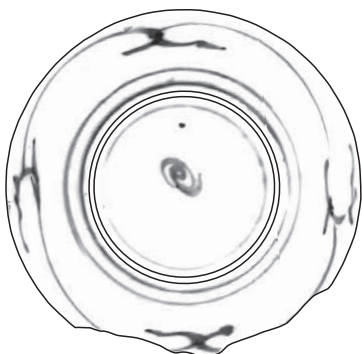
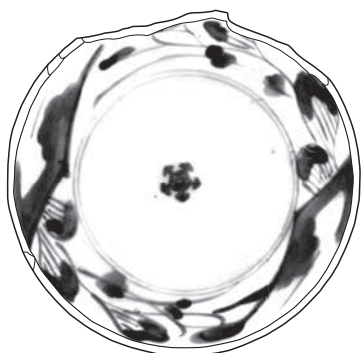


第 221 图 C 地点出土遺物 (5)

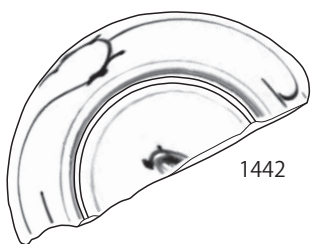
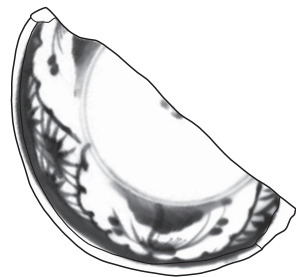
C-SK29



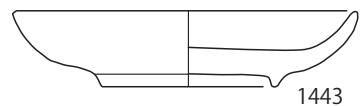
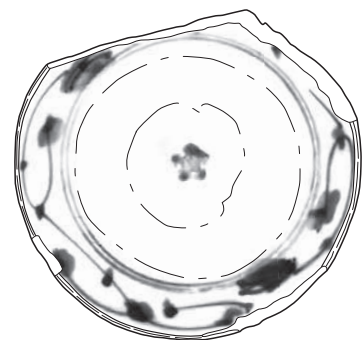
1441



1444



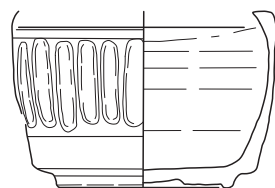
1442



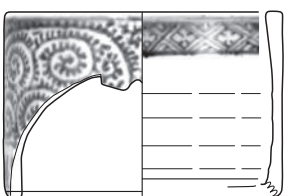
1443



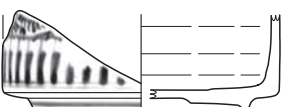
1445



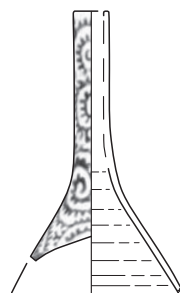
1446



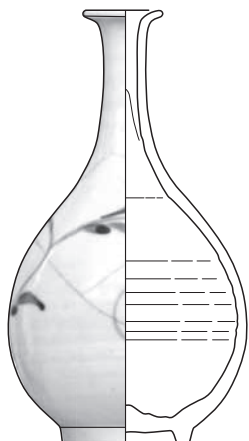
1447



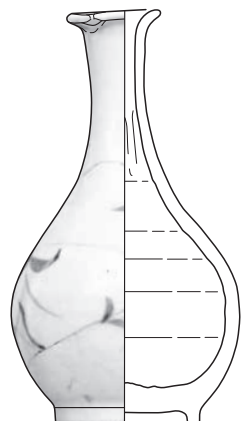
1448



1449



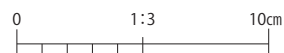
1450



1451

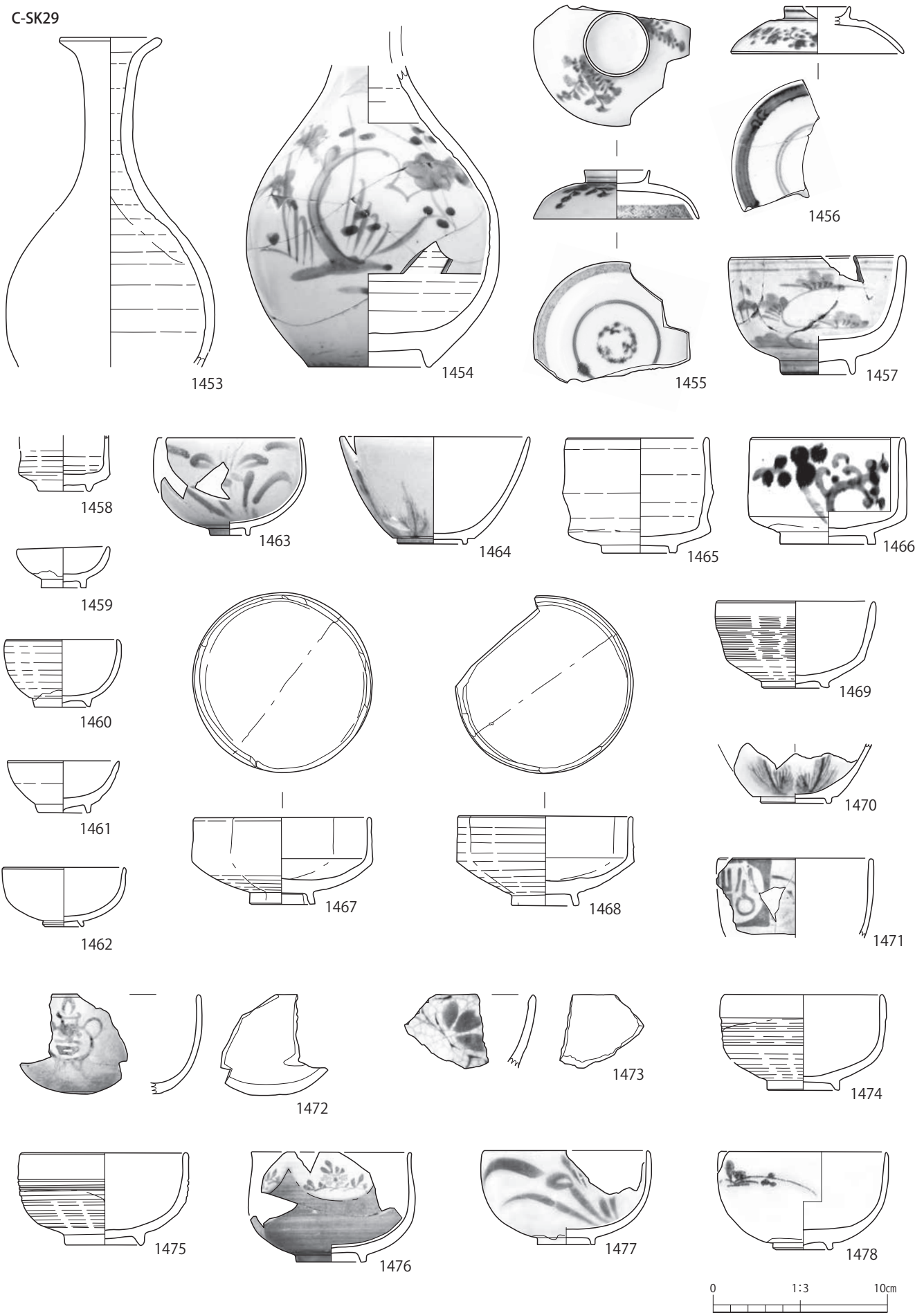


1452



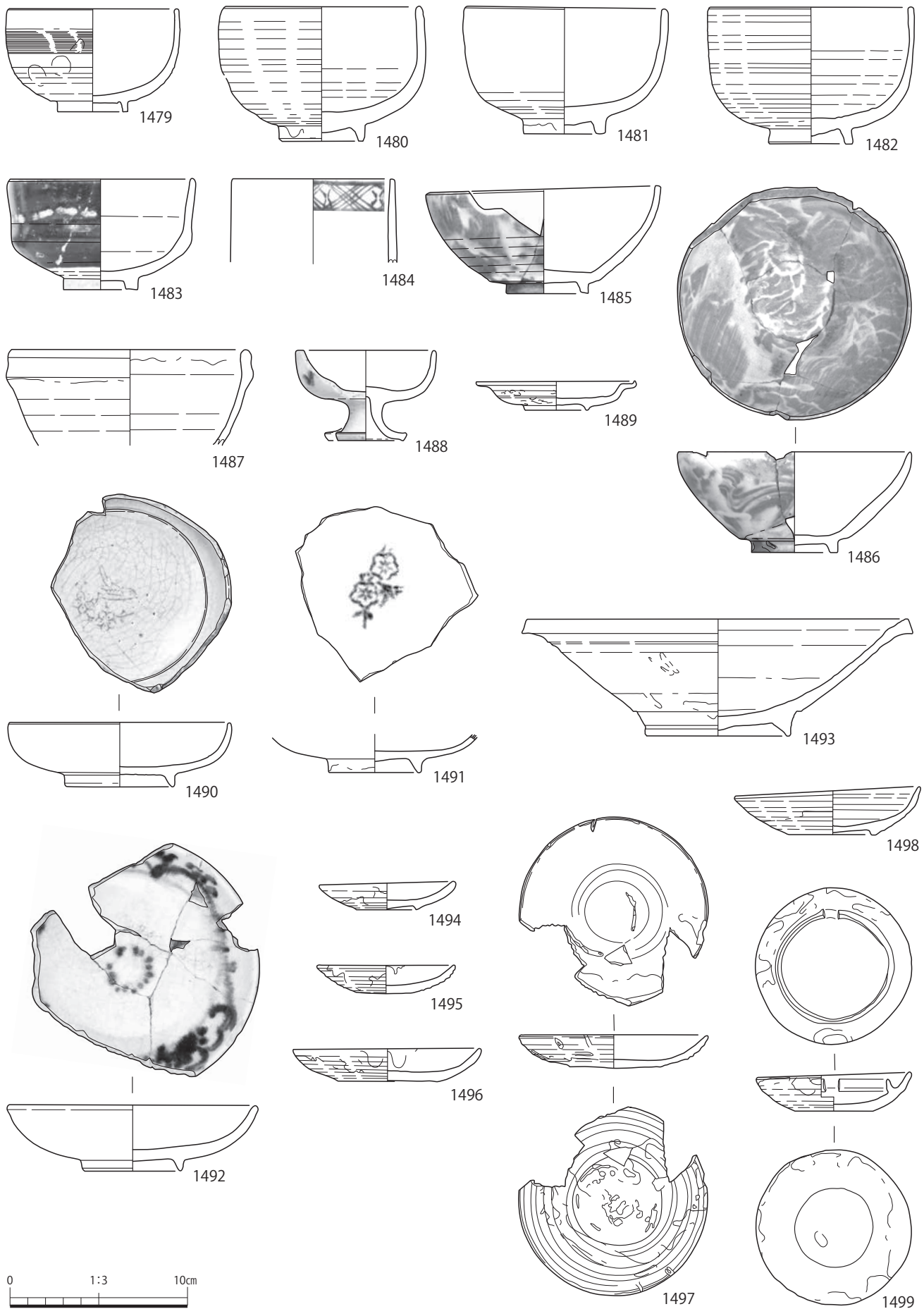
第 222 图 C 地点出土遗物 (6)

C-SK29



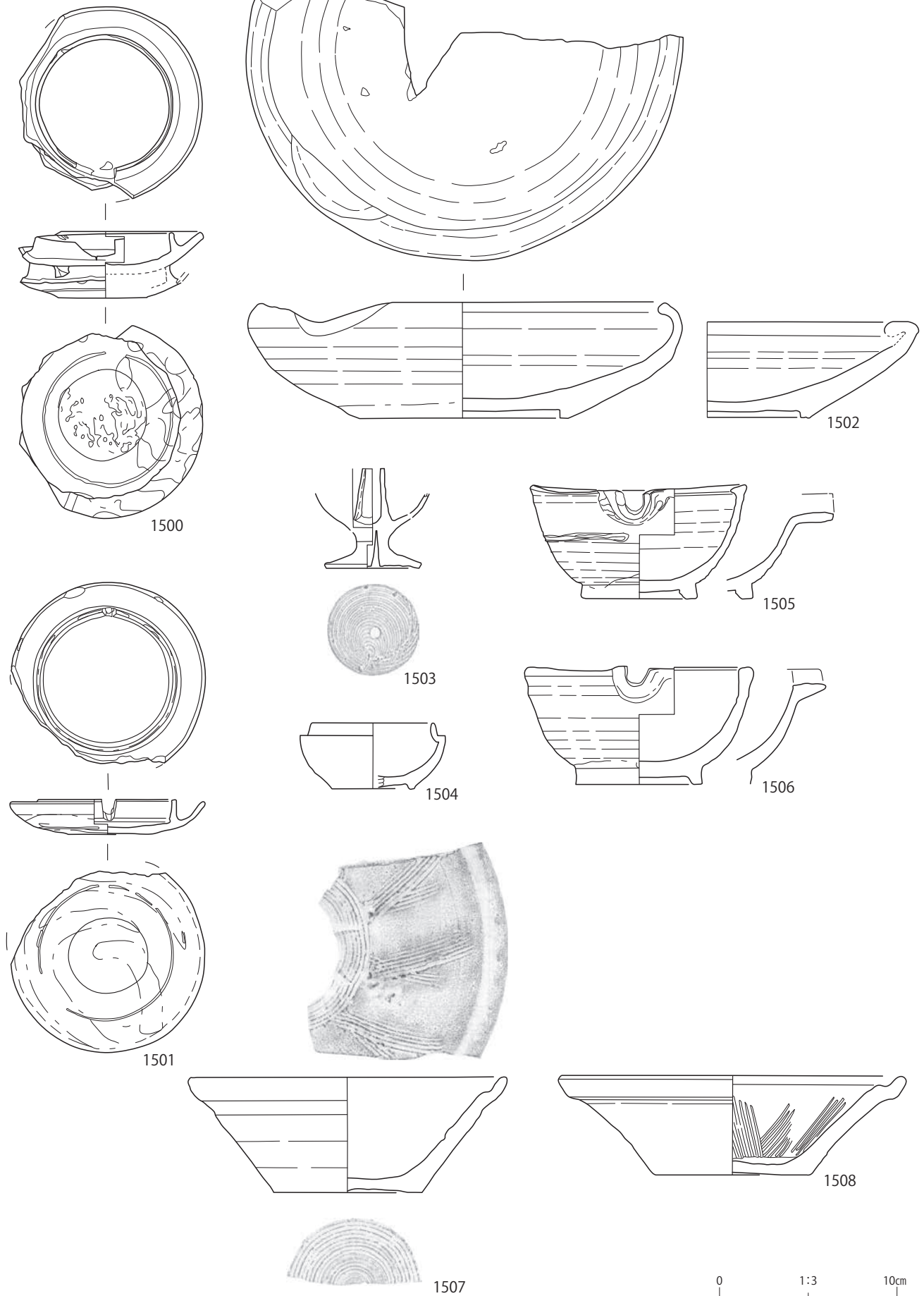
第 223 图 C 地点出土遗物 (7)

C-SK29



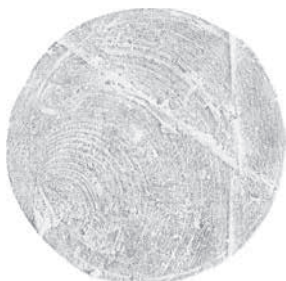
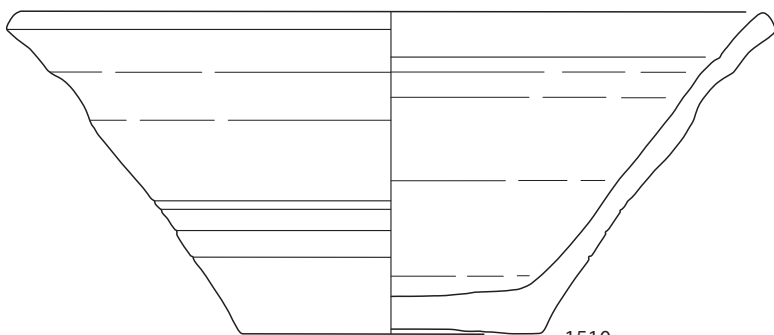
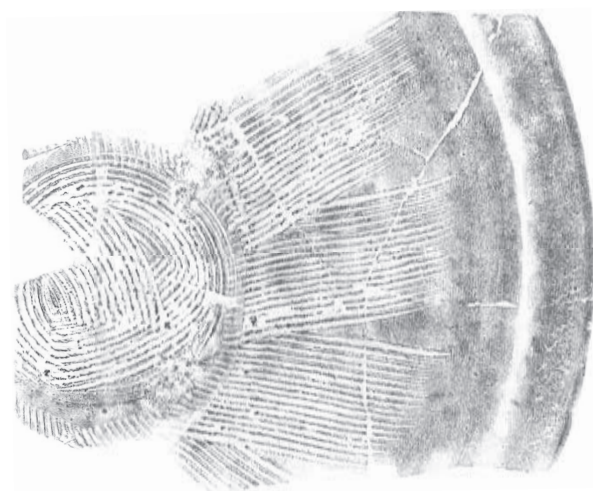
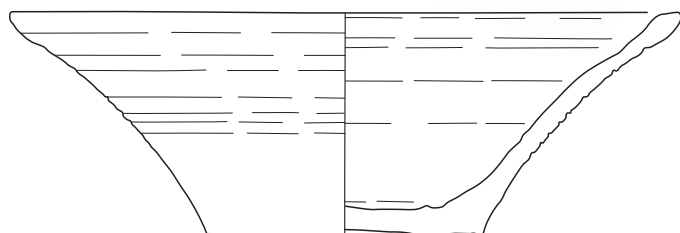
第 224 图 C 地点出土遗物 (8)

C-SK29



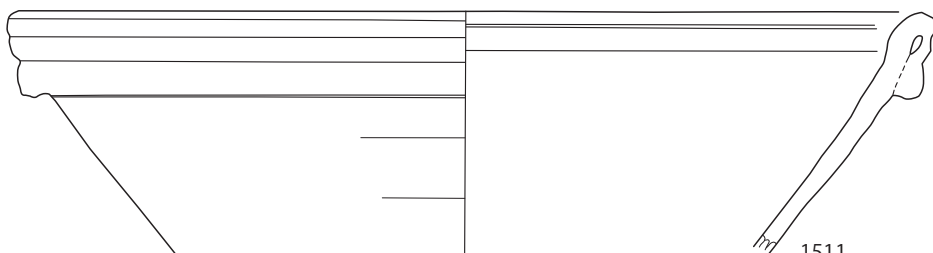
第 225 图 C 地点出土遺物 (9)

C-SK29

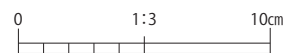


1509

1510



1511

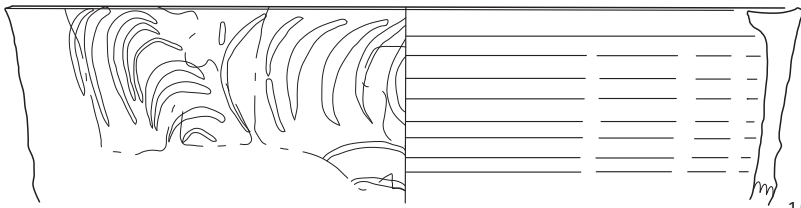


第 226 图 C 地点出土遺物 (10)

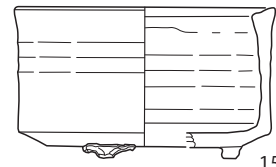
C-SK29



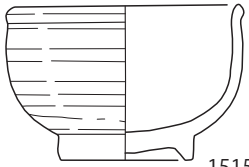
1512



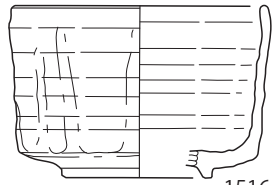
1513



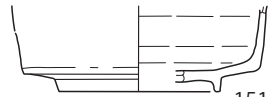
1514



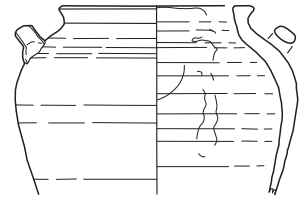
1515



1516



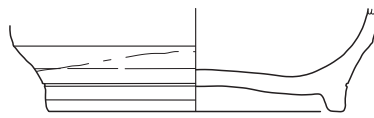
1517



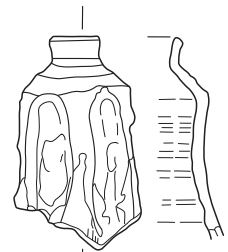
1518



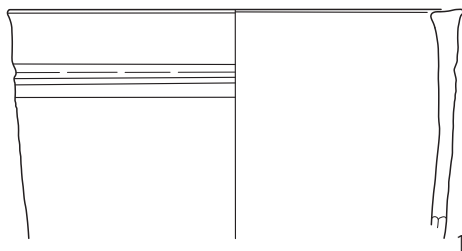
1519



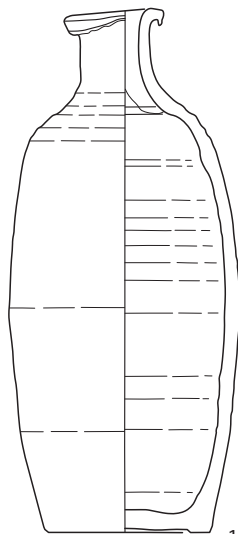
1522



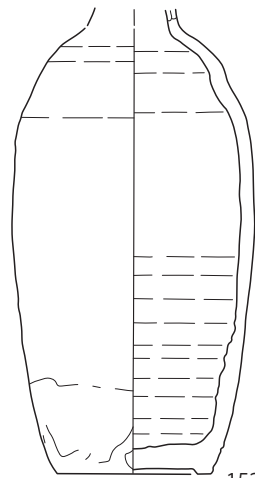
1523



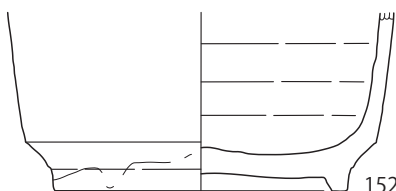
1520



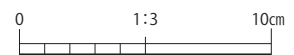
1524



1525

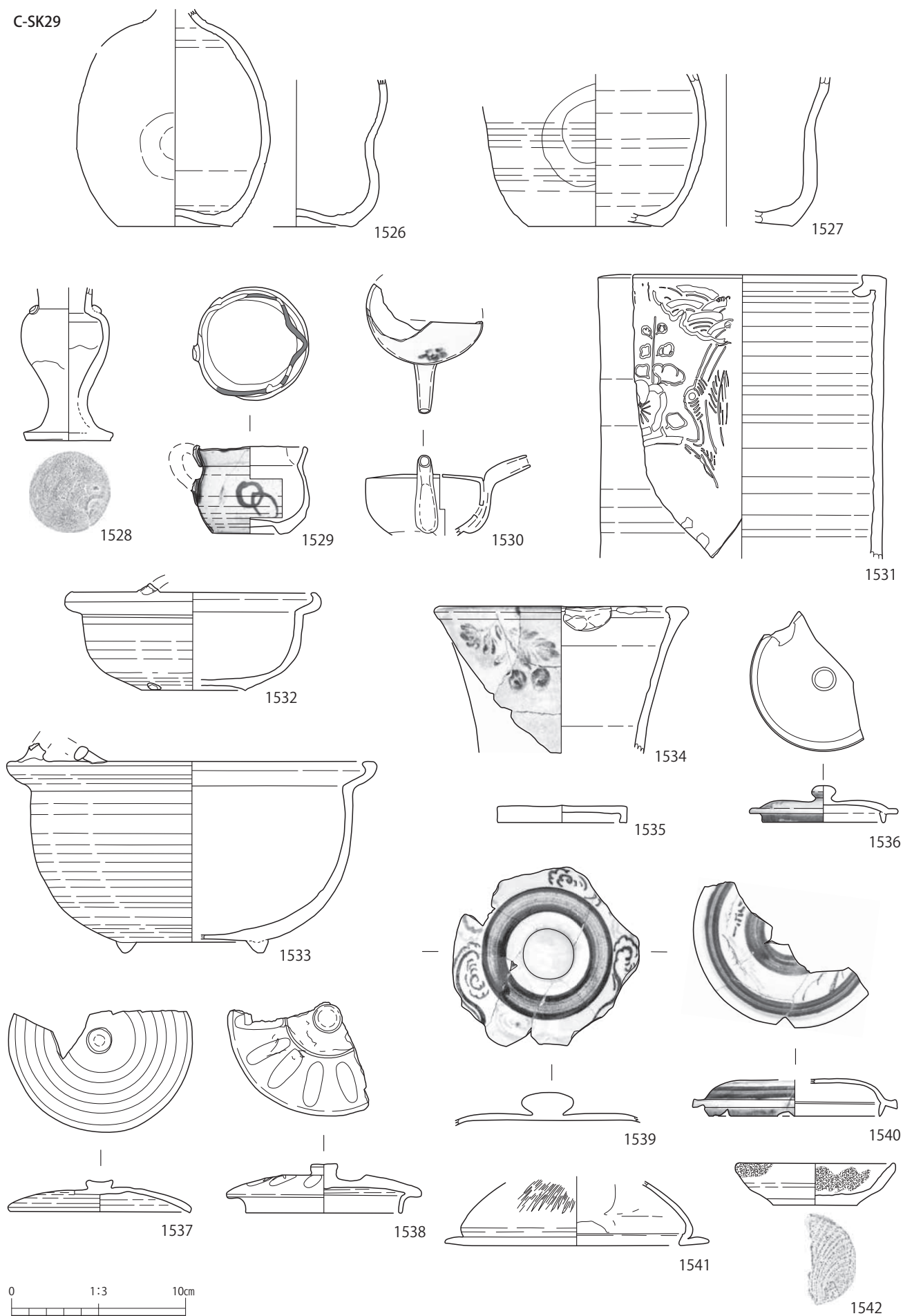


1521



第 227 图 C 地点出土遺物 (11)

C-SK29

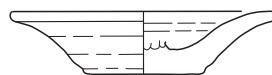


第 228 图 C 地点出土遺物 (12)

C-SK29

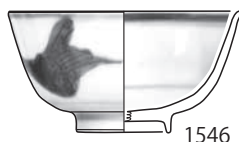


1543

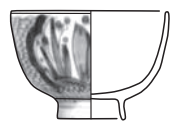


1544

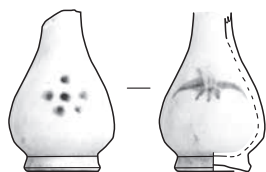
C-SK30



1546



1545

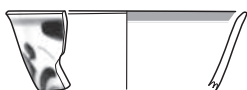


1547



1548

C-SK31



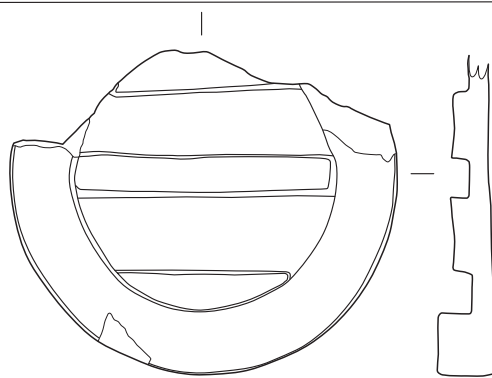
1549



1550



1552

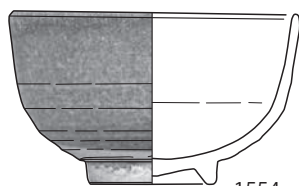


1551

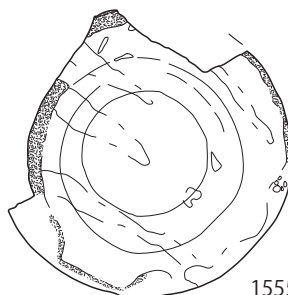
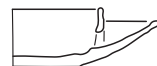
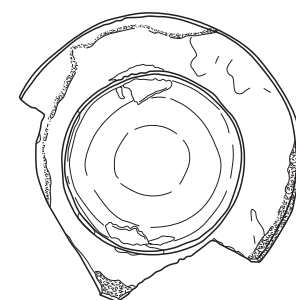
C-SK32



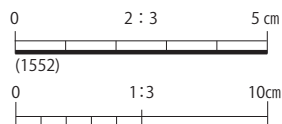
1553



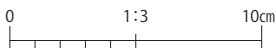
1554



1555

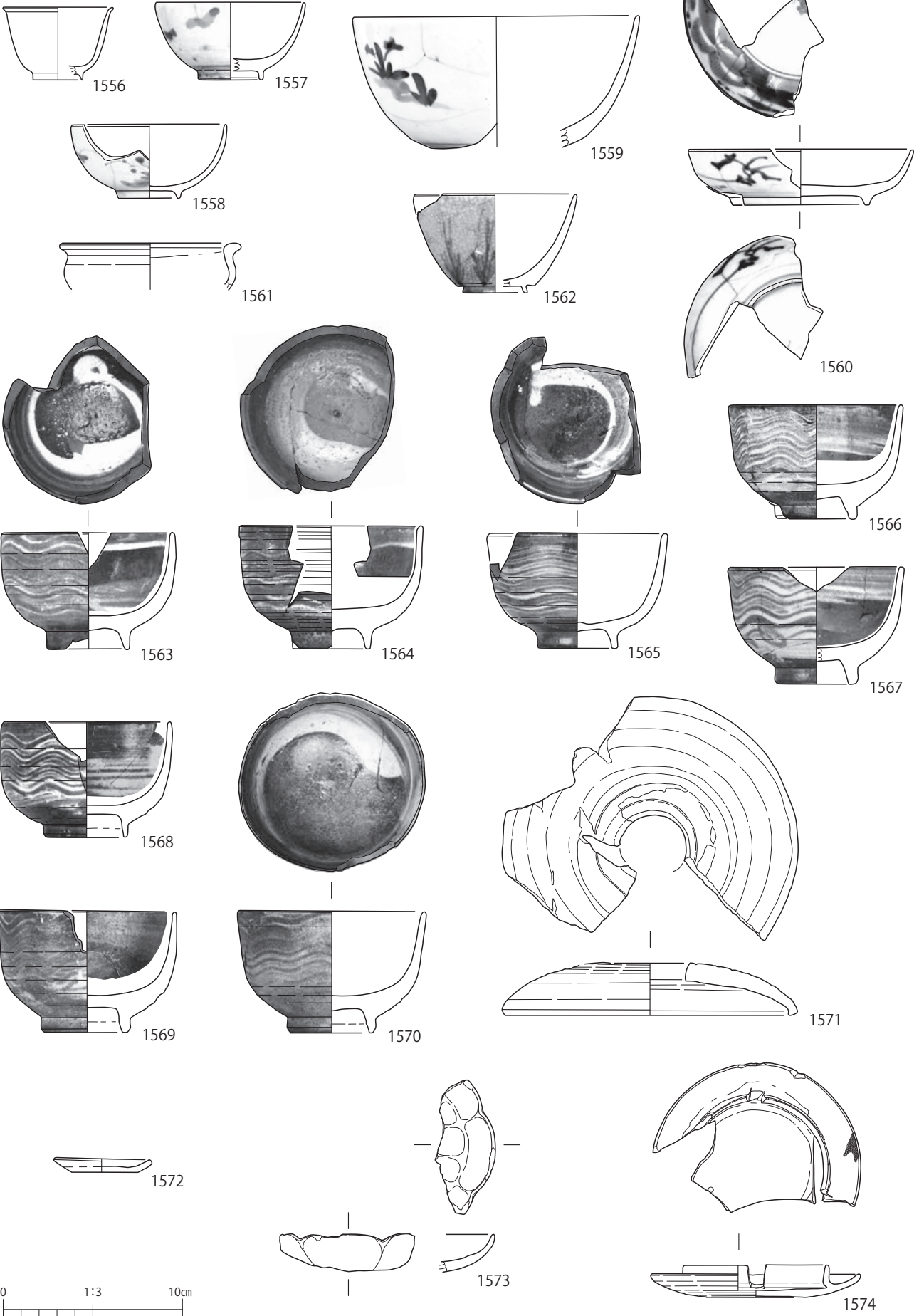


(1552)

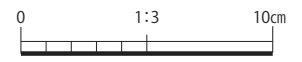
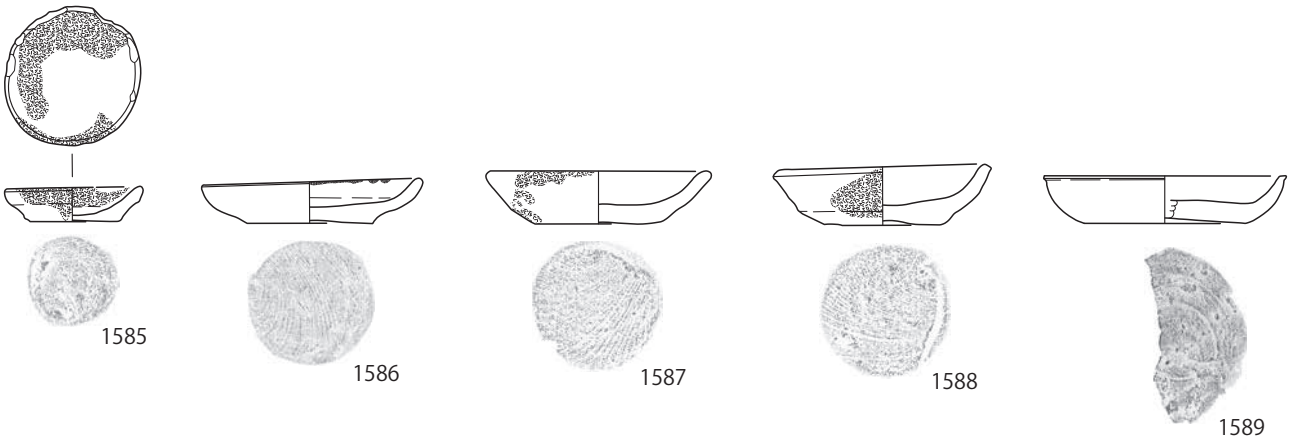
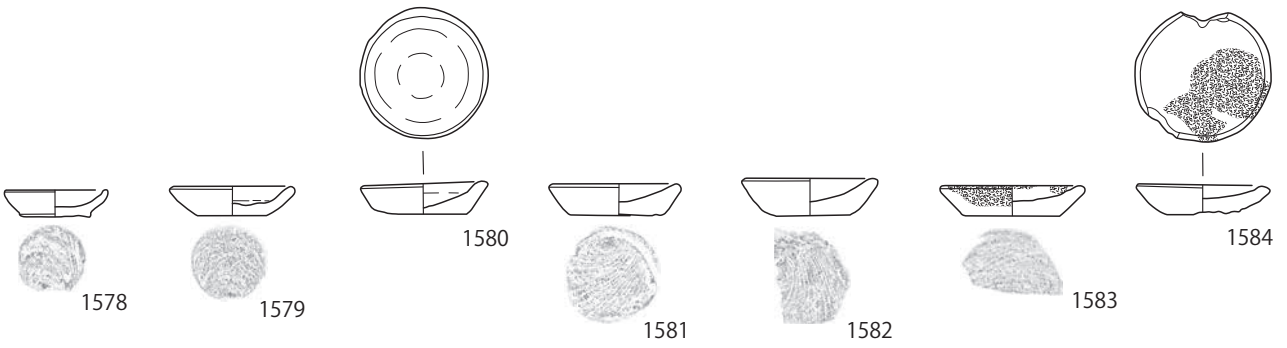
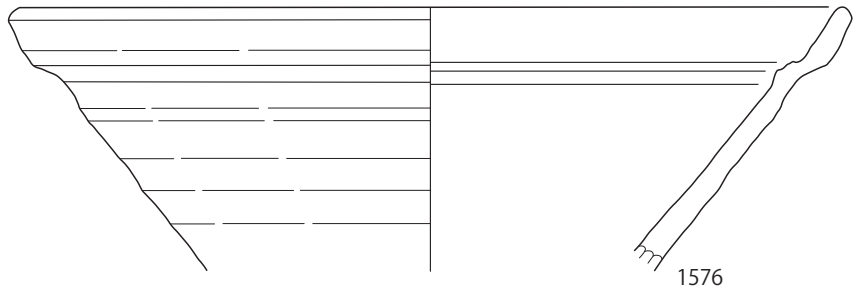
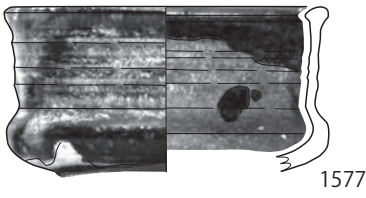
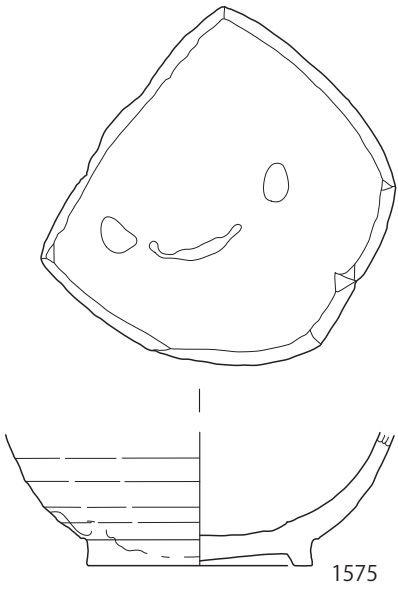


第 229 图 C 地点出土遺物 (13)

C-SK33

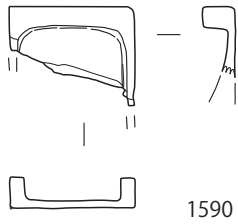


第 230 图 C 地点出土遺物 (14)

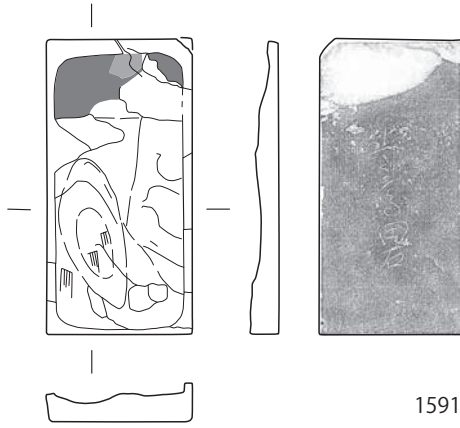


第 231 图 C 地点出土遺物 (15)

C-SK33



1590

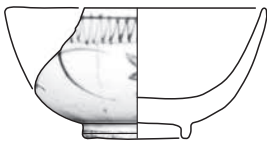


1591

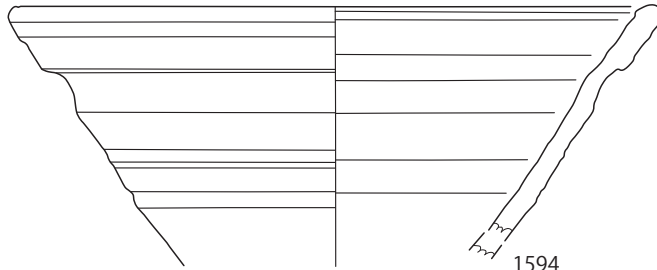


1592

C-SK35



1593

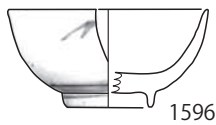


1594

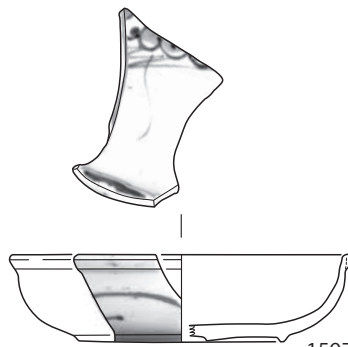


1595

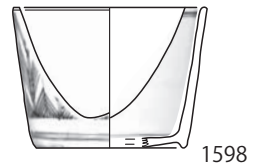
C-SK36



1596

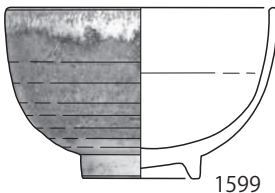


1597

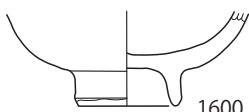


1598

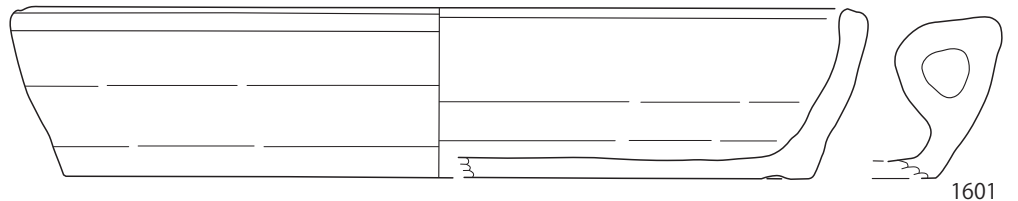
C-SK37



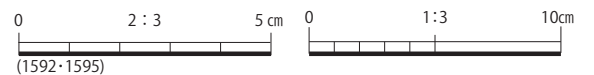
1599



1600

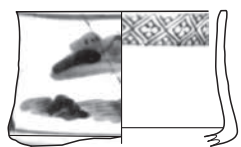


1601

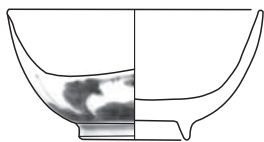


第 232 图 C 地点出土遺物 (16)

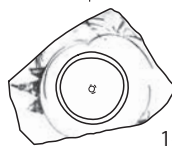
C-SK38



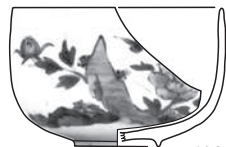
1602



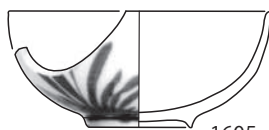
1604



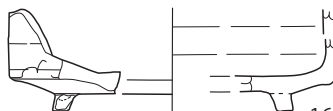
1606



1603

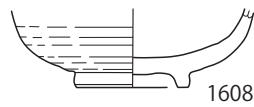


1605

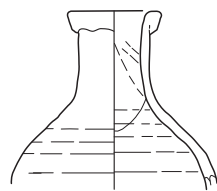


1607

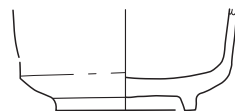
C-SK42



1608

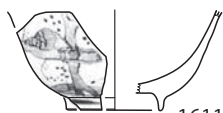


1609

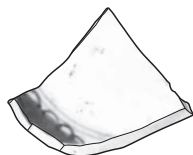


1610

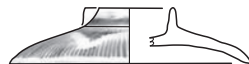
C-SD2



1611



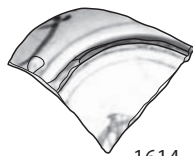
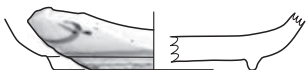
1615



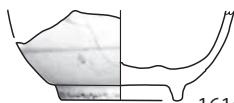
1618



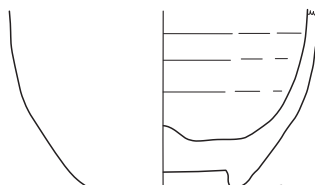
1612



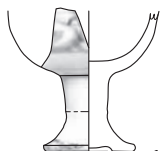
1614



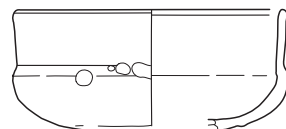
1616



1617

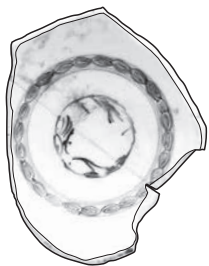


1613

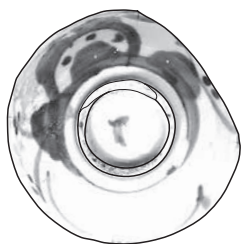
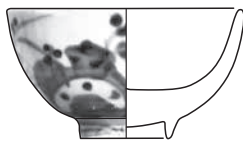


1619

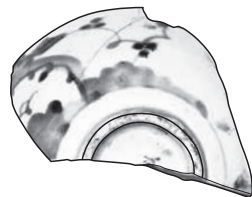
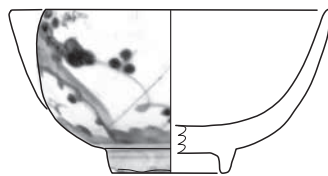
C-SS9



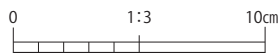
1620



1621

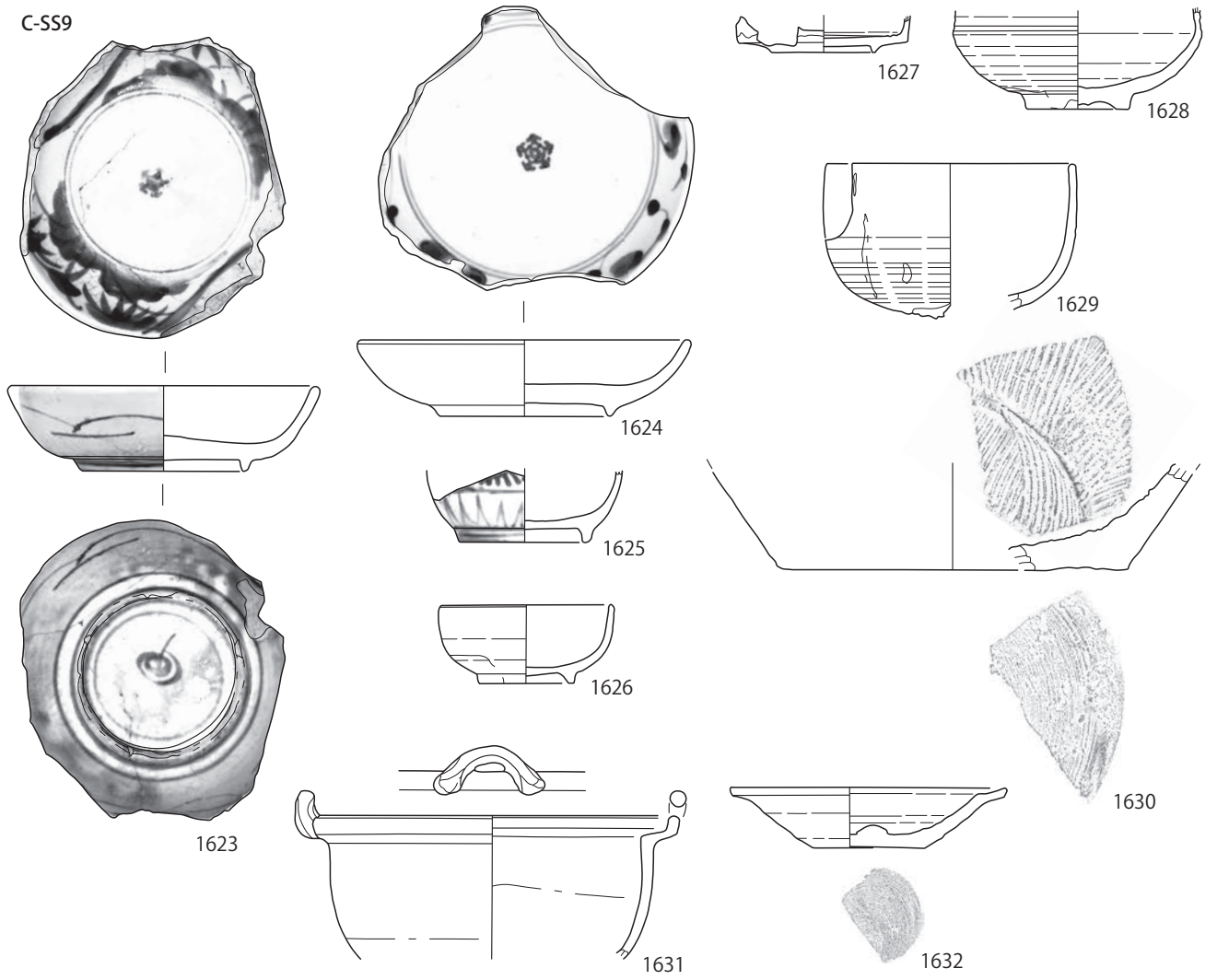


1622

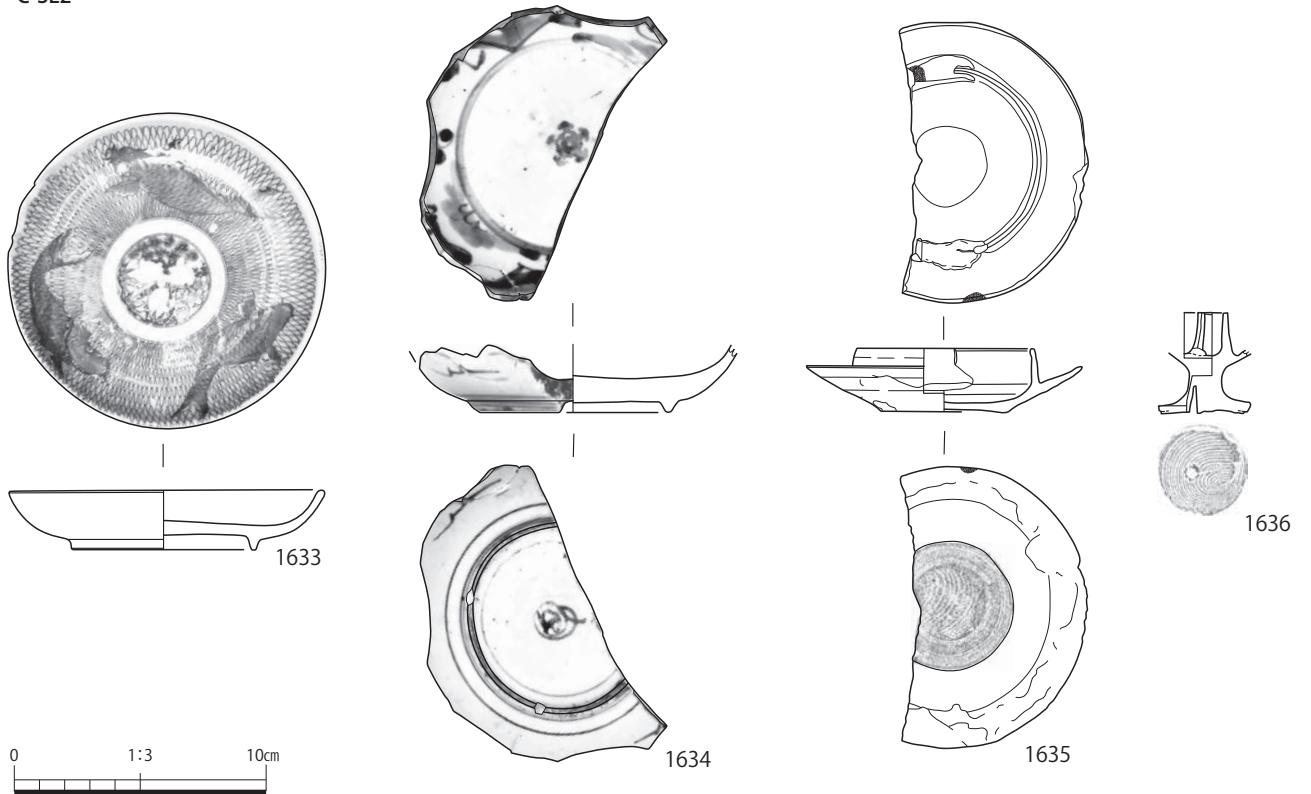


第 233 图 C 地点出土遺物 (17)

C-SS9

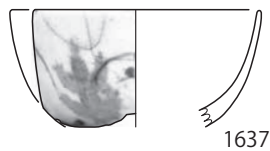


C-SE2

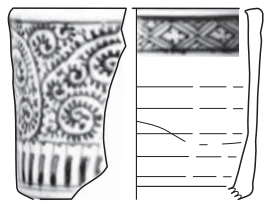


第 234 图 C 地点出土遺物 (18)

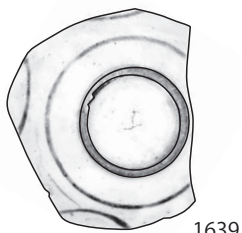
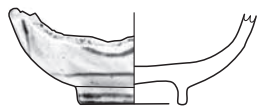
C-SE3



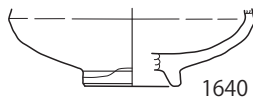
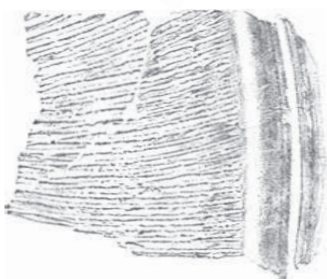
1637



1638



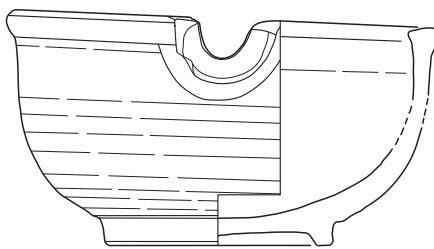
1639



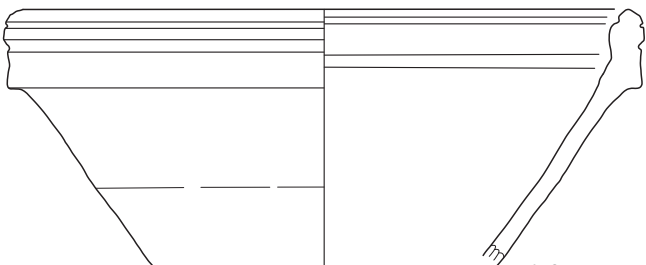
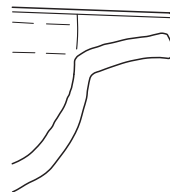
1640



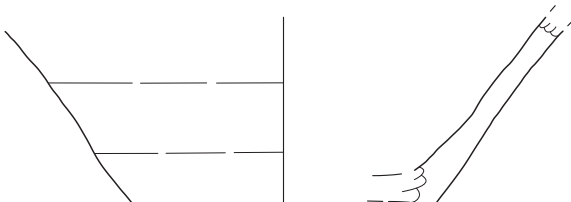
1641



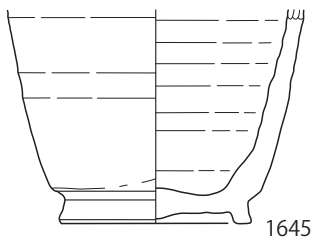
1642



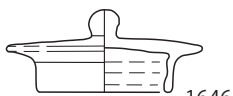
1643



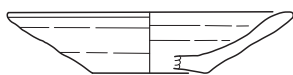
1644



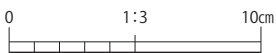
1645



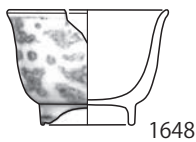
1646



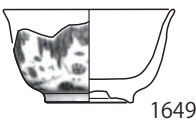
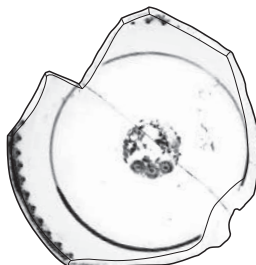
1647



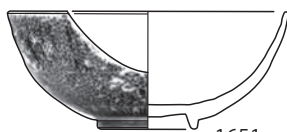
C-SX1



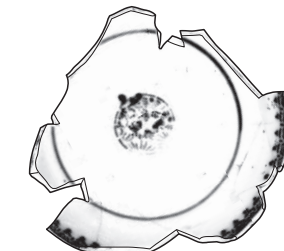
1648



1649



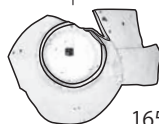
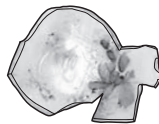
1651



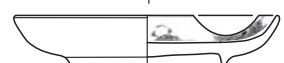
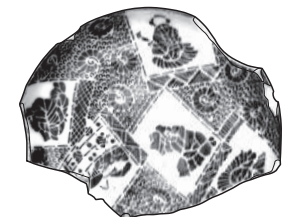
1652



1650



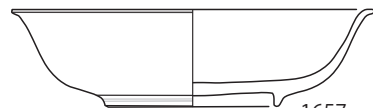
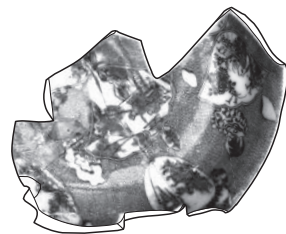
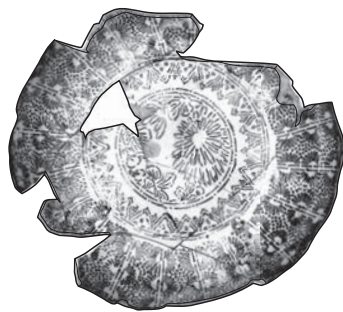
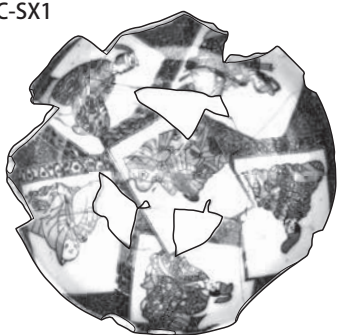
1653



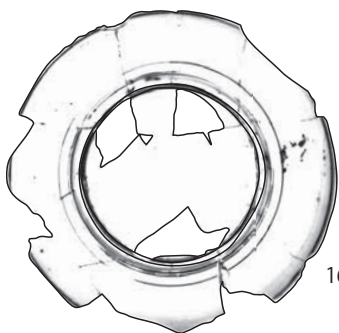
1654

第 235 图 C 地点出土遺物 (19)

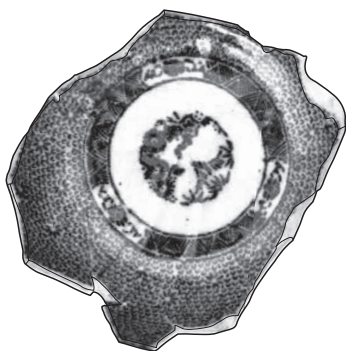
C-SX1



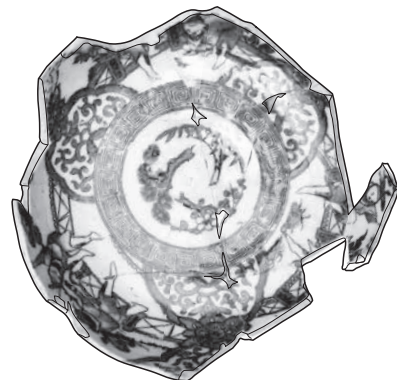
1657



1655



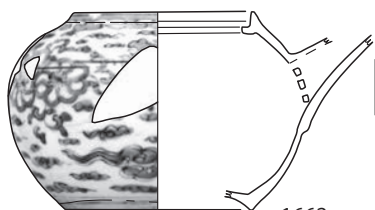
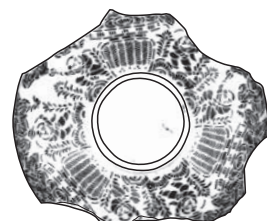
1658



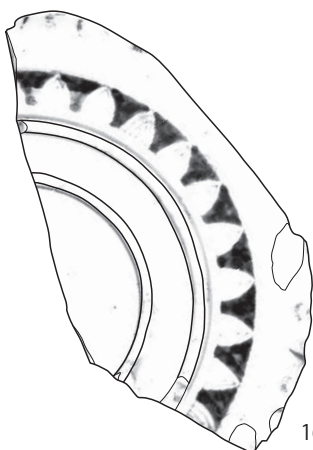
1659



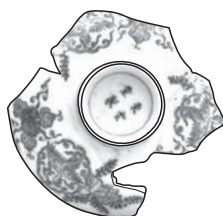
1661



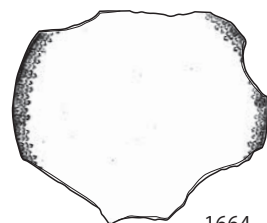
1662



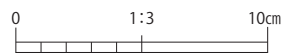
1660



1663

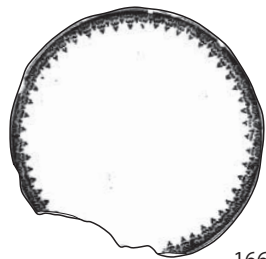
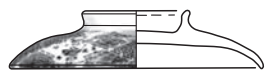
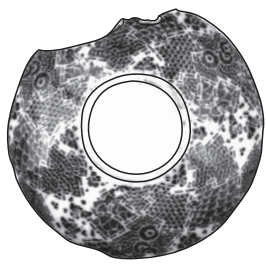


1664

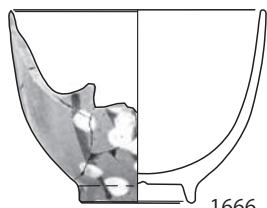


第 236 图 C 地点出土遺物 (20)

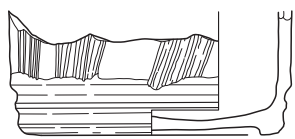
C-SX1



1665

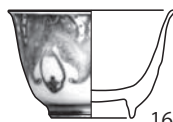


1666



1667

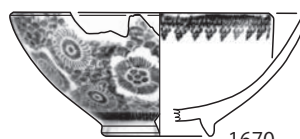
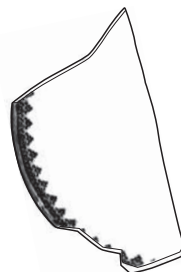
C-SX2



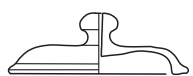
1668



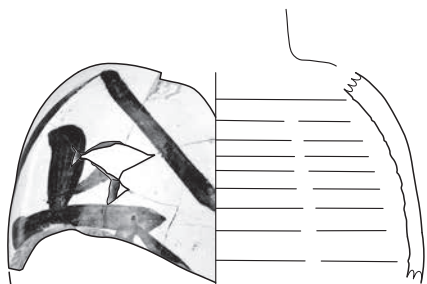
1669



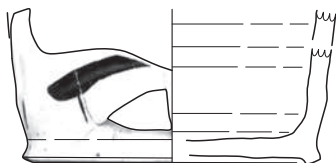
1670



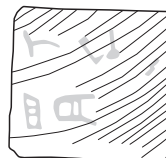
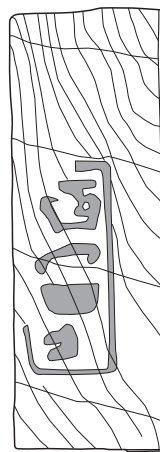
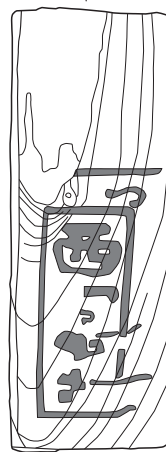
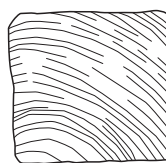
1671



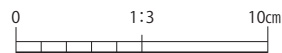
1672



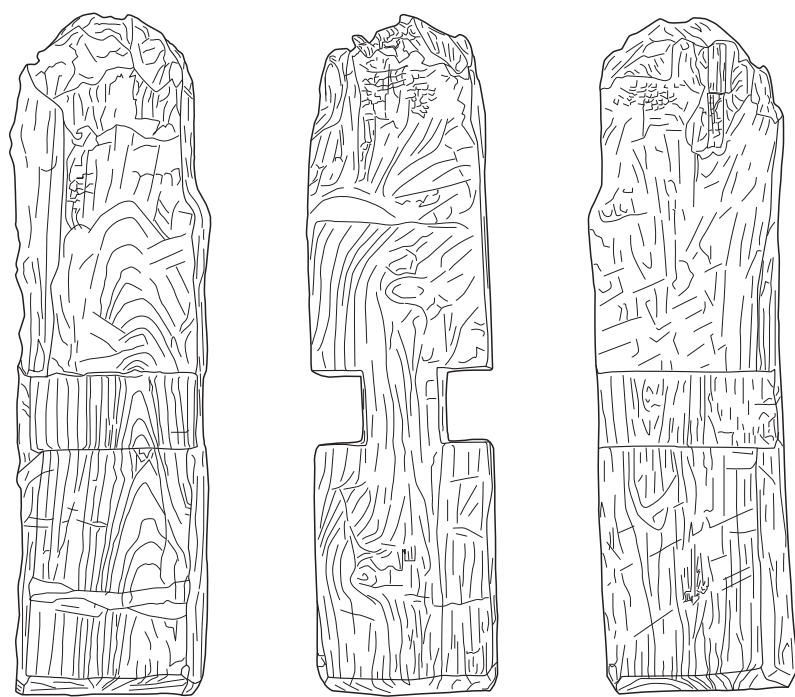
1673



1674



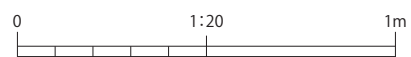
第 237 图 C 地点出土遗物 (21)



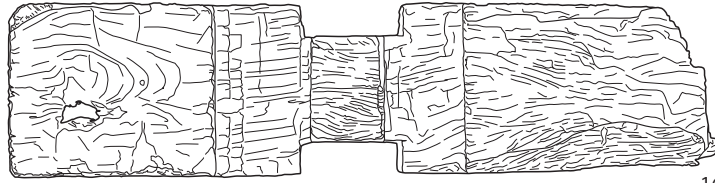
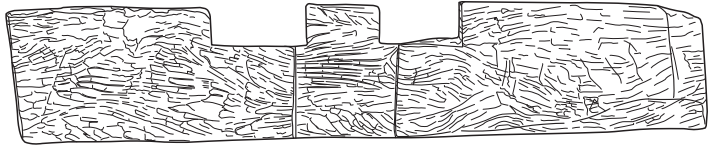
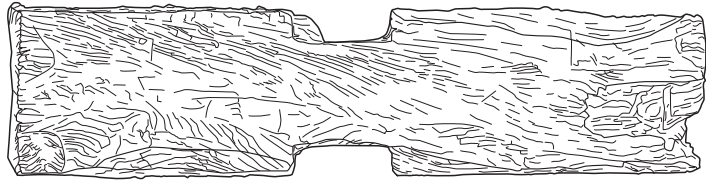
1675



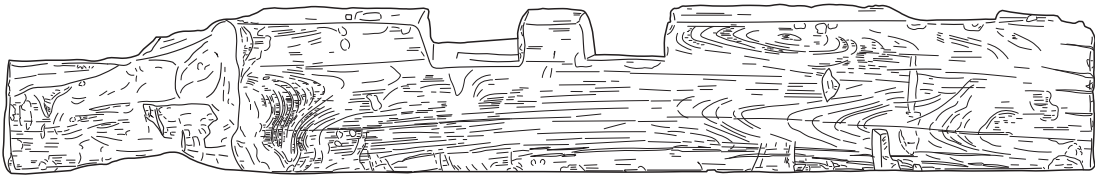
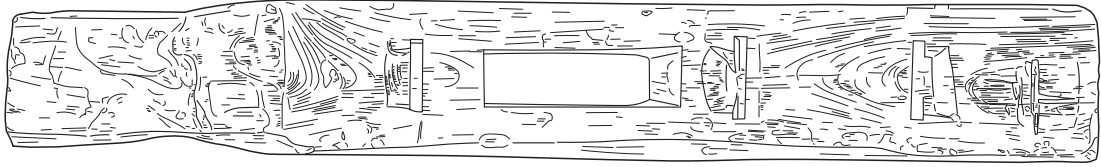
1676



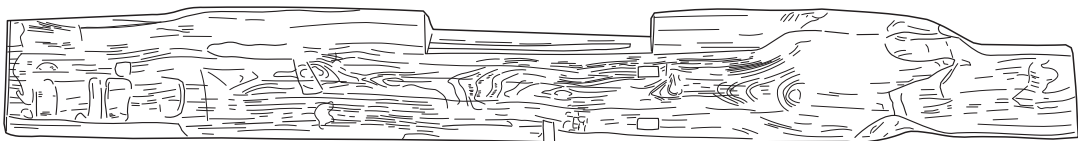
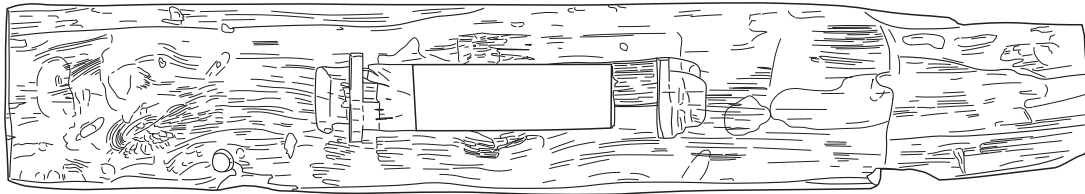
第 238 图 C 地点出土遺物 (22)



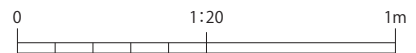
1677



1678



1679

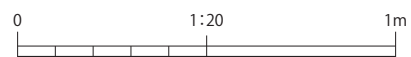


第 239 图 C 地点出土遗物 (23)

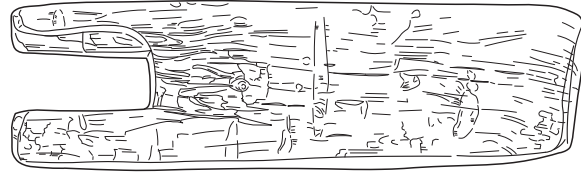


1680

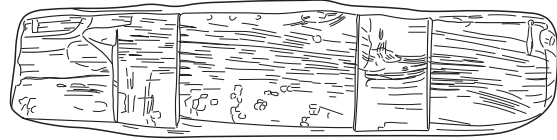
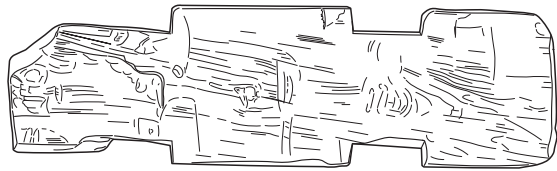
1681



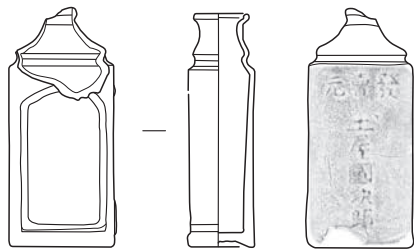
第 240 图 C 地点出土遺物 (24)



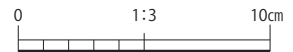
1682



1683



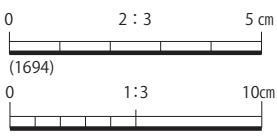
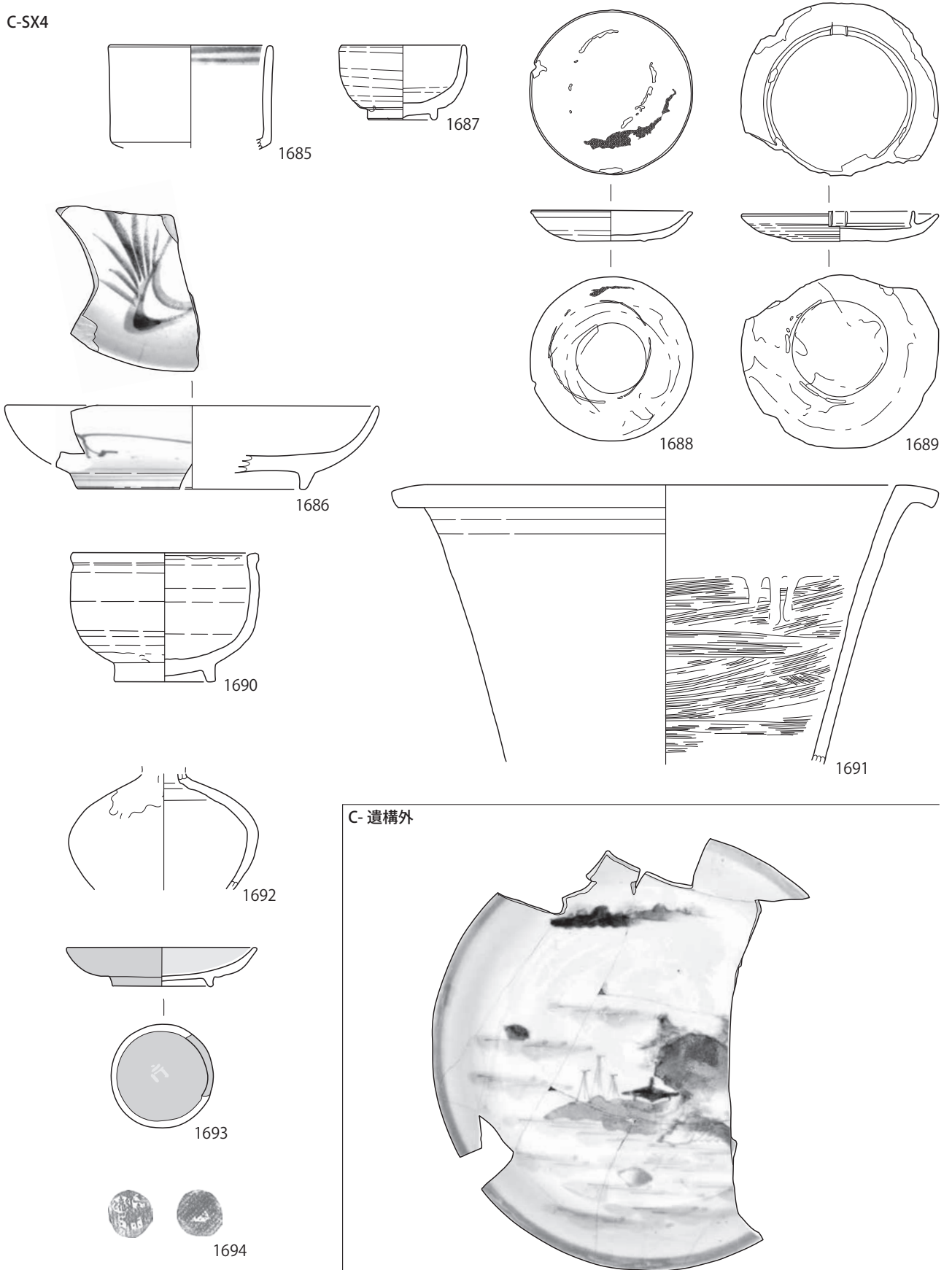
1684



(1682·1683)

第 241 图 C 地点出土遺物 (25)

C-SX4

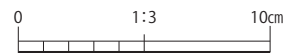
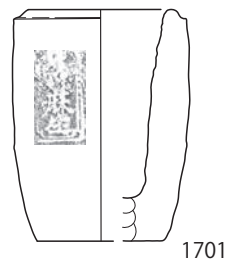
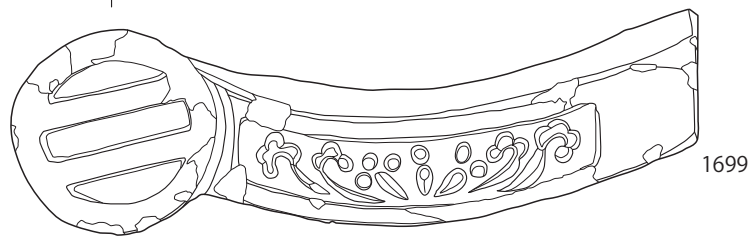
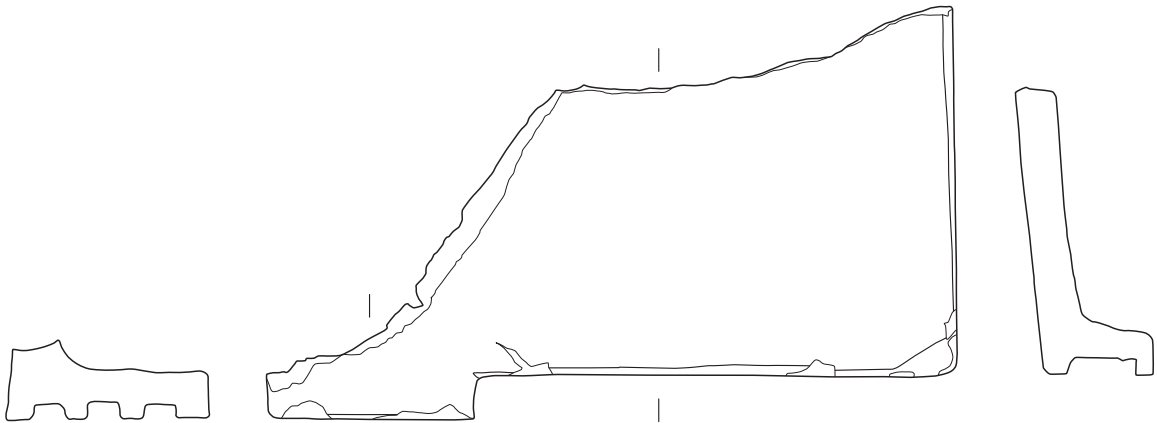
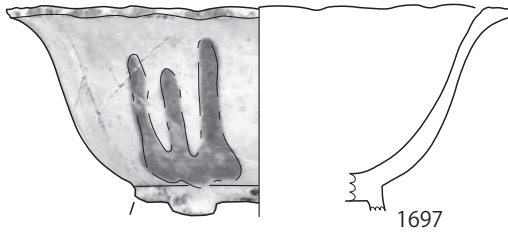
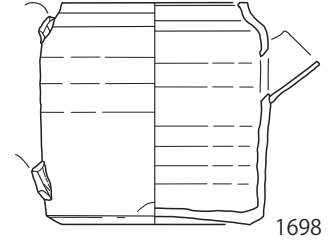
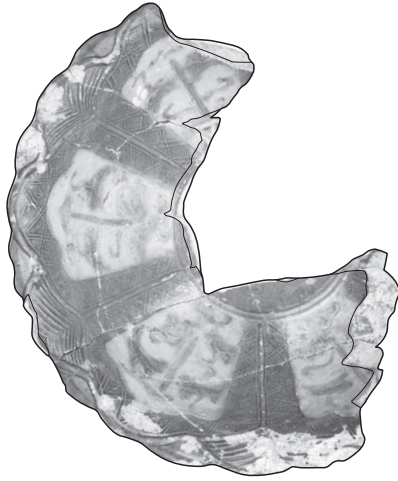
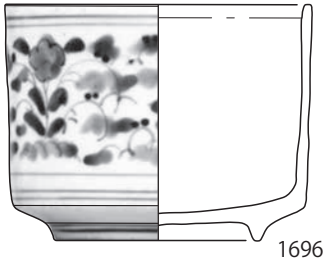


C- 遺構外



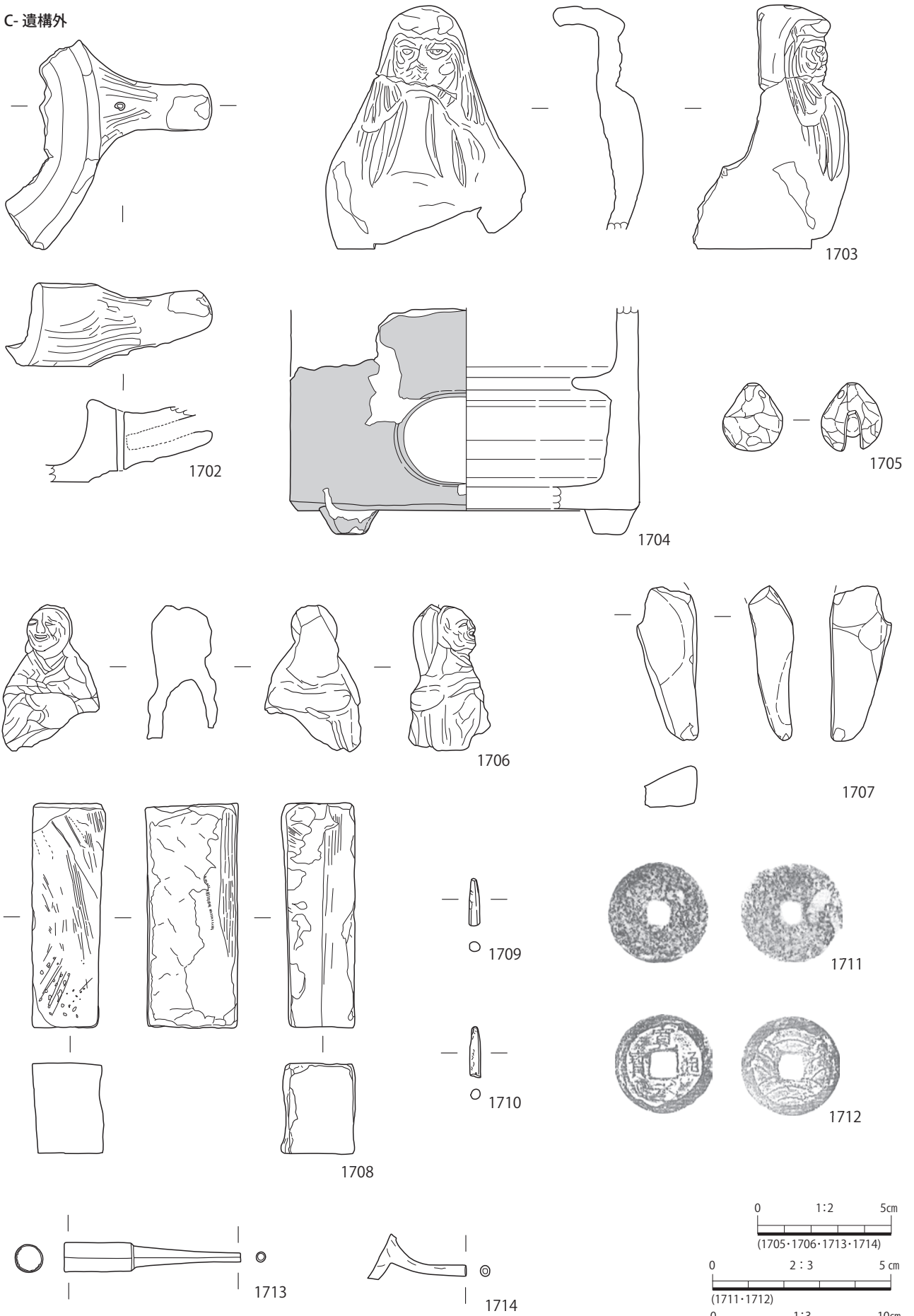
第 242 图 C 地点出土遺物 (26)

C- 遺構外



第 243 図 C 地点出土遺物 (27)

C- 遺構外



第 244 图 C 地点出土遺物 (28)

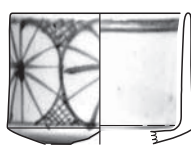
D-SK1



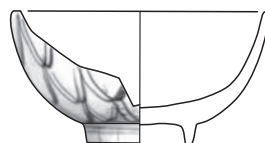
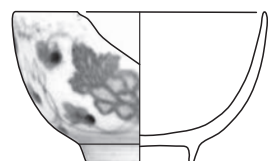
1715

1716

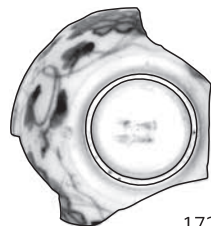
D-SK3



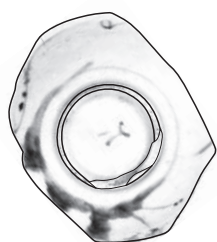
1717



1719



1720



1721



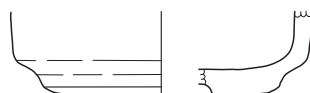
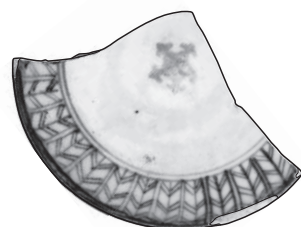
1722



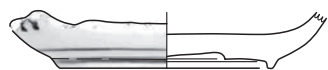
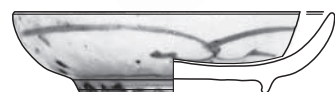
1718



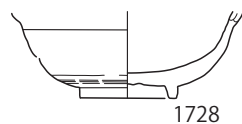
1723



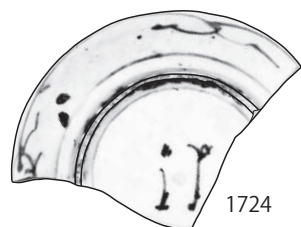
1726



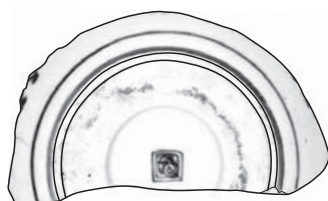
1727



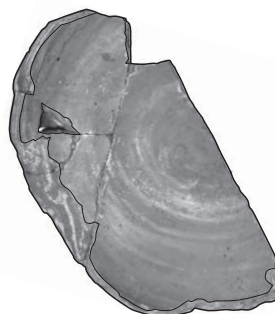
1728



1724



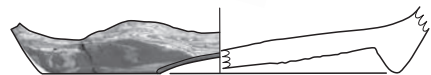
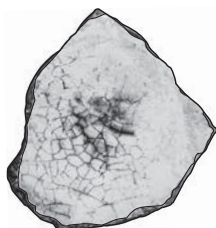
1725



1729



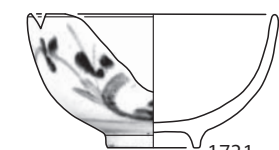
1732



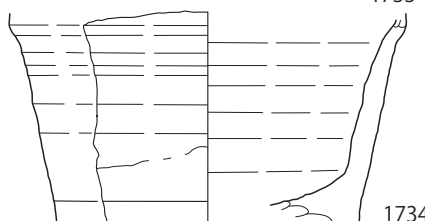
1730



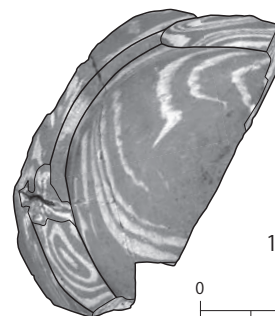
1733



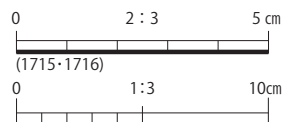
1731



1734

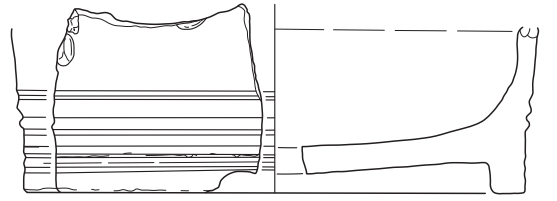
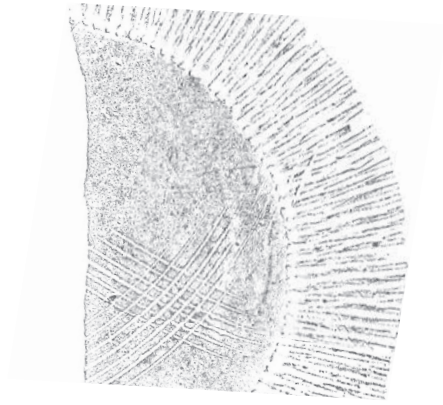


1735

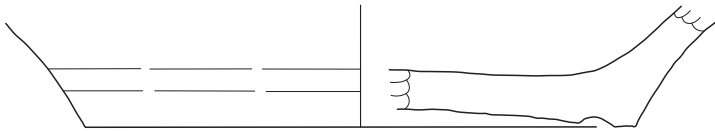


第 245 图 D地点出土遺物 (1)

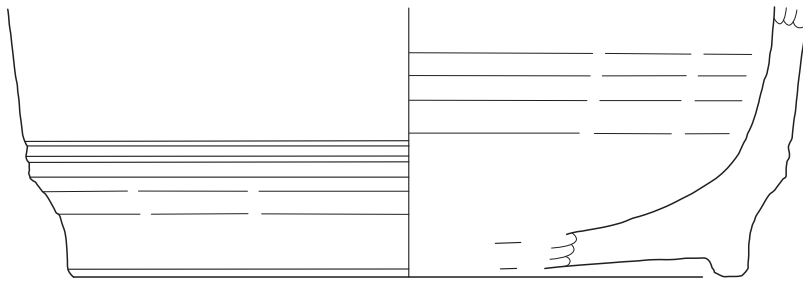
D-SK3



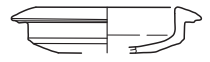
1737



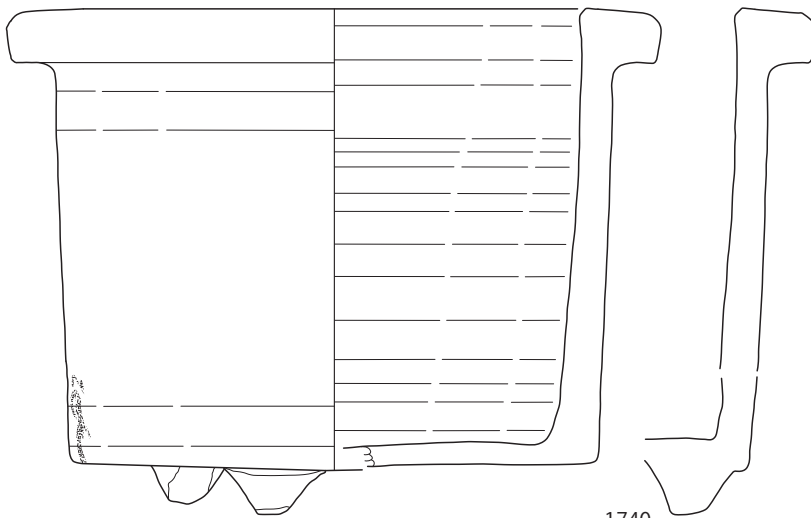
1736



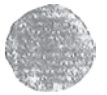
1738



1739



1740



1742



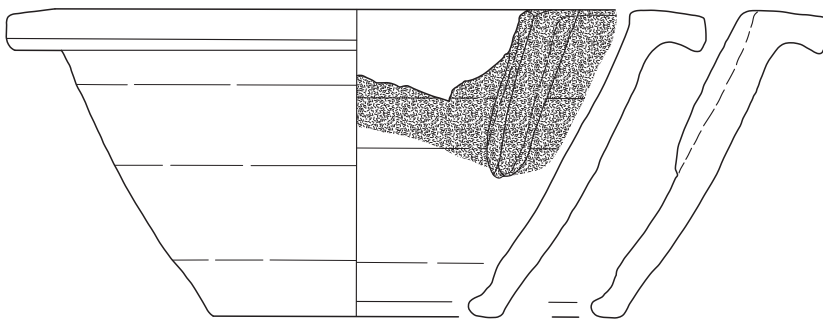
1743



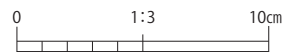
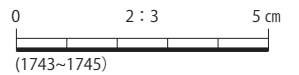
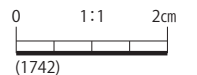
1744



1745

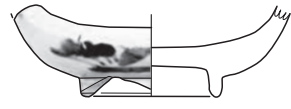


1741



第 246 图 D 地点出土遗物 (2)

D-SK4



1746



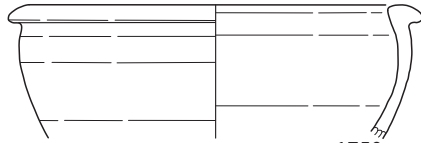
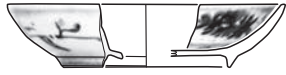
1748



1749



1747



1750



1751



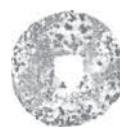
1752



1753



1754



1755



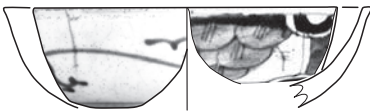
1756



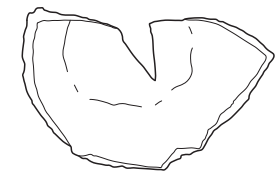
1757



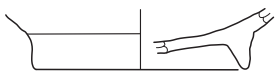
D-SK5



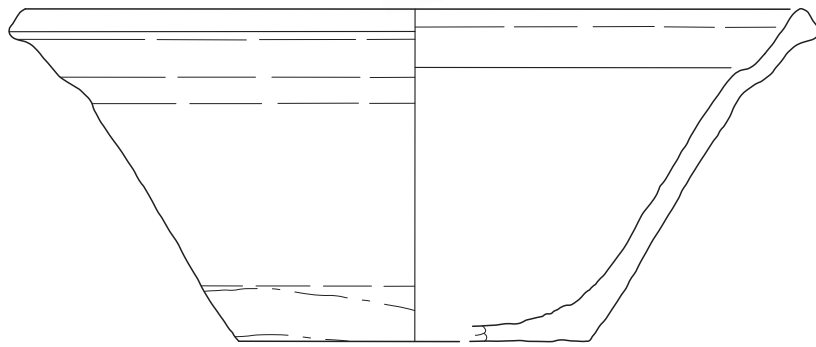
1758



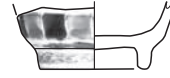
1759



1760



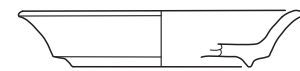
D-SK6



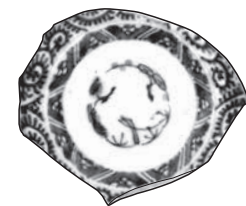
1761



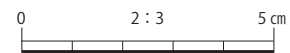
1762



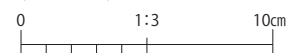
1763



1764

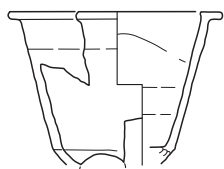


(1752~1757)

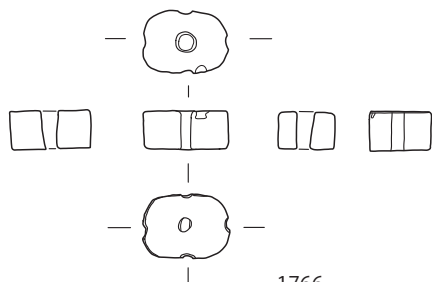


第 247 图 D地点出土遺物 (3)

D-SK6

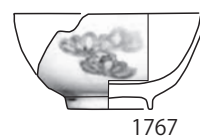


1765

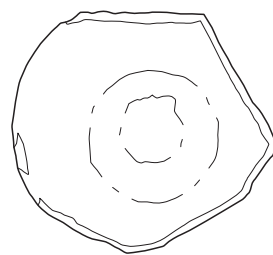


1766

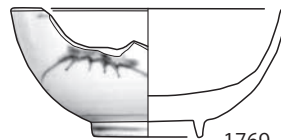
D-SK9



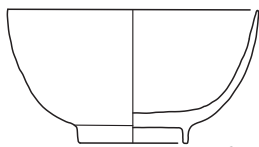
1767



1768



1769



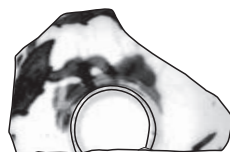
1770



1771



1772



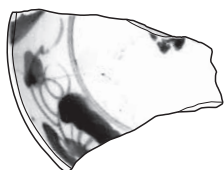
1773



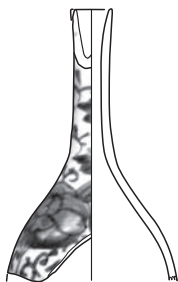
1774



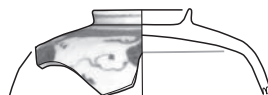
1775



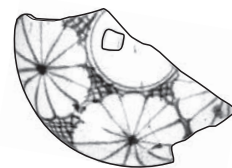
1776



1777



1778



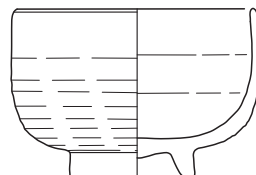
1779



1780



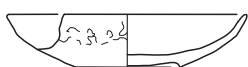
1781



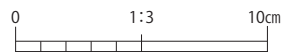
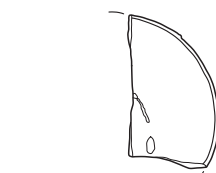
1782



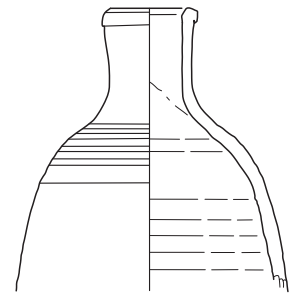
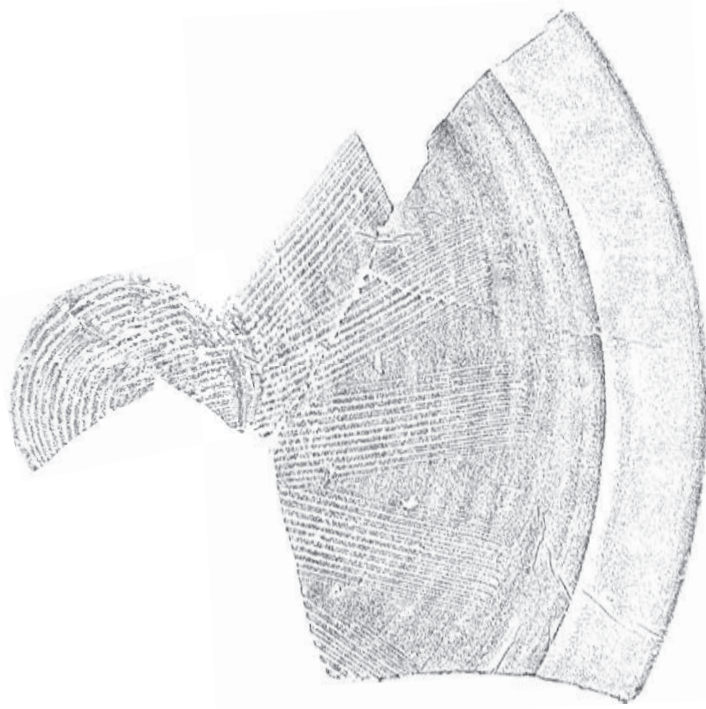
1783



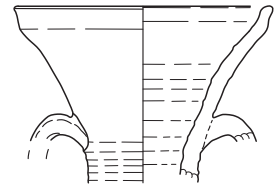
1784



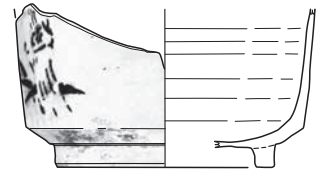
第 248 图 D地点出土遺物 (4)



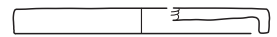
1787



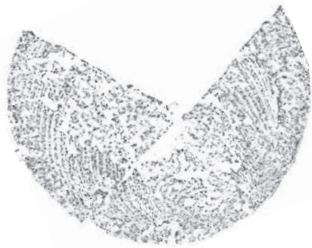
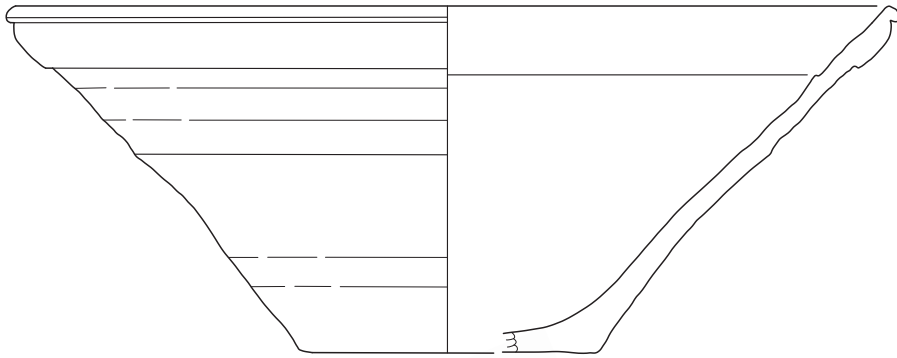
1788



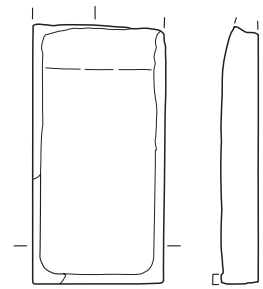
1789



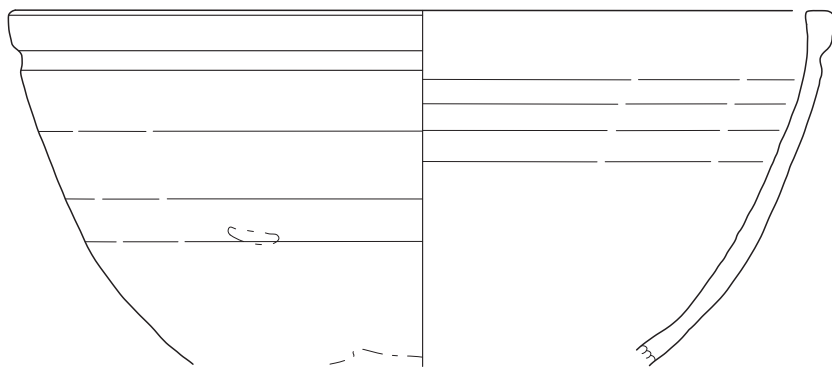
1790



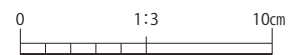
1785



1791

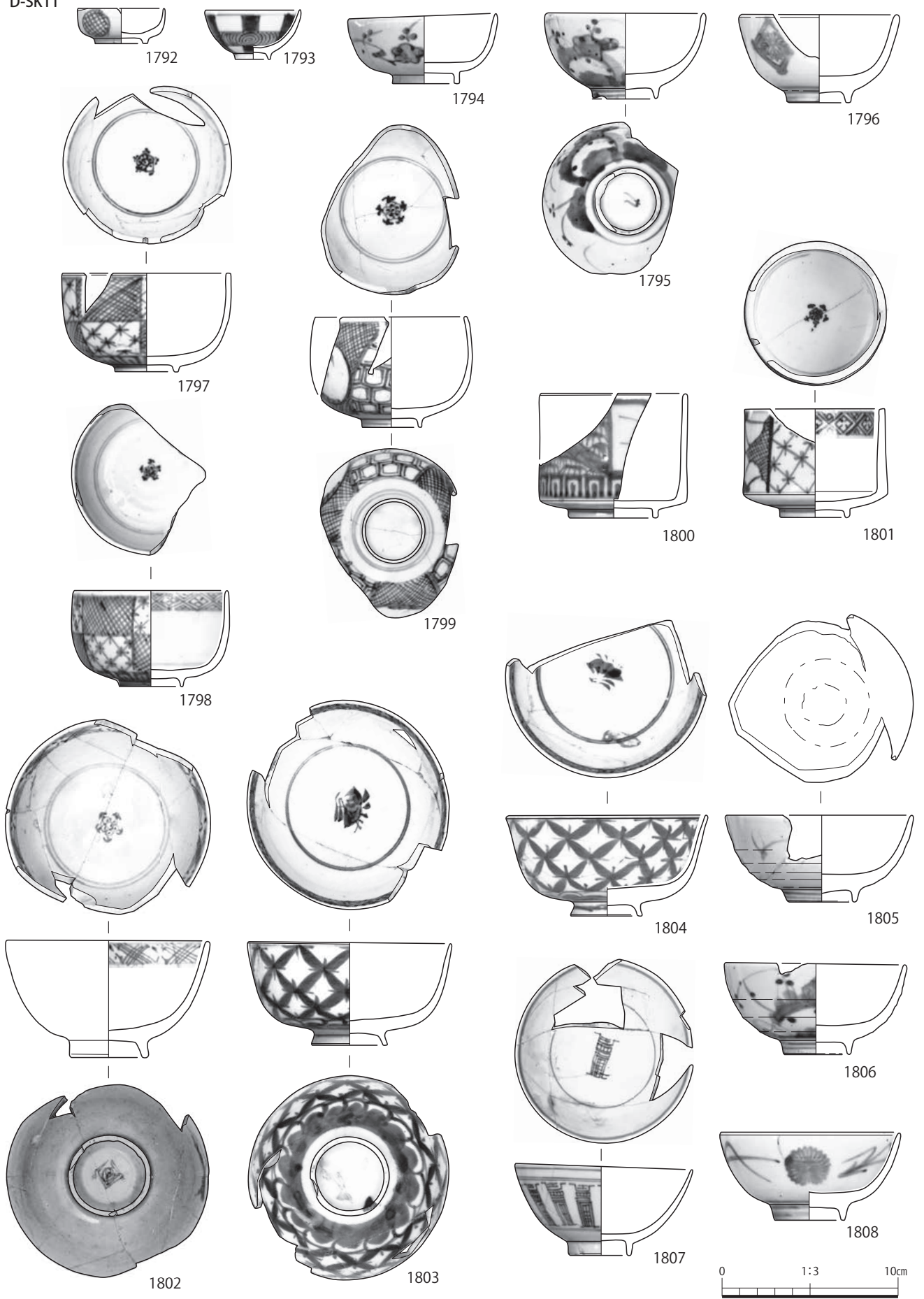


1786



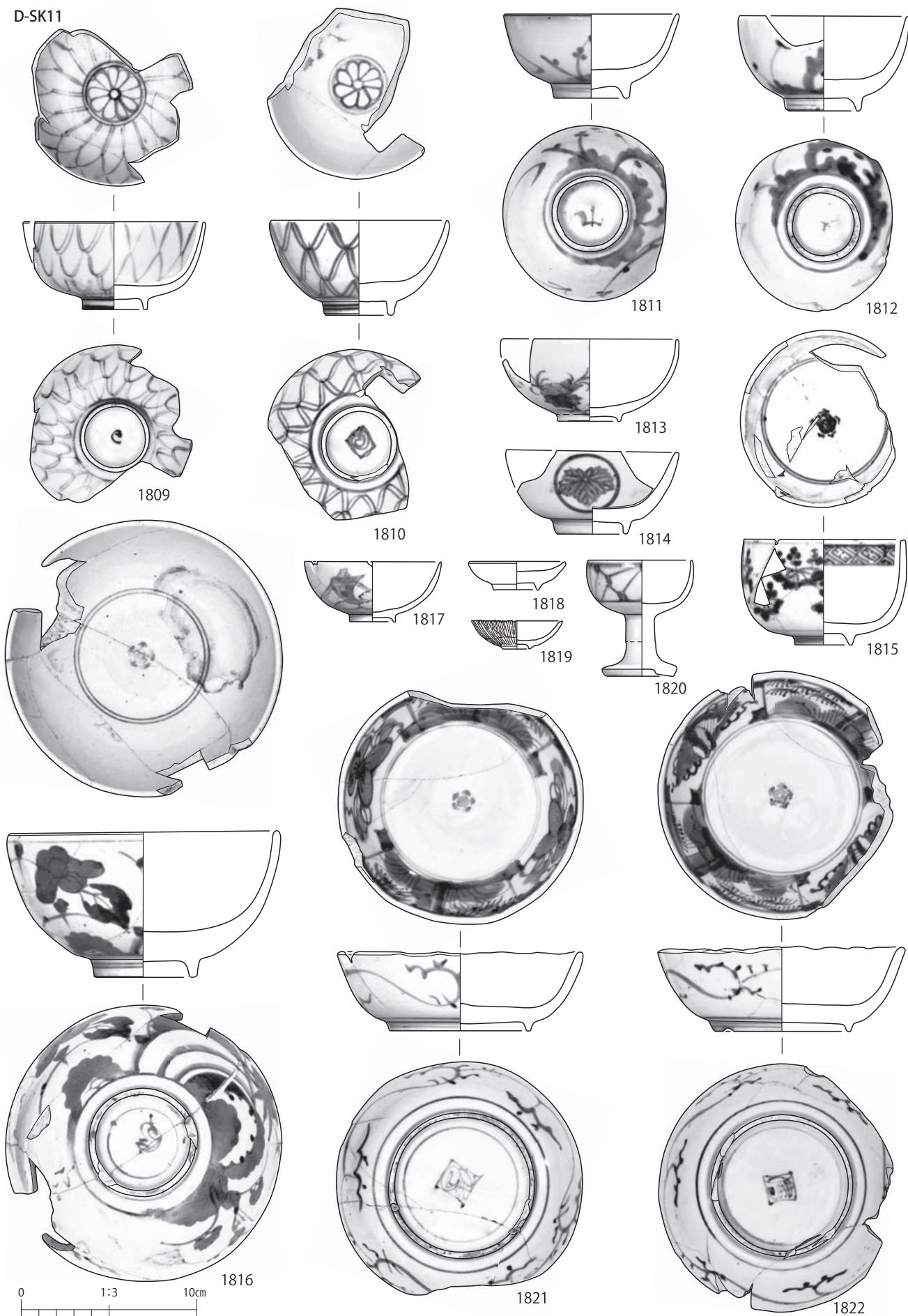
第 249 图 D地点出土遺物 (5)

D-SK11



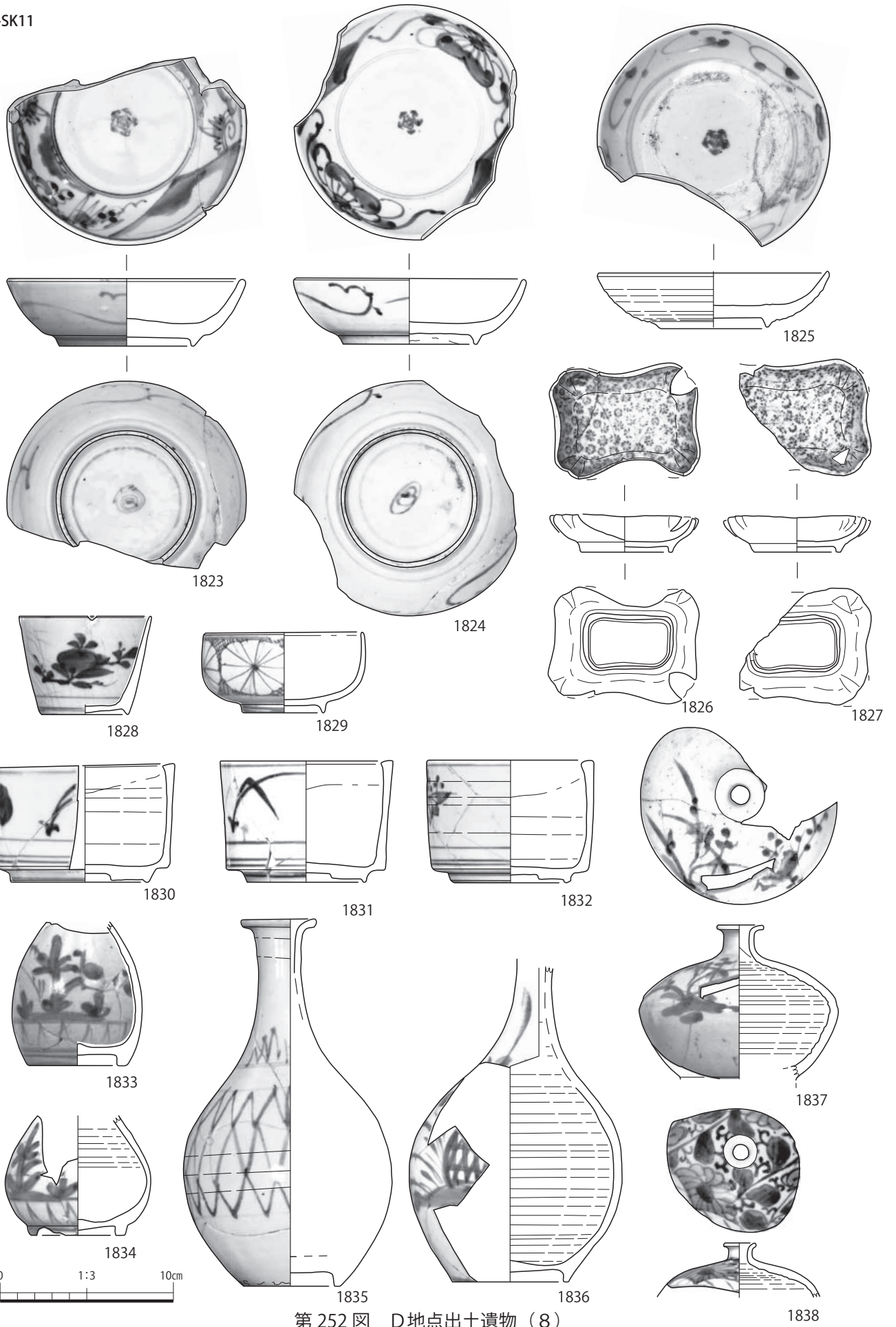
第 250 图 D地点出土遺物 (6)

D-SK11



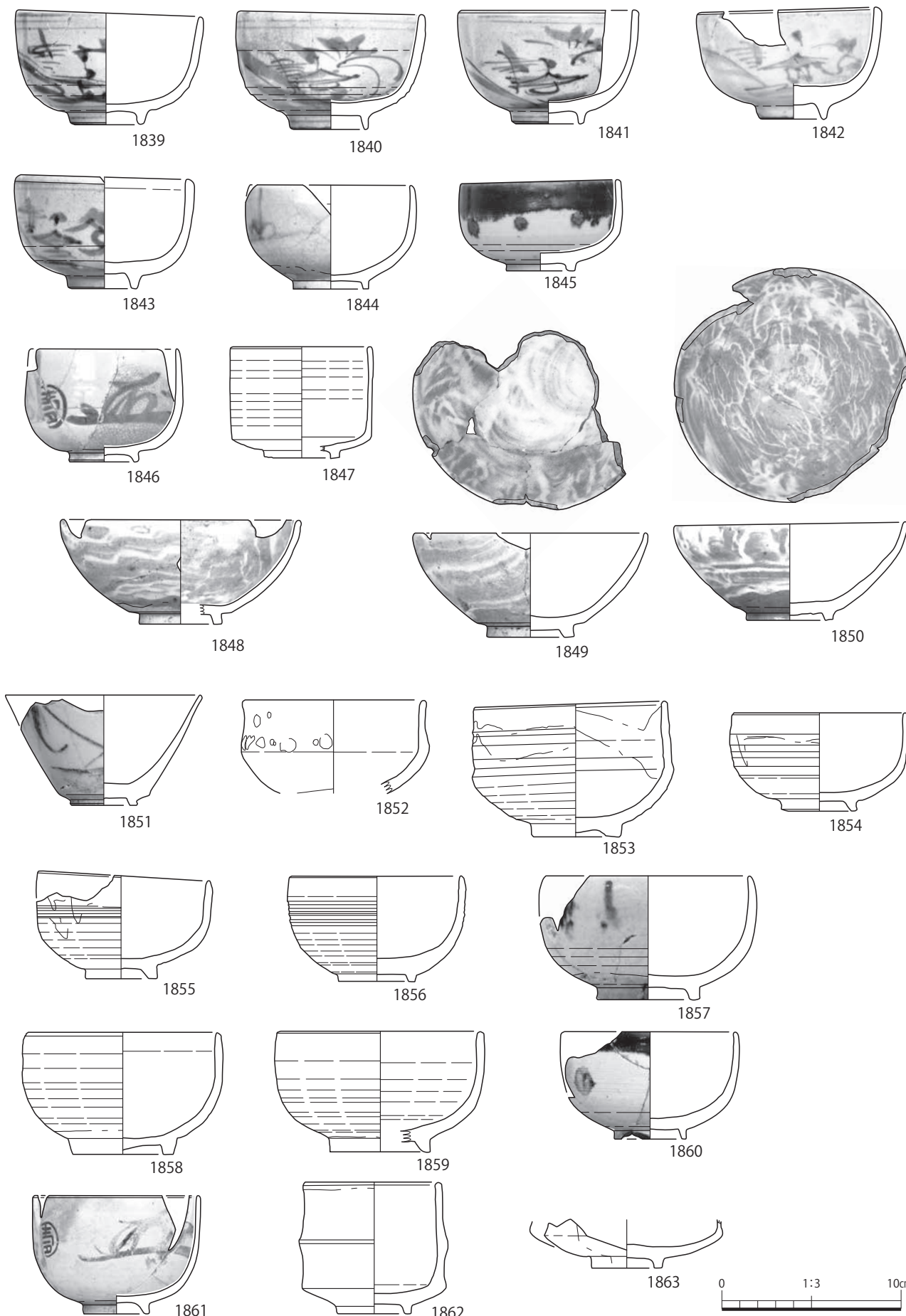
第251图 D地点出土遺物(7)

D-SK11



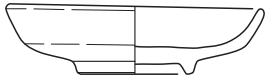
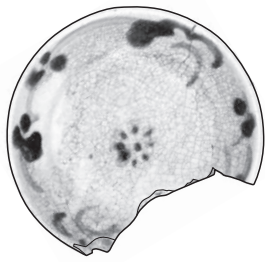
第 252 图 D地点出土遺物 (8)

D-SK11

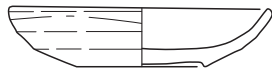
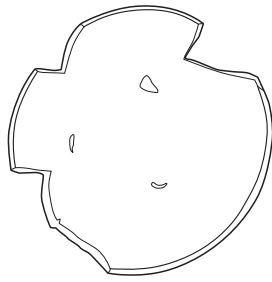


第 253 图 D地点出土遺物 (9)

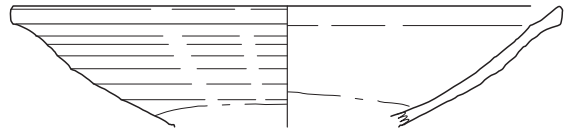
D-SK11



1864



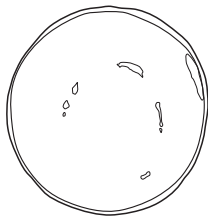
1865



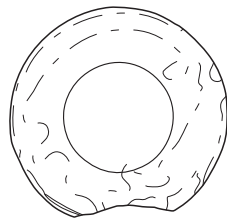
1866



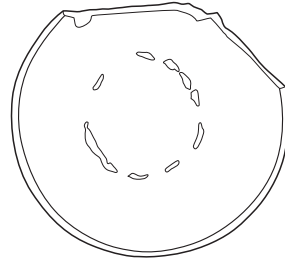
1867



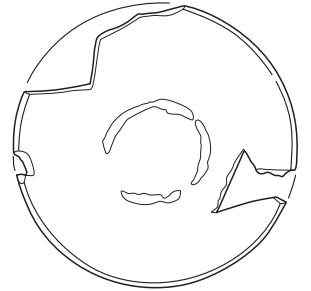
1868



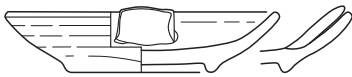
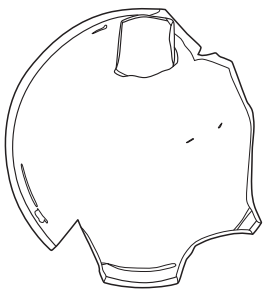
1869



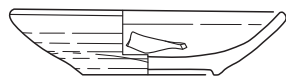
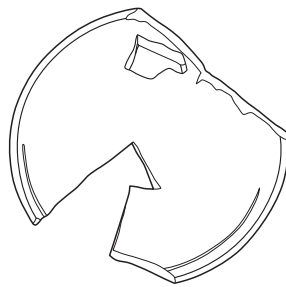
1870



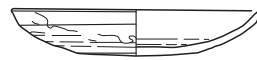
1871



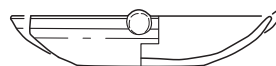
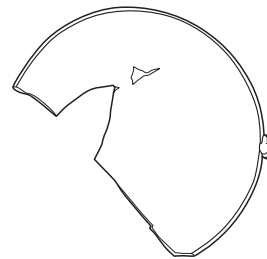
1872



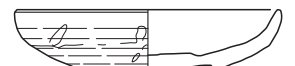
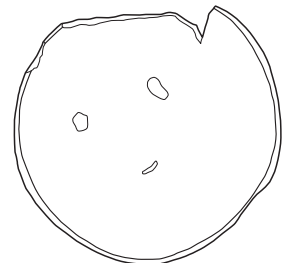
1873



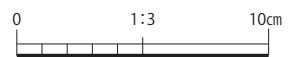
1874



1875

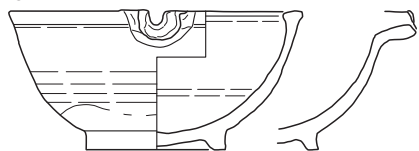


1876

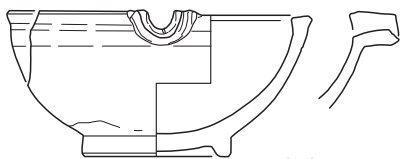


第 254 图 D地点出土遺物 (10)

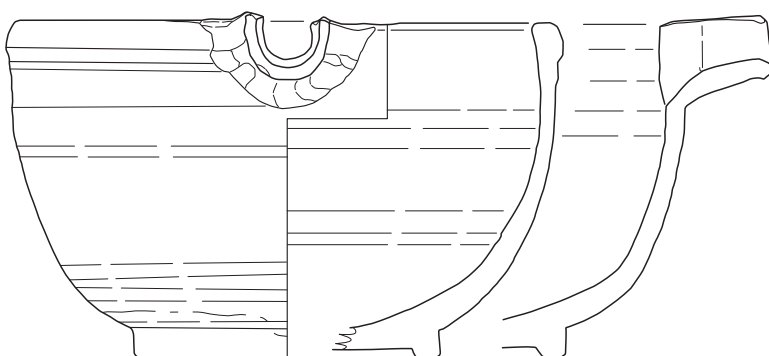
D-SK11



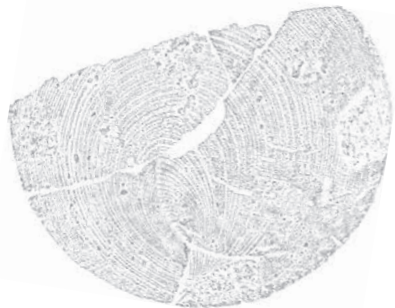
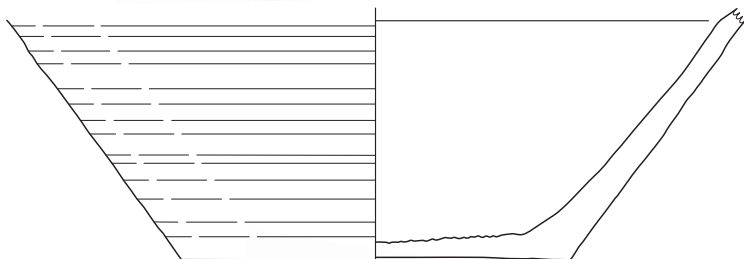
1877



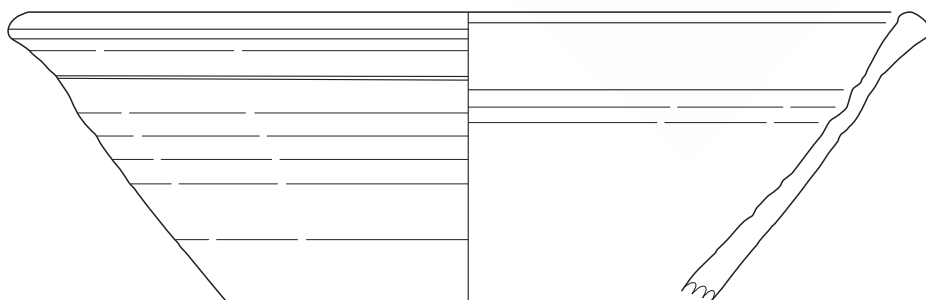
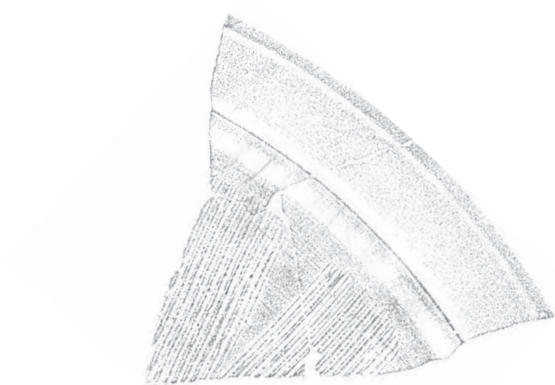
1878



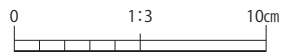
1879



1880

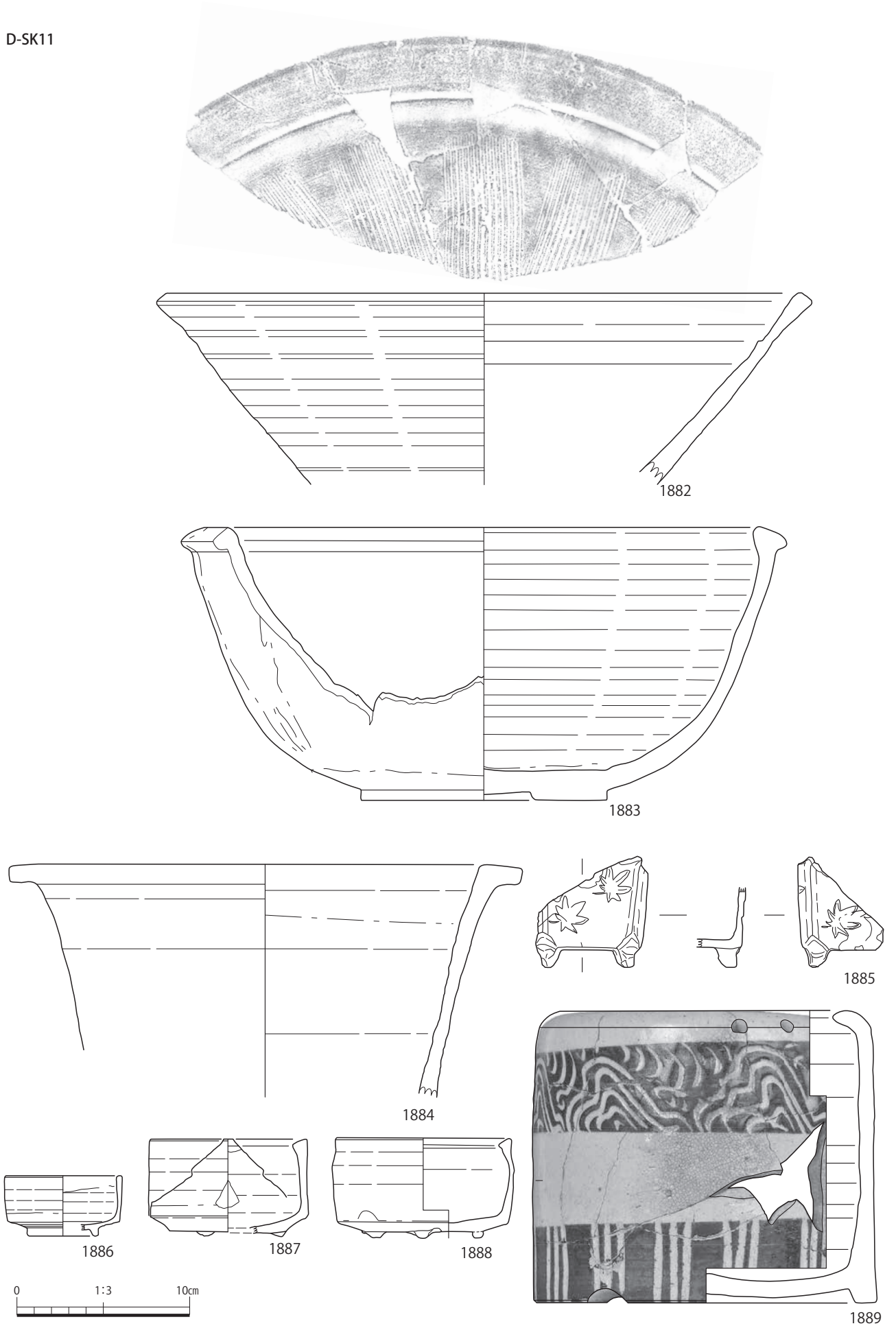


1881



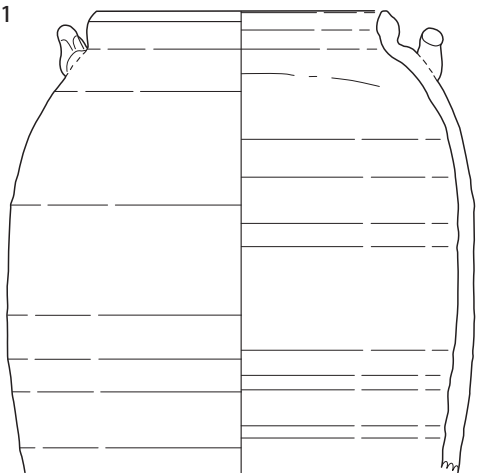
第 255 图 D 地点出土遺物 (11)

D-SK11

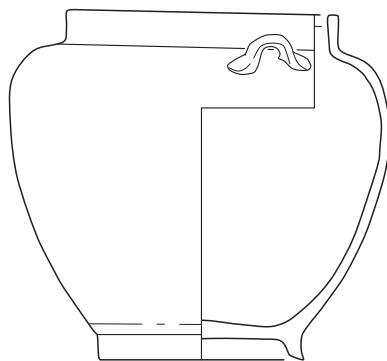


第 256 图 D地点出土遺物 (12)

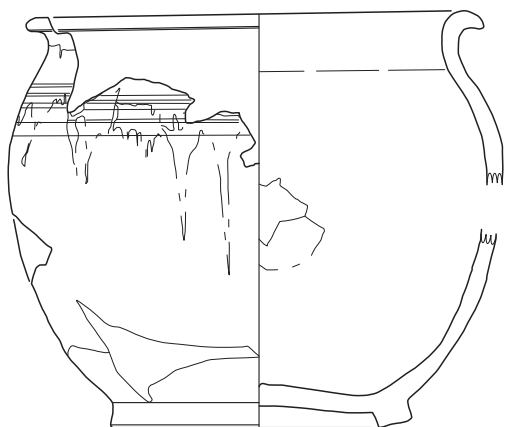
D-SK11



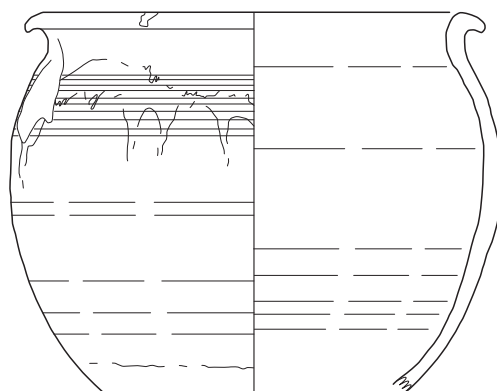
1890



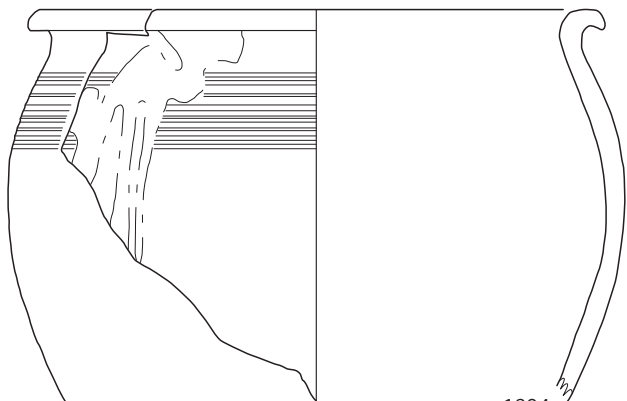
1891



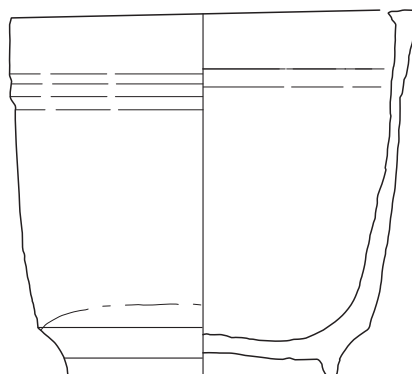
1892



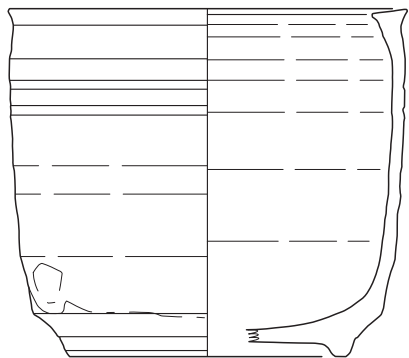
1893



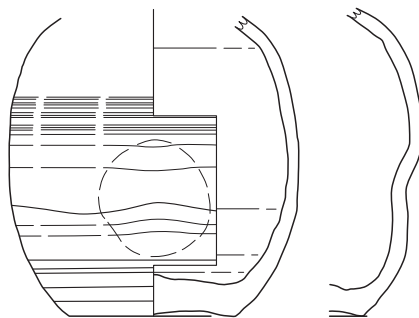
1894



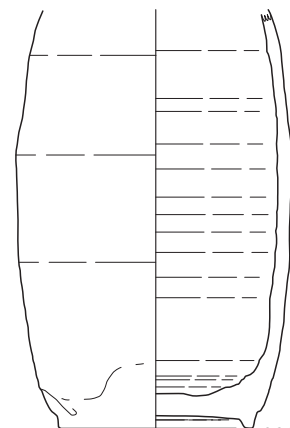
1895



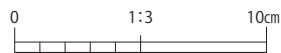
1896



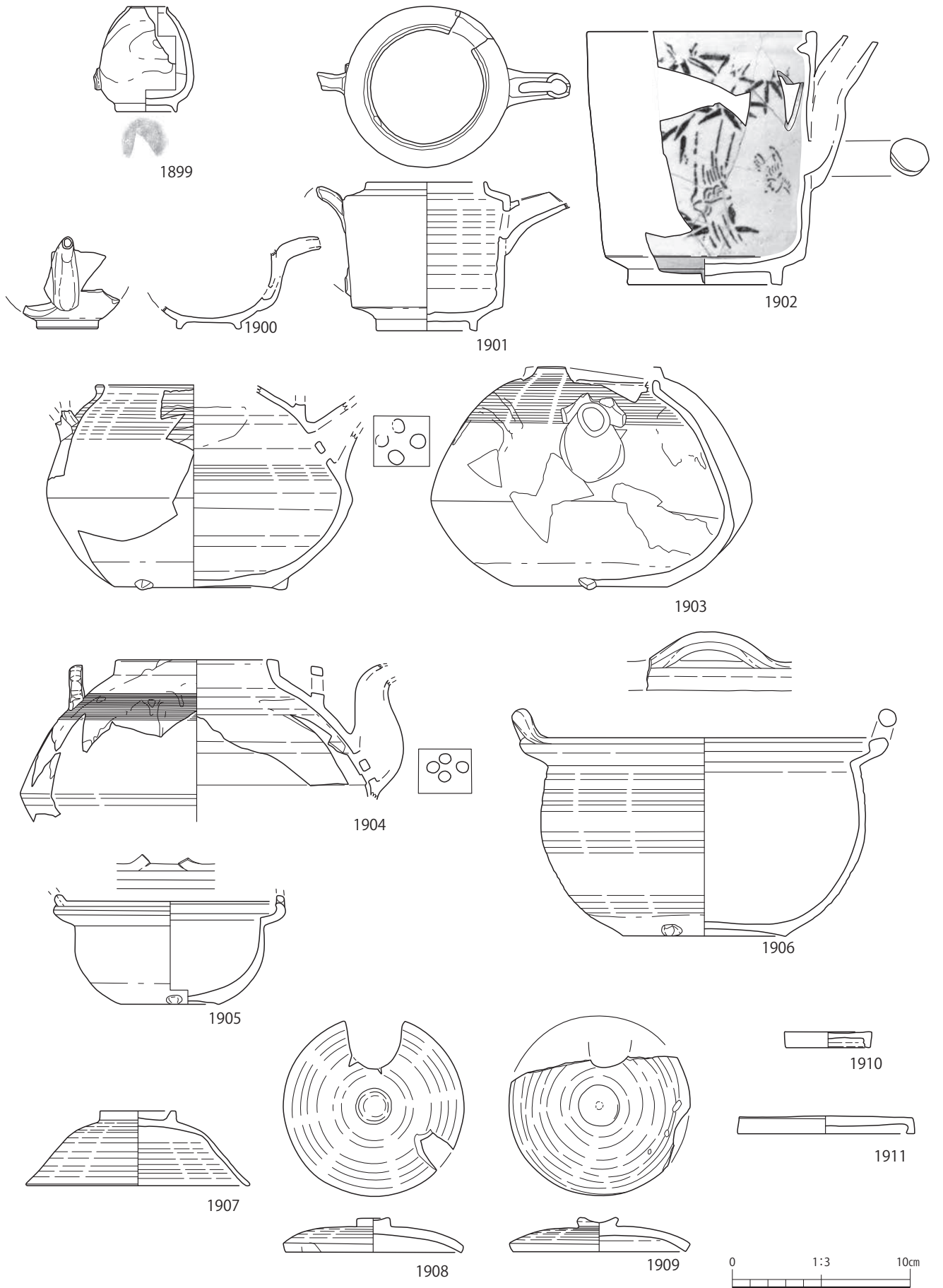
1897



1898

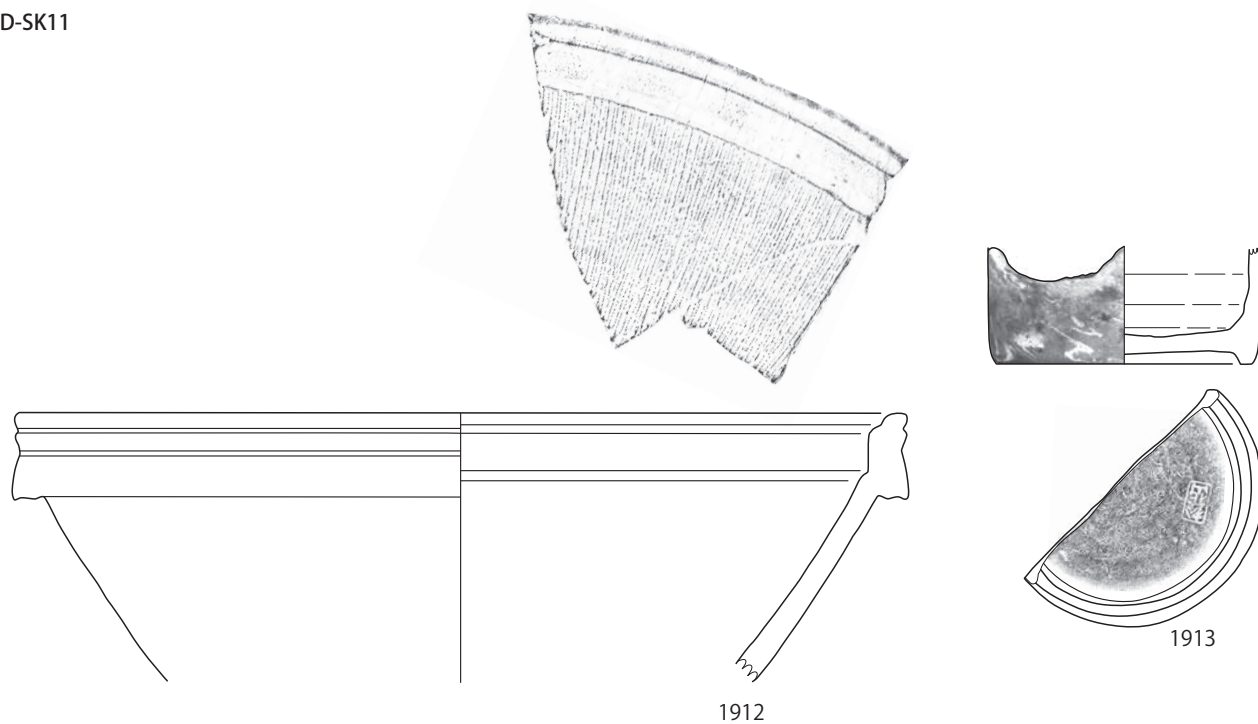


第 257 图 D地点出土遺物 (13)

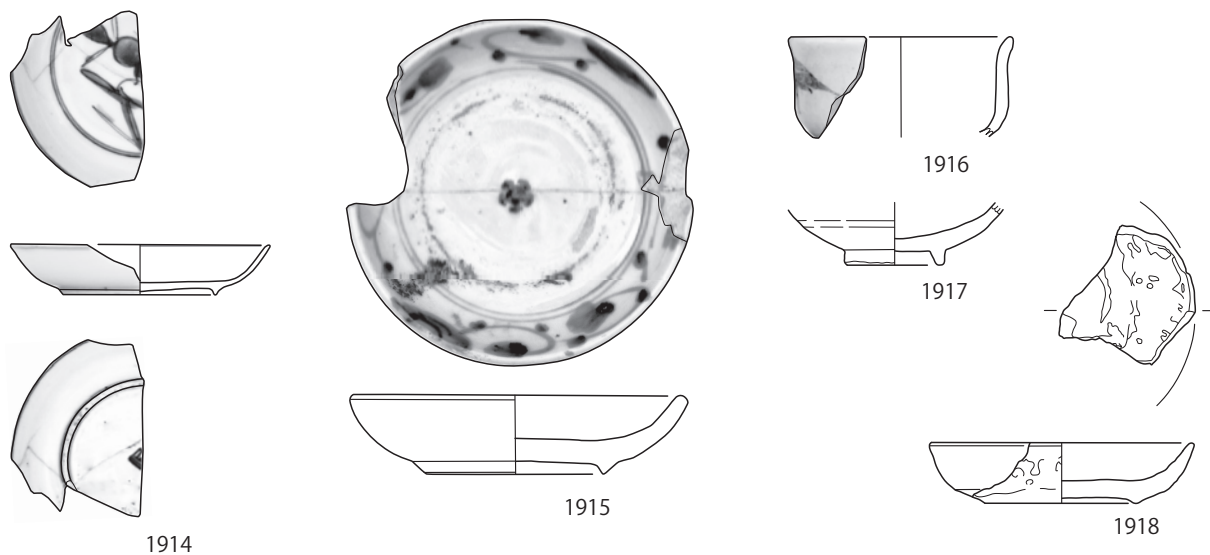


第 258 图 D地点出土遺物 (14)

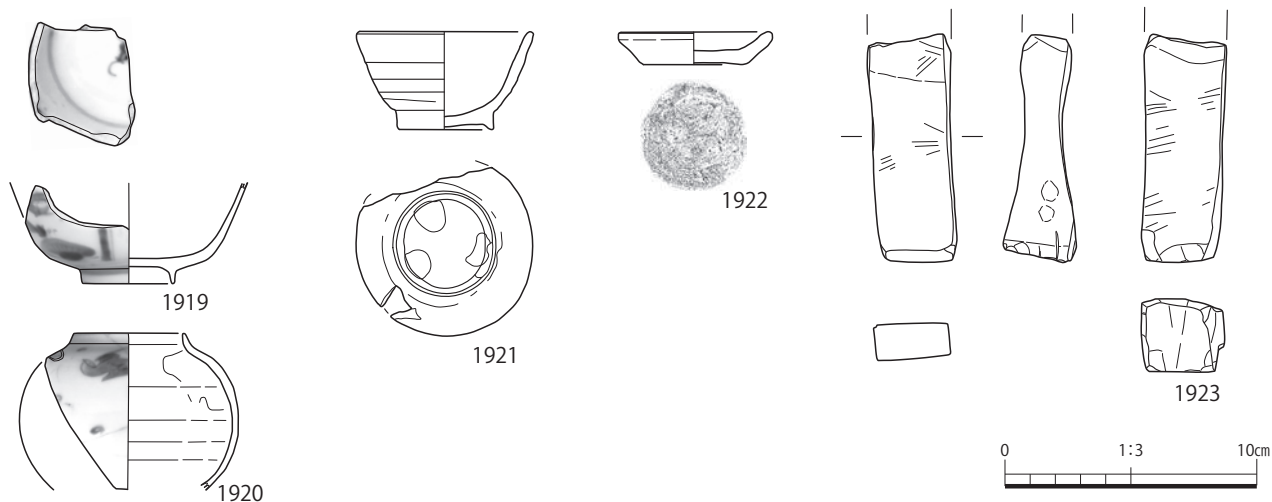
D-SK11



D-SK12

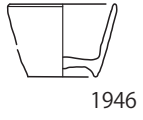


D-SK13

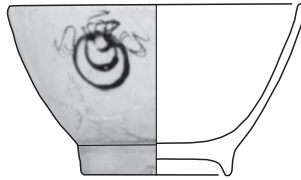
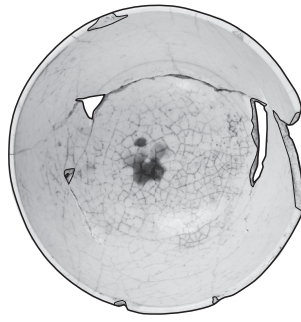


第 259 图 D地点出土遺物 (15)

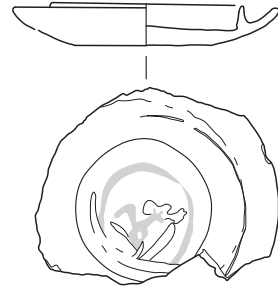
D- 遺構外



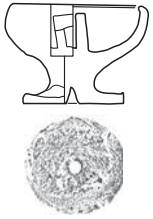
1946



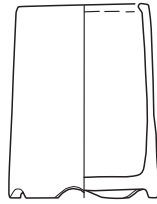
1947



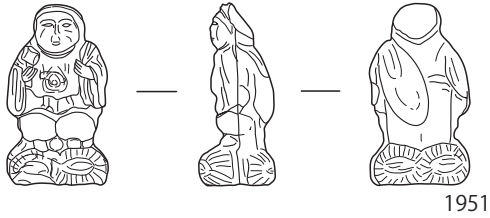
1948



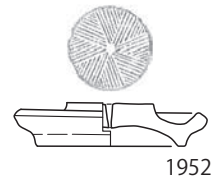
1949



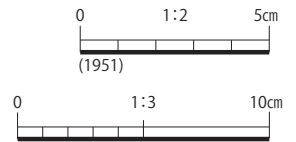
1950



1951

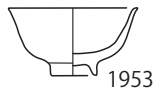


1952

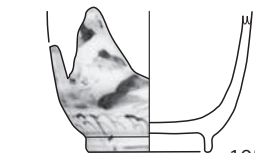


第 261 图 D地点出土遺物 (17)

相生-SK1



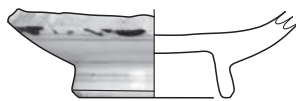
1954



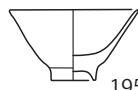
1955



1956



1957

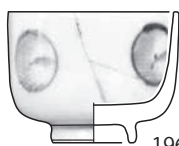


1958



1960

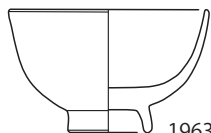
相生-SK3



1961



1962



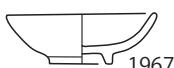
1963



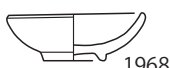
1964



1965



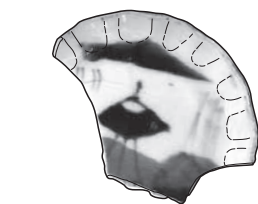
1967



1968



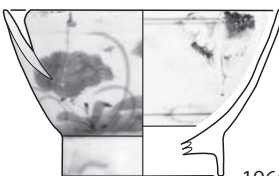
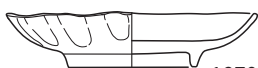
1969



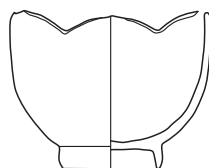
1970



1971



1966



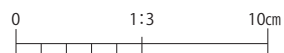
1972



1973

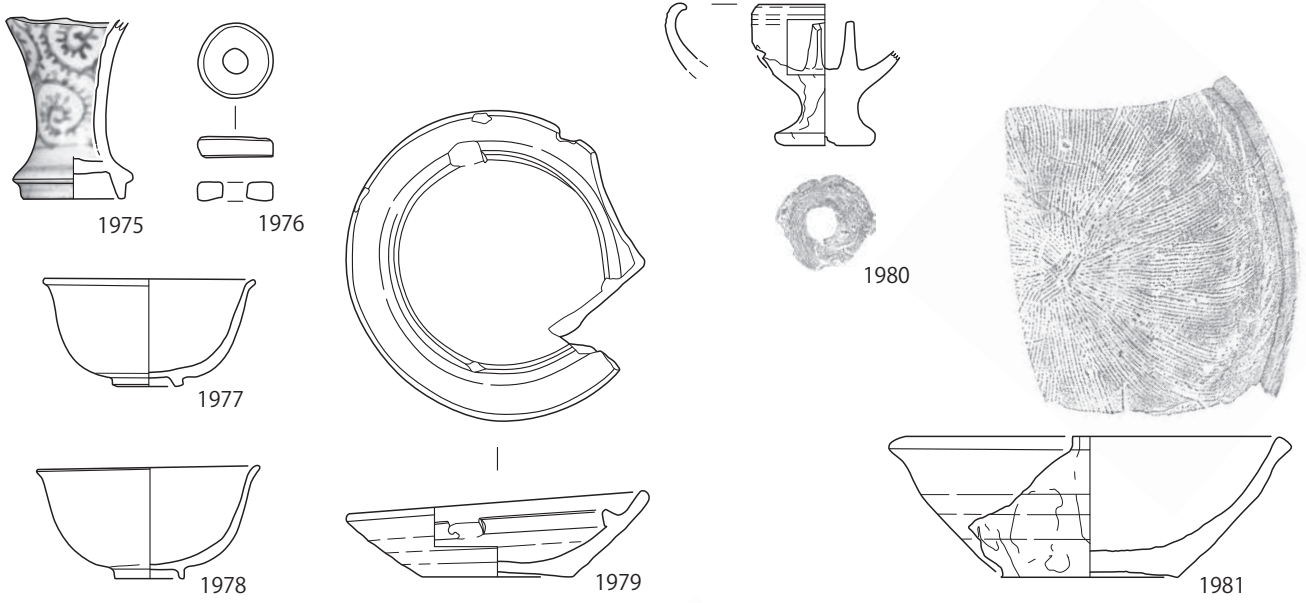


1974

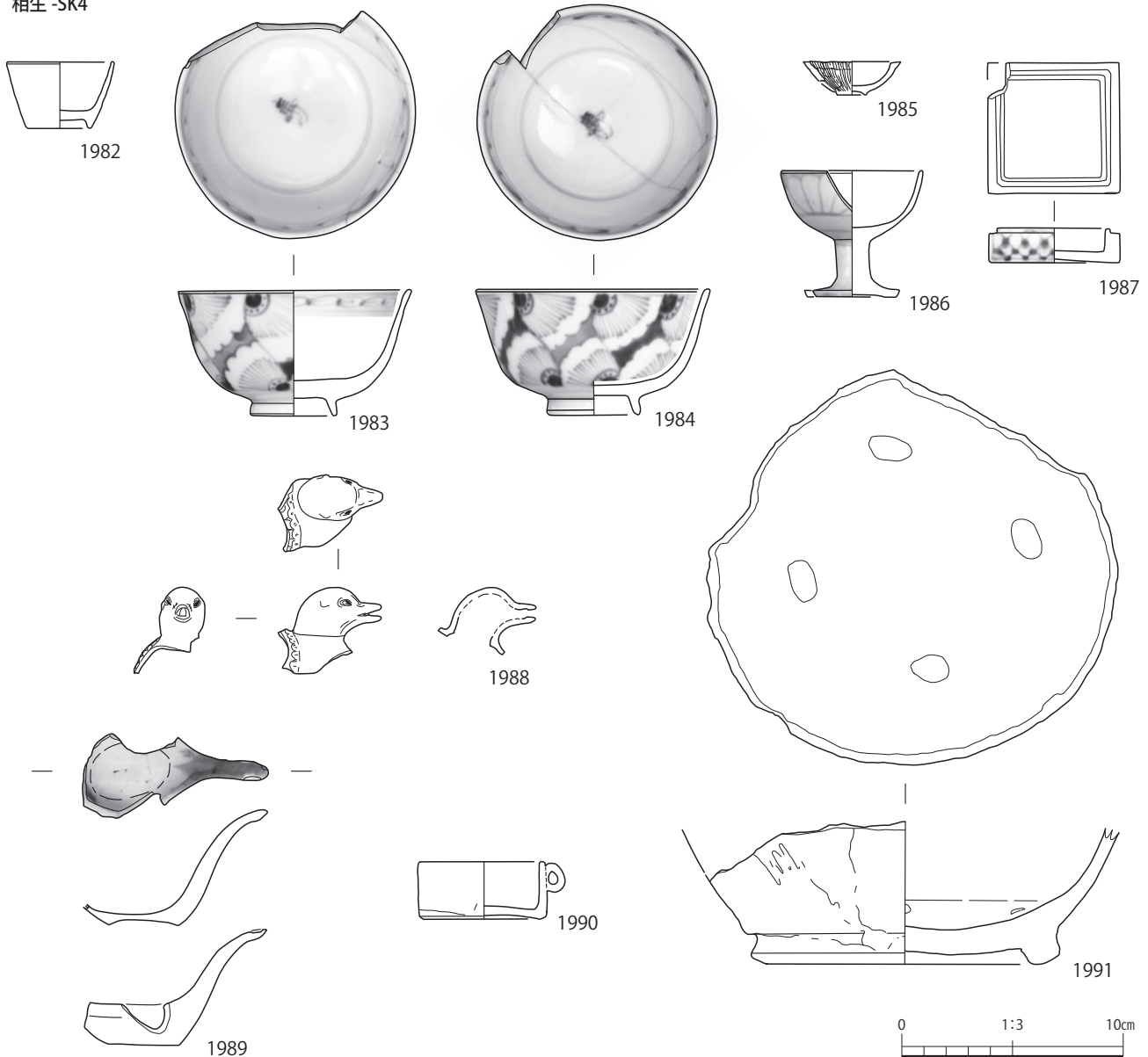


第 262 图 相生工区出土遺物 (1)

相生-SK3

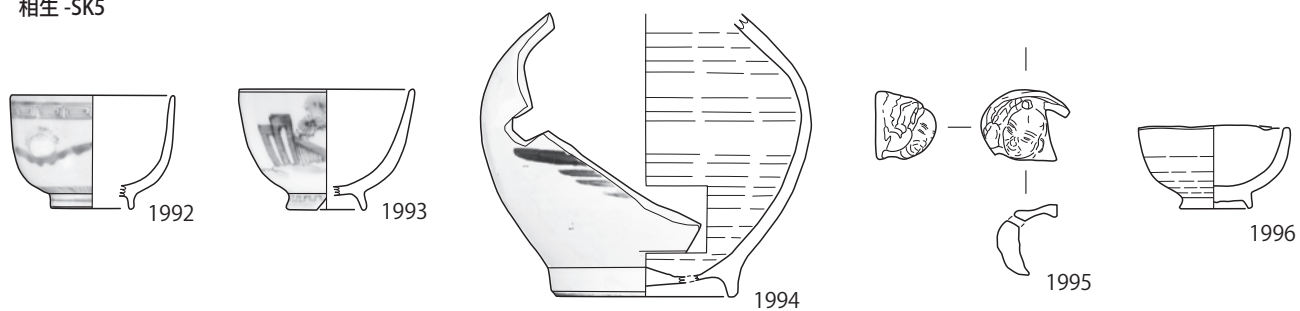


相生-SK4

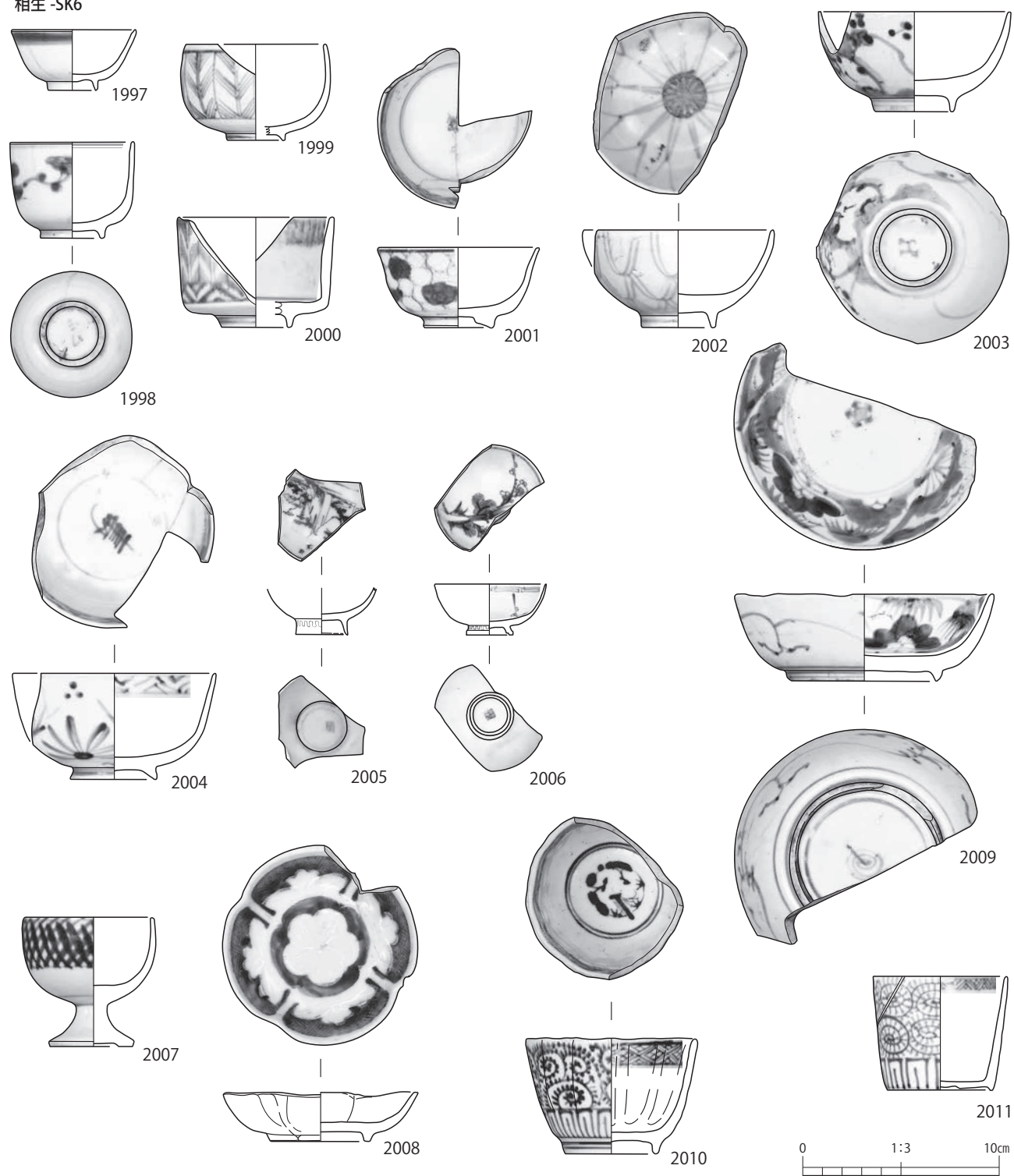


第 263 图 相生工区出土遺物 (2)

相生-SK5

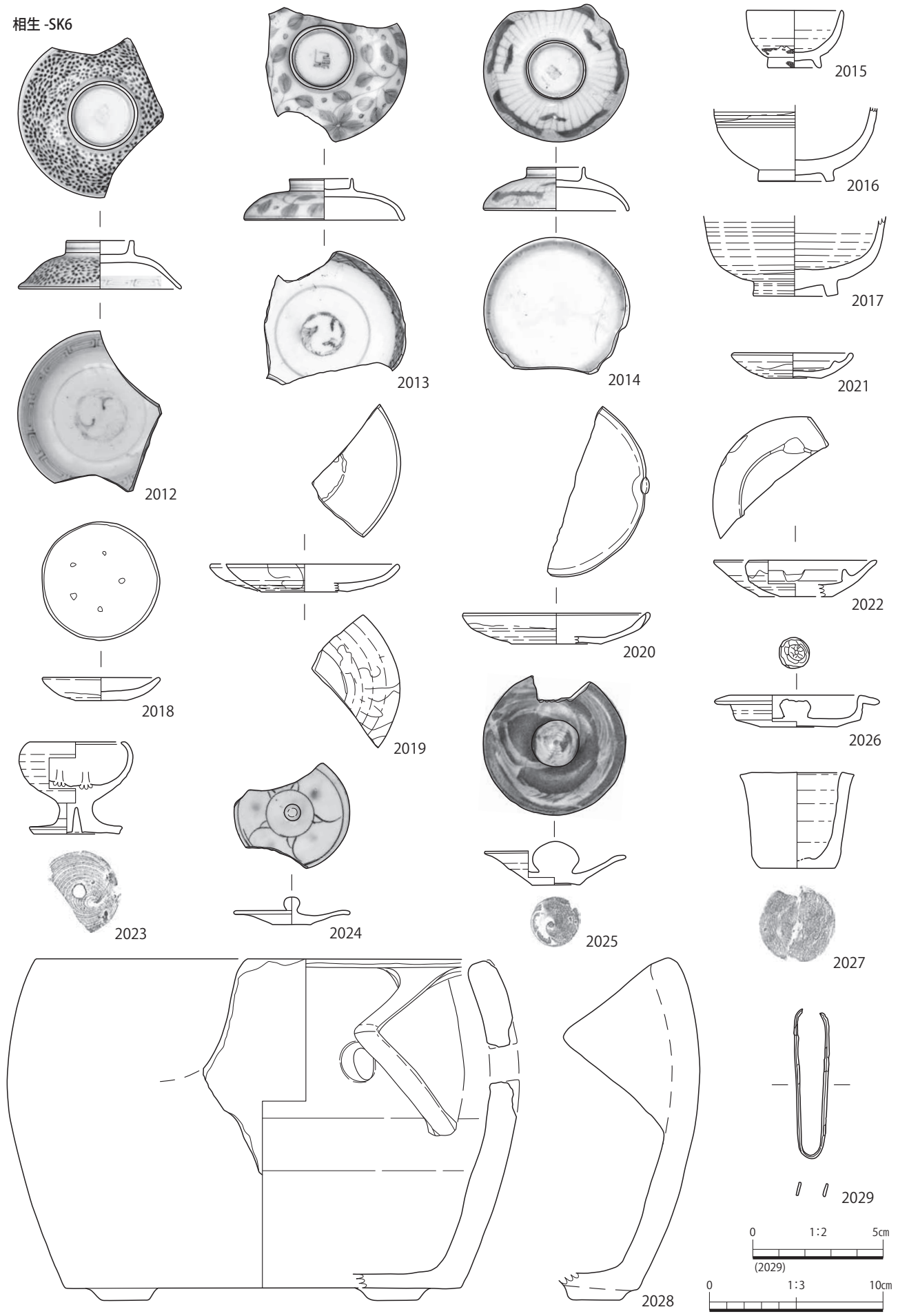


相生-SK6



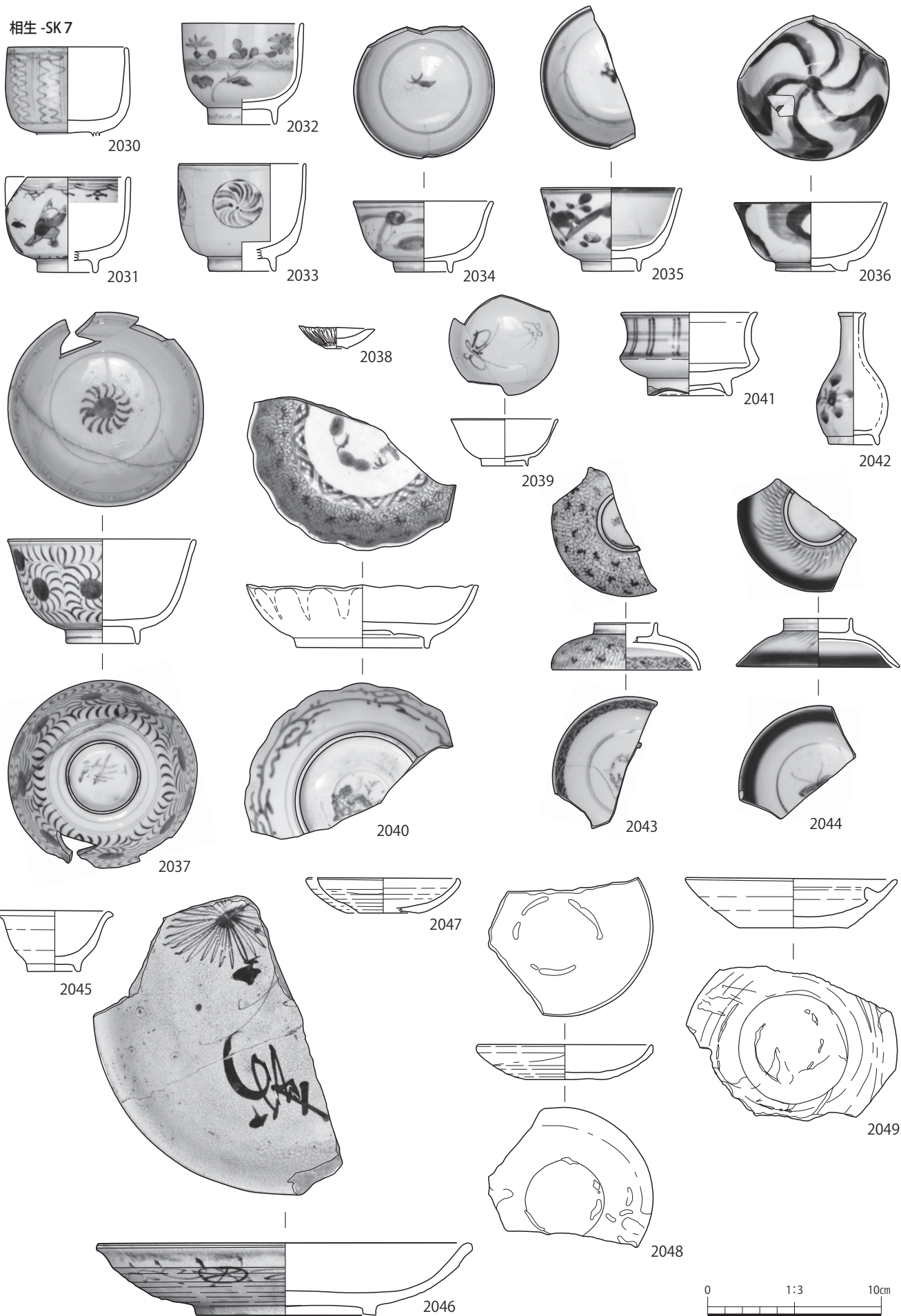
第 264 图 相生工区出土遺物 (3)

相生-SK6



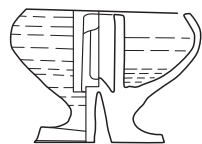
第 265 图 相生工区出土遺物 (4)

相生-SK7



第 266 图 相生工区出土遺物 (5)

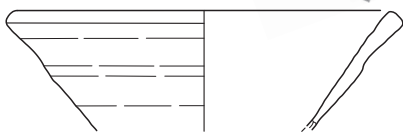
相生-SK7



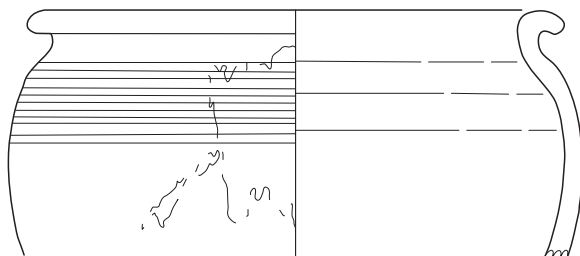
2050



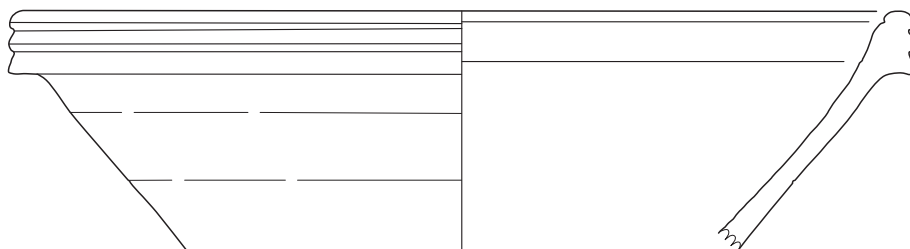
2051



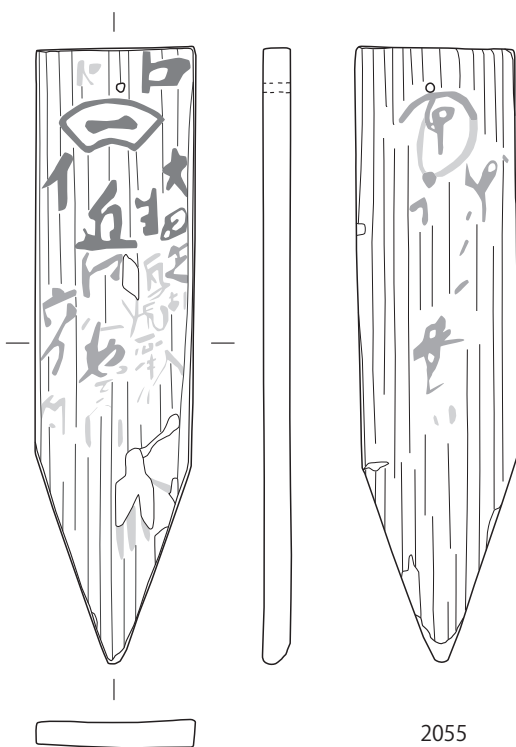
2052



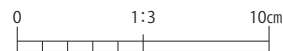
2053



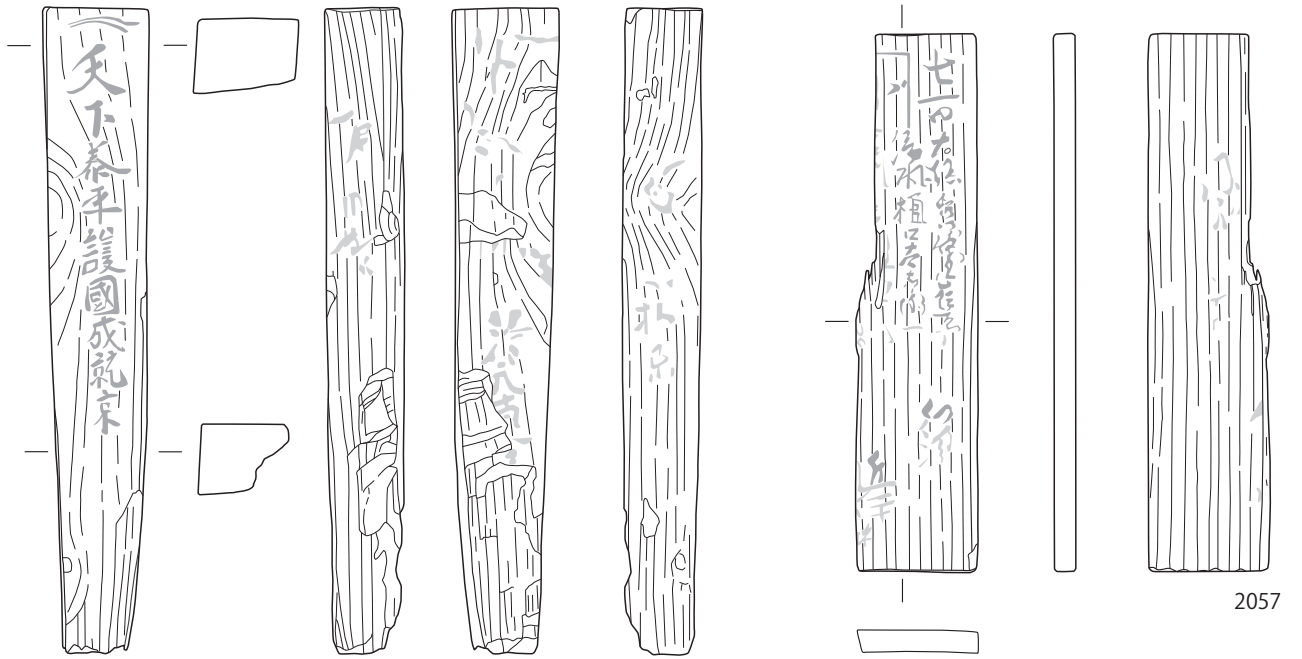
2054



2055

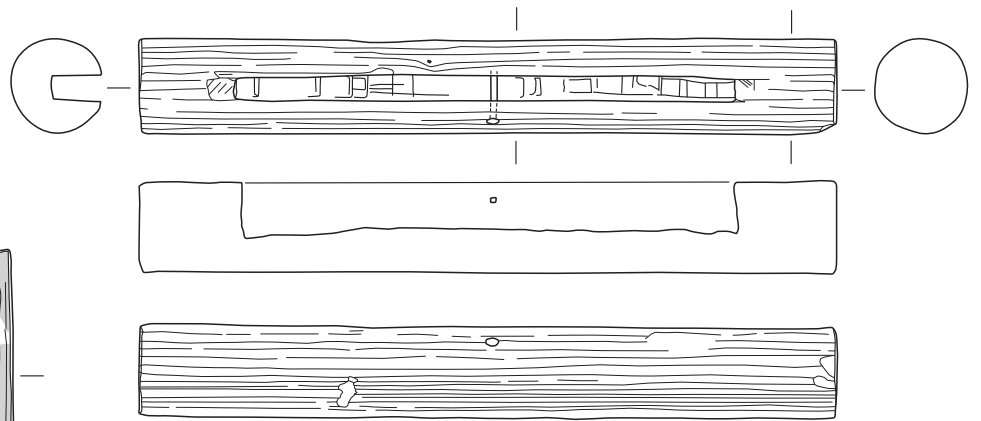


第 267 図 相生工区出土遺物 (6)

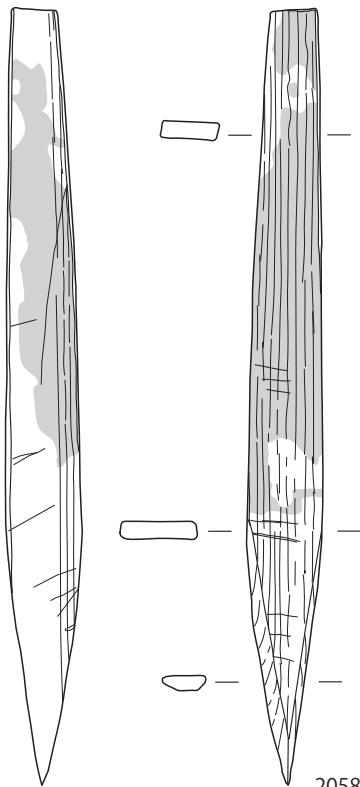


2056

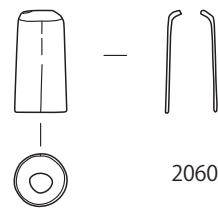
2057



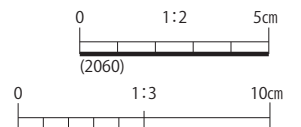
2059



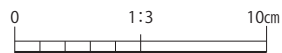
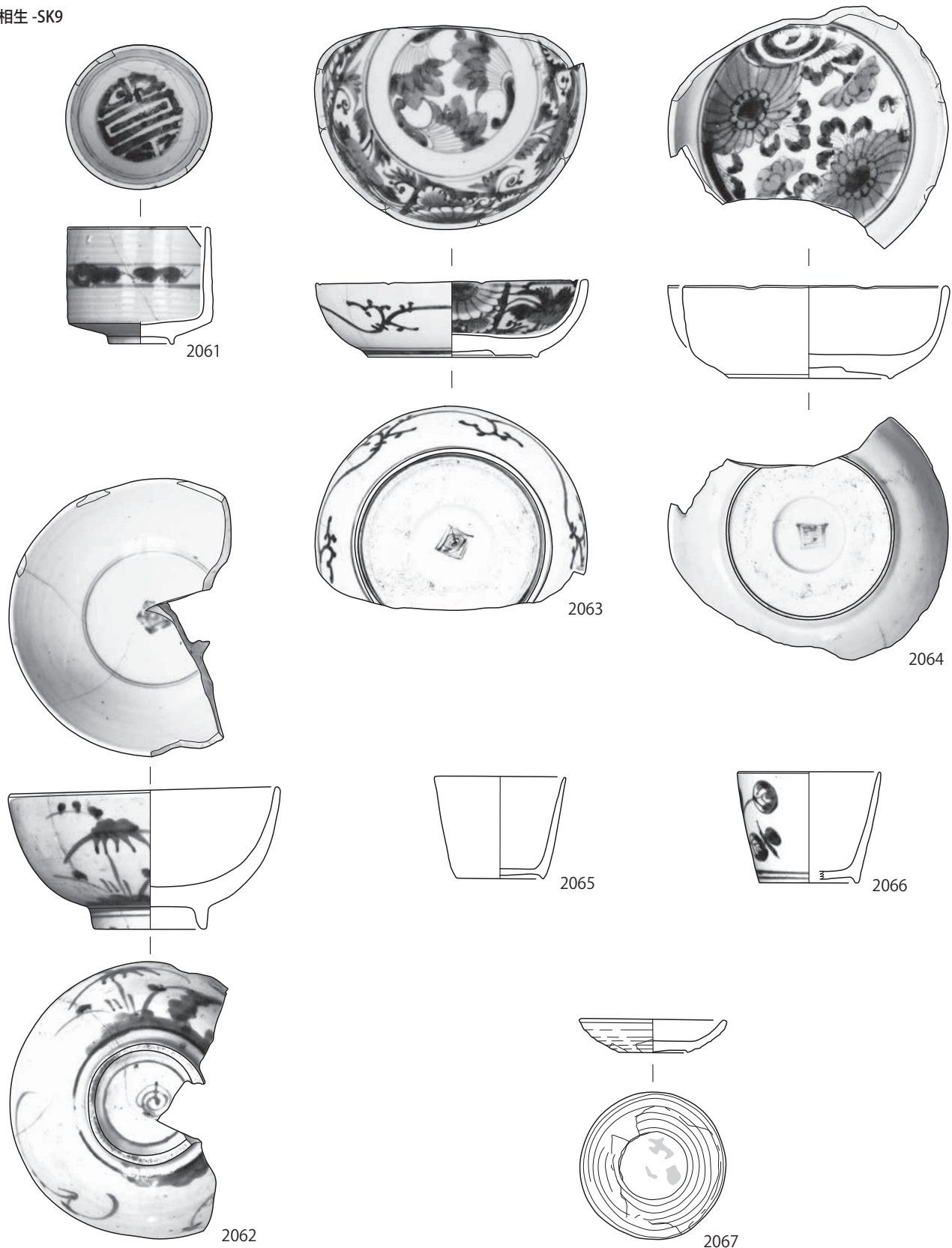
2058



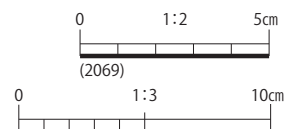
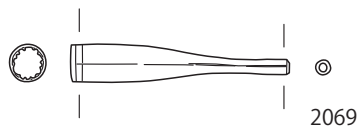
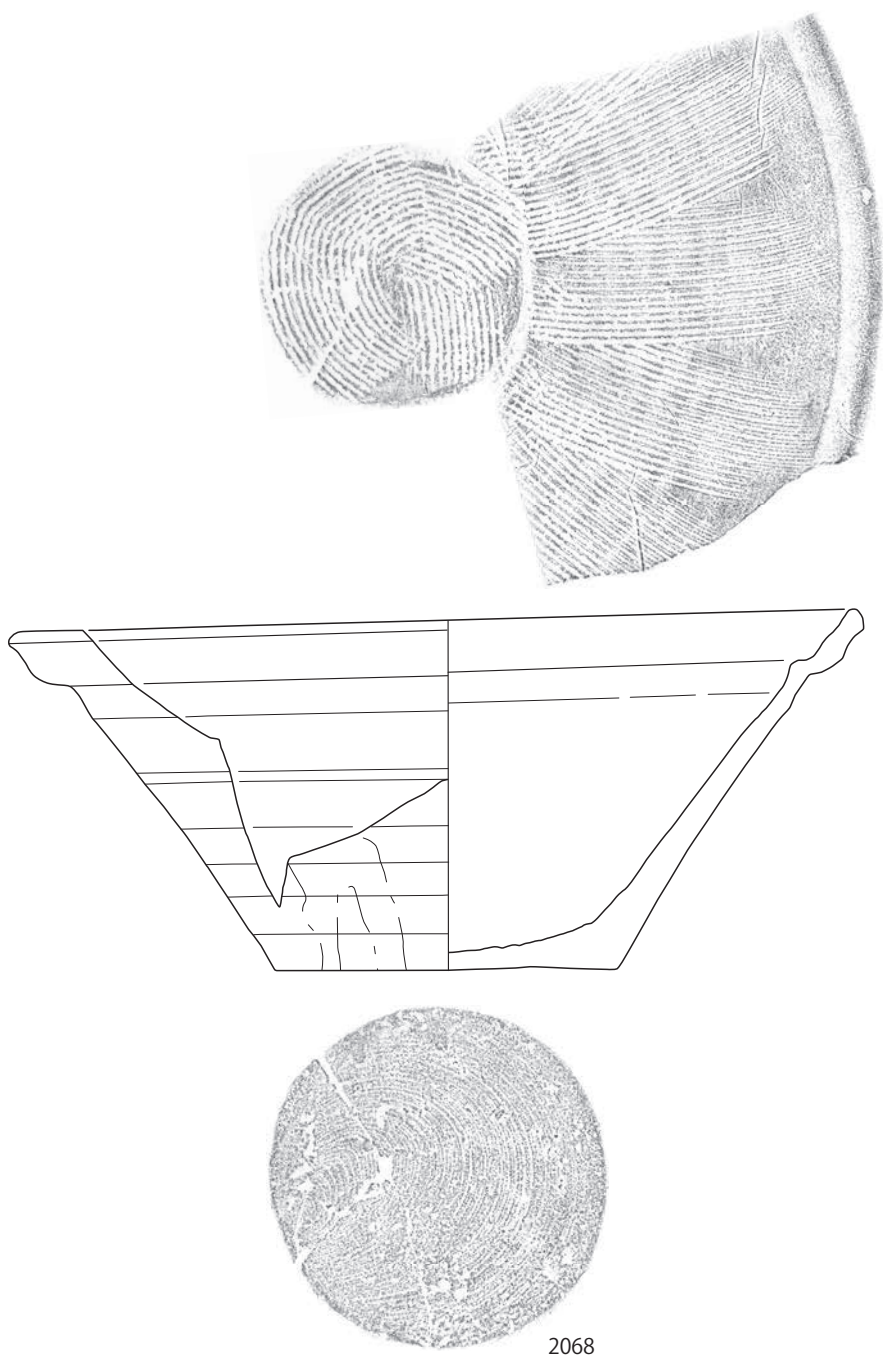
2060



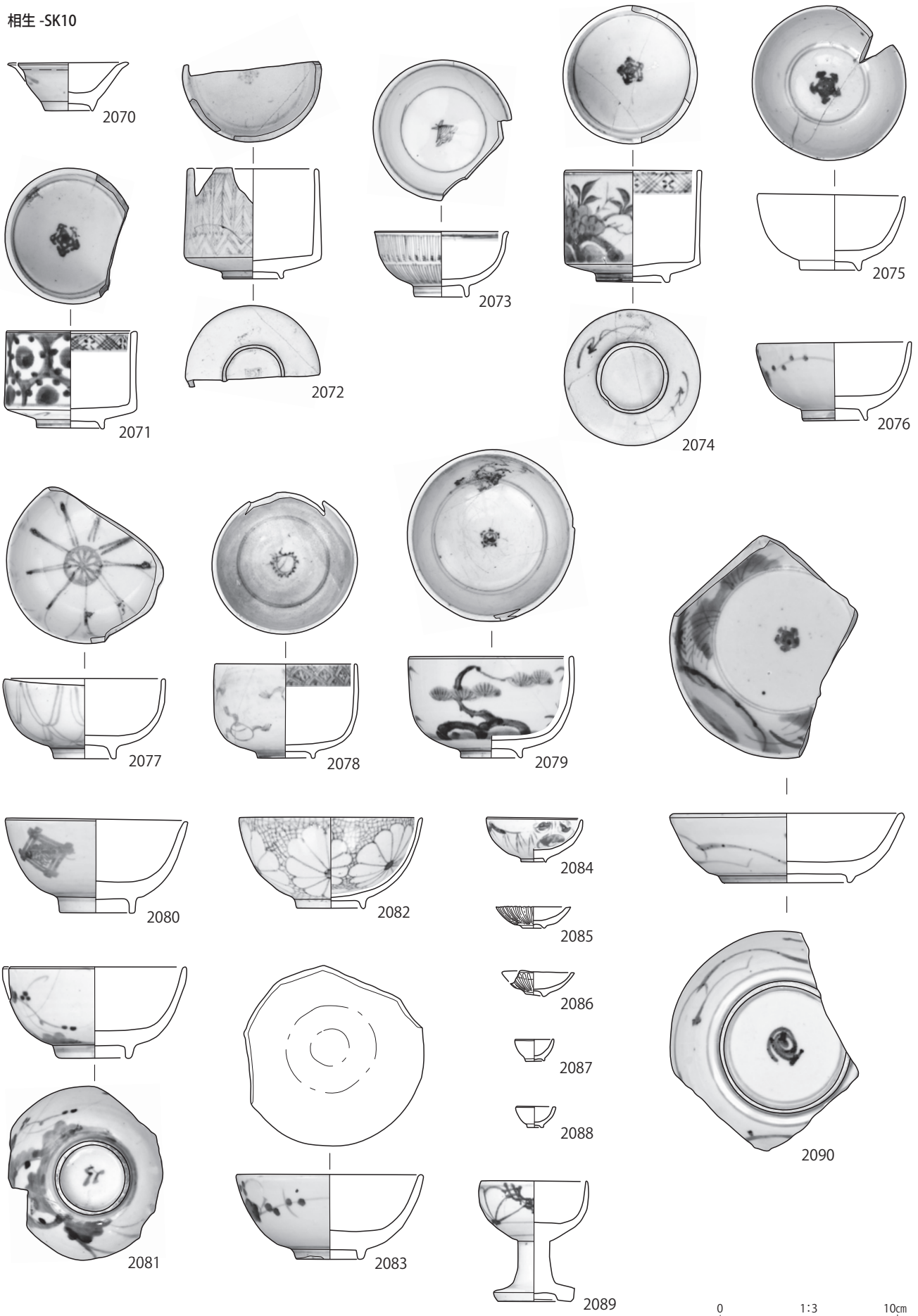
第268图 相生工区出土遺物(7)



第 269 図 相生工区出土遺物 (8)

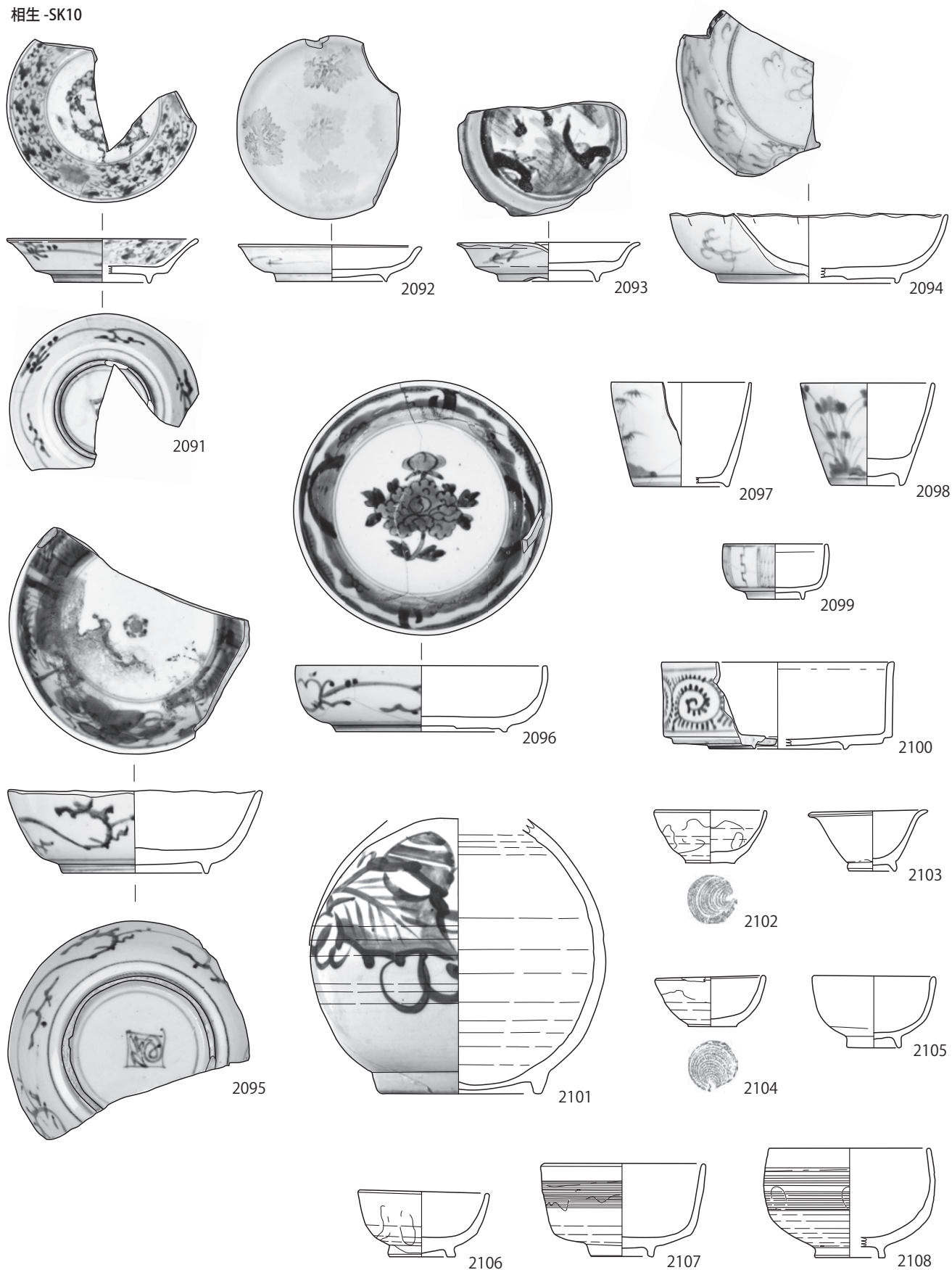


第 270 図 相生工区出土遺物 (9)

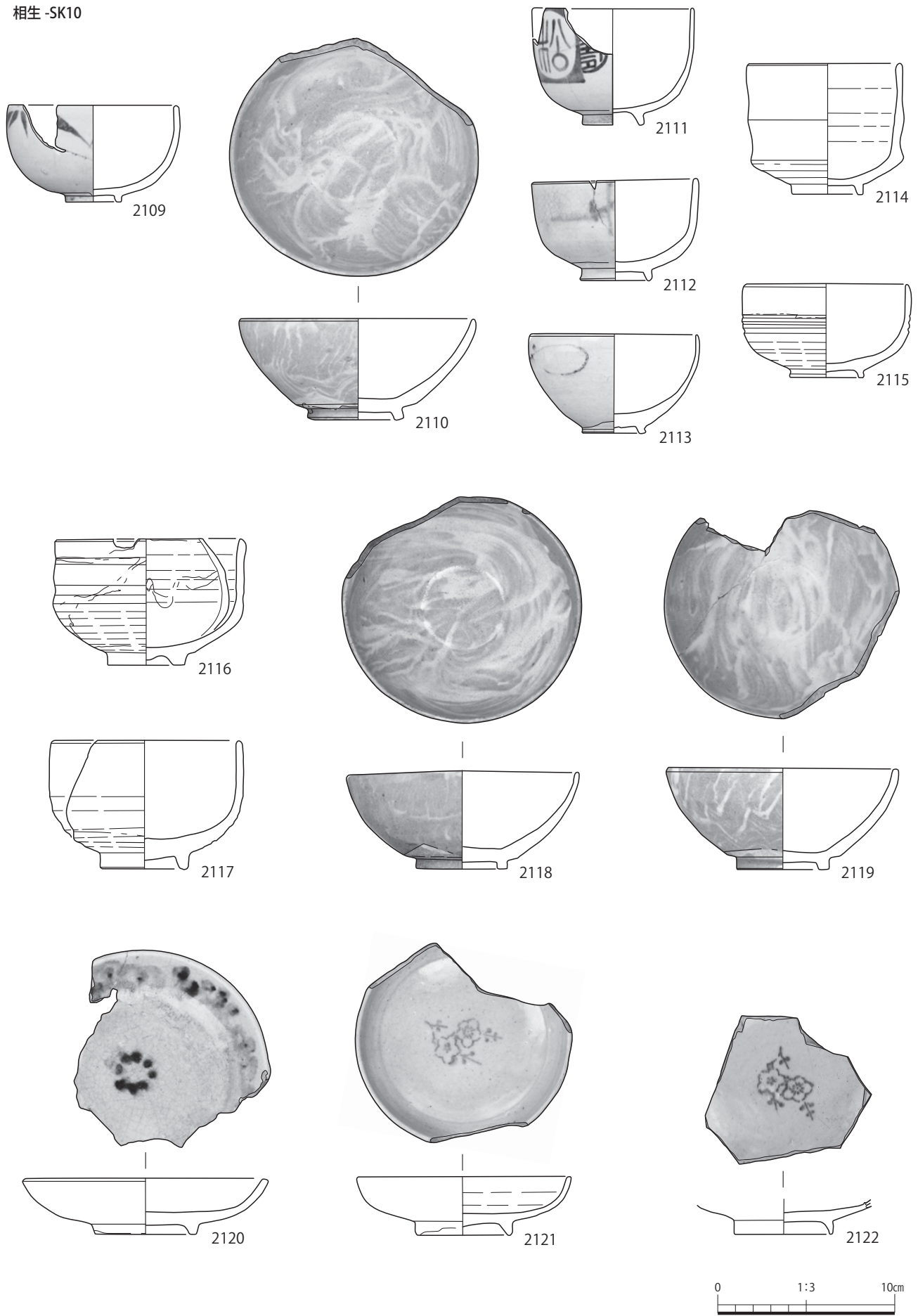


第 271 图 相生工区出土遺物 (10)

相生-SK10

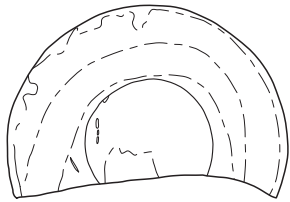
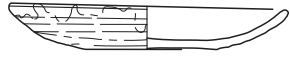
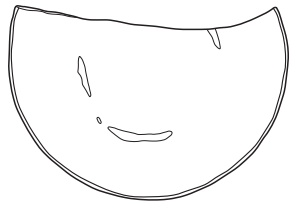


第 272 図 相生工区出土遺物 (11)

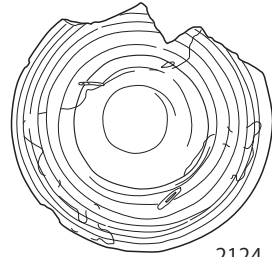
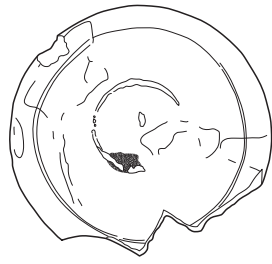


第 273 図 相生工区出土遺物 (12)

相生-SK10



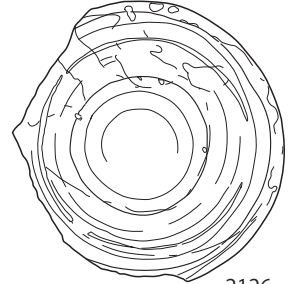
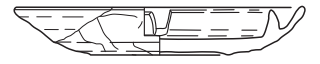
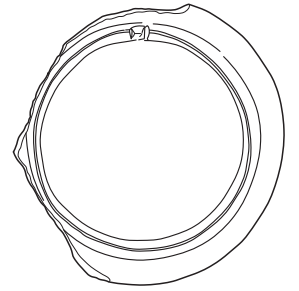
2123



2124



2125



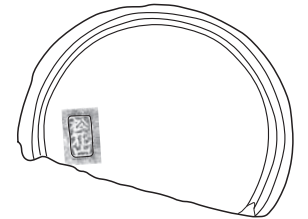
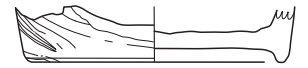
2126



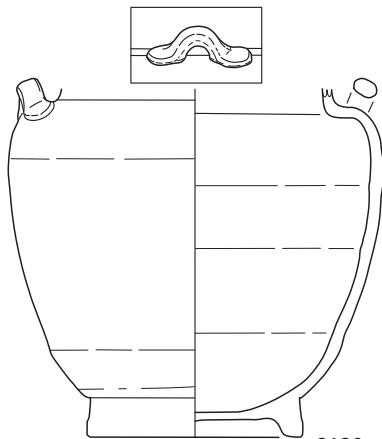
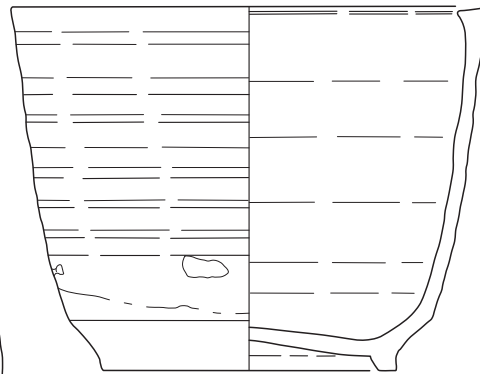
2127



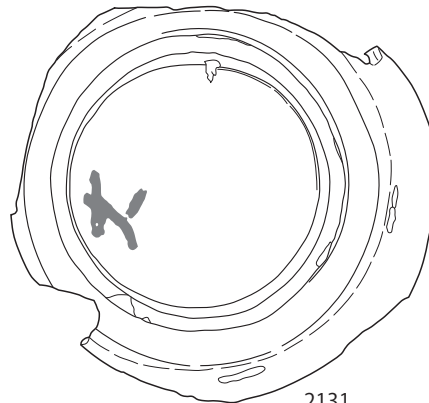
2128



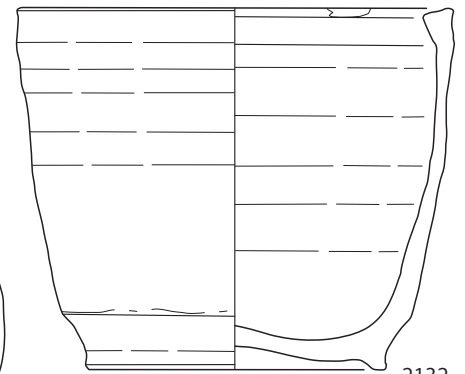
2129



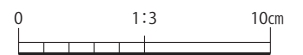
2130



2131

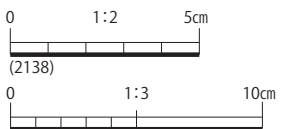
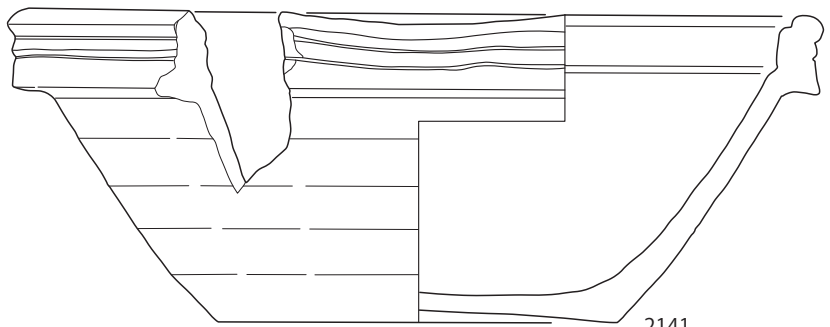
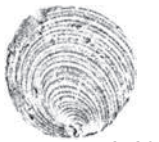
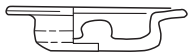
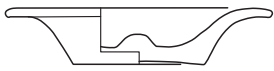
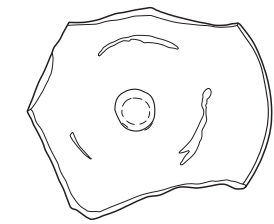
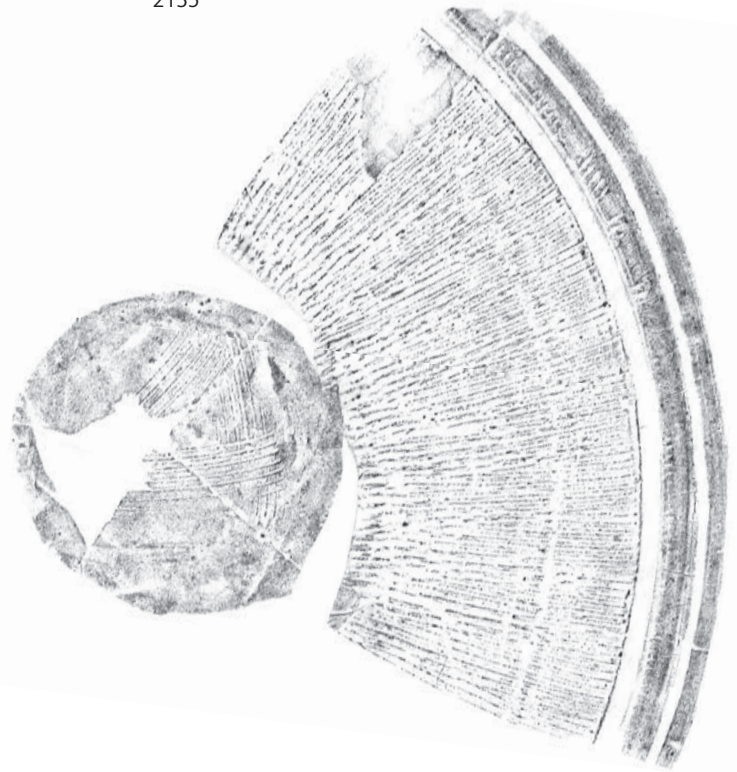
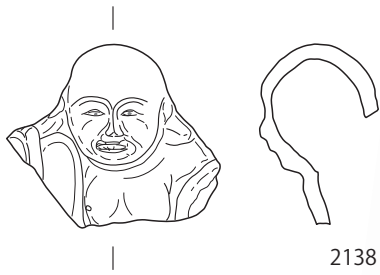
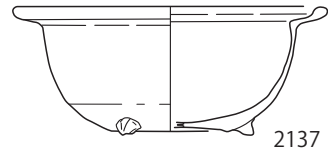
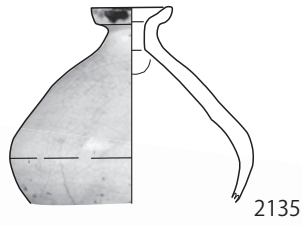
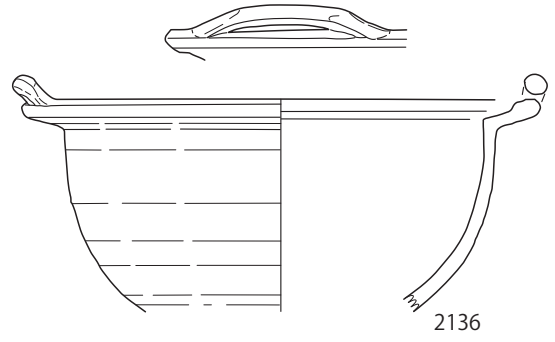
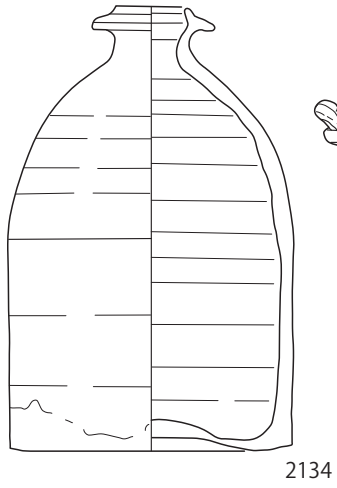
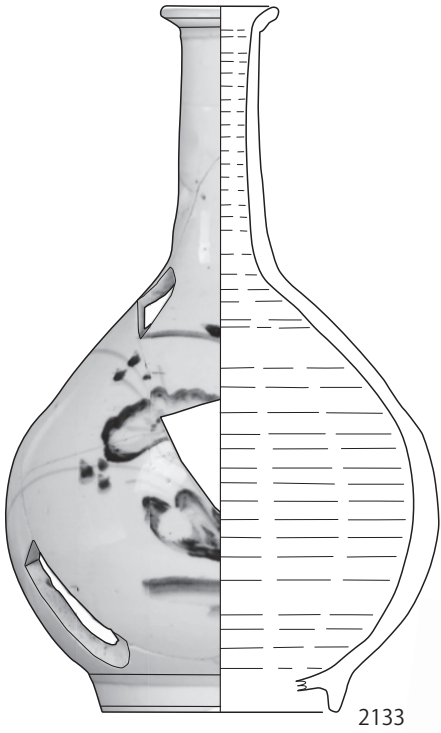


2132

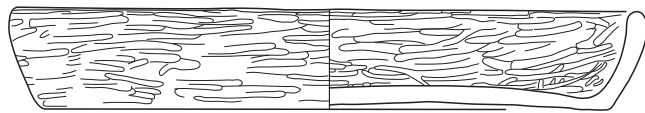


第 274 图 相生工区出土遺物 (13)

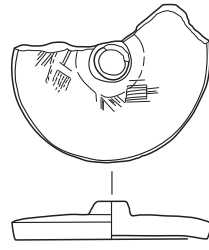
相生-SK10



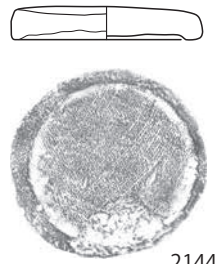
第 275 图 相生工区出土遺物 (14)



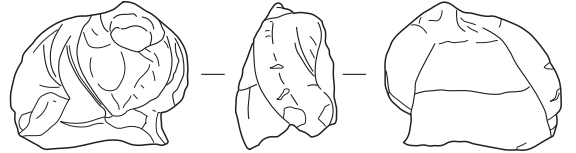
2142



2143



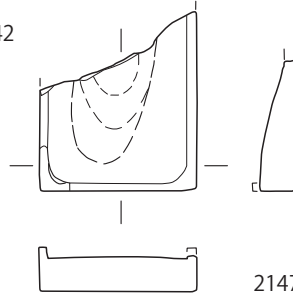
2144



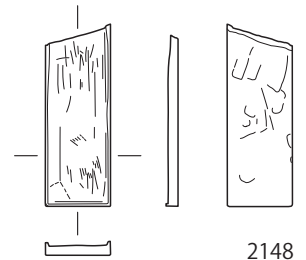
2145



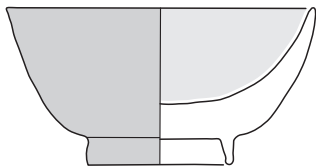
2146



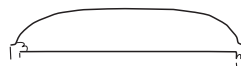
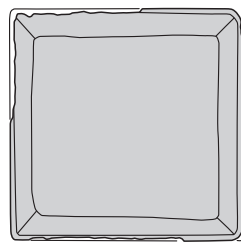
2147



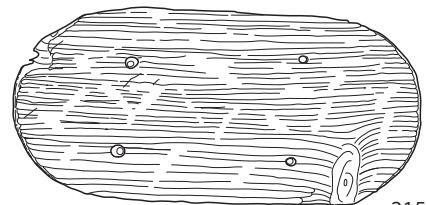
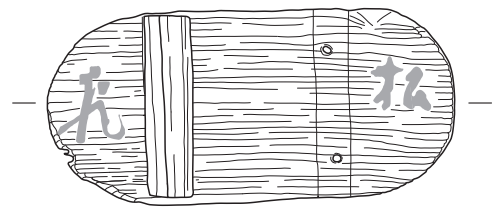
2148



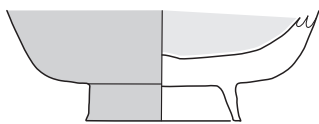
2149



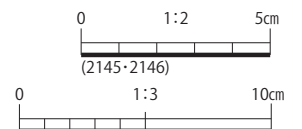
2151



2152

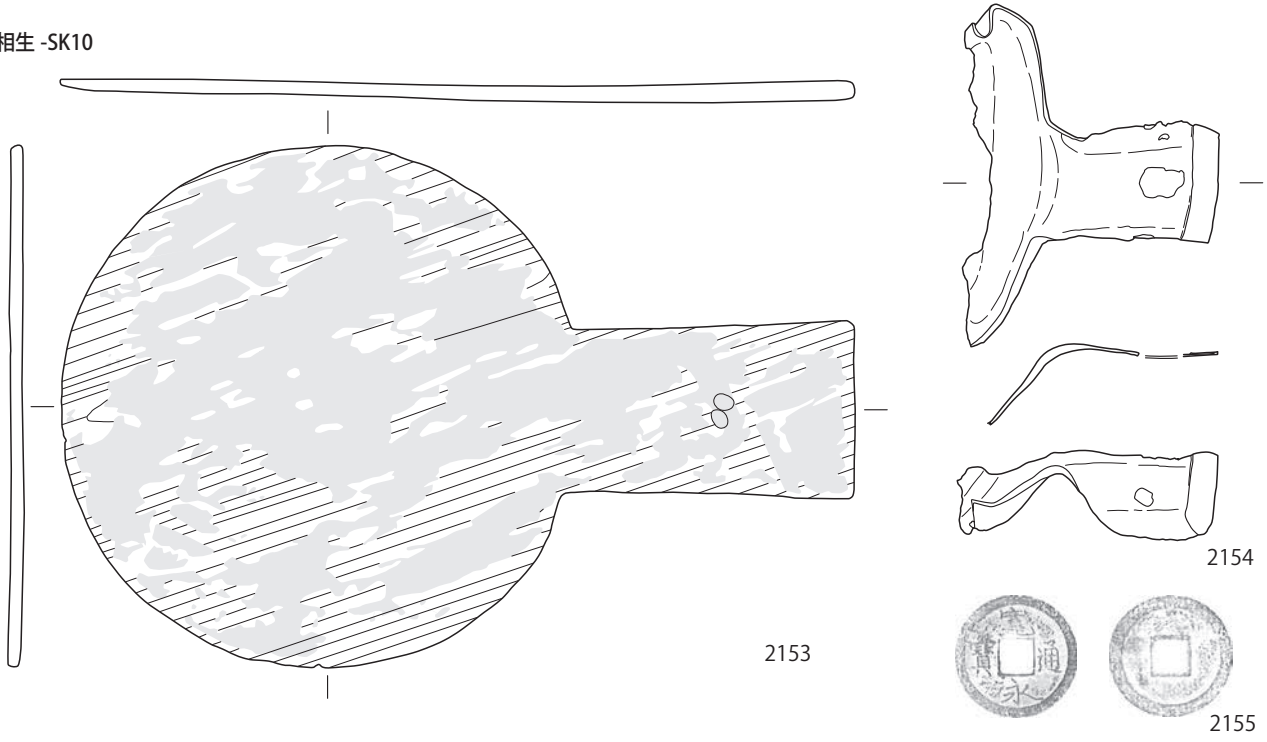


2150

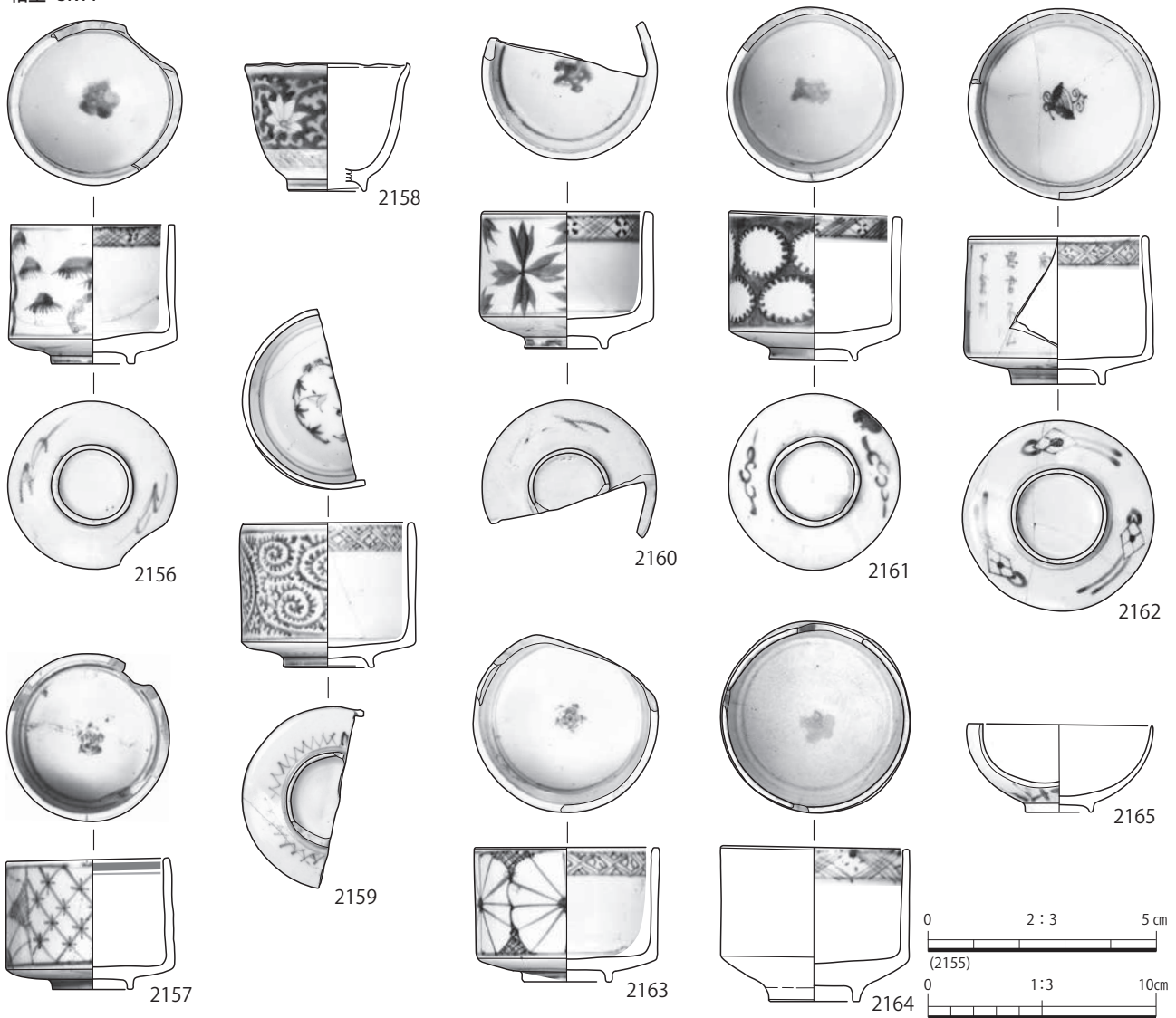


第 276 图 相生工区出土遺物 (15)

相生-SK10



相生-SK11



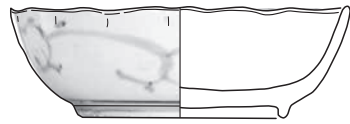
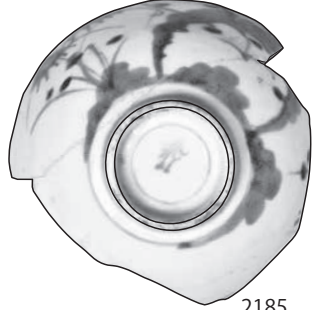
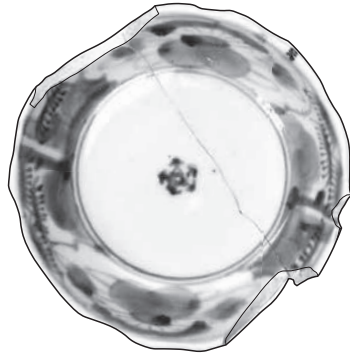
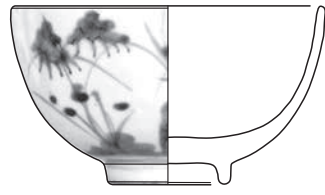
第 277 図 相生工区出土遺物 (16)

相生-SK11



第 278 图 相生工区出土遺物 (17)

相生-SK11



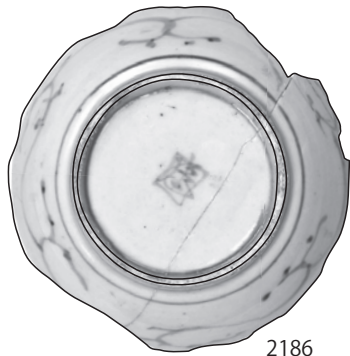
2185



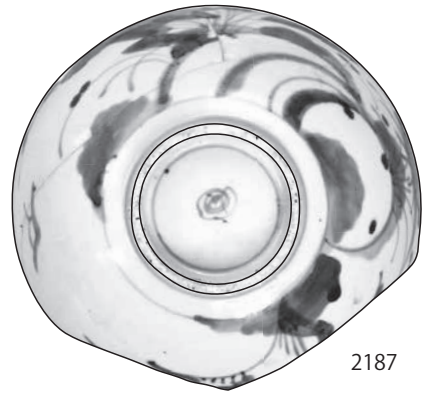
2188



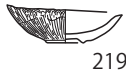
2189



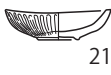
2186



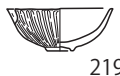
2187



2190



2191



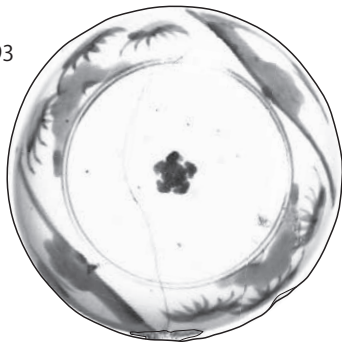
2192



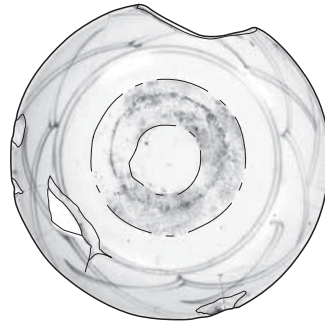
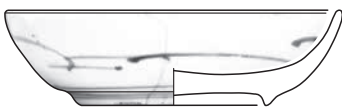
2193



2194



2195



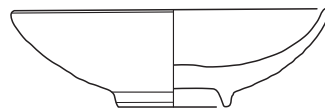
2199



2196



2197



2198

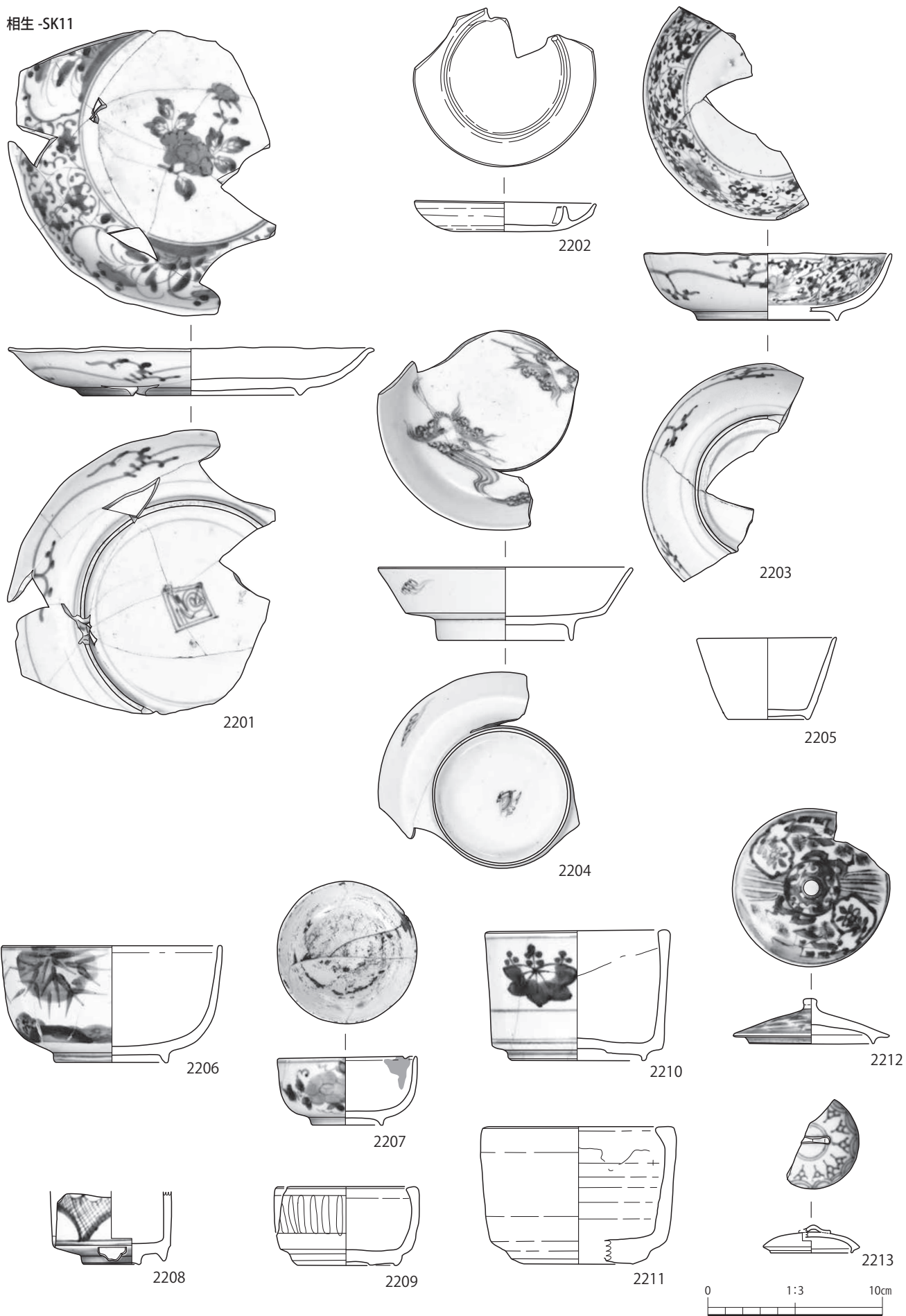


2200



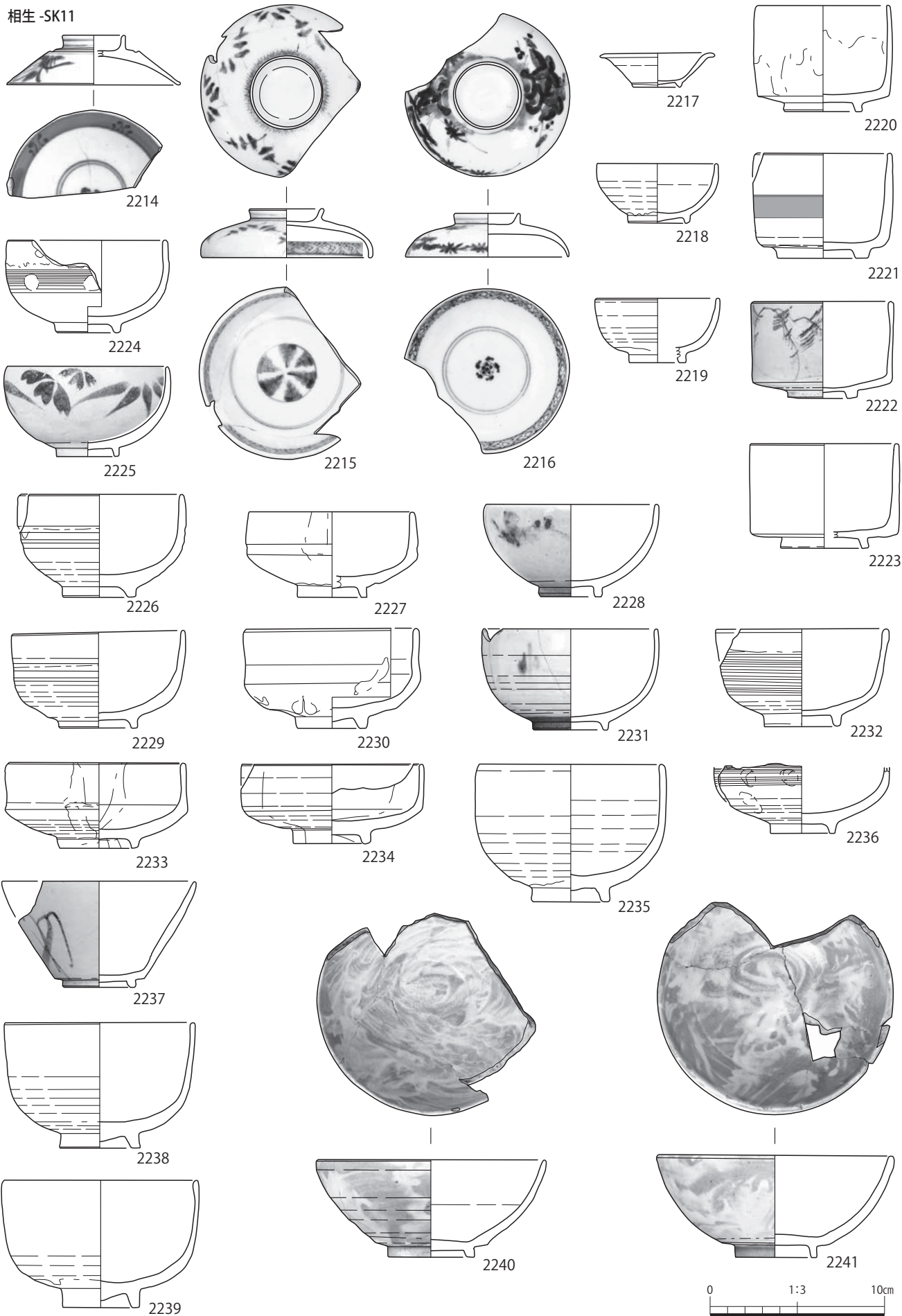
第 279 图 相生工区出土遺物 (18)

相生-SK11



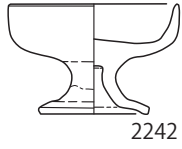
第 280 図 相生工区出土遺物 (19)

相生-SK11

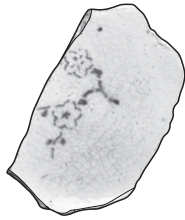


第 281 图 相生工区出土遺物 (20)

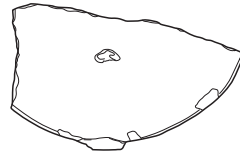
相生-SK11



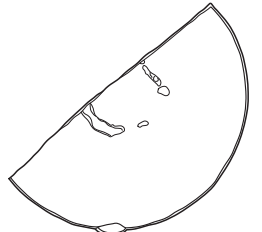
2242



2244



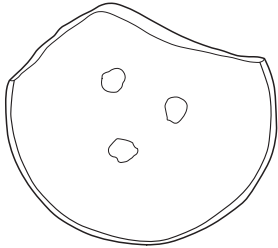
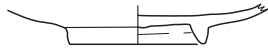
2245



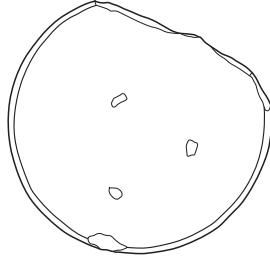
2246



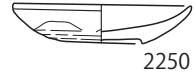
2243



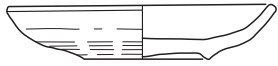
2247



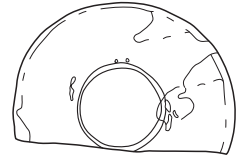
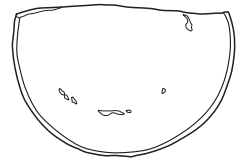
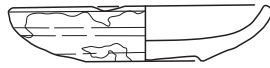
2249



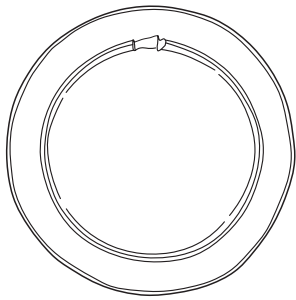
2250



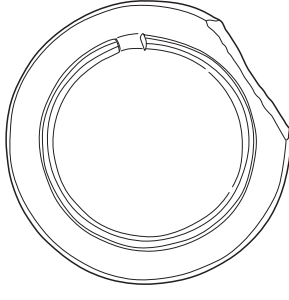
2248



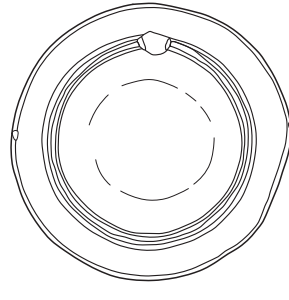
2251



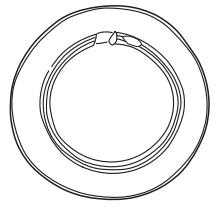
2252



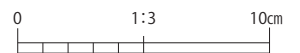
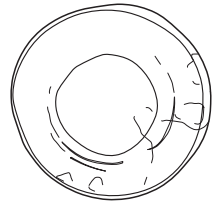
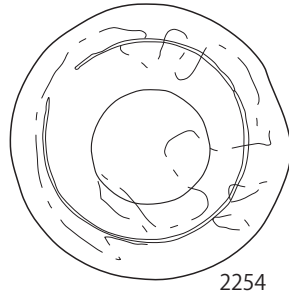
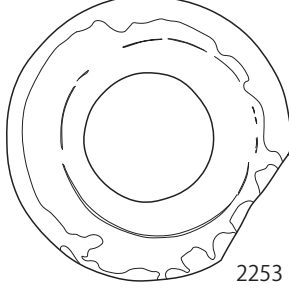
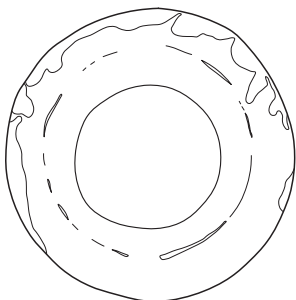
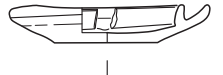
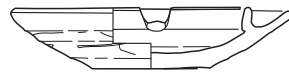
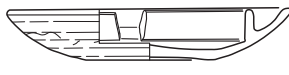
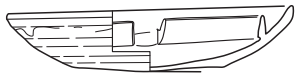
2253



2254

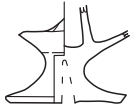
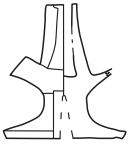


2255



第 282 图 相生工区出土遺物 (21)

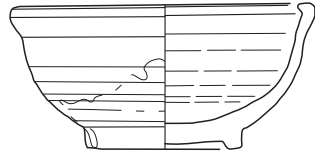
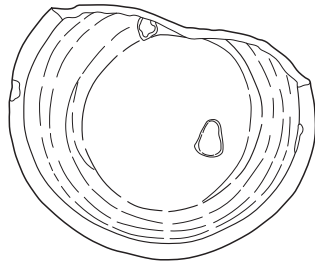
相生-SK11



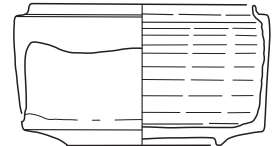
2256



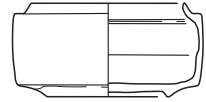
2257



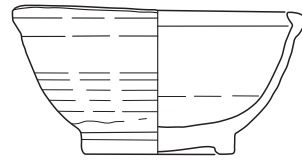
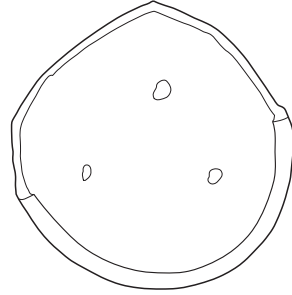
2258



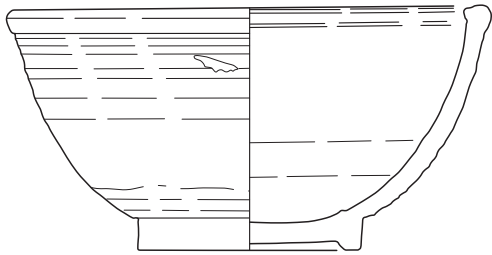
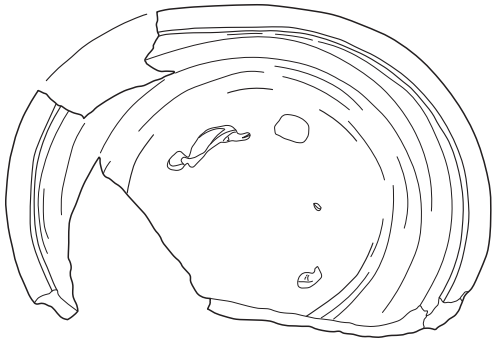
2259



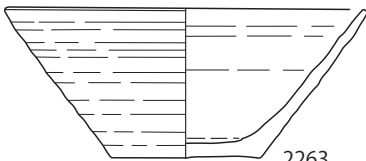
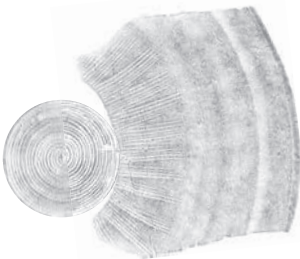
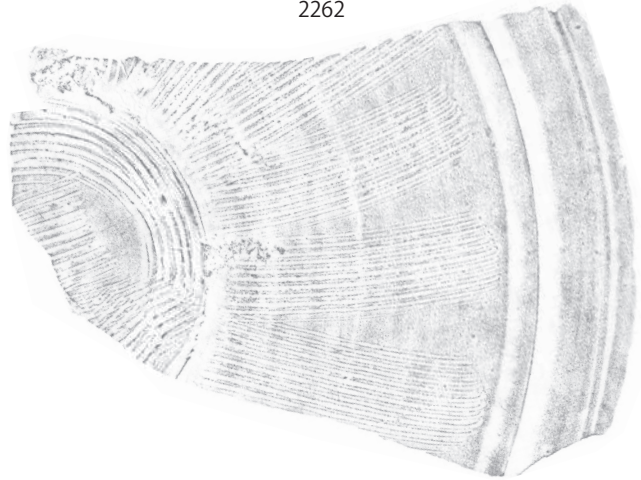
2260



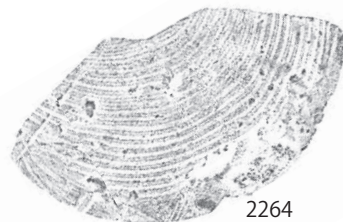
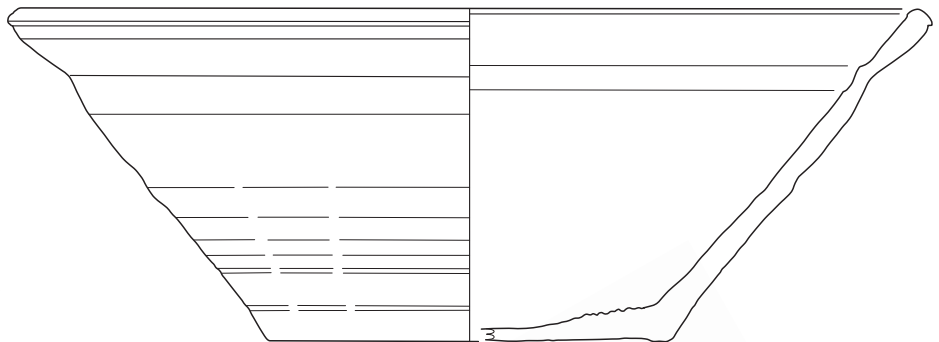
2262



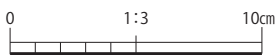
2261



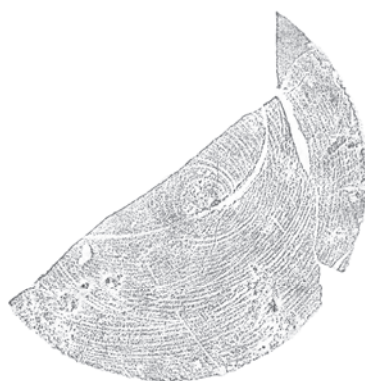
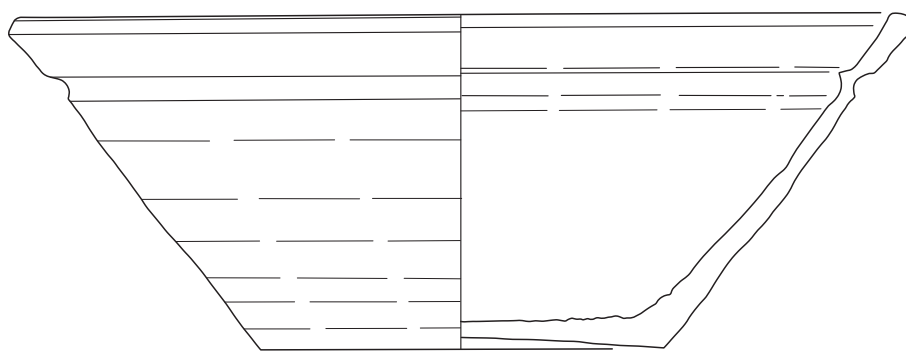
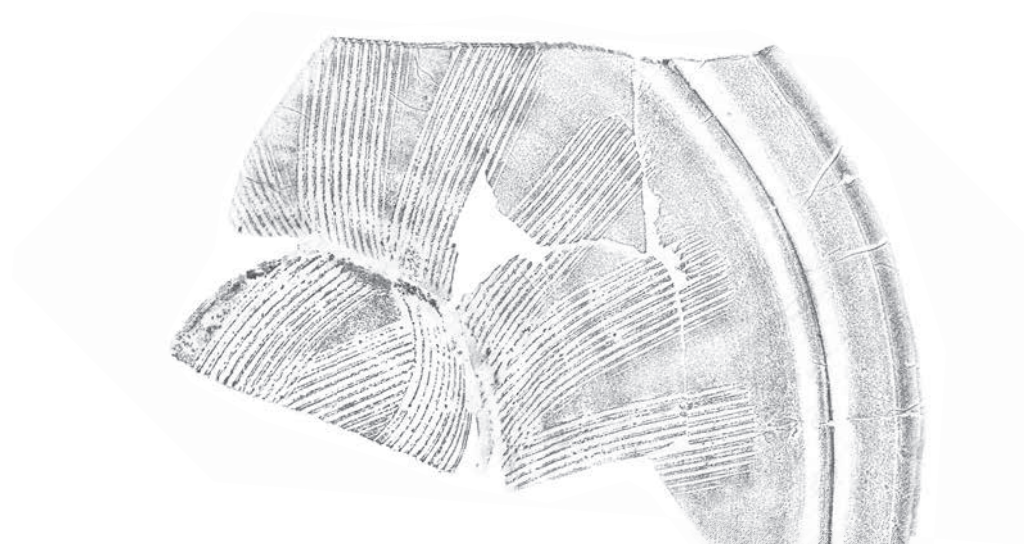
2263



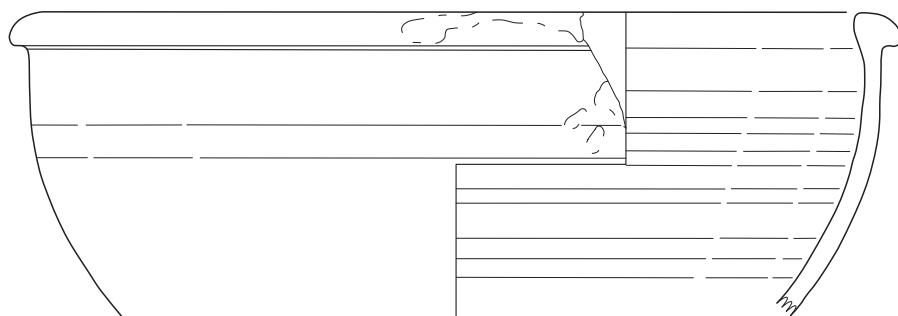
2264



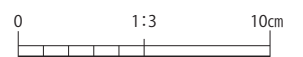
第 283 図 相生工区出土遺物 (22)



2265

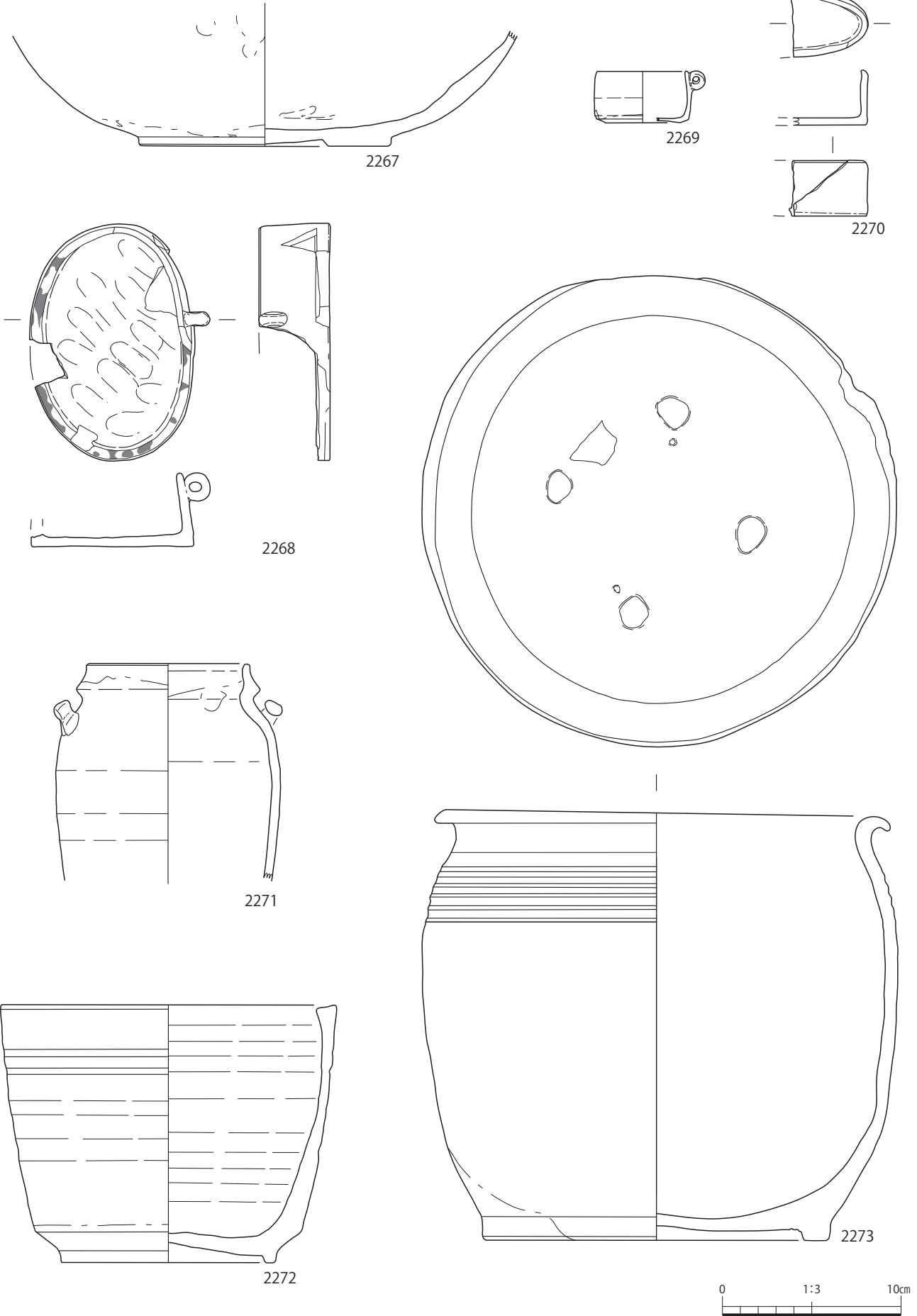


2266



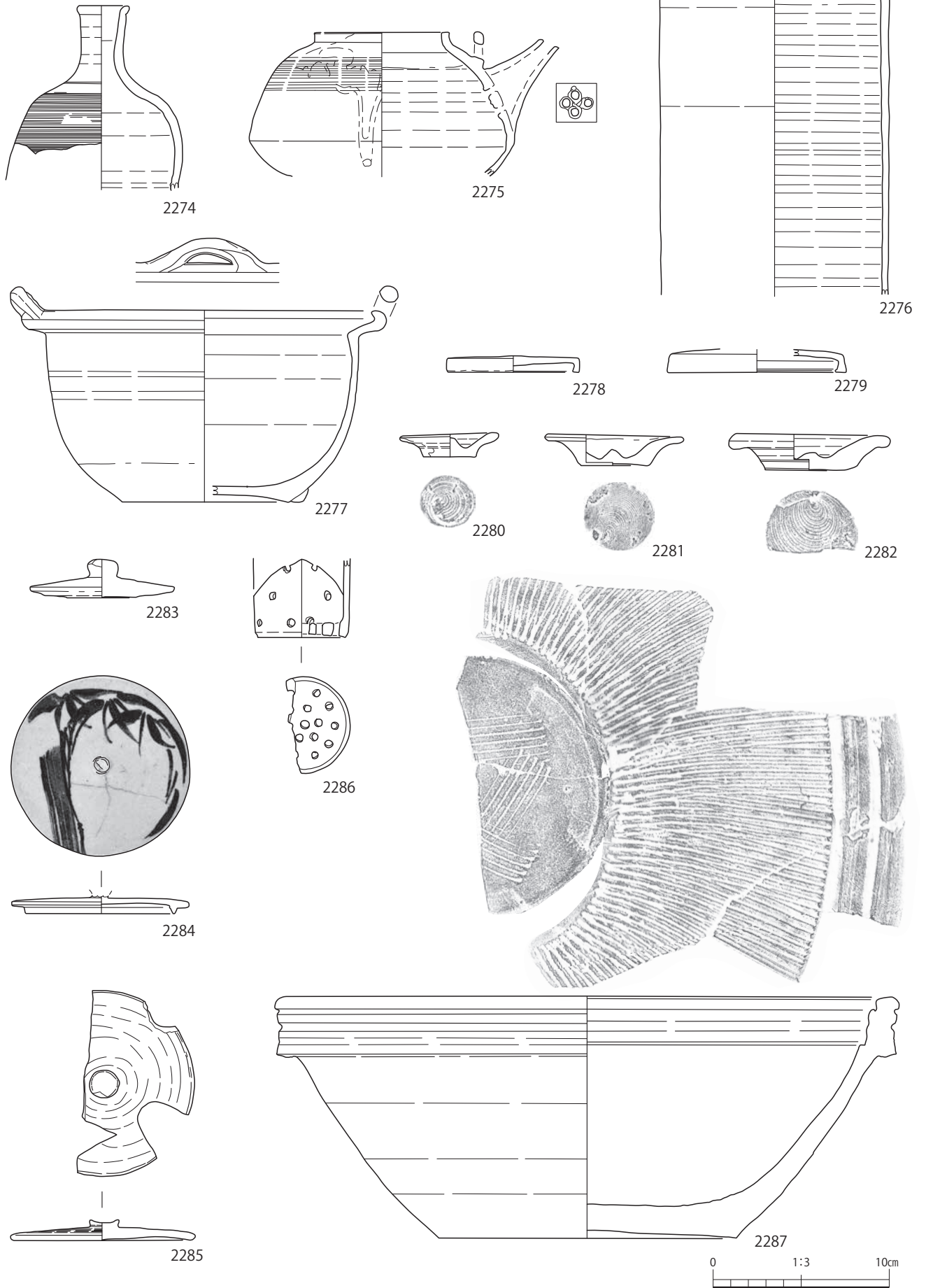
第 284 図 相生工区出土遺物 (23)

相生-SK11

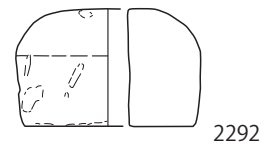
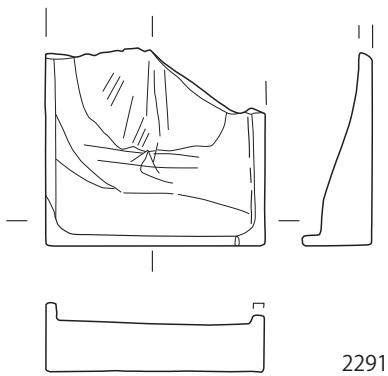
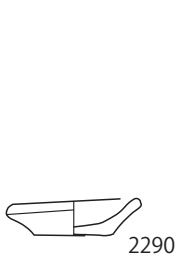
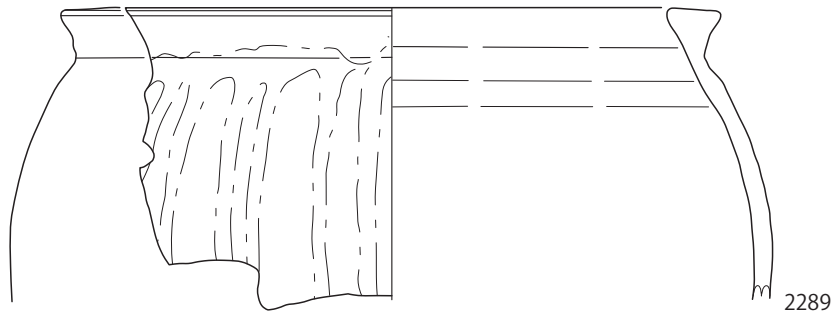
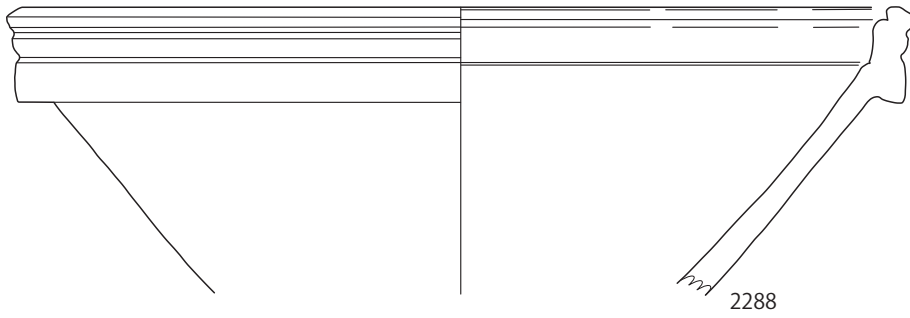


第 285 図 相生工区出土遺物 (24)

相生-SK11

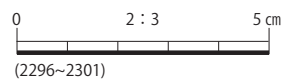
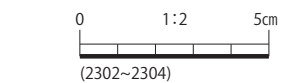
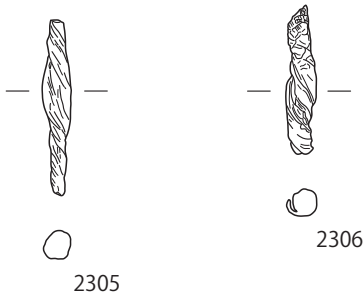
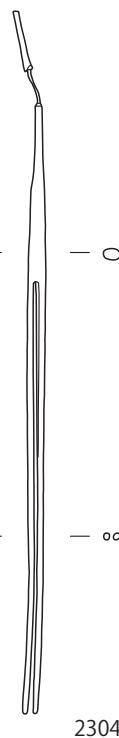
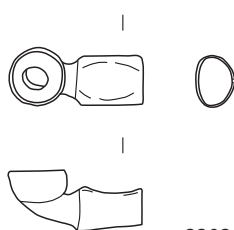
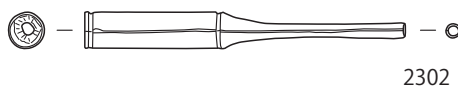
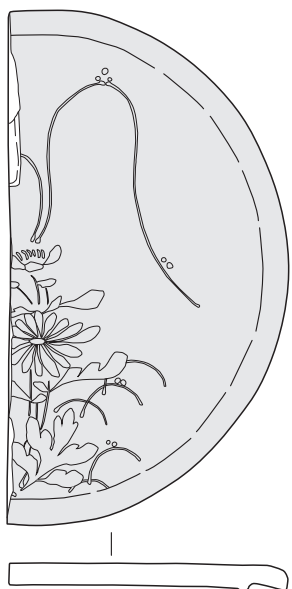
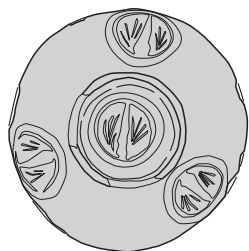
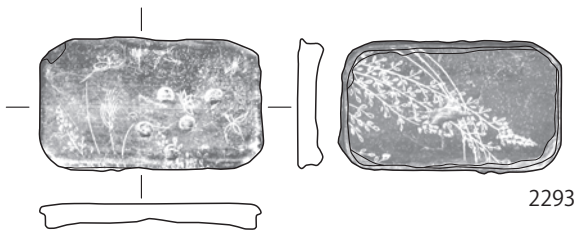


第 286 图 相生工区出土遺物 (25)



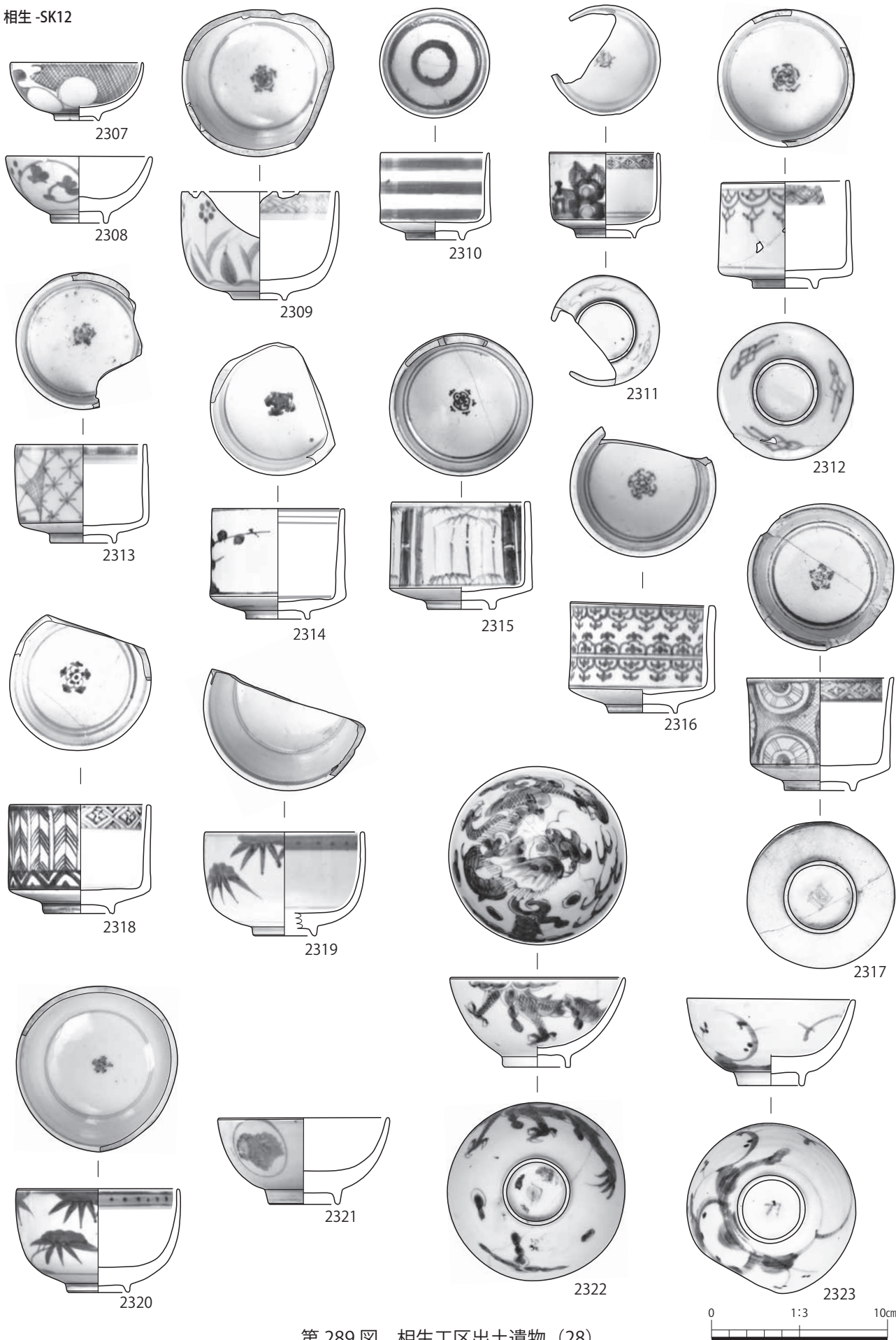
第 287 図 相生工区出土遺物 (26)

相生-SK11



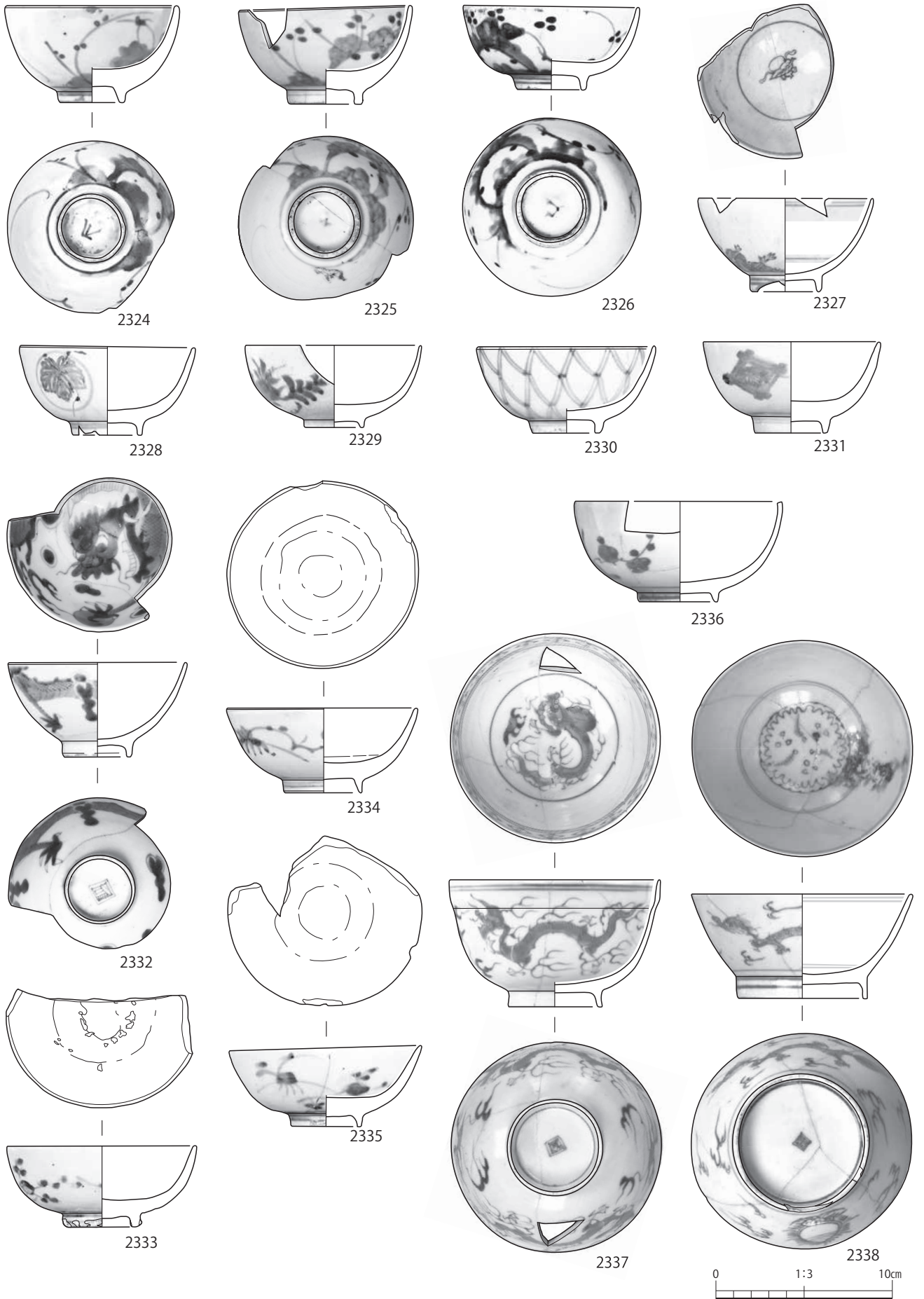
第 288 図 相生工区出土遺物 (27)

相生-SK12

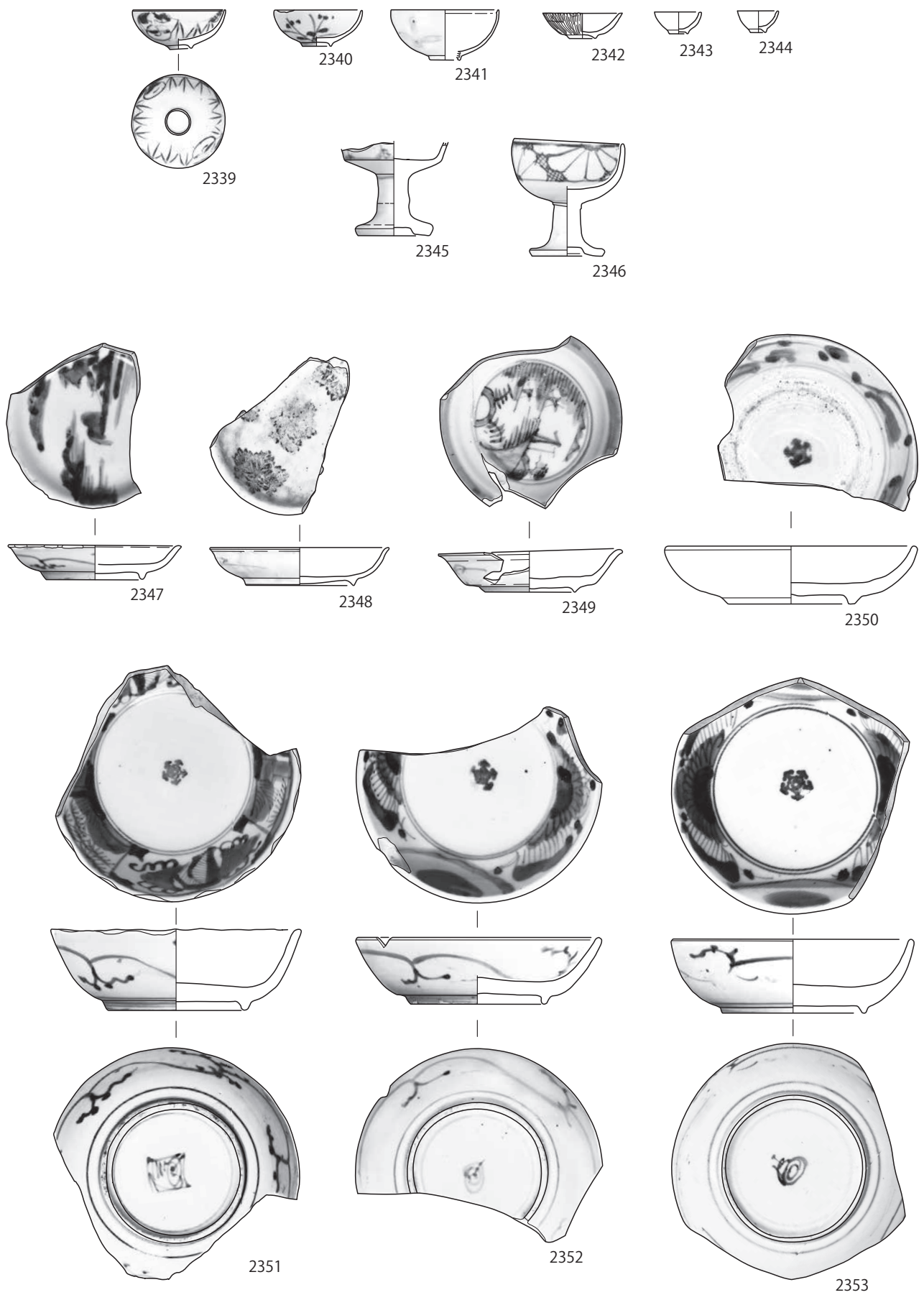


第 289 図 相生工区出土遺物 (28)

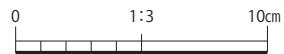
相生-SK12

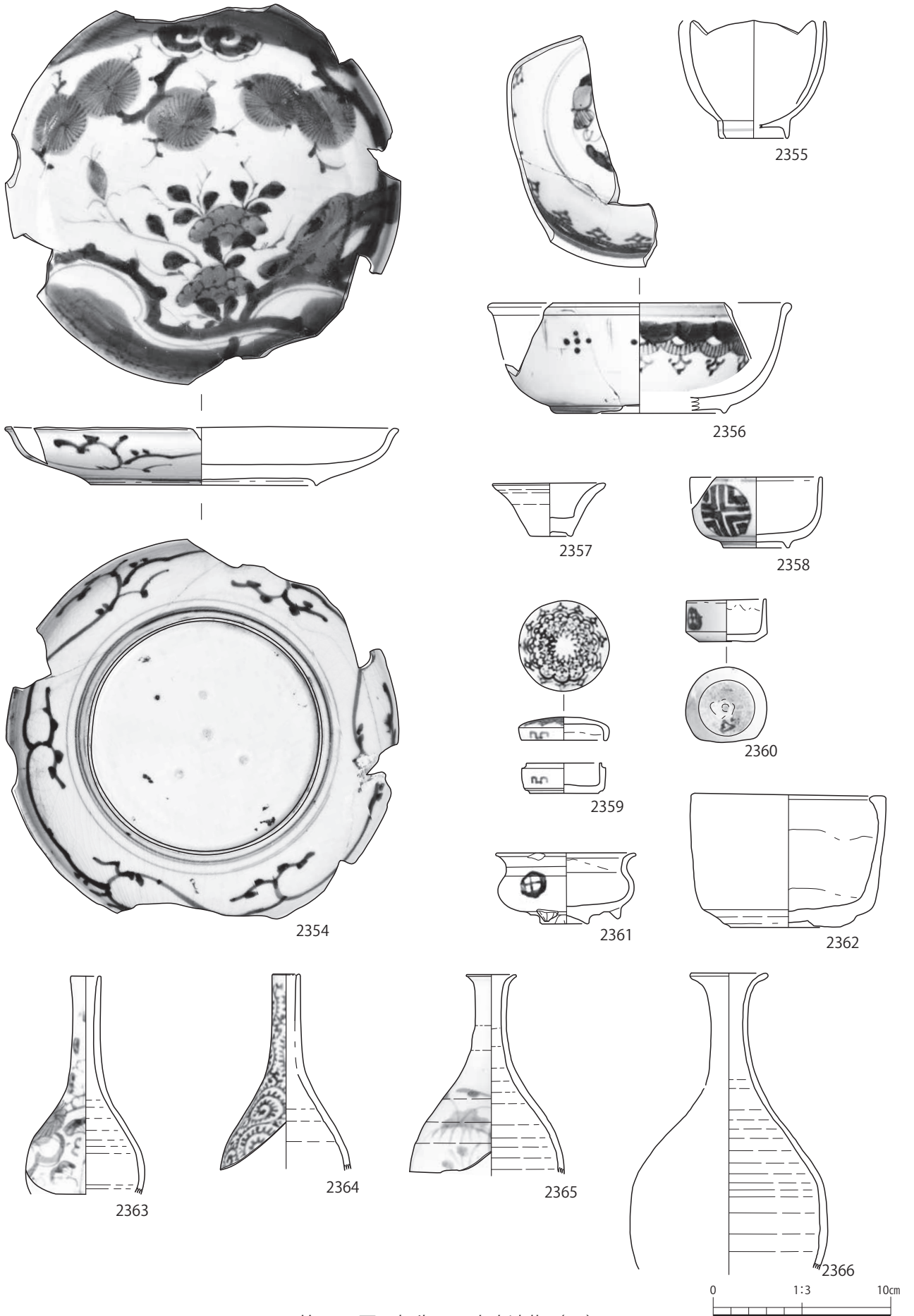


第 290 图 相生工区出土遗物 (29)



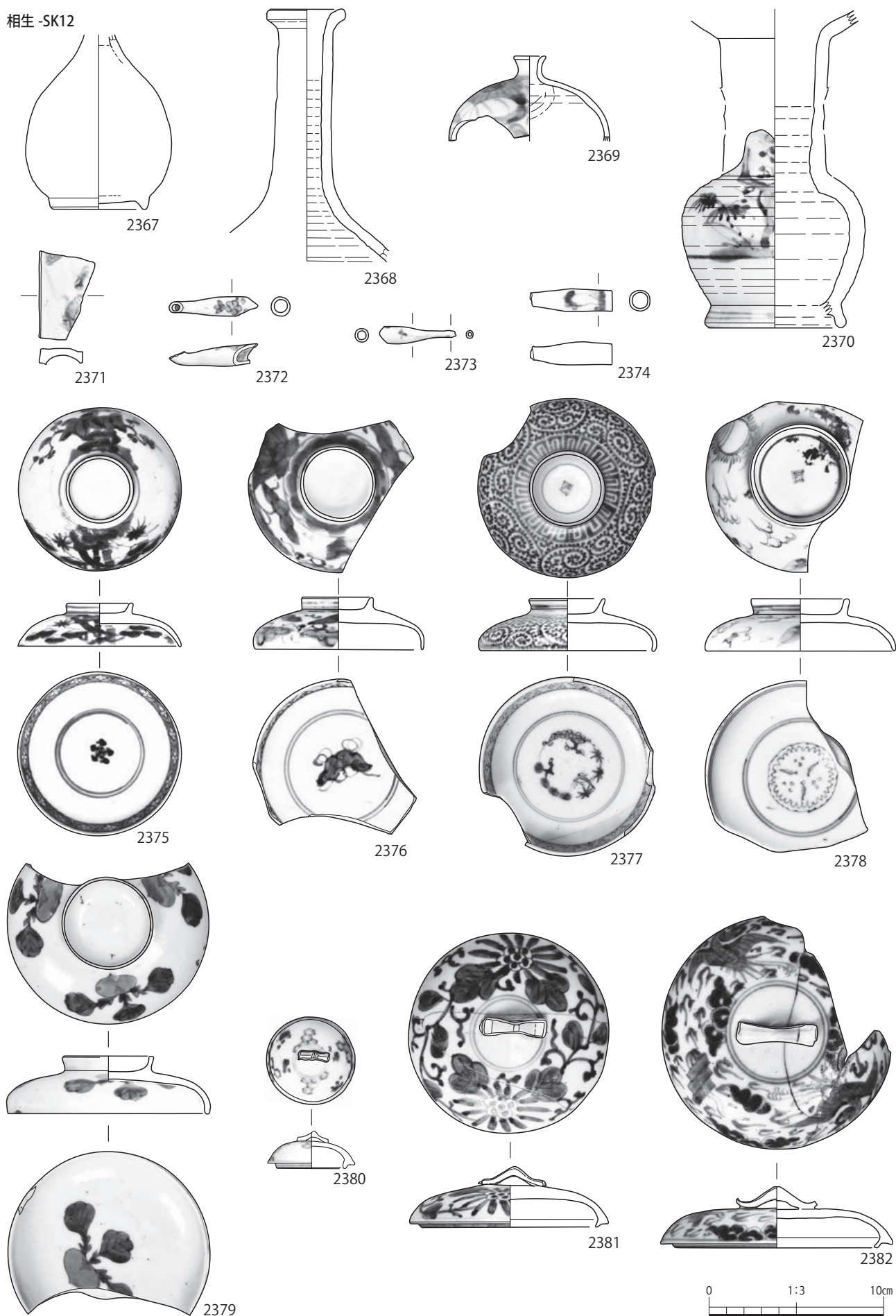
第 291 图 相生工区出土遺物 (30)





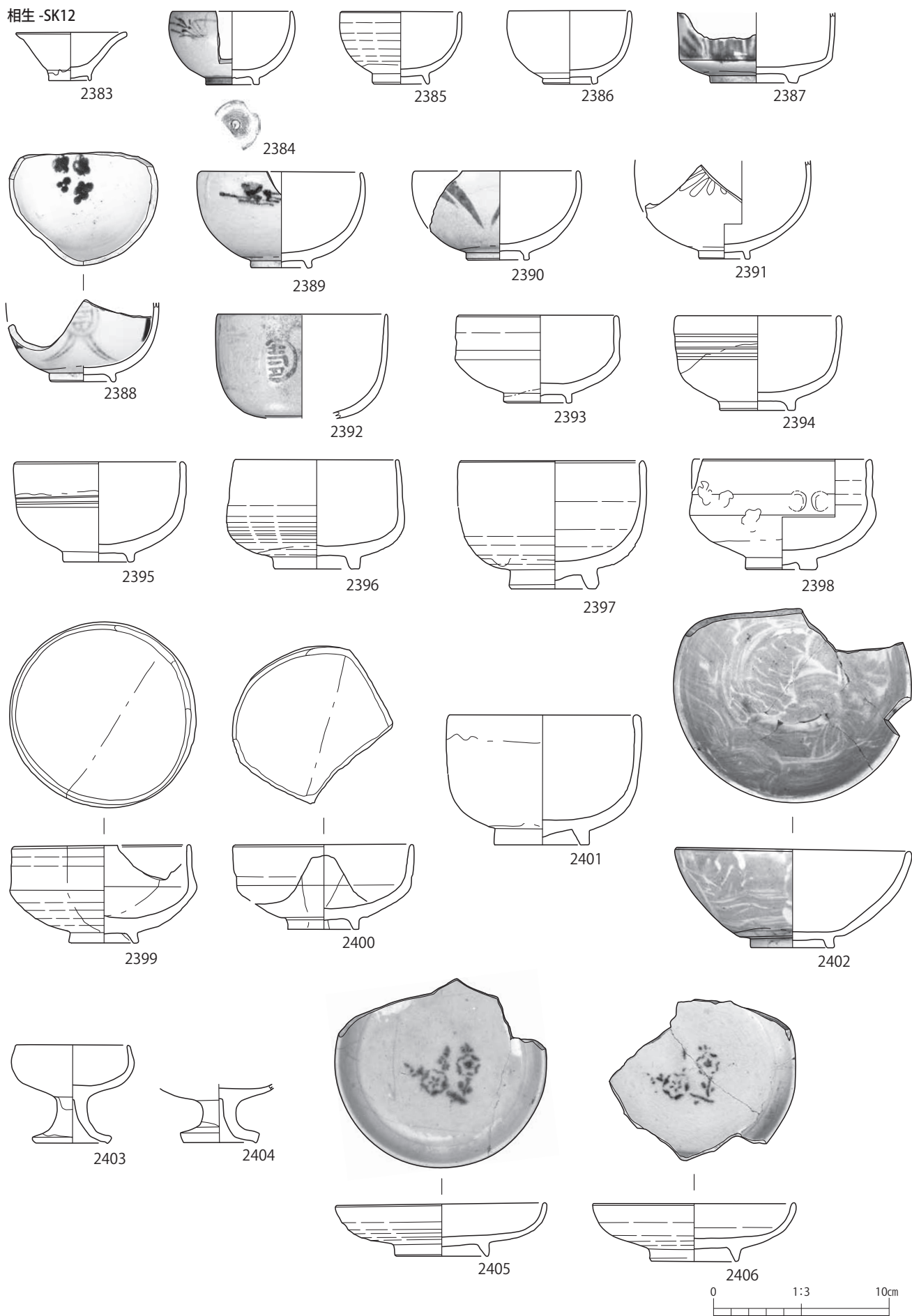
第 292 图 相生工区出土遺物 (31)

相生-SK12



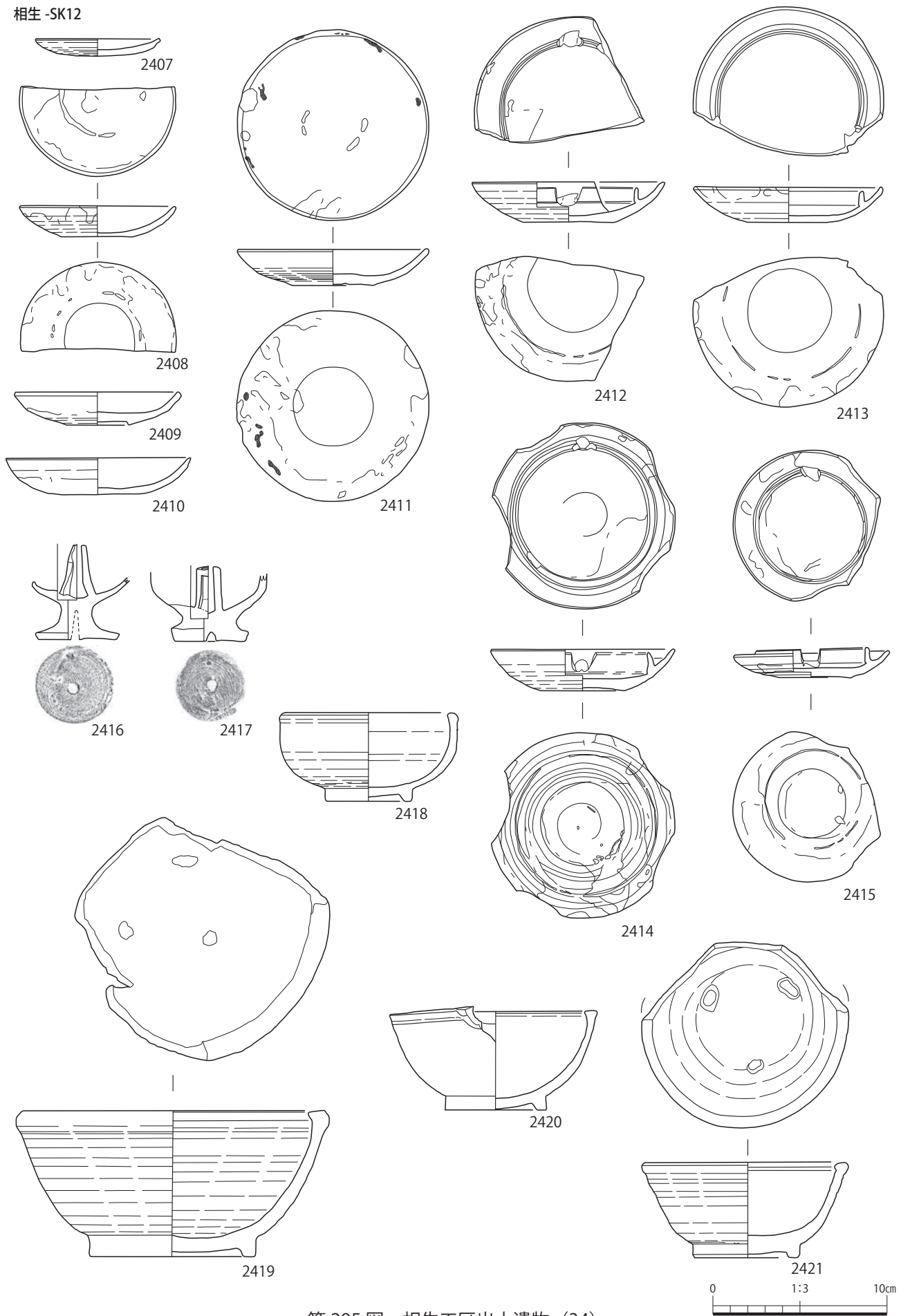
第 293 图 相生工区出土遺物 (32)

相生-SK12



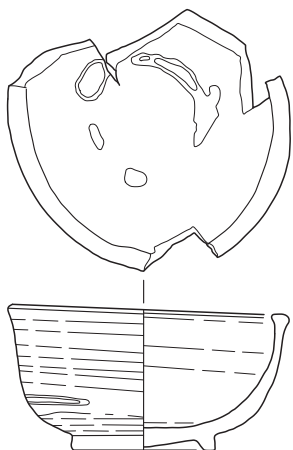
第 294 图 相生工区出土遺物 (33)

相生-SK12

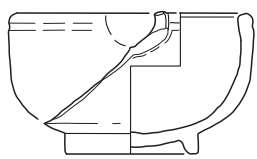
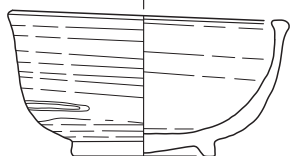


第 295 图 相生工区出土遺物 (34)

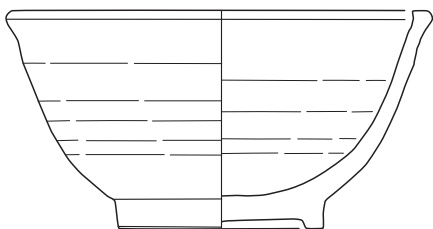
相生-SK12



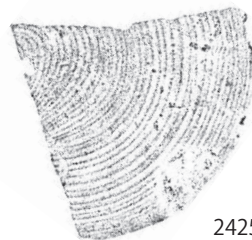
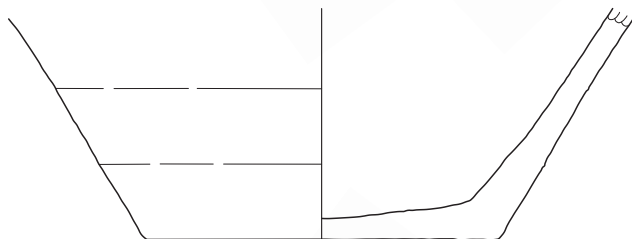
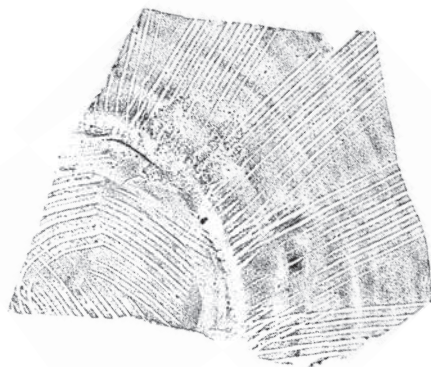
2422



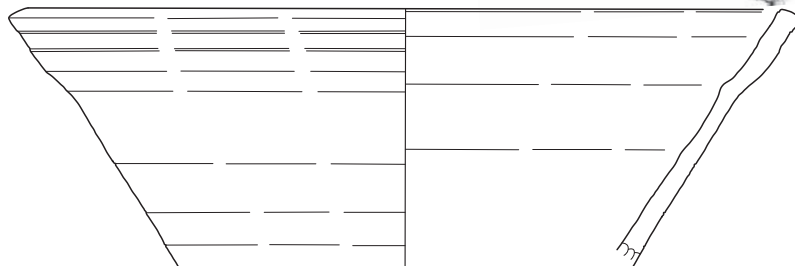
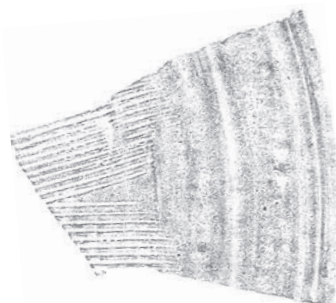
2423



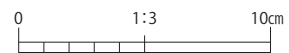
2424



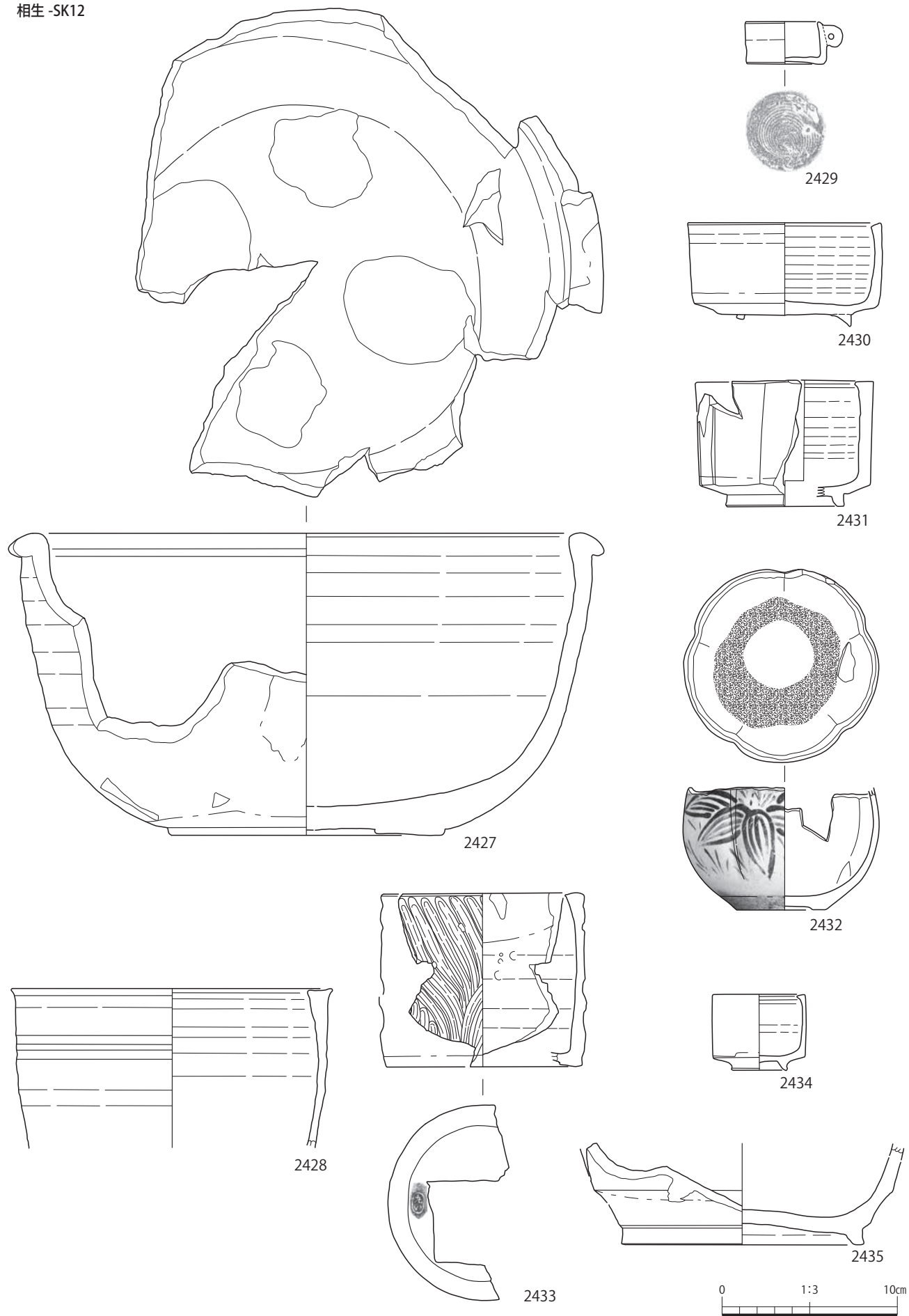
2425



2426

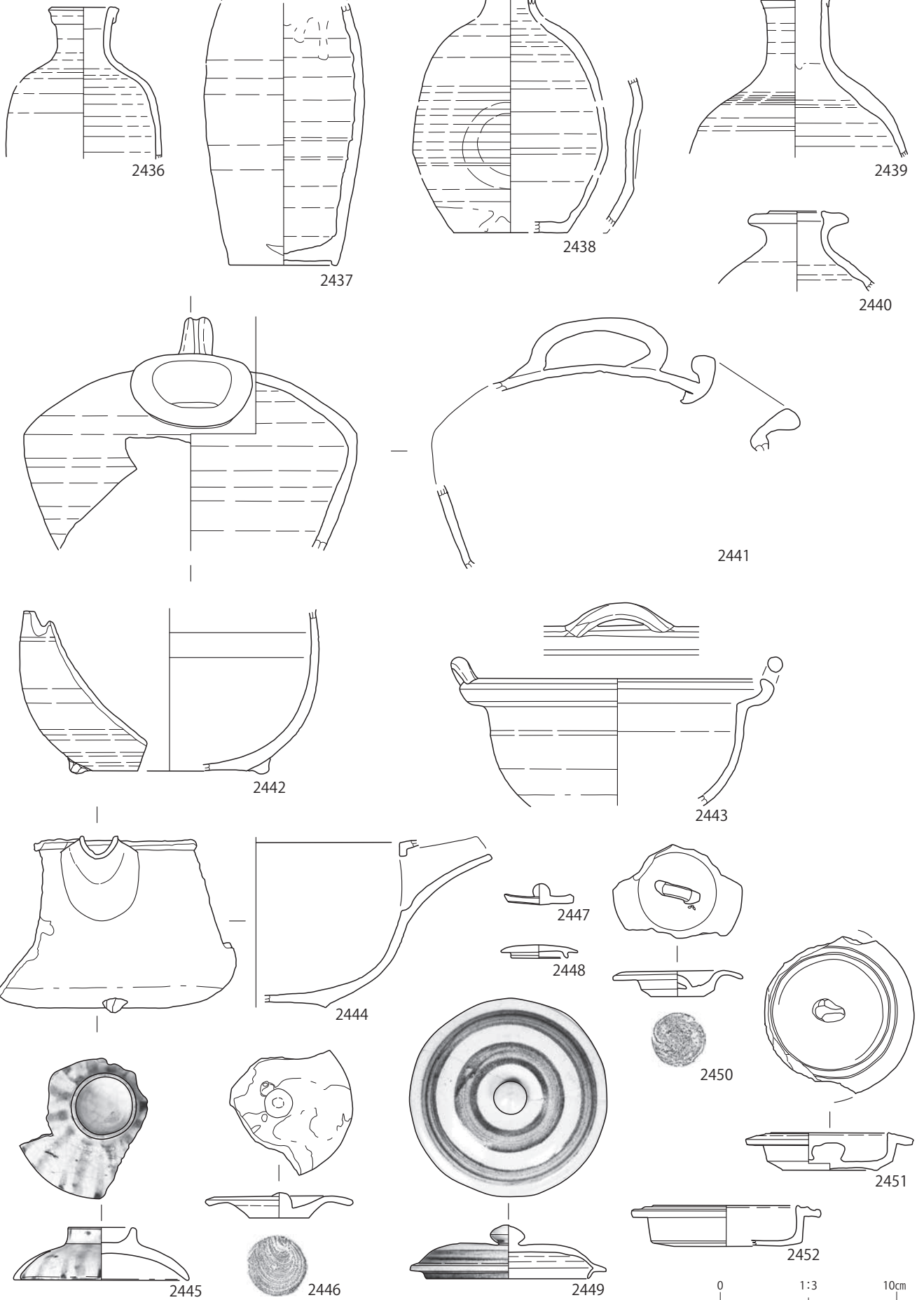


第 296 図 相生工区出土遺物 (35)

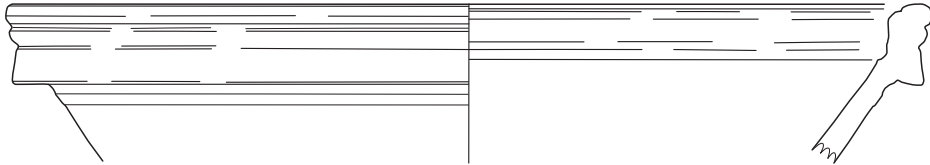


第 297 図 相生工区出土遺物 (36)

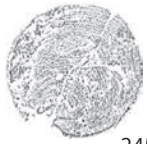
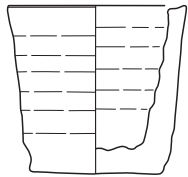
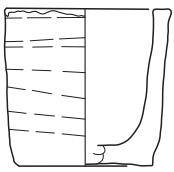
相生-SK12



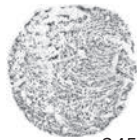
第298图 相生工区出土遺物 (37)



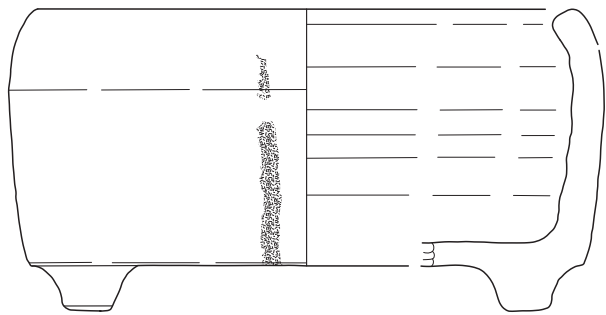
2453



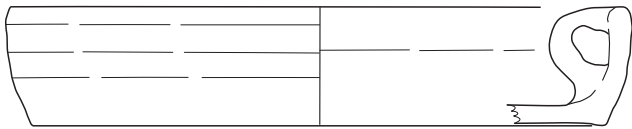
2454



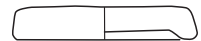
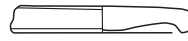
2455



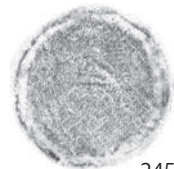
2456



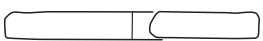
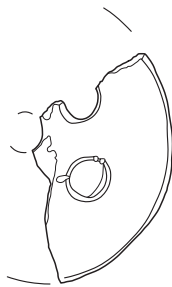
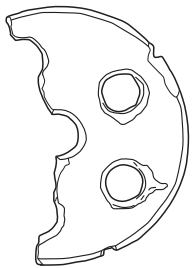
2457



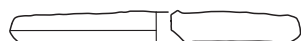
2458



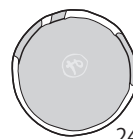
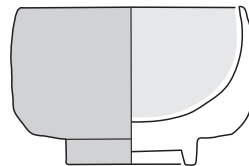
2459



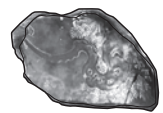
2460



2461



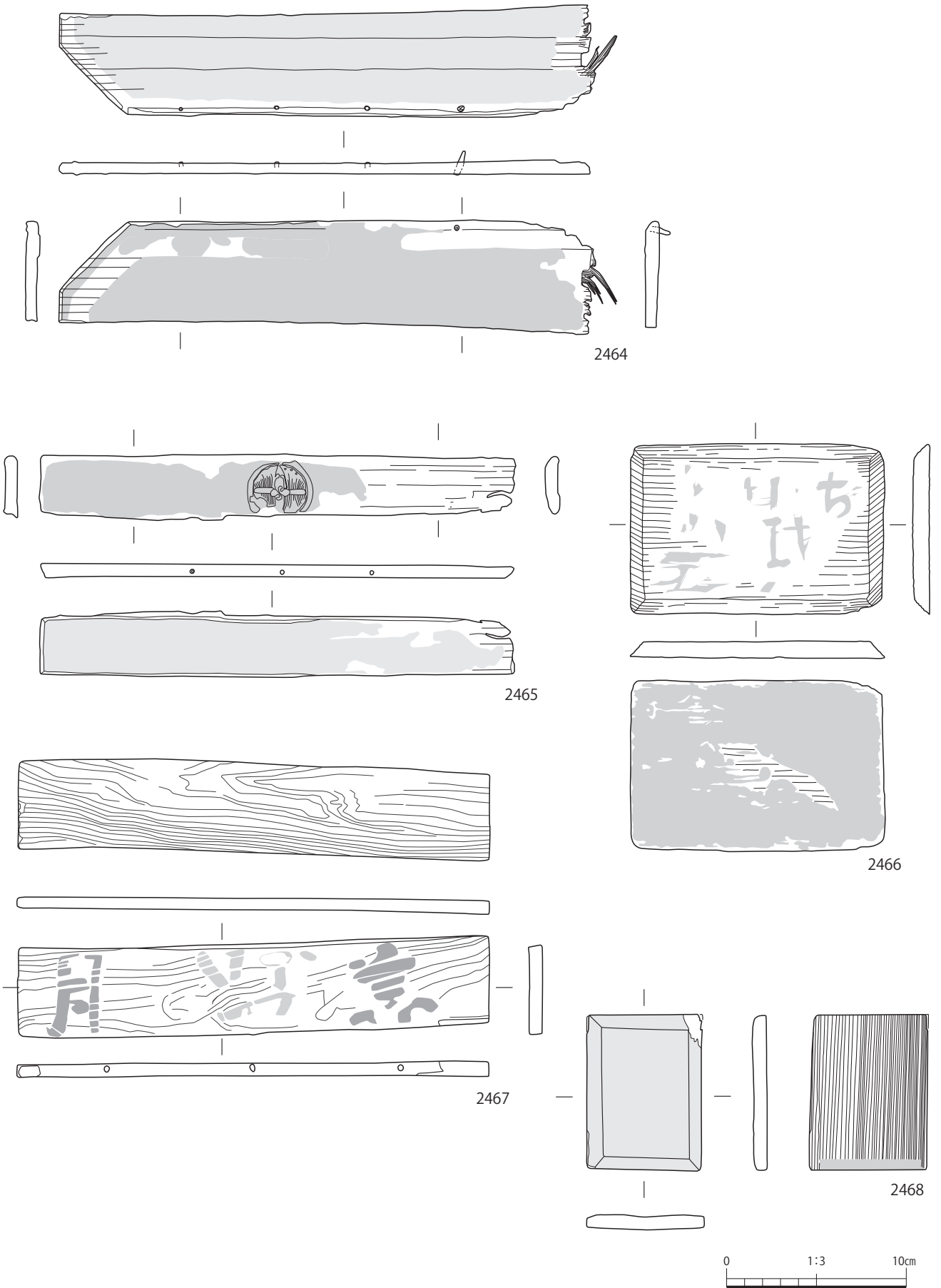
2462



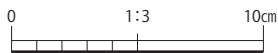
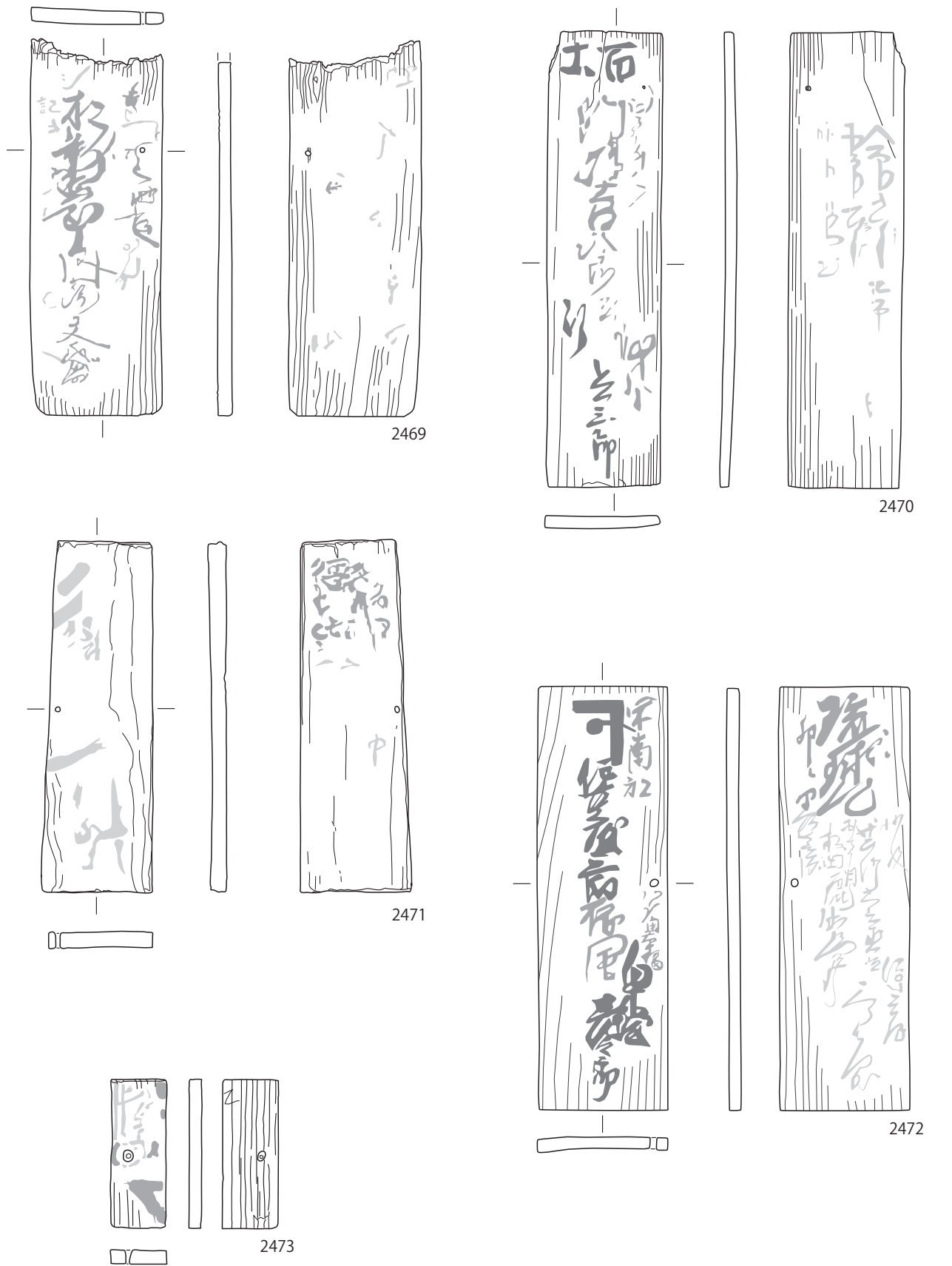
2463



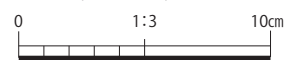
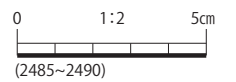
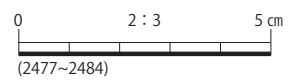
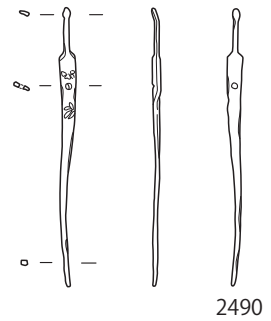
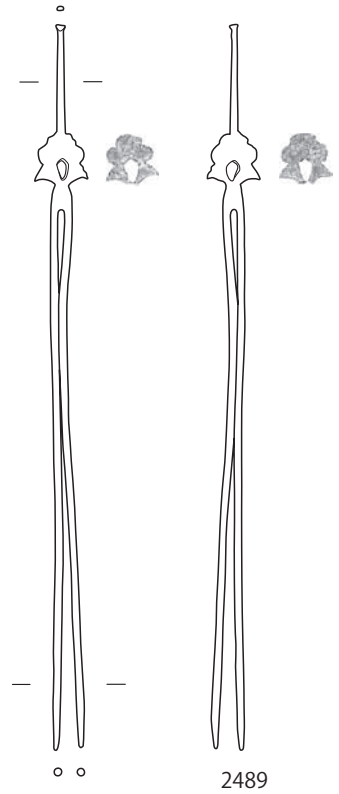
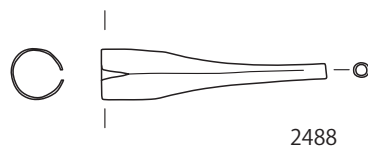
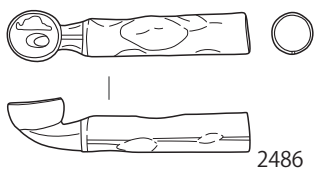
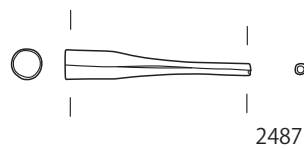
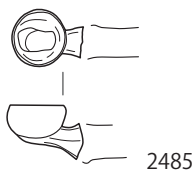
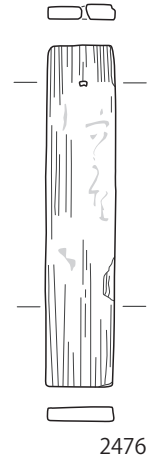
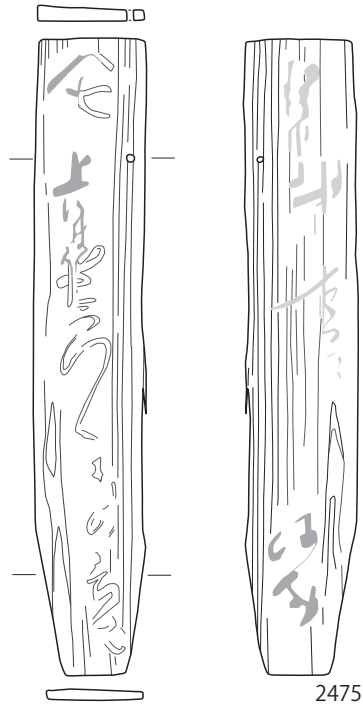
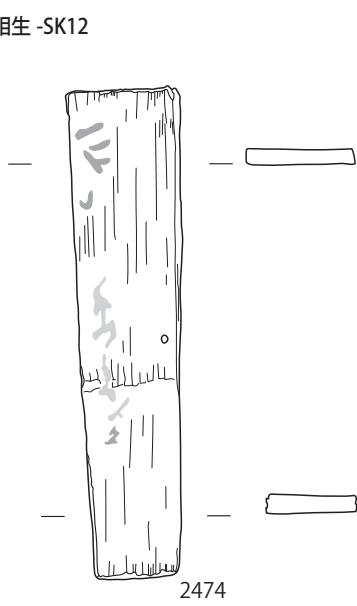
第 299 図 相生工区出土遺物 (38)



第 300 图 相生工区出土遺物 (39)

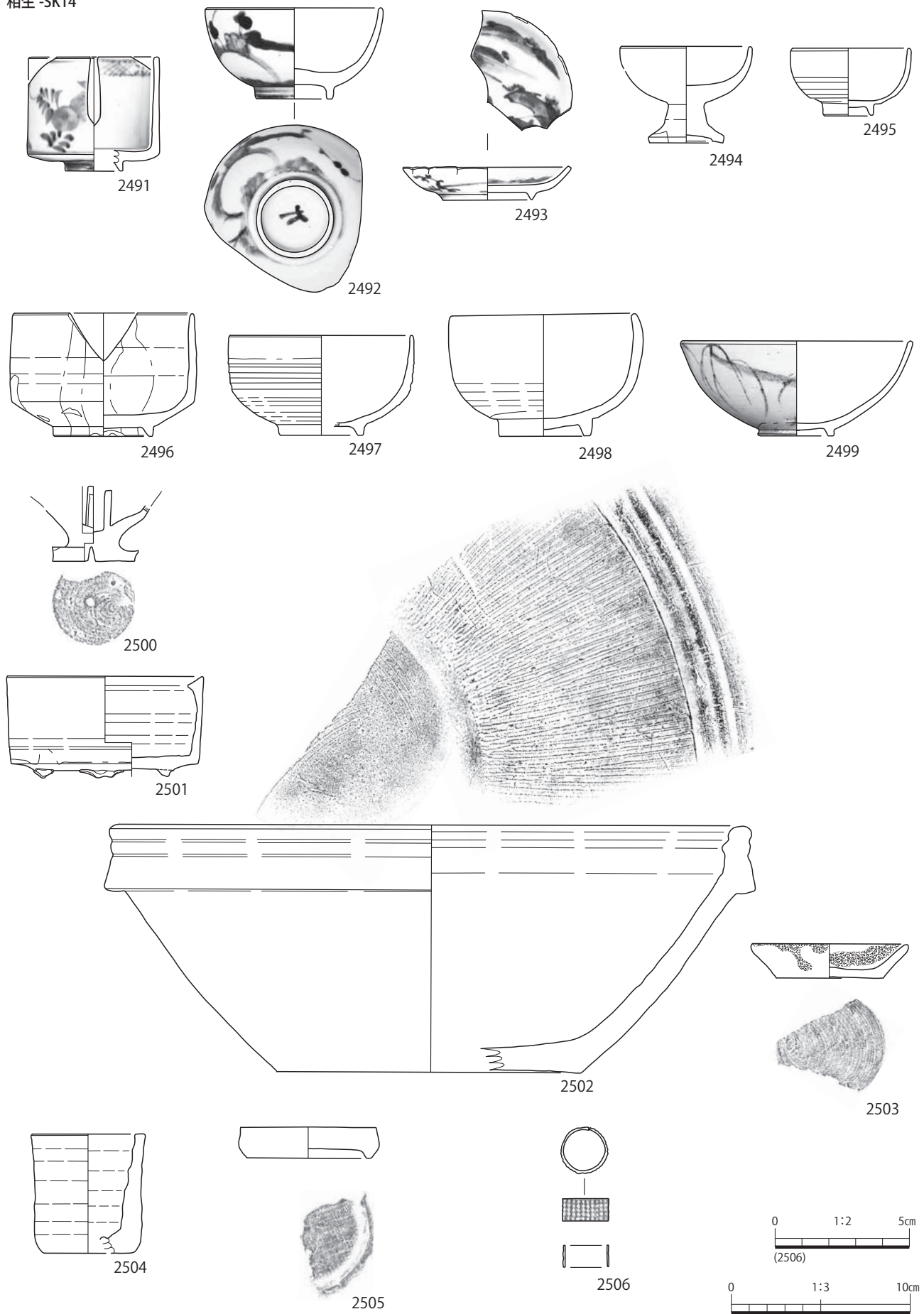


第 301 図 相生工区出土遺物 (40)



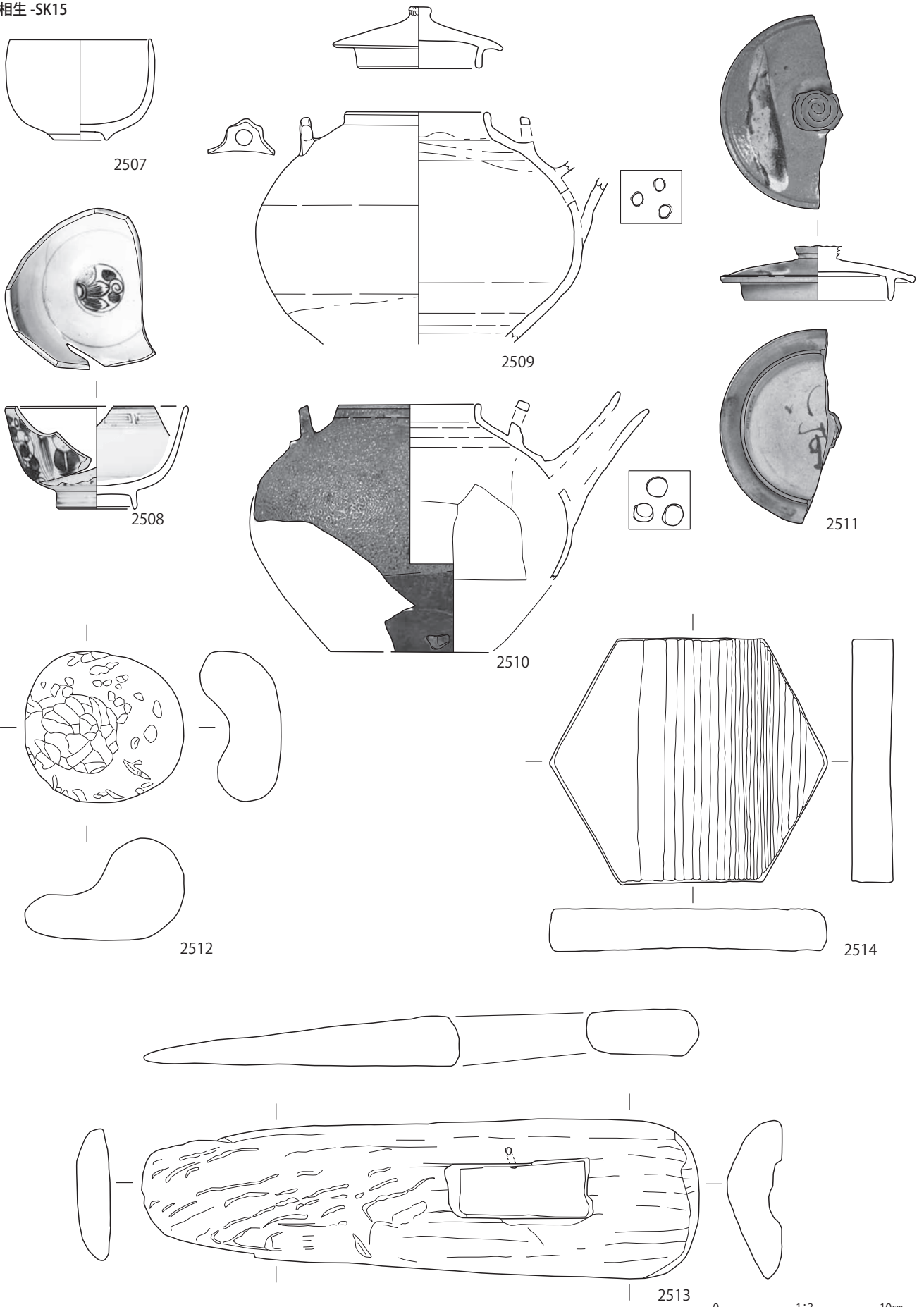
第 302 図 相生工区出土遺物 (41)

相生-SK14



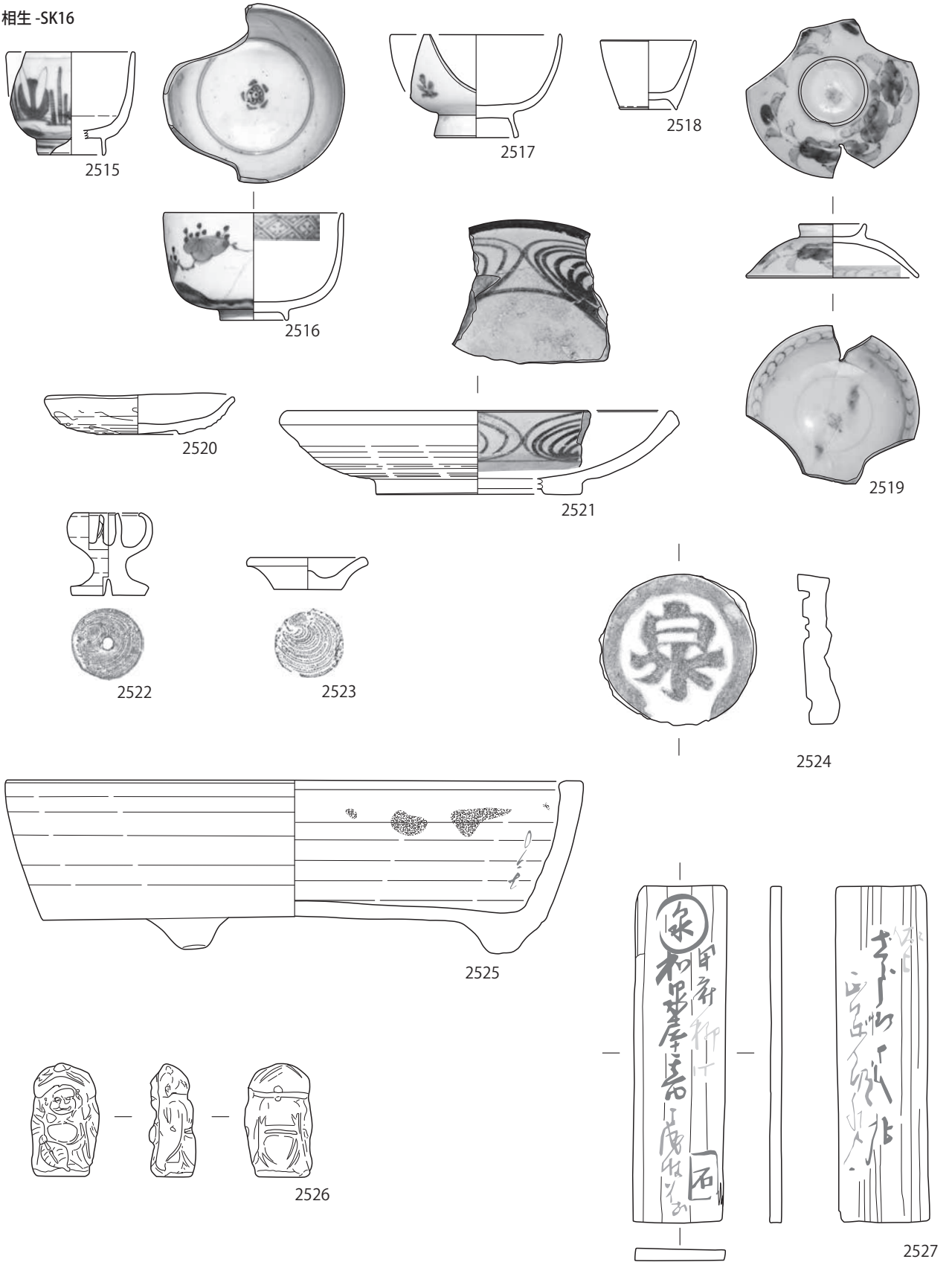
第 303 图 相生工区出土遺物 (42)

相生-SK15



第 304 图 相生工区出土遺物 (43)

相生-SK16

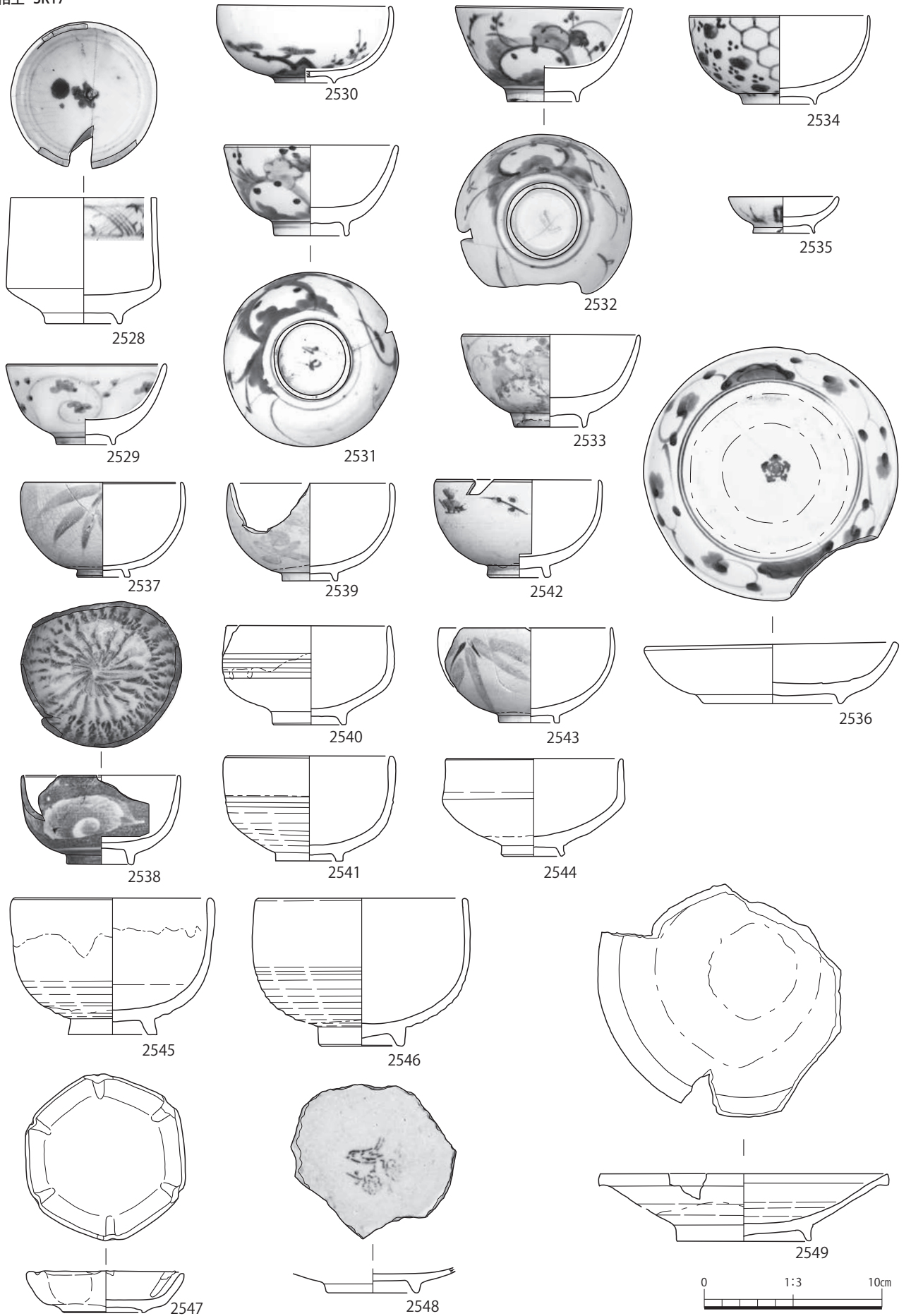


0 1:2 5cm
(2526)

0 1:3 10cm

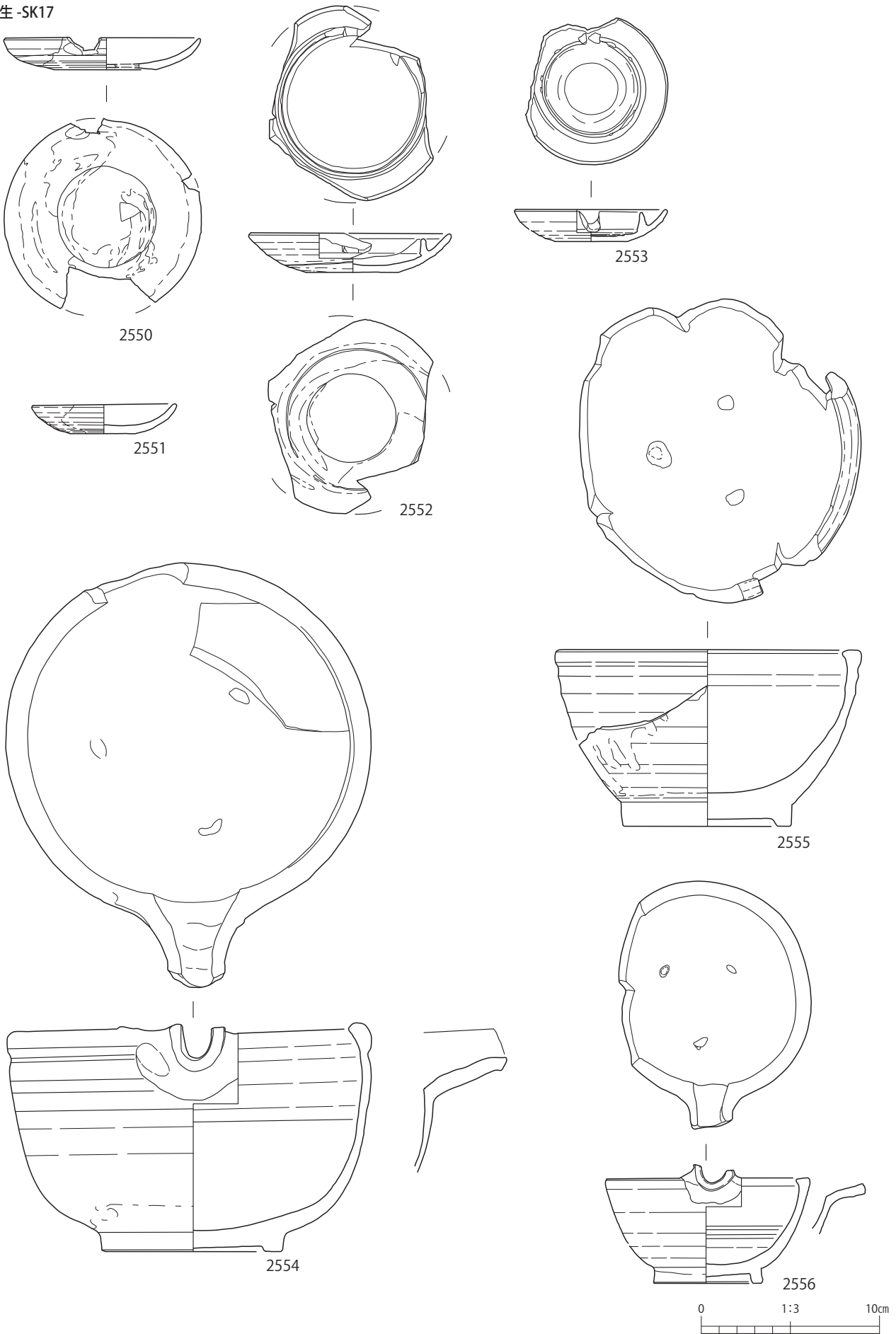
第 305 図 相生工区出土遺物 (44)

相生-SK17

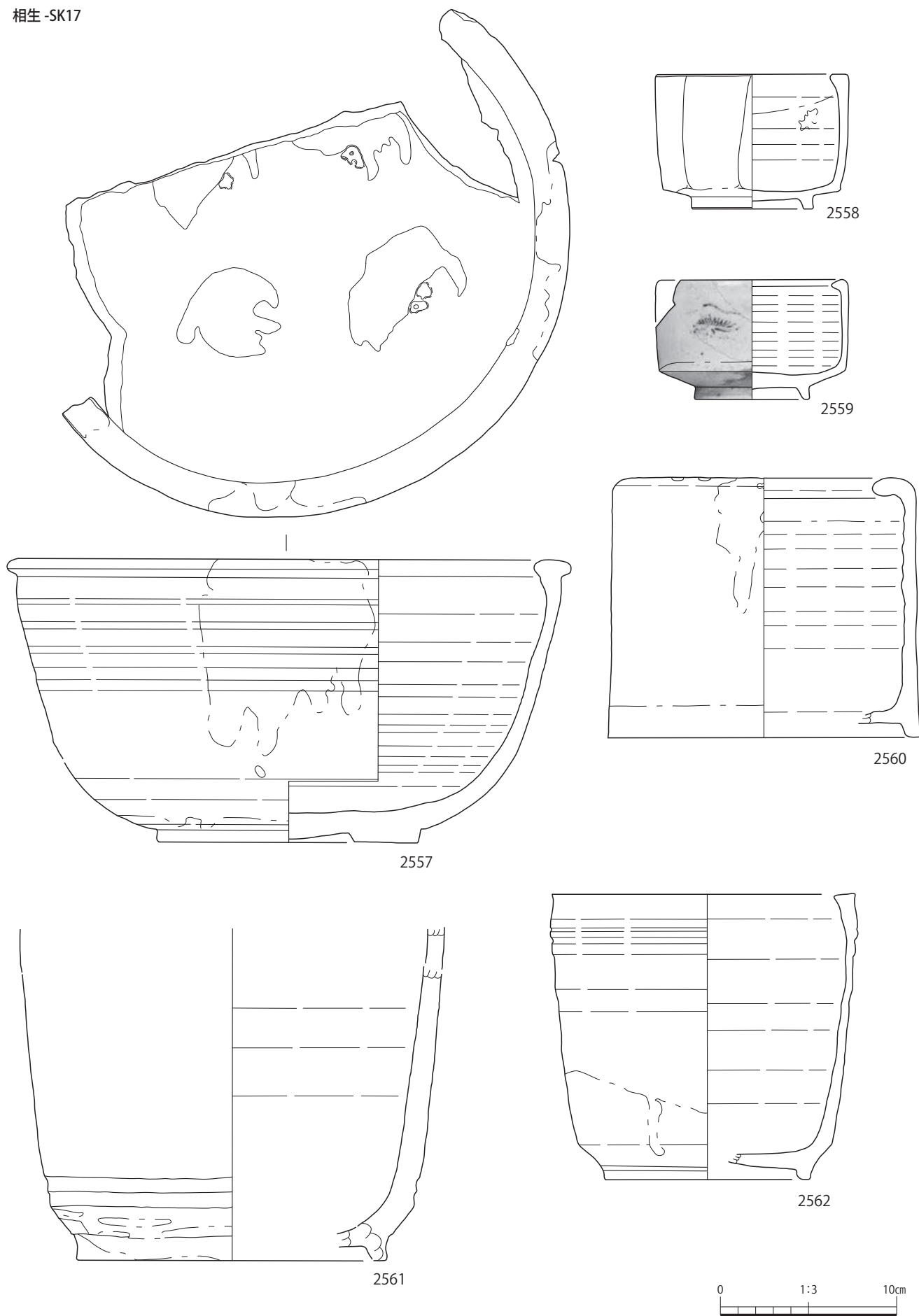


第 306 図 相生工区出土遺物 (45)

相生-SK17

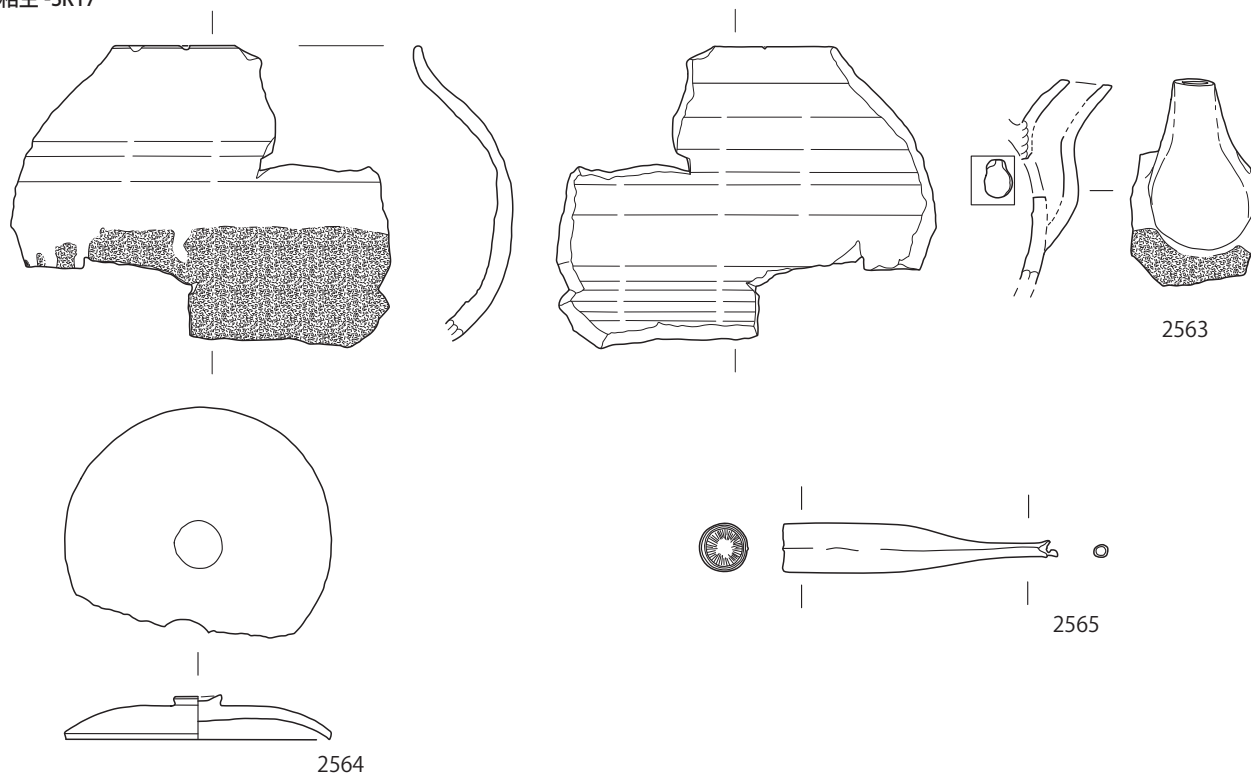


第 307 図 相生工区出土遺物 (46)

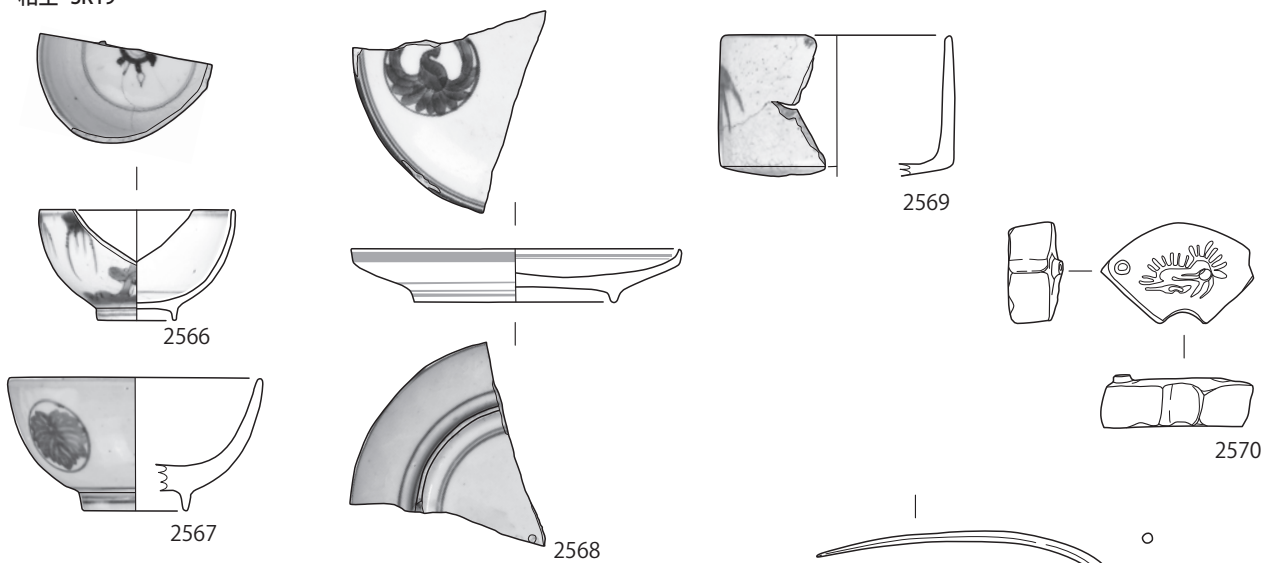


第 308 図 相生工区出土遺物 (47)

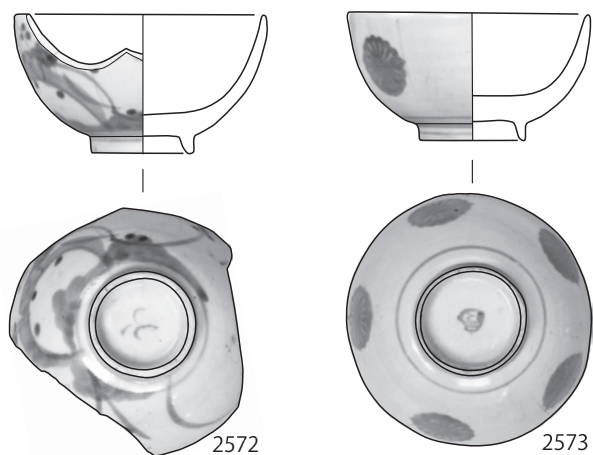
相生-SK17



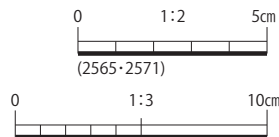
相生-SK19



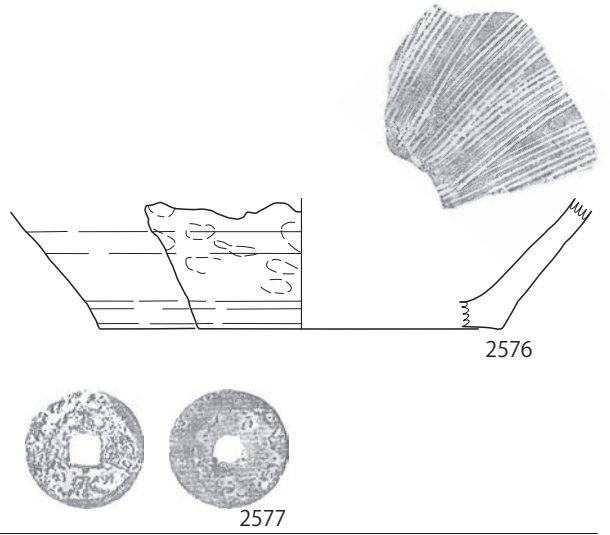
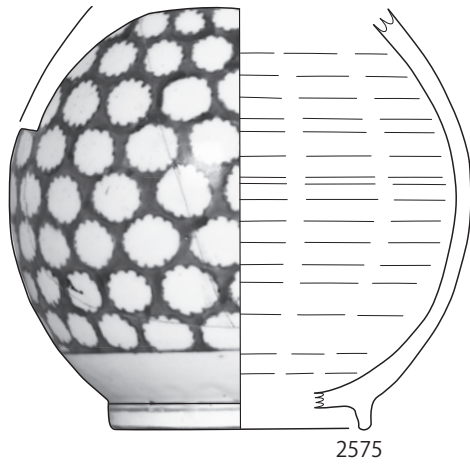
相生-SK20



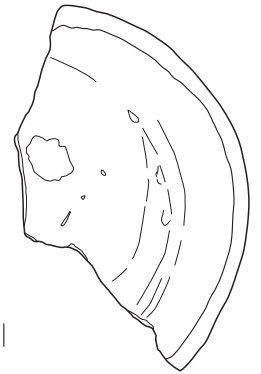
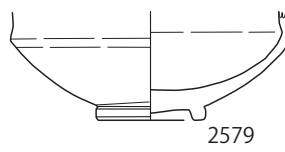
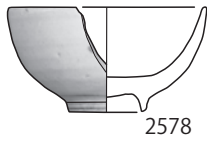
第 309 图 相生工区出土遺物 (48)



相生-SK27



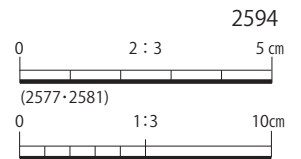
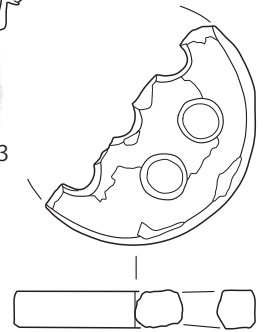
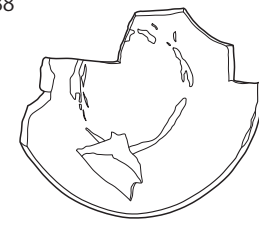
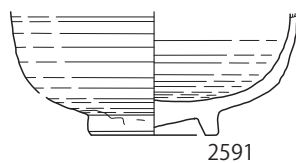
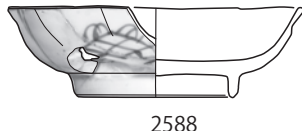
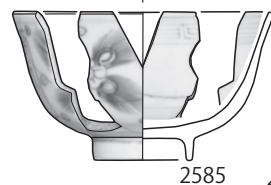
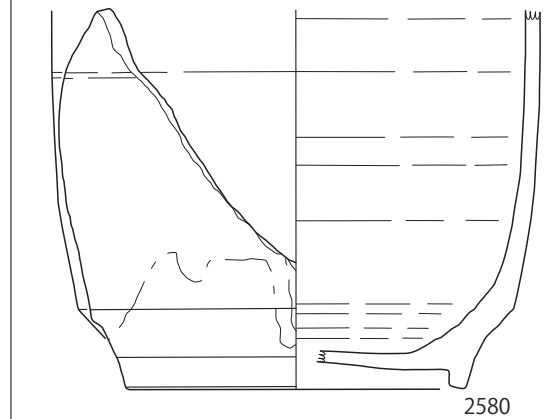
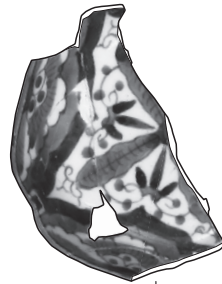
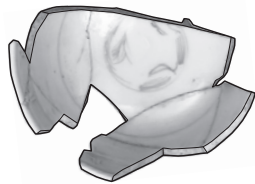
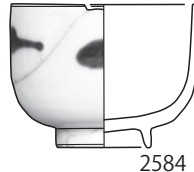
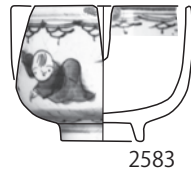
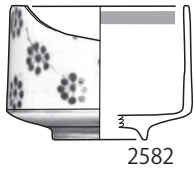
相生-SK29



相生-SD1

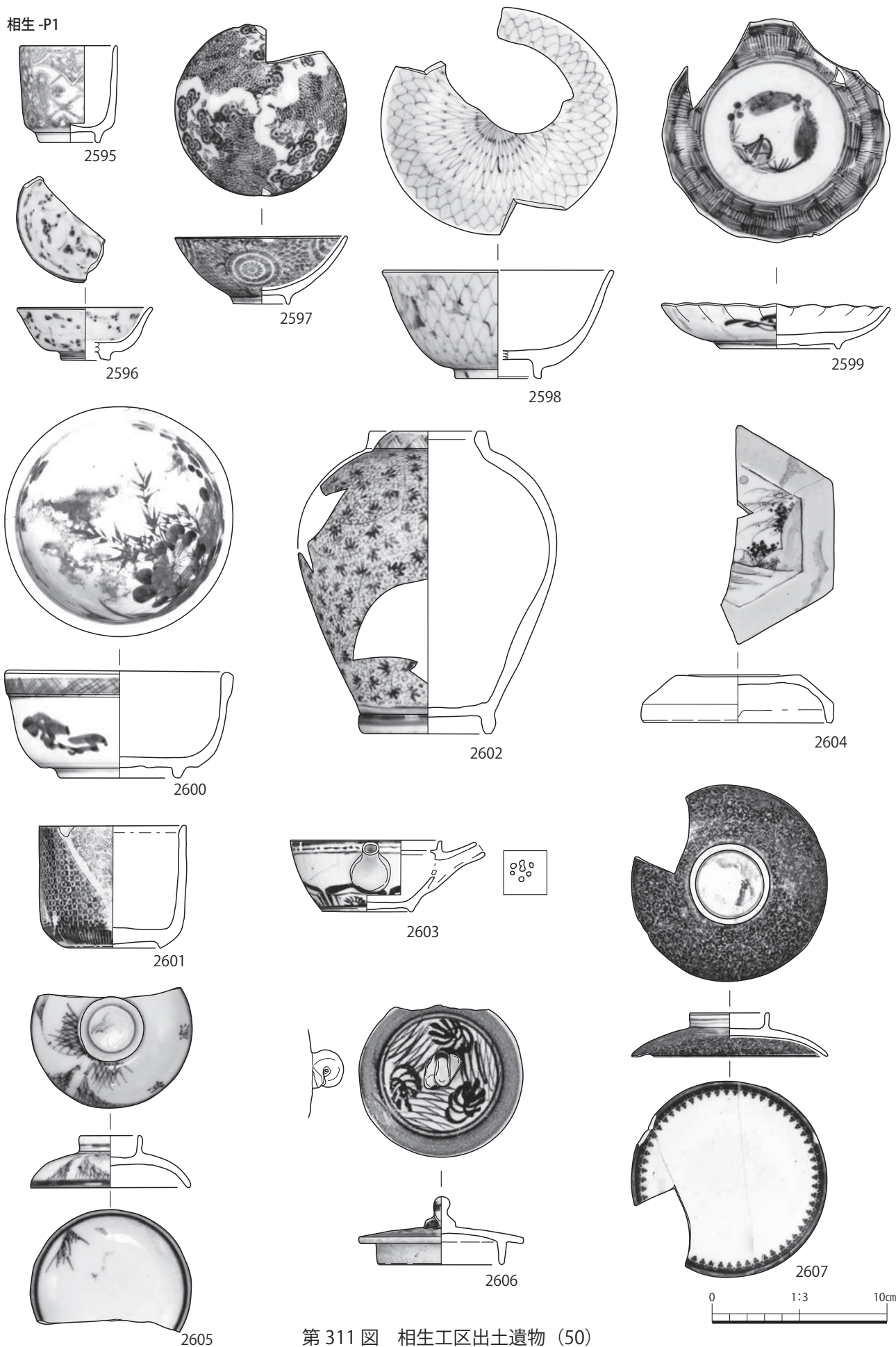


相生-SS1



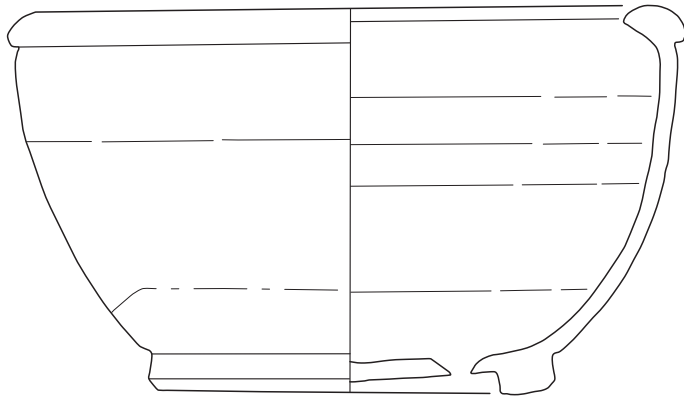
第310图 相生工区出土遺物(49)

相生-P1

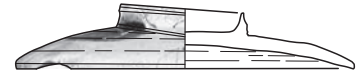
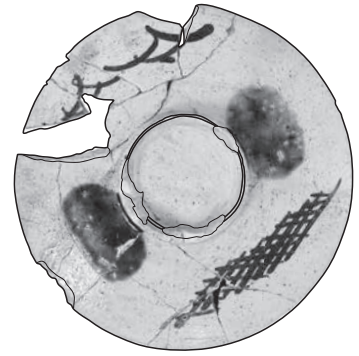


第 311 図 相生工区出土遺物 (50)

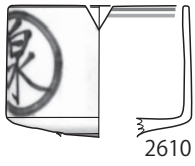
相生-P1



2608



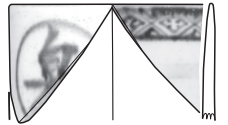
相生 - 遺構外



2610



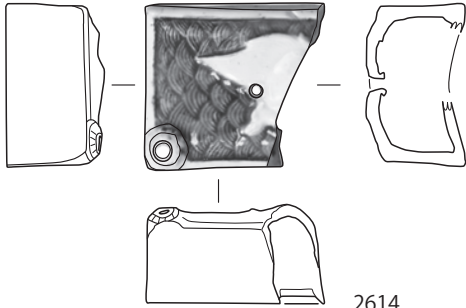
2611



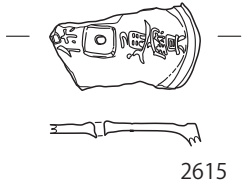
2612



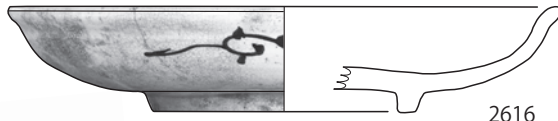
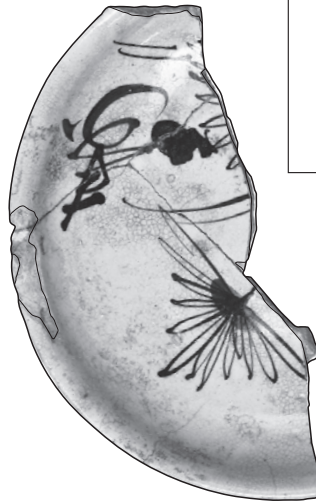
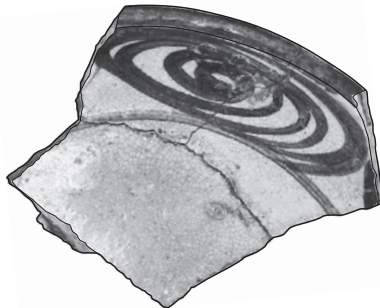
2613



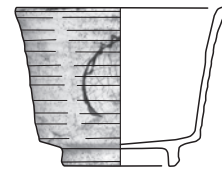
2614



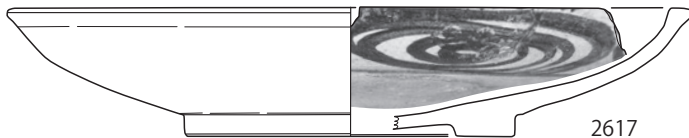
2615



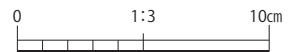
2616



2618

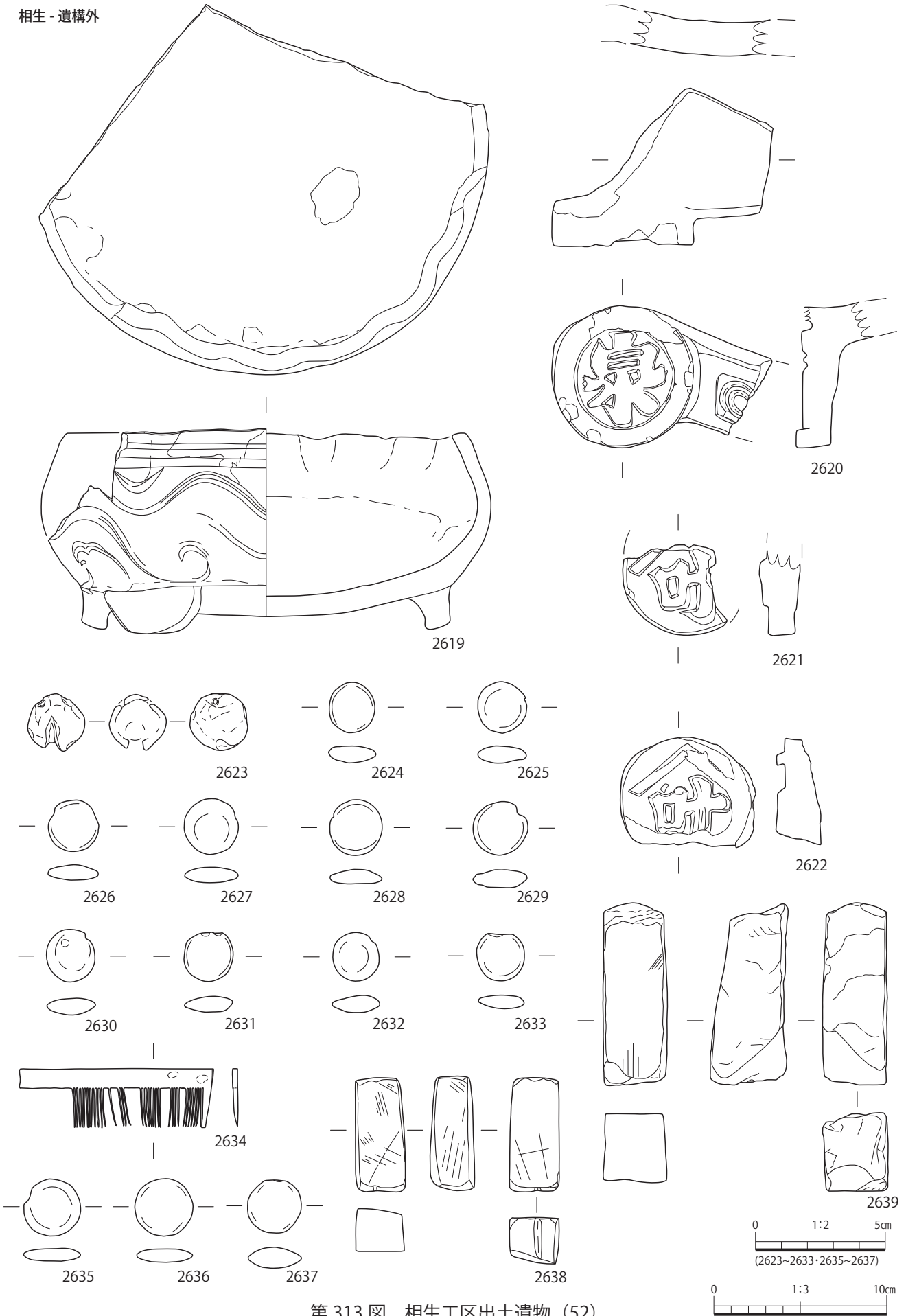


2617



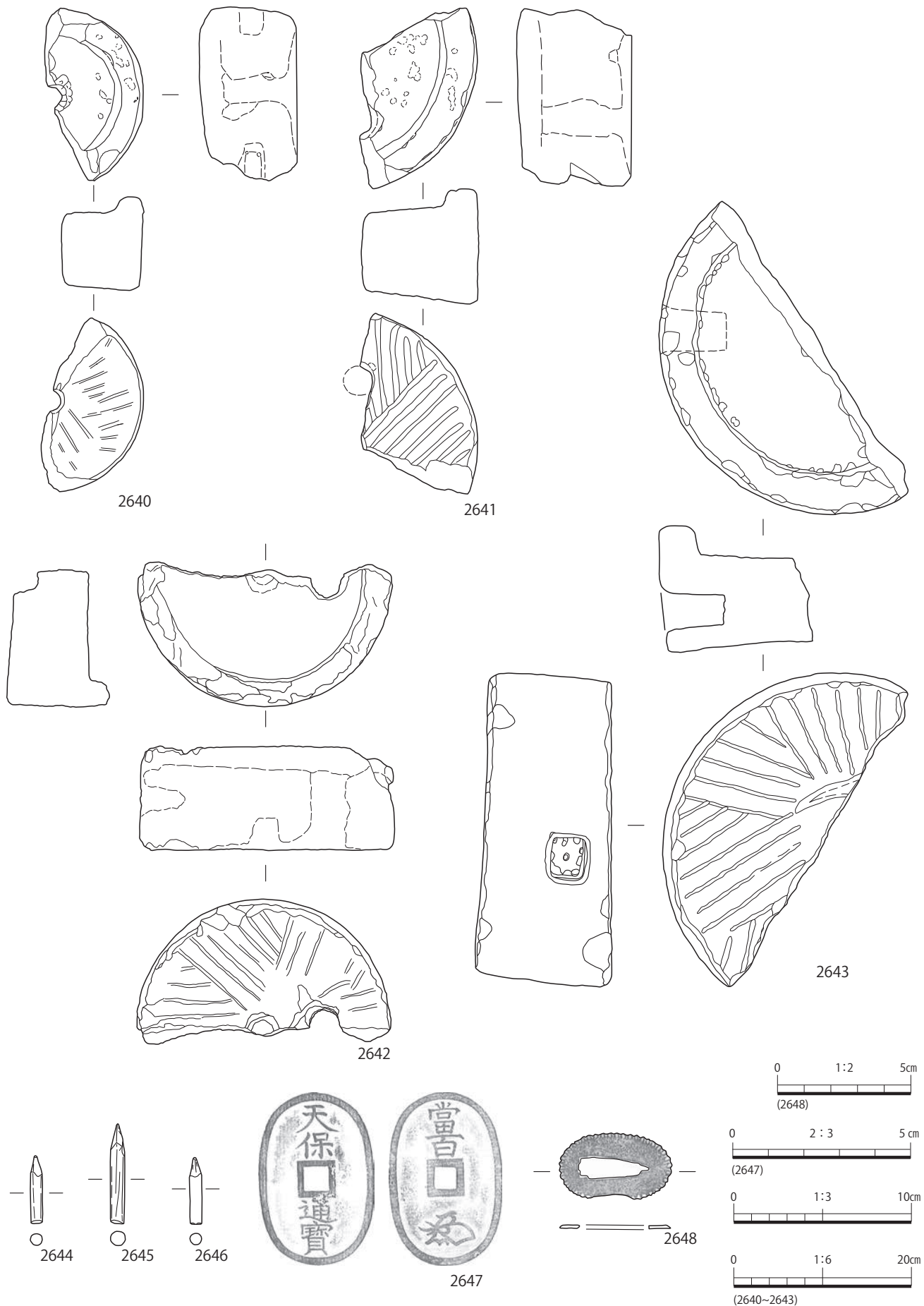
第 312 図 相生工区出土遺物 (51)

相生 - 遺構外



第 313 図 相生工区出土遺物 (52)

相生 - 遺構外



第 314 図 相生工区出土遺物 (53)

第11表 II・相生工区遺物観察表(陶磁器・土器・他)

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
778	A	SK1	磁器	小碗	半筒形	(6.8)	(3.4)	5.7		胎土成形	染付	縁部あり	透明釉		胎土	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初
779	A	SK1	磁器	小碗	罌器形	—	(4.5)	(4.0)		胎土成形	染付	縁部あり・焼印あり	灰釉		胎土	灰白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀前半
780	A	SK1	磁器	酒手酒杯	木形	(7.5)	(3.2)	(2.8)		胎土成形	染付	置付き無軸・高台縁部記号あり	透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
781	A	SK1	磁器	蓋	筒形	(9.4)	4.2	3.0		胎土成形	染付		透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉
782	A	SK1	磁器	小瓶	罌器形	1.8	—	(9.0)		胎土成形	染付	見込み部に胎土目積・粘土塊	透明釉		胎土	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
783	A	SK1	陶器	灯明皿	夕日底平形	(9.8)	(4.4)	1.9		胎土成形	染付	見込み部に胎土目積・粘土塊	灰釉		胎土	灰白(10YR8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀前半
784	A	SK1	陶器	灯明受皿	油清切立状	10.0	4.4	1.8	7.0	胎土成形			鉄釉		胎土	黄灰(2.5Y6/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
785	A	SK1	陶器	掃鉢	口縁折縁形	(17.9)	(7.0)	6.1		胎土成形		底部回転へら削り	鉄釉		胎土	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
786	A	SK1	陶器	土鍋	丸形三足	(8.0)	(3.3)	3.9	8.5	胎土成形		小形	鉄釉		胎土	明視灰(5YR7/1)		良好		
787	A	SK1	土器	焙烙		(29.6)	(27.0)	(4.3)		胎土成形		底平坦	無釉		胎土	にぶい濁(7.5YR6/3)	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	良好	在地系	
788	A	SK1	土製品	さな		(12.5)	16.4	2.1		胎土成形		もろい	無釉		胎土	濁(2.5YR6/6)	黒石・黒色粒・金色雲母	良好	在地系	
789	A	SK3	土器	大甕		31.3	16.4	37.5		組造り		輪溝・指おさえ・ヘラナデ	無釉		胎土	赤褐(2.5YR4/6)	白色粒	良好		
790	A	SK10	石器	掃鉢	口縁帯三段	34.2	(15.5)	12.0		胎土成形		片口・口縁内凸帯小	無釉		胎土	赤褐(10R4/4)	白色粒・黒色粒	良好	明石系	
791	A	SK15	磁器	小碗	罌器形	7.4	2.9	3.7		胎土成形	染付	薄手	透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
792	A	SK15	磁器	小碗	罌器形	8.4	3.3	4.1		胎土成形	染付		透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
793	A	SK15	磁器	小碗	罌器形	9.1	3.8	4.6		胎土成形	染付		透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
794	A	SK15	磁器	小碗	罌器形	9.1	3.7	4.1		胎土成形	染付	高台部に墨書あり・焼継ぎ痕あり・焼継屋記号あり	透明釉		胎土	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉以降
795	A	SK15	磁器	小碗	罌器形	8.4	3.3	3.9		胎土成形	染付	置付き無軸	透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀後半
796	A	SK15	磁器	小碗	罌器形	8.1	3.4	4.6		胎土成形	染付		透明釉		胎土	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀後半
797	A	SK15	磁器	小碗	半球形	(7.8)	(3.4)	5.1		胎土成形	染付	口縁部端反・底部穿孔あり	透明釉		胎土	灰白(N8/)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉
798	A	SK15	磁器	小碗	筒丸形	(7.6)	3.6	(6.2)		胎土成形	染付		透明釉		胎土	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉
799	A	SK15	磁器	小碗	筒丸形	(7.4)	(4.2)	6.5		胎土成形	染付		透明釉		胎土	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉
800	A	SK15	磁器	小碗	半球形	8.5	3.4	5.8		胎土成形	染付・上絵付	置付き無軸・焼継ぎ痕あり・焼継屋記号あり	透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀中葉
801	A	SK15	磁器	小碗	罌器形	(7.3)	4.3	5.9		胎土成形	染付	置付き無軸	透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉以降
802	A	SK15	磁器	小碗	筒丸形	7.2	3.7	5.9		胎土成形	染付	貫入あり	透明釉		胎土	灰白(5Y8/1)	黒色粒	やや不良	肥前系	19世紀中葉以降
803	A	SK15	磁器	小碗	筒丸形	7.1	3.7	5.8		胎土成形	染付(釘形)		透明釉		胎土	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
804	A	SK15	磁器	小碗	丸形	7.1	2.6	3.4		胎土成形	染付		透明釉		胎土	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
805	A	SK15	磁器	小碗	丸形	7.0	2.6	3.4		胎土成形	絵付		透明釉		胎土	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀中葉
806	A	SK15	磁器	小碗	筒丸形	(7.0)	—	(5.3)		胎土成形	染付	貫入あり	透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉
807	A	SK15	磁器	小碗	長丸形	6.9	3.4	5.0		胎土成形	染付	貫入あり	透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉以降
808	A	SK15	磁器	碗	筒丸形	6.7	3.8	5.8		胎土成形	染付		透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
809	A	SK15	磁器	小碗	筒丸形	6.5	3.5	5.3		胎土成形	染付	底部跡あり	透明釉		胎土	灰白(10Y8/1)	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉以降
810	A	SK15	磁器	小碗	長丸形	(6.4)	(3.0)	4.4		胎土成形	染付	駒高台	透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉以降
811	A	SK15	磁器	小碗	罌器形	(6.2)	(2.6)	2.9		胎土成形	上絵付	口縁部に縁跡あり・卵線手・高台部無軸	透明釉		胎土	白(9/)	黒色粒	良好	平戸系・三川内	18世紀後半～19世紀中葉
812	A	SK15	磁器	中碗	罌器形	11.5	4.5	5.9		胎土成形	染付	置付き無軸	透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
813	A	SK15	磁器	中碗	罌器形	11.4	4.3	6.0		胎土成形	染付		透明釉		胎土	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
814	A	SK15	磁器	中碗	罌器形	11.0	4.2	6.1		胎土成形	染付	見込み部に跡あり・焼継ぎ痕あり・焼継屋記号あり	透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉
815	A	SK15	磁器	中碗	罌器形	(10.6)	4.0	5.9		胎土成形	染付	見込み内「壽」の文字あり	透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
816	A	SK15	磁器	中碗	罌器形	10.4	4.3	5.8		胎土成形	染付	見込み部「壽」の文字あり	透明釉		胎土	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
817	A	SK15	磁器	中碗	罌器形	10.4	4.0	6.1		胎土成形	染付		透明釉		胎土	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉

*法量()は復元法測値、()は現存値である。

*法量()は複元量測値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	軸調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
818	A	SK15	磁器	中碗	端反形	9.3	3.6	4.5		轆轤成形	染付	墨付き無軸	透明釉	緻密	白	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
819	A	SK15	磁器	中碗	広東形	—	5.2	(4.4)		轆轤成形		体部・見込み部に銘あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後半～19世紀中葉	
820	A	SK15	磁器	紅猪口	菊花形	4.5	1.3	1.4		型打成形			白磁釉	細砂粒含む	にぶい黄緑 (10YR7/2)	白色粒・黒色粒	良好			
821	A	SK15	磁器	紅猪口	菊花形	4.6	1.4	1.3		型打成形			白磁釉	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好			
822	A	SK15	磁器	紅猪口	御唐草形	6.4	2.8	1.7		型押成形		端唐草型押し	白磁釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
823	A	SK15	磁器	薄手酒杯	丸形	6.3	2.8	3.5		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系か	19世紀	
824	A	SK15	磁器	薄手酒杯	丸形	6.1	2.9	3.1		轆轤成形	染付・上絵付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
825	A	SK15	磁器	薄手酒杯	端反形	(5.8)	(2.4)	3.0		轆轤成形	染付・上絵付	墨付き無軸	透明釉	緻密	白(9)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
826	A	SK15	磁器	薄手酒杯	丸形	5.7	2.7	2.7		轆轤成形	染付・上絵付	端唐手	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
827	A	SK15	磁器	薄手酒杯	丸形	—	2.6	1.5		轆轤成形	絵付	明殺手・内面銘あり・高台内に捺線屋記号あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
828	A	SK15	磁器	仏飯器	台底缺り込み	6.6	4.6	7.7		轆轤成形		底面無軸	瑠璃釉	緻密	白(9)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
829	A	SK15	磁器	仏飯器	台底缺り込み	(6.1)	4.4	5.2		轆轤成形	上絵付(赤絵)	台底缺り込み	透明釉	緻密	灰白(7.5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
830	A	SK15	磁器	小皿	丸形	(13.5)	(7.4)	3.2		轆轤成形	染付	蛇の目凹形高台	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀前半～中葉	
831	A	SK15	磁器	小皿	丸形	(13.4)	(7.0)	3.4		轆轤成形	染付	蛇の目凹形高台・焼瘢ぎ痕あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀前半～第2四半期	
832	A	SK15	磁器	小皿	方形	8.3	3.7	2.2		型打成形			透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
833	A	SK15	白磁	小皿	方形	8.1	3.8	2.4		型打成形		墨付き無軸・絵あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
834	A	SK15	磁器	小皿	方形	(7.9)	3.7	2.7		型打成形	染付	底面銘あり	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
835	A	SK15	磁器	中鉢	腰形底広	20.8	9.8	7.5		轆轤成形	染付	蛇の目凹形高台・底面の無軸部分に砂付着	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系か	19世紀	
836	A	SK15	磁器	中鉢	旬干形	(15.2)	(8.2)	(4.2)		轆轤成形	染付	焼瘢ぎ痕あり	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後半～19世紀中葉	
837	A	SK15	磁器	神酒徳利	瓶子形	1.6	4.7	11.9	6.0	轆轤成形		腰輪高台	瑠璃釉	緻密	白(9)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後半～19世紀中葉	
838	A	SK15	磁器	燗徳利	罎口形	2.7	(6.2)	16.4		轆轤成形		内面無軸・透明釉とそこに濃い鉄軸と薄鉄軸	透明釉・明赤褐(2.5YR3/4)・明黄鉄軸(2.5Y6/6)	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
839	A	SK15	磁器	燗徳利	罎口形	—	5.2	(9.8)		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
840	A	SK15	磁器	蓋	無高台平形	9.6	2.8	3.5		轆轤成形	染付	見込み部・高台内に銘あり	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉	
841	A	SK15	磁器	蓋	無高台平形	9.4	2.9	3.8		轆轤成形	染付	貫入あり・高台内銘あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀前半～中葉	
842	A	SK15	磁器	蓋	無高台平形	9.1	(3.7)	(2.8)		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後半～19世紀中葉	
843	A	SK15	磁器	蓋	無高台平形	9.0	4.0	2.5		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系か	19世紀初～中葉	
844	A	SK15	陶器	中碗	罎形	(11.2)	(4.8)	7.6		轆轤成形		京焼風陶器	透明釉	緻密	灰黄(2.5Y7/2)	黒色粒	良好	肥前系	17世紀中葉～末	
845	A	SK15	陶器	灯明皿	無高台平形	9.6	3.9	1.8		轆轤成形		スス付着・見込み部目跡あり	無軸	緻密	暗褐(7.5YR3/3)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
846	A	SK15	陶器	灯明皿	無高台平形	9.2	3.6	1.9		轆轤成形		底面回転へラ削り・無高台	灰軸	緻密	灰白(10Y5/1)	長石	良好	瀬戸美濃系か		
847	A	SK15	陶器	灯明受皿	油溝切立状	(9.5)	4.2	2.2	(6.8)	轆轤成形		底面回転へラ削り・スス付着・内面目跡あり・外面環状痕あり	灰軸	緻密	灰白(10Y7/1)		良好	瀬戸美濃系		
848	A	SK15	陶器	灯明受皿	油溝切立状	9.6	4.3	2.0		轆轤成形		底面回転へラ削り・貫入あり	灰軸	緻密	灰白(2.5Y8/1)		良好	瀬戸美濃系		
849	A	SK15	陶器	中瓶	御納戸徳利形(罎丸形)	4.7	9.6	23.8	15.3	轆轤成形	絵付(鉄絵)	外・内面・上部さめ肌	靑銅釉	緻密	灰(10Y6/1)	外)にぶい赤褐(5YR5/3 内)		良好		19世紀中葉以降
850	A	SK15	陶器	中瓶	撫肩形	—	8.8	(17.5)	8.9	轆轤成形		内面～底面無軸・ガラス瓶の代用品？酒瓶か？	透明釉	緻密	灰(5Y6/1)		良好			
851	A	SK15	陶器	中瓶	へこカン形	(2.6)	(6.0)	(15.9)		轆轤成形		底面鉄軸拭き取り	鉄軸	緻密	淡黄(2.5Y8/3)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
852	A	SK15	陶器	中瓶	撫肩形	—	7.2	(25.3)	9.1	轆轤成形		ガラス瓶の代用品？酒瓶か？	鉄軸・暗褐(7.5YR3/3)・黒緑(7.5YR2/1)	緻密	灰白(10YR8/1)	白色粒・黒色粒	良好			
853	A	SK15	陶器	中瓶	朝首逆煎形	—	9.2	21.3	17.3	轆轤成形	染付	輪高台・底面に渦巻状の跡・体部に同心円状の跡・高台部無軸・垂徳利	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
854	A	SK15	陶器	急須	構手形	7.0	6.0	9.5		轆轤成形	絵付	底面回転へラ削り・底面スス付着	灰軸	緻密	灰(5Y5/1)		良好		19世紀中葉以降	
855	A	SK15	陶器	土鍋	丸底三足・紐状双耳	21.1	7.4	16.1	21.6	轆轤成形		底面回転へラ削り・内面5ヶ所目跡あり・外面スス付着	鉄軸	緻密	灰白(5Y8/1)		良好	瀬戸美濃系		
856	A	SK15	陶器	土鍋	丸底三足・紐状双耳	11.4	4.0	4.5	12.5	轆轤成形		スス付着	鉄軸	緻密	明褐灰(7.5YR7/1)	白色粒・黒色粒	良好			
857	A	SK15	陶器	蓋	耳	(15.7)	4.7	(2.4)		轆轤成形		ノケ目・イッチン描きあり	鉄軸	緻密	黒褐(7.5YR3/2)	白色粒	良好			

*法量()は還元差測値、〈 〉は観存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
858	A	SK15	陶器	蓋			(7.4)	2.1		轆轤成形		上部に龜のつまみ(手捏ね)・鉄絵	白泥	灰白(2.5Y8/2)	細砂粒含む	にぶい黄緑(10YR7/3)	白色粒・黒色粒	良好		
859	A	SK15	陶器	蓋			8.0	3.2	1.5	1.5	轆轤成形	底部回転へう削り・穴あり・貫入あり	長石釉		密	灰黄(2.5Y7/2)	赤色粒・金色塵母	良好		19世紀中葉以降
861	A	SK15	土製品	粟濁	たんごろ形		2.9	3.0	1.2	0.9	轆轤成形	小型半筒形・溝状芯立・芯立部スズ付着	無釉		密	灰白(2.5Y8/2)	赤色粒・金色塵母	良好		
862	A	SK15	土製品	土鈴			2.0	2.0	2.0		手捏ね成形	内部に3mm土玉あり	無釉		密	灰白(10YR8/2)		良好		
863	A	SK15	土製品	土鈴			2.5	2.0	1.9		手捏ね成形	内部に6mm土玉あり	無釉		密	灰白(10YR8/2)		良好		
864	A	SK15	土製品	土鈴			2.0	1.9	1.8		手捏ね成形	内部に土玉あり	無釉		密	淡黄緑(10YR8/3)		良好		
865	A	SK15	土製品	土鈴			2.0	2.0	(1.8)		手捏ね成形		無釉		密	灰白(2.5Y8/2)		良好		
866	A	SK15	土製品	樽指			6.7	2.5	3.5		手捏ね成形		無釉		密	淡黄(2.5Y8/3)		良好		
867	A	SK15	土製品	羽口			7.2	8.2	(3.7)		粘土紐巻き上げ	谷解している	無釉		粗砂粒含む	暗灰(N3/)	白色粒	やや不良		
898	A	SK16	磁器	蓋			(10.0)	2.8	4.3		轆轤成形	原料混	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好		18世紀中葉～後葉
899	A	SK16	土器	七厘	柳顔形		27.4	(23.0)	18.7		轆轤成形	風口径(縦5.7・横9.1)	無釉		細砂粒含む	糖(5YR6/6)	白色粒・黒色粒・金色塵母	良好		
900	A	SK16	土製品	火鉢	円筒形		(14.5)	18.0	19.1		轆轤成形	スズ付着・繰り抜き3ヶ所	無釉		細砂粒含む	糖(5YR7/8)	赤色粒・白色粒・塵母	良好		
901	A	SK18	陶器	小皿	丸形		(11.6)	5.5	2.5		轆轤成形	太白手・陶胎染付	透明釉		密	灰白(5Y8/1)		良好		18世紀第4四半期～19世紀第1四半期
902	A	SK19	磁器	小碗	端反形		(8.4)	—	(3.8)		轆轤成形	厚く釉がかかる・三田青磁	青磁釉		緻密	白		良好		
903	A	SK19	磁器	小碗	半球形		(8.8)	3.4	5.3		轆轤成形		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好		18世紀中葉～19世紀前葉
904	A	SK19	磁器	小碗	半球形		(7.8)	(3.2)	5.4		轆轤成形	太白焼	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好		18世紀中葉～19世紀前葉
905	A	SK19	磁器	小碗	半球形		(8.2)	(3.2)	5.3		轆轤成形		灰釉	明青灰(10GB7/1)	密	灰白	黒色粒	良好		
906	A	SK19	磁器	小碗	半筒形		(7.0)	1.7	(5.4)		轆轤成形	量付者無釉	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好		18世紀中葉～19世紀初葉
907	A	SK19	磁器	碗	半筒形		7.2	3.8	5.3		轆轤成形	高台部歪みあり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好		18世紀中葉～19世紀初葉
908	A	SK19	磁器	中碗	丸形		(9.7)	(4.0)	4.8		轆轤成形		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好		18世紀後葉～19世紀中葉
909	A	SK19	磁器	大碗	広東形		12.0	6.2	6.5		轆轤成形	外面鉄あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好		
910	A	SK19	磁器	小皿	丸形		11.0	6.6	3.1		轆轤成形	輪花	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好		18世紀～19世紀初葉
911	A	SK19	磁器	中皿			—	8.3	(1.5)		轆轤成形	蛇の目凹形高台	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好		18世紀中葉～19世紀中葉
912	A	SK19	磁器	中皿	丸形		(18.4)	(10.8)	3.0		轆轤成形	高台部に砂付着・底面に目筋か?・断面に漆線の痕跡あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好		17世紀末～19世紀中葉
913	A	SK19	磁器	段重	腰部括弧あり		(14.4)	10.2	4.7		轆轤成形	漆継ぎ	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好		18世紀後葉～19世紀中葉
914	A	SK19	磁器	蓋			9.3	8.4	2.8	(1.2)	轆轤成形		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好		
915	A	SK19	磁器	蓋			(6.7)	(6.6)	1.4		轆轤成形		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好		
916	A	SK19	磁器	蓋			(10.3)	3.2	(3.8)		轆轤成形		透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好		19世紀中葉
917	A	SK19	陶器	小碗	端反形		(9.1)	(3.6)	5.0		轆轤成形	京焼の写し・貫入あり・量付者無釉・下絵付(白泥の上)に鉄絵	灰釉	淡黄(2.5Y8/3)	密	灰黄(2.5Y7/2)		良好		瀬戸美濃系
918	A	SK19	陶器	灯明皿	無高台平形		10.2	5.5	2.1		轆轤成形	底部回転へう削り・見込み部目筋(円華ピン)3ヶ所・釉の紫色あり	灰釉	灰白(5Y8/2)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	長石	良好		瀬戸美濃系
919	A	SK19	陶器	灯明皿	無高台平形		(11.0)	(3.8)	2.4		轆轤成形	底部回転へう削り・口縁内部に菊花文貼付け・外面スズ付着	灰釉	灰白(5Y7/2)	緻密	灰白(5Y7/1)		良好		京・信楽系
920	A	SK19	陶器	灯明受皿	半球形		11.4	(5.1)	2.5	7.2	轆轤成形	貫入あり・見込み部に穴	灰釉	灰白(5Y7/1)	密	灰白(5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好		瀬戸美濃系か
921	A	SK19	陶器	灯明受皿	小皿		10.0	4.5	2.1	7.0	轆轤成形	外面に目筋・環状痕	灰釉	灰白(10Y7/1)	密	灰白(N8/)		良好		瀬戸美濃系か
922	A	SK19	陶器	小皿	双耳瀬戸焼型		(5.6)	(4.4)	6.8		轆轤成形	底部回転へう削り・削り出し高台・口縁部釉引き取り	灰釉	灰白(10Y7/1)	細砂粒含む	黄灰(2.5Y6/1)		良好		瀬戸美濃系
923	A	SK19	陶器	土鍋	丸形三足・紐状取		(15.0)	(6.0)	(7.9)		轆轤成形	1ヶ所脚あり・スズ付着	鉄釉	灰白(7.5Y7/1)	緻密	褐(7.5YR4/3)		良好		

*法量()は複元差測値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	軸調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
924	A	SK19	陶器	土鍋	丸形	21.1	—	(9.5)		轆轤成形		表面輪蓋部にピンホール多・スス付着	鉄釉	にぶい赤褐(5YR4/3)	密	にぶい橙(5YR6/3)	良好			
925	A	SK19	陶器	蓋		7.4	4.3	1.4		轆轤成形		底部回転へう削り・目跡・急須蓋	鉄釉	にぶい赤褐(5YR4/4)	密	灰黄(2.5YR7/2)	良好			
926	A	SK19	土器	七厘五徳 朝顔形		28.7	12.0	12.3		轆轤成形		スス付着・在地系の土?	無釉		粗砂粒含む	にぶい橙(5YR6/4)	良好	在地系		
927	A	SK19	土器	焼蓋	浅桶形	(6.2)	4.6	5.8		轆轤成形			無釉		細砂粒含む	浅黄緑(7.5YR8/4)	良好		18世紀後半~明治	
931	A	SK21	磁器	中碗	碗反形	(9.6)	(4.0)	4.6		轆轤成形	染付	焼継ぎあり・焼継印あり	透明釉		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系少	19世紀中葉以降	
932	A	SK21	磁器	五寸皿	丸形	13.6	(8.2)	3.5		轆轤成形	染付	蛇の目形高台	透明釉		相砂粒含む	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀末~19世紀中葉	
933	A	SK21	磁器	中皿	碗花形	(12.8)	(6.8)	4.3		型打成形		輪高台・口縁部に鉄線(緑線)	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉	
934	A	SK21	磁器	中皿	型形	—	(8.6)	(3.3)		型打成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系		
935	A	SK21	磁器	蓋	蓋	(9.0)	(2.7)	(3.8)		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉~後葉	
936	A	SK21	磁器	蓋	蓋	(9.6)	3.8	3.0		轆轤成形	染付	端反高蓋	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉	
937	A	SK21	陶器	皿	皿	—	(8.2)	(3.2)		轆轤成形		輪高台・目跡あり	灰釉	灰白(7.5Y7/2)	密	灰白(2.5Y7/1)	良好	瀬戸美濃系		
938	A	SK21	陶器	仏飯器	台底輪高台	—	3.9	(4.1)		轆轤成形			透明釉・ 灰釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系		
939	A	SK21	陶器	灯明皿	無高台平形	(7.2)	(3.3)	1.4		轆轤成形		底部回転へう削り・貫入あり・外面ターム・スス付着	灰釉	灰白(5Y7/2)	密	灰白(5YR/1)	良好	京・信楽系		
940	A	SK21	陶器	灯明受皿	油溝半月状	(11.0)	(2.3)	2.0		轆轤成形		底部回転へう削り・貫入あり・スス付着	灰釉	灰白(5Y8/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)	良好	京・信楽系		
941	A	SK21	陶器	灯明受皿	油溝切立状	(9.9)	4.2	2.2	6.6	轆轤成形		外面~底面に目跡(環状痕)あり・底部輪掛き取りあり	鉄釉	暗赤褐(5YR3/6)	細砂粒含む	にぶい黄橙(10YR7/3)	良好	瀬戸美濃系		
942	A	SK21	陶器	灯明受皿	油溝切立状	10.2	4.6	1.8	7.6	轆轤成形		外面輪状痕あり	鉄釉	褐(7.5YR4/3)	密	灰白(N8/1)	良好	瀬戸美濃系		
943	A	SK21	陶器	乗漣	椀形	4.1	4.0	(3.1)	(7.6)	轆轤成形		底部回転へう削り・貫入あり	鉄釉	黄緑(2.5Y5/6)	密	灰白(2.5Y8/1)	良好	瀬戸美濃系		
944	A	SK21	陶器	壺か	壺か	—	(13.0)	(4.7)		轆轤成形		底部線あり	灰釉	灰白(5Y8/2)	密	灰白	良好	瀬戸美濃系		
945	A	SK21	土器	焙烙		(32.0)	(30.4)	5.0		轆轤成形		底平坦	無釉		相砂粒含む	灰石・金色 雲母	良好	在地系		
946	A	SK23	磁器	小碗	碗反形	(9.1)	(3.5)	4.5		轆轤成形	染付(釘形リ)		透明釉		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
947	A	SK23	磁器	小碗	碗反形	8.4	3.9	4.2		轆轤成形	染付	量付手無軸	透明釉		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
948	A	SK23	磁器	小碗	碗反形	(7.2)	(3.0)	3.5		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
949	A	SK23	磁器	小碗	碗形	—	3.2	(5.0)		轆轤成形			瑠璃色		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
950	A	SK23	磁器	中碗	碗反形	(12.2)	5.0	5.8		轆轤成形	染付	量付手無軸	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	19世紀初~中葉	
951	A	SK23	磁器	中碗	碗反形	(10.6)	4.0	(5.7)		轆轤成形	染付	量付手無軸・見込み部に(青)あり	透明釉		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉以降	
952	A	SK23	磁器	薄手酒杯	丸形	(6.0)	2.5	3.0		轆轤成形	染付・上絵付		透明釉		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
953	A	SK23	磁器	薄手酒杯	丸形	(5.9)	(2.6)	(2.8)		轆轤成形	染付・上絵付		透明釉		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
954	A	SK23	磁器	五寸皿	丸形	(13.6)	7.3	3.6		轆轤成形	染付	蛇の目形高台・外面染付・内面上絵付	透明釉		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
955	A	SK23	磁器	五寸皿	丸形	(13.6)	(7.2)	3.2		轆轤成形	染付	蛇の目形高台・底線ぎ直し	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~末	
956	A	SK23	磁器	灯明皿	無高台平形	9.5	3.0	1.9		轆轤成形	染付		白磁釉		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
957	A	SK23	磁器	燈掛蓋	圓形	—	(4.6)	(5.3)		轆轤成形	染付		白磁釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	19世紀初~中葉	
958	A	SK23	磁器	蓋物	蓋物	7.0	6.0	2.5	(2.9)	轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白色粒	良好	肥前系		
959	A	SK23	陶器	中碗	広葉形	(11.4)	(5.7)	6.5		轆轤成形	染付	貫入あり・胸胎染付	透明釉		密	灰白(5YR/1)	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
960	A	SK23	陶器	灯明皿	平形	(9.4)	(3.6)	1.8		轆轤成形		目跡(環状痕)・鉄軸一部抜き取りあり	鉄釉	明赤褐(5YR5/6)	密	灰白(10YR8/2)	良好	瀬戸美濃系		
961	A	SK23	陶器	灯明受皿	油溝切立状	(9.2)	(4.1)	2.0	(6.6)	轆轤成形		目跡あり	鉄釉	暗赤褐(5YR3/4)	細砂粒含む	赤色粒・白 色粒・黒色 粒・金色雲 母	良好	瀬戸美濃系		
962	A	SK23	陶器	中瓶	ハコカン形	3.0	—	(18.5)		轆轤成形		目跡あり	鉄釉	にぶい赤褐(2.5YR4/4)	緻密	灰白(2.5Y7/1)	良好	瀬戸美濃系		
963	A	SK23	陶器	大瓶	輪首逆筒形	—	—	(19.6)		轆轤成形		胴部球状	白磁釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系		
964	A	SK23	陶器	蓋	蓋	(8.8)	(6.8)	4.0	1.8	轆轤成形	下絵付	土瓶蓋・白泥後絵付	灰釉	灰黄(2.5Y6/1)	密	にぶい赤褐(2.5YR4/4)	良好			

*法量()は還元率測値、()は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
965	A	SK23	土器	兼源	丸んご形	2.6	2.3	1.8	0.8	轆轤成形	小室半筒形・溝状立立・スス付着	無釉	細砂粒含む	にぶい橙 (7.5YR7/4)	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	良好	在地系			
972	A	SK24	陶器	小碗	端反形	(9.0)	—	(3.7)		轆轤成形	貫入あり	灰釉	灰白 (7.5YR7/2)	良好	京阿蘇系		19世紀			
973	A	SK24	陶器	小碗	丸形	8.0	(3.6)	(4.0)		轆轤成形	半磁片層・置付き無釉・漆継	透明釉	灰	良好	肥前系		18世紀			
974	A	SK24	磁器	中碗	広東形	(11.1)	—	(5.6)		轆轤成形		透明釉	白	良好	肥前系		18世紀後半～19世紀中葉			
975	A	SK24	磁器	薄手酒杯	端反形	(5.6)	(2.5)	2.8		轆轤成形	蛇の目形高台	透明釉	白	良好	肥前系		18世紀前半～19世紀中葉			
976	A	SK24	磁器	五寸皿	丸形	—	8.2	(2.0)		轆轤成形		透明釉	白	良好	肥前系		18世紀前半～19世紀中葉			
977	A	SK24	磁器	小瓶	端反辣垂形	(1.6)	—	(6.8)		轆轤成形	底部回転へう削り・貫入あり・内面に目録・見込にクシ目口縁スス付着	透明釉	灰白 (N8/)	良好	瀬戸美濃系		18世紀後半～19世紀初葉			
978	A	SK24	陶器	灯明皿	無高台平形	(11.0)	(5.0)	2.3		轆轤成形		透明釉	灰白 (2.5Y8/2)	良好	京・信楽系		18世紀後半～19世紀初葉			
981	A	SK25	磁器	小杯	丸形	—	(3.3)	(2.4)		轆轤成形		透明釉	白	良好	瀬戸美濃系		19世紀前半～後半			
982	A	SK25	磁器	小碗	筒丸形	(7.2)	3.8	5.8		轆轤成形		透明釉	灰白	良好	瀬戸美濃系		19世紀前半～後半			
983	A	SK25	磁器	中碗	平形	(11.0)	(4.0)	5.8		轆轤成形	西洋ニス	透明釉	白	良好	瀬戸美濃系		明治			
984	A	SK25	磁器	鉢	八角形	(19.7)	8.5	(12.7)		型打成形	脚部穿孔あり	灰釉	白	良好	瀬戸美濃系		近代			
985	A	SK25	陶器	灯明受皿	油清切立状	(9.4)	4.6	(1.6)		轆轤成形	外面漆状塗・鉄軸抜き取り	鉄釉	灰白 (2.5Y8/2)	良好	瀬戸美濃系		近代			
986	A	SK25	石器	指鉢		—	(14.0)	(3.5)		轆轤成形	見込楕圓三角状	鉄釉	灰石・白色粒	良好	肥前・明石系		18世紀後半～19世紀初葉			
987	A	SK26	磁器	小碗	半筒形	(7.1)	3.7	(5.3)		轆轤成形	置付き無釉	透明釉	白	良好	肥前系		18世紀後半～19世紀初葉			
988	A	SK26	磁器	中碗	広東形	(11.2)	(5.8)	6.1		轆轤成形	見込み目録2ヶ所あり・焼継痕あり・焼継痕記号あり	透明釉	白	良好	肥前系		18世紀後半～19世紀初葉			
989	A	SK26	磁器	中碗	広東形	(11.0)	(6.0)	(6.1)		轆轤成形	置付き無釉	透明釉	白	良好	瀬戸美濃系		19世紀前半～中葉			
990	A	SK26	磁器	中碗	端反形	(9.0)	3.2	5.0		轆轤成形		透明釉	白	良好	瀬戸美濃系		19世紀中葉			
991	A	SK26	磁器	中碗	広東形	—	6.2	(4.5)		轆轤成形	見込みに目録あり・体部に焼継痕あり・高台内に焼継痕記号あり	透明釉	白	良好	肥前系		18世紀末～19世紀初葉			
992	A	SK26	磁器	猪口	桶形	(7.2)	4.6	6.1		轆轤成形		透明釉	白	良好	肥前系		18世紀末～19世紀初葉			
993	A	SK26	磁器	蓋物	腰皿形	(9.6)	(5.0)	5.0		轆轤成形	内面口縁から下6mm無釉	透明釉	灰白 (7.5Y8/1)	良好	肥前系		18世紀後半～19世紀初葉			
994	A	SK26	磁器	蓋物	腰皿形	(5.0)	(2.8)	2.5		轆轤成形		透明釉	灰白	良好	肥前系		18世紀後半～19世紀初葉			
995	A	SK26	磁器	台子	口縁蓋受け	—	5.0	(2.0)	5.4	轆轤成形	底部回転へう削り・蓋受け部に紅付着	白磁釉	灰白	良好	肥前系		18世紀後半以降			
996	A	SK26	陶器	小碗	折灣形分	(8.8)	—	(4.1)		轆轤成形		透明釉	灰白 (N 8/1)	良好	肥前系		18世紀後半以降			
997	A	SK26	陶器	中碗	端反形	9.5	3.6	5.3		轆轤成形	京焼皿・灰釉後薄釉掛け	灰釉・青釉	灰白 (7.5Y7/1)	良好	瀬戸美濃系		19世紀前半葉			
998	A	SK26	陶器	五寸皿	丸形	(13.4)	(7.9)	3.4		轆轤成形	蛇の目形高台・木白手	透明釉	黄灰 (2.5Y8/1)	良好	瀬戸美濃系		19世紀前半葉			
999	A	SK26	陶器	灯明皿	平形	10.0	3.8	2.0		轆轤成形	底部回転へう削り・目録 (環状痕) あり	鉄釉	灰白 (2.5Y8/2)	良好	瀬戸美濃系		19世紀前半葉			
1000	A	SK26	陶器	指鉢	口縁外帯三段	(35.0)	—	(10.0)		轆轤成形		鉄釉	灰 (N6)	良好	肥前・明石系		19世紀			
1001	A	SK26	陶器	指鉢		—	(14.8)	9.1		轆轤成形	断面に漆継痕あり	鉄釉	赤 (10R5/8)	良好	肥前系		18世紀第3四半期			
1002	A	SK26	陶器	植木鉢	鸚鵡繡型	(26.3)	—	(8.1)		轆轤成形	外面に鉄線あり	鉄釉・白泥?	灰白 (2.5Y8/1)	良好						
1003	A	SK26	陶器	中囊	卵丸形分	—	18.4	(7.8)		轆轤成形	目録あり	鉄釉	灰白 (2.5Y8/1)	良好	瀬戸美濃系		近代			
1005	A	SK29	磁器	小杯	端反形	(6.4)	(3.0)	4.3		轆轤成形	体部回転へう削り・西洋ノリト・鉄あり	透明釉	灰白	良好	瀬戸美濃系		19世紀第3四半期～第4四半期			
1006	A	SK29	磁器	小碗	筒丸形	(7.4)	3.7	(5.8)		轆轤成形	貫入あり・置付き無釉	透明釉	白	良好	肥前系		19世紀中葉			
1007	A	SK29	磁器	中碗	端反形	(10.4)	4.3	(5.7)		轆轤成形	焼継印あり・置付き無釉	透明釉	白	良好	肥前系		19世紀中葉			
1008	A	SK29	磁器	中碗	端反形	(10.6)	(4.0)	5.8		轆轤成形		透明釉	白	良好	瀬戸美濃系		19世紀第4四半期			
1009	A	SK29	磁器	薄手酒杯	平形	(6.6)	(2.2)	2.7		轆轤成形	脚高台・見込みに金文字で銘あり	透明釉	白	良好	瀬戸美濃系 (尾張製)		18世紀後半～19世紀中葉			
1010	A	SK29	磁器	小皿	平形	13.4	6.5	3.4		轆轤成形		透明釉	白	良好	肥前系		18世紀後半～19世紀中葉			
1011	A	SK29	磁器	中皿	花形	15.4	8.3	4.5		型打成形	輪高台・口縁に鉄線あり	透明釉	灰白	良好	肥前系		18世紀後半～19世紀中葉			

*法量()は復元法測値、()は現存値である。

報告書番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1012	A	SK29	磁器	蓋		7.2	5.6	2.6	0.9	轆轤成形	内面無釉		緑釉		緻密	灰白(7.5Y7/1)		良好		19世紀第2-4半期
1013	A	SK29	磁器	蓋		(8.5)	(3.0)	(3.0)		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀第2-4半期
1014	A	SK29	磁器	蓋		(9.8)	(2.8)	5.4		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系か	18世紀後半～19世紀中葉
1015	A	SK29	陶器	灯明皿	無高台平形	9.7	4.0	2.0		轆轤成形		底部回転糸切り・口縁一部スチス付着・目跡あり	鉄釉	縹(7.5YR4/4)	密	にぶい黄緑(10YR7/2)		良好	瀬戸美濃系	18世紀第4-4半期～19世紀第1-4半期
1016	A	SK29	陶器	五寸皿	丸形	(14.0)	(8.8)	3.9		轆轤成形	染付	蛇の目形高台・太白手	透明釉		密	褐灰(5YR6/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1017	A	SK29	陶器	灯明皿	無高台平形	10.2	5.1	2.6		轆轤成形		底部回転へう割り・貫入あり・見込底部に環状痕あり・歪みあり	灰釉	灰白(5Y7/1)	密	灰黄(2.5Y7/3)		良好	瀬戸美濃系	
1018	A	SK29	陶器	灯明受皿	油清半月状	(9.6)	4.1	2.1		轆轤成形			透明釉		密	灰白(5Y7/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1019	A	SK29	陶器	片口	口縁切込平形	11.0	4.8	4.5	11.5	轆轤成形			灰釉	浅黄(5Y7/4)	密	灰黄(2.5Y7/2)	赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1020	A	SK29	陶器	土瓶	変形(キンチャク形)	6.2	(6.8)	11.4		轆轤成形			灰釉	オリーブ灰(10Y6/2)	緻密	灰黄(2.5Y6/2)		良好		幕末
1021	A	SK29	陶器	蓋		9.4	7.5	3.9	2.0	轆轤成形	下絵付	山形土瓶の蓋か・白泥後に絵付その後透明釉を掛ける	透明釉	灰白(5Y8/2)	密	にぶい黄緑(10YR7/3)	白色粒・黒色粒	良好		19世紀第2-4半期末頃
1022	A	SK29	土製品	碁石		2.0	2.0	0.6		手捏ね成形			無釉		細砂粒含む	にぶい黄緑(5YR7/4)	黒色粒・黄母	良好		
1025	A	SK37	磁器	中碗	碗反形	(10.4)	4.0	(5.9)		轆轤成形	染付	貫入あり・置付き無釉	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好		19世紀第4-4半期
1026	A	SK37	磁器	小鉢	旬字形・八角	(12.6)	6.6	(4.9)		型打成形	染付	高台部砂付着	青磁釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後半～19世紀中葉
1027	A	SK38	磁器	小杯	卵形	5.9	2.9	2.8		轆轤成形	上絵付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
1028	A	SK38	磁器	小碗	長丸形	(6.8)	2.8	4.8		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉
1029	A	SK38	磁器	小碗	碗反形	(6.8)	(3.2)	4.4		轆轤成形	染付	底面に銚あり	透明釉		密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉以降
1030	A	SK38	磁器	小碗	丸形	(7.0)	(3.5)	6.8		轆轤成形	染付	焼線を施あり・焼線印あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉
1031	A	SK38	磁器	小碗	碗反形	(8.0)	3.4	3.7		轆轤成形	染付	縁線あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀後半
1032	A	SK38	磁器	中碗	丸形	(12.0)	(4.6)	6.1		轆轤成形	染付	全体にスチス付着・微熱している	透明釉		緻密	白		良好	肥前系	18世紀後半～19世紀中葉
1033	A	SK38	磁器	中碗	碗反形	10.6	3.8	5.6		轆轤成形	染付	貫入あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉
1034	A	SK38	磁器	中碗	碗反形	(11.0)	(4.2)	5.8		轆轤成形	染付	置付き無釉	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉以降
1035	A	SK38	磁器	紅瓶口	倒唐草形	6.4	2.4	1.9		型押成形			青磁釉		緻密	白		良好		
1036	A	SK38	磁器	薄手酒杯	丸形	(6.0)	(2.3)	2.5		轆轤成形	染付・上絵文字		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
1037	A	SK38	磁器	薄手酒杯	丸形	(4.7)	(2.3)	(3.3)		轆轤成形	染付	高台・「唐草製」・置付き無釉	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
1038	A	SK38	磁器	仏飯器	台座鉢り込み	5.4	3.4	6.1		轆轤成形			透明釉		密	灰白(2.5Y8/1)		良好	瀬戸美濃系	19世紀
1039	A	SK38	磁器	灯明受皿	油清半月状	(12.0)	4.0	(1.9)		轆轤成形		底部回転へう割り	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
1040	A	SK38	磁器	小鉢	旬字形	(13.0)	6.7	6.6		轆轤成形	染付	蛇の目形高台・三田青磁・縁線あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀前半以降
1041	A	SK38	磁器	蓋		(10.0)	(2.9)	(3.9)		轆轤成形	染付	西洋コノハルト	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀後半以降
1042	A	SK38	磁器	蓋		(9.0)	2.0	3.3		轆轤成形	染付	西洋コノハルト	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀後半以降
1043	A	SK38	陶器	灯明皿	無高台平形	9.7	3.0	2.4		轆轤成形		口縁部スチス付着	灰釉	灰(5Y6/1)	密	灰白(2.5Y7/1)	長石・赤色粒・黒色粒	良好		
1044	A	SK38	陶器	灯明皿	無高台平形	(9.6)	(3.8)	(1.7)		轆轤成形		底部回転へう割り・体部に目跡・環状痕あり・見込みに酸化物付着	鉄釉	にぶい赤褐(5YR4/4)	密	灰白(10Y8/1)		良好	瀬戸美濃系	
1045	A	SK38	陶器	灯明皿	無高台平形	(7.8)	3.1	1.9		轆轤成形		口縁部スチス付着	灰釉	淡黄(2.5Y8/3)	密	灰白(2.5Y6/2)	黒色粒	良好	借来系か	
1046	A	SK38	陶器	灯明受皿	油清半月状	10.0	4.0	2.2	6.5	轆轤成形		貫入あり	灰釉	灰白(5Y8/2)	密	灰(5Y6/1)		良好	瀬戸美濃系	
1047	A	SK38	陶器	灯明受皿	油清切立状	8.8	4.1	2.5		轆轤成形		底部回転へう割り	灰釉	灰白(10Y7/1)	密	灰(5Y6/1)		良好	瀬戸美濃系	
1048	A	SK38	陶器	灯明受皿	油清切立状	7.0	2.9	1.7	4.4	轆轤成形		底部回転糸切り・目跡・環状痕あり・受け高低い	鉄釉	細暗赤褐(5YR2/3)	密	灰黄(2.5Y7/2)	にぶい黄緑(10YR7/2)	良好	瀬戸美濃系	
1049	A	SK38	陶器	灯明受皿	立鼓形	—	5.4	(4.9)	4.7	轆轤成形			灰釉	浅黄(2.5Y7/3)	密	灰白(10YR7/2)		良好	借来系	
1050	A	SK38	陶器	灯明受皿	立鼓形	—	4.6	(4.2)	3.3	轆轤成形			灰釉	にぶい黄緑(10YR7/2)	密	にぶい黄緑(10YR7/3)	赤色粒	良好	借来系	
1051	A	SK38	陶器	柳太鉢	柳太鉢型	(15.8)	(10.1)	12.4		轆轤成形		表面・釉か後削り紋様・下部は磨耗	透明釉		砂粒含む	にぶい黄緑(5YR6/4)	長石・白色粒・黒色粒・金色塵母	良好	在地系	
1052	A	SK38	陶器	中皿	卵丸形	—	21.9	6.3		轆轤成形		輪高台・見込み部スチ目跡あり	鉄釉	縹(7.5YR4/6)	緻密	灰白(7.5Y8/1)	長石・石英	良好	瀬戸美濃系	
1053	A	SK38	陶器	中皿	卵形	(3.2)	6.8	20.5		轆轤成形		口縁外帯	鉄釉	オリーブ黒(5Y2/2)	密	黒	白色粒	良好	瀬戸美濃系	

*法量()は還元差測値、〈 〉は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1054	A	SK38	陶器	蓋		10.0	7.2	〈2.6〉		轆轤成形	中央部に貫入あり、白泥後鉄絵に緑釉落し	白泥・緑釉	灰白(5Y8/1)	緻密	灰白(10YR7/1)黒色粒	良好		19世紀第2四半期		
1055	A	SK38	陶器	蓋		8.0	6.0	3.4	1.8	轆轤成形	染付・下絵付	山蘆、丸蔴み、白泥後下絵付	白泥	密	灰黄(2.5Y7/2)黒色粒	良好		18世紀第3四半期～19世紀第2四半期		
1056	A	SK38	陶器	蓋		7.5	5.7	3.0	1.2	轆轤成形		白泥・緑釉	灰白(5Y8/1)	緻密	灰白(10YR8/2)黒色粒	良好				
1057	A	SK38	陶器	蓋		9.4	(7.5)	2.0		轆轤成形	表面に火傷、全体に無釉、「秋田」文字あり	無釉	赤褐(5YR4/6)	密	灰白(5Y7/1)粒	良好		近代		
1058	A	SK38	陶器	便器	小便器	74.0	30.2	22.4		絞造り成形	刻印「門三」拓	鉄釉	赤褐(5YR4/6)	密	暗赤褐(2.5YR5/6)	良好				
1061	A	SK38	土器	羽口		〈17.4〉	6.7	6.6		粘土巻き上げ	容積物付着・指頭痕あり	無釉		密	白色粒・黒色粒・金色	良好				
1062	A	SK38	土製品	碁石		2.0	2.0	0.5		手握ね成形	両面に指紋付着	無釉		密	赤色粒・白色粒・白色	良好				
1067	A	SK39	磁器	小杯	筒丸形	(5.1)	〈3.0〉	〈4.3〉		轆轤成形		鉄釉	暗褐(10YR3/3)	緻密	白	良好	瀬戸美濃系			
1068	A	SK39	磁器	小碗	丸形	(9.0)	(4.0)	5.9		轆轤成形	くらわんか手・高台内に銘あり・砂付着	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末		
1069	A	SK39	磁器	仏飯器	台座輪高台	(6.7)	4.0	6.4		轆轤成形	染付	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末		
1070	A	SK39	磁器	仏飯器	台座輪高台	—	3.9	〈4.0〉		轆轤成形	半磁半陶	透明釉	灰白(2.5Y7/1)	密	黒色粒	良好	肥前			
1071	A	SK39	磁器	小瓶	楕圓形	1.5	—	(11.8)		轆轤成形	染付	透明釉	灰白	緻密	黒色粒	良好	肥前系か			
1072	A	SK40	磁器	中碗	丸形	7.6	3.7	6.3		轆轤成形	染付	透明釉	灰白	緻密	黒色粒	良好	肥前系か	19世紀後葉		
1073	A	SK40	磁器	中碗	丸形	(9.8)	(4.0)	〈5.0〉		轆轤成形	くらわんか手・墨付き無釉	透明釉	灰	緻密	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末		
1074	A	SK40	磁器	紅菊口	柳唐草形	(7.3)	2.7	1.6		形押し成形	形押し文様	白磁釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥前系			
1075	A	SK40	磁器	薄手酒杯	端反形	(6.8)	2.7	3.1		轆轤成形	上絵付	卵殻手	透明釉	緻密	黒色粒	良好	平戸系(三川内)	18世紀後葉～19世紀中葉		
1076	A	SK40	磁器	猪口	桶形	7.2	5.0	5.5		轆轤成形	染付	腰縮高台・焼き継ぎ痕あり・底部銘あり・墨付き無釉	透明釉	緻密	白	良好	肥前系			
1077	A	SK40	磁器	蓋物	腰瓶形	(9.2)	5.0	4.6		轆轤成形	染付	購入あり	透明釉	緻密	白	良好	肥前系			
1078	A	SK40	磁器	燗樽	燗樽形	2.6	6.0	1.73		轆轤成形	底部銘書あり		透明釉	緻密	黒色粒	良好	肥前系	19世紀初葉～中葉		
1079	A	SK40	磁器	燗樽	燗樽形	—	5.5	14.8		轆轤成形	内面文字「年記」、高台内銘あり		瑠璃釉	緻密	黒色粒	良好	肥前系			
1080	A	SK40	磁器	蓋	蓋	(9.2)	2.6	3.6		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	黒色粒	良好	肥前系			
1081	A	SK40	磁器	蓋	蓋	(9.0)	3.0	(3.6)		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系か			
1082	A	SK40	陶器	灯明皿	無高台平形	9.7	4.0	2.1		轆轤成形		底部白転へう削り、見込み及び外面環状痕・口縁部スズ付着	鉄釉	密	灰白(5Y7/1)	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉		
1083	A	SK40	陶器	灯明受皿	油溝半月状	9.4	4.2	1.7	5.3	轆轤成形		口縁部スズ付着・目跡あり・受部高が低い	鉄釉	密	灰白(10YR8/2)	良好	瀬戸美濃系			
1084	A	SK40	陶器	蓋		8.6	6.4	(2.2)		轆轤成形	鉄絵	内面スズ付着・蓋子焼	灰白・緑釉	密	灰白(5Y8/2)	良好	益子系	19世紀後葉		
1085	A	SK40	瓦質土器	箱庭道具	山形	8.8	9.6	7.9		轆轤成形		指頭痕あり	無釉	密	灰黄(2.5Y7/2)粒	良好				
1086	A	SK43	磁器	小碗	筒丸形	6.8	3.5	5.8		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	白	良好	瀬戸美濃系か	19世紀中葉		
1087	A	SK43	磁器	小碗	筒丸形	(7.2)	(3.4)	5.0		轆轤成形	染付	焼継・高台内銘あり・貫入あり	透明釉	緻密	黒色粒	良好	肥前系			
1088	A	SK43	磁器	小碗	端反形	(8.4)	(3.7)	〈4.0〉		轆轤成形	染付	端反りが強い	透明釉	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉		
1089	A	SK43	磁器	小碗	端反形	8.2	2.9	4.3		轆轤成形	染付・木型打込み(白刷)	口縁部緑絵あり	透明釉	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉		
1090	A	SK43	磁器	小碗	丸形	(8.0)	(3.2)	5.5		轆轤成形	染付	見込み内銘あり	透明釉	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系か	19世紀中葉		
1091	A	SK43	磁器	中碗	丸形	10.4	4.3	5.7		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉		
1092	A	SK43	磁器	中碗	端反形	(11.4)	4.2	6.5		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	灰白	良好	肥前系	18世紀後葉～19世紀中葉		
1093	A	SK43	磁器	中碗	端反形	11.2	4.6	6.0		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	白	良好	肥前系	19世紀中葉		
1094	A	SK43	磁器	薄手酒杯	平形	6.2	2.2	2.3		轆轤成形	染付	鉤高台「尾張製」高台内染付の上に上絵付・口縁に緑絵	透明釉	緻密	白	良好	瀬戸美濃系	19世紀		
1095	A	SK43	磁器	薄手酒杯	丸形	6.4	2.5	2.9		轆轤成形	染付	内面・体部・高台部に銘あり	透明釉	緻密	白	良好	瀬戸美濃系	19世紀		
1096	A	SK43	磁器	蓋物	丸形	(7.9)	(4.6)	5.2		轆轤成形	染付	鉤高台「尾張製」	透明釉	緻密	白	良好	肥前系	19世紀		
1097	A	SK43	磁器	大瓶	甕形	—	8.1	(19.9)	(16.7)	轆轤成形	染付		透明釉	緻密	灰白	良好	肥前系			
1098	A	SK43	磁器	蓋	甕形	5.2	5.1	1.1		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	灰白	良好	肥前系			
1099	A	SK43	磁器	戸扉	戸扉	7.4	—	1.9		轆轤成形	染付	スズ付着	透明釉	緻密	灰白	良好	肥前系			

*法量()は復元法量値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	軸調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1100	A	SK43	陶器	中碗	丸形	(10.8)	4.0	6.6		轆轤成形	絵付	底面窪みあり	鉄釉	黄褐(2.5Y5/4)	細砂粒含む	灰黄(2.5Y7/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀後葉
1101	A	SK43	陶器	中皿	無高台平形	9.8	3.9	2.2		轆轤成形		底面凹陥へう削り・スス付着・目跡あり	灰釉	灰白(7.5Y7/2)	密	灰白(5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉
1102	A	SK43	陶器	五寸皿	端反形	14.0	6.7	3.9		轆轤成形		外・内面白泥ハゲ目・貫入あり	透明釉		密	灰白(2.5Y8/2)	長石・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1103	A	SK43	陶器	灯明皿	無高台平形	7.1	2.6	1.4		轆轤成形		底面凹陥へう削り・貫入あり・スス付着・目跡あり	灰釉	明緑灰(5GY7/1)	密	灰白(2.5Y8/1)	長石・黒色粒	良好	京・信楽系	
1104	A	SK43	陶器	兼濁	台付たんごろ形	7.6	5.5	7.6		轆轤成形		底面中心に穿孔	無釉		密	極暗褐		良好		
1105	A	SK43	陶器	香炉	半筒形	(11.7)	—	(5.7)		轆轤成形		口縁部に敲打痕 火入・灰吹として用いたか	鉄釉	黒褐(7.5YR3/2)	密	7.5YR2/3	白色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉
1106	A	SK43	陶器	壺	筒形	—	8.5	(8.3)		轆轤成形	沈線	削り出し高台	鉄釉	黒褐(10YR5/8)	密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1107	A	SK43	陶器	土瓶	算盤玉形	6.9	7.5	10.4		轆轤成形		青土風	鉄釉	灰白(5Y7/1)	密	灰白(2.5Y7/1)	黒色粒	良好	大塚相馬系か	19世紀第2四半期
1108	A	SK43	陶器	蓋	蓋	6.3	2.6	1.3		轆轤成形		孔あり	鉄釉	オリーブ黒(7.5Y2/2)	密	灰白(N7/0)	黒色粒	良好		
1109	A	SK43	土器	焙烙	有耳	(30.4)	(27.3)	(6.3)		轆轤成形		底平坦・耳が内側に付く	無釉		細砂粒含む	外黒(2.5Y2/1) 内)灰黄褐(10YR5/2)	白色粒	良好		
1110	A	SK43	ガラス製品	薬瓶か		11.7	7.0	0.3					無釉			赤黒(10YR2/1)		良好		
1111	A	SK43	ガラス製品	薬瓶か		10.2	0.9	0.5					無釉			赤黒(10YR2/1)		良好		
1123	A	SK44	磁器	小杯	長丸形	(6.6)	3.0	(4.3)		轆轤成形	染付	墨付き無釉	透明釉		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
1124	A	SK44	磁器	小杯	広東形	6.9	3.9	5.2		轆轤成形	染付	口縁部やや端反る・焼継ぎ痕あり・高台内に鉄あり	透明釉		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1125	A	SK44	磁器	小碗	端反形	(7.1)	3.0	4.9		轆轤成形	染付	口縁部わずかに端反る	透明釉		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
1126	A	SK44	磁器	小碗	長丸形	(6.2)	(3.7)	(4.6)		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
1127	A	SK44	磁器	小碗	丸形	(8.8)	(4.6)	(3.8)		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1128	A	SK44	磁器	中碗	丸形	10.2	3.8	5.3		轆轤成形	染付	望月観	灰釉	明緑灰(10GY8/1)	緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～後葉	
1129	A	SK44	磁器	紅猪口	菊花形	4.6	1.4	1.2		型打成形		内外面に砂粒付着	白磁釉		細砂粒含む	灰白(10YR8/1)	白色粒・黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉
1130	A	SK44	磁器	小皿	丸形	13.2	7.6	3.5		型打成形	染付	繪花・乾の目凹形高台	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
1131	A	SK44	磁器	小皿	丸形	12.6	7.6	2.2		轆轤成形	染付	口縁部鉄線あり	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系		
1132	A	SK44	磁器	五寸皿	丸形	14.0	7.3	2.8		型打成形	染付	浦島太郎図・縁飾あり	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系		
1133	A	SK44	磁器	蓋	蓋	(9.4)	2.8	(4.0)		轆轤成形	染付	端反部の蓋	透明釉		緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1134	A	SK44	磁器	蓋	蓋	9.2	3.4	2.6		轆轤成形	染付	望月観の蓋・高台内焼継ぎ痕あり	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～後葉	
1135	A	SK44	陶器	灯明皿	無高台平形	(9.3)	3.3	2.2		轆轤成形		底面凹陥へう削り・内面スス付着・見込み・内面環状痕	灰釉	明オリーブ灰(2.5GY7/1)	細砂粒含む	褐灰(10YR6/1)	長石・石英・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1136	A	SK44	陶器	灯明受皿	油清半月状	9.5	3.3	1.9	5.2	轆轤成形		底面凹陥へう削り	灰釉	灰白(10Y7/1)	粗砂粒含む	灰白(2.5Y7/1)	赤色粒・白色粒	良好	京・信楽系	
1137	A	SK44	陶器	合子	口縁無軸	(7.5)	5.4	4.0		轆轤成形			鉄釉	暗オリーブ(5Y4/4)	細砂粒含む	にふい・黄緑(10YR7/3)	赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1138	A	SK44	土製品	羽口		(11.8)	7.9	7.2				スラク付着	無釉		粗砂粒含む	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	良好			
1143	A	SK45	磁器	小碗	筒丸形	(7.2)	(4.0)	(5.8)		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉～後葉	
1144	A	SK45	磁器	中碗	丸形	(10.0)	(4.8)	5.6		轆轤成形	染付・コンニャク印判		透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1145	A	SK45	磁器	玩具	おぼしきか	4.1	3.2	0.8				くらわんか手・高台内に鉄あり	無釉		緻密	白	良好	瀬戸美濃系		
1146	A	SK47	磁器	小碗	丸形	(8.1)	3.3	3.9		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1147	A	SK47	磁器	小碗	筒丸形	(6.8)	(3.4)	6.8		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
1148	A	SK47	磁器	小杯	筒丸形	(6.0)	(2.7)	4.5		轆轤成形	染付	透明釉・茶褐色	透明釉・茶褐色		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
1149	A	SK47	磁器	中碗	広東形	(11.0)	(5.7)	(5.7)		轆轤成形	染付	見込み部に目跡2ヶ所あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後葉～19世紀中葉
1150	A	SK47	磁器	小皿	丸形	(12.0)	7.0	3.4		轆轤成形	染付	疵の目凹形高台・貫入あり	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀前葉～中葉
1151	A	SK47	磁器	小皿	四角形	8.0	4.3	2.2		型打成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1152	A	SK47	磁器	水漕	豆腐形	(7.8)	(2.9)	3.0		型押成形		底面と布目痕あり	白磁釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	
1153	A	SK47	陶器	土瓶	丸形三足	(20.0)	(8.0)	(9.1)		轆轤成形		目跡2ヶ所あり・細砂状耳・底面スス付着・指輪後鉄軸(黒釉)を吹き付ける	鉄釉	にふい・黄緑(10YR7/2)	密	にふい・黄緑(10YR7/2)	長石・黒色粒	良好		

*法量()は還元率、()は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	油薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1155	A	SK49	陶器	灯明受皿	油清了一字状・2ヶ所	11.8	5.0	2.6	7.5	轆轤成形		底部回転へう削り・スス付着・全体に付着物あり	鉄錆油	灰赤(2.5YR4/2)	密	褐灰(10YR4/1)	良好	志戸呂系	17世紀末～18世紀前半	
1156	A	SK60	磁器	小碗	丸形	(8.4)	3.4	4.6		轆轤成形	染付	くらわんか手	透明油	灰白(2.5Y8/2)	密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～後葉	
1157	A	SK60	陶器	小碗	腰瓶形	(9.1)	(4.4)	5.6		轆轤成形	鉄絵	底部回転へう削り・肥前系京焼風陶器	透明油	淡黄(2.5Y8/4)	密	灰白	良好	肥前系	17世紀中葉～18世紀後葉	
1158	A	SK60	陶器	中碗	脚反形	—	4.0	(5.6)		轆轤成形	刷毛目		透明油	明赤褐(5YR3/3)	密	明赤褐	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉	
1159	A	SK60	陶器	灯明皿	無高台平形	9.8	2.0	3.1		轆轤成形		丸底・口縁部スス付着・炭化物付着	鉄錆油	明赤褐(2.5YR3/3)	密	褐(7.5YR4/3)	良好	志戸呂系		
1160	A	SK60	陶器	中壺	双耳瀬戸壺形	(6.8)	—	(7.1)		轆轤成形			鉄油	淡黄(2.5Y8/3)		灰石・白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1161	A	SK60	陶器	灰吹	脚口形	—	5.7	(6.6)		轆轤成形	絵付・白泥後鉄絵	底部回転へう削り	灰油	灰白(5Y8/2)		長石	良好	借系系		
1163	A	SK67	磁器	小碗	脚反形	(7.1)	3.0	3.5		轆轤成形	染付	高台部に砂付着	透明油	透明油	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1164	A	SK67	磁器	碗	半筒形	7.0	3.5	5.6		轆轤成形	染付	見込み部に砂付着	透明油	灰白	密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初葉	
1165	A	SK67	磁器	中碗	半筒形	(9.0)	(3.4)	5.4		轆轤成形	染付	見込み部に紅付着	透明油	灰白	密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前半	
1166	A	SK67	磁器	中碗	脚反形	(9.4)	(3.6)	4.3		轆轤成形	染付	貫入あり	透明油	透明油	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1167	A	SK67	磁器	中碗	脚反形	9.8	3.9	4.9		轆轤成形	染付		透明油	透明油	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1168	A	SK67	磁器	中碗	脚反形	(10.6)	4.2	5.8		轆轤成形	染付	書付き無軸・砂付着	透明油	透明油	密	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉	
1169	A	SK67	磁器	紅瓶口	菊花形	4.5	1.4	(1.3)		型打成形	染付	御高台・(尾張製)	透明油	灰白(5Y8/1)	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
1170	A	SK67	磁器	薄手酒杯	丸形	—	3.0	(2.5)		轆轤成形	染付	御高台・(尾張製)	透明油	灰白	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
1171	A	SK67	磁器	五寸皿	丸形	(13.2)	(8.2)	4.0		轆轤成形	染付・コンマク印刷		透明油	透明油	密	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉	
1172	A	SK67	磁器	猪口	樽形	(7.0)	(5.8)	5.0		轆轤成形	染付	蛇の目凹形高台	透明油	灰白(N8/)	密	黒色粒	良好	肥前系		
1173	A	SK67	磁器	火入	半筒形	(11.1)	(8.2)	(7.2)		轆轤成形	染付		透明油	灰白(N8/)	密	黒色粒	良好	肥前系		
1174	A	SK67	磁器	髮湯蓋	六角形	(2.2)	(6.0)	5.7	9.2	轆轤型押成形	染付		透明油	透明油	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
1175	A	SK67	磁器	仏花瓶	ちっぽけ口形	(8.2)	—	(21.4)		轆轤成形		口縁歪みあり	透明油	灰白(5Y8/1)		白色粒・黒色粒	良好			
1176	A	SK67	磁器	蓋	蓋	9.2	2.6	3.6		轆轤成形	染付		透明油	透明油	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉以降	
1177	A	SK67	陶器	灯明受皿	油清切立状	9.9	4.1	2.3	6.6	轆轤成形		外面目跡あり	鉄油	脚赤褐(5YR3/3)	密	灰(5Y6/1)	良好	瀬戸美濃系		
1178	A	SK67	陶器	灯明受皿	油清半月状	(12.0)	4.6	2.3	(8.0)	轆轤成形			鉄油	灰黄(2.5Y7/2)	密	灰白(10YR7/1)	良好	借系系		
1179	A	SK67	陶器	灯明受皿	立鼓形	—	5.3	(5.9)	4.5	轆轤成形		底部回転へう削り・貫入あり	灰油	灰白(5Y7/2)		白色粒・黒色粒	良好	借系系		
1180	A	SK67	陶器	灯明受皿	立鼓形	—	6.0	(6.6)		轆轤成形		底部回転へう削り・貫入あり	灰油	灰白(5Y7/2)		白色粒・黒色粒	良好	借系系		
1181	A	SK67	陶器	蓋	蓋	9.3	7.1	3.5	1.2	轆轤成形			灰油	明緑灰(7.5G7/1)	密	灰白(10YR7/3)	良好		19世紀第2四半期	
1182	A	SK67	磁器	蓋	蓋	(15.0)	(4.0)	4.0		轆轤成形		口縁部スス付着	灰油	灰白(10YR7/3)	密	灰(5Y6/1)	良好			
1183	A	SK67	土製品	土製織造賃天保一分銀		2.4	1.6	(3.5)		型押成形			無油		密	白色粒・黒色粒・雲母	良好		19世紀中葉	
1185	A	551	磁器	小杯	脚反形	(6.6)	(2.4)	3.1		轆轤成形	染付		透明油	透明油	密	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀第2四半期	
1186	A	551	磁器	小碗	脚反形	(9.2)	3.7	4.3		轆轤成形	染付		透明油	透明油	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀第3四半期	
1187	A	551	磁器	小碗	半球形	(8.2)	(3.6)	5.5		轆轤成形	染付	焼痕あり・焼痕印あり	透明油	透明油	密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前半	
1188	A	551	磁器	小碗	丸形	(7.7)	(3.7)	4.9		轆轤成形	染付	焼痕あり・焼痕印あり	透明油	透明油	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	近代	
1189	A	551	磁器	小碗	丸形	(6.6)	(3.2)	6.4		轆轤成形	色絵付	口縁に鉄線あり	透明油	透明油	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	近代	
1190	A	551	磁器	中碗	丸形	10.0	3.9	4.8		轆轤成形	染付	端反り口縁	透明油	透明油	密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～未	
1191	A	551	磁器	中碗	瓜菓形	—	5.5	6.0		轆轤成形	染付	見込み部に銘あり・高台部に砂付着	透明油	透明油	密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後葉～19世紀中葉	
1192	A	551	磁器	大碗	丸形	(15.0)	(5.8)	6.7		轆轤成形	染付・鉄絵	縁線あり	透明油	透明油	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	近代か	
1193	A	551	磁器	薄手酒杯	平形	(6.3)	(2.3)	(2.6)		轆轤成形	染付	御高台・書付き無軸・高台部銘あり	透明油	透明油	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	近代か	
1194	A	551	磁器	小皿	丸形	13.4	7.3	2.5		轆轤成形	染付	西洋コ/リト	透明油	透明油	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治20年以降	
1195	A	551	磁器	中皿	丸形	—	(11.6)	(2.5)		轆轤成形	染付	蛇の目高台	透明油	透明油	密	黒色粒	良好	肥前系	19世紀後葉	
1196	A	551	磁器	小皿	楕圓形	—	3.2	6.2		轆轤成形	染付・銅版転写	西洋コ/リト・内面無軸	透明油	透明油	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治20年以降	
1197	A	551	磁器	蓋	蓋	3.0	1.7	1.3	0.5	型押成形	染付	西洋コ/リト	透明油	透明油	密	黒色粒	良好	肥前系	近代	
1198	A	551	陶器	小碗	脚反形	(9.0)	(2.6)	5.0		轆轤成形		貫入あり・見込み部に砂付着	灰油	灰白(5Y8/1)	密	白色粒・黒色粒	良好	京都借系系	19世紀	

*法量()は複元差測値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)			成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	軸調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代		
						A	B	C													
1199	A	S51	陶器	灯明皿	無高台平形	(10.6)	(5.2)	2.1	輪轉成形		目跡(環状痕)	灰油	灰白(10YR7/1)	密	密	にぶい黄橙 (10YR7/2)	白色粒・黒 色粒	良好	瀬戸美濃系		
1200	A	S51	陶器	灯明受皿	油溝切立状	(9.6)	4.4	(2.0)	輪轉成形		環状痕・内面スス付着	鉄油	褐(7.5YR4/4)	密	密	褐灰(7.5YR6/1)	褐色粒	良好	瀬戸美濃系		
1201	A	S51	陶器	大瓶	高田徳利形	—	(10.0)	(10.4)	輪轉成形		文字彫り	灰油	灰白(10YR7/1)	密	密	灰白(2.5YR8/1)	白色粒・黒 色粒	良好	瀬戸美濃系		
1202	A	S51	陶器	土瓶	舞盤玉形	(8.0)	—	(10.5)	輪轉成形			緑油	灰白(2.5YR8/1)	密	密	灰白(2.5YR8/1)	白色粒	良好		19世紀	
1203	A	S51	陶器	蓋	蓋	(14.2)	1.7	2.0	輪轉成形		上面にイッチン描き	鉄油	褐灰(10YR4/1)	細砂粒含む	細砂粒含む	褐灰(10YR4/1)	白色粒	良好			
1204	A	S51	土製品	土管		(48.2)	10.4	1.2	粘土紐巻き上げ			無釉		粗砂粒含む	粗砂粒含む	橙(7.5YR6/6)	赤色粒・白 色粒・金色 雲母	良好			
1205	A	S51	土製品	土管		14.5	—	(8.9)	粘土紐巻き上げ		内面スス付着	無釉		粗砂粒含む	粗砂粒含む	にぶい褐 7.5YR5(4)	赤色粒・白 色粒・金色 雲母	良好			
1206	A	S51	土製品	レンガ		(17.0)	(11.2)	(5.9)			(ZAKI.F.B.)文字あり	無釉		粗砂粒含む	粗砂粒含む	浅黄橙 (10YR8/3)	長石	良好		近代	
1207	A	S51	土製品	レンガ		(15.9)	11.0	5.9			(KAZAKI)文字あり	無釉		粗砂粒含む	粗砂粒含む	にぶい褐 7.5YR7(4)	長石・赤色 粒	良好			
1208	A	S51	土製品	レンガ		8.1	10.4	6.0			(AWA)文字あり	無釉		粗砂粒含む	粗砂粒含む	浅黄橙 (10YR8/3)	長石・黒色 粒	良好		近代	
1210	A	S51	ガラス製品	薬瓶	いかり肩	1.0	1.3	4.5			蓋付(縦2.5・幅1.0・厚み0.8)先端欠け・香水瓶か	無釉			気泡含む	透明					
1211	A	S51	ガラス製品	蓋		—	6.9	1.2			(マスター白粉)文字あり	無釉									
1212	A	S57	磁器	薄手酒杯	丸形	(2.7)	(1.6)	(2.8)	輪轉成形	染付	原色顔	透明釉	白	緻密	緻密	黒色粒	良好	肥前系		16世紀	
1213	A	S57	磁器	小皿	折縁系	(12.0)	(6.2)	2.8	輪轉成形	染付	縁赤あり	透明釉	白	緻密	緻密	黒色粒	良好	肥前系			
1214	A	S57	磁器	小皿	丸形	10.2	5.3	2.4	輪轉成形	染付	口縁部スス付着・目跡	透明釉	灰白(7.5Y7/2)	密	密	灰白(10YR8/2)	黒色粒	良好			
1215	A	S57	陶器	灯明皿	無高台平型	(12.0)	(5.6)	(2.0)	輪轉成形		京焼・薬物蓋	灰油	灰白(7.5Y7/2)	密	密	灰白(5Y7/2)	良好	肥前系			
1216	A	S57	陶器	蓋		(13.6)	(12.2)	(1.9)	輪轉成形	下絵付		無釉		密	密	にぶい橙 7.5YR7(4)	良好				
1217	A	S57	土製品	土鈴	手捏ね成形	(2.6)	(2.2)	(1.0)				無釉		密	密	黒色粒	良好				
1219	A	S510	磁器	小杯	半筒形	(5.2)	2.7	3.1	輪轉成形	染付・上絵付	貫入あり・曇付き無釉	透明釉		緻密	緻密	黒色粒	良好			19世紀第3四半期~第4 四半期	
1220	A	S510	磁器	小碗	端反形	(9.0)	(3.2)	(4.7)	輪轉成形	染付		透明釉		緻密	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系			
1221	A	S510	磁器	中碗	平形	(11.6)	(4.4)	(5.3)	輪轉成形	染付	曇付き無釉	透明釉		緻密	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系			
1222	A	S510	磁器	薄手酒杯	丸形	(5.7)	(2.4)	(3.7)	輪轉成形		駒高台・「尾張製」・タタミ付無釉	透明釉		緻密	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系			
1223	A	S510	磁器	戸車		3.6	3.6	0.9	輪轉成形			透明釉		緻密	緻密	黒色粒	良好				
1224	A	S511	磁器	小碗	端反形	(8.8)	3.6	5.0	輪轉成形	染付	貫入あり・高台部一部無釉	透明釉		緻密	緻密	黒色粒	良好	肥前系			
1225	A	S511	磁器	碗	端反形	(9.4)	(3.8)	4.7	輪轉成形	染付		透明釉		緻密	緻密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		19世紀第3四半期~第4 四半期	
1226	A	S511	磁器	火入	半筒形	10.4	(6.8)	8.3	輪轉成形	染付	見込み部に砂が多量に付着・内面無釉部分あり	透明釉		緻密	緻密	黒色粒	良好				
1227	A	S511	磁器	小瓶	端反縁直形	1.6	2.9	8.4	輪轉成形	染付		透明釉		緻密	緻密	灰白	良好			18世紀中葉~19世紀中 葉	
1228	A	S511	磁器	蓋		(12.4)	(11.2)	(3.5)	輪轉成形	染付	貫入あり・焼継痕あり・焼継印あり	透明釉		緻密	緻密	灰白	良好	肥前系			
1229	A	S511	磁器	蓋		10.0	5.7	3.1	輪轉成形	染付	高台歪みあり	透明釉		緻密	緻密	灰白	良好	肥前系か			
1230	A	S511	陶器	榎木鉢	錫縁桶型	(31.8)	—	(18.3)	輪轉成形		流水文(面花)・鉄軸後縁軸掛け流し・織部	鉄油・ 緑油 (7.5Y4/3)	灰白(7.5YR8/1)	密	密	灰白(7.5YR8/1)	良好	瀬戸美濃系		18世紀末~19世紀	
1231	A	S511	陶器	行平	丸形無足	(14.0)	6.3	8.2	18.9	輪轉成形	スス付着	鉄油	明赤褐(5YR3/6)・暗赤-7 (7.5Y4/3)	密	密	灰白(10YR8/2)	良好				
1232	A	S511	土器	灯明皿	無高台平形	(7.5)	(5.7)	1.3	輪轉成形		底部回転糸切り	無釉		細砂粒含む	細砂粒含む	赤色粒・白 色粒・金色 雲母	良好	在処系			
1234	A	S537	磁器	中碗	丸形	10.0	4.0	5.7	輪轉成形	染付	縁赤あり・高台内に鏡あり	透明釉		緻密	緻密	黒色粒	良好	肥前系		17世紀末~18世紀後葉	
1235	A	S537	陶器	小皿	丸形	12.2	4.4	3.6	輪轉成形		蛇の目黒刺ぎ・目跡(砂目)・外面下部削り痕	青緑油	オリープ灰(10Y5/2)	密	密	灰白(7.5YR8/1)	黒色粒 白色粒・黒 色粒・金色 雲母	良好	肥前		17世紀末~18世紀後葉
1236	A	S537	土器	乗漕	たんころ形	3.6	3.1	1.7	輪轉成形		小室半筒形・溝状芯立・底部回転糸切り・スス付着	無釉		細砂粒含む	細砂粒含む	明赤褐 (2.5YR5/6)	良好	在処系			
1237	A	SE1	磁器	小碗	端反形	(6.7)	3.2	(4.3)	輪轉成形	染付	曇付き無釉	透明釉		緻密	緻密	黒色粒	良好	肥前系		19世紀中葉	
1238	A	SE1	磁器	仏磁器	台座輪高台	—	(4.2)	(4.3)	輪轉成形	染付		透明釉		緻密	緻密	灰白	良好	肥前系			

*法量()は還元値、〈 〉は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉種	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1239	A	SE1	磁器	小皿	円形	8.2	4.8	2.1		型打成形		青磁釉	明緑灰(5G7/1)	緻密	白		良好			
1240	A	SE1	磁器	大皿	方形(四弁花形)	23.7	14.5	4.6		型打成形	染付	透明釉		緻密	白		良好	肥前系(樋口線)	18世紀後半～19世紀中葉	
1241	A	SE1	磁器	蓋		(6.0)	(4.8)	0.8		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白		良好	肥前系		
1242	A	SE1	磁器	合子	口縁蓋受け	(6.0)	6.6	1.4	6.8	轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀後半	
1243	A	SE1	磁器	蓋		(5.8)	(5.8)	2.3	1.2	轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系		
1244	A	SE1	陶器	灯明皿	無高台平形	(9.6)	(4.0)	1.9		轆轤成形		赤褐(5YR4/6)		密	褐色		良好	瀬戸美濃系		
1245	A	SE1	陶器	灯明皿	無高台平形	(9.0)	(3.8)	(2.1)		轆轤成形		灰釉(5Y8/2)		密	灰白(2.5Y7/1)		良好	肥前系		
1246	A	SE1	陶器	灯明皿	無高台平形	(9.1)	(3.9)	2.1		轆轤成形		灰釉(5Y6/1)		密	灰黄褐(10YR6/2)		良好			
1247	A	SE1	陶器	灯明受皿		(10.1)	(5.0)	2.3		轆轤成形		鉄釉(7.5YR4/6)		密	褐色		良好	瀬戸美濃系		
1248	A	SE1	陶器	灯明受皿	油清切立状	(9.8)	3.5	2.1	(6.0)	轆轤成形		灰釉(10Y7/1)		密	灰白(2.5Y8/2)		良好	瀬戸美濃系		
1249	A	SE1	陶器	灯明受皿	油清切立状	9.0	3.6	1.7		轆轤成形		灰釉(7.5Y7/1)		密	灰白(2.5Y8/2)		良好	瀬戸美濃系		
1250	A	SE1	陶器	灯明受皿	立鼓形	7.8	4.5	5.4		轆轤成形		灰釉(5Y8/2)		密	灰白(2.5Y8/2)		良好	瀬戸美濃系		
1251	A	SE1	陶器	灯明受皿	立鼓形	7.7	4.6	5.6		轆轤成形		灰釉(2.5Y7/3)		密	灰白(2.5Y8/1)		良好	瀬戸美濃系		
1252	A	SE1	陶器	片口か	丸形	(15.5)	6.4	7.6		轆轤成形		灰釉(10YR8/1)		密	灰白(10YR8/1)		良好	瀬戸美濃系		
1253	A	SE1	陶器	小壺		—	4.2	(7.0)		轆轤成形		鉄錆釉		細砂粒含む		良好			18世紀後半～19世紀中葉	
1259	A	遺構外	磁器	小杯	端反形	(6.2)	2.7	3.9		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	灰白(N8/)		良好	肥前系		
1260	A	遺構外	磁器	小碗	半球形	—	(3.4)	(2.2)		轆轤成形		透明釉		緻密	白		良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前半	
1261	A	遺構外	磁器	小碗	長丸形	(5.6)	(3.2)	4.0		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白		良好	肥前系	19世紀中葉～後半	
1262	A	遺構外	磁器	中碗	浅半球形	(9.9)	3.3	4.7		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白		良好	肥前系	17世紀末～19世紀初頭	
1263	A	遺構外	磁器	小皿	変形	—	—	2.3		型打成形		青磁釉		緻密	白		良好	畿内系(三田)	19世紀前半以降	
1264	A	遺構外	磁器	人形	赤丸坊	3.5	6.9	2.2		型打成形		透明釉		細砂粒含む		白(9/)				
1265	A	遺構外	磁器	玩具	サイコロ	1.5	1.6	1.6		型押成形		無釉		緻密	白		良好			
1266	A	遺構外	陶器	灯明皿	無高台平形	10.5	5.0	2.1		轆轤成形		鉄釉(5YR7/1)		密	黒		良好	肥前系	18世紀前半～中葉	
1267	A	遺構外	陶器	灯明受皿	油清一子状・2ヶ所	(11.1)	5.2	(2.5)		轆轤成形		鉄錆釉		密	青赤褐(5YR3/2)		良好	肥前系	17世紀末～18世紀前半	
1268	A	遺構外	陶器	乗瀕	台付たんころ形	5.9	4.2	4.3	1.4	轆轤成形		鉄釉		密	灰白(5Y8/1)		良好	瀬戸美濃系		
1269	A	遺構外	陶器	乗瀕	壺形	3.2	3.6	(4.8)	(6.9)	轆轤成形		鉄釉		密	灰白(2.5Y8/1)		良好	瀬戸美濃系		
1270	A	遺構外	陶器	蓋		6.0	3.7	2.8	1.6	轆轤成形		透明釉		密	黄灰(2.5Y6/1)		良好			
1286	B	SK2	磁器	仏飯碗	台底輪高台	—	3.5	(3.7)		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白		良好	肥前系		
1287	B	SK2	磁器	小碗	半筒形	(7.3)	4.0	(5.5)		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白		良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初	
1288	B	SK2	磁器	小碗	腰蛋形	(7.2)	(4.0)	5.8		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1289	B	SK2	磁器	小碗	半筒形	(6.9)	(3.5)	5.2		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白		良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初	
1290	B	SK2	磁器	中碗	瓜菓形	(11.0)	(6.0)	5.6		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	灰白		良好	肥前系	18世紀後半～19世紀中葉	
1291	B	SK2	磁器	中碗	丸形	(11.0)	(4.7)	(6.0)		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白		良好	肥前系	18世紀中葉～後半	
1292	B	SK2	磁器	中碗	腰瓶形	—	4.8	(3.5)		轆轤成形	下絵付	透明釉		密	褐色		良好	波佐見・平戸系	18世紀前半	
1293	B	SK2	磁器	仏飯器	台底輪高台	(7.3)	4.5	6.5		轆轤成形	染付・コンニャク印判	透明釉		緻密	白		良好	肥前系		
1294	B	SK2	磁器	小皿	方形	(8.0)	4.3	2.0		型打成形	染付	透明釉		密	白		良好	瀬戸美濃系	19世紀	
1295	B	SK2	磁器	五寸皿	丸形	(13.6)	8.4	4.1		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白		良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉	
1296	B	SK2	磁器	中皿	踵底形	21.8	13.0	2.8		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	灰白		良好	肥前系		
1297	B	SK2	磁器	蓋		(10.2)	(5.6)	3.0		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白		良好	肥前系	18世紀後半～19世紀中葉	

*法量()は複元或測値、()は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・裝飾技法	特徴・備考	釉薬	軸調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1298	B	SK2	陶器	碗								貫入あり	灰釉	明オリ一平(2.5GY7/1)	密	灰白(10YR7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～後葉
1299	B	SK2	陶器	中碗	腰張形	(9.6)	4.6	(6.5)			貫入あり・墨付き無袖・腰務碗	灰釉・流黄(5Y8/3)・暗褐(7.5YR3/4)	灰釉	淡黄(2.5Y8/3)	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉	
1300	B	SK2	陶器	中碗	端反形	(9.6)	4.0	4.7		下絵付	貫入あり・白泥後絵付	白泥・透明釉	灰釉	にぶい黄緑(10YR7/3)	密	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後	
1301	B	SK2	陶器	中碗	腰張形	(9.0)	4.6	5.8		呉須絵	肥田系京焼風陶器・貫入あり	透明釉	灰釉	灰白(5Y8/1)	密	白色粒・黒色粒	良好	肥田系	17世紀後葉～18世紀前半	
1302	B	SK2	陶器	中碗	広皿形		6.1	(5.1)		染付	筒体染付・貫入あり	透明釉	灰白(2.5Y8/1)	細砂粒含む	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀第1四半期～第2四半期		
1303	B	SK2	陶器	灯明皿	無高台碗分付	(11.0)	4.6	2.4	11.3		底部回転へラ削り	鉄釉	灰白(5Y8/2)	密	にぶい黄緑(10YR7/3)	良好				
1304	B	SK2	陶器	灯明受皿	油溝半月状	10.8	3.5	2.2	7.0			灰釉	灰白(2.5Y8/1)	密	灰白(2.5Y8/1)	良好	京・信楽系			
1305	B	SK2	陶器	灯明受皿		(10.4)	4.6	1.9			自作あり	灰釉	灰白(5Y7/2)	密	灰白(5Y8/1)	良好				
1306	B	SK2	陶器	兼漕	台付たんころ形		6.5	(6.8)			底部輪孔あり	鉄釉	黒(5YR1.7/1)	緻密	灰白(N8/)	良好	瀬戸美濃系			
1307	B	SK2	陶器	片口	平形	(11.8)	5.8	(5.7)				灰釉	淡黄(5Y7/4)	密	灰白(2.5Y8/2)	良好	瀬戸美濃系			
1308	B	SK2	陶器	播鉢			13.8	(8.5)			底部回転糸切り	鉄釉	暗褐(7.5YR3/3)	密	灰白(2.5Y8/2)	良好	瀬戸美濃系			
1309	B	SK2	陶器	蓋		5.8	3.6	1.6			内面黒書あり・無袖	灰釉	灰オリ一平(5Y6/2)	密	灰白(10YR7/1)	良好				
1310	B	SK2	石器	播鉢	口縁外帯三段	(44.0)		(12.4)				鉄釉	灰赤灰(7.5R3/1)	砂葉含む	長石	良好	堺・明石系			
1322	B	SK3	磁器	中碗	丸形	(10.2)	4.4	6.0		染付	高台付銘あり	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥田系	17世紀末～18世紀中葉		
1323	B	SK3	磁器	中碗	丸形	(10.0)	3.6	(5.2)		染付	見込砂筋あり・墨付き無袖	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥田系	17世紀末		
1324	B	SK3	磁器	薄手酒杯	木盃形	(9.0)	(3.2)	(3.2)		上絵付	墨付き無袖	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥田系			
1325	B	SK3	陶器	中碗	腰張形	(9.2)	(6.8)	5.9		呉須絵	肥田系京焼風陶器・貫入あり	透明釉	灰白(2.5Y8/2)	密	黒色粒	良好	肥田系	17世紀中葉～18世紀中葉		
1326	B	SK3	陶器	五丁皿	折縁形	(13.6)	(7.0)	(2.6)		鉄絵	口縁部に線軸を施す	緑釉	灰白(5Y8/1)	密		良好	美濃	17世紀第1四半期		
1327	B	SK3	陶器	皿			(11.0)	(1.8)		染付	貫入あり	灰釉	灰白(5Y7/1)	緻密	灰白(5Y7/1)	良好		18世紀前葉		
1328	B	SK3	陶器	小鉢	浅丸形	13.0	5.2	4.6		下絵付	呉須絵・貫入あり・高台内押印あり	透明釉	灰白(2.5Y8/2)	密	黒色粒	良好	肥田系	17世紀第3四半期～18世紀第2四半期		
1329	B	SK3	土器	埴輪壺	深桶形	(6.4)	(5.2)	9.5	7.5			無袖	透明釉	密	灰石・白色粒・赤色粒・金色葉母	良好	在地系	17世紀末		
1330	B	SK3	土器	埴輪	有耳	30.5	26.0	6.2			底平坦・耳が内壁に付く	無袖	透明釉	密	にぶい橙(5YR6/4)	良好	在地系			
1331	B	SK3	土器	埴輪	有耳	(30.4)	(26.6)	5.9			底平坦・耳が内壁に付く	無袖	透明釉	密	にぶい橙(5YR6/4)	良好	在地系			
1332	B	SK4	磁器	中碗	半筒形		4.4	(5.6)		染付	見込み部銘あり	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥田系	18世紀中葉～19世紀初		
1333	B	SK4	陶器	中碗	腰張形	(9.4)	(4.6)	(6.0)			腰務碗・貫入あり・墨付き無袖	灰釉・流黄(5Y7/2)・オリ一平(2.5Y4/4)	灰釉	灰白(5Y7/2)	密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉	
1334	B	SK4	陶器	中碗	腰張形	(9.4)	4.5	5.8			高台内中心に円孔・銘なし・貫入あり・肥田系京焼風	灰釉	にぶい黄(2.5Y6/3)	密	灰白(2.5Y8/1)	良好	肥田系	18世紀前半		
1335	B	SK4	陶器	香炉	有三分筒形	(10.5)	(7.8)	6.0				灰釉	黄緑(2.5Y5/4)	密	淡黄(2.5Y8/3)	良好	瀬戸美濃系			
1336	B	SK4	陶器	火入	半筒形	(9.4)	(6.8)	7.2				鉄釉	褐(7.5YR4/3)	密	褐灰	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1337	B	SK15	磁器	中碗	丸形	10.0	4.2	(5.4)		染付	くらかんが手・墨付き無袖砂付着	透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥田系	18世紀中葉～後葉		
1338	B	SK15	磁器	中碗	丸形		4.0	(2.7)		染付		透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥田系	18世紀		
1339	B	SK15	磁器	碗	半筒形		(4.0)	(2.4)		染付		透明釉	白	緻密	黒色粒	良好	肥田系	18世紀中葉～19世紀初		
1340	B	SK15	陶器	小皿	丸形		5.6	(5.4)		鉄絵	呉須絵か? 墨絵・貫入あり・高台内一部軸あり	透明釉	密	灰白	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀初			

*法量()は還元率測値、()は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1341	B	SK15	陶器	灯明受皿	油清切立状	10.3	5.0	2.3	7.2	轆轤成形		目跡あり	鉄釉	明赤褐(5YR3/4)	密		にぶい黄緑(10YR7/3)	良好	瀬戸美濃系	
1342	B	551	磁器	小碗	平形	7.0	2.5	3.5		轆轤成形	染付	体部に藍あり	透明釉		密	白	良好	肥前系		
1343	B	551	磁器	小碗	壺反形	(6.6)	(3.0)	3.9		轆轤成形	染付		透明釉		密	白	良好	瀬戸美濃系		
1344	B	551	磁器	中碗	広真形	(11.2)	6.0	5.6		轆轤成形	染付	見込み部に目跡あり	透明釉		密	灰白	良好	肥前系	18世紀後半～19世紀中葉	
1345	B	551	陶器	大瓶		—	(10.4)	(6.7)		轆轤成形	鉄絵	底部回転へラ削り	灰釉	灰白(5Y7/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)色粒	良好	瀬戸美濃系	明治	
1346	B	連携外	磁器	小碗	丸形	(7.4)	(3.0)	3.8		轆轤成形		外面彫刻による模様・底部無釉	青磁釉		密	白	良好	瀬戸美濃系		
1347	B	連携外	磁器	合子	口縁蓋受け	(9.5)	(8.5)	2.6		轆轤成形	染付		透明釉		密	白	良好	肥前系		
1348	B	連携外	磁器	化粧瓶	クリューム容納形	4.2	4.1	5.2		蹄込成形		八角面取り・スクリーナー式?	透明釉		密	白	良好	近代		
1349	B	連携外	陶器	化粧瓶	環楕形	(5.2)	(5.3)	(2.4)		轆轤成形		底部回転糸切り	灰釉	灰白(5Y8/1)	密	灰白(5Y8/1)	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉以降	
1352	C	連携外	ガラス製品	小瓶	楕圓・扁平	(5.4)	4.4	1.8		轆轤成形		気泡含む	無釉		密	透明	近代	肥前系		
1353	C	SK4	磁器	小碗	半筒形	—	3.8	(4.4)		轆轤成形	絵付		透明釉		密	黒色粒	良好	近代	18世紀中葉～19世紀初	
1354	C	SK4	磁器	中瓶		—	6.6	(3.4)		轆轤成形		高台部に磨線2本	灰釉	灰白(7.5Y8/1)	密	灰白	良好	肥前系		
1355	C	SK4	陶器	小碗	腰張形	8.9	(4.8)	5.4		轆轤成形	鉄絵	肥前系青磁風陶器・貫入あり	灰釉	オリープ黄(5Y6/3)	密	灰白(5Y8/1)	良好	肥前系	17世紀後半～18世紀中葉	
1356	C	SK18	陶器	小碗	半筒形	10.0	5.5	6.7		轆轤成形		削り出し高台・やが口縁が開く	灰釉	灰白(7.5Y7/2)	密	灰白(5Y8/2)	良好	瀬戸美濃系	17世紀第4四半期	
1357	C	SK18	陶器	中碗	丸形	(10.9)	—	(5.4)		轆轤成形		尾呂茶碗	鉄釉	黄褐(2.5Y5/6)	密	灰白(2.5Y7/1)色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀3四半期～18世紀前半	
1358	C	SK18	陶器	不明	平形	—	(6.4)	(1.0)		轆轤成形		志野焼・貫入あり	長石釉	灰白(5Y7/2)	密	灰白(2.5Y8/1)色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀前半	
1359	C	SK18	陶器	灯明皿	無高台平形	(10.4)	(5.0)	2.0		轆轤成形		スズ付着	鉄泥	暗褐(7.5YR3/3)	密	灰褐(5YR4/2)色粒	良好	志呂呂	17世紀中葉～18世紀中葉	
1360	C	SK18	陶器	中鉢		—	(10.8)	(6.4)		轆轤成形	刷毛目	刷毛目碗	鉄釉	にぶい赤褐(5YR4/3)	密	赤灰(2.5YR6/2)色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀前半	
1361	C	SK18	陶器	中鉢	球丸形	(31.0)	(12.0)	11.3		轆轤成形		三鳥手・目跡あり・断面に漆継ぎの痕跡あり	鉄泥・透明釉	灰褐(5YR4/2)・灰オリープ(5Y5/2)	密	赤(10R5/6)	良好	肥前系	18世紀前半	
1363	C	SK19	磁器	中碗	壺反形	(10.1)	(3.6)	5.8		轆轤成形	染付	貫入あり	透明釉		密	灰白	良好	瀬戸美濃系	19世紀初頭～中葉	
1364	C	SK19	磁器	紅猪口	菊花形	4.7	1.2	1.5		型打成形		菊花形	白磁釉		密	白	良好	瀬戸美濃系	19世紀初頭～中葉	
1365	C	SK19	磁器	小皿	丸形	(12.2)	(7.0)	(3.1)		轆轤成形	染付	底の凹形高台・真須がじむ・被熱している	透明釉		密	灰白	良好	瀬戸美濃系	19世紀初頭～中葉	
1366	C	SK19	磁器	戸車	丸形	6.3	1.3			轆轤成形		中心孔1.6cm・全面にスズ付着・被熱している	無釉		密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1367	C	SK19	陶器	極小皿	方形	(6.0)	3.1	1.0		型打成形		炬形焼・被熱している	灰釉	オリープ(5YR5/4)	密	灰白(10YR7/1)白色粒	良好			
1368	C	SK19	陶器	線鉢	口縁玉輪形	(4.2)	—	(6.0)		轆轤成形		貫入あり・目痕あり・被熱している・安政元年(1854年)の大地震による火災か	灰釉	オリープ灰(7.5Y6/2)	密	灰白(2.5Y7/1)色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀第3、四半期	
1369	C	SK19	陶器	土瓶	丸形	(9.0)	(7.0)	(9.7)	(12.5)	轆轤成形	絵付	イッパン描き	透明釉		密	にぶい黄(7.5YR7/4)	良好	益子系か	19世紀2四半期	
1370	C	SK19	陶器	土瓶	丸形	—	—	12.1	—	轆轤成形		銅線輪窓・被熱している・青土瓶・安政元年(1854年)の大地震による火災か	銅線釉	灰褐(10R4/3)・明褐灰(5YR7/2)	密	灰白(5Y8/1)	良好	大塩相模系か	19世紀第2、四半期	
1371	C	SK19	陶器	中壺	卵丸形	(23.0)	—	11.4		轆轤成形		輪高台	鉄釉	黒褐(10YR3/1)	密	灰石・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	江戸後期～近代	
1372	C	SK20	磁器	中碗	壺反形	—	(4.4)	(2.8)		轆轤成形	染付	底の凹形高台・銅線紅字・西洋コバルト	透明釉		密	灰白	良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降	
1373	C	SK20	磁器	燗徳利	壺反直線形	(2.9)	—	(10.0)		轆轤成形	染付	銅板紅字・西洋コバルト	透明釉		密	灰白	良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降	
1374	C	SK20	磁器	蓋		(10.6)	(4.2)	2.6		轆轤成形	染付	型焼・西洋コバルト	透明釉		密	灰白	良好	瀬戸美濃系	明治15～20年代	
1375	C	SK20	陶器	小碗	筒丸形	—	(4.4)	(3.9)		轆轤成形		貫入あり	灰釉	灰黄(2.5Y7/2)	密	灰白(2.5Y8/2)黒色粒	良好	京・信楽系(京)		
1376	C	SK20	陶器	中碗	器具形	—	4.2	(4.6)		轆轤成形			灰釉	にぶい黄緑(10YR6/4)	密	にぶい黄緑(10YR7/3)色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀初	
1377	C	SK20	陶器	中碗		—	(4.8)	(1.9)		轆轤成形		底部隆あり(刻印)	灰釉	にぶい黄(2.5Y6/3)	密	灰黄(2.5Y7/2)	良好	京・信楽系(京)		
1378	C	SK20	土器	灯明皿	無高台平形	(8.6)	(5.8)	1.9		轆轤成形		底部回転糸切り	無釉		密	灰黄(2.5Y6/2)黒母・黒色粒	良好	在地系		
1379	C	SK21	磁器	小碗	丸形	(9.7)	4.1	(5.4)		轆轤成形	染付・コンニャク印判		透明釉		密	灰白(N8/)	良好	肥前系	18世紀	

*法量()は複元測値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	軸調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1380	C	SK21	磁器	中碗	丸形	(10.0)	(4.3)	5.7		轆轤成形	染付	高台部内に(大明年製)銘あり・深めの丸形・断面に透 鎌ぎの痕跡あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	17 世紀後葉	
1381	C	SK21	磁器	五寸皿	端反形	(14.6)	(8.9)	2.5		轆轤成形	染付	高台部の目跡あり(針支え)	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系	17 世紀中葉	
1382	C	SK21	磁器	蓋		10.0	5.6	2.7		轆轤成形	染付	中碗蓋	灰色(黄 油)		緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系	18 世紀中葉~後葉	
1383	C	SK21	陶器	小碗	丸碗形	(8.2)	(3.9)	3.7		轆轤成形			灰釉(黄 油)	オリープ(5Y6/6)	密	灰白(5Y8/2)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	18 世紀初頭	
1384	C	SK21	陶器	中碗	異器形	(9.6)	4.1	(6.7)		轆轤成形		貫入あり・目跡あり	灰釉	にぶい黄(2.5Y6/3)	密	灰白(2.5Y8/1)	白色粒	良好 肥前系か		
1385	C	SK21	陶器	中碗	丸形	—	4.5	(3.8)		轆轤成形			灰釉	オリープ帯(2.5Y4/6)	密	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒 色粒	良好 瀬戸美濃系	18 世紀第1四半期	
1386	C	SK21	陶器	小皿	丸形	(12.8)	(7.8)	2.5		轆轤成形	陶胎染付	妬器質	灰釉	明オリープ灰(2.5GY7/1)	密	褐灰(10YR6/1)	白色粒・黒 色粒	良好 瀬戸美濃系か	18 世紀第4四半期か	
1387	C	SK22	磁器	小碗	丸形	(8.8)	(3.4)	4.9		轆轤成形	染付	くららんか手・貫入あり	透明釉	灰白(2.5GY8/1)	緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系	17 世紀末~18 世紀末	
1388	C	SK22	陶器	中碗	腰張形	(10.0)	(4.4)	6.2		轆轤成形	刺毛目	刺毛目跡	透明釉		密	赤褐(10R5/4)		良好 肥前系	17 世紀末~18 世紀前葉	
1389	C	SK22	陶器	灯明受皿	油溝半月状	(9.4)	3.8	2.1	(6.6)	轆轤成形		底部凹縁へう削り・スス付着あり	灰釉	にぶい黄緑(10YR7/2)	密	灰白(10YR8/2)	黒色粒	良好 肥前系		
1390	C	SK22	陶器	中皿	腰形か	(28.6)	—	(9.3)		轆轤成形		肩部環状隆帯・水磨裏	鉄釉	暗赤褐(2.5YR3/3)			赤色粒・白 色粒・黒色 粒	良好 丹波系	17 世紀	
1391	C	SK23	陶器	小碗	丸形	—	(4.0)	(4.3)		轆轤成形		内外面に凹縁目	灰釉	にぶい黄緑(10YR7/3)	緻密	灰白(10Y8/2)	黒色粒	京・信楽系(京 焼)	17 世紀後葉	
1392	C	SK23	陶器	中碗	丸形	—	(3.8)	(4.5)		轆轤成形			透明釉	にぶい褐(7.5YR5/3)	緻密	灰黄褐 (10YR6/2)		良好 肥前系	17 世紀後葉	
1393	C	SK23	土器	灯明皿	無高台平形	(4.6)	(3.2)	1.1		轆轤成形		底部凹縁糸切り	無釉				赤色粒・白 色粒・黒色 粒・黒色雲 母	良好 在地系		
1394	C	SK23	土器	灯明皿	無高台平形	(4.6)	(3.4)	1.1		轆轤成形		底部凹縁糸切り	無釉				赤色粒・白 色粒・黒色 粒・黒色雲 母	良好 在地系		
1395	C	SK29	磁器	小杯	筒形	4.6	—	(4.8)		轆轤成形	染付	昨着口・口縁内部に軸の拭き取り	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18 世紀中葉~19 世紀初 頭	
1396	C	SK29	磁器	小碗	半筒形	(7.8)	4.2	6.6		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好 肥前系	18 世紀中葉~19 世紀初 頭	
1397	C	SK29	磁器	小碗	半筒形	(8.8)	(4.4)	6.8		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好 肥前系	18 世紀中葉~19 世紀初 頭	
1398	C	SK29	磁器	小碗	半筒形	—	3.7	(4.4)		轆轤成形	染付	同心円文	透明釉		緻密	灰白(N8/1)	黒色粒	良好 肥前系	18 世紀中葉~19 世紀初 頭	
1399	C	SK29	磁器	小碗	端反形	(7.0)	3.7	5.7		轆轤成形	染付	焼継ぎあり・高台内鏡あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	19 世紀初~中葉	
1400	C	SK29	磁器	小碗	端反形	(7.4)	(3.0)	3.7		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	19 世紀初~中葉	
1401	C	SK29	磁器	小碗	端反形	(8.0)	(4.4)	4.9		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	19 世紀初~中葉	
1402	C	SK29	磁器	小碗	丸形	7.5	3.2	4.2		轆轤成形	染付	高台部砂付着	透明釉		緻密	灰白(5Y8/1)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系か	19 世紀初	
1403	C	SK29	磁器	小碗	浅丸形	(7.7)	3.0	3.5		轆轤成形	上絵付		透明釉		緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好 肥前系	18 世紀後葉以降	
1404	C	SK29	磁器	小碗	丸形	8.5	3.4	4.6		轆轤成形	染付	高台部砂付着	透明釉		緻密	灰白(5Y8/1)	黒色粒	良好 肥前系	18 世紀初葉~末	
1405	C	SK29	磁器	小碗	異器形	(8.9)	3.9	5.9		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白(N8/1)	黒色粒	良好 肥前系	18 世紀 末	
1406	C	SK29	磁器	小碗	半球形	—	3.5	(3.9)		轆轤成形	染付	湯飲み碗	透明釉		緻密	灰白(N8/1)	黒色粒	良好 肥前系	18 世紀中葉~19 世紀前 葉	
1407	C	SK29	磁器	中碗	腰張形	(9.6)	(3.5)	5.8		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白(N8/1)	黒色粒	良好 肥前系	18 世紀後葉~19 世紀前 葉	
1408	C	SK29	磁器	中碗	丸形	(9.4)	3.4	5.2		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18 世紀後葉	
1409	C	SK29	磁器	中碗	丸形	9.6	4.0	5.2		轆轤成形	染付・コンニャク印判		透明釉		緻密	灰白(10Y7/1)	黒色粒	良好 肥前系	18 世紀	
1410	C	SK29	磁器	中碗	丸形	(9.4)	4.3	4.9		轆轤成形	染付	くららんか手	透明釉		緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好 肥前系	18 世紀中葉~末	
1411	C	SK29	磁器	中碗	丸形	(9.6)	4.1	4.8		轆轤成形	染付	くららんか手	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18 世紀中葉~末	
1412	C	SK29	磁器	中碗	丸形	(9.7)	4.1	5.3		轆轤成形	染付	くららんか手・高台部に鏡あり・砂付着	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	17 世紀末~18 世紀末	
1413	C	SK29	磁器	中碗	丸形	9.9	4.2	5.0		轆轤成形	染付	くららんか手・高台部鏡あり・砂付着	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	17 世紀末~18 世紀末	
1414	C	SK29	磁器	中碗	丸形	9.9	3.8	5.2		轆轤成形	染付	くららんか手・高台部鏡あり・砂付着	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	17 世紀末~18 世紀末	
1415	C	SK29	磁器	中碗	丸形	9.9	3.9	5.1		轆轤成形	染付	くららんか手・高台部鏡あり・砂付着	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	17 世紀末~18 世紀末	

*法量()は還元率測定値、()は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	油薬	釉層	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1416	C	SK29	磁器	中碗	丸形	10.0	4.2	5.2		轆轤成形	染付	くらわんか手・高台部絞あり・砂付着	透明油	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1417	C	SK29	磁器	中碗	丸形	10.1	3.9	5.3		轆轤成形	染付	くらわんか手・高台部に砂付着	透明油	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1418	C	SK29	磁器	中碗	丸形	9.8	3.8	5.6		轆轤成形	染付・コンニャク印判	くらわんか手・高台部絞あり・砂付着・目跡あり	透明油	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1419	C	SK29	磁器	中碗	丸形	10.0	3.8	5.6		轆轤成形	染付・コンニャク印判	くらわんか手・高台部絞あり・砂付着	透明油	緻密	灰白(N8/1)	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉	
1420	C	SK29	磁器	中碗	丸形	(9.6)	4.6	5.1		轆轤成形	染付	高台部に絞あり・砂付着	透明油	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1421	C	SK29	磁器	中碗	丸形	10.4	3.8	5.3		轆轤成形	染付	高台部絞あり	透明油	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1422	C	SK29	磁器	中碗	蹴形	(9.5)	3.7	6.3		轆轤成形	青磁染付・コンニャク印判	貫入あり	青磁油	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後～19世紀初	
1423	C	SK29	磁器	中碗	蹴形	(10.5)	4.0	6.8		轆轤成形	染付	半磁半陶・貫入あり	透明油	緻密	灰(7.5Y6/1)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
1424	C	SK29	磁器	中碗	丸形	(10.8)	4.8	5.1		轆轤成形	染付	くらわんか手・蛇の目軸割ぎ	透明油	緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1426	C	SK29	磁器	中碗	浅半球形	(10.5)	3.4	4.8		轆轤成形	手描染付		透明油	緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1427	C	SK29	磁器	中碗	浅半球形	11.0	3.9	5.1		轆轤成形	染付	高台部絞あり	透明油	緻密	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
1428	C	SK29	磁器	中碗	丸形	(11.1)	4.4	5.1		轆轤成形	染付・コンニャク印判	内面に蛇の目軸割ぎ・高台部に砂付着・目跡あり	透明油	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1429	C	SK29	磁器	中碗	丸形	11.2	4.2	5.8		轆轤成形	染付	呉頭にしむ・内面に蛇の目軸割ぎ・高台部に砂付着	透明油	緻密	灰白(5GY8/1)	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1430	C	SK29	磁器	中碗	丸形	11.5	4.5	6.1		轆轤成形	染付		透明油	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1431	C	SK29	磁器	中碗	球形	(12.2)	(5.0)	6.4		轆轤成形	手描染付	腰部割れ	透明油	緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉	
1432	C	SK29	磁器	仏飯器	台座輪高台	(5.3)	3.3	5.5		轆轤成形	染付		透明油	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1433	C	SK29	磁器	仏飯器	台座輪高台	6.4	4.2	6.6		轆轤成形	染付		透明油	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉	
1434	C	SK29	磁器	徳小皿	丸形	6.0	2.7	1.6		轆轤成形	染付		透明油	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
1435	C	SK29	磁器	徳小皿	菊花形	(7.0)	(4.0)	(1.9)		型打成形	手描染付	縁部あり	透明油	緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
1436	C	SK29	磁器	小皿	方形	(7.8)	(3.6)	2.3		型打成形	染付		透明油	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀初～中葉	
1437	C	SK29	磁器	小皿	菊花形	(8.8)	(5.0)	2.3		型打成形	染付		透明油	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀初～中葉	
1438	C	SK29	磁器	小皿	丸形	—	8.4	(1.5)		轆轤成形	染付	蛇の目形高台	透明油	緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉以降	
1439	C	SK29	磁器	小皿	丸形	9.2	4.8	2.7		轆轤成形	染付・コンニャク印判	高台成砂付着	透明油	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1440	C	SK29	磁器	小皿	丸形	13.1	7.8	4.0		轆轤成形	染付・コンニャク印判	高台成砂あり・砂付着	透明油	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1441	C	SK29	磁器	小皿	丸形	13.2	7.9	3.8		轆轤成形	染付	くらわんか手・高台内絞あり・砂付着	透明油	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1442	C	SK29	磁器	小皿	丸形	(13.0)	(7.8)	3.8		轆轤成形	染付	高台内絞あり・砂付着	透明油	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1443	C	SK29	磁器	小皿	丸形	13.7	7.0	3.0		轆轤成形	染付・コンニャク印判	蛇の目軸割ぎあり	透明油	緻密	灰白(N8/1)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1444	C	SK29	磁器	五寸皿	丸形	14.0	7.6	3.8		轆轤成形	染付・コンニャク印判	くらわんか手・高台内絞あり・砂付着	透明油	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1445	C	SK29	磁器	猪口	桶形	(8.0)	(4.5)	5.9		轆轤成形	染付	腰輪高台	透明油	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1446	C	SK29	磁器	香炉	無三足半筒形	(10.0)	6.8	7.0		轆轤成形	染付	蛇の目形高台	青磁油	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1447	C	SK29	磁器	火入	半筒形	—	(8.4)	(3.8)		轆轤成形	染付		透明油	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1448	C	SK29	磁器	火入	半筒形	(11.0)	—	(7.9)		轆轤成形	染付	蛇の目形高台・口縁部に敲打痕あり	透明油	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1449	C	SK29	磁器	小瓶	辣形	(1.4)	—	(11.2)		轆轤成形	染付	神酒流利・口縁無裝飾	透明油	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後葉～19世紀中葉	
1450	C	SK29	磁器	中瓶	端反辣形	3.0	4.7	17.4	9.5	轆轤成形	染付	輪高台	透明油	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀後葉～18世紀初	
1451	C	SK29	磁器	中瓶	端反辣形	3.4	5.3	16.6		轆轤成形	染付	輪高台	透明油	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀後葉～18世紀初	
1452	C	SK29	磁器	中瓶	端反辣形	5.4	6.8	22.9	(12.7)	轆轤成形	染付	クリ底・高台部に砂付着	透明油	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後葉	
1453	C	SK29	磁器	中瓶	端反辣形	5.5	—	(18.9)	12.6	轆轤成形			透明油	緻密	灰白(7.5Y7/1)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後葉	
1454	C	SK29	磁器	中瓶	端反辣形	—	7.0	(17.2)	(14.5)	轆轤成形			青磁油	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後葉	
1455	C	SK29	磁器	蓋	蓋	(9.5)	3.7	2.8		轆轤成形	染付	クリ底	透明油	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1456	C	SK29	磁器	蓋	球形	(10.0)	(3.8)	2.7		轆轤成形	手描染付	腰部割れ碗の蓋か	透明油	緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀後葉	
1457	C	SK29	陶器	中碗	腰形	9.8	4.0	6.8		轆轤成形	染付	半磁半陶・貫入あり	透明油	密	にぶい赤褐	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1458	C	SK29	陶器	小坏分	筒形	—	2.9	(3.2)		轆轤成形		貫入あり	灰油	密	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～末	
1459	C	SK29	陶器	小碗	丸形	5.2	2.6	2.4		轆轤成形		貫入あり	灰油	密	灰白(7.5Y8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～末	
1460	C	SK29	陶器	小碗	丸形	(6.4)	3.2	3.9		轆轤成形		見込み部に砂付着	灰油	密	灰白(N8/)	白色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀	
1461	C	SK29	陶器	小碗	丸形	6.4	2.9	3.0		轆轤成形		妬器類・太白手か・内面に斑点あり窯糞か	透明油	密	褐灰(10YR6/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀4四半期以降	
1462	C	SK29	陶器	小碗	丸形	(7.0)	2.2	3.4		轆轤成形			灰油	密	灰白	黒色粒	良好	京・信楽系	17世紀末～18世紀中葉	
1463	C	SK29	陶器	小碗	半球形	(8.2)	2.2	5.6		轆轤成形	上縁付	京焼	灰油	密	灰白(7.5Y7/2)	黒色粒	良好	京・信楽系	17世紀末～18世紀中葉	
1464	C	SK29	陶器	小碗	球形	10.8	3.9	6.2		轆轤成形	下縁付		灰油	密	灰白(7.5Y8/1)	黒色粒	良好	京・信楽系	18世紀3四半期	
1465	C	SK29	陶器	小碗	脚趾形	8.0	4.2	6.6		轆轤成形		復興脚部	輪部油	密	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第4四半期	

*法量()は復元法量値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1466	C	SK29	陶器	小碗	半筒形	8.6	5.4	6.2		染付	陶胎染付	胎土	灰白(2.5Y8/1)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	白色粒・黒 色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀前半～中葉		
1467	C	SK29	陶器	小碗	腰折形	10.0	3.7	5.0				胎土	明オリーブ灰 (2.5GY7/1)・暗褐 (7.5YR3/4)	灰白(2.5Y7/1) 黒色粒	良好					
1468	C	SK29	陶器	小碗	腰折形	(10.0)	3.9	5.1				胎土	明オリーブ灰 (7.5YR3/4)	灰白(10YR7/1) 黒色粒	良好					
1469	C	SK29	陶器	小碗	系自形	(9.0)	5.0					胎土	灰白(5Y8/2)・暗褐 (10YR3/4)	灰白(2.5Y8/2) 黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第4四半期			
1470	C	SK29	陶器	小碗	球形	—	3.9	(3.4)		染付	胎土	灰白(10Y8/1)	灰白(10YR8/1)	灰白(10YR8/1)	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～末			
1471	C	SK29	陶器	小碗	筒丸形分	(9.0)	—	(4.5)		上絵付・色絵	胎土	灰白(10Y8/1)	灰白(5Y8/1)	灰白(5Y8/1)	良好	京産風				
1472	C	SK29	陶器	碗	半球形分	—	—	(5.7)		上絵付・色絵	胎土	灰白(10Y8/1)	灰白(2.5Y8/1)	灰白(2.5Y8/1)	良好	京・信濃系	18世紀後～19世紀初			
1473	C	SK29	陶器	碗	球形	—	—	(3.8)		絵付	胎土	長石釉	灰白(2.5Y8/1)	灰白(2.5Y8/1)	良好					
1474	C	SK29	陶器	中碗	腰張形	(9.0)	4.0	5.5			胎土	灰白(5Y8/2)・極暗赤褐 (5YR2/4)	灰白(5Y8/1) 黒色粒	灰白(5Y8/1) 黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第4四半期～19 世紀第1四半期			
1475	C	SK29	陶器	中碗	腰張形	9.4	4.4	5.3			胎土	灰白(7.5Y8/1)	灰白(5Y8/1) 黒色粒	灰白(5Y8/1) 黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第1四半期			
1476	C	SK29	陶器	中碗	盤形	(9.1)	4.0	(6.4)		染付	胎土	灰白(7.5Y8/1)	灰白(7.5Y1/7) 長石 色粒	灰白(7.5Y1/7) 長石 色粒	良好	京・信濃系				
1477	C	SK29	陶器	中碗	半球形	9.4	3.3	5.4		色絵	胎土	灰白(2.5Y8/2)	灰白(10YR8/1)	灰白(10YR8/1)	良好	京・信濃系か				
1478	C	SK29	陶器	中碗	半球形	(9.6)	3.1	5.6		絵絵	胎土	灰白(5Y7/2)	灰白(2.5Y8/2) 黒色粒	灰白(2.5Y8/2) 黒色粒	良好	京・信濃系	18世紀後葉～19世紀前 葉			
1479	C	SK29	陶器	中碗	半球形	(9.5)	4.0	5.8			胎土	鉄釉・ 灰白(2.5Y8/2)	灰白(5Y8/1)	灰白(5Y8/1)	良好	瀬戸美濃系				
1480	C	SK29	陶器	中碗	丸形	(11.0)	4.6	7.6			胎土	灰白(10Y7/1)	灰白(10YR8/1)	灰白(10YR8/1)	良好	瀬戸美濃系	17世紀初頭～18世紀末			
1481	C	SK29	陶器	中碗	丸形	11.2	4.6	7.2			胎土	明オリーブ(7.5Y4/3)	灰白(5Y8/1)	灰白(5Y8/1)	良好	瀬戸美濃系	17世紀中葉～18世紀末			
1482	C	SK29	陶器	中碗	腰張形	(11.4)	4.6	7.7			胎土	明黄褐(2.5Y7/6)	浅黄褐 (10YR8/3)	浅黄褐 (10YR8/3)	良好	瀬戸美濃系	18世紀前半～19世紀中 葉			
1483	C	SK29	陶器	中碗	拳骨形	10.3	4.1	6.3			胎土	黒(7.5YR2/1)	灰白(2.5Y8/2) 黒色粒	灰白(2.5Y8/2) 黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第4四半期～19 世紀第2四半期			
1484	C	SK29	陶器	中碗	筒形	(9.4)	—	(4.6)		陶胎染付	胎土	灰白(2.5Y8/1) 黒色粒	灰白(2.5Y8/1) 黒色粒	灰白(2.5Y8/1) 黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀前半			
1485	C	SK29	陶器	大碗	平円形	12.7	4.6	6.1		刷毛目	胎土	明毛白碗	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	良好	瀬戸美濃系か	18世紀後葉～19世紀前 葉			
1486	C	SK29	陶器	大碗	平円形	13.0	4.8	5.7		刷毛目	胎土	明毛白碗	明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉～19世紀前 葉			
1487	C	SK29	陶器	大碗?	口筒形	(13.4)	—	(5.4)			胎土	にぶい黄(2.5Y6/3)	灰白(N7/1)	灰白(N7/1)	良好					
1488	C	SK29	陶器	仏飯器	台底缺り込み	<17.6>	4.2	5.1		陶胎染付	胎土	灰白	灰白	灰白	良好	瀬戸美濃系	18世紀4四半期			
1489	C	SK29	陶器	小皿	縁皿形	9.0	3.6	1.6			胎土	暗褐(7.5YR3/4)	灰黄褐 (10YR6/2)	灰黄褐 (10YR6/2)	良好					
1490	C	SK29	陶器	小皿	盤形	(12.4)	(6.1)	3.6		描絵	胎土	灰白(10Y8/2)	灰白(5Y8/1)	灰白(5Y8/1)	良好	瀬戸美濃系	18世紀			
1491	C	SK29	陶器	小皿	盤形分	—	5.1	(2.1)		型紙摺	胎土	明オリーブ灰(2.5GY7/1)	灰白(N7/1)	灰白(N7/1)	良好	瀬戸美濃系	18世紀			
1492	C	SK29	陶器	五寸皿	丸形	(13.9)	(5.4)	3.7		陶胎染付	胎土	白	白	白	良好	瀬戸美濃系	18世紀第4四半期～19 世紀第1四半期			
1493	C	SK29	陶器	中皿	折縁形	(21.6)	8.1	6.6			胎土	灰白(7.5Y8/2)	灰白(2.5Y8/2)	灰白(2.5Y8/2)	良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉			
1494	C	SK29	陶器	灯明皿	クワリ底平形	7.6	3.4	1.6			胎土	オリーブ(5Y5/4)	灰白(10YR7/1)	灰白(10YR7/1)	良好	京・信濃系か				
1495	C	SK29	陶器	灯明皿	無高台平形	7.7	3.3	1.6			胎土	褐(7.5YR4/6)	黄灰(2.5Y6/1)	黄灰(2.5Y6/1)	良好					
1496	C	SK29	陶器	灯明皿	無高台平形	10.5	5.5	1.9			胎土	褐(7.5YR4/6)	黄灰(2.5Y6/1)	黄灰(2.5Y6/1)	良好	瀬戸美濃系				
1497	C	SK29	陶器	灯明皿	無高台平形	10.6	5.1	1.9			胎土	見込みと底部に黒灰あり	灰白(10YR8/2) 黒色粒	灰白(10YR8/2) 黒色粒	良好	瀬戸美濃系				
1498	C	SK29	陶器	灯明皿	クワリ底平形	10.4	4.9	2.7			胎土	見込みと底部に黒灰あり	灰白(2.5Y8/2) 黒色粒	灰白(2.5Y8/2) 黒色粒	良好	瀬戸美濃系				
1499	C	SK29	陶器	灯明受皿	油清切立状	8.6	4.4	2.2	6.7		胎土	見込みと底部に黒灰あり	灰白(10YR8/6)	灰白(10YR8/6)	良好	瀬戸美濃系				
1500	C	SK29	陶器	灯明受皿	油清切立状	(10.6)	4.9	3.7	7.7		胎土	見込みと底部に黒灰あり	灰白(2.5Y8/2)	灰白(2.5Y8/2)	良好	瀬戸美濃系				
1501	C	SK29	陶器	灯明受皿	油清切立状	10.8	4.7	2.0	8.3		胎土	見込みと底部に黒灰あり	褐灰(7.5Y6/1)	褐灰(7.5Y6/1)	良好	瀬戸美濃系				

*法量()は還元差測値、〈 〉は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	細頸	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1502	C	SK29	陶器	水壺	内湾形	23.0	11.8	6.5		轆轤成形		目跡あり・クリ底	灰釉	灰白(10Y7/1)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	石英・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第3四半期~第4四半期
1503	C	SK29	陶器	乗瀧	台付たんごろ形	—	5.2	〈5.6〉	1.3	轆轤成形		底部回転糸切り・底部軸孔あり	灰釉	褐(10YR4/4)	密	灰白(10YR8/1)黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1504	C	SK29	陶器	蓋物	変形	(6.8)	(4.6)	3.7		轆轤成形		口縁蓋受け・クリ底・貫入あり	灰釉	灰白(5Y8/2)	密	灰白(2.5Y8/1)黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1505	C	SK29	陶器	片口	口縁切込丸形	12.0	6.5	6.4	14.0	轆轤成形		口縁部切込・見込みに目跡あり・体部外面に重ね焼き跡あり	灰釉	オリーブ(5Y6/6)	密	灰白	良好	瀬戸美濃系	18世紀第4四半期	
1506	C	SK29	陶器	片口	口縁切込丸形	(12.5)	7.1	6.7	(13.8)	轆轤成形		目跡3ヶ所あり	灰釉	灰白(10YR8/1)	密	灰白(10YR8/2)黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀4四半期	
1507	C	SK29	陶器	播鉢	口縁折縁形	(17.8)	(8.4)	(6.5)		轆轤成形			鉄釉	にぶい赤褐(5YR4/4)	相砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第2四半期~第4四半期	
1508	C	SK29	陶器	播鉢	口縁折縁形	(19.4)	(8.6)	5.6		轆轤成形		底部回転糸切り	鉄釉	黒褐(7.5YR3/2)	細砂粒含む	明赤褐(5YR3/2)	良好	瀬戸美濃系	18世紀第4四半期	
1509	C	SK29	陶器	播鉢	口縁玉縁形	(26.6)	11.0	8.8		轆轤成形		底部回転糸切り	鉄釉	暗赤褐(5YR3/2)	細砂粒含む	灰白(10YR8/2)白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第1四半期	
1510	C	SK29	陶器	播鉢	口縁折縁形	〈29.6〉	〈12.0〉	12.8		轆轤成形			鉄釉	暗赤褐(2.5YR3/4)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第4四半期	
1511	C	SK29	陶器	播鉢	口縁外帯三段・口縁内凸帯小	(36.0)	—	(9.7)		轆轤成形			無釉	暗赤褐(7.5R4/2)	相砂粒含む	灰石・黒色粒	良好	明石系	18世紀後葉以降	
1512	C	SK29	陶器	埴鉢	把手無し	33.8	16.0	18.0		轆轤成形		削り出し高台・灰釉縁縁掛け流し・見込みに目跡3点あり	灰釉・緑釉	淡黄(5Y8/4)	細砂粒含む	灰白(5Y8/2)白色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀初頭以降	
1513	C	SK29	陶器	水鉢		(31.4)	—	(7.8)		轆轤成形	彫刻・流水状文	灰釉縁縁掛け流し	灰釉・緑釉	淡黄(5Y7/3)・オリーブ褐(2.5Y4/6)	相砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)白色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第4四半期	
1514	C	SK29	陶器	香炉	有足半筒形	(10.2)	(7.8)	6.0		轆轤成形			灰釉	オリーブ黄(7.5Y6/3)	密	灰白(2.5Y7/1)黒石	良好	瀬戸美濃系	18世紀第2四半期~第4四半期	
1515	C	SK29	陶器	火入	玉縁形	9.0	5.2	6.2		轆轤成形		口縁部に敲打痕あり・貫入あり	灰釉	オリーブ黄(5Y6/4)	密	灰白(5Y8/1)白色粒	良好	瀬戸美濃系		
1516	C	SK29	陶器	火入	半筒形	(10.0)	5.8	6.9		轆轤成形			鉄釉	暗オリーブ(5Y4/3)	細砂粒含む	灰褐(5YR4/2)白色粒	良好	瀬戸美濃系		
1517	C	SK29	陶器	火入か	半筒形	—	(6.4)	(3.4)		轆轤成形			灰釉	暗(5Y7/2)	密	灰白(10Y8/1)	良好	瀬戸美濃系		
1518	C	SK29	陶器	小壺	双耳瀬戸壺形	(7.5)	—	(7.5)	11.2	轆轤成形		肩部に2条の沈線あり	灰釉	黄褐(2.5Y5/6)	細砂粒含む	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第3四半期~第4四半期	
1519	C	SK29	陶器	中壺	脚丸形	(20.4)	—	(16.2)		轆轤成形			鉄釉	にぶい赤褐(2.5YR4/3)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1520	C	SK29	陶器	中壺	半筒形	17.5	—	(9.1)		轆轤成形			鉄釉	暗褐(7.5YR3/4)	密	褐灰(7.5YR6/1)	良好	瀬戸美濃系		
1521	C	SK29	陶器	中壺	半筒形	—	11.6	(7.1)		轆轤成形			鉄釉	暗褐(10YR3/4)	密	浅黄褐(10YR8/4)	良好	瀬戸美濃系か	18世紀第2四半期~19世紀第3四半期	
1522	C	SK29	陶器	中壺	半筒形	—	11.7	(4.1)		轆轤成形			鉄釉	暗褐(10YR3/3)	密	浅黄褐(10YR8/4)	良好	瀬戸美濃系		
1523	C	SK29	陶器	小瓶	変形	1.8	—	(8.5)		轆轤成形			鉄釉	黒(10YR2/1)	密	灰褐(10YR8/4)	良好	瀬戸美濃系		
1524	C	SK29	陶器	中瓶	柳肩形・口縁外帯	4.0	6.5	20.8	9.2	轆轤成形		体部下半1/3~底部にかけて釉薬のふきとり・高田徳利形(肩張寸胆短脚形)	灰釉	灰白(5Y7/1)	密	灰黄(2.5Y7/2)	良好	瀬戸美濃系	18世紀第2四半期~19世紀第3四半期	
1525	C	SK29	陶器	中瓶	柳肩形	—	6.4	(18.5)		轆轤成形		妬器質・体部1/3~底部にかけて釉薬のふきとり	灰釉	オリーブ灰(5Y6/2)	密	灰(5Y6/1)白色粒	良好	瀬戸美濃系		
1526	C	SK29	陶器	中瓶	ペコカン形	6.7	(12.4)			轆轤成形		底部釉薬ふきとり	鉄釉	明褐(7.5YR5/6)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第2四半期~19世紀第3四半期	
1527	C	SK29	陶器	中瓶	ペコカン形	—	(7.7)	(8.8)		轆轤成形			鉄釉	灰白(2.5Y7/1)	相砂粒含む	にぶい橙(7.5YR5/4)	良好	瀬戸美濃系	18世紀第2四半期~19世紀第3四半期	
1528	C	SK29	陶器	仏花瓶	瓶子丸耳形	—	4.8	(18.8)		轆轤成形		底部回転糸切り	鉄釉	灰白(5Y8/1)	密	灰白(10YR7/1)白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1529	C	SK29	陶器	水注類	後手形	6.3	4.4	5.2		轆轤成形	染付	復興機部・貫入あり・口縁に縁線あり	鉄釉・灰釉・緑釉	灰黄褐(10YR4/2)・灰白(10Y8/1)	緻密	灰白(5Y8/1)	良好	瀬戸美濃系	18世紀末~19世紀初頭	
1530	C	SK29	陶器	小水注	半月口形	(6.6)	—	(4.6)	(7.4)	轆轤成形	染付	貫入あり	灰釉	オリーブ褐(2.5Y4/6)	密	灰黄(2.5Y7/2)	良好	瀬戸美濃系		
1531	C	SK29	陶器	水注類	円筒形	(16.6)	—	(16.3)		轆轤成形		妬器質・白泥での指絵	鉄釉	オリーブ褐(2.5Y4/6)	密	灰白	良好	瀬戸美濃系		
1532	C	SK29	陶器	土鍋	丸形三足・紐状双耳	(13.6)	(6.0)	(5.6)	—	轆轤成形		把手あり	鉄釉	にぶい赤褐(5YR4/3)	密	灰白	良好	瀬戸美濃系		
1533	C	SK29	陶器	土鍋	丸形三足・紐状双耳	(21.0)	(7.6)	(12.0)	(22.4)	轆轤成形		見込みに部2ヶ所目跡あり・体部下~底部無釉	鉄釉	にぶい赤褐(5YR4/4)	緻密	浅黄褐(10YR8/4)	良好	信楽系か	18世紀後葉以降	

*法量()は複元差測値、()は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1534	C	SK29	陶器	煎茶器		(14.2)	—	(8.5)		轆轤成形	絵付	内面3ヶ所に足？	緑釉	灰白(7.5Y7/2)	細砂粒含む	黄(5YR6/6)	長石	良好		
1535	C	SK29	陶器	蓋		7.5	7.5	1.0		轆轤成形		合子か、貫入あり	灰釉	灰白(7.5Y7/2)	密	灰白(7.5Y8/1)	黒色粒	良好		
1536	C	SK29	陶器	蓋		(8.6)	(7.0)	2.1	1.4		下絵付・鉄絵	土瓶の蓋	透明釉	にぶい黄緑(10YR7/3)	緻密	灰黄緑(10YR8/3)	黒色粒	良好	京・信楽系か	18世紀4四半期
1537	C	SK29	陶器	蓋		10.3	1.6	1.8		轆轤成形		体部の一部を切り欠く・舌を持つ灯明皿の蓋	鉄釉	黄(5YR6/6)	緻密	灰白(2.5YR7/1)	白色粒	良好	在地系か	
1538	C	SK29	陶器	蓋		(11.2)	(9.0)	2.8	1.5	轆轤成形		土瓶の蓋	灰釉・鉄釉	灰白(5Y7/2)・暗赤褐(2.5Y3/3)	緻密	灰白(5Y8/1)・黒色粒	黒色粒	良好		
1539	C	SK29	陶器	蓋		(10.6)	3.0	(1.9)		轆轤成形	染付・鉄絵	土瓶の蓋	透明釉	灰白(5Y8/2)	緻密	淡黄(2.5Y8/3)	白色粒	良好	18世紀後葉	
1540	C	SK29	陶器	蓋		(11.8)	(10.0)	(2.1)		轆轤成形	染付・鉄絵	土瓶の蓋	透明釉	灰白(5Y8/2)	緻密	灰白(5Y1/8)	白色粒	良好	18世紀後葉	
1541	C	SK29	陶器	蓋		15.2	—	(3.8)		轆轤成形	トヒガンナ	行平織の蓋	鉄釉	赤(10R5/8)	緻密	赤褐(2.5YR4/8)	白色粒・黒色粒	良好	18世紀末以降	
1542	C	SK29	土器	灯明皿	無高台平形	(9.0)	(4.8)	(2.4)		轆轤成形		底部回転糸切り・内外面にススの痕か	無釉		緻密	灰黄(2.5Y7/2)	赤色粒・白色粒・金色	良好	在地系	
1543	C	SK29	土器	七厘		(31.0)	(28.0)	23.6		轆轤成形		胴部縦・スス付着	無釉		密	黄褐(7.5YR7/8)	石莖・雲母	良好		
1544	C	SK29	土器	蓋		(10.6)	4.7	2.5	—	轆轤成形		底部回転糸切り	無釉		密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好		
1545	C	SK30	磁器	小坏	異器形	6.1	2.7	4.3		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
1546	C	SK30	磁器	小碗	端反形	(9.2)	3.7	(4.8)		轆轤成形	染付	灯形	透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
1547	C	SK30	磁器	小皿	端区珠重形クワ座	—	2.8	(6.3)		轆轤成形	染付	貫入あり	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀3四半期
1548	C	SK30	陶器	灯明皿	平形	(7.5)	(3.0)	1.6		轆轤成形		貫入あり・底部に火たすきかみられる	灰釉	淡黄(5Y8/4)	緻密	灰黄緑(10YR8/4)	黒色粒	良好	信楽系	
1549	C	SK31	磁器	中碗	端反形	(9.6)	—	(3.1)		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
1550	C	SK31	磁器	筆立て		—	(4.4)	(7.8)		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1553	C	SK32	磁器	中碗	丸形	(9.9)	—	(3.8)		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末
1554	C	SK32	陶器	中碗	丸形	11.3	5.0	6.8		轆轤成形		尾舌茶碗・口縁部にクノフ軸	鉄釉	黄褐(10YR5/6)	密	淡黄(2.5Y8/3)	白色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第1四半期～第3四半期
1555	C	SK32	陶器	灯明受皿	油溝了—手状2箇所	(11.6)	5.0	2.3	7.2	轆轤成形		底部回転へう削り・スス付着	鉄泥	にぶい赤褐(2.5YR5/3)	密	黄褐(7.5YR7/6)	白色粒	良好	志戸呂	17世紀後葉～18世紀末
1556	C	SK33	磁器	小坏	端反形	(6.0)	(2.8)	4.1		轆轤成形			白磁釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	
1557	C	SK33	磁器	小碗	丸形	(8.2)	(3.4)	4.3		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末
1558	C	SK33	磁器	大碗	球半球形	(8.6)	(3.4)	4.1		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末
1559	C	SK33	磁器	大碗	丸形	(16.0)	—	(7.3)		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末
1560	C	SK33	磁器	小皿	丸形	(12.5)	7.6	3.1		轆轤成形	染付・コンマク印刷	縁飾あり・高台部に砂付着	透明釉		緻密	灰白(N8/0)	黒色粒	良好	肥前系	17世紀中葉～18世紀末
1561	C	SK33	磁器	香炉	扁平鼎形	(10.2)	—	(2.6)		轆轤成形			青磁釉	オリブ灰(5G Y6/1)	緻密	灰白(N8/0)	黒色粒	良好	肥前系	
1562	C	SK33	陶器	中碗	杉形	(9.0)	(3.6)	4.5		轆轤成形	絵付	尻頭と鉄絵で松葉と枝を描き分ける	灰釉	灰白(7.5Y7/1)	緻密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好	京・信楽系	18世紀3四半期
1563	C	SK33	陶器	中碗	腰張形	(9.5)	(4.6)	6.5		轆轤成形	刷毛目	刷毛目碗	透明釉		密	明赤褐(2.5Y5/6)	白色粒・黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀前葉
1564	C	SK33	陶器	中碗	腰張形	(10.2)	(4.4)	(6.8)		轆轤成形	刷毛目	刷毛目碗	透明釉		密	明赤褐(5YR5/6)	長石	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉
1565	C	SK33	陶器	中碗	腰張形	(9.9)	4.4	6.4		轆轤成形	刷毛目	刷毛目碗	透明釉		密	明赤褐(5YR5/6)	長石	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉
1566	C	SK33	陶器	中碗	腰張形	(9.6)	(4.4)	6.4		轆轤成形	刷毛目	刷毛目碗	透明釉		密	明赤褐(5YR5/6)	長石	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉
1567	C	SK33	陶器	中碗	腰張形	(9.6)	(4.4)	6.5		轆轤成形	刷毛目	刷毛目碗	透明釉		密	明赤褐(2.5YR5/6)	白色粒・黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀前葉
1568	C	SK33	陶器	中碗	半球形	(9.3)	4.4	6.5		轆轤成形	刷毛目	刷毛目碗	透明釉		密	明赤褐(2.5YR5/6)	白色粒・黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀前葉
1569	C	SK33	陶器	中碗	腰張形	9.8	4.6	6.9		轆轤成形	刷毛目	刷毛目碗	透明釉		密	明赤褐(2.5YR5/6)	白色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀前葉
1570	C	SK33	陶器	碗	腰張形	10.5	4.6	6.9		轆轤成形	刷毛目	刷毛目碗	透明釉		密	明赤褐(2.5YR5/6)	白色粒・黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀前葉
1571	C	SK33	陶器	仏飯器		(4.4)	15.7	(2.9)		轆轤成形		刷毛目碗	鉄釉	オリブ褐(2.5Y4/3)	緻密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好		
1572	C	SK33	陶器	極小皿	平形	5.3	3.7	0.8		轆轤成形			無釉		緻密	明褐(7.5YR5/6)	白色粒・金色	良好	在地系	
1573	C	SK33	陶器	小皿	梅花形	—	—	(2.1)		型打成形		貫入あり	灰釉	灰白(7.5Y7/2)	密	灰白(N8/0)	黒色粒	良好		
1574	C	SK33	陶器	灯明受皿	油溝切立状	(11.6)	(5.4)	1.8	(8.0)	轆轤成形		底部回転へう削り・スス付着	鉄釉	暗赤褐(2.5YR3/3)	緻密	灰白(10YR8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	

*法量()は還元率測値、〈 〉は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	油薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1575	C	SK33	陶器	大鉢	丸形	—	(8.9)	(5.3)	—	轆轤成形	目跡あり	灰油	オリブ (5Y5/4)	密	密	黄灰(2.5Y6/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第4四半期
1576	C	SK33	陶器	擂鉢	口縁折線形	(32.8)	—	〈10.5〉	—	轆轤成形		鉄油	にぶい赤褐 (5YR4/3)	粗砂粒含む	粗砂粒含む	灰白(10YR8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀後葉
1577	C	SK33	陶器	香炉	鼎形	(11.2)	—	〈6.5〉	—	轆轤成形	鉄油縁ツノ袖をかける・口唇部に敲打痕あり・後に火入れもしくは灰吹として利用か・下部部分スス付着	鉄油	にぶい黄 (2.5Y6/4)	密	密	灰白(2.5Y6/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀後葉
1578	C	SK33	土器	灯明皿	無高台平形	4.1	2.6	1.1	—	轆轤成形	底部回転糸切り	無油		細砂粒含む	細砂粒含む	明赤褐 (5YR5/6)	白色粒・黒色粒	良好		
1579	C	SK33	土器	灯明皿	無高台平形	(4.6)	2.8	1.2	—	轆轤成形	底部回転糸切り	無油		細砂粒含む	細砂粒含む	にぶい黄褐 (10YR6/4)	炭石・赤色粒	良好		
1580	C	SK33	土器	灯明皿	無高台平形	4.9	2.8	1.3	—	轆轤成形	底部回転糸切り・灯芯痕あり	無油		粗砂粒含む	粗砂粒含む	にぶい黄褐 (10YR5/3)	白色粒・金色粒	良好	在地系	
1581	C	SK33	土器	灯明皿	無高台平形	5.2	3.6	1.8	—	轆轤成形	底部回転糸切り	無油		細砂粒含む	細砂粒含む	にぶい黄褐 (10YR5/3)	白色粒・金色粒	良好	在地系	
1582	C	SK33	土器	灯明皿	無高台平形	(5.4)	(2.9)	1.5	—	轆轤成形	底部回転糸切り・見込み部スス付着	無油		粗砂粒含む	粗砂粒含む	にぶい赤褐 (5YR5/3)	石英・白色粒・黒色粒	良好		
1583	C	SK33	土器	灯明皿	無高台平形	(5.3)	(3.8)	1.2	—	轆轤成形	底部回転糸切り・スス付着	無油		粗砂粒含む	粗砂粒含む	灰褐 (5YR5/2)	粒・黒色粒・金色粒	良好	在地系	
1584	C	SK33	土器	灯明皿	無高台平形	5.3	2.9	1.2	—	轆轤成形	底部回転糸切り・スス付着	無油		粗砂粒含む	粗砂粒含む	にぶい褐 (7.5YR5/4)	赤色粒・白色粒	良好	在地系	
1585	C	SK33	土器	灯明皿	無高台平形	5.5	3.5	1.4	—	轆轤成形	スス付着	無油		粗砂粒含む	粗砂粒含む	にぶい褐 (5YR5/4)	赤色粒・白色粒・黒色粒	良好		
1586	C	SK33	土器	灯明皿	無高台平形	8.6	5.0	18.0	—	轆轤成形	底部回転糸切り・スス付着	無油		細砂粒含む	細砂粒含む	糖 (7.5YR6/6)	白色粒・黒色粒	良好		
1587	C	SK33	土器	灯明皿	無高台平形	(8.6)	5.0	2.1	—	轆轤成形	底部回転糸切り・見込み平坦・スス付着	無油		粗砂粒含む	粗砂粒含む	赤褐 (5YR4/6)	白色粒・金色粒	良好	在地系	
1588	C	SK33	土器	灯明皿	無高台平形	8.6	4.8	2.4	—	轆轤成形	スス付着	無油		粗砂粒含む	粗砂粒含む	明褐 (7.5YR5/6)	赤色粒・白色粒・金色粒	良好	在地系	
1589	C	SK33	土器	灯明皿	無高台平形	9.6	6.4	1.9	—	轆轤成形	底部回転糸切り・内外面砂・炭化物付着	無油		細砂粒含む	細砂粒含む	明赤褐 (2.5YR5/6)	赤色粒・白色粒・黒色粒	良好		
1593	C	SK35	磁器	中碗	丸形	(10.2)	4.1	5.2	—	轆轤成形	くらわんか手	透明油		密	密	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末
1594	C	SK35	陶器	擂鉢	口縁折線形	(25.8)	—	〈10.3〉	—	轆轤成形		鉄油	黒褐 (7.5YR2/2)	密	密	浅黄褐 (10YR8/3)	赤色粒・白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀4四半期
1596	C	SK36	磁器	小碗	丸形	(8.0)	(3.4)	3.9	—	轆轤成形	染付	透明油		密	密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末
1597	C	SK36	磁器	小皿	玉縁形	(13.5)	(8.0)	3.5	—	轆轤成形	蛇の目高台	透明油		密	密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀末
1598	C	SK36	磁器	猪口	桶形	(7.6)	(5.8)	5.6	—	轆轤成形	蛇の目凹形高台	透明油		密	密	白	黒色粒	良好	肥前系	
1599	C	SK37	陶器	中碗	丸形	(10.5)	4.6	6.8	—	轆轤成形	尾呂茶碗・灰油縁口縁部にウツノ袖	灰油	明黄褐 (2.5Y6/6)	密	密	淡黄 (2.5YR8/4)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀末～18世紀初
1600	C	SK37	陶器	中碗	異器形	—	4.0	3.8	—	轆轤成形	高台部に砂付着	灰油	浅黄 (5Y7/3)	密	密	灰白 (5Y7/1)	赤色粒・白色粒	良好		17世紀末～18世紀初
1601	C	SK37	土器	焙烙	有耳	32.4	30.0	6.8	—	轆轤成形	底平坦・耳が内壁に付く・スス付着	無油		粗砂粒含む	粗砂粒含む	にぶい褐 (7.5YR6/3)	赤色粒・黒色粒・金色粒	良好	在地系	
1602	C	SK38	磁器	小碗	半球形	(8.4)	—	(5.3)	—	轆轤成形	染付	透明油		密	密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初
1603	C	SK38	磁器	小碗	半球形	(8.3)	(3.4)	5.5	—	轆轤成形	丸形淺鉢み碗・断面に磨擦痕あり	透明油		密	密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初
1604	C	SK38	磁器	中碗	丸形	(10.0)	4.2	5.2	—	轆轤成形	くらわんか手	透明油		密	密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末
1605	C	SK38	磁器	碗	浅半球形	(9.8)	(4.2)	4.6	—	轆轤成形	染付	透明油		密	密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀末
1606	C	SK38	磁器	紅箱口	浅丸形	—	2.9	〈1.8〉	—	轆轤成形	黒色釉粒・貫入あり	透明油		密	密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後葉

*法量()は複元差測値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	軸調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1607	C	SK38	陶器	香炉	有三足半筒形	—	(9.4)	(3.8)		轆轤成形	絵付	内面・底部無軸	灰釉	黄(2.5Y7/8)	細砂粒含む	淡黄(2.5Y8/4)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀
1608	C	SK42	陶器	中碗	腰筒形	—	4.4	(3.1)		轆轤成形		貫入あり・腰筋碗	内(灰釉内)灰白(10Y8/1)・外(鉄釉黒褐(10YR2/3))	灰白(5Y8/1)	密	灰白(5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第2四半期~第4四半期
1609	C	SK42	陶器	中瓶	筒形・口縁外帯	3.5	—	(7.1)		轆轤成形		口縁部折り返し	灰白(5Y7/2)	密	褐灰(10YR6/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀末以降	
1610	C	SK42	陶器	水注	筒形	—	5.6	(4.0)		轆轤成形			灰白(5Y7/2)	密	褐灰(10YR6/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀末以降	
1611	C	SD2	磁器	小鉢	碗形	—	(3.6)	(3.8)		轆轤成形	染付	焼成不良	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1612	C	SD2	磁器	小碗	半筒形	(7.2)	—	(4.9)		轆轤成形	染付	湯飲み碗	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初頭	
1613	C	SD2	磁器	仏飯器	台座輪高台	—	3.5	(5.6)		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	頭	
1614	C	SD2	磁器	小皿	丸形	—	(8.0)	(2.3)		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~18世紀末	
1615	C	SD2	磁器	端反辣直形	端反辣直形	—	(3.0)	(5.3)		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1616	C	SD2	磁器	中瓶	端反辣直形	—	4.7	(3.6)		轆轤成形	染付	輪高台・高台に砂付着	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀3四半期	
1617	C	SD2	磁器	中瓶	端反辣直形	—	(6.0)	(7.0)		轆轤成形		クリ底	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後葉	
1618	C	SD2	磁器	蓋	腰筒形	(9.6)	(3.5)	2.2		轆轤成形	染付	焼成不良あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀初頭~19世紀中葉	
1619	C	SD2	陶器	中碗	腰筒形	(10.6)	—	(4.8)		轆轤成形			鉄釉	密	灰白(10YR8/7)	黒石	良好	瀬戸美濃系		
1620	C	SD2	陶器	中碗	浅半球形	—	(3.9)	3.3		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀前葉~中葉	
1621	C	SD2	磁器	中碗	丸形	9.2	3.6	5.1		轆轤成形	染付	くらわんか手	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
1622	C	SD2	磁器	大碗	丸形	(12.6)	(4.5)	6.5		轆轤成形	染付	くらわんか手・高台部に粘土?付着	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
1623	C	SD2	磁器	小皿	丸形	(13.2)	7.0	3.7		轆轤成形	染付・コンニャク印判	高台が溝漕	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~末	
1624	C	SD2	磁器	五寸皿	丸形	(14.2)	7.4	3.3		轆轤成形	染付・コンニャク印判	底の自輪割ぎ	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~18世紀末	
1625	C	SD2	磁器	小皿	辣直形	—	(5.5)	(3.1)		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
1626	C	SD2	陶器	碗	丸形	(7.4)	(4.1)	3.4		轆轤成形		削り出し高台	灰釉	密	灰白(10YR8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1627	C	SD2	陶器	小碗	半筒形	—	4.5	(1.6)		轆轤成形			灰釉	密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1628	C	SD2	陶器	中碗	丸形	—	(4.4)	(4.3)		轆轤成形		石器質	灰釉	密	黄灰(2.5Y6/1)	白色粒・黒色粒	良好			
1629	C	SD2	陶器	碗	丸形	(10.4)	—	(6.3)		轆轤成形			灰釉	密	にぶい黄褐(10YR7/3)	白色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第2四半期~第4四半期	
1630	C	SD2	陶器	蒲鉢	丸形	—	(15.0)	(4.6)		轆轤成形			鉄釉	密	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1631	C	SD2	陶器	土鍋	丸形三足	(15.8)	—	(7.3)	(16.9)	轆轤成形		紐状取耳	鉄釉	密	灰白(10YR8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉~19世紀前葉	
1632	C	SD2	土器	蓋	腰筒形	(15.8)	(4.7)	2.6	12.0	轆轤成形		底部回転糸切り	無釉	密	にぶい黄褐(10YR7/4)	白色粒・黒色粒	良好			
1633	C	SD2	磁器	小皿	丸形	12.5	7.4	2.4		轆轤成形	染付・銅版転写		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治20年以降	
1634	C	SD2	磁器	皿	丸形	—	7.5	(2.7)		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~末	
1635	C	SD2	陶器	灯明受皿	抽清一平鉢2箇所	(11.0)	5.1	(2.5)	7.0	轆轤成形		底部回転糸切り・スス付着	鉄泥	密	にぶい黄(7.5Y6/3)	黒色粒	良好	志戸呂	17世紀中葉~18世紀中葉	
1636	C	SD2	陶器	乗漣	たんご形	—	3.4	(3.0)	1.2	轆轤成形		底部回転糸切り・底部軸孔あり	鉄釉	密	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1637	C	SD2	磁器	中碗	丸形	(9.9)	—	(4.7)		轆轤成形	染付・コンニャク印判	煎じ焼・貫入あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末~18世紀末	
1638	C	SD2	磁器	火入	半筒形	(9.8)	—	(7.6)		轆轤成形	染付	コンニャク印判後手描き	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
1639	C	SD2	陶器	碗	丸形	—	4.2	(3.6)		轆轤成形		くらわんか碗・半邊半筒・貫入あり	透明釉	密	褐灰(7.5YR6/1)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
1640	C	SD2	陶器	碗	腰折系	—	(3.8)	(2.9)		轆轤成形		煎じ焼・貫入あり	灰釉	緻密	灰白(5Y7/2)	黒色粒	良好	京・信楽系	18世紀中葉	
1641	C	SD2	陶器	碗	浅半球形	—	2.4	(1.9)		轆轤成形		貫入あり	灰白(10Y7/1)	緻密	灰白(5Y7/2)	黒色粒	良好	京・信楽系	18世紀前葉	
1642	C	SD2	陶器	片口	口縁切込丸形	16.6	8.9	9.4	(19.5)	轆轤成形		口縁切込・底部無軸	灰釉	密	灰白(2.5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀前葉	
1643	C	SD2	陶器	蒲鉢	口縁外帯三級・口縁内凸帯大	24.2	—	10.3		轆轤成形			無釉	密	白	白色粒・黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~18世紀後葉	
1644	C	SD2	陶器	蒲鉢	腰筒形	—	(12.0)	(7.5)		轆轤成形			鉄釉	密	灰白(2.5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1645	C	SD2	陶器	壺	双耳腰筒形	—	7.6	9.5		轆轤成形		高台と体部の一部にスス付着	鉄釉	密	にぶい黄褐(10YR7/2)	赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1646	C	SD2	陶器	蓋	腰筒形	7.3	5.2	3.3	1.2	轆轤成形		土瓶蓋	鉄釉	密	淡黄(2.5Y6/4)	白色粒	良好		18世紀第3四半期以降	

*法量()は還元率測値、()は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	細溝	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1647	C	SE3	土器	小皿	無高台平形	(11.4)	(4.5)	2.5		轆轤成形		底部回転糸切り	無釉		細砂粒含む	橙(7.5YR7/6)	白色粒・黒色粒	良好		
1648	C	SX1	磁器	小杯	碗反形	(6.3)	(3.6)	4.6		轆轤成形	染付・銅版転写	西洋コ/シルト・黒付き無釉	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降
1649	C	SX1	磁器	小杯	碗反形	(6.8)	(3.5)	3.7		轆轤成形	染付・銅版転写	西洋コ/シルト	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降
1650	C	SX1	磁器	中碗	平形	(11.0)	(3.5)	4.5		轆轤成形	染付・銅版転写		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降
1651	C	SX1	磁器	碗	平形	(11.0)	(3.8)	4.7		轆轤成形	染付	型紙摺・西洋コ/シルト	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治15～20年代
1652	C	SX1	磁器	中碗	平形	(11.1)	(3.8)	4.8		轆轤成形	染付	型紙摺・西洋コ/シルト	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治15～20年代
1653	C	SX1	磁器	湯手酒杯	平形	(7.0)	(2.6)	2.9		轆轤成形	上絵付	鉤高台・底部銘あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀初頭以降
1654	C	SX1	磁器	小皿	丸形	(10.4)	(6.2)	2.0		轆轤成形	染付	鉤高台・西洋コ/シルト	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降
1655	C	SX1	磁器	小皿	丸形	(13.0)	(7.4)	2.1		轆轤成形	染付・銅版転写	型紙摺・西洋コ/シルト	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治15～20年代
1656	C	SX1	磁器	小皿	丸形	(13.2)	(7.2)	2.7		轆轤成形	染付	蛇の目高台・型紙摺・西洋コ/シルト	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治15～20年代
1657	C	SX1	磁器	五寸皿	碗反形	(14.4)	(7.0)	(3.9)		轆轤成形	染付・銅版転写		透明釉		緻密	灰白(N8/)		良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降
1658	C	SX1	磁器	五寸皿	丸形	(15.0)	(7.7)	4.2		轆轤成形		蛇の目高台・型紙摺・西洋コ/シルト・高台内側に砂付着	灰釉	明緑灰(10GY8/1)	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治15～20年代
1659	C	SX1	磁器	五寸皿	丸形	(15.0)	(9.0)	4.9		轆轤成形	染付・銅版転写	蛇の目高台	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降
1660	C	SX1	磁器	中皿	平形	(11.0)	(3.4)			轆轤成形	上絵付・染付	二重高台	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	明治20年代以降
1661	C	SX1	磁器	高台協重ね	急須	(12.4)	(11.4)	4.0		轆轤成形	染付	型紙摺	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	明治10年代～大正
1662	C	SX1	磁器	急須	急須	7.1	7.5	7.9	(14.4)	轆轤成形	染付	西洋コ/シルト	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀後葉以降
1663	C	SX1	磁器	蓋	平形	(9.0)	(3.2)	2.1		轆轤成形	染付・銅版転写	西洋コ/シルト・つまみ部内部に銘あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降
1664	C	SX1	磁器	蓋	平形	(10.1)	(3.8)	2.4		轆轤成形	染付	型紙摺・西洋コ/シルト	透明釉		緻密	白(9/)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治15～20年代
1665	C	SX1	磁器	蓋	平形	(10.1)	(4.2)	2.3		轆轤成形	染付	型紙摺・西洋コ/シルト	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治15～20年代
1666	C	SX1	陶器	中碗	筒丸形	(10.0)	4.6	7.7		轆轤成形		口縁部に緑釉	灰釉	灰(5Y6/1)	緻密	灰白(N7/)	褐色粒・黒色粒	良好		
1667	C	SX1	陶器	火入	半筒形	(10.2)	(4.9)			轆轤成形		瓦器質・陽刻模様	鉄釉	黒(2.5Y2/1)	緻密	灰白(5Y7/1)	黒色粒	良好		
1668	C	SX2	磁器	小杯分	碗反形	(6.6)	(3.2)	4.3		轆轤成形	染付	脚版転写・西洋コ/シルト	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治20年代以降
1669	C	SX2	磁器	小杯分	碗反形	(6.9)	(3.3)	4.2		轆轤成形	上絵付	西洋コ/シルト	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀後葉以降
1670	C	SX2	磁器	中碗	平形	(11.7)	(4.2)	4.9		轆轤成形	染付	型紙摺・西洋コ/シルト	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	明治15～20年代
1671	C	SX2	磁器	蓋	平形	7.1	1.5	2.4		轆轤成形		孔あり	外)鉄釉 内)透明明赤褐(2.5YR3/4)		緻密	灰白		良好		
1672	C	SX2	陶器	瓶	筒形	(8.5)	(6.1)	16.5		轆轤成形	鉄絵	筒芝巻利	灰釉	灰白(10YR/1)	緻密	灰白(5Y7/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀初葉
1673	C	SX2	陶器	瓶	筒形	(12.0)	(6.1)			轆轤成形		筒芝巻利・底部糸切後貼り付竹高台・銘あり	灰釉	灰白(10YR/1)	密	灰白(7.5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀～20世紀前半
1684	C	SX2	ガラス製品	薬瓶	いかり扇形	(2.0)	4.0	9.5				裏面に「鏡元 土屋圃次郎」	無釉							
1685	C	SX4	磁器	小碗	筒形	(8.8)	(5.6)			轆轤成形	染付	青磁染付	青磁釉	灰白(10Y7/1)	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初
1686	C	SX4	磁器	中皿	丸形	(20.3)	(12.5)	4.6		轆轤成形	染付	黒付き無釉・砂付着・高台内面銘あり	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀
1687	C	SX4	陶器	小碗	丸形	6.8	3.7	4.1		轆轤成形		削り出し高台・内面目跡あり	灰釉	明黄褐(2.5Y6/8)	密	灰白(2.5Y6/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1688	C	SX4	陶器	灯明皿	無高台平形	8.7	3.8	1.7		轆轤成形		見込み環状痕あり・口縁部やや膨らむ	鉄釉	暗褐(7.5YR4/3)	密	灰(5Y6/1)	褐色粒	良好	瀬戸美濃系	
1689	C	SX4	陶器	灯明受皿	油漬切立状	(10.7)	5.2	1.7	8.0	轆轤成形		内堀が口縁部より高い・外面環状痕あり	鉄釉	暗褐(7.5YR3/4)	密	浅黄緑(10YR8/3)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1690	C	SX4	陶器	片口か	丸形	(10.0)	5.5	7.0	—	轆轤成形			灰釉	灰オリーブ(5Y5/3)	密	灰白(10YR8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第2四半期～第3四半期
1691	C	SX4	陶器	植木鉢	髑髏桶形	(30.0)	(15.3)			轆轤成形			灰釉	浅黄(5Y7/3)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	長石・赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉以降
1692	C	SX4	陶器	髪油壺	脚丸形	(6.3)				轆轤成形	貫入あり		灰釉・緑釉	灰白(2.5Y8/2)・暗オリーブ(7.5Y4/3)	細砂粒含む	灰白(10YR8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1695	C	遺構外	磁器	中皿	碗反形	(24.0)	13.7	3.3		轆轤成形	染付	目跡4ヶあり・口縁部に墨弾き	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀前半～中葉
1696	C	遺構外	磁器	蓋物	半筒形	12.1	8.1	9.4		轆轤成形	染付	口縁部無釉	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	
1697	C	遺構外	陶器	中鉢	旬干形	(20.0)	(8.4)			轆轤成形		源内焼	灰釉・鉄釉・黄釉	灰白(2.5Y8/2)	密	灰白(10YR8/2)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉以降
1698	C	遺構外	陶器	中水注	後手半筒形	7.4	7.5	8.8		轆轤成形		明赤褐(5YR3/6)	鉄釉	明赤褐(5YR3/6)	密	にぶい黄緑(10YR7/3)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉
1700	C	遺構外	土器	極小皿	無高台平形	(4.8)	(3.6)	1.2		轆轤成形		底部回転糸切り	無釉		細砂粒含む	灰黄褐(10YR6/2)	白色粒	良好		

*法量()は復元式測値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	軸調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1701	C	遺構外	土器	埴輪蓋	深桶形	(5.8)	(5.0)	(9.2)		捺作り成形		蓋受け大	無釉		砂礫含む	黄緑(10YR8/6)	赤色粒・白色粒・黒色粒	良好		17世紀4四半期～18世紀第2四半期
1702	C	遺構外	土器	焼烙	手付き	(11.5)	(11.7)	(4.6)		轆轤成形		スズ片着・取手の下部に指の押さへ痕・取手に孔あり	無釉		粗砂粒含む	灰黄褐(10YR5/2)	白色粒・金色雲母	良好	在地系	
1703	C	遺構外	土製品	火入	連筒形	(11.3)	(8.8)	(13.7)		型打成形			無釉		細砂粒含む	白色粒・黒色粒・金色雲母	良好	在地系	18世紀中葉以降	
1704	C	遺構外	土製品	七厘	胴部窓筒形	—	18.9	(12.7)		轆轤成形		底部砂付着・外面滑き黒色・有3足	無釉		細砂粒含む	黄(5YR6/6)	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	良好		
1705	C	遺構外	土製品	土鈴	土鈴	2.5	2.3	2.3		手捏ね成形		内部にICMの球	無釉		細砂粒含む	黄(7.5YR6/6)	赤色粒	良好	在地系	
1706	C	遺構外	土製品	人形	備呂	3.6	3.1	5.4		型合わせ成形			無釉		細砂粒含む	黄(5YR7/6)	赤色粒・黒色粒・金色雲母	良好		
1717	D	SK3	磁器	小碗	半筒形	(7.0)	—	(5.2)		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初	
1718	D	SK3	磁器	小碗	半筒形	(7.1)	(3.5)	5.3		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初	
1719	D	SK3	磁器	中碗	丸形	(10.1)	4.0	5.4		轆轤成形	染付	くらわんか手	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	17世紀	
1720	D	SK3	磁器	中碗	丸形	(10.0)	4.2	6.0		轆轤成形	染付・コンニャク印判	くらわんか手・底部「大明年製」銘あり	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1721	D	SK3	磁器	中碗	丸形	(9.6)	3.9	5.2		轆轤成形	染付	くらわんか手・高台内に銘あり・内面に砂付着	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1722	D	SK3	磁器	大碗	丸形	(12.0)	—	(4.1)		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系		
1723	D	SK3	磁器	仏飯器	台座輪高台	—	3.5	(3.4)		轆轤成形			透明釉		緻密	白色粒・黒色粒	良好	肥前系		
1724	D	SK3	磁器	小皿	丸形	(12.6)	(7.4)	(3.2)		轆轤成形	染付・コンニャク印判	くらわんか手・墨付に砂付着・口縁縁筋あり・底部「大明年製」あり	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1725	D	SK3	磁器	小皿	丸形	—	8.5	(2.2)		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
1726	D	SK3	磁器	火入	半筒形	—	(7.0)	(3.3)		轆轤成形	染付	底の凹形高台・底面銘あり・高台内砂付着輪高台	青磁釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系		
1727	D	SK3	磁器	神酒徳利	瓶子形	5.5	—	(5.7)		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白色粒・黒色粒	良好	肥前系	18世紀後葉～19世紀中葉	
1728	D	SK3	陶器	小碗	丸形	—	(3.9)	(3.4)		轆轤成形		貫入あり	長石釉・鉄釉		細砂粒含む	灰白(2.5YR8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系か	
1729	D	SK3	陶器	中碗	丸形	10.8	3.2	5.2		轆轤成形	鉄絵	柳碗	灰白(10Y7/1)	赤	淡黄(2.5YR8/3)	淡黄(2.5YR8/3)	良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉～19世紀初	
1730	D	SK3	陶器	中碗	腰瓶形	(10.4)	(3.0)	(5.2)		轆轤成形		墨付も無釉・腰サセ額	灰釉・鉄釉	赤	灰白(2.5YR8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀2四半期	
1731	D	SK3	陶器	中碗	丸形	(9.8)	(3.7)	(5.3)		轆轤成形	染付	墨付無釉・貫入あり	透明釉		細砂粒含む	灰白(2.5YR8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第4四半期～19世紀第1四半期
1732	D	SK3	陶器	仏飯器	台座鉢り込み	—	3.9	(2.2)		轆轤成形			灰釉		密	灰白(2.5YR8/2)	赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉
1733	D	SK3	陶器	皿		—	5.2	(1.7)		轆轤成形	染付・型紙摺	貫入あり	灰釉		細砂粒含む	灰白(10YR8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀後葉～19世紀初頭
1734	D	SK3	陶器	鉢か		—	(12.0)	(8.3)		轆轤成形			灰釉		密	灰白(10YR7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系か	
1735	D	SK3	陶器	鉢	鉢	(14.2)	(2.6)	(4.8)		轆轤成形		瀬木器・糸焼き・ぬり込み・底面高台内輪跡	無釉		細砂粒含む	黄(2.5YR6/6)	白色粒・黒色粒・雲母	良好	京都系	
1736	D	SK3	陶器	播鉢	播鉢	(21.8)	(4.8)	(4.8)		轆轤成形		底部高台作り・見込欄目散在	無釉		粗砂粒含む	黄(2.5YR6/8)	赤色粒・黒色粒	良好	明石・堺系	18世紀中葉以降
1737	D	SK3	陶器	植木鉢	植木鉢	—	(20.0)	(7.4)		轆轤成形	刷毛目	下部は茶(鉄釉?)上部は緑色の釉をかけて刻花・内面は数種の刷毛目塗り	緑釉・鉄釉		粗砂粒含む	灰白(10YR8/1)	長石・石英色粒	良好		
1738	D	SK3	陶器	大壺	半筒形	—	(26.8)	(10.7)		轆轤成形		穿孔あり(植木鉢に転用か)・高台内面に目跡(ボタモチ)	鉄釉		粗砂粒含む	灰白(10YR8/1)	長石・石英・赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1739	D	SK3	陶器	蓋	蓋	(7.6)	—	(1.8)		轆轤成形			鉄釉		緻密	灰(5Y6/1)	良好			

*法量 () は還元値、(<) は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	細調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1740	D	SK3	土器	火鉢	楕円三足	(26.0)	(21.0)	(20.1)		板作り成形		無釉		細砂粒含む	明赤褐 (5YR5/6)	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	良好	在地系		
1741	D	SK3	土器	七厘五徳か朝顔形		(27.7)	(11.4)	12.2		轆轤成形	スス付着	無釉		細砂粒含む	にぶい橙 (5YR6/3)	赤色粒・白色粒・金色雲母	良好	在地系		
1746	D	SK4	磁器	中碗	丸形	—	(5.3)	(3.3)		轆轤成形	くらわんか手・被熱している	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1747	D	SK4	磁器	小皿	丸形	(11.0)	(6.5)	2.5		轆轤成形	景徳鎮	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
1748	D	SK4	磁器	五寸皿	丸形	(13.5)	(7.8)	3.1		轆轤成形	被熱している	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後半	
1749	D	SK4	磁器	蓋	丸形	—	(5.2)	1.3		轆轤成形	内面スス付着	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
1750	D	SK4	陶器	線刻か	口縁玉縁形	(16.5)	—	(5.3)		轆轤成形	貫入あり	灰釉		細砂粒含む	灰白(2.5Y7/1)	黒石・石英	良好			
1758	D	SK5	磁器	五寸皿	碗形	(14.6)	—	(4.0)		轆轤成形	口縁・体部にかけて細かい砂付着・貫入あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
1759	D	SK5	陶器	皿	折縁形	—	8.5	(2.4)		轆轤成形	輪ハズ血	灰釉	灰白(2.5GY8/1)	密	灰白(2.5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉	
1760	D	SK5	陶器	楕円	口縁折縁形	(30.8)	(14.0)	13.2		轆轤成形	楕円七類・目跡あり(ボタモチ)	鉄釉	明赤褐(5YR3/2)	相砂粒含む	灰白(5YR8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀4四半期	
1761	D	SK6	磁器	小碗	碗形	—	4.3	(2.7)		轆轤成形		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1762	D	SK6	磁器	紅箱口	楕円形	(4.8)	—	(1.4)		型打成形		透明釉		密	灰白	黒色粒	良好	肥前系		
1763	D	SK6	磁器	小皿	楕円形	(11.4)	(7.0)	2.2		形押し成形		透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1764	D	SK6	磁器	皿	楕円形	—	(6.3)	(1.4)		轆轤成形	底部「成化(年製)」跡あり	透明釉		密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
1765	D	SK6	陶器	楕円鉢	丸形	8.4	—	(6.1)		轆轤成形		鉄釉	黒褐(7.5YR2/2)	密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好		備前～明治	
1767	D	SK9	磁器	小碗	丸形	(7.5)	3.3	3.8		轆轤成形	染付・コンニャク印判	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1768	D	SK9	磁器	小碗	丸形	(7.2)	(3.2)	3.9		轆轤成形		透明釉		緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好	肥前系		
1769	D	SK9	磁器	中碗	丸形	(10.8)	(4.4)	5.1		轆轤成形	底の目跡割ぎ・高台底に少量の砂付着	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～後葉	
1770	D	SK9	磁器	中碗	丸形	10.0	4.4	5.3		轆轤成形	底部内面に茶葉弾り痕あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1771	D	SK9	磁器	中碗	丸形	10.0	4.3	5.6		轆轤成形	くらわんか手・高台内底あり・貫入あり	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1772	D	SK9	磁器	中碗	半球形	—	—	(2.9)	3.1	轆轤成形		透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1773	D	SK9	磁器	大碗	丸形	(13.4)	(5.5)	7.1		轆轤成形	くらわんか手・高台砂付着	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
1774	D	SK9	磁器	仏飯器	台底輪高台	—	3.9	(4.8)		轆轤成形	高台外周下部に少量の砂付着	灰釉	明緑灰(10GY8/1)	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1775	D	SK9	磁器	小皿	丸形	(12.5)	(6.7)	4.0		轆轤成形	くらわんか手・高台内底あり・高台部に砂付着	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系		
1776	D	SK9	磁器	小皿	楕円形	(1.6)	—	(10.8)		轆轤成形		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
1777	D	SK9	磁器	蓋	丸形	—	4.0	(4.3)		轆轤成形	貫入あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
1778	D	SK9	磁器	蓋	丸形	(9.8)	(8.8)	(2.2)	(3.0)	轆轤成形	貫入あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
1779	D	SK9	陶器	小碗	半球形	(9.0)	3.5	5.2		轆轤成形	灰釉に貫入あり	灰釉	灰白(10Y7/1)	密	灰白(10YR7/1)	白色粒	良好	肥前系	18世紀中葉	
1780	D	SK9	陶器	中碗	半球形	(9.6)	3.3	5.5		轆轤成形	削り出し高台・貫入あり	灰釉	灰白(7.5Y7/1)	密	灰白(7.5Y7/1)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前葉	
1781	D	SK9	陶器	中碗	腰張形	(9.5)	4.8	6.8		轆轤成形		灰釉	オリーブ(5Y5/4)	細砂粒含む	褐灰(10YR6/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～後葉	
1782	D	SK9	陶器	中碗	腰張形	—	5.0	(4.9)		轆轤成形	削り出し高台	灰釉	オリーブ(5Y5/6)	密	灰白(5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1783	D	SK9	陶器	灯明皿	クワ底平形	(9.4)	(4.2)	2.1		轆轤成形	見込み部に目跡あり・貫入あり	灰釉	浅黄(2.5Y7/4)	密	灰白(2.5Y8/2)	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
1784	D	SK9	陶器	灯明皿	無蓋台平形	(8.3)	(4.2)	1.4		轆轤成形	見込み部に目跡あり	鉄釉	明赤褐(5YR3/4)	密	褐灰(5YR6/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
1785	D	SK9	陶器	楕円	口縁外帯形	(5.0)	11.9	13.8		轆轤成形	底部に目跡あり	鉄釉	明赤褐(2.5YR3/3)	密	灰白(5Y8/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
1786	D	SK9	磁器	楕円鉢	把手無し	(3.0)	—	(14.1)		轆轤成形	底部に輪糸切り	灰釉	灰白(10Y7/2)	密	灰白(5Y7/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
1787	D	SK9	陶器	中瓶	腰張形	3.0	—	(11.2)		轆轤成形	口縁外帯	鉄釉	黄褐(2.5Y8/3)	密	淡黄(2.5Y8/3)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1788	D	SK9	陶器	仏花瓶	筒口形	(10.4)	—	(7.0)		轆轤成形	貫入あり	灰釉・鉄釉	灰黄(2.5Y7/2)・黒(N1.5)	細砂粒含む	灰白(10YR7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1789	D	SK9	陶器	中氷注	後手半筒形	—	(8.6)	(6.3)		轆轤成形	貫入あり	灰釉	灰白(5Y8/2)	密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1790	D	SK9	陶器	蓋	腰張形	(10.1)	(10.2)	(1.0)		轆轤成形	蓋物蓋・貫入あり	灰釉	灰白(5Y7/2)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1792	D	SK11	磁器	小杯	腰張形	(4.9)	(3.0)	2.0		轆轤成形	口縁部無釉	透明釉		密	白	黒色粒	良好	肥前系		
1793	D	SK11	磁器	小杯	腰張形	5.4	2.0	2.8		轆轤成形		透明釉		密	白	黒色粒	良好	肥前系		
1794	D	SK11	磁器	小碗	腰張形	8.5	3.7	4.0		轆轤成形	高台底に少量の砂付着	透明釉		緻密	灰白(N8/)	黒色粒	良好	肥前系		
1795	D	SK11	磁器	小碗	丸形	(8.8)	(3.8)	4.9		轆轤成形	くらわんか手	透明釉	灰白(10Y8/1)	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	

*法量()は復元法測値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形		法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	軸調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
					A	B	C	D													
1796	D	SK11	磁器	小碗	底広形		(8.9)	(3.4)	5.0		轆轤成形	染付・コンニャク印判		透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系	18 世紀前半～中葉	18 世紀前半～19 世紀前葉
1797	D	SK11	磁器	小碗	半球形		8.5	3.5	5.6		轆轤成形	染付	貫入あり	透明釉		緻密	白		良好 肥前系	18 世紀中葉～19 世紀前葉	18 世紀中葉～19 世紀前葉
1798	D	SK11	磁器	小碗	半球形		(8.7)	3.6	5.5		轆轤成形	染付		透明釉		密	灰白		良好 肥前系	18 世紀中葉～19 世紀前葉	18 世紀中葉～19 世紀前葉
1799	D	SK11	磁器	小碗	半球形		(8.6)	3.4	6.3		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白		良好 肥前系	18 世紀中葉～19 世紀前葉	18 世紀中葉～19 世紀前葉
1800	D	SK11	磁器	小碗	半筒形		8.2	5.0	7.1		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系	18 世紀中葉～19 世紀初頭	18 世紀中葉～19 世紀初頭
1801	D	SK11	磁器	小碗	半筒形		(8.0)	4.0	6.2		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白		良好 肥前系	18 世紀中葉～19 世紀初頭	18 世紀中葉～19 世紀初頭
1802	D	SK11	磁器	中碗	丸形		11.4	4.4	6.7		轆轤成形	青磁染付		青磁釉		緻密	灰白(N&S)		良好 肥前系	17 世紀末～18 世紀末	17 世紀末～18 世紀末
1803	D	SK11	磁器	中碗	底碗形		11.4	4.2	5.9		轆轤成形	染付	望料源・量付無軸	透明釉		緻密	白		良好 肥前系	18 世紀中葉～後葉	18 世紀中葉～後葉
1804	D	SK11	磁器	中碗	底碗形		(11.3)	4.0	5.7		轆轤成形	染付	望料源・量付無軸	透明釉		緻密	白		良好 肥前系	18 世紀中葉～後葉	18 世紀中葉～後葉
1805	D	SK11	磁器	中碗	丸形		(10.4)	4.7	5.0		轆轤成形	染付	くらわんか手・蛇の目状軸割ぎ・量部無軸・目跡あり	透明釉		細砂粒含む	灰白(N&S)		良好 肥前系	17 世紀末～18 世紀末	17 世紀末～18 世紀末
1806	D	SK11	磁器	中碗	丸形		10.2	3.7	5.2		轆轤成形	染付	くらわんか手・量部無軸・目跡あり	透明釉		細砂粒含む	白(9)		良好 肥前系	17 世紀末～18 世紀末	17 世紀末～18 世紀末
1807	D	SK11	磁器	中碗	丸形		10.1	3.4	5.2		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系	18 世紀後葉	18 世紀後葉
1808	D	SK11	磁器	中碗	丸形		10.1	4.0	5.0		轆轤成形	染付	くらわんか手	透明釉		密	灰白		良好 肥前系	17 世紀末～18 世紀中葉	17 世紀末～18 世紀中葉
1809	D	SK11	磁器	中碗	丸形		(10.2)	3.7	(5.0)		轆轤成形	染付	くらわんか手・量部無軸・目跡あり	透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系	17 世紀末～18 世紀末	17 世紀末～18 世紀末
1810	D	SK11	磁器	中碗	丸形		(10.0)	3.8	5.4		轆轤成形	染付		灰釉		緻密	灰白		良好 肥前系	17 世紀末～18 世紀末	17 世紀末～18 世紀末
1811	D	SK11	磁器	中碗	丸形		9.8	4.2	4.8		轆轤成形	染付	くらわんか手	透明釉		緻密	白		良好 肥前系	17 世紀末～18 世紀末	17 世紀末～18 世紀末
1812	D	SK11	磁器	中碗	丸形		(9.6)	3.3	5.4		轆轤成形	染付	くらわんか手・高台部砂付着	透明釉		緻密	白		良好 肥前系	17 世紀末～18 世紀末	17 世紀末～18 世紀末
1813	D	SK11	磁器	中碗	浅半球形		(10.0)	3.5	4.7		轆轤成形	染付	高台部に付着物あり	透明釉		緻密	白		良好 肥前系	18 世紀中葉～後葉	18 世紀中葉～後葉
1814	D	SK11	磁器	碗	丸形		9.7	4.0	4.8		轆轤成形	染付	高台部に砂付着	透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系	18 世紀中葉～中葉	18 世紀中葉～中葉
1815	D	SK11	磁器	中碗	半球形		(9.2)	3.3	6.0		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白		良好 肥前系	18 世紀中葉～19 世紀前葉	18 世紀中葉～19 世紀前葉
1816	D	SK11	磁器	大碗	丸形		15.2	5.8	8.2		轆轤成形	染付・コンニャク印判	くらわんか手	透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系	17 世紀末～18 世紀末	17 世紀末～18 世紀末
1817	D	SK11	磁器	紅猪口	浅丸形		7.8	2.6	3.4		轆轤成形	上絵付	内部金流・赤絵の裏付着	透明釉		緻密	白		良好 肥前系	17 世紀末～18 世紀末	17 世紀末～18 世紀末
1818	D	SK11	磁器	紅猪口	平形		5.5	2.6	1.6		轆轤成形			青磁釉		細砂粒含む	灰白(N&S)		良好 肥前系		
1819	D	SK11	磁器	紅猪口	菊花形		(5.2)	(1.6)	1.6		型打成形			白磁釉		緻密	白(9)		良好 肥前系		
1820	D	SK11	磁器	仏飯器	台底輪高台		(5.9)	3.8	6.6		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系		
1821	D	SK11	磁器	小皿	丸形		14.0	8.0	4.5		轆轤成形	染付・コンニャク印判	くらわんか手・なます皿・高台部砂付着	透明釉		緻密	灰		良好 肥前系	18 世紀中葉	18 世紀中葉
1822	D	SK11	磁器	小皿	丸形		13.8	7.8	4.8		轆轤成形	染付・コンニャク印判	なます皿	透明釉		緻密	白		良好 肥前系	18 世紀中葉	18 世紀中葉
1823	D	SK11	磁器	小皿	丸形		13.5	7.7	3.9		轆轤成形	染付・コンニャク印判	くらわんか手・高台部砂付着	透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系	18 世紀中葉～末	18 世紀中葉～末
1824	D	SK11	磁器	小皿	丸形		13.2	7.7	3.8		轆轤成形	染付	くらわんか手・量付きに砂付着	透明釉		緻密	白		良好 肥前系	18 世紀中葉	18 世紀中葉
1825	D	SK11	磁器	小皿	丸形		13.2	6.1	3.2		轆轤成形	染付	蛇の目軸割ぎ・量部無軸・見込み目跡あり	透明釉		緻密	灰白(N&S)		良好 肥前系	18 世紀中葉～末	18 世紀中葉～末
1826	D	SK11	磁器	小皿	変形形		8.6	5.3	2.2	6.6	型打成形	染付・型紙罫		透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系	18 世紀前半葉	18 世紀前半葉
1827	D	SK11	磁器	小皿	変形形		(8.6)	(5.0)	2.1	(6.7)	型打成形	染付・型紙罫		透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系	18 世紀前半葉	18 世紀前半葉
1828	D	SK11	磁器	猪口	桶形		(7.6)	5.0	5.7		轆轤成形	染付	腰輪高台・貫入あり	透明釉		緻密	白		良好 肥前系		
1829	D	SK11	磁器	蓋物	腰形		9.0	4.6	4.7		轆轤成形	染付		透明釉		密	灰白		良好 肥前系		
1830	D	SK11	磁器	火入	半筒形		(10.4)	7.9	(6.8)		轆轤成形	染付	蛇の目形高台	透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系		
1831	D	SK11	磁器	火入	半筒形		(10.0)	7.0	7.0		轆轤成形	染付	蛇の目形高台	透明釉		緻密	白		良好 肥前系		
1832	D	SK11	磁器	火入	半筒形		(9.6)	(6.5)	(7.0)		轆轤成形	染付	蛇の目形高台・口唇部に破打痕あり	透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系		
1833	D	SK11	磁器	小瓶	辣垂形		—	(8.3)	(8.3)	7.5	轆轤成形	染付	輪高台・胴部下が環状に近い・高台部に砂付着	透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系	18 世紀末～19 世紀前半葉	18 世紀末～19 世紀前半葉
1834	D	SK11	磁器	小瓶	辣垂形		—	5.4	(6.9)	—	轆轤成形	染付	クリ底	透明釉		緻密	白		良好 肥前系	18 世紀後半葉以降	17 世紀中葉
1835	D	SK11	磁器	中瓶	端反辣垂形		4.2	5.6	21.2		轆轤成形	染付	クリ底	透明釉		緻密	灰白(2.5Y7/1)		良好 肥前系	17 世紀中葉	17 世紀中葉
1836	D	SK11	磁器	中瓶	辣垂形		—	(6.8)	18.6	12.3	轆轤成形	染付	クリ底	透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系	18 世紀前半葉～中葉	18 世紀前半葉～中葉
1837	D	SK11	磁器	髪指壺	頸丸形		2.5	—	(8.9)	—	轆轤成形	染付	有肩	透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系	18 世紀後半葉以降	18 世紀後半葉以降
1838	D	SK11	磁器	髪指壺	扁平形		1.7	—	(3.1)	—	轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白		良好 肥前系	18 世紀後半葉以降	18 世紀後半葉以降
1839	D	SK11	陶器	中碗	腰張形		10.4	3.8	6.4		轆轤成形	染付	半磁半陶・貫入あり・量部無軸	透明釉		細砂粒含む	灰白(2.5Y7/1)		良好 肥前系	18 世紀前半葉以降	18 世紀前半葉以降
1840	D	SK11	陶器	中碗	腰張形		10.3	4.1	6.6		轆轤成形	染付	半磁半陶・貫入あり・量部無軸	透明釉		細砂粒含む	灰白(2.5Y7/1)		良好 肥前系	18 世紀前半葉以降	18 世紀前半葉以降

*法量()は還元率測値、〈 〉は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代	
						A	B	C	D												
1841	D	SK11	陶器	中碗	腰張形	10.0	3.6	6.3		轆轤成形	染付	半磁半陶	透明釉		密	灰白(2.5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好 肥前系	肥前	18世紀前半	
1842	D	SK11	陶器	中碗	腰張形	9.8	3.5	6.2		轆轤成形	染付	半磁半陶・高台部に砂付着	透明釉		密	灰白(2.5Y7/1)	黒色粒	良好 肥前系	肥前	18世紀前半	
1843	D	SK11	陶器	中碗	腰張形	9.5	3.8	6.4		轆轤成形	染付	半磁半陶・高台部に砂付着	透明釉		密	灰白(2.5Y7/1)	黒色粒	良好 肥前系	肥前	18世紀前半	
1844	D	SK11	陶器	小碗	腰張形	9.0	4.2	5.8		轆轤成形	染付	貫入あり	灰釉	灰白(5G7/1)	密	灰白(5Y8/1)	白色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半	
1845	D	SK11	陶器	小碗	腰張形	8.8	3.8	5.1		轆轤成形		灰釉・鉄粒掛け分け・鉄粒落とし	灰釉・明緑灰(5GY7/1)・黒褐(5YR2/2)	密	灰白(5Y8/1)	白色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半		
1846	D	SK11	陶器	小碗	半球形小	8.2	3.8	6.3		轆轤成形	上絵付	貫入あり・高台部無釉・京焼	灰釉	灰白(2.5Y8/2)	密	灰白(10YR8/2)	黒色粒	良好 信楽系	信楽	18世紀中葉	
1847	D	SK11	陶器	小碗	半筒形	7.8	4.2	6.2		轆轤成形		貫入あり	灰釉	淡黄(2.5Y8/4)	密	淡黄(2.5Y8/3)	長石・石英・赤色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀後半	
1848	D	SK11	陶器	中碗	平円形	13.2	4.6	5.8		轆轤成形	刷毛目	削り出し高台	透明釉		密	灰白(2.5Y8/2)	長石・石英・赤色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀後半	
1849	D	SK11	陶器	中碗	平円形	12.9	4.9	5.8		轆轤成形	刷毛目	底部回転へう削り	透明釉		密	灰白(2.5Y8/2)	長石・石英・赤色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀後半	
1850	D	SK11	陶器	中碗	平円形	12.9	4.8	5.4		轆轤成形	刷毛目	削り出し高台・刷毛目縁	透明釉		密	灰白(2.5Y8/2)	長石・石英・赤色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀後半	
1851	D	SK11	陶器	中碗	球形	10.8	3.6	6.2		轆轤成形	鉄絵	柳茶碗	灰釉	灰白(7.5Y7/1)	密	灰白(10YR7/1)	白色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀後半	
1852	D	SK11	陶器	中碗	拳骨形	10.3	—	5.2		轆轤成形			鉄釉	黒(5YR1.7)	密	白	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	19世紀以降	
1853	D	SK11	陶器	中碗	輪廓形	10.7	4.8	7.6		轆轤成形		灰釉後鉄粒落とし	灰釉・灰白(2.5Y7/1)・黒褐(7.5Y3/2)	密	灰白(2.5Y8/1)	白色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	19世紀前半		
1854	D	SK11	陶器	中碗	腰張形	9.6	4.2	5.5		轆轤成形		腰縁碗	灰釉・灰白(5Y7/2)・黒褐(10YR2/2)	密	灰白(10YR7/1)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	19世紀前半		
1855	D	SK11	陶器	中碗	腰張形	9.6	4.0	6.0		轆轤成形		腰縁碗・貫入あり・高台部底に砂付着	灰釉・灰白(2.5YR8/1)・黒褐(10YR2/3)	密	灰白(5Y8/1)	白色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半		
1856	D	SK11	陶器	中碗	半球形	9.4	4.3	5.9		轆轤成形		貫入あり	灰釉・灰白(10Y7/2)・暗褐(10YR3/4)	密	灰白(2.5Y8/2)	白色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半		
1857	D	SK11	陶器	中碗	腰張形	11.4	5.5	6.9		轆轤成形	染付	削り出し高台・京焼風・貫入あり	灰釉	灰白(10Y7/1)	密	灰白(2.5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半	
1858	D	SK11	陶器	中碗	丸形	10.6	5.6	6.8		轆轤成形			灰釉	暗オリーブ(5Y4/4)	密	灰白(2.5Y7/1)	白色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半	
1859	D	SK11	陶器	中碗	丸形	11.2	5.6	6.7		轆轤成形		灰釉丸碗	灰釉	オリーブ黄(5Y6/3)	密	灰白(2.5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半	
1860	D	SK11	陶器	中碗	腰張形	9.6	4.0	6.0		轆轤成形			灰釉・灰白(2.5Y8/1)・黒(7.5YR1.7/1)	密	灰白(5Y8/1)	白色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半		
1861	D	SK11	陶器	中碗	半球形	9.2	3.6	6.6		轆轤成形	上絵付	貫入あり・高台部無釉	灰釉	淡黄(2.5Y8/3)	密	灰白(10YR8/2)	黒色粒	良好 信楽系	信楽	18世紀中葉	
1862	D	SK11	陶器	中碗	脚盤形	7.5	4.0	7.3		轆轤成形		高台に目跡あり	鉄釉・明赤褐(5YR3/3)・灰白(5Y7/1)	密	灰白(2.5Y8/1)	白色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀中葉		
1863	D	SK11	陶器	中碗	腰折形	—	4.0	2.7		轆轤成形		せんじ縁・灰釉・鉄粒掛け分け碗・貫入あり	灰釉・灰白(5Y6/2)・暗褐(7.5YR3/3)	密	灰白(5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀中葉		
1864	D	SK11	陶器	小皿	丸形	10.0	4.3	2.7		轆轤成形	染付		透明釉		密	灰白	長石	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半	
1865	D	SK11	陶器	灯明皿	クリ底平形	10.1	5.1	2.4		轆轤成形		見込み目跡あり(三足ハマ跡)	鉄釉	明黄褐(10YR6/6)	密	浅黄褐(10YR8/3)	白色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半	
1866	D	SK11	陶器	中皿	平形	21.8	—	4.8		轆轤成形		輪赤皿・貫入あり	灰釉	灰白(5Y7/2)	密	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	17世紀後半	
1867	D	SK11	陶器	灯明皿	平形	10.0	—	2.1		轆轤成形		焼成不良	灰釉	灰(4)	密	灰(4)	白色粒	やや不良			18世紀前半
1868	D	SK11	陶器	灯明皿	無高台平形	8.0	3.8	1.7		轆轤成形		見込みと底部に目跡あり(環状痕)	鉄釉	暗褐(7.5YR4/4)	密	灰白	長石	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半	
1869	D	SK11	陶器	灯明皿	無高台平形	8.6	4.3	1.4		轆轤成形		底部回転へう削り・見込みと環状痕あり	暗褐(7.5YR3/4)	密	明褐灰(7.5YR7/1)		良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半		
1870	D	SK11	陶器	灯明皿	無高台平形	10.6	5.3	2.2		轆轤成形		底部回転へう削り・見込みと底部に目跡あり(環状痕)	赤褐(5YR4/6)	密	灰白(10YR8/2)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半		
1871	D	SK11	陶器	灯明皿	無高台平形	11.0	4.7	1.8		轆轤成形		底部回転へう削り・見込みと底部に目跡あり(環状痕)	暗赤褐(5YR3/3)	密	明褐灰(5YR7/1)		良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半		
1872	D	SK11	陶器	灯明皿	クリ底平形	10.6	5.5	2.6		轆轤成形		灯芯受あり・内面に目跡あり	鉄釉	暗褐(7.5YR4/3)	密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半	
1873	D	SK11	陶器	灯明皿	クリ底平形	10.8	5.4	2.5		轆轤成形		灯芯受あり・内面に目跡あり	鉄釉	暗褐(7.5YR4/4)	密	灰白(5Y8/1)	白色粒	良好 瀬戸美濃系	瀬戸美濃	18世紀前半	

*法量()は複元測値、()は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1874	D	SK11	陶器	灯明皿	無高台平形	9.8	4.8	1.8		轆轤成形		底部回転へう削り	灰釉	明オリープ灰(2.5GY7/1)	灰白(2.5Y7/1)		良好	瀬戸美濃系か	18世紀中葉～19世紀中葉	
1875	D	SK11	陶器	灯明皿	楕円付	(10.3)	5.0	2.3	(10.7)	轆轤成形		底部回転へう削り	灰釉	明オリープ灰(2.5GY7/1)	灰白(2.5Y7/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1876	D	SK11	陶器	灯明皿	クリ底平形	10.4	5.2	2.4		轆轤成形		自動あり	灰釉	明黄褐(2.5Y6/8)	淡黄(2.5Y6/3)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1877	D	SK11	陶器	片口	口縁切込平形	(10.0)	5.6	5.5	12.6	轆轤成形		焼成不良	灰釉	オリープ黄(5Y6/4)	灰白(5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1878	D	SK11	陶器	片口	口縁切込平形	11.9	5.8	5.8	13.0	轆轤成形		見込み3ヶ所目跡あり	鉄釉	黄褐(2.5Y5/4)	灰白(2.5Y7/1)		良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1879	D	SK11	陶器	片口	口縁切込丸形	21.0	11.8	13.7	25.0	轆轤成形		見込み3ヶ所目跡あり	灰釉	明黄褐(2.5Y6/6)	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1880	D	SK11	陶器	播鉢		—	15.4	(10.0)		轆轤成形		底部回転へう削り・見込みに目跡3ヶ所あり・底面に3ヶ所の粘土塊(ボクモ子)あり	鉄釉	にぶい赤褐(5YR4/4)	浅黄褐(10YR8/3)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1881	D	SK11	陶器	播鉢	口縁折縁形	(36.6)	—	(11.5)		轆轤成形			鉄釉	暗褐(7.5YR3/3)	灰白(7.5YR8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1882	D	SK11	陶器	播鉢	口縁折縁形	(37.9)	—	(11.2)		轆轤成形		播鉢F1～F2	鉄釉	明赤褐(5YR5/6)	灰白(2.5Y8/2)	赤色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀初	
1883	D	SK11	陶器	埴鉢	把手無し	(65.1)	14.3	15.8		轆轤成形		灰釉縁線細かけ流し・見込みに目跡あり	灰釉・緑釉	灰白(7.5Y8/2)	灰石・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀		
1884	D	SK11	陶器	植木鉢	鵝縁桶形	29.8	—	(13.5)		轆轤成形			灰釉	浅黄(7.5Y7/3)	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1885	D	SK11	陶器	植木鉢か	桶形	(6.5)	(4.9)	6.4		模造り成形			そぼ釉	明黄褐(10YR6/8)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉		
1886	D	SK11	陶器	香炉	無三足浅筒形	(6.7)	(4.1)	3.5		轆轤成形			灰釉	オリープ黄(5Y6/4)	赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉		
1887	D	SK11	陶器	香炉	有足浅筒形	(9.2)	(6.6)	(5.6)		轆轤成形			灰釉	浅黄(2.5Y7/4)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉		
1888	D	SK11	陶器	香炉	有足半筒形	(10.0)	(7.4)	5.8		轆轤成形		貼り付高台・購入あり	灰釉	黄褐(2.5Y5/6)	淡黄(2.5Y8/3)	茶褐色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀	
1889	D	SK11	陶器	火鉢	円筒形	(16.8)	19.8	16.9		轆轤成形		複製品・底面に切り欠き3ヶ所あり・口縁部に孔4ヶ所あり	鉄釉・黒石釉	黒褐(7.5Y3/1)・灰白(2.5Y8/1)	灰白(2.5Y8/2)		良好	瀬戸美濃系	18世紀	
1890	D	SK11	陶器	壺	双耳瀬戸壺形	(11.5)		(18.4)		轆轤成形			鉄釉	黒褐(7.5YR3/2)	にぶい橙(7.5YR6/4)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1891	D	SK11	陶器	中壺	双耳瀬戸壺形	10.8	8.2	13.9		轆轤成形		高台部無袖・内面中央に円形のでっぱり	透明釉	明赤褐(5YR3/6)	灰白(2.5Y8/1)	灰石・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	17世紀3四半期	
1892	D	SK11	陶器	中壺	胴丸形・輪高台	18.1	12.0	16.6		轆轤成形		見込みに3ヶ所目跡あり	鉄釉・黒釉	暗赤褐(5YR3/6)	灰白(2.5Y8/1)		良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1893	D	SK11	陶器	中壺	胴丸形・輪高台	(18.3)	—	(15.1)		轆轤成形			鉄釉	にぶい赤褐(5YR4/4)・オリーブ黒(7.5Y2/2)	灰白(5Y8/1)		良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1894	D	SK11	陶器	中壺	胴丸形	(22.0)	—	(15.6)		轆轤成形		灰釉縁線細かけ流し・購入あり	灰釉・緑釉	灰白(7.5Y7/2)	灰白(5Y8/1)		良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1895	D	SK11	陶器	中壺	半筒形	16.2	10.7	14.5		轆轤成形		口縁に目跡あり	鉄釉	暗褐(7.5YR3/3)	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1896	D	SK11	陶器	中壺	半筒形	(15.8)	(11.0)	13.8		轆轤成形		植木鉢転用か	鉄釉	にぶい赤褐(5YR4/4)	にぶい黄褐(10YR7/3)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1897	D	SK11	陶器	中壺	へこカノ形	—	6.6	(12.2)		轆轤成形			鉄釉	褐(7.5YR4/4)	褐灰(7.5YR6/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉以降	
1898	D	SK11	陶器	中壺	「高田徳利」形	7.6	16.1			轆轤成形		貧乏徳利	灰釉	にぶい黄(2.5Y6/4)	灰白(10YR8/2)	赤色粒・白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1899	D	SK11	陶器	小水注	後手棗形	—	3.4	6.9		轆轤成形		高台内銘あり「鹿山」	白釉・緑釉	灰白(2.5Y8/1)	赤色粒・黒色粒	良好	京・信楽系	18世紀中葉～19世紀中葉		
1900	D	SK11	陶器	小水注	半月口形	—	3.5	(5.2)		轆轤成形			灰釉	灰白(2.5Y7/1)	淡黄(2.5Y8/3)	赤色粒	良好	京・信楽系か	18世紀中葉～19世紀中葉	
1901	D	SK11	陶器	中水注	後手半筒形	6.7	5.6	8.4		轆轤成形		油次	鉄釉	明赤褐(5YR3/3)	灰白(10YR7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1902	D	SK11	陶器	水注	後手筒形	(12.8)	8.6	14.2		轆轤成形	上絵		灰釉	灰白(5Y8/2)	褐色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉		
1903	D	SK11	陶器	土瓶	三足イキ丸形か	(7.6)	(8.6)	(12.2)	(17.5)	轆轤成形			鉄釉	にぶい赤褐(5YR5/3)	褐色粒	良好	京・信楽系か	18世紀中葉～19世紀中葉		
1904	D	SK11	陶器	土瓶	算盤玉形	9.0	—	(9.1)	(21.7)	轆轤成形		袖掛分け(褐色釉の上に黄褐釉)	鉄釉	暗褐(7.5YR3/3)・黄褐(2.5Y5/6)	灰白(2.5Y8/2)	赤色粒・白色粒	良好	京・信楽系か	18世紀中葉～19世紀中葉	

*法量()は還元差測値、〈 〉は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1905	D	SK11	陶器	土罎	丸形三足・紐状双耳	(11.8)	(5.5)	(6.2)	<13.0>	轆轤成形		暗褐色(7.5YR3/3)	暗褐色(7.5YR3/3)	密	褐色(10YR4/1)		良好	不明	18世紀後半以降	
1906	D	SK11	陶器	土罎	丸形三足・紐状双耳	(20.7)	9.1	12.8	(21.6)	轆轤成形		明赤褐色(5YR3/4)	明赤褐色(5YR3/4)	密	褐色(5YR6/8)		良好			
1907	D	SK11	陶器	蓋		(12.4)	(4.2)	(4.2)		轆轤成形		暗褐色(7.5YR3/4)	暗褐色(7.5YR3/4)	密	灰黄(2.5Y6/2)	白色粒	良好			
1908	D	SK11	陶器	蓋		9.9	1.9	1.9		轆轤成形		暗褐色(7.5YR5/6)	暗褐色(7.5YR5/6)	密	淡黄(2.5Y8/4)	褐色粒	良好	在地系か		
1909	D	SK11	陶器	蓋		9.8	2.2	1.9		轆轤成形		明赤褐色(5YR5/6)	明赤褐色(5YR5/6)	密	灰白(2.5Y8/2)	赤色粒・黒色粒	良好			
1910	D	SK11	陶器	蓋		4.9	4.7	0.9		轆轤成形	貫入あり	灰白(5Y7/2)	灰白(5Y7/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
1911	D	SK11	陶器	蓋		9.9	10.0	1.0		轆轤成形		灰白(7.5Y8/2)	灰白(7.5Y8/2)	密	灰白(5Y8/1)	赤色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀後半	
1912	D	SK11	瓦器	楕圓鉢	口縁外帯三段	(35.4)	—	(10.6)		轆轤成形	口縁内帯小	無釉	明赤褐色(2.5YR5/6)	明赤褐色(2.5YR5/6)	粗砂粒含む	長石・白色粒・黒色粒	良好	明石系		
1913	D	SK11	土器	火入	半筒形	—	(10.2)	(4.6)		轆轤成形	高台内刻印「松花山」・ぬり込め	無釉	にぶい褐色(7.5YR7/4)	にぶい褐色(7.5YR7/4)	細砂粒含む	長石・石炭・赤色粒	良好	京・信濃系		
1914	D	SK12	磁器	小皿	丸形	(10.4)	(6.0)	2.0		轆轤成形	景徳鎮	透明釉	透明釉	緻密	白色粒	黒色粒	良好			
1915	D	SK12	磁器	小皿	丸形	13.0	7.0	3.1		轆轤成形	蛇の目状釉割ぎ・砂目あり	透明釉	透明釉	緻密	黒色粒	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後半	
1916	D	SK12	陶器	小碗	端反形	(9.0)	—	(4.0)		轆轤成形	貫入あり	灰白(10Y7/2)	灰白(10Y7/2)	緻密	灰(10Y8/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀前半	
1917	D	SK12	陶器	碗	腰張形	—	3.8	(2.5)		轆轤成形	腰張線・内面貫入あり	灰白(10Y7/2)	灰白(10Y7/2)	緻密	灰(10Y8/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後半	
1918	D	SK12	陶器	灯明皿	クリ底平形	(10.4)	(6.0)	2.4		轆轤成形	環状痕あり・見込みに目跡痕あり	無釉	無釉	緻密	褐色(5YR6/1)	白色粒・黒色粒	良好			
1919	D	SK13	磁器	中碗	端反形	—	(3.6)	(4.0)		轆轤成形	取っ手の跡?	透明釉	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1920	D	SK13	磁器	急須	丸形	(4.2)	—	(6.2)	—	轆轤成形		透明釉	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉以降	
1921	D	SK13	陶器	小碗	無縁形	7.0	3.9	3.9		轆轤成形	底部目跡痕あり	灰白(5Y7/2)	灰白(5Y7/2)	粗砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系か		
1922	D	SK13	土器	灯明皿	無高台平形	6.0	4.0	1.3		轆轤成形	底部回転糸切り	無釉	無釉	粗砂粒含む	にぶい褐色(5YR6/4)	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	良好	在地系		
1924	D	551	磁器	小杯	端反形	(6.2)	(3.0)	4.3		轆轤成形		透明釉	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
1925	D	551	磁器	小碗	端反形	(9.0)	(3.4)	5.0		轆轤成形		透明釉	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系		
1926	D	551	磁器	中碗	丸形	(10.0)	3.9	5.0		轆轤成形	高台部に砂付着	透明釉	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1927	D	551	磁器	中碗	丸形	(9.4)	3.8	5.0		轆轤成形	貫入あり・見込部に目跡(針)あり	透明釉	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
1928	D	551	磁器	中碗	丸形	—	(4.0)	(4.0)		轆轤成形	半磁片傷・貫入あり・高台部に砂付着	透明釉	透明釉	緻密	褐色(10YR6/1)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀以降	
1929	D	551	磁器	紅菊口平形	平形	5.0	2.5	1.2		轆轤成形		灰白(5Y8/1)	灰白(5Y8/1)	緻密	灰白	黒色粒	良好			
1930	D	551	磁器	仏飯器	台座輪高台	—	4.4	(5.2)		轆轤成形		透明釉	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
1931	D	551	磁器	小皿	丸形	(13.2)	(7.6)	4.1		轆轤成形	蛇の目形高台	透明釉	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1932	D	551	磁器	小皿	丸形底広	(13.0)	7.0	2.8		轆轤成形		透明釉	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
1933	D	551	磁器	中鉢	丸形	(14.2)	8.2	4.7		轆轤成形	縁・縁飾	透明釉	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
1934	D	551	磁器	小瓶	辣形	1.6	—	(10.7)		轆轤成形		透明釉	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系		
1935	D	551	磁器	小瓶	辣形	1.6	—	(12.5)		轆轤成形	口縁無装飾	透明釉	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系		
1936	D	551	磁器	中瓶	辣形	—	6.5	(3.6)		轆轤成形	クリ底	灰白(10Y8/1)	明緑灰(10Y8/1)	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
1937	D	551	磁器	戸車	辣形	4.6	—	1.2		轆轤成形	側面砂付着	透明釉	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好			
1938	D	551	磁器	蓋		10.1	6.0	2.9		轆轤成形	広葉碗の蓋	透明釉	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後半～19世紀中葉	
1939	D	551	陶器	中碗	腰張形	(10.3)	4.7	6.8		轆轤成形	見込みに目跡痕あり	灰白(2.5Y7/3)～暗灰黄(2.5Y4/2)	灰白(2.5Y7/3)～暗灰黄(2.5Y4/2)	密	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒・褐色粒	良好	瀬戸美濃系		
1940	D	551	陶器	灯明皿	無高台平形	(10.8)	(5.7)	1.6		轆轤成形	底部回転へう削り・見込みに環状痕あり・底部と見込みに目跡あり	無釉	無釉	緻密	明緑灰(5YR7/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
1941	D	551	陶器	灯明受皿	丸形	(11.0)	(4.8)	1.7	8.2	轆轤成形	目跡あり	無釉	無釉	緻密	褐色(5YR6/1)	褐色粒	良好	瀬戸美濃系		
1942	D	551	陶器	兼漚	台付たんごろ形	—	3.5	(4.9)	1.2	轆轤成形	底部回転糸切り・欄穴立・底部輪孔あり	無釉	無釉	緻密	灰白(7.5Y8/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
1943	D	551	陶器	仏花瓶		—	(7.9)	(8.2)		轆轤成形	貫入あり	青磁釉	明オリープ灰(2.5GY7/1)	密	灰白(N7/)	黒色粒	良好			

*法量()は復元法測値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・表飾技法	特徴・備考	釉薬	軸調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1944	D	S51	石器	擗鉢									無釉			赤(10YR4/6)	長石・白色 粒・黒色粒	良好	明石・堺系	
1946	D	遺構外	磁器	小杯	楕形	(4.2)	2.8	2.9					透明釉			白		良好	肥前系	
1947	D	遺構外	陶器	中碗	広東形	11.6	5.8	6.8		染付			透明釉			灰白(5Y8/1)		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉
1948	D	遺構外	陶器	灯明受皿		(10.6)	5.4	1.5	7.6			鉄釉	灰褐(5YR4/2)			灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1949	D	遺構外	陶器	乗瀕	台付たんころ形	5.2	4.0	4.0	1.3			鉄釉	黒褐(5YR2/1)			灰白(5YR8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1950	D	遺構外	陶器	灰吹	閉口形	5.2	5.8	7.7		下絵付		透明釉	淡黄(2.5Y8/3)			灰白(5Y8/2)	黒色粒	良好	京・信楽系	
1951	D	遺構外	陶器	人形	大黒天	2.6	2.0	4.8				鉄釉	灰白(5Y8/2)			灰白(5Y8/2)	黒色粒	良好		
1952	D	遺構外	陶器	模造品	下白	7.1	5.9	1.7				透明釉	胎赤褐(10R3/3)			灰(N5)		良好	瀬戸美濃系	
1953	相生	SK1	磁器	小杯	端反形	(5.1)	1.8	2.7		染付		透明釉			白		良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀初頭	
1954	相生	SK1	磁器	碗	半筒形か	—	—	(3.7)				透明釉			白		良好	肥前系		
1955	相生	SK1	磁器	小碗	筒丸形	—	4.8	(5.6)		染付		透明釉			白		良好	肥前系		
1956	相生	SK1	磁器	中碗	平形	(11.0)	—	(4.7)		染付・スクリーン転写		透明釉			白	黒色粒	良好		近代	
1957	相生	SK1	磁器	大碗	丸形	—	6.0	(3.4)		染付		透明釉			白	黒色粒	良好		近代	
1958	相生	SK1	磁器	薄手酒環	形	(5.2)	1.8	2.8		見込筋絵あり		透明釉			白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	近代	
1959	相生	SK1	磁器	小鉢	変形皿	(13.0)	(7.8)	4.0		形押文様		透明釉	口縁部明青灰(10B5G7/1)		白		良好	瀬戸美濃系	近代	
1960	相生	SK1	磁器	小鉢		—	5.4	(7.6)				灰釉・ 透明釉	黄(2.5Y8/6)		白		良好			
1961	相生	SK3	磁器	小碗	筒丸形	6.8	3.2	5.2		染付		透明釉			白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀前半～中葉	
1962	相生	SK3	磁器	小碗	端反形	7.6	3.3	3.8		染付		透明釉			白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀第3四半期～第4四半期	
1963	相生	SK3	磁器	小碗	丸形	7.8	3.2	4.9		高台に砂付着		透明釉			灰白	黒色粒	良好	肥前系		
1964	相生	SK3	磁器	小碗	筒丸形	(8.6)	4.6	8.1		深底の型焼・高台筋あり		透明釉			白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉以降	
1965	相生	SK3	磁器	中碗	端反形	10.6	4.3	5.6		貫入あり		透明釉			白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀第3四半期～第4四半期	
1966	相生	SK3	磁器	中碗	広東形	(11.0)	(6.4)	6.6		高台部砂付着		透明釉			白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後半～19世紀中葉	
1967	相生	SK3	磁器	紅猪口	平形	6.0	2.5	2.0		高台に砂付着		透明釉			灰白	黒色粒	良好	肥前系		
1968	相生	SK3	磁器	紅猪口	平形	5.4	2.5	1.9		高台に砂付着		透明釉			灰白	黒色粒	良好	肥前系		
1969	相生	SK3	磁器	紅猪口	菊花形	4.4	1.4	1.3				白磁釉	白		白(9)	黒色粒	良好			
1970	相生	SK3	磁器	小皿	丸形	(10.0)	(5.1)	2.2		輪花・縁繪あり		透明釉			白	黒色粒	良好	肥前系		
1971	相生	SK3	磁器	小皿	四角形	8.0	3.9	2.5		輪花		透明釉			白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀以降	
1972	相生	SK3	磁器	小鉢	丸形	(7.7)	(3.8)	6.2		口縁・高台外面に金彩		透明釉			白	黒色粒	良好	肥前系		
1973	相生	SK3	磁器	猪口	楕形	(8.0)	(5.8)	5.3		底の目凹形高台・外面高台部に砂付着・内面底部に砂付着		透明釉			白	黒色粒	良好	肥前系		
1974	相生	SK3	磁器	植木鉢	脚縁楕形	13.0	5.3	12.6		粉形・腰輪高台切込3		透明釉			白	黒色粒	良好		幕末～明治	
1975	相生	SK3	磁器	神酒徳利	瓶子形	—	4.0	(7.1)		輪高台		透明釉			白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後半～19世紀中葉	
1976	相生	SK3	磁器	戸重	型打成形	3.0	3.0	0.8				透明釉			白	黒色粒	良好			
1977	相生	SK3	陶器	小碗	端反形	8.4	2.8	4.3		貫入あり		灰釉	灰白(7.5Y7/2)			灰白(5Y8/1)	黒色粒	良好	京・信楽系	19世紀
1978	相生	SK3	陶器	小碗	端反形	8.7	2.7	4.5		貫入あり		灰釉	明ナリーブ灰(2.5GY7/1)			灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好	京・信楽系	19世紀
1979	相生	SK3	陶器	灯明受皿	油清切立状	(11.8)	6.0	3.4	8.5	底部回転へう削り		鉄釉	胎赤褐(2.5YR3/4)			灰白(5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
1980	相生	SK3	陶器	乗瀕	台付たんころ形	—	4.0	5.6	(1.7)	底部回転糸切り・底部軸孔あり・溝状芯立		鉄釉	外)胎赤褐(7.5R3(2)・内)胎赤灰(7.5R3(1))			褐色粒・黒色粒	良好			
1981	相生	SK3	陶器	擗鉢	口縁無蓋鉢	(16.0)	(7.0)	(5.6)		底部回転へう削り		鉄釉	糖(7.5YR7/6)			淡黄(2.5Y8/3)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀
1982	相生	SK4	磁器	小杯	楕形	4.8	2.8	3.0				白磁釉	白		白	黒色粒	良好			
1983	相生	SK4	磁器	中碗	端反形	10.5	3.8	5.7		染付		透明釉			白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1984	相生	SK4	磁器	中碗	端反形	10.6	4.0	5.7		染付		透明釉			白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1985	相生	SK4	磁器	紅猪口	菊花形	(4.4)	1.3	1.5		型打成形		透明釉	白		白	黒色粒	良好	肥前系		
1986	相生	SK4	磁器	仏飯器	台座輪高台	(6.4)	(4.0)	5.7		染付		透明釉	白		白	黒色粒	良好	肥前系		
1987	相生	SK4	磁器	合子	口縁蓋受け	5.1	5.8	1.6		染付		透明釉	白		白	黒色粒	良好	肥前系		
1988	相生	SK4	磁器	水滴	水筒形	(4.7)	(3.2)	(3.9)		被熱している		白磁釉	白		白	黒色粒	良好	肥前系		

*法量()は複元差測値、()は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
1989	相生	SK4	磁器	散り蓮華	小型	(8.3)	3.1	5.2	3.8	染付			透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀中葉
1990	相生	SK4	陶器	胴筒口・環橋み	半筒形	5.6	5.2	2.1			底部回転へラ削り	灰油	灰白(5Y8/2)	密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉	
1991	相生	SK4	陶器	中葉	胴丸形	—	13.9	(6.5)			自動4ヶ所あり・轆高台・黒軸流し掛け	鉄油	明赤褐(5YR3/4)	粗砂粒含む	灰黄(2.5Y7/2)	灰石・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉以降	
1992	相生	SK5	磁器	小碗	筒丸形	(6.4)	(3.2)	(4.5)		染付	量付無軸	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉以降	
1993	相生	SK5	磁器	小碗	筒丸形	(7.0)	(3.2)	(4.8)		染付	量付無軸	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉以降	
1994	相生	SK5	磁器	中瓶	棟形・轆高台	—	(7.4)	(11.3)		染付		透明釉	灰白(5Y8/1)	緻密	灰白(5Y8/1)	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉以降	
1995	相生	SK5	磁器	水漬	人物	(2.8)	(3.5)	2.4			一部須具による形色	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉以降	
1996	相生	SK5	陶器	小碗	丸形	6.0	2.9	(3.3)				透明釉	灰白(2.5Y8/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)	黒石・石英	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1997	相生	SK6	磁器	小碗	碗形	6.3	2.4	3.1		染付		透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前	
1998	相生	SK6	磁器	小碗	筒丸形	6.4	3.3	4.9		染付	焼継ぎ痕あり・高台部に焼継印あり	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉	
1999	相生	SK6	磁器	小碗	半球形	(7.1)	(3.0)	4.9		染付	貫入あり	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前	
2000	相生	SK6	磁器	小碗	半筒形	(8.0)	(3.6)	5.6		染付		透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初頭	
2001	相生	SK6	磁器	小碗	碗形	(8.3)	3.4	4.1		染付	疵の目形高台・見込部に疵あり	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉以降	
2002	相生	SK6	磁器	中碗	丸形	(9.6)	3.8	5.0		染付・コンニャク印判	高台部に砂付着	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
2003	相生	SK6	磁器	中碗	丸形	9.8	4.0	5.1		染付	くちらんが手・高台内疵あり・貫入あり	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
2004	相生	SK6	磁器	中碗	碗形	(10.4)	4.3	5.4		染付	見込部疵あり	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
2005	相生	SK6	磁器	薄手酒杯	丸形	—	(2.6)	(2.4)		染付	高台量付無軸	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
2006	相生	SK6	磁器	薄手酒杯	丸形	5.7	2.3	2.6		染付	脚高台	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀	
2007	相生	SK6	磁器	仏飯器	台底轆高台	(6.5)	4.2	6.6		染付		透明釉	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀	
2008	相生	SK6	磁器	小皿	変形(四弁花形)	9.9	5.1	2.5		染付		透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
2009	相生	SK6	磁器	小皿	丸形	13.1	7.4	4.4		染付		透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀中葉	
2010	相生	SK6	磁器	小鉢	丸形	(8.6)	4.7	5.9		染付		透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀中葉	
2011	相生	SK6	磁器	猪口	桶形	6.9	5.4	5.8		染付	疵の目形高台・焼継ぎ痕あり・高台内に焼継印あり	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉	
2012	相生	SK6	磁器	蓋	蓋	(9.2)	3.8	(2.8)		染付	端反碗の蓋	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉	
2013	相生	SK6	磁器	蓋	蓋	(9.2)	3.7	(2.4)		染付	望縁の蓋・つまみ部疵あり	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～後葉	
2014	相生	SK6	磁器	蓋	蓋	8.2	(3.3)	2.5		染付	見込部疵あり	透明釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉以降	
2015	相生	SK6	陶器	小碗	丸形	(5.5)	(3.1)	3.3			貫入あり・スス付着	灰油	灰オリーブ(5Y6/2)	密	浅黄褐(10YR8/3)	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
2016	相生	SK6	陶器	中碗	碗形	—	4.4	(4.3)			貫入あり・量付無軸	灰油・鉄油	灰白(5Y8/1)	密	灰白(5Y8/1)		良好	瀬戸美濃系	18世紀第4四半期	
2017	相生	SK6	陶器	中碗	碗形	—	4.9	(4.6)				灰油	黄(5Y7/6)	密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2018	相生	SK6	陶器	灯明皿	平形	6.8	2.3	1.3			貫入あり・目跡あり	灰油	灰白(2.5Y7/1)	密	浅黄褐(10YR8/3)	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
2019	相生	SK6	陶器	灯明皿	無高台平形	(10.8)	(5.0)	1.6			環状碗あり	鉄油	にぶい赤褐(5YR4/4)	密	灰白(2.5Y7/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
2020	相生	SK6	陶器	灯明皿	桶み付	(10.5)	(5.2)	1.8	(10.4)			環状碗あり	灰油	灰白(5Y7/1)	密	灰白(2.5Y7/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系	
2021	相生	SK6	陶器	灯明受皿	燈明受皿	7.0	3.2	(3.2)	4.8		底部回転糸切り・スス付着	灰油	明オリーブ灰(5Y7/1)	密	灰白(5Y7/1)	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
2022	相生	SK6	陶器	灯明受皿	油漕切状	(9.4)	(4.2)	(2.1)	(5.6)			鉄油	繩(7.5YR4/4)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
2023	相生	SK6	陶器	乗瀆	台付たんころ形	5.2	(4.9)	5.3	—		底部回転糸切り・底部軸孔あり	鉄油	明褐(10YR3/3)	密	灰白(5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2024	相生	SK6	陶器	蓋	蓋	6.7	2.2	1.6	0.9	下絵付	白形後縁絵・緑軸流し	白泥	淡黄(5Y8/3)	密	にぶい黄褐(10YR6/3)		良好	瀬戸美濃系	19世紀中葉以降	
2025	相生	SK6	陶器	蓋	蓋	8.1	2.7	2.5	2.7	染付	明毛目あり	透明釉	明赤褐(2.5YR3/3)	密	浅黄(2.5Y7/3)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2026	相生	SK6	陶器	蓋	蓋	9.5	4.4	1.8	1.6			鉄油	明赤褐(2.5YR3/3)	密	にぶい黄褐(10YR7/3)		良好	瀬戸美濃系		
2027	相生	SK6	土器	埴埴壺	埴埴形	(6.5)	4.3	5.5			底部回転糸切り	無釉		細砂粒含む	赤色粒・白色粒・黒色粒	良好				
2028	相生	SK6	土器	燈炉	胴丸形	(26.0)	(22.8)	19.7			口縁部窓・口縁内嵌掛・穴2ヶ所・三足貼付・内外面にスス付着	無釉		粗砂粒含む	長石・赤色粒・白色粒・在地系	良好				
2030	相生	SK7	磁器	小碗	筒丸形	(6.8)	—	(5.1)		染付		透明釉	灰白	緻密	灰白	白色粒	良好	肥前系	19世紀初葉～中葉	

*法量()は複元差測値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D										
2031	相生	SK7	磁器	小碗	筒丸形	(7.0)	(3.4)	(5.5)		轆轤成形	染付	豊付無釉・砂付着	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	19世紀前半～中葉	
2032	相生	SK7	磁器	小碗	筒丸形	7.0	4.0	5.8		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	19世紀前半～中葉	
2033	相生	SK7	磁器	小碗	筒丸形	(7.2)	(3.8)	(6.2)		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸系	19世紀中葉～後葉	
2034	相生	SK7	磁器	小碗	端反形	8.0	3.3	4.1		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系	19世紀前半～中葉	
2035	相生	SK7	磁器	小碗	端反形	(8.0)	(3.4)	4.8		轆轤成形	染付	縁部あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸系	19世紀第4 四半期	
2036	相生	SK7	磁器	小碗	端反形	(8.8)	4.1	3.9		轆轤成形	染付	縁部あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸系	19世紀	
2037	相生	SK7	磁器	中碗	端反形	10.8	4.1	6.0		轆轤成形	染付	縁部あり・焼印あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	19世紀中葉	
2038	相生	SK7	磁器	紅苜口	菊花形	4.4	1.2	1.3		型打成形			白磁釉	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好 肥前系		
2039	相生	SK7	磁器	薄手酒杯	端反形	6.2	2.7	2.7		轆轤成形	上絵付	卵殻手	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀後半～19世紀中葉	
2040	相生	SK7	磁器	小皿	丸形	(13.2)	(7.6)	3.6		轆轤成形	染付	蛇の目凹形高台・輪花・焼印あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀	
2041	相生	SK7	磁器	香炉	無三足鼎形	7.8	4.8	4.8		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系		
2042	相生	SK7	磁器	小瓶	端反丸形	1.5	(2.8)	7.6		轆轤成形	染付	クリ底	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 瀬戸系	19世紀	
2043	相生	SK7	磁器	蓋	端反丸形	(8.4)	(3.6)	(2.7)		轆轤成形	染付	望月縁の蓋	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	19世紀	
2044	相生	SK7	磁器	蓋	蓋	(9.4)	(4.0)	2.8		轆轤成形	染付		透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀中葉～後葉	
2045	相生	SK7	陶器	小碗	端反形	(6.8)	3.1	(3.5)		轆轤成形		貫入あり	灰釉	灰白(7.5Y8/2)	黒色粒	良好	瀬戸系	19世紀中葉	
2046	相生	SK7	磁器	中皿	端反形	(21.6)	(10.4)	4.2		轆轤成形	鉄絵	貫入あり・「壽」文字あり	灰釉	密	灰白(10YR8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸系	19世紀中葉
2047	相生	SK7	陶器	灯明皿	内湾形	(8.6)	(4.0)	(2.0)		轆轤成形			灰釉	密	灰白(2.5Y8/2)	良好 信楽系			
2048	相生	SK7	陶器	灯明皿	平形	(10.2)	(4.5)	2.0		轆轤成形		環状凹縁・外面下部鉄釉拭き取り	鉄釉	密	灰白(10YR7/1)	黒色粒	良好	瀬戸系	
2049	相生	SK7	陶器	灯明受皿		(12.2)	6.3	2.9	8.5	轆轤成形		底部凹縁・外面・底部鉄釉拭き取り跡	鉄釉	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸系	
2050	相生	SK7	陶器	乗瀕	台付たんころ形	6.5	5.1	5.3	1.6	轆轤成形		底部凹縁糸切り・底部穿孔あり	鉄釉	細砂粒含む	灰白(N8/)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸系	
2051	相生	SK7	陶器	乗瀕	台付たんころ形	4.6	3.4	4.4	1.0	轆轤成形		底部凹縁糸切り・底部穿孔あり	鉄釉	密	白(9/)	黒色粒	良好	瀬戸系	
2052	相生	SK7	陶器	擂鉢	口縁無蓋形	(15.8)	—	(5.0)		轆轤成形			鉄釉	密	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸系	
2053	相生	SK7	陶器	中環	脚丸形	(21.3)	—	(9.8)		紐造り		鉄釉後縁黒掛け流し	鉄釉	密	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸系	18世紀前半～19世紀中葉
2054	相生	SK7	石器	擂鉢	口縁外帯三段	(35.9)	—	(9.6)		轆轤成形		口縁内帯小	無釉	粗砂粒含む	明赤褐(2.5YR4/6)	長石・赤色粒・白色粒・黒色粒	良好	明石系	
2061	相生	SK9	磁器	小碗	半筒形	7.5	3.5	6.2		轆轤成形	染付	脚部洗滌	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀中葉～19世紀初頭	
2062	相生	SK9	磁器	大碗	丸形	14.2	5.8	7.6		轆轤成形	染付・コンニャク印判	口縁に指の押さえた跡あり	透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系	17世紀末～18世紀末	
2063	相生	SK9	磁器	五寸皿	丸形	14.4	9.0	4.1		轆轤成形	染付	蛇の目凹形高台・輪花・底部洗あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀中葉	
2064	相生	SK9	磁器	中鉢	腰張形	14.9	8.7	(4.9)		轆轤成形	染付	蛇の目凹形高台・輪花・底部洗あり	青磁釉・透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀	
2065	相生	SK9	磁器	猪口	桶形	7.0	4.6	5.4		轆轤成形		腰輪高台	白磁釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系		
2066	相生	SK9	磁器	猪口	桶形	(7.6)	(5.2)	(5.9)		轆轤成形	染付	腰輪高台・豊付無釉	透明釉	緻密	白	赤色粒・白色粒・黒色粒	良好 肥前系		
2067	相生	SK9	陶器	灯明皿	クリ底平形	7.8	3.6	1.8		轆轤成形			灰釉	細砂粒含む	淡黄(2.5Y8/4)	色粒・黒色粒	良好	瀬戸系	
2068	相生	SK9	陶器	擂鉢	口縁折縁形	34.0	13.6	14.3		轆轤成形		底部凹縁糸切り・底部内部に墨書あり	鉄釉	細砂粒含む	灰白(7.5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸系	19世紀初頭
2070	相生	SK10	磁器	小杯	端反形	(6.4)	2.7	2.7		轆轤成形			透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系		
2071	相生	SK10	磁器	小碗	半筒形	7.4	3.8	5.5		轆轤成形	染付	高台部砂付着	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀中葉～19世紀初頭	
2072	相生	SK10	磁器	小碗	半筒形	(7.4)	3.4	6.2		轆轤成形	染付	底部に銘あり	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀中葉～19世紀初頭	
2073	相生	SK10	磁器	小碗	端反形	7.6	3.0	(3.7)		轆轤成形	染付	豊付無釉	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系		
2074	相生	SK10	磁器	小碗	半筒形	7.7	4.0	6.3		轆轤成形	染付・コンニャク印判	豊付無釉	透明釉	緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀中葉～19世紀初頭	
2075	相生	SK10	磁器	小碗	丸形	8.2	3.3	4.4		轆轤成形	青磁釉付・コンニャク印判		透明釉	緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系	17世紀末～18世紀初頭	
2076	相生	SK10	磁器	小碗	丸形	(8.6)	3.6	4.5		轆轤成形	染付	豊付無釉	透明釉	緻密	灰白(2.5Y7/1)	黒色粒	良好 肥前系	18世紀中葉～後葉	

*法量()は還元差測値、〈 〉は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	油薬	釉調	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代	
						A	B	C	D											
2077	相生	SK10	磁器	小碗	腰瓶形	(9.0)	3.5	〈4.5〉		轆轤成形	染付	黒付無釉	透明油		白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
2078	相生	SK10	磁器	小碗	半球形	18.0	3.2	5.4		轆轤成形	染付	黒付無釉	透明油		白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前葉	
2079	相生	SK10	磁器	中碗	半球形	9.2	3.4	5.7		轆轤成形	染付	黒付無釉	透明油		白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前葉	
2080	相生	SK10	磁器	中碗	丸形	(10.0)	4.1	5.4		轆轤成形	染付・コンニャク印判		透明油		白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
2081	相生	SK10	磁器	中碗	丸形	(10.2)	4.0	5.1		轆轤成形	染付・コンニャク印判	高台内縁あり・黒付無釉・砂付着	透明油		白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
2082	相生	SK10	磁器	中碗	浅半球形	(10.4)	(3.8)	〈5.1〉		轆轤成形	染付	黒付無釉	透明油		白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後葉	
2083	相生	SK10	磁器	中碗	丸形	(10.4)	3.8	4.8		轆轤成形	染付	蛇の目細割ぎ・高台部に砂付着	透明油		白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
2084	相生	SK10	磁器	紅猪口	浅丸形	5.4	1.4	2.5		轆轤成形	下絵付		透明油		白	白色粒・黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀前葉	
2085	相生	SK10	磁器	紅猪口	菊花形	(4.2)	1.2	2.2		型打成形		白磁	白磁釉	白(9)	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀前葉	
2086	相生	SK10	磁器	紅猪口	菊花形	(4.1)	1.0	(1.2)		型打成形			白磁釉	白	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀前葉	
2087	相生	SK10	磁器	紅猪口	丸形	2.2	1.1	1.3		轆轤成形		白磁	白磁釉	白	白	黒色粒	良好	肥前系		
2088	相生	SK10	磁器	紅猪口	丸形	2.2	0.9	1.2		轆轤成形		黒付無釉	透明油		白	黒色粒	良好	肥前系		
2089	相生	SK10	磁器	仏飯器	底座輪高台	(6.0)	4.1	6.8		轆轤成形	染付	黒付無釉	透明油		白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉	
2090	相生	SK10	磁器	小皿	丸形	(13.0)	7.2	3.9		轆轤成形	染付・コンニャク印判	高台内縁あり・高台部に砂付着	透明油		白	黒色粒	良好	肥前系		
2091	相生	SK10	磁器	小皿	楕圓形	10.5	5.3	2.4		轆轤成形	染付	黒付無釉	透明油		白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉	
2092	相生	SK10	磁器	小皿	折縁形	10.1	6.1	2.0		轆轤成形	染付・型紙罫		透明油		白	黒色粒	良好	肥前系		
2093	相生	SK10	磁器	小皿	折縁形	(10.0)	(5.5)	2.1		轆轤成形			透明油		白	黒色粒	良好	肥前系		
2094	相生	SK10	磁器	五寸皿	丸形	(15.2)	(9.6)	3.8		轆轤成形	染付	断面に漆継ぎの痕跡あり	透明油		灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
2095	相生	SK10	磁器	五寸皿	丸形	(14.0)	8.0	4.5		轆轤成形	染付・コンニャク印判	輪花・高台内縁あり	透明油		灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉	
2096	相生	SK10	磁器	五寸皿	丸形	13.8	9.4	3.6		轆轤成形	染付	蛇の目形高台・高台無釉	透明油		白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀	
2097	相生	SK10	磁器	猪口	桶形	(7.6)	(5.2)	5.7		轆轤成形	染付	腰輪高台・黒付無釉	透明油		白	黒色粒	良好	肥前系		
2098	相生	SK10	磁器	猪口	桶形	(7.3)	3.9	〈5.6〉		轆轤成形	染付	腰輪高台・黒付無釉	透明油		白	黒色粒	良好	肥前系		
2099	相生	SK10	磁器	蓋物	轆轤形	(5.6)	3.1	3.0		轆轤成形	染付		透明油		白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後葉～19世紀中葉	
2100	相生	SK10	磁器	段重	腰瓶括れ	(12.8)	(7.6)	4.8		轆轤成形	染付		透明油		白	黒色粒	良好	肥前系		
2101	相生	SK10	磁器	大瓶	龍首逆龍形	—	8.8	(15.0)	16.3	轆轤成形	下絵付	胴部球状	透明油		灰白	黒色粒	良好	肥前系		
2102	相生	SK10	陶器	小坏	丸形	(6.0)	2.6	2.9		轆轤成形		無高台・底部回転糸切り	灰釉	灰黄(2.5Y7/2)	浅黄(2.5Y7/3)		良好			
2103	相生	SK10	陶器	小坏	端反形	6.5	2.6	3.4		轆轤成形		貫入あり	灰釉	灰白(5Y7/2)	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好			
2104	相生	SK10	陶器	小碗	丸形	(6.1)	2.6	2.8		轆轤成形		底部回転糸切り・柱状高台	灰釉	灰黄(2.5Y)	灰黄(2.5Y)	白色粒・黒色粒	良好	信楽系小		
2105	相生	SK10	陶器	小碗	丸形	(6.6)	2.9	3.4		轆轤成形		貫入あり	灰釉	灰白(5Y8/1)	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2106	相生	SK10	陶器	小碗	丸形	7.0	3.6	3.7		轆轤成形		削り出し高台	灰釉	オリーブ(5Y6/6)	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2107	相生	SK10	陶器	小碗	糸目形	(8.8)	3.4	5.1		轆轤成形		腰輪碗	灰釉・鉄釉	灰白(7.5Y8/1)・黒褐(10YR2/2)	灰白(2.5Y8/2)色粒	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2108	相生	SK10	陶器	小碗	半球形	(8.8)	(3.8)	(6.0)		轆轤成形		貫入あり・黒付無釉・鉄釉落とし	灰釉・鉄釉	灰白(2.5Y8/2)・黒(10YR2/1)	灰白(2.5Y8/2)色粒	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2109	相生	SK10	陶器	碗	半球形	(9.5)	3.1	5.5		轆轤成形	上絵付	貫入あり	灰釉	灰白(5Y8/2)	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	信楽系	18世紀後葉	
2110	相生	SK10	陶器	中碗	平形	13.7	5.5	5.7		轆轤成形	刷毛目	白泥	透明油		灰白(5Y8/1)	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉
2111	相生	SK10	陶器	中碗	腰瓶形	(9.0)	3.5	6.6		轆轤成形	上絵付		灰釉	淡黄(5Y8/3)	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	信楽系	18世紀後葉	
2112	相生	SK10	陶器	中碗	腰瓶形	9.2	4.1	5.8		轆轤成形	呉須絵	脚蓋茶碗	灰釉	灰白(10Y8/2)	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉	
2113	相生	SK10	陶器	中碗	半球形	(9.4)	3.4	5.6		轆轤成形	鉄絵	高台無釉・貫入あり	灰釉	灰白(5Y7/2)	灰白(10YR7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～後葉	
2114	相生	SK10	陶器	中碗	脚瓶形	8.6	4.0	7.4		轆轤成形		復原線部	緑釉		灰白(2.5Y8/1)色粒	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2115	相生	SK10	陶器	中碗	腰瓶形	(9.1)	(4.1)	5.3		轆轤成形		腰輪碗・貫入あり	灰釉・鉄釉	灰白(5Y8/2)・黒褐(7.5YR3/2)	灰白(2.5Y8/1)	灰白(2.5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉～19世紀前葉
2116	相生	SK10	陶器	碗	輪層形	(10.4)	(4.4)	7.2		轆轤成形		灰釉後鉄釉掛け流し	鉄釉	灰白(5Y7/1)・暗褐(7.5YR3/4)	灰白(5Y7/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀末	
2117	相生	SK10	陶器	中碗	丸形	(10.5)	4.8	7.3		轆轤成形			灰釉	オリーブ(5Y5/6)	灰白(10YR7/1)色粒	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2118	相生	SK10	陶器	碗	平形	13.0	5.2	5.5		轆轤成形	刷毛目	刷毛白碗	透明油		黄灰(2.5Y6/1)白色粒	白色粒	良好	瀬戸美濃系		

*法量()は復元測値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	特徴・備考	軸葉	軸調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D										
2119	相生	SK10	陶器	大碗	平形形	13.0	5.2	5.8		刷毛目	削り出し高台・刷毛目縁	透明釉	細砂粒含む	灰白(5Y7/3)	にぶい黄緑色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉～19世紀前期	
2120	相生	SK10	陶器	小皿	丸形	(13.6)	5.7	3.2		陶胎染付	貫入あり	灰釉	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀第4四半期～19世紀第1四半期	
2121	相生	SK10	陶器	小皿	丸形	12.1	5.2	3.3		染付・型紙摺	摺絵皿	灰釉	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～後葉	
2122	相生	SK10	陶器	小皿	丸形	—	5.6	(2.0)		染付・型紙摺	摺絵皿	灰釉	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～後葉	
2123	相生	SK10	陶器	灯明皿	無高台平形	11.1	5.1	1.9			底部回転へう削り・見込み環状痕あり・外面鉄軸拭き取り	鉄釉	密	褐灰(5YR5/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2124	相生	SK10	陶器	灯明皿	無高台平形	10.4	5.4	1.7			底部回転へう削り・見込み部・体部外面に目跡あり・外面鉄軸拭き取り	鉄釉	密	灰白(5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2125	相生	SK10	陶器	灯明皿	無高台平形	10.4	4.6	2.3			環状痕あり・鉄軸拭き取り	鉄釉	密	褐灰(10YR6/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2126	相生	SK10	陶器	灯明受皿	油漕切立状	(11.4)	15.0	1.9	8.5		外側体部目跡あり・鉄軸拭き取り	鉄釉	細砂粒含む	灰白(2.5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2127	相生	SK10	陶器	蓋物	半筒形	(9.5)	(4.8)	6.5		鉄絵		灰釉	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	京・信楽系		
2128	相生	SK10	陶器	握鉢	把手無し	(29.0)	—	12.8				灰釉・緑釉	細砂粒含む	灰白(7.5Y8/1)	長石・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉～19世紀中期	
2129	相生	SK10	陶器	香炉小	半筒形	—	10.1	(2.2)			ぬりこめ・産部銘あり「松花山」	無釉	細砂粒含む	にぶい黄緑(7.5YR6/4)・灰白色粒・雲母(7.5Y8/1)	赤色粒・白色粒	良好	京・信楽系		
2130	相生	SK10	陶器	小壺	双耳瀬戸壺形	—	(8.4)	(9.3)	14.9			灰釉	密	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2131	相生	SK10	陶器	中壺	半筒形	(18.8)	11.7	14.5			口縁部目跡あり	鉄釉	細砂粒含む	にぶい黄緑(10YR7/3)	長石・赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀前期葉～19世紀中期	
2132	相生	SK10	陶器	中壺	半筒形	(17.3)	11.8	14.3			口縁に2ヶ所目跡あり	鉄釉	粗砂粒含む	灰白(7.5Y8/2)	長石・赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀前期葉～19世紀中期	
2133	相生	SK10	陶器	大瓶	甕首逆壺形	4.6	(9.3)	(18.1)		染付	胴部環状・輪高台	透明釉	密	白	黒色粒	良好	肥前系		
2134	相生	SK10	陶器	大瓶	舟徳利形	2.9	(11.3)	(17.6)				鉄釉	密	灰白(10Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉～19世紀初期	
2135	相生	SK10	陶器	釜油壺	胴丸形	3.2	—	(7.8)			口縁部は灰釉の上に鉄軸がかかる・貫入あり	灰釉・緑釉	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2136	相生	SK10	陶器	土鍋	丸形	20.6	—	(9.4)	21.3		紐状双耳	鉄釉	密	灰黄(2.5Y7/2)	白色粒・黒色粒	良好			
2137	相生	SK10	陶器	土鍋	丸形三足	(12.5)	(4.6)	5.1				鉄釉	密	明赤褐(5YR3/3)	白色粒・黒色粒	良好			
2138	相生	SK10	陶器	人形	布袋	(5.6)	(3.1)	(4.9)			内面・指頭痕・指痕あり	灰釉	密	灰黄(2.5Y7/2)	黒色粒	良好	京・信楽系	18世紀後葉	
2139	相生	SK10	陶器	蓋	蓋	10.6	5.2	2.2	1.6		底部回転糸切り・目跡あり・環状鉄軸がかかる	鉄釉	密	灰白(10YR8/1)	白色粒	良好			
2140	相生	SK10	陶器	蓋	蓋	7.0	3.7	1.7	1.2		底部回転糸切り	鉄釉	密	灰白(2.5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好			
2141	相生	SK10	石器	捕鉢	口縁外帯三段	31.0	15.8	12.4			口縁内凸帯小・見込み目三角状・片口	無釉	粗砂粒含む	赤(10R5/8)	長石・白色粒・黒色粒	良好	明石系		
2142	相生	SK10	石器	焙烙	蓋	24.6	22.4	4.1			底平坦・内外面に糸あり	無釉	細砂粒含む	灰黄褐(10YR5/2)	石炭・赤色粒・白色粒・金色雲母	良好			
2143	相生	SK10	石器	蓋	蓋	7.9	7.6	1.5	1.7			無釉	粗砂粒含む	灰黄褐(10YR5/2)	赤色粒・白色粒・金色雲母	良好	在地系		
2144	相生	SK10	石器	蓋	蓋	7.2	7.5	(1.3)			焼蓋の蓋・内面布目痕	無釉	細砂粒含む	黄褐(10YR5/8)	赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母	良好			
2145	相生	SK10	土製品	人形	人物	(4.8)	(2.7)	(4.9)				無釉	細砂粒含む	にぶい黄緑(10YR7/2)	赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母	良好			

*法量()は還元率測定値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
2146	相生	SK10	陶器	人形	布袋	2.2	1.6	3.8		型合わせ成形		灰油	灰白(2.5Y8/2)	細砂粒含む	灰白	赤色粒・黒色粒	良好			
2146	相生	SK11	磁器	小碗	半筒形	(7.2)	3.6	(6.1)		染付・コンニャク印判	体部に穴2ヶ所・底面無軸・大黒天?	透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初	
2157	相生	SK11	磁器	小碗	半筒形	7.2	3.6	5.8		染付	墨付無軸	透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初	
2158	相生	SK11	磁器	小碗	楕円形	(7.2)	(3.4)	5.6		染付	輪花・縁線あり・墨付無軸	透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初	
2159	相生	SK11	磁器	小碗	半筒形	(7.4)	(4.0)	6.3		染付	墨付無軸	透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初	
2160	相生	SK11	磁器	小碗	半筒形	7.4	3.6	6.0		染付・コンニャク印判		透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初	
2161	相生	SK11	磁器	小碗	半筒形	7.5	3.8	6.6		染付・コンニャク印判		透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初	
2162	相生	SK11	磁器	小碗	半筒形	(7.7)	4.1	6.5		染付		透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初	
2163	相生	SK11	磁器	小碗	半筒形	(8.0)	3.8	5.9		染付		透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初	
2164	相生	SK11	磁器	小碗	半筒形	8.1	4.0	6.8		青磁染付・コンニャク印判	墨付無軸・貫入あり	透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初	
2165	相生	SK11	磁器	小碗	浅半球形	8.1	3.0	3.9		上絵付	断面に漆継ぎの痕跡あり・墨部無軸	透明油	白(9/)	緻密	白(9/)	黒色粒	良好	肥前系	18世紀第3四半期	
2166	相生	SK11	磁器	小碗	浅半球形	8.1	2.8	3.4		染付		透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初	
2167	相生	SK11	磁器	小碗	半球形	(8.6)	(3.5)	5.3		染付	断面に漆継ぎ痕あり・墨付無軸	透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初	
2168	相生	SK11	磁器	小碗	半球形	(8.6)	3.2	5.7		染付	墨付無軸	透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初	
2169	相生	SK11	磁器	小碗	丸形	9.0	4.0	5.6		染付	くらわんか手・内面に漆付着	透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀第2四半期~第4四半期	
2170	相生	SK11	磁器	小碗	無縁形	9.0	3.2	4.6		染付		透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初	
2171	相生	SK11	磁器	小碗	腰張形	9.2	4.2	6.3		染付・コンニャク印判	高台に刻印あり・京焼を意図したか・墨付無軸・貫入あり	透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末~18世紀前葉	
2172	相生	SK11	磁器	中碗	腰張形	8.8	3.8	6.4		染付・コンニャク印判	高台に刻印あり・京焼を意図したか・墨付無軸	透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末~18世紀前葉	
2173	相生	SK11	磁器	中碗	折湾形	(8.8)	3.5	4.6		染付		透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末~18世紀前葉	
2174	相生	SK11	磁器	中碗	丸形	(9.4)	3.7	4.6		染付	くらわんか手・貫入あり	透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀第2四半期~第4四半期	
2175	相生	SK11	磁器	中碗	丸形	(9.6)	4.0	5.1		染付	墨付無軸	透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~後葉	
2176	相生	SK11	磁器	中碗	丸形	(9.7)	4.0	5.4		染付	くらわんか手	透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~後葉	
2177	相生	SK11	磁器	中碗	丸形	(9.7)	3.8	5.1		染付・コンニャク印判	くらわんか手	透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末~18世紀初	
2178	相生	SK11	磁器	中碗	五稜形	9.7	3.5	5.5		染付		透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀第3四半期~第4四半期	
2179	相生	SK11	磁器	中碗	半球形	9.7	3.3	5.8		青磁染付		透明油・青磁釉	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~19世紀初	
2180	相生	SK11	磁器	中碗	丸形	10.0	3.8	5.2		染付・コンニャク印判		透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末~18世紀末	
2181	相生	SK11	磁器	中碗	丸形	(10.0)	3.8	5.5		染付・コンニャク印判	墨部無軸・貫入あり	透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末~18世紀末	
2182	相生	SK11	磁器	中碗	丸形	(10.1)	4.3	5.4		染付	くらわんか手・高台に鉄あり・墨付無軸	透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀第2四半期~第4四半期	
2183	相生	SK11	磁器	中碗	丸形	10.4	4.0	4.7		染付	くらわんか手・内面に赤漆付着・見込内蛇の目輪跡	透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~後葉	
2184	相生	SK11	磁器	中碗	丸形	11.0	4.0	5.1		染付	蛇の目輪跡・見込目跡あり	透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉~後葉	
2185	相生	SK11	磁器	大碗	丸形	(12.2)	4.6	7.1		染付	高台に鉄あり・墨付無軸	透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀第2四半期~第4四半期	
2186	相生	SK11	磁器	碗	丸形	13.5	8.0	4.5		染付・コンニャク印判	輪花	透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末~18世紀末	
2187	相生	SK11	磁器	大碗	丸形	(16.0)	6.2	8.0		染付	墨付無軸・高台に鉄あり	透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀第2四半期~第4四半期	
2188	相生	SK11	磁器	紅猪口	浅丸形	(7.4)	(2.4)	3.2		染付		透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
2189	相生	SK11	磁器	紅猪口	浅丸形	(5.0)	(1.2)	2.4		染付		透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
2190	相生	SK11	磁器	紅猪口	菊花形	(4.6)	1.4	1.5		型打成形		白磁釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
2191	相生	SK11	磁器	紅猪口	菊花形	(4.2)	(1.6)	1.2		型打成形	貫入あり	灰油	白(9/)	緻密	白(9/)	白色粒・黒色粒	良好			
2192	相生	SK11	磁器	紅猪口	菊花形	(4.2)	(1.0)	1.7		型打成形	粗砂粒が見込部・高台に漆付着	白磁釉	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
2193	相生	SK11	磁器	紅猪口	丸形	2.1	0.8	1.4		型打成形		透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
2194	相生	SK11	磁器	仏飯器	台座輪高台	(6.2)	3.4	4.9		染付	貫入あり	透明油	灰白(10Y8/)	緻密	灰白(9/)	赤色粒・黒色粒	良好	肥前系		
2195	相生	SK11	磁器	仏飯器	台座輪高台	6.1	4.3	6.5		染付		透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系		
2196	相生	SK11	磁器	極小皿	丸形	8.3	3.0	2.6		染付	墨部無軸・貫入あり	透明油	白	緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
2197	相生	SK11	磁器	小皿	丸形	13.2	7.5	3.8		染付・コンニャク印判	高台に鉄あり・墨付無軸	透明油	灰白	緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末~18世紀末	

*法量()は復元測値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・表飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
2198	相生	SK11	磁器	小皿	丸形	12.6	4.4	3.9		轆轤成形	染付	蛇の目状釉刺ぎ・底狭・高台置付無軸	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀	
2199	相生	SK11	磁器	小皿	腰反形	(10.0)	5.9	2.2		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系	17世紀末～18世紀初葉	
2200	相生	SK11	磁器	小皿	型打成形	5.4	3.8	1.7		型打成形	染付・型紙摺		透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系	17世紀末～18世紀初葉	
2201	相生	SK11	磁器	中皿	腰反形	(20.9)	(12.5)	2.8		轆轤成形	染付	高台内に銘あり・目跡あり	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系	17世紀末～18世紀中葉	
2202	相生	SK11	磁器	灯明受皿	油溝切立状	10.4	5.2	1.8	7.0	轆轤成形			透明釉		細砂粒含む	灰白(2.5Y7/1)	長石・黒色粒	良好 瀬戸美濃系		
2203	相生	SK11	磁器	中鉢	丸形	(14.2)	(8.0)	3.9		轆轤成形	染付	輪花・断面に漆継ぎの痕あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀	
2204	相生	SK11	磁器	腰折形	腰折形	(14.6)	7.7	4.2		轆轤成形	染付	断面に漆継ぎの痕跡あり・置付無軸・高台部銘あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀中葉	
2205	相生	SK11	磁器	猪口	桶形	7.9	6.6	4.7		轆轤成形		腰輪高台	白磁釉		緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系		
2206	相生	SK11	磁器	蓋物	腰反形	(12.5)	6.3	(6.7)		轆轤成形	染付	断面に漆継ぎの痕跡あり・置付無軸	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀	
2207	相生	SK11	磁器	蓋物	腰反形	7.8	4.0	4.0		轆轤成形	染付	内面に漆継ぎの痕跡あり・置付無軸	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀	
2208	相生	SK11	磁器	香炉	有三分筒形	—	3.2	(4.2)		轆轤成形	染付	柱状高台	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系		
2209	相生	SK11	磁器	香炉	無三分筒筒形	(8.0)	(5.6)	4.5		轆轤成形		蛇の目凹形高台	青磁釉		緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系		
2210	相生	SK11	磁器	火入	半筒形	10.6	7.7	7.5		轆轤成形	染付	蛇の目凹形高台	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系		
2211	相生	SK11	磁器	火入	半筒形	(10.1)	(6.2)	7.9		轆轤成形			青磁釉		緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系		
2212	相生	SK11	磁器	蓋	蓋	9.0	7.2	2.6	0.8	轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系		
2213	相生	SK11	磁器	蓋	蓋	(5.6)	(4.6)	1.6	(1.8)	轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系		
2214	相生	SK11	磁器	蓋	蓋	(10.0)	(3.6)	2.8		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系		
2215	相生	SK11	磁器	蓋	蓋	9.7	4.2	2.8		轆轤成形	染付	望料線の産	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好 肥前系		
2216	相生	SK11	磁器	蓋	蓋	9.4	3.7	2.5		轆轤成形	染付	望料線の産	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好 肥前系	18世紀中葉～後葉	
2217	相生	SK11	陶器	小坏	腰反形	6.5	2.7	2.0		轆轤成形			灰釉	灰オリーブ(7.5Y6/2)	緻	灰白(7.5Y7/1)		良好	18世紀中葉～後葉	
2218	相生	SK11	陶器	小碗	丸形	6.9	3.5	3.4		轆轤成形		貫入あり	灰釉	灰白(7.5Y7/1)	密	淡黄(2.5Y8/3)	白色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系		
2219	相生	SK11	陶器	小碗	丸形	(7.0)	(3.2)	3.7		轆轤成形		高台部無軸	灰釉	オリーブ(5Y5/4)	密	褐灰(10YR6/1)	白色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系		
2220	相生	SK11	陶器	小碗	半筒形	(7.6)	4.4	6.1		轆轤成形		置付無軸	鉄釉・灰釉	暗褐(7.5YR3/4)・明黄褐(2.5Y6/6)	密	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀中葉～後葉	
2221	相生	SK11	陶器	小碗	半筒形	(8.0)	(5.2)	(6.0)		轆轤成形	鉄絵	貫入あり	灰釉	明オリーブ灰(2.5GY7/1)	密	淡黄(2.5Y7/3)	黒色粒	良好 信楽系		
2222	相生	SK11	陶器	小碗	半筒形	(8.0)	(4.0)	5.6		轆轤成形	鉄絵		灰釉	灰白(5Y7/2)	密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好 信楽系		
2223	相生	SK11	陶器	小碗	半筒形	(8.4)	(5.0)	6.0		轆轤成形			灰釉	灰白(5Y7/1)	密	灰白(2.5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系		
2224	相生	SK11	陶器	中碗	腰反形	9.0	3.3	5.3		轆轤成形			鉄釉・灰釉	黒褐(7.5YR2/2)・灰白(5Y7/2)	密	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀後葉	
2225	相生	SK11	陶器	中碗	半球形	(9.2)	3.5	5.2		轆轤成形	上絵付	京焼風陶器・貫入あり	灰釉	灰白(5Y8/2)	密	灰白(5Y8/1)	白色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀中葉	
2226	相生	SK11	陶器	中碗	腰反形	(9.2)	4.2	6.9		轆轤成形		貫入あり	灰釉	灰白(5Y7/2)・暗褐(7.5YR3/3)	密	灰白(5Y8/1)	白色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀後葉	
2227	相生	SK11	陶器	中碗	腰折形	9.4	(4.0)	4.9		轆轤成形	鉄絵	せんじ跡・貫入あり	灰釉	淡黄(5Y8/3)	密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀中葉	
2228	相生	SK11	陶器	中碗	丸形	(9.8)	3.5	5.3		轆轤成形	鉄絵	鉄絵溝舌・高台無軸・貫入あり	灰釉	灰白(5Y7/2)	密	明褐灰(7.5YR7/1)	赤色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀末～19世紀初	
2229	相生	SK11	陶器	中碗	腰反形	(9.8)	4.4	(5.6)		轆轤成形		貫入あり・置付無軸	鉄釉	灰白(5Y8/2)・暗褐(7.5YR2/3)	密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀後葉	
2230	相生	SK11	陶器	中碗	腰反形	9.8	3.8	5.8		轆轤成形		鉄釉溝舌後長石散らし	鉄釉	黒褐(10YR2/2)	密	灰白(7.5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系		
2231	相生	SK11	陶器	中碗	半球形	(10.0)	4.2	(5.8)		轆轤成形	呉須絵	高台無軸・貫入あり	灰釉	淡黄(5Y8/3)	密	淡黄(2.5Y8/3)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀中葉	
2232	相生	SK11	陶器	中碗	糸目形	(10.0)	(4.6)	5.6		轆轤成形		腰輪碗	鉄釉・灰白(7.5Y8/1)・土赤い赤褐(10YR4/3)	密	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系			
2233	相生	SK11	陶器	中碗	腰反形	10.2	4.6	(4.9)		轆轤成形		灰釉・鉄釉掛け分け	鉄釉・灰釉	暗褐(10YR3/4)・灰白(7.5Y7/2)	密	灰白(2.5Y7/1)	白色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀第3四半期	
2234	相生	SK11	陶器	中碗	腰反形	(10.4)	4.4	4.6		轆轤成形		せんじ跡	灰釉・灰白(7.5Y6/2)・暗褐(7.5YR3/4)	密	灰白(2.5Y7/2)	白色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀第3四半期		
2235	相生	SK11	陶器	中碗	丸形	(10.5)	4.4	7.9		轆轤成形		尾呂茶碗・貫入あり	鉄釉	オリーブ(5Y6/6)	密	灰白(2.5Y7/1)	白色粒	良好 瀬戸美濃系		
2236	相生	SK11	陶器	碗	腰反形	—	(3.8)	(3.8)		轆轤成形		鉄釉溝とし	鉄釉・灰釉	黒(10YR8/1)・灰白(10YR8/1)	密	灰白(10YR8/2)	白色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系		
2237	相生	SK11	陶器	中碗	形形	(11.0)	4.3	6.1		轆轤成形	鉄絵	柳葉碗・貫入あり	灰釉	灰オリーブ(7.5Y6/2)	密	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好 瀬戸美濃系		
2238	相生	SK11	陶器	中碗	腰反形	(10.8)	4.6	(7.2)		轆轤成形		高台部無軸	灰釉	明黄褐(2.5Y7/6)	密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好 瀬戸美濃系		
2239	相生	SK11	陶器	中碗	腰反形	(11.0)	4.4	7.3		轆轤成形			灰釉	黄褐(2.5Y5/3)	密	灰白(2.5Y8/2)	白色粒	良好 瀬戸美濃系		

*法量()は還元差測値、〈 〉は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	油薬	細調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
2240	相生	SK11	陶器	中碗	平形形	(13.0)	5.0	5.6		轆轤成形	刷毛目		透明油		細砂粒含む	にぶい黄褐色 (7.5YR7/4)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後半～19世紀初頭
2241	相生	SK11	陶器	大碗	平形形	13.5	4.7	5.9		轆轤成形	刷毛目	刷毛目碗	透明油		密	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	赤色粒・白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後半～19世紀前半
2242	相生	SK11	陶器	仏飯器	台底鉢り込み	(6.7)	4.3	4.4		轆轤成形		貫入あり	灰油	灰 (5Y7/7)	細砂粒含む	灰白 (5Y8/)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2243	相生	SK11	陶器	仏飯器	台底鉢り込み	—	(4.1)	(3.2)		轆轤成形			灰油	にぶい黄 (2.5Y6/3)	密	灰黄 (2.5Y6/2)	赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2244	相生	SK11	陶器	小皿	丸形	—	(5.3)	(3.6)		轆轤成形	染付・型紙摺		灰油	灰白 (5Y8/2)	密	灰白 (5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉
2245	相生	SK11	陶器	灯明皿	クリ底平形	11.8	5.0	2.5		轆轤成形		施み付・見込み部・底部に目跡あり	灰油	明黄褐 (2.5Y6/6)	細砂粒含む	灰白 (2.5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好		
2246	相生	SK11	陶器	灯明皿	無高台部み付	(10.6)	(5.6)	2.2		轆轤成形		見込部に目跡あり	鉄油	暗褐 (7.5YR3/3)	細砂粒含む	灰白 (2.5Y7/1)	赤色粒・白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2247	相生	SK11	陶器	灯明皿	クリ底平形	10.4	4.9	2.2		轆轤成形		底部回転へう削り・目跡あり	灰油	黄褐 (10YR5/6)	密	灰白 (10YR8/2)	長石・赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2248	相生	SK11	陶器	灯明皿	平形	(10.0)	4.8	2.2		轆轤成形		底部回転へう削り・貫入あり	灰油	灰白 (5Y7/2)	密	灰白 (2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好		
2249	相生	SK11	陶器	灯明皿	クリ底平形	10.0	4.6	2.2		轆轤成形		目跡あり	灰油	にぶい黄褐色 (10YR8/2)	密	灰白 (10YR8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2250	相生	SK11	陶器	灯明皿	クリ底平形	7.1	3.1	1.5		轆轤成形		底部回転へう削り・目跡あり	灰油	淡黄 (5Y8/4)	細砂粒含む	灰白 (2.5Y8/1)	長石・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2251	相生	SK11	陶器	灯明皿	平形	(8.8)	3.6	1.6		轆轤成形		目跡あり	鉄油	にぶい赤褐 (5YR4/3)	細砂粒含む	灰白 (5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2252	相生	SK11	陶器	灯明受皿	油溝切立状	11.5	5.9	2.6	8.8	轆轤成形		目跡(環状痕)あり	鉄油	暗赤褐 (5YR3/4)	密	灰白 (2.5Y8/2)		良好	瀬戸美濃系	
2253	相生	SK11	陶器	灯明受皿	油溝切立状	11.1	5.1	2.1	8.4	轆轤成形		底部回転へう削り・目跡あり・環状痕あり	鉄油	暗赤褐 (5YR3/4)	密	灰白 (5Y8/1)		良好	瀬戸美濃系	
2254	相生	SK11	陶器	灯明受皿	油溝切立状	11.1	4.7	2.4	8.1	轆轤成形		目跡(環状痕)あり	鉄油	明赤褐 (5YR3/3)	密	灰白		良好	瀬戸美濃系	
2255	相生	SK11	陶器	灯明受皿	油溝切立状	7.9	4.1	1.5	5.7	轆轤成形		体部に目跡あり	鉄油	暗赤褐 (5YR3/4)	密	にぶい黄褐色 (10YR7/4)		良好	瀬戸美濃系	
2256	相生	SK11	陶器	乗漕	台付たんころ形	—	4.6	(5.4)	1.2	轆轤成形		底部回転へう削り・底部軸孔あり	鉄油	暗褐 (10YR3/4)	密	灰白 (5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2257	相生	SK11	陶器	乗漕	台付たんころ形	—	4.4	(3.8)	—	轆轤成形		底部回転へう削り・底部軸孔あり	鉄油	暗褐 (10Y3/4)	密	灰白 (5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2258	相生	SK11	陶器	中鉢	平形	11.9	6.2	5.8		轆轤成形		見込部に目跡あり	灰油	オリーブ黄 (5Y6/4)	密	灰黄 (2.5Y7/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2259	相生	SK11	陶器	蓋物	半筒形	(9.0)	6.1	5.6		轆轤成形			灰油	灰白 (7.5Y7/1)	密	灰白 (2.5Y8/2)	赤色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～19世紀中葉
2260	相生	SK11	陶器	合子	口縁蓋型	(6.1)	(4.8)	3.7		轆轤成形			灰油	灰白 (7.5Y7/2)	密	灰白 (5Y8/2)		良好		
2261	相生	SK11	陶器	片口	平形	19.2	8.8	9.7	—	轆轤成形		見込部外面に目跡あり	灰油	黄褐 (2.5Y5/6)	密	灰白 (10YR8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2262	相生	SK11	陶器	片口	平形	(10.6)	6.0	5.9	—	轆轤成形		貫入あり・目跡あり	灰油	浅黄 (2.5Y7/4)	密	灰白 (2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2263	相生	SK11	陶器	餅搥鉢	口縁無装飾	14.4	5.9	6.0		轆轤成形		底部回転へう削り・底部軸孔あり	鉄油	暗赤褐 (7.5YR2/3)	細砂粒含む	灰白 (2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2264	相生	SK11	陶器	搥鉢	口縁折線形	(36.6)	(16.0)	13.2		轆轤成形		底部回転へう削り・見込み部・底部目跡あり	鉄油	明赤褐 (5YR3/4)	細砂粒含む	灰白 (10YR8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後半～19世紀初頭
2265	相生	SK11	陶器	搥鉢	口縁折線形	(35.8)	(16.0)	(13.3)		轆轤成形		底部回転へう削り	鉄油	暗褐 (7.5YR3/3)	細砂粒含む	淡黄 (2.5Y8/3)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀初頭
2266	相生	SK11	陶器	搥鉢	把手無し	(35.5)	—	(12.0)		轆轤成形		貫入あり	灰油・緑油	淡黄 (5Y8/3)	粗砂粒含む	灰白 (5Y8/1)	長石・白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2267	相生	SK11	陶器	搥鉢		—	(14.0)	(6.5)		轆轤成形		目跡あり・貫入あり	緑油	淡黄 (7.5Y8/3)・オリーブ黒 (10Y3/2)	粗砂粒含む	灰白 (5Y8/1)	長石・石灰・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	

*法量()は復元法量値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代	
						A	B	C	D												
2268	相生	SK11	陶器	餅桶口 環疵み	筒形	13.3	10.2	4.1		紐造り		漆継ぎの痕跡あり・犬形	灰釉	陶オリーブ灰(5G7/1)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好			
2269	相生	SK11	陶器	餅桶口	半筒形	(5.0)	(4.1)	2.9	(6.1)	轆轤成形		環疵み・貫入あり	灰釉	灰白(7.5Y7/2)	密	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉	
2270	相生	SK11	陶器	罎蓋	長筒円形	4.5	3.5	3.1		紐造り			灰釉	灰白(2.5Y8/1)	密	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好	京・信楽系		
2271	相生	SK11	陶器	小壺	双耳環口壺形	9.1		12.2	12.7	轆轤成形		口縁部内外面軸拭き取り	灰釉	黄褐(2.5Y5/4)	密	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2272	相生	SK11	陶器	中壺	半筒形	(18.8)	(12.0)	14.5		轆轤成形			鉄釉	褐(7.5YR4/4)	粗砂粒含む	にぶい黄褐(10YR7/2)	長石・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2273	相生	SK11	陶器	中壺	卵丸形・輪蓋台	25.5	19.0	24.1		轆轤成形		目跡あり	鉄釉	にぶい赤褐(5YR4/4)	密	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2274	相生	SK11	陶器	瓶	ペコカン形	3.0		(10.5)		轆轤成形			鉄釉	暗褐(7.5YR3/4)	密	にぶい黄褐(10YR7/2)	白色粒	良好	瀬戸美濃系		
2275	相生	SK11	陶器	土瓶	算盤玉形	7.7		(8.2)	(17.6)	轆轤成形		鉄釉・裨軸流し土瓶	鉄釉	暗赤褐(2.5YR5/2)	密	にぶい赤褐(5YR5/4)		良好		18世紀第4四半期	
2276	相生	SK11	陶器	花生	円筒形	(12.5)		(18.5)		轆轤成形		貫入あり	灰釉	にぶい黄(2.5YR6/4)・灰白(2.5G5/8/1)	密	残黄(2.5Y7/3)	黒色粒	良好	信楽系		
2277	相生	SK11	陶器	土鍋	丸形三足・紐状双耳	2.7	9.5	12.3	22.0	轆轤成形		底部回転へう削り	鉄釉	暗褐(7.5YR3/4)	密	にぶい黄(7.5YR6/4)	白色粒・黒色粒・雲母	良好	京・信楽系		
2278	相生	SK11	陶器	蓋	蓋	(7.5)	(7.4)	0.9		轆轤成形			灰釉	灰白(10Y7/1)	密	灰白(5Y8/1)	黒色粒	良好			
2279	相生	SK11	陶器	蓋	蓋	9.8	10.2	1.3		轆轤成形			灰釉	灰白(7.5Y7/2)	密	灰白(5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好			
2280	相生	SK11	陶器	蓋	蓋	5.6	3.0	1.4	1.6	轆轤成形		底部回転糸切り	灰釉	灰白(N6)	細砂粒含む	淡黄(2.5Y8/4)	白色粒・黒色粒	良好			
2281	相生	SK11	陶器	蓋	蓋	7.9	3.7	1.8	1.4	轆轤成形		底部回転糸切り	灰釉	灰黄(2.5Y7/2)	密	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好			
2282	相生	SK11	陶器	蓋	蓋	9.2	5.0	2.1	1.6	轆轤成形		底部回転糸切り	無釉		密	淡黄(2.5Y8/3)	長石・白色粒・黒色粒	良好			
2283	相生	SK11	陶器	蓋	蓋	8.2	4.0	2.2	1.8	轆轤成形			緑釉	オリープ黒(7.5Y3/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)	長石・黒色粒	良好			
2284	相生	SK11	陶器	蓋	蓋	9.9	8.4	(1.0)		轆轤成形	鉄絵		灰釉	灰白(5Y7/2)	密	灰白(5Y8/1)		良好	京・信楽系		
2285	相生	SK11	陶器	蓋	蓋	(10.5)	(1.7)	1.2		轆轤成形		灯明部の蓋・口縁部の一部をU字状に切り欠く	鉄釉	暗褐(7.5YR2/3)	密	灰白(2.5Y7/1)		良好	瀬戸美濃系		
2286	相生	SK11	陶器	茶漉し 筒形	筒形		5.0	(4.5)		轆轤成形			鉄釉	にぶい黄褐(10YR5/4)	密	灰(N6)	白色粒・黒色粒	良好	京・信楽系		
2287	相生	SK11	灰器	擂鉢	口縁外帯三段	(35.3)	17.0	(13.7)		轆轤成形			無釉		粗砂粒含む	暗褐(7.5YR3/3)	長石・黒色粒	良好	明石系		
2288	相生	SK11	灰器	擂鉢	口縁外帯三段	(56.0)		(11.4)		轆轤成形			無釉		粗砂粒含む	赤(10R5/6)	白色粒・黒色粒	良好	明石系		
2289	相生	SK11	陶器	甕	口縁断面ワンマ字形	26.3		11.6		轆轤成形		外面に鉄釉軸後灰軸掛け流し	鉄釉・灰釉	にぶい赤褐(5YR4/3)・暗灰(2.5Y5/2)	粗砂粒含む	黄灰(2.5Y6/1)	長石・黒色粒	良好	丹波系か		
2290	相生	SK11	土器	灯明皿	無高台平形	5.4	3.2	1.5		轆轤成形		底部回転糸切り	無釉		細砂粒含む	にぶい褐(7.5Y5/3)		良好			
2305	相生	SK11	紙	漆こし紙	紙	7.0	1.1	1.1					無釉		暗赤褐(2.5YR3/6)						
2306	相生	SK11	紙	漆こし紙	紙	5.9	1.2	1.1					無釉		暗赤(10R3/4)						
2307	相生	SK12	磁器	小碗	半球形	7.4	2.5	3.3		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前葉		
2308	相生	SK12	磁器	小碗	丸形	8.3	3.2	3.8		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系			
2309	相生	SK12	磁器	小碗	半球形	(8.9)	3.0	6.2		轆轤成形	染付	黒付無袖・砂付書	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前葉		
2310	相生	SK12	磁器	小碗	半筒形	6.2	3.3	5.0		轆轤成形	染付	黒付無袖	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初葉		
2311	相生	SK12	磁器	小碗	半筒形	6.2	3.4	4.8		轆轤成形	染付		透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初葉		
2312	相生	SK12	磁器	小碗	半筒形	7.3	3.6	6.1		轆轤成形	染付	黒付無袖	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初葉		
2313	相生	SK12	磁器	小碗	半筒形	(7.4)	3.7	(5.6)		轆轤成形	染付	黒付無袖	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初葉		
2314	相生	SK12	磁器	小碗	半筒形	(7.5)	3.7	6.3		轆轤成形	染付・コンマク印刷		透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初葉		
2315	相生	SK12	磁器	小碗	半筒形	7.8	3.8	6.1		轆轤成形	染付	黒付無袖・貫入あり	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初葉		
2316	相生	SK12	磁器	小碗	半筒形	(8.2)	3.9	6.3		轆轤成形	染付	黒付無袖	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初葉		
2317	相生	SK12	磁器	小碗	半筒形	(8.4)	4.0	6.4		轆轤成形	染付	高台に銘あり・黒付無袖	透明釉		緻密	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初葉		

*法量()は還元差測値、〈 〉は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	油膜	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D										
2318	相生	SK12	磁器	中碗	半球形	8.0	4.0	6.2		轆轤成形	染付	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀初
2319	相生	SK12	磁器	中碗	半球形	(9.0)	(3.4)	5.9		轆轤成形	染付	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前葉
2320	相生	SK12	磁器	中碗	半球形	9.2	3.4	5.9		轆轤成形	染付	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前葉
2321	相生	SK12	磁器	中碗	丸形	9.6	3.9	4.9		轆轤成形	染付・コンニャク印判	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末
2322	相生	SK12	磁器	中碗	丸形	9.8	3.7	5.1		轆轤成形	高台内に鉄あり・墨付無軸	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後葉
2323	相生	SK12	磁器	中碗	丸形	9.5	3.7	5.0		轆轤成形	くらわんが手	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～後葉
2324	相生	SK12	磁器	中碗	丸形	(9.7)	3.6	5.5		轆轤成形	くらわんが手・高台部鉄あり	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～後葉
2325	相生	SK12	磁器	中碗	丸形	9.7	4.0	5.6		轆轤成形	高台に鉄あり・内面に鉄の汚れか	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～後葉
2326	相生	SK12	磁器	中碗	丸形	9.9	3.9	4.8		轆轤成形	くらわんが手・高台部に粘土・砂付着	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～後葉
2327	相生	SK12	磁器	中碗	広葉形	(9.9)	(3.8)	5.3		轆轤成形	小広葉碗	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀後葉
2328	相生	SK12	磁器	中碗	丸形	9.9	3.9	5.1		轆轤成形	染付・コンニャク印判	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末
2329	相生	SK12	磁器	中碗	浅半球形	(10.0)	3.4	4.7		轆轤成形	鉄あり	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀中葉
2330	相生	SK12	磁器	中碗	丸形	10.0	3.8	4.9		轆轤成形	くらわんが手・墨付無軸砂付着	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉
2331	相生	SK12	磁器	中碗	丸形	10.0	4.1	5.2		轆轤成形	染付・コンニャク印判	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末
2332	相生	SK12	磁器	中碗	無縁形	(10.0)	3.8	5.4		轆轤成形	染付	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前葉
2333	相生	SK12	磁器	中碗	丸形	(10.7)	4.1	4.6		轆轤成形	くらわんが茶碗・見込部蛇の目軸割ぎ・粘土付着・高台部粘土付着・鉄あり	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉
2334	相生	SK12	磁器	中碗	丸形	10.8	4.3	4.8		轆轤成形	蛇の目状軸割ぎ	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2335	相生	SK12	磁器	中碗	丸形	10.9	3.9	4.6		轆轤成形	見込部蛇の目状軸割ぎ・高台部に粘土付着	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2336	相生	SK12	磁器	中碗	扇形	(11.7)	4.3	5.7		轆轤成形	染付	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2337	相生	SK12	磁器	中碗	折薄形	11.9	5.2	7.2		轆轤成形	墨付無軸・高台部鉄あり	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2338	相生	SK12	磁器	大碗	広葉形	12.5	7.3	6.0		轆轤成形	染付	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀第4四半期
2339	相生	SK12	磁器	紅猪口	浅丸形	5.1	1.2	2.2		轆轤成形	赤絵	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2340	相生	SK12	磁器	紅猪口	浅丸形	4.8	1.6	2.0		轆轤成形	染付	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2341	相生	SK12	磁器	紅猪口	浅丸形	(5.9)	(1.6)	2.3		轆轤成形	染付	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2342	相生	SK12	磁器	紅猪口	菊花形	(4.4)	(1.4)	1.4		型打成形		白磁釉	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2343	相生	SK12	磁器	紅猪口	丸形	2.6	1.1	1.2		型打成形		白磁釉	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2344	相生	SK12	磁器	紅猪口	丸形	2.3	0.9	1.2		型打成形		白磁釉	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2345	相生	SK12	磁器	仏飯器	台座輪高台	4.0	(5.2)			轆轤成形	染付	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2346	相生	SK12	磁器	仏飯器	台座輪高台	6.1	3.9	6.5		轆轤成形	高台無軸	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2347	相生	SK12	磁器	小皿	端反形	(9.4)	5.3	1.9		轆轤成形	輪花	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2348	相生	SK12	磁器	小皿	端反形	(9.8)	5.9	2.1		轆轤成形	墨部無軸	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2349	相生	SK12	磁器	小皿	椀血形	10.1	5.0	2.4		轆轤成形	染付・コンニャク印判	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2350	相生	SK12	磁器	小皿	丸形	(13.6)	7.0	3.2		轆轤成形	蛇の目軸割ぎ・墨付無軸	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉
2351	相生	SK12	磁器	小皿	丸形	(13.8)	7.6	4.5		轆轤成形	染付・コンニャク印判	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉
2352	相生	SK12	磁器	五寸皿	丸形	13.5	7.5	3.7		轆轤成形	染付・コンニャク印判	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉
2353	相生	SK12	磁器	中皿	端反形	22.0	12.8	3.3		轆轤成形	墨付無軸・目筋あり	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉
2354	相生	SK12	磁器	小鉢	丸形	(8.0)	(3.9)	6.6		轆轤成形	断面に漆継ぎの痕跡あり・輪花・口縁部高台部に金彩	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2355	相生	SK12	磁器	中鉢	腰鼓形	(17.1)	(9.5)	6.2		轆轤成形	玉縁・蛇の目凹形高台	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前葉
2356	相生	SK12	磁器	猪口	端反桶形	6.4	2.4	3.0		轆轤成形		透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2357	相生	SK12	磁器	蓋物	腰鼓形	(7.4)	(3.7)	(4.0)		轆轤成形	口縁部・墨付無軸	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2359	相生	SK12	磁器	蓋		4.8	5.1	1.3		轆轤成形	墨付無軸	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2359	相生	SK12	磁器	合子	口縁蓋受け	4.2	3.9	1.7		轆轤成形	高台部・蓋と重なる所無軸	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2360	相生	SK12	磁器	香炉	有足鼎形	4.5	3.1	(2.4)		轆轤成形	底彫書あり	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2361	相生	SK12	磁器	火入	半筒形	7.8	2.6	4.0		轆轤成形	灰付書	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2362	相生	SK12	磁器	小瓶	丸形	11.0	6.2	7.5		轆轤成形	蛇の目凹形高台・見込部に粘土が添ってある	青磁釉	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	明緑灰(7.5G/71)
2363	相生	SK12	磁器	小瓶	辣直形	1.6	—	(12.3)		轆轤成形	口縁無軸	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2364	相生	SK12	磁器	小瓶	辣直形	(1.5)	—	(11.0)		轆轤成形	口縁無軸	透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2365	相生	SK12	磁器	小瓶	端反辣直形	2.8	—	(11.3)		轆轤成形		透明油	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	
2366	相生	SK12	磁器	中瓶	端反辣直形	4.2	—	(16.7)		轆轤成形	内面無軸	白磁釉	緻密	灰白	灰白	黒色粒	良好	肥前系	

*法量()は複元式測値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・表飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
2367	相生	SK12	磁器	中瓶	楕圓形	—	5.3	10.0		轆轤成形		青磁釉	晒オリーブ灰(2.5GY7/1)	緻密	白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2368	相生	SK12	磁器	中瓶	腰反楕圓形	4.5	—	(14.4)		轆轤成形	内面無釉	白磁釉	白	緻密	灰白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2369	相生	SK12	磁器	鉢	腰反楕圓形	1.8	—	(4.9)		染付	染付	透明釉	白	緻密	灰白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2370	相生	SK12	磁器	鉢	腰反楕圓形	—	7.6	(18.2)		染付	底部漆繕ぎ跡あり・底部頭部つまみ欠損	透明釉	白	緻密	灰白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2371	相生	SK12	磁器	水筒	豆腐形	(5.1)	(3.2)	(0.9)		染付		透明釉	白	緻密	白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2372	相生	SK12	磁器	煙管	直筒	—	5.1	0.8	1.1	型作り成形		透明釉	白	緻密	白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2373	相生	SK12	磁器	煙管	吸口	4.4	0.8	0.5		染付		透明釉	白	緻密	白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2374	相生	SK12	磁器	煙管	直筒	—	4.7	1.3	1.2	型作り成形		透明釉	白	緻密	白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2375	相生	SK12	磁器	蓋	蓋	9.3	3.7	2.5		染付		透明釉	白	緻密	白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2376	相生	SK12	磁器	蓋	蓋	9.6	4.1	3.0		染付	望月縁の蓋	透明釉	白	緻密	灰白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2377	相生	SK12	磁器	蓋	蓋	10.0	4.2	3.0		染付	望月縁の蓋・絞あり	透明釉	白	緻密	灰白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2378	相生	SK12	磁器	蓋	蓋	(10.8)	5.6	3.0		染付	望月縁の蓋	透明釉	白	緻密	白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2379	相生	SK12	磁器	蓋	蓋	11.4	5.1	3.3		染付	望月縁の蓋	透明釉	白	緻密	灰白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2380	相生	SK12	磁器	蓋	蓋	5.0	4.0	2.2	1.8	染付		透明釉	白	緻密	白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2381	相生	SK12	磁器	蓋	蓋	11.4	10.0	3.5	3.9	染付		透明釉	白	緻密	白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2382	相生	SK12	磁器	蓋	蓋	13.3	11.6	3.5	4.6	染付	漆繕ぎの痕跡あり	透明釉	白	緻密	白	白色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2383	相生	SK12	陶器	小鉢	腰反形	6.4	2.4	2.8		染付	貫入あり	灰釉	明オリーブ灰(5GY7/1)	緻密	灰白(N7/)	灰色調	良好 肥前系		18世紀後半	
2384	相生	SK12	陶器	小鉢	半球形	(6.8)	(3.0)	4.2		鉄絵	京焼陶器・貫入あり・高台内刻印あり	灰釉	灰黄(2.5Y6/2)	密	灰白(2.5Y8/2)	灰色調	良好 信楽系		18世紀第3四半期	
2385	相生	SK12	陶器	小鉢	丸形	(6.8)	3.0	4.1				灰釉	灰白(5Y7/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	灰色調	良好 信楽系		18世紀後半	
2386	相生	SK12	陶器	小鉢	半球形	(7.0)	(3.0)	4.2			貫入あり	灰釉	灰黄(2.5Y6/2)	密	灰黄(2.5Y7/2)	灰色調	良好 信楽系		18世紀後半	
2387	相生	SK12	陶器	中碗	半筒形	—	4.9	4.0		色絵		灰釉	灰白(5Y7/2)	密	灰白(5Y8/1)	灰色調	良好 信楽系		18世紀第3四半期	
2388	相生	SK12	陶器	中碗	半球形	—	3.6	(4.5)		上絵付		灰釉	灰白(10Y8/1)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	白色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2389	相生	SK12	陶器	中碗	半球形	(9.1)	3.4	(5.5)		鉄絵	湯呑・貫入あり・高台無釉	灰釉	灰白(5Y8/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)	灰色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2390	相生	SK12	陶器	中碗	半球形	9.4	3.4	5.1		上絵付	貫入あり	灰釉	灰白(5Y8/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	白色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2391	相生	SK12	陶器	中碗	半球形	—	2.8	(5.6)		上絵付	貫入あり	灰釉	明オリーブ灰(2.5GY7/1)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	白色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2392	相生	SK12	陶器	中碗	半球形	(9.6)	—	(5.9)		色絵		灰釉	灰白(7.5Y7/1)	密	灰白(7.5Y8/1)	灰色調	良好 信楽系		18世紀後半	
2393	相生	SK12	陶器	中碗	腰折形	(9.0)	3.3	5.0				灰釉	灰白(5Y7/2)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	灰色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2394	相生	SK12	陶器	中碗	腰折形	(9.2)	4.2	(5.4)			腰縮跡	灰釉・鉄釉	灰白(5Y8/2)・暗褐(7.5YR3/3)	密	灰白(2.5Y8/1)	灰色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀第4四半期	
2395	相生	SK12	陶器	中碗	腰折形	9.5	4.0	5.7			腰縮跡・貫入あり	灰釉・鉄釉	種間赤褐(5YR2/4)・灰白(5Y7/2)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	白色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀第4四半期	
2396	相生	SK12	陶器	中碗	腰折形	(9.3)	4.8	6.2				灰釉	オリーブ(5Y5/4)	密	灰白(5Y7/1)	白色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2397	相生	SK12	陶器	中碗	腰折形	(10.3)	4.8	7.3				灰釉	オリーブ(5Y5/4)	密	灰白(7.5Y7/1)	白色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2397	相生	SK12	陶器	中碗	腰折形	10.0	3.9	6.3			鉄釉・長石釉	鉄釉・黒褐(7.5YR2/2)	黒褐(7.5YR2/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	白色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2399	相生	SK12	陶器	中碗	腰折形	10.2	3.9	5.6			せんじ碗	灰釉・鉄釉	灰白(7.5Y7/2)・明赤褐(5YR3/4)	密	灰白(2.5Y7/1)	白色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2400	相生	SK12	陶器	中碗	腰折形	(10.4)	4.1	4.8			せんじ碗・貫入あり	灰釉・鉄釉	灰白(7.5Y7/2)・暗褐(10YR3/4)	密	灰白(10Y7/1)	白色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2401	相生	SK12	陶器	中碗	腰折形	10.7	5.4	7.4			尾呂茶碗	灰釉・ウノフ	オリーブ黄(5Y6/4)	細砂粒含む	淡黄(5Y8/3)	白色調	良好 瀬戸美濃系		17世紀後半～18世紀中葉	
2402	相生	SK12	陶器	大碗	平形	13.2	4.7	5.7		刷毛目		透明釉		細砂粒含む	にぶい黄緑(10YR7/3)	白色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半～19世紀前期	
2403	相生	SK12	陶器	仏飯器	台底鉢形	(6.4)	(4.1)	5.6				灰釉	淡黄(2.5Y7/3)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)	灰色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2404	相生	SK12	陶器	仏飯器	台底鉢形	—	4.1	(3.3)				灰釉	灰白(7.5Y7/2)	細砂粒含む	灰白(7.5Y8/1)	灰色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2405	相生	SK12	陶器	皿	丸形	11.9	5.2	3.1		呉須絵・型紙罫		灰釉	灰白(5Y8/2)	密	灰白(5Y8/1)	灰色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2406	相生	SK12	陶器	中皿	丸形	(11.6)	(5.0)	3.3		染付・型紙罫	摺絵目・貫入あり	灰釉	灰白(7.5Y8/2)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	白色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半～19世紀中葉	
2407	相生	SK12	陶器	灯明皿	平形	7.1	2.0	1.0			内面漆繕あり・外面鉄釉拭き取り	鉄釉	褐(7.5YR4/6)	密	灰白(10YR7/1)	白色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2408	相生	SK12	陶器	灯明皿	平形	9.0	4.1	1.8			目跡(環状痕)あり	鉄釉	褐(7.5Y4/4)	密	褐灰(7.5Y6/1)	白色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2409	相生	SK12	陶器	灯明皿	クリ底平形	(9.4)	3.6	1.9			底面凹縁へう割り・目跡あり	灰釉	明黄褐(2.5Y7/6)	密	淡黄(2.5Y8/3)	白色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	
2410	相生	SK12	陶器	灯明皿	平形	10.2	5.5	2.1			貫入あり	灰釉	灰白(7.5Y7/1)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1)	灰色調	良好 瀬戸美濃系		18世紀後半	

*法量()は還元量測値、()は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	細調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
2411	相生	SK12	陶器	灯明皿	平形	10.8	4.6	2.1		轆轤成形	内面環状痕あり・外面鉄釉拭き取り・内外面スズ付着	鉄釉	暗赤褐(5YR3/3)	密	密	黄橙(10YR8/6)	良好	瀬戸美濃系		
2412	相生	SK12	陶器	灯明受皿	油溝切立状	(11.1)	5.2	2.3	(8.0)	轆轤成形	目跡あり	鉄釉	褐(7.5YR6/8)	密		灰黄(2.5Y7/2)	良好	瀬戸美濃系		
2413	相生	SK12	陶器	灯明受皿	油溝切立状	10.9	4.8	2.0	8.5	轆轤成形	体部に目跡あり	鉄釉	暗赤褐(5YR3/3)	密		灰白(7/)	良好	瀬戸美濃系		
2414	相生	SK12	陶器	灯明受皿	油溝切立状	(10.6)	4.8	2.4	7.7	轆轤成形	目跡あり・底部釉拭き取り	鉄釉	暗褐(7.5YR3/4)	密		灰(N7/)	良好	瀬戸美濃系		
2415	相生	SK12	陶器	灯明受皿	油溝切立状	(9.0)	4.0	1.7	6.3	轆轤成形	目跡あり	鉄釉	褐(10YR4/4)	密		灰黄(2.5YR7/2)	良好	瀬戸美濃系		
2416	相生	SK12	陶器	乗漣	台付たんごろ形	—	4.4	(5.4)	(1.2)	轆轤成形	底部回転糸切り・底部軸孔あり	鉄釉	黒褐(5YR2/2)	密		灰白(8/)	良好	瀬戸美濃系		
2417	相生	SK12	陶器	乗漣	台付たんごろ形	—	4.0	(3.9)	1.4	轆轤成形	底部回転糸切り・底部軸孔あり	鉄釉	黒(10YR1/7)	密		灰白(10YR8/1)	良好	瀬戸美濃系		
2418	相生	SK12	陶器	小鉢	丸形	(10.1)	4.8	(5.1)		轆轤成形	口縁玉縁形・高台無軸	灰釉	浅黄(5Y7/3)	細砂粒含む		灰白(5Y7/1)	良好	瀬戸美濃系		
2419	相生	SK12	陶器	鉢	平形	(17.3)	9.4	8.4		轆轤成形	目跡あり	灰釉	明黄褐(10YR7/6)	密		灰白(2.5Y8/2)	良好	瀬戸美濃系		
2420	相生	SK12	陶器	片口	口縁切込平形	11.9	5.7	5.9		轆轤成形		灰釉	にぶい黄(2.5Y6/4)	細砂粒含む		灰白(2.5Y8/2)	良好	瀬戸美濃系		
2421	相生	SK12	陶器	片口	平形	11.8	6.0	5.5		轆轤成形	見込み目跡あり	灰釉	にぶい黄(2.5Y6/4)	細砂粒含む		灰白(2.5Y8/2)	良好	瀬戸美濃系		
2422	相生	SK12	陶器	片口	平形	11.2	5.6	(5.8)		轆轤成形	外面 環状痕あり・内面 目跡あり・高台無軸	灰釉	オリープ(5Y6/6)	密		浅黄橙	良好	瀬戸美濃系		
2423	相生	SK12	陶器	片口	口縁切込丸形	(9.2)	5.2	5.6		轆轤成形	見込み目跡あり・体部貫入あり	灰釉	灰白(7.5Y8/2)	細砂粒含む		灰白(10YR8/3)	良好	瀬戸美濃系		
2424	相生	SK12	陶器	片口	平形	(16.9)	8.1	8.7		轆轤成形	見込み目跡あり・体部貫入あり	灰釉	明黄褐(2.5Y6/6)	細砂粒含む		灰白(2.5Y8/2)	良好	瀬戸美濃系		
2425	相生	SK12	陶器	播鉢		—	(14.0)	(9.2)		轆轤成形	底部回転糸切り・底部 見込みに目跡あり	鉄釉	明赤褐(5YR3/4)	密		灰黄(2.5Y7/2)	良好	瀬戸美濃系		
2426	相生	SK12	陶器	播鉢	口縁折縁形	31.7	—	(10.3)		轆轤成形		鉄釉	にぶい赤褐(2.5YR4/4)	相砂粒含む		灰白(5Y8/1)	良好	瀬戸美濃系		
2427	相生	SK12	陶器	埴鉢	把手無し	34.0	(15.4)	17.2		轆轤成形	把手無し・見込目跡あり	灰釉・緑釉	灰白(5Y7/3)	細砂粒含む		灰白(2.5Y8/3)	良好	瀬戸美濃系	18世紀後半～19世紀初頭	
2428	相生	SK12	陶器	水鉢	半筒形	(18.4)	—	(9.1)		轆轤成形		鉄釉	にぶい褐	密		灰白(7.5YR6/4)	良好	瀬戸美濃系		
2429	相生	SK12	陶器	罌頸口	環帯み	4.1	4.2	2.4	5.5	轆轤成形	底部回転糸切り・貫入あり	灰釉	灰白(10Y8/1)	密		灰白(5Y8/1)	良好	瀬戸美濃系		
2430	相生	SK12	陶器	香炉	有三足半筒形	(11.0)	(7.6)	(5.9)		轆轤成形		灰釉	灰白(10Y7/1)	細砂粒含む		灰白(10Y7/1)	良好	瀬戸美濃系		
2431	相生	SK12	陶器	香炉	半筒形	(10.0)	(6.8)	7.2		型打成形	八角形	緑釉	オリープ灰(10Y4/2)	細砂粒含む		灰白(5Y8/1)	良好	瀬戸美濃系		
2432	相生	SK12	陶器	火入	五弁花形	—	5.2	(7.0)		型打成形	破打痕あり・貫入あり・内面灰付着	灰釉	灰黄(2.5Y7/2)	細砂粒含む		灰白(2.5Y8/2)	良好	瀬戸美濃系		
2433	相生	SK12	陶器	火入	半筒形	(11.6)	(11.1)	9.9		轆轤成形	底部凹刻あり「九い」	鉄釉	黒褐(10YR2/2)	密		灰黄(2.5Y7/2)	良好	京・信楽系か		
2434	相生	SK12	陶器	鉢形容器	半筒形	(5.2)	3.0	4.3		轆轤成形		灰釉	灰オリープ(5Y5/2)	相砂粒含む		灰石・黒色	良好			
2435	相生	SK12	陶器	中壺	半筒形		13.8	(5.8)		轆轤成形		鉄釉	褐(7.5YR4/6)	砂礫含む		長石・黒色	良好	瀬戸美濃系		
2436	相生	SK12	陶器	中瓶	高田徳利形	4.0	—	(8.6)		轆轤成形	口縁外帯・口縁より下無軸	灰釉	オリープ黄(5Y6/3)	密		灰白(2.5Y8/2)	良好	瀬戸美濃系		
2437	相生	SK12	陶器	中瓶	高田徳利形	—	6.0	(14.9)		轆轤成形	底部軸土付着	灰釉	灰白(7.5Y7/2)	密		灰白(7.5Y7/1)	良好	瀬戸美濃系		
2438	相生	SK12	陶器	中瓶	べこかん形	—	(6.5)	(13.2)		轆轤成形	鉄釉外部部拭き取りあり・内面無軸	鉄釉	暗褐(7.5YR3/4)	密		白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2439	相生	SK12	陶器	大瓶	高田徳利形	3.9	—	(9.2)		轆轤成形	口縁玉縁・体部無軸	灰釉	明黄褐(2.5Y6/6)	細砂粒含む		灰白(10YR8/2)	良好	瀬戸美濃系		
2440	相生	SK12	陶器	大瓶	舟徳利形	5.7	—	(4.4)		轆轤成形		鉄釉	褐(7.5YR4/4)	密		灰白(7.5Y8/1)	良好	瀬戸美濃系		
2441	相生	SK12	陶器	浅瓶	上部短手	(20.5)	7.2	(14.2)		轆轤成形		灰釉	オリープ黄(5Y6/3)	細砂粒含む		灰白(2.5Y8/1)	良好	瀬戸美濃系	18世紀	
2442	相生	SK12	陶器	土鍋	丸形三足	—	(8.8)	9.3		轆轤成形		鉄釉	黒褐(7.5YR3/1)	密		にぶい黄橙(10YR7/2)	良好	京・信楽系		
2443	相生	SK12	陶器	土鍋	丸形・細鉢双耳	(17.9)	—	(8.4)	(18.9)	轆轤成形		鉄釉	暗褐(7.5YR2/3)	密		にぶい黄橙(10YR6/3)	良好	京・信楽系		

*法量()は複元差測値、()は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・裝飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
2444	相生	SK12	陶器	行平	丸形三足	—	(8.0)	(10.0)		轆轤成形	鉄付		鉄釉	褐(7.5YR4/6)	密	にぶい黄緑(10YR7/2)		良好	京・信楽系	
2445	相生	SK12	陶器	蓋		(9.8)	3.7	3.0		轆轤成形	鉄付	奈良茶碗・貫入あり	灰釉	灰白(7.5Y8/1)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀末～19世紀初頭
2446	相生	SK12	陶器	蓋		(8.4)	3.3	1.4	1.6	轆轤成形		底部回転糸切り	灰釉	灰白(N3/)	密	灰白(2.5Y8/2)		良好		
2447	相生	SK12	陶器	蓋		3.9	3.7	1.2	0.9	轆轤成形			鉄釉	暗赤褐(5YR3/4)	密	浅黄緑(7.5YR8/6)		良好		
2448	相生	SK12	陶器	蓋		4.5	3.2	0.8		轆轤成形			鉄釉	暗赤褐(5YR3/4)	密	灰白(5Y8/1)		良好		
2449	相生	SK12	陶器	蓋		11.1	9.2	9.3	1.9	轆轤成形	鉄絵		灰釉	灰白(10Y8/1)	密	灰白(2.5Y8/2)	黒色粒	良好	京・信楽系	
2450	相生	SK12	陶器	蓋		7.3	3.0	1.5	2.6	轆轤成形		底部回転糸切り	灰釉	灰白(7.5Y7/2)	密	灰白(8/)	白色粒・黒色粒	良好		
2451	相生	SK12	陶器	蓋		(9.5)	4.9	2.1	1.8	轆轤成形		釉の抜き取りあり	鉄釉	暗赤褐(10R2/2)	密	灰(N6/)	白色粒・黒色粒	良好		
2452	相生	SK12	陶器	蓋		10.8	6.0	2.3		轆轤成形			鉄釉	暗赤褐(5YR3/2)	密	灰(5Y6/1)	黒色粒	良好		
2453	相生	SK12	石器	擂鉢	口縁外帯三段	(36.6)	—	(6.3)		轆轤成形			無釉		相砂粒含む	明赤褐(2.5YR5/6)	長石・赤色粒	良好	明・石系	
2454	相生	SK12	石器	焼埴壺	浅桶形	6.6	5.3	6.2		轆轤成形		底部回転糸切り	無釉		細砂粒含む	赤橙(10R6/6)	赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母	良好		
2455	相生	SK12	石器	焼埴壺	浅桶形	(7.0)	5.1	6.7		轆轤成形		底部回転糸切り・蓋受け無	無釉		細砂粒含む	赤橙(10R6/6)	赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母	良好		
2456	相生	SK12	石器	火鉢	口縁内肥厚形	(21.4)	(22.0)	12.0		轆轤成形		スス付着	無釉		細砂粒含む	にぶい橙(5YR6/4)	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	良好	在地系	
2457	相生	SK12	石器	焙烙	有耳	(24.6)	(22.8)	4.7		轆轤成形		底平坦	無釉		細砂粒含む	にぶい橙(7.5YR6/4)	白色粒・黒色粒・金色雲母	良好	在地系	
2458	相生	SK12	石器	蓋		6.9	6.6	1.1		板作り成形		焼埴の蓋・内面布目	無釉		細砂粒含む	にぶい赤褐(5YR5/4)	雲母	良好		
2459	相生	SK12	石器	蓋		6.8	7.4	1.3		板作り成形		焼埴の蓋・内面布目	無釉		細砂粒含む	赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	良好		
2460	相生	SK12	土製品	さな	円盤形	10.3	(7.2)	1.1					無釉		細砂粒含む	にぶい橙(5YR6/4)	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	良好		
2461	相生	SK12	土製品	さな	円盤形	(11.6)	—	1.3					無釉		細砂粒含む	灰白(N8/)	白色粒	良好		18世紀中葉～19世紀初頭
2491	相生	SK14	磁器	小碗	半筒形	(7.3)	(3.2)	6.4		轆轤成形	鉄付		透明釉		密	黒色粒	良好	肥前系		
2492	相生	SK14	磁器	中碗	丸形	(9.8)	4.2	5.1		轆轤成形	鉄付	くらわんかん手・高台部絞あり・貫付無釉	透明釉		密	黒色粒	良好	肥前系		
2493	相生	SK14	磁器	小皿	丸形	(9.4)	(5.0)	1.8		型打成形	鉄付	輪花	透明釉		密	黒色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀末	
2494	相生	SK14	磁器	仏殿器	台座編高台	(7.2)	4.1	5.4		轆轤成形		底部無袖部分還元焼成・高台無釉	透明釉		密	黒色粒	良好	肥前系		
2495	相生	SK14	陶器	小碗	丸形	(6.5)	2.7	3.8		轆轤成形			白磁釉		密	黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2496	相生	SK14	陶器	中碗	半筒形	(10.0)	(5.4)	6.9		轆轤成形			鉄釉・透明釉	オリープ灰(10Y6/2)	密	灰白(5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉
2497	相生	SK14	陶器	中碗	腰張形	(10.2)	(4.6)	5.6		轆轤成形		腰張部第4型式・貫入あり・貫付無釉	鉄釉・透明釉	暗褐(7.5YR3/3)・灰白(10Y7/1)・暗オリープ(7.5Y4/3)	密	灰白(5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉
2498	相生	SK14	陶器	中碗	丸形	10.2	5.1	6.9		轆轤成形		貫入あり	鉄釉	灰白(2.5Y8/2)・黒褐(7.5YR2/2)	密	灰白(2.5Y8/2)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2499	相生	SK14	陶器	中碗	平形	12.8	4.2	5.3		轆轤成形	鉄絵	削り出し高台・柳茶碗・高台無袖・貫入あり	鉄釉	灰白(5Y7/2)	密	黄灰(2.5Y6/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀後葉～19世紀中葉
2500	相生	SK14	陶器	兼漚	台付たんころ形	—	4.6	(4.2)	1.3	轆轤成形		底部回転糸切り・底部施孔あり	鉄釉	黒褐(7.5YR2/2)	密	灰白(2.5Y8/1)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	
2501	相生	SK14	陶器	香炉	半筒形	(11.0)	(7.8)	5.6		轆轤成形		有三足	鉄釉	オリープ黄(5Y6/4)	密	灰白(2.5Y8/1)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系	

*法量()は還元量測値、〈 〉は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	細調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
2502	相生	SK14	石器	指鉢	口縁外帯三段	36.0	17.0	13.7		轆轤成形	口縁内凸帯小	無釉		相砂粒含む	赤 (10R5/6)	長石・赤色粒・黒色粒	良好	堺・明石系		
2503	相生	SK14	石器	灯明皿	無高台平形	(8.3)	(6.0)	1.9		轆轤成形	底部回転糸切り・スス付着	無釉		細砂粒含む	にぶい褐 (7.5YR6/3)	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	良好	在地系		
2504	相生	SK14	石器	焼壺	浅桶形	(6.2)	(5.0)	6.7		轆轤成形	蓋受け無	無釉		細砂粒含む	橙 (2.5YR6/6)	赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母	良好		18世紀後葉	
2505	相生	SK14	石器	蓋		(7.6)	(7.0)	1.8		板作り成形	焼壺の蓋・内面布目	無釉		砂燻含む	にぶい黄橙 (10YR7/3)	長石・石英・赤色粒・白色粒・雲母	良好		18世紀中葉～19世紀前葉	
2507	相生	SK15	磁器	小碗	半球形	(8.0)	(3.0)	5.7		轆轤成形	青磁釉			緻密	灰白 (N&)	黒色粒	良好	肥前系		
2508	相生	SK15	磁器	中碗	丸形	(10.3)	(4.3)	(5.8)		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白		良好	肥前系		
2509	相生	SK15	陶器	蓋		19.6	6.8	3.5	10.3	轆轤成形	花蒨み	透明釉		細砂粒含む	にぶい黄橙 (10YR7/3)	白色粒・黒色粒	良好	松岡?	19世紀	
2509	相生	SK15	陶器	土瓶	丸形	(7.9)	—	(13.0)	(19.8)	轆轤成形	貫入あり・下部スス付着	透明釉		細砂粒含む	にぶい黄橙 (10YR7/3)	白色粒・黒色粒	良好	松岡?	19世紀	
2510	相生	SK15	陶器	土瓶	丸形	8.0	(9.0)	14.7	(22.7)	轆轤成形	体部下半にスス付着	透明釉		細砂粒含む	にぶい黄橙 (10YR6/4)	白色粒・黒色粒	良好		備前～明治	
2511	相生	SK15	陶器	蓋		(11.0)	(8.3)	3.0	2.6	轆轤成形	通入土瓶・見込部線あり	透明釉		密	にぶい褐 (7.5YR7/4)	赤色粒・白色粒	良好	京焼系	19世紀	
2515	相生	SK16	磁器	小碗	丸形	(6.6)	(3.6)	5.5		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉～後葉	
2516	相生	SK16	磁器	中碗	半球形	9.5	3.6	5.7		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～19世紀前葉	
2517	相生	SK16	磁器	中碗	兵器形	(9.0)	4.2	5.5		轆轤成形	透明釉			緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
2518	相生	SK16	磁器	猪口	桶形	(5.0)	(3.0)	3.7		轆轤成形	腰輪高台	白磁釉		緻密	白 (9)	黒色粒	良好	肥前系		
2519	相生	SK16	磁器	蓋		9.2	3.6	2.9		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	19世紀中葉	
2520	相生	SK16	陶器	灯明皿	クリ底平形	10.1	4.4	2.1		轆轤成形	灰釉 (2.5Y5/6)・灰白 (2.5Y8/1)			細砂粒含む	淡黄 (2.5Y8/3)	白色粒・黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2521	相生	SK16	陶器	中皿	丸形	(21.3)	(11.0)	4.5		轆轤成形	馬の目皿・目跡あり・貫入あり	白泥・透明釉		細砂粒含む	灰白 (2.5Y8/2)	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	19世紀	
2522	相生	SK16	陶器	乗漣	台付たんころ形	3.6	3.8	4.4	1.0	轆轤成形	底部障孔	鉄釉		密		黒色粒	良好	瀬戸美濃系		
2523	相生	SK16	陶器	蓋		6.5	3.6	1.7	0.7	轆轤成形	底部回転糸切り	灰釉		密	褐灰 (5YR5/1)	白色粒・黒色粒	良好			
2525	相生	SK16	石器	火鉢	口縁内肥厚形	(30.7)	(27.0)	(9.2)		轆轤成形	三足・内外面にスス付着・内面黒書線あり	無釉		相砂粒含む	にぶい黄褐 (10YR5/4)	赤色粒・白色粒・黒色粒・金色雲母	良好	在地系		
2526	相生	SK16	土製品	人形	恵比寿	2.5	2.2	4.0		型合わせ成形		灰釉		細砂粒含む	褐灰 (5YR5/1)	白色粒・黒色粒	良好			
2528	相生	SK17	磁器	小碗	半球形	(8.2)	4.2	(7.1)		轆轤成形	置付無釉・砂付着・貫入あり	外)青磁釉・透釉・明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
2529	相生	SK17	磁器	小碗	丸形	9.0	3.3	4.5		轆轤成形	染付	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～後葉	
2530	相生	SK17	磁器	中碗	浅半球形	9.8	3.4	4.4		轆轤成形	くらわんか手・高台部土付着	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
2531	相生	SK17	磁器	中碗	丸形	9.7	4.3	5.1		轆轤成形	くらわんか手	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	瀬戸美濃系	18世紀中葉～後葉	
2532	相生	SK17	磁器	中碗	丸形	9.8	(4.1)	5.3		轆轤成形	くらわんか手	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～後葉	
2533	相生	SK17	磁器	中碗	丸形	10.0	4.0	5.2		轆轤成形	くらわんか手	透明釉		緻密	灰白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～後葉	
2534	相生	SK17	磁器	中碗	浅半球形	(10.1)	4.1	(5.0)		轆轤成形	置付無釉	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
2535	相生	SK17	磁器	紅猪口	平形	6.2	3.5	2.1		轆轤成形	疵の目跡割ぎ	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系		
2536	相生	SK17	磁器	五寸皿	丸形	14.3	7.6	3.5		轆轤成形	肥前系・貫入あり	透明釉		緻密	白	黒色粒	良好	肥前系	18世紀中葉～末	
2537	相生	SK17	陶器	小碗	半球形	(8.9)	2.9	5.4		轆轤成形	京焼皿・貫入あり	灰釉		密	灰白 (2.5Y7/1)	白色粒・黒色粒	良好	京・信濃系	18世紀中葉～後葉	
2538	相生	SK17	陶器	中碗	腰形	(9.0)	3.7	(5.0)		轆轤成形	脚毛目	透明釉		密	明赤釉 (5Y5/6)	白色粒	良好	肥前系	17世紀末～18世紀中葉	

*法量()は複元測値、()は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
2539	相生	SK17	陶器	中碗	半球形	(9.1)	3.1	5.5		轆轤成形	上絵付	京焼風	灰釉・ 鉄釉	灰白(7.5Y8/2)・ 黒褐 (5YR2/2)	細砂粒含む 密	灰白(2.5Y8/2) 黒色粒 灰白(2.5Y8/1) 黒色粒	良好 瀬戸美濃系 良好 瀬戸美濃系	18世紀中葉～後葉 18世紀後葉		
2540	相生	SK17	陶器	中碗	腰張形	(9.1)	4.0	5.6		轆轤成形			灰釉・ 鉄釉	灰白(2.5Y8/2)・ 暗褐 (7.5YR3/4)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1) 黒色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀後葉		
2541	相生	SK17	陶器	中碗	腰張形	(9.2)	3.8	5.9		轆轤成形			灰釉	灰白(7.5Y8/1)	密	白色粒・黒 色粒	良好 京・信楽系	18世紀中葉～後葉		
2542	相生	SK17	陶器	中碗	半球形	9.2	3.3	5.6		轆轤成形	鉄絵		灰釉	浅黄(2.5Y8/3)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1) 黒色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀中葉～後葉		
2543	相生	SK17	陶器	中碗	半球形	(9.7)	3.4	5.4		轆轤成形	上絵付	貫入あり	灰釉	浅黄(5Y7/3)	密	灰白(2.5Y8/1) 黒色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀中葉～後葉		
2544	相生	SK17	陶器	中碗	腰張形	9.9	3.6	5.5		轆轤成形		せん心碗	灰釉・ ウノフ 釉	明黄褐(2.5YR6/6)	細砂粒含む	浅黄緑 (10YR8/3)	良好 瀬戸美濃系	18世紀中葉～後葉		
2545	相生	SK17	陶器	中碗	丸形	(11.0)	(5.0)	7.7		轆轤成形		尾呂茶碗	灰釉	灰白(10YR8/2)	密	白色粒・黒 色粒	良好 瀬戸美濃系	17世紀後葉～18世紀中 葉		
2546	相生	SK17	陶器	中碗	丸形	(11.7)	4.6	8.4		轆轤成形			灰釉	灰白(5Y8/2)	密	白色粒・黒 色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀		
2547	相生	SK17	陶器	小皿	六角形	8.9	4.6	2.3		型打成形		輪花・内面貫入あり	灰釉	灰白(5Y8/2)	細砂粒含む	白色粒・黒 色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀		
2548	相生	SK17	陶器	小皿	六角形	5.0	(1.4)			轆轤成形	染付・型紙置	貫入あり	灰釉	灰白(5Y7/2)	細砂粒含む	白色粒・黒 色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀		
2549	相生	SK17	陶器	五寸皿	折縁形	(16.2)	7.6	(3.3)		轆轤成形		輪壳皿	灰釉	灰白(5Y8/1)	密	灰白(5Y8/1) 黒色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀		
2550	相生	SK17	陶器	灯明皿	平形	(11.0)	5.7	(1.8)		轆轤成形		底部に目跡あり	鉄釉	褐(7.5YR4/4)	密	灰白(2.5Y8/1) 白色粒 にぶい黄緑 (10YR7/2)	良好 瀬戸美濃系	18世紀		
2551	相生	SK17	陶器	灯明皿	無高台平形	8.1	3.6	1.7		轆轤成形		見込平皿	鉄釉	暗褐(7.5YR3/3)	密	灰白(10YR8/2)	良好 瀬戸美濃系	18世紀		
2552	相生	SK17	陶器	灯明受皿	油清切立状	11.2	5.1	2.2	8.2	轆轤成形		目跡(環状痕)あり	鉄釉	明赤褐(5YR3/4)	密	褐色(5YR6/1) 色粒	良好			
2553	相生	SK17	陶器	灯明受皿	油清切立状	(8.6)	4.1	1.8	5.2	轆轤成形			鉄釉	明赤褐(5YR5/6)	細砂粒含む	灰白(10YR8/2) 色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀		
2554	相生	SK17	陶器	片口	口縁切込丸形	19.5	10.0	12.8	23.8	轆轤成形		片口ノ類・見込みに目跡あり・底部無釉	灰釉	黄褐(2.5Y5/6)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1) 色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀		
2555	相生	SK17	陶器	片口	口縁切込平形	(17.1)	9.4	10.0	—	轆轤成形		見込みに目跡あり	灰釉	明黄褐(10YR6/6)	密	浅黄緑 (10YR8/3) 色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀後葉～19世紀中 葉		
2556	相生	SK17	陶器	片口	口縁切込平形	(11.4)	6.1	6.6	13.9	轆轤成形		目跡あり	灰釉	オリーブ黄(5Y6/4)	密	灰白(5Y8/1)	良好 瀬戸美濃系	18世紀後葉～19世紀中 葉		
2557	相生	SK17	陶器	握鉢	把手無し	(32.2)	14.8	(16.1)		轆轤成形		目跡あり・把手なし・高台無釉	灰釉・ 緑釉 紫(5Y4/3)	淡黄(2.5Y8/3)・暗オリー ブ(5Y4/3)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/2) 色粒	良好 瀬戸美濃系			
2558	相生	SK17	陶器	香炉	無三足八角形	(10.6)	6.8	7.8		轆轤成形		目跡あり	緑釉	灰白(10Y4/2)	細砂粒含む	淡黄(2.5Y8/3) 黒色粒	良好 瀬戸美濃系			
2559	相生	SK17	陶器	香炉	浅筒形	(10.4)	(6.5)	6.8		轆轤成形	鉄絵・型紙置		灰釉	灰白(2.5Y8/1)	密	灰白(5Y8/1) 黒色粒	良好 瀬戸美濃系			
2560	相生	SK17	陶器	火鉢	円筒形	(15.0)	(17.7)	14.7		轆轤成形		貫入あり	灰釉	灰白(2.5Y8/2)	細砂粒含む	灰白(5Y8/1) 色粒	良好 瀬戸美濃系			
2561	相生	SK17	陶器	中壺	半筒形	—	(17.7)	(18.8)		轆轤成形			鉄釉	褐(7.5YR4/6)	粗砂粒含む	浅黄緑 (10YR8/3) 粒・白色 黒色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀		
2562	相生	SK17	陶器	中壺	半筒形	(17.2)	11.6	16.2		轆轤成形		底部穿孔・赤津半筒・榫木鉢に転用か	鉄釉	赤褐(5YR4/6)	細砂粒含む	黄橙(10YR8/6) 白色粒・黒 色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀～19世紀中葉		
2563	相生	SK17	陶器	土瓶	脚折形	—	—	(11.7)	—	轆轤成形		スズ付着・薩摩焼・孔1つ	鉄釉	にぶい赤褐(5YR4/3)	密	赤褐(5YR4/6)	良好 薩摩系	18世紀後葉以降		
2564	相生	SK17	陶器	蓋	半球形	10.5	1.9	1.8		轆轤成形		灯明皿の蓋・口縁部の一部をU字状に切り欠く	鉄釉	暗赤褐(5YR3/6)	細砂粒含む	赤色粒・黒 色粒	良好			
2566	相生	SK19	磁器	小碗	半球形	(7.6)	(3.0)	(4.4)		轆轤成形	染付	貫入あり・置付無釉	透明釉	白	密	黒色粒	良好 肥前系	18世紀中葉～19世紀前 葉		
2567	相生	SK19	磁器	中碗	丸形	(10.0)	(4.2)	5.3		轆轤成形	染付・コンニャク印判		透明釉	灰白	密	黒色粒	良好 肥前系	17世紀末～18世紀末		
2568	相生	SK19	磁器	小皿	丸形	(13.0)	(8.0)	(2.2)		轆轤成形	染付	目跡あり・縁積あり	透明釉	白	密	黒色粒	良好 肥前系	17世紀末		
2569	相生	SK19	陶器	中碗	半筒形	(9.0)	—	(5.2)		轆轤成形	陶胎染付		灰釉	灰白(5Y8/2)	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/1) 色粒	良好 瀬戸美濃系	18世紀第4四半期		
2570	相生	SK19	陶器	水滲	圓形	(6.0)	4.0	2.1		轆轤成形		くらかんが手	灰釉	明オリーブ灰(2.5GY7/1)	密	灰白(5Y8/1)	良好			
2572	相生	SK20	磁器	中碗	丸形	(9.9)	4.0	5.5		轆轤成形	染付		透明釉	灰白	密	黒色粒	良好 肥前系	17世紀末～18世紀末		
2573	相生	SK20	磁器	中碗	丸形	9.5	4.0	5.1		轆轤成形	染付・コンニャク印判		透明釉	灰白	密	黒色粒	良好 肥前系	17世紀末～18世紀末		
2574	相生	SK27	磁器	小皿	楕圓形	—	(2.2)	(4.1)		轆轤成形	染付		透明釉	白	密	黒色粒	良好 肥前系	18世紀第4四半期以降		
2575	相生	SK27	磁器	大皿	逆槌形	—	(10.4)	(16.7)		轆轤成形	染付	胴部球状・輪高台・断面に漆継ぎの痕跡あり	透明釉	灰白(2.5Y8/1)	密	黒色粒	良好 肥前系	18世紀		

*法量()は還元量測値、〈 〉は現存値である。

報告番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量 (cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	油薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
2576	相生	SK27	陶器	甗鉢				(16.0)	(5.2)	轆轤成形			無釉		細砂粒含む	にぶい澄 (7.5YR7/4)	赤色粒・白色粒・黒色粒	良好丹波系		17世紀
2578	相生	SK29	磁器	小碗	丸形		7.9	3.0	4.2	轆轤成形	染付		透明釉		密	灰白	黒色粒	良好肥前系		18世紀
2579	相生	SK29	陶器	中碗	腰折形			4.2	(4.3)	轆轤成形		せんじょうが・貫入あり・見込み部に目跡あり	灰釉	密		淡黄(2.5Y8/3)色粒	良好瀬戸美濃系分			
2580	相生	SK29	陶器	中皿	半筒形			(13.4)	(15.1)	轆轤成形		見込み部に目跡あり	鉄釉	相砂粒含む	にぶい黄橙 (10YR7/2)	長石・黒色粒	良好		18世紀中葉～19世紀初頭	
2582	相生	551	磁器	小碗	半筒形		(7.0)	(3.7)	5.3	轆轤成形	染付	覆付無釉	透明釉	密	白	黒色粒	良好		18世紀中葉～19世紀初頭	
2583	相生	551	磁器	小碗	筒丸形		(7.1)	3.2	5.4	轆轤成形	染付		透明釉	密	灰白	黒色粒	良好		19世紀前半～中葉	
2584	相生	551	磁器	小碗	筒丸形		(7.3)	3.7	5.7	轆轤成形	染付	覆付無釉	透明釉	密	白	黒色粒	良好		18世紀中葉	
2585	相生	551	磁器	中碗	碗形		(10.2)	(3.9)	5.9	轆轤成形	染付	覆付無釉	透明釉	密	白	黒色粒	良好		19世紀初～19世紀中葉	
2586	相生	551	磁器	紅猪口	碗形		4.6	1.3	1.4	型打成形			白磁釉	密	淡黄(2.5Y8/3)色粒	良好肥前系				
2587	相生	551	磁器	紅猪口	碗形		4.5	1.1	1.5	型打成形		口縁部に砂薬付着	白磁釉	密	白(9)	黒色粒	良好			
2588	相生	551	磁器	小皿	四弁花		(11.8)	(6.2)	(3.6)	型打成形	染付		透明釉	密	白	黒色粒	良好			
2589	相生	551	磁器	散蓮華	小型		(10.2)	4.1	3.3	4.4	型打成形	染付	底部蓮華あり「クシゴ」	透明釉	密	白	黒色粒	良好		19世紀初頭以降
2590	相生	551	磁器	戸車	車形		6.9	2.1	1.6	轆轤成形			白磁釉	密	白	黒色粒	良好			
2591	相生	551	陶器	中碗	丸形			5.0	(4.9)	轆轤成形		高台部無釉	灰釉	密	灰白(10YR8/1)色粒	黒色粒	良好			
2592	相生	551	陶器	灯明皿	無高台形		(10.0)	4.6	1.9	轆轤成形		見込み部状態あり	鉄釉	密	灰白(10YR7/3)	黒色粒	良好			
2593	相生	551	陶器	餅猪口	半筒形		4.0	3.7	2.4	轆轤成形		底部回縁糸切り・環跡み付	灰釉	密	灰白(5Y8/1)	黒色粒	良好		18世紀中葉～19世紀中葉	
2594	相生	551	土製品	さな	円盤形		(9.6)		(1.5)			焼けて表面もろく一部割離	無釉	細砂粒含む	明赤褐 (5YR5/6)	石英・白色粒・金色雲母	良好			
2595	相生	P1	磁器	小碗	筒形		(5.4)	3.4	5.6	轆轤成形	染付・銅版転写		透明釉	密	灰白	黒色粒	良好		明治20年代以降	
2596	相生	P1	磁器	碗	端反形		(7.2)	(2.8)	(3.0)	轆轤成形	染付		透明釉	密	白	黒色粒	良好		明治10年代以降	
2597	相生	P1	磁器	中碗	平形		9.8	3.3	3.9	轆轤成形	染付・型紙摺		透明釉	密	白	黒色粒	良好		明治10年代以降	
2598	相生	P1	磁器	大碗	端反形		(13.2)	(4.8)	(6.2)	轆轤成形	染付	高台部に砂付着	透明釉	密	白	黒色粒	良好		19世紀	
2599	相生	P1	磁器	中皿	丸形		12.8	6.7	2.6	轆轤成形	染付	蛇の目形高台・西洋コハルト・輪花	透明釉	密	白	黒色粒	良好		19世紀中葉以降	
2600	相生	P1	磁器	小鉢	腰張形		13.0	6.8	6.2	轆轤成形	染付		透明釉	密	白	黒色粒	良好		明治	
2601	相生	P1	磁器	薬物	筒丸形		(8.0)	5.4	7.0	轆轤成形	染付・型紙摺		透明釉	密	白	黒色粒	良好			
2602	相生	P1	磁器	中盤	沈香壺形		(6.6)	7.2	17.2	轆轤成形	染付	覆付無釉	透明釉	密	白	黒色粒	良好			
2603	相生	P1	磁器	水注類	変形		(8.6)	5.2	(4.1)	(11.1)	鉄絵		透明釉	密	白	黒色粒	良好		19世紀中葉以降	
2604	相生	P1	磁器	蓋	蓋		(7.0)	(10.7)	2.7	12.5	染付	六角形	透明釉	密	白	黒色粒	良好			
2605	相生	P1	磁器	蓋	蓋		9.2	3.5	3.0	轆轤成形	染付		透明釉	密	白	赤色粒・白色粒	良好			
2606	相生	P1	磁器	蓋	蓋		9.4	6.9	3.9	1.8	染付	白泥後染付	透明釉	密	灰白(2.5Y8/2)色粒	赤色粒・白色粒	良好			
2607	相生	P1	磁器	蓋	蓋		11.1	4.5	2.5	轆轤成形	染付・型紙摺	西洋コハルト	透明釉	密	白	黒色粒	良好		明治10年代以降	
2608	相生	P1	陶器	捏鉢	把手無し		27.0	15.6	15.5	轆轤成形		見込部に目跡あり・貫入あり・底部穿孔あり	灰釉	細砂粒含む	灰白(7.5Y8/1)色粒	長石・黒色粒	良好		19世紀後半	
2609	相生	P1	陶器	蓋	蓋		13.4	(4.9)	(2.6)	轆轤成形	鉄絵・型紙摺	緑地塗とし	透明釉	細砂粒含む	黄淡(2.5Y8/3)色粒	黒色粒	良好		18世紀中葉～19世紀初頭	
2610	相生	連携外	磁器	小碗	半筒形		(7.0)		(5.2)	轆轤成形	染付	「泉」銘あり	透明釉	密	灰白	黒色粒	良好		18世紀中葉～19世紀初頭	
2611	相生	連携外	磁器	小碗	半筒形		(7.8)		(4.4)	轆轤成形	染付		透明釉	密	白	黒色粒	良好		18世紀中葉～19世紀初頭	
2612	相生	連携外	磁器	小碗	筒形		(8.0)		(4.6)	轆轤成形	染付		透明釉	密	白	黒色粒	良好		18世紀後半～19世紀中葉	
2613	相生	連携外	磁器	段重	腰部無加工		14.2	10.1	6.8	轆轤成形	染付		透明釉	密	白	黒色粒	良好			
2614	相生	連携外	磁器	水滴	豆房形		(6.5)	(7.1)	(3.9)	型押成形	染付	底部及び底部内面に唇目痕	透明釉	密	白	黒色粒	良好			
2615	相生	連携外	磁器	水滴	天保通宝形		(6.0)	(3.4)	(1.0)	型押成形	染付		透明釉	密	白	黒色粒	良好			
2616	相生	連携外	陶器	中皿	端反形		(21.9)	(10.4)	4.2	轆轤成形	上絵付	貫入あり	灰釉	密	灰白(2.5Y8/1)色粒	白色粒・黒色粒	良好			
2617	相生	連携外	陶器	大皿	丸形		(27.3)	(13.0)	5.1	轆轤成形	鉄絵	馬の目皿・目跡あり・貫入あり・高台部無釉	灰釉	細砂粒含む	灰白(2.5Y8/2)色粒	長石・黒色粒	良好		19世紀前半	

*法量()は復元実測値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	種別	器種	器形	法量(cm)				成形技法	絵付・装飾技法	特徴・備考	釉薬	釉調	胎土	胎土色調	含有物	焼成	推定産地	推定生産年代
						A	B	C	D											
2618	相生	遺構外	陶器	猪口	甌形	(8.2)	4.4	6.3		甌輪成形	下絵付	高台部「奥むら」銘あり・曇り無釉	透明釉	灰白(10Y7/2)・黒褐(10YR2/3)	密	淡黄(2.5Y8/3)	黒色粒	良好		近代
2619	相生	遺構外	陶器	水盤	内湾形三足	(23.0)	(21.4)	11.8		甌輪成形		輪花・見込部目跡あり・灰釉後鉄釉掛流し	鉄釉		密	灰白(5Y8/1)		良好	瀬戸美濃系	
2623	相生	遺構外	土製品	土鈴		2.2	2.2	0.7		手捏ね成形			無釉		密	橙(5YR6/6)	雲母	良好		
2624	相生	遺構外	土製品	碁石		1.8	2.0	0.7		手捏ね成形			無釉		密	橙(7.5YR6/6)	黒色粒・雲母	良好		
2625	相生	遺構外	土製品	碁石		1.9	2.0	0.7		手捏ね成形			無釉		密	にぶい褐(7.5YR5/4)	雲母	良好		
2626	相生	遺構外	土製品	碁石		2.0	2.0	0.6		手捏ね成形			無釉		密	にぶい黄橙(10YR6/4)	黒色粒・雲母	良好		
2627	相生	遺構外	土製品	碁石		2.1	2.2	0.6		手捏ね成形			無釉		密	明褐(7.5YR5/6)	黒色粒・雲母	良好		
2628	相生	遺構外	土製品	碁石		2.0	2.2	0.6		手捏ね成形			無釉		密	にぶい黄褐(10YR5/4)	黒色粒・雲母	良好		
2629	相生	遺構外	土製品	碁石		2.1	2.1	0.7		手捏ね成形			無釉		密	にぶい褐(7.5YR6/3)	黒色粒・雲母	良好		
2630	相生	遺構外	土製品	碁石		1.9	2.0	0.6		手捏ね成形			無釉		密	オリーブ黒(5Y3/1)	雲母	良好		
2631	相生	遺構外	土製品	碁石		1.9	1.9	0.6		手捏ね成形			無釉		密	橙(7.5YR6/6)	赤色粒・黒色粒・雲母	良好		
2632	相生	遺構外	土製品	碁石		1.8	1.9	0.7		手捏ね成形			無釉		密	灰(5Y5/1)	雲母	良好		
2633	相生	遺構外	土製品	碁石		1.8	(1.8)	0.6		手捏ね成形			無釉		密	橙(5YR6/6)	赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母	良好		
2634	相生	遺構外	甕甲製品	樽		11.2	3.4	0.3					無釉		密					近代

第12表 II・相生工区遺物観察表(瓦)

*法量()は復元実測値、〈 〉は現存値である。

報告書 番号	調査区	出土地点	器種	法量 (cm)		備考
860	A	SK15	軒瓦	径 9.3/文様区径 5.0/瓦当厚 2.3		
1060	A	SK38	軒椽瓦	残長 28.4/残幅 27.3/残厚 1.6/軀厚 1.4/丸区径 8.0/瓦当厚 1.9/文様区径 4.9/文様区幅 13.9		
1059	A	SK38	塊瓦	残長 11.9/残幅 (29.1) / 残高 (21.7)		
1551	C	SK31	椽瓦	径 15.4/文様区径 10.6/瓦当厚 2.3		裏面にスス付着
1699	C	遺構外	軒椽瓦	残長 (16.3) / 残幅 27.5/軀厚 1.6/瓦当厚 2.3/文様区面径 8.0/文様区面幅 14.5		
2524	相生	SK16	軒椽瓦	丸区径 8.1/文様区面径 6.0/瓦当厚 (1.8)		瓦当文様「丸に泉」の屋号
2620	相生	遺構外	軒椽瓦	残長 (9.1) / 残幅 (12.7) / 厚さ 1.9/瓦当厚 2.0/軀厚 2.9/文様区面径 8.0/文様区面幅 (2.2)		
2622	相生	遺構外	軒椽瓦	径 (6.2) / 文様区面径 (5.5) / 瓦当厚 (2.6)		瓦当文様「△」に「叶」の屋号
2621	相生	遺構外	軒椽瓦	文様区面径 (6.0) / 瓦当厚 (2.3)		瓦当文様「△」に「叶」の屋号

第13表 II・相生工区遺物観察表(木製品)

報告書 番号	調査区	出土地点	種類	法量(cm)			備考
				A	B	C	
868	A	SK15	蓋	6.1	5.8	2.5	中心に孔あり・樹皮製のつまみあり
869	A	SK15	蓋	6.1	5.8	0.3	中心に孔あり
870	A	SK15	蓋	5.5	5.7	0.3	焼印あり「百」・中心に孔あり
871	A	SK15	蓋	5.5	5.2	0.3	焼印あり「百」・中心に孔あり
872	A	SK15	蓋	7.0	7.0	3.5	
873	A	SK15	蓋	6.5	6.4	1.0	中心に孔あり・焼印の痕跡あり
874	A	SK15	蓋	5.9	5.8	0.3	中心に孔あり・樹皮製のつまみあり
875	A	SK15	蓋	5.9	5.0	0.3	中心に孔あり
876	A	SK15	蓋	6.1	7.1	0.4	中心に孔あり・墨書あり
877	A	SK15	蓋	4.5	4.5	0.3	中心に孔あり・樹皮製のつまみあり
878	A	SK15	蓋	5.4	4.7	0.3	中心に孔あり
879	A	SK15	曲物容器	1.7	6.5	0.1	
880	A	SK15	桶	2.1	8.9	0.9	焼印あり
881	A	SK15	樽の軟口	9.6	3.6	0.9	
882	A	SK15	部材	16.8	2.5	0.7	
883	A	SK15	棒状木製品	4.5	2.9	2.7	
884	A	SK15	部材	28.3	4.4	1.8	釘が残存・孔あり
885	A	SK15	板状木製品	4.4	7.6	0.9	
886	A	SK15	板状木製品	8.8	11.0	1.3	側面に釘が残存
887	A	SK15	部材	11.5	8.3	1.1	墨書あり「へ」の下に「中」
888	A	SK15	部材	2.6	2.6	0.9	
889	A	SK15	桶	13.4	8.0	0.6	焼印あり「西富士」
890	A	SK15	祭祀具	21.6	8.6	0.9	墨書あり「身延」「本願人中 役僧」他・孔あり
891	A	SK15	箱の蓋か	22.6	8.3	0.7	両面に墨書あり「森町」「持主」他・焼印「舛」
892	A	SK15	祭祀具	28.1	3.5	0.5	墨書あり「春納」「山宮」「武右衛門」他
893	A	SK15	羽子板	24.7	4.7	0.8	
894	A	SK15	箱	6.5	14.5	0.5	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・釘穴あり
895	A	SK15	柳払い	9.9	2.6	0.4	
896	A	SK15	へら	13.0	1.8	0.4	
897	A	SK15	便器	35.9	23.4	1.2	尿尿痕あり
928	A	SK19	蓋	10.0	5.6	3.1	内外面黒漆塗り・外面に文様あり
929	A	SK19	蓋か	14.8	11.4	0.5	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り
930	A	SK19	木札	20.0	9.9	0.9	墨書あり
967	A	SK23	蓋	13.0	6.3	2.9	内外面黒漆塗り
968	A	SK23	蓋	7.8	8.0	0.4	中心に孔あり
969	A	SK23	桶	25.4	16.4	1.2	鋸による切れ込みあり
970	A	SK23	桶	24.1	12.0	0.9	木釘2ヶ所残存
971	A	SK23	桶	20.3	20.7	1.0	
979	A	SK24	箱か	7.0	5.0	0.7	内外面黒漆塗り・竹釘の穴が3ヶ所あり
1023	A	SK29	下駄	22.0	9.2	6.3	露印下駄

報告書 番号	調査区	出土地点	種類	法量(cm)			備考
				A	B	C	
1063	A	SK38	椀	11.2	6.6	4.9	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り
1064	A	SK38	蓋	11.8	9.1	0.9	焼印あり「西改」
1065	A	SK38	部材	14.2	8.2	6.4	
1115	A	SK43	椀	—	6.0	7.6	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り
1116	A	SK43	椀	—	—	4.4	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・家紋あり
1117	A	SK43	蓋	11.0	4.4	4.0	内外面黒漆塗り・外面に文様あり
1118	A	SK43	蓋	13.7	7.0	2.3	内外面黒漆塗り
1119	A	SK43	蓋	5.9	4.3	0.2	焼印あり「高橋」・中心に孔あり
1120	A	SK43	蓋	10.1	5.3	0.9	墨書あり
1121	A	SK43	部材	28.2	4.6	0.9	裏面に黒漆を塗った痕跡あり・刻書あり「へ」の下に「キ」
1139	A	SK44	櫛	16.3	2.7	0.2	黒漆塗り
1140	A	SK44	櫛	6.5	2.8	0.6	金箔貼り
1154	A	SK47	下駄	6.6	10.5	1.2	焼印あり「丸に二つ引き」・露印下駄
1233	A	SE1	蓋	—	5.8	2.0	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・外面に家紋あり
1254	A	SE1	椀	12.7	4.8	6.0	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り
1255	A	SE1	部材	8.2	8.7	2.2	
1273	A	遺構外	棒状木製品	8.2	0.6	0.5	
1274	A	遺構外	棒状木製品	10.7	2.0	0.7	
1275	A	遺構外	荷札	15.7	5.4	0.8	両面に墨書あり「信州長野大門町 通運舎□次 甲州山梨郡甲府柳四丁目 □屋左助様行」他・孔が2ヶ所あり
1311-a	B	SK2	桶	20.4	10.4	1.0	木釘2ヶ所残存
1311-b	B	SK2	桶	20.4	10.4	1.0	墨書あり・木釘2ヶ所残存
1312	B	SK2	桶	13.4	7.8	0.6	外面に箍の痕跡あり
1313	B	SK2	桶	13.3	8.7	0.6	外面に箍の痕跡あり
1314	B	SK2	桶	13.4	9.8	0.7	外面に箍の痕跡あり
1315	B	SK2	桶	13.3	7.1	0.8	外面に箍の痕跡あり
1316	B	SK2	桶	13.4	8.1	0.6	外面に箍の痕跡あり
1317	B	SK2	桶	13.3	8.3	0.7	外面に箍の痕跡あり
1318	B	SK2	桶	13.3	5.7	0.7	外面に箍の痕跡あり
1319	B	SK2	桶	13.3	6.8	0.7	外面に箍の痕跡あり
1320	B	SK2	桶	13.3	6.3	0.7	外面に箍の痕跡あり
1321	B	SK2	桶	13.4	3.5	0.7	外面に箍の痕跡あり
1674	C	SK2	角柱状木製品	17.7	6.5	6.2	焼印2ヶ所あり「西富士」
1675	C	SK2	部材	18.0	5.0	4.8	C-SX2の構築材・旧No.柱①
1676	C	SK2	部材	15.6	4.0	4.5	C-SX2の構築材・旧No.柱②
1677	C	SK2	部材	18.4	4.5	3.5	C-SX2の構築材・旧No.柱③
1678	C	SK2	部材	28.9	4.1	3.7	C-SX2の構築材・旧No.柱④
1679	C	SK2	部材	28.6	5.0	2.5	C-SX2の構築材・旧No.柱⑤
1680	C	SK2	部材	28.7	2.2	2.0	C-SX2の構築材・旧No.柱⑥
1681	C	SK2	部材	37.2	2.0	1.8	C-SX3の構築材・旧No.柱⑦
1682	C	SK2	部材	15.2	4.4	2.9	C-SX4の構築材・旧No.柱⑧

*法量()は復元実測値、< >は現存値である。

*法量()は復元実測値、< >は現存値である。

第14表 II・相生工区遺物観察表(石製品)

報告書番号	調査区	出土地点	種類	法量 (cm)			備考
				A	B	C	
1683	C	SK2	部材	145	42	36	C-SX5の構架材・旧No.柱②
1693	C	SK4	盃	10.4	5.5	2.1	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・高台内に朱漆で「庁」の文字あり
2055	相生	SK7	木札	24.6	6.3	1.2	両面に墨書あり「大四正□生(瓦)(焼)栗 近江惣兵衛」他・上部に孔あり
2056	相生	SK7	祭祀具	<25.5>	4.2	3.0	墨書あり「天下泰平護国成就京」他
2057	相生	SK7	木札	21.3	<4.8>	0.9	墨書あり七百(大)(坂) (宮)(崎)(徳)(兵)(衛) 清水 樋口太兵衛 他
2058	相生	SK7	枕状木製品	30.8	3.1	0.7	両面に黒漆を塗る
2059	相生	SK7	部材	27.8	3.7	3.7	中心部に角釘残存・ホゾの両側面に縦方向のケズリ痕多数あり
2149	相生	SK10	椀	(12.2)	5.8	6.2	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・底部に朱書きあり「□八仕入」
2150	相生	SK10	椀	—	(6.2)	(4.4)	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・底部に朱書きあり「麻(○)に麻」本仕入
2151	相生	SK10	蓋	9.2	—	<2.0>	内外面黒漆塗り
2152	相生	SK10	蓋	16.2	7.6	2.4	墨書あり
2153	相生	SK10	手鏡の箱	31.6	20.7	0.7	内外面朱漆塗り
2293	相生	SK11	蓋	5.4	8.9	1.0	内外面黒漆塗り・外面に蒔絵
2294	相生	SK11	蓋	(9.5)	4.7	2.7	内面朱漆塗り・外面に「丸」に抱き柏の家紋あり
2295	相生	SK11	蓋	20.5	11.1	1.1	内面朱漆塗り・外面に文様あり
2462	相生	SK12	椀	8.8	5.0	6.2	内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・底部に「丸」の中に「や」の朱書きあり
2463	相生	SK12	盃	(9.6)	—	<2.9>	内外面朱漆塗り・外面に文様あり
2464	相生	SK12	蝶足膳	<29.9>	<6.3>	<1.4>	No.2465と同一個体・内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・木釘残存
2465	相生	SK12	蝶足膳	<26.6>	3.7	0.8	No.2464と同一個体・内面朱漆塗り・外面黒漆塗り・外面に「北条対蝶」の家紋あり
2466	相生	SK12	蓋か	9.5	14.1	0.9	内面黒漆塗り・外面に墨書あり
2467	相生	SK12	箱か	26.5	<5.0>	0.7	墨書あり・側面に釘穴あり
2468	相生	SK12	蓋か	8.6	6.4	0.7	内面に黒漆を塗った痕跡あり・外面朱漆塗り
2469	相生	SK12	荷札	<20.1>	7.2	0.8	両面に墨書あり「松本」他・孔あり
2470	相生	SK12	荷札	24.4	6.2	0.6	両面に墨書あり「□□□より □屋 御□ 吉八郎兵三郎 行」他・孔あり
2471	相生	SK12	荷札	18.8	6.0	0.9	両面に墨書あり「徳」他・孔あり
2472	相生	SK12	荷札	22.6	7.0	0.7	両面に墨書あり「甲南郡 江戸日本橋 白木屋 伊藤三郎兵衛 彦太郎」 「□□ 住吉屋 琉球丸 芝野光兵衛殿 □□町 松田虎右衛門 三郎 右工門殿 卯 黒沢□兵衛」他・孔あり
2473	相生	SK12	木札	<8.0>	<3.0>	0.7	墨書あり 孔あり
2474	相生	SK12	板	19.5	4.5	0.8	両面に墨書あり 孔あり
2475	相生	SK12	荷札	25.2	4.4	0.6	両面に墨書あり「上儀右衛門」他・孔あり
2476	相生	SK12	荷札	13.6	2.2	0.6	墨書あり「六□□」他 孔あり
2513	相生	SK15	風呂敷(台紙)	31.5	8.9	2.6	釘残存
2514	相生	SK15	部材	13.9	15.7	2.4	
2527	相生	SK16	荷札	18.0	4.9	0.7	両面に墨書あり「甲府柳(町) 和泉屋善兵衛殿入る」[右者 さらし□ □□丸 正業(切)(り) 打入] 他

*法量()は復元推測値、< >は現存値である。

報告書番号	調査区	出土地点	種類	法量 (cm)			備考
				A	B	C	
966	A	SK23	石筆	3.8	0.6	0.6	
1004	A	SK26	硯	13.0	5.5	2.1	
1112	A	SK43	硯	<11.9>	6.2	1.8	
1113	A	SK43	硯	15.1	6.1	1.8	
1114	A	SK43	砥石	11.5	3.1	1.9	
1271	A	遺構外	碁石	2.1	2.0	0.4	
1272	A	遺構外	碁石	2.2	2.2	0.6	
1590	C	SK33	硯	<3.9>	<5.0>	<1.3>	
1591	C	SK33	硯	11.7	5.8	1.5	裏面に刻書あり・駒腹部多数・墨付着
1707	C	遺構外	砥石	8.6	3.5	2.3	
1708	C	遺構外	砥石	12.6	4.2	5.1	
1709	C	遺構外	石筆	2.7	0.6	0.6	
1710	C	遺構外	石墨	2.9	0.5	0.6	
1751	D	SK4	砥石	11.6	3.2	3.4	
1766	D	SK6	根付けか	2.5	3.5	1.5	四ヶのくぼみあり
1791	D	SK9	硯	<10.3>	5.3	1.8	裏面駒腹多数
1923	D	SK13	砥石	9.1	3.6	3.0	
2147	相生	SK10	硯	<7.1>	6.3	1.8	
2148	相生	SK10	硯	7.2	2.6	0.5	
2291	相生	SK11	硯	<7.9>	8.7	2.7	中央に矢印状の釘書きあり
2292	相生	SK11	円筒形石製品	7.4	7.4	4.7	
2512	相生	SK15	くぼみ石	8.4	9.0	5.3	
2635	相生	遺構外	碁石	2.2	2.2	0.5	
2636	相生	遺構外	碁石	2.2	2.2	0.5	
2637	相生	遺構外	碁石	2.0	2.1	0.8	
2638	相生	遺構外	砥石	6.6	2.8	2.6	
2639	相生	遺構外	砥石	10.5	3.8	4.5	
2640	相生	遺構外	石臼	(19.4)	(11.2)	(10.9)	上臼・横打込穴2ヶ所残存・芯線室が貫通している
2641	相生	遺構外	石臼	(12.8)	(13.1)	(12.8)	上臼・供給口残存・横打込穴残存
2642	相生	遺構外	石臼	<28.6>	<16.4>	11.8	上臼・供給孔残存・横打込穴残存・芯線室残存
2643	相生	遺構外	石臼	27.5	36.2	15.3	上臼・横打込穴残存
2644	相生	遺構外	石筆	3.8	0.7	0.7	
2645	相生	遺構外	石筆	5.6	0.8	0.8	
2646	相生	遺構外	石筆	3.8	0.7	0.7	

第15表 II・相生工区遺物観察表(金属製品)

報告書 番号	調査区	出土地点	種類	部位	法量 (cm)				備考
					A	B	C	D	
980	A	SK24	包丁		10.4	3.2	0.2		
1024	A	SK29	璃状金属		4.5	3.3	0.3		
1122	A	SK43	切刃		4.5	2.7	0.05		
1142	A	SK44	包丁		(8.1)	(28.2)	0.2		
1184	A	SK67	璃状金属		4.8	4.3	0.3		
1209	A	SS1	U字状金属		6.6	4.7	0.3		表面に細かい毛彫りを施す
1218	A	SS7	和釘		10.3	2.8	1.1		
1257	A	SE1	和釘		12.4	1.3	0.5		
1258	A	SE1	璃状金属		4.6	4.0	0.4		
1276	A	遺構外	香炉		7.0	5.6	(7.7)		有三足・八角形・体部外面に象眼を施す (青海波)
1279	A	遺構外	煙管	吸口部	7.0	0.9	0.4		毛彫り・梅節文
1280	A	遺構外	煙管	吸口部	7.6	1.0	0.5		
1281	A	遺構外	煙管	吸口部	10.5	1.6	0.5		
1282	A	遺構外	煙管		1.0	10.1	1.5	0.4	
1283	A	遺構外	和釘		15.3	2.3	1.1		
1284	A	遺構外	飾り金具		1.9	0.3	0.2		
1285	A	遺構外	飾り金具		7.2	4.6	0.4		
1350	B	遺構外	煙管	吸口部	6.8	0.8	0.5		
1351	B	遺構外	和釘		28.8	7.8	1.3		
1362	C	SK18	飾り金具		3.0	4.3	0.05		
1714	C	遺構外	煙管	吸口部	6.7	1.0	0.4		
1714	C	遺構外	煙管	吸口部	3.7	—	0.4		
2029	相生	SK6	毛拵		5.2	1.3	0.5		
2060	相生	SK7	円筒形		2.7	1.4	1.4		
2069	相生	SK9	煙管	吸口部	5.8	1.0	0.4		
2154	相生	SK10	十能	持手~体部	(14.1)	(13.6)	(0.08)		
2302	相生	SK11	煙管	吸口部	8.5	9.0	4.0		
2303	相生	SK11	煙管	雁首	1.5	3.6	1.6	1.0	
2304	相生	SK11	かんざし	端部欠損	(18.6)	0.5	0.4		
2485	相生	SK12	煙管	雁首	1.4	1.9	1.4		
2486	相生	SK12	煙管	雁首	1.4	6.4	1.4	1.1	
2487	相生	SK12	煙管	吸口部	4.9	0.8	0.3		
2488	相生	SK12	煙管	吸口部	6.0	1.3	0.4		一部にメッキ残存
2489	相生	SK12	かんざし		19.2	1.4	0.2		刻印あり
2490	相生	SK12	飾り金具		7.4	0.5	0.2		
2506	相生	SK14	指ぬき		1.7	1.7	1.8		
2565	相生	SK17	煙管	吸口部	7.3	1.3	0.4		内部に煙管残存
2571	相生	SK19	駒状装飾品		7.9	9.8	0.5		
2648	相生	遺構外	切刃		4.2	2.5	0.1		

*法量()は復元実測値、()は現存値である。

第16表 II・相生工区遺物観察表(銭貨)

報告書 番号	調査区	出土地点	種類	法量 (cm)			重量 (g)	備考
				A	B	C		
1066	A	SK38	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	4.54	背十一波
1141	A	SK44	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	3.88	背十一波
1162	A	SK66	大口通寶	2.3	0.6	0.1	2.33	
1256	A	SE1	一銭	2.8	—	0.2	7.11	明治八年
1277	A	遺構外	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	3.79	背十一波
1278	A	遺構外	五十銭	2.7	—	0.2	9.89	明治四十二年
1552	C	SK31	寛永通寶	2.2	0.7	0.1	1.81	
1592	C	SK33	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.91	
1595	C	SK35	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	2.62	
1694	C	SK4	甲定金か	縦 1.3 横 1.2	—	0.1	0.92	
1711	C	遺構外	□□□□	2.8	0.6	0.2	5.21	
1712	C	遺構外	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	4.25	
1715	D	SK1	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	2.85	
1716	D	SK1	寛永通寶	2.4	0.6	0.2	5.16	
1742	D	SK3	甲定金か	縦 1.1 横 1.1	—	0.1	0.91	
1743	D	SK3	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	3.98	背十一波・穿孔有り
1744	D	SK3	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.14	
1745	D	SK3	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	3.08	
1752	D	SK4	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	3.53	裏面「文」文字有り
1753	D	SK4	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.43	
1754	D	SK4	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.91	
1755	D	SK4	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	2.41	
1756	D	SK4	7永通寶	2.5	0.6	0.1	2.17	1/4欠損
1757	D	SK4	雁首銭	1.9	1	0.1	1.27	
1945	D	SS1	(寛) 永通寶	2.3	0.7	0.1	2.67	
2155	相生	SK10	寛永通寶	2.4	0.7	0.1	2.6	
2296	相生	SK11	寛永通寶	2.8	0.7	0.2	4.88	背十一波
2297	相生	SK11	寛永通寶	2.1	0.7	0.1	1.78	
2298	相生	SK11	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	1.72	
2299	相生	SK11	寛永通寶	2.2	0.6	0.1	2.23	
2300	相生	SK11	寛永通寶	2.7	0.6	0.1	4.77	背十一波
2301	相生	SK11	寛永通寶	2.2	0.7	0.1	2.1	穿孔有り
2477	相生	SK12	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	3.55	背十一波
2478	相生	SK12	寛永通寶	2.7	0.7	0.2	4.09	背十一波
2479	相生	SK12	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	2.44	
2480	相生	SK12	寛永通寶	2.4	0.7	0.1	2.98	
2481	相生	SK12	寛永通寶	2.2	0.7	0.1	1.6	
2482	相生	SK12	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	4.29	背十一波
2483	相生	SK12	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	4.78	背十一波
2484	相生	SK12	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	2.52	
2577	相生	SK27	(寛) 永通(寶)	2.4	0.6	0.2	3.32	
2581	相生	SD1	元豊通寶	2	0.7	0.1	1.36	
2647	相生	遺構外	天保通寶	縦 4.9 横 3.3	0.7	0.3	20.65	

*法量()は復元実測値、()は現存値である。

第6章 自然科学分析

第1節 甲府城下町遺跡（中央4丁目I工区）出土木製品と樹皮素材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

甲府市に所在する甲府城下町遺跡（中央4丁目I区）から出土した木製品と樹皮素材の樹種同定を行った。なお、一部の同定に際して明治大学黒耀石研究センターの能城修一氏にご教示いただいた。

2. 試料と方法

試料は、部材や胴木、杭などの木質遺物25点と、樹皮素材1点である。調査所見から、遺構は主に江戸時代～近代と推測されているが、一部は時期不明である。

木質遺物については、剃刀を用いて試料から3断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察および同定し、写真撮影を行った。

樹皮素材については、まず肉眼と実体顕微鏡で試料を観察し、樹脂包埋試料用に一部を採取した。なお、樹皮素材の観察方法は、佐々木ほか（2015）を参考にした。樹脂包埋は、アセトンの上昇系列で脱水処理を行なった後、エポキシ樹脂に包埋した。樹脂包埋試料は、マイクロトームを用いて切片を作製し、プレパラートに封入した。プレパラートを光学顕微鏡下で観察し、現生標本と比較して同定を行った。プレパラートは、パレオ・ラボに保管されている。

3. 結果

木質遺物は種同定の結果、針葉樹のアカマツとヒノキ、広葉樹のクリの、合計3分類群が確認された。樹皮素材は、カバノキ属樹皮（コルク層）であった。時期と器種別の樹種同定結果を表1、結果の一覧を付表1に示す。

表1 時期と器種別の樹種同定結果

樹種	18世紀後葉～ 19世紀前葉	18世紀か	19世紀 前葉以前	19世紀 第二四半期	19世紀 中葉以降	19世紀頃か	近代	近代か	不明	計				
	胴木（南北）	部材	杭 部材	樹皮素材	胴木	胴木 杭	胴木 枕木	胴木 杭						
アカマツ	1		1		1	2	1	5	1	1	3	1	17	
ヒノキ			1										1	
クリ		3	4										7	
カバノキ属樹皮				1									1	
計	1	3	1	5	1	1	2	1	5	1	1	3	1	26

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

(1) アカマツ *Pinus densiflora* Siebold et Zucc. マツ科 図版1 1a-1c（木材サンプルNo.M89）

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側向きに鋸歯状に肥厚する。鋸歯が明瞭にあるため、アカマツと判断した。

アカマツは暖帯から温帯下部に分布する常緑高木である。材は油気が多く、靱性は大である。

(2) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版1 2a-2c（木材サンプルNo.M13）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に2個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で、割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

(3) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版 1 3a-3c (木材サンプル No.M9)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(4) カバノキ属樹皮 *Betula* Bark カバノキ科 図版 1 4a-4c (木材サンプル No.M117)

試料の表面には、棒状の皮目が観察できる。試料の幅は残存値が約 17cm、厚さ約 0.3cm であった (図版 1 4d, 4e)。切断痕や剥ぎ取り痕などの加工痕は確認できなかった。

横断面では縞状の成長輪がみられる。細胞は 1 種類のみで、接線方向に長い長方形の細胞が配列している。接線断面では、樹幹に対して水平方向に長い紡錘形の細胞が隙間なく配列する。放射断面では、薄壁でやや大型の方形の細胞と、厚壁で扁平な長方形の細胞によって、針葉樹の横断面のような成長輪がみられる。薄壁の細胞が連なる層で剥離する傾向がある。以上の特徴から、カバノキ属の外樹皮 (コルク層) と同定した。

4. 考察

木材は、25 点のうち 17 点がアカマツで最も多く、次にクリが 7 点、ヒノキが 1 点であった。部材はクリとヒノキ、胴木や杭、枕木はいずれもアカマツであった。時期による樹種の違いは見られなかった。

胴木や杭、枕木で確認されたアカマツは、針葉樹の中では重くて丈夫な材質である。芯材は水中での保存性が高く、建築構造材などに有用である。

部材で確認されたヒノキは、軽軟で加工容易な材である。芯材の保存性が著しく高く、多用途に利用できる有用材である。また同じく部材で確認されたクリは、やや重硬で強度が大きく、粘りのある材である。

山梨県で確認されている近世の建築部材や土木材の例としては、南巨摩郡の鰍沢河岸跡Ⅱ遺跡でマツ属複雑維管束亜属やモミ属を中心とした針葉樹が多く、中巨摩郡の二本柳遺跡でもスギやヒノキといった針葉樹が多用されている (伊東・山田編, 2012)。今回の分析では、部材以外の胴木や杭、枕木はアカマツであり、土木材に針葉樹を多用する傾向は周辺の事例とも類似していると考えられる。

樹皮素材は、カバノキ属の外樹皮であった。外樹皮には皮目が残り、内部が削がれていないため、樹皮を剥ぎ取った状態の樹皮素材 (佐々木ほか, 2015) と思われる。切断痕や剥ぎ取り痕などの加工痕は見られなかった。用途は不明であるが、製品に加工するための素材と考えられる。

引用・参考文献

平井信二 (1996) 木の百科. 394p, 朝倉書店.

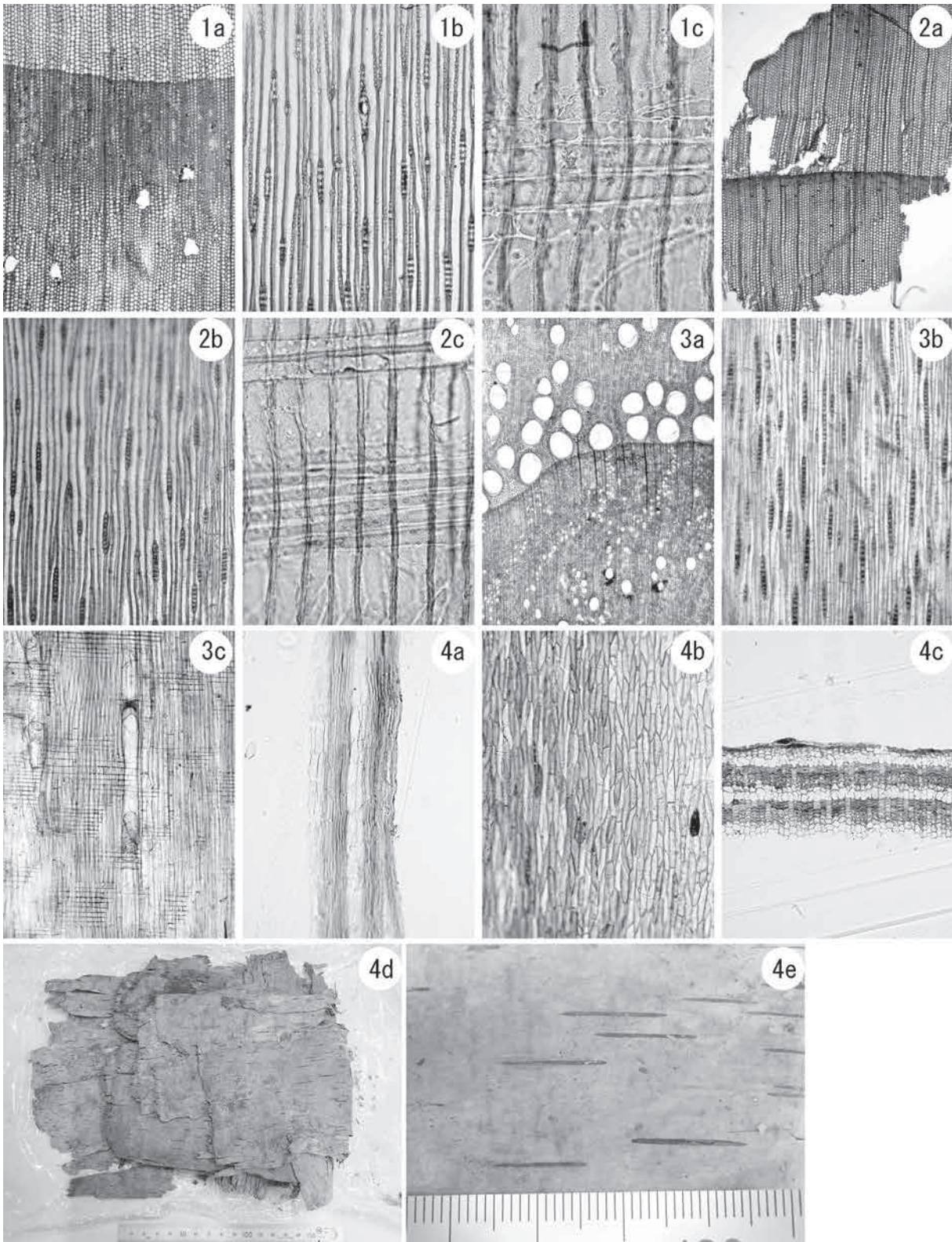
伊東隆夫・山田昌久編 (2012) 木の考古学—出土木製品用材データベース—. 449p, 海青社.

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂 (2011) 日本有用樹木誌. 238p, 海青社.

佐々木由香・小林和貴・能城修一・鈴木三男 (2015) 三内丸山遺跡北の谷出土の繊維製品・樹皮素材の技法. 青森県教育庁文化財保護課「三内丸山遺跡 42」: 152-159, 青森県教育委員会.

付表1 樹種同定結果一覧

木材サンプル No.	地区	遺構	種類	備考	樹種	木取り	時期
M81	①区	SS1	胴木		アカマツ	丸木	近代
M89	①区	SP1	杭		アカマツ	丸木	19世紀頃か
M8	②区	SK12	部材	50%炭化 角柱状	クリ	丸木	19世紀前葉以前
M9	②区	SK12	部材	一端部杭状	クリ	丸木	19世紀前葉以前
M13	②区	SK12	部材	角柱状	ヒノキ	角材	19世紀前葉以前
M15	②区	SK12	部材	一端部杭状	クリ	芯持角材	19世紀前葉以前
M17	②区	SK12	部材	ホゾ穴上下2ヶ所あり(直交方向) 材の垂直方向にも孔あり	クリ	芯持丸木	19世紀前葉以前
M99	②区	SP4	杭	中央に円孔あり	アカマツ	丸木	不明
M100	②区	SK11	杭	中央に円孔あり	アカマツ	丸木	19世紀前葉以前
M101	②区	SS1	胴木		アカマツ	丸木	近代
M105	②区	SS1	胴木		アカマツ	丸木	近代
M109	②区	SS1	枕木		アカマツ	丸木	近代
M117	②区	SK1	樹皮素材	残欠多数(幅約17cm、厚さ約0.3mm)	カバノキ属樹皮	横剥ぎ	19世紀第二四半期
M130	③区	-	胴木	胴木サンプル	アカマツ	丸木	不明
M146	③区	SS1	杭	丸ホゾ穴 穴深80.0	アカマツ	丸木	不明
M132	⑤区	SS2	胴木	胴木サンプル	アカマツ	丸木	19世紀の構築か
M134	⑤区	SS1	胴木	胴木サンプル	アカマツ	丸木	19世紀の構築か
M138	⑤区	SD1	胴木(南北)	胴木サンプル	アカマツ	丸木	18世紀後葉~19世紀前葉
M190	⑤区	基礎1	部材	槽?、ホゾ穴 別紙略図	クリ	芯持角材	18世紀か
M192	⑤区	基礎1	部材	ホゾ穴(80×32×40(深))×4	クリ	芯持角材	18世紀か
M201	⑤区	基礎1	部材	ホゾ穴	クリ	芯持角材	18世紀か
M154	⑥区	SS1	胴木		アカマツ	丸木	近代
M160	⑥区	SS2	胴木		アカマツ	丸木	19世紀中葉以降
M331	⑦区	木杭サンプル	杭	サンプル	アカマツ	丸木	不明
M133	⑧区	SS1	胴木	胴木サンプル	アカマツ	丸木	近代
M140	⑧区	SK6	胴木	上面丸ホゾ穴有(貫通していない) 穴深63.0 竹釘有	アカマツ	丸木	近代か



スケール：

図版1 木質遺物および樹皮素材の光学顕微鏡写真、試料写真

1a-1c. アカマツ (木材サンプルNo. M89)、2a-2c. ヒノキ (木材サンプルNo. M13)、3a-3c. クリ (木材サンプルNo. M9)、4a-4e. カバノキ属樹皮 (木材サンプルNo. M117)

a: 横断面 (スケール=1-3: 500 μ m、4: 200 μ m)、b: 接線断面 (スケール=200 μ m)、c: 放射断面 (スケール=1・2: 50 μ m、3・4: 200 μ m)、d: 試料写真、e: 試料写真拡大

第2節 甲府城下町遺跡（中央4丁目地点）の花粉分析

森 将志（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡（中央4丁目地点）では、古植生を検討するために、花粉分析用の試料が採取された。以下では、試料に対して行った花粉分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。

2. 試料と分析方法

分析試料は、土坑から採取された3試料である（表1）。これらの試料について、以下の手順に従って分析を行った。試料（湿重量約3g）を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%のフッ化水素酸を加え1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。その後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良い花粉を選んで単体標本（PLC.2671～2678）を作製し、写真を図版1に載せた。

3. 分析結果

3試料の検鏡を行った結果、検出されたのは樹木花粉23、草本花粉13、シダ植物胞子2の計38である。産出花粉・シダ植物胞子の一覧を表2に、分布図を図1に示す。分布図の樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・シダ植物胞子は全花粉胞子総数を基数とした百分率で示した。また、図表においてハイフン（-）で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。

十分な量の花粉化石が得られた試料は、3試料中2試料（⑥区SK17、⑦区SK15）である。十分な量の花粉化石が得られた2試料では、樹木花粉でモミ属やツガ属、スギ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属などの産出が目立ち、モミ属は20%と8%、ツガ属は14%と11%、スギ属は28%と39%、コナラ属コナラ亜属は10%と14%、コナラ属アカガシ亜属は10%と6%の産出率である。草本花粉では、イネ科とアカザ科・ヒユ科の産出が目立ち、イネ科は26%と30%、アカザ科・ヒユ科は8%と2%の産出率である。

4. 考察

十分な量の花粉化石が得られた2試料（⑥区SK17、⑦区SK15）では、同様の花粉組成を示している。すなわち、樹木花粉では、スギ属やモミ属、ツガ属の産出が目立ち、コナラ属コナラ亜属やコナラ属アカガシ亜属などを伴っている。遺跡周辺の丘陵地などにはスギ林をはじめとして、モミ属やツ

表1 分析試料一覧

試料No.	調査区	遺構	層位	時期	岩質
So6-2	⑥区	SK17	下層	17世紀末～18世紀前半	灰黄褐色（10YR6/2）シルト
So7-5	⑦区	SK1	-	18世紀後半～19世紀初頭	オリーブ黒色（5Y3/1）粘土
So7-10	⑦区	SK15	-	18世紀後半	黒色（5Y2/1）シルト

表2 産出花粉胞子一覧表

学名	和名	⑥区SK17	⑦区SK1	⑦区SK15
樹木				
<i>Abies</i>	モミ属	40	10	16
<i>Tsuga</i>	ツガ属	28	2	24
<i>Ficea</i>	トウヒ属	1	-	3
<i>F. subgen. Dioloxylon</i>	マツ属榎管束亜属	5	2	1
<i>Sciadopitys</i>	コウヤマキ属	4	-	1
<i>Oxypteris</i>	スギ属	57	12	82
Taxaceae-Qephalotaxaceae-Quercaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	3	-	2
<i>Mriica</i>	ヤマモモ属	1	-	-
<i>Pterocarya-Uglandas</i>	サワグルミ属-クルミ属	2	-	4
<i>Qarpinus-Ostrya</i>	クマシデ属-アサダ属	8	-	7
<i>Corylus</i>	ハシバミ属	1	-	-
<i>Betula</i>	カバノキ属	3	-	1
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	-	1	4
<i>Fagus</i>	ブナ属	1	-	7
<i>Quercus subgen. Leiodobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	21	1	30
<i>Quercus subgen. Oxalobalanus</i>	コナラ属アカガシ亜属	20	1	13
<i>Castanea</i>	クリ属	1	-	2
<i>Gastanopsis-Pasania</i>	シイノキ属-マテバシイ属	-	-	2
<i>Ulmus-Zelkova</i>	ニレ属-ケヤキ属	4	1	7
<i>Celtis-Aphananthe</i>	エノキ属-ムクノキ属	-	-	1
<i>Rhus-Toxicodendron</i>	ヌルデ属-ウルシ属	1	-	1
Araliaceae	ウコギ科	-	-	1
ECALOUS	トネリコ属	1	-	-
草本				
<i>Potamogeton</i>	ヒルムシロ属	-	-	2
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属	2	-	3
Gramineae	イネ科	87	3	105
Cyperaceae	カヤツリグサ科	3	-	8
<i>Mnorchoria</i>	ミズアオイ属	-	-	3
<i>Polygonum sect. Persicaria-Fitchianum</i>	サナエタ子節-ウナギツカミ節	4	-	3
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	26	4	7
Brassicaceae	アブラナ科	1	-	-
<i>Rotala</i>	キカシグサ属	-	-	1
Apiaceae	セリ科	2	-	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	-	-	4
Tubuliflorae	キク亜科	2	-	-
<i>Juglandiflorae</i>	タンポポ科	3	-	-
シダ植物				
monolete type spore	単条溝胞子	1	-	3
trilete type spore	三条溝胞子	1	-	2
Arboreal pollen	樹木花粉	202	30	209
Nonarboreal pollen	草本花粉	130	7	136
Spores	シダ植物胞子	2	-	5
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	334	37	350
Unknown pollen	不明花粉	2	5	1

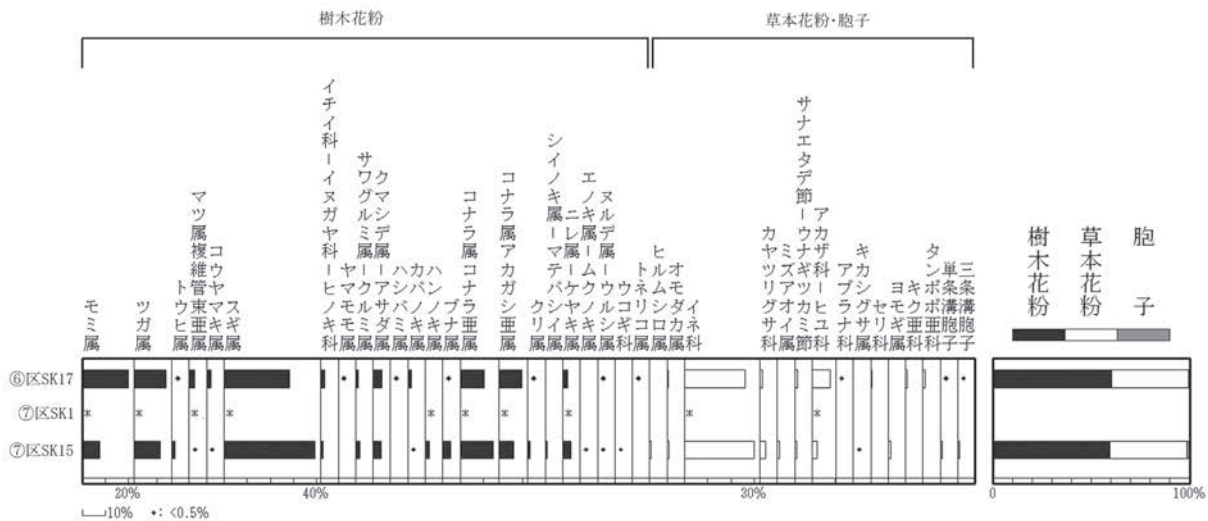


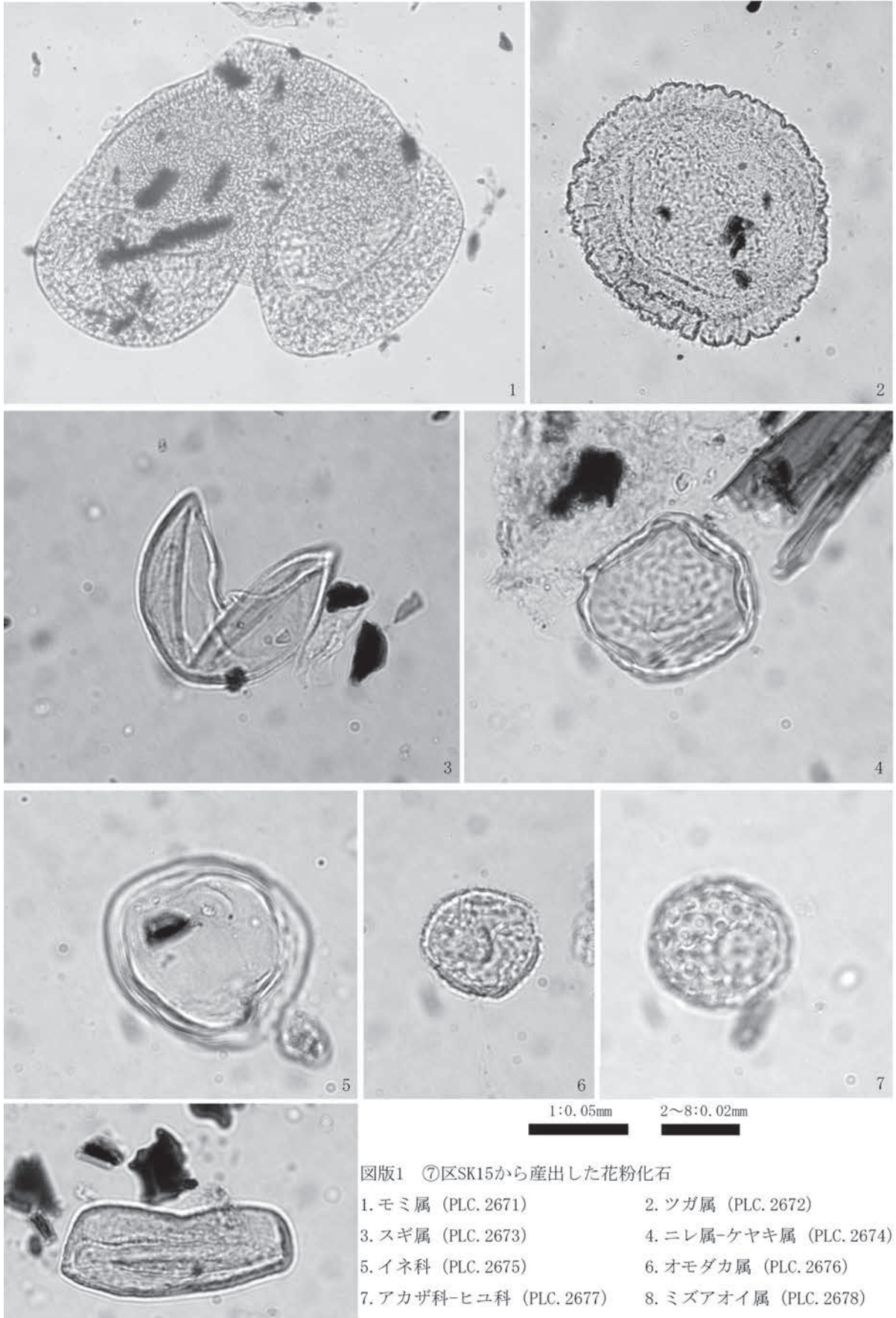
図1 甲府城下町遺跡（中央4丁目地点）における花粉分布図
 樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した。
 ＊は樹木花粉200個未満の試料について、検出した分類群を示す。

ガ属などの温帯性針葉樹林が分布していたと考えられる。また、コナラ属コナラ亜属からなる落葉広葉樹林や、低地部にはコナラ属アカガシ亜属などの照葉樹林も分布を広げていた可能性がある。なお、甲府城下町遺跡の紅梅地区の花粉分析結果では、スギ属とコナラ属コナラ亜属優勢の花粉組成から、近世(19世紀)においてマツ属複雑管束亜属が優勢する花粉組成に変化する層準が見出されている(鈴木, 2009)。今回の2試料(⑥区SK17、⑦区SK15)から得られた花粉化石群集は、紅梅地区で得られたスギ属とコナラ属コナラ亜属優勢の花粉化石群集に類似しており、時期も⑥区SK17が17世紀末～18世紀前葉、⑦区SK15が18世紀後葉とされるため、総合的な結果となっている。

一方で、草本花粉では、イネ科やアカザ科・ヒユ科の産出が目立つため、土坑周辺にはイネ科やアカザ科・ヒユ科などの草本類が分布を広げていた可能性がある。あるいは、イネ科の産出とともにオモダカ属やミズアオイ属、キカシグサ属などの水田雑草でもある分類群が産出するため、土坑周辺において水田稲作が営まれていた可能性も考えられる。あるいは、調査地は1800年代から商人地として使用されているため、甲府城の築城以前に水田があり、水田土壌が土坑の埋め戻しなどに使用され、水田雑草にもなるこれらの分類群が再堆積した可能性も考えられる。

引用文献

鈴木 茂(2009) 甲府城下町遺跡(紅梅地区再開発地点)の花粉化石. 甲府市教育委員会編「甲府城下町遺跡V」: 52-62, 甲府市教育委員会.



図版1 ⑦区SK15から産出した花粉化石

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. モミ属 (PLC. 2671) | 2. ツガ属 (PLC. 2672) |
| 3. スギ属 (PLC. 2673) | 4. ニレ属-ケヤキ属 (PLC. 2674) |
| 5. イネ科 (PLC. 2675) | 6. オモダカ属 (PLC. 2676) |
| 7. アカザ科-ヒユ科 (PLC. 2677) | 8. ミズアオイ属 (PLC. 2678) |

第3節 甲府城下町遺跡（中央4丁目地点）の寄生虫卵分析

森 将志（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡（中央4丁目地点）では、土坑や桶などの遺構が検出されており、これらの遺構から寄生虫卵分析用の試料が採取された。以下では、寄生虫卵分析の結果を示し、トイレ遺構の可能性などについて検討した。

2. 試料と分析方法

分析試料は、土坑や溝から採取された計21点である（表1）。これらの試料について、以下の手順に従って分析を行った。

試料を乾燥後、遠沈管にとり、計量した。そこに10%の水酸化カリウム溶液を加え、10分間湯煎する。水洗後、46%のフッ化水素酸を加え、1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。その後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、得られた残渣に適容量のグリセリンを加えて計量した。この残渣からプレパラートを作製し、プレパラート全面に渡り検鏡した。なお、試料1g中の寄生虫卵含有数は、次式で求めた。

$$X = BD/AC$$

X：試料1g中の寄生虫卵含有数、A：分析に用いた試料の重量(g)、B：濃縮試料+グリセリンの重量(g)、C：濃縮試料+グリセリンのうち、封入に用いた重量(g)、D：プレパラート中の寄生虫卵数

また、保存状態の良い寄生虫卵を選んで単体標本（PLC.2669,2670）を作製し、写真を図版1に載せた。

表1 分析試料一覧表

試料 No.	地点	調査区	遺構	時期	岩質	備考
So1-3	中央4丁目1区	①区	SK4	19世紀中葉以前	オリブ黒色(5Y3/1)植物片混じり砂質シルト	桶
So1-10		①区	SK13	19世紀中葉～後葉	暗灰黄色(2.5Y4/2)礫混じりシルト	桶内側
So2-1		②区	SZ1	近代	暗オリブ褐色(2.5Y3/3)シルト	下層
So6-2		⑥区	SK17	17世紀末～18世紀前葉	灰黄褐色(10YR6/2)シルト	下層
So6-3		⑥区	SK34	19世紀前葉以前か	黒褐色(2.5Y3/2)シルト	
So6-4		⑥区	SK48	19世紀前葉以前か	黒色(10YR2/1)シルト	
So6-5		⑥区	SK52	18世紀後葉～19世紀前葉か	黒褐色(2.5Y3/2)粘土	
So6-6		⑥区	SK53	18世紀後葉か	黒褐色(2.5Y3/2)シルト	
So6-7		⑥区	SK54	-	暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土	
So7-5		⑦区	SK1	18世紀後葉～19世紀初頭	オリブ黒色(5Y3/1)粘土	
So7-7		⑦区	SK7	18世紀後葉	暗オリブ褐色(2.5Y3/3)砂質シルト	3層
So7-9		⑦区	SK8	18世紀後葉か	黒褐色(2.5Y3/2)シルト	
So7-10		⑦区	SK15	18世紀後葉	黒色(5Y2/1)シルト	
So7-11		⑦区	SK17	17世紀末～18世紀前葉	黒色(2.5Y2/1)粘土	
So7-14		⑦区	SK32	19世紀後葉	黒褐色(2.5Y3/2)シルト	
So7-16		⑦区	SK3	19世紀以前	黒色(10YR1.7/1)砂礫混じりシルト	
So7-17		⑦区	SK40	19世紀以前	黒褐色(2.5Y3/1)粘土	桶
So7-19		⑦区	SK23	19世紀後葉	黒褐色(2.5YR3/2)シルト	
So7-20		⑦区	SK2	19世紀以前	黒褐色(10YR2/2)砂礫混じりシルト	
So7-21		⑦区	SK37	19世紀後葉	黒褐色(2.5Y3/2)シルト	
So7-22		⑦区	SK22	19世紀後葉	黒色(5Y2/1)粘土	

3. 分析結果

計量し、検鏡した結果を表2に示す。21試料からは回虫卵と鞭虫卵の2種類が検出できた。中でも、⑦区SK3（So7-16）からは多くの寄生虫卵が検出されており、3,074個/cm³の密度である。その他にも、①区SK13（So1-10）や⑥区SK54（So6-7）、⑦区SK2（So7-20）などで数百個/cm³の寄生虫卵が検出されている。

表2 試料の計量値と寄生虫卵数

	So1-3	So1-10	So2-1	So6-2	So6-3	So6-4	So6-5	So6-6	So6-7	So7-5	So7-7	So7-9	So7-10	So7-11	So7-14	So7-16	So7-17	So7-19	So7-20	So7-21	So7-22
	①区SK14	①区SK13	②区SK17	⑥区SK17	⑥区SK34	⑥区SK48	⑥区SK52	⑥区SK53	⑥区SK54	⑦区SK1	⑦区SK7	⑦区SK8	⑦区SK15	⑦区SK17	⑦区SK32	⑦区SK3	⑦区SK40	⑦区SK23	⑦区SK2	⑦区SK37	⑦区SK22
分析に用いた試料(g)	5.0123	4.8382	4.7246	4.6396	5.7222	4.1811	4.3181	3.6773	4.4093	4.6617	5.7153	4.0375	4.5204	3.431	5.2123	3.4006	3.789	4.2658	4.1182	5.3623	4.8923
残渣+グリセリン(g)	2.0428	1.6867	1.1371	1.4184	1.2623	1.6865	1.6261	1.4767	1.5748	1.875	1.6481	1.6516	1.6405	1.8901	1.6403	1.6191	1.4938	1.6406	1.5563	1.6696	1.6762
封入に用いた量(g)	0.0523	0.0628	0.0615	0.0744	0.0577	0.055	0.0728	0.0697	0.0437	0.0596	0.056	0.0531	0.0432	0.0488	0.0376	0.0445	0.0476	0.0515	0.0524	0.0606	0.0599
試料の密度 (g/cm ³)	1.01	0.84	1.41	0.74	1.38	1.81	0.97	1.61	1.23	1.5	0.87	1.74	1.37	1.09	0.9	1.33	0.64	1.38	0.72	0.97	1.53
回虫卵	4	25	0	0	5	2	4	4	14	2	0	0	0	1	0	187	4	0	43	3	0
(試料1g当たりの個数)	31	139	0	0	19	15	21	23	114	13	0	0	0	11	0	2001	33	0	454	15	0
鞭虫卵	0	97	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	1	29	1	0	19	1	0
(試料1g当たりの個数)	0	538	0	0	0	0	5	17	0	0	0	0	0	0	8	310	8	0	137	5	0
計	4	122	0	0	5	2	5	7	14	2	0	0	0	1	1	216	5	0	82	4	0
(試料1g当たりの個数)	31	677	0	0	19	15	26	40	114	13	0	0	0	11	8	2311	41	0	591	21	0
(試料1cm ³ 当たりの個数)	31	569	0	0	26	27	25	65	141	20	0	0	0	12	8	3074	27	0	426	20	0

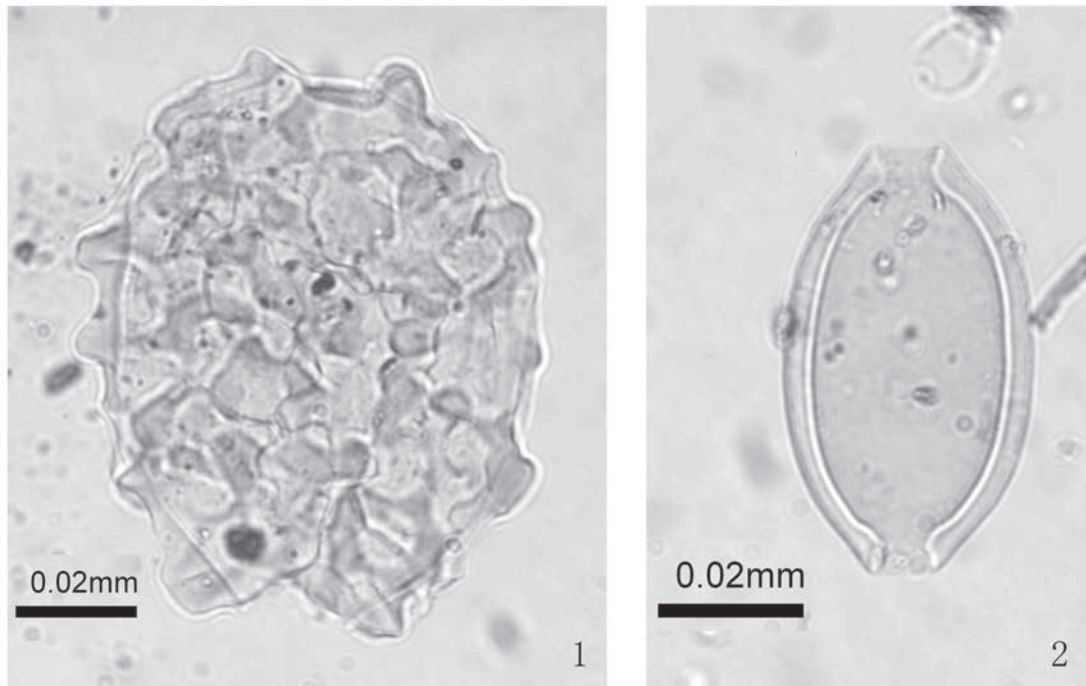
4. 考察

検鏡の結果、⑦区SK3 (So7-16) から多くの寄生虫卵が検出された。寄生虫卵数については、試料 1cm³ 中に 1,000 個以上あれば糞便の可能性があると考えられている (金原, 1997)。これに照らし合わせて考えると、⑦区SK3 (So7-16) から産出した寄生虫卵の密度は 3,074 個/cm³ であるため、糞便堆積物の判断の目安となる密度を上回る。よって、⑦区SK3 (So7-16) には糞便が混じり込んでいた状況が推測され、19 世紀以前の⑦区SK3 はトイレ遺構の可能性もある。その他の試料では、19 世紀中葉～後葉の①区SK13 (So1-10) や 19 世紀中葉以前の⑥区SK54 (So6-7)、19 世紀以前の⑦区SK2 (So7-20) などで数百個/cm³ の寄生虫卵が検出されている。糞便堆積物の判断の目安となる密度には及ばないものの、他の遺構に比べると、これらの遺構も寄生虫卵にやや汚染されていると言える。

なお、検出された寄生虫卵は、いずれの試料においても回虫卵と鞭虫卵である。回虫と鞭虫は、糞便とともに排泄された寄生虫卵が付着した野菜や野草、寄生虫卵が含まれた飲み水などの摂取によって経口感染するため、当時の人々は処理が十分でない野菜や飲料水を摂取していたと考えられる。

引用文献

金原正明(1997)自然科学的研究からみたトイレ文化. 大田区立郷土博物館編「トイレの考古学」:197-216, 東京美術.



図版1 ⑦区SK3から産出した寄生虫卵

1. 回虫卵 (PLC. 2669) 2. 鞭虫卵 (PLC. 2670)

第4節 甲府城下町遺跡（中央4丁目I工区）から出土した大型植物遺体

佐々木由香・バンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡は、甲府盆地の北縁部、相川によって形成された扇状地上に立地する戦国期開創の城下町である。中央4丁目地点I区は1800年代から商人地であったと推定されており、周辺における古環境と植物利用について解明する目的で、遺構内の現地取り上げ試料と堆積物試料が回収された。ここでは、大型植物遺体を同定し、当時利用された種実や周辺の植生について検討した。なお、堆積物試料については花粉分析と寄生虫卵分析、昆虫分析も行われている（別項参照）。

2. 試料と方法

試料は、昭和測量株式会社によって、遺構から取り上げられた現地取り上げ試料が29試料と土壌試料が21試料である。試料が採取された遺構は、土坑（SK：ただし⑦区SK29は礎石跡）と、溝（SD：ただし⑤区SD1は建物基礎）、礎石・石列・集石（SS：ただし①区SS1は土地境の用水路の石積）、埋甕（SW・SZ）である。土坑のほとんどは廃棄土坑と推定されている。遺構の時期は、江戸時代～近代と考えられている。

堆積物試料の水洗はパレオ・ラボにて行い、最小0.5mm目の篩を用いて40～200ccを水洗した。大型植物遺体の抽出および同定は、実体顕微鏡下で行った。モモとクルミ属は形態を観察し、完形、動物食痕のある個体、半割、打撃痕のある個体、破片に分類した。試料は、甲府市教育委員会に保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物では針葉樹のモミ葉とイヌガヤ種子、マツ属複雑管束亜属球果、マツ属葉・炭化葉の4分類群、広葉樹のブドウ種子とモモ核・炭化核、ウメ核、アンズ核、キイチゴ属核、クワ属核、クリ果実、ヒメグルミ核、オニグルミ核、キハダ種子、サンショウ属種子、ニフトコ核、タラノキ核の13分類群、草本植物ではオモダカ属果実・種子と、サガミトリゲモ種子、ホッスモ種子、イボクサ種子、コナギ種子、ウキヤガラ果実、スゲ属アゼスゲ節果実、スゲ属A果実、カヤツリグサ属果実、ハリイ属果実、ホタルイ属果実、サンカクイ-フトイ果実、メヒシバ属有ふ果、ヒエ属炭化種子（穎果）、オヒシバ属種子（穎果）、イネ籾殻・炭化籾殻・小穂軸・炭化小穂軸・炭化種子（穎果）、コムギ炭化種子（穎果）、スズメノヒエ有ふ果、キケマン属種子、トウガン種子、メロン仲間種子（マクワウリ・シロウリ型、型不明）、キュウリ種子、ニホンカボチャ種子、タガラシ果実、カタバミ属種子、エノキグサ属種子、トウダイグサ種子、ヤナギタデ果実・炭化果実、サナエタデ-オオイヌタデ果実、ギシギシ属果実、ウシハコベ種子、ノミノフスマ種子、アカザ属種子、スベリヒユ属種子、ヤエムグラ属炭化種子、ナス種子、ゴマ種子、トウバナ属果実、メハジキ属果実、エゴマ果実、シソ属果実、チドメグサ属種子の42分類群の、計59分類群が得られた（表1～5）。また、不明の炭化芽を一括し、科以上の同定に必要な識別点が残存していない一群を同定不能炭化種実とした。大型植物遺体以外には、炭化した子嚢菌と動物遺体、昆虫遺体を得られた。

以下に、大型植物遺体の産出状況を遺構別に示す（不明芽と同定不能炭化種実は除く）。

[現地取り上げ試料]

- ①区 SW1：マツ属複雑管束亜属がわずかに得られた。
- ①区 SS1：モモ（完形）がわずかに得られた。
- ①区 SK4：モモ（完形）がわずかに得られた。
- ⑤区 SD1：モモ（完形）がわずかに得られた。
- ⑤区 SK12：オニグルミ（動物食痕・打撃痕）がわずかに得られた。
- ⑤区 SK15：オニグルミ（完形）がわずかに得られた。
- ⑥区 SK13：ヒメグルミ（完形）がわずかに得られた。
- ⑦区 SK13：モモ（動物食痕）がわずかに得られた。

表1 甲府城下町遺跡中央4丁目地点Ⅰ区の現地取り上げ試料から出土した大型植物遺体(1) (括弧内は破片数)

試料No.	T1-1	T1-2	T1-3	T5-3	T5-5・6	T5-7	T6-1	T7-5	T7-6・29・30
区	①				⑤		⑥	⑦	
遺構	SW1	SS1	SK4	SD1	SK12	SK15	SK13	SK13	SK15
	内一括		一括	4面目一括	一括	一括	No. 27	一括	一括
時期	近代	近代	19世紀 中葉以 前	18世紀後 葉～19世 紀前葉		17世紀か	18世紀 後葉	不明	18世紀 後葉
分類群									
マツ属複維管束亜属 球果	1								
モモ	核(完形)	1	1	1					
	核(動物食痕)							1	
	核(半割)								(1)
	核(破片)								(1)
ヒメグルミ	核(完形)						1		
	核(半割)								(1)
オニグルミ	核(完形)					1			
	核(動物食痕)					(1)			
	核(打撃痕)					(1)			
キュウリ	種子								1

表2 甲府城下町遺跡中央4丁目地点Ⅰ区の現地取り上げ試料から出土した大型植物遺体(2) (括弧内は破片数)

試料No.	T7-9	T7-10	T7-11	T7-24	T7-25・26	T7-27	T7-33	T7-28・35	T7-16
区	⑦								
遺構	SK17				SK22			SK23	SK29
	一括		一括	4面目一括	一括	上層一括	上層一括	下層一括	No. 4一括
時期	17世紀末～18世 紀前葉				19世紀後葉			19世紀後 葉	近代
分類群									
マツ属複維管束亜属 球果	1								
モモ	核(完形)				2				
	核(完形、一部焦痕)							1	
	核(半割)			(1)	(3)			(1)	(1)
	核(破片)				(2)		(3)		
ヒメグルミ	核(完形)	1							
オニグルミ	核(動物食痕)						(1)		

表3 甲府城下町遺跡中央4丁目地点Ⅰ区の現地取り上げ試料から出土した大型植物遺体(3) (括弧内は破片数)

試料No.	T7-13・15	T7-32	T7-21	T7-22	T7-23	T7-36	T7-18	T7-19・31	T7-20
区	⑦								
遺構	SK32				SK36				
	一括		No. 27	一括	4面目一括	一括	一括	2層目一括	
時期	19世紀後葉								
モモ	核(完形)	2		55				4	
	核(完形、一部焦痕)			3					
	核(半割)			(2)				(2)	
	核(破片)			(1)					
	炭化核(完形)			1					
ウメ	核								1
アズ	核				1	1			
オニグルミ	核(半割)							(1)	
トウガン	種子	2		1					
ニホンカボチャ	種子	42		11					

⑦区 SK15:モモ(半割・破片)とヒメグルミ(半割)、キュウリがわずかに得られた。

⑦区 SK17:マツ属複維管束亜属とヒメグルミ(完形)がわずかに得られた。

⑦区 SK22:モモ(完形・半割・破片)とオニグルミ(動物食痕)がわずかに得られた。

⑦区 SK23:モモ(完形、一部焦痕・半割)がわずかに得られた。

⑦区 SK29:モモ(半割)がわずかに得られた。

⑦区 SK32:モモ(完形)がわずかに得られた。

⑦区 SK36:モモ(完形・半割・破片(一部焦痕や炭化を含む))とニホンカボチャがやや多く、ウメとアズ、オニグルミ(半割)、トウガンがわずかに得られた。

[堆積物試料]

①区 SK4:イネがやや多く、ナスが少量、モミとコナギ、スゲ属 A、トウガン、ニホンカボチャ、カタバミ属、エノキグサ属、トウダイグサ、ウシハコベ、スベリヒユ属、ゴマ、シソ属がわずかに得られた。

①区 SK13:ブドウとイネ、ニホンカボチャ、スベリヒユ属、ヤエムグラ属、ゴマがわずかに得られた。

②区 SZ1:スゲ属 A とスベリヒユ属、シソ属がわずかに得られた。

⑥区 SK17:スベリヒユ属とシソ属がわずかに得られた。

表4 甲府城下町遺跡中央4丁目地点I区の水洗試料から出土した大型植物遺体 (1) (括弧内は破片数)

分類群	水洗量 (cc)	試料No.	So1-3	So1-10	So2-1	So6-2	So6-3	So6-4	So6-5	So6-6	So6-7	So7-5
		区	①	②	②	②	②	⑥	⑥	⑦		
遺構		SK4	SK13	SZ1	SK17	SK34	SK48	SK52	SK53	SK54	SK1	
時期		19世紀中葉以前	19世紀中葉～後葉	近代	17世紀末～18世紀前葉	19世紀前葉以前	か	18世紀後葉～19世紀前葉か	18世紀後葉か	19世紀中葉以前	18世紀後葉～19世紀初頭	
モミ	葉	(1)										
ブドウ	種子		6									
キイチゴ属	核									(1)		
タラノキ											1	
イボクサ	種子						1					1
コナギ	種子	3										
ウキヤガラ	果実								1			2 (2)
スゲ属A	果実	5		1					2			
ホタルイ属	果実								1	1 (1)		
ヒエ属	炭化種子							1				
イネ	籾殻	5 (++)	(+)			2 (+)	(+)		8 (++)	(+)	2 (++)	
	炭化籾殻							1 (+)			(+)	
	小穂軸	10				3			6	1	2	
	炭化小穂軸	1				2	1	3	2		6	
	炭化種子							(1)				
スズメノヒエ	有ふ果											1
キケマン属	種子					3		9	1 (2)			14 (2)
トウガン	種子	1										
メロン仲間 (型不明)	種子							(1)				
ニホンカボチャ	種子	1 (1)	(1)									
カタバミ属	種子	3										3 (1)
エノキグサ属	種子	(1)				(1)						
トウダイグサ	種子	(2)										
ヤナギタデ	炭化果実										(1)	
ウシハコベ	種子	1							1			
アカザ属	種子					1			1			1
スベリヒユ属	種子	2	2	1	2	1 (1)		1	1	1		4
ヤエムグラ属	炭化種子		1						1			
ナス	種子	4 (9)						2	1			
ゴマ	種子	1 (7)	(3)			(4)	1 (2)					1
トウバナ属	果実										1	
メハジキ属	果実								2			
エゴマ	果実								(2)			
シソ属	果実	1		(1)	(1)			(3)	(16)	(2)		
同定不能	炭化種実	(7)				(4)			(8)	(1)	(11)	
不明	芽					(+)						
子囊菌	炭化子囊	3										
不明	動物遺体		(+)	(+)				(++)				(+)
	昆虫遺体	(++)	(++++)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(++++)	(++)	(+)	

+:1-9, ++:10-49, +++:50-99, ++++:100以上

⑥区 SK34:イネが少量、イボクサとキケマン属、エノキグサ属、アカザ属、スベリヒユ属、ゴマがわずかに得られた。

⑥区 SK48:イネとメロン仲間 (型不明)、ナス、ゴマがわずかに得られた。

⑥区 SK52:ヒエ属とイネ、キケマン属、スベリヒユ属、シソ属がわずかに得られた。

⑥区 SK53:イネとシソ属が少量、ウキヤガラとスゲ属 A、ホタルイ属、キケマン属、ウシハコベ、アカザ属、スベリヒユ属、ヤエムグラ属、ナス、メハジキ属、エゴマがわずかに得られた。

⑥区 SK54:キイチゴ属とタラノキ、ホタルイ属、イネ、ヤナギタデ、スベリヒユ属、トウバナ属、シソ属がわずかに得られた。

⑦区 SK1:イネとキケマン属が少量、イボクサとウキヤガラ、スズメノヒエ、カタバミ属、アカザ属、スベリヒユ属、ゴマがわずかに得られた。

⑦区 SK7:ハリイ属とイネがわずかに得られた。

⑦区 SK8:イネとカタバミ属がわずかに得られた。

⑦区 SK15:オモダカ属とウキヤガラ、ホタルイ属、イネ、キケマン属、スベリヒユ属が少量、サガミトリゲモとホッスモ、イボクサ、カヤツリグサ属、サンカクイーフトイ、カタバミ属、エノキグサ属、ヤナギタデ、ウシハコベ、ナス、ゴマ、シソ属がわずかに得られた。

⑦区 SK17:イネが多く、ウシハコベがやや多く、キケマン属とサナエタデ - オオイヌタデ、シソ属が少量、クワ属とニワトコ、スゲ属アゼスゲ節、スゲ属 A、メヒシバ属、カタバミ属、ナス、エゴマがわずかに得られた。

⑦区 SK32:イネとスベリヒユ属が少量、マツ属とクリ、カヤツリグサ属、メヒシバ属、オヒシバ属、コムギ、キケマン属、

表5 甲府城下町遺跡中央4丁目地点I区の水洗試料から出土した大型植物遺体(2) (括弧内は破片数)

試料No.	So7-7	So7-9	So7-10	So7-11	So7-14	So7-16	So7-17	So7-19	So7-20	So7-21	So7-22
区	⑦										
遺構	SK7	SK8	SK15	SK17	SK32	SK3	SK40	SK23	SK2	SK37	SK22
時期	18世紀後葉	18世紀後葉か	18世紀後葉	17世紀末～18世紀前葉	19世紀後葉	19世紀以前	19世紀後葉	19世紀以前	19世紀後葉	19世紀以前	19世紀後葉
分類群	水流量 (cc)										
	50	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
イヌガヤ							(1)	(1)			
マツ属					(3)						
					(2)						
ブドウ						2 (1)					
モモ										1	
クワ属				1			1				
クリ					(1)						
キハダ						(2)					
サンショウ属						(1)					
ニワトコ				(1)							
オモダカ属			1								
			46				1				
サガミトリゲモ			5 (2)								
ホッソモ			2								
イボクサ			8 (1)								
ウキヤガラ			8 (14)					(3)		1	(3)
スゲ属アゼスゲ節				1							
スゲ属A				4				1		1	
カヤツリグサ属			1		1		1				
ハリイ属	1										
ホタルイ属			1 (9)								(1)
サンカクイ-フトイ			1								
メヒシバ属				1	4			1		4	1
オヒシバ属				4	4			6			
イネ			1 (++)	23 (+++)	2 (++)	(+)	1 (+)	23 (+++)	(+)	4 (++)	1 (++)
				(+)		1 (+)		(+)	(+)		
炭化穀類	1 (+)	1	3	12	5	4	29	11	2	5	3
小穂軸					11	6	3	7		14	2
炭化種子	2	2			1			1 (2)		1	1 (1)
炭化種子					1					1	
コムギ											
キケマン属			7 (4)	16 (7)	3		4	35 (8)	(1)	9 (4)	2 (3)
メロン仲間 (マクワウリ・シロウリ型)					1						1
ニホンカボチャ					(4)					(2)	
タガラシ										2	
カタバミ属		(1)	(1)	1	4		4	3			1
エノキグサ属			(1)								
ヤナギタデ			2 (1)				2 (4)				
サナエタデ-オオイヌタデ				9 (5)				(1)			
ギンギシ属							1				
ウシハコベ			3 (1)	86 (2)	8	6	50	(2)		2	9 (2)
ノミノフスマ					3		6			4	1
アカザ属						1					
スベリヒユ属			7 (4)		12		8	30 (9)		8 (2)	1 (1)
ナス			(2)	4		21 (5)	1 (1)	1 (1)	1 (4)	1 (1)	
ゴマ			(2)			2 (180)	1 (1)	(2)	(15)		
メハジキ属					2 (1)		1	5		1	1
エゴマ				(2)							
シソ属			1 (1)	2 (10)	3 (2)	3	1		(1)	5 (3)	5 (15)
チドメグサ属					1						
同定不能		(5)	(24)	(3)	(2)	(3)	(12)	(3)	(2)		
不明							(+)				
子囊菌								1			
不明						(+)		(+)			
動物遺体						(+)		(+)			
昆虫遺体	(+)		(+)	(++)	(+)	(++)	(++)	(++)	(+)	(++)	(++)

+:1-9, ++:10-49, +++:50-99, ++++:100以上

メロン仲間 (マクワウリ・シロウリ型)、ニホンカボチャ、カタバミ属、ウシハコベ、ノミノフスマ、メハジキ属、シソ属、チドメグサ属がわずかに得られた。

⑦区 SK3: ゴマが非常に多く、イネとナスが少量、ブドウとキハダ、サンショウ属、ウシハコベ、アカザ属、シソ属がわずかに得られた。

⑦区 SK40: ウシハコベがやや多く、イネが少量、イヌガヤとクワ属、オモダカ属、カヤツリグサ属、キケマン属、カタバミ属、ヤナギタデ、ギンギシ属、ノミノフスマ、スベリヒユ属、ナス、ゴマ、メハジキ属、シソ属がわずかに得られた。

⑦区 SK23: イネがやや多く、キケマン属とスベリヒユ属が少量、イヌガヤとウキヤガラ、スゲ属 A、メヒシバ属、オヒシバ属、カタバミ属、サナエタデ - オオイヌタデ、ウシハコベ、ナス、ゴマ、メハジキ属がわずかに得られた。

⑦区 SK2: イネとゴマが少量、キケマン属とナス、シソ属がわずかに得られた。

⑦区 SK37: イネとキケマン属、スベリヒユ属が少量、モモとウキヤガラ、スゲ属 A、メヒシバ属、コムギ、ニホンカボチャ、タガラシ、ウシハコベ、ノミノフスマ、ナス、メハジキ属、シソ属がわずかに得られた。

⑦区 SK22: イネとウシハコベ、シソ属が少量、ウキヤガラとホタルイ属、メヒシバ属、キケマン属、メロン仲間 (マ

クワウリ・シロウリ型)、カタバミ属、ノミノフスマ、スベリヒユ属、メハジキ属がわずかに得られた。

次に、大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名や順番については米倉・梶田(2003-)に準拠し、APG IIIリストの順とした。

(1) マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylo* 球果 マツ科

暗褐色で、上面観は円形、側面観は狭卵形。種鱗はくさび形で木質化して硬く、アカマツの可能性ある。露出部は菱形状。高さ 29.5mm、幅 35.9mm。

(2) ブドウ *Vitis vinifera* L. 種子 ブドウ科

暗灰色で、上面観は楕円形、側面観は基部が尖り、倒心形に近い倒卵形。基部は太く円柱状に突出し、先端が丸い。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面には中央の鈍稜上に 1 本の縦筋が走り、その両側に細く深い溝孔が 2 つある。種皮は薄く硬い。長さ 7.3mm、幅 4.6mm、厚さ 3.3mm。基部が太く円柱状に突出し、先端が丸いため、栽培種のブドウと同定した。

(3) モモ *Amygdalus persica* L. 核・炭化核 バラ科

黄褐色～茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。また、片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。完形個体の大きさは、高さ 29.9mm、幅 23.4mm、厚さ 15.9mm。一部に焦痕をもつ個体は、高さ 27.1mm、幅 21.9mm、厚さ 13.3mm。動物食痕のある個体は、高さ 25.1mm、残存幅 12.0mm、厚さ 14.0mm。半割の個体は、高さ 27.1mm、幅 20.4mm、残存厚 8.1mm。炭化核は、残存高 28.0mm、幅 18.3mm、厚さ 13.3mm。SK36 の T7-21 から出土した 52 点のモモ核の大きさを表 6 に示した。

(4) ウメ *Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de Vriese 核 バラ科

褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は卵円形。表面には全体的に不規則で深い小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。高さ 10.9mm、幅 10.7mm、厚さ 7.4mm。

(5) アンズ *Armeniaca vulgaris* Lam. 核 バラ科

茶褐色で、上面観は扁平、側面観は円形。一方の側面では縫合線が発達する。表面には網目状の模様がある。縫合線付近には不規則な縦皺がある。高さ 19.2mm、幅 18.7mm、厚さ 11.6mm。

(6) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 果実 ブナ科

黒褐色で、完形ならば側面は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。下端に鱗状の殻斗着痕があるが、残存していない。果皮内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。残存高 12.4mm、残存幅 6.3mm。

(7) ヒメグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *cordiformis* (Makino) Kitam. 核 クルミ科

茶褐色で、上面観は楕円形、側面観は先端が尖る広卵形。外面中央にやや深い溝が走るが、それ以外は表面が平滑な点でオニグルミとは異なる。明瞭な縫合線がある。完形個体の大きさは、高さ 28.0mm、幅 21.4mm、厚さ 16.0mm、半割の個体は、高さ 24.7mm、幅 21.6mm、残存厚 7.3mm。

(8) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. 核 クルミ科

黄褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。溝や凹凸の間には微細な皺がある。内部は二室に分かれる。打撃痕のある個体は、頂部と上部が欠けている。完形個体の大きさは、高さ 30.0mm、幅 23.4mm、厚さ 24.0mm。動物食痕のある個体は、高さ 31.0mm、残存幅 23.1mm、残存厚 11.9mm。打撃痕のある個体は、残存高 26.6mm、残存幅 28.3mm、残存厚 12.4mm。半割の個体は、高さ 30.4mm、幅 23.2mm、残存厚 13.9mm。

(9) コナギ *Monochoria vaginalis* (Burm.f.) C.Presl ex Kunth 種子 ミズアオイ科

赤黄色で、上面観は円形、側面観は楕円形。表面には縦方向の低い隆起があり、隆起の間には横方向の線が密に入る。長さ 1.1mm、幅 0.5mm。

(10) スゲ属 A *Carex* sp. A 果実 カヤツリグサ科

黒色で、上面観は三角形、側面観はやや下端が窄まる倒卵形。長さ 1.0mm、幅 0.7mm。

(11) ヒエ属 *Echinochloa* spp. 炭化種子(穎果) イネ科

側面観は卵形ないし楕円形、断面は片凸レンズ形であるが、厚みは薄く、やや扁平である。胚は幅が広いうちわ型で、胚の長さは全長の2/3程度と長い。長さ1.2mm、幅0.8mm。

(12) イネ *Oryza sativa* L. 籾殻・炭化籾殻・小穂軸・炭化小穂軸・炭化種子(穎果) イネ科

籾殻は赤褐色で、本来の籾の形態は、上面観が楕円形で側面観が長楕円形。2条の稜があり、表面には四角形の網目状隆線と隆線上の顆粒状突起が規則正しく並ぶが、基部しか残存していない。残存長5.7mm、残存幅2.8mm。種子(穎果)の上面観は両凸レンズ形、側面観は長楕円形。一端に胚が残る。両面に縦方向の2本の浅い溝がある。長さ4.3mm、幅2.6mm。

(13) コムギ *Triticum aestivum* L. 炭化種子(穎果) イネ科

上面観は円形、側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る1本の溝がある。背面の下端中央部には扇形の胚があるが崩れている。オオムギに比べて長さが短く、幅に対して厚みがあるため、全体的に丸っこい形状である。断面形は腹面側が窪み、背面側が円形となる。またコムギの場合、側面観で最も背の高い部分(幅の広い部分)が基部付近に来る。コムギ属にはパンコムギやマカロニコムギなど複数種あるが、一般的に日本産コムギと呼称しているのはパンコムギである。ここでは一般的な呼称で記載した。残存長3.6mm、幅3.1mm、厚さ3.0mm。

(14) トウガン *Benincasa hispida* (Thunb.) Cogn. 種子 ウリ科

淡褐色で、倒卵形。表面は平滑。基部両側に薄い突出部がある。周囲を縁取る肥厚があり、中央部は窪む。長さ13.1mm、幅5.8mm。

(15) メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は狭卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。藤下(1984)は、種子の大きさからおおむね次の3群に分けられるとしている。長さ6.0mm以下の雑草メロン型、長さ6.1~8.0mmのマクワウリ・シロウリ型、長さ8.1mm以上のモモルディカメロン型である。⑦区SK32の土壌試料から出土した種子は、長さ6.2mm、幅3.1mmで、マクワウリ・シロウリ型の大きさの種子であった。

(16) キュウリ *Cucumis sativus* L. 種子 ウリ科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は長狭卵形で、頂点の部分は破損している。メロン仲間よりも細長く、厚みはほとんどない。残存長9.1mm、幅4.0mm。

(17) ニホンカボチャ *Cucurbita moschata* (Duchesne ex Lam.) Duchesne ex Poir. 種子 ウリ科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は肩が張る長倒卵形。周縁を毛が取り囲む。長さ14.2mm、幅7.5mm。

(18) ナス *Solanum melongena* L. 種子 ナス科

赤淡色で、上面観は長楕円形、側面観は楕円形。着点は明瞭に窪む。表面には畝状突起が覆瓦状となる細かい網目状隆線がある。長さ2.8mm、幅3.4mm。

(19) ゴマ *Sesamum orientale* L. 種子 ゴマ科

赤淡色で、上面観は扁平、側面観は狭倒卵形。表面は平滑。縁に沿って浅い溝がある。長さ3.2mm、幅2.0mm。

(20) エゴマ *Perilla frutescens* (L.) Britton var. *frutescens* 果実 シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部にやや突出する着点がある。表面には不規則で多角形の低い網目状隆線がある。網目部分の周囲はわずかに凹む。残存長1.9mm、残存幅1.7mm。

(21) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.5mm、幅1.4mm。

4. 考察

甲府城下町遺跡の江戸時代~近代の遺構から出土した大型植物遺体を同定した結果、栽培植物のブドウとモモ、ウメ、アンズ、イネ、コムギ、メロン仲間(マクワウリ・シロウリ型)、キュウリ、ニホンカボチャ、トウガン、ナス、

ゴマ、エゴマ、野生植物で食用可能なキイチゴ属とクワ属、クリ、ヒメグルミ、オニグルミ、キハダ、サンショウ属、ニワトコ、シソ属が得られた。土坑の用途は、ほとんどが廃棄土坑と考えられており、これらの食料残渣が堆積した可能性がある。また、堆積物試料では、ほぼすべての遺構からイネの籾殻が産出しており、籾殻が廃棄された可能性や、遺構が埋まる過程で再堆積した可能性などが考えられる。

山梨県内の遺跡から出土したモモ核の事例を集成した新津（1999）によると、モモの核は時代ごとに大きさや形状が変化しており、弥生時代には比較的大きくかつ丸味が強い核が多いのに対し、平安時代から近世には縦長になる傾向があるという。江戸時代後期になると大型になり、平均核高 26.9mm、最大で 38.0mm 程度の核がみられるとしている。⑦区 SK36 から産出した 19 世紀後葉のモモ核で計測した大きさは、高さ平均 $27.5 \pm 1.8\text{mm}$ 、幅平均 $18.9 \pm 1.4\text{mm}$ 、厚さ平均 $14.6 \pm 1.0\text{mm}$ で、縦長の個体が多かった（表 6）。山梨県から出土している江戸時代後期のモモの平均値と比較すると、今回の甲府城下町遺跡のモモ核の大きさは平均値をやや上回る値であった。

17 世紀と推定されている土坑である⑤区 SK12 から出土したオニグルミには、打撃痕を有する個体も含まれ、内部の子葉を利用するために割られたと考えられる。

周辺植生については、堆積物試料から、乾いた草地や荒地、畑などに生育するトウダイグサやキケマン属、ウシハコベ、アカザ属、スベリヒユ属、シソ属がしばしば得られており、周囲には草地が存在したと考えられる。また、調査地が商人地である点を考慮すると、家庭菜園的な小規模な畑が存在した可能性もある。

18 世紀後葉の⑦区 SK15 や 19 世紀後葉の SK37 などから産出したオモダカ属やイボクサ、コナギ、タガラシは、水田雑草でもある湿地性の草本である。調査地は 1800 年代から商人地として使用されているため、甲府城の築城以前に水田があり、水田土壌が土坑の埋め戻しなどに使用され、水田雑草にもなるこれらの種実が再堆積した可能性も考えられる。

19 世紀以前の⑦区 SK3 は、産出した寄生虫卵の密度から、糞便が混じり込んでいた状況が推測され、トイレ遺構の可能性が指摘されている（寄生虫卵分析の項参照）。大型植物遺体分析でも、他の土坑と種実遺体の組成が異

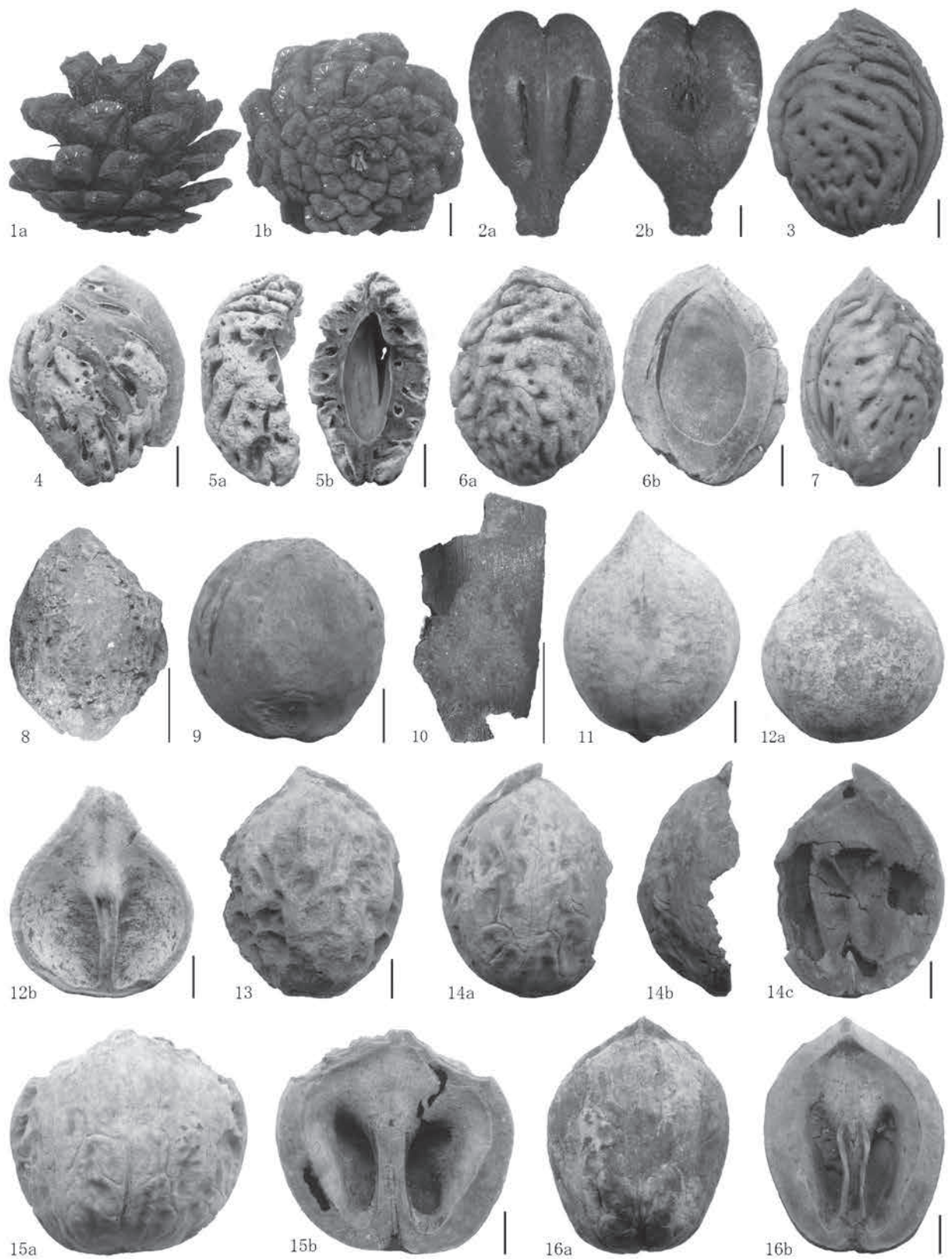
なり、栽培植物であるナスとゴマが多産した。ゴマはほとんどが破片で、ブドウやキハダ、サンショウ属などの食用になる種実もわずかであるが含まれており、これらの種子が排泄物に混じっていた可能性がある。

引用文献

- 藤下典之（1984）出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法. 渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書」：638-654, 同朋舎出版.
- 新津 健（1999）遺跡から出土するモモ核について—山梨県内の事例から—, 山梨考古学論集, IV, 361-374, 山梨県考古学協会.
- 米倉浩司・梶田 忠（2003-）BG Plants 和名—学名インデックス (YList), <http://ylist.info>

表6 モモ核の大きさ (単位: mm)

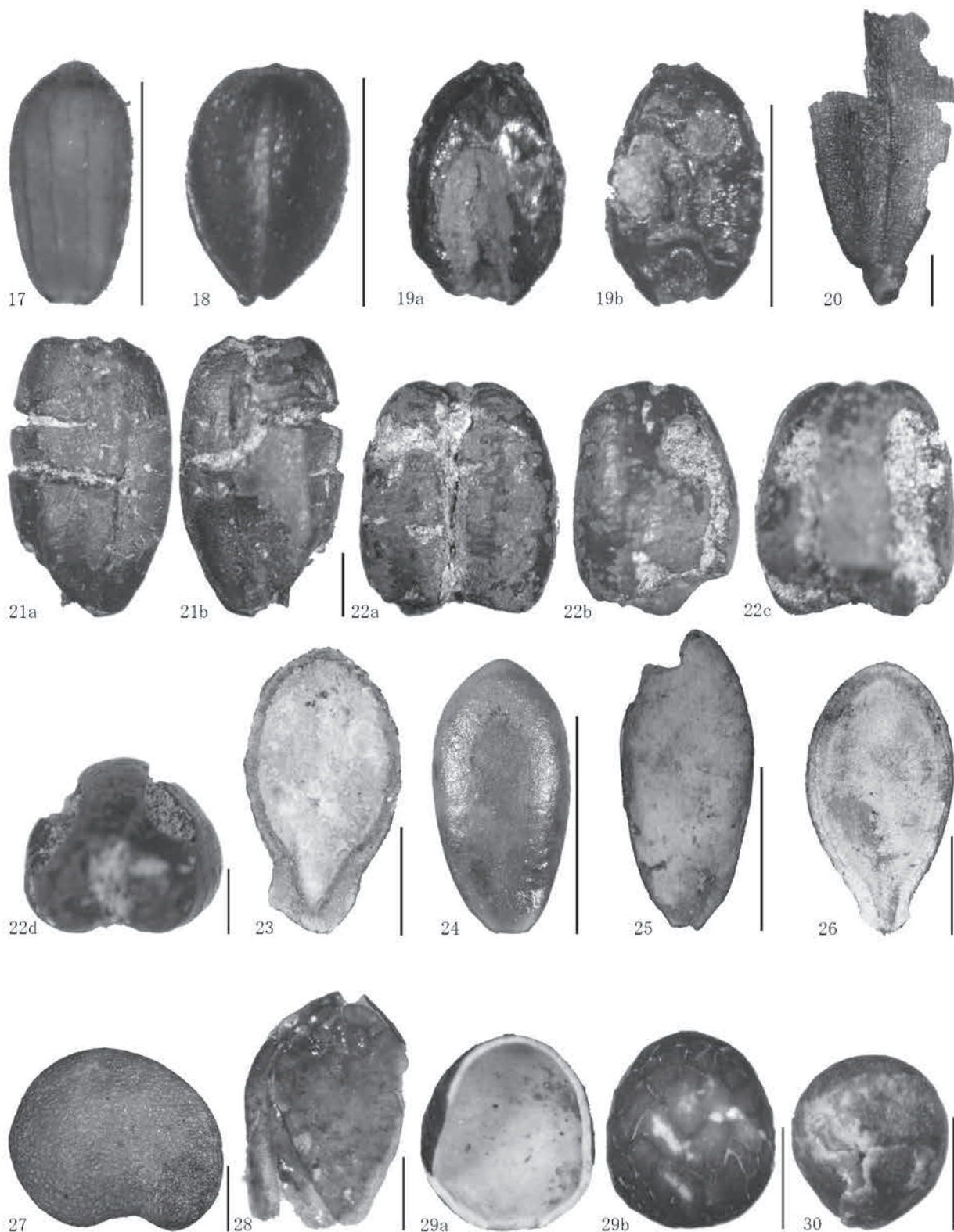
番号	高	幅	厚さ
SK36、T7-21	27.0	19.2	15.2
	30.1	22.0	17.7
	31.0	20.7	14.4
	29.9	23.4	15.9
	32.2	20.3	15.1
	29.9	22.7	17.1
	33.0	20.4	14.0
	29.9	19.8	13.9
	29.8	19.2	15.1
	29.1	19.7	14.2
	29.4	20.1	16.2
	27.9	17.9	14.4
	26.0	18.1	13.9
	28.3	18.9	15.0
	27.2	20.2	15.0
	27.8	18.8	14.9
	28.8	19.1	15.5
	28.0	18.3	13.3
	27.7	17.3	13.6
	26.4	17.9	15.0
28.3	19.1	15.3	
26.7	18.4	15.2	
26.8	18.2	14.8	
28.2	18.7	14.4	
27.0	19.4	15.2	
27.7	18.8	14.7	
27.7	19.4	14.6	
27.6	18.9	14.5	
26.1	19.2	14.5	
27.1	17.9	14.9	
27.9	18.1	14.5	
26.1	18.9	15.3	
26.3	19.1	12.8	
27.2	19.5	15.8	
25.6	17.0	14.4	
25.9	18.3	14.9	
27.9	18.5	14.2	
28.1	18.5	15.1	
28.6	18.9	14.4	
27.3	17.9	14.1	
25.9	19.0	14.9	
27.3	18.3	13.7	
25.0	17.1	13.9	
25.9	16.2	13.4	
26.3	19.4	14.6	
23.9	17.6	14.2	
25.3	18.6	14.3	
26.4	18.1	15.6	
26.6	17.3	13.6	
24.7	17.5	13.1	
25.8	18.0	14.6	
25.6	16.8	12.2	
最小	23.9	16.2	12.2
最大	33.0	23.4	17.7
平均	27.5	18.9	14.6
標準偏差	1.8	1.4	1.0



スケール 1, 3-16:5mm, 2:1mm

図版1 甲府城下町遺跡中央4丁目地点I区から出土した大型植物遺体 (1)

1. マツ属複維管束亜属球果 (SW1, No. T1-1)、2. ブドウ種子 (SK13, No. So1-10)、3. モモ核 (完形) (SK36, No. T7-21)、4. モモ核 (一部焦痕) (SK23, No. T7-28・35)、5. モモ核 (動物食痕) (SK13, No. T7-5)、6. モモ核 (半割) (SK36, No. T7-21)、7. モモ炭化核 (半割) (SK36, No. T7-21)、8. ウメ核 (SK36, No. T7-20)、9. アンズ核 (SK36, No. T7-23)、10. クリ果実 (SK32, No. So7-14)、11. ヒメグルミ核 (完形) (SK17, No. T7-9)、12. ヒメグルミ核 (半割) (SK15, No. T7-30)、13. オニグルミ核 (完形) (SK15, No. T5-7)、14. オニグルミ核 (動物食痕) (SK12, No. T5-5・6)、15. オニグルミ核 (打撃痕) (SK15, No. T5-5・6)、16. オニグルミ核 (半割) (SK36, No. T7-18)



スケール 17-22, 26-29:1mm, 23-25:5mm

図版2 甲府城下町遺跡中央4丁目地点 I 区から出土した大型植物遺体 (2)

17. コナギ種子 (SK4, No. So1-3)、18. スゲA属果実 (SK4, No. So1-3)、19. ヒエ属炭化種子 (穎果) (SK52, No. So6-5)、20. イネ籾殻 (SK23, No. So7-19)、21. イネ炭化種子 (穎果) (SK32, No. So7-14)、22. コムギ炭化種子 (穎果) (SK32, No. So7-14)、23. トウガン種子 (SK36, No. T7-32)、24. メロン仲間 (マクワウリ・シロウリ型) 種子 (SK32, No. So7-14)、25. キュウリ種子 (SK15, No. T7-6)、26. ニホンカボチャ種子 (SK36, No. T7-32)、27. ナス種子 (SK3, No. So7-16)、28. ゴマ種子 (SK3, No. So7-16)、29. エゴマ果実 (SK53, No. So6-6)、30. シソ属果実 (SK32, No. So7-14)

第5節 甲府城下町遺跡（中央4丁目I区）から出土した昆虫化石

森 勇一（東海シニア自然大学）・山本 華（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡は、相川によって形成された扇状地上に立地する近世の城下町遺跡である。ここでは中央4丁目I区において遺構内の堆積物から得られた昆虫化石を同定し、当時の古環境について検討した。なお、堆積物については花粉分析と寄生虫卵分析、大型植物遺体分析も行われている（別項参照）。

2. 試料と方法

試料は、昭和測量株式会社によって、遺構から回収された土壌21試料のうち、昆虫が含まれていた20試料である。試料が採取された遺構は、土坑（SK）と埋甕（SZ）である。土坑のほとんどは廃棄土坑と推定されている。遺構の時期は、江戸時代～近代と考えられている。昆虫の試料番号と、遺構、もとの土壌の試料番号との対応関係は、次の通りである。試料1：SK4（No.So1-3）、試料2：SK13（No.So1-10）、試料3：SZ1（No.So2-1）、試料4：SK17（No.So6-2）、試料5：SK34（No.So6-3）、試料6：SK48（No.So6-4）、試料7：SK52（No.So6-5）、試料8：SK53（No.So6-6）、試料9：SK54（No.So6-7）、試料10：SK1（No.So7-5）、試料11：SK7（No.So7-7）、試料12：SK15（No.So7-10）、試料13：SK17（No.So7-11）、試料14：SK32（No.So7-14）、試料15：SK3（No.So7-16）、試料16：SK40（No.So7-17）、試料17：SK23（No.So7-19）、試料18：SK2（No.So7-20）、試料19：SK37（No.So7-21）、試料20：SK22（No.So7-22）。

堆積物試料の水洗はパレオ・ラボにて行ない、最小0.5mm目の篩を用いて40～200ccを水洗した。昆虫の抽出は、実体顕微鏡下で行った。

昆虫化石の同定は、筆者採集の現生標本と実体顕微鏡下で1点ずつ比較の上、実施した。昆虫化石は、いずれも節片に分離した状態で検出されたため、本論に記した産出点数は、昆虫の個体数を示した数字ではない。

3. 結果

同定した結果、SK4（試料1、No.So1-3）から計17点、SK13（試料2、No.So1-10）から295点、SZ1（試料3、No.So2-1）から7点、SK17（試料4、No.So6-2）から4点、SK34（試料5、No.So6-3）から12点、SK48（試料6、No.So6-4）から8点、SK52（試料7、No.So6-5）から11点、SK53（試料8、No.So6-6）から137点、SK54（試料9、No.So6-7）から22点、SK1（試料10、No.So7-5）およびSK7（試料11、No.So7-7）から各11点、SK15（試料12、No.So7-10）から7点、SK17（試料13、No.So7-11）から60点、SK32（試料14、No.So7-14）から22点、SK3（試料15、No.So7-16）から31点、SK40（試料16、No.So7-17）から42点、SK23（試料17、No.So7-19）から23点、SK2（試料18、No.So7-20）から10点、SK37（試料19、No.So7-21）から13点、SK22（試料20、No.So7-22）から15点の、計758点の昆虫化石が発見された（表1～13）。産出した昆虫化石のうち、主なものに

表1 甲府城下町遺跡（中央4丁目I区）から出土した昆虫化石（試料1）

試料1：No. So1-3

	和名	学名	部位	長さ (幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	右上翅片	2.8	食糞性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
2	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	4.2	汚物食	屋外性、便池	SK4	19世紀中葉以前
3	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	1.8	食糞性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
4	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸腹板片	2.5	雑食性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
5	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	3.1	雑食性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
6	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部	1.6	雑食性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
7	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	腹部腹板	5.6	不明	不明	SK4	19世紀中葉以前
8	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.4	食糞性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
9	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	3.1	食糞性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
10	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	4.2	食糞性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
11	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.4	不明	不明	SK4	19世紀中葉以前
12	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	3.3	雑食性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
13	ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.5	食植性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
14	ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	右上翅上半部	2.2	食植性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
15	コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.	腿節	1.4	食植性	好植性	SK4	19世紀中葉以前
16	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.2	食糞性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
17	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	2.6	不明	不明	SK4	19世紀中葉以前

表3 甲府城下町遺跡(中央4丁目I区)から出土した昆虫化石(試料2)(2)

試料2: No. Sol-10

	和名	学名	部位	長さ (幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
95	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	1.0	雑食性	地表性	SK13	19世紀中葉～後葉
96	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部	0.6	雑食性	地表性	SK13	19世紀中葉～後葉
97	コクゾウムシ	Sitophilus zeamais Motschulsky	前胸腹板	1.4	貯穀性	家屋害虫	SK13	19世紀中葉～後葉
98	コクゾウムシ	Sitophilus zeamais Motschulsky	前胸背板	1.2	貯穀性	家屋害虫	SK13	19世紀中葉～後葉
99	コクゾウムシ	Sitophilus zeamais Motschulsky	前胸背板	1.3	貯穀性	家屋害虫	SK13	19世紀中葉～後葉
100	コクゾウムシ	Sitophilus zeamais Motschulsky	前胸背板	1.2	貯穀性	家屋害虫	SK13	19世紀中葉～後葉
101	コクゾウムシ	Sitophilus zeamais Motschulsky	前胸背板	1.5	貯穀性	家屋害虫	SK13	19世紀中葉～後葉
102	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸背板	2.1	食植性	好植性	SK13	19世紀中葉～後葉
103	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸背板	1.5	食植性	好植性	SK13	19世紀中葉～後葉
104	ヒメカツオブシムシ	Attagenus unicolor japonicus Reitter	右上翅	2.2	雑食性	家屋害虫	SK13	19世紀中葉～後葉
105	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.2	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
106	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.2	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
107	キンバエ	Lucilia caesar (Linnaeus)	翅鱗片	2.1	雑食性	屋外性など	SK13	19世紀中葉～後葉
108	キンバエ	Lucilia caesar (Linnaeus)	翅鱗片	2.2	雑食性	屋外性など	SK13	19世紀中葉～後葉
109	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.6	食屑性	地表性	SK13	19世紀中葉～後葉
110	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.2	食屑性	地表性	SK13	19世紀中葉～後葉
111	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	1.5	食屑性	地表性	SK13	19世紀中葉～後葉
112	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	胸部	2.1	食屑性	地表性	SK13	19世紀中葉～後葉
113	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	4.0	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
114	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	3.8	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
115	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	4.2	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
116	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	3.6	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
117	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	4.1	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
118	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	3.8	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
119	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	4.0	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
120	キンバエ	Lucilia caesar (Linnaeus)	翅鱗片	4.0	雑食性	屋外性など	SK13	19世紀中葉～後葉
121	キンバエ	Lucilia caesar (Linnaeus)	翅鱗片	2.2	雑食性	屋外性など	SK13	19世紀中葉～後葉
122	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	3.0	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
123	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	3.8	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
124	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	4.2	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
125	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	3.6	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
126	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	3.6	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
127	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	3.7	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
128	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	4.1	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
129	キンバエ	Lucilia caesar (Linnaeus)	翅鱗片	3.0	雑食性	屋外性など	SK13	19世紀中葉～後葉
130	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	4.1	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
131	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	3.8	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
132	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	3.0	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
133	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	4.6	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
134	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	4.3	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
135	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	4.0	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
136	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	3.5	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
137	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	3.8	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
138	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	4.5	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
139	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.6	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
140	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.2	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
141	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.3	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
142	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.6	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
143	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.5	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
144	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.2	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
145	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	11.5	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
146	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	9.5	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
147	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	4.0	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
148	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.3	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
149	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	5.1	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
150	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	4.3	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
151	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	4.5	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
152	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.2	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
153	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.5	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
154	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.6	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
155	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.0	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
156	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	4.2	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
157	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.3	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
158	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	4.2	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
159	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	4.4	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
160	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	2.9	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
161	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.6	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
162	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.3	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
163	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	4.2	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
164	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	5.2	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
165	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	6.1	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
166	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	4.3	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
167	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	2.9	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
168	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	2.8	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
169	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.6	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
170	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	3.3	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
171	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	5.1	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
172	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	前気門	7.2	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
173	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	前気門	4.2	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
174	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	前気門	2.5	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
175	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	前気門	2.6	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
176	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	前気門	2.7	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
177	キンバエ	Lucilia caesar (Linnaeus)	翅鱗片	2.8	雑食性	屋外性など	SK13	19世紀中葉～後葉
178	キンバエ	Lucilia caesar (Linnaeus)	翅鱗片	3.2	雑食性	屋外性など	SK13	19世紀中葉～後葉
179	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	2.6	不明	不明	SK13	19世紀中葉～後葉
180	ショウジョウバエ属	Drosophila sp.	翅鱗片	2.2	発酵物食	屋内性	SK13	19世紀中葉～後葉
181	ショウジョウバエ属	Drosophila sp.	翅鱗片	2.4	発酵物食	屋内性	SK13	19世紀中葉～後葉
182	コクヌストモドキ	Tribolium castaneum Herbst	左上翅	2.3	貯穀性	家屋害虫	SK13	19世紀中葉～後葉
183	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	2.4	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
184	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	2.6	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
185	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	後気門	2.4	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
186	キンバエ	Lucilia caesar (Linnaeus)	後気門	2.5	雑食性	屋外性など	SK13	19世紀中葉～後葉
187	ショウジョウバエ属	Drosophila sp.	翅鱗片	2.4	発酵物食	屋内性	SK13	19世紀中葉～後葉
188	ヒメイエバエ	Fannia canicularis (Linnaeus)	翅鱗片	2.2	発酵物食	屋内性	SK13	19世紀中葉～後葉
189	エンマコガネ属	Onthophagus sp.	腹部腹板	2.8	食糞性	地表性	SK13	19世紀中葉～後葉
190	オオクロバエ	Calliphora lata Coquillett	翅鱗片	6.0	汚物食	屋外性、便池	SK13	19世紀中葉～後葉
191	ショウジョウバエ属	Drosophila sp.	翅鱗片	2.1	発酵物食	屋内性	SK13	19世紀中葉～後葉
192	ショウジョウバエ属	Drosophila sp.	翅鱗片	2.4	発酵物食	屋内性	SK13	19世紀中葉～後葉

表5 甲府城下町遺跡（中央4丁目I区）から出土した昆虫化石（試料3-7）

試料3：No. So2-1

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.1	雑食性	地表性	SZ1	近代
2	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.5	汚物食	屋外性、便池	SZ1	近代
3	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	基節片	1.2	汚物食	屋外性、便池	SZ1	近代
4	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	閉蛹片	2.0	雑食性	地表性	SZ1	近代
5	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹片	2.6	発酵物食	屋内性	SZ1	近代
6	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	閉蛹片	2.2	雑食性	地表性	SZ1	近代
7	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	3.0	不明	不明	SZ1	近代

試料4：No. So6-2

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus pulverosus</i> (Stephens)	前胸腹板	4.0	食肉性	水生	SK17	17世紀末～18世紀前葉
2	ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus pulverosus</i> (Stephens)	後胸腹板	2.2	食肉性	水生	SK17	17世紀末～18世紀前葉
3	ヒメゲンゴロウ亜科	Colymbetinae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.2	食肉性	水生	SK17	17世紀末～18世紀前葉
4	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	2.5	不明	不明	SK17	17世紀末～18世紀前葉

試料5：No. So6-3

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板片	1.3	食屑性	地表性	SK34	19世紀前葉以前か
2	キクイムシ科	Scolytidae gen. et sp. indet.	左上翅片	2.2	食植性	好植性	SK34	19世紀前葉以前か
3	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	1.2	食屑性	地表性	SK34	19世紀前葉以前か
4	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	前胸背板片	2.8	食糞性	地表性	SK34	19世紀前葉以前か
5	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.6	食屑性	地表性	SK34	19世紀前葉以前か
6	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	1.4	雑食性	地表性	SK34	19世紀前葉以前か
7	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部	0.6	雑食性	地表性	SK34	19世紀前葉以前か
8	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.4	不明	不明	SK34	19世紀前葉以前か
9	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.0	不明	不明	SK34	19世紀前葉以前か
10	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.5	不明	不明	SK34	19世紀前葉以前か
11	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.6	不明	不明	SK34	19世紀前葉以前か
12	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	食屑性	地表性	SK34	19世紀前葉以前か

試料6：No. So6-4

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.0	食植性	好植性	SK48	19世紀前葉以前か
2	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板片	2.2	食屑性	地表性	SK48	19世紀前葉以前か
3	ハムシ科	Crysomelidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.4	食植性	好植性	SK48	19世紀前葉以前か
4	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.6	不明	不明	SK48	19世紀前葉以前か
5	コマツキムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.3	食植性	好植性	SK48	19世紀前葉以前か
6	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	0.6	雑食性	地表性	SK48	19世紀前葉以前か
7	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.2	不明	不明	SK48	19世紀前葉以前か
8	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.1	食屑性	地表性	SK48	19世紀前葉以前か

試料7：No. So6-5

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	右上翅	2.8	貯穀性	家屋害虫	SK52	18世紀後葉～19世紀前葉か
2	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板	1.6	食屑性	地表性	SK52	18世紀後葉～19世紀前葉か
3	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	閉蛹	2.2	汚物食	屋外性、便池	SK52	18世紀後葉～19世紀前葉か
4	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	前胸背板片	1.6	食糞性	地表性	SK52	18世紀後葉～19世紀前葉か
5	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹片	1.3	発酵物食	屋内性	SK52	18世紀後葉～19世紀前葉か
6	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.0	雑食性	地表性	SK52	18世紀後葉～19世紀前葉か
7	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.3	食屑性	地表性	SK52	18世紀後葉～19世紀前葉か
8	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	2.1	不明	不明	SK52	18世紀後葉～19世紀前葉か
9	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.5	不明	不明	SK52	18世紀後葉～19世紀前葉か
10	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.6	不明	不明	SK52	18世紀後葉～19世紀前葉か
11	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板片	1.8	食屑性	地表性	SK52	18世紀後葉～19世紀前葉か

ついて、図版1～3に実体顕微鏡写真を掲げた。

分類群ごとにみると、目レベルまで同定した昆虫が1目18点、科レベルが10科119点、亜科レベルが1亜科1点、属レベルが10属48点、種まで同定できた昆虫は28種506点であった。これ以外に、不明甲虫とした昆虫が63点存在する。検出部位別では、上翅（Elytron）が最も多く、続いて前胸背

板（Pronotum）、腿脛節（Legs）、腹部（Abdomen）などが確認された。昆虫以外では、イエダニの仲間が計2点確認された。

生態別では、地表性歩行虫が計96点（12.7%）、うち食糞性ないし食屑性昆虫は計28点（3.7%）含まれていた。陸生の食植性昆虫は計132点（17.4%）発見された。水生昆虫は、食植性および食肉性の両タイプを含め、計13点（1.7%）確認されたのみであった。ハエ目が計425点（56.1%）と大量に出現しており、本群集の最大の特徴といえる。

特徴的な種についてみると、最も多く発見された昆虫は大型のハエ類の仲間、主に人糞に集まるオオクロバエ *Calliphora lata*（322点）、次いでコメをはじめ貯蔵した穀類を加害するコクゾウムシ *Sitophilus zeamais*（54点）やコクヌストモドキ *Tribolium castaneum*（28点）であった。これに生活ゴミや汚物などに多いキンバエ *Lucilia*

表6 甲府城下町遺跡(中央4丁目I区)から出土した昆虫化石(試料8)(1)

試料8: No. So6-6

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅	1.7	貯穀性	家屋害虫	SK53	18世紀後葉か
2	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上翅	1.8	貯穀性	家屋害虫	SK53	18世紀後葉か
3	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	頭部	1.7	貯穀性	家屋害虫	SK53	18世紀後葉か
4	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	頭部	1.8	貯穀性	家屋害虫	SK53	18世紀後葉か
5	トゲニセマゴソコガネ	<i>Caelius denticollis</i> Lewis	前胸背板	1.1	食糞性	地表性	SK53	18世紀後葉か
6	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉蛹(後気門)	1.6	雑食性	屋外性など	SK53	18世紀後葉か
7	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	2.5	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
8	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.1	食糞性	地表性	SK53	18世紀後葉か
9	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.1	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
10	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	2.6	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
11	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	後胸腹板	1.2	貯穀性	家屋害虫	SK53	18世紀後葉か
12	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.1	食糞性	地表性	SK53	18世紀後葉か
13	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	1.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
14	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.9	不明	不明	SK53	18世紀後葉か
15	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	7.0	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
16	マルエンマコガネ	<i>Onthophagus viduus</i> Harold	頭部	2.3	食糞性	地表性	SK53	18世紀後葉か
17	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	胸部	1.0	不明	不明	SK53	18世紀後葉か
18	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	4.5	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
19	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	2.6	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
20	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.9	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
21	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	2.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
22	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.2	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
23	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉蛹(後気門)	2.8	雑食性	屋外性など	SK53	18世紀後葉か
24	トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i> (Emery)	頭部	0.6	雑食性	地表性	SK53	18世紀後葉か
25	トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i> (Emery)	頭部	0.5	雑食性	地表性	SK53	18世紀後葉か
26	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	頭部	0.7	不明	不明	SK53	18世紀後葉か
27	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.4	不明	不明	SK53	18世紀後葉か
28	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.0	不明	不明	SK53	18世紀後葉か
29	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片(前気門)	2.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
30	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片(前気門)	3.7	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
31	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	4.1	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
32	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹	2.3	発酵物食	屋内性	SK53	18世紀後葉か
33	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹片	2.2	発酵物食	屋内性	SK53	18世紀後葉か
34	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹片	2.6	発酵物食	屋内性	SK53	18世紀後葉か
35	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹片	2.1	発酵物食	屋内性	SK53	18世紀後葉か
36	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	閉蛹片	3.6	雑食性	屋外性など	SK53	18世紀後葉か
37	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片(前気門)	3.3	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
38	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片(前気門)	2.6	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
39	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	2.9	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
40	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.2	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
41	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.0	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
42	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.4	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
43	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	2.0	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
44	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片(前気門)	2.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
45	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片(前気門)	3.2	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
46	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片(前気門)	3.7	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
47	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片(前気門)	4.1	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
48	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉蛹(後気門)	2.8	雑食性	屋外性など	SK53	18世紀後葉か
49	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉蛹(後気門)	3.5	雑食性	屋外性など	SK53	18世紀後葉か
50	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	閉蛹片	2.6	雑食性	屋内性など	SK53	18世紀後葉か
51	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	閉蛹片	3.2	雑食性	屋内性など	SK53	18世紀後葉か
52	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.0	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
53	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.4	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
54	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
55	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	4.2	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
56	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.6	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
57	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.3	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
58	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	5.1	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
59	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
60	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	4.3	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
61	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	2.9	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
62	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	2.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
63	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.4	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
64	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	4.4	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
65	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.2	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
66	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.6	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
67	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	5.6	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
68	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	4.1	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
69	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.5	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
70	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.2	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
71	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
72	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	2.9	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
73	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
74	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	4.1	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
75	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	4.6	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
76	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	5.2	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
77	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	4.3	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
78	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	2.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
79	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.7	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
80	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.5	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
81	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.6	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
82	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.9	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
83	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	4.0	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
84	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	4.6	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
85	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	42.0	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
86	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
87	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	2.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
88	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.9	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
89	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	4.2	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
90	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	4.0	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か

表7 甲府城下町遺跡(中央4丁目I区)から出土した昆虫化石(試料8)(2)

試料8: No. So6-6

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
91	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	4.7	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
92	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	5.2	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
93	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.4	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
94	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.6	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
95	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.0	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
96	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸腹板	1.1	食植性	好植性	SK53	18世紀後葉か
97	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸腹板	0.8	食植性	好植性	SK53	18世紀後葉か
98	クロショウジョウバエ	<i>Drosophila virilis</i> Sturtevant	囲蛹片	3.0	発酵物食	屋内性	SK53	18世紀後葉か
99	クロショウジョウバエ	<i>Drosophila virilis</i> Sturtevant	囲蛹片	1.3	発酵物食	屋内性	SK53	18世紀後葉か
100	クロショウジョウバエ	<i>Drosophila virilis</i> Sturtevant	囲蛹片	1.2	発酵物食	屋内性	SK53	18世紀後葉か
101	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	囲蛹片	1.8	発酵物食	屋内性	SK53	18世紀後葉か
102	クロショウジョウバエ	<i>Drosophila virilis</i> Sturtevant	囲蛹片	1.2	発酵物食	屋内性	SK53	18世紀後葉か
103	クゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	中胸腹板	0.9	貯穀性	家屋害虫	SK53	18世紀後葉か
104	トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i> (Emery)	頭部	0.8	雑食性	地表性	SK53	18世紀後葉か
105	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	囲蛹片	1.8	発酵物食	屋内性	SK53	18世紀後葉か
106	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.9	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
107	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.3	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
108	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	2.9	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
109	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	4.1	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
110	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	4.2	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
111	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	4.2	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
112	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.6	雑食性	地表性	SK53	18世紀後葉か
113	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.3	雑食性	地表性	SK53	18世紀後葉か
114	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	3.1	雑食性	地表性	SK53	18世紀後葉か
115	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.9	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
116	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.3	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
117	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	2.9	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
118	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	4.1	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
119	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.6	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
120	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.7	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
121	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	2.9	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
122	イエダニの一種	Acaridae gen. et sp. indet.	体全体	3.0	吸血性	家屋害虫	SK53	18世紀後葉か
123	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.2	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
124	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.3	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
125	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	2.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
126	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	4.1	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
127	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
128	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	2.8	汚物食	屋外性、便池	SK53	18世紀後葉か
129	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板片		雑食性	地表性	SK53	18世紀後葉か
130	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板片		雑食性	地表性	SK53	18世紀後葉か
131	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片		雑食性	地表性	SK53	18世紀後葉か
132	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明		不明	不明	SK53	18世紀後葉か
133	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片		不明	不明	SK53	18世紀後葉か
134	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片		不明	不明	SK53	18世紀後葉か
135	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明		不明	不明	SK53	18世紀後葉か
136	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明		不明	不明	SK53	18世紀後葉か
137	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片		不明	不明	SK53	18世紀後葉か

caesar (29点)、イエバエ *Musca domestica* (19点) などが伴い、甲府城下町遺跡の昆虫組成は、きわめてヒトの気配の濃厚な都市型昆虫群集(森, 2001)であるとみなせる。

このほか、発酵物食の小型ハエ類であるショウジョウバエ属 *Drosophila* sp. (32点)、同じく発酵物食のヒメイエバエ *Fannia canicularis* (3点)、食糞性甲虫では獣糞や人糞に集まるエンマコガネ属 *Onthophagus* sp. (計11点) やマダソコガネ *Aphodius rectus* (8点)、コマダソコガネ *A. pusilus* (5点) などが確認され、優占種および随伴種ともに生活ゴミや汚物などに多い汚物集積の指標昆虫(森, 1999)で大部分が占められた。

周辺の植生を反映する陸生の食植性昆虫は、ハムシ科(7点)およびゾウムシ科(16点)などがわずかに得られたのみであった。こうした食植性昆虫の少なさも、甲府城下町遺跡の昆虫組成の異常さを際立たせている。

4. 考察

甲府城下町遺跡内から得られた昆虫化石は、合計758点にもおよぶ大変まとまった分析試料である。しかし、発見された昆虫組成に大きな偏りがあり、復元する古環境は限られたものであると考えられる。昆虫分析結果より考えられる古環境について、以下に、似たような産状を示す遺構ごとに述べる。

① 19世紀中葉～後葉のSK13(試料2)、18世紀後葉と推定されるSK53(試料8)

SK13内の試料2からは計295点の昆虫化石が発見されたが、うち255点(86.4%)がハエ類のサナギ(囲蛹)で占められた。このようなハエの多産は、よほど特殊な環境(便池)でないとありえない昆虫群集といえる。最も多く得られたのはオオクロバエ(224点)であった。オオクロバエは、クロバエ亜科 *Calliphrinae* に属する体長10～12mmの大型のハエであり、青黒色で、体形は丸みを帯びる。世界共通種で、わが国では本州から四国、九州にか

表8 甲府城下町遺跡(中央4丁目1区)から出土した昆虫化石(試料9-12)

試料9: No. So6-7

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	上翅片	1.5	食糞性	地表性	SK54	19世紀中葉以前
2	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	上翅片	2.0	食糞性	地表性	SK54	19世紀中葉以前
3	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	上翅片	1.8	食糞性	地表性	SK54	19世紀中葉以前
4	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	4.8	汚物食	屋外性、便池	SK54	19世紀中葉以前
5	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.7	汚物食	屋外性、便池	SK54	19世紀中葉以前
6	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	前気門	3.0	汚物食	屋外性、便池	SK54	19世紀中葉以前
7	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	前気門	1.9	雑食性	屋外性など	SK54	19世紀中葉以前
8	マルエンマコガネ	<i>Onthophagus viduus</i> Harold	頭部	2.1	食糞性	地表性	SK54	19世紀中葉以前
9	ゾウムシ科	Circulionidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.2	食植性	好植性	SK54	19世紀中葉以前
10	ナガニジゴミムシダマシ	<i>Ceropria induta</i> (Wiedermann)	上翅片	0.8	雑食性	地表性	SK54	19世紀中葉以前
11	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	上翅片	1.4	食糞性	地表性	SK54	19世紀中葉以前
12	オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i> (Motschulsky)	上翅片	2.6	食肉性	地表性	SK54	19世紀中葉以前
13	オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i> (Motschulsky)	上翅片	1.8	食肉性	地表性	SK54	19世紀中葉以前
14	ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.6	食植性	地表性	SK54	19世紀中葉以前
15	トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i> (Emery)	頭部	0.7	雑食性	屋外性など	SK54	19世紀中葉以前
16	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	囲蛹片	2.6	雑食性	屋外性など	SK54	19世紀中葉以前
17	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	囲蛹片	1.8	雑食性	屋外性など	SK54	19世紀中葉以前
18	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	囲蛹片	1.4	雑食性	屋外性など	SK54	19世紀中葉以前
19	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	囲蛹片	1.3	雑食性	屋外性など	SK54	19世紀中葉以前
20	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	囲蛹片	2.1	発酵物食	屋内性	SK54	19世紀中葉以前
21	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.6	雑食性	地表性	SK54	19世紀中葉以前
22	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.5	不明	不明	SK54	19世紀中葉以前

試料10: No. So7-5

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上翅	1.8	貯穀性	家屋害虫	SK1	18世紀後葉~19世紀初頭
2	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅片	1.2	貯穀性	家屋害虫	SK1	18世紀後葉~19世紀初頭
3	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	右上翅	2.2	貯穀性	家屋害虫	SK1	18世紀後葉~19世紀初頭
4	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	右上翅	1.2	貯穀性	家屋害虫	SK1	18世紀後葉~19世紀初頭
5	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	1.4	雑食性	地表性	SK1	18世紀後葉~19世紀初頭
6	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部	0.6	雑食性	地表性	SK1	18世紀後葉~19世紀初頭
7	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.4	不明	不明	SK1	18世紀後葉~19世紀初頭
8	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.0	不明	不明	SK1	18世紀後葉~19世紀初頭
9	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.5	不明	不明	SK1	18世紀後葉~19世紀初頭
10	ヒメマキムシの一種	<i>Cartodera</i> s.p.	前胸背板	0.6	食菌性	屋内性	SK1	18世紀後葉~19世紀初頭
11	ケラ	<i>Grylotalpa africana</i> Palisot de Beauvois	前脛節	0.7	雑食性	地表性	SK1	18世紀後葉~19世紀初頭

試料11: No. So7-7

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板	1.3	不明	不明	SK7	18世紀後葉
2	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	4.8	汚物食	屋外性、便池	SK7	18世紀後葉
3	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.7	汚物食	屋外性、便池	SK7	18世紀後葉
4	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	前気門	3.0	汚物食	屋外性、便池	SK7	18世紀後葉
5	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	2.0	汚物食	屋外性、便池	SK7	18世紀後葉
6	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	囲蛹片	3.3	汚物食	屋外性、便池	SK7	18世紀後葉
7	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	前気門	2.9	汚物食	屋外性、便池	SK7	18世紀後葉
8	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	囲蛹片	2.6	雑食性	屋外性など	SK7	18世紀後葉
9	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	囲蛹片	2.4	雑食性	屋外性など	SK7	18世紀後葉
10	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	3.1	不明	不明	SK7	18世紀後葉
11	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.8	不明	不明	SK7	18世紀後葉

試料12: No. So7-10

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上翅	1.6	貯穀性	家屋害虫	SK15	18世紀後葉
2	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸腹板	0.7	貯穀性	家屋害虫	SK15	18世紀後葉
3	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸腹板	0.8	貯穀性	家屋害虫	SK15	18世紀後葉
4	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	囲蛹片	1.2	雑食性	屋内性など	SK15	18世紀後葉
5	ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	食植性	地表性	SK15	18世紀後葉
6	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.2	不明	不明	SK15	18世紀後葉
7	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.1	食屑性	地表性	SK15	18世紀後葉

けての平地に生息する(鈴木・緒方, 1968)。沖縄や北海道では分布が限られる。オオクロバエの幼虫やサナギの後方気門は末端節の陥凹部に位置していて、末端節周囲には6対の棘状突起がリング状に配置される(林・篠永, 1979)。こうした特徴は、便池内において酸素呼吸するのに適している。

オオクロバエは、奈良県平城京跡440次調査のSK19198遺構からも多産した(芝ほか, 2013)。遺構は東方官衙地区に位置しており、その位置や形状および確認された昆虫組成より、平城京を訪問した客人用のトイレ(便池)であったとされている(芝ほか, 2013)。

試料2にはキンバエ属の囲蛹が計19点含まれていた。キンバエは動物の死体や塵芥など、動物質食物に対する嗜好性が強いが、便池にも発生する(安富・梅谷, 1983)。また、試料2からは貯穀性昆虫であるコクゾウムシやコクヌストモドキなどが確認された。これらは、ヒトが食した食べ物に混入し排泄物となって便池に紛れ込んだ昆虫と考えられる。こうした産出状況は、平城京のトイレ遺構でも確認されている。

オオクロバエの多産については、18世紀後葉の遺構と推定されるSK53から採取された試料8でも確認されている。試料8では、産出点数137点のうち87点(63.5%)がオオクロバエで占められ、ほかに、イエバエやキンバエ、ショウジョウバエ属などのハエ類の囲蛹が多産した。試料2と同様、特別な環境下にあったと考えられ、便池であった可能性が指摘される。

表9 甲府城下町遺跡(中央4丁目I区)から出土した昆虫化石(試料13)

試料13: No. So7-11

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	右上翅	2.7	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
2	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上翅	1.7	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
3	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅	1.6	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
4	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.2	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
5	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.3	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
6	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	左上翅	3.6	食植性	水生	SK17	17世紀末~18世紀前葉
7	コクヌストモドキ	<i>Aphodius pusilus</i> (Herbst)	左上翅	2.8	食糞性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
8	マゴソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	左上翅	3.2	食糞性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
9	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	前胸背板	1.2	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
10	コクヌストモドキ	<i>Aphodius pusilus</i> (Herbst)	頭部	1.3	食糞性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
11	マゴソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	前胸背板	2.2	食糞性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
12	コクヌストモドキ	<i>Aphodius pusilus</i> (Herbst)	前胸背板	1.6	食糞性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
13	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	前胸背板	1.3	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
14	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.1	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
15	ナガシゴミシシダマシ	<i>Ceropria induta</i> (Wiedermann)	上翅片	1.1	雑食性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
16	チビヒラタガムシ	<i>Enochrus esuriens</i> (Walker)	右上翅	2.1	食植性	水生	SK17	17世紀末~18世紀前葉
17	コクヌストモドキ	<i>Aphodius pusilus</i> (Herbst)	右前腿脛節	脛節0.7	食糞性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
18	マゴソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	左前腿脛節	脛節0.9	食糞性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
19	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.1	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
20	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	0.8	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
21	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上翅	1.7	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
22	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.0	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
23	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.3	食屍性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
24	ツヤヒラタガムシ属	<i>Synuchus</i> sp.	上翅片	3.1	雑食性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
25	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	頭部	0.6	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
26	ゴミシシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	左上翅上半部	1.8	食植性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
27	キベリヒラタガムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	前胸背板片	2.0	食植性	水生	SK17	17世紀末~18世紀前葉
28	キベリヒラタガムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (Sharp)	前胸背板片	1.5	食植性	水生	SK17	17世紀末~18世紀前葉
29	マゴソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	頭部	1.3	食糞性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
30	マゴソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	上翅片	2.2	食糞性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
31	ヒメゾウムシの一種	<i>Baris</i> sp.	右上翅	1.6	食植性	陸生	SK17	17世紀末~18世紀前葉
32	ヒメゾウムシの一種	<i>Baris</i> sp.	右上翅	1.6	食植性	陸生	SK17	17世紀末~18世紀前葉
33	ヒメゾウムシの一種	<i>Baris</i> sp.	右上翅	1.7	食植性	陸生	SK17	17世紀末~18世紀前葉
34	ヒメゾウムシの一種	<i>Baris</i> sp.	右上翅	1.6	食植性	陸生	SK17	17世紀末~18世紀前葉
35	ウスイロクスイ	<i>Cryptophagus dilutus</i> Reitter	左上翅	1.7	食植性	好植性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
36	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	中胸腹板	0.6	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
37	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	胸部	0.5	食植性	好植性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
38	キスイムシ科	Rhizophagidae gen. et sp. indet.	中胸腹板	0.8	食植性	好植性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
39	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	腹部腹板	2.0	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末~18世紀前葉
40	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.6	雑食性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
41	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部胸部	0.7	雑食性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
42	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.5	雑食性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
43	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸背板	0.6	食植性	好植性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
44	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸背板	0.5	食植性	好植性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
45	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸背板	1.0	食植性	好植性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
46	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	2.1	不明	不明	SK17	17世紀末~18世紀前葉
47	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.5	不明	不明	SK17	17世紀末~18世紀前葉
48	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.6	不明	不明	SK17	17世紀末~18世紀前葉
49	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	腹部背板片	1.8	不明	不明	SK17	17世紀末~18世紀前葉
50	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	右上翅	2.8	不明	不明	SK17	17世紀末~18世紀前葉
51	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	腹部背板	1.6	不明	不明	SK17	17世紀末~18世紀前葉
52	ハムシ科	Crysomelidae gen. et sp. indet.	開蝻	2.2	食植性	好植性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
53	ハムシ科	Crysomelidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.6	食植性	好植性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
54	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	開蝻片	1.3	発酵物食	屋内性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
55	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	雑食性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
56	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.3	雑食性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
57	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.1	雑食性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉
58	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.5	不明	不明	SK17	17世紀末~18世紀前葉
59	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.6	不明	不明	SK17	17世紀末~18世紀前葉
60	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板片	2.5	食屍性	地表性	SK17	17世紀末~18世紀前葉

② 17世紀末~18世紀前葉のSK17(試料13)、19世紀以前のSK3(試料15)とSK40(試料16)

17世紀末~18世紀前葉のSK17から得られた試料13と、19世紀以前のSK3から得られた試料15およびSK40から得られた試料16からは、貯穀性昆虫であるコクゾウムシやコクヌストモドキ、ノコギリヒラタムシ *Oryzaephilus surinamensis* が発見された。

コクゾウムシは、米や麦をはじめ、貯蔵された穀類を加害する貯穀性昆虫として知られる。コクヌストモドキはオーストラリア原産とされるが(安富・梅谷, 1983)、すでに戦国時代には愛知県清洲城下町遺跡から得られている(森, 2000)。ノコギリヒラタムシもまた、貯蔵された穀物を好み、主に穀粉を食べる貯穀性昆虫である(日本家屋害虫学会編, 1995)。

貯穀性昆虫のコクゾウムシやコクヌストモドキ、ノコギリヒラタムシは、自然状態では生息せず、人間が蓄えた穀類に依存して生活する家屋害虫(日本家屋害虫学会編, 1995)の代表種である。これらの昆虫は、戦国時代の清洲城下町遺跡のみならず、江戸時代の名古屋城三の丸遺跡(森・上田, 2005)や、同じく江戸時代の宮城県沼向遺跡(森, 2010)などにおいても、貯蔵に関わる施設とともに発見されており、甲府城下町遺跡におけるSK17、SK3、SK40についても、同様の施設が周辺に存在したことが考えられる。

表10 甲府城下町遺跡(中央4丁目I区)から出土した昆虫化石(試料14-15)

試料14: No. So7-14

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	コメツキムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.	上翅片	1.3	食植性	好植性	SK32	19世紀後葉
2	トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i> (Emery)	頭部	0.6	雑食性	地表性	SK32	19世紀後葉
3	ハンミョウ	<i>Cicindela chinensis japonica</i> Thunberg	大顎	4.0	肉食性	地表性	SK32	19世紀後葉
4	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腿筋	2.8	雑食性	地表性	SK32	19世紀後葉
5	ハムシ科	Crysolimelidae gen. et sp. indet.	腿筋	1.0	食植性	好植性	SK32	19世紀後葉
6	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.6	食植性	好植性	SK32	19世紀後葉
7	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.5	食植性	好植性	SK32	19世紀後葉
8	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	雑食性	地表性	SK32	19世紀後葉
9	マルガタガミムシ属	<i>Amara</i> sp.	上翅片	2.5	雑食性	地表性	SK32	19世紀後葉
10	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.4	不明	不明	SK32	19世紀後葉
11	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	3.1	不明	不明	SK32	19世紀後葉
12	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	0.8	不明	不明	SK32	19世紀後葉
13	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.5	不明	不明	SK32	19世紀後葉
14	ハムシ科	Crysolimelidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.4	食植性	好植性	SK32	19世紀後葉
15	ハムシ科	Crysolimelidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.6	食植性	好植性	SK32	19世紀後葉
16	ハムシ科	Crysolimelidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.5	食植性	好植性	SK32	19世紀後葉
17	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.1	雑食性	地表性	SK32	19世紀後葉
18	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	0.7	雑食性	地表性	SK32	19世紀後葉
19	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	脚端片	0.5	雑食性	地表性	SK32	19世紀後葉
20	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	脚端片	1.1	雑食性	地表性	SK32	19世紀後葉
21	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.0	雑食性	地表性	SK32	19世紀後葉
22	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.8	不明	不明	SK32	19世紀後葉

試料15: No. So7-16

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	前胸背板	1.2	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
2	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.2	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
3	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	右上翅	2.2	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
4	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上翅	2.3	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
5	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	右上翅	2.2	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
6	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	右上翅	1.8	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
7	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上翅片	1.6	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
8	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上翅片	1.2	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
9	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	右上翅	2.3	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
10	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上翅	1.6	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
11	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上翅	1.5	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
12	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上翅	1.4	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
13	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅	1.5	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
14	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上翅	1.4	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
15	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅	1.5	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
16	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅	1.4	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
17	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅	1.3	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
18	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上翅	2.3	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
19	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上翅	2.2	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
20	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	前胸背板	1.1	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
21	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	右上翅	2.2	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
22	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	右上翅	1.9	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
23	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅片	1.5	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
24	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅片	1.3	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
25	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.6	食植性	好植性	SK3	19世紀以前
26	コマグソコガネ	<i>Aphodius pusilus</i> (Herbst)	前胸背板	1.6	食糞性	地表性	SK3	19世紀以前
27	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅	1.3	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
28	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上翅	2.2	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
29	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上翅	2.3	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
30	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	前胸背板	1.1	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前
31	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅	1.3	貯穀性	家屋害虫	SK3	19世紀以前

③周辺環境の汚染を示す分析試料

トイレ遺構や、穀物貯蔵と直接関わらない19世紀中葉以前のSK4(試料1)、19世紀前葉以前と推定されるSK34(試料5)、18世紀後葉～19世紀前葉と推定されるSK52(試料7)、19世紀中葉以前のSK54(試料9)、19世紀後葉のSK23(試料17)、19世紀後葉のSK37(試料19)からは、エンマコガネ属やマルエンマコガネ *Onthophagus viduus*、マグソコガネなどの食糞性昆虫が検出された。いずれもきわめて人為度の高い汚染環境に生息し、人糞や獣糞に依存して生活する都市型昆虫である。これらの昆虫の出現は、甲府城下町遺跡にヒトが多く生活し、地表環境が汚染されていた状況を示す現象として重要である。

このほかに、試料19および19世紀後葉のSK22から得られた試料20からは、ヒメカツオブシムシ *Attagenus unicolor japonicus* が確認されている。本種は、日本その他の養蚕国において、繭・生糸・絹織物の害虫として知られる(日本家屋害虫学会編, 1995)。ほかに、鯉節や乾魚・羽毛製品・皮革なども食するため、SK37やSK22の周辺に、こうした動物質食品が存在したと考えられる。また、18世紀後葉～19世紀初頭のSK1(試料10)からは、食菌性の家屋害虫であるヒメマキムシの一種 *Cartodera* sp. が発見された。本種はカビを主食とし、食品や製薬工場などの倉庫から発見される場合が多いとされ(松崎・武衛, 1993)、したがって、18世紀後葉～19世紀初頭のSK1周辺に何らかの食品が貯蔵されていた可能性が考えられる。

表11 甲府城下町遺跡(中央4丁目I区)から出土した昆虫化石(試料16-17)

試料16: No. So7-17

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	左上翅端部	3.2	食植性	水生	SK40	19世紀以前
2	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	左上翅上半部	2.3	食植性	水生	SK40	19世紀以前
3	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	左上翅	3.1	食植性	水生	SK40	19世紀以前
4	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	上翅片	2.0	食植性	水生	SK40	19世紀以前
5	ノコギリヒラタムシ	<i>Oryzaephilus surinamensis</i> (Linne)	左上翅	1.8	貯穀性	家屋害虫	SK40	19世紀以前
6	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	右上翅片	1.9	貯穀性	家屋害虫	SK40	19世紀以前
7	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	開蛹片(前気門)	1.4	雑食性	屋外性など	SK40	19世紀以前
8	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	開蛹片(前気門)	1.2	雑食性	屋外性など	SK40	19世紀以前
9	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	開蛹片	2.3	雑食性	屋外性など	SK40	19世紀以前
10	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	開蛹片	2.1	発酵物食	屋内性	SK40	19世紀以前
11	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	開蛹	2.4	発酵物食	屋内性	SK40	19世紀以前
12	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	開蛹片	1.8	雑食性	屋外性など	SK40	19世紀以前
13	ハモグリバエの一種	<i>Agromyza</i> sp.	開蛹片	1.8	食植性	好植性	SK40	19世紀以前
14	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	前気門	2.1	発酵物食	屋内性	SK40	19世紀以前
15	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	開蛹片	1.8	雑食性	屋外性など	SK40	19世紀以前
16	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	6.0	食屍性	地表性	SK40	19世紀以前
17	フチケマグソコガネ	<i>Aphodius urostigma</i> Harold	前胸背板	2.1	食糞性	地表性	SK40	19世紀以前
18	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上翅	1.4	貯穀性	家屋害虫	SK40	19世紀以前
19	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅	1.3	貯穀性	家屋害虫	SK40	19世紀以前
20	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上翅	1.3	貯穀性	家屋害虫	SK40	19世紀以前
21	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上翅	1.4	貯穀性	家屋害虫	SK40	19世紀以前
22	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.1	貯穀性	家屋害虫	SK40	19世紀以前
23	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.5	貯穀性	家屋害虫	SK40	19世紀以前
24	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.1	貯穀性	家屋害虫	SK40	19世紀以前
25	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.2	食植性	好植性	SK40	19世紀以前
26	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	左上翅上半部	2.1	食植性	水生	SK40	19世紀以前
27	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板片	0.8	貯穀性	屋内性	SK40	19世紀以前
28	マゴソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	右前腿脛節	0.9	食糞性	地表性	SK40	19世紀以前
29	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	3.1	食屍性	地表性	SK40	19世紀以前
30	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	開蛹片	1.4	雑食性	屋外性など	SK40	19世紀以前
31	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	開蛹片	1.2	雑食性	屋外性など	SK40	19世紀以前
32	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	開蛹片	2.3	雑食性	屋外性など	SK40	19世紀以前
33	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	開蛹片	2.5	雑食性	屋外性など	SK40	19世紀以前
34	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	開蛹片	3.0	雑食性	屋外性など	SK40	19世紀以前
35	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上翅上半部	1.4	貯穀性	家屋害虫	SK40	19世紀以前
36	トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i> (Emery)	頭部	0.6	雑食性	地表性	SK40	19世紀以前
37	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	開蛹	2.4	発酵物食	屋内性	SK40	19世紀以前
38	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	開蛹	2.9	発酵物食	屋内性	SK40	19世紀以前
39	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	開蛹片	2.6	雑食性	屋外性など	SK40	19世紀以前
40	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	開蛹片	2.4	雑食性	屋外性など	SK40	19世紀以前
41	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	3.1	不明	不明	SK40	19世紀以前
42	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.8	不明	不明	SK40	19世紀以前

試料17: No. So7-19

	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	カオジロショウジョウバエ	<i>Drosophila auraria</i> Peng	開蛹	2.0	発酵物食	屋内性	SK23	19世紀後葉
2	マゴソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	右上翅	3.1	食糞性	地表性	SK23	19世紀後葉
3	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	0.9	貯穀性	家屋害虫	SK23	19世紀後葉
4	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上翅	1.3	貯穀性	家屋害虫	SK23	19世紀後葉
5	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	開蛹片	2.1	雑食性	屋外性など	SK23	19世紀後葉
6	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	開蛹片	2.5	雑食性	屋外性など	SK23	19世紀後葉
7	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	前胸背板片	0.8	貯穀性	家屋害虫	SK23	19世紀後葉
8	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	開蛹片	1.6	雑食性	屋外性など	SK23	19世紀後葉
9	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	開蛹片	2.1	雑食性	屋外性など	SK23	19世紀後葉
10	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	開蛹片	1.8	雑食性	屋外性など	SK23	19世紀後葉
11	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.2	不明	不明	SK23	19世紀後葉
12	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.1	食屍性	地表性	SK23	19世紀後葉
13	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.6	雑食性	地表性	SK23	19世紀後葉
14	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	0.7	雑食性	地表性	SK23	19世紀後葉
15	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.5	雑食性	地表性	SK23	19世紀後葉
16	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.0	食屍性	地表性	SK23	19世紀後葉
17	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	部位不明	0.8	食屍性	地表性	SK23	19世紀後葉
18	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.1	雑食性	地表性	SK23	19世紀後葉
19	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸腹板	0.9	貯穀性	家屋害虫	SK23	19世紀後葉
20	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前胸腹板	1.3	食植性	好植性	SK23	19世紀後葉
21	イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	開蛹片	1.2	雑食性	屋内性など	SK23	19世紀後葉
22	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.2	不明	不明	SK23	19世紀後葉
23	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.1	食屍性	地表性	SK23	19世紀後葉

5. おわりに

甲府城下町遺跡からは、便池に特徴的に多く含まれるオオクロバエやキンバエが集中して検出されたため、城下町におけるトイレ施設の存在について指摘した。また、貯蔵した穀類を求めて集まるコクゾウムシやコクヌストモドキ、ノコギリヒラタムシなど貯穀性昆虫の多産より、城下町内に穀物貯蔵庫が存在した可能性が考えられる。

一方で、同じ分析試料からは、キベリヒラタガムシ *Enochrus japonicus* やセマルガムシ *Coelostoma stultum*、チビヒラタガムシ *Enochrus esuriens* など止水域に生息する水生昆虫が確認されている。こうした分析結果は、遺構の埋積過程を考える上で大変興味深い。

表12 甲府城下町遺跡（中央4丁目I区）から出土した昆虫化石（試料18-20）

試料18：No. So7-20

	和名	学名	部位	長さ (幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	ヒメイエバエ	<i>Fannia canicularis</i> (Linnaeus)	閉蛹	2.1	発酵物食	屋内性	SK2	19世紀以前
2	ヒメゾウムシの一種	<i>Baris</i> sp.	右上翅	1.6	食植性	好植性	SK2	19世紀以前
3	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉蛹片	2.1	雑食性	屋外性など	SK2	19世紀以前
4	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉蛹片	2.4	雑食性	屋外性など	SK2	19世紀以前
5	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	閉蛹片	1.8	雑食性	屋外性など	SK2	19世紀以前
6	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部	0.6	雑食性	地表性	SK2	19世紀以前
7	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.2	不明	不明	SK2	19世紀以前
8	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.1	食屍性	地表性	SK2	19世紀以前
9	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	2.2	不明	不明	SK2	19世紀以前
10	ミスギワゴミムシ属	<i>Bembidion</i> sp.	左上翅片	1.3	雑食性	地表性	SK2	19世紀以前

試料19：No. So7-21

	和名	学名	部位	長さ (幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	マグソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	右前腿脛節	1.2	食糞性	地表性	SK37	19世紀後葉
2	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.5	汚物食	屋外性、便池	SK37	19世紀後葉
3	トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i> (Emery)	頭部	1.2	雑食性	地表性	SK37	19世紀後葉
4	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	腿節	1.0	食屍性	地表性	SK37	19世紀後葉
5	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.8	不明	不明	SK37	19世紀後葉
6	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	右上翅	1.4	不明	不明	SK37	19世紀後葉
7	ヒメカツオブシムシ	<i>Attagenus unicolor</i> Brahm	右上翅	2.1	食屍性	家屋害虫	SK37	19世紀後葉
8	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.8	不明	不明	SK37	19世紀後葉
9	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	右上翅	1.4	不明	不明	SK37	19世紀後葉
10	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.0	不明	不明	SK37	19世紀後葉
11	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	左上翅	3.0	不明	不明	SK37	19世紀後葉
12	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.2	不明	不明	SK37	19世紀後葉
13	コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	前胸背板	1.3	貯穀性	家屋害虫	SK37	19世紀後葉

試料20：No. So7-22

	和名	学名	部位	長さ (幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	右上翅上半部	3.2	食植性	地表性	SK22	19世紀後葉
2	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	1.7	雑食性	地表性	SK22	19世紀後葉
3	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	2.8	汚物食	屋外性、便池	SK22	19世紀後葉
4	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	3.0	汚物食	屋外性、便池	SK22	19世紀後葉
5	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	閉蛹片	1.4	汚物食	屋外性、便池	SK22	19世紀後葉
6	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	前气门	2.4	汚物食	屋外性、便池	SK22	19世紀後葉
7	キイロヒラタガムシ	<i>Enochrus simulans</i> (Sharp)	左上翅上半部	1.0	食植性	水生	SK22	19世紀後葉
8	ヒメカツオブシムシ	<i>Attagenus unicolor</i> Brahm	右上翅	1.8	食屍性	家屋害虫	SK22	19世紀後葉
9	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹片	1.6	発酵物食	屋内性	SK22	19世紀後葉
10	ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	閉蛹片	1.4	発酵物食	屋内性	SK22	19世紀後葉
11	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	閉蛹片	2.5	雑食性	屋外性など	SK22	19世紀後葉
12	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	閉蛹片	3.3	雑食性	屋外性など	SK22	19世紀後葉
13	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.5	不明	不明	SK22	19世紀後葉
14	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.7	不明	不明	SK22	19世紀後葉
15	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板片	1.6	食屍性	地表性	SK22	19世紀後葉

引用文献

林 晃史・篠永 哲 (1979) ハエ - 生態と防除 -. 228p, 文永堂.

松崎沙和子・武衛和雄 (1993) 都市害虫百科. 236p, 朝倉書店.

森 勇一 (1999) 昆虫化石よりみた先史～歴史時代の古環境変遷史. 歴博国際シンポジウム「過去1万年間の陸域環境の変遷と自然災害史」国立歴史民俗博物館研究報告, 81, 311-342.

森 勇一 (2000) 愛知県清洲城下町遺跡 (中世) から産出した貯穀性昆虫について. 家屋害虫, 22, 61-67.

森 勇一 (2001) 先史～歴史時代の地層中より産出した都市型昆虫について. 家屋害虫, 23, 23-40.

森 勇一 (2010) 仙台市沼向遺跡から産出した昆虫化石について. 仙台市教育委員会編「仙台市文化財調査報告書 (第360集) 沼向遺跡第4～34次調査 - 宮城県仙台港背後土地区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ (第9分冊)」: 217-224, 仙台市教育委員会.

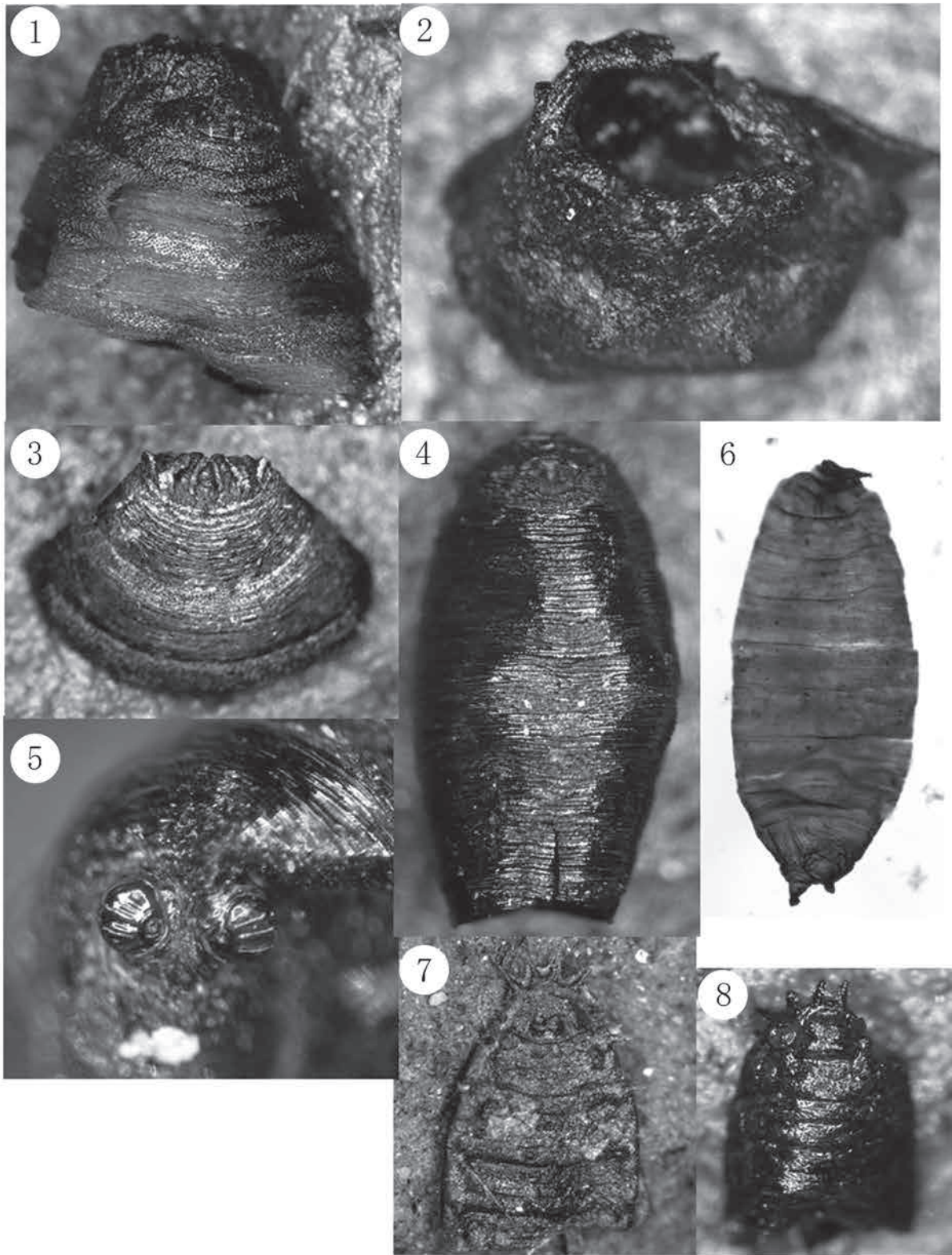
森 勇一・上田恭子 (2005) 三の丸遺跡の埋桶の埋土より産出した双翅目のサナギについて. 愛知県埋蔵文化財センター編「愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第127集) 名古屋城三の丸遺跡 (VII)」: 242-246, 愛知県埋蔵文化財センター.

日本家屋害虫学会編 (1995) 家屋害虫事典. 468p, 井上書院.

芝 康次郎・佐々木由香・森 勇一 (2013) 平城宮東方官衙地区 SK19198 の自然科学分析 - 第440次. 奈良文化財研究所紀要, 2013, 209-215.

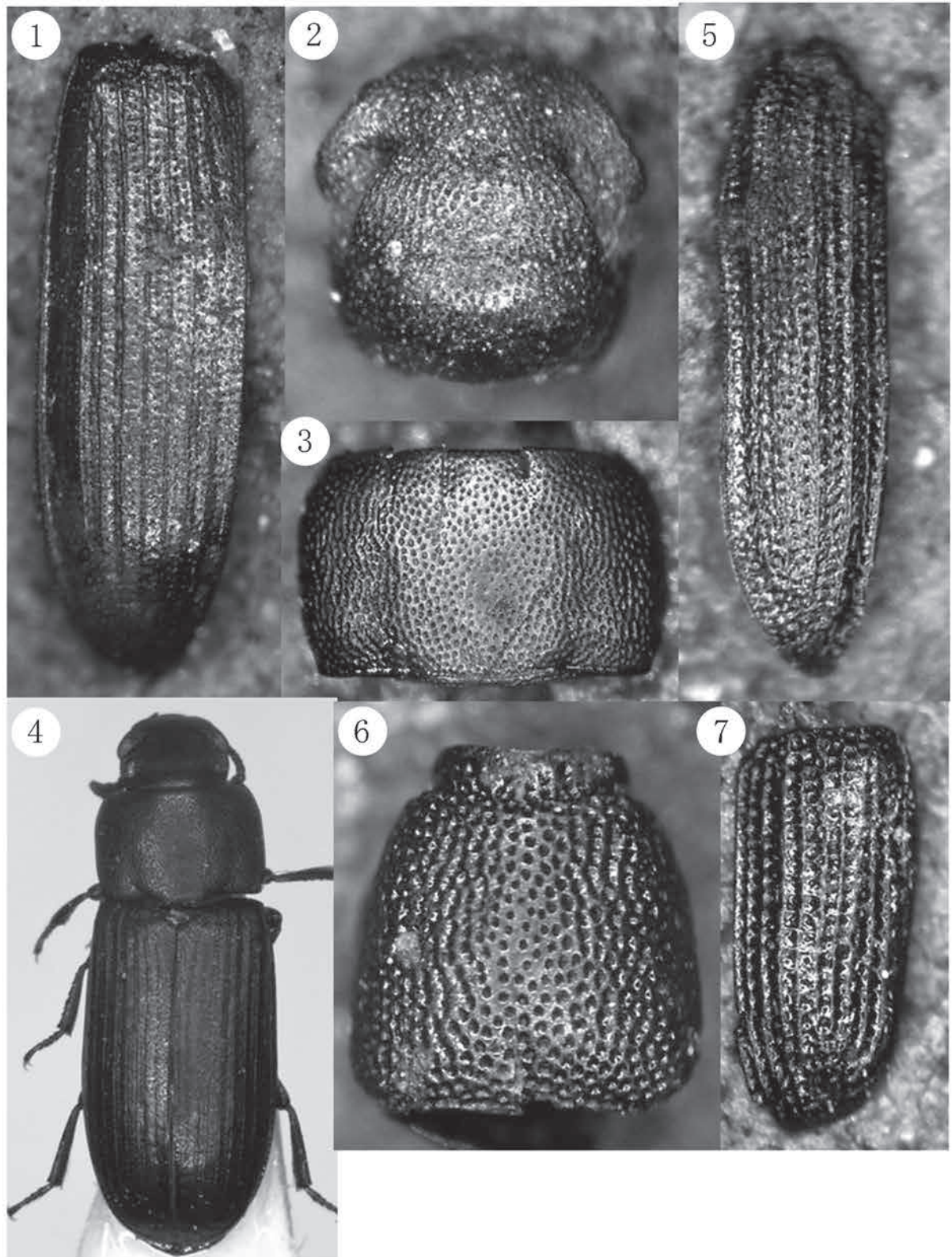
鈴木 猛・緒方一喜 (1968) 日本の衛生害虫 - その生態と駆除 -. 245p, 新思想社.

安富和男・梅谷献二 (1983) 衛生害虫と衣食住の害虫. 310p, 全国農村教育協会.



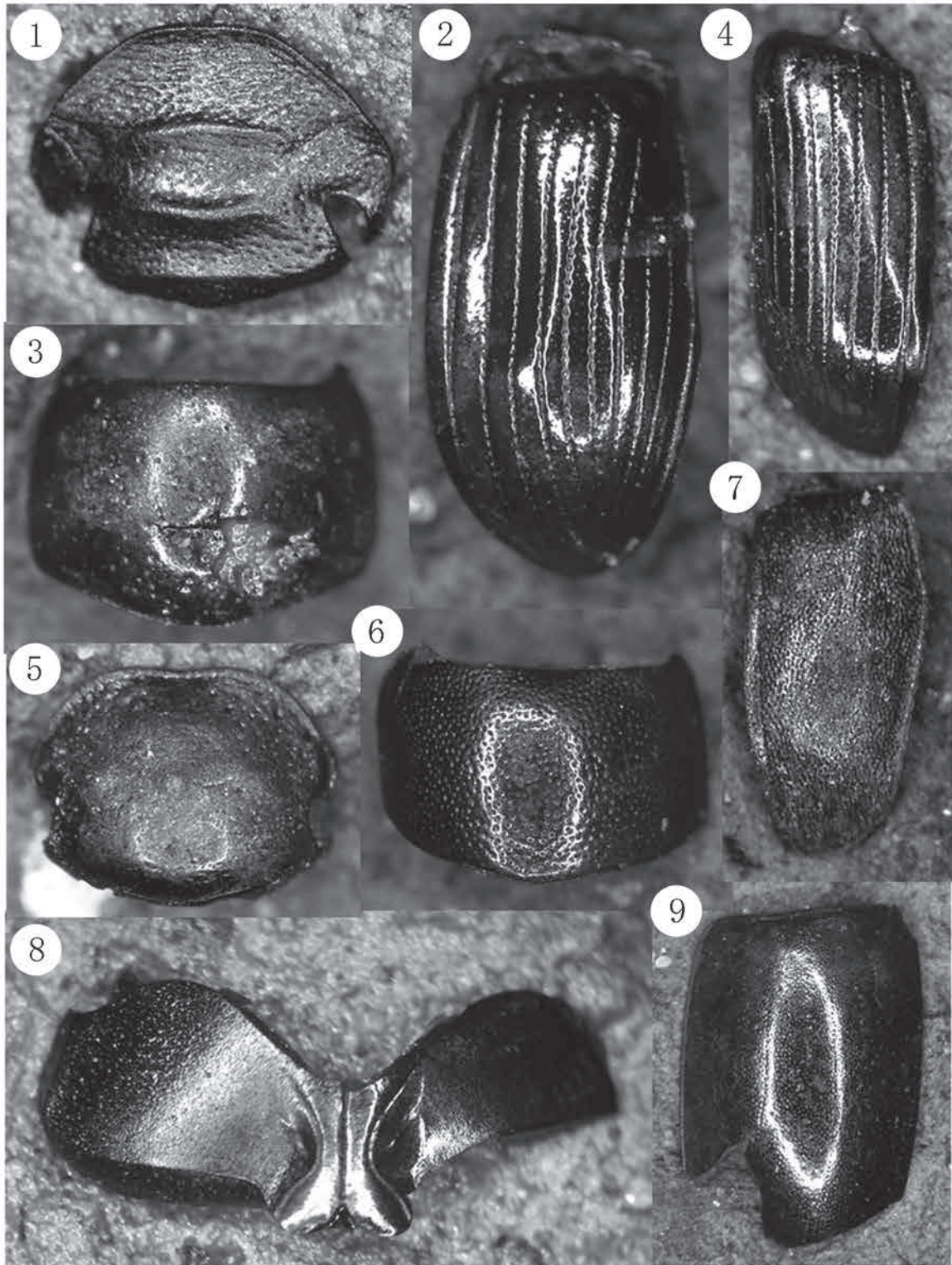
図版1 甲府城下町遺跡中央4丁目I区から産出した昆虫化石(1)

1. オオクロバエ *Calliphora lata* Coquillett 困蛹片 長さ3.6mm (試料2、標本1)
2. オオクロバエ *Calliphora lata* Coquillett 後気門付近 幅3.8mm (試料2、標本114)
3. オオクロバエ *Calliphora lata* Coquillett 前気門付近 幅3.2mm (試料2、標本105)
4. キンバエ *Lucilia caesar* (Linnaeus) 困蛹片 長さ4.2mm (試料2、標本66)
5. キンバエ *Lucilia caesar* (Linnaeus) 前気門 気門の直径0.15mm (試料2、標本66)
6. ショウジョウバエ属 *Drosophila* sp. 困蛹 長さ2.6mm (試料2、標本187)
7. ヒメイエバエ *Fannia canicularis* (Linnaeus) 困蛹片 長さ2.1mm (試料18、標本1)
8. ヒメイエバエ *Fannia canicularis* (Linnaeus) 困蛹片 長さ2.2mm (試料2、標本188)



図版2 甲府城下町遺跡中央4丁目I区から産出した昆虫化石(2)

1. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* Herbst 左上翅 長さ2.2mm (試料15、標本3)
2. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* Herbst 頭部 幅0.6mm (試料13、標本25)
3. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* Herbst 前胸背板 幅1.2mm (試料15、標本1)
4. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* Herbst 現生標本 長さ3.5mm (愛知県一宮市にて採集)
5. ノコギリヒラタムシ *Oryzaephilus surinamensis* (Linne) 右上翅 幅2.6mm (試料16、標本5)
6. コクゾウムシ *Sitophilus zeamais* Motschulsky 前胸背板 幅1.2mm (試料16、標本25)
7. コクゾウムシ *Sitophilus zeamais* Motschulsky 右上翅 幅1.8mm (試料10、標本1)



図版3 甲府城下町遺跡中央4丁目 I 区から産出した昆虫化石 (3)

1. マルエンマコガネ *Onthophagus viduus* Harold 頭部 幅2.3mm (試料8、標本16)
2. マグソコガネ *Aphodius rectus* (Motschulsky) 右上翅 長さ3.2mm (試料13、標本8)
3. マグソコガネ *Aphodius rectus* (Motschulsky) 前胸背板 幅2.2mm (試料13、標本11)
4. コマグソコガネ *Aphodius pusilus* (Herbst) 左上翅 幅2.8mm (試料13、標本7)
5. コマグソコガネ *Aphodius pusilus* (Herbst) 頭部 幅1.3mm (試料13、標本10)
6. フチケマグソコガネ *Aphodius urostigma* Harold 前胸背板 幅2.1mm (試料16、標本17)
7. ヒメカツオブシムシ *Attagenus unicolor japonicus* Reitter 右上翅 長さ2.1mm (試料19、標本7)
8. ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverosus* (Stephens) 後胸腹板 幅4.0mm (試料4、標本1)
9. セマルガムシ *Coelostoma stultum* (Walker) 左上翅 長さ3.6mm (試料13、標本6)

第6節 甲府城下町遺跡（中央4丁目I工区）出土の動物遺体

中村賢太郎（パレオ・ラボ）

1. はじめに

甲府城下町遺跡（H29中央4丁目I区）の発掘調査では、貝類、魚類、鳥類、哺乳類といった動物遺体が出土した。ここでは、動物遺体の同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料は、発掘調査現場で採集された動物遺体 69 袋である。動物遺体が出土した遺構の時期は近世～近代である。

肉眼および実体顕微鏡下で観察し、標本との比較により部位と分類群を同定し、穿孔などの特徴を記載した。また、脊椎動物の四肢骨については、ノギスを用いて最大長を計測した。最小個体数の算出は、遺構ごとではなく、今回同定した試料全てをひとまとめにして行い、原足綱（巻貝）については殻軸の数、二枚貝綱については左右殻どちらか数の多い方あるいは左右不明の合計数の半数をもってカウントした。

3. 結果と考察

表1に、同定された分類群一覧を示す。腹足綱9分類群、二枚貝綱9分類群、硬骨魚綱1分類群、鳥綱1分類群、哺乳綱2分類群の、計22分類群が同定された。

表1 H29中央4丁目I区調査分出土の動物遺体分類群一覧

軟体動物門	Mollusca
腹足綱	Gastropoda
アワビ属	<i>Haliotis</i> sp.
メガイアワビ	<i>Haliotis gigantea</i>
クボガイ	<i>Chlorostoma lischkei</i>
ヘソアキクボガイ	<i>Chlorostoma turbinatum</i>
サザエ	<i>Turbo sazae</i>
カワニナ	<i>Semisulcospina libertina</i>
タニシ属	<i>Cipangopaludina</i> sp.
マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis</i>
アカニシ	<i>Rapana venosa</i>
二枚貝綱	Bivalvia
フネガイ科	Arcidae gen. et sp. indet.
アカガイ	<i>Scapharca broughtonii</i>
サトウガイ	<i>Scapharca satowi</i>
サルボウガイ	<i>Scapharca kagoshimensis</i>
ナミマガシワガイ	<i>Anomia chinensis</i>
イタヤガイ	<i>Pecten albicans</i>
イワガキ	<i>Crossostrea nippona</i>
シジミ属	<i>Corbicula</i> sp.
ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>
脊椎動物門	Vertebrata
硬骨魚綱	Osteichthyes
マグロ属	<i>Thunnus</i> sp.
鳥綱	Aves
ニワトリ	<i>Gallus gallus domesticus</i>
哺乳綱	Mammalia
哺乳綱の一種	Mammalia ord., fam., gen. et spp. indet.
ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>

表 2 に脊椎動物遺体（硬骨魚綱、鳥綱、哺乳綱）の同定結果、表 3 に貝類遺体（腹足綱、二枚貝綱）の同定結果を示す。

魚類では、SK22 と SK29 において、マグロ属の椎骨が計 3 点見られた。マグロ属にはクロマグロ、メバチマグロ、キハダマグロ、ビンナガマグロなどがあり、いずれも海産である。マグロ属は海岸部から甲府城下町に持ち込まれ、食用にされたと考えられる。なお、SK22 から出土したマグロ属椎骨（B7-11）には、切断による可能性がある直線的な破断が見られた。

鳥類では、SK22、SK32、SK36、SS1 溝部においてニワトリが見られた。ニワトリの部位は、大腿骨、脛足根骨、足根中足骨が見られ、大腿骨の数に基づくと少なくとも 3 個体に由来する。甲府城下町においてニワトリが家禽として飼育され、食用にされたと考えられる。

哺乳類では、IG255 においてノウサギの下顎骨が見られた。ノウサギは、甲府城下町周辺で狩猟され、食用にされたと考えられる。

貝類で最も多かったのはシジミ属（最小個体数 16）で、SK14、SK22、SK32、SK36、SK37、井戸 2、IG140 で見られた。シジミ属とした貝殻は、おそらく淡水産のマシジミと思われるが、他の海産貝類の存在から汽水産であるヤマトシジミの可能性も考え、シジミ属までの同定に留めた。

貝類で次に多かったのは淡水産のマルタニシ（最小個体数 10）で、SK22 と SK32 で見られた。マルタニシの可能性はあるが、破片のためタニシ属までの同定に留めた貝殻も SW1 で 1 点あった。マルタニシは池沼、河川、水田などに生息し、甲府城下町周辺で採取されたと考えられる。他に、淡水産のカワニナ（最小個体数 2）が SW1 と井戸 2 で見られた。

海産の貝類としては、岩礁に生息するメガイアワビ（最小個体数 3：SK22、SK32、SK37）、クボガイ（最小個体数 1：SW1）、ヘソアキクボガイ（最小個体数 1：SW1）、サザエ（最小個体数 4：SK5、SK17、SK52、SS2）、イワガキ（最小個体数 1：SK1）などと、砂泥底に生息するアカニシ（最小個体数 1：SK22）、アカガイ（最小個体数 1：胴木 1）、サトウガイ（最小個体数 1：SK32）、サルボウガイ（最小個体数 1：SK22）、ハマグリ（最小個体数 3：SK22、SK32、SK37）、ナミマガシワガイ（最小個体数 2：井戸 2）などが見られ、いずれも海岸部から持ち込まれたと考えられる。

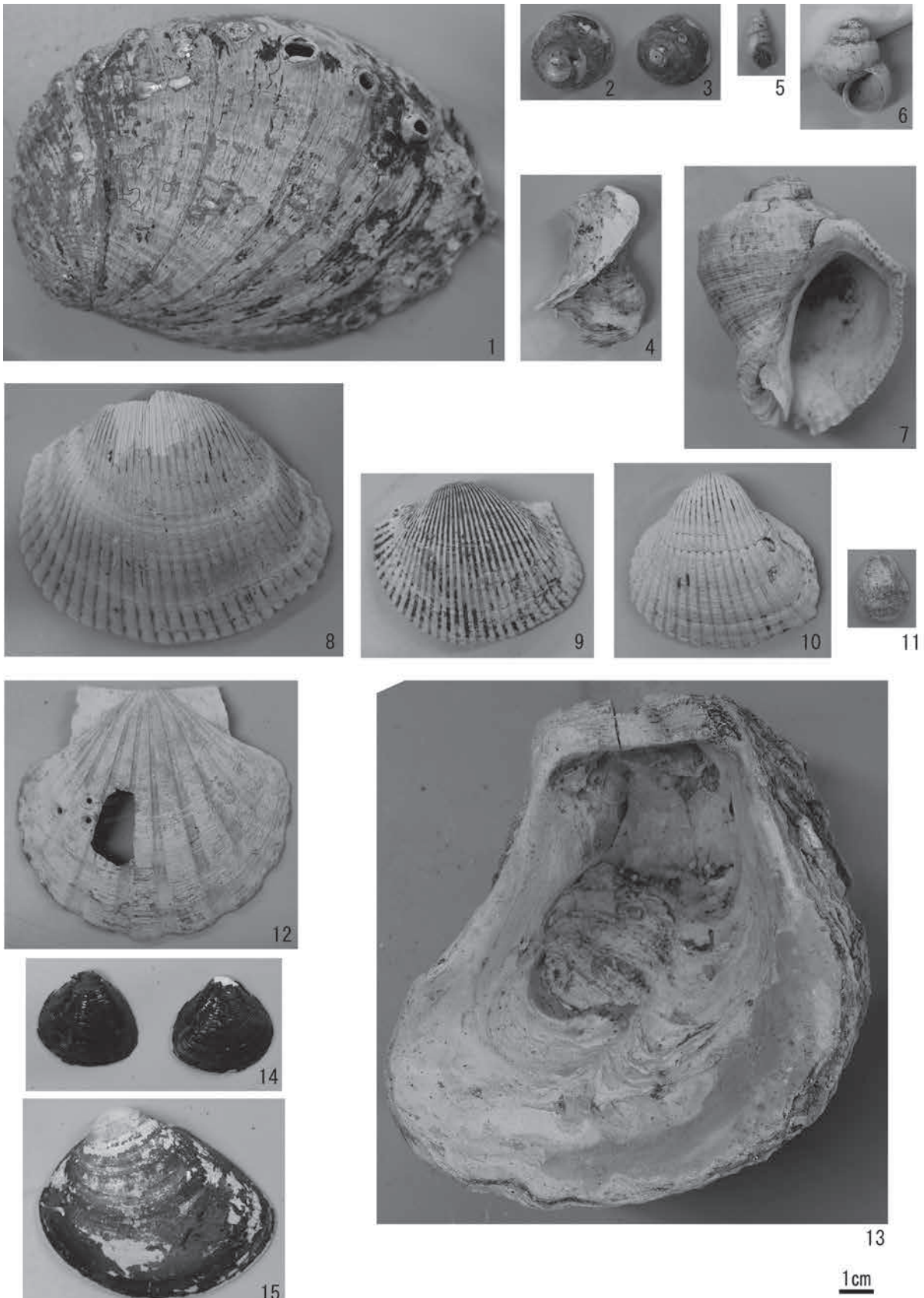
上に挙げた貝類の他に、食用以外の用途で利用されたと考えられるのが、イタヤガイである。イタヤガイ（最小個体数 4）は SK22 と SK37 で 2 個体ずつ見られた。イタヤガイは、海の砂地に生息し、右殻が椀状に窪み、左殻が平坦である。椀状の右殻のみが 4 個体見られ、このうち 2 個体には穿孔が見られた。孔に紐を通して柄に固定し、柄杓として用いられたと考えられる。

表2 H29中央4丁目I区調査分の貝類遺体

番号	地区	遺構	時期	分類群	左右	部分・状態	数量	備考
Sm1-3		1 SW1内一括	近代	ヘソアキクボガイ	—	完存	1	
Sm1-4		1 SW1内一括	近代	クボガイ	—	完存	1	
Sm1-5		1 SW1内一括	近代	カワニナ	—	破片	1	
Sm1-6		1 SW1内一括	近代	タニシ属	—	破片	1	
Sm3-1・2・5		3 井戸2一括	近代(大正に廃絶)	シジミ属	左	完存	3	マシジミ?
Sm3-1・2・5		3 井戸2一括	近代(大正に廃絶)	シジミ属	右	完存	1	マシジミ?
Sm3-3・4		3 井戸2一括	近代(大正に廃絶)	ナミマガシワガイ	左	ほぼ完存	2	
Sm3-6		3 井戸2-No. 2	近代(大正に廃絶)	カワニナ	—	ほぼ完存	1	
Sm3-8		3 SE1-No. 12	—	アカガイ?	左	殻頂を欠く	1	
Sm3-10		3 SE1一括	—	アワビ属	—	破片	1	穿孔
Sm3-11		3 胴木1-No. 18	近代	アカガイ	左	ほぼ完存	1	
Sm4-1		4 SK5-No. 18	—	サザエ	—	殻軸	1	
Sm5-1		5 SS2-No. 7	19世紀の構築か	サザエ	—	殻軸	1	
Sm6-12		6 SK21一括	19世紀中葉以前か	フネガイ科	左	殻頂欠く	1	
Sm6-13		6 SK52	18世紀後葉~19世紀前葉か	サザエ	—	殻軸	1	
Sm7-54		7 SK1一括	18世紀後葉~19世紀初頭	イワガキ	左	完存	1	
Sm7-8		7 SK14一括	—	シジミ属	左	完存	1	マシジミ?
Sm7-8		7 SK14一括	—	シジミ属	右	完存	1	マシジミ?
Sm7-56		7 SK17	17世紀末~18世紀前葉	サザエ	—	殻軸	1	
Sm7-23		7 SK22一括	19世紀後葉	シジミ属	左	完存	2	マシジミ?
Sm7-23		7 SK22一括	19世紀後葉	シジミ属	右	完存	2	マシジミ?
Sm7-23		7 SK22一括	19世紀後葉	シジミ属	不明	ほぼ完存、破片	6	マシジミ?
Sm7-35		7 SK22-No. 10	19世紀後葉	サルボウガイ	左	完存	1	
Sm7-58		7 SK22-No. 32	19世紀後葉	メガイアワビ	—	ほぼ完存	1	
Sm7-37		7 SK22-No. 41	19世紀後葉	アカニシ	—	完存	1	
Sm7-36		7 SK22上層一括	19世紀後葉	シジミ属	左	完存	1	マシジミ?
Sm7-38		7 SK22上層一括	19世紀後葉	ハマグリ	右	完存	1	
Sm7-48		7 SK22上層一括	19世紀後葉	マルタニシ	—	ほぼ完存	1	
Sm7-49		7 SK22上層北側一括	19世紀後葉	イタヤガイ	右	ほぼ完存	1	穿孔
Sm7-50		7 SK22ベルト内一括	19世紀後葉	イタヤガイ	右	ほぼ完存	1	穿孔
Sm7-17・29・57		7 SK32-No. 5・11・33一括	19世紀後葉	アワビ属	—	破片	3	
Sm7-28		7 SK32-No. 5・11・33一括	19世紀後葉	メガイアワビ	—	完存	1	
Sm7-25		7 SK32一括	19世紀後葉	シジミ属	左	完存	1	マシジミ?、左右合弁
Sm7-25		7 SK32一括	19世紀後葉	シジミ属	右	完存	1	マシジミ?、左右合弁
Sm7-30		7 SK32一括	19世紀後葉	サトウガイ	左	完存	1	
Sm7-31		7 SK32一括	19世紀後葉	ハマグリ	左	完存	1	
Sm7-32		7 SK32一括	19世紀後葉	マルタニシ	—	ほぼ完存	9	
Sm7-44		7 SK32 2層目一括	19世紀後葉	メガイアワビ	—	破片	1	
Sm7-34		7 SK36一括	19世紀後葉	シジミ属	左	完存	1	マシジミ?
Sm7-33		7 SK37-No. 37	19世紀後葉	イタヤガイ	右	ほぼ完存	1	穿孔の痕?
Sm7-53		7 SK37一括	19世紀後葉	ハマグリ	左	ほぼ完存	1	
Sm7-63		7 SK37一括	19世紀後葉	シジミ属	右	完存	1	マシジミ?
Sm7-46		7 SK37上層一括	19世紀後葉	イタヤガイ	右	破片	1	
Sm7-61		7 SK37上層一括	19世紀後葉	ハマグリ	右	ほぼ完存	1	
Sm7-40		7 SK37 2層目一括	19世紀後葉	メガイアワビ	—	完存	1	
Sm7-43		7 SK37 2層目一括	19世紀後葉	ハマグリ	右	完存	1	
Sm7-45		7 SK37 2層目一括	19世紀後葉	シジミ属	左	完存	1	マシジミ?
Sm7-45		7 SK37 2層目一括	19世紀後葉	シジミ属	右	完存	5	マシジミ?
Sm7-55		7 IG140一括	—	シジミ属	左	完存	1	マシジミ?
Sm7-55		7 IG140一括	—	シジミ属	右	完存	2	マシジミ?

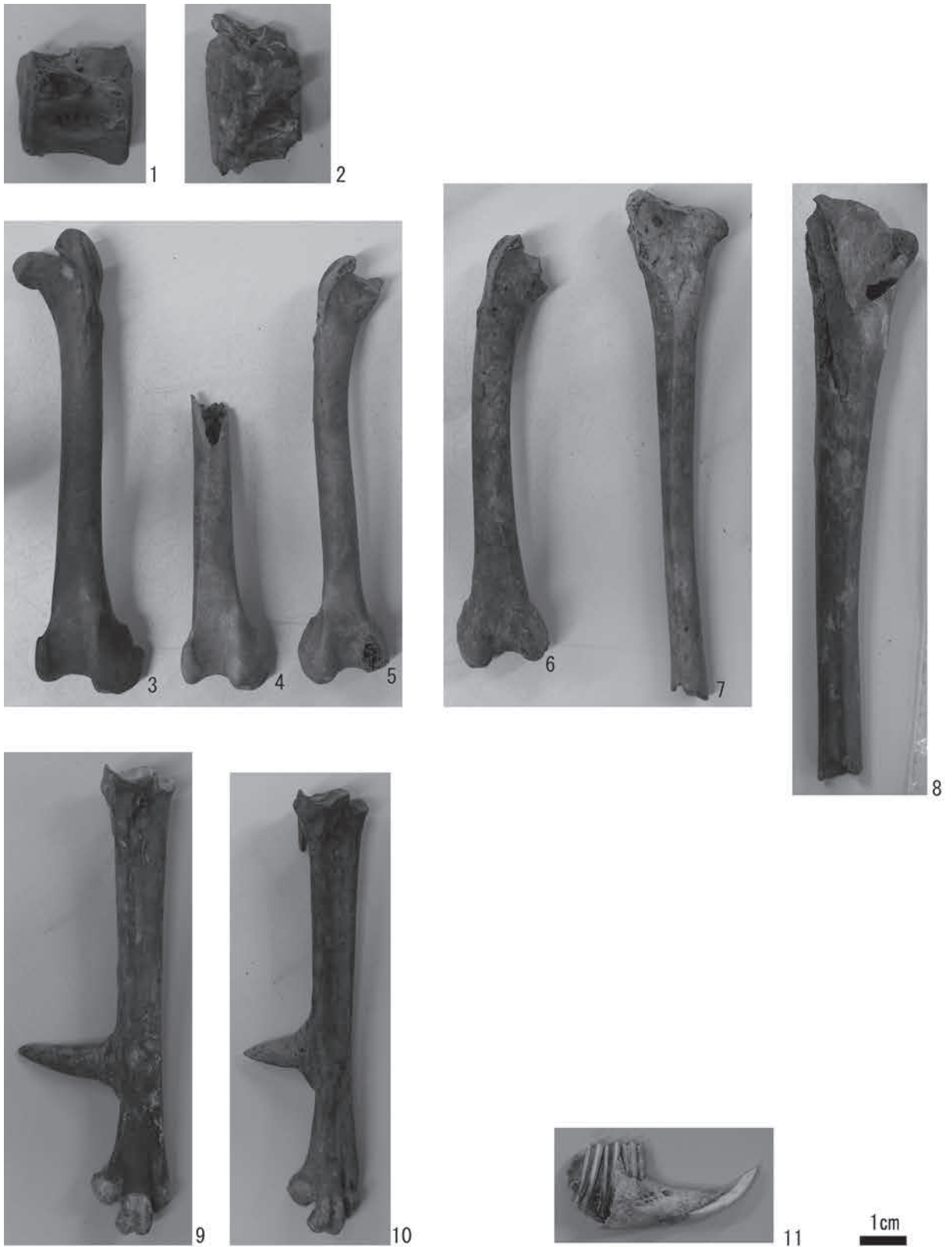
表3 H29中央4丁目I区調査分の脊椎動物遺体

番号	地区	遺構	時期	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
B5-2		5 SS1溝部一括	19世紀の構築か	ニワトリ	足根中足骨	左	完存	1	最大長98.4mm
B5-7		5 IG255	—	ノウサギ	下顎骨	右	下顎体	1	
B6-1		6 SP17-No. 1	—	哺乳綱	頸椎	—	ほぼ完存	1	陸生
B7-4		7 SK22-No. 29	19世紀後葉	ニワトリ	大腿骨	左	遠位端	1	
B7-5		7 SK22-No. 6	19世紀後葉	ニワトリ	脛足根骨	右	近位端~骨幹	1	最大長>124.2mm
B7-6		7 SK22-No. 2	19世紀後葉	ニワトリ	大腿骨	右	ほぼ完存	1	最大長91.0mm
B7-12		7 SK22一括	19世紀後葉	ニワトリ	大腿骨	左	近位端	1	
B7-12		7 SK22一括	19世紀後葉	ニワトリ	大腿骨	右	遠位端	1	
B7-12		7 SK22一括	19世紀後葉	ニワトリ	脛足根骨	右	近位端~骨幹	1	最大長>104.2mm
B7-12		7 SK22一括	19世紀後葉	哺乳綱	大腿骨	右	近位端~骨幹	1	陸生、ネコ?、最大長>91.9mm
B7-15		7 SK22一括	19世紀後葉	マグロ属	椎骨	—	椎体破片	1	
B7-11		7 SK22上層一括	19世紀後葉	マグロ属	椎骨	—	椎体破片	1	切断痕?
B7-16		7 SK22ベルト一括	19世紀後葉	ニワトリ	大腿骨	左	完存	1	最大長99.2mm
B7-8		7 SK29一括	19世紀後葉	マグロ属	椎骨	—	椎体	1	
B7-7		7 SK32一括	19世紀後葉	哺乳綱	肋骨	右	背側端	1	陸生
B7-14		7 SK32一括	19世紀後葉	ニワトリ	足根中足骨	右	ほぼ完存	1	最大長94.0mm
B7-9		7 SK36-No. 37	19世紀後葉	ニワトリ	大腿骨	右	ほぼ完存	1	最大長92.1mm
B7-10		7 SK36 2層目一括	19世紀後葉	ニワトリ	脛足根骨	右	近位端~骨幹	1	最大長109.4mm
B7-10		7 SK36 2層目一括	19世紀後葉	シカ?	角?	不明	角座?	1	幼獣?



図版1 H29中央4丁目I区調査分の貝類遺体

1. メガイアワビ (Sm7-28)
2. クボガイ (Sm1-4)
3. ヘソアキクボガイ (Sm1-3)
4. サザエ (Sm5-1)
5. カワニナ (Sm3-6)
6. マルタニシ (Sm7-32)
7. アカニシ (Sm7-37)
8. アカガイ左殻 (Sm3-11)
9. サトウガイ左殻 (Sm7-30)
10. サルボウガイ左殻 (Sm7-35)
11. ナミマガシワガイ左殻 (Sm3-3)
12. イタヤガイ右殻 (Sm7-49)
13. イワガキ左殻 (Sm7-54)
14. シジミ属左右殻 (Sm3-1)
15. ハマグリ左殻 (Sm7-31)



図版2 H29中央4丁目I区調査分の脊椎動物遺体

1. マグロ属腹椎(B7-8) 2. マグロ属椎骨※切断?(B7-11) 3・4. ニワトリ左大腿骨(B7-16, 4)
 5・6. ニワトリ右大腿骨(B7-6, 9) 7・8. ニワトリ右脛足根骨(B7-10, 5)
 9・10. ニワトリ左足根中足骨(B7-2, 14) 11. ノウサギ右下顎骨(B5-7)

第7節 甲府城下町遺跡（中央4丁目I工区）より出土した金属製品の蛍光X線分析

竹原弘展（パレオ・ラボ）

1. はじめに

甲府城下町遺跡の中央4丁目地点I区より出土した金属製品について、蛍光X線分析を行い、その材質を検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、I区⑦区より出土した器種不明の金属製品の破片（No.12）である。緑青錆に覆われており、銅合金製品と考えられる。小破片を分析試料とした（図版1）。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1000 μ Aのロジウム（Rh）ターゲット、X線照射径が8mmまたは1mm、X線検出器はSDD検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することでS/N比の改善が図れる。検出可能元素は、ナトリウム（Na）～ウラン（U）である。測定条件は、管電圧50kV、一次フィルタPb測定用・Cd測定用の2条件、測定時間（s）が1000～1700s、管電流自動設定、照射径は8mm、試料室内雰囲気は大気に設定した。定量分析は、ノンスタンダードFP法による半定量分析を、装置付属ソフトで行った。得られた値は、合計が100%になるようノーマライズされている。

蛍光X線分析は、表面分析であり、均一とは限らない金属製品の正確な組成比を必ずしも示しているとはいえないが、おおよその組成や、含まれている微量元素を知る上では有効な手法である。今回の分析は、錆の上から非破壊で測定している。金属製品の腐食は均一には進行せず、化学組成も大きく変化し得るため、得られた結果は厳密な値の比較検討には適していない。したがって今回の測定結果は、おおまかな、定性的な結果としてとらえる必要がある。

3. 結果および考察

表1に、測定により得られたFP法による半定量分析結果を示す。アルミニウム（Al）、ケイ素（Si）、鉄（Fe）など測定面周辺の汚れに大きく影響される元素を除くと、銅（Cu）、亜鉛（Zn）、カドミウム（Cd）、スズ（Sn）、鉛（Pb）が検出された。

表1 半定量分析結果（mass%）

Cu	Zn	Cd	Sn	Pb
80.78	18.73	0.02	0.03	0.44

主に検出されたのは銅（Cu）、亜鉛（Zn）であり、Cu-Znの真鍮製と考えられる。現状では、一般的な出土青銅（銅、スズの合金）製品と同様に緑青錆に覆われた外観であるが、当時は金色の製品であったと考えられる。

真鍮（別名黄銅、鍮石）の材料となる亜鉛は、14～15世紀初めになって、鉱石から単独での精錬が可能になったといわれ（村上，2003a・2003b）、それ以前は鍮石と呼ばれる、元から亜鉛が含まれる銅鍮石より精錬されたとみられる例は存在するものの、あまり一般的ではなかった。近世には、青銅とともに銅合金として広く利用されている。

4. おわりに

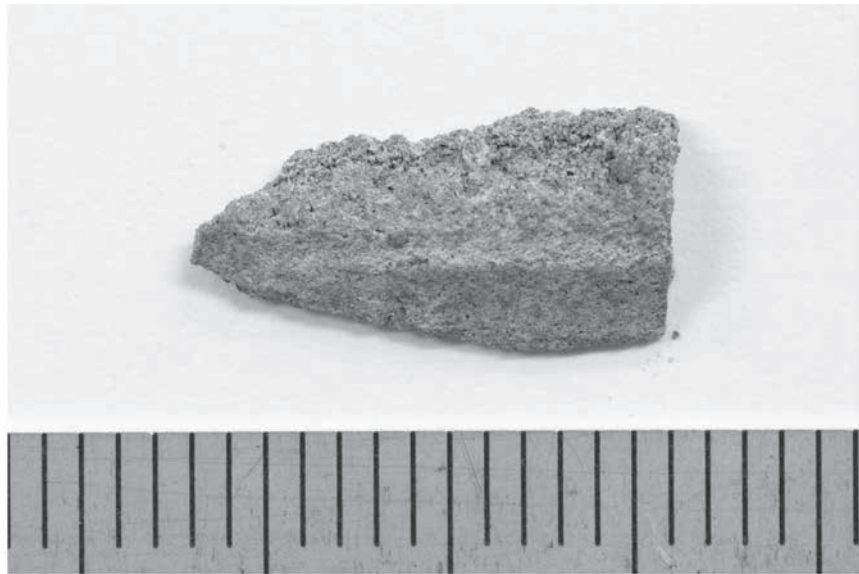
金属製品の蛍光X線分析の結果、主に銅、亜鉛からなる真鍮製品と判断された。

引用・参考文献

村上 隆（2003a）金工技術．日本の美術，443，98p，至文堂．

村上 隆（2003b）銅．馬淵久夫・杉下龍一郎・三輪嘉六・沢田正昭・三浦定俊編「文化財科学の事典」：69-72，朝倉書店．

中井 泉編（2005）蛍光X線分析の実際．242p，朝倉書店．



図版1 分析対象試料

第 8 節 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹

Zaur Lomtadze・小林克也

1. はじめに

山梨県甲府市の甲府城下町遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。また、同一試料を用いて樹種同定も行われている（樹種同定の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、C 地点の SX2 から出土した柱材 3 点（試料 No.22、23、25）である。いずれもウィグルマッチング法を用いた放射性炭素年代測定を行なった。SX2 は近代の遺構であるが、柱は甲府城の建築材が転用された可能性が考えられている。測定試料の情報、調製データは表 1 のとおりである。

試料 No.22 の樹種はケヤキで、年輪数は 75 年、最終形成年輪が残っていた。測定試料は、外側から 1-5 年輪目（PLD-38957）、外側から 11-15 年輪目（PLD-38958）、外側から 21-25 年輪目（PLD-38959）、外側から 31-35 年輪目（PLD-38960）、外側から 41-45 年輪目（PLD-38961）、外側から 51-55 年輪目（PLD-38962）、外側から 61-65 年輪目（PLD-38963）、外側から 71-75 年輪目（PLD-38964）の 8 か所から採取した。

試料 No.23 の樹種はクリで、年輪数は 81 年、最終形成年輪が残っていた。測定試料は、外側から 1-5 年輪目（PLD-38965）、外側から 21-25 年輪目（PLD-38966）、外側から 41-45 年輪目（PLD-38967）、外側から 61-65 年輪目（PLD-38968）、外側から 76-80 年輪目（PLD-38969）の 5 か所から採取した。

試料 No.25 の樹種はクリで、年輪数は 37 年、最終形成年輪が残っていた。測定試料は、外側から 1-5 年輪目（PLD-38970）、外側から 11-15 年輪目（PLD-38971）、外側から 21-25 年輪目（PLD-38972）、外側から 31-35 年輪目（PLD-38973）の 4 か所から採取した。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表 2～4 に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、ウィグルマッチング結果を、図版 1～3 にウィグルマッチング結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代（yrBP）の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正、ウィグルマッチング法の詳細は以下のとおりである。

[暦年較正]

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（ ^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.3（較正曲線データ：Post-bomb atmospheric NH2）を使用した。なお、 1σ 暦年較正範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年較正範囲であり、同様に 2σ 暦年較正範囲は 95.4% 信頼限界の暦年較正範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年較正が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

[ウィグルマッチング法]

ウィグルマッチング法とは、複数の試料を測定し、それぞれの試料間の年代差の情報を用いて試料の年代パターンと較正曲線のパターンが最も一致する年代値を算出することによって、高精度で年代値を求める方法である。測定では、得られた年輪数が確認できる木材について、1年毎或いは数年分をまとめた年輪を数点用意し、それぞれ年代測定を行う。個々の測定値から暦年較正を行い、得られた確率分布を最外試料と当該試料の中心値の差だけずらしてすべてを掛け合わせるにより最外試料の確率分布を算出し、年代範囲を求める。なお、得られた最外試料の年代範囲は、まとめた5年輪分の中心の年代を表している。したがって、試料となった木材の最外年輪年代を得るためには、最外試料の中心よりも外側にある年輪数（今回は2年分：2.5年を小数以下切り捨て）を考慮する必要がある。

4. 考察

以下、2 σ 暦年代範囲（確率95.4%）に着目して結果を整理する。

年代測定の結果、試料 No.22 の最外試料年代は 1800-1825 cal AD (90.6%) および 1825-1831 cal AD (4.8%) であった。最終形成年輪の年代は、これに2年輪を加えた 1802-1827 cal AD (90.6%) および 1827-1833 cal AD (4.8%) で、19世紀初頭～前半である。これは、江戸時代後期に相当する。

試料 No.23 の最外試料年代は 1819-1837 cal AD (95.4%) であった。最終形成年輪の年代は 1821-1839 cal AD (95.4%) で、19世紀前半である。これは、江戸時代後期に相当する。

試料 No.25 の最外試料年代は 1712-1732 cal AD (13.0%) および 1834-1907 cal AD (82.4%) であった。最終形成年輪の年代は 1714-1734 cal AD (13.0%) および 1836-1909 cal AD (82.4%) で、18世紀前半および19世紀前半～20世紀初頭である。これは、江戸時代中期～明治時代に相当する。

SX2は近代の遺構であるが、柱は甲府城（安土・桃山時代～明治時代）の建築材が転用された可能性が考えられている。試料 No.22 および試料 No.23 の柱は江戸時代後期の暦年代を示したため、甲府城の建築材であった可能性が高い。一方、試料 No.25 は江戸時代中期～明治時代の暦年代を示したため、甲府城の建築材であった可能性と、明治時代に入ってから伐採された木材である可能性の両方が考えられる。

参考文献

- Bronk Ramsey, C., van der Plicht, J., and Weninger, B. (2001) 'Wiggle matching' radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 43(2A), 381-389.
- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- Hua, Q., Barbetti, M. Rakowski, A.Z. (2013) Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950–2010. *Radiocarbon*, 55(4), 1-14.
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.

表1 ウィグルマッチング測定試料および処理

測定番号	遺跡・試料データ	採取データ	前処理
PLD-38957	試料No. 22 調査区：C地点 遺構：SX2 遺物No. 柱⑫ 種類：生材（ケヤキ） 試料の性状：最終形成年輪 年輪数：75年 器種：柱 状態：dry	採取位置：外側から1-5年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38958		採取位置：外側から11-15年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38959		採取位置：外側から21-25年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38960		採取位置：外側から31-35年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38961		採取位置：外側から41-45年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38962		採取位置：外側から51-55年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38963		採取位置：外側から61-65年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38964		採取位置：外側から71-75年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38965	試料No. 23 調査区：C地点 遺構：SX2 遺物No. 柱⑬ 種類：生材（クリ） 試料の性状：最終形成年輪 年輪数：81年 器種：柱 状態：dry	採取位置：外側から1-5年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38966		採取位置：外側から21-25年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38967		採取位置：外側から41-45年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38968		採取位置：外側から61-65年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38969		採取位置：外側から76-80年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38970	試料No. 25 調査区：C地点 遺構：SX2 遺物No. 柱⑭ 種類：生材（クリ） 試料の性状：最終形成年輪 年輪数：37年 器種：柱 状態：dry	採取位置：外側から1-5年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38971		採取位置：外側から11-15年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38972		採取位置：外側から21-25年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-38973		採取位置：外側から31-35年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)

表2 試料No. 22の放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

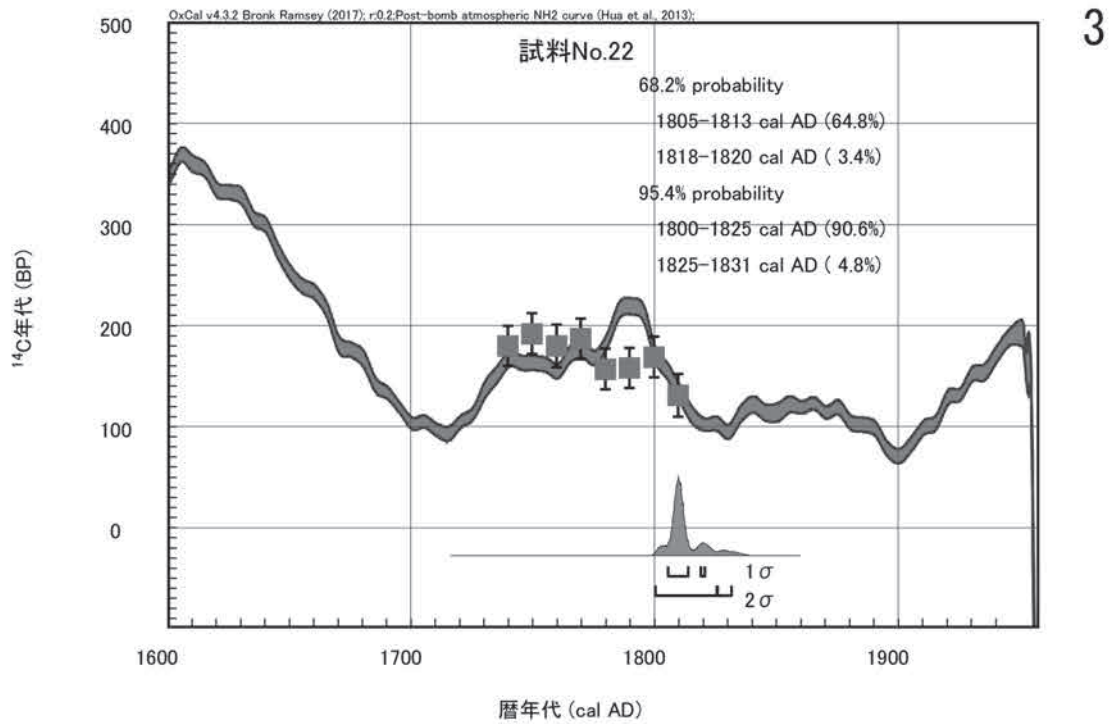
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-38957 試料No. 22 外側から1-5年輪目	-28.56 \pm 0.24	131 \pm 21	130 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1682-1699 cal AD (10.6%) 1721-1736 cal AD (8.8%) 1758-1761 cal AD (1.1%) 1805-1817 cal AD (7.3%) 1833-1879 cal AD (27.9%) 1916-1936 cal AD (12.2%) 1954-1954 cal AD (0.3%)	Post-bomb NH2 2013: 1679-1714 cal AD (15.7%) 1715-1764 cal AD (18.2%) 1773-1776 cal AD (0.5%) 1800-1892 cal AD (44.7%) 1908-1940 cal AD (15.3%) 1952-1955 cal AD (1.1%)
PLD-38958 試料No. 22 外側から11-15年輪目	-28.16 \pm 0.28	169 \pm 20	170 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1669-1683 cal AD (12.2%) 1736-1780 cal AD (41.2%) 1798-1805 cal AD (6.2%) 1935-1944 cal AD (7.8%) 1951-1952 cal AD (0.9%)	Post-bomb NH2 2013: 1665-1693 cal AD (17.2%) 1728-1785 cal AD (46.7%) 1795-1812 cal AD (10.1%) 1919-1954 cal AD (21.4%)
PLD-38959 試料No. 22 外側から21-25年輪目	-27.82 \pm 0.27	158 \pm 20	160 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1675-1686 cal AD (8.4%) 1731-1778 cal AD (39.0%) 1799-1808 cal AD (7.6%) 1927-1941 cal AD (11.9%) 1951-1953 cal AD (0.9%) 1953-1954 cal AD (0.4%)	Post-bomb NH2 2013: 1667-1695 cal AD (15.9%) 1726-1783 cal AD (42.5%) 1797-1814 cal AD (10.4%) 1836-1844 cal AD (1.5%) 1851-1868 cal AD (3.3%) 1872-1877 cal AD (0.7%) 1917-1954 cal AD (21.1%)
PLD-38960 試料No. 22 外側から31-35年輪目	-28.22 \pm 0.31	157 \pm 20	155 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1675-1686 cal AD (8.6%) 1730-1778 cal AD (38.6%) 1799-1809 cal AD (7.7%) 1927-1941 cal AD (12.0%) 1951-1953 cal AD (0.9%) 1953-1954 cal AD (0.4%)	Post-bomb NH2 2013: 1667-1696 cal AD (15.8%) 1726-1782 cal AD (41.8%) 1797-1814 cal AD (10.4%) 1836-1845 cal AD (1.7%) 1850-1869 cal AD (3.7%) 1872-1877 cal AD (0.8%) 1917-1954 cal AD (21.1%)
PLD-38961 試料No. 22 外側から41-45年輪目	-28.66 \pm 0.30	187 \pm 20	185 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1666-1681 cal AD (16.8%) 1738-1745 cal AD (5.3%) 1749-1750 cal AD (0.3%) 1763-1784 cal AD (22.7%) 1795-1802 cal AD (6.8%) 1938-1952 cal AD (16.3%)	Post-bomb NH2 2013: 1663-1683 cal AD (19.2%) 1734-1806 cal AD (55.2%) 1929-1954 cal AD (21.1%)
PLD-38962 試料No. 22 外側から51-55年輪目	-29.25 \pm 0.31	180 \pm 21	180 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1667-1681 cal AD (14.3%) 1738-1754 cal AD (14.0%) 1762-1782 cal AD (20.5%) 1797-1802 cal AD (5.2%) 1937-1952 cal AD (14.2%)	Post-bomb NH2 2013: 1664-1686 cal AD (17.8%) 1730-1809 cal AD (56.7%) 1927-1954 cal AD (20.9%)
PLD-38963 試料No. 22 外側から61-65年輪目	-29.54 \pm 0.23	192 \pm 20	190 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1664-1680 cal AD (17.6%) 1740-1742 cal AD (1.9%) 1763-1786 cal AD (23.8%) 1793-1801 cal AD (8.4%) 1939-1952 cal AD (16.5%)	Post-bomb NH2 2013: 1661-1683 cal AD (20.5%) 1735-1805 cal AD (54.1%) 1931-1954 cal AD (20.7%)
PLD-38964 試料No. 22 外側から71-75年輪目	-30.06 \pm 0.28	180 \pm 20	180 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1667-1681 cal AD (14.7%) 1738-1753 cal AD (13.1%) 1762-1782 cal AD (20.9%) 1797-1802 cal AD (5.1%) 1938-1952 cal AD (14.4%)	Post-bomb NH2 2013: 1664-1685 cal AD (17.9%) 1731-1788 cal AD (45.7%) 1789-1808 cal AD (10.9%) 1927-1954 cal AD (21.0%)
			最外試料年代	1805-1813 cal AD (64.8%) 1818-1820 cal AD (3.4%)	1800-1825 cal AD (90.6%) 1825-1831 cal AD (4.8%)
			最終形成年輪の年代	1807-1815 cal AD (64.8%) 1820-1822 cal AD (3.4%)	1802-1827 cal AD (90.6%) 1827-1833 cal AD (4.8%)

表3 試料No. 23の放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-38965 試料No. 23 外側から1-5年輪目	-27.69 \pm 0.26	98 \pm 21	100 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1696-1726 cal AD (22.7%) 1814-1836 cal AD (16.6%) 1844-1851 cal AD (4.2%) 1869-1872 cal AD (1.7%) 1877-1894 cal AD (13.2%) 1904-1917 cal AD (9.7%)	Post-bomb NH2 2013: 1691-1729 cal AD (26.1%) 1810-1924 cal AD (69.1%) 1954-1955 cal AD (0.2%)
PLD-38966 試料No. 23 外側から21-25年輪目	-28.66 \pm 0.26	145 \pm 22	145 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1679-1695 cal AD (10.3%) 1726-1765 cal AD (23.4%) 1773-1777 cal AD (1.8%) 1800-1813 cal AD (8.3%) 1837-1842 cal AD (2.2%) 1853-1859 cal AD (2.9%) 1861-1867 cal AD (3.1%) 1874-1875 cal AD (0.2%) 1918-1940 cal AD (14.5%) 1952-1954 cal AD (1.4%)	Post-bomb NH2 2013: 1669-1707 cal AD (15.8%) 1719-1781 cal AD (31.0%) 1798-1820 cal AD (10.5%) 1822-1826 cal AD (0.6%) 1832-1886 cal AD (18.8%) 1914-1946 cal AD (16.9%) 1951-1954 cal AD (1.7%)
PLD-38967 試料No. 23 外側から41-45年輪目	-27.48 \pm 0.24	209 \pm 21	210 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1655-1671 cal AD (21.2%) 1779-1799 cal AD (34.8%) 1942-1951 cal AD (12.2%)	Post-bomb NH2 2013: 1649-1681 cal AD (30.8%) 1738-1753 cal AD (3.9%) 1762-1802 cal AD (45.1%) 1937-1954 cal AD (15.6%)
PLD-38968 試料No. 23 外側から61-65年輪目	-27.54 \pm 0.20	172 \pm 21	170 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1669-1682 cal AD (12.8%) 1736-1759 cal AD (20.3%) 1760-1781 cal AD (19.5%) 1798-1805 cal AD (6.0%) 1936-1945 cal AD (8.7%) 1951-1952 cal AD (1.0%)	Post-bomb NH2 2013: 1664-1692 cal AD (17.5%) 1728-1787 cal AD (46.1%) 1792-1811 cal AD (10.4%) 1919-1954 cal AD (21.4%)
PLD-38969 試料No. 23 外側から76-80年輪目	-28.30 \pm 0.23	202 \pm 21	200 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1661-1677 cal AD (18.2%) 1766-1771 cal AD (4.7%) 1777-1799 cal AD (30.7%) 1941-1951 cal AD (14.6%)	Post-bomb NH2 2013: 1652-1682 cal AD (25.9%) 1737-1757 cal AD (7.7%) 1761-1804 cal AD (43.8%) 1936-1954 cal AD (17.9%)
最外試料年代				1822-1830 cal AD (68.2%)	1819-1837 cal AD (95.4%)
最終形成年輪の年代				1824-1832 cal AD (68.2%)	1821-1839 cal AD (95.4%)

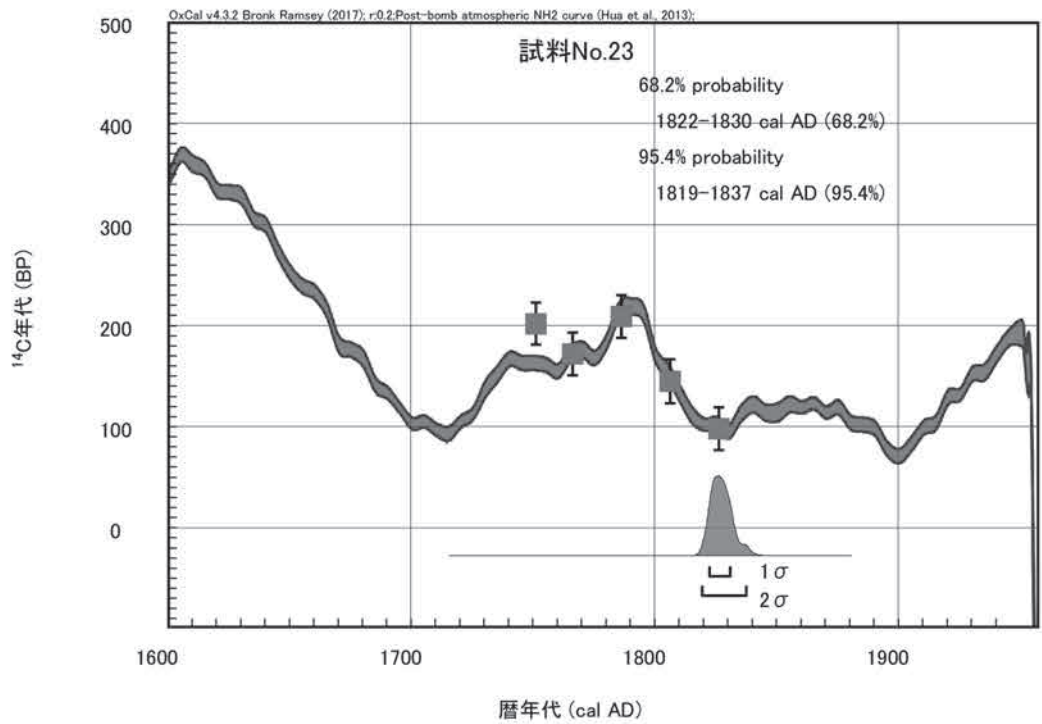
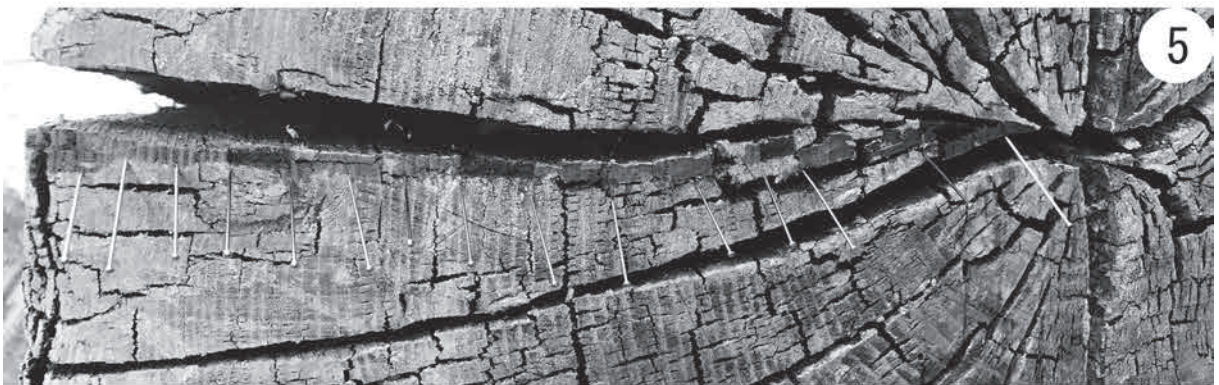
表4 試料No. 25の放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-38970 試料No. 25 外側から1-5年輪目	-26.59 \pm 0.23	100 \pm 21	100 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1695-1726 cal AD (22.7%) 1814-1836 cal AD (16.6%) 1844-1851 cal AD (4.8%) 1868-1872 cal AD (2.5%) 1876-1894 cal AD (12.7%) 1905-1918 cal AD (8.9%)	Post-bomb NH2 2013: 1690-1729 cal AD (26.1%) 1810-1925 cal AD (69.0%) 1954-1955 cal AD (0.3%)
PLD-38971 試料No. 25 外側から11-15年輪目	-28.62 \pm 0.21	123 \pm 22	125 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1684-1707 cal AD (12.8%) 1719-1732 cal AD (7.5%) 1808-1820 cal AD (6.9%) 1823-1826 cal AD (1.4%) 1833-1882 cal AD (31.3%) 1915-1928 cal AD (8.1%) 1954-1954 cal AD (0.2%)	Post-bomb NH2 2013: 1681-1738 cal AD (27.4%) 1745-1763 cal AD (3.3%) 1802-1894 cal AD (49.7%) 1905-1938 cal AD (14.3%) 1952-1955 cal AD (0.8%)
PLD-38972 試料No. 25 外側から21-25年輪目	-25.87 \pm 0.20	109 \pm 21	110 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1694-1711 cal AD (11.4%) 1717-1727 cal AD (6.9%) 1813-1828 cal AD (10.3%) 1831-1839 cal AD (5.1%) 1841-1854 cal AD (8.3%) 1857-1863 cal AD (3.8%) 1866-1891 cal AD (16.2%) 1909-1919 cal AD (6.2%)	Post-bomb NH2 2013: 1684-1733 cal AD (27.4%) 1807-1898 cal AD (54.8%) 1901-1928 cal AD (12.9%) 1954-1955 cal AD (0.3%)
PLD-38973 試料No. 25 外側から31-35年輪目	-27.09 \pm 0.20	113 \pm 21	115 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1692-1708 cal AD (10.2%) 1718-1728 cal AD (6.3%) 1811-1827 cal AD (9.6%) 1832-1889 cal AD (36.9%) 1911-1919 cal AD (5.2%)	Post-bomb NH2 2013: 1683-1735 cal AD (27.6%) 1805-1897 cal AD (54.2%) 1902-1930 cal AD (12.9%) 1933-1934 cal AD (0.1%) 1952-1955 cal AD (0.5%)
最外試料年代				1842-1857 cal AD (19.2%) 1861-1894 cal AD (49.0%)	1712-1732 cal AD (13.0%) 1834-1907 cal AD (82.4%)
最終形成年輪の年代				1844-1859 cal AD (19.2%) 1863-1896 cal AD (49.0%)	1714-1734 cal AD (13.0%) 1836-1909 cal AD (82.4%)



図版1 ウィグルマッチングを行なった試料 (1) (ピンは5年間隔)

1. 試料No. 22 年輪計測結果 (PLD-38957～38964)
2. 試料No. 22 測定結果の採取位置 (PLD-38957～38964)
3. 試料No. 22 ウィグルマッチング結果



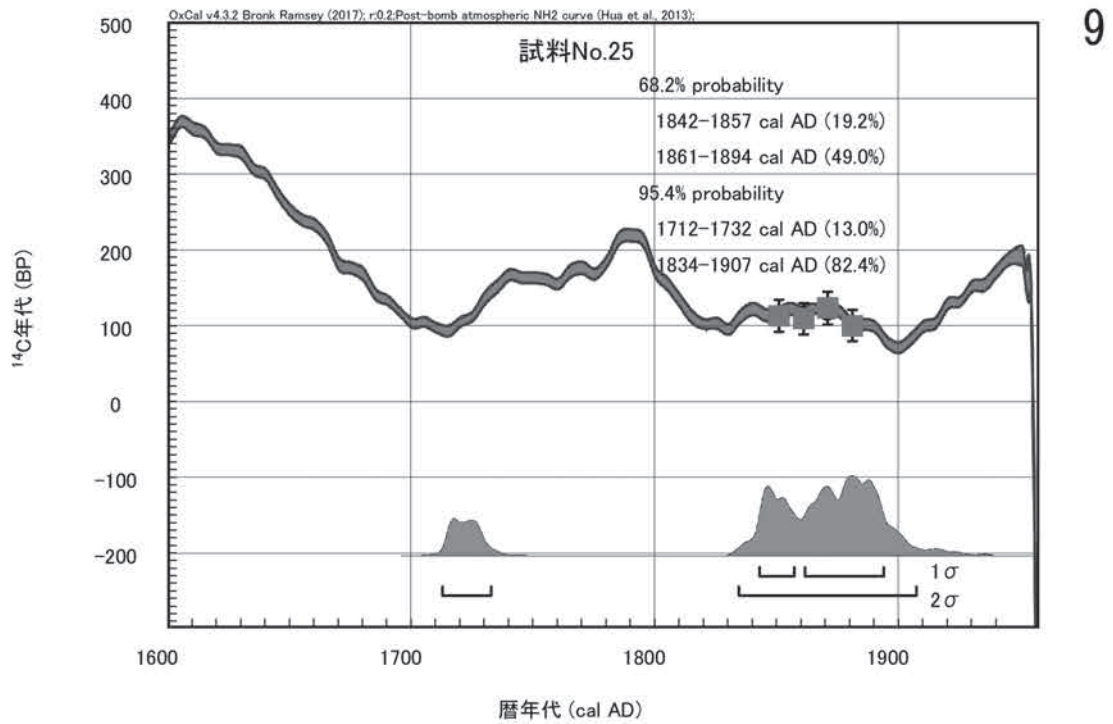
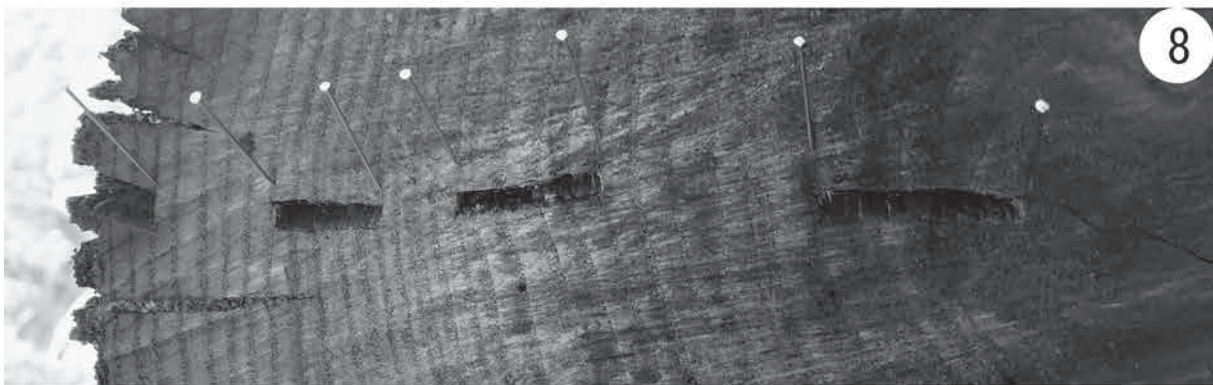
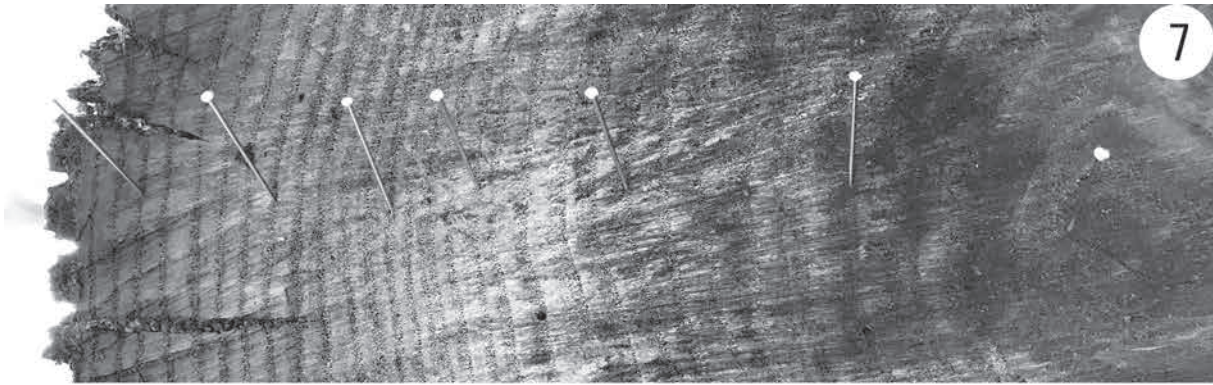
6

図版2 ウィグルマッチングを行なった試料 (2) (ピンは5年間隔)

4. 試料No. 23 年輪計測結果 (PLD-38965~38969)

5. 試料No. 23 測定結果の採取位置 (PLD-38965~38969)

6. 試料No. 23 ウィグルマッチング結果



図版3 ウィグルマッチングを行なった試料 (3) (ピンは5年間隔)

7. 試料No. 25 年輪計測結果 (PLD-38970~38973)

8. 試料No. 25 測定結果の採取位置 (PLD-38970~38973)

9. 試料No. 25 ウィグルマッチング結果

第9節 甲府城下町遺跡出土木製品の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市の甲府城下町遺跡から出土した木製品の樹種同定を行なった。なお、一部の試料については放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、B地点の溝跡であるSD2～4から出土した木製品6点と、C地点のSX2から出土した柱8点の、計14点である。発掘調査所見では、B地点の溝跡の時期は不明で、C地点のSX2は近世の遺構であるが、柱は甲府城の建築材が転用された可能性が考えられている。確認可能な試料について、切片採取前に木取りの確認を行なった。

樹種同定は、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラルで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

同定の結果、針葉樹ではマツ属複維管束亜属1分類群、広葉樹ではケヤキとクリの2分類群の、計3分類群がみられた。マツ属複維管束亜属が6点で最も多く、ケヤキとクリは各4点であった。同定結果を表1に、一覧を付表1に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

表1 出土木製品の樹種同定結果

樹種	時期 近代		時期不明		合計
	器種	柱	木種	継手部	
マツ属複維管束亜属			5	1	6
ケヤキ		4			4
クリ		4			4
	合計	8	5	1	14

(1) マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科 図版1 1a-1c(No.10)

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射柔細胞および放射仮道管で構成される針葉樹である。放射組織は放射柔細胞と放射仮道管によって構成される。放射仮道管の内壁の肥厚は鋸歯状であり、分野壁孔は窓状となる。

マツ属複維管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に生育しやすい。材質は類似し、重硬で切削等の加工は容易である。

(2) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図版1 2a-2c(No.20)

年輪のはじめに大型の道管が1～2列並び、晩材部では急に径を減じた道管が多数複合し、接線～斜線方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1列が方形となる異性で、幅1～5列となる。放射組織の上下端には、結晶が認められる。

ケヤキは温帯から暖帯にかけての肥沃な谷間などに好んで生育する落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて硬いが、切削などの加工はそれほど困難ではない。

(3) クリ *Castanea crenata* Siebold. et Zucc. ブナ科 図版1 3a-3c(No.24)

年輪のはじめに大型の道管が1～3列並び、晩材部では徐々に径を減じる道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列である。

クリは、北海道の石狩、日高地方以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

4. 考察

同定の結果、C地点のSX2出土の柱はケヤキとクリであった。クリとケヤキはともに堅硬な樹種であり（伊東ほか、2011）、柱材に適した樹種を選択的に利用していたと考えられる。

東京都内の江戸時代の遺跡から出土した柱材をみると、クリの利用は確認できるが、ケヤキは確認できない（伊東・山田編，2012）。また、山梨県内の鎌倉時代～江戸時代初期頃の柱材でも、クリの利用は確認できるが、ケヤキは確認できない（伊東・山田編，2012）。

B地点から出土した時期不明の木樋および継手部は、いずれもマツ属複維管束亜属であった。マツ属複維管束亜属は油分を多く含み、耐水性が高い（伊東ほか，2011）。水を通す木樋に適した耐水性の高いマツ属複維管束亜属が利用されたと考えられる。

東京都内の江戸時代の遺跡から出土した木樋等を含む導水施設の部材をみると、ヒノキ属の木材などとともにマツ属複維管束亜属も多く確認されており（伊東・山田編，2012）、今回の甲府城下町遺跡の樹種にみられる傾向は一致する。

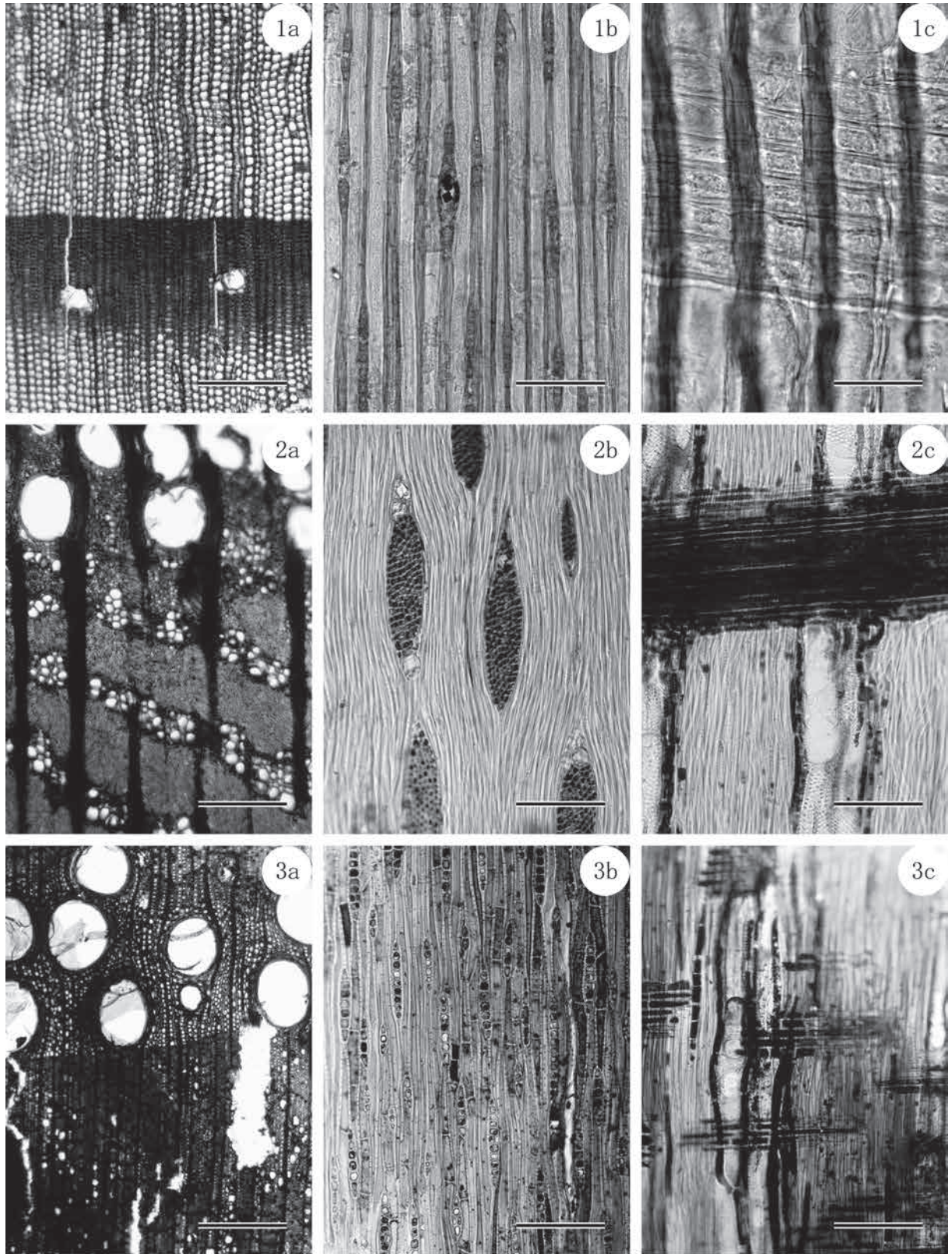
引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌. 238p, 海青社.

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学—出土木製品用材データベース—. 449p, 海青社.

付表1 甲府城下町遺跡出土木材の樹種同定結果一覧

試料No.	地点名	出土遺構	遺物No.	器種	樹種	木取り	時期	年代測定番号
9	B地点	SD2種サンプル		木樋	マツ属複維管束亜属	板目	不明	
10	B地点	SD2 (E)		木樋	マツ属複維管束亜属	板目	不明	
11	B地点	SD2 (W)		木樋	マツ属複維管束亜属	芯持削出	不明	
12	B地点	SD3竹樋継手部		継手部	マツ属複維管束亜属	芯持削出	不明	
13	B地点	SD3木樋		木樋	マツ属複維管束亜属	板目	不明	
16	B地点	SD4種サンプル		木樋	マツ属複維管束亜属	芯去削出	不明	
19	C地点	SX2	柱①	柱	ケヤキ	不明	近代	
20	C地点	SX2	柱②	柱	ケヤキ	不明	近代	
21	C地点	SX2	柱⑨	柱	ケヤキ	不明	近代	
22	C地点	SX2	柱⑫	柱	ケヤキ	不明	近代	PLD-38957～38964
23	C地点	SX2	柱⑭	柱	ケヤキ	不明	近代	PLD-38965～38969
24	C地点	SX2	柱⑰	柱	クリ	不明	近代	
25	C地点	SX2	柱⑳	柱	クリ	不明	近代	PLD-38970～38973
26	C地点	SX2	柱㉓	柱	クリ	不明	近代	



図版1 甲府城下町遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真

1a-1c. マツ属複維管束亜属 (No. 10)、2a-2c. ケヤキ (No. 20)、3a-3c. クリ (No. 24)

a: 横断面 (スケール=500 μm)、b: 接線断面 (スケール=200 μm)、c: 放射断面 (スケール=1:50 μm ・2-3:200 μm)

第10節 甲府城下町遺跡（中央4丁目II工区）出土の動物遺体

中村賢太郎（パレオ・ラボ）

1. はじめに

甲府城下町遺跡（H31中央4丁目II区）の発掘調査では、貝類、魚類、鳥類、哺乳類といった動物遺体が出土した。ここでは、動物遺体の同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料は、発掘調査現場で採集された動物遺体118試料と遺構覆土の水洗選別で回収された動物遺体14試料である。動物遺体が出土した遺構の時期は、江戸時代から明治時代の初め頃である。水洗選別は、試料300ccについて最小0.5mm目の篩を用いて行われた。

肉眼および実体顕微鏡下で観察し、標本との比較により部位と分類群を同定し、穿孔などの特徴を記載した。最小個体数の算出は、遺構ごとではなく、今回同定した試料全てをひとまとめにして行い、腹足綱（巻貝）については殻軸の数、二枚貝綱については左右殻どちらか数の多い方あるいは左右不明の合計数の半数をもってカウントした。

3. 結果と考察

表1に、同定された分類群一覧を示す。腹足綱6分類群、二枚貝綱9分類群、軟骨魚綱1分類群、硬骨魚綱4分類群、哺乳綱2分類群の、計22分類群が同定された。

表1 H31中央4丁目II区調査分出土の動物遺体分類群一覧

軟体動物門	Mollusca
腹足綱	Gastropoda
アワビ属	<i>Haliotis</i> spp.
クロアワビ	<i>Haliotis discus discus</i>
メガイアワビ	<i>Haliotis gigantea</i>
サザエ	<i>Turbo sazae</i>
ミガキボラ	<i>Kelletia lischkei</i>
マイマイ類	Pulmonata
二枚貝綱	Bivalvia
フネガイ科	Arcidae
アカガイ	<i>Scapharca broughtonii</i>
サトウガイ	<i>Scapharca satowi</i>
サルボウガイ	<i>Scapharca kagoshimensis</i>
イタヤガイ	<i>Pecten albicans</i>
イワガキ	<i>Crossostrea nippona</i>
イシガイ科	Unionidae
シジミ属	<i>Corbicula</i> sp.
ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>
脊椎動物門	Vertebrata
軟骨魚綱	Chondrichthyes
サメ類	Selachii
硬骨魚綱	Osteichthyes
マトウダイ科	Zeidae
マダイ亜科	Pagrinae
マダイ	<i>Pagrus major</i>
マグロ・カツオ類	Thunnini
哺乳綱	Mammalia
ネズミ類	Rodentia
シカ	<i>Cervus nippon</i>

表 2 に貝類遺体（腹足綱、二枚貝綱）の同定結果、表 3 に脊椎動物遺体（軟骨魚綱、硬骨魚綱、哺乳綱）の同定結果を示す。

魚類では、サメ類、マトウダイ科、マダイ、マダイ亜科、マグロ・カツオ類が見られた。サメ類とマグロ・カツオ類は A 地点 SK15 において、いずれも椎骨が見られた。マトウダイ科、マダイ、マダイ亜科は相生工区 SK11 で見られ、同定された部位はマトウダイ科が左歯骨、マダイが上後頭骨、マダイ亜科が左主鰓蓋骨である。同定された魚類はいずれも海産である。海岸部で獲られた海産魚類が甲府城下町に持ち込まれ、食用にされたと考えられる。

哺乳類では、シカとネズミ類が見られた。シカは相生工区 SK6 で左上腕骨、相生工区 SK10 で角が見られた。角にはおそらく鋸によると思われる直線的な切断痕が見られ、シカ角を材料とした製品の加工が行われたと考えられる。ネズミ類は、相生工区 SK6、SK7、SK11 で切歯が見られた。

貝類で最も多かったのはシジミ属（最小個体数 31）で、A 地点の SK1 と SK15、C 地点の SX-4、相生工区の SK6、SK7、SK10、SK11、SK12 で見られた。シジミ属とした貝殻は、おそらく淡水産のマシジミと思われるが、他の海産貝類の存在から汽水産であるヤマトシジミの可能性も考え、シジミ属までの同定に留めた。

貝類で次に多かったのは海産のサザエ（最小個体数 27）で、A 地点 SK60、C 地点 SX-4、相生工区 SK6、SK7、SK10、SK11、SK12、SK15 で見られた。サザエの殻は真珠光沢があり螺鈿細工などの材料にもなりうるが、殻だけでなく蓋も 15 点確認されており、身が付いた状態で甲府城下町に持ち込まれたのは明らかで、サザエは食用にされたと考えられる。

同じ程度に多かったのは海産のハマグリ（最小個体数 23）で、A 地点 SK15、SK43、SK60、C 地点 SX-4、相生工区 SK7、SK10、SK11、SK12 で見られた。ハマグリも海岸部から持ち込まれ、食用になったのであろう。

海産であるフネガイ科のアカガイ（最小個体数 5）、サトウガイ（最小個体数 3）、サルボウガイ（最小個体数 6）もやや多く見られた。アカガイは A 地点の SK43 と SK60、相生工区の SK7 と SK14、サトウガイは A 地点 SK60、相生工区 SK7、SK10、SK15、サルボウガイは C 地点 SX-4、相生工区の SK6 と SK12 で見られた。

海産であるアワビ属のクロアワビ（最小個体数 2）とメガイアワビ（最小個体数 8）もやや多く見られた。クロアワビは相生工区 SK12、メガイアワビは A 地点の SK43 と SK44、C 地点 SX-4、D 地点 SK6、相生工区の SK6 と SK12 で見られた。

海産貝類ではその他に、相生工区 SK10 において、ミガキボラ（最小個体数 1）とイワガキ（最小個体数 1）が見られた。

食用以外の用途で利用されたと考えられる海産貝類がイタヤガイである。イタヤガイ（最小個体数 4）は A 地点 SK60、C 地点の SK33 と SX-4、相生工区 SK7 で 1 個体ずつ見られた。イタヤガイは、海の砂地に生息し、右殻が椀状に窪み、左殻が平坦である。椀状の右殻のみが 4 個体見られ、このうち 3 個体には 2 つ以上並んだ穿孔が見られた。孔に紐を通して柄に固定し、柄杓として用いられたと考えられる。

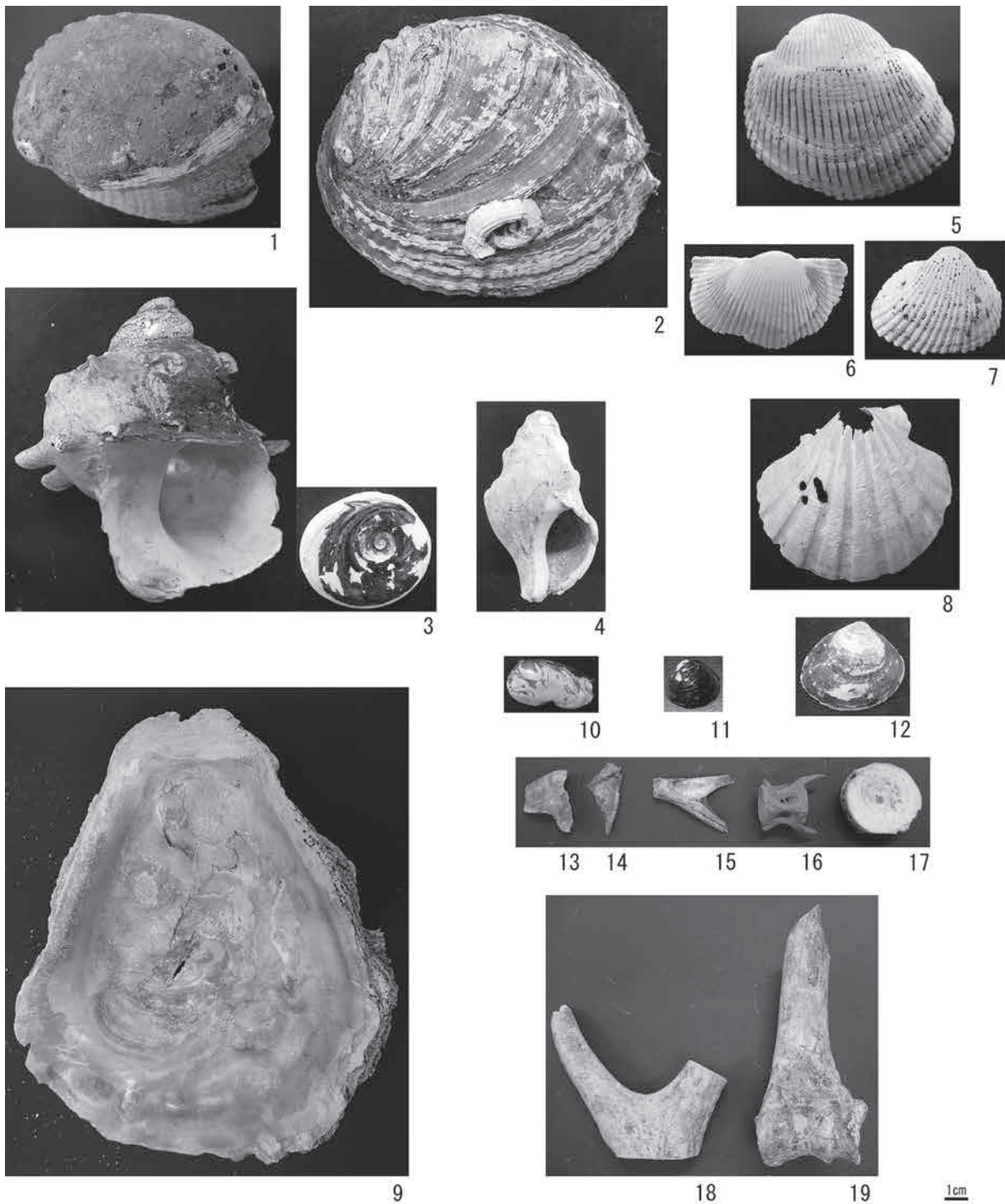
その他に、淡水産のイシガイ科（最小個体数 1）が C 地点 SX-4 で、陸産のマイマイ類（最小個体数 1）が A 地点 SK1 で見られた。

表2 H31中央4丁目I区調査分の貝類遺体

地区	地点	遺構	層位	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
②-2他	A地点	SK1	一括	マイマイ類	殻	一	ほぼ完存	1	
②-2他	A地点	SK1	一括	シジミ属	殻	左	殻頂	1	マジミ?
②-2他	A地点	SK1	一括	シジミ属	殻	不明	殻頂	2	マジミ?
②-2他	A地点	SK15	一括	アワビ属	殻	一	破片	2	
②-2他	A地点	SK15	一括	フネガイ科	殻	不明	破片	2	
②-2他	A地点	SK15	一括	シジミ属	殻	右	完存	2	マジミ?、殻皮付
②-2他	A地点	SK15	一括	ハマグリ	殻	右	ほぼ完存	1	
②-2他	A地点	SK19	No.25	フネガイ科	殻	不明	破片	10	
②-2他	A地点	SK19	一括	フネガイ科	殻	不明	破片	4	
②-2他	A地点	SK43	一括	メガイアワビ	殻	一	ほぼ完存	1	破片化
②-2他	A地点	SK43	一括	アカガイ	殻	左	ほぼ完存	2	
②-2他	A地点	SK43	一括	アカガイ	殻	右	殻頂、ほぼ完存	2	
②-2他	A地点	SK43	一括	フネガイ科	殻	不明	破片	5	
②-2他	A地点	SK43	一括	ハマグリ	殻	右	完存	1	
②-2他	A地点	SK44	一括	メガイアワビ	殻	一	ほぼ完存	1	破片化
②-2他	A地点	SK60	一括	サザエ	殻	一	ほぼ完存	1	
②-2他	A地点	SK60	一括	アカガイ	殻	左	ほぼ完存	1	破片化
②-2他	A地点	SK60	一括	アカガイ	殻	右	完存	1	
②-2他	A地点	SK60	一括	サトウガイ	殻	左	完存	1	
②-2他	A地点	SK60	一括	アカガイ/サトウガイ	殻	右	ほぼ完存、殻頂破損	2	
②-2他	A地点	SK60	一括	イタヤガイ	殻	右	殻頂など2/3残	1	穿孔
②-2他	A地点	SK60	一括	ハマグリ	殻	右	殻頂	1	
②-2他	A地点	SK67	貝	サルボウガイ?	殻	左	破片	2	
②-2他	C地点	SK33	一括	イタヤガイ	殻	右	ほぼ完存	1	穿孔
②-2他	C地点	SX-4	一括	メガイアワビ	殻	一	完存	1	
②-2他	C地点	SX-4	一括	サザエ	蓋	一	半欠	1	
②-2他	C地点	SX-4	一括	サルボウガイ	殻	右	完存	1	
②-2他	C地点	SX-4	一括	フネガイ科	殻	不明	破片	1	
②-2他	C地点(2)	SX-4	一括	イタヤガイ	殻	右	半欠	1	
②-2他	C地点	SX-4	一括	イタヤガイ	殻	不明	破片	1	
②-2他	C地点	SX-4	一括	イシガイ科	殻	左	殻頂破片	1	
②-2他	C地点	SX-4	一括	シジミ属	殻	左	完存	1	マジミ?、殻皮付
②-2他	C地点	SX-4	一括	シジミ属	殻	右	完存	1	マジミ?、殻皮付
②-2他	C地点	SX-4	一括	シジミ属	殻	不明	殻頂欠く	2	マジミ?、1点は殻皮付
②-2他	C地点	SX-4	一括	ハマグリ	殻	不明	破片	1	
②-2他	D地点	SK6	一括	メガイアワビ	殻	一	破片	1	
②-2他	D地点	SK6	一括	アワビ属	殻	一	破片	35	
②-2他	相生工区	SK6	一括	メガイアワビ	殻	一	完存、1/2以上残	2	
②-2他	相生工区	SK6	一括	アワビ属	殻	一	破片	5	
②-2他	相生工区	SK6(西)	一括	サザエ	殻	一	殻輪1/2以上残	1	
②-2他	相生工区	SK6	一括	サルボウガイ	殻	左	ほぼ完存	1	破片化
②-2他	相生工区	SK6	一括	フネガイ科	殻	不明	破片	2	
②-2他	相生工区	SK6(西)	一括	シジミ属	殻	左	ほぼ完存	4	マジミ?、殻皮付
②-2他	相生工区	SK6	一括	シジミ属	殻	右	ほぼ完存	7	マジミ?、殻皮付
②-2他	相生工区	SK6	一括	シジミ属	殻	不明	殻頂破損	11	マジミ?、殻皮付
②-2他	相生工区	SK7	一括	アワビ属	殻	一	1/2以上残	1	破片化
②-2他	相生工区	SK7	一括	アワビ属	殻	一	破片	1	
②-2他	相生工区	SK7	一括	サザエ	殻	一	殻輪1/2以上残	1	
②-2他	相生工区	SK7	一括	サザエ	蓋	一	ほぼ完存	1	
②-2他	相生工区	SK7	一括	アカガイ	殻	左	ほぼ完存	1	破片化
②-2他	相生工区	SK7	一括	アカガイ	殻	右	ほぼ完存	1	破片化
②-2他	相生工区	SK7	一括	サトウガイ	殻	左	ほぼ完存	2	
②-2他	相生工区	SK7	一括	イタヤガイ	殻	右	殻頂欠く	1	穿孔
②-2他	相生工区	SK7	一括	シジミ属	殻	左	ほぼ完存	6	マジミ?、殻皮付
②-2他	相生工区	SK7	一括	シジミ属	殻	右	ほぼ完存	7	マジミ?、殻皮付
②-2他	相生工区	SK7	一括	ハマグリ	殻	左	殻頂	2	
②-2他	相生工区	SK7	一括	ハマグリ	殻	右	殻頂	1	
②-2他	相生工区	SK7	一括	ハマグリ	殻	不明	破片	1	
②-2他	相生工区	SK10	一括	サザエ	殻	一	殻輪1/2以上残	2	
②-2他	相生工区	SK10	一括	サザエ	蓋	一	完存、ほぼ完存	4	
②-2他	相生工区	SK10	下層一括	サザエ	蓋	一	完存、ほぼ完存	2	
②-2他	相生工区	SK10	一括	ミガキボラ	殻	一	ほぼ完存	1	
②-2他	相生工区	SK10	一括	サトウガイ	殻	右	殻頂	2	
②-2他	相生工区	SK10	貝	イワガキ	殻	左	完存	1	
②-2他	相生工区	SK10	一括	シジミ属	殻	左	ほぼ完存	10	マジミ?、殻皮付
②-2他	相生工区	SK10	一括	シジミ属	殻	右	ほぼ完存	3	マジミ?、殻皮付
②-2他	相生工区	SK10	一括	シジミ属	殻	不明	ほぼ完存、殻頂破損	9	マジミ?、殻皮付
②-2他	相生工区	SK10	一括	ハマグリ	殻	右	殻頂	3	
②-2他	相生工区	SK11	一括	サザエ	殻	一	殻輪1/2以上残	1	
②-2他	相生工区	SK11	一括	サザエ	殻	一	破片	2	
②-2他	相生工区	SK11	下層	サザエ	蓋	一	完存	1	
②-2他	相生工区	SK11	ベルト一括	サザエ	蓋	一	ほぼ完存	5	
②-2他	相生工区	SK11	一括	サトウガイ?	殻	右	殻頂欠く	1	
②-2他	相生工区	SK11	一括	サトウガイ?	殻	不明	破片	1	
②-2他	相生工区	SK11	ベルト一括	サトウガイ?	殻	不明	破片	9	
②-2他	相生工区	SK11	一括	シジミ属	殻	左	完存	6	マジミ?、1点は殻皮付
②-2他	相生工区	SK11	一括	シジミ属	殻	右	完存	6	マジミ?、2点は殻皮付
②-2他	相生工区	SK11	ベルト一括	シジミ属	殻	左	完存	1	マジミ?
②-2他	相生工区	SK11	一括	シジミ属	殻	右	ほぼ完存	1	マジミ?、破片化
②-2他	相生工区	SK11	一括	シジミ属	殻	不明	殻頂欠く	2	マジミ?
②-2他	相生工区	SK11	一括	ハマグリ	殻	左	ほぼ完存	1	
②-2他	相生工区	SK11	ベルト一括	ハマグリ	殻	左	殻頂	1	
②-2他	相生工区	SK11	ベルト一括	ハマグリ	殻	不明	破片	3	
②-2他	相生工区	SK12	一括	クロアワビ	殻	一	ほぼ完存	1	
②-2他	相生工区	SK12	下層一括	クロアワビ	殻	一	ほぼ完存	1	
②-2他	相生工区	SK12	下層一括	メガイアワビ	殻	一	ほぼ完存	2	
②-2他	相生工区	SK12	一括	アワビ属	殻	一	破片	13	
②-2他	相生工区	SK12	下層	アワビ属	殻	一	破片	1	
②-2他	相生工区	SK12	一括	サザエ	殻	一	殻輪1/2以上残	9	
②-2他	相生工区	SK12	一括	サザエ	蓋	一	ほぼ完存	1	
②-2他	相生工区	SK12	一括	サルボウガイ	殻	右	ほぼ完存	2	
②-2他	相生工区	SK12	下層一括	サルボウガイ	殻	左	完存	4	3点は合弁
②-2他	相生工区	SK12	下層一括	サルボウガイ	殻	右	完存	3	3点は合弁
②-2他	相生工区	SK12	一括	フネガイ科	殻	不明	破片	2	
②-2他	相生工区	SK12	下層一括	シジミ属	殻	左	完存	2	マジミ?、殻皮付き
②-2他	相生工区	SK12	下層一括	シジミ属	殻	右	完存	2	マジミ?、殻皮付き
②-2他	相生工区	SK12	一括	ハマグリ	殻	左	ほぼ完存	19	
②-2他	相生工区	SK12	一括	ハマグリ	殻	右	ほぼ完存	12	
②-2他	相生工区	SK12	下層	ハマグリ	殻	右	完存	1	
②-2他	相生工区	SK14	一括	アカガイ	殻	右	ほぼ完存	1	破片化
②-2他	相生工区	SK15	一括	アワビ属	殻	一	破片	3	
②-2他	相生工区	SK15	一括	サザエ	殻	一	ほぼ完存	8	
②-2他	相生工区	SK15	一括	サザエ	殻	一	殻輪1/2以上残	1	
②-2他	相生工区	SK15	一括	サトウガイ	殻	右	殻頂	1	
②-2他	相生工区	SK15	一括	フネガイ科	殻	不明	破片	7	

表3 H31中央4丁目II区調査分の脊椎動物遺体

地区	地点	遺構	層位	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
②-2他	A地点	SK15	一括	マグロ・カツオ類	尾椎	—	完存	1	
②-2他	A地点	SK15	一括	サメ類	椎骨	—	ほぼ完存	2	
②-2他	相生工区	SK6	一括	シカ	上腕骨	左	遠位端	1	
②-2他	相生工区	SK6	3層	ネズミ類	切歯	不明	上下不明	1	水洗選別
②-2他	相生工区	SK7	6層	ネズミ類	切歯	不明	上下不明	1	水洗選別
②-2他	相生工区	SK7	6層	硬骨魚綱	椎骨	—	ほぼ完存	1	水洗選別
②-2他	相生工区	SK7	6層	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	水洗選別
②-2他	相生工区	SK10	一括	シカ	角	不明	分岐部	1	切断痕
②-2他	相生工区	SK10	一括	鳥綱?	四肢骨	不明	骨幹破片	1	
②-2他	相生工区	SK11	一括	ネズミ類	脛骨	右	ほぼ完存	1	
②-2他	相生工区	SK11	一括	マダイ	上後頭骨	—	破片	1	
②-2他	相生工区	SK11	一括	マダイ亜科	主鰓蓋骨	左	ほぼ完存	1	
②-2他	相生工区	SK11	一括	マトウダイ科	歯骨	左	ほぼ完存	1	
②-2他	相生工区	SK11	一括	硬骨魚綱	肋骨	不明	ほぼ完存	6	
②-2他	相生工区	SK11	一括	硬骨魚綱	鱗	不明	ほぼ完存	3	
②-2他	相生工区	SK11	一括	硬骨魚綱	不明	不明	破片	2	
②-2他	相生工区	SK11	3層	硬骨魚綱	椎骨	—	1/2残	1	水洗選別
②-2他	相生工区	SK11	3層	硬骨魚綱	鱗棘	不明	破片	1	水洗選別
②-2他	相生工区	SK11	3層	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	水洗選別
②-2他	相生工区	SK11	8層	ネズミ類	切歯	不明	上下不明	1	水洗選別
②-2他	相生工区	SK11	8層	硬骨魚綱	鱗棘	不明	ほぼ完存	2	水洗選別
②-2他	相生工区	SK11	8層	硬骨魚綱	鱗	不明	1/2以上残	1	水洗選別
②-2他	相生工区	SK11	8層	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	水洗選別
②-2他	相生工区	SK60	—	不明	不明	不明	破片	1	水洗選別



図版1 H31中央4丁目II区の動物遺体

1. クロアワビ (相生工区SK12)
2. メガイアワビ (C地点SX-4)
3. サザエ (殻: 相生工区SK15、蓋: 相生工区SK11)
4. ミガキボラ (相生工区SK10)
5. アカガイ左殻 (A地点SK43)
6. サトウガイ右殻 (相生工区SK15)
7. サルボウガイ右殻 (C地点SX-4)
8. イタヤガイ右殻 (C地点SX-4)
9. イワガキ左殻 (相生工区SK10)
10. イシガイ科左殻 (C地点SX-4)
11. シジミ属左殻 (C地点SX-4)
12. ハマグリ右殻 (A地点SK15)
13. マダイ上後頭骨 (相生工区SK11)
14. マダイ亜科左主鰓蓋骨 (相生工区SK11)
15. マトウダイ科左歯骨 (相生工区SK11)
16. マグロ・カツオ類尾椎 (A地点SK15)
17. サメ類椎骨 (A地点SK15)
18. シカ角 (相生工区SK10)
19. シカ左上腕骨 (相生工区SK6)

第 11 節 甲府城下町遺跡（中央 4 丁目Ⅱ・相生工区）から出土した大型植物遺体

バンダリ スタルシャン（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡は、甲府盆地の北縁部、相川によって形成された扇状地上に立地する戦国期開創の城下町である。中央 4 丁目地点Ⅱ区は、18 世紀前葉から商人地であったと推定されており、周辺における古環境と植物利用について解明する目的で、試料が回収された。ここでは、大型植物遺体を同定し、当時利用された種実や周辺の植生について検討した。なお、堆積物試料については動物遺体同定と昆虫同定も行われている（別項参照）。

2. 試料と方法

試料は、昭和測量株式会社によって、肉眼で確認、取り上げられた試料が 26 試料と、堆積物試料が 6 試料である。現地取り上げ試料は、A 地点の SK1 と SK9、SK15、SK19、SK23、SK29、SK40、SK43、SK44、SK45、SK47、SK60、SK66 から 14 試料、D 地点の SK6 と SK11 から 2 試料、相生工区の SK10 と SK11、SK12、SK14、SK6、SK7 から 10 試料が採取された。堆積物試料は、A 地点の SK15 と SK60 から 2 試料、相生工区の SK11 と SK6、SK7 から 4 試料が採取された。土坑のほとんどは、廃棄土坑と推定されている。遺構の時期は、いずれも江戸時代～近代と考えられている。

堆積物試料の水洗は、パレオ・ラボで行った。試料 300cc について最小 0.5mm 目の篩を用いて水洗した。大型植物遺体の抽出および同定は、実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても 1 個体とみなせるものは完形として数え、1 個体に満たないものは破片とした。モモとクルミ属は形態を観察し、完形、動物食痕のある個体、一部焦痕、半割の個体、破片に分類した。計数が困難な分類群は、記号 (+) で示した。試料は、甲府市教育委員会に保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物では針葉樹のカヤ葉・種子とスギ種子、モミ葉、マツ属複雑管束亜属球果・葉の 4 分類群、広葉樹のイチヨウ種子とブドウ種子、モモ核、ウメ核、アンズ核、キイチゴ属核、クリ果実、ヒメグルミ核・炭化核、オニグルミ核・炭化核、トチノキ果実・種子、サンショウ種子、カキノキ種子・未熟種子の 12 分類群、草本植物ではツククサ種子とウキヤガラ果実・炭化果実、スゲ属アゼスゲ節果実、スゲ属 B 果実、カヤツリグサ属果実、ホタルイ属果実、メヒシバ属有ふ果、オヒシバ属種子（穎果）、ヒエ有ふ果、ヒエ属有ふ果、イネ籾・炭化籾・籾殻（籾殻塊を含む）・炭化籾殻・炭化小穂軸・炭化種子（穎果）、エノコログサ属有ふ果、コムギ炭化種子（穎果）、キケマン属種子、アサ核、トウガン種子、スイカ種子、キュウリ属メロン仲間種子、ニホンカボチャ種子、ヒョウタン仲間種子、ヘチマ種子、カタバミ属種子、エノキグサ属種子、ソバ果実、サナエタデ - オオイヌタデ果実、イヌタデ果実、ミチヤナギ属果実、ウシハコベ種子、アカザ属種子、スベリヒユ属種子、トウガラシ種子、ナス種子、ゴマ種子、メハジキ属果実、シソ属果実、タカサブロウ果実の 36 分類群の、計 52 分類群が得られた。この他に、科以上の詳細な同定ができない芽の一群を不明芽、同定の識別点を欠く種実の一群を同定不能炭化種実とした（表 1～3）。

以下に、大型植物遺体の産出状況を遺構別に示す（不明芽と同定不能炭化種実を除く）。

[現地取り上げ試料]

A 地点 SK1：モモ（完形）とアンズ、トウガン、ヘチマがわずかに得られた。

A 地点 SK9：モモ（完形）とオニグルミ（半割）がわずかに得られた。

A 地点 SK15：モモ（完形）とアンズ、ヒメグルミ（動物食痕）、オニグルミ（半割）がわずかに得られた。

A 地点 SK19：ニホンカボチャがやや多く、イネとトウガン、キュウリ属メロン仲間が少量、モモ（完形・半割・破片）とアンズ、キケマン属、スイカ、ヒョウタン仲間、スベリヒユ属がわずかに得られた。

表1 甲府城下町遺跡中央4丁目地点Ⅱ区の大型植物遺体 (1) (現地取上げ試料；括弧内は破片数)

分類群	採取位置	A地点													
		SK1	SK9	SK15	SK19	SK23	SK29	SK40	SK43	SK44	SK45	SK47	SK60	SK66	
		19世紀前葉～中葉	不明	幕末～明治初	19世紀初	明治初年	明治	幕末～明治	幕末	明治前半	19世紀	幕末	18世紀前葉～中葉	不明	
イチョウ	種子											1			
モモ	核 (完形)	3	2	1	3			1	1			2	2		
	核 (一部焦痕)							4	4						
	核 (半割)				(1)							(1)			
	核 (破片)				(1)		(16)								
アンズ	核		(1)	1	(1)					1					
ヒメグルミ	炭化核 (完形)												1		
	核 (半割)													(1)	
	核 (動物食痕)				(1)										
オニグルミ	核 (半割)		(1)	(1)							(1)		(1)		
	核 (破片)								(1)						
ヒエ属	有ふ果							2							
イネ	籾殻塊・籾殻							9857* 82.8g							
	籾殻				11 (++)										
キケマン属	種子				(1)										
トウガン	種子	1			22 (1)		79 (83)								
スイカ	種子				4 (1)										
キュウリ属メロン仲間	種子				44 (4)		2 (10)		4 (1)						
ニホンカボチャ	種子				50 (20)	18	12 (86)			2 (2)					
ヒョウタン仲間	種子				1				8						
へちま	種子	2 (2)													
スベリヒユ属	種子				7										
不明	昆虫遺体								(++)						

*イネ籾殻50点の湿潤重量0.42gから完形個体に換算した数
+:1-9, ++:10-49

表2 甲府城下町遺跡中央4丁目地点Ⅱ区の大型植物遺体 (2) (現地取上げ試料；括弧内は破片数)

分類群	採取位置	D地点									
		SK6					相生工区				
		SK11	SK10	SK11	SK12	SK14	SK6	SK7			
		幕末～明治初	18世紀末頃	18世紀末～19世紀初	幕末～明治	幕末					
モモ	核 (完形)			1	1	4	5	1	1		
	核 (一部焦痕)	1				5	4 (1)	2			
	核 (半割)								(1)		
	核 (破片)		(1)				(1)				
ウメ	核			1		2					
アンズ	核				1						
オニグルミ	核 (半割)					(1)					
	炭化核 (半割)					(1)					
トウガン	種子		1	6				1			
ニホンカボチャ	種子			1							
ヒョウタン仲間	種子			1							

A 地点 SK23：少量のニホンカボチャが得られた。

A 地点 SK29：トウガンが多く、ニホンカボチャがやや多く、少量のモモ（一部焦痕・破片）とキュウリ属メロン仲間が得られた。

A 地点 SK40：イネが非常に多かった。完形の籾殻 50 点の湿潤重量とイネ籾殻全体の湿潤重量 82.8g から求めた完形換算個体数は約 9,857 点であった。また、ヒエ属がわずかに得られた。

A 地点 SK43：モモ（完形・一部焦痕）とアンズ、キュウリ属メロン仲間、ヒョウタン仲間がわずかに得られた。

A 地点 SK44：モモ（完形・一部焦痕）とオニグルミ（破片）、ニホンカボチャがわずかに得られた。

A 地点 SK45：オニグルミ（半割）がわずかに得られた。

A 地点 SK47：イチョウとモモ（完形・半割）がわずかに得られた。

A 地点 SK60：モモ（完形）とヒメグルミ（完形）、オニグルミ（半割）がわずかに得られた。

A 地点 SK66：ヒメグルミ（半割）がわずかに得られた。

D 地点 SK6：モモ（一部焦痕）がわずかに得られた。

D 地点 SK11：モモ（破片）がわずかに得られた。

相生工区 SK10：トウガンがわずかに得られた。

相生工区 SK11：モモ（完形・破片）とウメ、アンズ、トウガン、ニホンカボチャ、ヒョウタン仲間がわずかに得られた。

相生工区 SK12：モモ（一部焦痕）とウメ、オニグルミ（半割）がわずかに得られた。

相生工区 SK14：少量のモモ（完形・一部焦痕・破片）が得られた。

相生工区 SK6：モモ（完形・一部焦痕）とトウガンがわずかに得られた。

相生工区 SK7：モモ（完形・半割）がわずかに得られた。

[堆積物試料]

表3 甲府城下町遺跡中央4丁目地点Ⅱ区から出土した大型植物遺体(3) (水洗試料;括弧内は破片数)

分類群	水洗量 (cc)	地点		相生工区				
		A地点						
		SK15	SK60	SK11	SK6	SK7		
遺構	-		3層	8層	③層	⑥層		
時期	幕末～明治初		18世紀前葉～中葉		18世紀末～19世紀初		幕末～明治	幕末
	300							
カヤ	葉		(1)		(1)			
	種子				(4)			(2)
スギ	種子							1
モミ	葉				(1)			
マツ属複維管束亜属	球果						1	
	葉		1 (+)					1 (2)
ブドウ	種子				1			1 (1)
ウメ	核				1 (4)			1 (1)
アンズ	核				2			
キイチゴ属	核	1 (1)						
クリ	果実							(7)
トチノキ	果実							(1)
	種子							(1)
サンショウ	種子	21						
カキノキ	種子				(1)			(4)
	種子 (未熟)							1
ツクサ	種子				1			
ウキヤガラ	果実	2	3					
	炭化果実		1					
スゲ属アゼスゲ節	果実							1
スゲ属B	果実				1			
カヤツリグサ属	果実							1
ホタルイ属	果実		2					
メヒシバ属	有ふ果				1		2	
オヒシバ属	種子						7	1
ヒエ	有ふ果		1					
ヒエ属	有ふ果				2 (1)			(5)
イネ	粃							1
	炭化粃	3 (1)						
	粃殻	12 (+)	50 (+++)	(+)	234 (+++)	33 (++)		156 (++++)
	炭化粃殻	15 (+)						
	炭化小穂軸							4
	炭化種子 (穎果)	30 (16)						1 (1)
エノコログサ属	有ふ果					2		1 (13)
コムギ	炭化種子							(1)
キケマン属	種子		1		9	13 (14)		23 (2)
アサ	核				1			(1)
トウガン	種子			1 (12)	6 (2)	(1)		1 (1)
キュウリ属メロン仲間	種子	738* 6.64g	1 (1)		8 (13)	(6)		(2)
ニホンカボチャ	種子	13 (34)			1 (1)	2		1 (2)
カタバミ属	種子	1				9 (1)		3
エノキグサ属	種子					(1)		
ソバ	果実		(10)		2 (10)			
サナエタデ-オオイヌタデ	果実					12 (3)		(1)
イヌタデ	果実							1
ミチヤナギ属	果実							1
ウシハコベ	種子					21 (1)		7
アカザ属	種子	1 (2)		1	(2)	30 (62)		
スベリヒユ属	種子	1		1	2	39 (7)		10
トウガラシ	種子				1			
ナス	種子		1		7 (4)	1		(2)
ゴマ	種子				4 (3)			
メハジキ属	果実					12		
シソ属	果実	2			5 (1)			(1)
タカサブロウ	果実		1					
不明	芽				(++)	(+)		(++)
不明	昆虫遺体		(+)	(+)	(++)	(++)		(++)

*キュウリ属メロン仲間種子100点の湿潤重量6.64gから完形個体に換算した数

+ : 1-9, ++ : 10-49, +++ : 50-99, ++++ : 100以上

A 地点 SK15: キュウリ属メロン仲間が非常に多いが、破片がほとんどであった。完形で状態の良いキュウリ属メロン仲間種子 100 点の湿潤重量と、キュウリ属メロン仲間全体の湿潤重量 6.64g から求めた完形換算個体数は、約 738 点であった。イネがやや多く、サンショウとニホンカボチャが少量、キイチゴ属とウキヤガラ、カタバミ属、アカザ属、スベリヒユ属、シソ属がわずかに得られた。

A 地点 SK60: イネが多く、ソバが少量、カヤとマツ属複雑管束亜属、ウキヤガラ、ホタルイ属、ヒエ、キケマン属、キュウリ属メロン仲間、ナス、タカサブドウがわずかに得られた。

相生工区 SK11: イネが多く、トウガンとキュウリ属メロン仲間、ソバ、ナスが少量、カヤとモミ、ブドウ、ウメ、アンズ、カキノキ、ツククサ、スゲ属 B、メヒシバ属、ヒエ属、キケマン属、アサ、ニホンカボチャ、アカザ属、スベリヒユ属、トウガラシ、ゴマ、シソ属がわずかに得られた。

相生工区 SK6: アカザ属がやや多く、イネとキケマン属、カタバミ属、サナエタデ - オオイヌタデ、ウシハコベ、スベリヒユ属、メハジキ属が少量、マツ属複雑管束亜属とメヒシバ属、オヒシバ属、エノコログサ属、トウガン、キュウリ属メロン仲間、ニホンカボチャ、エノキグサ属、ナスがわずかに得られた。

相生工区 SK7: イネが多く、エノコログサ属とキケマン属、スベリヒユ属が少量、カヤとスギ、マツ属複雑管束亜属、ブドウ、ウメ、クリ、トチノキ、カキノキ、スゲ属アゼスゲ節、カヤツリグサ属、オヒシバ属、ヒエ属、コムギ、アサ、トウガン、キュウリ属メロン仲間、ニホンカボチャ、カタバミ属、サナエタデ - オオイヌタデ、イヌタデ、ミチヤナギ属、ウシハコベ、ナス、シソ属がわずかに得られた。

次に、主な分類群について大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名や順番については米倉・梶田 (2003-) に準拠し、APG III リストの順とした。

(1) カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc. 葉・種子 イヌガヤ科

種子は赤褐色で、完形ならば上面観はほぼ円形、側面観は長卵形で両端がやや尖る。表面には縦方向でやや振じれる不規則な浅い隆起がある。種皮は厚く硬い。残存高 11.2mm、残存幅 9.5mm。

(2) イチョウ *Ginkgo biloba* L. 種子 イチョウ科

黄褐色で、やや扁平な楕円体。先端がわずかに突出する。表面は平滑で光沢がない。側方全周に角がある。高さ 22.9mm、残存幅 14.9mm、厚さ 12.5mm。

(3) ブドウ *Vitis vinifera* L. 種子 ブドウ科

赤茶色で、上面観は楕円形、側面観は基部が尖り、倒心形に近い倒卵形。基部は太く円柱状に突出し、先端が丸い。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面には中央の鈍稜上に 1 本の縦筋が走り、その両側に細く深い溝が 2 つある。種皮は薄く硬い。長さ 7.2mm、幅 4.6mm、厚さ 3.0mm。基部が太く円柱状に突出しており、先端が丸いため、栽培種のブドウと同定した。

(4) モモ *Amygdalus persica* L. 核 バラ科

黄褐色～茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。また、片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。完形個体は、高さ 32.4mm、幅 22.3mm、厚さ 16.1mm (図版 1-4)、高さ 28.2mm、幅 17.9mm、厚さ 12.0mm (図版 1-5)。一部に焦痕をもつ個体は、高さ 33.1mm、残存幅 19.1mm、厚さ 16.0mm。

(5) ウメ *Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de Vriese 核 バラ科

茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は卵円形。表面全体に、不規則で深い小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。高さ 17.6mm、幅 13.3mm、厚さ 10.2mm。

(6) アンズ *Armeniaca vulgaris* Lam. 核 バラ科

茶褐色で、上面観は扁平、側面観は円形。一方の側面では縫合線が発達する。表面には網目状の模様がある。縫合線付近には不規則な縦皺がある。高さ 21.2mm、幅 20.4mm、厚さ 11.3mm。

(7) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 果実 ブナ科

黒褐色で、完形ならば側面は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつく。残

存高 20.2mm、残存幅 14.6mm。

(8) ヒメグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *cordiformis* (Makino) Kitam. 核・炭化核 クルミ科

茶褐色で、上面観は楕円形、側面観は先端が尖る広卵形。外面中央にやや深い溝が走るが、それ以外は表面が平滑な点でオニグルミとは異なる。明瞭な縫合線がある。完形個体の大きさは、高さ 28.1mm、幅 25.5mm、厚さ 19.1mm、動物食痕のある個体は、高さ 23.1mm、残存幅 20.0mm、残存厚 7.9mm。

(9) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. 核・炭化核 クルミ科

黄褐色で、完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。溝や凹凸の間には微細な皺がある。内部は二室に分かれる。打撃痕のある個体は、頂部と上部が欠けている。半割の個体の大きさは、高さ 35.1mm、幅 27.2mm、残存厚 13.3mm。炭化した半割の個体は、高さ 26.2mm、幅 23.8mm、残存厚 11.8mm。

(10) トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 果実・種子 ムクロジ科

種子は黒色で、完形ならば楕円形。下半部は光沢がなく、上半部にはやや光沢がある。上下の境目の下に少し突出した着点がある。種皮は薄く、やや硬い。種皮は 3 層からなり、各層で細胞の配列方向が異なる。種皮の表面には指紋状の微細模様が密にある。表面は土で覆われている。残存高 15.4mm、残存幅 7.7mm。

(11) サンショウ *Zanthoxylum piperitum* (L.) DC. 種子 ミカン科

黒褐色で、上面観は卵形、側面観は楕円形ないし倒卵形。縦方向に中央部まで伸びる稜線があり、短い臍が斜め下を向く。網目状隆線は、低く細かい。種皮は厚く硬い。長さ 4.0mm、幅 3.5mm、厚さ 3.1mm。

(12) カキノキ *Diospyros kaki* Thunb. 種子・未熟種子 カキノキ科

黒褐色で、完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形。基部がやや曲がり、突出する。表面にはちりめん状のしわが見られる。明らかに大型の果実であったと推定される種子をカキノキとした。残存高 11.7mm、残存幅 6.2mm。

(13) スゲ属 B *Carex* sp. B 果実 カヤツリグサ科

淡黄色で、上面観は三稜形、側面観はやや下端が窄まる狭倒卵形。三面はややくぼむ。表面には微細な網目状隆線がある。先端に円形の穴がある。長さ 1.5mm、幅 1.0mm。

(14) ヒエ *Echinochloa esculenta* (A.Braun) H.Scholz 有ふ果 イネ科

黄褐色で、紡錘形。基部と先端はやや尖る。縦方向に細かい顆粒状の模様がある。内穎は膨らまず、外穎は中央部が最も膨らむ。長さ 2.2mm、幅 2.0mm。

(15) ヒエ属 *Echinochloa* spp. 有ふ果 イネ科

赤褐色で、紡錘形。縦方向に細かい筋がある。内穎は膨らまず、外穎は中央部が最も膨らむ。那須 (2017) に示された現生種の長幅比と比較すると、栽培型のヒエよりも野生植物のタイヌビエやイヌビエの長幅比に近かった。長さ 4.1mm、幅 2.2mm。

(16) イネ *Oryza sativa* L. 粃・炭化粃・粃殻 (粃殻塊)・炭化粃殻・炭化小穂軸・炭化種子 (穎果) イネ科

粃は赤褐色で、本来の粃の形態は、上面観が楕円形で側面観が長楕円形。2 条の稜があり、表面には四角形の網目状隆線と隆線上の顆粒状突起がある。長さ 6.2mm、幅 2.6mm。炭化粃は長さ 7.9mm、幅 3.4mm。粃殻塊は残存高 62.1mm、残存幅 89.7mm、残存厚 20.0mm。粃殻は長さ 8.1mm、残存幅 3.6mm。種子 (穎果) の上面観は両凸レンズ形、側面観は長楕円形で、一端に胚が残る。両面に縦方向の 2 本の浅い溝がある。長さ 5.3mm、幅 2.9mm。

(17) エノコログサ属 *Setaria* spp. 有ふ果 イネ科

黄褐色で、上面観は楕円形、側面観は長楕円形で先端がやや突出する。アワよりも細長く、乳頭突起が畝状を呈する。長さ 1.9mm、幅 1.1mm。

(18) アサ *Cannabis sativa* L. 核 アサ科

褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形で側面に稜がある。下端にはやや突出した楕円形の大きな着点

がある。表面には脈状の模様がある。長さ 4.5mm、幅 4.0mm、残存厚 2.6mm。

(19) トウガン *Benincasa hispida* (Thunb.) Cogn. 種子 ウリ科

淡褐色で、倒卵形。表面は平滑。基部両側に薄い突出部がある。周囲を縁取る肥厚があり、中央部は窪む。長さ 14.2mm、幅 7.8mm。

(20) スイカ *Citrullus lanatus* (Thunb.) Matsum. et Nakai 種子 ウリ科

赤褐色で、倒卵形。表面は平滑。基部両側に薄い突出部がある。周囲を縁取る肥厚がわずかに見られる。長さ 13.5mm、幅 8.5mm。

(21) キュウリ属メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は狭卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。藤下 (1984) によれば、メロン仲間は種子の大きさからおおむね次の 3 群に分けられるとしている。長さ 6.0mm 以下の雑草メロン型、長さ 6.1 ~ 8.0mm のマクワウリ・シロウリ型、長さ 8.1mm 以上のモモルディカメロン型である。今回、甲府城下町遺跡の A 地点 SK15 から出土した 10 点の大きさは、長さ 7.6 ~ 9.0 (平均 8.3 ± 0.5) mm、幅 3.2 ~ 4.2 (平均 3.8 ± 0.4) mm で、マクワウリ・シロウリ型~モモルディカメロン型の大きさであった。(表 4)。

(22) ニホンカボチャ *Cucurbita moschata* (Duchesne ex Lam.) Duchesne ex Poir. 種子 ウリ科

褐色で、上面観は扁平、側面観は肩が張る長倒卵形。周縁を毛が取り囲む。長さ 13.9mm、幅 6.9mm。

(23) ヒョウタン仲間 *Lagenaria siceraria* (Molina) Standl. 種子 ウリ科

やや淡黄褐色~褐色で、上面観は扁平、側面観は逆三角形。やや湾曲して左右は非対象、先端は W 字状で、基部から先端まで、浅く広い溝が 2 本走る。壁はややスポンジ質。長さ 16.6mm、幅 8.0mm。

(24) ヘチマ *Luffa aegyptica* Mill. 種子 ウリ科

淡茶色で、上面観は卵形で扁平、基部両側に 2 つの翼のような隆起点がある。周辺の周りが薄くなる。長さ 12.6mm、幅 9.1mm。

(25) ソバ *Fagopyrum esculentum* Moench 果実 タデ科

暗茶色で、側面観は頂部の尖った卵形、上面観は三角形。稜となる果実辺縁部はやや薄い。長さ 6.0mm、幅 4.5mm。

(26) トウガラシ *Capsicum annuum* L. 種子 ナス科

赤淡色で、上面観は扁平、側面観は楕円形。着点はやや窪む。表面には細長い畝状突起をもつ網目状隆線がある。着点近くの下端に嘴状の突起がある。長さ 3.0mm、残存幅 3.8mm。

(27) ナス *Solanum melongena* L. 種子 ナス科

黄褐色で、上面観は長楕円形、側面観は楕円形。着点は明瞭に窪む。表面には畝状突起が覆瓦状となる細かい網目状隆線がある。長さ 2.8mm、幅 3.6mm。

(28) ゴマ *Sesamum orientale* L. 種子 ゴマ科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は狭倒卵形。表面は平滑。縁に沿って浅い溝がある。長さ 3.3mm、幅 2.4mm。

(29) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ 1.4mm、幅 1.2mm。

表4 キュウリ属メロン仲間種子の大きさ

遺構	長さ	幅
A地点、SK15	8.7	4.1
	8.8	4.1
	9.0	4.2
	7.8	3.6
	8.5	4.1
	8.0	3.7
	8.2	3.6
	7.6	3.3
	8.3	3.9
	7.6	3.2
最小	7.6	3.2
最大	9.0	4.2
平均	8.3	3.8
標準偏差	0.5	0.4

(単位: mm)

4. 考察

甲府城下町遺跡の江戸時代～近代の遺構から出土した大型植物遺体を同定した結果、栽培植物のイチヨウとブドウ、モモ、ウメ、アンズ、カキノキ、ヒエ、イネ、コムギ、アサ、トウガン、スイカ、キュウリ属メロン仲間（マクワウリ・シロウリ型～モモルディカメロン型）、ニホンカボチャ、ヒョウタン仲間、ヘチマ、ソバ、トウガラシ、ナス、ゴマ、野生植物で食用可能なカヤとキイチゴ属、クリ、ヒメグルミ、オニグルミ、トチノキ、サンショウ、アカザ属、シソ属が得られた。

山梨県内の遺跡から出土したモモ核の事例を集成した新津（1999）によると、モモの核は時代ごとに大きさや形状が変化しており、弥生時代には比較的大きくかつ丸味が強い核が多いのに対し、平安時代から近世には縦長になる傾向があるという。江戸時代後期になると大型になり、平均で高さ 26.9mm、最大で 38.0mm 程度の核がみられるとしている。今回の甲府城下町遺跡（中央 4 丁目地点Ⅱ区）から産出したモモ核は、高さ平均 27.1 ± 2.4mm、幅平均 19.5 ± 2.1mm、厚さ平均 14.1 ± 1.9mm で、縦長の個体が多かった（表 5）。山梨県から出土している江戸時代後期のモモの平均値と比較すると、今回の甲府城下町遺跡のモモ核は平均値をやや上回る大きさであった。

18 世紀前葉～中葉と推定されている土坑である A 地点 SK60 から出土した栽培植物で果樹のモモ、野生植物で食用可能な焦げたヒメグルミとオニグルミには、動物食痕を有する個体や半割の個体も含まれ、内部の子葉を利用するために割られたと考えられる。また、A 地点 SK60 からは、畑に生育するヒエやキュウリ属メロン仲間、ソバ、ナス、水田植物イネ、水田雑草でもある湿生～抽水植物のウキヤガラやホタルイ属が産出した。そのほかの草本植物では、メヒシバ属やキケマン属など、乾いた草地や道端に生育する分類群が目立った。また、やや湿り気がある道端などには、タカサブロウが生えていた可能性がある。

18 世紀末～19 世紀初頭の D 地点 SK11 と、相生工区の SK10～SK12 と SK14 からは、栽培植物で果樹のブドウやモモ、ウメ、アンズ、カキノキ、畑作物のアサ、トウガン、キュウリ属メロン仲間、ニホンカボチャ、ヒョウタン仲間、ソバ、トウガラシ、ナス、ゴマが得られた。水田作物のイネと、湿生～抽水植物のスゲ属 B やヒエ属も産出した。周辺植生については、乾いた草地や荒地、畑などに生育するツククサやメヒシバ属、キケマン属、アカザ属、スベリヒユ属、シソ属がしばしば得られており、周囲には草地が存在したと考えられる。また、食用可能な野生植物のカヤも得られた。

19 世紀初頭の A 地点 SK19 からは、果樹のモモやアンズ、水田作物のイネ、畑作物のトウガンやスイカ、キュウリ属メロン仲間、ニホンカボチャ、ヒョウタン仲間が得られた。これらの栽培植物が周辺で栽培されていた可能性がある。

19 世紀前葉～中葉の A 地点の SK1 からは、果樹のモモ、畑作物のトウガンとヘチマが得られており、小規模な庭が存在した可能性もある。

幕末～明治時代の A 地点 SK15 や SK23、SK29、SK40、SK43～SK47、D 地点 SK6、相生工区 SK6、SK7 からは、果樹のブドウやモモ、ウメ、アンズ、畑に生育するコムギ、アサ、トウガン、キュウリ属メロン仲間、ニホンカボチャ、ヒョウタン仲間、ナスが目立った。とりわけキュウリ属メロン仲間が突出して多量で、800 点以上の種子が産出した。また、食用可能な野生植物のカヤやキイチゴ属、クリ、トチノキ、サンショウも得られた。水田作物のイネ、水田や畑にも生育するヒエ属やイヌタデ、ウシハコベ、湿生～抽水植物のウキヤガラやスゲ属アゼスゲ節、カヤツリグサ属も産出した。周辺植生については、乾いた草地や荒地、畑などに生育するメヒシバ属やオヒシバ属、エノコログサ属、キケマン属、カタバミ属、エノキグサ属、サナエタデ - オオイヌタデ、ミチヤナギ属、アカザ属、スベリヒ

表5 モモ核の大きさ (単位: mm)

遺構	高さ	幅	厚さ
A地点SK1	30.0	23.1	16.4
	25.1	16.1	13.2
	24.1	16.7	10.8
D地点SK6	29.2	22.3	14.8
相生工区SK7	30.6	20.1	14.5
A地点SK9	27.6	17.6	13.0
相生工区SK11ベルト一括	28.5	23.3	18.5
相生工区SK11(下層)	28.2	17.9	12.0
相生工区SK14	26.6	19.6	14.5
	26.6	20.3	14.3
	22.9	16.4	12.4
相生工区SK14一括	24.6	18.6	13.8
	23.4	18.8	14.4
	25.7	19.0	13.9
A地点SK15	29.3	20.7	14.0
A地点SK19	26.7	18.8	12.6
	26.1	19.5	12.7
	27.5	20.1	16.2
A地点SK43	32.2	22.3	16.1
A地点SK47	29.9	19.9	14.3
	25.3	16.3	11.0
A地点SK60	26.9	20.7	16.4
最小	22.9	16.1	10.8
最大	32.2	23.3	18.5
平均	27.1	19.5	14.1
標準偏差	2.4	2.1	1.9

ユ属、メハジキ属、シソ属がしばしば得られており、周囲には草地が存在したと考えられる。また、調査地が商人地である点を考慮すると、家庭菜園的な小規模な畑が存在した可能性もある。イネは、籾摺り後の籾殻がゴミとしてまとめて廃棄された可能性がある。イネ籾は、おおよその数を計数すると、約1万点に相当する量が含まれていた。

時期不明のA地点SK9やSK66からは、栽培のモモと野生植物で食用可能のヒメグルミとオニグルミが産出した。

土坑は、ほとんどが廃棄土坑と考えられており、以上のような食料残渣が堆積した可能性がある。また、堆積物試料では、ほぼすべての遺構からイネの籾殻やキュウリ属メロン仲間、ニホンカボチャ、トウガンなどが産出しており、籾殻や、ほかの食べられない種実が廃棄された可能性が考えられる。

調査地は、18世紀前葉から商人地として使用されているため、甲府城の築城以前に水田が存在していて、土坑の埋め戻しなどに水田土壌が使用され、水田雑草にもなる植物の種実が再堆積した可能性も考えられる。

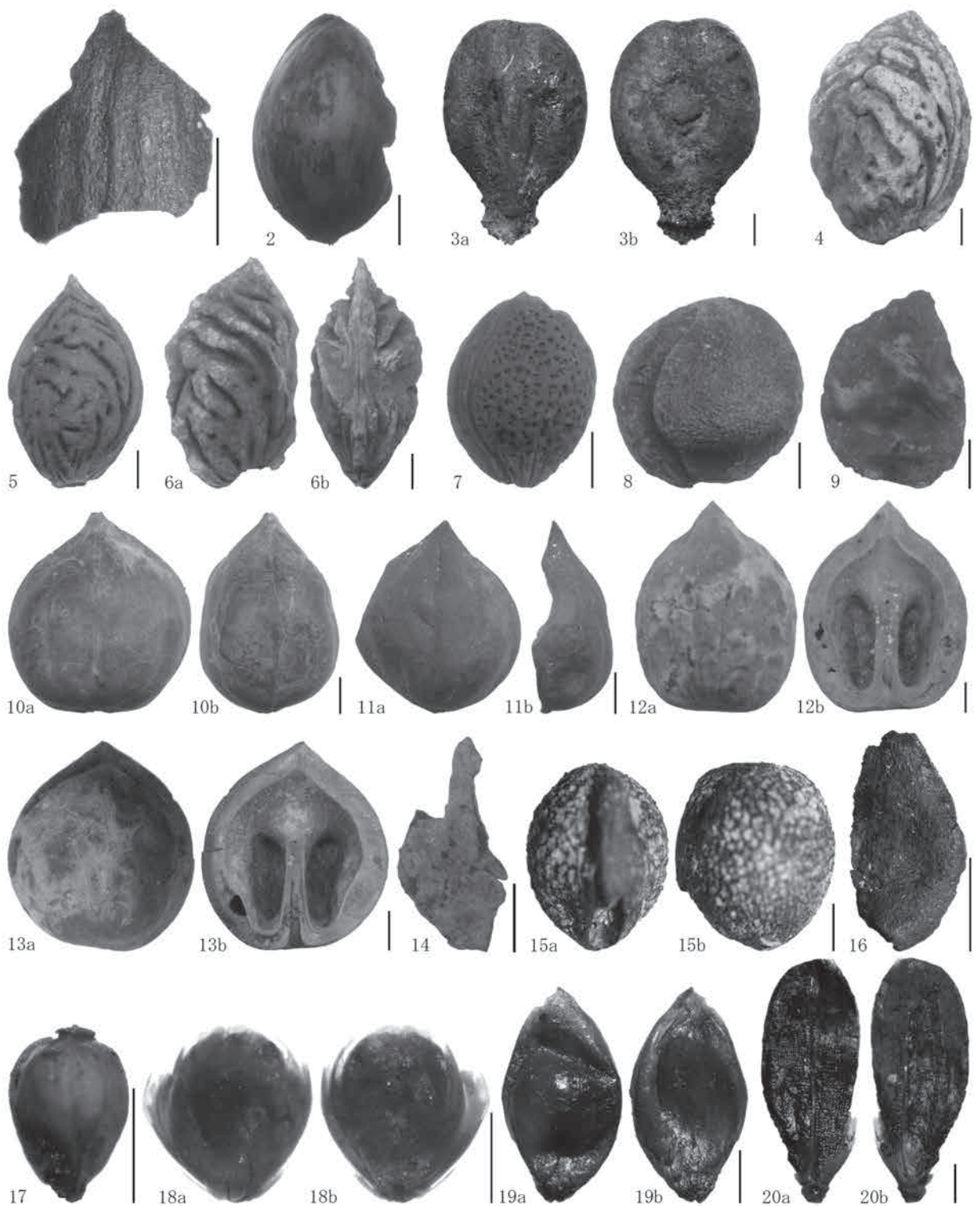
引用文献

藤下典之（1984）出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法．渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書」：638-654，同朋舎出版．

那須浩郎（2017）縄文時代にヒエは栽培化されたのか？ SEEDS CONTACT, 4, 27-29.

新津 健（1999）遺跡から出土するモモ核について—山梨県内の事例から—．山梨考古学論集，IV，361-374，山梨県考古学協会．

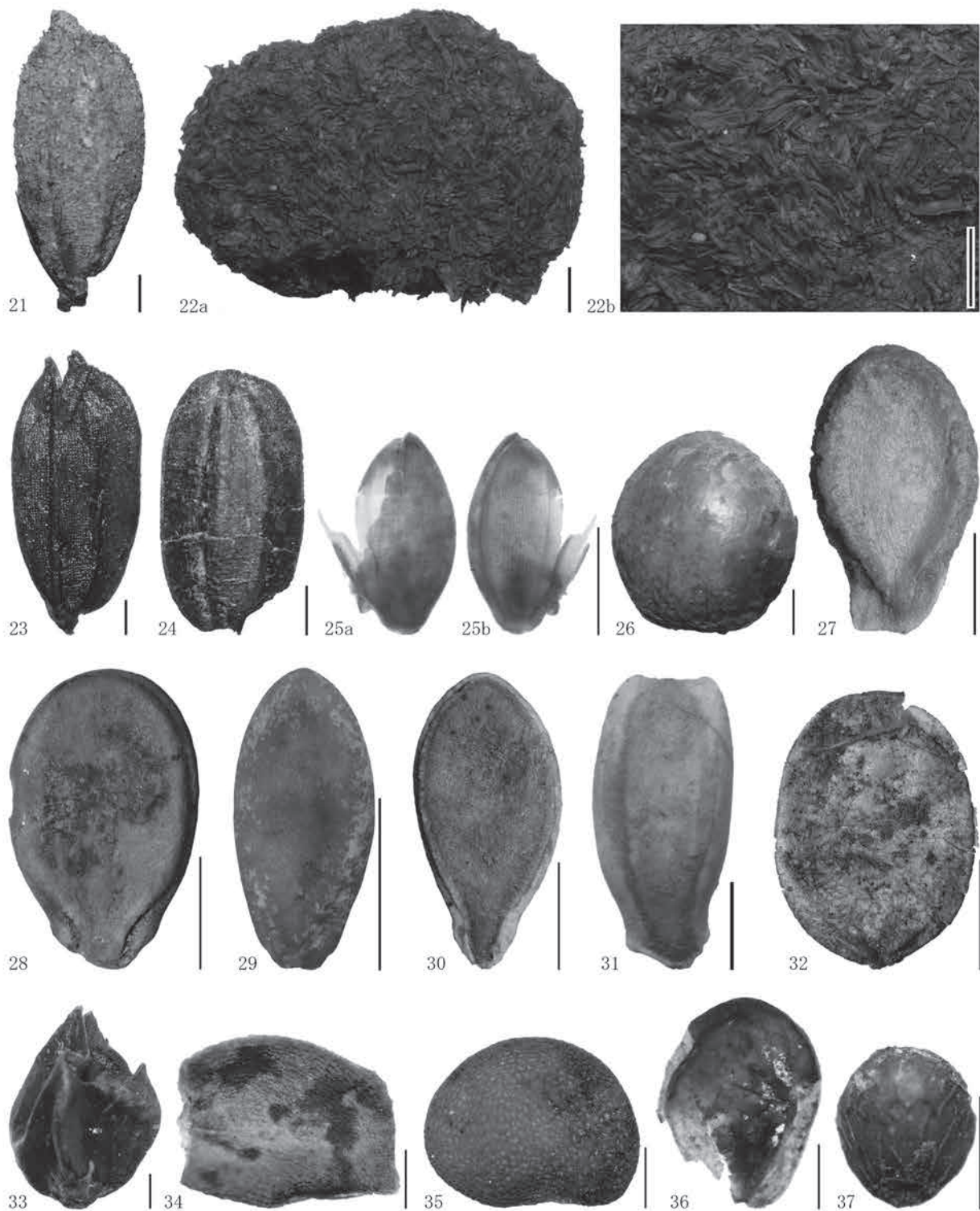
米倉浩司・梶田 忠（2003-）BG Plants 和名—学名インデックス (YList), <http://ylist.info>



スケール 1, 2, 4-14, 16:5mm, 3, 15, 17-20:1mm

図版1 甲府城下町遺跡（中央4丁目Ⅱ区②-2他相生工区）から出土した大型植物遺体（1）

1. カヤ種子（相生工区SK11、8層）、2. イチョウ種子（A地点SK47）、3. ブドウ種子（相生工区SK11、8層）、4. モモ核（完形）（A地点SK43）、5. モモ核（完形）（相生工区SK11、下層）、6. モモ核（一部焦痕）（D地点SK6）、7. ウメ核（相生工区SK12、下層）、8. アンズ核（A地点SK15）、9. クリ果実（相生工区SK7、⑥層）、10. ヒメグルミ炭化核（完形）（A地点SK60）、11. ヒメグルミ核（動物食痕）（A地点SK15）、12. オニグルミ核（半割）（相生工区SK12）、13. オニグルミ炭化核（半割）（相生工区SK12）、14. トチノキ種子（相生工区SK7、⑥層）、15. サンショウ種子（A地点SK15）、16. カキノキ種子（相生工区SK11、8層）、17. スゲ属B果実（相生工区SK11、8層）、18. ヒエ有ふ果（A地点SK60）、19. ヒエ属有ふ果（A地点SK40）、20. イネ粃（相生工区SK7、⑥層）



スケール 21, 23-26, 33-37:1mm, 22:10mm, 27-32:5mm

図版2 甲府城下町遺跡（中央4丁目Ⅱ区②-2他相生工区）から出土した大型植物遺体（2）

21. イネ炭化籾（A地点SK15）、22. イネ籾殻塊（A地点SK40）、23. イネ籾殻（A地点SK40）、24. イネ炭化種子（穎果）（A地点SK15）、25. エノコログサ属有ふ果（相生工区SK6、③層）、26. アサ核（相生工区SK11、8層）、27. トウガン種子（A地点SK29）、28. スイカ種子（A地点SK19）、29. キュウリ属メロン仲間種子（A地点SK15）、30. ニホンカボチャ種子（A地点SK19）、31. ヒョウタン仲間種子（A地点SK43）、32. ヘチマ種子（A地点SK1）、33. ソバ果実（相生工区SK11、8層）、34. トウガラシ種子（相生工区SK11、8層）、35. ナス種子（相生工区SK11、8層）、36. ゴマ種子（相生工区SK11、8層）、37. シソ属果実（相生工区SK11、8層）

第12節 甲府城下町遺跡（中央4丁目Ⅱ・相生工区）から出土した昆虫化石

森 勇一（東海シニア自然大学）・山本 華（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡は、相川によって形成された扇状地上に立地する近世の城下町遺跡である。ここでは、中央4丁目Ⅱ区②-2他相生工区において、遺構内の堆積物から得られた昆虫化石を同定し、当時の古環境について検討した。なお、同じ堆積物を用いて大型植物遺体分析も行われている（別項参照）。

2. 試料と方法

試料は、昭和測量株式会社によって、遺構から回収された土壌6試料である。試料が採取された遺構は、A地点のSK15（試料5）とSK60（試料1）、相生工区のSK11の3層（試料2）と8層（試料3）、SK6の③層（試料6）、SK7の⑥層（試料4）で、いずれも土坑である。SK6とSK7は廃棄土坑と推定されている。遺構の時期は、江戸時代～近代と考えられている。

堆積物試料の水洗はパレオ・ラボにて行ない、最小0.5mm目の篩を用いて各試料につき300ccを水洗した。昆虫の抽出は、実体顕微鏡下で行った。

昆虫化石の同定は、筆者採集の現生標本と実体顕微鏡下で1点ずつ比較のうえ実施した。昆虫化石は、いずれも節片に分離した状態で検出されており、本論に記した産出点数は、昆虫の個体数を示す数字ではない。

3. 結果

SK60（試料1）から計7点、SK11の3層（試料2）から7点、SK11の8層（試料3）から29点、SK7の⑥層（試料4）から18点、SK15（試料5）から19点、SK6の③層（試料6）から9点の、計89点の昆虫化石が検出された（表1、2）。産出した主な昆虫化石については、図版1、2に実体顕微鏡写真を掲げた。

分類群ごとにみると、目レベルまで同定したのは1目3点、科レベルは10科24点、属レベルは4属12点、種まで同定できたのは10種37点であった。これ以外に、不明甲虫とした昆虫が13点存在する。検出部位別では、上翅（Elytron）が最も多く、続いて前胸背板（Pronotum）、腿脛節（Legs）、腹部（Abdomen）などであった。

生態別では、地表性歩行虫が計23点（25.8%）、うち食糞性ないし食屍性昆虫は計11点（12.4%）である。陸生の食植性昆虫は計32点（40.0%）検出され、水生昆虫は、食植性および食肉性の両タイプを含め計2点（2.2%）確認されたのみであった。また、ハエ目が計17点（19.1%）出現している。

特徴的な種についてみると、最も多く発見された昆虫は、コメをはじめ貯蔵した穀類を加害するコクゾウムシ *Sitophilus zeamais*（11点）およびコクヌストモドキ *Tribolium castaneum*（9点）であった。次いで、発酵物食の小型のハエの仲間であるショウジョウバエ属の2タイプが出現している。ショウジョウバエ属1（*Drosophila* sp.1）としたハエは、長さ2.2～3.0mmの小型のショウジョウバエ、ショウジョウバエ属2（*Drosophila* sp.2）は、長さ3.0～4.0mmのやや大型のショウジョウバエである。前者が6点、後者が2点確認されている。このほかに、キンバエ *Lucilia caesar* が5点、オオクロバエ *Calliphora lata* が1点検出された。

食糞性甲虫では、獣糞や人糞に集まるエンマコガネ属 *Onthophagus* sp.（計3点）やマグソコガネ *Aphodius rectus*（4点）のほか、腐敗した植物質のみならず人畜の糞に集まるマグソガムシ *Pachysternum haemorrhoum* が計3点得られている。いずれも汚物集積の指標昆虫（森，1999）である。

周辺の植生を反映する食植性昆虫は、ドウガネブイブイ *Anomala cuprea* とコアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* がそれぞれ1点ずつ検出された。両種ともに、ヒトが植栽した果樹や畑作物に依存する人里昆虫（森，1999）である。

表1 甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅱ区)から出土した昆虫化石(試料1-6)

試料1: SK60 (A地点)

和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	層位	遺構名	時代
1 ショウジョウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	開蝕片	0.7	発酵物食	屋内性		SK60	18世紀前半～中葉
2 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	0.6	雑食性	地表性		SK60	18世紀前半～中葉
3 ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	右上翅	2.3	食植性	好植性		SK60	18世紀前半～中葉
4 エンマコガネ属	<i>Othophagus</i> sp.	前胸背板片	1.6	食糞性	地表性		SK60	18世紀前半～中葉
5 ガムシ科	Hydrophilidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.8	食植性	水生		SK60	18世紀前半～中葉
6 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.4	不明	不明		SK60	18世紀前半～中葉
7 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	腹部腹板	5.6	不明	不明		SK60	18世紀前半～中葉

試料2: SK11、3層(相牛工区)

和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	層位	遺構名	時代
1 エンマコガネ属	<i>Othophagus</i> sp.	胸部	1.7	食糞性	地表性	3層	SK11	18世紀末～19世紀初
2 コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.2	食植性	好植性	3層	SK11	18世紀末～19世紀初
3 コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.2	食植性	好植性	3層	SK11	18世紀末～19世紀初
4 ハムシ科	Crysmelidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.3	食植性	好植性	3層	SK11	18世紀末～19世紀初
5 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.6	不明	不明	3層	SK11	18世紀末～19世紀初
6 ハムシ科	Crysmelidae gen. et sp. indet.	上翅片	1.3	食植性	好植性	3層	SK11	18世紀末～19世紀初
7 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.1	不明	不明	3層	SK11	18世紀末～19世紀初

試料3: SK11、8層(相牛工区)

和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	層位	遺構名	時代
1 コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左右上翅	2.2	貯穀性	家屋害虫	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
2 マグソコガネ	<i>Pachysternum haemorrhoum</i> Motschulsky	右上翅	2.2	食糞性	地表性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
3 コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	2.3	貯穀性	家屋害虫	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
4 マグソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	右上翅	1.7	食糞性	地表性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
5 コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左右上翅	2.3	貯穀性	家屋害虫	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
6 マグソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	右上翅片	1.6	食糞性	地表性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
7 マグソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	右上翅	3.6	食糞性	地表性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
8 マグソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)	上翅片	3.2	食糞性	地表性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
9 ショウジョウバエ属2	<i>Drosophila</i> sp. 2	開蝕片	4.0	発酵物食	屋内性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
10 ショウジョウバエ属2	<i>Drosophila</i> sp. 2	開蝕片	3.2	発酵物食	屋内性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
11 キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	開蝕(後気門)	2.8	雑食性	屋外性など	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
12 コクストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	前胸背板右半	1.8	貯穀性	家屋害虫	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
13 コクストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	前胸腹板	1.7	貯穀性	家屋害虫	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
14 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	4.2	食屑性	地表性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
15 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板片	2.8	食屑性	地表性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
16 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	3.1	食屑性	地表性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
17 マメゲンゴロウ	<i>Agabus japonicus</i> Sharp	左上翅上半部	2.8	食肉性	水生	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
18 コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.3	貯穀性	家屋害虫	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
19 エンマコガネ属	<i>Othophagus</i> sp.	前胸背板片	3.8	食糞性	地表性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
20 マグソコガネ	<i>Pachysternum haemorrhoum</i> Motschulsky	前胸背板	1.5	食糞性	地表性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
21 ショウジョウバエ属1	<i>Drosophila</i> sp. 1	開蝕片	1.9	発酵物食	屋内性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
22 ショウジョウバエ属1	<i>Drosophila</i> sp. 1	開蝕片	2.4	発酵物食	屋内性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
23 コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左右上翅	1.7	貯穀性	家屋害虫	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
24 キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	開蝕	3.9	雑食性	屋外性など	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
25 トビロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i> (Emery)	頭部	0.6	雑食性	地表性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
26 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板片	5.9	食屑性	地表性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
27 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.4	不明	不明	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
28 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.6	不明	不明	8層	SK11	18世紀末～19世紀初
29 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	食屑性	地表性	8層	SK11	18世紀末～19世紀初

試料4: SK7、⑥層(相牛工区)

和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	層位	遺構名	時代
1 コアオハナムグリ	<i>Oxyctetonia lucuda</i> (Faldernann)	右上翅片	6.5	食植性	好植性	⑥層	SK7	幕末
2 コクストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	右上翅	2.4	貯穀性	家屋害虫	⑥層	SK7	幕末
3 コクストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上翅上半部	1.3	貯穀性	家屋害虫	⑥層	SK7	幕末
4 キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	開蝕片	3.3	雑食性	屋外性など	⑥層	SK7	幕末
5 コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	後胸腹板	1.6	貯穀性	家屋害虫	⑥層	SK7	幕末
6 マグソコガネ	<i>Pachysternum haemorrhoum</i> Motschulsky	右上翅	1.4	食糞性	地表性	⑥層	SK7	幕末
7 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	頭部	1.8	食屑性	地表性	⑥層	SK7	幕末
8 キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	開蝕片	3.2	雑食性	屋外性など	⑥層	SK7	幕末
9 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板	2.8	食屑性	地表性	⑥層	SK7	幕末
10 ショウジョウバエ属1	<i>Drosophila</i> sp. 1	開蝕	1.8	発酵物食	屋内性	⑥層	SK7	幕末
11 ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	右上翅片	4.2	食植性	好植性	⑥層	SK7	幕末
12 ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	左上翅片	2.0	食植性	好植性	⑥層	SK7	幕末
13 コメツクムシ科	Flateridae gen. et sp. indet.	上翅片	2.2	食植性	好植性	⑥層	SK7	幕末
14 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	腿脛節	腿脛1.2	不明	不明	⑥層	SK7	幕末
15 コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上翅	1.6	貯穀性	家屋害虫	⑥層	SK7	幕末
16 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	大顎	3.0	不明	不明	⑥層	SK7	幕末
17 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	大顎	4.2	不明	不明	⑥層	SK7	幕末
18 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	頭部	2.2	不明	不明	⑥層	SK7	幕末

試料5: SK15 (A地点)

和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	層位	遺構名	時代
1 コクストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上翅	2.4	貯穀性	家屋害虫		SK15	幕末～明治初
2 コクストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上翅	2.6	貯穀性	家屋害虫		SK15	幕末～明治初
3 コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	左上翅	1.8	貯穀性	家屋害虫		SK15	幕末～明治初
4 コクストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上翅片	1.9	貯穀性	家屋害虫		SK15	幕末～明治初
5 コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	1.3	貯穀性	家屋害虫		SK15	幕末～明治初
6 ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> Hope	腹部腹板	3.1	食植性	好植性		SK15	幕末～明治初
7 ショウジョウバエ属1	<i>Drosophila</i> sp. 1	開蝕	2.0	発酵物食	屋内性		SK15	幕末～明治初
8 キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	開蝕	2.2	雑食性	屋外性など		SK15	幕末～明治初
9 キスイムシ科	Cryptophagidae gen. et sp. indet.	左上翅	1.2	食植性	好植性		SK15	幕末～明治初
10 オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	開蝕片	1.8	汚物食	屋外性、便池		SK15	幕末～明治初
11 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部	1.5	雑食性	地表性		SK15	幕末～明治初
12 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.3	不明	不明		SK15	幕末～明治初
13 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	小楯板	1.2	不明	不明		SK15	幕末～明治初
14 エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	腿脛	1.1	食屑性	地表性		SK15	幕末～明治初
15 ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	開蝕片	1.3	雑食性	屋外性など		SK15	幕末～明治初
16 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腿脛片	1.5	雑食性	地表性		SK15	幕末～明治初
17 ショウジョウバエ属1	<i>Drosophila</i> sp. 1	開蝕片	1.8	発酵物食	屋内性		SK15	幕末～明治初
18 ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	開蝕片	1.8	雑食性	屋外性など		SK15	幕末～明治初
19 ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	開蝕片	1.8	雑食性	屋外性など		SK15	幕末～明治初

試料6: SK6、③層(相牛工区)

和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	層位	遺構名	時代
1 コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	0.8	貯穀性	家屋害虫	③層	SK6	幕末～明治
2 コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸背板	0.7	貯穀性	家屋害虫	③層	SK6	幕末～明治
3 コクストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上翅上半	1.3	貯穀性	家屋害虫	③層	SK6	幕末～明治
4 ハムシ科	Crysmelidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.3	食植性	好植性	③層	SK6	幕末～明治
5 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部	2.5	雑食性	地表性	③層	SK6	幕末～明治
6 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片	1.8	不明	不明	③層	SK6	幕末～明治
7 コクストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	上翅片	1.3	貯穀性	家屋害虫	③層	SK6	幕末～明治
8 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	雑食性	地表性	③層	SK6	幕末～明治
9 マルガタガミムシ属	<i>Amara</i> sp.	上翅片	2.5	雑食性	地表性	③層	SK6	幕末～明治

表2 甲府城下町遺跡（中央4丁目Ⅱ区）における昆虫分析結果

		和名	学名	試料 番号	試料	試料	試料	試料	試料	試料	合 計
					1	2	3	4	5	6	
水生	植物	マメゲンゴロウ	<i>Agabus japonicus</i> Sharp			1					1
		ガムシ科	Hydrophilidae gen. et sp. indet.	1							1
地表性	食糞・食屍性	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	1	1	1					3
		マグソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)			4					4
		マグソガムシ	<i>Pachysternum haemorrhoum</i> Motschulsky			2	1				3
		エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.					1			1
	雑食性	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.						2	2	4
		マルガタガミムシ属	<i>Amara</i> sp.							1	1
		ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.			5	2				7
陸生	食植性	コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.		2						2
		ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> Hope					1			1
		コアオハナムグリ	<i>Oxycetonia jucunda</i> (Faldermann)				1				1
		ハムシ科	Crysolimelidae gen. et sp. indet.		2					1	3
		ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	1			2				3
		コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky			5	2	2	2		11
		コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst			2	2	3	2		9
		コメツキムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.				1				1
		キスイムシ科	Cryptophagidae gen. et sp. indet.					1			1
その他	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.						3			3
	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett						1			1
	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)			2	2	1				5
	ショウジョウバエ属1	<i>Drosophila</i> sp.1	1		2	1	2				6
	ショウジョウバエ属2	<i>Drosophila</i> sp.2			2						2
	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	1								1
	トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i> (Emery)			1						1
	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	2	2	2	4	2	1			13
				7	7	29	18	19	9	89	

4. 考察

甲府城下町遺跡（中央4丁目Ⅱ区②-2他相生工区）から得られた昆虫化石は、同遺跡中央4丁目Ⅰ区の調査試料と合わせてひとまとまりの試料である（別項参照）。今回の調査区においては、合計89点の昆虫化石が検出されたが、その数や中身ともに断片的であり、遺跡の正しい古環境復元には限界がある。ここでは、SK11とSK60（試料1～3：18世紀前葉から19世紀初め）と、SK6、SK7、SK15（試料4～6：幕末から明治）の2つの時期に分け、それぞれの時期の古環境について述べる。

① 18世紀前葉から19世紀初め（SK11、SK60：試料1～3）

いずれの試料からも、エンマコガネ属に同定される食糞性昆虫が確認された。なかでも、18世紀末～19世紀初めの遺構とされるSK11の8層（試料3）からは、エンマコガネ属に加えて汚物集積の指標昆虫と考えてよいマグソコガネ（4点）やマグソガムシ（2点）、生ゴミや腐敗物に集まるキンバエ（2点）、ショウジョウバエ属（4点）などが得られており、この時期のヒトの集中居住に伴って、地表環境が汚染されていた状況が容易に推定される。また、同じSK11の8層（試料3）からコメや麦など貯蔵された穀物を好むコクゾウムシ（5点）やコクヌストモドキ（2点）が検出されている。こうした貯穀性昆虫の存在からは、遺跡内に穀類の貯蔵施設が存在した可能性が指摘される。ほぼ同じ時期の穀物貯蔵に関わる施設の有無は、愛知県名古屋城三の丸遺跡（森・上田，2005）、宮城県沼向遺跡（森，2010）からも得られている。

② 幕末から明治 (SK6、SK7、SK15：試料 4～6)

いずれの試料からも、貯穀性昆虫であるコクゾウムシとコクヌストモドキが検出された。18 世紀前葉から 19 世紀初めの時期に引き続き、遺跡内に穀物貯蔵施設が存在した可能性がある。一方で、SK6、SK7、SK15 (試料 4～6) 産出の食糞性昆虫については、幕末の SK7 の⑥層 (試料 4) から検出されたマグソガムシ (1 点) のみであった。この結果から、時代が下るにつれてヒトの影響がやや減少していった可能性が考えられる。幕末の SK7 (試料 4) からはヒトが植栽した果樹や草本類の花粉を食するコアオハナムグリ、幕末から明治初めの SK15 (試料 5) からは同じくヒトが植栽した果樹のみならず、二次林の樹葉を加害するドウガネブイブイが認められるようになり、遺跡周辺環境に変化があったと考えられる。

5. おわりに

甲府城下町遺跡 (中央 4 丁目Ⅱ区② -2 他相生工区) からは、貯蔵した穀類に依存するコクゾウムシやコクヌストモドキが確認され、遺跡内において穀物貯蔵庫が存在した可能性が考えられる。

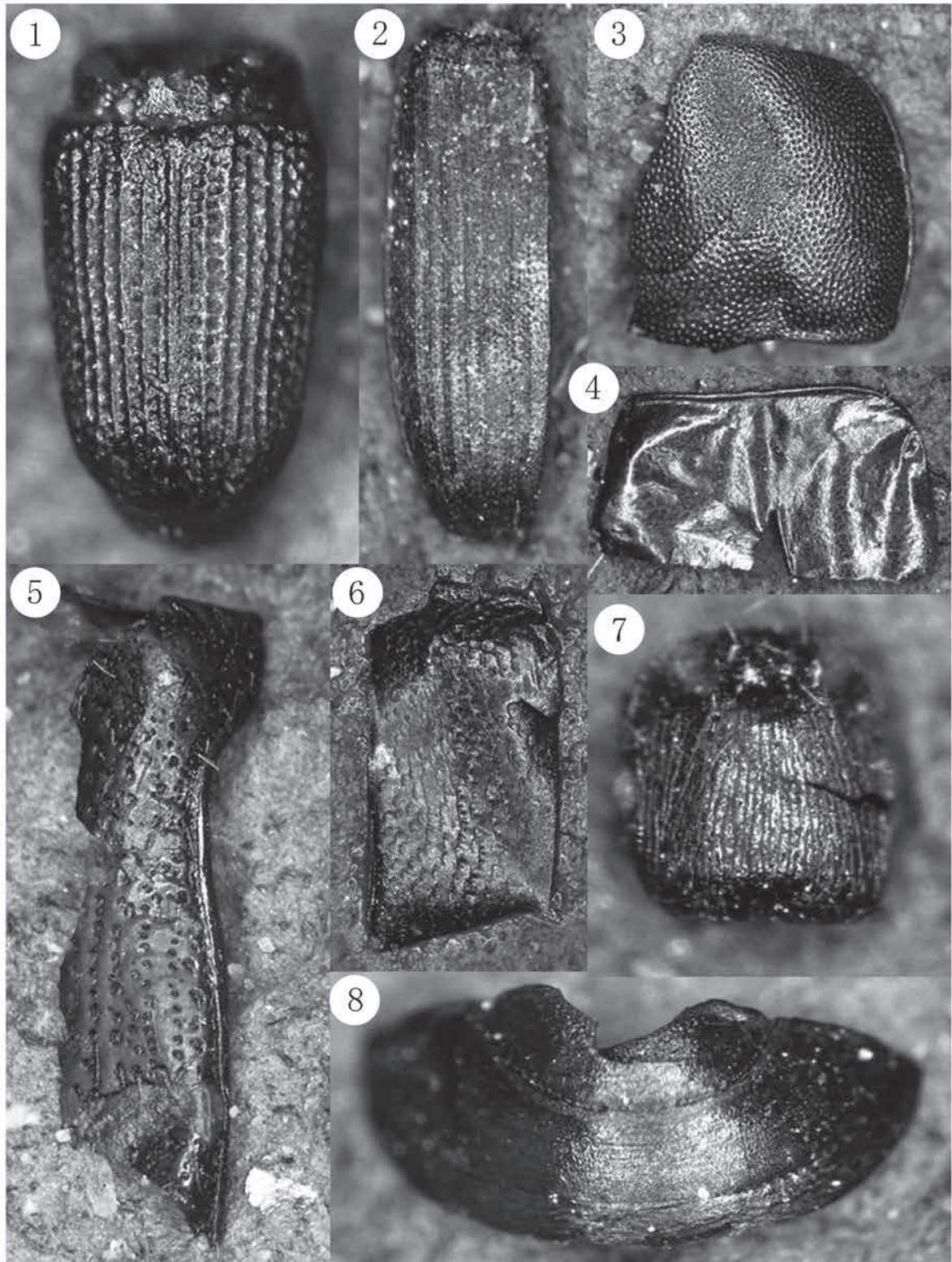
ヒトの集中居住に関わる昆虫は、とくに遺跡の前半期に顕著であり、マグソコガネやエンマコガネ属、マグソガムシに加え、キンバエやショウジョウバエなどが検出された。以上のように、甲府城下町が栄えていた様子を、出現昆虫を通じてうかがい知ることができる。

引用文献

森 勇一 (1999) 昆虫化石よりみた先史～歴史時代の古環境変遷史. 歴博国際シンポジウム「過去 1 万年間の陸域環境の変遷と自然災害史」国立歴史民俗博物館研究報告, 81, 311-342.

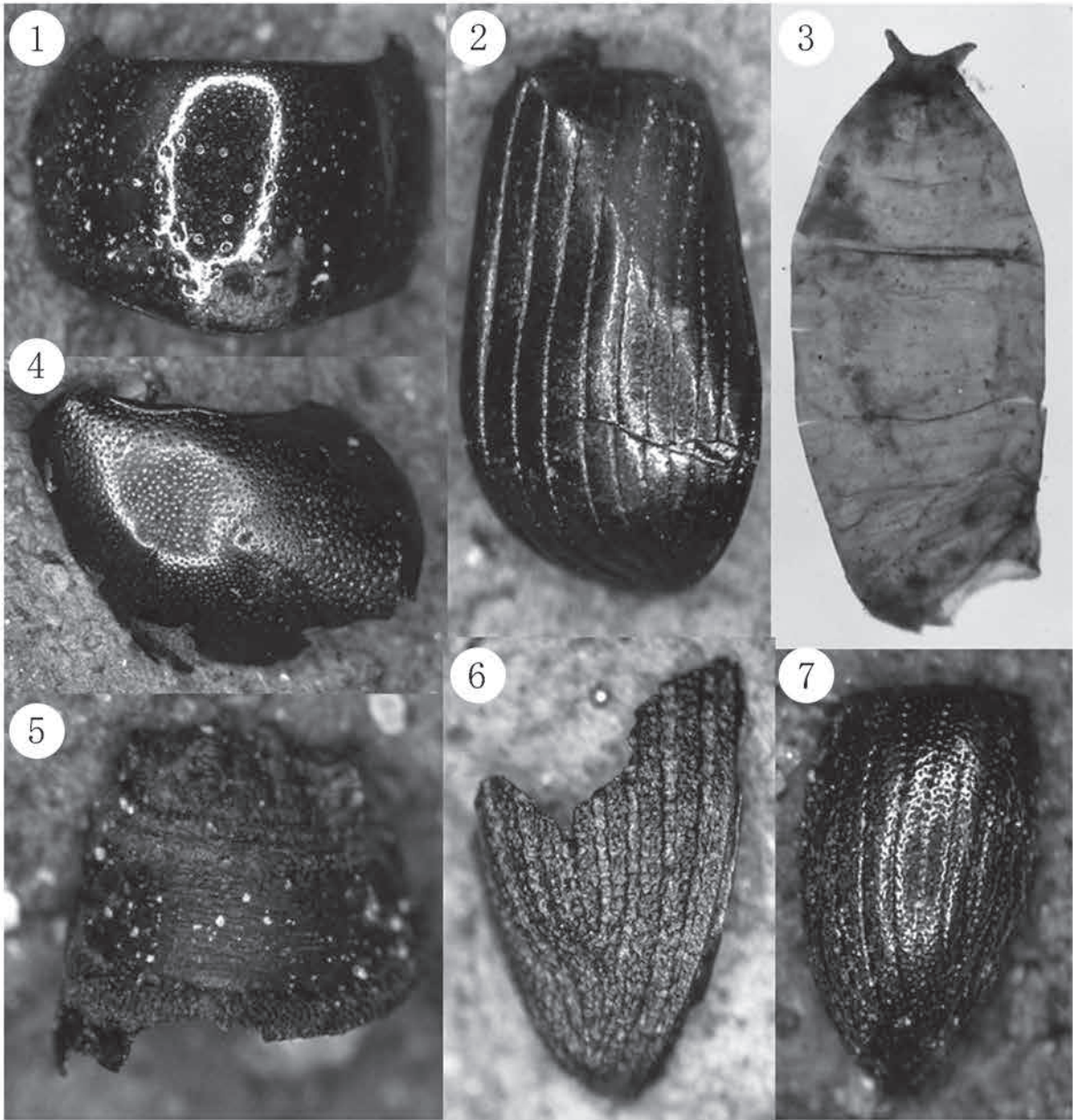
森 勇一・上田恭子 (2005) 三の丸遺跡の埋桶の埋土より産出した双翅目のサナギについて. 愛知県埋蔵文化財センター編「愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第 127 集) 名古屋城三の丸遺跡 (Ⅶ)」: 242-246, 愛知県埋蔵文化財センター.

森 勇一 (2010) 仙台市沼向遺跡から産出した昆虫化石について. 「仙台市文化財調査報告書 (第 360 集) 沼向遺跡第 4～34 次調査—宮城県仙台港背後土地地区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ (第 9 分冊)」: 217-224, 仙台市教育委員会.



図版1 甲府城下町遺跡中央4丁目Ⅱ区②-2他相生工区から産出した昆虫化石 (1)

1. コクゾウムシ *Sitophilus zeamais* Motschulsky 左右上翅 長さ2.2mm (試料3、標本1)
2. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* Herbst 左上翅 長さ2.4mm (試料5、標本1)
3. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* Herbst 前胸背板右半部 幅1.8mm (試料3、標本12)
4. マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* Sharp 左上翅上半部 幅2.8mm (試料3、標本17)
5. コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* Faldermann 右上翅片 長さ6.5mm (試料4、標本1)
6. ドウガネブイブイ *Anomala cuprea* Hope 腹部腹板 長さ3.1mm (試料5、標本6)
7. トビイロシワアリ *Tetramorium tsushimae* (Emery) 頭部 長さ0.6mm (試料3、標本25)
8. キンバエ *Lucilia caesar* (Linnaeus) 囲蛹片 幅2.8mm (試料3、標本11)



図版2 甲府城下町遺跡中央4丁目Ⅱ区②-2他相生工区から産出した昆虫化石 (2)

1. マグソコガネ *Aphodius rectus* (Motschulsky) 前胸背板 幅2.2mm (試料3、標本3)
2. マグソコガネ *Aphodius rectus* (Motschulsky) 右上翅 長さ3.6mm (試料3、標本12)
3. ショウジョウバエ属 *Drosophila* sp. 囲蛹 長さ1.9mm (試料3、標本21)
4. エンマコガネ属 *Onthophagus* sp. 前胸背板片 幅3.8mm (試料3、標本19)
5. オオクロバエ *Calliphora lata* Coquillett 囲蛹片 幅1.8mm (試料5、標本10)
6. ゾウムシ科 *Curculionidae* gen. et sp. Indet. 左上翅片 長さ2.0mm (試料4、標本12)
7. マグソガムシ *Pachysternum haemorrhoum* Motschulsky 右上翅 長さ1.4mm (試料4、標本6)

第7章 総括

第1節 遺構の変遷

今回の調査は、上連雀町と魚町が交差する北東の角から柳町四丁目に向かい南北方向に横断するI工区及びII工区と、柳町四丁目の西側の街区にあたる相生工区を対象にして行った。ここでは出土遺物から時期の判断ができる遺構を抽出し、各調査区の特徴的な遺構を時期毎に整理する。

〈17世紀～18世紀前葉〉

17世紀～18世紀前葉と考えられる遺構は少ない。I工区では④-SK4、⑤-SK12、⑥-SK56がある。④-SK4からは肥前系京焼風陶器が出土している。高台内に印銘が押されており、17世紀後葉から18世紀前葉に比定されるものである。⑤-SK12からは志野の小皿が出土している。土坑内には桶の底板が残存しており、埋桶の土坑とみられる。北側に隣接する⑤-SK15も埋桶の土坑であり、2基が併存していた可能性がある。⑥-SK56からは肥前系京焼風陶器とともに漆器碗、連歯下駄、露卯下駄が出土している。露卯下駄はある時期に陰卯下駄と交代したといわれ、古泉弘氏（古泉 2001）によると、『我衣』や『守貞謾稿』では貞享年間（1684～1688）としているが、江戸の出土資料から見るかぎり、露卯から陰卯への変換は『我衣』や『守貞謾稿』の記述よりはるかに遅く、1800年前後に急速に進んだものとされている。

II工区ではA-SK49、B-SK3、C-SK23がある。A-SK49からは志戸呂系の灯明受皿が出土している。17世紀末から18世紀前葉に比定される。受け内面下端がくびれずに立ち上がり、底部が平坦に削られている。長佐古真也氏の分類（長佐古 1993）でC1群c類とされるものである。B-SK3からは高台内に印銘が押された肥前系京焼風陶器や肥前系の磁器碗、泉州麻生系の焼塩壺など、17世紀後葉から18世紀前葉にかけての陶磁器、土器が出土している。大形の土坑で廃棄土坑と考えられる。C-SK23からは京・信楽系の陶器碗、肥前系の刷毛目碗が出土している。17世紀後葉から18世紀前葉に比定される。

〈18世紀中葉～後葉〉

18世紀中葉以降となると遺構の数は増加し、特にゴミ処理用の廃棄土坑が多くみられる。この時期の廃棄土坑と考えられる遺構は、I工区では⑤-SK1、⑤-SK3、⑥-SK6、⑥-SK13、⑥-SK17、⑦-SK1、⑦-SK15、⑦-SK16、⑦-SK17、⑦-SK19があり、II工区及び相生工区ではA-SK16、A-SK19、A-SK60、B-SK4、C-SK21、C-SK33、C-SX4、D-SK3、D-SK4、D-SK9、D-SK11、相生-SK10、相生-SK11、相生-SK12がある。

ゴミ処理用の廃棄土坑には堆積状況から、①遺物を含むほぼ単一の層が覆土の大半を占め、多くの場合開口部付近や坑底に遺物を含まない層が入るもの、②覆土が細かく分層され、そのそれぞれの層に陶磁器や土器、貝殻や魚骨、灰など各種の遺物が多量に含まれるもの、③これらが複合したもの、の三種が認められている。これらはそれぞれ①火災等の災害や儀礼的な宴会の後片付け、降下した火山灰の処理、屋敷替えといった非日常的な事象の結果生じた一括的な廃棄、②日常的な活動の結果生じた比較的少量の廃棄物の継続的な廃棄、③これらが複合した廃棄行為の反映、と考えられている（小川 2001）。

本調査で確認された廃棄土坑の中で、①に分類されるものは、⑤-SK1、⑤-SK2、⑥-SK17、⑦-SK15、⑦-SK17、C-SK33、D-SK3、D-SK9、D-SK11、②に分類されるものは、⑥-SK13、A-SK60、C-SK21、C-SX4、相生-SK10、相生-SK11、相生-SK12、③に分類されるものは、⑦-SK1、⑦-SK16、⑦-SK19、A-SK16、A-SK19、B-SK4、D-SK4と考えられる。

II工区及び相生工区では上水遺構も確認されている。C-SE2の坑底から桶の底板が検出されており、北側に竹樋が埋設されたC-SD3が走り、C-SE2の埋桶に接続していたと考えられる。相生工区では相生-SK17に埋設された埋桶と、相生-SD2に埋設された竹樋が接続していたと考えられる。また相生-SD2の南端は相生-SD1と繋がり、小形の埋桶を枘として敷設して、流路を曲げていた痕跡がある。また相生-SD3に埋設された

竹樋は継手により流路を曲げている。相生 -SD3 は相生 -SK17 により切られており、この区画で何度か上水路の付け替えが行われた形跡がある。

〈19 世紀前葉～中葉〉

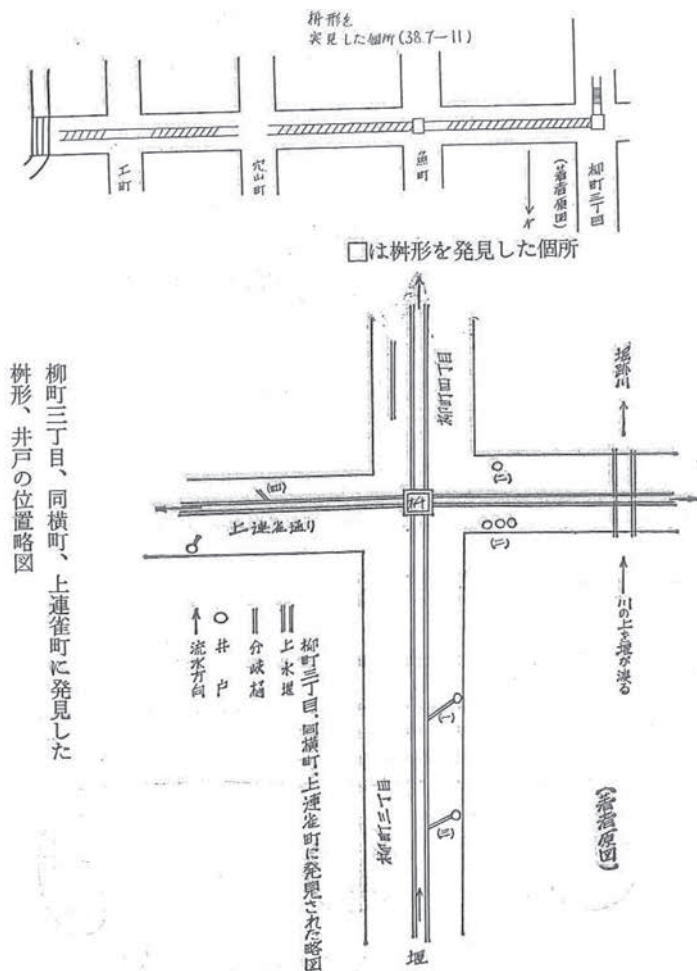
19 世紀初頭に瀬戸美濃系磁器が出現し、これ以後全国各地に急速に流通する。瀬戸美濃系磁器の存在がこの時期の指標となる。前代に引き続き、廃棄土坑や上水遺構が検出されている。この時期の廃棄土坑と考えられる遺構は、I 工区では⑦ -SK22、⑦ -SK23、⑦ -SK32、⑦ -SK36、⑦ -SK37 があり、II 工区及び相生工区では A-SK1、A-SK15、A-SK19、A-SK40、A-SK43、A-SK67、B-SK2、C-SK19、C-SK29、C-SK31、相生 -SK3、相生 -SK4、相生 -SK5、相生 -SK6、相生 -SK7 がある。これら廃棄土坑の中で、前述の①に分類されるものは、⑦ -SK22、⑦ -SK23、⑦ -SK36、⑦ -SK37、A-SK1、C-SK19、C-SK29、C-SK31、相生 -SK3、相生 -SK4、相生 -SK5、相生 -SK6、②に分類されるものは、⑦ -SK32、A-SK15、A-SK19、A-SK40、A-SK43、A-SK67、B-SK2、相生 -SK7 と考えられる。

上水遺構については、I 工区では③ -SD3、③ -SD4、⑤ -SD4 で竹樋が検出されている。切り合い関係などから、この頃のものと考えられるが、いずれも明確な時期は不明である。また石組の掘り抜き井戸である③ -SE1 が検出されている。井戸枠の石組に一部石臼の転用材が使用されていた。II 工区及び相生工区では B-SD3、C-SD2、相生 -SD1、相生 SK15 がある。B-SD3 には箱形の木樋が埋設されている。西隣には竹樋が木樋に並行して埋設されていた。C-SD2、相生 -SD1 には竹樋が埋設されている。相生 -SD1 の西端は相生 -SK15 の埋桶と接続する。前述した相生 -SD2、相生 -SD3、相生 -SK17 の中で一番新しく敷設されたものと考えられる。昭和 38 年の下水工事中に、現在の間屋街入り口の交差点の道路下で、石垣、石蓋による堰が発見されている(挿図 1) (露木 1966)。柳町三丁目から四丁目に向かって水が流れていたと記録されており、この堰から B-SD3 及び相生工区内の各上水遺構に水を引き込んでいたと考えられる。

〈近代 (19 世紀後葉以降)〉

明治時代に入り、磁器の染付顔料に西洋コバルトやクロームを用いる製品が現れ、型紙摺や銅板転写などの技法を用いた製品が出現する。これ以降の時代を近代としてまとめた。廃棄土坑、上水遺構の他、各調査区で検出されている土地境の石列や礎石などは、ほぼこの時代に属するものと考えられる。

廃棄土坑としては、II 工区及び相生工区に位置する A-SK38、A-SK44、A-SE1、相生 -SK1 がある。この中で、A-SK38、A-SK44、A-SE1 は遺物の組成が幕末期とほぼ変わらないため、明治期でも早い段階の遺構であると考えられる。A-SK38、A-SE1 の坑底からは埋桶が検出されており、埋桶の本来の目的が消失した後に、廃棄土坑として転用されたと考えられる。覆土の堆積状況からも、ある程度まとまって廃棄行動が行われた形跡がある。



挿図 1 露木 1966 『江戸時代の甲府上水』より転載

A-SK44 では土坑の内部に、丸太や角材を積んで、方形の囲いが構築されていた。長屋の一時的なごみ溜めの可能性がある。相生-SK1 は大正～昭和期の火災等で発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。高台内に染付で「柳四 奥むら」の文字が書かれた磁器碗が出土している。大正9年の『甲府市街明細地図』（挿図2）によると、相生工区の同地点には「奥村料理店」の記載がある。

上水遺構としては、I工区③-SE2、③-SD1、II工区A-SK25、A-SD3、A-SD4、B-SD2、B-SD4がある。I工区③-SE2は土坑内に埋設された埋桶に、③-SD1に埋設された竹樋が接続されていたと考えられる。埋桶の北西側には竹樋が接続され、調査区外に延びている。埋桶に向かって斜めに挿入されており、周囲から集まって雨水などが、竹樋を通して現在も流れこんでいた。③-SD1の竹樋より低い位置に敷設されており、水量調整の枡として機能していた可能性がある。II工区A-SK25は土坑内に埋設された埋桶に、A-SD3に埋設された竹樋の北端が接続している。A-SD3の竹樋の南端は、A-SD4の木樋に接続されている。A-SD4の木樋から水を引き込んでいたと考えられる。B-SD2、B-SD4はともに木樋が敷設されている。樹皮の残る丸太を割り貫いたもので、上蓋は洋釘で留められていた。北から南に向かって傾斜しており、周囲から集まった雨水などが、木樋を通して現在も流れ続けていた。連雀町通りに敷設されていた堰から水を引き込んでいたものと考えられる。

土地境の石列である石積は、I工区では①-SS1、①-SS4、②-SS1、④-SS1、⑤-SS1、⑤-SS2、⑥-SS1、⑧A-SS1があり、II工区及び相生工区ではA-SS1、B-SS1、B-SS2、B-SS3、B-SS4、C-SS10、D-SS1、相生-SS7、相生-SS10がある。いずれも胴木を敷設し、その上に間知石を積み、根石で固めるという基本構造を有しているが、同じ石列上であっても、間知石のサイズや胴木の並べ方に差異があり、作り替えや修繕をしながら使用されていたものと考えられる。そのため最終的な遺構の時期として、この時期に分類した。I工区⑥-SS1、⑤-SS1、⑤-SS2、II工区A-SS1を見ると、間知石が対面して並び、間に溝を形成していることが分かる。内部には砂が堆積し、水の流れがあったことが分かる。町々の下水を集め、甲府城の堀へと流す水路としての機能も持っている。軸方向をみると、南北方向に走るものはN-10～13°-Eを指し、やや東に振れており、



挿図2 『甲府市街明細地図』山梨県立博物館所蔵

東西方向に走るものは、W - 10 ~ 15° - N を指し、やや北に振れている。これは現在の街並みとも一致しており、調査地点周辺において、現在も石列が土地境として機能している場所もある。また調査区の東西方向に走る A-SS1、B-SS1、D-SS1 は町割りの境と考えられる。

礎石や建物や構造物の基礎とした遺構についても、同様の配置がみられる。I 工区の礎石列では、①区の① -SK15・① -SK17・① -SP1・① -SP2・① -SP3・① -SP5・① -SP8・① -SP12・① -SS3 の礎石列、②区の② -SK10・② -SK11・② -SP2・② -SP3・② -SP4・② -SP5 の礎石列、③区の③ -SS1・③ -SK9 の礎石列、④区の④ -SP1・④ -SK1 の礎石列、⑦区⑦ -SK26・⑦ -SK27・⑦ -SK28・⑦ -SK29・⑦ -SK30 の礎石列、⑧区の⑧ -B-SK1・⑧ -B-SK2・⑧ -B-SK3・⑧ -B-SK4・⑧ -B-SK5・⑧ -B-SK6 の礎石列、⑧ -C-SS2・⑧ -C-SS3・⑧ -C-SS4・⑧ -C-SS6・⑧ -C-SS7 の礎石列がある。建物の基礎とした遺構では、⑤ -SD1、⑥ -SS2、⑥ -SS10、⑦ -SS1、⑦ -SS2 があり、いずれも石列とほぼ同軸方向を指している。⑤ -SD1 及び⑥ -SS2 に関しては、それぞれ隣接する石列と一体となって、建物の基礎としていた様相がうかがえる。

II 工区及び相生工区では、A 地点の A-SS2・A-SS5 の礎石列、A-SS3・A-SS4 の礎石列、A-SS11・A-SS12・A-SS13 の礎石列、A-SS9・A-SS41・A-SS44 の礎石列、A-SS45・A-SS46・A-SS47 の礎石列、A-SS51・A-SS52 の礎石列、C 地点の C-SS1・C-SS2・C-SS3・C-SS4・C-SS5・C-SS9 の礎石列、相生工区の相生 -SS2・相生 -SS3・相生 -SS4・相生 -SS5・相生 -SS6 の礎石列、相生 -SS8・相生 -SS11・相生 -SS12・相生 -SS13・相生 -SS14・相生 -SS15 の礎石列がある。また B 地点では 3 本 1 セットの捨杭が、1.3 ~ 1.4m 間隔で打ちこまれており、J19・K19・I20・J20・K20 グリッドに口の字状に分布している。これも礎石を置いた跡と考えられる。建物や構造物の基礎とした遺構は、A-SS6、A-SS7、A-SS10、A-SS19、A-SS20、A-SS23、A-SS25、A-SS29、A-SS30、A-SS31、A-SS32、A-SS42、A-SS50、C-SS6、C-SS7、C-SS12、相生 -SS1、相生 -SS9、相生 -SS21、相生 -SS23 がある。これらも I 工区と同様に、石列とほぼ同軸方向を指している。近世以降の碁盤目状の都市構造が現代まで変わらず、街並みとして残っていることが、これらの点からもうかがえる。

〈その他特徴的な遺構〉

その他特徴的な遺構として、木組み遺構が検出されている。木組み遺構は I 工区② -SK12、⑤ -SX1、II 工区 C-SX2 の 3 基が検出されている。それぞれの所属時期は知る手掛かりは少なく、切り合い関係や検出面より、② -SK12、⑤ -SX1 は近世、C-SX2 は近代に属するものと考えられる。それぞれの構造をみると、② -SK12 及び⑤ -SX1 は同じ基本構造を共有している。芯柱の上下 2ヶ所に直交する孔をあけ、そこに角材を挿入して十字に組む。この十字に組んだ材の上に角材を井桁状に敷き並べて固定したものを埋設する。一方、C-SX2 は芯柱の両側面を方形に削り貫き、そこに角材をはめ込んでいる点で違いが見られる。また木組みに隣接して、口径 100cm の鉄釜が据えられている。使用されている材については、どの木組み遺構にも家屋の梁などの転用材の使用がみられるが、C-SX2 に関しては特に大形の材を使用しており、発掘当初から甲府城建物の材が転用された可能性が挙げられていた。いずれの遺構も上部構造は不明であるが、上部の荷重に耐える構造を有している点は共通している。C-SX2 については甲府城内鍛冶曲輪で発掘された木組み遺構に類似しており、現段階では酒や醤油などを搾る梘子原理の施設の可能性を考えている。

〈まとめ〉

以上、各時期における特徴的な遺構を抽出した。ここで今回の調査区における土地利用の変遷を考えてみる。今回の調査地点において、17 世紀 ~ 18 世紀前葉と考えられる遺構は少なく、18 世紀中葉以降に遺構数が増加する。特に大形の廃棄土坑が目を引き、火災等の災害の後片付けと考えられるものと、日常的な活動で発生した廃棄物を投棄したと考えられるものがある。これら廃棄土坑がつくられた背景には、今回の調査地点が、会所地と呼ばれる空閑地であったためであろう。文化 3 年 (1806) の『甲州道中分間延絵図』(挿図 3) をみると、上連雀町の南側街区の中央部は家屋が少なく、空き地となっていることがうかがえる。19 世紀前葉 ~ 中

葉になると、廃棄土坑が作られる位置はやや南下し、町割りの境に近いⅡ工区 A 地点に集中して作られている。さらに 19 世紀後葉以降、これらの廃棄土坑を切り、礎石や建物の基礎構造が構築されている。この状況から街区の中で、生活スペースが徐々に中心に向かい延びていき、会所地が狭くなっていた可能性を考えたい。要因としては人口増加による屋敷地（裏長屋）の拡大が考えられる。江戸時代の甲府城下の町人人口は、18 世紀初め頃までは、元禄期（1688～1704）の 14,000 人台をピークとして、柳沢家転封（1724）から 18 世紀後半以降は減少する。19 世紀前半には 1 万人を割るが、幕末期には増加に向かい、明治初頭に 12,000 人台まで回復している（宮澤 2019）。今回の調査区でみられた土地利用の変遷過程が、幕末から明治の人口増加期にあたりと考えられるが、今後の資料増加に期待したい。



挿図3 『甲州道中分間延絵図』山梨県立図書館所蔵

〈参考文献〉

- 江戸遺跡研究会編 2001 『図説 江戸考古学研究事典』 柏書房
- 大橋康二 1989 『考古学ライブラリー 55 肥前陶磁』 ニュー・サイエンス社
- 小川望 2001 「廃棄遺構と廃棄」 『図説 江戸考古学研究事典』 柏書房
- 古泉弘 2001 「履物 2 下駄」 『図説 江戸考古学研究事典』 柏書房
- こうふ開府 500 年記念誌編集委員会編 2019 『こうふ開府 500 年記念誌 甲府歴史ものがたり』 甲府市
- 露木寛 1966 『江戸時代の甲府上水』 地方書院
- 長佐古真也 1993 「『受付き灯明皿』にみる生産と流通—受皿の型式分類と量的把握を通して—」 『東京都埋蔵文化財センター 研究論集Ⅻ』 東京都埋蔵文化財センター
- 宮澤富美恵 2019 「町人の移りかわり」 『こうふ開府 500 年記念誌 甲府歴史ものがたり』 甲府市
- 山梨県教育委員会編 1995 『甲府城跡Ⅴ』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 98

第2節 甲府城下町遺跡：遺構・遺物における二三の所見

1 地割と建物

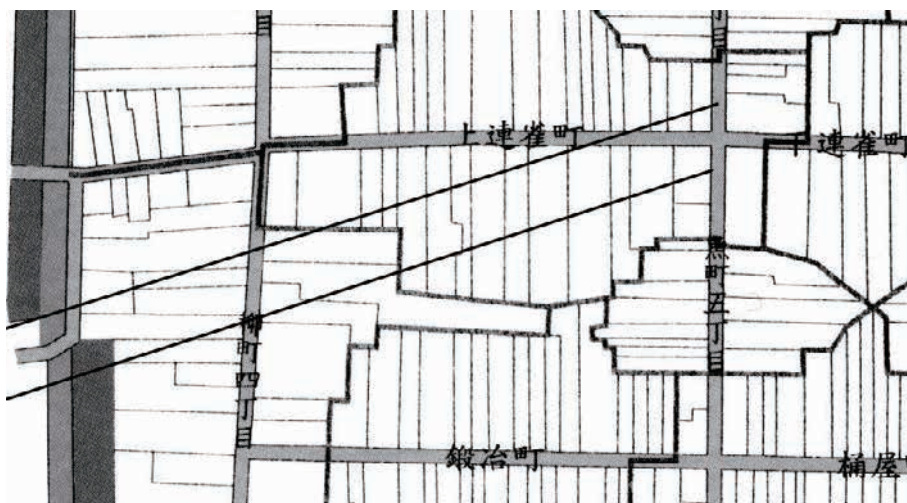
甲府城下東側に展開する商人地には、東西6本・南北4本の基幹街路により区画された碁盤目状の街区が形成されている。この一辺約120m四方の区画内はさらに間口4～10間、奥行き20～36間の短冊形地割となっており、各間口とも四方の通りに面するように街づくりが行われ、それぞれの通りに基づいた町名が付されている。今回の発掘調査はこの碁盤目状街区の魚町四丁目交差点から上連雀町を中心に柳町四丁目を含む地域に該当する(挿図1)。

『甲府買物独案内』(伊勢屋宗助:明治5年増補改訂版)によると、上連雀町には糸繭綿や繰綿を扱う商店3軒、茶肆2軒がありほかにも菓子や瀬戸物を扱う店舗も掲載されている。また、文政10年『諸国道中商人鑑』には連雀一丁目にて瀬戸物・諸紙類とともに茶を商う「河内屋長右工門」の店頭が描かれている。その後大正9年頃の「甲府市街明細地図」には、酒屋・お茶屋・糸繭店・製糸店・足袋店・古物店・雑貨店などの店舗がみられ、やはり城下町以来の伝統として繊維物やお茶を扱う商店が残っている(531頁 挿図2)。一部が今回の調査範囲に含まれる柳町四丁目にはさらに多くの商店があり、『甲府買物独案内』には糸繭綿に加え太物・唐物・足袋・小間物・古着など衣料に関わる店舗が多い。さらに伽羅油・紅・おしろいなどの化粧品から砂糖・味噌醤油まで各種の商店が賑わっている。この連雀・柳町四丁目から緑町にかけては昭和30年代までは衣料関係の間屋が多かったが、やはり甲府城下町から続く歴史が残されていたことになる。

調査範囲の南には鍛冶町街区が接しており、発掘区からは鞆羽口や鉄滓が出土している。「甲府市街明細地図」にも鍛冶町通り両側には、鉄工所・鍛冶場・農具店などが軒を連ねており、ここにも江戸時代からの伝統を見ることができる。しかし昭和16年「商都甲府市家居図」(挿図2)では、この甲府市明細地図に載る商店はほとんどなくなり、僅かに茶舗と豆腐屋の二軒が残るだけで店舗の入れ替えが激しい。通りを挟んだ上連雀町北街区及び柳町3丁目東街区では継続する商店が多い。地割についても江戸時代以来の短冊形が概ね残っており、分筆・合筆は激しいものの痕跡をたどることができる。

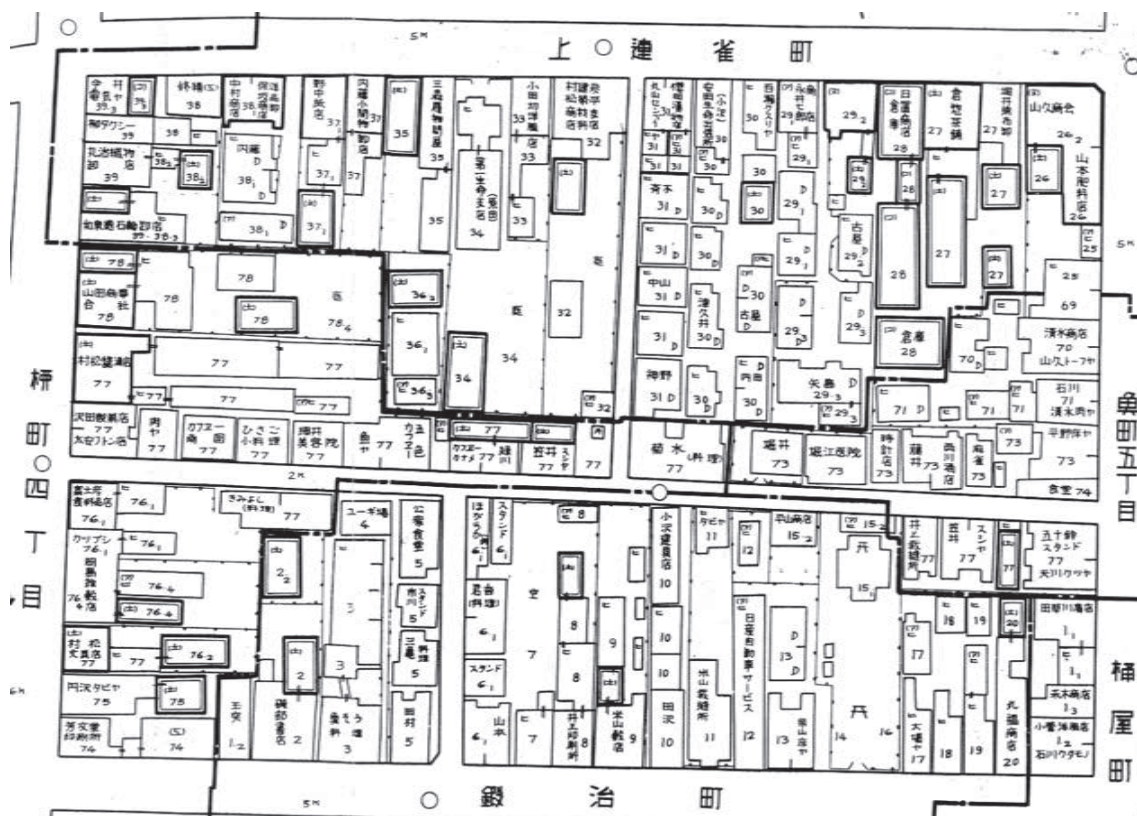
今回の発掘調査では、江戸時代以降の複数の建物礎石や水路等に多くの重なり合いが確認できた。それらの詳細な時代ごとの展開を把握することは難しく、今後さらなる建物構造の把握や出土遺物からの時期を検討する課題は残った。地割については、短冊形をはじめとした一部は確認することはできた。明治以降の間知石の下部に江戸期の石垣や水路が残されていた箇所も多く、発掘された数多い石垣や水路の検討により地割変更の変遷をたどることができると思われるが、これも今後の課題である。甲府上水に関わる水利施設も多く確認できた。これらが残る地割はその後の建物拡張や火災・地震等の被災により形を変えている場合も多い。

今回調査された多くの廃棄土坑には、それら災害からの復旧のために掘られたものも相当数あったのではないかと推察される。安政大地震、関東大震災、甲府空襲などによるとみられる焼土層が広がる箇所もあった。嘉永7年11月発生した安政地震では、柳町81軒、八日町48軒、三日町19軒、山田町32軒に加え、上連雀町11軒という潰れ家の記録が残る(『大地震之記』『甲州文庫』)。甲府城築城に際して流路が替えられた藤川の旧河



挿図1 地割と発掘区域(『甲府歴史ものがたり』「江戸後期の城下」一部に加筆)

道が、この地域を南下していたことも地盤の弱さに繋がるとされる。甲州街道の南側に当たる相生工区の発掘調査では、北西から南東に流れる幅2～3m、深さ60cm程の旧河道が確認された。位置的には甲府城下北側を南下する藤川の延長上にあたる。城下建設の際に藤川の流れを東に変え、本来の河道を利用して甲府城二の堀を設けたことが伝えられる。今回確認した流路が藤川の一部であった可能性はあろう。また中央4丁目工区においても地下水位が高く地盤軟弱な場所であることが確認されており、特に建物礎石の下には何本もの杭が打たれ基盤対策がしっかり施されていた。碁盤目状に整然と区画された城下ではあるが、その基盤整備にあたっては埋め立てや造成などに相当の努力がはらわれたことになる。多くの建物や繁華街が息づく現在の甲府城下町の下には、400年の時を経た歴史が積み重なっていることが確認できた。



挿図2 昭和16年「商都甲府市家居図」(甲府市教育委員会所蔵)

2 木組遺構について

発掘調査では特徴的な木組み遺構が検出されたが、ここではその機能について検討する。

(1) II工区C地点木組み遺構(SX2)(第160図、写真図版55)

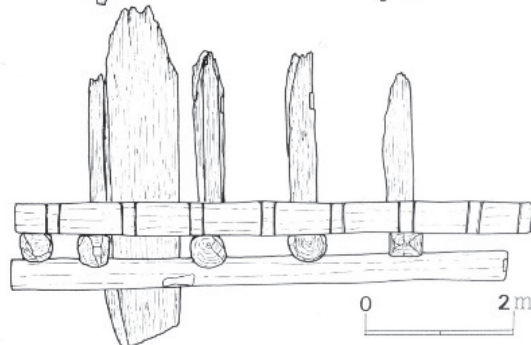
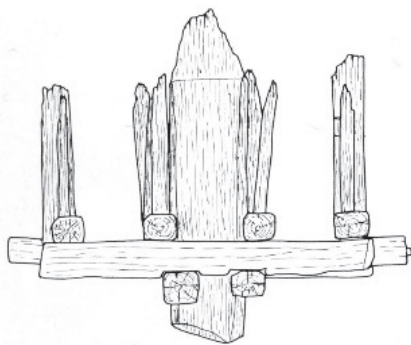
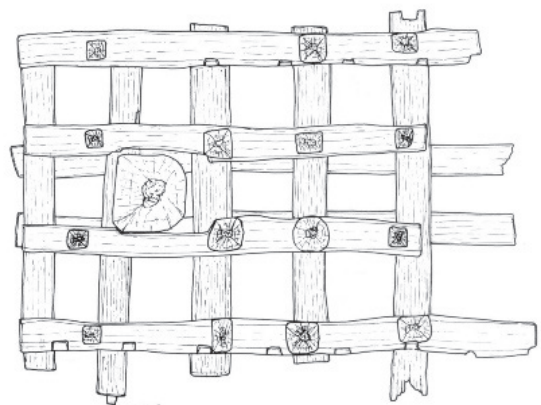
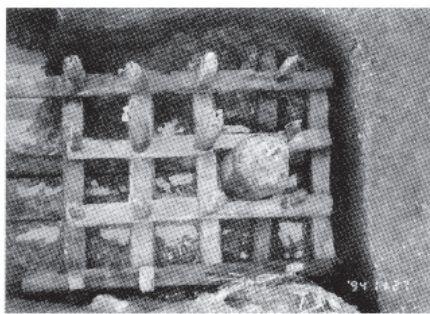
太さ50cm角の心柱(No.1675・1676)と井桁に組まれた地中梁から構成される木組みで、南北に少しずつながら二基が確認されたものである。柱の太さ及び地中梁の状況に違いはあるものの、甲府城内の鍛冶曲輪から発掘された木組み遺構に類似した構造である(挿図3)。甲府城例は太さ50cm長さ2.3mの心柱を複数の地中梁が井桁に支えるもので、隣接して発見された井戸、桶とともに葡萄酒醸造所で用いられた相互に関連する施設として、調査担当の八巻與志夫氏は報告している(山梨県教育委員会1995)。特に地中梁遺構は荷重に耐える構造であることから葡萄酒を搾る施設と考えられている。この地中梁を含めた木組み遺構について、

さらに宮久保真紀氏は酒船と男柱を伴った江戸時代の資料や、明治17年稲荷曲輪内に作られた官営葡萄酒醸造所の払い下げ資料中の「醸造所創立基本調査表」に掲載された諸設備の検討から、日本酒醸造器械の一部とみなした（宮久保真紀 2002）。明治初期の段階でのワイン醸造に日本酒製造器械が転用された可能性には注目したい。

今回の調査で発掘された木組み遺構も、地中梁でしっかりと固定された心柱（男柱）という構造であることから、発見当初より酒や醤油などを搾る梘原理の施設と考えてきたが、八巻・宮久保両氏の考察に接したことにより一層確かなものとなった。また日本酒製造に関する搾り場遺構については、伊丹市の伊丹郷町遺跡からさまざまな形態が確認されており、先端に石をぶら下げた撥棒を男柱に差し込み、梘を利用して槽に圧力を加える「桿杆式」という設備の復元も示されている（赤松和佳 2019）

今回発見の遺構には、木組み施設が少しずれながら南北に二つ並ぶこと、南側男柱の延長に口径100cmの大型鉄釜が据えられていたことなどの特徴がある。酒船（槽）一つに男柱二本セットの搾り器も実際に存在するが、本遺跡例は二本のずれた男柱構造であることに注意したい。二基の搾り器でないとしたら、互い違いにセットされた二本の棹で一つの槽を南北両方向から搾る構造も考えられる。この場合二本の男柱の間に槽が設置されることになり、この長軸上に埋設された大釜に絞られた対象が溜まることになろう。しかし北側の木組み遺構の多くの部分が攪乱区域に延びていたことから全体の状況は不明であり、問題は残る。

いずれにしても今回発見の木組み遺構を搾り器の一部と考えることは可能かと思われる。ちなみに大正9年頃の「甲府市街明細地図」（531頁 挿図2）によると木組み遺構が発掘された区画付近（柳町4丁目）には「清水油店」の記載がある。植物油とした場合、その圧搾には搾り器が必要となる。但しこのような大掛かりな設備が必要であったかは不明であり、今後のデータ収集の必要がある。また甲府市内には複数の造り酒屋の記録があり、今回の発掘区域内からはワイン樽も出土している。近世・近代における資料からの検討も今後の課題である。なお昭和16年「商都甲府市家居図」（挿図3）では甲府市街明細図にある清水油店の場所が村松醤油店となっている。小売り店なのか醸造所なのかは不明であるが、醤油を搾るとしてもこのような設備は必要であったと思われる。



挿図3 甲府城の木組遺構（山梨県 1995 より転載）

次に木組み遺構の材料についてふれておく。特に太さ 50cm いう心柱については、発掘当初から甲府城建物の材料の可能性を考えた。廃城後の建物撤去に関しては秋山敬氏による論考があり、この中で建物払い下げ入札に関する資料も扱われている（秋山敬 2002）。複数の櫓・門・番所建物など蔵を除いた建物処分に関する明治 8～9 年頃の史料と考察されている。現在甲府城にて復元されている門柱の太さは、50cm～70cm（黒鉄門主柱、松陰門、稲荷門）であり今回発見の心柱もその範疇に入る。もちろん農家の主柱の可能性もあるが、地中梁の多くの木材も考えると甲府城廃材の可能性は捨てきれない。木組み遺構の時期については付近の出土陶磁器には幕末から明治・大正までのものが含まれる。また（株）パレオ・ラボ AMS 年代測定グループによる暦年較正・ウィグルマッチングの成果では、地中梁柱 3 点の年代の確率として 1802 – 1827calAD、1821 – 1839 calAD、1714 – 1909 calAD という報告を戴いた。従って江戸時代後期あるいは幕末に伐採された材木が建物の柱や梁に用いられ、最終的に今回発見の木組み遺構に転用された可能性は高い。なお樹種についても主中の 2 本がケヤキ、地中梁はケヤキとクリとが同定されており、特にケヤキが用いられていることは建物の主柱としてふさわしい。

(2) I 工区②区木組み遺構 (SK12) (第 18 図、写真図版 8)、⑤区木組み遺構 (SX1) (第 31 図、写真図版 15)

②区 SK12 は先述した搾り機器とした木組みに比べ、細見の柱及び地中梁の構造である。中心柱 (No. 91) は 20cm 角、高さ 60cm が残っており、地中梁には丸太十数本があり何本かは心柱を貫通していた。5 点を樹種同定したが一本がヒノキの他はクリであった。搾り機器ほどの固定強度は無いと思われるが、上部構造は不明である。

⑤区 SX1 は 35cm 角の心柱 (No. 288) で、長さ 1.3m が残っていた。地中柱は②区 SK12 によりも密で二重・三重に組まれたしっかりしたものである。同定した 3 本はクリ材であった。搾り器の男柱でも良いかもしれないが、特に主柱は南に傾いていたことから調査区外にセットとなる木組みが埋まっている可能性はあり、構造物の特定は不明。

幕末の「甲府城下繁栄図」は八日町から一蓮寺方面を描いた図であるが、街並みの中に火の見櫓や亀谷座の高い建物が描かれている。火の見櫓は高い梯子としてみられるがこのような構造物の基礎も地中梁で支えられていたと思われる。今回発見の木組み遺構は屋敷内にあることからこのような火の見櫓ではないが、同様な高さを必要とした構造物の基礎の可能性はあろう。

3 科学分析での成果

各種土坑や溝などの発掘で得られた個体や土壌について、樹種同定・花粉分析・動植物遺体・昆虫・寄生虫などの分析を（株）パレオ・ラボに委託した。詳細は各報告のとおりであるが、ここではその成果に関して特に環境についてまとめてみる。

花粉分析により樹木ではスギ属・モミ属・コナラ属、草本ではイネ科、アカザ科が優勢であることから周囲の丘陵での温帯性針葉樹林や落葉広葉樹・照葉樹の分布が報告されるとともに、イネ科や水田雑草の検出から水田や湿地の状況も考えられている。江戸時代には燃料や肥料採取のため里山の利用は大変重要であり、杉林や落葉樹林の管理は十分であったと思われる。嘉永 2 年懷宝甲府絵図を見ると城下の南から東にかけての三の堀外側には水田や畑が広がっている。今回の調査区においても二の堀・三の堀が近いことや水路も多いことから、湿地性植物の花粉が加わることは不自然ではない。一方、城下建設以前この一帯には河川が流下するとともに湿地や水田が広がっていたことが考えられるため、分析報告ではその時の花粉が再堆積した可能性が指摘されている。

植物種子ではモモやブドウを含めた果実種子が確認されている。特にこの 2 種は甲斐国の産物でもあり、モモについては江戸時代には改良の進んだ大形も流通したようだ。またナス、ゴマ、キュウリ属、メロン仲間、ヒエ、

ソバ等の畑作物も多い。周囲の畑や屋敷内の家庭菜園的な栽培も考えられている。

昆虫の同定ではオオクロバエ等のトイレにかかわる昆虫、コクゾウムシ等の貯穀性昆虫が目される。これらは森勇一氏が「都市型昆虫群集」と呼ぶもので、甲府城下の状況を物語る昆虫といえる。①区SK13号という土坑では特にオオクロバエが多く、トイレ遺構と考えられている。ここからはブドウ種子も出土しており排泄に伴ったものかもしれない。また⑦区SK3号土坑からは寄生虫卵が多く、これもトイレ遺構と考えられる。ここからは大量のゴマやナス、それに少量ながらブドウやキハダ、サンショウも出土しており、やはり食用後の排泄に関わる可能性が報告されている。なおキハダは薬用や染料に用いられていることにも注意したい。コクゾウムシも多いが、トイレの可能性高いSK13でもコクゾウムシがみられ、森氏は人の食べ物の混入品が排泄された可能性を考えている。また、元来コクゾウムシは貯蔵された穀類につく昆虫であることから、この昆虫が多く出土した土坑周辺には貯蔵施設が存在したことを指摘する。

以上、家屋や蔵をはじめとした生活施設が密集しながらも空間には庭や菜園が設けられていた城下町の姿が浮かび上がる。同時に堀の外側には水田や畑が広がり周囲の里山にはスギやコナラの林が点在する景観が想定される。同時に絵図や文献資料からは甲州街道が走る規格的な町割に商家・店舗・民家が展開する甲府城下の賑わいも窺うことができる。

なお動物遺体の分析によると、魚類ではサメ・マグロ・マダイ・カツオなどが確認され、サザエ・アワビ・カキ・ハマグリなどもみられる。特にサザエは蓋も確認されることから身が付いた状態で甲府城下に持ち込まれたとされる。特に海産物は中道往還経路で搬入されたもので、まさに城下町の一つ「魚町」の名称にも関わっていると言える。

〈引用・参考文献〉

こうふ開府500年記念誌編集委員会 2019 『甲府歴史ものがたり』甲府市

秋山敬 2002 「明治初年の甲府城」—文化財保護の立場から— 『山梨県史研究』10

赤松和佳 2019 「近世 酒造遺構の特徴—酒の町 伊丹郷町を事例に—」 『近世の酒と宴』 『近世考古学の提唱』
五〇周年記念研究大会実行委員会

山梨県教育委員会 1995 『甲府城跡V』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書98

宮久保真紀 2002 「甲府城内葡萄酒醸造所について」—国産ワインの発祥地甲府— 『研究紀要』18

山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター